

# 間之原遺跡 間之原東遺跡

国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備交付金  
(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県館林土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

間之原遺跡  
間之原東遺跡

国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備交付金  
(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財調査報告書

二〇一五

群馬県館林土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 間之原遺跡 間之原東遺跡

国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備交付金  
(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県館林土木事務所  
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団





1. 間之原遺跡 1 区中央部全景（西上空から）



2. 間之原遺跡 1 区西部全景（東上空から）





3. 間之原遺跡3区全景（東上空から）



4. 間之原遺跡3区遠景（西上空から）





5. 間之原遺跡 1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪（下面）



6. 間之原遺跡 1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪（上面）



7. 間之原遺跡 1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪（上面）



8. 間之原遺跡 1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪（下面）

# 序

「群馬がはばたくための7つの交通軸構想」のうち、東毛地域の交通軸として建設工事が進められてまいりました国道354号バイパス東毛広域幹線道路が、平成26年8月に全線開通となりました。このうちの大泉邑楽バイパスにつきましては、東毛広域幹線道路の一部として、大泉町北小泉から邑楽町篠塚までが平成25年9月に開通しております。

太田市及び大泉町では、これまでに数多くの遺跡における発掘調査が継続的に行われ、東毛地域における歴史解明に大きく貢献するなど重要な発見が相次いでおります。

国道354号大泉邑楽バイパス事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査につきましては、平成22年度に間之原遺跡、平成24年度に間之原遺跡と間之原東遺跡の発掘調査が実施されました。本書は、平成22年度及び平成24年度の間之原遺跡、間之原東遺跡における発掘調査の成果をまとめたものであります。

本遺跡の周辺地域につきましては、濃密な埋蔵文化財包蔵地であることから、これまでも度々開発に伴う緊急発掘調査が行われてまいりました。この度の発掘調査では、古墳時代から平安時代までの竪穴住居群や掘立柱建物群などが発見され、当地域における古代の集落の様相がさらに明らかとなりつつあります。また、県内では初めて出土した平安時代の紀年銘を刻書した石製の紡輪を発見するなど大きな成果がありました。

発掘調査の開始から本書の刊行に至るまで群馬県館林土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、大泉町教育委員会及び地元関係者の皆様より多大なる御指導・御協力を賜りました。ここに心より感謝を申し上げますとともに、本書が地域の歴史を解明する新たな資料として今後広く活用されることを願い、序といたします。

平成27年3月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 吉野 勉



# 例 言

1. 本書は、平成21年度国道354号(大泉邑楽バイパス)地域活力基盤創造交付金事業として埋蔵文化財の事前調査が行われた間之原遺跡、平成23年度国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備事業(活力創出基盤整備)として事前調査が行われた間之原遺跡、間之原東遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。上記事業名称のもとに平成22年、平成24年に行われた発掘調査の成果を報告する。
2. 遺跡の所在地は、間之原遺跡 群馬県太田市龍舞町69-1、69-2B、70B、71-1B、71-2B、72-1、72-2B、72-3、72-4、73-1、73-2B、74B、75、76、77、78、79B、80-2B、206-B、207-3B、208-1B、209-1B、80-1、81B、81-2B、82-1B、82-3B、83-1B1、83-1B2 間之原東遺跡 群馬県邑楽郡大泉町北小泉二丁目1362-1B、1366-1B、1366-2Bである。
3. 事業主体は、群馬県館林土木事務所である。
4. 調査主体は、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団(平成24年4月に公益財団法人に組織改定)である。
5. 調査期間及び調査体制は以下のとおりである。

第1次発掘調査 間之原遺跡  
履行期間 平成22年3月31日～平成22年11月30日 調査期間 平成22年4月1日～平成22年9月30日  
調査担当 新倉明彦(主任専門員(総括)) 杉山秀宏(主任調査研究員)  
委託 遺跡掘削請負工事 技研コンサル株式会社(平成25年10月に技研測量設計株式会社から社名変更)  
遺構測量・デジタル編集業務 航空測量・空中写真撮影業務 株式会社シン技術コンサル  
火山灰分析 株式会社火山灰考古学研究所 遺物洗滌・注記業務 有限会社毛野考古学研究所

第2次発掘調査 間之原遺跡、間之原東遺跡  
履行期間 平成24年3月30日～平成24年8月31日 調査期間 平成24年4月1日～平成24年6月30日  
調査担当 宮下 寛(主任調査研究員) 田村 博(主任調査研究員)  
委託 遺跡掘削請負工事 有限会社毛野考古学研究所  
遺構測量・デジタル編集業務 株式会社シン技術コンサル 航空測量・空中写真撮影業務 技研コンサル株式会社  
遺物洗滌・注記業務 有限会社毛野考古学研究所
6. 整理事業の期間及び体制は以下のとおりである。

平成23年度 履行期間 平成24年2月1日～平成24年3月31日 整理期間 平成24年2月1日～平成24年3月31日  
担当者 女屋和志雄(上席専門員)

平成24年度 履行期間 平成25年2月1日～平成25年3月31日 整理期間 平成25年2月1日～平成25年3月31日  
担当者 谷藤保彦(上席専門員)

平成26年度 履行期間 平成26年3月31日～平成27年3月31日 整理期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日  
担当者 宮下 寛
7. 本報告書作成の担当者は以下のとおりである。
















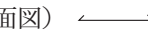
編集・遺物写真撮影：女屋和志雄 谷藤保彦 宮下 寛 デジタル編集：齊田智彦(主任調査研究員)  
遺物保存処理：関 邦一(補佐(総括))  
遺物実測・観察表 石器・石製品：石田典子(主任調査研究員) 石造物：新倉明彦(上席専門員)  
縄文土器：石坂 茂(専門調査役) 土師器・須恵器：徳江秀夫(上席専門員・資料2課長)  
金属製品・炭化種実：関 邦一 陶磁器：大西雅広(上席専門員・資料統括)

執筆 第5章第2節 株式会社火山灰考古学研究所 第5章第3節 パリノ・サーヴェイ株式会社  
上記以外 宮下 寛
8. 石材同定は、飯島静男氏(群馬県地質研究所会員)に依頼した。
9. 記録資料及び出土遺物は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。
10. 発掘調査及び整理事業・本報告書の作成には下記の機関によりご指導・ご教示を頂いた。  
群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会、大泉町教育委員会



# 凡 例

1. 本書で使用した座標値は、国家座標(世界測地系2000平面直角座標第IX系)を用いた。遺構図中に記した座標値については、国家座標値X・Y値の下3桁のみを用いて表記した。
2. 遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北であり、真北方向角は、 $+0^{\circ}14'43.30''$ (東偏)である。
3. 遺構平面図、遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示し、遺物実測図と遺物写真は原則として同縮率とした。
4. 遺構平面図や遺構断面図に表示した数値は標高であり、単位はメートルである。
5. 本書の図版で使用したスクリーンパターン及びマークは以下のとおりである。

遺構平面図	焼土		攪乱		灰面		硬化面	
	粘土		炭化物		シルト質土			
遺物実測図	スス		内黒		墨痕		漆	
	赤色塗彩		灰釉・青磁					
石器実測図	すり面		摩耗痕の範囲		摩耗痕の範囲(断面図)			
6. 遺構平面図中の遺物記号は、次のことを示す。

●	土師器・須恵器・土製品	▲	石器・石製品	■	鉄・金属製品
---	-------------	---	--------	---	--------
7. 遺構の主軸方向・走行は、長軸方向で北から東西 $90^{\circ}$ 以内を主軸とした。表記は北を基準とし、東に傾いた場合はN- $\circ$ -Eとした。竪穴住居の主軸方向については、カマドの設置された方向を主軸と捉えた。カマドが確認できない竪穴住居については長軸方向を主軸とした。遺構の面積は上端を計測し、計測はプランメーターで3回行いその平均値を採用した。遺構の計測値は、縮尺1/20の図面を用いて計測し、m単位で表した。( )は残存値を表した。
8. 掘立柱建物の柱間寸法は、柱筋に沿った柱穴心々間をメートル法計測した。
9. 遺構土層注記及び土器・陶磁器類の色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準拠している。
10. 遺物観察表の記載方法は以下のとおりである。
  - ・遺物観察表の( )は残存値を表す。
  - ・石器・石製品・石造物の「長」「幅」「厚」の単位はcm、「重」はgを表す。
  - ・土師器、須恵器の口：口径、底：底径、台：高台径、高：器高、長：長さ、摘み径：摘径、孔：孔径、脚部：脚部底径と略記し、単位はcmを表す。胎土観察における砂粒の表現は、0.2mm以下を細砂粒、0.2~2.0mmを粗砂粒、2.0mm以上を小礫とした。
  - ・十能瓦は同一形状の瓦を裏返して使用するため表裏がないが、記載上凹凸(型作り痕)が残る面を便宜上裏面とした。
  - ・炭化種実の「幅」「高」の単位はmmを表す。
  - ・縄文土器の胎土分類で、Aは「中量の石英・輝石・白色粗細砂と繊維含むやや粗雑な胎土」(前期中葉)、Bは「中量の石英・長石粗細砂及び少量の灰白色礫と繊維を含むやや粗雑な胎土」(前期中葉)、Cは「中量の石英・長石粗細砂と少量の灰白色礫を含むやや緻密な胎土」(前期後葉)、Dは「中量の透明石英・長石・輝石の粗細砂を含む緻密な胎土」(前期後葉~中期)、Eは「多量の石英・長石粗細砂と雲母細粒を含む緻密な胎土」(前期末葉~中期)、Fは「多量の黒・白色粗砂礫と少量の石英・長石粗砂礫を含む緻密な胎土」(後期前葉)であり、各分類は肉眼観察による相対的なものである。
11. 整理作業によって遺構名と遺構番号の変更が生じたため、第1表に記した。
12. テフラについては以下の略称を用いた。

浅間C軽石=As-C	4世紀初頭	浅間B軽石=As-B	天仁元年(1108年)
浅間A軽石=As-A	天明三年(1783年)	榛名二ツ岳渋川テフラ=Hr-FA	6世紀初頭
13. 本書で使用した地図は、以下のものを使用した。

第1図	国土地理院	地勢図	1:200,000	「宇都宮」(平成23年6月1日発行)
第2・5図	太田市、大泉町発行地形図	1:25,000	太田市:平成23年3月測図、大泉町:平成24年2月測図	
第4図	国土地理院	地勢図	1:50,000	「深谷」(平成10年9月1日発行)
第6図	国土地理院	地勢図	1:25,000	「足利南部」・「深谷」(平成14年9月1日発行)、「妻沼」(平成15年6月1日発行)、「上野境」(平成14年12月1日発行)



# 目次

口絵

序

例言

凡例

目次・挿図目次・表目次・写真図版目次

## 第1章 調査に至る経緯と経過

- 第1節 調査に至る経緯…………… 1
- 第2節 調査の経過…………… 2
- 第3節 調査日誌…………… 2
- 第4節 調査区の設定…………… 3
- 第5節 調査の方法…………… 5
- 第6節 基本土層…………… 5
- 第7節 整理作業の経過…………… 7

## 第2章 地理的及び歴史的環境

- 第1節 遺跡の位置と周辺の地形…………… 9
- 第2節 遺跡の歴史的環境…………… 11
  - 1 間之原遺跡と間之原東遺跡の調査の経過…………… 11
  - 2 周辺の遺跡…………… 14

## 第3章 間之原遺跡の調査

- 第1節 間之原遺跡の概要…………… 25
- 第2節 旧石器時代の調査…………… 26
- 第3節 古墳時代の遺構と遺物…………… 28
  - 1 竪穴住居…………… 28
  - 2 竪穴状遺構…………… 160
  - 3 土坑・ピット…………… 164
  - 4 井戸…………… 173
  - 5 溝…………… 175
  - 6 畠…………… 175
  - 7 道…………… 176
- 第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物…………… 177
  - 1 竪穴住居…………… 177
  - 2 竪穴状遺構…………… 261
  - 3 掘立柱建物…………… 262
  - 4 柵…………… 284
  - 5 土坑・ピット…………… 288
  - 9 溝…………… 306
- 第5節 遺構外の出土遺物…………… 308

## 第4章 間之原東遺跡の調査

- 第1節 間之原東遺跡の概要…………… 323
- 第2節 旧石器時代の調査…………… 323
- 第3節 古墳時代以降の遺構と遺物…………… 324
  - 1 竪穴住居…………… 324
  - 2 土坑・ピット…………… 327
- 第4節 遺構外の出土遺物…………… 328

## 第5章 自然科学分析

- 第1節 概要…………… 329
- 第2節 間之原遺跡の火山灰分析…………… 331
- 第3節 間之原遺跡の炭化種実同定…………… 333

## 第6章 総括

- 第1節 調査の成果…………… 342
- 第2節 間之原遺跡・間之原東遺跡の竪穴住居の変遷について…………… 342
- 第3節 深さ約1.5m以上のピットの機能や性格について…………… 350
- 第4節 間之原遺跡出土の紀年銘が刻書された紡輪について…………… 353

土坑・ピット計測表…………… 356

出土遺物観察表…………… 361

写真図版

報告書抄録

# 挿図目次

第1図	間之原遺跡・間之原東遺跡 遺跡位置図(国土地理院1:200,000地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行使用) . . . . .	1
第2図	間之原遺跡・間之原東遺跡 調査区範囲図(この地図の作成にあたっては、太田市長・大泉町長の下承を得て、同市・同町発行の2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。) . . . . .	4
第3図	基本土層と土層断面観察地点 . . . . .	6
第4図	間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺の地形区分図(『群馬県土地分類基本調査・深谷』1991年発行使用) . . . . .	10
第5図	間之原遺跡・間之原東遺跡の調査範囲(この地図の作成にあたっては、太田市長・大泉町長の下承を得て、同市・同町発行の2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。) . . . . .	12
第6図	間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺の遺跡(国土地理院1:25,000地勢図「足利南部」・「深谷」平成14年9月1日発行、「妻沼」平成15年6月1日発行、「上野境」平成14年12月1日発行使用) . . . . .	17
第7図	間之原遺跡 旧石器時代調査坑位置図 . . . . .	25
第8図	間之原遺跡 旧石器時代調査坑1～15土層断面図 . . . . .	26
第9図	間之原遺跡 旧石器時代調査坑16～26土層断面図 . . . . .	27
第10図	1区1号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	28
第11図	間之原遺跡1区東端部・東部・中央部全体図 . . . . .	29
第12図	間之原遺跡1区中央部・西部全体図 . . . . .	30
第13図	間之原遺跡1区西部・3区全体図・間之原東遺跡1区全体図 . . . . .	31
第14図	1区3号竪穴住居 . . . . .	32
第15図	1区3号竪穴住居出土遺物 . . . . .	33
第16図	1区4号竪穴住居(1) . . . . .	34
第17図	1区4号竪穴住居(2) . . . . .	35
第18図	1区4号竪穴住居掘り方 . . . . .	36
第19図	1区4号竪穴住居カマド . . . . .	37
第20図	1区4号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物 . . . . .	38
第21図	1区5号竪穴住居 . . . . .	39
第22図	1区5号竪穴住居カマドと出土遺物 . . . . .	40
第23図	1区6号竪穴住居 . . . . .	41
第24図	1区6号竪穴住居カマドと出土遺物(1) . . . . .	42
第25図	1区6号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	43
第26図	1区12号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	44
第27図	1区12号竪穴住居カマド . . . . .	45
第28図	1区13号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	46
第29図	1区15号竪穴住居 . . . . .	47
第30図	1区15号竪穴住居掘り方 . . . . .	48
第31図	1区16号竪穴住居(1) . . . . .	50
第32図	1区16号竪穴住居(2) . . . . .	51
第33図	1区16号竪穴住居(3) . . . . .	52
第34図	1区16号竪穴住居(4) . . . . .	53
第35図	1区16号竪穴住居(5) . . . . .	54
第36図	1区16号竪穴住居(6) . . . . .	55
第37図	1区16号竪穴住居カマド . . . . .	56
第38図	1区16号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1) . . . . .	58
第39図	1区16号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	59
第40図	1区19号竪穴住居 . . . . .	59
第41図	1区20号竪穴住居(1) . . . . .	60
第42図	1区20号竪穴住居(2) . . . . .	61
第43図	1区20号竪穴住居(3) . . . . .	62
第44図	1区20号竪穴住居掘り方とカマド掘り方 . . . . .	63
第45図	1区20号竪穴住居カマドと出土遺物(1) . . . . .	64
第46図	1区20号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	65
第47図	1区25号竪穴住居 . . . . .	66
第48図	1区25号竪穴住居カマド . . . . .	67
第49図	1区25号竪穴住居出土遺物 . . . . .	68
第50図	1区21号竪穴住居 . . . . .	69
第51図	1区22号竪穴住居 . . . . .	70
第52図	1区22号竪穴住居カマドと出土遺物(1) . . . . .	71
第53図	1区22号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	72
第54図	1区22号竪穴住居出土遺物(3) . . . . .	73
第55図	1区27号竪穴住居 . . . . .	74
第56図	1区27号竪穴住居掘り方 . . . . .	75
第57図	1区27号竪穴住居出土遺物 . . . . .	76
第58図	1区35号竪穴住居 . . . . .	77
第59図	1区35号竪穴住居カマドと出土遺物(1) . . . . .	78
第60図	1区35号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	79
第61図	1区36号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	80

第62図	1区38号竪穴住居(1) . . . . .	81
第63図	1区38号竪穴住居(2) . . . . .	82
第64図	1区38号竪穴住居(3) . . . . .	83
第65図	1区38号竪穴住居カマド . . . . .	84
第66図	1区38号竪穴住居出土遺物(1) . . . . .	85
第67図	1区38号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	86
第68図	1区39号竪穴住居 . . . . .	87
第69図	1区39号竪穴住居掘り方・カマドと出土遺物 . . . . .	88
第70図	1区40号竪穴住居 . . . . .	89
第71図	1区40号竪穴住居カマドと出土遺物 . . . . .	90
第72図	1区41号竪穴住居 . . . . .	91
第73図	1区41号竪穴住居掘り方と出土遺物 . . . . .	92
第74図	1区43号竪穴住居 . . . . .	93
第75図	1区43号竪穴住居カマド . . . . .	94
第76図	1区43号竪穴住居出土遺物 . . . . .	95
第77図	1区45号竪穴住居 . . . . .	96
第78図	1区45号竪穴住居カマドと出土遺物 . . . . .	97
第79図	1区49号竪穴住居(1) . . . . .	98
第80図	1区49号竪穴住居(2) . . . . .	99
第81図	1区49号竪穴住居カマドと出土遺物(1) . . . . .	100
第82図	1区49号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	101
第83図	1区56号竪穴住居(1) . . . . .	102
第84図	1区56号竪穴住居(2) . . . . .	103
第85図	1区56号竪穴住居カマド . . . . .	104
第86図	1区56号竪穴住居出土遺物(1) . . . . .	105
第87図	1区56号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	106
第88図	1区56号竪穴住居出土遺物(3) . . . . .	107
第89図	1区58号竪穴住居 . . . . .	108
第90図	1区58号竪穴住居カマド . . . . .	109
第91図	1区58号竪穴住居出土遺物 . . . . .	110
第92図	1区59号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	111
第93図	1区62号竪穴住居 . . . . .	112
第94図	1区67号竪穴住居 . . . . .	113
第95図	1区67号竪穴住居カマド . . . . .	114
第96図	1区67号竪穴住居出土遺物 . . . . .	115
第97図	1区68号竪穴住居 . . . . .	116
第98図	1区68号竪穴住居出土遺物 . . . . .	117
第99図	1区70号竪穴住居 . . . . .	118
第100図	1区70号竪穴住居出土遺物 . . . . .	119
第101図	3区72号竪穴住居 . . . . .	120
第102図	3区72号竪穴住居掘り方とカマド . . . . .	121
第103図	3区72号竪穴住居カマド . . . . .	122
第104図	3区72号竪穴住居出土遺物(1) . . . . .	123
第105図	3区72号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	124
第106図	3区72号竪穴住居出土遺物(3) . . . . .	125
第107図	3区72号竪穴住居出土遺物(4) . . . . .	126
第108図	3区72号竪穴住居出土遺物(5) . . . . .	127
第109図	3区72号竪穴住居出土遺物(6) . . . . .	128
第110図	3区73号竪穴住居 . . . . .	129
第111図	3区73号竪穴住居出土遺物 . . . . .	130
第112図	3区74号竪穴住居 . . . . .	131
第113図	3区74号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	132
第114図	3区75号竪穴住居 . . . . .	133
第115図	3区75号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	134
第116図	3区76号竪穴住居(1) . . . . .	135
第117図	3区76号竪穴住居(2) . . . . .	136
第118図	3区76号竪穴住居(3) . . . . .	137
第119図	3区76号竪穴住居出土遺物 . . . . .	138
第120図	3区77号竪穴住居 . . . . .	139
第121図	3区77号竪穴住居と出土遺物(1) . . . . .	140
第122図	3区77号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	141
第123図	3区77号竪穴住居出土遺物(3) . . . . .	142
第124図	3区80号竪穴住居 . . . . .	143
第125図	3区80号竪穴住居カマドと出土遺物 . . . . .	144
第126図	3区81号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	145
第127図	3区83号竪穴住居 . . . . .	146
第128図	3区83号竪穴住居出土遺物(1) . . . . .	147
第129図	3区83号竪穴住居出土遺物(2) . . . . .	148
第130図	3区84号竪穴住居と出土遺物 . . . . .	149
第131図	3区85号竪穴住居(1) . . . . .	150
第132図	3区85号竪穴住居(2) . . . . .	151
第133図	3区85号竪穴住居出土遺物(1) . . . . .	152

第134図	3区85号竪穴住居出土遺物(2)	153
第135図	3区86号竪穴住居	154
第136図	3区86号竪穴住居出土遺物	155
第137図	3区87号竪穴住居(1)	156
第138図	3区87号竪穴住居(2)	157
第139図	3区87号竪穴住居カマド	158
第140図	3区87号竪穴住居出土遺物	159
第141図	3区2号竪穴状遺構と出土遺物(1)	160
第142図	3区2号竪穴状遺構出土遺物(2)	161
第143図	1区3号竪穴状遺構	161
第144図	1区4号竪穴状遺構	162
第145図	3区5号竪穴状遺構と出土遺物	163
第146図	1区6号竪穴状遺構	164
第147図	1区29号土坑と出土遺物・3区63号土坑・ 1区325・362・435号ピット	168
第148図	1区436号ピットと出土遺物・1区440~444号ピット	169
第149図	1区494・501号ピット・1区516号ピットと出土遺物・ 1区542・595号ピット・3区625号ピットと出土遺物	170
第150図	3区623号ピット・3区624号ピットと出土遺物・ 3区626・627・629・630号ピット	171
第151図	3区631~635・637・3区638・639号ピットと出土遺物	172
第152図	3区640号ピットと出土遺物・3区641・642号ピットと 出土遺物・1区646号ピット	173
第153図	1区1号井戸・1区2号井戸と出土遺物	174
第154図	1区1号溝	175
第155図	1区1号畠	175
第156図	1区1号道	176
第157図	1区2号竪穴住居と出土遺物	178
第158図	1区2号竪穴住居カマド	179
第159図	1区8号竪穴住居	180
第160図	1区8号竪穴住居掘り方	181
第161図	1区8号竪穴住居カマド	182
第162図	1区8号竪穴住居出土遺物	183
第163図	1区9号竪穴住居と出土遺物	184
第164図	1区10号竪穴住居(1)	185
第165図	1区10号竪穴住居(2)	186
第166図	1区10号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	187
第167図	1区10号竪穴住居出土遺物(2)	188
第168図	1区11号竪穴住居	189
第169図	1区11号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	190
第170図	1区11号竪穴住居出土遺物(2)	191
第171図	1区14号竪穴住居	192
第172図	1区14号竪穴住居掘り方と出土遺物	193
第173図	1区14号竪穴住居カマド	194
第174図	1区23号竪穴住居	195
第175図	1区23号竪穴住居カマドと出土遺物	196
第176図	1区24号竪穴住居	197
第177図	1区24号竪穴住居カマド	198
第178図	1区24号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)	199
第179図	1区24号竪穴住居出土遺物(2)	200
第180図	1区26号竪穴住居と出土遺物	201
第181図	1区29号竪穴住居	202
第182図	1区29号竪穴住居掘り方とカマド	203
第183図	1区29号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)	204
第184図	1区29号竪穴住居出土遺物(2)	205
第185図	1区28号竪穴住居	206
第186図	1区28号竪穴住居掘り方とカマド	207
第187図	1区28号竪穴住居出土遺物	208
第188図	1区30号竪穴住居	209
第189図	1区30号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	210
第190図	1区30号竪穴住居出土遺物(2)	211
第191図	1区30号竪穴住居出土遺物(3)	212
第192図	1区31号竪穴住居	213
第193図	1区31号竪穴住居掘り方とカマド	214
第194図	1区31号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物	215
第195図	1区33号竪穴住居	216
第196図	1区33号竪穴住居掘り方とカマド	217
第197図	1区33号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)	218
第198図	1区33号竪穴住居出土遺物(2)	219
第199図	1区37号竪穴住居	220
第200図	1区37号竪穴住居カマド	221
第201図	1区37号竪穴住居出土遺物	222

第202図	1区48号竪穴住居	223
第203図	1区48号竪穴住居掘り方とカマド	224
第204図	1区48号竪穴住居出土遺物	225
第205図	1区50号竪穴住居	226
第206図	1区50号竪穴住居出土遺物	227
第207図	1区52号竪穴住居	228
第208図	1区52号竪穴住居出土遺物	229
第209図	1区53号竪穴住居	230
第210図	1区53号竪穴住居カマド	231
第211図	1区53号竪穴住居出土遺物	232
第212図	1区54号竪穴住居	233
第213図	1区54号竪穴住居掘り方	234
第214図	1区54号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	235
第215図	1区54号竪穴住居出土遺物(2)	236
第216図	1区54号竪穴住居出土遺物(3)	237
第217図	1区54号竪穴住居出土遺物(4)	238
第218図	1区55号竪穴住居	239
第219図	1区55号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	240
第220図	1区55号竪穴住居出土遺物(2)	241
第221図	1区57号竪穴住居	241
第222図	1区57号竪穴住居と出土遺物	242
第223図	1区60号竪穴住居	243
第224図	1区60号竪穴住居出土遺物	244
第225図	1区61号竪穴住居と出土遺物	245
第226図	1区61号竪穴住居カマド	246
第227図	1区63号竪穴住居	247
第228図	1区63号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	248
第229図	1区63号竪穴住居出土遺物(2)	249
第230図	1区66号竪穴住居	249
第231図	1区66号竪穴住居掘り方と出土遺物	250
第232図	1区66号竪穴住居カマド	251
第233図	3区71号竪穴住居	252
第234図	3区71号竪穴住居出土遺物	253
第235図	3区78号竪穴住居	254
第236図	3区78号竪穴住居出土遺物	255
第237図	3区79号竪穴住居	256
第238図	3区79号竪穴住居出土遺物	257
第239図	3区82号竪穴住居	258
第240図	3区82号竪穴住居カマドと出土遺物(1)	259
第241図	3区82号竪穴住居出土遺物(2)	260
第242図	1区1号竪穴状遺構と出土遺物	261
第243図	1区1号掘立柱建物(1)	262
第244図	1区1号掘立柱建物(2)	263
第245図	1区2号掘立柱建物	264
第246図	1区3号掘立柱建物	265
第247図	1区4号掘立柱建物(1)	266
第248図	1区4号掘立柱建物(2)	267
第249図	1区5号掘立柱建物(1)	267
第250図	1区5号掘立柱建物(2)	268
第251図	1区6号掘立柱建物	269
第252図	1区7号掘立柱建物(1)	269
第253図	1区7号掘立柱建物(2)	270
第254図	1区8号掘立柱建物	271
第255図	1区9号掘立柱建物	272
第256図	1区10号掘立柱建物	273
第257図	1区11号掘立柱建物(1)	274
第258図	1区11号掘立柱建物(2)	275
第259図	1区12号掘立柱建物(1)	275
第260図	1区12号掘立柱建物(2)	276
第261図	1区13号掘立柱建物(1)	277
第262図	1区13号掘立柱建物(2)	278
第263図	1区14号掘立柱建物(1)	278
第264図	1区14号掘立柱建物(2)	279
第265図	1区15号掘立柱建物(1)	279
第266図	1区15号掘立柱建物(2)	280
第267図	1区16号掘立柱建物(1)	281
第268図	1区16号掘立柱建物(2)と出土遺物	282
第269図	1区17号掘立柱建物	283
第270図	1区2号柵	284
第271図	1区3号柵	284
第272図	1区4号柵	285
第273図	1区5号柵	285

第274図	1区6号柵	286
第275図	1区7号柵	286
第276図	1区8号柵	287
第277図	1区10号柵	288
第278図	1区1～6・9～18号土坑	296
第279図	1区19～21・24～27・30・32号土坑	297
第280図	1区34～41号土坑と出土遺物	298
第281図	1区42～45・47～49号土坑	299
第282図	1区50～58号土坑	300
第283図	1区59号土坑・3区60～62・64号土坑・1区2・3・8号ピットと出土遺物	301
第284図	1区57・60・102・105・115・120・152・161・162・267・282号ピットと出土遺物	302
第285図	1区313・323・370・371・502～508・510～512号ピット	303
第286図	1区513・514・518・522・525・529・530・533・534・536～538号ピット	304
第287図	1区539・541・575・596・606・611号ピット・3区617・618・620・628・643・644号ピットと出土遺物	305
第288図	1区2号溝(1)	306
第289図	1区2号溝(2)	307
第290図	遺構外の出土遺物(1)	309
第291図	遺構外の出土遺物(2)	310
第292図	遺構外の出土遺物(3)	311
第293図	遺構外の出土遺物(4)	312
第294図	遺構外の出土遺物(5)	313
第295図	遺構外の出土遺物(6)	314
第296図	遺構外の出土遺物(7)	315
第297図	遺構外の出土遺物(8)	316
第298図	遺構外の出土遺物(9)	317
第299図	遺構外の出土遺物(10)	318
第300図	遺構外の出土遺物(11)	319
第301図	遺構外の出土遺物(12)	320
第302図	遺構外の出土遺物(13)	321
第303図	遺構外の出土遺物(14)	322
第304図	間之原東遺跡1区全体図	323
第305図	間之原東遺跡 旧石器時代調査坑位置図と土層断面図	323
第306図	1区1号竪穴住居(1)	324
第307図	1区1号竪穴住居(2)	325
第308図	1区1号竪穴住居(3)と出土遺物(1)	326
第309図	1区1号竪穴住居出土遺物(2)	327
第310図	1区1・2・3・4・5・6・7・8号ピット	328
第311図	遺構外の出土遺物	328
第312図	火山灰分析、炭化種実同定試料採取地点	330
第313図	1区2号溝西端部東地点の土層柱状図	331
第314図	1区2号溝西端部西地点の土層柱状図	331
第315図	1区50号竪穴住居覆土の土層柱状図	331
第316図	炭化種実(1)	340
第317図	炭化種実(2)	341
第318図	竪穴住居の時期別軒数	342
第319図	6世紀代のカマド付設位置と時期別数	343
第320図	竪穴住居の時期別変遷(6世紀)	344
第321図	7世紀代のカマド付設位置と時期別数	345
第322図	8世紀代のカマド付設位置と時期別数	345
第323図	竪穴住居の時期別変遷(7世紀)	346
第324図	竪穴住居の時期別変遷(8世紀)	347
第325図	9世紀代のカマド付設位置と時期別数	348
第326図	竪穴住居の時期別変遷(9世紀)	349
第327図	間之原遺跡1区深さ約1.5m以上のピット位置図	351
第328図	間之原遺跡3区深さ約1.5m以上のピット位置図	352
第329図	紀年銘が刻書された紡輪	354

## 表 目 次

第1表	間之原遺跡 遺構名・遺構番号変更一覧表	7
第2表	間之原遺跡・間之原東遺跡 調査経過一覧表	13
第3表	間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺遺跡一覧表	18
第4表	1区1号掘立柱建物計測表	263
第5表	1区2号掘立柱建物計測表	264
第6表	1区3号掘立柱建物計測表	266
第7表	1区4号掘立柱建物計測表	267
第8表	1区5号掘立柱建物計測表	268
第9表	1区6号掘立柱建物計測表	269
第10表	1区7号掘立柱建物計測表	270
第11表	1区8号掘立柱建物計測表	271
第12表	1区9号掘立柱建物計測表	272
第13表	1区10号掘立柱建物計測表	273
第14表	1区11号掘立柱建物計測表	275
第15表	1区12号掘立柱建物計測表	276
第16表	1区13号掘立柱建物計測表	278
第17表	1区14号掘立柱建物計測表	279
第18表	1区15号掘立柱建物計測表	281
第19表	1区16号掘立柱建物計測表	282
第20表	1区17号掘立柱建物計測表	283
第21表	1区2号柵計測表	284
第22表	1区3号柵計測表	285
第23表	1区4号柵計測表	285
第24表	1区5号柵計測表	286
第25表	1区6号柵計測表	286
第26表	1区7号柵計測表	287
第27表	1区8号柵計測表	287
第28表	1区10号柵計測表	288
第29表	テフラ検出分析結果	332
第30表	屈折率測定結果	333
第31表	炭化種実同定結果(1)	335
第32表	炭化種実同定結果(2)	336
第33表	炭化種実出土状況	338
第34表	炭化種実組成(時期別)	339
第35表	間之原遺跡1区・3区深さ約1.5m以上のピット一覧表	352
第36表	紀年銘刻書紡輪一覧表	354
第37表	間之原遺跡土坑計測表	356
第38表	間之原遺跡ピット計測表	356
第39表	間之原東遺跡ピット計測表	360
第40表	間之原遺跡出土遺物観察表	361
第41表	間之原東遺跡出土遺物観察表	398

## 写真図版目次

口絵1	1. 間之原遺跡1区中央部全景(西上空から)
	2. 間之原遺跡1区西部全景(東上空から)
口絵2	3. 間之原遺跡3区全景(東上空から)
	4. 間之原遺跡3区遠景(西上空から)
口絵3	5. 間之原遺跡1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪(下面)
	6. 間之原遺跡1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪(上面)
口絵4	7. 間之原遺跡1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪(上面)
	8. 間之原遺跡1区16号掘立柱建物の柱穴から出土した石製の紡輪(下面)
PL. 1	1. 1区東部全景(東上空から)
	2. 1区東部全景(上が北)
PL. 2	1. 1区中央部全景(上が北)
	2. 1区中央部全景(上が北)
PL. 3	1. 1区西部全景(上が北)
	2. 3区全景(上が北)
PL. 4	1. 3区全景(北東上空から)
	2. 3区全景(東から)
PL. 5	1. 1区東端調査区全景(北から)
	2. 2区西部全景(東から)
	3. 2区東部全景(南から)
	4. 3区北西部全景(南から)



5. 1区基本土層断面2(西から)  
6. 1区基本土層断面4(北から)  
PL. 6 1. 1区1号竪穴住居遺物出土状態(北西から)  
2. 1区1号竪穴住居全景(北西から)  
3. 1区1号竪穴住居掘り方全景(北西から)  
4. 1区3号竪穴住居全景(西から)  
5. 1区3号竪穴住居掘り方全景(西から)  
6. 1区4号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
7. 1区4号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
8. 1区4号竪穴住居全景(南東から)  
PL. 7 1. 1区4号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)  
2. 1区4号竪穴住居貯蔵穴全景(東から)  
3. 1区4号竪穴住居P1全景(東から)  
4. 1区4号竪穴住居P2全景(東から)  
5. 1区4号竪穴住居P3全景(東から)  
6. 1区4号竪穴住居P3底面全景(西から)  
7. 1区4号竪穴住居P4全景(東から)  
8. 1区4号竪穴住居P5全景(東から)  
9. 1区4号竪穴住居P6全景(東から)  
10. 1区4号竪穴住居P10・11・15全景(南東から)  
11. 1区4号竪穴住居P15全景(東から)  
12. 1区4号竪穴住居P12~14全景(南東から)  
13. 1区4号竪穴住居P1南側間仕切り溝(南東から)  
14. 1区4号竪穴住居P3北側間仕切り溝(南東から)  
15. 1区4号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
PL. 8 1. 1区5号竪穴住居遺物出土状態(北東から)  
2. 1区5号竪穴住居カマド全景(北東から)  
3. 1区5号竪穴住居掘り方全景(北東から)  
4. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)  
5. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)  
6. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)  
7. 1区6号竪穴住居全景(北西から)  
8. 1区6号竪穴住居カマド全景(北西から)  
PL. 9 1. 1区6号竪穴住居掘り方全景(北西から)  
2. 1区12号竪穴住居遺物出土状態(北から)  
3. 1区12号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)  
4. 1区12号竪穴住居カマド全景(北東から)  
5. 1区12号竪穴住居全景(北から)  
6. 1区12号竪穴住居掘り方全景(北から)  
7. 1区12号竪穴住居カマド掘り方全景(北東から)  
8. 1区13号竪穴住居カマド土層断面(南東から)  
PL. 10 1. 1区13号竪穴住居掘り方全景(東から)  
2. 1区15号竪穴住居全景(南東から)  
3. 1区15号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
4. 1区16号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
5. 1区16号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
6. 1区16号竪穴住居1号カマド遺物出土状態(南東から)  
7. 1区16号竪穴住居1号カマド全景(南東から)  
8. 1区16号竪穴住居1号カマド掘り方全景(南東から)  
PL. 11 1. 1区16号竪穴住居全景(南東から)  
2. 1区16号竪穴住居貯蔵穴全景(南東から)  
3. 1区16号竪穴住居P1全景(南から)  
4. 1区16号竪穴住居P2全景(南から)  
5. 1区16号竪穴住居P3全景(南東から)  
PL. 12 1. 1区16号竪穴住居P4全景(南から)  
2. 1区16号竪穴住居P5全景(南から)  
3. 1区16号竪穴住居西壁周溝全景(北東から)  
4. 1区16号竪穴住居2号カマド全景(南東から)  
5. 1区16号竪穴住居2号カマド掘り方全景(南東から)  
6. 1区16号竪穴住居3号カマド全景(南東から)  
7. 1区16号竪穴住居3号カマド掘り方全景(南東から)  
PL. 13 1. 1区16号竪穴住居と竪穴住居群(上が南)  
2. 1区19号竪穴住居全景(北から)  
3. 1区20号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区20号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
5. 1区20号竪穴住居貯蔵穴全景(北西から)  
PL. 14 1. 1区20号竪穴住居全景(南東から)  
2. 1区20号竪穴住居P2全景(南東から)  
3. 1区20号竪穴住居P3全景(南から)  
4. 1区20号竪穴住居P4全景(北西から)  
5. 1区20号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
PL. 15 1. 1区21号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
2. 1区21号竪穴住居土層断面(北から)  
3. 1区21号竪穴住居全景(北西から)  
4. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
5. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
6. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
7. 1区22号竪穴住居全景(南西から)  
8. 1区22号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
9. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
PL. 17 1. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
2. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
3. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
4. 1区25号竪穴住居カマド全景(南東から)  
5. 1区25号竪穴住居貯蔵穴全景(南東から)  
6. 1区25号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
PL. 18 1. 1区27号竪穴住居遺物出土状態(北東から)  
2. 1区27号竪穴住居遺物出土状態(北東から)  
3. 1区27号竪穴住居全景(北東から)  
4. 1区27・28号竪穴住居掘り方全景(北東から)  
5. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
6. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
7. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
8. 1区35号竪穴住居カマド全景(南西から)  
PL. 19 1. 1区35号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
2. 1区35号竪穴住居全景(南西から)  
3. 1区36号竪穴住居東半部全景(北東から)  
4. 1区36号竪穴住居東半部掘り方全景(東から)  
5. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
PL. 20 1. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
2. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
3. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
5. 1区38号竪穴住居全景(北西から)  
6. 1区38号竪穴住居全景(南東から)  
7. 1区38号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
8. 1区38号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)  
PL. 21 1. 1区39号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
2. 1区39号竪穴住居全景(南西から)  
3. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(南西から)  
4. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(南から)  
5. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(北西から)  
6. 1区40号竪穴住居土層断面と遺物出土状態(南から)  
7. 1区40号竪穴住居全景(南東から)  
8. 1区40号竪穴住居カマド土層断面(南東から)  
PL. 22 1. 1区40号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
2. 1区41号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
3. 1区41号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区41号竪穴住居P1全景(南西から)  
5. 1区43号竪穴住居全景(南西から)  
PL. 23 1. 1区43号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
2. 1区43号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)  
3. 1区45号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区45号竪穴住居全景(南東から)  
5. 1区45号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
6. 1区45号竪穴住居掘り方全景(東から)  
7. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
8. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
PL. 24 1. 1区48・49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
2. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
3. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
5. 1区48・49号竪穴住居全景(南東から)  
PL. 25 1. 1区49号竪穴住居カマド全景(南東から)  
2. 1区49号竪穴住居カマド掘り方土層断面(東から)  
3. 1区56号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区56号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
5. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
6. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)  
7. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(北西から)  
8. 1区56号竪穴住居全景(南東から)  
PL. 26 1. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
2. 1区56号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)  
3. 1区56号竪穴住居P1全景(南から)  
4. 1区56号竪穴住居P2全景(南から)

5. 1区56号竪穴住居P 3 全景(南から)  
6. 1区56号竪穴住居P 4 全景(南から)  
7. 1区56号竪穴住居P 5 全景(南から)  
8. 1区56号竪穴住居P 6 全景(南から)  
9. 1区56号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)  
10. 1区58号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
11. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
12. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
13. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
14. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
15. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(南西から)
- PL. 27 1. 1区58号竪穴住居全景(南西から)  
2. 1区58号竪穴住居カマド全景(南西から)  
3. 1区58号竪穴住居カマド掘り方土層断面(南から)  
4. 1区58号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)  
5. 1区59号竪穴住居遺物出土状態(南から)
- PL. 28 1. 1区62号竪穴住居全景(北から)  
2. 1区67号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
3. 1区62号竪穴住居カマド全景(北から)  
4. 1区67号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
5. 1区67号竪穴住居カマド全景(南西から)  
6. 1区67号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)  
7. 1区67号竪穴住居全景(南西から)
- PL. 29 1. 1区67号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
2. 1区68号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)  
3. 1区68号竪穴住居全景(北東から)  
4. 1区68号竪穴住居カマド掘り方全景(北東から)  
5. 1区70号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
6. 1区70号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)  
7. 1区70号竪穴住居全景(南東から)  
8. 1区68・70号竪穴住居全景(南東から)
- PL. 30 1. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
2. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
3. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
4. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
5. 3区72号竪穴住居全景(南東から)
- PL. 31 1. 3区72号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
2. 3区72号竪穴住居P 1 全景(南から)  
3. 3区72号竪穴住居P 2 全景(南から)  
4. 3区72号竪穴住居P 3 全景(南から)  
5. 3区72号竪穴住居P 4 全景(南から)  
6. 3区72号竪穴住居1号土坑全景(東から)  
7. 3区72号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
8. 3区73号竪穴住居遺物出土状態(南東から)
- PL. 32 1. 3区73号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
2. 3区73号竪穴住居カマド全景(南東から)  
3. 3区73号竪穴住居P 1 全景(北から)  
4. 3区73号竪穴住居掘り方全景(北東から)  
5. 3区74号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
6. 3区74号竪穴住居全景(南東から)  
7. 3区74号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
8. 3区74号竪穴住居カマド全景(南西から)
- PL. 33 1. 3区74号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)  
2. 3区74号竪穴住居P 1 全景(南東から)  
3. 3区74号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
4. 3区75号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
5. 3区75号竪穴住居全景(南西から)  
6. 3区75号竪穴住居カマド全景(南西から)  
7. 3区75号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
8. 3区76号竪穴住居・5号竪穴遺構遺物出土状態(南東から)
- PL. 34 1. 3区76号竪穴住居・5号竪穴遺構全景(南東から)  
2. 3区76号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)  
3. 3区76号竪穴住居P 1 全景(南から)  
4. 3区76号竪穴住居P 2 全景(南から)  
5. 3区76号竪穴住居P 3 全景(南から)  
6. 3区76号竪穴住居P 4 全景(南から)  
7. 3区76号竪穴住居P 5・6 全景(南から)  
8. 3区76号竪穴住居P 7 全景(南から)
- PL. 35 1. 3区76号竪穴住居P 8 全景(南から)  
2. 3区76号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
3. 3区76号竪穴住居調査風景(南東から)  
4. 3区77号竪穴住居遺物出土状態(南から)
5. 3区77号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
6. 3区77号竪穴住居調査風景(南から)  
7. 3区77号竪穴住居全景(南から)  
8. 3区77号竪穴住居P 1・2 全景(南から)
- PL. 36 1. 3区77号竪穴住居P 3 全景(東から)  
2. 3区77号竪穴住居P 4 全景(東から)  
3. 3区77号竪穴住居P 5 全景(東から)  
4. 3区77号竪穴住居P 6 全景(東から)  
5. 3区77号竪穴住居P 7 全景(東から)  
6. 3区77号竪穴住居P 8 全景(南から)  
7. 3区77号竪穴住居掘り方全景(南から)  
8. 3区77号竪穴住居調査風景(北西から)
- PL. 37 1. 3区80号竪穴住居全景(西から)  
2. 3区80号竪穴住居カマド全景(西から)  
3. 3区80号竪穴住居P 1 全景(南から)  
4. 3区80号竪穴住居P 2 全景(北から)  
5. 3区80号竪穴住居掘り方全景(西から)  
6. 3区81号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
7. 3区81号竪穴住居全景(南西から)  
8. 3区81号竪穴住居掘り方全景(南東から)
- PL. 38 1. 3区83号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
2. 3区83号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
3. 3区83号竪穴住居カマド全景(南東から)  
4. 3区83号竪穴住居全景(南東から)  
5. 3区83号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)  
6. 3区83号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
7. 3区84号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
8. 3区84号竪穴住居・2号竪穴遺構全景(南東から)
- PL. 39 1. 3区84号竪穴住居・2号竪穴遺構掘り方全景(南東から)  
2. 3区85号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
3. 3区85号竪穴住居全景(南東から)  
4. 3区85号竪穴住居カマド全景(南東から)  
5. 3区85号竪穴住居P 1 全景(南東から)  
6. 3区85号竪穴住居P 2 全景(南東から)  
7. 3区85号竪穴住居P 3・貯蔵穴遺物出土状態(南東から)  
8. 3区85号竪穴住居掘り方全景(南東から)
- PL. 40 1. 3区85号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)  
2. 3区82・86号竪穴住居全景(南西から)  
3. 3区86号竪穴住居カマド全景(南西から)  
4. 3区82・86号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
5. 3区86号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
6. 3区87号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
7. 3区87号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
8. 3区87号竪穴住居カマド全景(南から)
- PL. 41 1. 3区87号竪穴住居・1区36号竪穴住居西半部全景(南西から)  
2. 3区87号竪穴住居P 1 全景(東から)  
3. 3区87号竪穴住居P 2・6 全景(東から)  
4. 3区87号竪穴住居P 3 全景(東から)  
5. 3区87号竪穴住居P 4・5・7 全景(西から)
- PL. 42 1. 3区87号竪穴住居P 8 全景(南から)  
2. 3区87号竪穴住居P 9 全景(東から)  
3. 3区87号竪穴住居P 10 全景(西から)  
4. 3区87号竪穴住居P 11 全景(西から)  
5. 3区87号竪穴住居掘り方全景(南から)  
6. 3区87号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)  
7. 3区87号竪穴住居調査風景(北西から)  
8. 3区2号竪穴遺構遺物出土状態(南東から)
- PL. 43 1. 1区3号竪穴遺構全景(南東から)  
2. 1区4号竪穴遺構土層断面(南東から)  
3. 3区5号竪穴遺構遺物出土状態(南東から)  
4. 3区5号竪穴遺構調査風景(北から)  
5. 3区5号竪穴遺構P 1 全景(南から)  
6. 1区29号土坑遺物出土状態(南から)  
7. 1区362号ピット全景(南から)  
8. 1区440号ピット全景(南東から)
- PL. 44 1. 1区442号ピット全景(南東から)  
2. 1区443号ピット全景(南東から)  
3. 1区444号ピット全景(南東から)  
4. 1区440~444・516・646号ピット全景(南西から)  
5. 1区494号ピット土層断面(南から)  
6. 1区494号ピット全景(南から)  
7. 3区623号ピット全景(南西から)

8. 1区501号ピット全景(南西から)  
9. 1区516号ピット遺物出土状態(南西から)  
PL. 45 1. 3区624号ピット遺物出土状態(南西から)  
2. 3区624号ピット遺物出土状態(南西から)  
3. 3区625号ピット全景(南から)  
4. 3区626号ピット全景(東から)  
5. 3区626号ピット全景(東から)  
6. 3区627号ピット全景(南から)  
7. 3区629号ピット全景(南から)  
8. 3区630・631号ピット全景(南東から)  
PL. 46 1. 3区632・633号ピット全景(南東から)  
2. 3区635号ピット遺物出土状態(東から)  
3. 3区637・638号ピット土層断面(南から)  
4. 3区638号ピット遺物出土状態(南から)  
5. 3区637・638号ピット全景(南から)  
6. 3区639号ピット全景(東から)  
7. 3区640号ピット土層断面(北東から)  
8. 3区641・642号ピット全景(北から)  
PL. 47 1. 1区646号ピット全景(南東から)  
2. 1区1号井戸全景(北から)  
3. 1区2号井戸全景(西から)  
4. 1区1号道とピット群全景(北西から)  
5. 1区1号溝全景(南西から)  
6. 1区1号畠全景(東から)  
7. 1区1号畠全景(南から)  
PL. 48 1. 1区2号竪穴住居カマド確認状態(南西から)  
2. 1区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
3. 1区2号竪穴住居カマド全景(南西から)  
4. 1区2号竪穴住居全景(南西から)  
5. 1区2号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
6. 1区8号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
7. 1区8号竪穴住居カマド全景(西から)  
PL. 49 1. 1区8号竪穴住居全景(西から)  
2. 1区8号竪穴住居貯蔵穴全景(北から)  
3. 1区8号竪穴住居掘り方遺物出土状態(西から)  
4. 1区8号竪穴住居掘り方全景(西から)  
5. 1区9号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
6. 1区9号竪穴住居掘り方全景(西から)  
7. 1区10号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
8. 1区10・11号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
PL. 50 1. 1区10号竪穴住居全景(西から)  
2. 1区10号竪穴住居1号カマド全景(西から)  
3. 1区10号竪穴住居2号カマド掘り方全景(西から)  
4. 1区10号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)  
5. 1区11号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
6. 1区11号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(北から)  
7. 1区11号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)  
8. 1区11号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)  
PL. 51 1. 1区11号竪穴住居掘り方全景(西から)  
2. 1区14号竪穴住居全景(南西から)  
3. 1区14号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
4. 1区14号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
5. 1区23号竪穴住居全景(南から)  
6. 1区23号竪穴住居カマド全景(西から)  
7. 1区23号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)  
8. 1区24号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
PL. 52 1. 1区24号竪穴住居全景(南から)  
2. 1区26号竪穴住居土層断面(南から)  
3. 1区26号竪穴住居全景(南から)  
4. 1区26号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)  
5. 1区26号竪穴住居掘り方全景(南から)  
PL. 53 1. 1区28号竪穴住居遺物出土状態(北東から)  
2. 1区28号竪穴住居全景(北東から)  
3. 1区28号竪穴住居カマド全景(北東から)  
4. 1区28号竪穴住居掘り方全景(北東から)  
5. 1区29号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
6. 1区29号竪穴住居全景(南西から)  
7. 1区29号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
8. 1区29号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
PL. 54 1. 1区29号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
2. 1区30号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
3. 1区30号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
4. 1区30号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
5. 1区30号竪穴住居全景(南西から)  
6. 1区30号竪穴住居カマド全景(南西から)  
7. 1区30号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
8. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
PL. 55 1. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
2. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
3. 1区31号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
4. 1区31号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南西から)  
5. 1区31号竪穴住居全景(南西から)  
PL. 56 1. 1区31号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)  
2. 1区31号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
3. 1区33号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
4. 1区33号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
5. 1区33号竪穴住居全景(南西から)  
PL. 57 1. 1区33号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)  
2. 1区33号竪穴住居鉄滓出土状態(南から)  
3. 1区33号竪穴住居掘り方全景(南西から)  
4. 1区37号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
5. 1区37号竪穴住居全景(西から)  
6. 1区37号竪穴住居カマド全景(西から)  
7. 1区37号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)  
PL. 58 1. 1区37号竪穴住居掘り方全景(西から)  
2. 1区48号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
3. 1区48号竪穴住居カマド全景(南から)  
4. 1区48号竪穴住居全景(南から)  
5. 1区50号竪穴住居全景(西から)  
6. 1区50号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)  
7. 1区50号竪穴住居カマド全景(西から)  
8. 1区50号竪穴住居全景(西から)  
PL. 59 1. 1区52・53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
2. 1区52号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
3. 1区52号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
4. 1区52号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)  
5. 1区52号竪穴住居カマド全景(西から)  
PL. 60 1. 1区52号竪穴住居全景(西から)  
2. 1区52号竪穴住居掘り方全景(西から)  
3. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
4. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
5. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
6. 1区53号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)  
7. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
8. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
9. 1区53号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)  
10. 1区53号竪穴住居全景(西から)  
PL. 61 1. 1区52・53号竪穴住居全景(西から)  
2. 1区53号竪穴住居掘り方全景(西から)  
3. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
4. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
5. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
PL. 62 1. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
2. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
3. 1区54号竪穴住居カマド全景(南から)  
4. 1区54号竪穴住居全景(南から)  
5. 1区55号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
6. 1区55号竪穴住居遺物出土状態(北から)  
7. 1区55号竪穴住居全景(西から)  
8. 1区55号竪穴住居掘り方全景(西から)  
PL. 63 1. 1区57号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
2. 1区57号竪穴住居全景(東から)  
3. 1区60号竪穴住居全景(西から)  
4. 1区61号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
5. 1区61号竪穴住居カマド全景(南から)  
6. 1区61号竪穴住居掘り方全景(南から)  
7. 1区62・63号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
PL. 64 1. 1区62・63号竪穴住居全景(西から)  
2. 1区63号竪穴住居カマド全景(西から)  
3. 1区63号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)  
4. 1区63号竪穴住居掘り方全景(西から)  
5. 1区66号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
6. 1区59・66号竪穴住居遺物出土状態(南東から)  
7. 1区66号竪穴住居カマド全景(南東から)



8. 1区66号竪穴住居全景(南東から)
- PL. 65 1. 1区66号竪穴住居掘り方全景(南東から)  
2. 3区71号竪穴住居全景(西から)  
3. 3区71号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)  
4. 3区71号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)  
5. 3区71号竪穴住居掘り方全景(西から)  
6. 3区71号竪穴住居調査風景(北西から)  
7. 3区78号竪穴住居遺物出土状態(南から)  
8. 3区78号竪穴住居全景(西から)
- PL. 66 1. 3区78号竪穴住居カマド全景(西から)  
2. 3区78号竪穴住居掘り方全景(西から)  
3. 3区79号竪穴住居遺物出土状態(東から)  
4. 3区79号竪穴住居全景(南から)  
5. 3区79号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)  
6. 3区79号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)  
7. 3区79号竪穴住居P1全景(南から)  
8. 3区79号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)
- PL. 67 1. 3区79号竪穴住居掘り方全景(南から)  
2. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
3. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
4. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)  
5. 3区82号竪穴住居カマド全景(南西から)  
6. 3区82号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)  
7. 1区1号竪穴状遺構遺物出土状態(西から)  
8. 1区1号竪穴状遺構掘り方全景(南から)
- PL. 68 1. 1区1号掘立柱建物全景(北西から)  
2. 1区2号掘立柱建物全景(西から)  
3. 1区3号掘立柱建物全景(西から)  
4. 1区4号掘立柱建物全景(北西から)  
5. 1区5号掘立柱建物全景(北西から)  
6. 1区6号掘立柱建物全景(北から)  
7. 1区6号掘立柱建物P1全景(南から)  
8. 1区6号掘立柱建物P2全景(南から)
- PL. 69 1. 1区6号掘立柱建物P3全景(南から)  
2. 1区7号掘立柱建物全景(南から)  
3. 1区8号掘立柱建物全景(北から)  
4. 1区9号掘立柱建物全景(南から)  
5. 1区10号掘立柱建物全景(東から)  
6. 1区11・12号掘立柱建物全景(南から)  
7. 1区13号掘立柱建物全景(西から)  
8. 1区14号掘立柱建物全景(北から)
- PL. 70 1. 1区15号掘立柱建物全景(北西から)  
2. 1区15号掘立柱建物P1土層断面(西から)  
3. 1区15号掘立柱建物P2土層断面(南から)  
4. 1区15号掘立柱建物P3土層断面(西から)  
5. 1区16号掘立柱建物全景(西から)  
6. 1区16号掘立柱建物P7遺物出土状態(北西から)  
7. 1区16号掘立柱建物P7土層断面(南西から)
- PL. 71 1. 1区8号柵全景(南西から)  
2. 1区1号土坑全景(東から)  
3. 1区6号土坑全景(南東から)  
4. 1区9号土坑全景(南西から)  
5. 1区4・5号土坑全景(南から)  
6. 1区11号土坑全景(東から)  
7. 1区13号土坑全景(南から)  
8. 1区16号土坑全景(東から)  
9. 1区18号土坑全景(南西から)  
10. 1区19号土坑全景(南から)  
11. 1区20号土坑全景(南東から)
- PL. 72 1. 1区21号土坑全景(南から)  
2. 1区24号土坑全景(南から)  
3. 1区25号土坑全景(南から)  
4. 1区27号土坑全景(南西から)  
5. 1区30号土坑全景(南東から)  
6. 1区32号土坑全景(南から)  
7. 1区35号土坑遺物出土状態(南から)  
8. 1区37号土坑全景(北から)  
9. 1区38号土坑全景(西から)  
10. 1区41号土坑遺物出土状態(北から)  
11. 1区42号土坑遺物出土状態(北から)  
12. 1区43号土坑全景(南から)  
13. 1区44号土坑遺物出土状態(北東から)
14. 1区45号土坑全景(南から)  
15. 1区47号土坑全景(東から)
- PL. 73 1. 1区49号土坑全景(北から)  
2. 1区50号土坑全景(北から)  
3. 1区51号土坑全景(北から)  
4. 1区52号土坑全景(南から)  
5. 1区56号土坑全景(南西から)  
6. 1区57号土坑全景(南から)  
7. 1区58号土坑全景(南から)  
8. 3区60号土坑全景(南から)  
9. 3区61号土坑全景(南から)  
10. 3区62号土坑全景(南西から)  
11. 1区2号ピット全景(南から)  
12. 1区3号ピット全景(南から)  
13. 1区161号ピット土層断面(南から)  
14. 1区267号ピット土層断面(南から)  
15. 1区282号ピット全景(南から)
- PL. 74 1. 1区575号ピット遺物出土状態(南から)  
2. 3区617・618号ピット全景(南から)  
3. 3区628号ピット全景(南から)  
4. 3区644号ピット土層断面(北から)  
5. 1区旧石器時代調査坑1・2全景(西から)  
6. 1区2号溝全景(西から)  
7. 1区2号溝全景(西から)  
8. 1区旧石器時代調査坑1土層断面(西から)  
9. 1区旧石器時代調査坑5土層断面(西から)  
10. 1区旧石器時代調査坑17土層断面(南から)  
11. 3区旧石器時代調査坑24土層断面(東から)  
12. 3区旧石器時代調査坑掘削状態(西から)  
13. 3区表土掘削作業風景(西から)
- PL. 75 1. 1区全景(北から)  
2. 1区1号竪穴住居遺物出土状態(西から)  
3. 1区1号竪穴住居全景(西から)  
4. 1区1号竪穴住居2面全景(西から)  
5. 1区1号竪穴住居掘り方全景(西から)
- PL. 76 1. 1区1号ピット全景(西から)  
2. 1区3号ピット土層断面(西から)  
3. 1区4号ピット全景(南から)  
4. 1区5号ピット全景(南から)  
5. 1区6号ピット全景(南から)  
6. 1区7号ピット全景(南から)  
7. 1区8号ピット全景(南から)  
8. 1区旧石器時代調査坑1土層断面(北から)
- PL. 77 1区4・6・12号竪穴住居出土遺物
- PL. 78 1区16・20号竪穴住居出土遺物
- PL. 79 1区25・22号竪穴住居出土遺物
- PL. 80 1区22号竪穴住居出土遺物
- PL. 81 1区27・35・38号竪穴住居出土遺物
- PL. 82 1区39・40・41・43・49号竪穴住居出土遺物
- PL. 83 1区49・56号竪穴住居出土遺物
- PL. 84 1区56号竪穴住居出土遺物
- PL. 85 1区58・67・70号竪穴住居出土遺物
- PL. 86 3区72号竪穴住居出土遺物
- PL. 87 3区72号竪穴住居出土遺物
- PL. 88 3区72号竪穴住居出土遺物
- PL. 89 3区73号竪穴住居出土遺物
- PL. 90 3区74・76・77・80・81号竪穴住居出土遺物
- PL. 91 3区83・84号竪穴住居出土遺物
- PL. 92 3区85・86・87号竪穴住居・2・5号竪穴状遺構出土遺物
- PL. 93 1区29号土坑・436号ピット・3区624・625・632・634・639号ピット・1区11・29・30・31号竪穴住居出土遺物
- PL. 94 1区33・37・48号竪穴住居出土遺物
- PL. 95 1区50・52・53・54号竪穴住居出土遺物
- PL. 96 1区54・55・60・63号竪穴住居・3区71・78号竪穴住居出土遺物
- PL. 97 3区79・82号竪穴住居・1区1号竪穴状遺構・16号掘立柱建物・41号土坑・2・575号ピット出土遺物
- PL. 98 遺構外の出土遺物
- PL. 99 遺構外の出土遺物
- PL. 100 遺構外の出土遺物
- PL. 101 遺構外の出土遺物
- PL. 102 1区1号竪穴住居・遺構外の出土遺物



# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

国道354号バイパス東毛広域幹線道路は、高崎市から玉村町、伊勢崎市、太田市、大泉町、邑楽町、館林市、板倉町に至る群馬県南部の4市4町を東西に横断的に連絡する主要幹線道路である。交通渋滞の緩和や物流の時間短縮などを主な目的として計画された総延長58.6kmに及ぶ道路である。東毛広域幹線道路の一部である大泉邑楽バイパスは、平成25年9月28日に大泉町北小泉から邑楽町篠塚までを結ぶ延長3.10kmが開通し、平成26年8月31日には、玉村伊勢崎バイパスの開通によって東毛広域幹線道路が全線開通となった。

間之原遺跡と間之原東遺跡は、国道354号大泉邑楽バイパス事業に伴い実施された埋蔵文化財発掘調査である。

平成21年8月24日～27日に群馬県教育委員会文化財保護課によって試掘と確認調査が太田市龍舞町、邑楽郡大泉町北小泉、邑楽郡大泉町篠塚地内において実施され、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居などが確認された。

このため、群馬県教育委員会文化財保護課と事業主体者である群馬県館林土木事務所との協議により、埋蔵文化財発掘調査の実施にむけての準備が開始された。埋蔵文化財発掘調査の受託契約を結ぶため、平成22年3月19日に群馬県館林土木事務所長からの見積書の提出依頼に対する回答を行い、平成22年3月31日に群馬県館林土木事務所長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査理事長との間で、平成21年度国道345号(大泉邑楽バイパス)地域活力基盤創造交付金事業に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結され、調査期間を平成22年4月1日～平成22年8月31日として間之原遺跡の調査が実施されることとなっ



第1図 間之原遺跡・間之原東遺跡 遺跡位置図(国土地理院1:200,000地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行使用)

## 第1章 調査に至る経緯と経過

た。平成22年8月30日に群馬県館林土木事務所長から発掘調査業務委託契約の一部変更について協議があり調査面積が5,999㎡から7,154㎡に変更となり、調査期間を平成22年4月1日～平成22年9月30日に延長する変更契約を締結し、群馬県教育委員会文化財保護課に通知した。

平成24年度の間之原遺跡と間之原東遺跡の発掘調査については、群馬県館林土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課の調整を経て、平成23年度国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備事業(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査として財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が受託することとなり、平成24年3月30日付けで群馬県館林土木事務所長と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で同事業委託契約が締結された。調査期間は、平成24年4月1日～平成24年5月31日として発掘調査を実施した。平成24年5月31日に群馬県館林土木事務所長から発掘調査業務委託契約の一部変更についての協議があり、調査面積が958㎡から1,431㎡に変更され、調査期間を平成24年4月1日～平成24年6月30日に延長する変更契約を群馬県館林土木事務所長と公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長との間で締結した。

## 第2節 調査の経過

間之原遺跡は、平成22年度及び平成24年度に発掘調査が行われた。平成22年度については、平成21年度国道354号(大泉邑楽バイパス)地域活力基盤創造交付金事業に伴い、平成22年4月1日～平成22年9月30日までの6カ月間で発掘調査が実施された。

発掘調査は、ローム漸移層上面を遺構確認面として古墳時代から平安時代に至る竪穴住居や掘立柱建物などの遺構を多数確認した。1区東側及び中央部の一部に関しては、第Ⅶ層上面まで掘り下げて縄文時代の遺構確認を行った。また、1区16号掘立柱建物の柱穴上層からは、県内初となる平安時代の天長7年(830年)の紀年銘が刻字された石製紡輪を発見した。このため、平成22年9月1日に記者発表を行い、平成22年9月2日の上毛新聞で遺物の概要及び現地説明会の日程などが報道された。群馬県館林土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委

員会の協力によって、平成22年9月5日午前10時から午後3時まで現地説明会を実施し、174名が来跡した。

旧石器時代の調査については、1区に旧石器時代調査坑(2×4m)を2カ所設定し、確認調査を実施した。

平成24年度の発掘調査は、平成23年度国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備事業(活力創出基盤整備)に伴い、平成24年4月1日～平成24年6月30日までの3カ月間で実施された。東西方向に走行する道路によって間之原東遺跡3区と間之原東遺跡1区に分かれ、調査区面積は、間之原遺跡1,265㎡、間之原東遺跡166㎡である。間之原東遺跡は、平成22年度に行われた1区の西側延長部分に位置する。調査年度が異なり、混乱を避けるため便宜的に3区と呼称した。調査によって古墳時代から平安時代の竪穴住居や土坑などを確認した。旧石器時代の調査については、間之原遺跡3区に旧石器時代調査坑(2×4m)を4カ所、間之原東遺跡に1カ所設定して確認調査を実施した。なお、旧石器時代の調査については、第3章第2節及び第4章第2節を参照されたい。

## 第3節 調査日誌

平成22年度と平成24年度の発掘調査日誌から主な記録を抜粋して掲載した。本節では第1表のとおり、平成24年度の間之原遺跡の遺構番号を変更している。

### 平成22年度(2010年)間之原遺跡

4. 1 間之原遺跡の発掘調査準備に着手。
4. 6 間之原遺跡の発掘調査開始。館林土木事務所職員と発掘現場にて打ち合わせ。
4. 9 周辺住民及び大泉町6区長へ挨拶。
4. 14 現場事務所プレハブ及び駐車場用地の整地、採石敷設、安全対策作業、調査区設定。
4. 15 1区東側から表土掘削開始、遺構確認作業。
4. 16 現場事務所プレハブ建方工事、遺構確認作業。
4. 20 1区東端部(土壌改良部分)完掘全景写真。
5. 6 表土掘削継続、1区1・2号掘立柱建物調査、1区1号井戸調査、旧石器時代調査坑の調査。
5. 12 表土掘削継続、1区1～4号掘立柱建物写真撮影。間之原遺跡2区表土掘削開始。



- |       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 5. 13 | 表土掘削継続、遺構確認作業、2区写真撮影。   | 4. 12 | 太田市龍舞町1区長、区長代理、大泉町区長、近隣住民挨拶。   |
| 5. 14 | 表土掘削継続、2区埋め戻し作業。  | 4. 13 | 間之原遺跡3区の表土掘削開始、安全対策のため単管パイプ打設、現場事務所建方工事。   |
| 5. 25 | 1区東側空中写真撮影、1区2・4・6・7号<br>竪穴住居調査。  | 4. 17 | 表土掘削継続、竪穴住居2軒、土坑確認。  |
| 5. 26 | 縄文時代の遺構確認のため掘り下げ調査開始。   | 4. 20 | 表土掘削継続、安全対策のため単管パイプ打設<br>3区71・72号住居調査継続。   |
| 6. 4  | 1区2・4・5・8・9号竪穴住居、1区10号<br>掘立柱建物調査、県立大泉高等学校生徒遺跡見<br>学(7名)。                         | 5. 29 | 3区空中写真撮影、3区75～77・79～82・85・<br>86号竪穴住居、3区2・5号竪穴状遺構調査。   |
| 6. 8  | 1区2～5・8～11号竪穴住居、1区2号溝調<br>査、県立大泉高等学校生徒遺跡見学(8名)。                                   | 5. 31 | 3区75・79・80・81・82・85・86号竪穴住居、<br>2号竪穴状遺構調査。旧石器時代調査坑の調査<br>開始。間之原東遺跡1区表土掘削開始。                            |
| 6. 9  | 1区2・3・5・8～11号竪穴住居、1区2号<br>溝調査、駐車場移転。  | 6. 4  | 3区79・80・82・85・86号竪穴住居調査。旧石<br>器時代調査坑の調査継続。間之原東遺跡1区竪<br>穴住居、ピット8基確認。                                    |
| 7. 21 | 1区中央部空中写真撮影、1区20・25～31・33<br>号竪穴住居、1区11・12号掘立柱建物調査。                               | 6. 8  | 3区82・85・86号竪穴住居調査継続、3区623・<br>624号ピット調査継続、624号ピット底部から椀<br>など遺物出土。1区36号竪穴住居調査継続、間<br>之原東遺跡1区1号竪穴住居調査継続。 |
| 7. 30 | 1区16・29・31・33・37・40・41号竪穴住居、<br>旧石器時代調査坑の調査。韓国慶北大学・嶺南<br>大学院5名遺跡見学。               | 6. 21 | 間之原東遺跡1区1号竪穴住居掘方全景写真、<br>旧石器時代調査坑の調査開始。  |
| 8. 6  | 1区16・29・30・36～41・49・54～58号竪穴住<br>居、1区15号掘立柱建物調査。埋蔵文化財専門<br>講座7名の発掘調査実習。           | 6. 25 | 間之原遺跡3区、間之原東遺跡1区旧石器時代<br>調査坑の調査終了。   |
| 8. 18 | 1区16・26～28・30・37・39～41・45・47～<br>49・54～58号竪穴住居調査。1区16号掘立柱建<br>の柱穴から石製の刻書紡輪が出土。    | 6. 26 | 現場事務所撤収のための周辺整備、出土遺物や物品<br>類の搬出。重機による調査区の法面成形作業。   |
| 9. 1  | 1区24・35・38・42・43・50・60～63・67・68<br>号竪穴住居調査継続。刻書紡輪について記者発<br>表を行う。                 | 6. 27 | 現場事務所プレハブなどの撤去作業。  |
| 9. 2  | 1区西側空中写真撮影、1区19・20・38・48～<br>50・52・53・60・61・67・68号竪穴住居調査。                         | 6. 28 | 館林土木事務所職員による完了立合い。   |
| 9. 4  | 現地説明会の見学路設置などの準備作業。   | 6. 30 | ガードフェンス撤去。   |
| 9. 5  | 午前10時～午後3時まで現地説明会を行う。大<br>泉町長他、県教育委員会文化財保護課、太田市<br>教育委員会、桐生市教育委員会職員など来場者<br>174名。 |       |  |
| 9. 30 | 現場撤収作業。   |       |  |

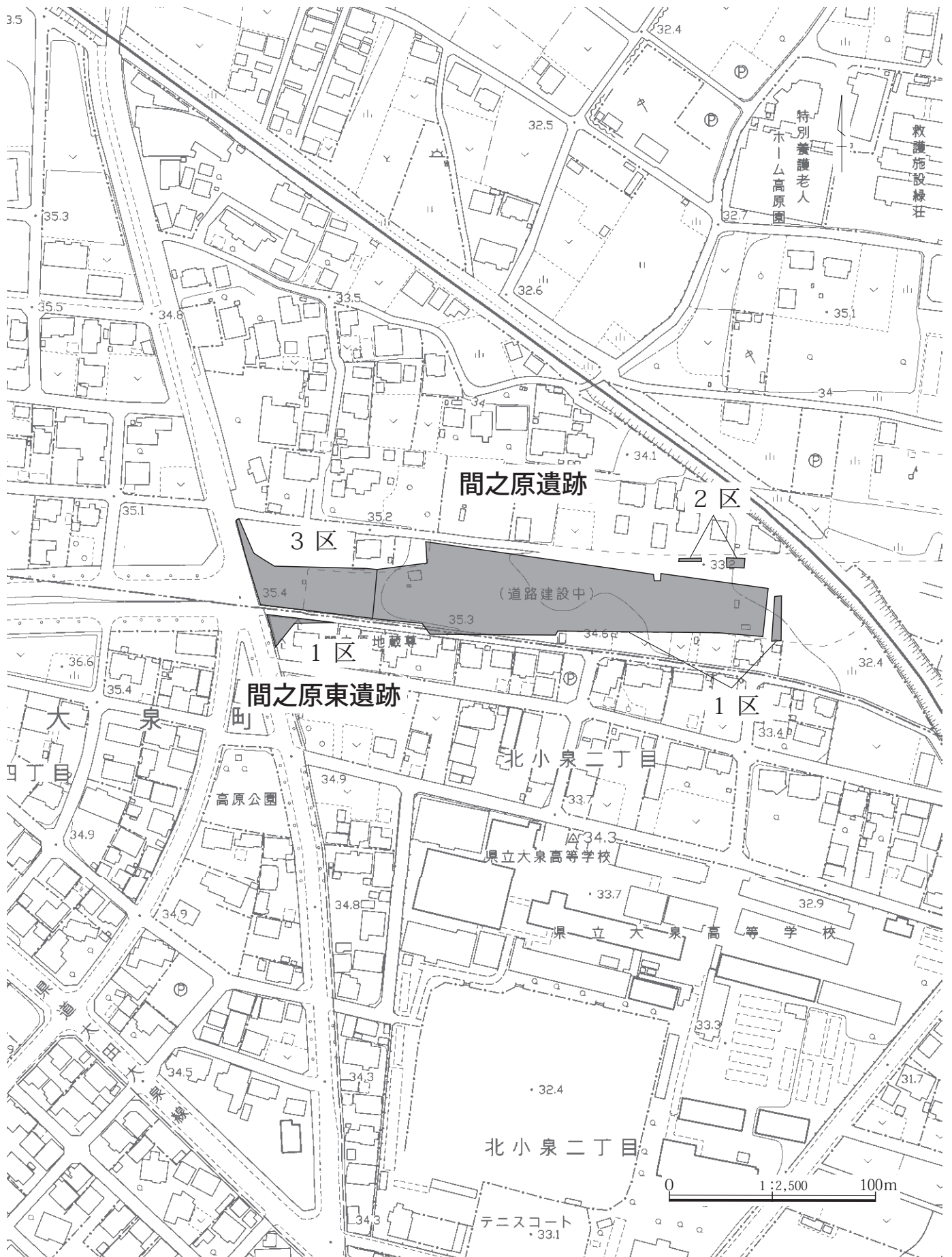
#### 平成24年度(2012年)間之原遺跡・間之原東遺跡

- |       |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 4. 2  | 間之原遺跡・間之原東遺跡の発掘調査準備開始。            |
| 4. 9  | 館林土木事務所職員と発掘現場にて残土置き場<br>など打ち合わせ。 |
| 4. 11 | 安全柵設置、県立大泉高等学校へ挨拶。                |

### 第4節 調査区の設定

平成22年度の間之原遺跡における調査区の設定については、東西に走る市道などを調査区境として便宜的に南側を1区、北側を2区に分けて発掘調査を実施した。1区に水道管が埋設されている南北方向の生活道路があるため東端部と東側の調査区に分けた。

間之原遺跡1区では、調査区東側から順に発掘調査を実施したが、表土掘削の工程から1区東側の北半部をN区、南半部をS区と呼称して調査を実施した。遺構外か



第2図 間之原遺跡・間之原東遺跡 調査区範囲図(この地図の作成にあたっては、太田市長・大泉町長の了承を得て、同市・同町発行の2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。)

ら出土した遺物についてはN区、S区の呼称を用いて一括取り上げなどを行い、遺物注記にも用いた。

平成24年度の発掘調査については、平成22年度の調査区の設定を踏襲し、1区西側に延長された調査区を新たに3区と呼称した。東西に走行する道路を挟み、間之原遺跡3区の南側に位置する間之原東遺跡については、1区とした。

遺構測量については、国家座標(世界測地系2000平面直角座標第IX系)を用いた。平成22年度の間之原遺の基準点は、平面直角 $X=30156.732$ 、 $Y=-37151.614$ であり、平成24年度の間之原遺跡、間之原東遺跡の基準点は、平面直角 $X=3025.643$ 、 $Y=-37273.291$ を使用した。

## 第5節 調査の方法

発掘調査では、「記録保存のための発掘調査に関する基準」(平成19年12月28日県教育長通知)にもとづいて調査を実施した。大型掘削重機を使用した表土掘削を行い、掘削した表土については、残土を一時的に置く場所を調査区周辺に確保できなかったため、群馬県館林土木事務所との調整により、国道354号大泉邑楽バイパス工事現場へ搬出することになり残土運搬作業を行った。大型掘削重機による表土掘削の後は、現場作業員による鋤簾や移植ごてなどを使用した手作業によって遺構確認作業を行った。

平成22年度に調査した間之原遺跡1区・2区の遺構は、竪穴住居57軒、竪穴状遺構4基、掘立柱建物17棟、柵8条、土坑51基、ピット471基、井戸2基、溝2条、道1条、畠1カ所である。平成24年度の間之原遺跡3区では、竪穴住居17軒、竪穴状遺構2基、土坑4基、ピット32基、間之原東遺跡1区では、竪穴住居1軒、ピット8基を調査した。

発掘調査によって確認した遺構については、それぞれセクションベルトなどを設定し、土層断面観察と写真撮影を行い、遺構断面測量は測量委託業者と発掘現場作業員による手実測を適宜行った。遺構平面測量は、測量委託業者がトータルステーションで行った。出土した遺物については、測量委託業者による遺構地点別取り上げ及び調査区一括取り上げを行った。

遺構写真については、35mmデジタルカメラとブロー

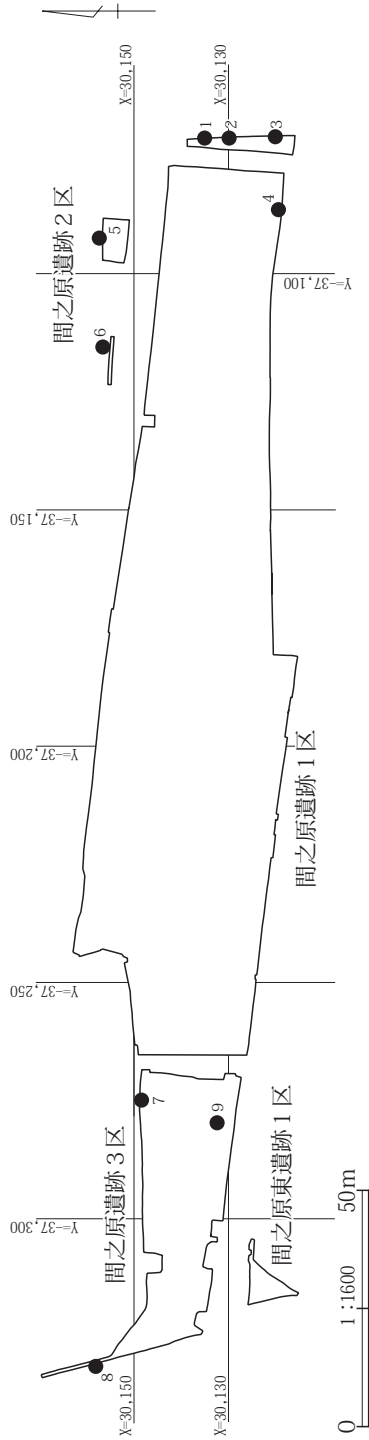
ニーモノクロフィルムを使用した6×7版銀塩カメラを併用し、発掘調査担当者が地上撮影及びフォトエレベーターなどを適宜使用して写真撮影を行った。測量委託業者による空中写真撮影については、平成22年度は間之原遺跡1区東側、中央部、西側で3回実施し、平成24年度は間之原遺跡3区で実施した。

## 第6節 基本土層(第3図 PL.5)

基本土層については、間之原遺跡1区～3区ごとに調査区壁面による土層断面実測及び観察を行った。基本土層の土層断面実測及び観察地点は、第3図のとおりである。間之原遺跡1区東壁面と南壁面、2区北壁面、3区北壁面と西壁面においてそれぞれ実施し、現表土となる1層からXV層に分層することができた。発掘調査前の調査区の状況は、宅地や耕作地などであったため、表土には盛土や碎石が敷設され、遺構確認面まで現代の攪乱が及ぶ箇所も一部で認められた。遺構確認面は、第V層のローム漸移層上面であり、1区東側半部及び中央部の一部では、前述のとおり第VII層上面でも遺構確認を行ったが、当該時期の遺構は確認できなかった。

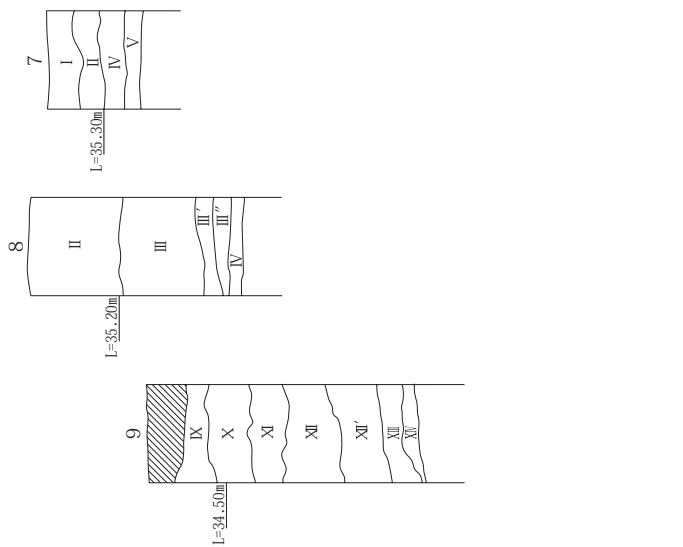
間之原遺跡1区で実施した自然科学分析(火山灰分析)によって、1区2号溝の埋没土上層から浅間B軽石(As-B)、下層から榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)と浅間C軽石(As-C)を検出した。また、1区50号住居の埋没土にもHr-FAとAs-Cが含まれていた。詳細については、第5章第1節を参照されたい。このため、基本土層Ⅲ層に含まれる灰白色粒はHr-FAの可能性が高い。3区北西部は、県道38号足利千代田線に接し、南北方向に細長い調査区である。表土から遺構確認面の第V層上面まで1.6m以上の深さとなった。西側壁面の土層断面の観察から、1区2号溝の埋没土に含まれていた砂層を確認した。3区北西部から西側にかけて谷地形となり、As-Bが残存したと考えられる。

基本土層の断面と間之原遺跡1区・3区と間之原東遺跡1区の旧石器時代調査坑の堆積状況に大きな差異は認められなかった。間之原遺跡3区の基本土層については、VI層より下層は旧石器時代調査坑を基にし、第3図のとおり基本土層を設定した。



間之原遺跡・間之原東遺跡 基本土層 ●は基本土層観察地点

- |         |                  |                            |         |                  |                                |
|---------|------------------|----------------------------|---------|------------------|--------------------------------|
| I 層     | 現表土              | 盛土層(砂礫土)                   | VI 層    | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ローム漸移層、V層より締まり弱                |
| I' 層    | 現表土              | 盛土層(ローム土)                  | VII 層   | にぶい黄褐色土(10YR5/4) | ローム層を含む、VI層土をやや含み締まりは同じ、やや粘性あり |
| II 層    | にぶい黄褐色土(10YR5/2) | 耕作土層か、サラサラする               | VIII 層  | 黄褐色土(10YR5/6)    | ローム層、ローム塊を含む、締まりあり、やや粘性あり      |
| II' 層   | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ローム粒多量、砂質土                 | IX 層    | 黄褐色土(10YR5/6)    | ローム層、締まりあり、やや粘性あり              |
| II'' 層  | 褐色土(10YR4/4)     | II'層とIV層の中間層               | X 層     | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | ローム層、締まりあり、やや粘性あり              |
| III 層   | 黒褐色土(10YR2/2)    | 砂質土を含む、締り弱                 | XI 層    | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | X層よりやや暗い色調、やや粘性あり              |
| III' 層  | 黒褐色土(10YR2/2)    | As-B二次堆積、灰白色砂質土を含む、締まり弱    | XII 層   | 灰黄褐色土(10YR4/2)   | 暗色帯 X層に比べ締まり弱く、粘性あり            |
| III'' 層 | 黒褐色土(10YR3/2)    | 遺物包含層、ローム粒、灰白色粒を含む、粘性締まりあり | XIII 層  | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | 暗色帯下層 XI層よりやや暗い色調で粘性は同じ        |
| IV 層    | 黒褐色土(10YR3/2)    | III層とIV層の中間層               | XIV 層   | にぶい黄褐色土(10YR5/3) | 暗色帯少量含む                        |
| IV' 層   | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ローム漸移層、IV層より締まり弱           | XV 層    | 明黄褐色土(10YR5/6)   | ローム層 締まりあり、やや粘性あり              |
| V 層     | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ローム漸移層、VIII層のローム土を含む       | XVI 層   | 明黄褐色土(10YR6/6)   | 白色軽石を含む、硬化、やや砂質                |
| V' 層    | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ローム漸移層、V'層よりV層に近い、ローム粒少量   | XVII 層  | 明黄褐色土(10YR6/6)   | XII'層より締まりやや弱                  |
| V'' 層   | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | ローム漸移層、V'層よりV層に近い、ローム粒少量   | XVIII 層 | にぶい黄褐色土(10YR4/3) | にぶい黄褐色軽石を含む、硬化                 |



第3図 基本土層と土層断面観察地点





## 第7節 整理作業の経過

整理事業については、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団において平成24年2月1日～平成24年3月31日、平成25年2月1日～平成25年3月31日、平成26年4月1日～平成27年3月31日の16カ月間で実施した。

発掘調査によって出土した土器や石器などの遺物は、発掘調査終了後に遺物洗滌と遺物注記作業を行った。

土器、石器、金属製品などの遺物については、接合、復元、保存処理などを施した後、報告書に掲載する遺物の選別を行い、遺物実測、トレース図作成、拓影などを作成し、遺物写真撮影及び遺物観察表の作成を行った。間之原遺跡1区の竪穴住居や竪穴状遺構から出土した炭化種実については、発掘調査段階で洗滌と乾燥を行い、整理作業において分類や選別、顕微鏡などによる観察を行ったのち、一部については外部委託によって自然科学分析(炭化種実同定)を実施した。詳細については、第5章第2節を参照されたい。

遺構図については、発掘調査において外部委託による測量で作成した図面を用いて報告書掲載のための編集作

業などを行ったのち、デジタル編集データをもとにレイアウトの作成を行った。発掘調査によって撮影した遺構写真は、報告書掲載のために選別し、遺物写真とともにレイアウトを作成し、デジタル図版を作成した。遺物についても選別したのち、実測を行い、トレース図を作成し、拓本とともにデジタルスキャンによって遺物デジタル図版を作成した。

上記の作業と並行して報告書の本文原稿の執筆や印刷のための校正作業を行い、平成27年3月に報告書刊行に至った。

間之原遺跡及び間之原東遺跡の出土遺物、測量図面、遺構写真などのすべての資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに収納した。

間之原遺跡の遺構番号については、平成22年度は1区と2区を通して遺構ごとにNo. 1から付番し、平成24年度の間之原遺跡3区でも遺構ごとにNo. 1から付番したため、整理作業によって変更し、遺構番号を統一した。第1表の遺構名・遺構番号変更表を参照されたい。なお、外部委託業者から納品された地上測量図面と遺物に注記された番号などの書き換えは行っていない。

第1表 間之原遺跡 遺構名・遺構番号変更一覧表

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
1区25号ピット	1区1号掘立柱建物P1	1区68号ピット	1区4号掘立柱建物P2	1区289号ピット	1区7号掘立柱建物P8
1区24号ピット	1区1号掘立柱建物P2	1区65号ピット	1区4号掘立柱建物P3	1区302号ピット	1区8号掘立柱建物P1
1区22号ピット	1区1号掘立柱建物P3	1区72号ピット	1区4号掘立柱建物P4	1区299号ピット	1区8号掘立柱建物P2
1区30号ピット	1区1号掘立柱建物P5	1区69号ピット	1区4号掘立柱建物P5	1区298号ピット	1区8号掘立柱建物P3
1区8号土坑	1区1号掘立柱建物P6	1区66号ピット	1区4号掘立柱建物P6	1区300号ピット	1区8号掘立柱建物P4
1区7号土坑	1区1号掘立柱建物P7	1区73号ピット	1区4号掘立柱建物P7	1区301号ピット	1区8号掘立柱建物P5
1区28号ピット	1区1号掘立柱建物P8	1区70号ピット	1区4号掘立柱建物P8	1区297号ピット	1区8号掘立柱建物P6
1区29号ピット	1区1号掘立柱建物P9	1区67号ピット	1区4号掘立柱建物P9	1区347号ピット	1区9号掘立柱建物P1
1区26号ピット	1区1号掘立柱建物P11	1区263号ピット	1区5号掘立柱建物P1	1区345号ピット	1区9号掘立柱建物P2
1区27号ピット	1区1号掘立柱建物P12	1区261号ピット	1区5号掘立柱建物P2	1区344号ピット	1区9号掘立柱建物P3
1区36号ピット	1区2号掘立柱建物P1	1区259号ピット	1区5号掘立柱建物P3	1区348号ピット	1区9号掘立柱建物P4
1区35号ピット	1区2号掘立柱建物P2	1区268号ピット	1区5号掘立柱建物P4	1区346号ピット	1区9号掘立柱建物P5
1区34号ピット	1区2号掘立柱建物P3	1区260号ピット	1区5号掘立柱建物P5	1区343号ピット	1区9号掘立柱建物P6
1区33号ピット	1区2号掘立柱建物P4	1区303号ピット	1区5号掘立柱建物P6	1区366号ピット	1区10号掘立柱建物P1
1区32号ピット	1区2号掘立柱建物P5	1区265号ピット	1区5号掘立柱建物P7	1区23号土坑	1区10号掘立柱建物P2
1区31号ピット	1区2号掘立柱建物P6	1区281号ピット	1区5号掘立柱建物P8	1区365号ピット	1区10号掘立柱建物P3
1区45号ピット	1区3号掘立柱建物P1	1区287号ピット	1区6号掘立柱建物P1	1区31号土坑	1区10号掘立柱建物P4
1区44号ピット	1区3号掘立柱建物P2	1区286号ピット	1区6号掘立柱建物P2	1区277号ピット	1区10号掘立柱建物P5
1区43号ピット	1区3号掘立柱建物P3	1区285号ピット	1区6号掘立柱建物P3	1区28号土坑	1区10号掘立柱建物P6
1区42号ピット	1区3号掘立柱建物P4	1区294号ピット	1区7号掘立柱建物P1	1区22号土坑	1区10号掘立柱建物P7
1区41号ピット	1区3号掘立柱建物P5	1区296号ピット	1区7号掘立柱建物P2	1区367号ピット	1区10号掘立柱建物P8
1区40号ピット	1区3号掘立柱建物P6	1区291号ピット	1区7号掘立柱建物P3	1区446号ピット	1区11号掘立柱建物P1
1区39号ピット	1区3号掘立柱建物P7	1区293号ピット	1区7号掘立柱建物P4	1区384号ピット	1区11号掘立柱建物P2
1区38号ピット	1区3号掘立柱建物P8	1区290号ピット	1区7号掘立柱建物P5	1区388号ピット	1区11号掘立柱建物P3
1区37号ピット	1区3号掘立柱建物P9	1区292号ピット	1区7号掘立柱建物P6	1区449号ピット	1区11号掘立柱建物P4
1区71号ピット	1区4号掘立柱建物P1	1区295号ピット	1区7号掘立柱建物P7	1区451号ピット	1区11号掘立柱建物P5

第1章 調査に至る経緯と経過

変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
1区394号ピット	1区11号掘立柱建物P6	1区195号ピット	1区6号柵P1	3区9号竪穴住居	3区79号竪穴住居
1区390号ピット	1区11号掘立柱建物P7	1区194号ピット	1区6号柵P2	3区10号竪穴住居	3区80号竪穴住居
1区447号ピット	1区12号掘立柱建物P1	1区193号ピット	1区6号柵P3	3区11号竪穴住居	3区81号竪穴住居
1区388号ピット	1区12号掘立柱建物P2	1区192号ピット	1区6号柵P4	3区12号竪穴住居	3区82号竪穴住居
1区448号ピット	1区12号掘立柱建物P3	1区198号ピット	1区6号柵P5	3区13号竪穴住居	3区83号竪穴住居
1区451号ピット	1区12号掘立柱建物P4	1区170号ピット	1区7号柵P1	3区14号竪穴住居	3区84号竪穴住居
1区450号ピット	1区12号掘立柱建物P5	1区82号ピット	1区7号柵P2	3区15号竪穴住居	3区85号竪穴住居
1区389号ピット	1区12号掘立柱建物P6	1区81号ピット	1区7号柵P3	3区16号竪穴住居	3区86号竪穴住居
1区399号ピット	1区13号掘立柱建物P1	1区80号ピット	1区7号柵P4	3区17号竪穴住居	3区87号竪穴住居
1区380号ピット	1区13号掘立柱建物P2	1区354号ピット	1区8号柵P1	3区1号竪穴状遺構	3区5号竪穴状遺構
1区376号ピット	1区13号掘立柱建物P3	1区393号ピット	1区8号柵P2	3区1号土坑	3区60号土坑
1区368号ピット	1区13号掘立柱建物P4	1区355号ピット	1区8号柵P3	3区2号土坑	3区61号土坑
1区402号ピット	1区13号掘立柱建物P5	1区356号ピット	1区8号柵P4	3区3号土坑	3区62号土坑
1区369号ピット	1区13号掘立柱建物P6	1区391号ピット	1区8号柵P5	3区4号土坑	3区63号土坑
1区375号ピット	1区13号掘立柱建物P7	1区392号ピット	1区8号柵P6	3区1号ピット	3区614号ピット
1区385号ピット	1区14号掘立柱建物P1	1区9号柵	欠番	3区2号ピット	3区615号ピット
1区397号ピット	1区14号掘立柱建物P2	1区565号ピット	1区10号柵P1	3区3号ピット	3区616号ピット
1区396号ピット	1区14号掘立柱建物P3	1区571号ピット	1区10号柵P2	3区4号ピット	3区617号ピット
1区395号ピット	1区14号掘立柱建物P4	1区572号ピット	1区10号柵P3	3区5号ピット	3区618号ピット
1区419号ピット	1区15号掘立柱建物P1	1区573号ピット	1区10号柵P4	3区6号ピット	3区619号ピット
1区420号ピット	1区15号掘立柱建物P2	1区16号竪穴住居P6-2	1区16号竪穴住居P23	3区7号ピット	3区620号ピット
1区421号ピット	1区15号掘立柱建物P3	1区3号井戸	1区646号ピット	3区8号ピット	3区621号ピット
1区422号ピット	1区15号掘立柱建物P4	1区4号井戸	欠番	3区9号ピット	3区622号ピット
1区423号ピット	1区15号掘立柱建物P5	1区46号土坑	欠番	3区10号ピット	3区623号ピット
1区424号ピット	1区15号掘立柱建物P6	1区落ち込み1	欠番	3区11号ピット	3区624号ピット
1区425号ピット	1区15号掘立柱建物P7	1区落ち込み2	欠番	3区12号ピット	3区625号ピット
1区426号ピット	1区15号掘立柱建物P8	1区落ち込み3	欠番	3区13号ピット	3区626号ピット
1区427号ピット	1区15号掘立柱建物P9	1区落ち込み4	欠番	3区14号ピット	3区627号ピット
1区515号ピット	1区36号竪穴住居P3	1区落ち込み5	欠番	3区15号ピット	3区628号ピット
1区524号ピット	1区16号掘立柱建物P7	1区落ち込み6	1区647号ピット	3区16号ピット	83号竪穴住居P1
1区523号ピット	1区16号掘立柱建物P8	1区落ち込み7	1区648号ピット	3区17号ピット	3区629号ピット
1区561号ピット	1区17号掘立柱建物P1	1区落ち込み8	1区649号ピット	3区18号ピット	3区630号ピット
1区569号ピット	1区17号掘立柱建物P2	1区落ち込み9	1区650号ピット	3区19号ピット	3区631号ピット
1区574号ピット	1区17号掘立柱建物P3	1区落ち込み10	1区651号ピット	3区20号ピット	3区632号ピット
1区551号ピット	1区17号掘立柱建物P4	1区落ち込み11	1区652号ピット	3区21号ピット	3区633号ピット
1区549号ピット	1区17号掘立柱建物P5	1区落ち込み12	1区653号ピット	3区22号ピット	3区634号ピット
1区553号ピット	1区17号掘立柱建物P6	1区落ち込み13	1区654号ピット	3区23号ピット	3区635号ピット
1区556号ピット	1区17号掘立柱建物P7	1区落ち込み14	1区655号ピット	3区24号ピット	3区636号ピット
1区559号ピット	1区17号掘立柱建物P8	1区落ち込み15	1区656号ピット	3区25号ピット	3区637号ピット
1区1号柵	欠番	1区落ち込み16	1区657号ピット	3区26号ピット	3区638号ピット
1区181号ピット	1区3号柵P1	1区落ち込み17	1区658号ピット	3区27号ピット	3区639号ピット
1区180号ピット	1区3号柵P2	1区落ち込み18	1区659号ピット	3区28号ピット	3区640号ピット
1区179号ピット	1区3号柵P3	1区落ち込み19	欠番	3区29号ピット	3区641号ピット
1区91号ピット	1区3号柵P4	1区落ち込み20	1区3号竪穴状遺構	3区30号ピット	3区642号ピット
1区178号ピット	1区3号柵P5	1区落ち込み21	1区4号竪穴状遺構	3区31号ピット	3区643号ピット
1区177号ピット	1区3号柵P6	1区落ち込み22	1区64号土坑	3区32号ピット	1区36号竪穴住居P4
1区176号ピット	1区3号柵P7	1区落ち込み23	1区6号竪穴状遺構	3区33号ピット	3区644号ピット
1区175号ピット	1区3号柵P8	3区1号竪穴住居	3区71号竪穴住居	3区34号ピット	3区645号ピット
1区188号ピット	1区4号柵P1	3区2号竪穴住居	3区72号竪穴住居		
1区187号ピット	1区4号柵P2	3区3号竪穴住居	3区73号竪穴住居		
1区186号ピット	1区4号柵P3	3区4号竪穴住居	3区74号竪穴住居		
1区185号ピット	1区5号柵P1	3区5号竪穴住居	3区75号竪穴住居		
1区184号ピット	1区5号柵P2	3区6号竪穴住居	3区76号竪穴住居		
1区183号ピット	1区5号柵P3	3区7号竪穴住居	3区77号竪穴住居		
1区182号ピット	1区5号柵P4	3区8号竪穴住居	3区78号竪穴住居		



## 第2章 地理的及び歴史的環境

### 第1節 遺跡の位置と周辺の地形

間之原遺跡は、群馬県太田市龍舞町から邑楽郡大泉町北小泉、城之内地内まで広範囲に及び、間之原東遺跡は、群馬県大泉町北小泉地内に所在する。

関東地方の北西部となる群馬県において、太田市及び邑楽郡大泉町は県東部に位置する。太田市は、群馬県内において大泉町をはじめ伊勢崎市、みどり市、桐生市、市東部を流れる渡良瀬川を挟んで栃木県足利市、市南部を流れる利根川を挟み埼玉県熊谷市や深谷市など合わせて6市1町と隣接し、大泉町は、太田市、邑楽町、千代田町、町南部を流れる利根川を挟み埼玉県熊谷市の2市2町の自治体と隣接している。太田市は、明治時代以降から周辺の町村との編入や合併を行って現在に至っているが、近年では平成17年(2005)3月28日に太田市、新田郡新田町、尾島町、藪塚本町の1市3町との合併が行われた。太田市と隣接する大泉町についても明治時代以降から周辺町村の合併によって現在に至っている。

平成22年度及び平成24年度に発掘調査を行った間之原遺跡と間之原東遺跡は、東武鉄道小泉線竜舞駅より南東約1.1km、東小駅から北西約1kmに位置する。遺跡は、南北に走行する県道38号足利千代田線に接し、国道122号太田バイパスは約1.2km北で、国道354号は約1.5km南で合流する。平成23年3月には、北関東自動車道が全面開通し、平成26年8月には東毛広域幹線道路が全線開通となるなど、遺跡周辺では主要な道路が東西及び南北を走行し、主要交通網が発展する地域である。周辺地域では、道路整備と併せて区画整理事業などが行われ、主に畑地や水田など耕作地であった場所が、現在は住宅街となり、わずか数十年の間に景観が大きく変容した地域でもある。

太田市周辺の地形については、大別すると丘陵地、台地、低地などに区分できる。丘陵地は、太田市北東部の桐生市との境界に位置し標高200mを超える山々などが連なる八王子丘陵と、かつては一連であったと考えられ、南側に位置する金山丘陵とがある。二つの丘陵西側に大

きく広がるのが大間々扇状地であり、太田市はこの東縁にあたる。渡良瀬川は現在、群馬県の東部、栃木県との県境に流路を変えて南流しているが、大間々扇状地は、第四紀洪積世後期に旧渡良瀬川によって形成された地形とされる。群馬県みどり市大間々町を扇頂とし、桐生市、太田市、伊勢崎市にかけて広がる、南北約18km、東西幅約13km、標高約50～60mを扇端とする関東地方でも大規模な扇状地の一つである。大間々扇状地は、新旧五つの段丘面から成り立つとされ、主要な面は、西半部に位置し古期に形成された桐原面と東半部に位置する新期の藪塚面である。渡良瀬川によって洪積台地が侵食され桐原面を形成したのち藪塚面が形成され、残された洪積台地が木崎台地や由良台地となった。

八王子丘陵や金山丘陵の東側は、渡良瀬川によって形成された渡良瀬川扇状地の他、葦川台地がある。太田市の南部にかけて低地や台地からなる平野が広がり、渡良瀬川や利根川によって形成された沖積低地や洪積台地が分布している。

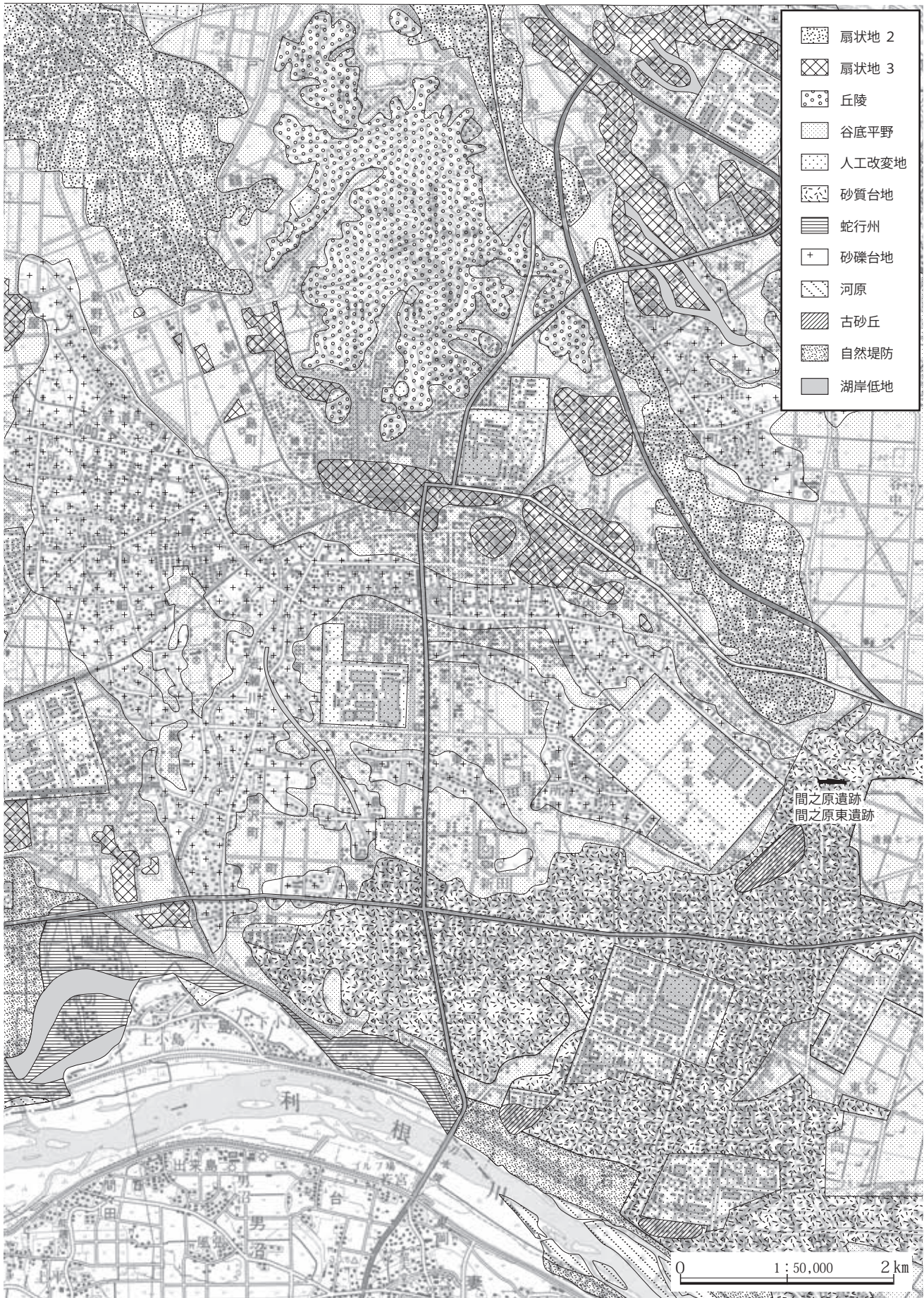
大泉町の地形については、大半を洪積台地が占めており、更新世の形成とされている古砂丘地形が町内に分布している。これらの台地の周辺には、水田地帯となる沖積低地が広がるとともに、大泉町南部を流れる利根川沿いには後背湿地や自然堤防等を形成している。間之原遺跡と間之原東遺跡は、板倉町から大泉町を経て太田市高林まで広がる邑楽台地とよばれる洪積台地に立地する。

台地上には砂層からなる小丘上の地形が各所にみられ、自然堤防を形成したとされる。間之原遺跡及び間之原東遺跡の周辺の地形については、台地上の概ね平坦面となっているが、緩やかな起伏が各所に認められる。標高は、約35mである。

#### 参考文献

- 群馬県 1990『群馬県史』通史編1
- 群馬県 1991『群馬県土地分類基本調査』深谷
- 太田市 1996『太田市史』通史編・自然
- 太田市 1996『太田市史』通史編・原始古代
- 太田市 1996『太田市史』通史編・中世
- 太田市 1996『太田市史』通史編・近世
- 太田市 1996『太田市史』通史編・近現代
- 大泉町 1978『大泉町史上巻』自然編・文化編
- 大泉町 1978『大泉町史下巻』歴史編





第4図 間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺の地形区分図(地形分類は群馬県『土地分類基本調査・深谷』1991年発行使用による。国土地理院1:50,000地形図「深谷」平成10年9月1日発行使用)



## 第2節 遺跡の歴史的環境

### 1 間之原遺跡と間之原東遺跡の調査の経過

間之原遺跡と間之原東遺跡は、前述のとおり太田市から邑楽郡大泉町にかけて広範囲に分布する(第5・6図)。太田市教育委員会や大泉町教育委員会、当事業団が発掘調査を継続的に実施し、複数の発掘調査報告書を刊行している。これまでの発掘調査の経過は、以下のとおりである。

昭和54(1979)年に東部第二土地区画整理事業に伴い太田市内ヶ島川向、同龍舞中西田地区等の大塚・間之原遺跡第1次調査(第5図・第2表1)が太田市教育委員会によって開始され、縄文時代前期の竪穴住居1軒を確認し台地縁辺部における弧状の集落の形成が指摘された。古墳時代～平安時代では、竪穴住居29軒の調査を行い、集落の営みが明らかとなった。また、昭和55(1980)年に太田市龍舞白金、同龍舞大塚、同高原において大塚・間之原遺跡第2次調査(第5図・第2表2)が実施され、縄文時代前期とみられる竪穴住居4軒、古墳時代では4基の古墳が確認され、このうち17号墳からは石室の可能性がある主体部をはじめ円筒埴輪が出土した。平安時代の遺構では竪穴住居1軒、中世の土壙墓や溝状遺構などが調査されている。昭和57(1982)年の太田市内ヶ島川向、同龍舞中西田地区における発掘調査(第5図・第2表3)では、古墳時代中期の竪穴住居4軒、奈良・平安時代の竪穴住居25軒や掘立柱建物3棟が調査されるなど台地小丘部に集落などが形成されていた。また、土壙墓58基の他、井戸は26基のうち12基が小型で、上端径約50cm、深さ約110cmの規模である。本報告書でも小型の井戸に類似するピットが調査されるなど関連が想定される。昭和60年の太田市教育委員会による発掘調査(第5図・第2表4)では、小丘陵南傾斜面から古墳時代前期の竪穴住居1軒を調査している。

群馬県立大泉高等学校総合農場周辺において実施された昭和55年度～昭和60年度の間之原遺跡調査会による調査(第Ⅱ～Ⅳ次)(第5図・第2表5)によって、縄文時代から近世に至る遺構が調査され、複合遺跡の様相となった。縄文時代前期の竪穴住居27軒は馬蹄形集落を形成し、

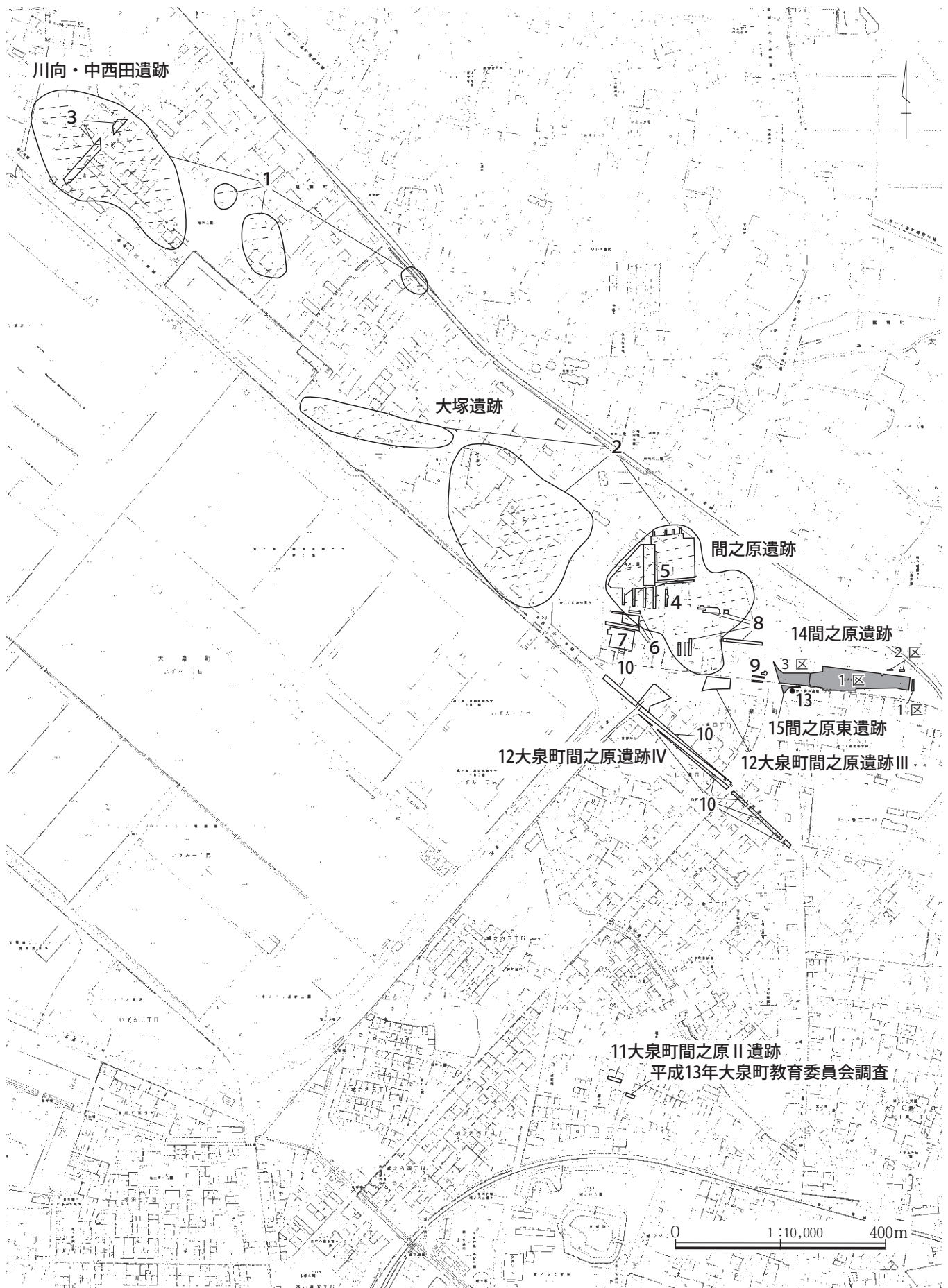
縄文時代中期の竪穴住居も11軒確認され、直径400m規模の大集落となることが明らかとなった。さらに、古墳時代の竪穴住居13軒、古墳2基、平安時代の竪穴住居10軒などを調査している。

昭和61年に太田市教育委員会によって実施された縄文時代中期の竪穴住居の集落構成(第Ⅳ次)の確認調査および宅地造成のための発掘調査(第Ⅴ・Ⅵ次)(第5図・第2表6)では、縄文時代中期の竪穴住居1軒、土坑、古墳時代溝1条、平安時代溝1条などを調査した。

昭和62年の太田市教育委員会による第Ⅶ次調査(第5図・第2表7)は、縄文時代中期の竪穴住居の集落(第Ⅳ次)の南側の調査区において縄文時代中期の竪穴住居14軒、後期の竪穴住居1軒が初めて確認された。さらに古墳時代前期の方形周溝墓3基が発見され、谷地を挟み生活域と墓域が分かれることが確認された。

平成元年の太田市教育委員会による第Ⅷ次調査(第5図・第2表8)は、縄文時代中期の竪穴住居の集落(第Ⅳ次調査)を調査した南側の調査区において縄文時代中期の竪穴住居や古墳時代の竪穴住居などが調査されている。平成3年の第Ⅸ次調査(第5図・第2表9)では、古墳時代後期の竪穴住居1軒が調査された。縄文時代から古墳時代前期には、標高36mより高い微傾斜地に集落が営まれ、古墳時代後期になると標高36m以下の平坦部に集落を構成し、墓域を微傾斜地の台地とするなど、各時代における集落などの分布状況に特徴が認められる。

大泉町教育委員会による間之原遺跡の発掘調査は、昭和62～63年に道路拡幅工事に伴い実施された。太田市教育委員会が継続的に間之原遺跡の発掘調査を行っていたため、群馬県教育委員会との協議によって大泉町間之原遺跡(第5図・第2表10)と呼称した。発掘調査によって縄文時代竪穴住居9軒、古墳時代の竪穴住居9軒や低墳丘墓の可能性もある円形周溝などが確認されている。昭和63年には北小泉1丁目にて共同住宅建設に伴い発掘調査が行われ、古墳時代の竪穴住居1軒を検出している。大泉町間之原Ⅱ遺跡(第5図・第2表11)の発掘調査は、分譲住宅建設に伴い平成5年に実施された。発掘調査によって上端幅約2.6mの溝1条が確認され、平成13年に大泉町間之原Ⅱ遺跡の隣接地において上端幅約3.5m、深さ約1.2mの溝1条が確認されたことから、間之原遺跡南部に所在する延徳元(1489)年築城の小泉城(第6図



第5図 間之原遺跡・間之原東遺跡の調査範囲(この地図の作成にあたっては、太田市長・大泉町長の下承を得て、同市・同町発行の2,500分の1の地形図を使用し複製したものである。)

第2表 間之原遺跡・間之原東遺跡 調査経過一覧表

番号	遺跡名	調査場所	調査主体	調査年月	概要	参考文献
1	川向・中西田遺跡	太田市大字内ヶ島川向・大字龍舞中西田・大字龍舞下西田甲・大字龍舞田畑・大字龍舞御霊	太田市教育委員会	1979.12.2～1980.3.31	縄文時代前期住居1軒、古墳時代～平安時代住居29軒、中世土坑墓、井戸状遺構、溝状遺構、堀状遺構、鎌倉期和鏡が出土。	太田市教育委員会 1980『大塚・間之原遺跡の概要』-第1次調査(川向・中西田地区)-
2	大塚遺跡・間之原遺跡	太田市大字龍舞字白金・大字龍舞字大塚・大字龍舞田字高原	太田市教育委員会	1980.6.1～1981.3.31	縄文時代前期住居4軒、古墳4基、平安時代住居1軒、中世土坑墓、土坑、溝状遺構などを調査した。	太田市教育委員会 1981『大塚・間之原遺跡確認調査の概要』-第2次調査(白金・榎戸・大塚・高原地区)-
3	川向・中西田遺跡	太田市内ヶ島字川向・大字龍舞字中西田	太田市教育委員会	1982.11.22～1983.3.25	古墳時代中期住居4軒、平安時代住居25軒、掘立柱建物3棟、土坑墓58基、溝2条、井戸26基等を調査した。	太田市教育委員会 1982『大塚・間之原遺跡』-川向・中西田地区(第2次)-
4	間之原遺跡	太田市大字龍舞字高原	太田市教育委員会	1985.2.26～1985.3.30	古墳時代前期住居1軒を調査した。	太田市教育委員会 1985『市内遺跡Ⅱ』舞台D遺跡 成塚稲荷神社古墳 間之原遺跡
5	間之原遺跡(Ⅱ～Ⅳ次)	太田市大字龍舞字高原	間之原遺跡調査会	昭和55年度～昭和60年度	縄文時代前期住居27軒、中期11軒、古墳時代住居13軒、平安時代住居10軒、古墳2基などを調査した。	太田市 1996『太田市史』通史編・原始古代、太田市教育委員会『市内遺跡Ⅲ』目塚1号墳 寄合遺跡 宮西遺跡 間之原遺跡(V・Ⅵ次)
6	間之原遺跡(V・Ⅵ次)	太田市大字龍舞字高原	太田市教育委員会	1986.5.22～1987.3.25	縄文時代中期竪穴住居1軒、古墳時代溝1条、平安時代溝1条などを調査した。	太田市教育委員会 1987『市内遺跡Ⅲ』目塚1号墳 寄合遺跡 宮西遺跡 間之原遺跡(V・Ⅵ次)
7	間之原遺跡(Ⅶ次)	太田市大字龍舞字高原	太田市教育委員会	1987.8.20～1987.10.22	縄文時代中期住居14軒、後期1軒、古墳時代前期方形周溝墓3基などを調査した。	太田市教育委員会 1988『市内遺跡Ⅳ』間之原遺跡(Ⅶ次) 中西田遺跡(Ⅱ次)
8	間之原遺跡(Ⅷ次)	太田市大字龍舞字高原	太田市教育委員会	1989.9.25～1990.3.31	縄文時代竪穴住居2軒、古墳時代前期～後期竪穴住居4軒、方形周溝墓1基、平安時代土坑、中世土坑墓などを調査した。	太田市教育委員会 1990『市内遺跡Ⅵ』間之原遺跡(Ⅷ次)
9	間之原遺跡(Ⅸ次)	太田市大字龍舞字高原	太田市教育委員会	1991.9.9～1991.9.26	古墳時代後期竪穴住居1軒を調査した。	太田市教育委員会 1992『市内遺跡Ⅷ』間之原遺跡(Ⅸ次) 寄合遺跡(Ⅲ次)
10	大泉町間之原遺跡	邑楽郡大泉町上小泉字間之原	大泉町教育委員会	1987.1.10～1987.3.30 1987.4.6～1987.5.26	縄文時代竪穴住居9軒、古墳時代竪穴住居9軒、円形周溝2条などを調査した。	大泉町教育委員会 1988『大泉町間之原遺跡』
11	大泉町間之原Ⅱ遺跡	邑楽郡大泉町城之内三丁目	大泉町教育委員会	1993.2.25・26	中世溝状遺構1条を調査した。	大泉町教育委員会 2004『大泉町間之原Ⅱ遺跡』
12	大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ	邑楽郡大泉町北小泉四丁目	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2006.4.1～2006.5.31 (大泉町間之原遺跡Ⅲ) 2007.4.2～2007.5.31、 2007.10.1～2007.10.31 (大泉町間之原遺跡Ⅳ)	旧石器時代石器、縄文時代中期住居9軒、古墳時代前期住居5軒、掘立柱建物1棟、古墳1基、近世溝1条などを調査した。	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
13	間之原東遺跡	邑楽郡大泉町北小泉	大泉町教育委員会	2011.4.12	古代住居1軒を調査した。	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012『年報31』
14・15	間之原遺跡・間之原東遺跡	太田市龍舞町・邑楽郡大泉町北小泉二丁目	(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2010.4.1～2010.7.31、 2012.4.1～2012.6.30 (間之原遺跡) 2012.4.1～2012.6.30 (間之原東遺跡)	古墳時代竪穴住居45軒、平安時代竪穴住居30軒、竪穴状遺構3基、掘立柱建物17棟、井戸、土坑、ピット、溝などを調査、刻書紀年銘紡輪「天長七年」が出土。	本報告書(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011『年報30』 (公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『年報32』

67)との関連が想定される。平成10年には、城之内四丁目において古墳時代の竪穴住居1軒(群埋文年報18)、平成17年には縄文時代中期の竪穴住居や土坑などが調査されている(群埋文年報25)。平成18・19年には、東毛幹線(大泉工区)街路事業に伴い大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ(第5図・第2表12)の発掘調査が当事業団によって実施さ

れた。このうちⅢ区では、旧石器時代の剥片54点が発見されたことから、石器製作跡と考えられる。また、縄文時代中期の竪穴住居9軒、古墳時代前期住居5軒と掘立柱建物1棟が調査された、古墳1基から円筒埴輪や朝顔形埴輪の他、周溝内からは牛の頭骨の一部が出土した。

間之原東遺跡は、大泉町に所在し、平成23年に大泉町



## 第2章 地理的及び歴史的環境

教育委員会によって本報告書の間之原東遺跡1区東隣に所在する大泉町北小泉地内の地藏堂などの移転に伴う発掘調査によって古代の住居1軒が確認された(第5図・第2表13)。

これまでの発掘調査の経過及び発掘場所については、第5図及び第2表を参照されたい。なお、第5図の番号と第2表の番号は一致する。これまでに大塚・間之原遺跡として発掘調査を行い、同名にて報告書が刊行されていることから周辺の遺跡として掲載したが、遺跡名は川向・中西田遺跡と大塚遺跡である。

### 2 周辺の遺跡

間之原遺跡と間之原東遺跡の所在する太田市及び大泉町は、遺跡の発掘調査を継続的に実施し、重要な遺構や遺物などが発見されている。間之原遺跡と間之原東遺跡の周辺遺跡についても発掘調査報告書などが多数刊行されている。前述のとおり、間之原遺跡と間之原東遺跡は、これまで継続的に発掘調査が行われてきた。縄文時代から奈良・平安時代に至る集落や古墳などが調査されていることから関連する遺構や遺物の発見が期待された。ここでは、間之原遺跡と間之原東遺跡が所在する群馬県太田市龍舞町を中心に、太田市内や大泉町の周辺地域における主な遺跡の概略を時代別に記す。なお、第6図と第3表の周辺遺跡の番号は一致する。

#### 旧石器時代

太田市では、八王子丘陵及び金山丘陵の周辺部において旧石器時代の遺跡が知られている。小丸山遺跡(第6図・第3表120)、金井口埴輪窯跡(第6図・第3表112)、焼山遺跡(第6図・第3表107)、細田遺跡(第6図・第3表108)から有舌尖頭器、ナイフ形石器、槍先形尖頭器などが出土している。平野部では東別所遺跡(第6図・第3表68)から槍先形尖頭器、石神遺跡(第6図・第3表6)では黒曜石の剥片が出土している。市内では木崎台地南西端においても遺跡の分布がみられる。

大泉町では、邑楽台地において遺物の出土が認められる。大泉町間之原遺跡(第6図・第3表2)の発掘調査でも剥片の出土が集中し、石器製作跡が確認されている。また、吉田遺跡(第6図・第3表53)や仙石道祖遺跡(第6図・第3表51)から剥片、仙石専光寺付近遺跡(第6図・

第3表52)から石核、御正作遺跡(第6図・第3表62)から槍先形尖頭器や搔器、彫器などが多数発見され、旧砂丘地形が発達した地域を中心に旧石器時代の遺跡が分布している。

#### 縄文時代

太田市では、草創期から晩期に至る遺跡が数多く調査され、特に八王子丘陵及び金山丘陵の周辺地域を中心に遺跡が広く分布する。成塚住宅団地遺跡群(第6図・第3表123)で、草創期の柳葉形尖頭器、御霊遺跡(第6図・第3表11)で爪形文土器が出土している。早期では、雷遺跡(第6図・第3表21)の条痕文系土器、焼山遺跡や御正作遺跡において撚糸文土器が出土し、早期後半には、台地周辺地域において集落が営まれていたと考えられる。前期になると金山丘陵周辺から南東部に位置する邑楽台地にかけて集落が形成されるようになり、間之原遺跡においても大規模な集落が形成されていた。下小林上遺跡(第6図・第3表23)では関山期の竪穴住居、小町田遺跡(第6図・第3表9)や賀茂遺跡(第6図・第3表26)においても黒浜期の竪穴住居が確認されている。中期には、間之原遺跡からも集落が確認され、小町田遺跡からは五領ヶ台式土器や勝坂式土器が出土した他、阿玉台式期や加曾利EⅡ・Ⅲ式期の竪穴住居が、成塚住宅団地遺跡群で中期後半の竪穴住居が14軒調査された。後期では、小町田遺跡や上遺跡で称名寺式期の竪穴住居などの遺構が調査されている。大泉町では、専光寺付近遺跡において草創期から後期の遺物が出土している。晩期になると遺跡は少なく、間之原遺跡において遺物が発見され、県立大泉高等学校旧農業実習地西部の台地縁辺部から低湿地周辺地域にかけて竪穴住居などが想定される。

#### 弥生時代

周辺地域において弥生時代の遺構や遺物の検出は少ない。太田市の金山丘陵南東の低湿地に位置する焼山遺跡からは中期から後期の赤井戸式土器など、大泉町の仙石道祖遺跡からは須和田式土器が出土している。葦川左岸の埋没台地に立地する磯之宮遺跡(第6図・第3表109)では中期の住居1軒が調査されている。大間々扇状地の台地上にある成塚石橋遺跡では後期樽式土器が出土し竪穴住居7軒が検出された。

### 古墳時代

古墳時代になると東毛地域では、各地で集落が営まれ、数多くの古墳が築かれるようになる。前期は、丘陵部などの土地を利用した古墳が築造されている。太田市の金山丘陵西部に築かれた八幡山古墳(第6図・第3表110)は、墳丘84mの前方後円墳であり、寺山古墳(第6図・第3表122)は墳丘55mの前方後円墳で金山丘陵北西に所在する。金山丘陵南東部の沖積平野においても矢場薬師塚古墳(第6図・第3表17)をはじめ、栃木県足利市の藤本観音山古墳(第6図・第3表16)など大型の古墳が出現する。成塚向山古墳群(図外)では、4世紀に築造された方墳が調査され、成塚住宅団地遺跡群から8基、細田遺跡では7基の方形周溝墓がそれぞれ確認されている。

古墳の築造とともに前期の集落については、清水田遺跡(第6図・第3表18)など台地部に形成されているが、石田川遺跡(第6図・第3表101)をはじめとして太田市南部地域に広がる沖積低地の開拓が進められていたと考えられる。石田川遺跡との関連が想定される朝子塚古墳(第6図・第3表80)は、4世紀末から5世紀初頭の築造である。大泉町では、横町遺跡(第6図・第3表60)や沖積低地に囲まれた微高地上に位置する御正作遺跡で集落が形成されるとともに、周溝墓などが造られていた。

中期になると、巨大な古墳が造られるようになる。東日本最大規模を誇る、墳丘210mの天神山古墳(第6図・第3表35)が金山丘陵南部に築かれ、この古墳に埋葬された首長は、大和政権と深いつながりを持っていたと考えられている。天神山古墳の東側に隣接し、ほぼ同時期に造られたとみられる女体山古墳(第6図・第3表36)は、墳丘106mの規模となる帆立貝形古墳である。金山丘陵西部に築造された鶴山古墳(図外)からは、甲冑などの副葬品が発見された。集落は、人口の増加とともに沖積低地周辺の台地や微高地に展開するようになり、旧太田工業高校北裏遺跡(第6図・第3表34)などにおいても竪穴住居が確認されている。

後期になると八王子丘陵や金山丘陵周辺の台地上をはじめ大間々扇状地末端部の台地などにも古墳が分布するようになる。金山丘陵の北西地域では、二ツ山古墳1・2号(図外)などの前方後円墳が築かれ、太田市南部の高林台地周辺部では大規模な古墳群が存在する。帆立貝形

古墳や円墳などが調査された高林西原古墳群(第6図・第3表83)をはじめとして高林鶴巻古墳群(第6図・第3表82)、高林不動古墳群(第6図・第3表84)、東矢島古墳群(第6図・第3表88)、西矢島古墳群(第6図・第3表75)などが挙げられ、富沢古墳群(第6図・第3表91)は、前期から後期にかけて築造された古墳群である。太田市東部地域では、沖積地の台地上に古墳が形成され多数の埴輪を出土した塚廻り古墳群(第6図・第3表14)、塚井古墳群(第6図・第3表15)、大日山古墳群(第6図・第3表20)、貧乏塚古墳群(第6図・第3表124)など群集墳が各地で発達するようになる。終末期には、辺約36.5mの方墳である巖穴山古墳(第6図・第3表125)や菅ノ沢古墳群(第6図・第3表113)などが築造された。また、後期には八王子丘陵や金山丘陵周辺において須恵器や埴輪の生産も始まるようになる。八王子丘陵南東斜面に造られた駒形神社埴輪窯跡(図外)や金井口埴輪窯跡(図外)などが埴輪の生産拠点となっている。

後期の集落については、沖積地から大間々扇状地末端の台地や八王子・金山丘陵、高林台地など広く分布する。舞台A・D遺跡(第6図・第3表102)では大集落が確認され、小町田遺跡では古墳時代後期を中心とし平安時代まで継続的に集落が営まれた。間之原遺跡や間之原東遺跡で調査された竪穴住居も後期を主体としていている。

大泉町では、利根川左岸に所在する松塚古墳群B(第6図・第3表58)において中期から後期の古墳群が形成された。全長44mの帆立貝形古墳の古海天神山古墳(第6図・第3表54)や古海地内10番古墳(第6図・第3表56)、同向式画文帯神獸鏡などが出土し中期から後期に造られた古海原前1号古墳(第6図・第3表55)などがある。吉田遺跡や仙石道祖遺跡などでも集落が調査され、専光寺付近遺跡の周辺では大集落が形成されていたと考えられる。

### 奈良・平安時代

古代の上野国における太田市域は、重要な遺跡が集中する。太田市西部に所在する天良七堂遺跡(図外)は、昭和30年の調査によって礎石建物などが見つかり新田郡衙を推定していたが、平成19年太田市教育委員会によって大規模な掘立柱建物や礎石建物などが発見され、新田郡

## 第2章 地理的及び歴史的環境

片跡であることを確認した。郡片跡は約90m四方と全国最大の規模である。平成20年に国指定史跡となり確認調査が継続的に行われている。

間之原遺跡と間之原東遺跡は、古代では邑楽郡に属していたと想定される。邑楽郡衙は遺跡地の南西4kmほどに「古氷」地名が残ることから、この付近に想定される。しかし、確証を得るような遺構・遺物はみつかっていない。「和名類聚抄」によると邑楽郡には池田、疋太、八田、長柄の4郷が設置されていた。その比定地は現存する字名からの推定がおこなわれているが、確証を得るには至っていない。

奈良・平安時代の集落は、古墳時代から継続的に営まれ、台地上や微高地などに立地する加茂遺跡、小町田遺跡、清水田遺跡、成塚住宅団地遺跡群などは、周辺の沖積低地を開発することによって大規模な集落となった。間之原遺跡や間之原東遺跡に隣接する神明遺跡(第6図・第3表10)や龍舞落打遺跡(第6図・第3表8)では小規模な集落が確認されている。大泉町では仙石専光寺付近遺跡や仙石道祖遺跡など大規模集落が存在する一方で、坂田遺跡(第6図・第3表44)、毘沙門遺跡(第6図・第3表46)、西原遺跡(第6図・第3表47)などの比較的小規模な集落が各地域に点在していたようである。生産域については、太田市南部地域の飯塚条里制水田跡(第6図・第3表104)をはじめとして富沢町、新井町東矢島町など広範囲に条里制水田想定地(第6図・第3表105)が確認されている。金山丘陵北東麓地域の浅間B軽層直下では、古氷条里制水田跡(第6図・第3表118)が調査され、隣接する二の宮遺跡(第6図・第3表119)は、生産域を支える集落であったと考えられている。

八王子丘陵や金山丘陵周辺では、古墳時代後期から須恵器生産が続き、瓦などが生産された萩原窯跡(図外)など窯跡が分布する。鉄の生産についても八王子丘陵では西野原遺跡(図外)や峯山遺跡(第6図・第3表121)、金山丘陵では菅ノ沢I遺跡(第6図・第3表114)、高太郎I遺跡(第6図・第3表115)・II遺跡(第6図・第3表116)・III遺跡(第6図・第3表117)で鉄生産遺構などが調査され、高度な専門技術を持った集団による生産活動が盛んに行われていたと考えられる。

### 中近世

平安時代後期になると各地で私領開発が進み荘園が成立するようになるが、太田市域においても太田市西部を占める新田荘をはじめとして太田市北東部の園田御厨、太田市東部では伊勢神宮御料地として寮米御厨や邑楽郡の邑楽御厨などが形成された。また、太田市東部から邑楽郡にかけて佐貫荘が平安時代末期に成立したとみられる。

中世では、太田市金山一帯の自然地形を利用した典型的な山城である金山城跡(第6図・第3表126)が文明元年(1469)に築城された。葦川左岸には本矢場城が築かれ、環濠集落となる堀中子・保宿館跡(第6図・第3表30)がある。本遺跡の周辺では、龍舞城跡(第6図・第3表27)や下小林館跡(大倉城)(第6図・第3表22)などの城館が築城されるなど、各地に環濠遺構が現存している。周囲が方形環濠遺構となる浄光寺墓石(第6図・第3表29)には、藺田氏の墓所として現在4基の五輪塔が残されている。

大泉町では、延徳元年(1489)に富岡氏により小泉城跡(第6図・第3表67)が築城され、天正18(1590)年の豊臣氏の小田原攻めに伴って没落するまで西邑楽地域に勢力を誇っていた。

### 近現代

大泉町北小泉は、明治から大正時代にかけて窯業が盛んに行われてきた地域であった。江戸時代から続く瓦製造や小泉焼として焙烙鍋などの土器製造が行われ、間之原遺跡や間之原東遺跡の表土掘削によって小泉焼とみられる土器破片が多数出土している。

間之原遺跡の隣接地には、昭和初期に中島飛行機小泉製作所が建設されるとともに東武鉄道の敷設などによって周辺地域が工業化へ発展する礎となった。戦時中は、太田市内の各所に高射砲陣地が置かれ、下小林高射砲陣地跡(第6図・第3表33)が残存する。

戦後は、大規模な工業団地の造成や主要道路など、交通網の整備が行われ、現在も各種工業を中心として発展を遂げる地域である。





第6図 間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺の遺跡 (国土地理院 1:25,000 地勢図「足利南部」・「深谷」平成14年9月1日発行、「妻沼」平成15年6月1日発行、「上野境」平成14年12月1日発行使用)



第2章 地理的及び歴史的環境

第3表 間之原遺跡・間之原東遺跡 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
1	間之原遺跡	○	○	○	○	○	○		本報告書(平成22年度、平成24年度調査)。 昭和54年から継続的に発掘調査が行われ、縄文時代・古墳時代・平安時代の集落、古墳などが調査される。旧石器時代から近世に至る遺構や遺物が出土する複合遺跡。	18・20・21・24・25・26・28・29・51・52・53・85
2	大泉町間之原遺跡	○	○	○	○	○			旧石器時代石器、縄文時代中期住居、古墳時代前期住居や円形周溝、掘立柱建物、古墳、中近世の溝などを調査。	12・17・85・94
3	間之原東遺跡		○		○	○	○		本報告書(平成24年度調査)。 平成23年大泉町教育委員会によって古代住居1軒を調査。	19・20・85
4	大塚遺跡				○	○			縄文時代前期住居、古墳、平安時代住居、中世土壙墓などを調査。	51・52・53
5	川向・中西田遺跡				○	○			縄文時代前期住居、古墳時代～平安時代竪穴住居、掘立柱建物などの遺構を調査、鎌倉期和鏡が出土。	21・26・27・29
6	石神遺跡	○	○		○	○	○		旧石器時代の剥片、縄文時代土坑、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居などを調査。	20
7	龍舞深町遺跡		○		○	○	○		集落跡。	56・127
8	龍舞落打遺跡				○	○			平安時代の竪穴住居や溝などを調査。	83
9	小町田遺跡		○		○	○			縄文時代草創期から平安時代後期に至る遺物が出土し遺構を調査。縄文時代中期から後期、古墳時代後期、平安時代の集落遺跡。	3・5・21・103・106
10	神明遺跡				○	○			平安時代の竪穴住居などを調査。	33・46
11	御霊遺跡		○		○				縄文時代前期の土器片などが出土。	21・127
12	北原遺跡				○				集落跡。	48・127
13	運動公園内遺跡				○				古墳時代前期の集落跡。	21
14	塚廻り古墳群				○				6世紀前半から中頃の群集墳。帆立貝形古墳や円墳などを調査。昭和52年県指定史跡。	1・21・43
15	塚井古墳群				○				6世紀末から7世紀初頭頃に築造された古墳群。	5・21・108
16	藤本観音山古墳				○				古墳時代前期、全長約120mの規模となる前方後方墳。	21・115・116・117・118・119
17	矢場薬師塚古墳				○				古墳時代前期の前方後円墳。	21
18	清水田遺跡				○	○			古墳時代前期から後期と平安時代の集落などを調査	5・21・109
19	清水田Ⅱ遺跡				○	○			奈良・平安時代の竪穴住居100軒以上を調査。	5・21
20	大日山古墳群				○				6世紀初頭に築造された大日山古墳などによる古墳群。	21・108
21	雷遺跡		○						縄文時代早期から後期の土器が出土。	2・21
22	下小林館跡(大倉城)						○		中世城館跡。堀、土塁の一部が残る。	22・111・123
23	下小林上遺跡		○		○				縄文時代前期、古墳時代前期の竪穴住居などを調査。	2・21・44
24	庚塚遺跡						○		溝、井戸、方形竪穴状遺構、掘立柱建物など中世から近世の遺構を調査。	2
25	庚塚屋敷跡						○		中世環濠遺構。	22・34
26	賀茂遺跡		○		○	○			縄文時代前期、古墳時代から奈良・平安時代に至る竪穴住居などの遺構を調査。	4・21・36
27	龍舞城跡						○		中世城館跡。堀と土塁の一部が残存。	22・111・123
28	龍舞館跡						○		牛蒡屋敷と呼ばれる中世城館跡。	22・111・123

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
29	浄光寺墓石						○		菌田氏の墓地があり4基の五輪塔が残る。寺の周囲は長方形環濠遺構となる。	22・50
30	堀中子・保宿館跡						○		中世の環濠集落跡。	22・111
31	大道端環濠遺構						○		東西100m、南北120mの環濠遺構。	22・111
32	下小林車塚古墳				○				6世紀前半築造。横矧板鋌留短甲、馬具などが出土。	21・108
33	下小林高射砲陣地跡							○	昭和19年に設置した高射砲陣地跡地。	23
34	旧太田工業高校北裏遺跡				○				古墳時代中期の集落を調査。	21・37・57・104
35	天神山古墳				○				5世紀前半に築造された東日本最大規模の前方後円墳。埋葬主体部に長持形石棺を採用する。昭和16年国指定史跡。	21・32・45・48・58・59・60・61・105・108・110
36	女体山古墳				○				5世紀中頃に築造された墳丘106mの帆立貝形古墳。天神山古墳に隣接する。	21・105・108
37	目塚遺跡		○						散布地。	21・25・42・127
38	女体山古墳東方遺跡		○		○				縄文時代後期や晩期の遺跡包蔵地。土偶や石器などが出土。	21
39	内ヶ島古墳群				○				6世紀後半から7世紀前半に形成された古墳群。	21・40
40	内ヶ島屋敷跡						○		東西70m、南北60mの中世城館跡。	22・49・111
41	中島遺跡				○	○			散布地。	44・127
42	柳町遺跡		○						縄文土器、土師器や須恵器などの散布地。	85
43	松下遺跡			○		○			弥生時代後期土器片などが出土。土師器や須恵器などの散布地。	85
44	坂田遺跡		○		○	○			奈良から平安時代の竪穴住居、土坑、溝などを調査。	95・99
45	川入遺跡				○	○			土師器や須恵器などの散布地、集落跡。「上毛古墳総攬」大川村二十四号墳などの古墳が複数基確認されている。	85
46	毘沙門遺跡		○		○	○			古墳時代から平安時代の竪穴住居を調査。	85・99・100
47	西原遺跡				○	○			土師器、須恵器などの散布地、集落跡。	85・102
48	宮下遺跡		○		○	○			縄文土器、土師器や須恵器などの散布地。「上毛古墳総攬」大川村二十三号墳。	85
49	和田遺跡		○		○	○			縄文中期土器、弥生後期土器、土師器や須恵器などの散布地、集落跡。「上毛古墳総攬」大川村十七～二十二号墳、現在消滅。	85
50	篠際遺跡				○	○			土師器や須恵器片などの散布地、鉄滓などが出土。	85
51	仙石道祖遺跡	○	○	○	○	○	○	○	旧石器時代剥片が出土。古墳時代から平安時代の竪穴住居や掘立柱建物などを調査。	85・97・98
52	仙石専光寺付近遺跡		○	○	○	○	○		古墳時代から奈良・平安時代の集落、古墳などを調査。	89・90・91
53	吉田遺跡	○	○	○	○	○			旧石器時代剥片（頁岩）が出土。古墳時代後期や平安時代の竪穴住居などを調査。	21・85
54	古海天神山古墳				○				6世紀前半から中頃に築造された帆立貝形古墳。	21
55	古海原前1号古墳				○				5世紀末から6世紀初頭の帆立貝形古墳。	88
56	古海地内10番古墳				○				6世紀初頭に築造された墳丘29mの帆立貝形古墳とみられる古墳を調査。	21・101



第2章 地理的及び歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
57	松塚古墳群 A				○				土師器片などの散布地、集落跡。	85
58	松塚古墳群 B				○				古墳時代から平安時代の竪穴住居。5世紀後半から7世紀にかけて築造された60基からなる古墳群。円筒埴輪や形象埴輪などが多数出土。	92・93
59	松塚西遺跡	○			○				旧石器時代先頭器が出土。	85
60	横町遺跡					○			古墳時代前期の竪穴住居、平安時代の掘立柱建物などを調査。	96・102
61	谷向遺跡				○	○			台地東端に所在する土師器片などの散布地。	85
62	御正作遺跡	○	○		○	○			旧石器時代槍先形尖頭器、彫器、搔器、縄文時代前期から後期の土器、石鏃、古墳時代前期の竪穴住居や方形周溝墓、平安時代の竪穴住居や掘立柱建物などを調査。	21・85・86・87
63	横根宿遺跡		○		○				土師器片などの散布地、集落跡。「上毛古墳総攬」小泉町四、五号墳、現在消滅。	85
64	寿崎遺跡					○			土師器片などの散布地、集落跡。	85
65	細谷遺跡				○				「上毛古墳総攬」小泉町一～三号墳、現在消滅。	85
66	万願寺遺跡				○	○			土師器や須恵器などの散布地。	85
67	小泉城跡						○		延徳元年(1489)に富岡氏により築城。	85・107・111・123
68	東別所遺跡	○							昭和54年の調査によって旧石器時代槍先形尖頭器(珪質頁岩)が出土。	21
69	東別所本郷遺跡				○	○			集落跡。	48・127
70	東別所新田遺跡				○				散布地。	42・44・127
71	内ヶ島南田遺跡				○				集落跡。	44・127
72	田谷遺跡	○			○	○	○		旧石器時代石器、古墳時代方形周溝墓、古墳時代、奈良・平安時代の竪穴住居、掘立柱建物などを調査。	20・31・37
73	宮西遺跡				○	○			古墳時代後期の集落。	21・25・47
74	矢島城跡						○		中世城館跡。約60m四方の方形環濠遺構など。	22・111・123
75	西矢島古墳群				○				円墳を中心とする古墳時代後期の古墳群。	21・108
76	高林三入遺跡	○		○	○				旧石器時代石器、古墳時代前期・中期、平安時代の竪穴住居、方形周溝墓、土坑墓などを調査。	9・40
77	八反田遺跡				○	○	○		古墳時代、奈良・平安時代、中世以降の溝、土坑、井戸などを調査。	9
78	高林城跡						○		中世城館跡。	22・111・123
79	高林遺跡(高林福島古墳群)				○				7世紀後半の径12m前後の円墳などを調査。	21・40・42・62・108・121
80	朝子塚古墳				○				4世紀末から5世紀初頭に築造された全長123.5mの前方後円墳。	21・35・46・108
81	高林環濠遺構						○		高林代官所跡。東西80m、南北90mの環濠遺構。	22・111・123
82	高林鶴巻古墳群				○				古墳時代中期から後期に築造された古墳群。帆立貝形古墳や円墳などを調査。	21・39・42・45・63・108
83	高林西原古墳群				○				5世紀末から6世紀前半の古墳群。帆立貝形古墳や円墳などを調査。「人が乗る裸馬埴輪」などが出土。	11・15・21・46・64・108
84	高林不動古墳群				○				6世紀後半から7世紀前半に形成された古墳群。	21・108
85	梁場遺跡		○		○	○			集落跡。	7・31・48・127
86	五庵遺跡				○				集落跡。	31・40・127

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
87	向野遺跡				○	○			集落跡。	41・43・47・49・127
88	東矢島古墳群				○				前方後円墳や円墳などが築造された古墳時代後期の古墳群。	21・35・40・41・108
89	東矢島遺跡				○	○			奈良時代の瓦類が採取される。	40・42・43
90	古戸赤城遺跡		○						縄文時代早期の土器片などが出土。	21・41・43
91	富沢古墳群				○				4世紀後半から6世紀後半に築造された古墳群。円墳、方墳、帆立貝形古墳など32基の古墳を調査。	21
92	飯塚古墳群				○				6世紀前半から7世紀代の古墳群。	21・45・108
93	北明泉寺遺跡				○	○			集落跡。	39・41・42・127
94	宮前遺跡				○				集落跡。	34・41・127
95	塚畑遺跡				○				奈良・平安時代の竪穴住居7軒、溝1条、掘立柱建物などを調査。	10
96	稲荷前遺跡					○			平安時代の竪穴住居1軒、近世の溝1条、土坑1基などを調査。	10
97	三島木遺跡		○		○	○			縄文時代と奈良・平安時代の土坑、中近世の掘立柱建物1棟、溝5条などを調査。	10
98	宮内遺跡				○	○			古墳時代から平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝などを調査。	10・14・38・40・41・42
99	浜町古墳群				○				古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居、溝などを調査。	14・43・44・108
100	浜町遺跡		○		○	○			古墳時代から平安時代の竪穴住居、中近世の溝などを調査。	8・14・21
101	石田川遺跡				○				古墳時代前期の集落を調査。石田川式土器が出土。	21・32・65・66
102	舞台A・D遺跡				○	○			古墳時代後期の集落を調査。	24・67・68・69・70
103	屋敷内遺跡				○		○		古墳時代前期・後期の竪穴住居、周溝墓、古墳など、中世から近世の溝、井戸、掘立柱建物などを調査。	6・21
104	飯塚条里制水田跡					○			奈良・平安時代の条里制水田。	21・41・44・120
105	条里制水田想定地					○			奈良・平安時代の条里制水田推定地。	21・120
106	本矢場城跡						○		北面225m、東面300m、南西面350mの中世城館跡。矢場氏居城。恵林寺に矢場氏墓石群がある。	22・111・123
107	焼山遺跡	○	○	○	○	○			昭和42～43年「はにわの会」の調査によって旧石器時代槍先形尖頭器、ナイフ形石器、削器、細石器など、縄文時代、弥生時代などの土器が出土。	122
108	細田遺跡	○	○		○				旧石器時代槍先形尖頭器が出土。古墳時代前期の方形周溝墓7基、古墳、平安時代住居などを調査。	21・76・77
109	磯之宮遺跡			○	○	○			弥生時代中期1軒、古墳時代13軒、平安時代5軒の竪穴住居などを調査。	55
110	八幡山古墳				○				古墳時代前期の前方後円墳。昭和56年市史跡指定。	21
111	下宿遺跡		○		○	○			縄文時代の土坑、平安時代の竪穴住居、掘立柱建物、井戸、中世の溝や井戸を調査。	21・71・72・73
112	金井口埴輪窯跡	○			○				埴輪窯跡2基を調査。旧石器時代槍先形尖頭器が出土。	74・75

第2章 地理的及び歴史的環境

番号	遺跡名	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中・近	近代	概要	参考文献
113	菅ノ沢古墳群				○				古墳時代終末期の古墳群。	21
114	菅ノ沢Ⅰ遺跡				○	○			古墳時代の須恵器窯7基、古墳、平安時代の製鉄炉3基などを調査。	21・124・125・126
115	高太郎Ⅰ遺跡				○	○			古墳時代から平安時代の須恵器窯跡、奈良・平安時代の製鉄跡などを調査。	22・31・84
116	高太郎Ⅱ遺跡					○			平安時代の3基の製鉄炉、炭窯3基を確認。	22・31
117	高太郎Ⅲ遺跡				○				奈良時代の須恵器窯跡など。	22・31・84
118	古氷条里制水田跡					○			浅間B軽石直下の条里制水田跡。水田耕作に関連する溝などを調査。	13
119	二の宮遺跡				○	○			古墳時代中期の竪穴住居、平安時代の条里制水田に隣接する集落、掘立柱建物などを調査。	13・54
120	小丸山遺跡		○	○	○	○			昭和32年に旧石器時代の扁平楕円形の礫器が出土。	21
121	峯山遺跡	○			○	○			古墳時代前期の竪穴住居、奈良時代の竪穴住居や製鉄炉、鍛冶遺構などを調査。	16・21
122	寺山古墳				○				古墳時代前期の前方後方墳。	21
123	成塚住宅団地遺跡群		○		○	○			縄文時代中期後半、弥生時代後期、奈良・平安時代の集落、周溝墓、古墳群などを調査。	112・113・114
124	貧乏塚古墳群				○				古墳時代後期に築造された群集墳。	21
125	巖穴山古墳				○				古墳時代終末期の築造。一辺約36.5mの方墳。昭和50年市指定史跡。	21
126	金山城跡						○		文明元年(1469)築城の山城。国指定史跡。	30・31・49・78・79・80・81・82

第6図・第3表参考文献(数字は文献番号と一致する)

- 1.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1980『塚廻り古墳群』
- 2.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1980『庚塚遺跡・上・雷遺跡』
- 3.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984『小町田遺跡』
- 4.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984『賀茂遺跡』
- 5.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985『太田東部遺構群』
- 6.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985『浜町屋敷内遺跡C地点』
- 7.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『梁場遺跡』
- 8.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『浜町遺跡』
- 9.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2005『高林三入遺跡・八反田遺跡』
- 10.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『塚畑遺跡・宮内遺跡・稲荷前遺跡・三島木遺跡・城ノ内遺跡』
- 11.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006『高林西原古墳群』
- 12.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008『大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳ』
- 13.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009『古条里制水田跡・二の宮遺跡』
- 14.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012『浜町遺跡・浜町古墳群・宮内遺跡』
- 15.公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『高林西原古墳群(2)』
- 16.財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003『年報』22
- 17.公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009『年報』28
- 18.公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011『年報』30
- 19.公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012『年報』31
- 20.公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013『年報』32
- 21.太田市 1996『太田市史』通史編・原始古代
- 22.太田市 1997『太田市史』通史編・中世
- 23.太田市 1994『太田市史』通史編・近現代



24. 太田市教育委員会 1985『市内遺跡』Ⅱ
25. 太田市教育委員会 1987『市内遺跡』Ⅲ
26. 太田市教育委員会 1988『市内遺跡』Ⅳ
27. 太田市教育委員会 1989『市内遺跡』Ⅴ
28. 太田市教育委員会 1990『市内遺跡』Ⅵ
29. 太田市教育委員会 1992『市内遺跡』Ⅶ
30. 太田市教育委員会 1993『市内遺跡』Ⅷ
31. 太田市教育委員会 1994『市内遺跡』Ⅹ
32. 太田市教育委員会 1995『市内遺跡』Ⅺ
33. 太田市教育委員会 1996『市内遺跡』Ⅻ
34. 太田市教育委員会 1997『市内遺跡』Ⅼ
35. 太田市教育委員会 2000『市内遺跡』Ⅽ
36. 太田市教育委員会 2003『市内遺跡』Ⅾ
37. 太田市教育委員会 2004『市内遺跡』20
38. 太田市教育委員会 2005『市内遺跡』21
39. 太田市教育委員会 2008『太田市内遺跡』3
40. 太田市教育委員会 2009『太田市内遺跡』4
41. 太田市教育委員会 2010『太田市内遺跡』5
42. 太田市教育委員会 2011『太田市内遺跡』6
43. 太田市教育委員会 2012『太田市内遺跡』7
44. 太田市教育委員会 2013『太田市内遺跡』8
45. 太田市教育委員会 1991『埋蔵文化財発掘調査年報』1
46. 太田市教育委員会 1993『埋蔵文化財発掘調査年報』3
47. 太田市教育委員会 1994『埋蔵文化財発掘調査年報』4
48. 太田市教育委員会 1995『埋蔵文化財発掘調査年報』5
49. 太田市教育委員会 1996『埋蔵文化財発掘調査年報』6
50. 太田市教育委員会 1995『太田市の文化財』
51. 太田市教育委員会 1980『大塚・間之原遺跡確認調査の概要-第1次調査』
52. 太田市教育委員会 1981『大塚・間之原遺跡確認調査の概要-第2次調査』
53. 太田市教育委員会 1982『大塚・間之原遺跡』
54. 太田市教育委員会 1985『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
55. 太田市教育委員会 1986『渡良瀬川流域遺跡発掘調査概報』
56. 太田市教育委員会 1989『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報』
57. 太田市教育委員会・太田工業高等学校地歴部 1972『太田工業高等学校北裏遺跡発掘調査報告』
58. 太田市教育委員会 1982『天神山古墳外堀部発掘調査概報』
59. 太田市教育委員会 1990『天神山古墳外堀・A陪塚範囲確認調査』
60. 太田市教育委員会 1999『天神山古墳外堀確認発掘調査』
61. 太田市教育委員会 2009『天神山古墳外堀確認調査報告書』
62. 太田市教育委員会 1969『高林102号古墳報告書』
63. 太田市教育委員会 1977『群馬県太田市沢野村63号墳発掘調査概報』
64. 東毛病院宿舍遺跡調査会 1993『西原古墳群』
65. 太田市教育委員会 1970『石田川』
66. 太田市教育委員会 2001『石田川遺跡』
67. 太田市教育委員会 1981『舞台A遺跡の概要』
68. 太田市教育委員会 1984『市内遺跡発掘調査-舞台D遺跡-』
69. 太田市教育委員会 1983『舞台D遺跡確認調査の概要』
70. 太田市教育委員会 1985『舞台D遺跡・成塚稲荷神社古墳・間之原遺跡』
71. 太田市教育委員会 1985『下宿遺跡発掘調査概報』
72. 太田市教育委員会 1987『下宿遺跡E地点』
73. 太田市教育委員会 1988『下宿遺跡F地点』
74. 太田市教育委員会 1978『金井口遺跡発掘調査略報』
75. 太田市教育委員会 1979『金井口遺跡発掘調査略報-第2次調査-』
76. 太田市教育委員会 1978『発掘調査概報細田遺跡』
77. 太田市教育委員会 1978『細田遺跡発掘調査略報Ⅱ』
78. 太田市教育委員会 1980『金山城跡・三の丸確認調査略報』

## 第2章 地理的及び歴史的環境

79. 太田市教育委員会 1992『長手谷遺跡群発掘調査報告書』
80. 太田市教育委員会 1994『金山城跡大手道発掘調査』
81. 太田市教育委員会 1999『金山城跡・月の池』
82. 太田市教育委員会 2001『史跡金山城跡環境整備報告書—発掘調査編—』
83. 太田市教育委員会 2003『竜舞落打遺跡(第2次)』
84. 太田市教育委員会 2004『長手谷遺跡群発掘調査報告書』
85. 大泉町誌刊行委員会 1983『大泉町誌』下
86. 大泉町教育委員会 1981『御正作遺跡発掘調査概報』
87. 大泉町教育委員会 1984『御正作遺跡』
88. 大泉町教育委員会 1986『古海原前古墳群発掘調査概報』
89. 大泉町教育委員会 1988『専光寺付近遺跡』
90. 大泉町教育委員会 1989『専光寺付近遺跡』
91. 大泉町教育委員会 1990『専光寺付近遺跡』
92. 大泉町教育委員会 1993『古海松塚古墳群』平成3・4年度発掘調査概報
93. 大泉町教育委員会 2002『古海松塚古墳群』
94. 大泉町教育委員会 2004『大泉町間之原遺跡Ⅱ遺跡』
95. 大泉町教育委員会 2005『坂田遺跡』
96. 大泉町教育委員会 2005『横町Ⅰ遺跡』
97. 大泉町教育委員会 2006『仙石道祖遺跡Ⅰ』
98. 大泉町教育委員会 2007『仙石道祖遺跡Ⅱ』
99. 大泉町教育委員会 2008『寄木戸毘沙門遺跡・坂田遺跡Ⅱ』
100. 大泉町教育委員会 2009『寄木戸毘沙門遺跡Ⅱ』
101. 大泉町教育委員会 2012『古海地内10番古墳』
102. 大泉町教育委員会 2013『寄木戸東原遺跡・横町遺跡Ⅱ・西原遺跡』
103. 群馬県 1988『群馬県史』資料編1 原始古代
104. 群馬県 1986『群馬県史』資料編2 原始古代
105. 群馬県 1981『群馬県史』資料編3 原始古代
106. 群馬県 1990『群馬県史』通史編1 原始古代
107. 群馬県 1990『群馬県史』通史編3 中世
108. 群馬県 1938『上毛古墳綜覧』
109. 群馬県教委 1976『清水田遺跡』
110. 群馬県教委 1970『史跡天神山古墳外堀部発掘調査報告書』
111. 群馬県教育委員会 1989『群馬県の中世城館跡』
112. 群馬県企業局、太田市教育委員会 1990『成塚住宅団地Ⅰ』
113. 群馬県企業局、太田市教育委員会 1990『成塚住宅団地Ⅱ』
114. 群馬県企業局、太田市教育委員会 1992『成塚住宅団地Ⅲ』
115. 栃木県史編さん委員会 1979『栃木県史』資料編・考古2
116. 栃木県史編さん委員会 1981『栃木県史』通史編1
117. 足利市史編さん委員会 1979『近代足利市史』3
118. 足利市教育委員会 2005『藤本観音山古墳発掘調査報告書』
119. 足利市教育委員会 2008『国指定史跡藤本観音山古墳』
120. 三友国五郎 1960「関東地方の条里」『埼玉大学学芸学部紀要(社会科学)』8
121. 大塚初重・小林三郎 1967「群馬県高林遺跡の調査」『考古学集刊』東京考古学会
122. はにわの会 1968『焼山遺跡総合調査報告』
123. 山崎一 1971『群馬県古城墓址の研究』上
124. 駒澤大学考古研究室 1977『太田市金井丘陵菅の沢窯址発掘調査概報』
125. 駒澤大学考古研究室 1978『菅ノ沢遺-巖穴山古墳調査概報-』
126. 駒澤大学考古研究室 2009『群馬・金山丘陵窯跡群Ⅱ』
127. 群馬県文化財情報システムWEB版

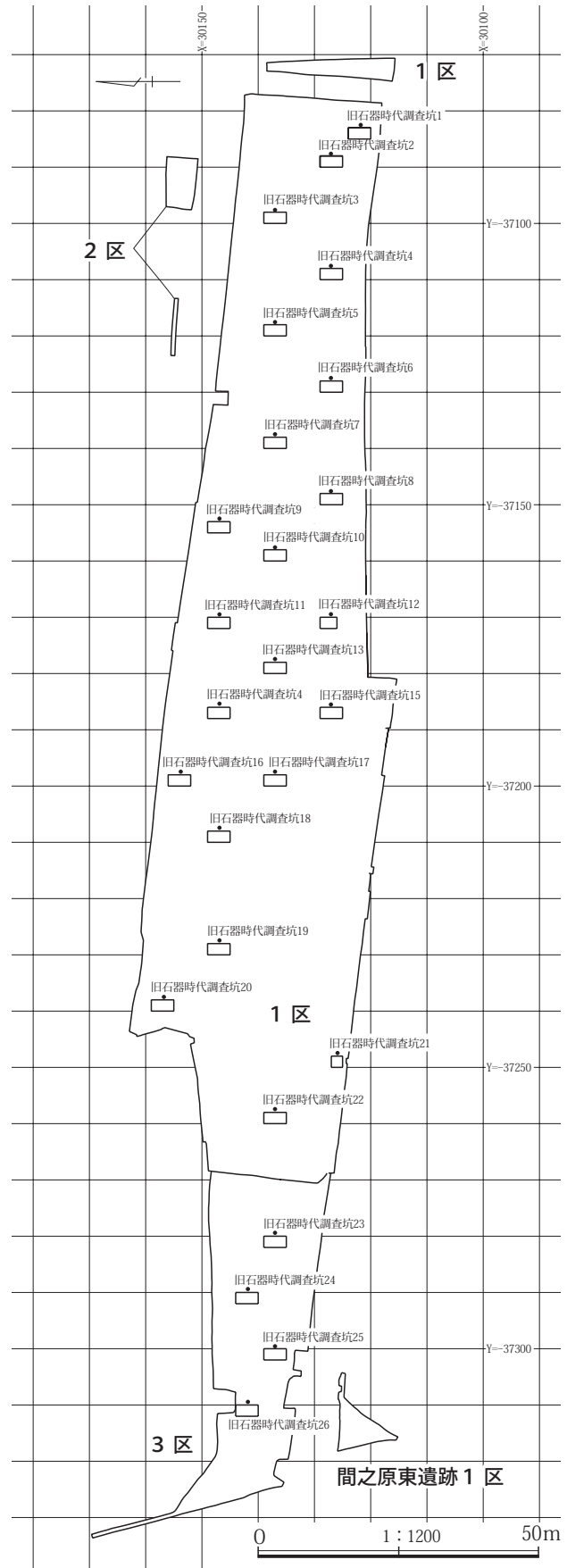
## 第3章 間之原遺跡の調査

### 第1節 間之原遺跡の概要

間之原遺跡における埋蔵文化財発掘調査は、平成22年度と平成24年度に実施した。国道354号大泉邑楽バイパスの調査部分となるため調査区は東西方向に延び、長さ約260m、路線幅約25～45mである。1区と2区は、東西に走行する市道を境界とした。平成24年度には、1区西側を3区として発掘調査を行った。

発掘調査によって古墳時代から奈良・平安時代に至る竪穴住居74軒、竪穴状遺構6基、掘立柱建物17棟、柵8条、溝2条、井戸2基、土坑55基、ピット503基、畠1カ所、道1カ所の遺構を確認し、遺物が出土した。1区東部や中央部では、縄文時代の遺物が出土したため、遺構確認面であるローム漸移層上面からさらにローム面まで掘り下げて確認したが、当該時期の遺構は確認できなかった。

1区から3区における遺構の分布状況については以下のような特徴がある。1区東部については、古墳時代以降のピット群となり、1区東部から中央部にかけて掘立柱建物や柵を確認した。掘立柱建物は中央部から東端にかけてやや散漫としていた。竪穴住居は、1区中央部から3区にかけて密集し、ピット群を確認した1区東部では僅か1軒にすぎない。1区最東端の調査区では、2基のピットと畠1カ所を確認した。市道を挟み1区北側に位置する2区では、ピット1基を確認した。3区西端から北西方向にかけて谷地形となり竪穴住居が少なく、集落の範囲は1区中央部から3区西側までと想定される。竪穴住居のうち1区7・17・18・32・34・42・44・46・47・51・64・65・69号竪穴住居、1区213・531号ピットは、発掘調査の段階で欠番とした。発掘調査で1区落ち込み1～23を確認したが、整理作業によって再検討した結果、遺構と認められるものについては竪穴状遺構、土坑、ピットに変更した。第1表の間之原遺跡遺構名・遺構番号変更一覧表(7・8頁)を参照されたい。



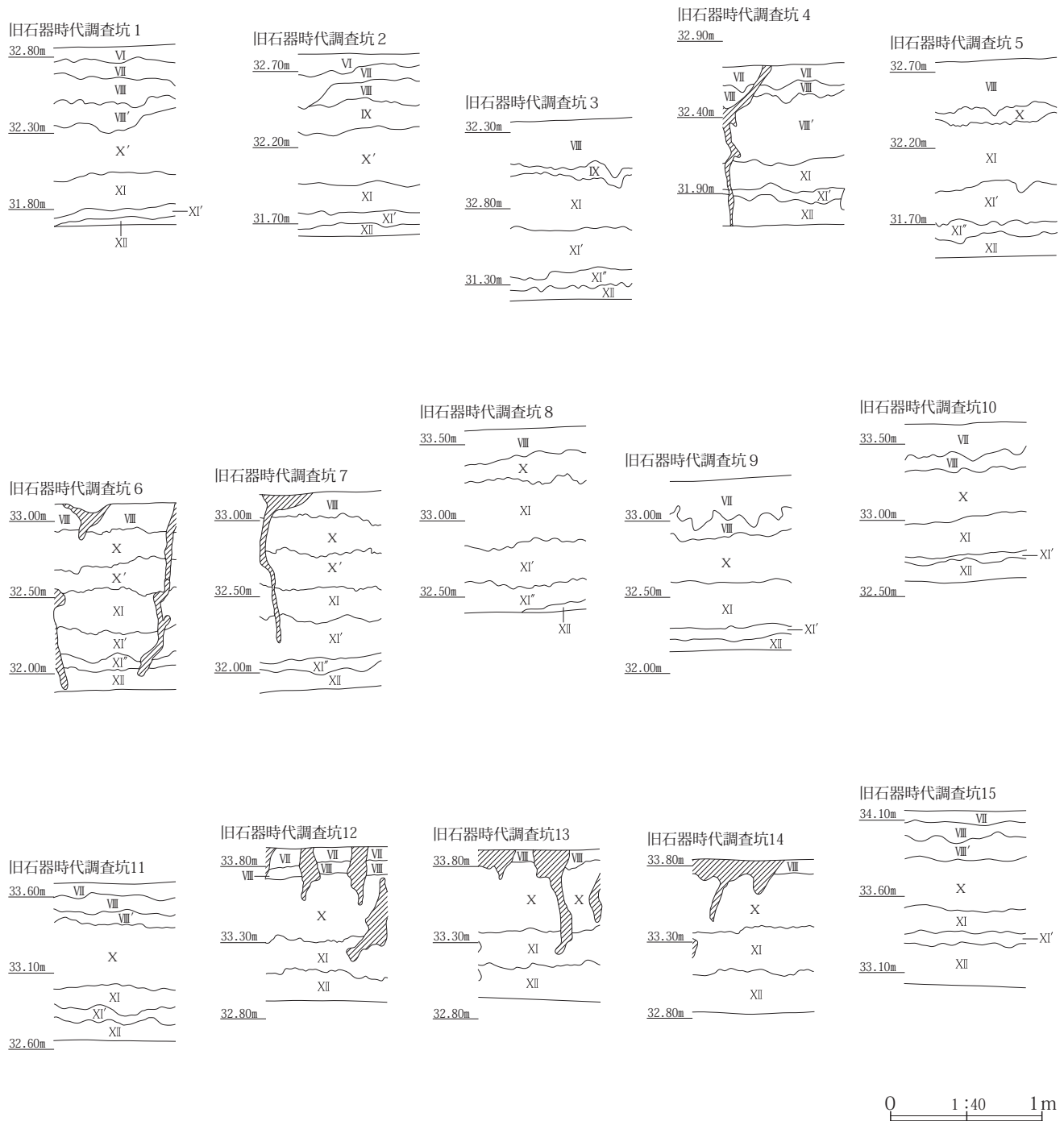
第7図 間之原遺跡 旧石器時代調査坑位置図



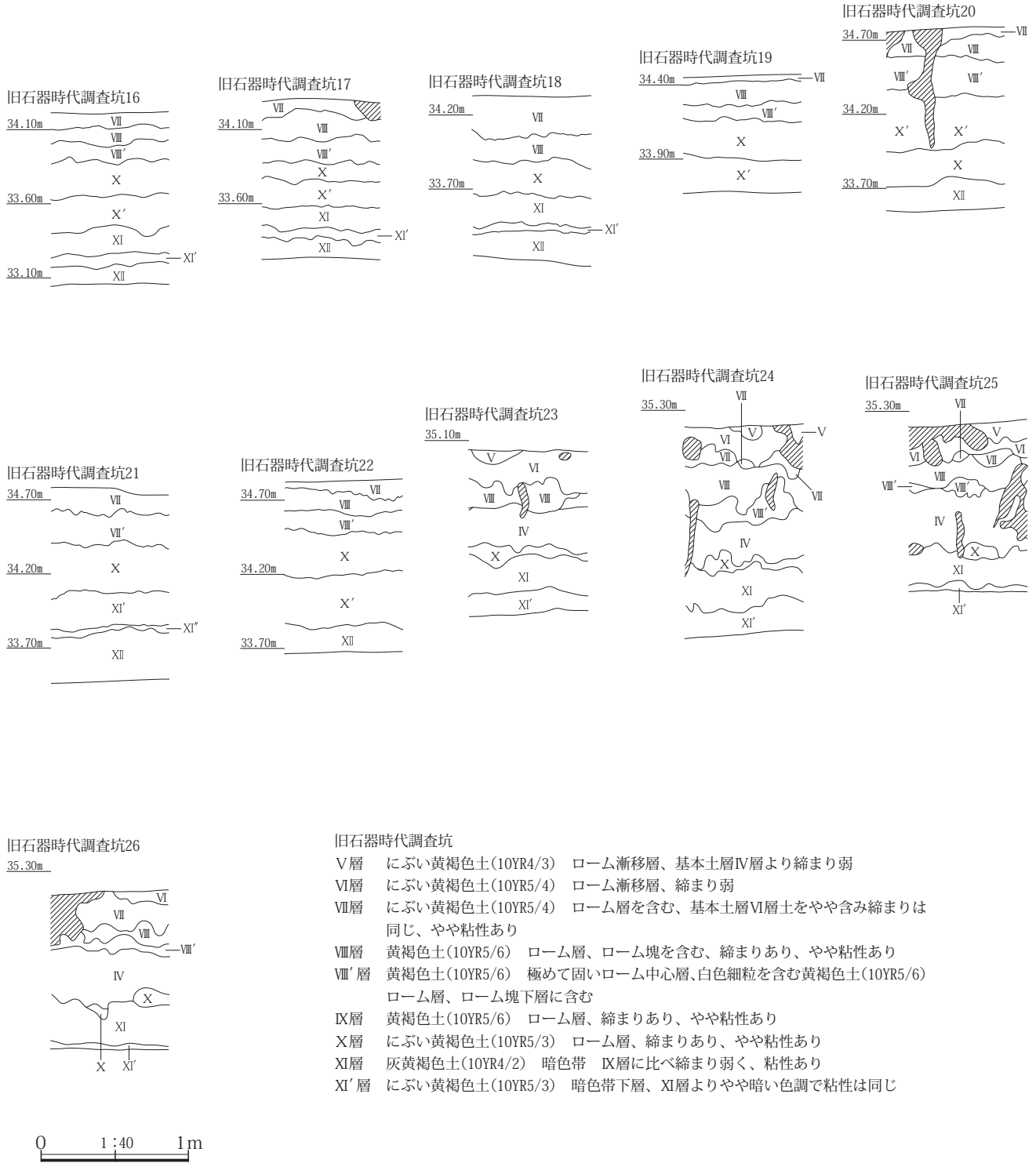
## 第2節 旧石器時代の調査

1区と3区で旧石器時代の調査を実施した。調査区に2m×4mの旧石器時代調査坑を26カ所設定し、暗色帯下層まで約1.0～1.3m掘削した。旧石器時代調査坑の土層断面を観察したが、堆積状況については、1区東側から3区西側までほぼ同じ様相を呈する。調査位置及び土

層断面地点は、第7図に図示した。間之原遺跡では、第2章第2節1で述べたとおり、大泉町間之原遺跡Ⅲ・Ⅳの発掘調査で旧石器時代の遺物が集中して出土していたことから、平成22年度と平成24年度の発掘調査でも旧石器時代の遺物の出土が期待された。現場作業員による手作業によって慎重に掘り下げながら確認したが、当該時期の遺構や遺物は出土しなかった。



第8図 間之原遺跡 旧石器時代調査坑1～15土層断面図



第9図 間之原遺跡 旧石器時代調査坑16～26土層断面図

### 第3節 古墳時代の遺構と遺物

発掘調査は、ローム漸移層(基本土層第V層)上面を遺構確認面として竪穴住居、竪穴状遺構、井戸、溝、道、畠、土坑、ピットを確認した。1区中央部については、ローム漸移層上面をさらに掘り下げて遺構確認を行った。以下のとおり遺構ごとに記す。

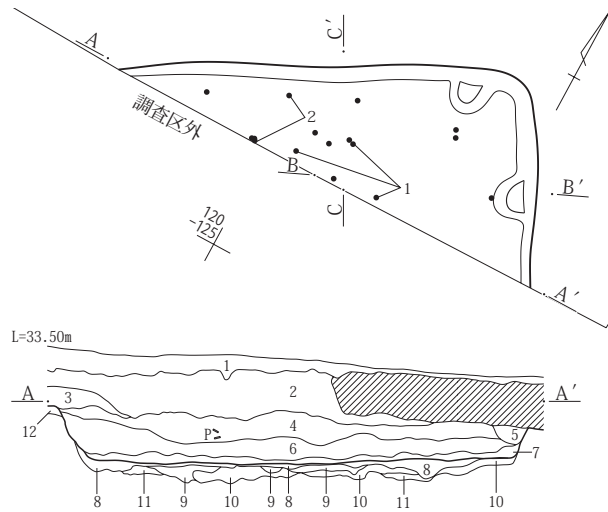
#### 1 竪穴住居

1区と3区で確認した古墳時代の竪穴住居は44軒である。時期は、6世紀後半から7世紀代である。調査区域外に広がる竪穴住居や他の遺構との重複及び現代の攪乱などによって部分的な調査となったものもある。

##### 1区1号竪穴住居(第10図 PL. 6)

**位置** X=121~123、Y=-122~126

**形状・規模** 調査区南壁境に位置するため、全体の形状や規模は不明である。確認できた竪穴住居北辺の長さ3.26m、壁高北壁35cm、東壁26cmである。

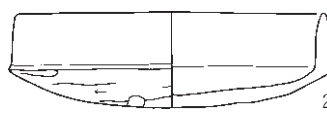
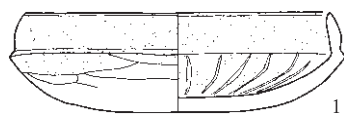


##### 1号竪穴住居A-A'

- 1 基本土層のI層土
- 2 基本土層のII層土
- 3 基本土層のIII層土
- 4 暗褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

- 5 暗褐色土 縮まりやや弱
- 6 暗褐色土 ローム25%、縮まりやや弱
- 7 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりやや弱
- 8 灰黄褐色土 ローム40%

- 9 灰黄褐色土 ローム50%
- 10 明黄褐色土 ローム主体、灰黄褐色土少量
- 11 明黄褐色土 ローム主体
- 12 基本土層のIV層 縮まりやや弱



0 1:3 10cm

**主軸方向** 不明。

**重複** なし。

**埋没土** 下層はほぼフラットに堆積しロームを30%含み、上層もロームを10~25%含むことから人為的な埋戻しが行われた可能性がある。

**床面** 北壁際から東壁際の一部の調査であるが、床面の高低差は少なくほぼ水平であり、使用による硬化面は不明瞭であった。ロームを多量に含む灰黄褐色土と明黄褐色ロームを埋めて床面を構築する。

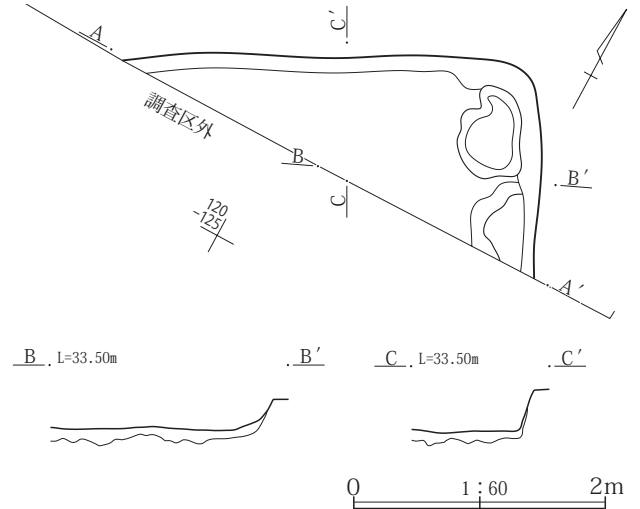
**カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** ロームを5~18cmほど掘り窪めている。特に床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 北壁際や東壁際から中央部にかけて床面や埋没土中から遺物の出土が認められる。土師器杯(第10図1・2)は、床面上約30cmの埋没土中からの出土であり、投棄か流れ込みの可能性もある。非掲載遺物は、土師器片76点(小型製品34、中型製品4、大型製品21、不明17)、須恵器片3点(小型製品2、大型製品1)である。

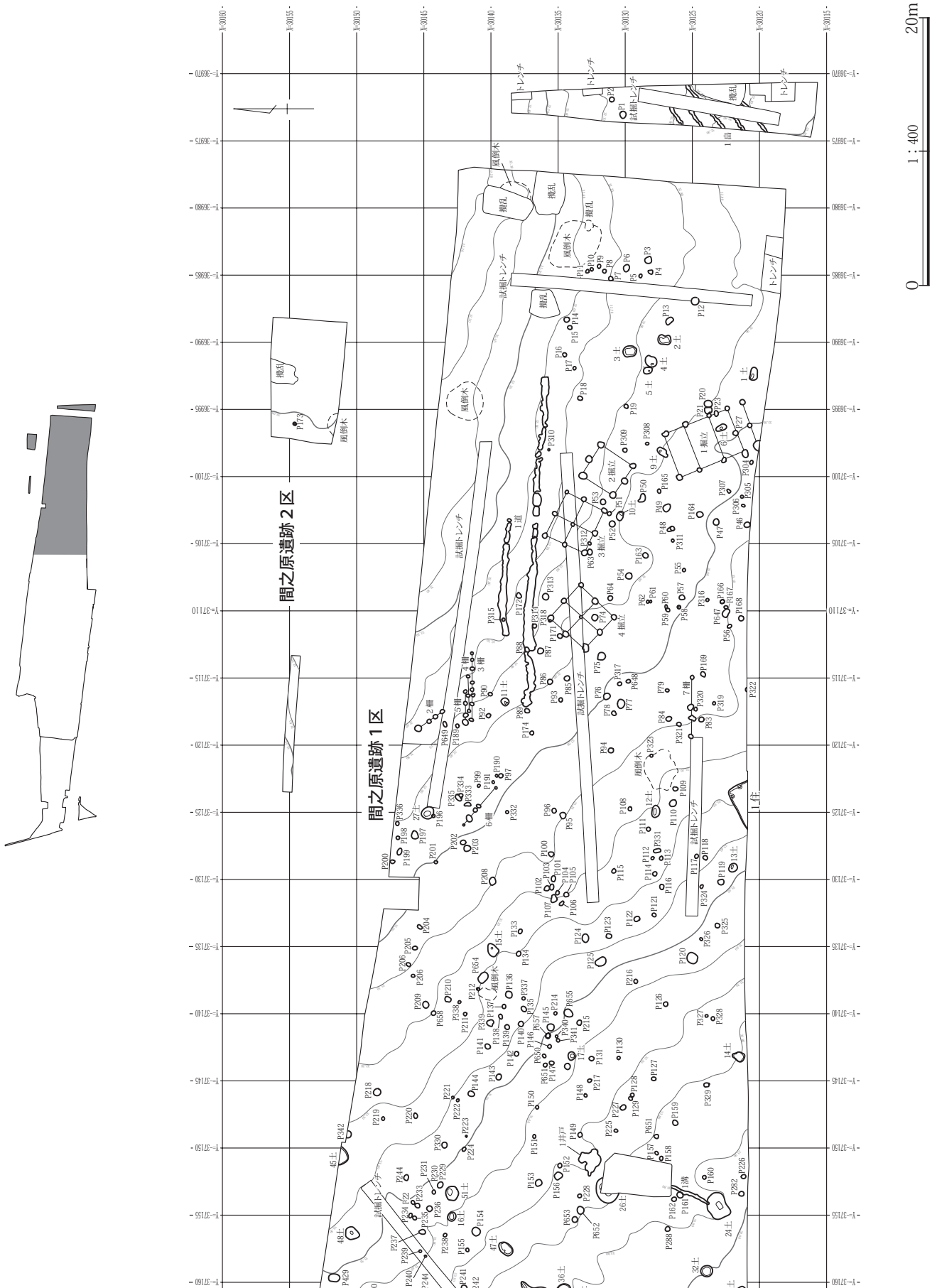
**所見** 出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。

**掘り方**

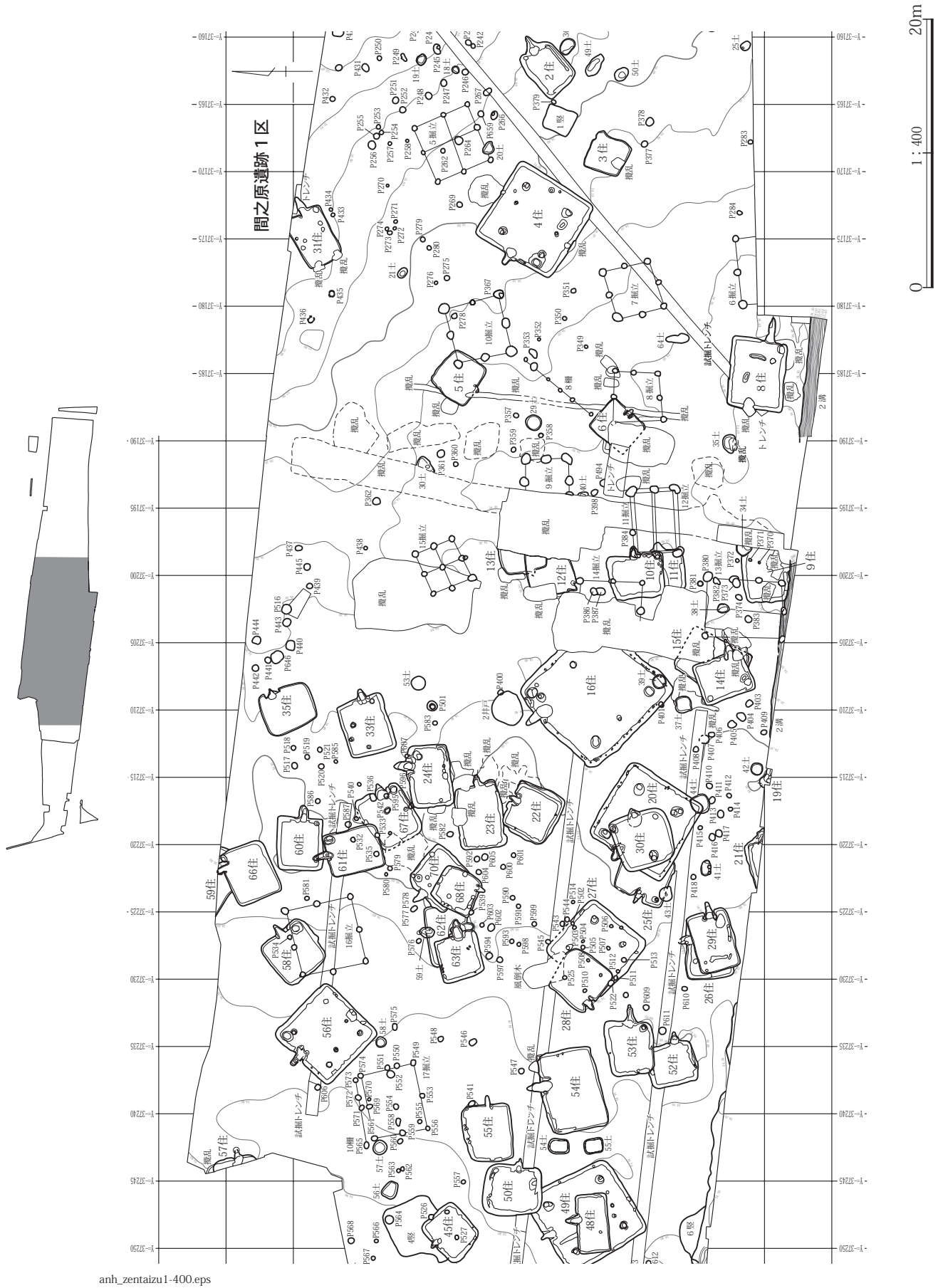


第10図 1区1号竪穴住居と出土遺物



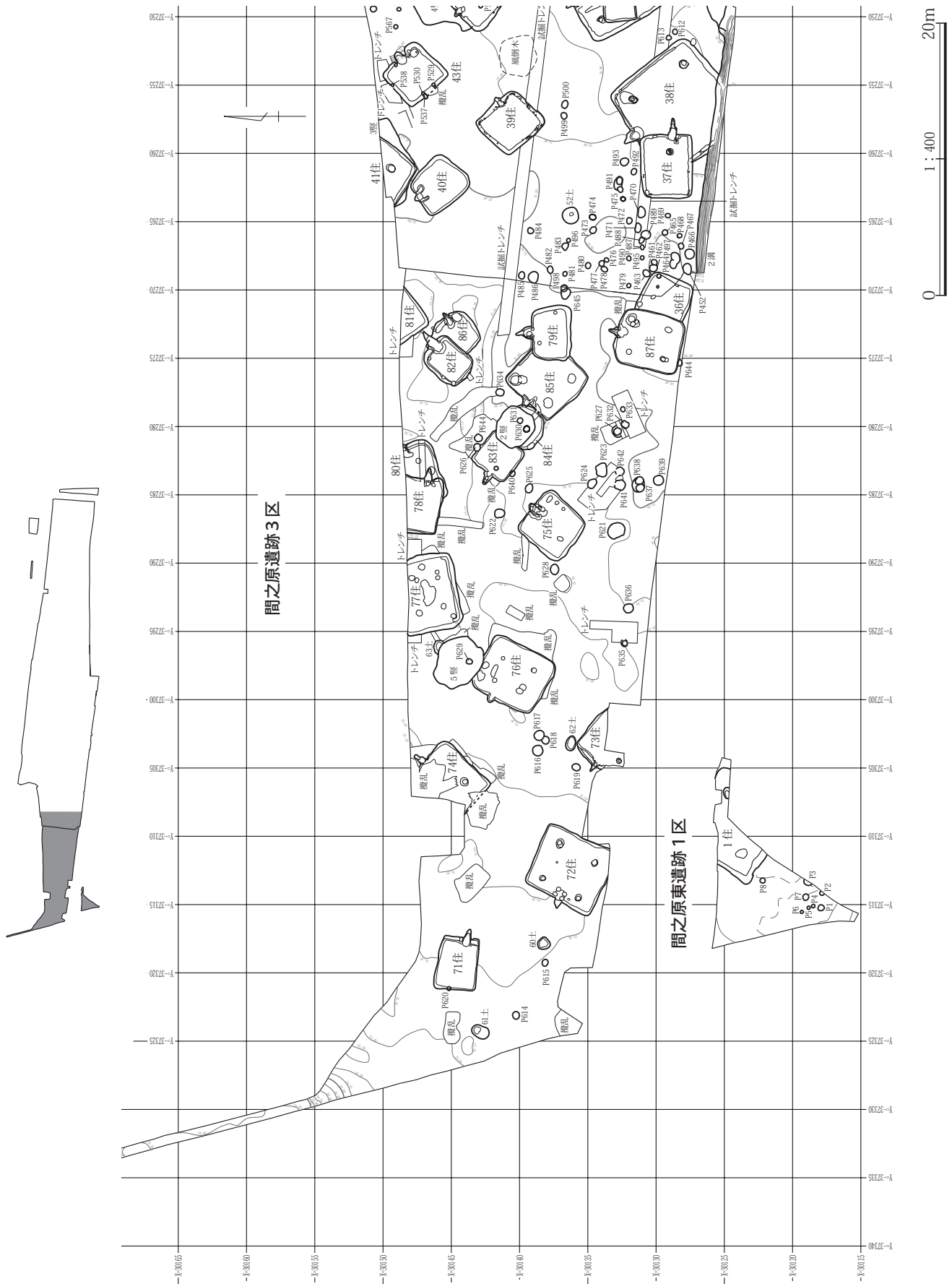


第11図 間之原遺跡1区東端部・東部・中央部全体図



anh\_zentaizu1-400.eps

第12図 間之原 遺跡1区・中央部・西部全体図



第13図 間之原遺跡1区西部・3区全体図・間之原東遺跡1区全体図



1区3号竪穴住居(第14・15図 PL. 6)

位置 X=130~133、Y=-167~170

形状・規模 後世の削平により上面が著しく失われている。形状は方形である。規模は長軸長2.90m、短軸長2.63m、壁高北壁3cm、南壁5cm、東壁及び西壁4cmを測る。床面積は7.30㎡である。

主軸方向 N-23°-E

重複 なし。

埋没土 ローム大塊を含む灰黄褐色土で埋没する。自然埋没か人為的かは不明。

床面 攪乱を受け床面の一部に小型掘削重機の爪痕が残る。東側から西側にかけて僅かであるが緩やかに下る。使用による硬化面は中央部から東半部にかけて認められる。多量のローム塊を含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 住居東壁の北東コーナー部分に付設する。燃烧部側壁や天井の粘土などは認められず、残存状態は不良である。僅かに焼土粒や焼土塊が残り、明瞭な使用面は確認できなかった。規模は、全長41cm、焚口幅75cmであ

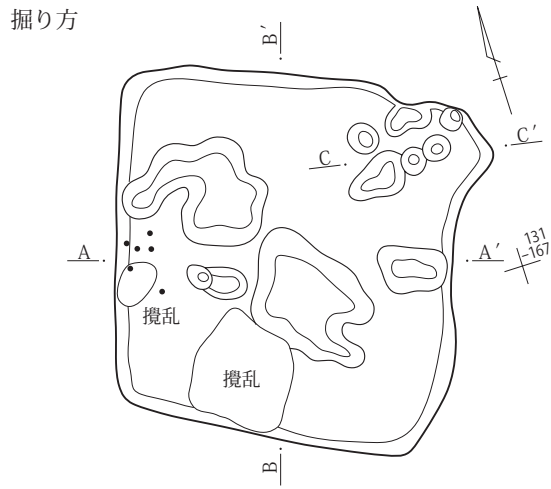
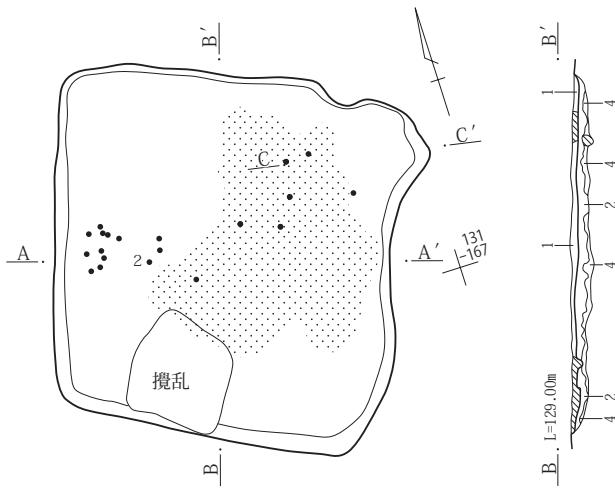
り、焚口周辺から燃烧部にかけて約5cmの掘り方が認められ、埋没土は住居掘り方の第4層に類似する。カマド内部から炭化種実が出土し、自然科学分析の結果からミズキ核破片(第317図23)1個、アワ類・胚乳完形1個、アワ?胚乳完形1個などが検出された。

貯蔵穴・周溝・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

掘り方 床面からローム面まで5~15cmの深さで掘り込まれ、ピット状の大小の窪みがある。特に床下施設などは確認できなかった。

遺物出土状態 西壁際から中央部にかけて特に遺物の出土が集中する。土師器杯(第15図1)は、埋没土から、須恵器甕(同図2)は、床面上10cmからの出土であり、住居に伴うと考えられる。非掲載遺物は、土師器片27点(小型製品11、大型製品16)、須恵器片18点(大型製品)である。

所見 床面の硬化状態やカマドに僅かに残る焼土などから判断し、使用期間の短い住居であった可能性もある。出土遺物から時期は6世紀後半と考えらえる。



3号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム大塊5%、締まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム中塊多量、住居貼床土、やや締まる
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒・ハードローム小塊多量
- 4 明黄褐色土 ハードローム主体、褐灰色砂質土少量
- 5 明黄褐色土 4層土に類似、褐灰色砂質土多量

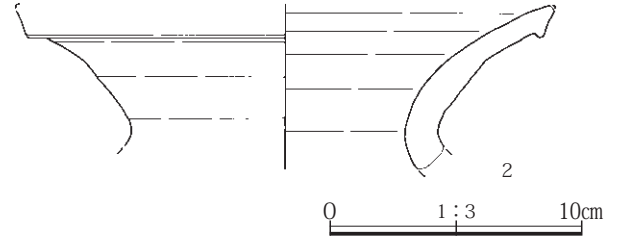
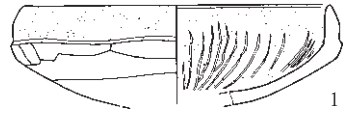
3号竪穴住居カマドC-C'

- 1 灰黄褐色土 住居埋土1層土+焼土粒少量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・焼土小塊少量
- 3 明黄褐色土 住居掘り方4層土に類似

0 1:60 2m

0 1:30 1m

第14図 1区3号竪穴住居



第15図 1区3号竪穴住居出土遺物

**1区4号竪穴住居**(第16～20図 PL. 6・7・77)

位置 X=133～142、Y=-169～178

**形状・規模** 形状は方形である。規模は長軸長6.60m、短軸長6.55m、壁高北壁29cm、南壁31cm、東壁30cm、西壁40cmを測る。攪乱により北壁中央部上面の一部が失われている。床面積は42.73㎡である。

主軸方向 N-58°-W

重複 なし。

**埋没土** 埋没土の下層はローム粒・塊、炭化物粒、焼土粒を含む灰黄褐色土によってほぼフラットに堆積する。上層にかけてレンズ状の堆積が認められないが、自然埋没の可能性はある。

**床面** 南西側から北東側にかけて緩やかに下がるが、床面高低差は少なくほぼ平坦である。4本の支柱穴で囲まれた内側の範囲やカマド焚口周辺部の広範囲に硬化面が認められる。ロームと暗褐色土を含むにぶい黄褐色土によって床面を構築している。P 1～P 5の間で長径82cm、短径50cm、高さ5～7cmの高まりが認められる。形状は楕円形でありハードロームを含むにぶい黄褐色土により人為的に構築されたとみられるが、用途は不明である。貯蔵穴の北側周辺でも5cm程の高まり部分を確認した。

**カマド** 西壁中央部に付設する。焚口から煙道まで焼土が広範囲に残存する。燃焼部側壁を失っているが、周辺に炭化物が残る。カマド内部から炭化種実が出土し、自然科学分析の結果からイネ胚乳完形1個と破片1個、コムギ胚乳完形1個が検出された。確認できる規模は、焚口幅77cm、焚口から燃焼部奥行70cm、煙道69cmであり、軸方向は住居の主軸方向と一致する。焚口周辺から燃焼部にかけて約10cmの掘り方が認められ、埋没土は住居掘り方の埋没土に類似する。

**貯蔵穴** カマド左側において確認した。平面形状は長方形で、規模は長径70cm、短径50cm、深さ50cmである。土層断面の観察から、上層に壁崩落土がみられ下層にかけ

てローム粒・塊を含む灰黄褐色土による自然埋没と考えられる。

**周溝** カマド付設部分以外は壁面直下に掘り込まれている。規模は幅17～35cm、深さ3～19cmを測る。北壁際と南壁際の中央部付近に小ピット状の窪みが認められる。北壁際の小ピットの規模は長径35cm、短径27cm、深さ12cm、南壁際の小ピットの規模は長径45cm、短径43cm、深さ15cmを測り、周辺にそれぞれ対応するピットは確認できなかった。

**柱穴** 床面の対角線上に4本のピットを確認し、支柱穴と判断した。形状及び規模は、P 1(不定形、長径67cm、短径66cm、深さ63cm)、P 2(円形、長径59cm、短径55cm、深さ63cm)、P 3(円形、長径66cm、短径58cm、深さ62cm)、P 4(円形、長径63cm、短径56cm、深さ65cm)である。柱穴間は、P 1～P 2間3.75m、P 2～P 4間3.50m、P 3～P 4間3.94m、P 1～P 3間3.73mを測り、P 3～P 4間が長い。柱穴の土層断面には明瞭な柱痕はないが、P 1・P 3・P 4の底面には、柱の重みによって硬化した部分が認められた。P 1とP 2の間からP 5(楕円形、長径40cm、短径27cm、深さ51cm)、P 3とP 4の間からP 6(円形、長径31cm、短径27cm、深さ37cm)を確認した。支柱穴の間に支柱穴を備えていたと考えられる。

**他の施設** 床面精査によって3基のピットを確認した。形状及び規模は、P 7(円形、長径43cm、短径40cm、深さ25cm)、P 8(円形、長径18cm、短径16cm、深さ25cm)、P 9(円形、長径32cm、短径18cm、深さ15cm)である。P 7・P 8は、南東壁際中央部において確認した。位置から出入り口部分に架設した梯子などの下部構造と考えられる。掘り方調査で確認したP 12～P 14は、古い梯子穴の可能性はある。

**掘り方** 中央部は浅く、壁際にかけて大小ピット状や溝状に掘り窪めている。P 1南側には、長さ1.11m、幅20～29cm、深さ7cm、P 3北側には長さ98cm、幅20～33cm、

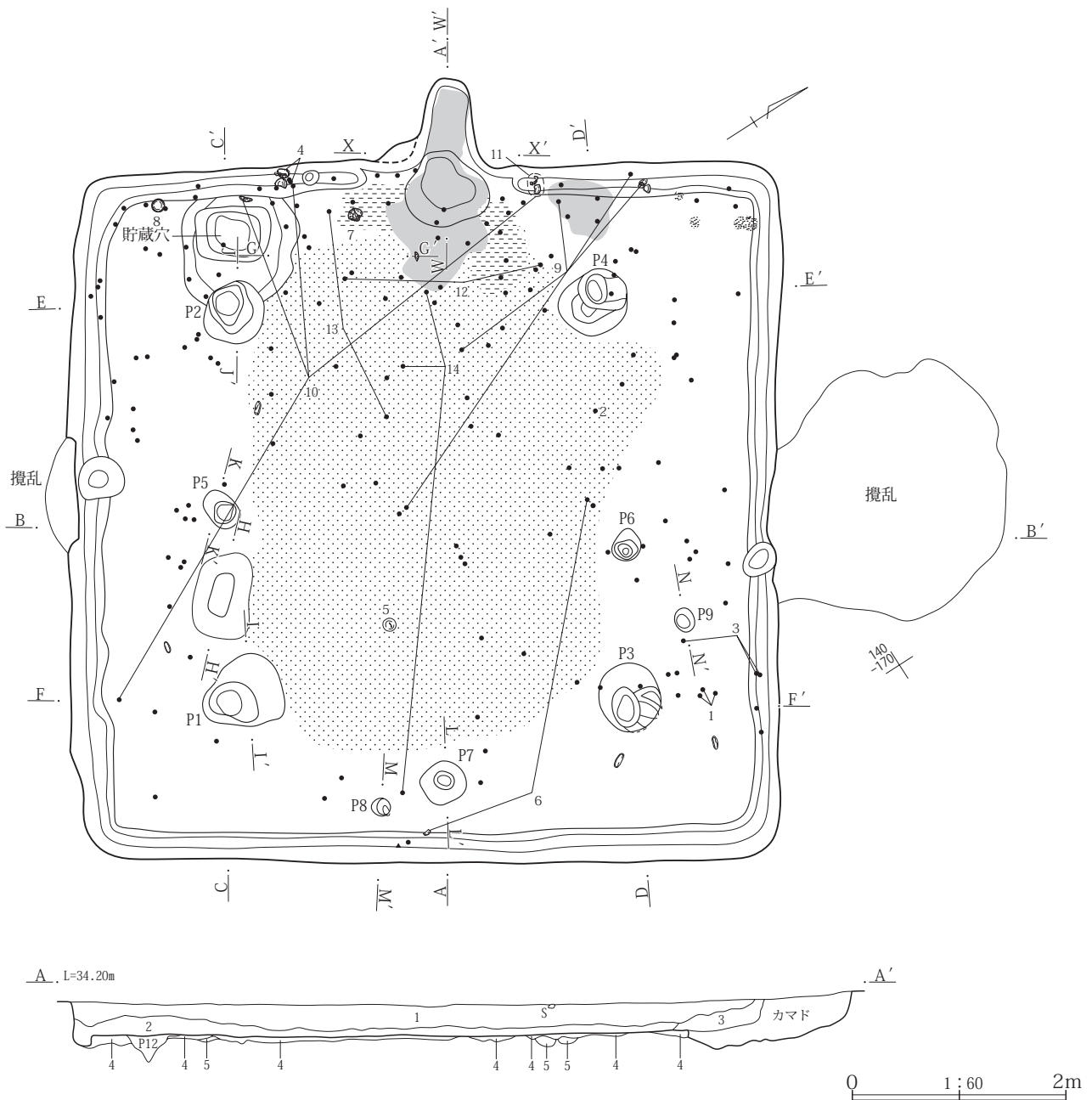
第3章 間之原遺跡の調査

深さ10cmの溝が掘られている。形状から間仕切り溝の可能性はある。掘り方調査によって、ピットを7基確認した。形状及び規模は、P11(隅丸長方形、長径49cm、短径26cm、深さ51cm)、P12(方形、長径21cm、短径19cm、深さ21cm)、P13(方形、長径21cm、短径20cm、深さ26cm)、P14(円形、長径32cm、短径28cm、深さ18cm)、P15(円形、長径44cm、短径40cm、深さ67cm)、P16(楕円形、長径63cm、短径33cm、深さ43cm)である。

**遺物出土状態** 床面や埋没土から出土する遺物が多く、特に床面西半部のカマド周辺部に集中する。出土した遺

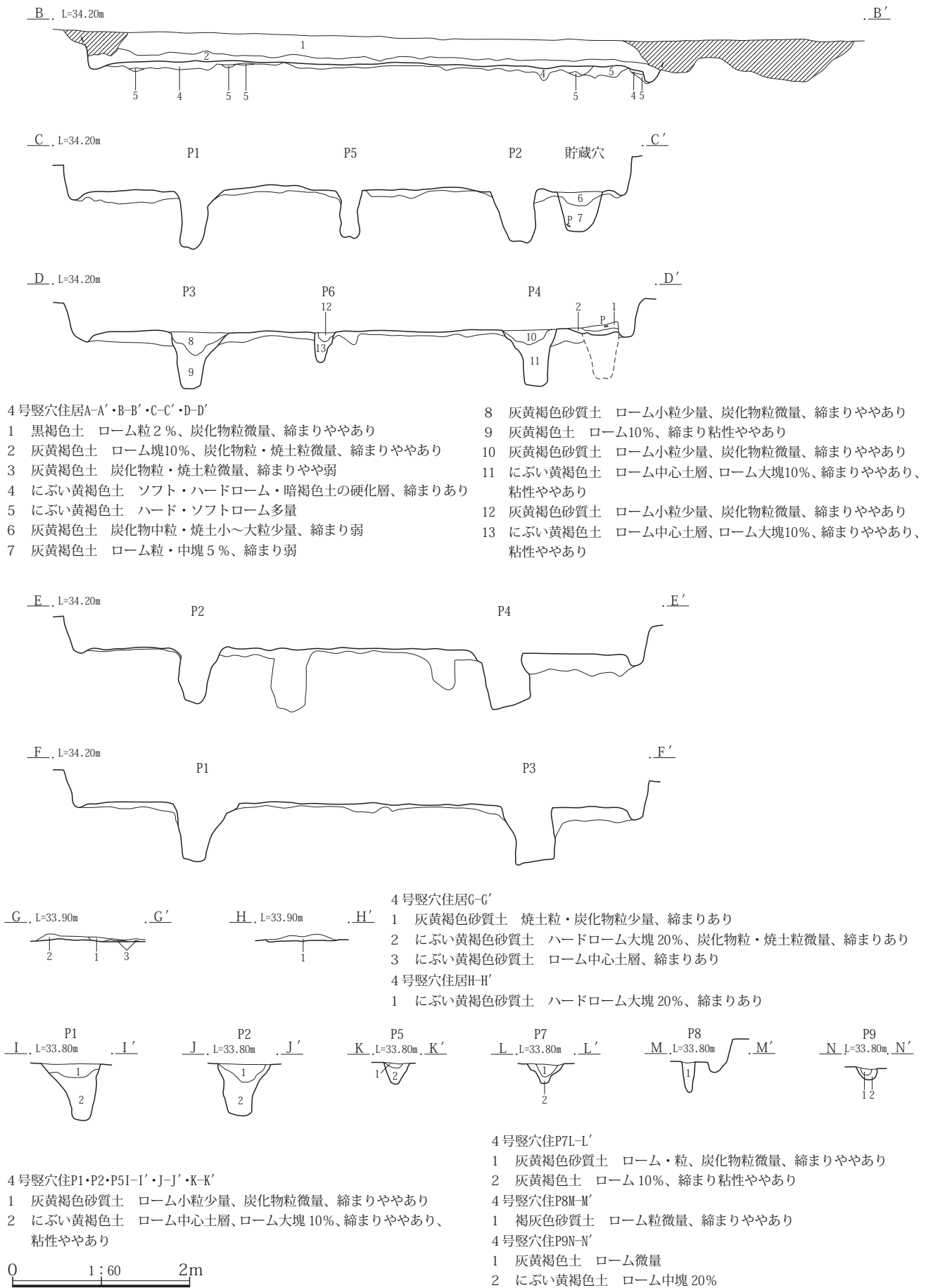
物のうち14点を図示した。土師器杯(第20図12)は、カマド焚口周辺の床面直上からの出土である。土師器杯(同図1・3~11)、土師器小型壺か(同図14)は、概ね床面上約10cmから、土師器杯(同図2・13)は、埋没土からの出土である。埋没土から出土した縄文時代の石鏃は、遺構外遺物として第5節に掲載した。非掲載遺物は、土師器片510点(小型製品191、中型製品7、小型製品304、不明8)、須恵器片11点(小型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。



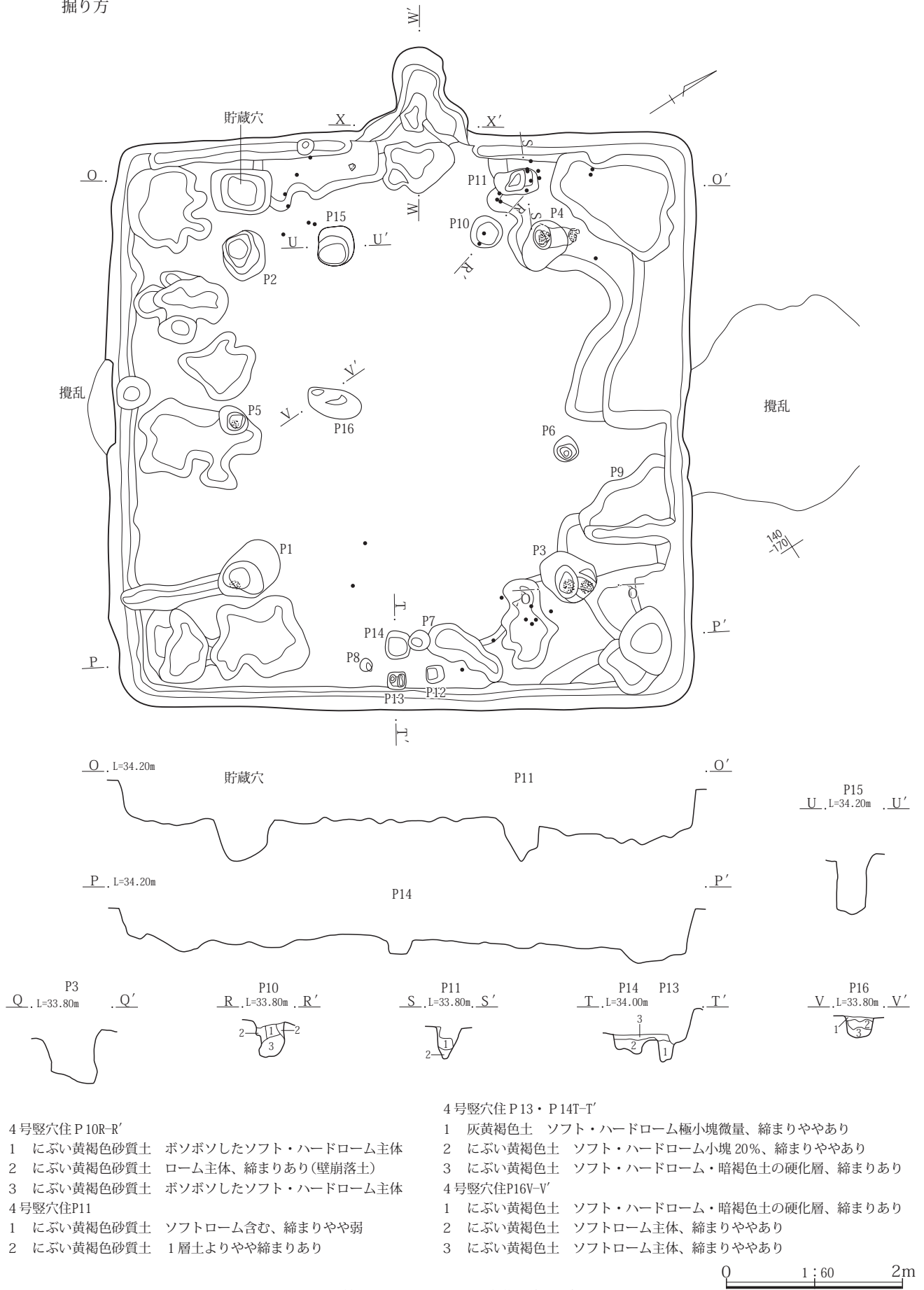
第16図 1区4号竪穴住居(1)





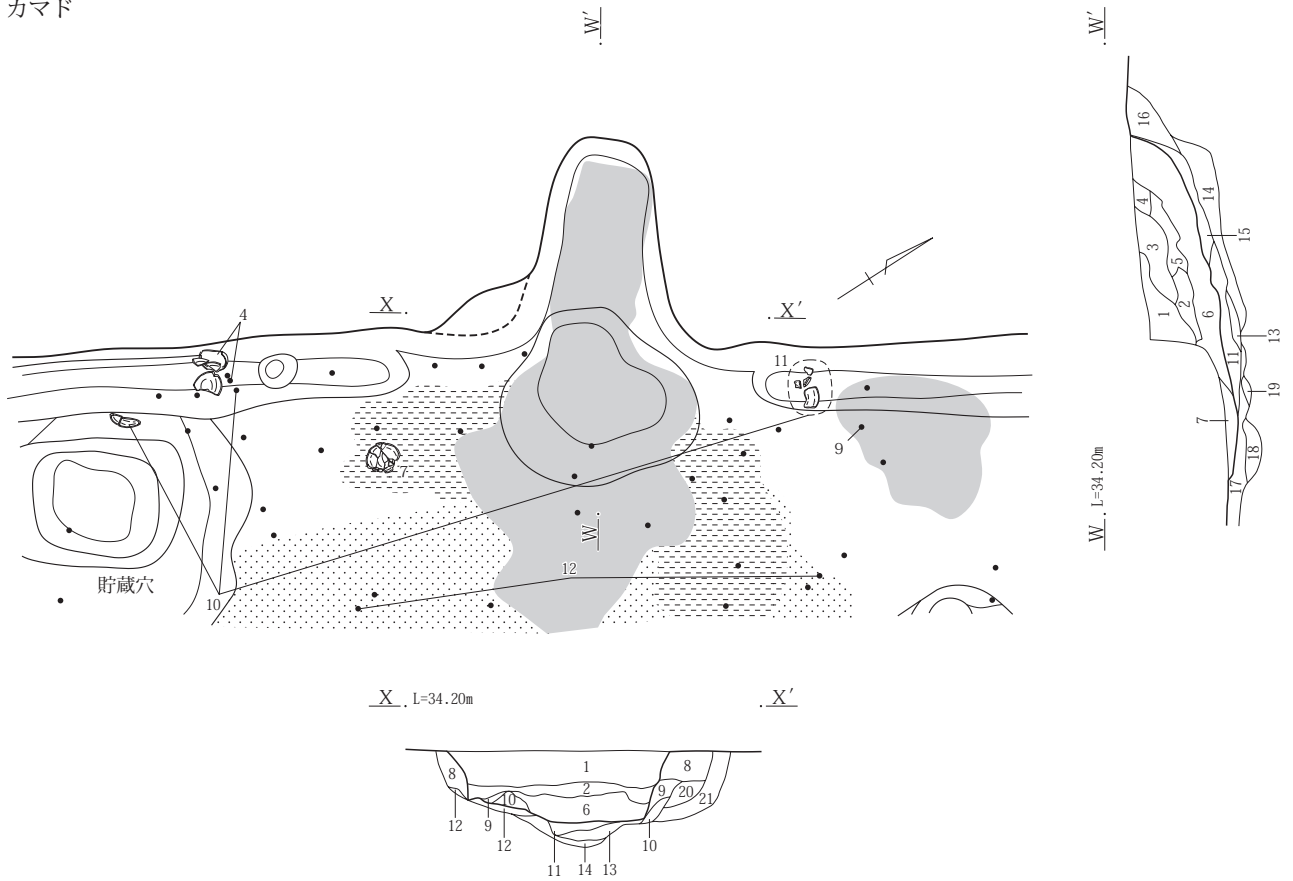
第17図 1区4号竪穴住居(2)

掘り方



第18図 1区4号竪穴住居掘り方

カマド



4号竪穴住カマドW-W'・X-X'

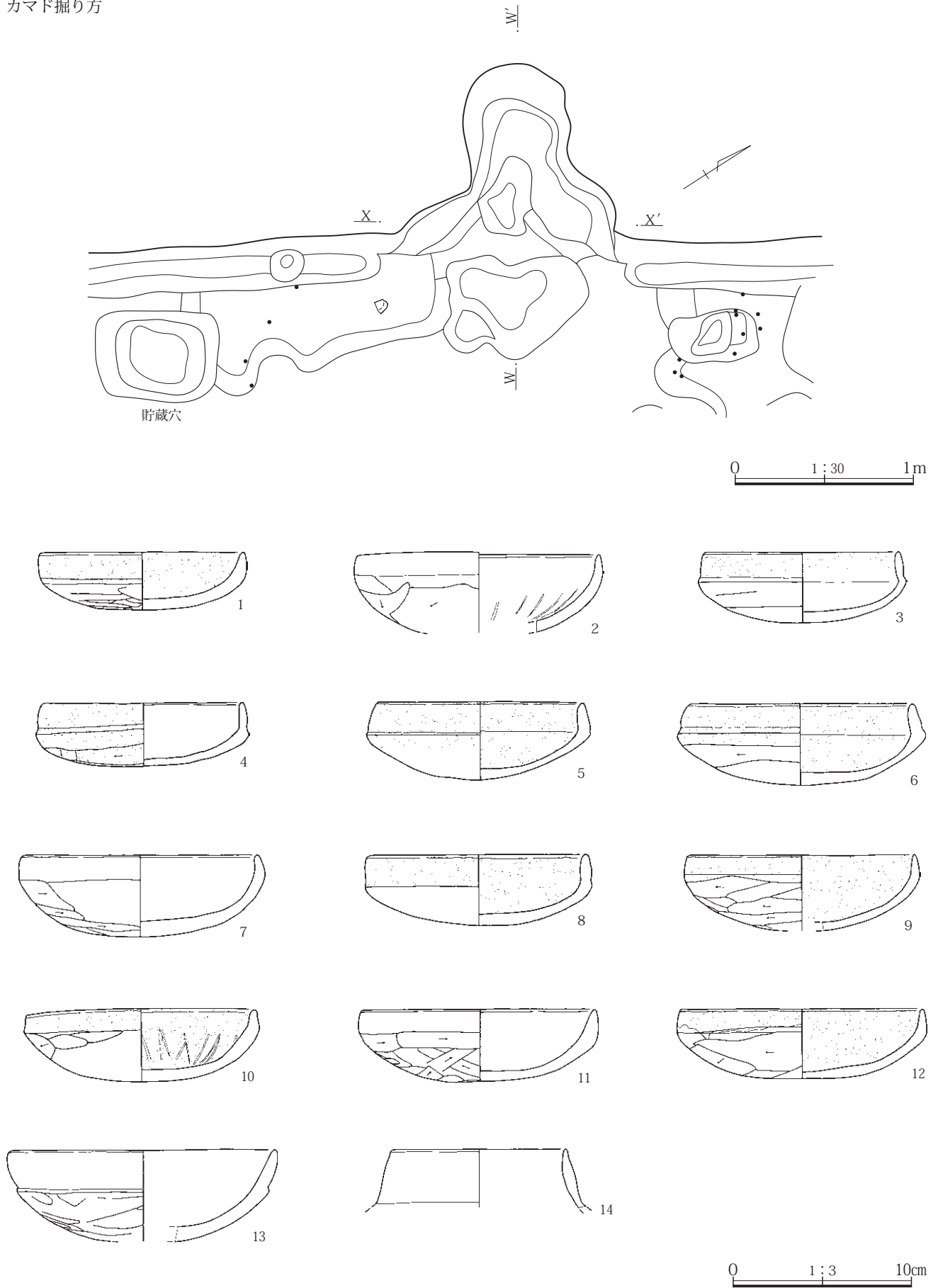
- 1 黒褐色砂質土 ローム中粒5%、灰白色粘土少量、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 カマド部材の崩落土層、炭化物粒・焼土粒含む、縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 カマド材小塊・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 焼土主体40%、縮まりやや弱
- 5 黒褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒少量、縮まりやや弱
- 6 焼土主体 黒褐色砂質土+焼土小塊40%、縮まりややあり
- 7 褐灰色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 8 黒褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒・カマド材微量、縮まりややあり
- 9 灰黄褐色砂質土 カマド材小塊、焼土小塊・粒少量、縮まりやや弱
- 10 にぶい黄褐色土 ローム中心土層、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 11 黒褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 12 10層土よりやや黒味あり、カマド袖材
- 13 にぶい黄褐色土 ローム塊20%、縮まり粘性ややあり
- 14 にぶい黄褐色土 ローム主体、縮まりややあり
- 15 灰黄褐色砂質土 焼土層、焼土30%、縮まりやや弱
- 16 灰黄褐色土 炭化物粒・焼土粒少量、縮まりやや弱
- 17 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小塊5%、炭化物粒・焼土粒少量、縮まりやや弱
- 18 灰黄褐色砂質土 ハードローム大塊20%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 19 灰黄褐色砂質土 ソフトローム20%、縮まりやや弱
- 20 灰黄褐色砂質土 カマド袖シルト質材と灰黄褐色土の混土、縮まりやや弱
- 21 灰黄褐色砂質土 カマド袖シルト質土+灰黄褐色土+ソフトローム10%、縮まりやや弱

0 1:30 1m

第19図 1区4号竪穴住居カマド



カマド掘り方



第20図 1区4号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物

1区5号竪穴住居(第21・22図 PL. 8)

位置 X=140~150、Y=-183~187

形状・規模 形状は方形である。規模は長軸長3.50m、短軸長3.27m、壁高北壁16cm、南壁19cm、東壁9cm、西壁22cmを測る。床面積は10.65㎡である。

主軸方向 N-144°-W

重複 1区10号掘立柱建物P1と重複する。住居床面に残存する硬化面を1区10号掘立柱建物P1が掘り込んでいるため5号竪穴住居が古い。

埋没土 土層断面の観察から、住居の壁やカマドの崩落土が認められる。ローム小粒や炭化物粒などを含む黒褐色土と暗褐色土によってほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しが行われた可能性がある。

床面 北壁際から東壁際にかけてやや低くなるが、床面高低差は少なくほぼ平坦である。カマド焚口周辺から住居中央部にかけて不定形の硬化面が残存し、ハードローム塊などを含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 南壁中央部に付設する。燃焼部側壁を攪乱によって失われるなど残存状況は全体的に不良である。確認できる規模は、全長52cm、幅49cm、左袖状残存部38cm、

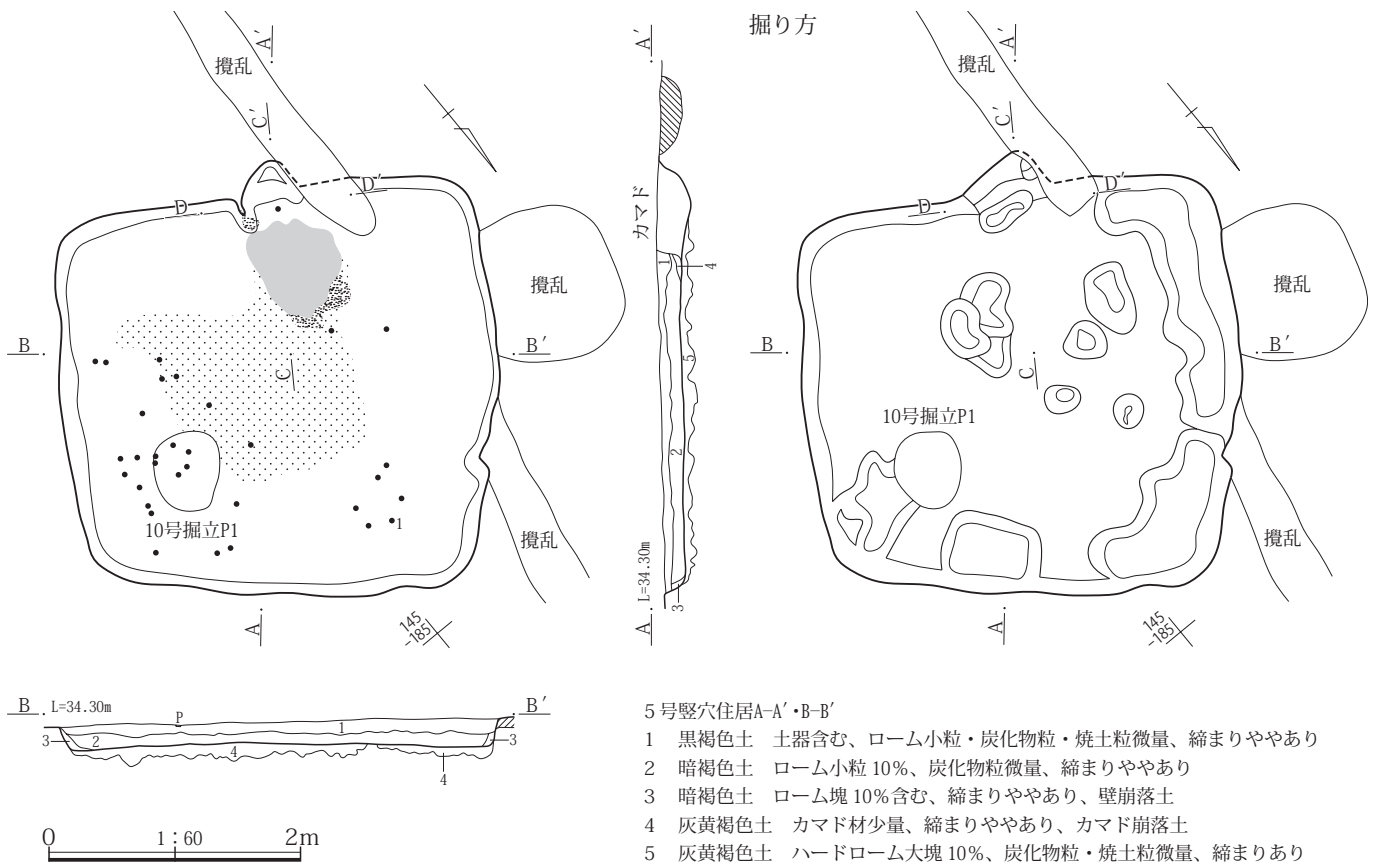
燃焼部奥から煙道32cmである。軸方向はN-220°-Eである。焚口から住居床面にかけて径80cmの範囲に焼土とカマド構築材の一部とみられる粘土が飛散する。焚口周辺から燃焼部にかけて約10~18cmの掘り方が認められ、住居掘り方埋没土に類似する灰黄褐色土によって燃焼面を整える。内部から炭化種実が出土し、自然科学分析の結果からイネ穎(基部)破片2個、キビ胚乳完形1個が検出された。

貯蔵穴・周溝・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

掘り方 床面からローム面まで5~15cm掘り込まれている。床下施設は確認できなかった。西壁際から北壁際は約50cm幅で溝状や土坑状に掘り窪められ、中央部に認められる大小ピット状の窪みは、柱穴を含む可能性がある。

遺物出土状態 床面北東部や北西部にかけて遺物が出土する。土師器杯(第22図1)は、北壁際隅の床面上7cmから出土し、住居に伴うと考えられる。非掲載遺物は、土師器片43点(小型製品40、大型製品2、不明1)である。

所見 出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。

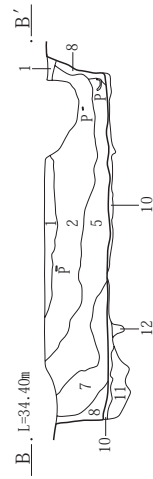
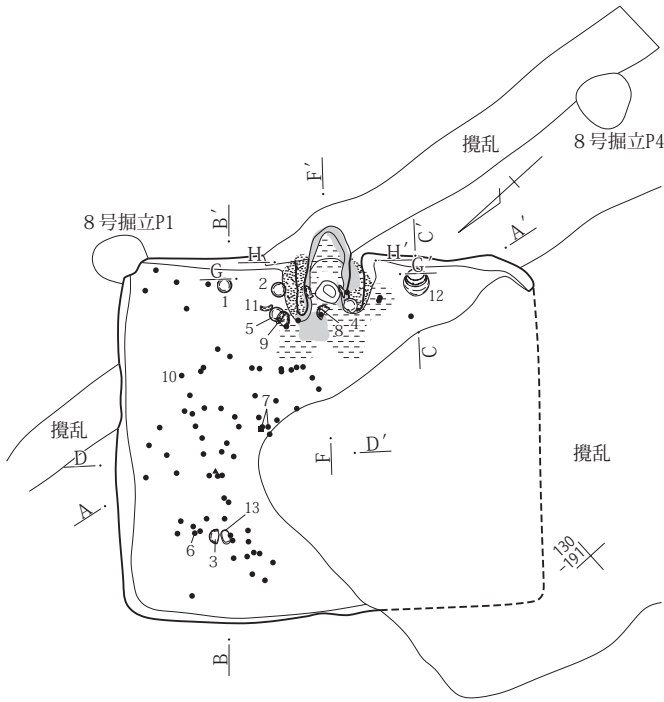


第21図 1区5号竪穴住居



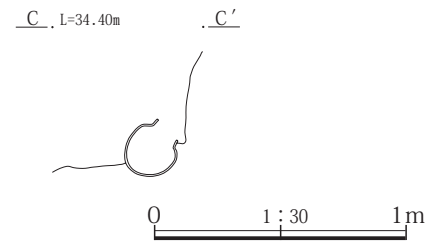
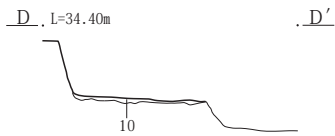
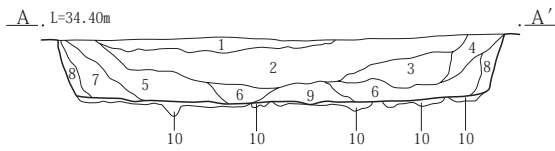


第3節 古墳時代の遺構と遺物

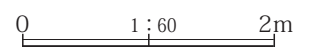
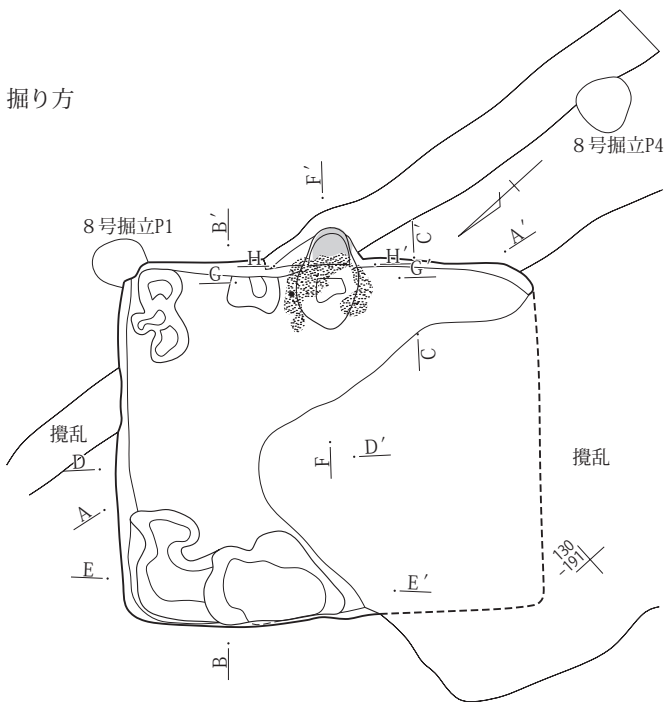


6号竖穴住居A-A'・B-B'

- 1 黒褐色砂質土 ローム2%、焼土小粒・炭化中粒微量、締まりややあり
- 2 褐灰色砂質土 ローム塊状3%、炭化中粒・焼土中粒微量、締まりややあり
- 3 灰黄褐色砂質土 ローム塊状10%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 4 褐灰色砂質土 ローム5%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 5 灰黄褐色砂質土 ローム粒・大塊10%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 6 黒褐色砂質土 ローム粒・大塊3%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 7 黒褐色砂質土 ローム粒・塊2%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 8 にぶい黄褐色砂質土 ローム・塊40%、締まりややあり、壁崩落土
- 9 灰黄褐色土 ローム塊主体、粘質土
- 10 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム小～中塊を含む、締まりあり
- 11 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム大塊40%、締り弱
- 12 にぶい黄褐色土 ハードローム中塊20%、締まりあり



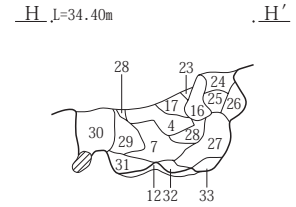
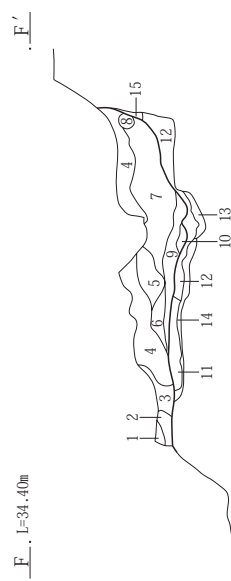
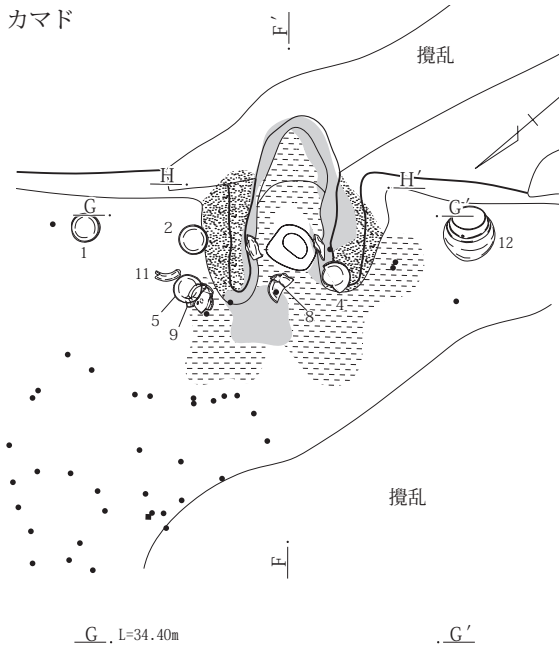
掘り方



第23図 1区6号竖穴住居

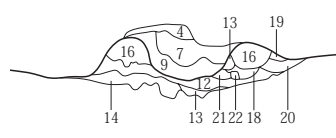
第3章 間之原遺跡の調査

カマド

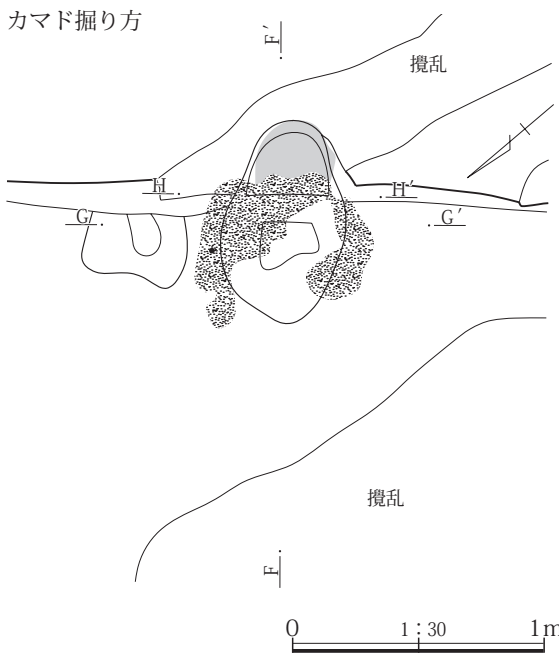


G, L=34.40m

F, L=34.40m



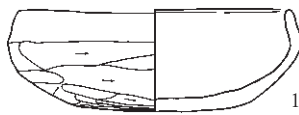
カマド掘り方



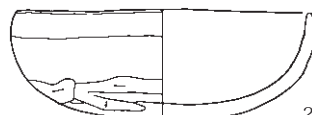
0 1:30 1m

6号竪穴住居カマドF-F'・G-G'・H-H'

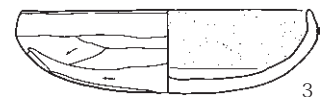
- 1 褐灰色砂質土 カマド材 10%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 カマド材崩落層、焼土粒微量、シルト質土、縮まりあり
- 3 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 4 灰黄褐色土 カマド材崩落層、シルト質中心、焼土粒微量、縮まりあり、粘性ややあり
- 5 灰黄褐色砂質土 カマド材少量、縮まりやや弱
- 6 灰黄褐色砂質土 炭化物粒多量、焼土粒少量、縮まりやや弱
- 7 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 8 明黄褐色土 ハードローム小塊
- 9 灰黄褐色土 焼土粒 40%、縮まりやや弱
- 10 焼土主体 縮まりややあり
- 11 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊 5%、貼床土
- 12 灰黄褐色土 炭化物粒・焼土粒やや多い
- 13 にぶい黄褐色土 支脚跡かボソボソする
- 14 にぶい黄褐色土 ハードローム小塊 40%
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体
- 16 にぶい黄褐色土 カマド材のシルト質土主体、縮まりあり
- 17 灰黄褐色砂質土 カマド袖部材 20%、縮まりやや弱
- 18 にぶい黄褐色土 ソフトロームを含む、砂質土、縮まりやや弱
- 19 にぶい黄褐色土 ソフトローム少量、砂質土主体、縮まりやや弱
- 20 にぶい黄褐色砂質土 ハードローム小塊・小粒 40%、縮まりやや弱
- 21 灰黄褐色砂質土 ロームを含む、縮まりやや弱
- 22 灰黄褐色砂質土 ローム多量
- 23 にぶい黄褐色砂質土 カマド材主体、縮まりややあり
- 24 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム 20%、縮まりやや弱
- 25 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム 30%、縮まりやや弱
- 26 にぶい黄褐色砂質土 カマド掘り方壁崩落土、縮まりやや弱
- 27 焼土主体 砂質土中心、縮まりやや弱
- 28 灰黄褐色砂質土 カマド部材の崩落土、縮まりやや弱
- 29 灰黄褐色土 焼土粒を含む、シルト質土中心
- 30 灰黄褐色土 シルト質土
- 31 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・ソフトローム 10%
- 32 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体
- 33 にぶい黄褐色土 カマド材のシルト質土とソフトローム



1



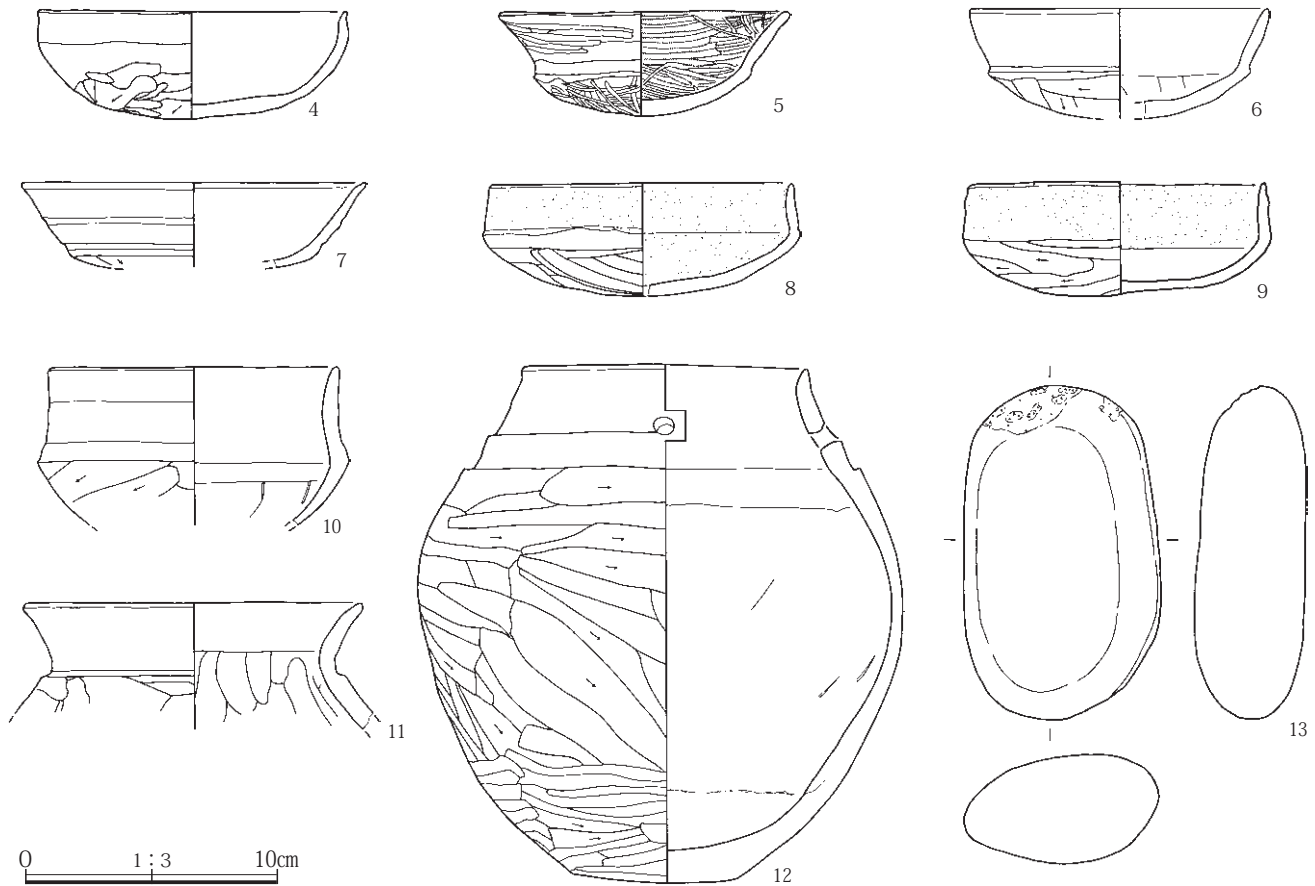
2



3

0 1:3 10cm

第24図 1区6号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第25図 1区6号竪穴住居出土遺物(2)

**1区12号竪穴住居**(第26・27図 PL. 9・77)

**位置** X=134~138、Y=-198~202

**形状・規模** 13号竪穴住居との重複や攪乱のため全体の形状と規模は不明である。確認できる規模は、南北長3.50m、壁高北壁29cm、南壁33cm、西壁15cmを測る。

**主軸方向** N-162°-E

**重複** 1区13号竪穴住居と重複する。1区12号竪穴住居が1区13号竪穴住居の南半部を掘り込む。

**埋没土** 第4層は壁崩落土とみられ、炭化物粒や焼土粒を含むにぶい黄褐色土と灰黄褐色土による三角堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 床面の高低差は殆どなく平坦である。使用による明瞭な硬化面は確認できなかったが、ハードローム塊を含むにぶい黄褐色土により床面を構築している。床面中央部において炭化物が集中して出土した。北壁周辺からは、重複する1区13号竪穴住居カマドの焼土と炭化物が確認された。

**カマド** 南西隅に付設する。確認できる規模は、焚口幅40cm、焚口から燃焼部奥行45cm、左袖状残存部28cm、右袖状残存部16cmである。軸方向は、N-204°-Eである。

燃焼部には焼土化が顕著に認められる。使用面は、住居床面より1~2cm低く、支脚石などは確認できなかった。掘り方は、2~7cm掘り込みソフトロームを含むにぶい黄褐色土によって床面および煙道部を整える。

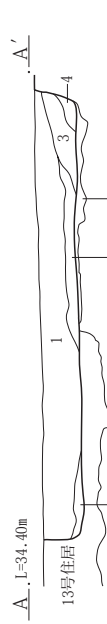
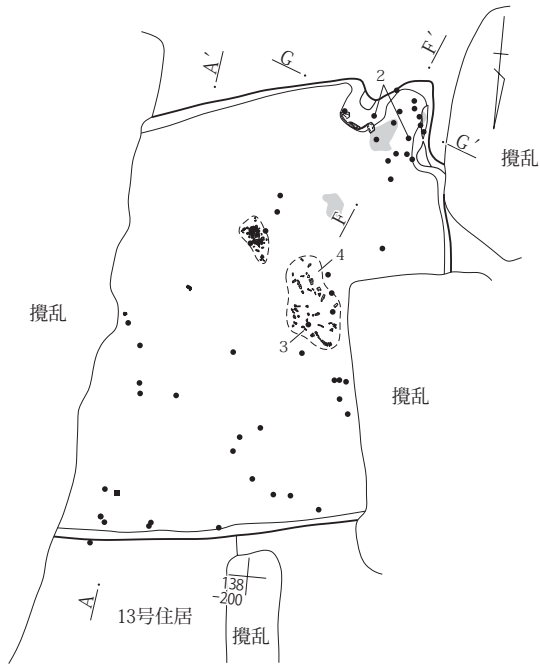
**貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**他の施設** 掘り方調査によって中央部やや北寄りから1号ピットを確認した。平面形状は円形で、長径37cm、短径34cm深さ42cmを測る。ソフトロームやハードローム小塊を含むにぶい黄褐色土と灰黄褐色土により埋没し、第2層は柱痕と考えられ柱穴として使用された可能性もある。

**掘り方** 北西隅周辺にかけて大小ピット状や溝状に2~10cm掘り窪めている。特に床下施設などは確認できなかった。

**遺物出土状態** カマド燃焼面から焚口周辺、住居中央部から北壁際にかけて遺物が出土する。土師器杯(第26図1)は埋没土から、土師器甕(同図2)はカマド燃焼部と燃焼部側壁左壁周辺からの出土である。鉄製品(同図3)は炭化材とともに床面直上から出土している。非掲載遺



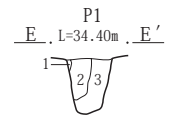
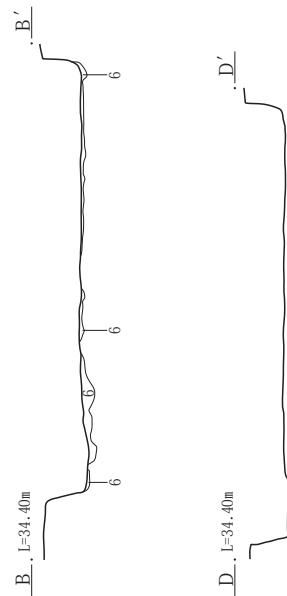
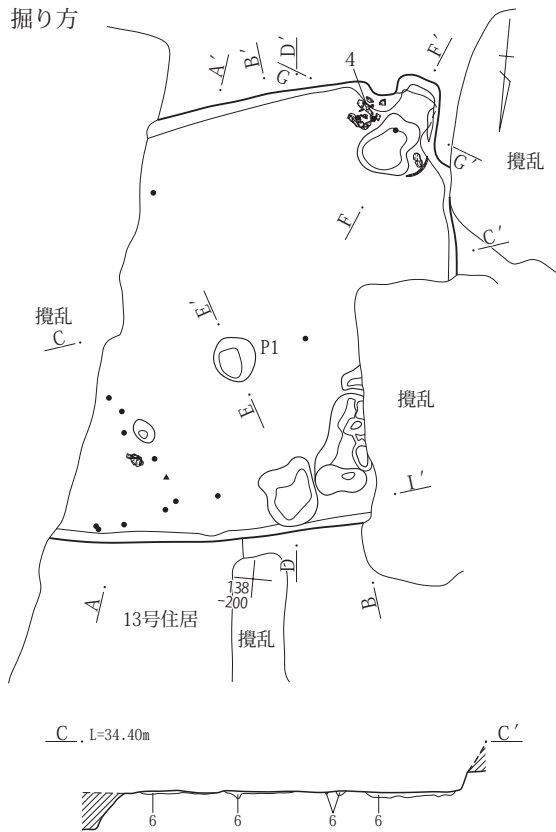


物は、土師器片513点(小型製品148、大型製品365)である。住居中央部の床面直上から出土した炭化材(同図4)のうち炭化種実を採取して自然科学分析を行った結果、キビ類・胚乳完形1個、キビ胚乳完形2個の他、イネ科胚乳完形2個、マメ科(アズキ類)(第317図28)1個、マメ科種子(第317図29)完形1個と破片6個がそれぞれ検出された。第5章第3節を参照されたい。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

12号竪穴住居P1A-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小〜大塊10%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 炭化物粒少量、焼土粒極少量、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊20%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊壁の崩落土5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 5 灰黄褐色砂質土 ハードローム小〜中塊2%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 6 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊を含む、縮まりあり



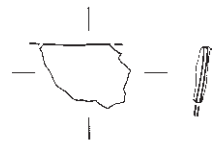
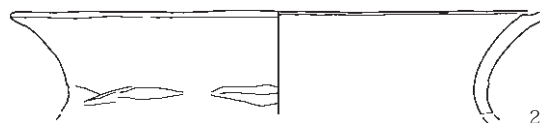
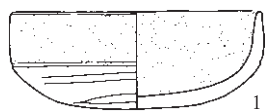
12号竪穴住居P1E-E'

- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、暗褐色土を含む、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム極小塊10%、縮まりややあり
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム小〜中塊5%、縮まりやや弱

0 1:60 2m

0 1:2 4cm

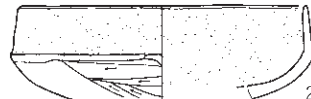
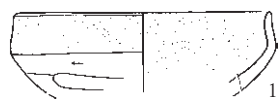
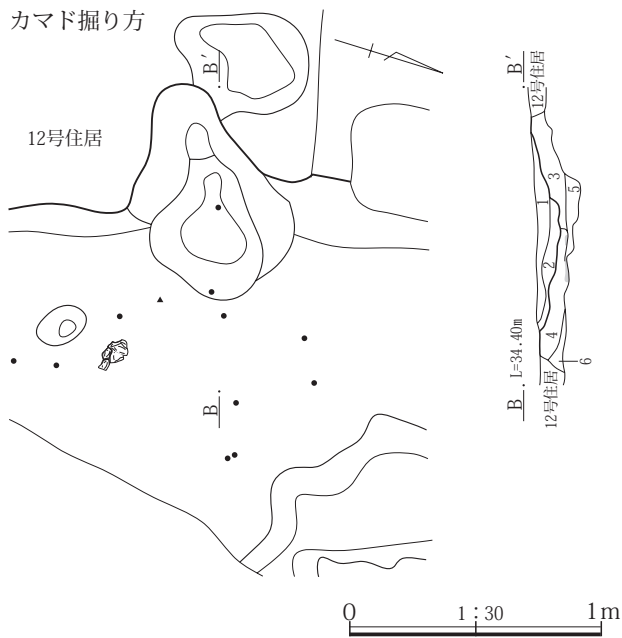
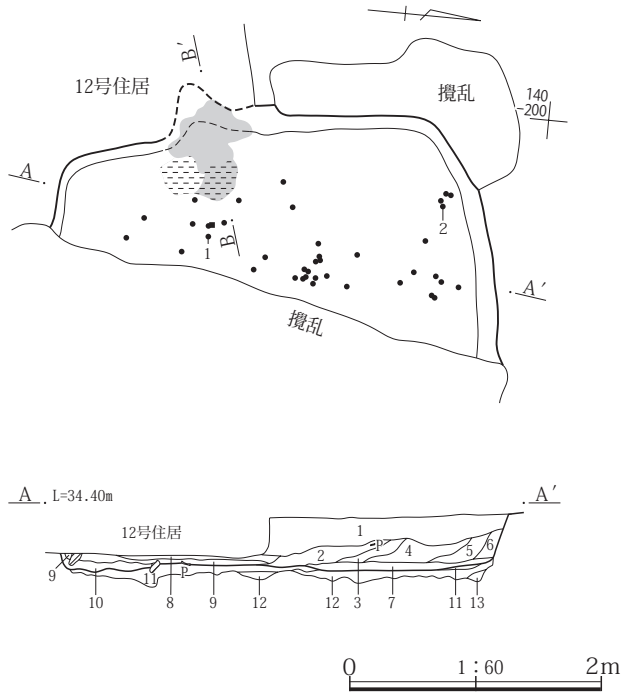
0 1:3 10cm



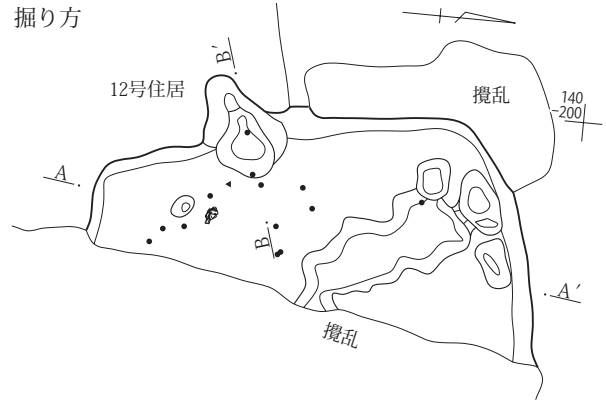
3 (1/2)

第26図 1区12号竪穴住居と出土遺物





0 1:3 10cm



13号竪穴住居A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊 5%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ソフトローム少量、ハードローム極小塊微量、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム大塊主体、焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊少量、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 5 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム中塊 5%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 6 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム中塊10%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 7 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム中～大塊20%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 8 灰黄色シルト質土(13号住居のカマド材) 5%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 9 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小塊 5%、炭化物粒・焼土粒を含む、締まりややあり
- 10 灰黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱
- 11 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 12 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、締まりややあり
- 13 にぶい黄褐色砂質土 暗褐色土を含む、締まりやや弱

13号竪穴住居カマドB-B'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフトローム少量、ハードローム極小塊微量、焼土粒・炭化物粒少量、締まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 1層土より焼土多量、締まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、ハードローム小～中塊 5%、締まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小塊 3%、焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱
- 5 灰黄褐色砂質土 締まり弱
- 6 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、締まりやや弱

第28図 1区13号竪穴住居と出土遺物



1区15号竪穴住居(第29・30図 PL.10)

位置 X=121~127、Y=-204~209

形状・規模 攪乱により北壁及び東壁の一部を失っているため、形状は長方形と考えられる。確認できる規模は、東西長3.65m、壁高西壁32cm、東壁30cm、南壁29cmである。

主軸方向 N-30°-E

重複 1区15号竪穴住居が1区14号竪穴住居より古い。

埋没土 焼土粒や炭化物を僅かに含む灰黄褐色土によって埋没する。壁際に三角堆積が認められ、ローム粒がやや多く含まれる。下層から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

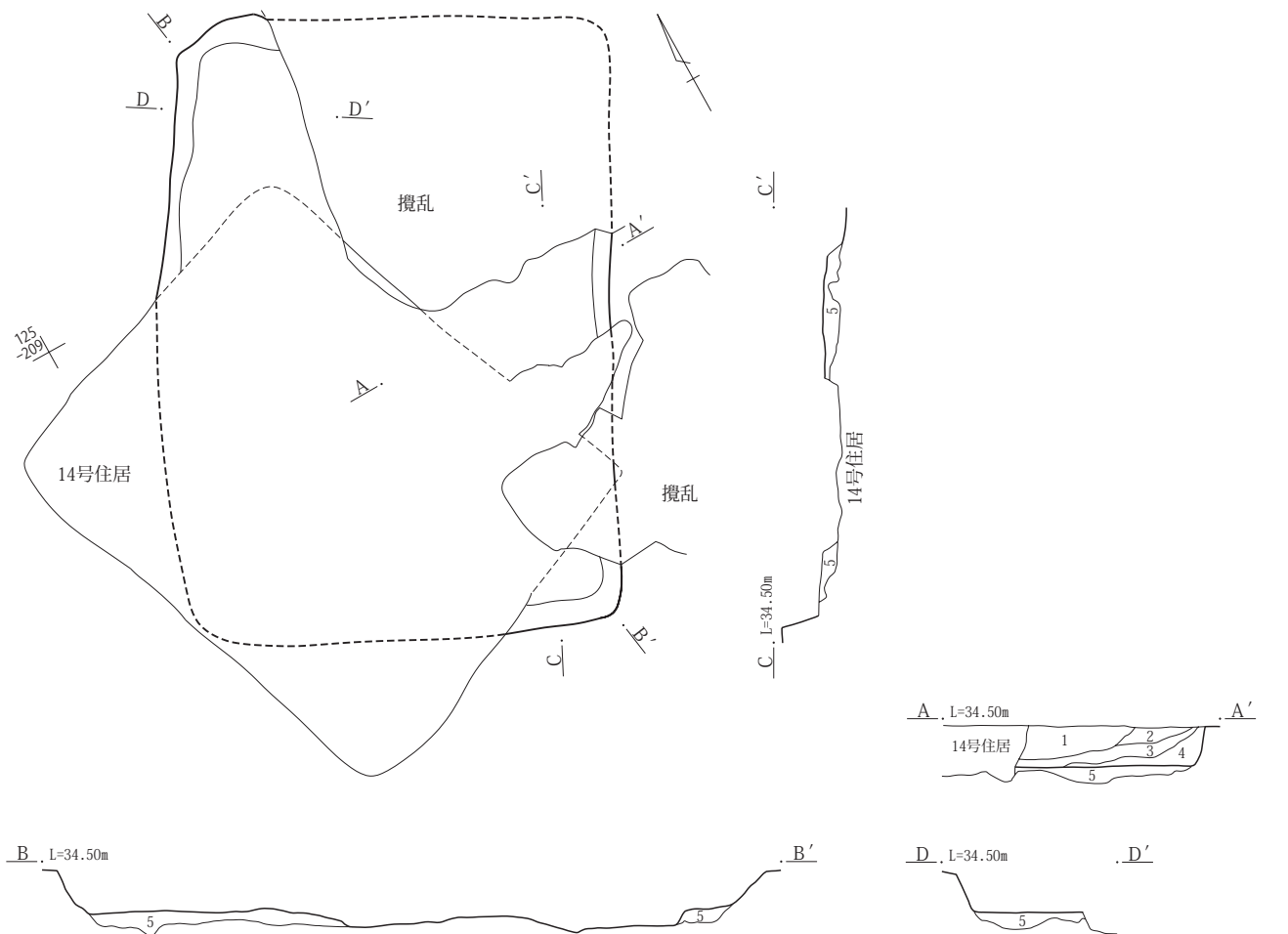
床面 確認できる床面範囲は一部であるが、高低差は少なくほぼ平坦と考えられる。使用による硬化面は確認できなかった。黒褐色土やハードローム塊を混入するにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド・貯蔵穴・柱穴 1区14号竪穴住居との重複や攪乱のため床面精査や掘り方調査でも確認できなかった。

掘り方 大小ピット状に約5cm掘り窪められているが、床下施設は確認できなかった。

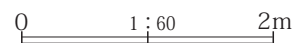
遺物出土状態 1区14号竪穴住居との重複や攪乱のため出土遺物は少なく、床面から出土した遺物はなかった。

所見 出土遺物などから時期は7世紀後半と考えられる。

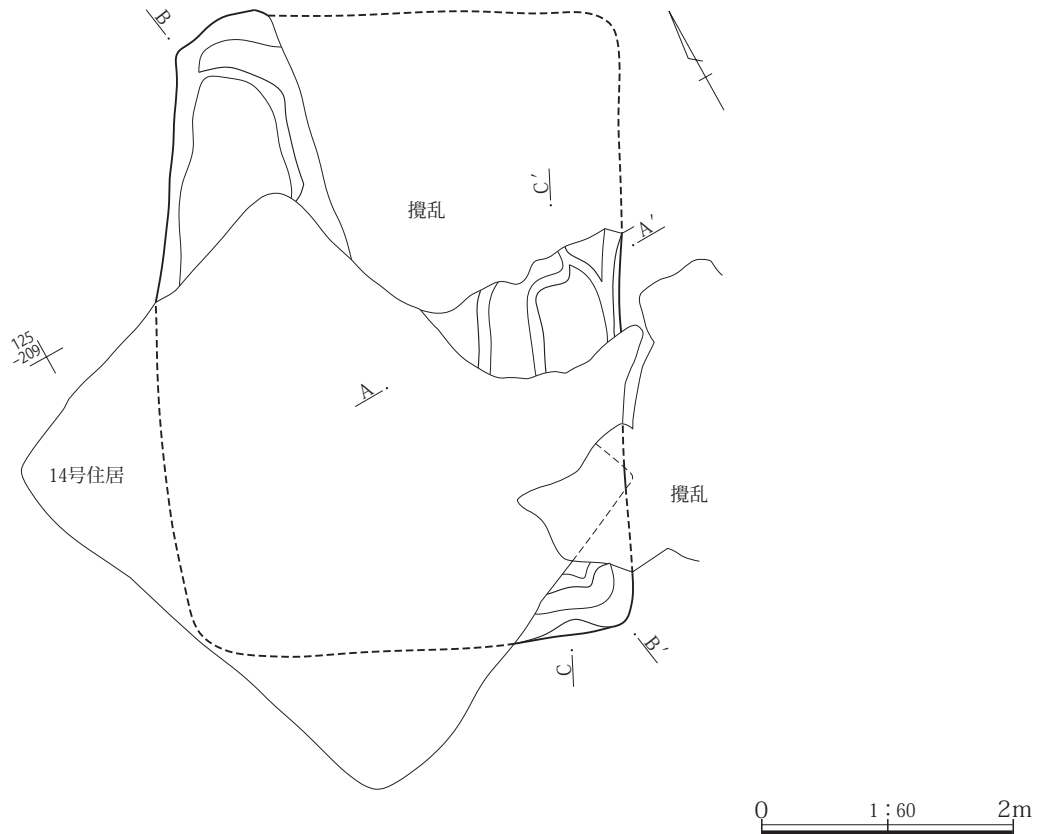


15号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色砂質土 ハードローム塊5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ハードローム塊・焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 ハードローム塊・焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム塊10%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、黒褐色土10~20%、ハードローム小~中塊10%、縮まりあり、粘性ややあり



第29図 1区15号竪穴住居



第30図 1区15号竪穴住居掘り方

**1区16号竪穴住居**(第31～39図 PL.10～13・78)

**位置** X=127～138、Y=-205～215

**形状・規模** 攪乱のため南東隅を失っているが、形状は方形である。規模は長軸長8.63m、短軸長8.45m、壁高北西壁40cm、南東壁及び南西壁43cm、東壁45cmを測る。確認できる面積は64.63㎡である。

**主軸方向** N-46°-W

**重複** なし。

**埋没土** 住居南西部の埋没土中にローム漸移層土塊やローム塊を多量に含む灰黄褐色土やにぶい黄褐色土の相互堆積が認められることから周堤帯の盛土などを投げ入れたことによる人為的な埋戻しと考えられる。

**床面** 床面の高低差は少なくほぼ平坦である。北壁際のカマド周辺部と南壁際の中央部から焼土が出土した。にぶい黄褐色土や灰黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北西壁から3基確認され、住居の建て替え時に改築したと考えられる。1号カマドは最も新しく、北壁東寄りに付設されていた。焼土面から煙道にかけて内側

壁面の焼土化が著しく上部構造が失われているが、比較的残存状況は良好である。全長2.20m、焚口幅70cm、焚口から焼土部奥行85cm、煙道34cm、左袖状残存部53cmを測り、1号カマドの軸方向は、N-44°-Wである。焚口から外側にかけて構築時に土坑状に掘り窪め、住居床面より焼土面が10cm低い。土師器甕(第38図8)は、支脚に転用した甕の可能性がある。甕内部からは、炭化種実が出土し、自然科学分析の結果からイネ胚乳破片2個、アワ?胚乳完形2個、キビ胚乳破片2個が検出された。2号カマドは2回目に構築し、北西壁やや西寄りに付設していた。周溝によって焼土部を掘り込まれ、上部構造も失われている。焚口幅42cm、煙道50cmを測り、2号カマドの軸方向は、N-52°-Wであり、1号カマドとほぼ同規模である。焼土部から炭化種実が出土し、分析の結果からイネ穎(基部)破片14個、イネ胚乳破片8個、コムギ胚乳完形1個と破片5個、アワ穎・胚乳完形(第316図11)1個、アワ?胚乳完形3個、キビ?胚乳完形2個の他、タゲ属果実完形1個を検出した。第5章第3節を

参照されたい。3号カマドは北西壁中央部に構築された最も古いカマドである。焚口幅52cm、煙道25cmである。3号カマドの軸方向は、N-46°-Wであり、住居の主軸方向と一致する。住居床面から3号カマド使用面は10cm低い。2号カマドと同様に周溝によって燃焼面の一部は壊されているが、燃焼面奥から煙道、天井にかけて残存状況は比較的良好であり焼土も多量に認められる。燃焼部側壁などは失われている。

**貯蔵穴** 住居北東隅、1号カマド右側に構築する。形状は円形であり、規模は長径80cm、短径75cm、深さ53cmを測る。埋没土は、焼土粒、炭化物粒の他、カマド構築材と考えられる暗灰黄色シルト質土塊を多く含むため人為的な埋戻しの可能性がある。出土した炭化種実を観察しイネ(PL.78-10・11)を検出した。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査によって主柱穴及び支柱穴を確認した。1号カマドを備える最も新しい時期の住居に伴う主柱穴は、P1～P3である。形状及び規模は、P1(円形、長径75cm、短径72cm、深さ76cm)、P2(楕円形、長径92cm、短径73cm、深さ82cm)、P3(不定形、長径69cm、短径62cm、深さ86cm)であり、P1～P2間は5.55m、P2～P3間は5.35mを測る。P1及びP2は2番目に古い時期の住居柱穴を利用していった。断面の観察からはP1とP2にそれぞれ柱痕が認められる。主柱穴の軸線上に位置するP4とP5は支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P4(円形、長径35cm、短径33cm、深さ64cm)、P5(円形、径50cm、深さ68cm)である。2号カマドを備えた2番目に古い時期の住居に伴う主柱穴はP1・P2・P24であり、P12とP14は支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P24(楕円形、長径45cm、短径39cm、深さ65cm)、P12(円形、長径48cm、短径28cm、深さ42cm)、P14(円形、径53cm、深さ43cm)である。最初に構築した3号カマドを備えた住居に伴う主柱穴は、P8・P17・P23・P25で4基確認した。軸線上に位置するP7とP18は支柱穴と考えられる。主柱穴の形状及び規模は、P8(楕円形、長径58cm、短径49cm、深さ62cm)、P17(円形、長径66cm、短径64cm、深さ53cm)、P23(楕円形、長径42cm、短径30cm、深さ36cm)、P25(不定形、長径68cm、短径44cm、深さ48cm)であり、P7(楕円形、長径32cm、短径28cm、深さ45cm)、P18(円形、長径35cm、短径33cm、深さ63cm)である。P13(円形、長径33cm、短径26cm、深さ24cm)は床面中央

部に位置し、支柱穴として使用された可能性もある。

**周溝** 攪乱によって南東部は不明であるが、カマド付設部分以外は壁際に沿って全周すると考えられる。規模は、幅17～37cm、深さ8～14cmを測る。暗褐色土及び灰黄褐色土によって埋没する。南西壁や南東壁の周溝底面から長さ約7～28cm、深さ約3～16cmの小ピット状の窪みを連続的に確認し、壁面に付設した構造物に関連する痕跡の可能性はある。掘り方調査を行って南西壁際の新規周溝の内側と1号カマド焚口から外側に古い周溝の一部を確認した。規模は、幅27～37cm、深さ2～13cmを測る。

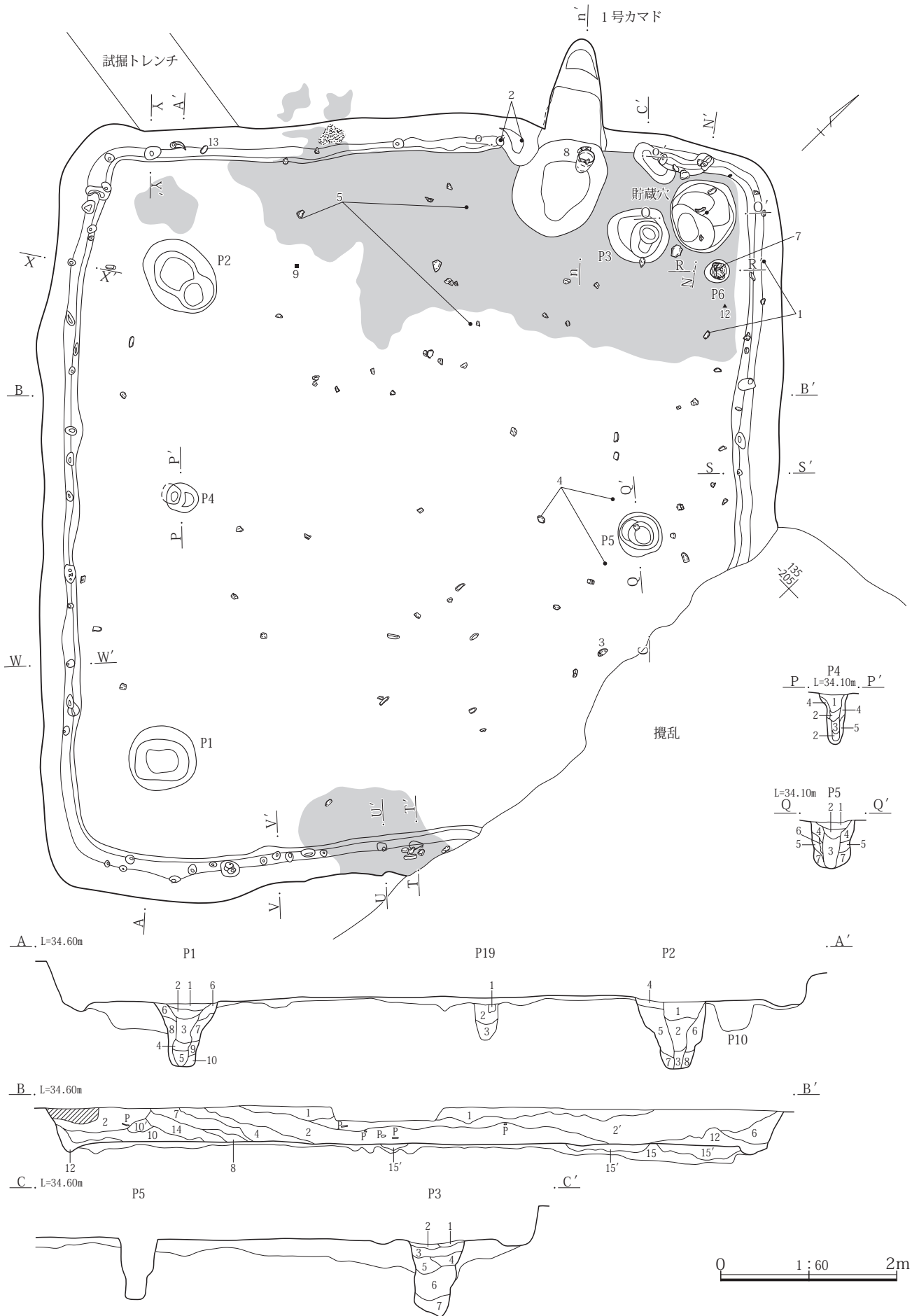
**他の施設** 主柱穴や支柱穴以外に何らかの施設であるピットを確認した。形状及び規模は、P6(円形、長径29cm、短径26cm、深さ10cm)、P9(円形、長径53cm、短径45cm、深さ46cm)、P10(楕円形、長径78cm、短径53cm、深さ31cm)、P15(楕円形、長径34cm、短径33cm、深さ40cm)、P16(隅丸方形、長径43cm、短径37cm、深さ50cm)を測り、掘り方調査を行ってP20(円形、径38cm、深さ35cm)、P21(不定形、長径50cm、短径36cm、深さ52cm)、P22(円形、長径66cm、短径42cm、深さ28cm)を確認する。P15・P16は南東壁際の中央部に位置し、出入口に設置した梯子など上部施設に伴う下部構造の可能性はある。南西壁際には、長さ96cm、幅33cm、深さ12cmの間仕切り溝を確認した。

**掘り方** 中央部をやや浅く、北西壁や北東壁沿いを土坑状に、南東壁際を溝状に深く掘り窪めている。

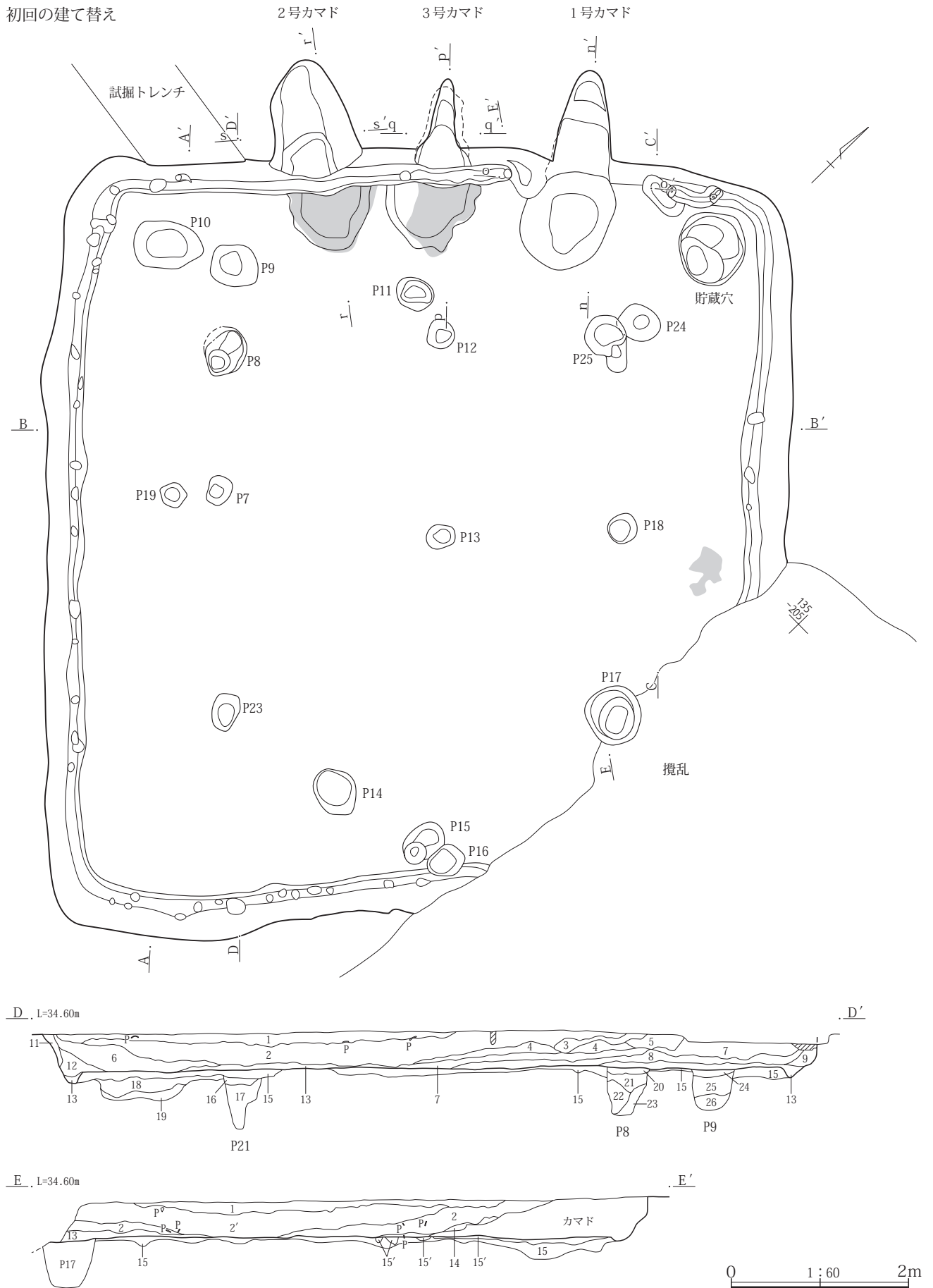
**遺物出土状態** 貯蔵穴周辺からカマド焚口を中心に遺物が出土しているが、主体は埋没土中である。出土した遺物のうち12点を図示した。土師器杯(第38図2)や須恵器鉢(第38図5)は床面直上から、土師器杯(第38図1・3)は、床面上3～4cmから出土し住居に伴うと考えられる。須恵器蓋(第38図4)、磨石(第39図12・13)、鉄製品(第39図9)は、床面上10cm以上の埋没土から、土師器甕(第39図7)は、P6内部からの出土である。土師器甕(第38図6)、丸玉(第39図14)は掘り方調査によって出土した。非掲載遺物は、土師器片5,0196点(小型製品1,454、大型製品3,442、不明120)、須恵器片59点(小型製品44、中型製品1、大型製品14)にのぼる。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。





第31図 1区16号竪穴住居(1)



第32図 1区16号竪穴住居(2)



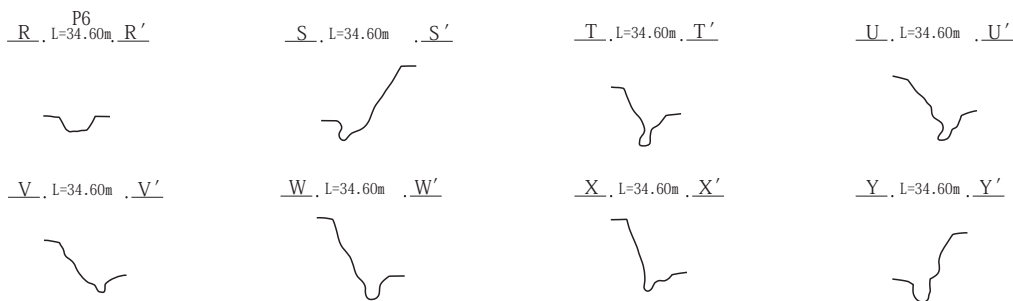


第3節 古墳時代の遺構と遺物

16号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'・D-D'・E-E'・F-F'

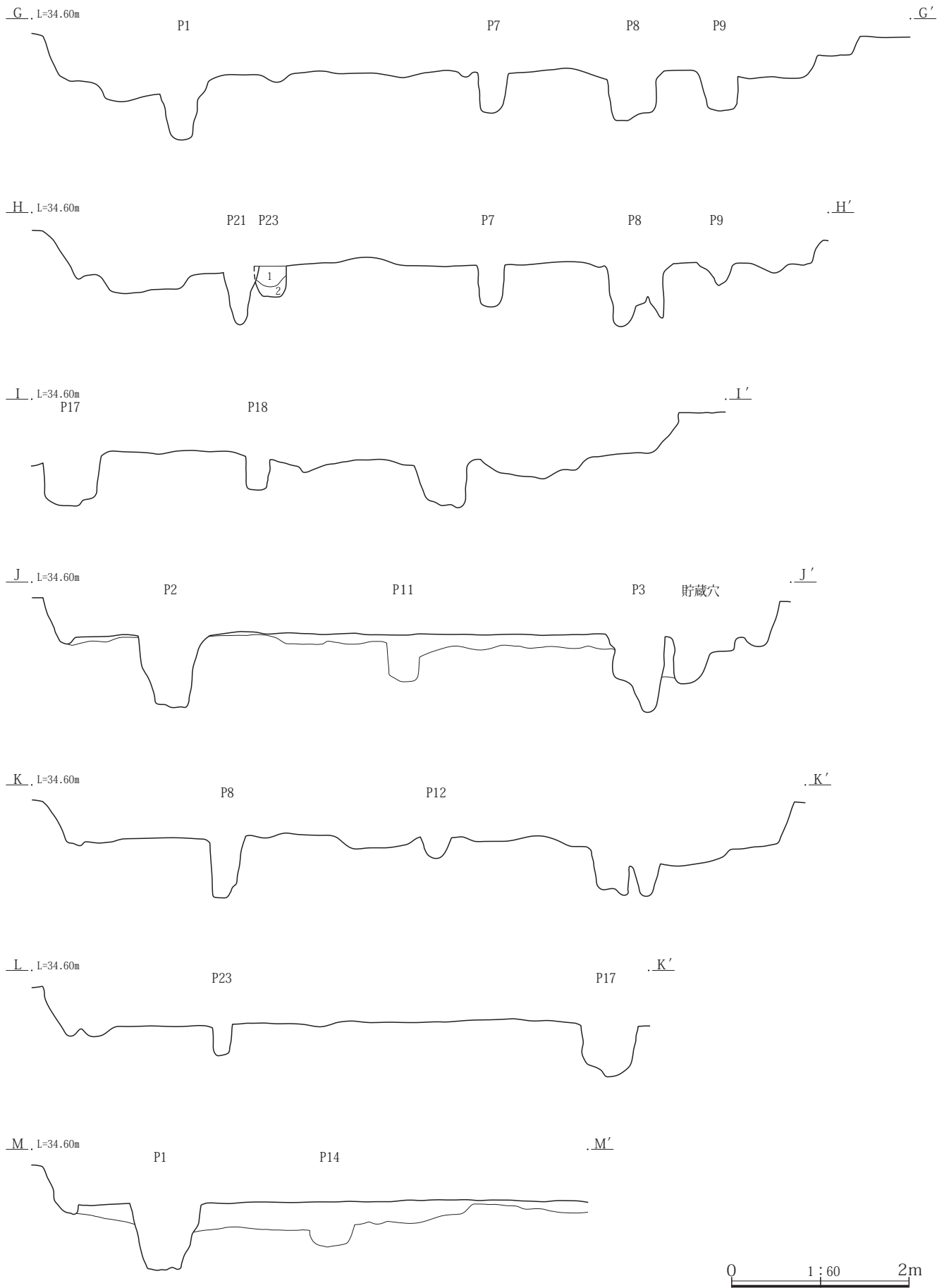
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物・ローム漸移層土中塊少量
  - 2 暗褐色土 ローム漸移層土大塊少量、ハードローム中塊・ローム粒・炭化物を含む
  - 2' 灰黄褐色土 2層土に類似、ハードローム小塊を含まない
  - 2'' 黒褐色土 ローム漸移層土中塊少量
  - 3 灰黄褐色土 ローム漸移層土小塊・ハードローム小塊多量
  - 4 にぶい黄褐色土 ローム粒・ハードローム中～大塊多量
  - 5 灰黄褐色土 ローム漸移層土小塊・ハードローム小塊少量
  - 6 暗褐色土 2層土に類似、ローム漸移層土大塊多量、ローム粒・焼土粒少量
  - 7 灰黄褐色土 3層土に類似、ローム漸移層土小塊多量・ハードローム小塊を含む
  - 8 にぶい黄褐色土 4層土に類似、ハードローム大塊多量
  - 9 暗褐色土 ローム粒・焼土粒少量、ハードローム小塊微量
  - 10 暗褐色土 6層土に類似、ローム漸移層土中塊・ローム粒多量、ハードローム小塊少量
  - 10' 灰黄褐色土 10層土に同じ、色調やや明るい
  - 11 にぶい黄褐色土 ローム粒・ソフトローム多量、ハードローム小塊少量、壁際崩落土
  - 12 暗褐色土 ローム粒・ハードローム小塊・焼土粒少量
  - 13 灰黄褐色土 ローム漸移層土小塊少量、ローム粒・ハードローム小塊を含む
  - 14 灰黄褐色土 3・7層土に類似、ローム漸移層土小塊多量、ハードローム小塊少量
  - 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム小塊5%、炭化物粒微量、締まりあり
  - 15' 灰黄褐色土 黒味強い、焼土小粒少量、締まりあり、貼床層
  - 16 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム大塊5% P21埋没土
  - 17 灰黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム大塊5% P20・21埋没土
  - 18 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム大塊10%
  - 19 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム中塊少量
  - 20 にぶい黄褐色土 ローム小～大塊60%、締まりあり、粘性少ない、
  - 21 にぶい黄褐色土 ローム小～大塊10%
  - 22 にぶい黄褐色土 ソフトローム小塊70%
  - 23 にぶい黄褐色土 ソフトローム中塊90%、20～23層はP8埋没土
  - 24 にぶい黄褐色土 ローム大塊30%、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量、締まりあり
  - 25 灰黄褐色土 ローム大塊5%、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量
  - 26 黒褐色土 ローム粒・極小塊3%、24～26層はP9埋没土
- 16号竪穴住居P1A-A'
- 1 灰黄褐色土 ソフトローム少量、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 2 灰黄褐色土 ソフトローム少量、ハードローム小塊・炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 3 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム小塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 4 黒褐色土 ソフト・ハードローム極小～大塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 5 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小～小塊10%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心、焼土微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小～小塊5%、締まりやや弱、粘性少ない

- 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム極小～小塊10%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 9 灰黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 10 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 16号竪穴住居P2A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 にぶい黄褐色土シルト質土5%、焼土小～中粒・炭化物粒・灰色軽石粒少量、締まりややあり、粘性ややあり
  - 2 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小～中塊10%、焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない
  - 3 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊5%、締まりややあり、粘性少ない
  - 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小～中塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
  - 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム極小～大塊10%、締まりややあり、粘性少ない
  - 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム極小～小塊5%、締まりややあり、粘性少ない
  - 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体・ハードローム極小10%、締まりややあり、粘性少ない
  - 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、黒味ややあり、ハードローム極小塊5%、締まりややあり、粘性少ない
- 16号竪穴住居P3C-C'
- 1 灰黄色土 焼土・焼土小～中粒5%、締まりややあり、粘性少ない、カマド袖の崩落土
  - 2 暗灰黄色土 焼土小粒・炭化物小粒少量、灰白色軽石小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
  - 3 黒褐色土 焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量
  - 4 黒褐色土 ローム極小～大塊20%、暗灰黄色土10%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 5 暗灰黄色土 暗灰黄色シルト質土、カマド袖崩落土中心層、締まりやや弱、粘性少ない
  - 6 灰黄褐色土 ローム小～大塊10%、暗灰黄色土5%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 7 灰黄褐色土 ローム極小～小塊5%、暗灰黄色土少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 16号竪穴住居P4P-P'
- 1 黒褐色土 ソフト・ハードローム極小塊5%、炭化物粒・焼土粒・灰色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、黒褐色土少量、締まりややあり、粘性ややあり
  - 3 にぶい黄褐色土 2層土に比べ黒味強い、締まりややあり、粘性ややあり
  - 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、やや色味が暗い、締まりややあり、粘性ややあり
  - 5 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、締まりややあり、粘性ややあり
- 16号竪穴住居P5Q-Q'
- 1 灰黄褐色土 焼土小～中粒・炭化物小～中粒・灰色軽石微細粒少量、ソフトローム、締まりやや弱、粘性少ない
  - 2 灰黄褐色土 ソフトローム30%、締まりやや弱、粘性ややあり
  - 3 黒褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小塊微量、締まりやや弱、粘性ややあり
  - 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム極小塊5%、締まりやや弱、粘性ややあり
  - 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性ややあり
  - 6 にぶい黄褐色土 締まりやや弱、粘性ややあり
  - 7 灰黄褐色土 やや締まりなし、粘性ややあり

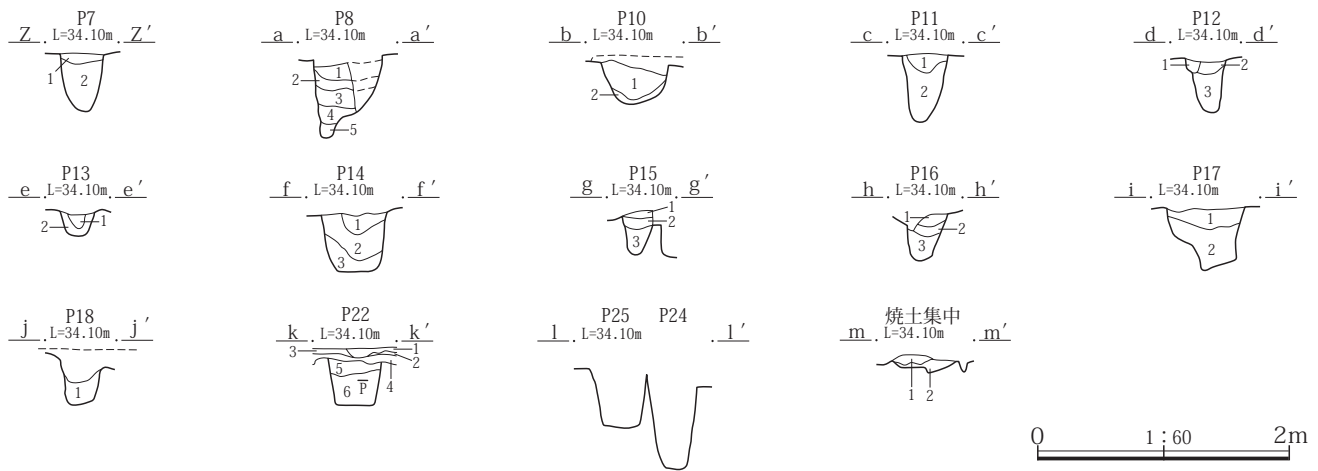


第34図 1区16号竪穴住居(4)

第3章 間之原遺跡の調査



第35図 1区16号竪穴住居(5)



16号竪穴住居P23H-H'

- 1 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ローム小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P7Z-Z'

- 1 黄褐色土 ローム粒・極小塊 10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 暗灰黄色土 ローム中粒 30%、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P8a-a'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム粒・極小〜中塊20%、灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・極小〜大塊15%、灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 土器含む、ローム・小〜大粒70%、灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム小粒 20%、灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ローム主体・ローム極小〜大塊80%、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P10b-b'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ローム粒・極小塊、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない

16号竪穴住居P11c-c'

- 1 灰黄褐色土 焼土小〜中粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P12d-d'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム塊、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 土器含む、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊 10%、灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P13e-e'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム塊、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 焼土微細粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない

16号竪穴住居P14f-f'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム極小〜小塊60%、締まりあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊 40%、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P15g-g'

- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりあり
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊 10%、灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム 20%、灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P16h-h'

- 1 灰黄褐色土 灰白色軽石小粒微量、締まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体60%、ローム小〜中塊10%
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム

16号竪穴住居P17i-i'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム60%、ローム粒・極小〜大塊20%、炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム 30%、ローム粒・極小塊 10%、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P18j-j'

- 1 黒褐色土 ローム 10%、ローム粒・小塊 5%、焼土粒・炭化物微細粒・灰白色軽石粒微量

16号竪穴住居P19A-A'

- 1 褐灰色土 ローム小粒 5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 2層土より黒味強い、ソフトローム 20%、締まりやや弱、粘性少ない

16号竪穴住居P22k-k'

- 1 2号カマド第12層土
- 2 2号カマド第13層土
- 3 2号カマド第14層土
- 4 2号カマド第24層土
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・小〜中塊・焼土小粒・炭化物微細粒微量、締まり弱、粘性少ない
- 6 黒褐色土 土器含む、ローム極小塊・焼土微細粒・炭化物微細粒微量、締まり弱、粘性少ない

16号竪穴住居焼土集中

- 1 褐色土 焼土小〜中粒 20%、ローム小〜中粒 5%、炭化物微細粒微量
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊 10%、焼土微細粒微量

第36図 1区16号竪穴住居(6)

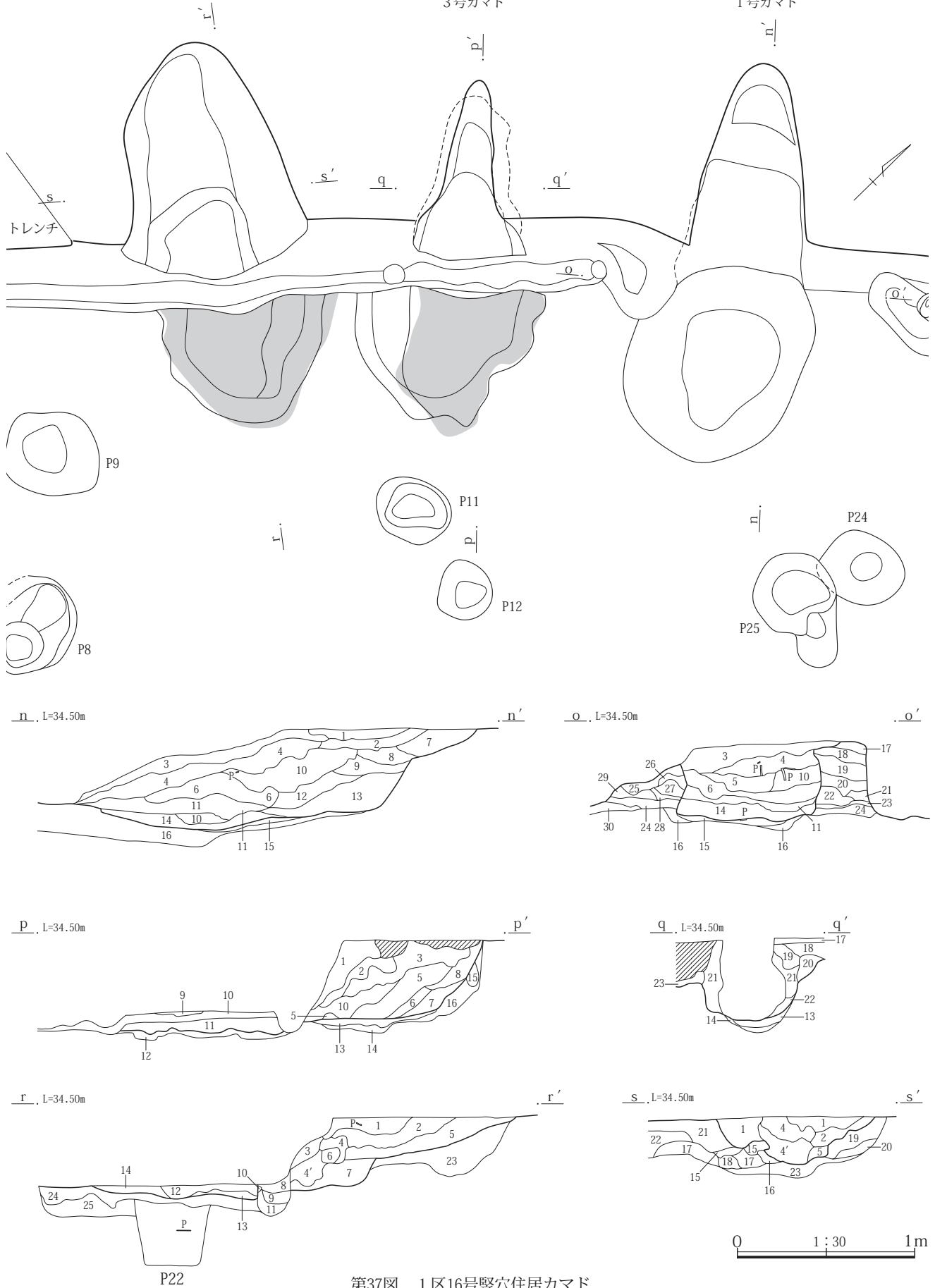
第3章 間之原遺跡の調査

カマド

2号カマド

3号カマド

1号カマド



第37図 1区16号竪穴住居カマド



## 16号竪穴住居1号カマドn-n'・o-o'

- 1 灰黄褐色土 ローム極小～大塊・炭化物中粒・焼土中粒・灰白色軽石微細粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム極小粒5%、炭化物小～中粒・焼土小粒・灰白色軽石微細粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 3 暗灰黄色土 焼土小～中粒少量、明灰黄色シルト質土粒・炭化物粒・白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 4 灰黄色土 灰黄色シルト質土20%、締まりややあり、粘性少ない
- 5 黄褐色土 灰オリーブ色シルト質土20%、焼土小～大粒10%、締まりややあり、粘性少ない
- 6 暗灰黄色土 灰オリーブ色シルト質土・焼土小粒・中塊10%、炭化物微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム極小粒・炭化物小粒・焼土小～中粒・灰白色軽石微細粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 8 暗灰黄色土 シルト質土主体、焼土小粒・小塊・炭化物小～中粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 9 暗灰黄色土 シルト質土主体、焼土粒・炭化物粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 10 淡黄色土 焼土主体、焼土80%、シルト質土10%、締まりあり、粘性少ない
- 11 暗灰黄色土 焼土小粒・小塊20%、6層土より焼土多め、灰オリーブ色シルト質土5%、締まりややあり、粘性少ない
- 12 暗灰黄色土 シルト質土主体、焼土小～中粒・炭化物小粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 13 暗灰黄色土 やや黒味強い、シルト質土層、焼土小粒・炭化物微細粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 14 焼土主体 炭化物粒少量、シルト質土微量、締まりややあり、粘性少ない
- 15 暗灰黄色土 灰オリーブ色シルト質土5%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 16 灰オリーブ色土 灰オリーブ色シルト質土30%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 17 灰黄色土 シルト質土主体、袖天井の崩落土
- 18 灰黄褐色土 ローム小～中粒・焼土小～中粒・炭化物小粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 19 黄褐色土 浅黄色シルト質土大塊10%、焼土小～中粒・炭化物小粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 20 にぶい黄褐色土 焼土小～大粒5%、浅黄色シルト質土極小塊少量、ローム小粒・炭化小粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 21 にぶい黄褐色土 浅黄色シルト質土10%、締まり強、粘性少ない
- 22 黄褐色土 浅黄色シルト質土大塊30%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 23 黒褐色土 炭化物小粒少量、焼土粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 24 灰黄褐色土 浅黄色シルト質土小塊・焼土小～中粒少量、炭化物微細粒微量、締まり極く良、粘性少ない
- 25 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり極く良、粘性少ない
- 26 浅黄色土 浅黄色シルト質土主体、焼土少量、締まり強、粘性少ない
- 27 にぶい赤褐色土 焼土主体、浅黄色シルト質土の焼土化か、締まり強、粘性少ない
- 28 灰黄褐色土 浅黄シルト質土極小塊少量、焼土粒・灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない
- 29 浅黄色土 浅黄シルト質土主体、焼土小粒微量、締まり極く良、粘性少ない
- 30 灰黄褐色土 焼土小～中粒少量、灰白色軽石微細粒微量、締まり強、粘性少ない

## 16号竪穴住居3号カマドp-p'・q-q'

- 1 黄褐色土 ローム小粒・焼土小～中粒・炭化物小粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 焼土小粒少量、ローム微細粒・灰白色軽石粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 3 にぶい赤褐色土 焼土主体、焼土粒・小～中20%、浅黄色シルト質土小塊微量、締まりあり、粘性少ない
- 4 灰褐色土 焼土主体、焼土小～大粒10%、浅黄色シルト質土塊・炭化物中粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 5 にぶい赤褐色土 焼土主体、焼土小～大粒20%、浅黄色シルト質土極小塊微量、締まりあり、粘性少ない
- 6 にぶい褐色土 焼土小粒5%、ローム少量、締まりあり、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 焼土小粒5%、締まりあり、粘性少ない
- 8 褐色土 焼土小粒20%、締まりあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 焼土微細粒・炭化物微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 10 褐色土 焼土主体、焼土小～大粒20%、締まりややあり、粘性少ない
- 11 灰褐色土 焼土40%、焼土小～大粒・炭化物中粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 12 灰黄褐色土 焼土中粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 13 褐色土 灰10%、焼土小粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 14 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、締まりややあり、粘性少ない
- 15 灰褐色土 ソフトローム20%、焼土小粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 ソフトローム5%、締まりややあり、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 焼土中粒3%、ローム粒・灰黄色シルト質土・炭化小粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 18 灰黄褐色土 焼土小粒・ローム粒・炭化微細粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 19 灰黄褐色土 焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 20 にぶい褐色土 焼土30%、焼土小～大粒10%、ローム小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 21 にぶい赤褐色土 焼土主体70%、焼土中粒少量、灰黄色シルト質土・炭化物微細粒微量
- 22 褐色土 焼土大粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 23 にぶい黄褐色土 焼土粒・ローム小粒・灰白色シルト質土微量、締まり弱、粘性少ない

## 16号竪穴住居2号カマドr-r'・s-s'

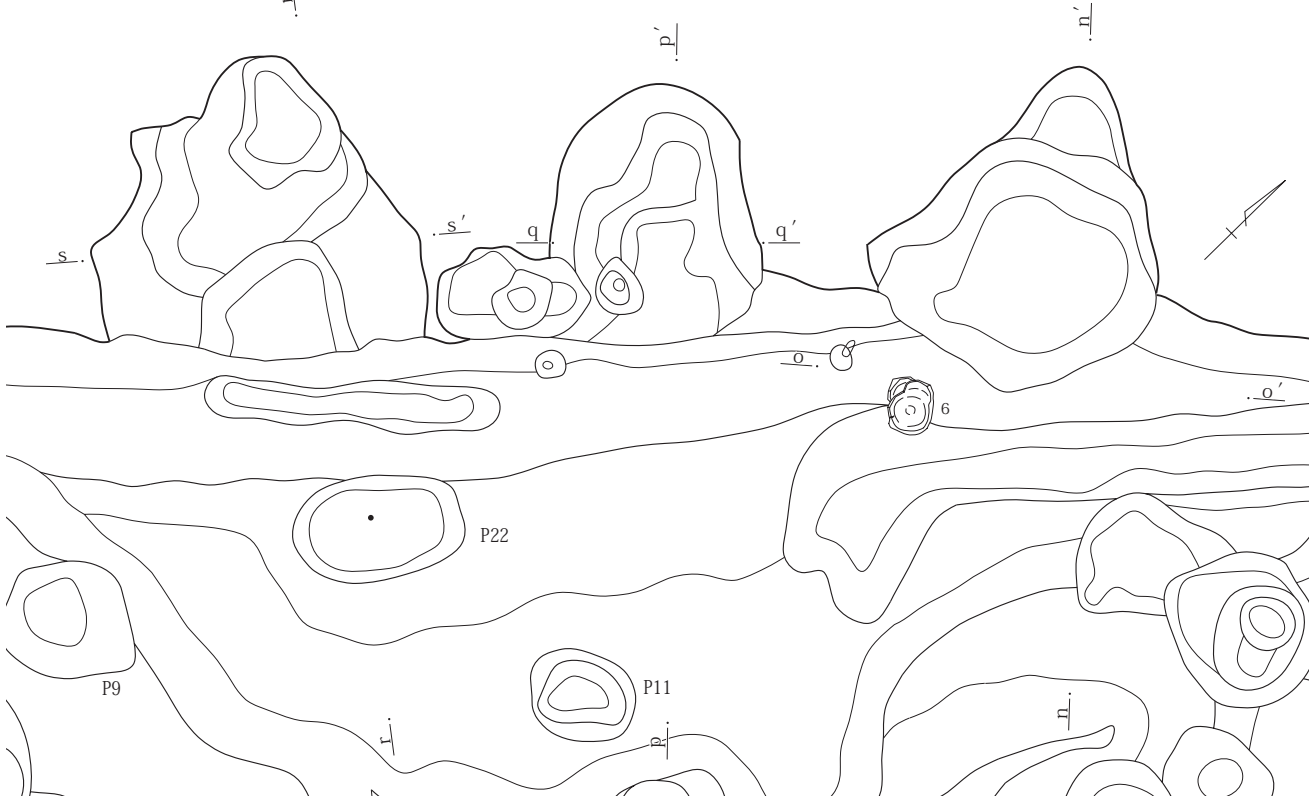
- 1 灰黄褐色土 ローム小粒・中塊・焼土小～中粒・灰白色軽石微細粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊、焼土粒・大塊、炭化物微細粒・灰白色軽石微細粒、締まりあり、粘性少ない
- 3 灰黄色土 シルト質土中心、焼土小粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 4 焼土主体 焼土70%、土器含む、炭化物粒・ローム粒・灰白色軽石粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 4' 灰黄褐色土 焼土30%、焼土大塊5%、締まりあり、粘性少ない
- 5 黄褐色土 灰白色土を含む、灰白色軽石粒、焼土大粒5%、炭化物小粒少量、ローム小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 6 黄褐色土 灰白色軽石粒、焼土大粒5%、炭化物小粒少量、ローム小粒微量、褐色土多量、締まりあり、粘性少ない
- 7 にぶい黄色土 ローム主体一部、シルト質土、焼土微細粒含む、締まりあり、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 焼土小粒・炭化物微細粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 10 焼土 焼土60%以上、締まりあり、粘性少ない
- 11 黒褐色土 シルト質土小塊少量、焼土粒・炭化物小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 12 にぶい赤褐色土 焼土主体層、焼土小～大粒20%、灰黄色シルト質土5%、炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量
- 13 黒褐色土 焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒・ローム小～中粒微量
- 14 灰黄褐色土 ソフトローム・ローム小～大粒5%、灰黄色シルト質土少量、焼土小粒・炭化小～中粒微量
- 15 灰白色土 シルト質土主体、焼土小～大粒、灰白色軽石粒を含む、締まりあり、粘性少ない
- 16 黄灰色土 シルト質土20%、締まりあり、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 焼土粒・大塊10%、シルト質土・ローム5%、締まりあり、粘性少ない
- 18 灰黄褐色土 焼土小～大粒少量、炭化物小粒・ローム小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 19 灰黄褐色土 焼土小粒・灰白色シルト質土小～大塊微量、締まりあり、粘性少ない
- 20 灰黄褐色土 灰白色シルト質土小～大塊・ローム少量、焼土小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 21 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒、灰白色軽石粒(微細粒)微量、締まりあり、粘性少ない
- 22 灰黄褐色土 ローム微細粒・焼土粒・炭化物粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 23 灰黄褐色土 焼土小～中粒3%、ローム粒・灰黄色シルト質土・炭化中粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 24 にぶい黄褐色土 ローム塊40%、焼土小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 25 灰黄褐色土 ローム粒・小～大塊30%、締まりやや弱、粘性少ない

第3章 間之原遺跡の調査

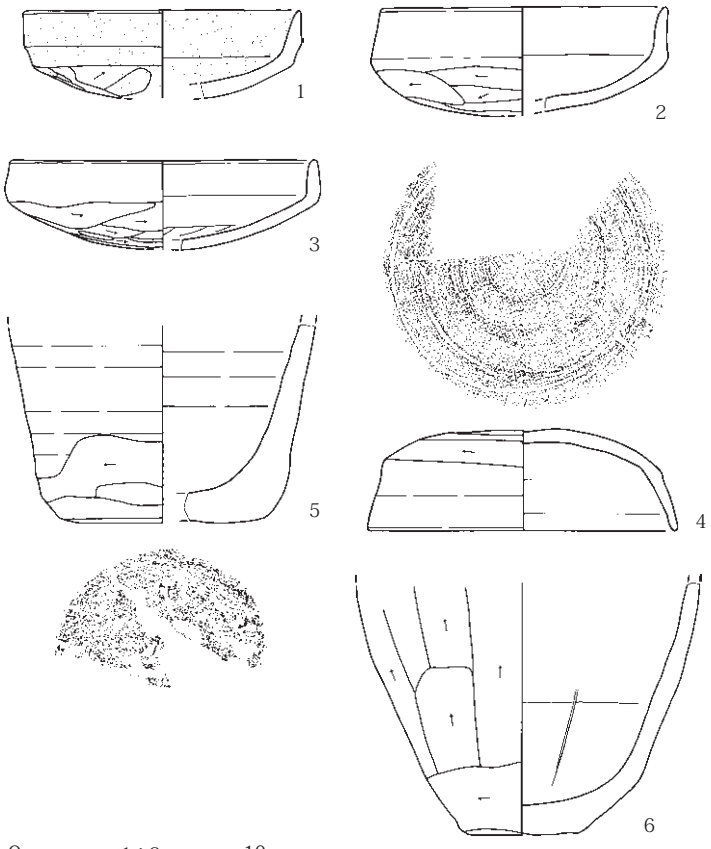
カマド掘り方 2号カマド

3号カマド

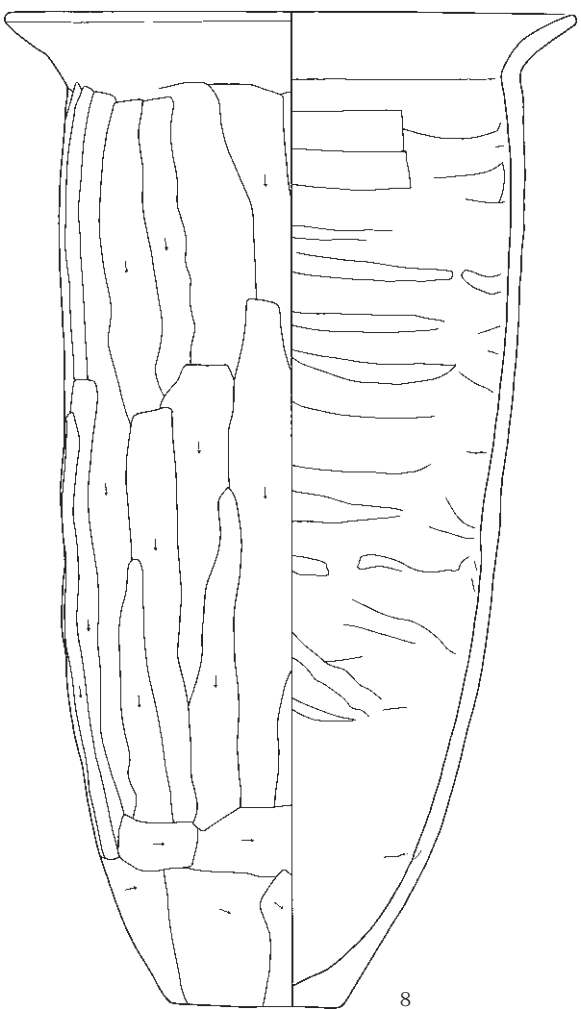
1号カマド



0 1:30 1m

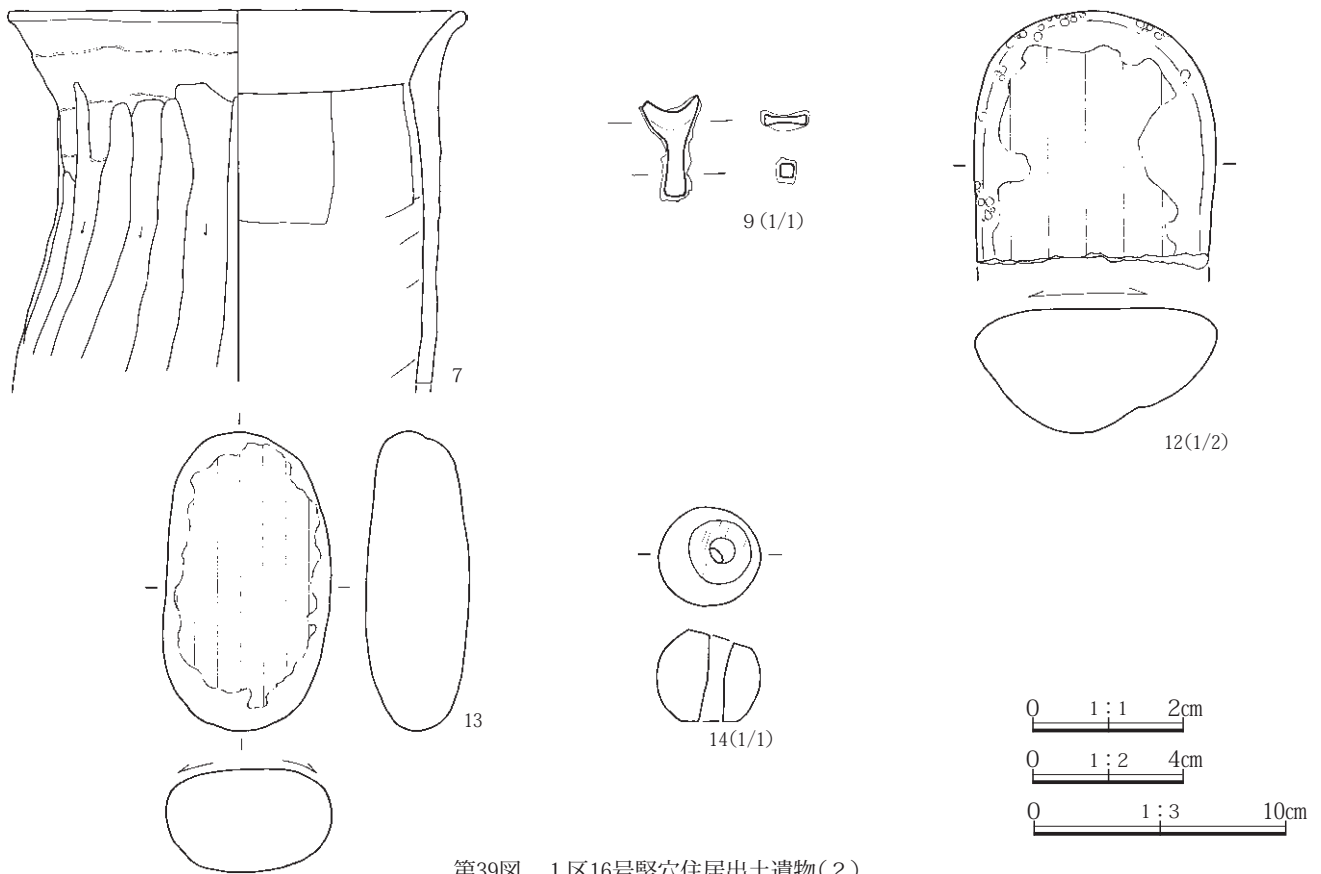


0 1:3 10cm



8

第38図 1区16号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)



第39図 1区16号竪穴住居出土遺物(2)

1区19号竪穴住居(第40図 PL.13)

位置 X=119~121、Y=-214~216

形状・規模 調査区南境に位置し、形状及び全体の規模は不明である。住居の一部のみであり、規模は壁高北壁59cmである。

主軸方向 不明。

重複 なし。

埋没土 カマドの一部のみを確認したため、全体の埋没状況は不明である。

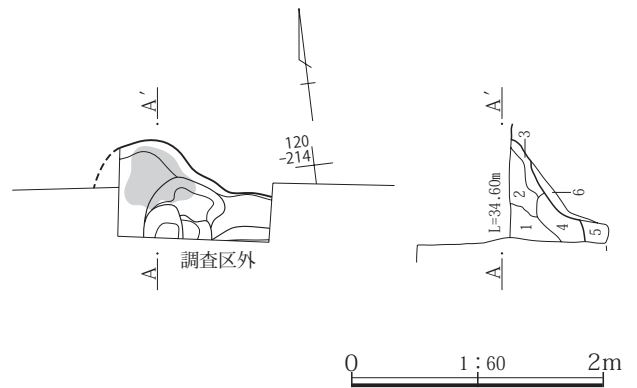
床面 明瞭な床面を確認できなかったが、第5層上面が床面の高さとして想定される。

カマド 北壁に付設する。焼土塊を主体とする第2層と第4層は、カマドの煙道部と考えられる。ピット状の窪みが認められ、ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土によって使用面を構築したと考えられる。

貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

遺物出土状態 出土遺物は少なく、非掲載遺物であるが、土師器片5点(大型製品4、不明1)が出土した。

所見 出土遺物は少ないが、時期は6~7世紀と考えられる。



19号竪穴住居A-A'

- 1 灰黄褐色土 焼土小粒少量、炭化物粒・灰白色軽石微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 明赤褐色土 焼土主体、焼土粒・小~大塊80%、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム10%、焼土小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒・小塊20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、ローム極小塊10%、縮まりやや弱、粘性少ない

第40図 1区19号竪穴住居

1区20号竪穴住居(第41~46図 PL.13・14・78)

位置 X=124~133、Y=-214~223

形状・規模 形状は方形である。規模は長軸長6.60m、短軸長6.43m、壁高北壁40cm、南壁42cm、東壁41cm、西壁31cmを測る。床面積は42.19㎡である。

主軸方向 N-54°-W

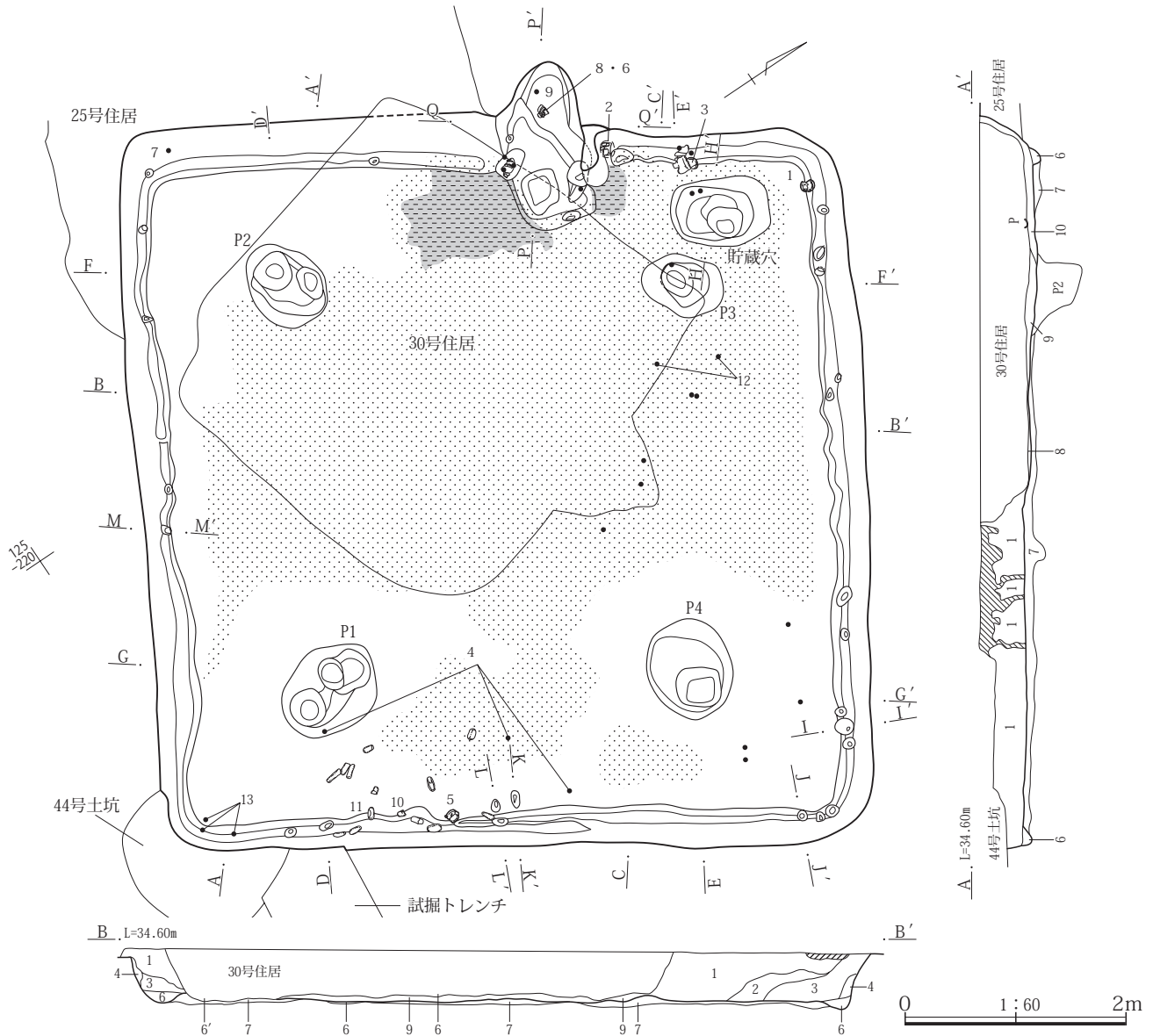
重複 1区20号竪穴住居が、1区25号竪穴住居の埋没土を掘り込み、1区30号竪穴住居に掘り込まれている。1区44号土坑が南東隅の壁を掘り込む。

埋没土 壁際に崩落土が認められる。床面から上層にかけてローム漸移層土塊を多量に含む灰黄褐色土によって一括した状態で埋没していたことから、人為的な埋戻しが行われた可能性がある。

床面 床面の高低は少なくほぼ平坦であるが、P4周辺

から壁際にかけて5~10cm低い。4本の支柱穴で囲まれた内側の範囲やカマド焚口周辺において硬化面が顕著に認められる。ローム塊を含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 住居西壁やや北寄りに付設する。1区30号竪穴住居と重複し、燃烧部側壁左壁が失われている。確認できる規模は、全長1.52m、焚口幅65cm、焚口から燃烧部奥行73cm、右袖状残存部56cmである。軸方向は、N-53°-Wであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。燃烧部側壁から住居床面にかけて焼土と炭化物が広範囲に残存する。使用面は住居床面より2~5cm低く、土師器甕(第45図8・9)、土師器鉢(第45図6)が出土する。掘り方は、燃烧面を約5cm、焚口から住居床面にかけて約10cm掘り込み床面を整える。



第41図 1区20号竪穴住居(1)



**貯蔵穴** カマド右側に構築する。形状は隅丸長方形、規模は長径90cm、短径60cm、深さ60cmを測る。上層に炭化物や焼土粒が含まれ、灰黄褐色土を主体とする黒褐色土やにぶい黄褐色土により埋没する。

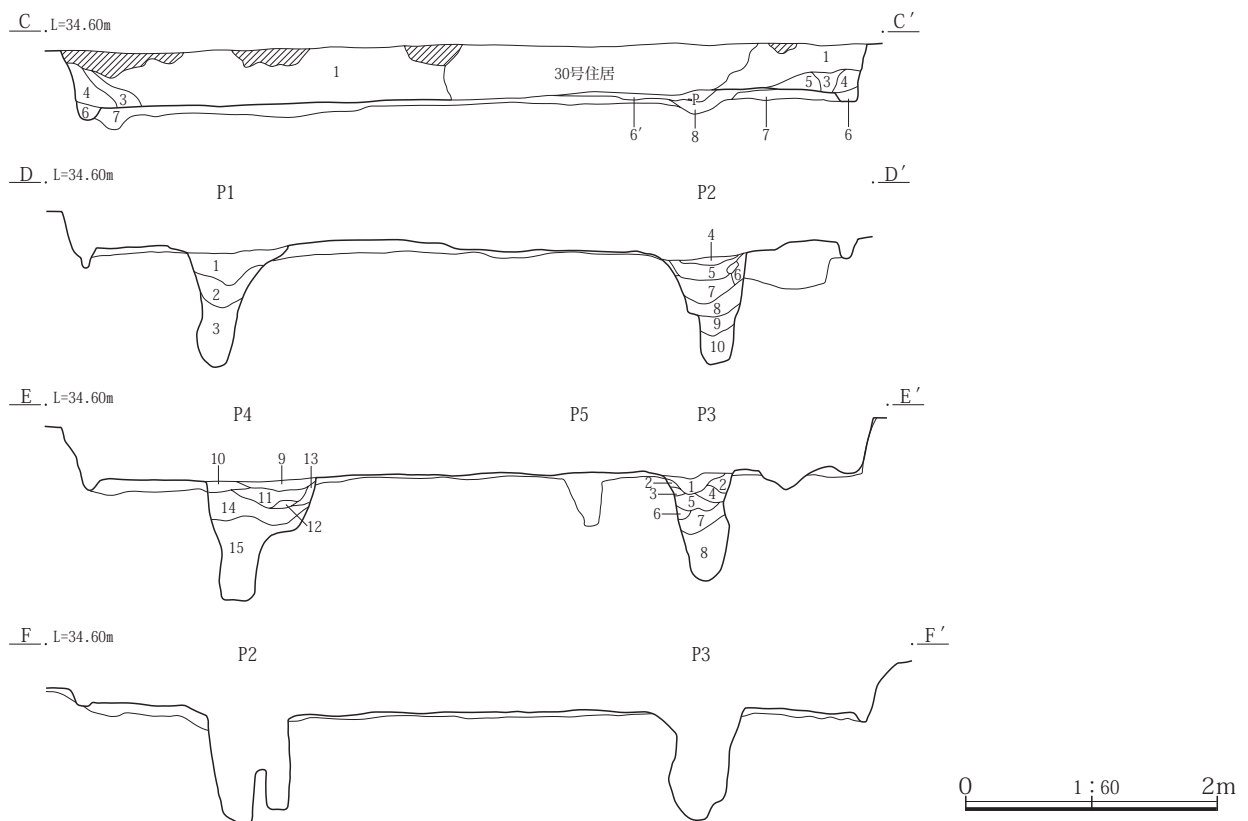
**柱穴** 床面の対角線上に4本のピットを確認した。P1～P4は、支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(楕円形、長径85cm、短径80cm、深さ87cm)、P2(楕円形、長径72cm、短径70cm、深さ86cm)、P3(楕円形、長径73cm、短径55cm、深さ88cm)、P4(円形、長径91cm、短径80cm、深さ96cm)である。柱穴間はP1～P2間3.96m、P2～P3間3.62m、P3～P4間3.70m、P1～P4間3.56mを測る。明瞭な柱痕は認められない。P1とP2の底部には、支柱穴の対角線上の外側と内側に小ピット状の掘り込みが認められることから柱を立て替えた可能性がある。

**周溝** カマド付設部分以外は壁際に沿って全周し、幅17～32cm、深さ3～6cmを測る。ロームを多量に含む灰黄褐色土によって埋没する。長さ約10～15cm、深さ約5～10cmの小ピット状の窪みを底面から断続的に確認した。北壁際に多く、壁に付設された構造物関連の痕跡と考えられる。

**他の施設** 掘り方調査によってピット3基、土坑1基を確認した。形状及び規模は、P5(楕円形、長径32cm、短径23cm、深さ37cm)、P6(楕円形、長径30cm、短径18cm、深さ32cm)、P7(方形、長径25cm、短径23cm、深さ17cm)、1号土坑(不定形、長径104cm、短径97cm、深さ25cm)を測る。ピットは根太関連痕跡の可能性もある。東壁中央部に梯子痕跡の可能性のある小ピット状の窪みが2カ所確認され、硬化面も認められるため出入口と考えられる。  
**掘り方** 大小ピット状に約10cm掘り窪められ全体的に凹凸が著しい。

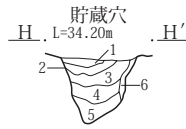
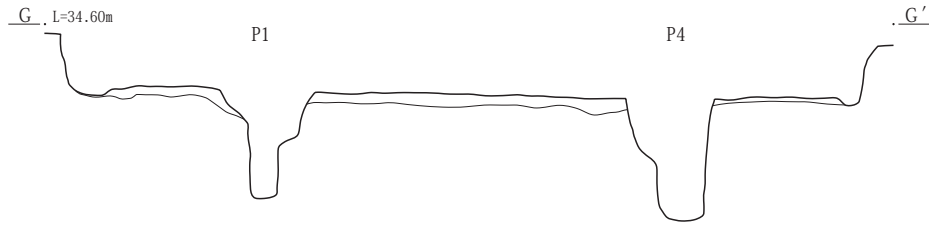
**遺物出土状態** カマドや貯蔵穴周辺、西壁際からの出土が多い。土師器杯(第45図4)は床面直上、土師器杯(第45図3・5)、土師器高杯脚部(第45図7)、磨石(第46図10)、砥石(第46図11)は、床面上3～6cmの出土である。土師器杯(第45図1・2)は埋没土から、土師器杯(第46図12・13)は、埋没土中の混入と考えられる。非掲載遺物は、土師器片2,689点(小型製品156、中型製品5、大型製品2,477、不明51)、須恵器片179点(小型製品154、大型製品25)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第42図 1区20号竪穴住居(2)

第3章 間之原遺跡の調査



20号竪穴住居貯蔵穴H-H'

- 1 灰黄褐色土 焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ハードローム小～大塊少量、灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない

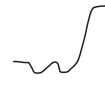
I, L=34.60m, I'



J, L=34.60m, J'



K, L=34.60m, K'



L, L=34.60m, L'



M, L=34.60m, M'



N, L=34.60m, N'



N'

O, L=34.60m, O'



20号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

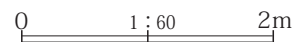
- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊多量、ローム粒少量
- 2 灰黄褐色土 ローム粒少量、ローム漸移層土中塊を含む
- 3 暗褐色土 ローム漸移層土中～大塊少量、ローム粒・黒褐色土中～大塊を含む
- 4 暗褐色土 ハードローム粒多量
- 5 黒褐色土 浅黄橙色粘土小塊少量
- 6 灰黄褐色土 ローム20%、締まりやや弱、粘性少ない、壁周溝埋土
- 7 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊主体、締まりあり、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ローム大粒10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム10%、炭化物粒・焼土粒微量
- 10 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊少量、ローム粒を含む

20号竪穴住居P1・P2D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 ハードローム粒・大塊少量、焼土粒・炭化物極小粒・灰白色軽石小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ローム中粒20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性あり
- 5 灰黄褐色土 1層土よりハードローム粒・大塊多量、締まりややあり、粘性あり
- 6 にぶい黄褐色土 ローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム5%、焼土小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ローム10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム多量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない

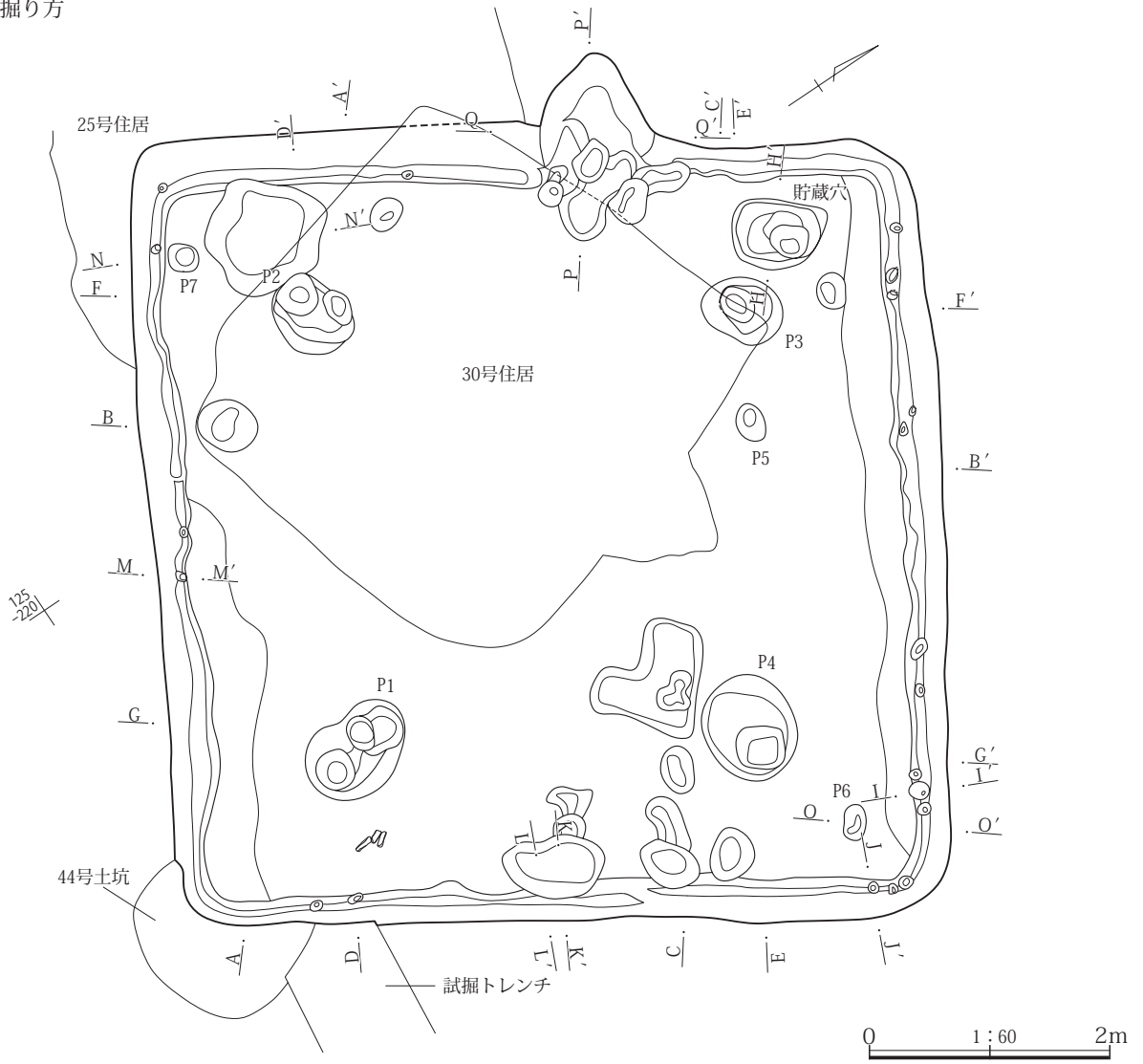
20号竪穴住居P3・P4E-E'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム小～中粒少量、焼土小～中粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 褐灰色土 ローム小～中粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心塊土、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 黒褐色土 炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 黒褐色土 ローム粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ローム小～大粒5%、焼土小粒・炭化小～中粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 10 にぶい黄褐色土 ハードローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 黒褐色土 ローム5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 13 にぶい黄褐色土 ハードローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム小～大塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ローム小～中塊5%、締まりやや弱、粘性少ない

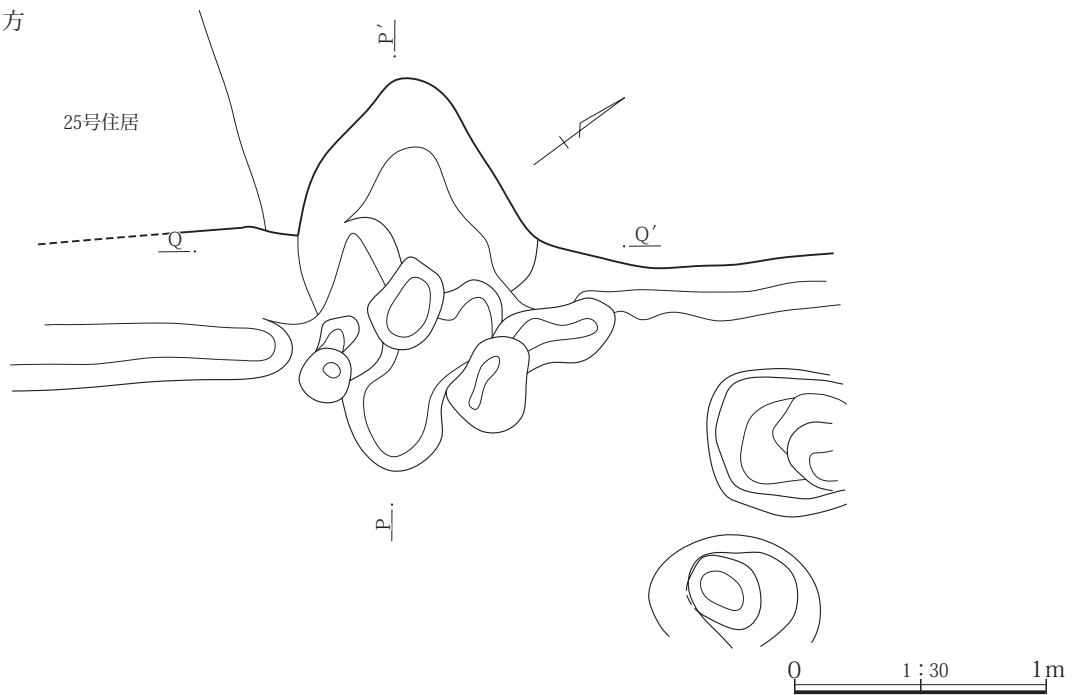


第43図 1区20号竪穴住居(3)

掘り方



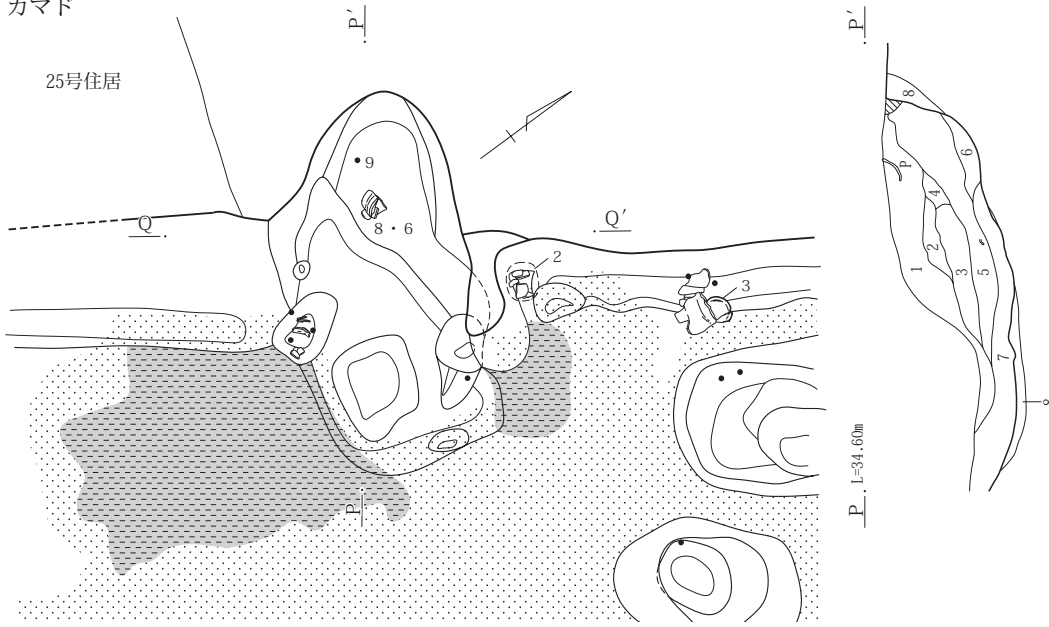
カマド掘り方



第44図 1区20号竪穴住居掘り方とカマド掘り方

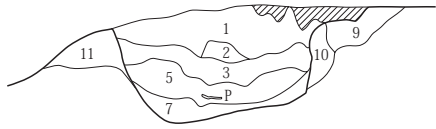
カマド

25号住居



Q, L=34.60m

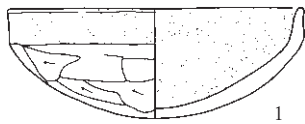
Q'



0 1:30 1m

20号竪穴住居カマド P-P'・Q-Q'

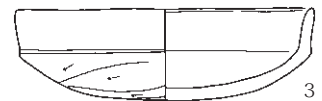
- 1 灰黄褐色土 浅黄橙色～褐灰色粘土中塊少量、焼土小塊を含む、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 暗褐色土 焼土粒・白色軽石微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 浅黄橙色～褐灰色粘土塊微量、カマド構築部材、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 3層土に比べてやや色味が黒い
- 5 暗褐色土 焼土粒・焼土中塊多量、浅黄橙色～褐灰色土塊少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 6 黒褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒微量
- 7 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒少量、ソフトローム20%、縮まりややあり、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりややあり、粘性少ない
- 10 灰黄色土 シルト質土、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム大塊多量



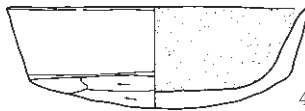
1



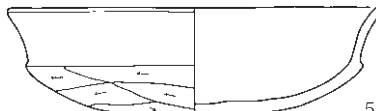
2



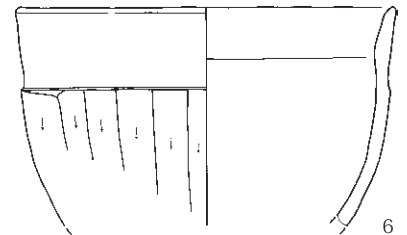
3



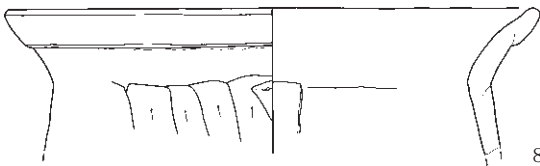
4



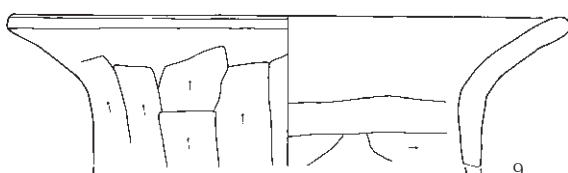
5



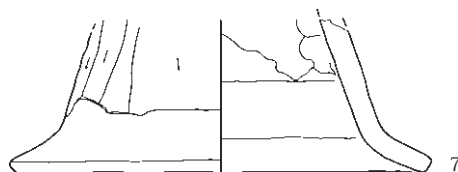
6



8



9

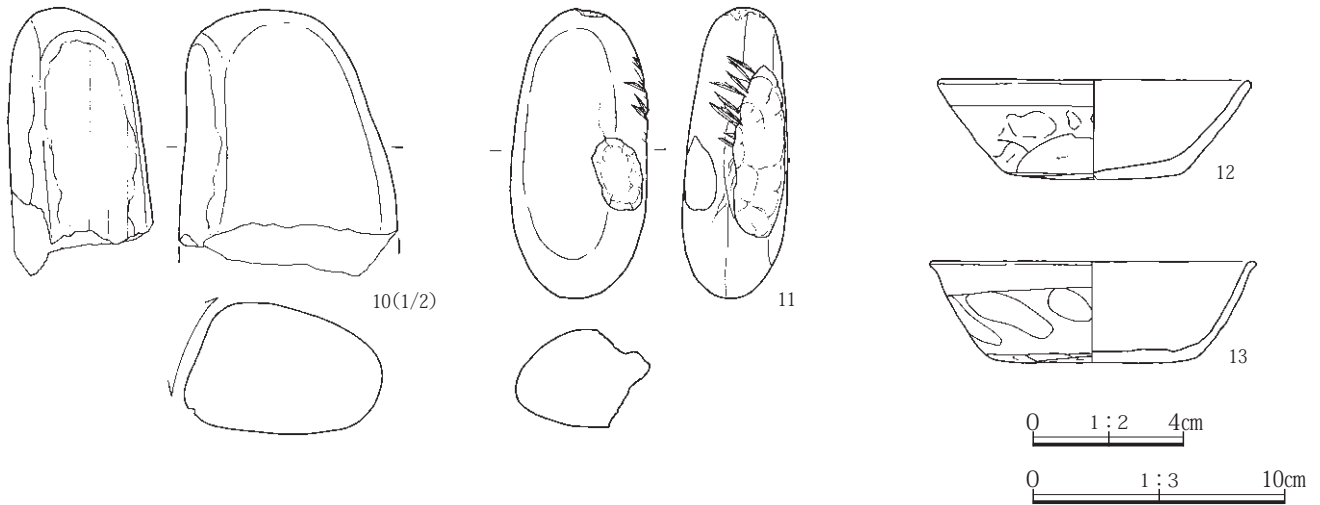


7

0 1:3 10cm

第45図 1区20号竪穴住居カマドと出土遺物(1)





第46図 1区20号竪穴住居出土遺物(2)

**1区25号竪穴住居**(第47～49図 PL.16・17・79)

**位置** X=126～132、Y=-221～225

**形状・規模** 1区20号竪穴住居と東半部において重複するが、残存状況から形状は方形と考えられる。確認できる規模は、南北長3.88m、東西長3.65m、壁高北壁25cm、南壁30cm、西壁26cmである。

**主軸方向** N-70°-W

**重複** 1区20・30号竪穴住居、1区43号土坑と重複する。1区43号土坑が1区25号竪穴住居を掘り込む。1区20・30号竪穴住居に掘り込まれているため、1区25号住居が最も古い。

**埋没土** 床面付近に少量の焼土粒を確認した。壁際の三角堆積やレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 西壁際と中央部の比高差は約8～10cmであり、使用によって中央部が低くなる。カマド焚口から北壁周辺の広範囲に硬化面が認められる。土層断面の観察からローム粒・塊を多量に含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 西壁中央部に付設する。全長1.20m、幅76cm、焚口幅45cm、焚口から燃焼部奥行60cm、煙道部43cm、左袖状残存部67cm、右袖状残存部88cmである。軸方向は、N-61°-Wである。カマド構築材と考えられるシルト質土が燃焼部側壁から煙道部外側に残存する。燃焼面から煙道部にかけて残存状況は比較的良好である。燃焼面は、住居床面より1～2cm低い。遺物は燃焼面から土師器鉢(第49図9・10)が、逆位で重ねられ支脚として据え

た状態で出土している。掘り方は、燃焼面から煙道部を約5cm掘り込み整えている。カマド焚口から外側の土坑状の窪みは、カマド構築時に掘り込まれたと考えられる。

**貯蔵穴** 西壁南西隅に構築する。形状は隅丸長方形、規模は長径50cm、短径40cm、深さ56cmを測る。土層断面の観察から、上層に炭化物や焼土粒が僅かに含まれ、黒褐色土と灰黄褐色土による自然埋没と考えられる。

**柱穴** 床面精査では確認できなかった。

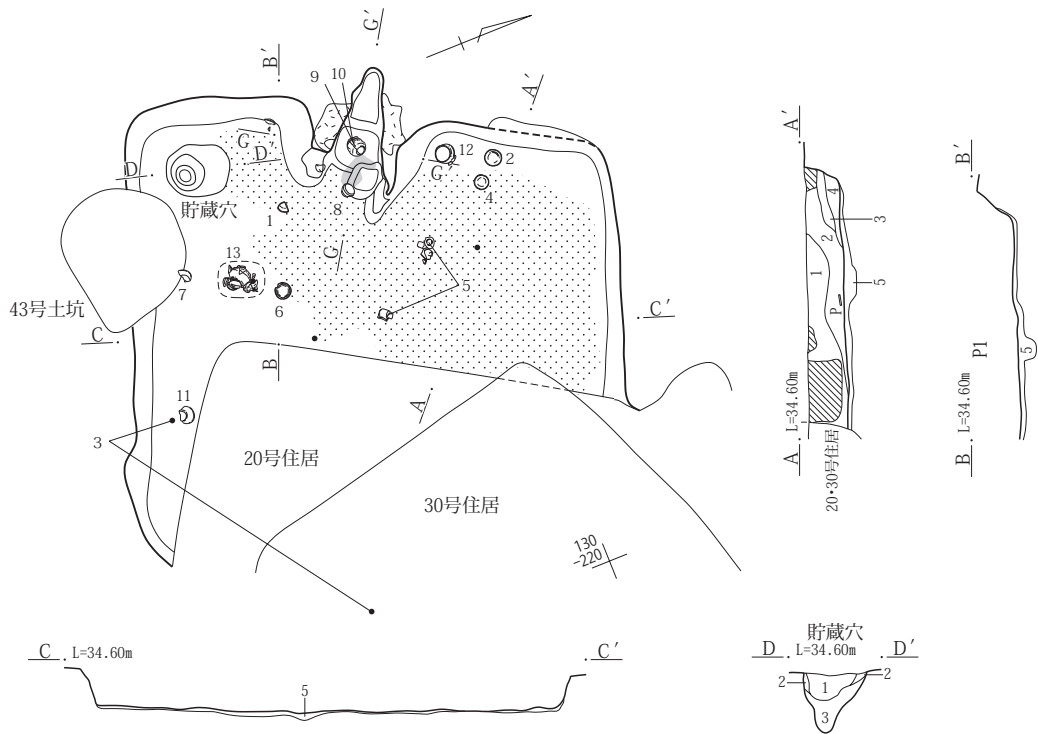
**周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**他の施設** 床面精査では確認できなかったが、掘り方調査によってピット4基を確認した。形状及び規模は、P1(円形、長径32cm、短径29cm、深さ36cm)、P2(楕円形、長径38cm、短径24cm、深さ17cm)、P3(隅丸方形、長径36cm、短径34cm、深さ7cm)、P4(楕円形、長径28cm、短径19cm、深さ9cm)を測る。P2～P4の深さはやや浅いが、確認した位置からP1は主柱穴の可能性がある。

**掘り方** 小ピット状に約5cm掘り窪められ、凹凸が全体的に認められる。

**遺物出土状態** 土師器鉢(第49図8)は床面直上から、土師器杯(同図5)、土師器小型甕(同図13)は、潰れた状態で床面上4～6cmから出土した。土師器杯(同図1～4・6)、土師器鉢(同図11)、土師器小型甕(同図12)、須恵器高杯(同図7)は、正位の状態で床面上10cm以上の埋没土からの出土である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀代と考えられる。



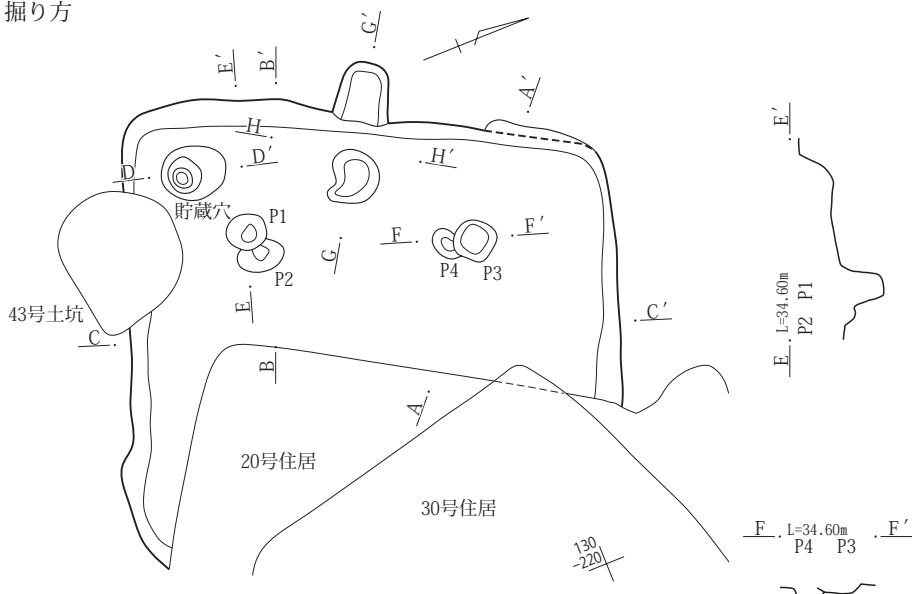
25号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土中塊・ローム粒少量
- 2 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊微量、ローム粒・焼土粒少量
- 3 灰黄褐色土 黒褐色土・ソフトローム少量
- 4 灰黄褐色土 黒褐色土少量、ソフト・ハードローム粒多量
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・塊多量

25号竪穴住居貯蔵穴D-D'

- 1 黒褐色土 ハードローム極小～中塊少量、焼土粒・炭化物粒微量、締まり弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 黒褐色土・ハードローム大塊を含む、締まり弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム5%、締まり弱、粘性少ない

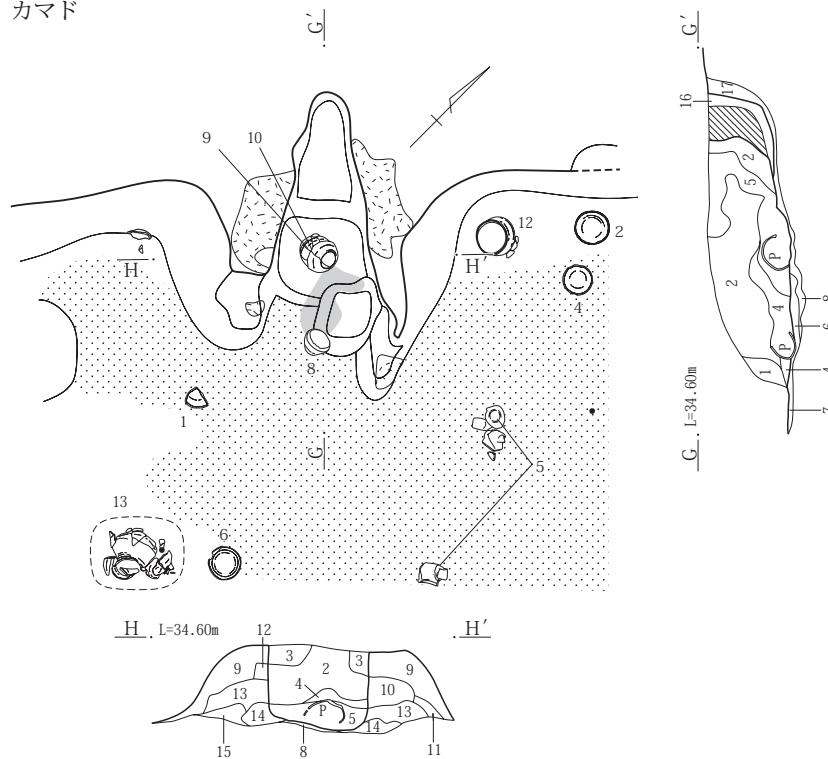
掘り方



0 1:60 2m

第47図 1区25号竪穴住居

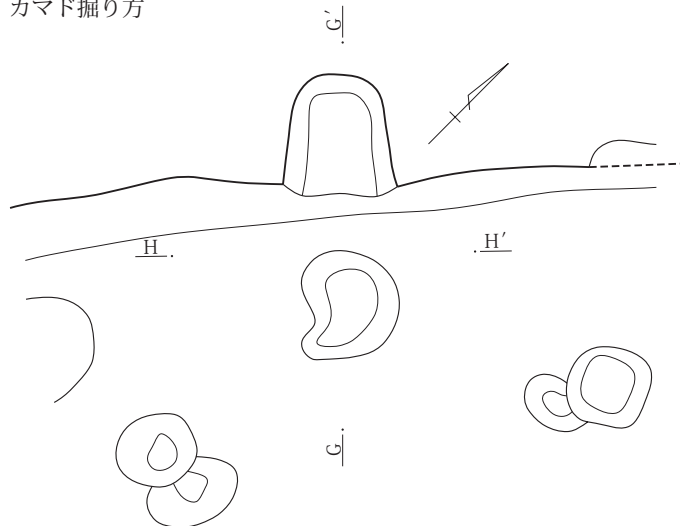
カマド



25号竪穴住居カマドG'-G'・H-H'

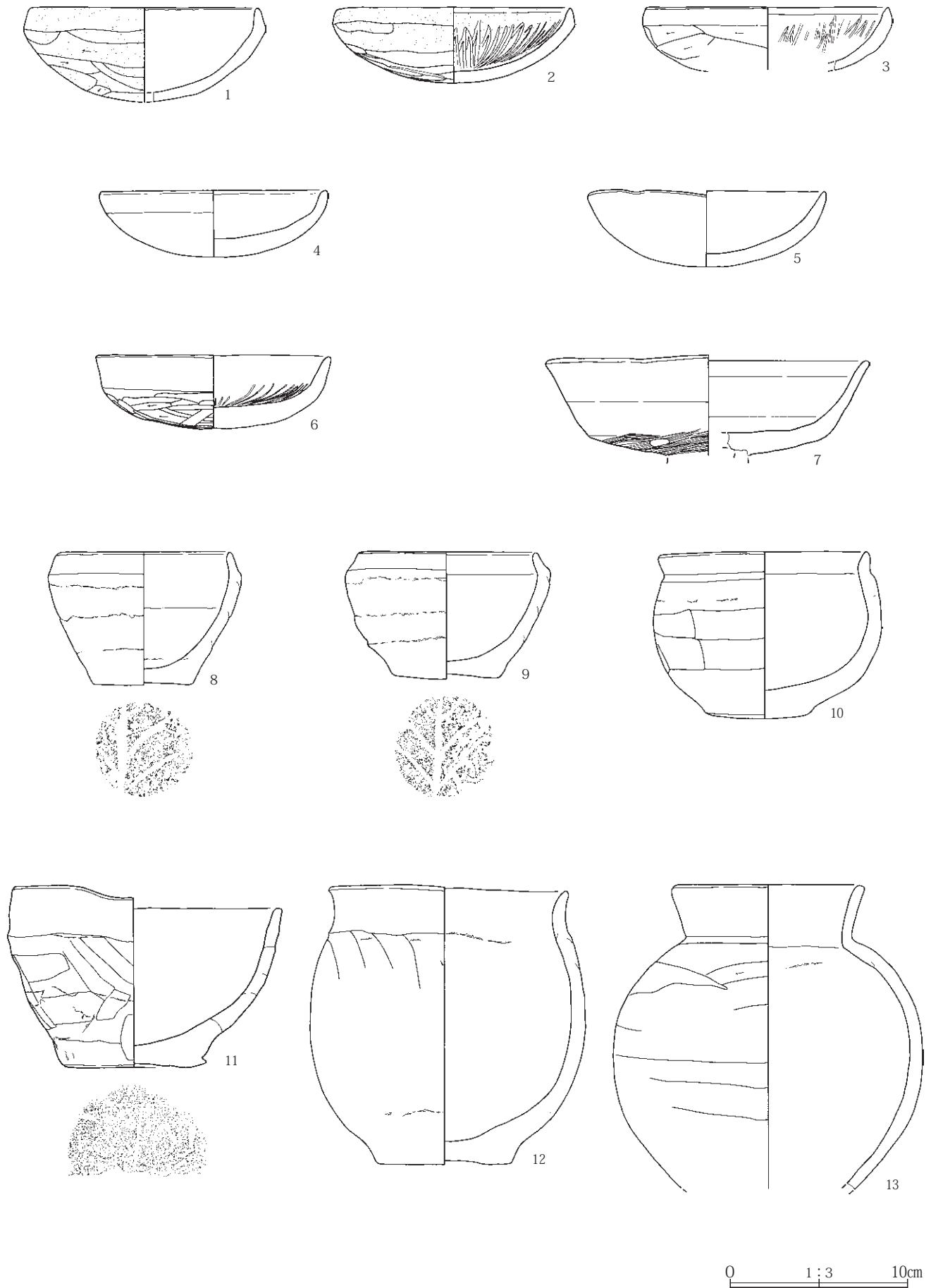
- 1 暗褐色土 白色軽石・にぶい黄褐色粘土少量、焼土粒を含む
- 2 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土中塊多量、白色軽石少量
- 3 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土塊少量
- 4 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土塊少量
- 5 にぶい黄褐色粘質土 褐灰色土少量、崩落天井部材
- 6 明赤褐色土 焼土主体、縮まりあり
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム多量、縮まりややあり、粘性あり
- 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム塊主体、縮まりあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土少量、ローム小～中粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム極小～中塊少量、炭化物粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 12 灰黄色土 シルト質土塊、縮まりややあり、粘性少ない
- 13 暗灰褐色土 灰黄色土シルト質土少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 14 黒褐色土 焼土小～中粒10%、灰黄色シルト質土微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 焼土粒・ローム小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 16 にぶい黄褐色土 焼土粒・小塊少量、ローム粒を含む
- 17 にぶい黄褐色土 ローム主体、灰黄褐色土を含む

カマド掘り方



0 1:30 1m

第48図 1区25号竪穴住居カマド



第49図 1区25号竪穴住居出土遺物



1区21号竪穴住居(第50図 PL.15)

位置 X=120~122、Y=-219~224

形状・規模 調査区南境に位置するため形状及び規模は不明である。確認できる規模は、竪穴住居北辺3.07m、壁高北壁45cmである。

主軸方向 N-75°-E

重複 なし。

埋没土 壁際の三角堆積や上層にレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 北壁際の一部のみの確認であるが、高低差は殆どなく平坦である。床面は一部であるが、硬化面、焼土、炭化物を確認した。ロームを多量に含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

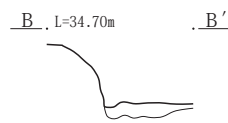
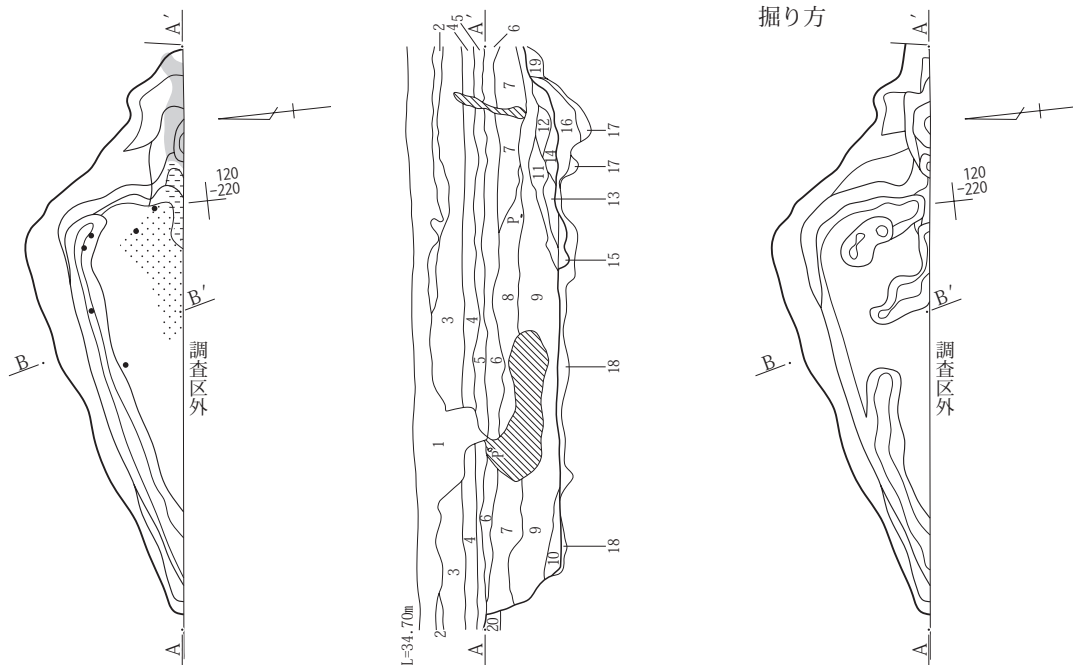
カマド 調査区外となるため全体の規模は不明である。床面の焼土と炭化物の確認状況や土層断面の観察によって崩落した灰黄褐色土と焼土塊を確認したことから東壁に付設したと考えられる。掘り方は、15~30cm掘り窪め灰黄褐色土やにぶい黄褐色土で床面を構築している。

貯蔵穴・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

周溝 北壁際に掘り込まれている。規模は、幅17~27cm、深さ2~9cmを測る。

遺物出土状態 周溝内やカマド周辺から遺物が出土する。非掲載遺物であるが、土師器片104点(小型製品20、大型製品82、不明2)が出土した。

所見 出土遺物から時期は7世紀代と考えられる。



21号竪穴住居A-A'

- 1 褐灰色砂質土 表土
- 2 にぶい黄褐色砂質土 4層土砂多量
- 3 褐灰色砂層 4層土砂主体、黄褐色土少量
- 4 褐灰色砂層 As-B二次堆積
- 5 灰黄褐色土 ローム漸移層土少量、ローム粒を含む
- 6 灰黄褐色土 ローム漸移層土多量、ローム粒・白色軽石小粒少量
- 7 褐灰色土 ローム漸移層土中~大塊少量、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む

- 8 褐灰色土 7層土に類似、色調はやや暗い
- 9 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊少量、ソフトローム中塊・ハードローム粒を含む
- 10 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム中~大塊多量
- 11 黒褐色土 にぶい黄褐色のシルト質土塊10%、焼土粒微量
- 12 黒褐色土 焼土粒少量、黒味が強い
- 13 灰黄褐色土 にぶい黄褐色のシルト質土40%、焼土粒微量、カマド崩落土
- 14 焼土主体
- 15 灰黄褐色土 ローム10%、焼土粒微量
- 16 褐灰色土 焼土粒少量
- 17 灰黄褐色土 ローム5%
- 18 にぶい黄褐色土 ローム30%
- 19 にぶい黄褐色土 ローム40%
- 20 にぶい黄褐色土 ローム漸移層、地山

0 1:60 2m

第50図 1区21号竪穴住居

1区22号竪穴住居(第51~54図 PL.15・16・79・80)

位置 X=134~139、Y=-215~220

形状・規模 形状は方形。規模は長軸長3.85m、短軸長3.65m、壁高北壁20cm、南壁36cm、東壁38cm、西壁33cmを測る。床面積は14.20㎡である。

主軸方向 N-28°-E

重複 1区22号竪穴住居が1区23号竪穴住居南壁を掘り込む。

埋没土 下層から上層にかけて焼土粒や炭化物粒、ハードローム塊やローム漸移層土塊を含む灰黄褐色土や黒褐色土によって埋没する。レンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 南側より北側壁際やカマド周辺部が1~3cm低い。中央部は平坦であるが壁寄りやや低く、周溝に向かい緩やかに傾斜している。床面南半部で硬化面を確認した。床面中央部や南壁際で焼土が認められた。ローム小塊・粒を多量に含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 住居北壁中央部に付設する。規模は、全長82cm、幅1.03m、焚口幅40cm、左袖状残存部50cm、右袖状残存部30cmである。軸方向は、床面の主軸方向と一致する。焚口周辺から燃焼部奥にかけて焼土化が認められる。燃

焼面は住居床面より4~5cm低い。掘り方は、2~7cm掘り込みソフトロームを含むにぶい黄褐色土によって燃焼面及び煙道を整える。

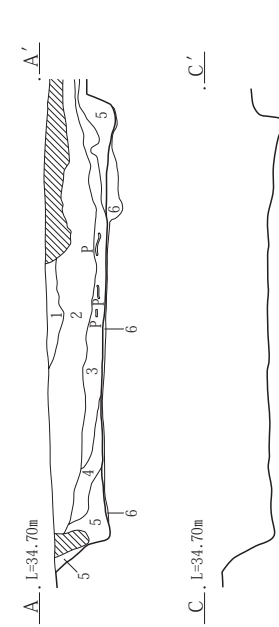
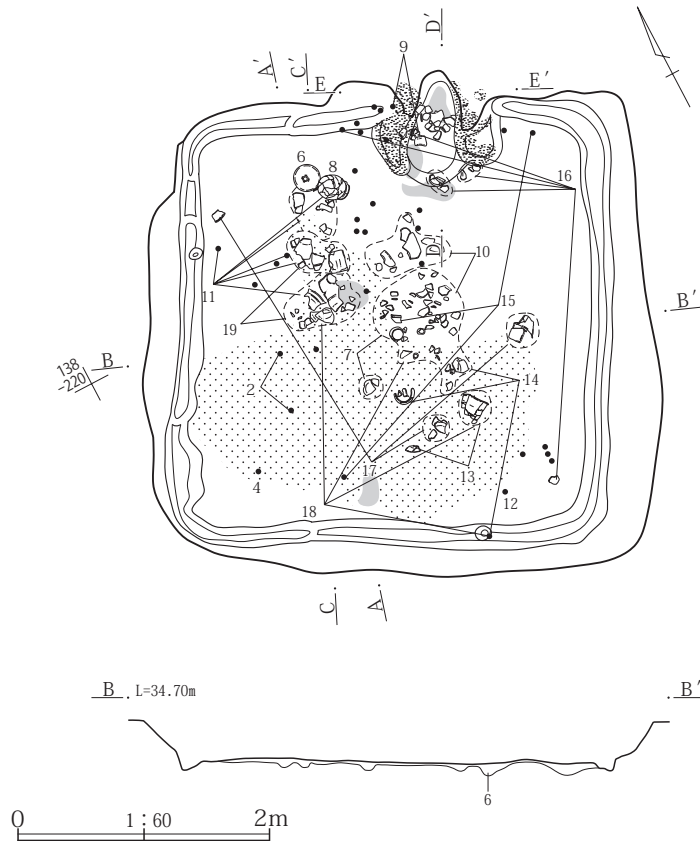
貯蔵穴・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

周溝 北壁カマド付設部分以外は壁際に沿って全周し、幅16~28cm、深さ4~6cmを測る。

掘り方 大小ピット状に2~5cm掘り窪められている。床下施設などは確認できなかった。

遺物出土状態 床面中央部を中心として広範囲に遺物が潰れた状態で散乱する(第51図)。土師器小型広口甕(第53図7)、土師器甕(第53図9・第54図16)、土師器小型甕(第54図14)は床面直上、土師器甕(第53図10・11第54図18)・土師器甕(第54図19)は、床面上3cmから出土した。土師器甕(第53図12・第54図15・17)、土師器甕(第52図6)は床面上4~10cmから、土師器杯(第52図1・2)、土師器小型甕(第52図3・4・第54図13)、土師器高杯か(第52図5)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片276点(小型製品41、大型製品228、不明7)、須恵器片29点(小型製品2、大型製品27)である。

所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

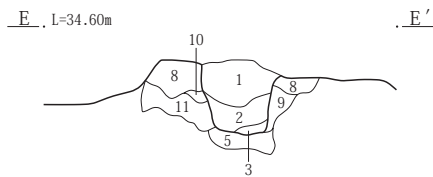
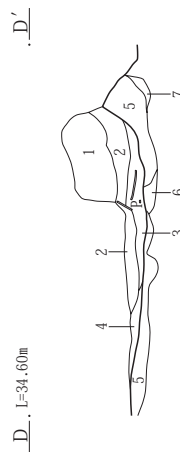
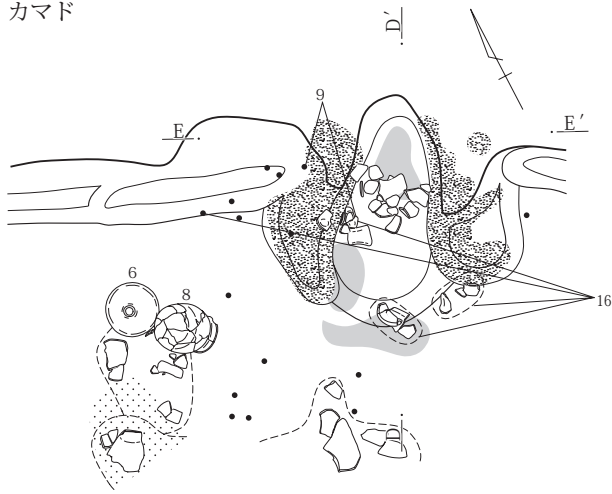


22号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 暗褐色砂質土 ハードローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 2 黒褐色土 ローム漸移層土大塊多量、ハードローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 3 黒褐色土 ローム漸移層土大塊少量、ハードローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 4 灰黄褐色土 ハードローム小塊・ローム漸移層土中~大塊少量
- 5 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量
- 6 灰黄褐色土 ローム小塊・粒多量

第51図 1区22号竪穴住居

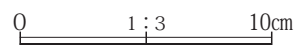
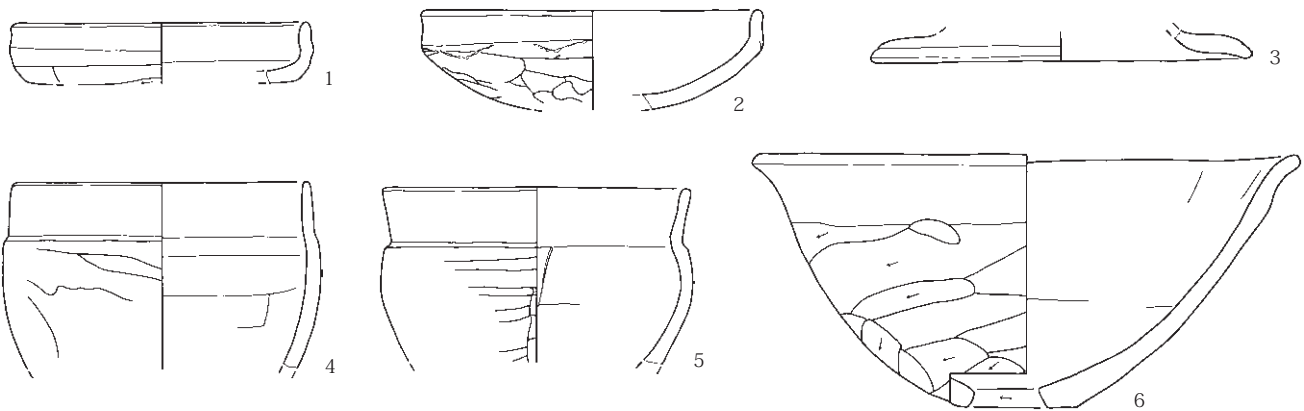
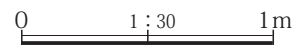
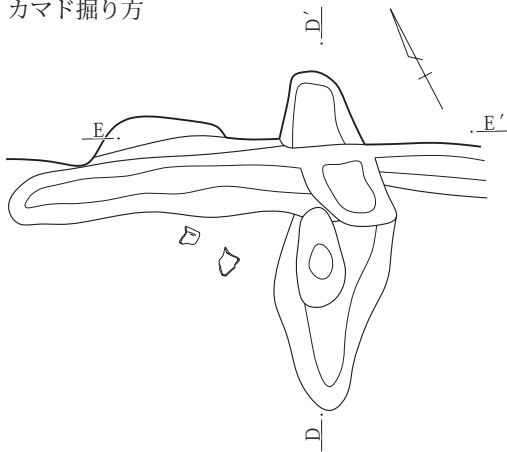
カマド



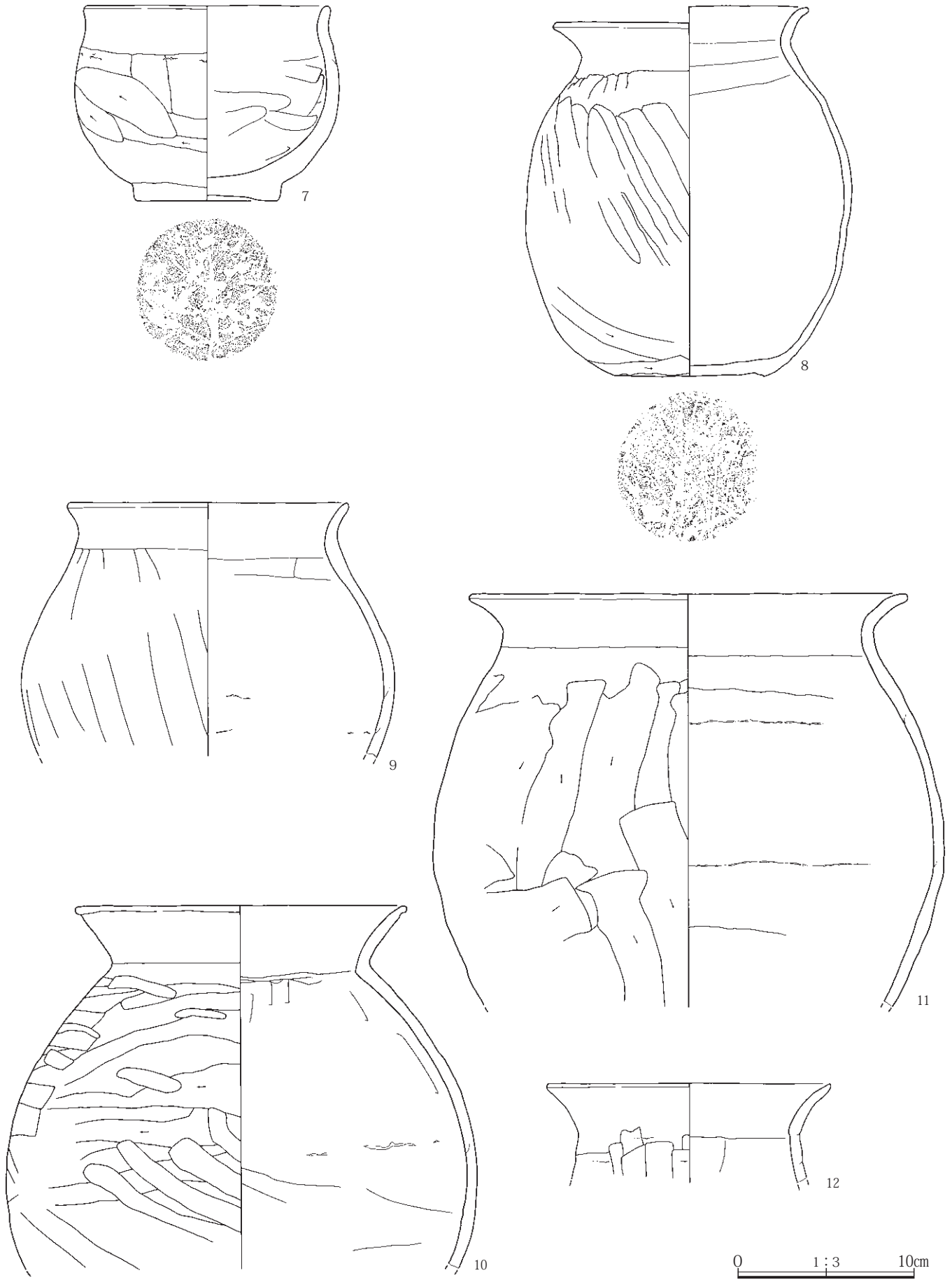
22号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土10%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 土器含む、焼土小～大5%、炭化小粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 3層土より焼土粒多い、縮まりややあり、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ソフトローム10%、焼土小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム80%、縮まりややあり、粘性ややあり
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム60%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 炭化小粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 9 灰黄色土 シルト質土塊、縮まりあり、粘性少ない
- 10 9層土の焼土化した層、縮まりあり、粘性少ない
- 11 にぶい黄褐色土 ソフトローム60%、縮まりあり、粘性少ない

カマド掘り方

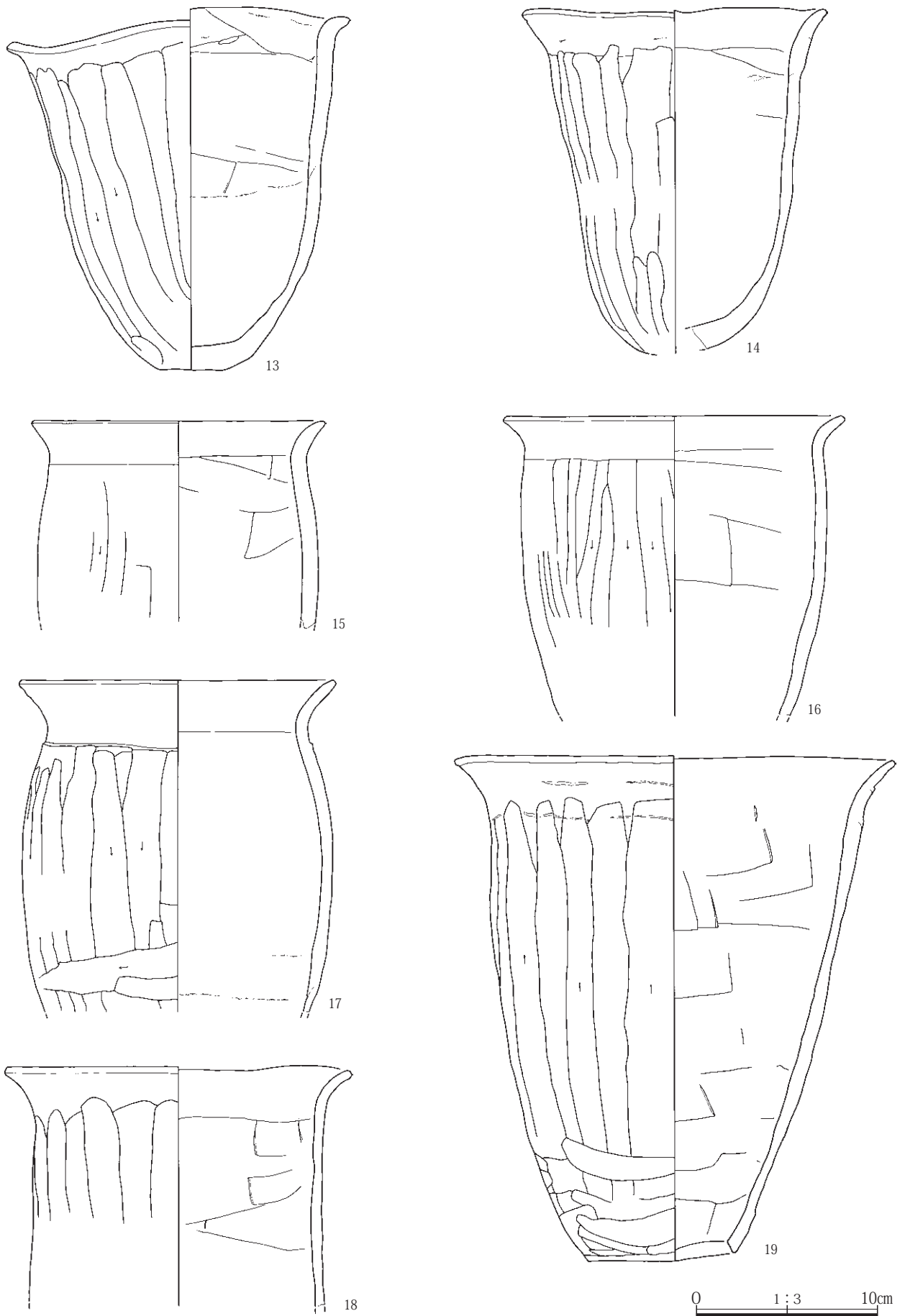


第52図 1区22号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第53図 1区22号竪穴住居出土遺物(2)





第54図 1区22号竖穴住居出土遺物(3)

1区27号竪穴住居(第55~57図 PL.18・81)

位置 X=128~136、Y=-224~232

形状・規模 残存状況から形状は方形と考えられる。確認できる規模は北東辺5.36m、南東辺5.65m、壁高北東壁26cm、南西壁24cm、南東壁29cmを測る。

主軸方向 N-49°-E

重複 1区28号竪穴住居が1区27号竪穴住居を掘り込む。1区502~507・511~513・522号ピットと重複し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。

埋没土 上層から下層にかけて黒褐色土や灰黄褐色土にローム漸移層土塊が多量に含まれ、床面から盛り上げた

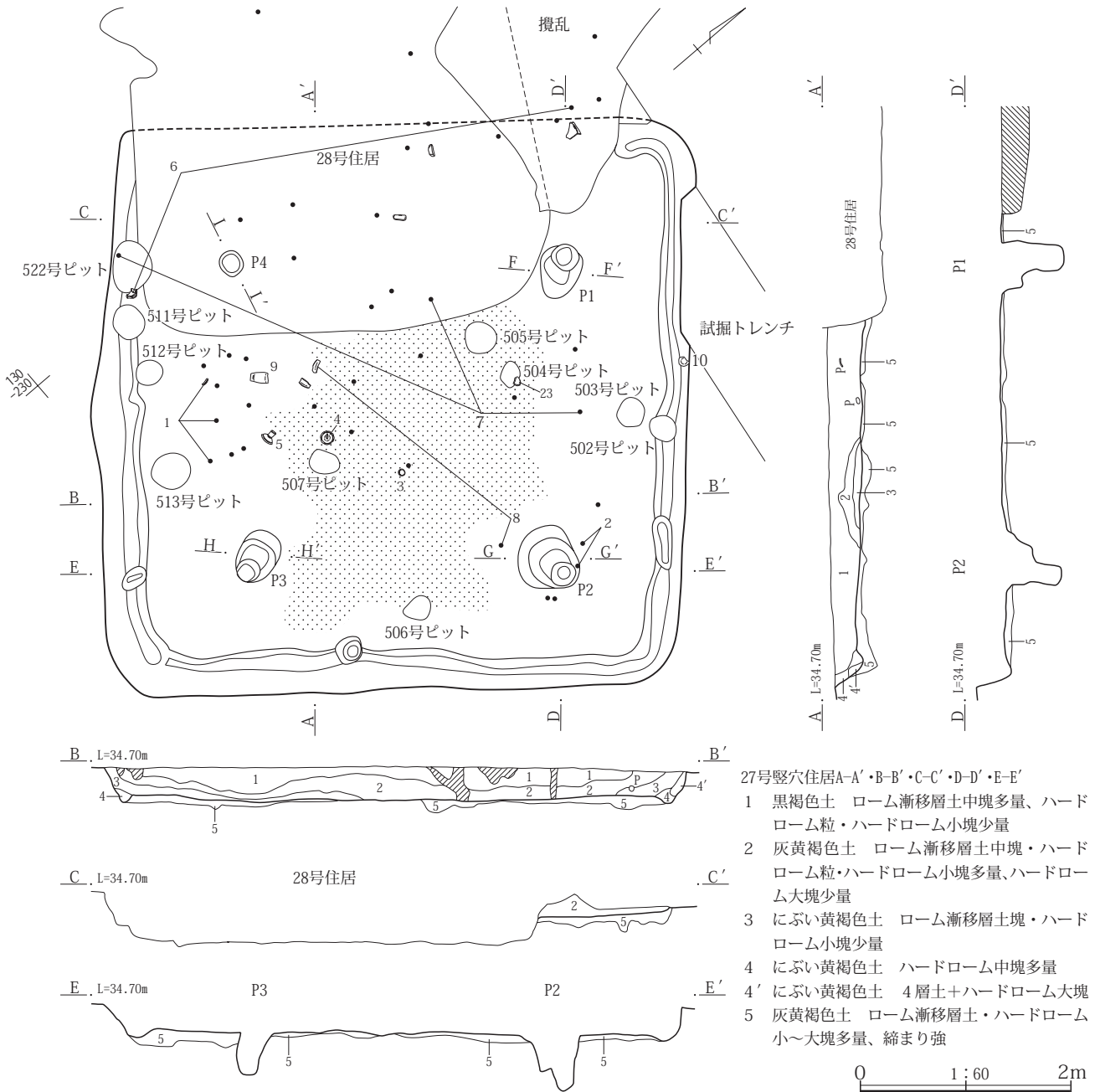
ような堆積が一部で認められることから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 床面高低差は少なくほぼ平坦であるが、床面の中央部が約2~5cm低い。4本の支柱穴で囲まれた内側の範囲から南東壁際にかけて硬化面が認められ、灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 28号竪穴住居との重複や攪乱によってカマドの痕跡なども確認できなかったが、北西壁に付設していたと考えられる。

貯蔵穴 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

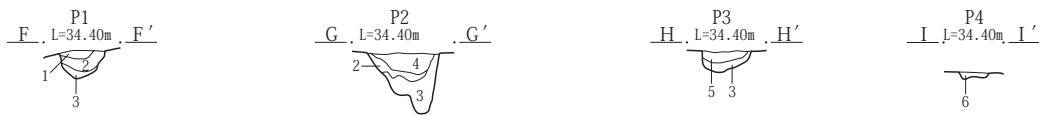
柱穴 床面の対角線上に支柱穴と考えられる4本のピット



第55図 1区27号竪穴住居

トを確認した。形状及び規模は、P 1(楕円形、長径52cm、短径40cm、深さ58cm)、P 2(楕円形、長径60cm、短径57cm、深さ51cm)、P 3(楕円形、長径49cm、短径41cm、深さ41cm)、P 4(円形、長径25cm、短径23cm、深さ4cm)である。P 4は底部のみであるが住居内の位置から判断し1区27号竪穴住居の柱穴とした。柱穴間はP 1～P 2間3.0m、P 2～P 3間3.0m、P 3～P 4間2.95m、P 1～P 4間3.17mを測り、P 1～P 4間がやや長い。主柱穴に明瞭な柱痕は認められなかった。

**周溝** 北東壁、南東壁、南西壁に沿って掘り込まれている。ハードローム塊を多量に含む灰黄褐色土によって埋没し、規模は、幅17～25cm、深さ2～6cmを測る。



27号竪穴住居P1-P4F-F'～I-I'

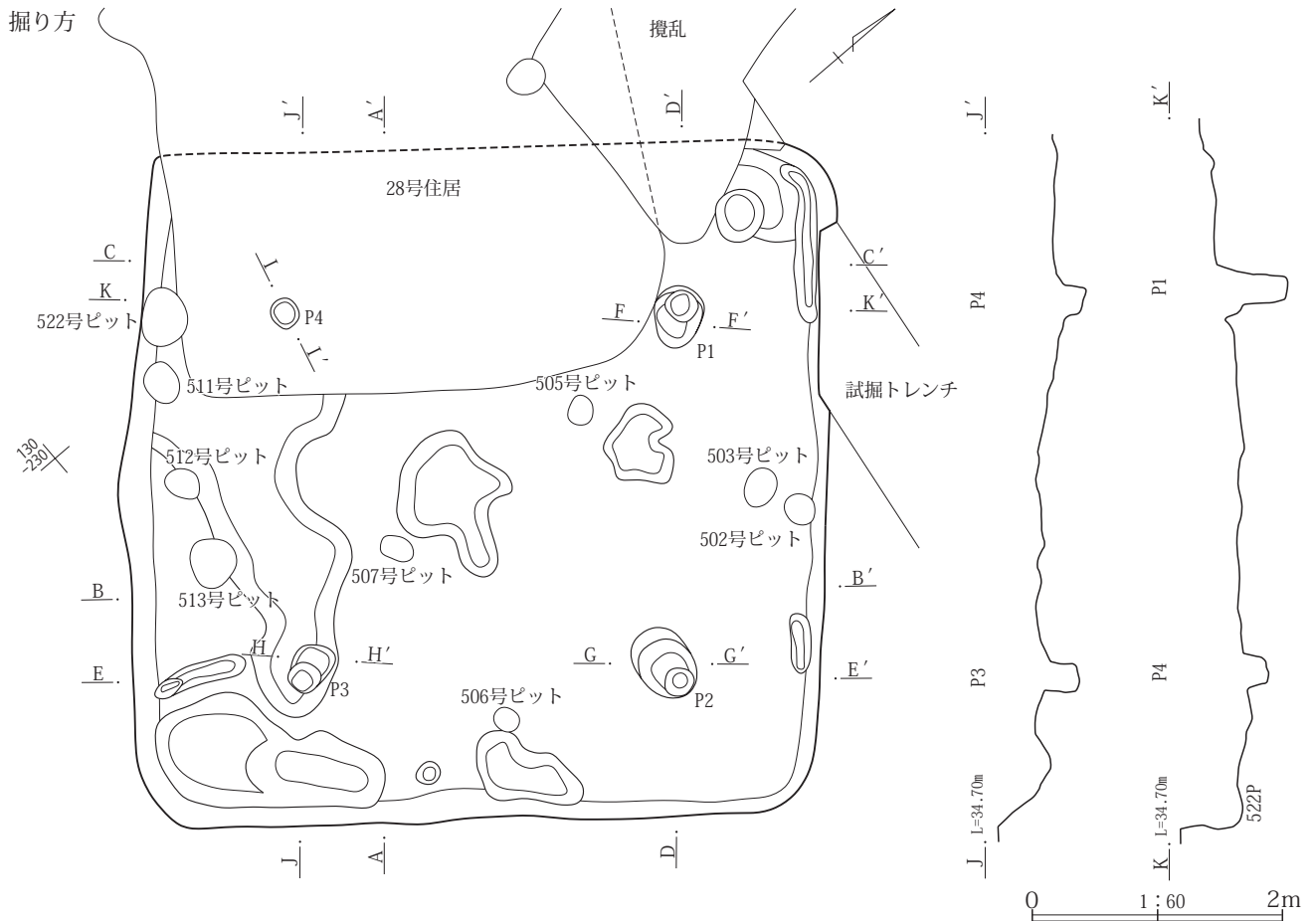
- 1 灰黄褐色土 ハードローム小～大粒5%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 褐灰色土 黒褐色土20%、ハードローム小～大粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない

**掘り方** ローム面まで全体的に大小ピット状に1～12cm掘り窪め、南西壁際は溝状に掘り込まれている。床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器小型甕(第57図6)は床面直上から、土師器小型壺(同図3)は、床面上6cmから出土した。土師器杯(同図1)、土師器鉢(同図2)、土師器高杯(同図4・5)、土師器甕(同図7・8)、土製品の支脚(同図9)は、床面上10cm以上の埋没土からの出土である。須恵器杯(同図10)は住居には伴わず、流れ込みによる混入と考えられる。

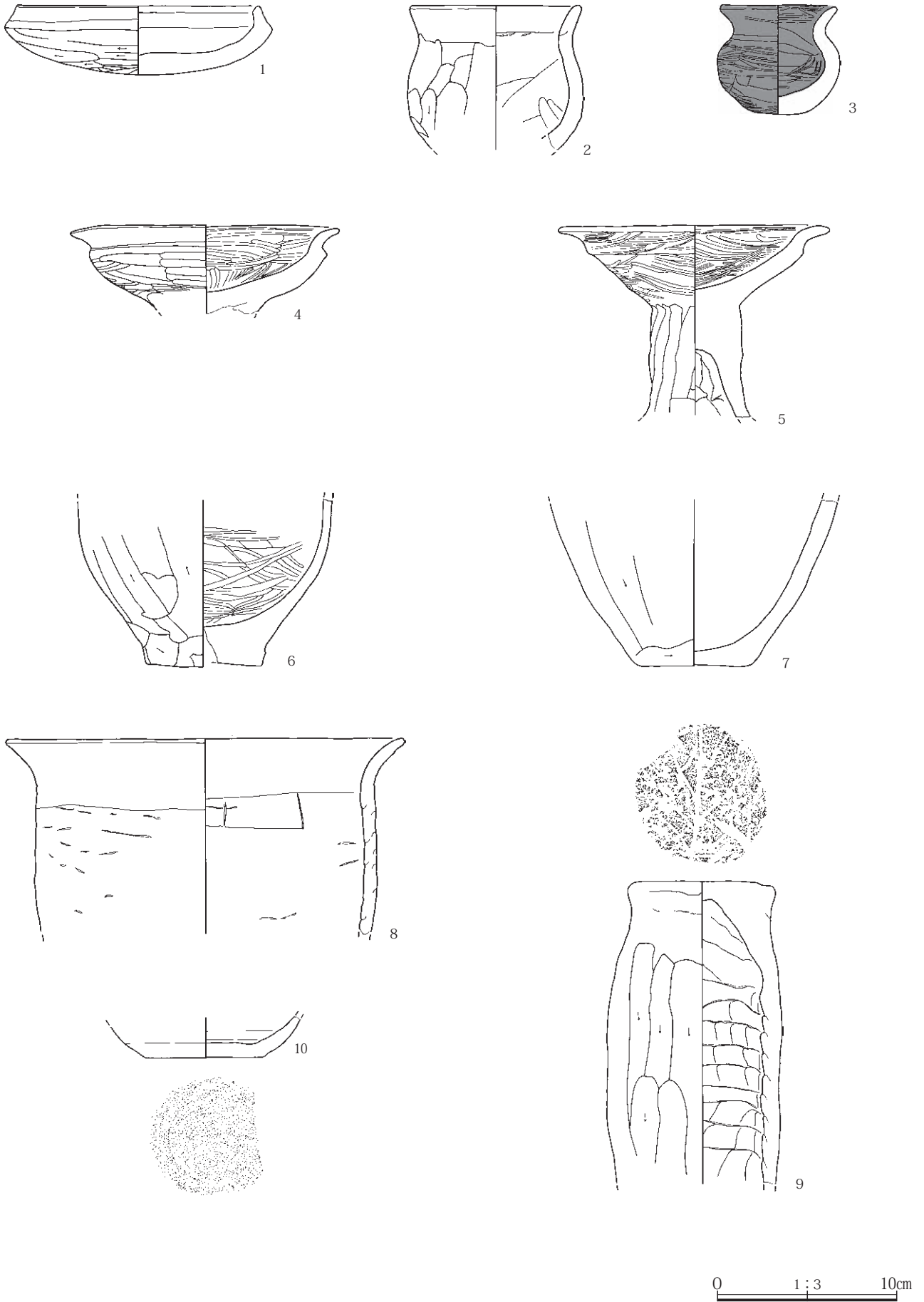
**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

- 4 黒褐色土 炭化物粒・焼土微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒・ローム小粒微量、締まりややあり、粘性少ない



第56図 1区27号竪穴住居掘り方

第3章 間之原遺跡の調査



第57図 1区27号竪穴住居出土遺物



1区35号竪穴住居(第58～60図 PL.18・19・81)

位置 X=153～158、Y=-208～212

形状・規模 形状は長方形である。長軸長3.95m、短軸長3.28m、壁高北壁及び南壁59cm、東壁58cm、西壁54cmを測る。床面積は12.34㎡である。

主軸方向 N-67°-W

重複 なし。

埋没土 下層はハードローム塊を多量に含み、上層にかけて灰黄褐色砂質土によってほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 ほぼ平坦であるが、西半部より東半部が約5cm低い。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。床面北東部にカマド構築材と考えられるシルト質土が散在する。ハードローム塊を多量に含む灰黄褐色砂質土によって床面を構築する。

カマド 東壁北寄りに付設する。構築材と考えられる粘土やシルト質土が広範囲に飛散していた。確認できる規模は、全長81cm、焚口幅58cm、焚口から燃烧部奥行64cm

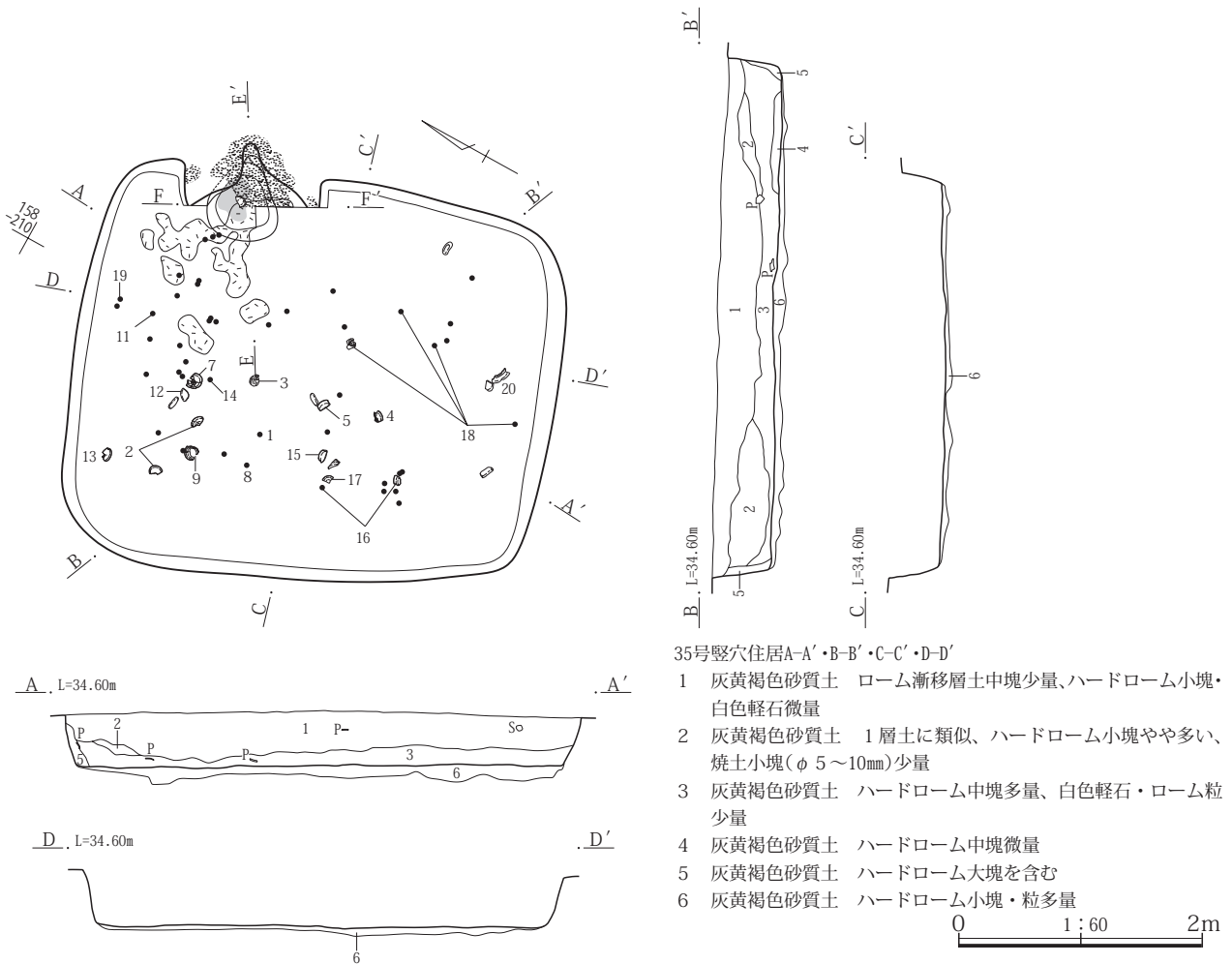
である。煙道幅は15cmで燃烧面から壁面の立ち上がりは垂直に近い。軸方向は、N-59°-Eである。燃烧面は住居床面より3～4cm低く、掘り方は、ローム面まで3～6cm掘り込み使用面を整える。

貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

掘り方 ローム面まで5～11cm掘り窪めている。土坑や柱穴などの床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 カマド周辺から床面の広範囲に遺物出土が認められる。土師器杯(第59図9)、土師器台付甕(第60図18)は床面直上から、土師器甕(第60図20)は床面上4cmからの出土である。土師器杯(第59図1～8・10～12、第60図13～16)、須恵器蓋(第60図17)、土師器甕(第60図19)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片777点(小型製品247、大型製品530)、須恵器片3点(小型製品1、大型製品2)である。

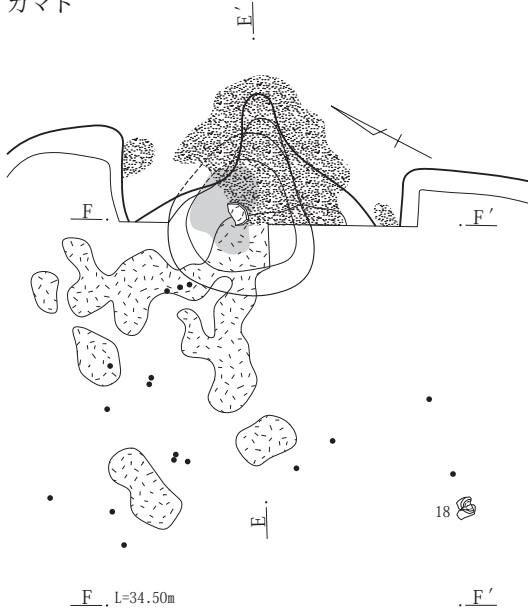
所見 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。



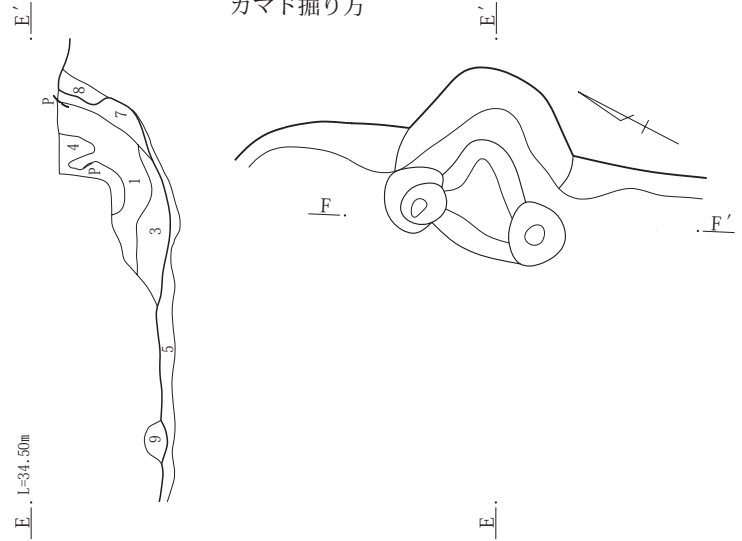
第58図 1区35号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

カマド

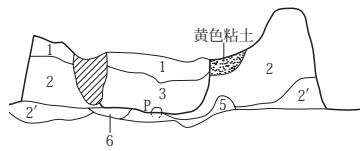


カマド掘り方



F. L=34.50m

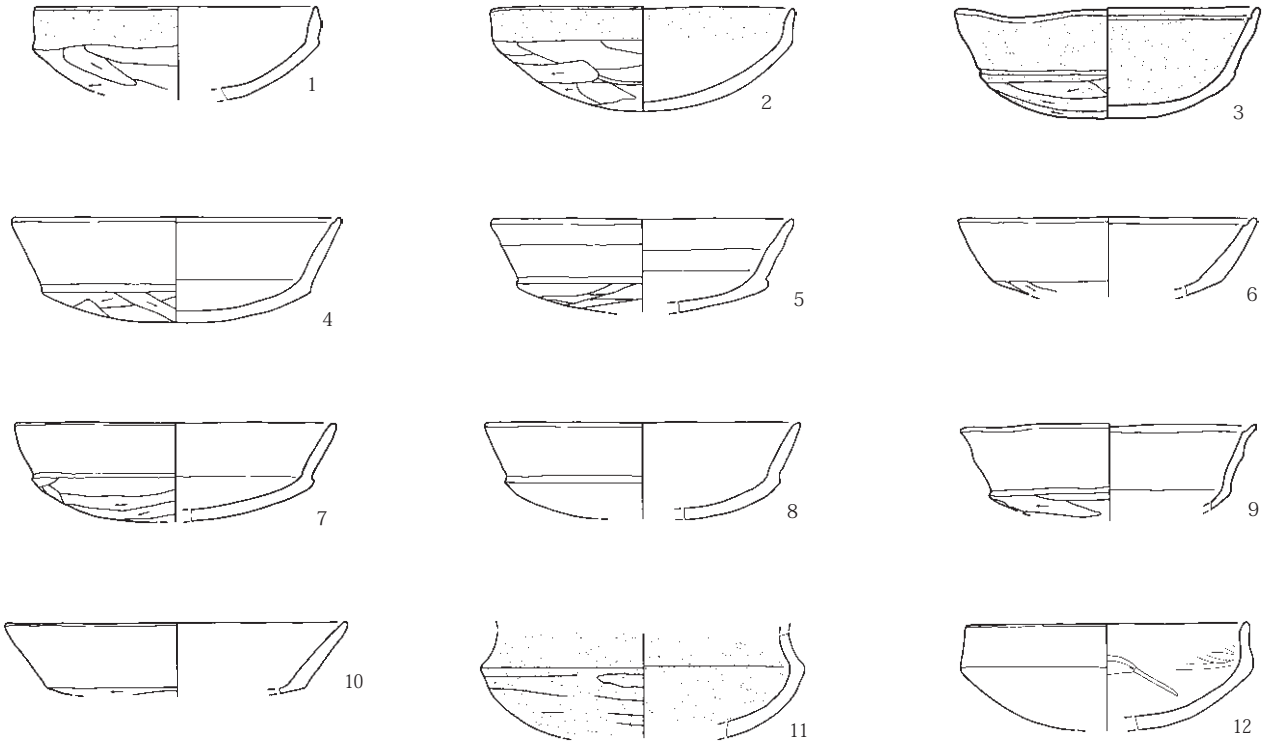
F'



35号竪穴住居カマドE-E'・F-F'

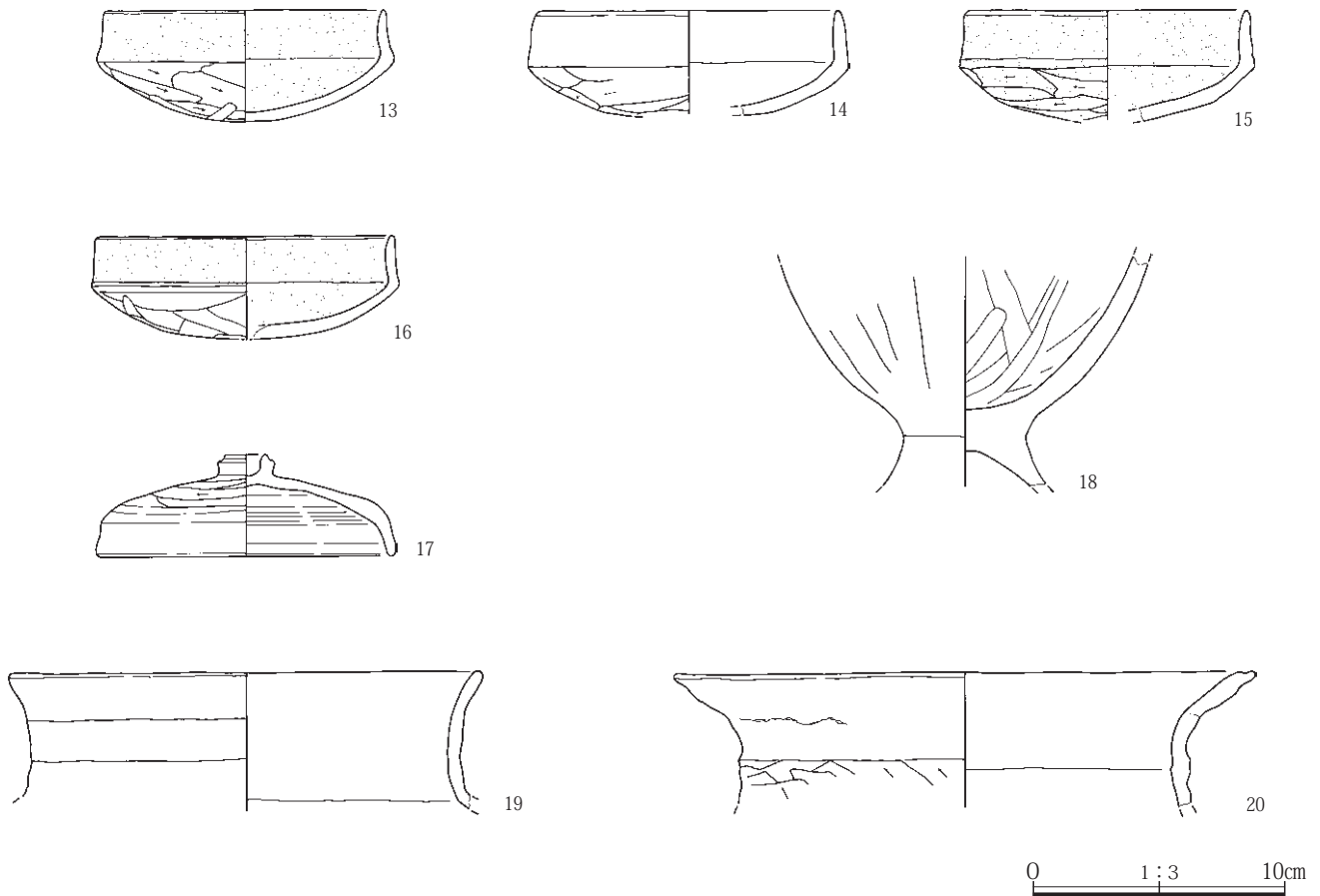
- 1 にぶい黄橙色砂質土 焼土粒微量、カマド構築材の飛散
- 2 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量、焼土粒微量、炭化物と白色軽石を含む
- 2' 灰黄褐色土 ハードローム粒・焼土粒微量
- 3 にぶい黄橙色砂質土 焼土粒微量
- 4 灰黄褐色土 にぶい黄橙色粘質土塊少量
- 5 黒褐色土 ハードローム中塊多量
- 6 灰層+焼土小塊多量
- 7 灰褐色土 焼土小～中粒・炭化物小～大粒微量
- 8 にぶい黄橙色土 一部焼土化
- 9 浅黄色土 粘質土

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第59図 1区35号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第60図 1区35号竪穴住居出土遺物(2)

**1区36号竪穴住居(第61図 PL.19)**

**位置** X=127~132、Y=-269~273

**形状・規模** 1・3区の境に位置する。3区87号竪穴住居との重複のため、全体の形状や規模は不明。確認できる規模は、南北長3.63m、壁高北壁24cm、南壁22cm、東壁30cmである。

**主軸方向** N-105°-E

**重複** 1区36号竪穴住居が3区87号竪穴住居に掘り込まれている。

**埋没土** 床面に近い埋没土中にロームを多く含む。ほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** ほぼ平坦であるが東壁際が西側に比べて2~4cm低い。使用による明瞭な硬化面を確認できなかった。ソフトロームを主体とするにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 3区87号竪穴住居と重複するため確認できなかったが、西壁に付設されていたと想定する。

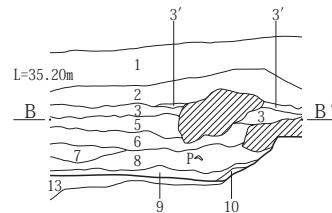
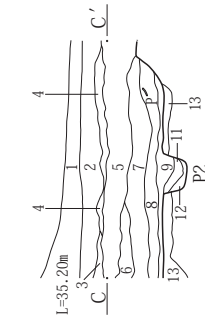
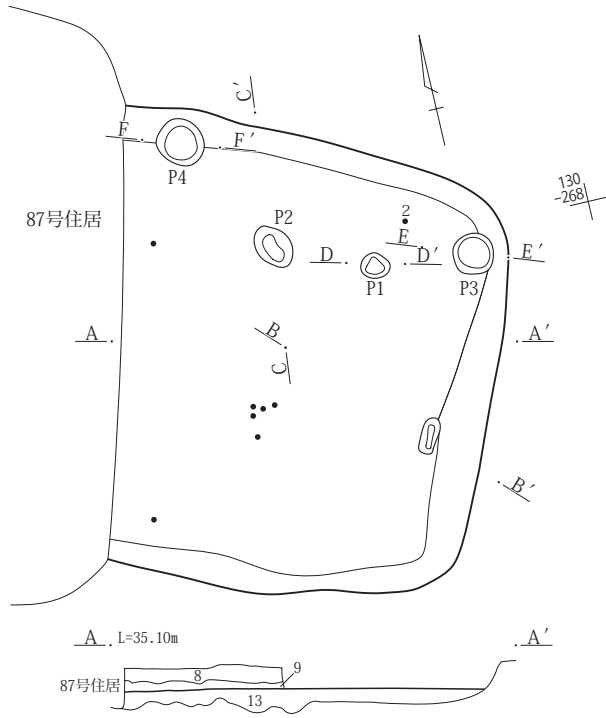
**貯蔵穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

**柱穴** 床面精査によって4基のピットを確認した。形状及び規模は、P 1(円形、長径23cm、短径20cm、深さ13cm)、P 2(楕円形、長径35cm、短径25cm、深さ17cm)、P 3(円形、径32cm、深さ11cm)、P 4(円形、長径39cm、短径35cm、深さ35cm)である。埋没土に焼土粒や炭化物やローム塊を含み、人為的な埋戻しと考えられる。土層断面の観察からも柱痕は確認できなかった。

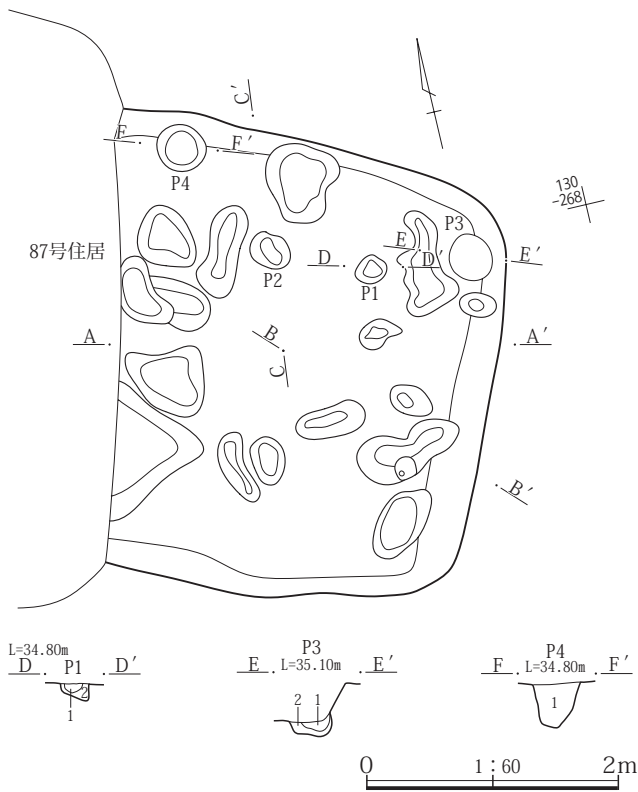
**掘り方** 大小ピット状や溝状に5~18cm掘り窪めている。柱穴などが含まれている可能性もあるが、床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器杯(第61図1)、土師器高杯(同図2)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片298点(小型製品86、中型製品5、大型製品206、不明1)、須恵器片4点(大型製品)である。

**所見** 出土遺物は6世紀後半であるが、重複関係から6世紀前半以前と考えられる。



掘り方



36号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 表土砂利敷
- 2 にぶい黄褐色土 耕作土層、ローム小～中粒少量、焼土小～中粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 黒褐色土 灰白色砂粒(As-B)10%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3' 灰白色砂層 灰白色砂小粒主体、As-B層
- 4 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム5%、ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 黒褐色土 焼土小～中粒・ローム粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 にぶい黄褐色土 5層土よりやや黒味強い、ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 黒褐色土 ローム小～中粒・焼土粒・炭化物小～中粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ローム小～中粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小～中粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 10 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム少量、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない P2
- 12 黒褐色土 ローム5%、ローム小～大粒・焼土粒少量、縮まりややあり、粘性少ない P2
- 13 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性少ない

36号竪穴住居P1D-D'

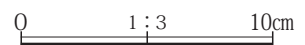
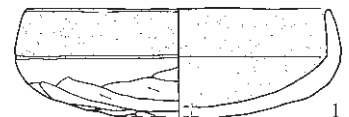
- 1 にぶい黄褐色土 ローム5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム極小～中塊・炭化物小粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない

36号竪穴住居P3E-E'

- 1 暗褐色土 ローム小～中粒・ソフトローム少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム中塊20%、縮まりややあり、粘性少ない

36号竪穴住居P4F-F'

- 1 暗褐色土 焼土小塊微量、ローム粒少量、縮まりあり、粘性あり



第61図 1区36号竪穴住居と出土遺物



1区38号竪穴住居(第62~67図 PL.19・20・81)

位置 X=125~133、Y=-251~261

形状・規模 形状は方形である。確認できる規模は、南北長7.50m、東西長7.85m、壁高北壁43cm、南壁45cm、東壁40cm、西壁44cmを測り、床面積は51.45㎡である。

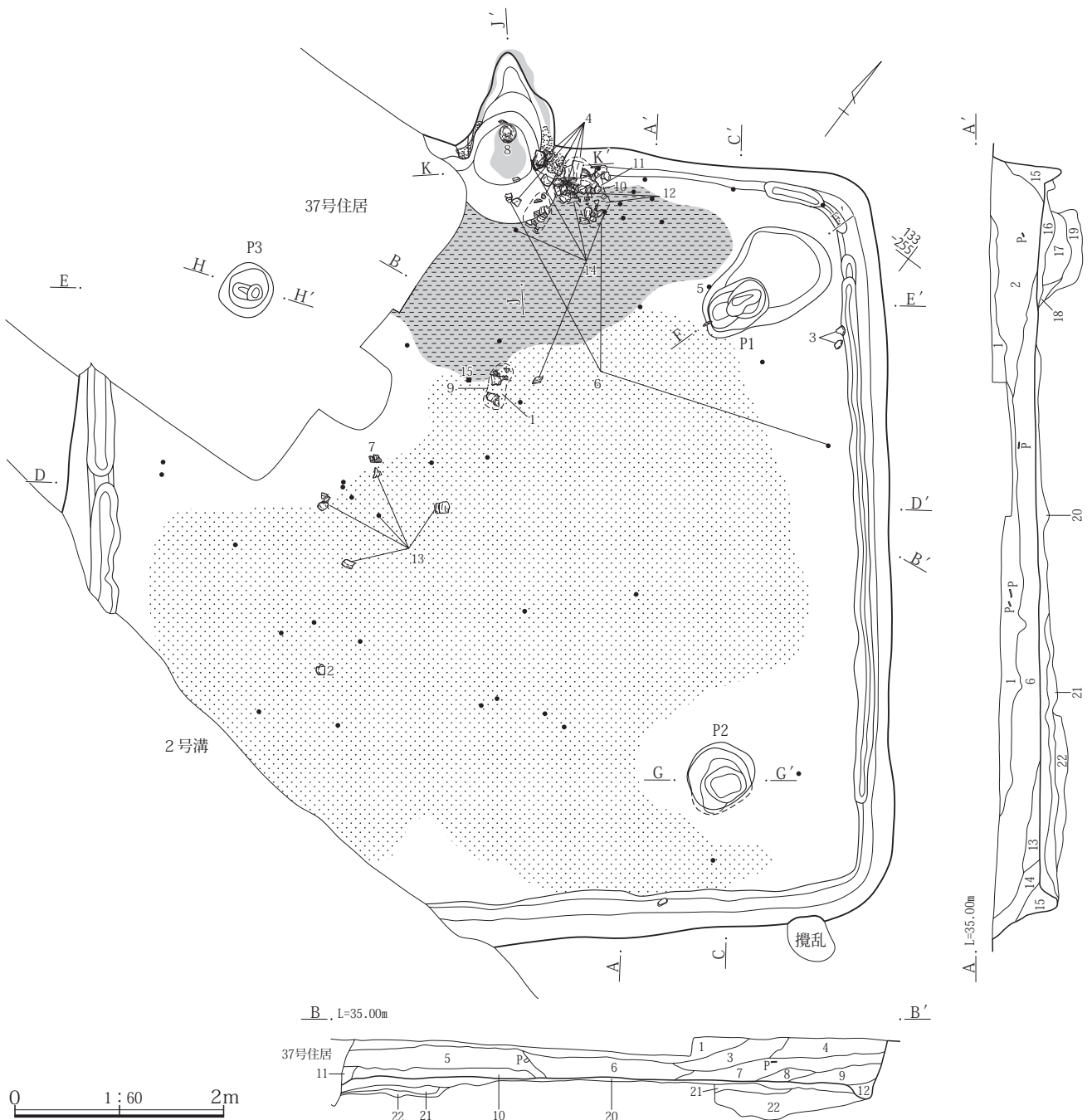
主軸方向 N-33°-E

重複 1区38号竪穴住居は、1区37号竪穴住居と1区2号溝に掘り込まれている。

埋没土 壁際からの堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 北側から南側にかけて約6cm低く緩やかに傾斜する。主柱穴の内側には使用による硬化面が認められる。カマド内部から排出した炭化物や焼土が広範囲に残存する。灰黄褐色土やにぶい黄褐色によって床面を構築する。

カマド 北壁中央部に付設する。燃烧部から煙道にかけて残存状況は比較的良好である。規模は全長1.63m、焚口幅55cm、焚口から燃烧面奥行57cm、右袖状残存部33cmを測る。軸方向は、N-37°-Eである。燃烧面からは、逆位に設置し支脚に転用した土師器小型甕(第66図8)の他、燃烧部側壁から貯蔵穴周辺の土師器甕(第66図10・



第62図 1区38号竪穴住居(1)

第3章 間之原遺跡の調査

第67図11・12・14)は、燃焼部側壁の補強材に使用した可能性がある。掘り方は、構築時に焚口周辺を溝状に掘り込み、燃焼面は約20cm、煙道部は5～15cm掘り窪めて整えている。

**貯蔵穴** 掘り方調査によってカマド右側で確認する。形状は不定形であり、規模は長軸1.66m、短軸1.10m、深さ40cmを測る。埋没土にローム塊を多量に含むため人為的な埋戻しの可能性がある。

**柱穴** P2とP3は床面の対角線上に位置し、P1は北壁コーナー部分で確認した。3本のピットは支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(不定形、長径1.35m、短径85cm、深さ69cm)、P2(円形、長径65cm、短径60cm、深さ65cm)、P3(円形、長径50cm、短径48cm、深さ61cm)である。P1～P2間は4.55m、P1～P3間は4.65mでありP1～P3間が長い。ローム塊を含む灰黄褐色土やにぶい黄褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。

**周溝** カマド付設部分以外は壁際に沿ってほぼ全周する

と考えられる。規模は幅17～31cm、深さ5～17cmを測る。ソフトロームを多量に含むにぶい黄褐色土による人為的な埋戻しである。

**他の施設** 掘り方調査によってP1とP3の間からP4を確認する。形状は円形、規模は長径30cm、短径28cm、深さ20cmを測る。P1～P3の軸線と揃わないがほぼ中央に位置することから支柱穴と考えられる。

**掘り方** 中央部分は2～10cmと浅く、壁際は25～35cmと深く掘り込み床面を整える。

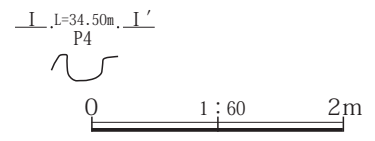
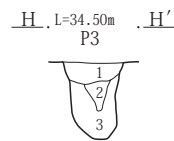
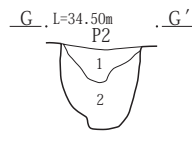
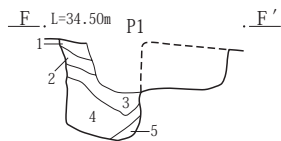
**遺物出土状態** 土師器杯(第66図1・3・4・5)、土師器鉢(第66図6)、土師器甕(第66図9)は、床面直上から出土した。土師器杯(第66図2)、土師器甕(第66図7)、土師器甕(第67図13)、鉄鏝(第67図15)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片1091点(小型製品173、中型製品3、大型製品913、不明2(表面に茎状痕のある焼粘土塊)、須恵器片6点(小型製品2、大型製品4)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

38号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・極小～中塊・焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊・焼土小～大粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石小粒少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体80%、ローム粒・大塊10%、炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム5%、ローム極小～大塊3%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒を含む、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム極小～大塊粒・焼土粒少量、灰黄色シルト質土極小塊・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 ローム極小～大塊粒・炭化物小～大粒・焼土粒・灰白色軽石小粒少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム粒・極小～中塊5%、焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 黒褐色土 ローム極小～中粒・焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ローム粒・極小～中塊少量、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 灰黄色粘質土10%、焼土小粒少量、炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない、カマド崩土

- 11 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 12 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 ローム・粒・極小～中塊5%、焼土小～大粒・炭化物小粒・灰白色軽石小～大粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 14 褐灰色土 ローム小粒・焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ローム粒・極小塊10%、炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 15' にぶい黄褐色土 やや黒味強い、縮まりやや弱、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム大塊を含む、縮まりやや弱、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 18 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小～中塊5%、焼土小粒・炭化物小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 19 灰黄褐色土 ソフトローム25%、ハードローム大塊5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 20 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊10%、縮まりあり
- 21 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム大塊10%、縮まりあり
- 22 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム中～大塊30%、縮まりあり



38号竪穴住居P1F-F'

- 1 にぶい黄褐色土 ハードローム大塊5%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊5%、縮まりややあり
- 3 灰黄褐色土 ローム5%、ローム大塊10%、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 4 灰黄褐色土 ローム5%、ハードローム極小塊少量、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 5 にぶい黄褐色土 ハードローム中心、縮まりやや弱、粘性ややあり

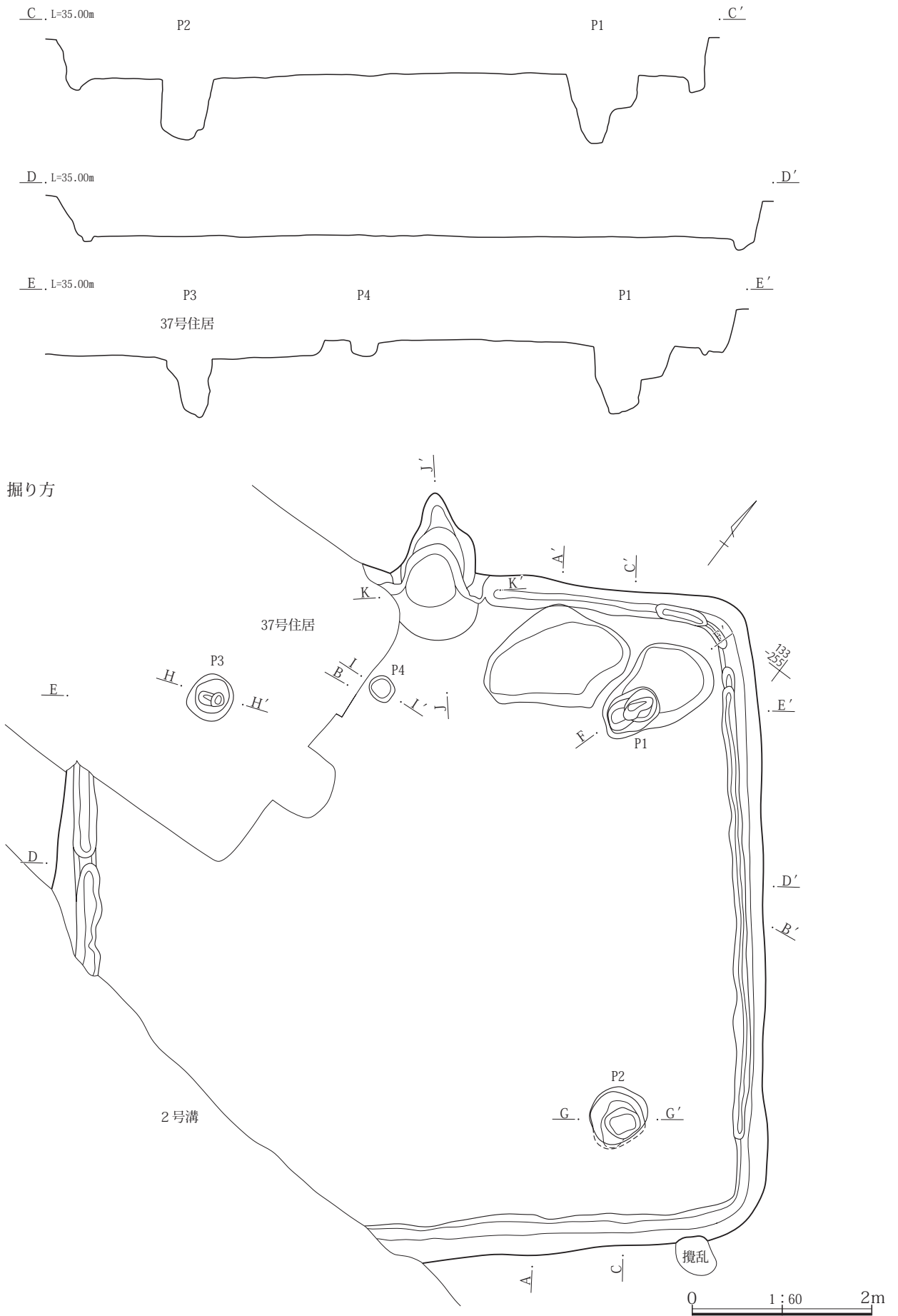
38号竪穴住居P2G-G'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム30%、焼土小～中粒・炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム大塊5%、縮まりやや弱、粘性ややあり

38号竪穴住居P3H-H'

- 1 灰黄褐色土 ハードローム大塊20%、ソフトローム5%、縮まりややあり
- 2 黒褐色土 ソフトローム5%、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム大塊5%、縮まりやや弱、粘性ややあり

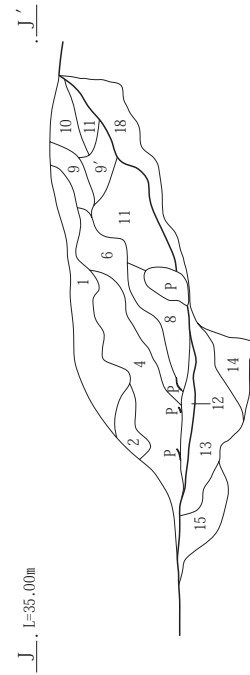
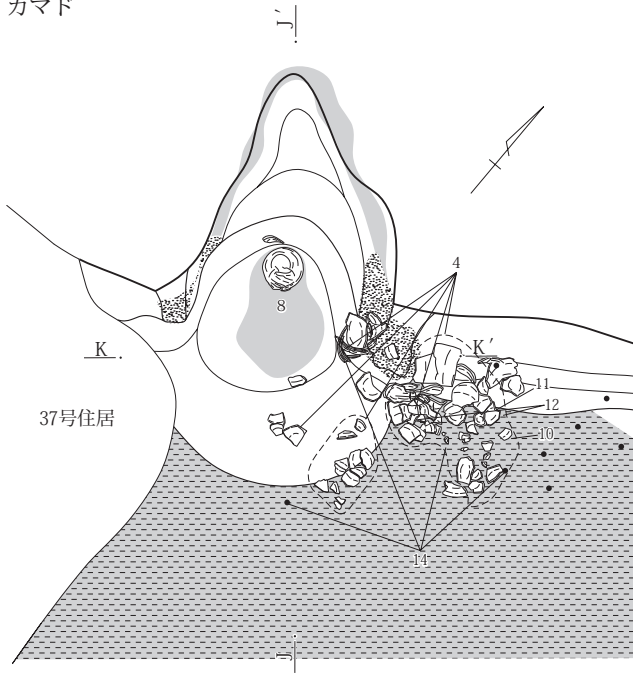
第63図 1区38号竪穴住居(2)



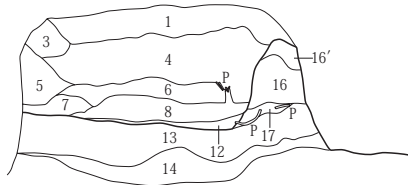
第64図 1区38号竖穴住居(3)

第3章 間之原遺跡の調査

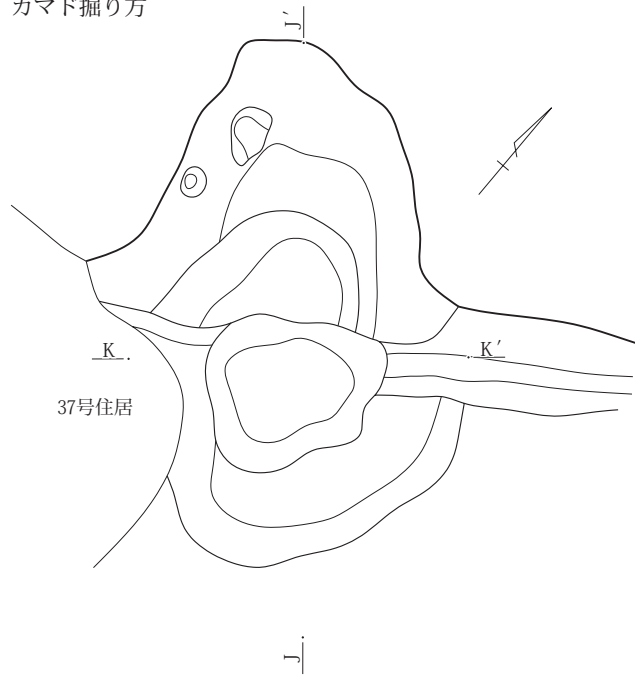
カマド



K L=35.00m K'



カマド掘り方

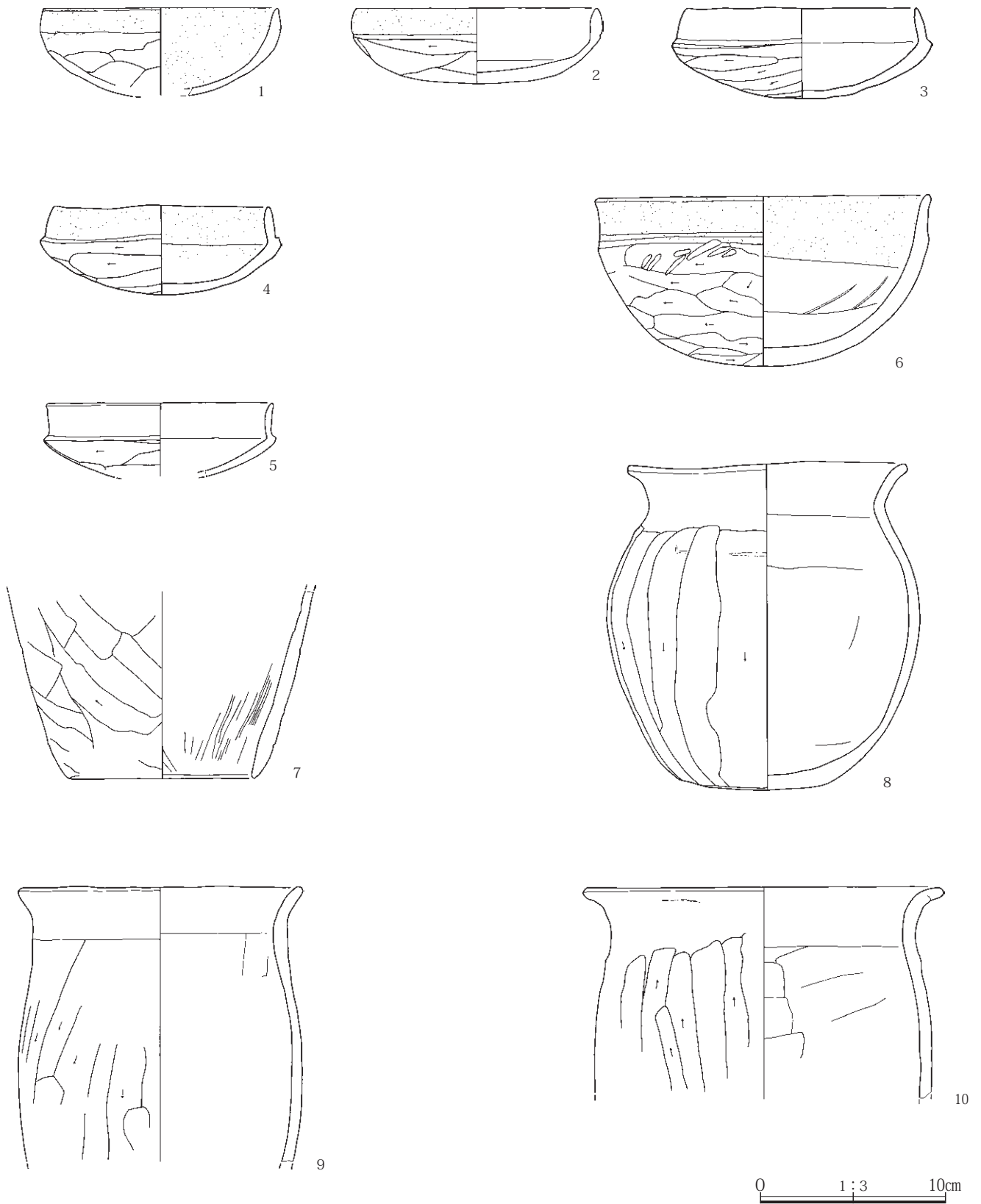


38号竪穴住居カマドJ-J'・K-K'

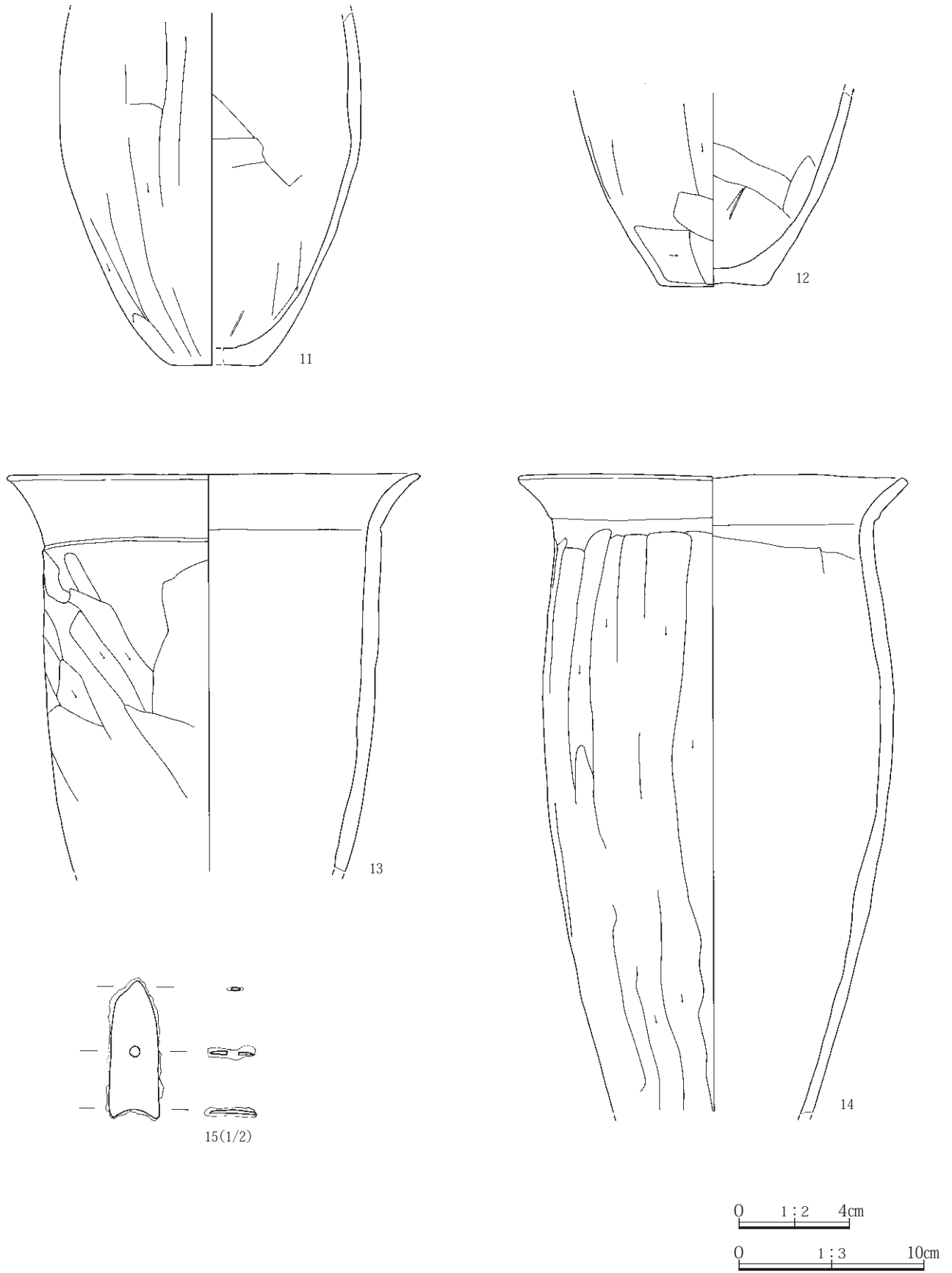
- 1 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土・焼土中粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石小粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 暗灰黄色土 浅黄色シルト質土20%、焼土小粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 褐灰色土 灰黄色シルト質土5%、焼土小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 にぶい黄色土 灰黄色シルト質土主体、焼土小粒5%、炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 暗灰黄色土 灰黄色シルト質土5%、焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 暗灰黄色土 灰黄色シルト質土・焼土小粒10%、縮まり弱、粘性少ない
- 7 暗灰黄色土 灰黄色シルト質土10%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、縮まり弱、粘性少ない
- 8 黄灰色土 灰層10%、焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒少量、縮まり弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 焼土小塊・灰白色粘土中塊・炭化物少量
- 9' 灰黄褐色土 9層土に類似、粘土塊の混入なし
- 9'' 灰黄褐色土 9層土に類似+多量の焼土粒を含む
- 10 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 11 灰黄褐色土 炭化物微量
- 12 黒褐色灰層 焼土粒・ハードローム粒・炭化物少量
- 13 にぶい黄褐色土 ハードローム小塊・浅黄褐色粘土塊・焼土大塊多量
- 14 にぶい黄褐色土 ハードローム中～大塊多量
- 15 黒褐色土 ローム粒多量、ハードローム中塊少量
- 16 淡黄色粘土 カマド構築材、袖部
- 16' 淡黄色粘土 焼土小塊・灰黄褐色土少量
- 17 黒褐色土 淡黄色粘土塊微量
- 18 灰黄褐色土 浅黄～淡黄色粘土中～大塊多量

第65図 1区38号竪穴住居カマド





第66図 1区38号竪穴住居出土遺物(1)



第67図 1区38号竪穴住居出土遺物(2)

1区39号竪穴住居(第68・69図 PL.21・82)

位置 X=138~143、Y=-255~260

形状・規模 形状は方形である。長軸長3.93m、短軸長3.50m、壁高北西壁51cm、南東壁40cm、北東壁41cm、南西壁54cmを測る。床面積は13.78㎡である。

主軸方向 N-44°-E

重複 なし。

埋没土 壁際に三角堆積がみられ、下層から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。床面付近の埋没土に黒褐色土が含まれるが、ローム塊・粒を多量に含むにぶい黄褐色土によって埋没している。

床面 ほぼ全面に硬化面が認められる。南側から北側にかけて緩やかに傾斜し、カマド周辺部は約8cm低い。にぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北東壁中央部やや南寄りに付設する。規模は全長80cm、焚口幅30cm、燃烧部奥行45cmを測る。軸方向は、

N-48°-Eである。燃烧面に焼土が残るが、燃烧部側壁の残存状況は不良である。掘り方は、燃烧面を約20cm、煙道を5~15cm掘り窪め整える。

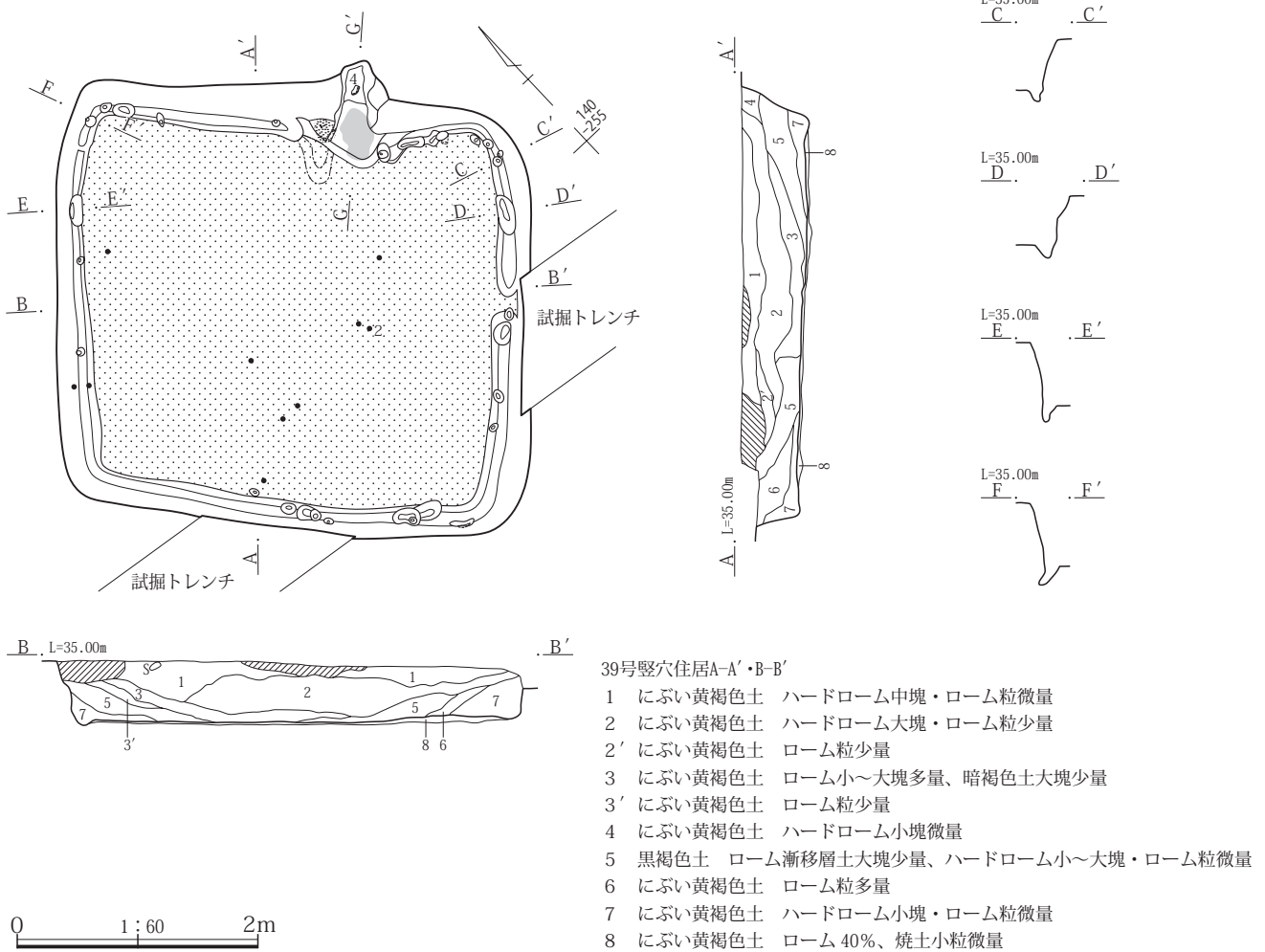
貯蔵穴・柱穴 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

周溝 カマド付設部分以外は、壁際に沿って全周する。規模は、幅15~28cm、深さ1~3cmを測る。周溝内に長さ約5~34cm、深さ約3~15cmの小ピット状の窪みが断続的に認められる。出入口施設の他、壁に付設された構造物に関連する下部構造の痕跡の可能性がある。

掘り方 小ピット状に2~5cm全体的に掘り窪められている。床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器杯(第69図1~4)、釘(同図5)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片193点(小型製品47、大型製品144、不明2)、須恵器片1点(大型製品)である。

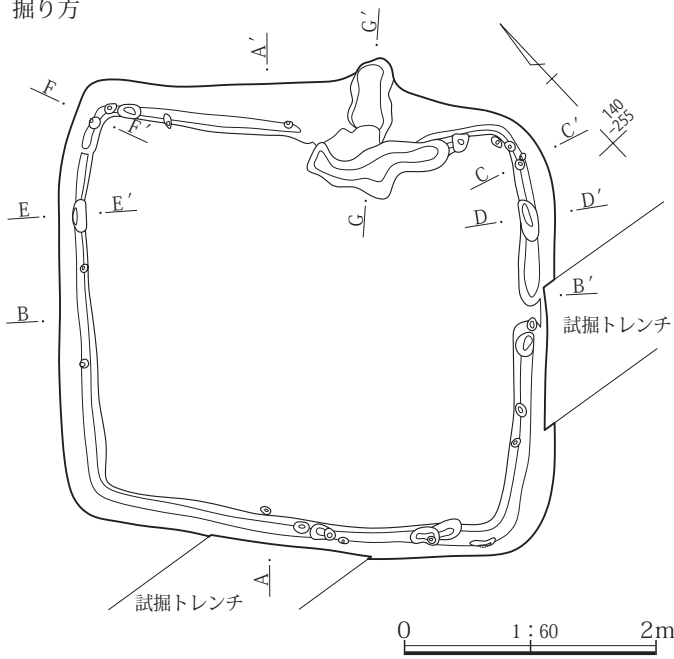
所見 出土遺物から時期は7世紀後半と考えられる。



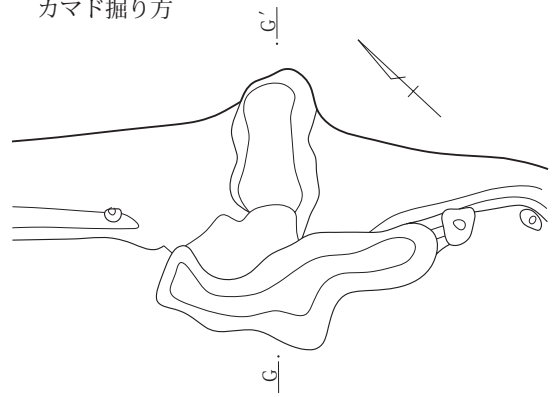
第68図 1区39号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

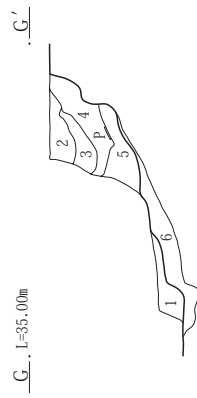
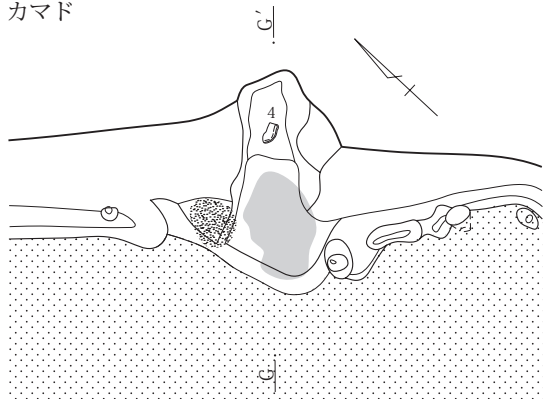
掘り方



カマド掘り方

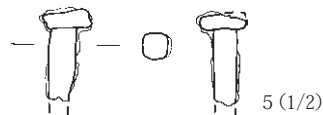
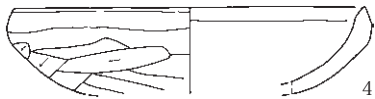
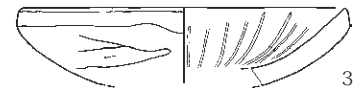
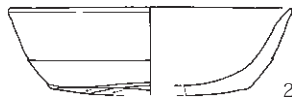
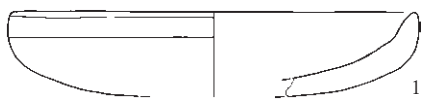


カマド



39号竪穴住居カマドG-G'

- 1 灰黄褐色土 灰白色粘土中～大塊多量、焼土小～中塊・ハードローム小～中塊・炭化物少量
- 2 黒褐色土 ローム漸移層土中～大塊少量、ローム粒少量
- 3 黒褐色土 ローム漸移層土中～大塊多量、ローム粒・焼土粒少量
- 4 にぶい黄褐色土 黒褐色土中塊・ローム粒・焼土粒少量
- 5 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 6 灰層 焼土粒・焼土小塊・炭化物多量



0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

第69図 1区39号竪穴住居掘り方・カマドと出土遺物



1区40号竪穴住居(第70・71図 PL.21・22・82)

位置 X=143~148、Y=-260~265

形状・規模 形状は長方形である。長軸長3.93m、短軸長3.33m、壁高北壁26cm、南壁23cm、東壁27cm、西壁29cmを測る。床面積は11.50㎡である。

主軸方向 N-34°-W

重複 なし。

埋没土 壁際はローム塊を含むぶい黄褐色土、下層から上層にかけてローム漸移層土を含む灰黄褐色土や黒褐色土の混土によって埋没する。自然埋没か人為的かは不明である。

床面 ほぼ平坦であるが、中央部分が1~3cm低い。全面で硬化面が認められる。ロームを含む灰黄褐色土やぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北壁中央部やや東寄りに付設する。燃烧部側壁の残存状況は比較的良好である。煙道部は住居北壁から

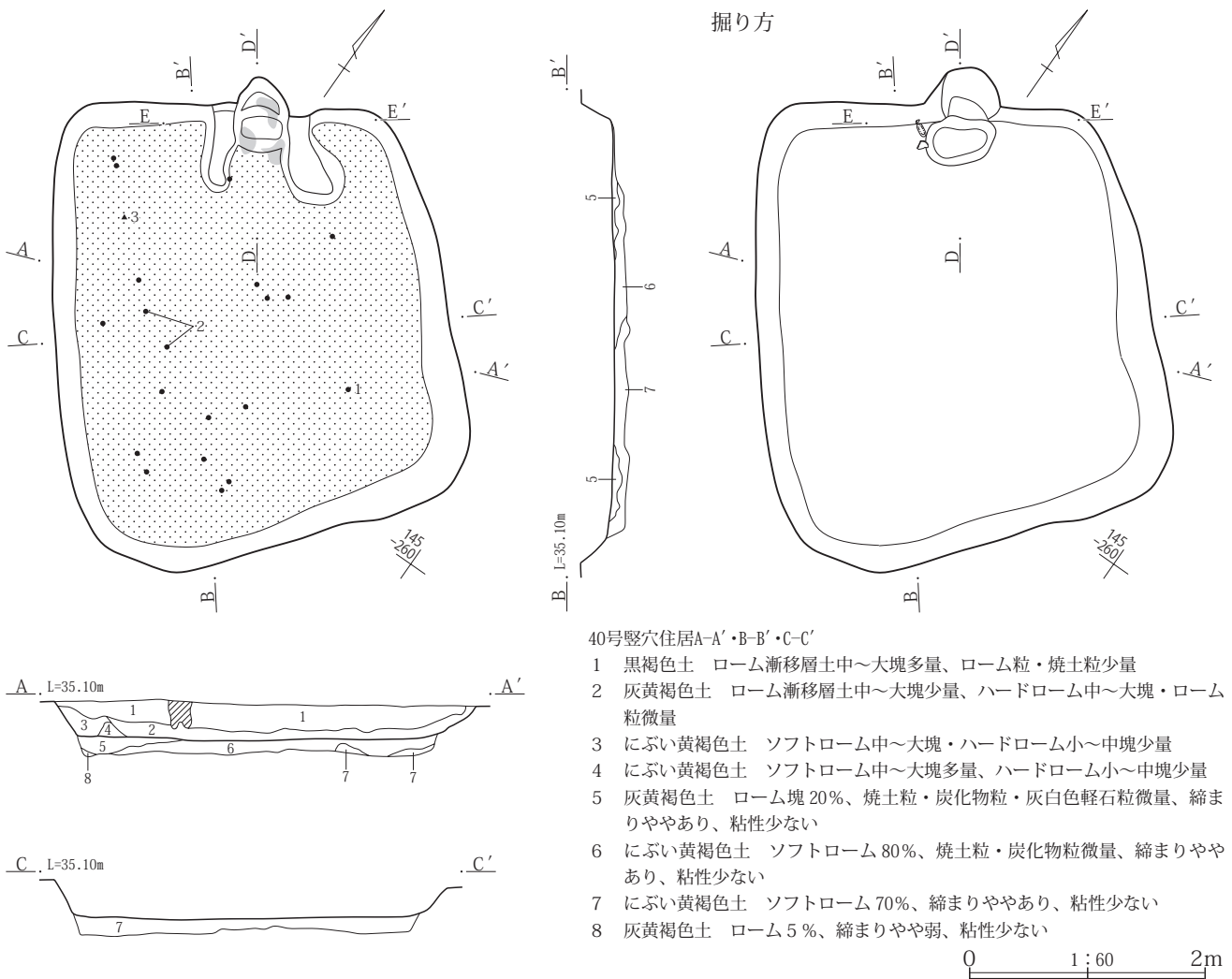
屋外へあまり出ない構造である。規模は全長1.02m、幅1.20m、焚口幅48cm、焚口から燃烧部奥行68cm、左袖状残存部77cm、右袖状残存部75cmを測る。軸方向は、N-38°-Wであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。掘り方は、燃烧面を約6cm、煙道を約15cm掘り窪め整えている。

貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

掘り方 ローム面を約10cm掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 遺物は住居西半部に多く認められる。土師器杯(第71図1)、土師器鉢(同図2)、磨石(同図3)は、床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片191点(小型製品19、大型製品142、不明30)である。

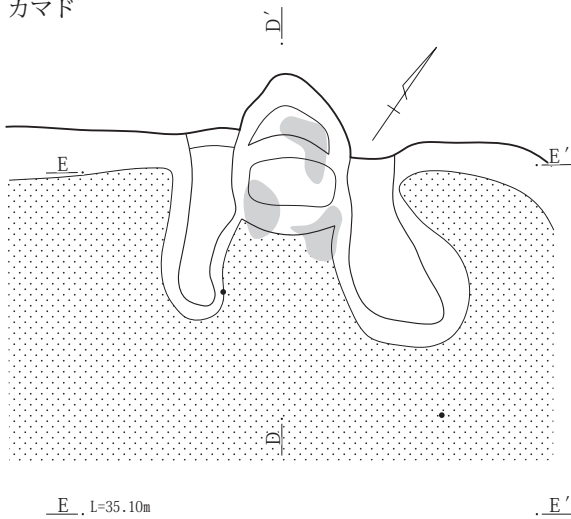
所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



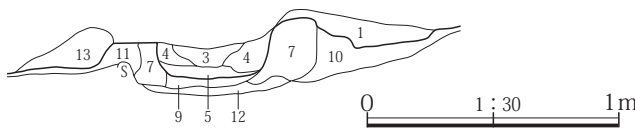
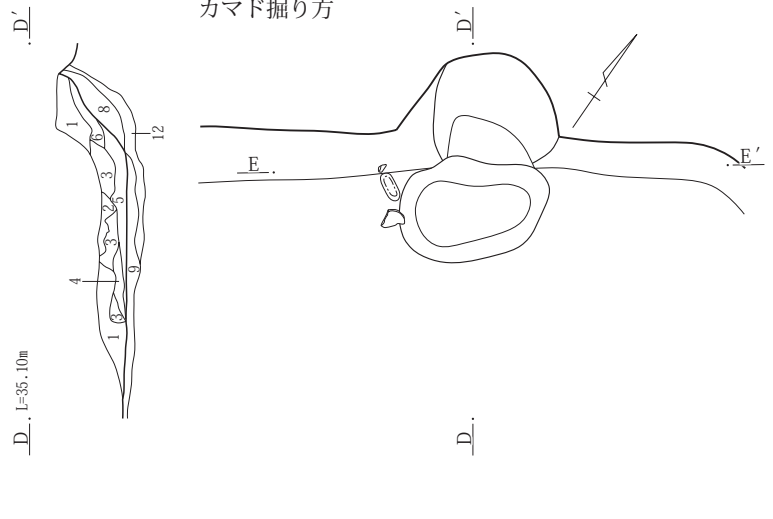
第70図 1区40号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

カマド



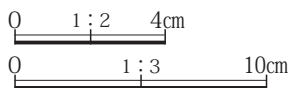
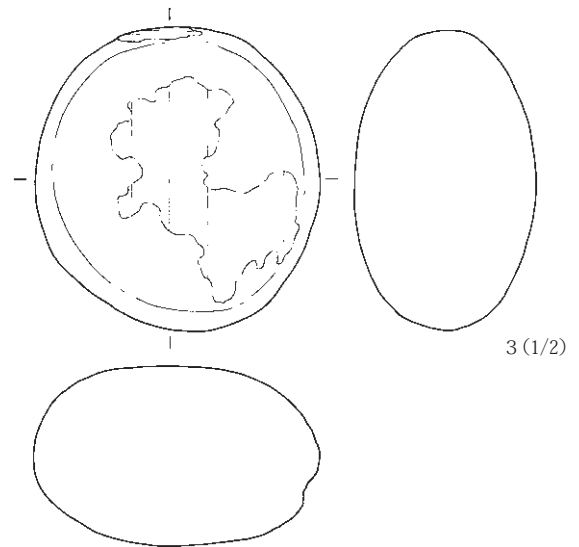
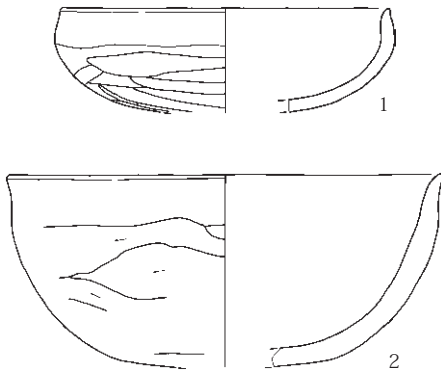
カマド掘り方



40号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 にぶい黄橙色粘土小～中塊多量、ハードローム粒少量
- 2 灰黄褐色土 にぶい黄橙色粘土小塊・焼土粒・炭化物少量
- 3 にぶい黄橙色土 灰白色粘土小塊・焼土小～中塊少量、崩落天井・袖部構築材

- 4 にぶい黄褐色土 にぶい黄橙色粘土小塊多量、焼土粒・炭化物少量
- 5 灰層 少量の焼土粒・炭化物を含む
- 6 灰黄褐色土 焼土小～中塊多量
- 7 にぶい黄橙色粘土 袖部、白色軽石少量
- 8 灰黄褐色土 にぶい黄橙色粘土中塊多量
- 9 灰黄褐色土 灰・焼土粒・炭化物少量
- 10 灰黄褐色粘質土 にぶい黄橙色粘土中塊少量
- 11 黒褐色土 焼土小塊多量
- 12 明黄褐色土 ハードローム主体、ローム漸移層土少量
- 13 黒褐色土 ローム漸移層土塊、ローム粒含む



第71図 1区40号竪穴住居カマドと出土遺物

1区41号竪穴住居(第72・73図 PL.22・82)

位置 X=147~150、Y=-259~264

形状・規模 調査区北境に位置するため、全体の形状や規模は不明である。確認できる規模は、東辺3.60m、南辺3.30m、壁高南壁79cmである。

主軸方向 不明。

重複 1区41号竪穴住居が1区3号竪穴状遺構を掘り込む。

埋没土 壁際に三角堆積がみられ、上層にレンズ状の堆

積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 西側から東壁側にかけて緩やかに傾斜して下り、比高差10cmを測る。南東壁際から中央部にかけて広範囲に硬化面が認められ、炭化物も出土した。ロームを含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混土によって床面を構築する。

カマド・貯蔵穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

柱穴 床面精査でP1、掘り方調査でP2を確認する。

形状及び規模は、P 1 (楕円形、長径70cm、短径55cm、深さ82cm)、P 2 (楕円形か、長径55cm以上、短径55cm、深さ62cm)であり、P 1 がP 2 を掘り込む。確認した位置から支柱穴の可能性はある。

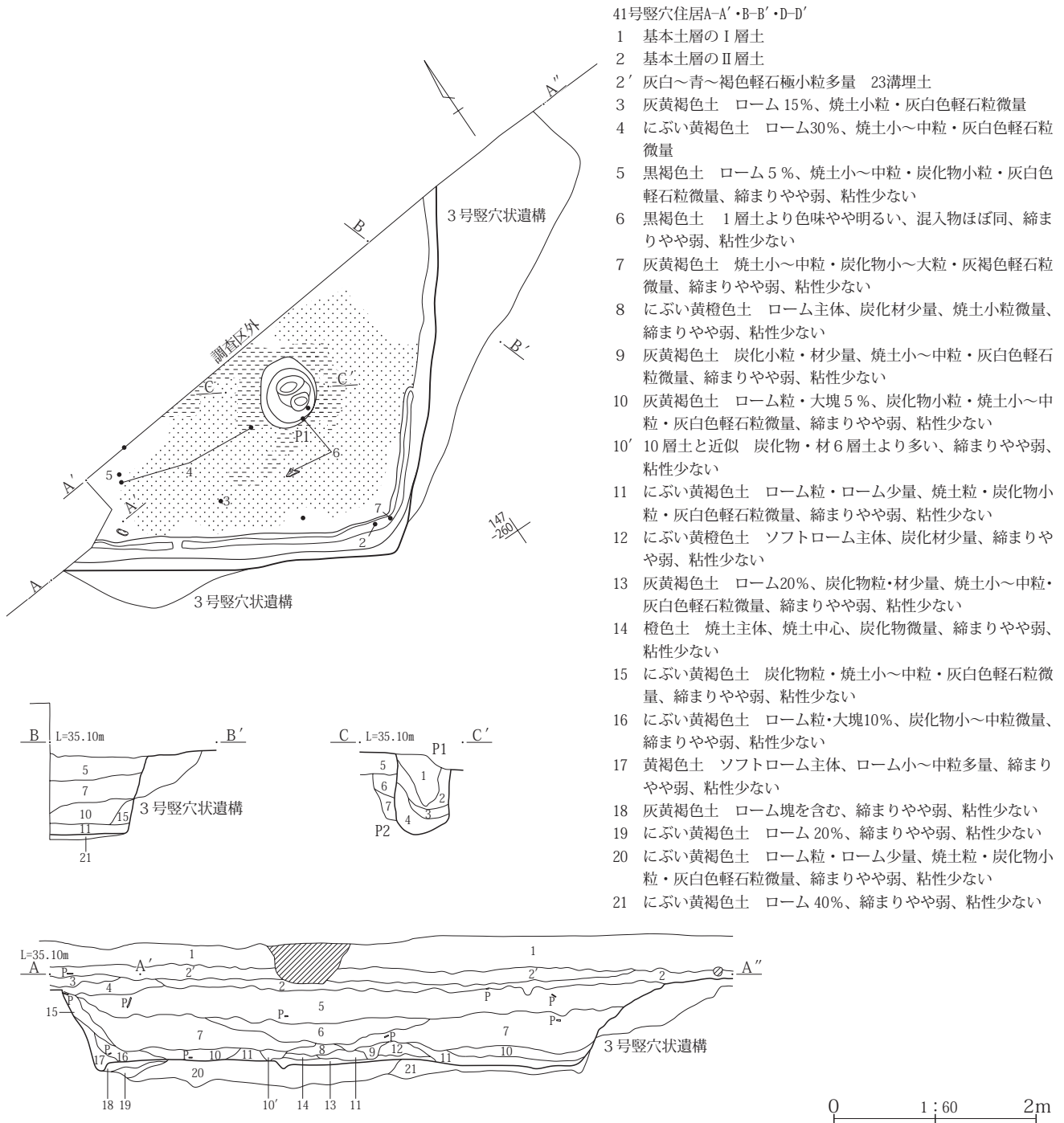
**周溝** 南壁際と東壁際コーナー部分で確認する。規模は、幅12~27cm、深さ6~9cmを測る。ソフトロームを含む黄褐色土によって人為的に埋戻す。

**掘り方** 床面からローム面まで10~20cm掘り窪め、土坑状及び溝状の凹凸が全体的に認められる。床下施設など

は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器甕(第73図6)は、床面直上から出土した。土師器杯(同図1・2)、須恵器甕(同図3・4)、須恵器小型甕(同図5)、土錘(同図7)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片566点(小型製品189、中型製品1、大型製品373、不明3)、須恵器片76点(小型製品12、中型製品1、大型製品63)に上る。

**所見** 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。

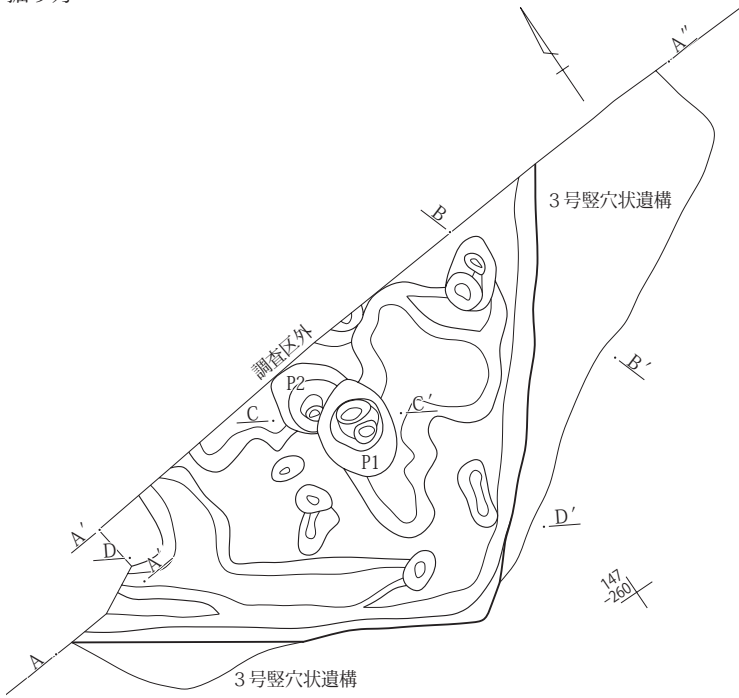


41号竪穴住居A-A'・B-B'・D-D'

- 1 基本土層のI層土
- 2 基本土層のII層土
- 2' 灰白~青~褐色軽石極小粒多量 23溝埋土
- 3 灰黄褐色土 ローム15%、焼土小粒・灰白色軽石粒微量
- 4 にぶい黄褐色土 ローム30%、焼土小~中粒・灰白色軽石粒微量
- 5 黒褐色土 ローム5%、焼土小~中粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 黒褐色土 1層土より色味やや明るい、混入物ほぼ同、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 焼土小~中粒・炭化物小~大粒・灰褐色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 ローム主体、炭化材少量、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 炭化小粒・材少量、焼土小~中粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 ローム粒・大塊5%、炭化物小粒・焼土小~中粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10' 10層土と近似 炭化物・材6層土より多い、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 にぶい黄褐色土 ローム粒・ローム少量、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、炭化材少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 ローム20%、炭化物粒・材少量、焼土小~中粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 橙褐色土 焼土主体、焼土中心、炭化物微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 15 にぶい黄褐色土 炭化物粒・焼土小~中粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 16 にぶい黄褐色土 ローム粒・大塊10%、炭化物小~中粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 17 黄褐色土 ソフトローム主体、ローム小~中粒多量、締まりやや弱、粘性少ない
- 18 灰黄褐色土 ローム塊を含む、締まりやや弱、粘性少ない
- 19 にぶい黄褐色土 ローム20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 20 にぶい黄褐色土 ローム粒・ローム少量、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 21 にぶい黄褐色土 ローム40%、締まりやや弱、粘性少ない

第72図 1区41号竪穴住居

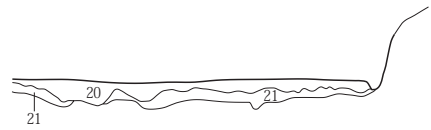
掘り方



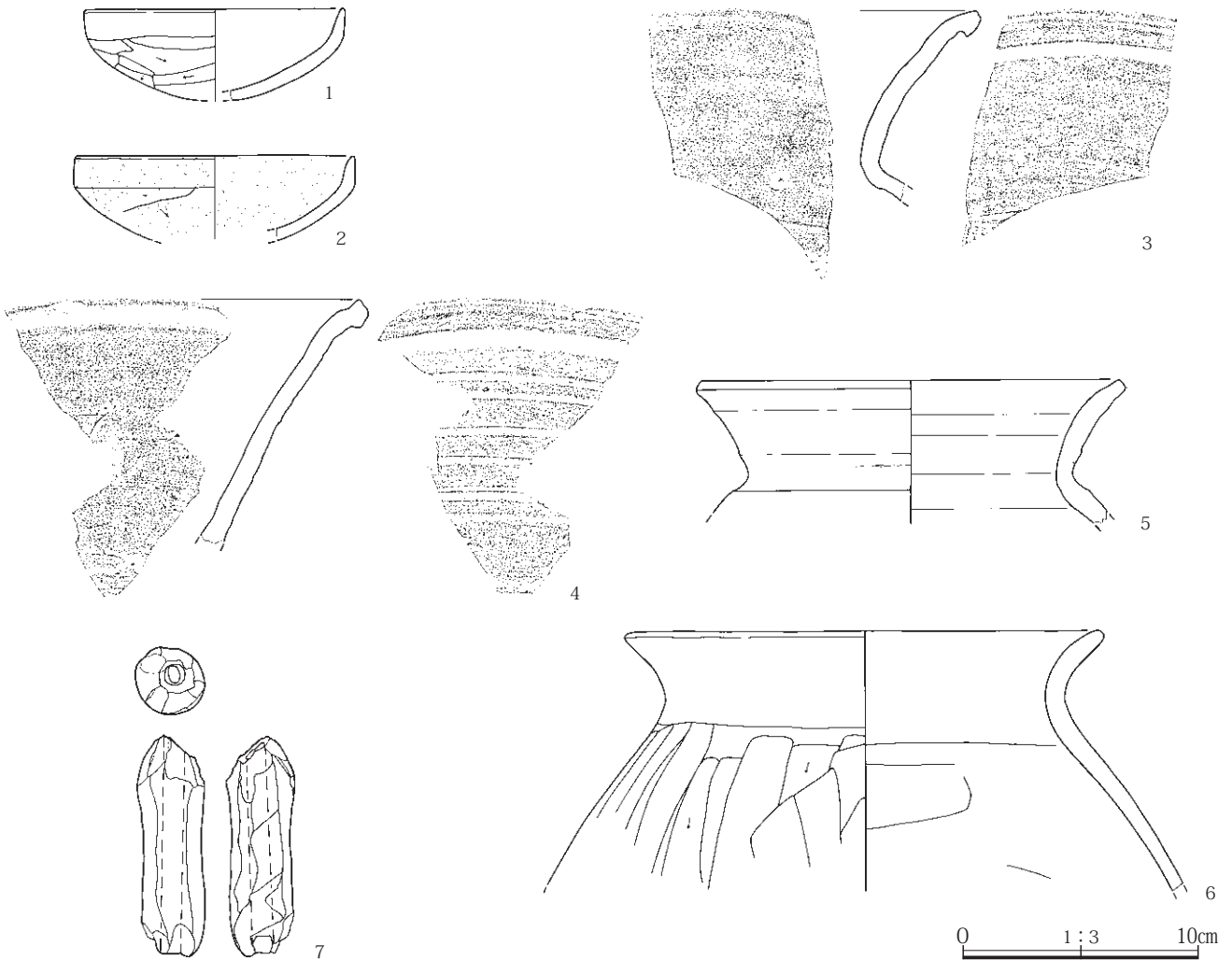
41号竪穴住居P1・P2C-C'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム大塊10%、炭化物小～中粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 黒褐色土 ローム小粒・炭化物小～中粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ローム80%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 41号竪穴住居11層土
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ローム70%、縮まりやや弱、粘性少ない P 2
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりやや弱、粘性少ない P 2

D, L=35.10m



0 1:60 2m



第73図 1区41号竪穴住居掘り方と出土遺物



1区43号竪穴住居(第74~76図 PL.22・23・82)

位置 X=145~150、Y=-251~257

形状・規模 形状は方形である。規模は、長軸長3.65m、短軸長3.48m、壁高北東壁及び東南壁49cm、南西壁45cm、北西壁46cmを測る。床面積は12.69㎡である。

主軸方向 N-45°-E

重複 1区529・530・537・538号ピットと重複する。遺構確認状況からピットが新しいと考えられる。

埋没土 全体に焼土粒や炭化物粒を含み、下層は灰黄褐色土で上層は褐色土や黒褐色土によって埋没する。壁際に三角堆積が認められるが、自然埋没か人為的かは不明である。

床面 高低差は殆どなく平坦であるが、カマド焚口周辺部が3~4cm低い。床面中央部には北東壁から南西壁にかけて長方形に硬化面が認められる。ソフトロームやハードローム大塊などを含む灰黄褐色土の混土によって床面を構築する。

カマド 北東壁中央部に付設する。焚口部・燃烧部の構造が軸方向上で短く、残存する燃烧部側壁が瘤状に認められる。構築材となるシルト質土が広範囲に散乱する。

焚口に焼土と炭化物、燃烧面に灰層が残る。規模は全長90cm、幅1.45m、焚口幅90cm、燃烧部奥行65cm、左袖状残存部40cm、右袖状残存部35cmを測る。軸方向は、N-48°-Eである。掘り方は、燃烧面を約5cm掘り窪め使用面を整える。カマド燃烧面から焚口周辺部で土師器甕(第76図6・7)、土師器小型甕(同図8)、土製品支脚か(同図9)が出土する。

貯蔵穴 カマド右側において確認する。形状は隅丸長方形、規模は、長径60cm、短径54cm、深さ35cmを測る。

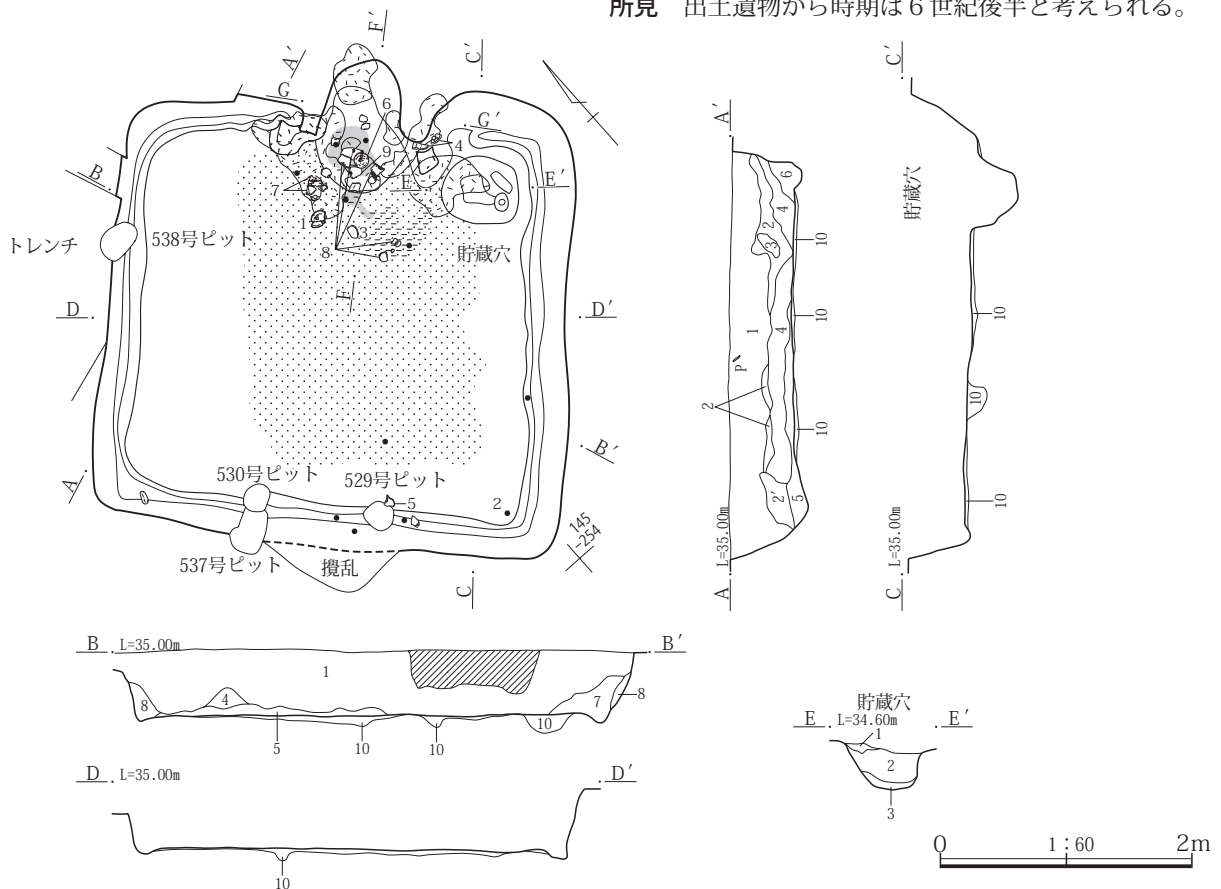
柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

周溝 カマド付設部分以外は壁際に沿ってほぼ全周する。規模は幅15~24cm、深さ3~8cmを測る。

掘り方 床面から2~14cm掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器杯(第76図1・3・4)は床面直上から、土師器小型甕(同図5)は床面上5cmから出土し、住居に伴うと考えられる。土師器杯(同図2)、白玉(同図10)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片208点(小型製品32、大型製品171、不明5)、須恵器片3点(大型製品)に上る。

所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第74図 1区43号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

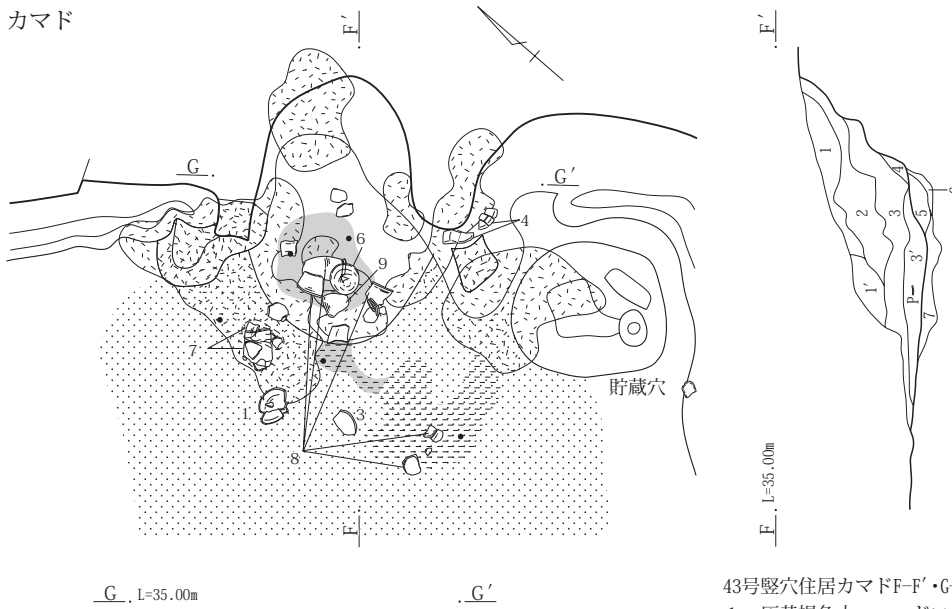
43号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1 褐色土 ローム粒・大塊10%、焼土小粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ローム小～中粒・炭化物小～中粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 2' 黒褐色土 炭化物粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 3 浅黄色土 シルト質土塊、締まりややあり、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム粒・大塊少量、焼土小～大粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 5 黒褐色土 ローム粒・大塊少量、焼土小～大粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 ローム粒・大塊・浅黄色土塊少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム粒・大塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 8 にぶい黄橙色土 ソフトローム主体、締まりややあり、粘性少ない
- 9 黄褐色土 ローム小塊・粒多量
- 10 灰黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム大塊5%、焼土小～中粒微量、締まりややあり、粘性ややあり

43号竪穴住居貯蔵穴E-E'

- 1 にぶい黄橙色土 粘質土、焼土小塊少量、カマド構築部材崩落土
- 2 灰黄褐色土 ハードローム中塊・黒色土大塊少量
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、ハードローム小塊少量

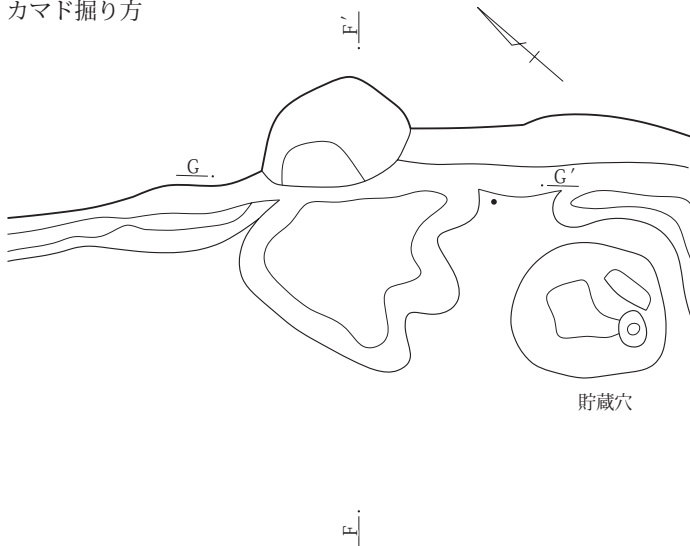
カマド



43号竪穴住居カマドF-F'・G-G'

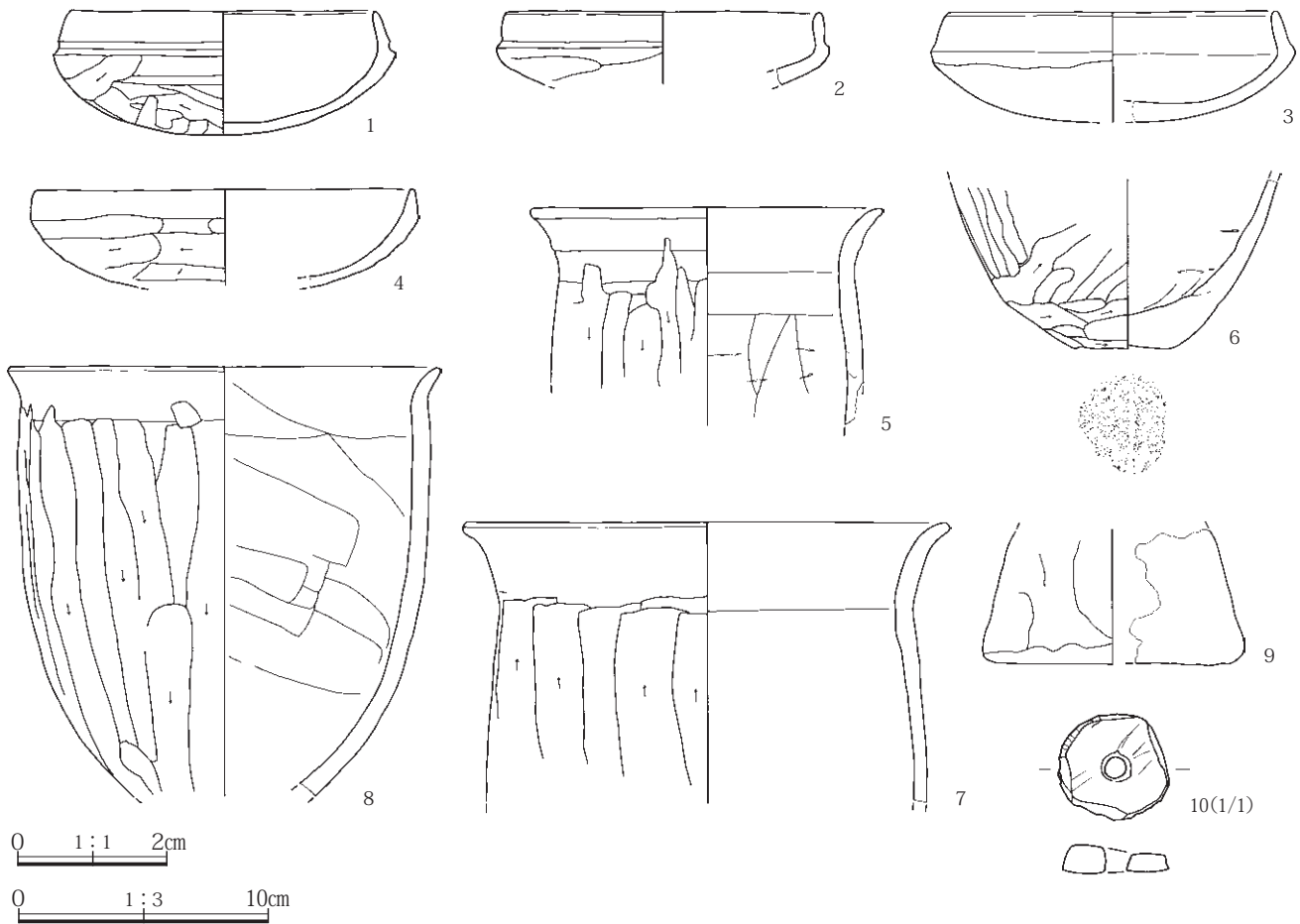
- 1 灰黄褐色土 ハードローム・にぶい黄橙色粘土塊少量
- 1' 灰黄褐色土 1層土+黒色土大塊
- 2 灰黄褐色土 にぶい黄橙～灰白色粘土大塊多量、焼土粒少量
- 3 灰黄褐色土 にぶい黄橙～灰白色粘土中塊・焼土粒・焼土小塊多量、炭化物少量
- 3' 灰黄褐色土 3層土に類似、粘土塊少量
- 4 褐灰色 灰層含む、焼土小～大粒5%、ローム粒・中塊微量
- 5 にぶい黄橙色土 ソフトローム主体70%、焼土小粒微量
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、焼土小粒微量
- 7 褐灰色 灰層、焼土粒・極小塊5%
- 8 浅黄色土 シルト質土主体70%、焼土粒・炭化物小粒微量
- 9 暗灰黄色土 焼土粒・炭化物小粒微量
- 10 暗灰黄色土 浅黄色シルト質土5%、焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 11 浅黄色土 シルト質土、焼土物小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 12 オリーブ褐色土 浅黄色シルト質土・ハードローム小～大塊5%、焼土粒・炭化物小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 13 にぶい黄色土 シルト質土90%、炭化物極小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 14 黄褐色土 ソフトロームと浅黄シルト質土を含む、粘性少ない
- 15 オリーブ褐色土 ソフトローム20%、ローム小粒10%、粘性少ない
- 16 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、浅黄色シルト質土10%、粘性少ない

カマド掘り方



0 1:30 1m

第75図 1区43号竪穴住居カマド



第76図 1区43号竪穴住居出土遺物

**1区45号竪穴住居**(第77・78図 PL.23)

**位置** X=141~145、Y=-246~251

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長3.90m、短軸長3.12m、壁高北西壁と北東壁と南西壁33cm、南東壁34cmを測る。床面積は11.28㎡である。

**主軸方向** N-45°-W

**重複** 1区45号竪穴住居が1区4号竪穴状遺構を掘り込む。

**埋没土** 灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦であるが、南西壁から北東壁にかけて緩やかに傾斜し下り、比高差3cmを測る。床面の中央部に方形状の硬化面が認められる。

**カマド** 北西壁中央部に付設する。燃烧面は床面より2~5cm低く、煙道にかけて残存状況は良好である。規模は、全長55cm、幅55cm、焚口幅40cm、燃烧部奥行30cm、左袖状残存部17cm、右袖状残存部18cmを測る。軸方向は、N-44°-Wであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。掘り方は、燃烧面を約5cm掘り窪め整えている。焚口か

ら外側の土坑状の落ち込みは、内側に構築されていた古い竪穴住居のカマド掘り方と考えられる。

**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

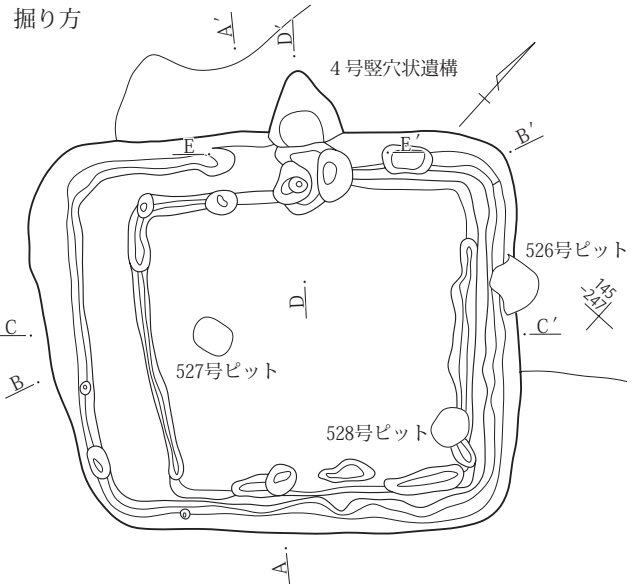
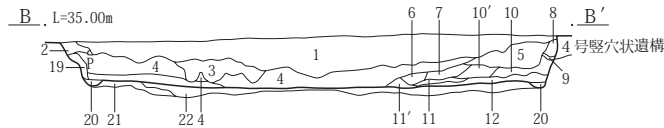
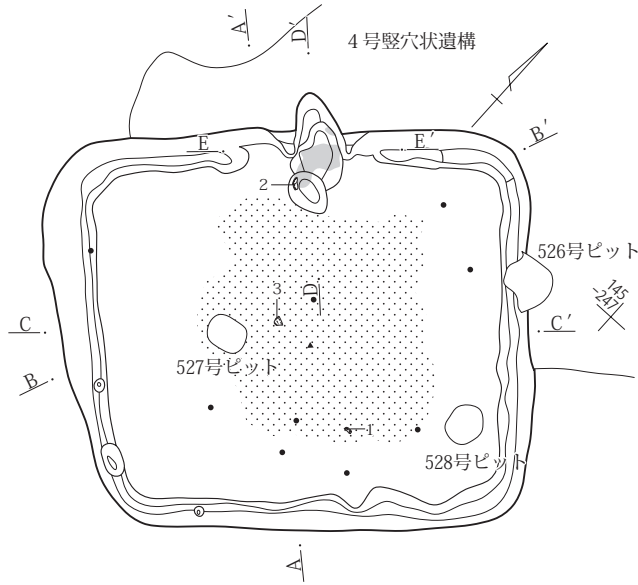
**周溝** カマド付設部分以外は壁際に沿ってほぼ全周する。規模は幅14~25cm、深さ3~5cmを測る。

**掘り方** 大小ピット状に掘り窪められ、全体的に凹凸が認められる。古い住居の周溝やカマド掘り方以外は確認できなかった。掘り方調査を行って、住居内側の東壁寄りに、方形状に掘り巡らされた周溝を確認した。規模は、幅12~20cm、深さ3~5cmを測る。古い周溝が認められ、建て替えによる拡張が行われていた。

**遺物出土状態** 土師器杯(第78図3)は床面上5cmから、土師器杯(同図1・2)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片173点(小型製品46、大型製品109、不明18)、須恵器片3点(不明)である。

**所見** 床面及び掘り方調査による周溝の確認状況から住居の建て替えが行われていた。出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。

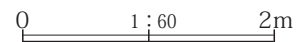
第3章 間之原遺跡の調査



45号竖穴住居A-A'・B-B'・C-C'

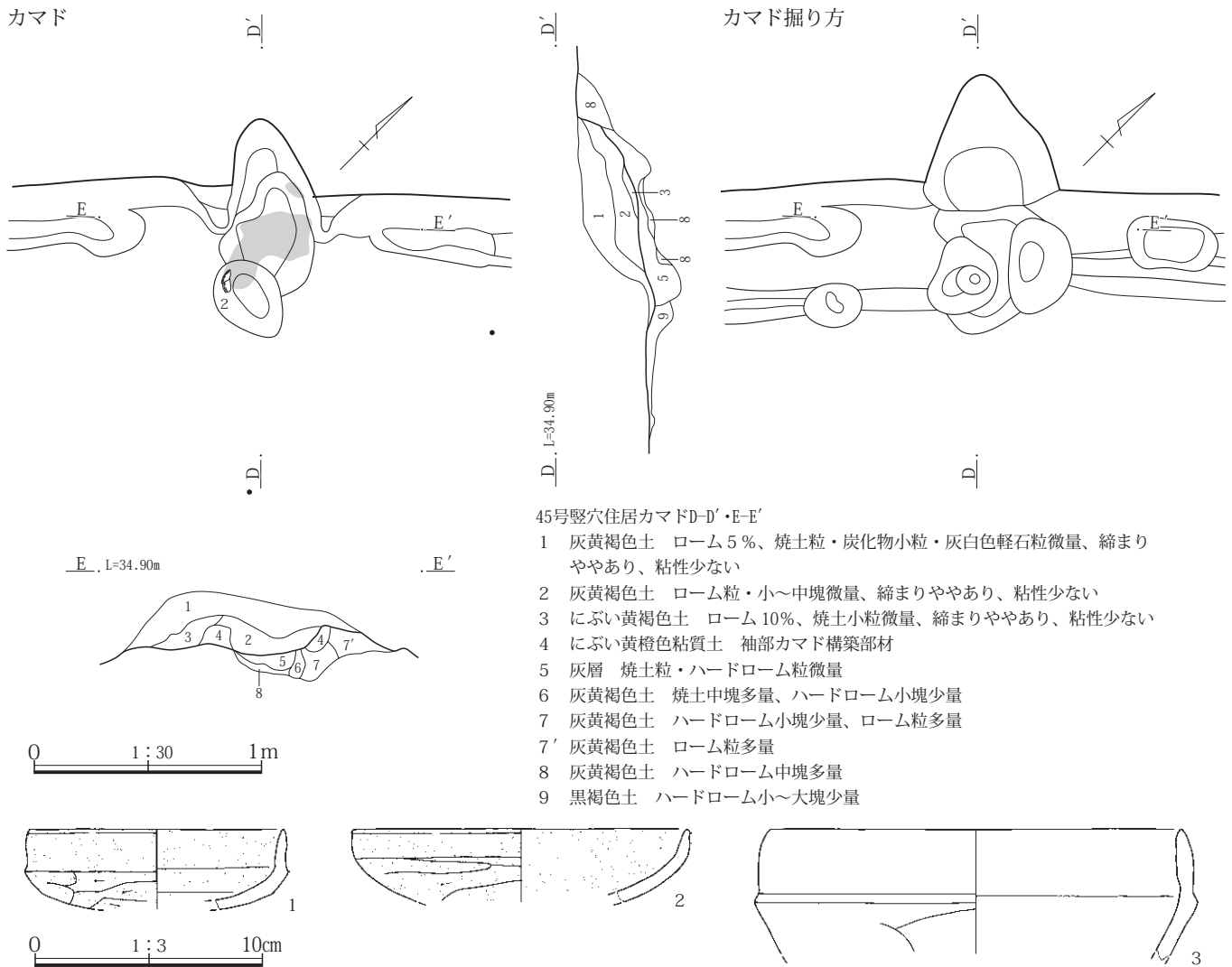
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・大塊・焼土小～大粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム少量、ローム小～大粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム・ローム粒・大塊少量、焼土小～大粒・炭化小～中粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム小～大粒・焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 6 黒褐色土 ローム粒・塊・焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 7 にぶい黄褐色土 ローム大塊主体 70%、焼土粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 帯状に入る層、縮まりややあり、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 ローム小～大粒少量、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 10' 灰黄褐色土 10層土よりローム粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム小～大粒微量、縮まりややあり、粘性少ない

- 11' 11層土+焼土粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 12 明黄褐色土 ローム小～大塊50%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 ローム 20%、ローム大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 13層土よりロームやや多い、縮まりややあり、粘性少ない
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体 60%、灰白色軽石粒微量
- 16 にぶい黄褐色土 ソフトローム10%、炭化小～中粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 ローム小粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 18 にぶい黄褐色土 ローム小粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 19 にぶい黄色土 ローム塊主体
- 20 灰黄褐色土 ローム粒・塊多量、周溝埋没土
- 21 暗褐色土 ハードローム小塊少量、縮まり強
- 22 黒褐色土 ハードローム小～中塊少量、縮まり強
- 23 黒褐色土 ハードローム粒・ハードローム小塊多量



第77図 1区45号竖穴住居





45号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・小~中塊微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ローム10%、焼土小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色粘質土 袖部カマド構築部材
- 5 灰層 焼土粒・ハードローム粒微量
- 6 灰黄褐色土 焼土中塊多量、ハードローム小塊少量
- 7 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量、ローム粒多量
- 7' 灰黄褐色土 ローム粒多量
- 8 灰黄褐色土 ハードローム中塊多量
- 9 黒褐色土 ハードローム小~大塊少量

第78図 1区45号竪穴住居カマドと出土遺物

**1区49号竪穴住居**(第79~82図 PL.23~25・82・83)

**位置** X=128~138、Y=-243~252

**形状・規模** 形状は方形である。長軸長6.90m、短軸長6.30m、壁高北壁47cm、南壁43cm、東壁50cm、西壁46cmを測る。床面積は43.89㎡である。

**主軸方向** N-31°-W

**重複** 1区49号竪穴住居埋没土が、1区50号竪穴住居に掘り込まれ、1区48号竪穴住居に埋没土から掘り方で掘り込まれている。

**埋没土** 壁際に三角堆積がみられ、下層から上層にかけてレンズ状の堆積が認められ自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦である。中央部分は48号住居との重複のため不明。東壁際中央部周辺が約4cm低い。4本の支柱穴に囲まれた範囲から南壁際にかけて硬化面が認められ、4号ピット西側に焼土が残存する。ローム塊を含む灰黄褐色土の混土によって床面を構築する。

**カマド** 北壁中央部に付設する。シルト質土によって構築され焚口部・燃烧部基部が残存する。燃烧面に灰層が、焚口外側から右側の貯蔵穴にかけて炭化物が広範囲に認められる。規模は全長1.15m、幅92cm、焚口幅46cm、燃烧部奥行50cm、左袖状残存部55cm、右袖状残存部82cmを測る。軸方向は、N-35°-Wである。住居の床面から燃烧面は4cm低く掘り込まれている。焚口外側を約3cm、燃烧面から煙道を2~10cm掘り窪め使用面を整える。土師器甕(第82図14)が燃烧面直上から出土し、土師器甕(第82図15)は埋没土からの出土である。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**柱穴** 床面の対角線上に位置する4本のピットは支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(円形、長径48cm、短径43cm、深さ98cm)、P2(円形、長径60cm、短径55cm、深さ98cm)、P3(円形、長径74cm、短径70cm、深さ50cm)、

第3章 間之原遺跡の調査

P 4 (円形、長径65cm、短径63cm、深さ87cm)である。主柱穴間はP 1～P 2間4.10m、P 2～P 3間4.05m、P 3～P 4間4.40m、P 1～P 4間3.90mを測る。埋没土はローム塊や焼土粒、炭化物粒を混入する灰黄褐色土やにぶい黄褐色土によって埋没し、明瞭な柱痕は認められなかった。

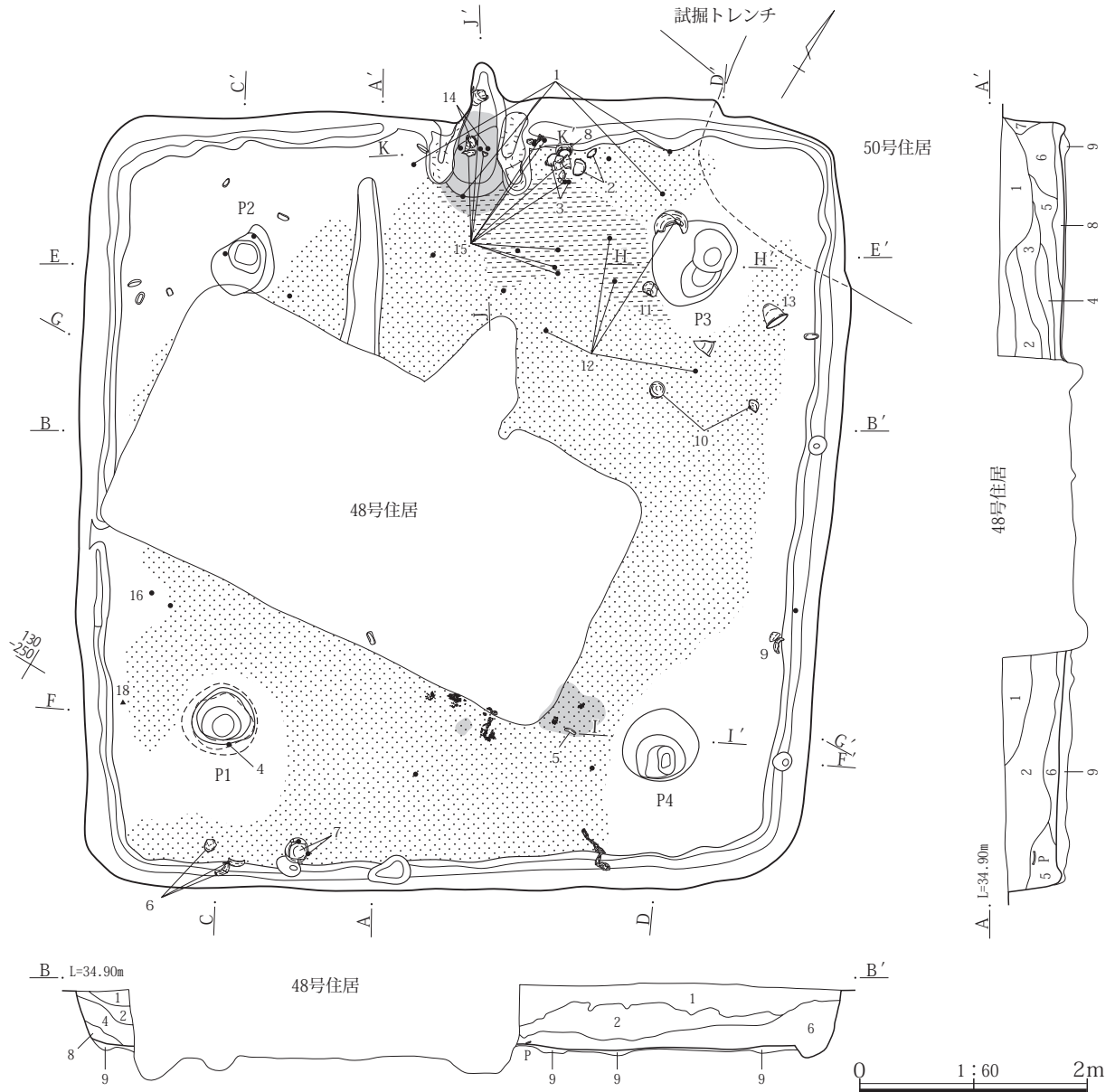
**周溝** カマド設置部分以外は、壁際に沿ってほぼ全周する。規模は幅15～34cm、深さ2～6cmを測る。

**他の施設** カマド左袖から西側へ50cmの位置に、間仕切り溝を確認する。規模は、南北長1.55m、幅16～34cm、深さ1～3cmを測る。

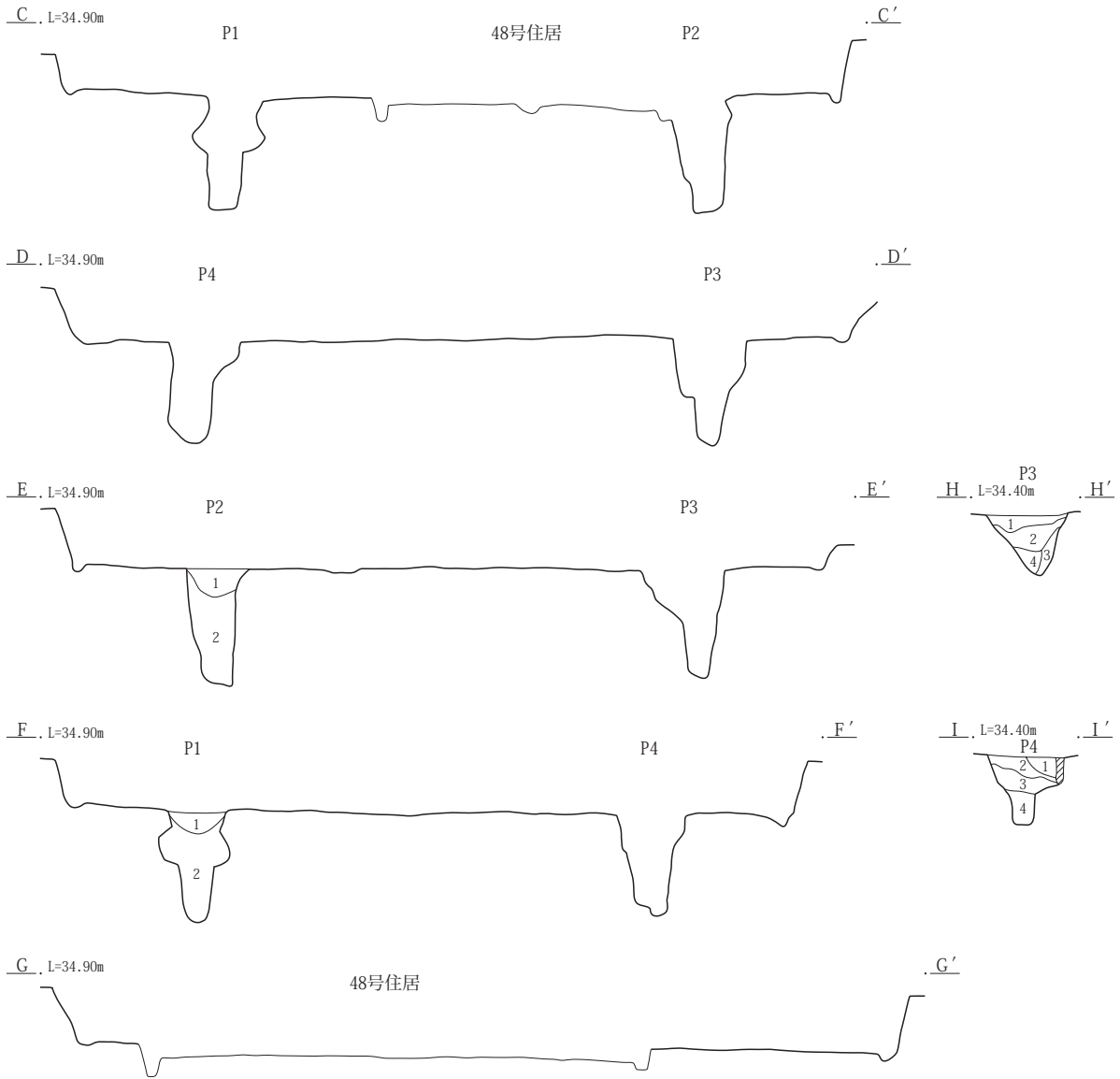
**掘り方** ローム面まで掘り込まれており、床面まで1～6cm埋戻されている。

**遺物出土状態** カマドや貯蔵穴周辺に出土遺物が集中する。土師器杯(第81図1・3・5)、土師器小型広口壺(第82図8)、土師器小型甕(第82図10)、土師器甕(第82図13)は床面直上から出土した。土師器杯(第81図2)は床面上3cm、土師器杯(第81図6)、土師器高杯(第82図11)、土師器甕(第82図12)、白玉(第82図18)は、床面上6～9cmからの出土である。土師器杯(第81図4)、土師器大型杯(第81図7)、土師器鉢(第82図9)、土錘(第82図16)は埋没土から、須恵器杯(第82図17)は住居に伴わず混入と考えられる。非掲載遺物は、土師器片29点(小型製品3、大型製品26)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第79図 1区49号竪穴住居(1)



49号竖穴住居A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土中塊・黒色土中～大塊・白色軽石少量、ハードローム粒多量
- 2 黒褐色土 ハードローム粒少量、白色軽石微量
- 3 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土中塊・黒色土中塊・ハードローム粒少量、白色軽石微量
- 4 黒褐色土 ハードローム粒・ハードローム小～中塊少量
- 5 灰黄褐色土 ハードローム粒多量、ハードローム小塊・白色軽石少量
- 6 灰黄褐色土 ハードローム小～中塊多量
- 7 黒褐色土 ハードローム粒・ハードローム小～中塊少量
- 8 灰黄褐色土 ローム小塊多量、黒褐色土を含む
- 9 灰黄褐色土 ローム塊を含む

49号竖穴住居P1F-F'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小～小塊5%、焼土小粒・炭化物小粒微量、締まりやや弱、粘性ややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体60%、ハードローム小塊10%、締まりやや弱、粘性ややあり

49号竖穴住居P2E-E'

- 1 灰黄褐色土 ハードローム小～大塊5%、焼土小粒・炭化小～中粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 1層土よりやや黒味がかり、ハードローム極小塊少量、締まりやや弱、粘性少ない

49号竖穴住居P3H-H'

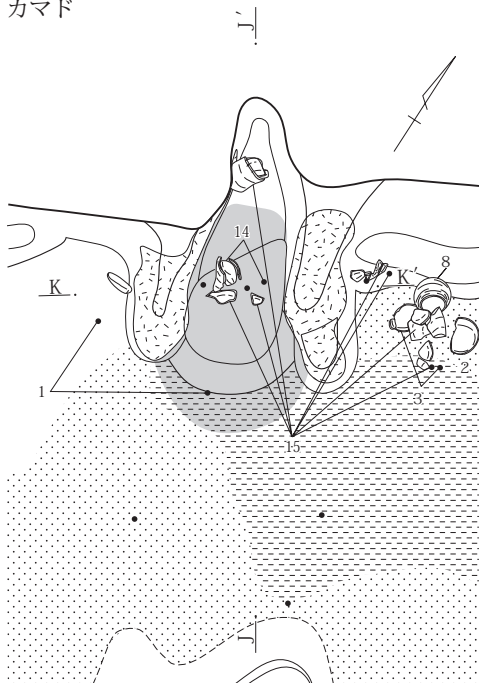
- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム粒・大塊5%、炭化小～中粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム粒・極小塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム40%、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 締まりややあり、粘性ややあり

49号竖穴住居P4I-I'

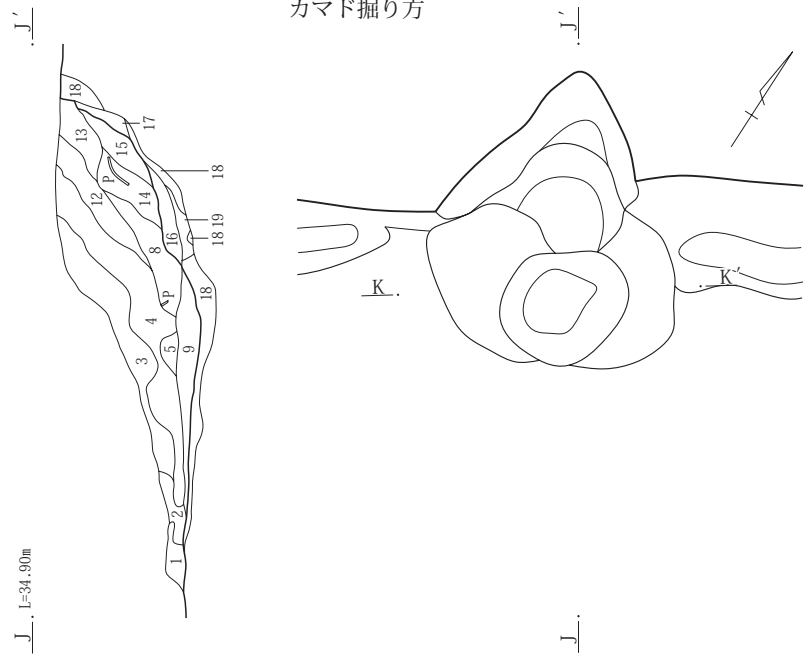
- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、ハードローム大塊5%、炭化物粒・材微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム大塊5%、炭化物粒・材微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム大塊少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心40%、締まりややあり、粘性ややあり

第80図 1区49号竖穴住居(2)

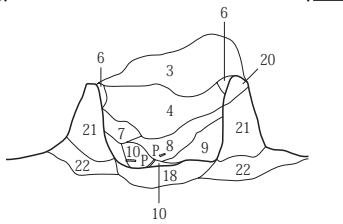
カマド



カマド掘り方

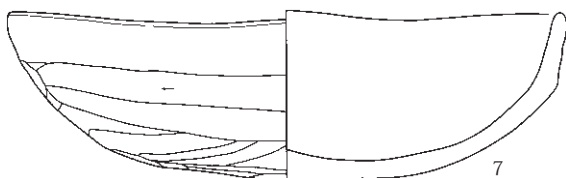
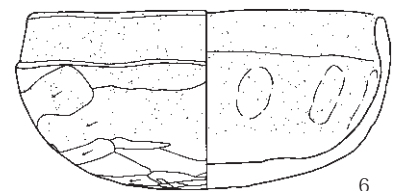
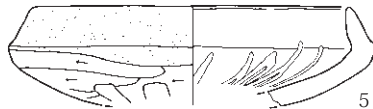
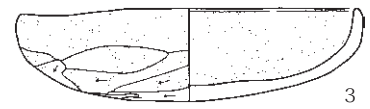
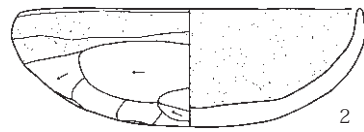
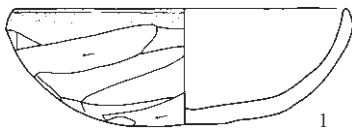


K, L=34.90m



49号竪穴住居カマドJ-J'・K-K'

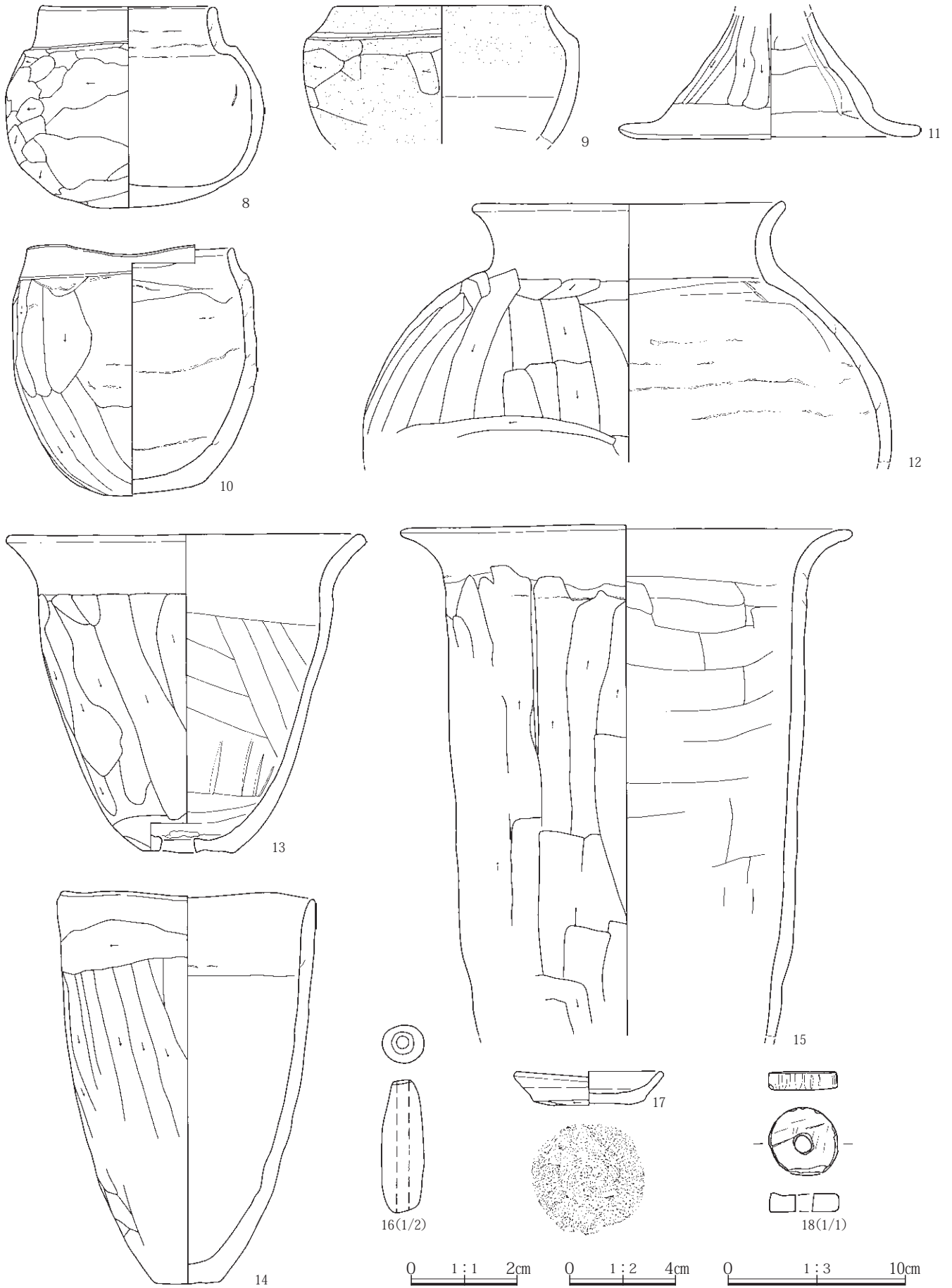
- 1 黒褐色土 浅黄色シルト質土・焼土小粒・灰白色軽石粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 浅黄色土 シルト質土主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 暗灰黄色土 浅黄色シルト質土5%、ローム粒・極小塊・焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 暗灰黄色土 ローム小～中粒・浅黄色シルト質土粒・極小塊少量、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 浅黄色土 シルト質土塊、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 浅黄色土 シルト質土、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 にぶい赤褐色土 焼土中～大粒70%、浅黄色シルト質土塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 暗灰黄色土 浅黄色シルト質土塊・焼土小～中粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい赤褐色土 焼土小～中粒60%、浅黄色シルト質土塊5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 褐灰色土 灰層主体、浅黄色シルト質土10%、焼土小～中粒少量、締まり弱、粘性少ない
- 11 浅黄色土 シルト質土崩落土、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 灰黄色土 灰黄色シルト質土主体70%、締まりやや弱、粘性少ない
- 13 灰褐色土 灰黄色5%、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 にぶい赤褐色土 焼土主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 灰黄色土多量、締まりやや弱、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 焼土小粒20%、灰黄色シルト質土5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 18 灰層 焼土粒・ハードローム小～中塊少量
- 19 灰層 焼土粒・炭化物を含む
- 20 灰黄褐色土 ソフトローム塊少量
- 21 浅黄～淡黄色粘質土 袖部、一部壁は焼土化
- 22 灰黄褐色土 ハードローム中塊多量



0 1:3 10cm

第81図 1区49号竪穴住居カマドと出土遺物(1)





第82図 1区49号竪穴住居出土遺物(2)

1区56号竪穴住居(第83~88図 PL.25・26・83・84)

位置 X=149~156、Y=-230~237

**形状・規模** 形状は方形である。長軸長5.57m、短軸長5.53m、壁高北東壁42cm、南西壁35cm、東南壁35cm、北西壁43cmを測る。床面積は31.09㎡である。

**主軸方向** N-46°-W

**重複** なし。

**埋没土** ローム漸移層土を多く含む灰黄褐色土によってレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

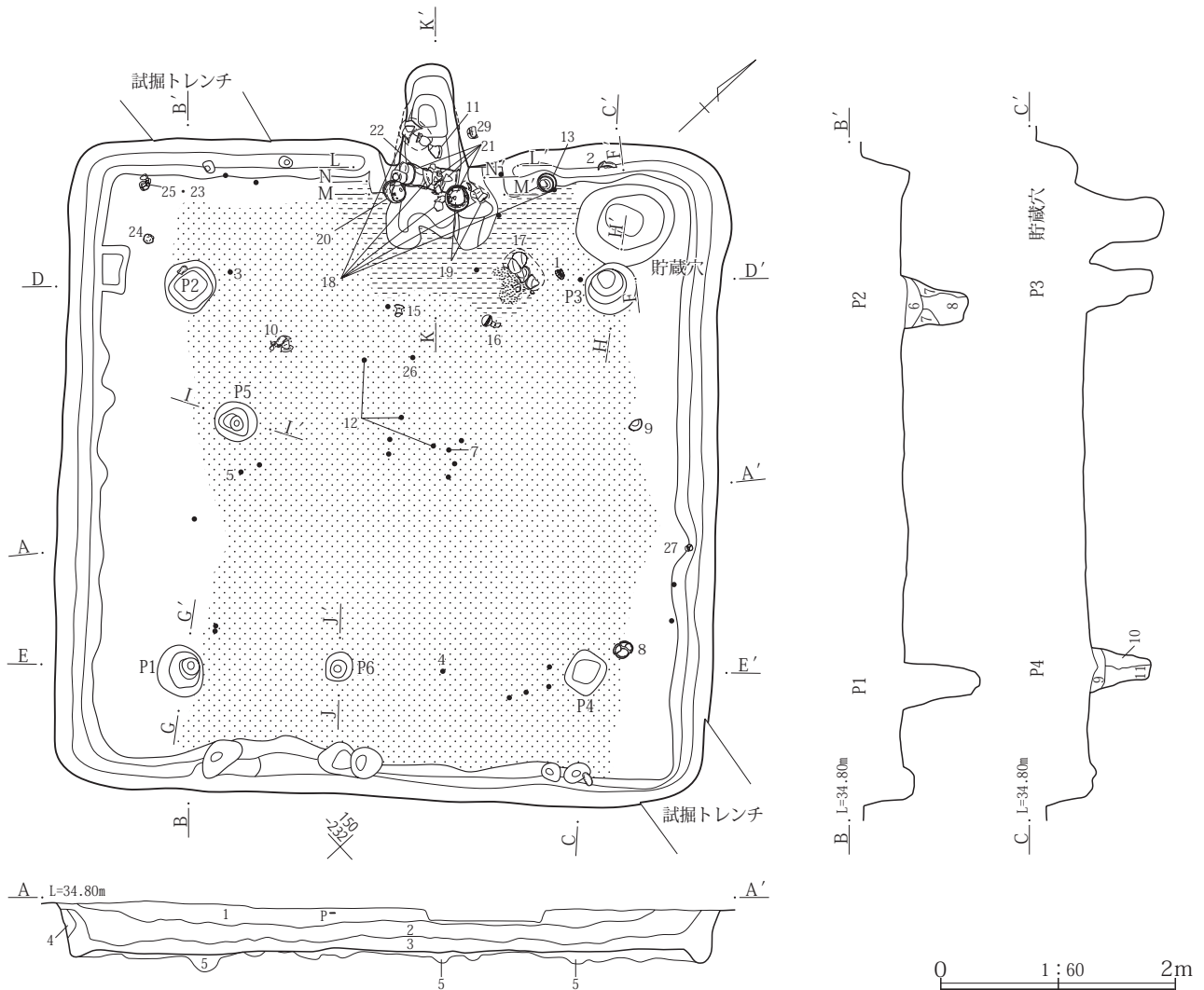
**床面** 高低差は殆どなく平坦である。東壁際から4本の主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が認められ、主柱穴の外側となる北東壁際と南西壁際の空間には明瞭な硬化は認められない。

**カマド** 北西壁中央部に付設する。燃烧部側壁左側は失われている燃烧部や煙道にかけて良好に残存する。規模

は全長1.41m、幅1.04m、焚口幅45cm、燃烧部奥行93cm、右袖状残存部70cmである。軸方向は、N-47°-Wであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。焚口から外側に炭化物が認められる。住居床面から燃烧部使用面は3~4cm低い。掘り方は、燃烧面から外側にかけて5~10cm、煙道を2~3cm掘り込み、灰黄褐色土や灰褐色土の混土により整えている。遺物は土師器杯(第86図11)が出土し、土師器甕(第87図18~20・第88図21・22)は長胴を呈し燃烧部側壁や天井部の補強材として設置していたと考えられる。

**貯蔵穴** カマド右側に構築する。形状は円形であり、規模は径70cm、深さ72cmを測る。下層はソフトロームを多く含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土の混土による人為的な埋戻しの可能性がある。

**柱穴** 6基のピットを確認した。床面の対角線上に位置する4本のピットは主柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(円形、長径45cm、短径40cm、深さ65cm)、P2(円



第83図 1区56号竪穴住居(1)

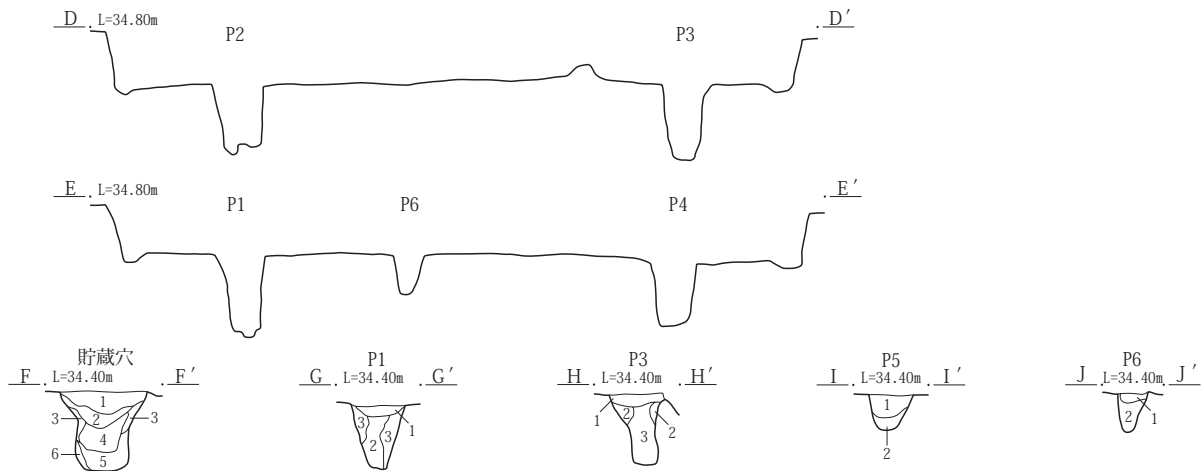
形、長径45cm、短径43cm、深さ52cm)、P 3 (円形、径43cm、深さ59cm)、P 4 (円形、長径40cm、短径34cm、深さ51cm)、P 5 (円形、長径36cm、短径33cm、深さ37cm)、P 6 (円形、長径25cm、短径23cm、深さ31cm)である。支柱穴間は、P 1～P 2間3.25m、P 2～P 3間3.55m、P 3～P 4間3.33m、P 1～P 4間3.41mを測り、南北間より東西間が長い。P 2～P 4に柱痕が認められる。P 6はP 1～P 4間の中央部からややP 1側で確認し、軸線上に位置することから支柱穴の可能性はある。

**周溝** カマド付設部分以外は、壁際に沿って掘り込まれている。規模は幅17～41cm、深さ2～7cmを測る。南東壁及び北西壁際に小ピット状の窪みが認められる。

**掘り方** 全体に5～10cm掘り窪めている。大小の窪みがあるが、床下施設などは確認できなかった。

**遺物出土状態** カマドや貯蔵穴の周辺を中心として、床面から埋没土にかけて遺物の出土が多く、29点を図示した。土師器鉢(第86図12)、土師器手捏土器(第88図27)は床面直上から出土した。土師器手捏土器(第88図23～25)、土師器杯(第86図2・8・9)、須恵器鉢(第86図13)は、床面上4～10cmから、土師器杯(第86図1・3～7・10)、土師器高杯か(第86図14)、土師器高杯(第87図15)、土師器手捏土器(第88図26・28)、土師器鉢(第88図29)須恵器壺(第87図17)、須恵器甕(第87図16)は、床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片482点(小型製品141、大型製品341)、須恵器片13点(小型製品11、大型製品2)、石器は2次加工ある剥片2点である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



56号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土小～大塊多量、白色軽石少量
- 2 灰黄褐色土 ローム漸移層土小～大塊少量、ローム粒を含む
- 3 灰黄褐色土 ローム漸移層土小～大塊少量、ハードローム小～大塊微量
- 4 灰黄褐色土 ローム粒多量、ハードローム中塊少量
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・塊多量、掘り方埋没土
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム・ローム塊40%、縮まりやや弱、粘性少ない、6～8はP 2埋没土
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心80%、ローム大塊20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ソフトローム多く、ローム大塊20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体80%、ローム小～大粒10%、縮まりやや弱、粘性少ない、9～11はP 4埋没土
- 10 灰黄褐色土 ローム小～中塊5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム小粒10%、縮まりやや弱、粘性少ない

56号竪穴住居貯蔵穴F-F'

- 1 黒褐色土 ローム・大塊・焼土小～中粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ローム小～中粒・炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ローム粒・大塊10%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心、縮まりやや弱、粘性少ない

56号竪穴住居P1G-G'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～中粒10%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム小粒20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体80%、ローム小～大粒20%、縮まりやや弱、粘性少ない

56号竪穴住居P3H-H'

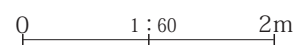
- 1 黒褐色土 ローム小～大粒・焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体80%、ローム大塊10%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

56号竪穴住居P5I-I'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 1層土より色味黒い、ローム・小～大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

56号竪穴住居P6J-J'

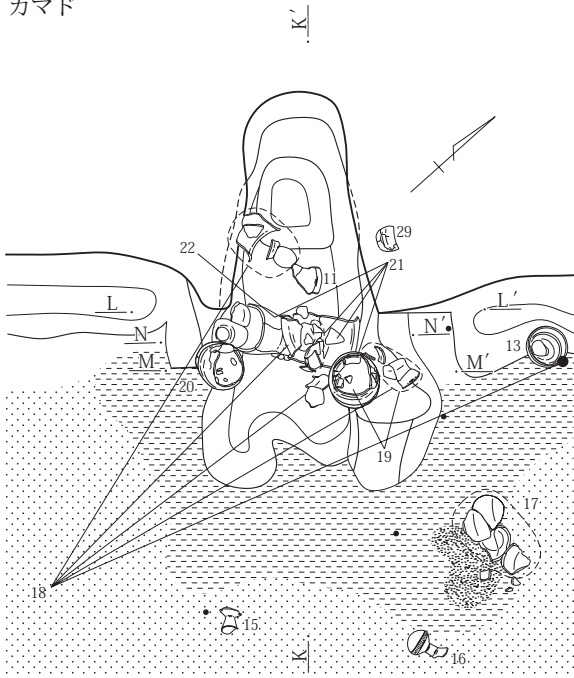
- 1 黒褐色土 ローム小～中粒・炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体80%、縮まりやや弱、粘性少ない



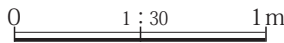
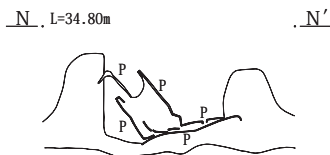
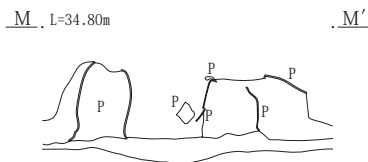
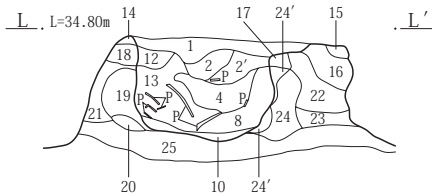
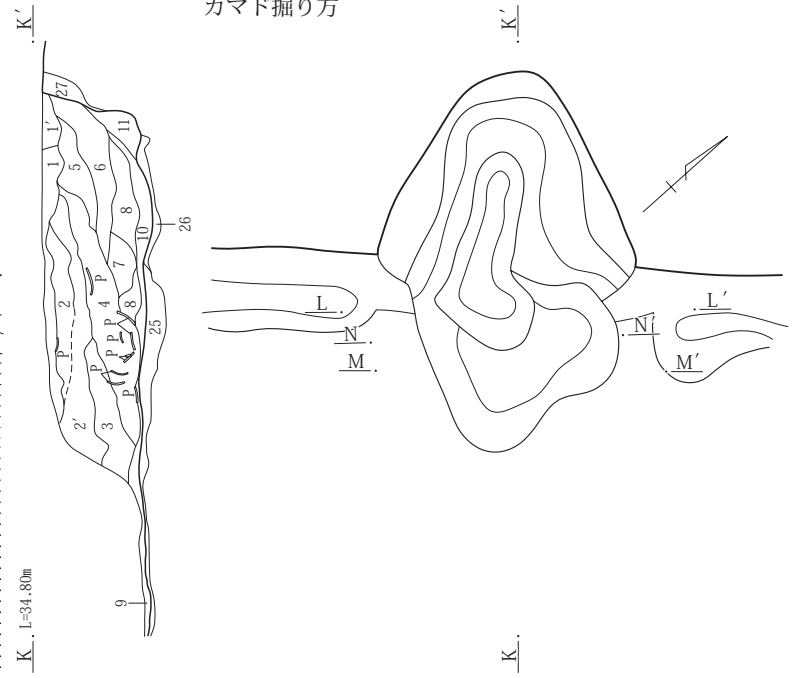
第84図 1区56号竪穴住居(2)

第3章 間之原遺跡の調査

カマド



カマド掘り方

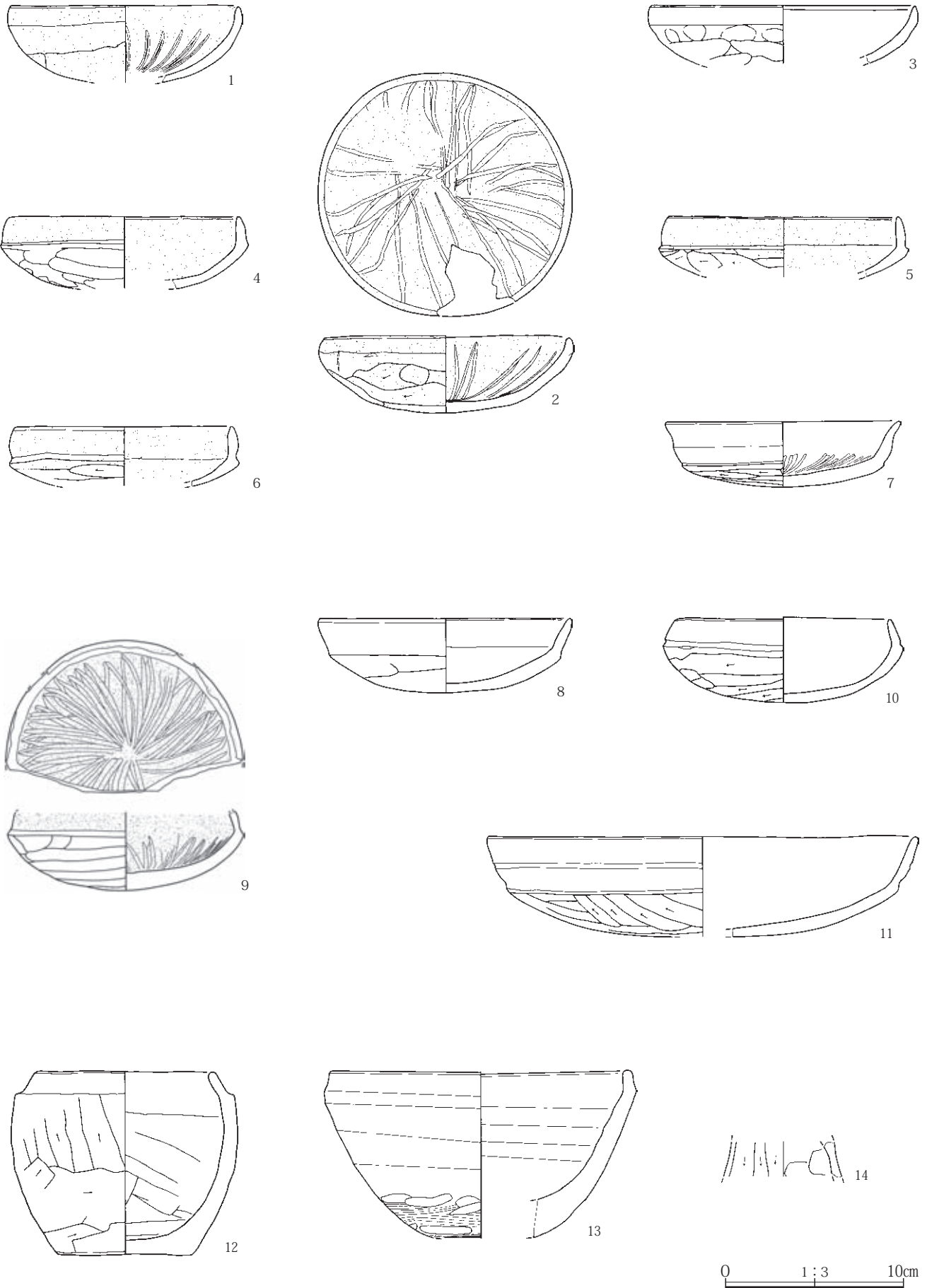


56号竪穴住居カマドK-K'・L-L'

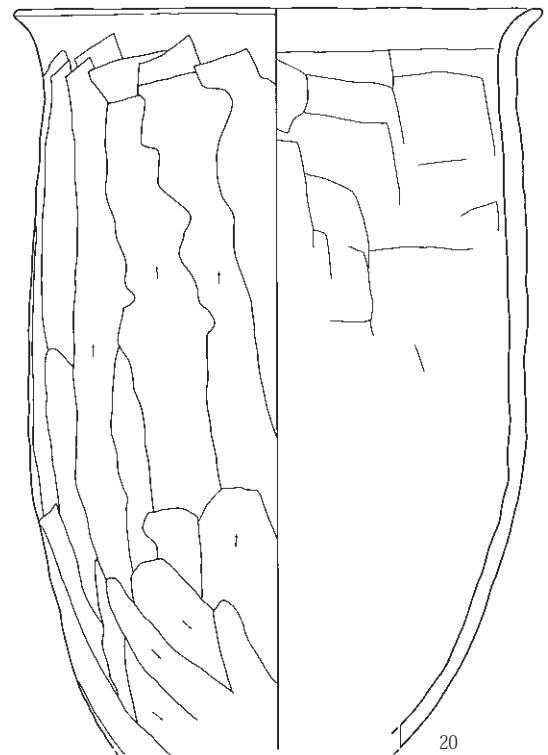
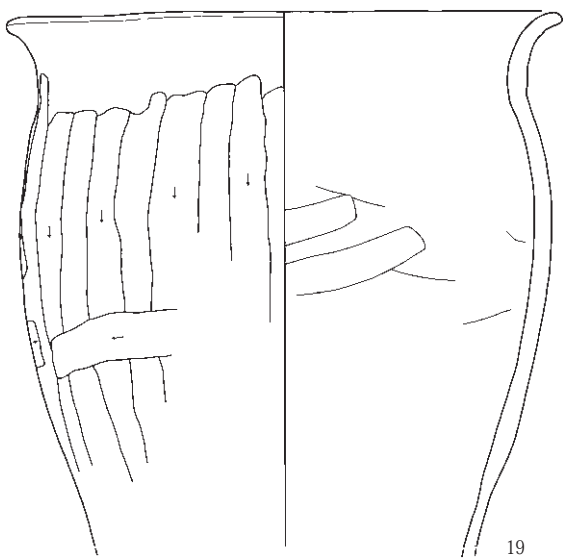
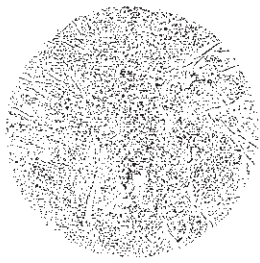
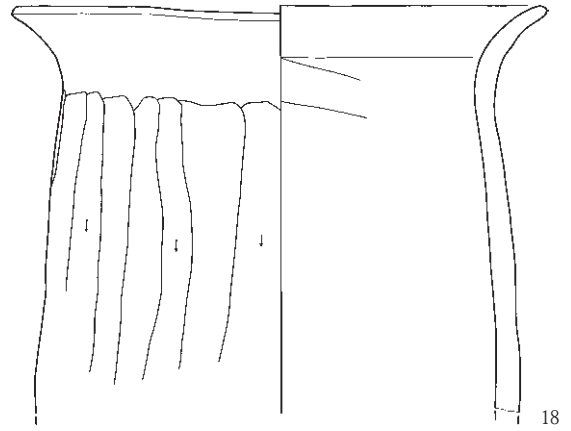
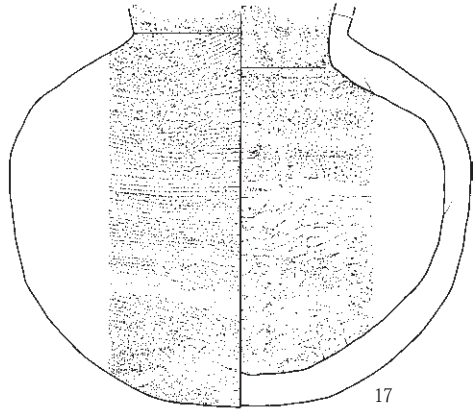
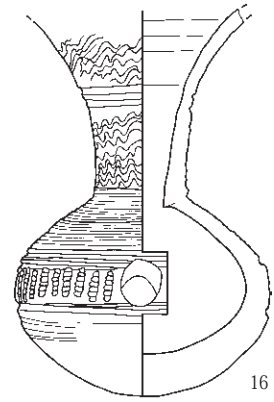
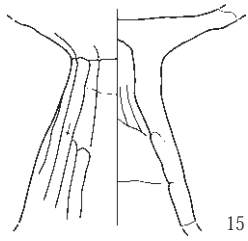
- 1 褐灰色土 ローム粒・白色軽石少量、締まりややあり、粘性少ない
- 1' 褐灰色土 ローム粒・白色軽石少量、焼土粒・小塊少量
- 2 褐灰色土 ソフトローム塊・ハードローム小～大塊多量、にぶい黄褐色粘質土小～大塊少量、締まりややあり、粘性少ない
- 2' 灰黄褐色土 ローム少量、焼土粒・暗灰色軽石粒微量
- 3 黒褐色土 ソフトローム小～中塊少量、ローム粒を含む、締まりややあり、粘性少ない
- 4 褐灰色土 ローム粒・焼土粒・炭化物少量、締まりややあり、粘性少ない
- 5 にぶい褐色土 焼土主体60%、焼土小～中粒多量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰褐色土 焼土10%、焼土小～中粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム粒・塊少量、焼土小～中粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 にぶい褐色土 焼土主体、焼土50%、焼土粒・中塊多量、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ローム小～中粒5%、焼土粒・炭化物小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰褐色土 焼土小粒10%、炭化物小粒微量
- 11 灰黄褐色土 焼土粒、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 にぶい褐色土 焼土10%、ローム極小粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 13 灰褐色土 焼土20%、焼土粒・炭化小粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 焼土粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 焼土小粒、炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 17 にぶい黄褐色土 灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 18 にぶい黄褐色土 ローム20%、焼土小粒微量、締まりあり、粘性やや少
- 19 浅黄色土 シルト質土主体、焼土多量、焼土小～大粒20%、締まりあり、粘性やや少
- 20 灰黄色土 シルト質土主体
- 21 灰黄褐色土 ソフトローム10%、焼土小粒微量、締まりあり、粘性やや少
- 22 灰黄褐色土 ローム粒・大塊少量、焼土粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 23 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物小～中粒微量、締まりやや弱、粘性やや少
- 24 浅黄色土 シルト質土主体、焼土小粒微量、締まりあり、粘性少ない
- 24' 浅黄色土 焼土化、締まりあり
- 25 灰黄褐色土 ソフトローム5%、ハードローム大塊少量、焼土小～中粒微量、締まりやや弱、粘性やや少
- 26 灰褐色土 焼土小～中粒・炭化物小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 27 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、締まりやや弱、粘性少ない

第85図 1区56号竪穴住居カマド



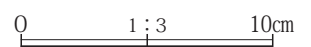
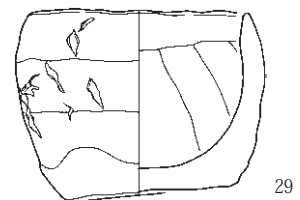
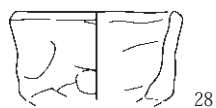
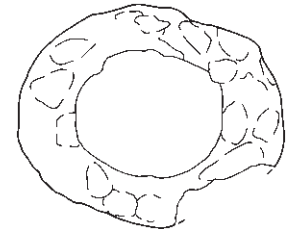
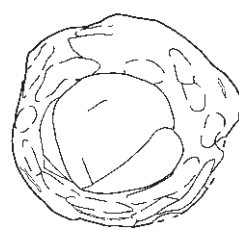
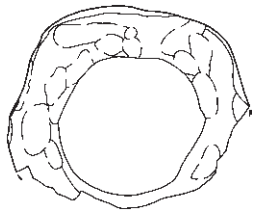
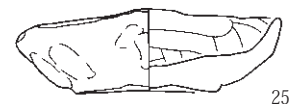
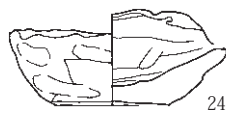
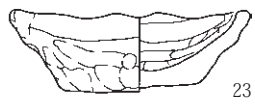
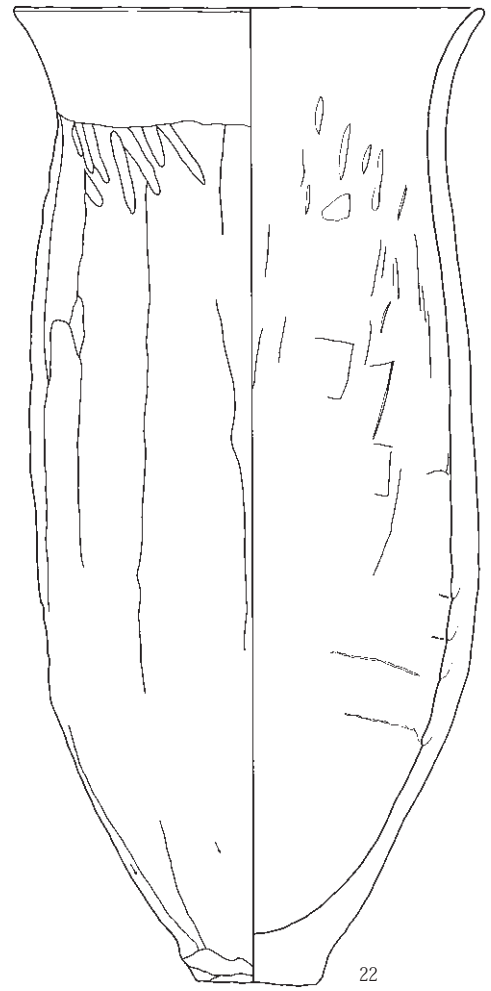
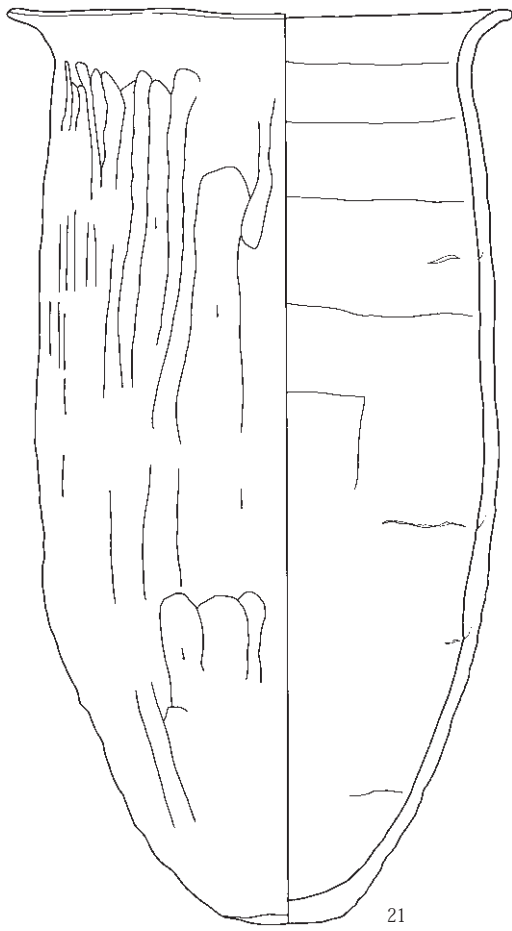


第86図 1区56号竖穴住居出土遺物(1)



0 1:3 10cm

第87図 1区56号竪穴住居出土遺物(2)



第88図 1区56号竪穴住居出土遺物(3)

1区58号竪穴住居(第89~91図 PL.26・27・85)

位置 X=153~158、Y=-225~230

形状・規模 形状は方形である。長軸長4.03m、短軸長3.80m、壁高北東壁32cm、南西壁34cm、南東壁30cm、北西壁32cmを測る。床面積は14.42㎡である。

主軸方向 N-53°-E

重複 1区16号掘立柱建物P7・P8、1区534号ピットと重複する。1区58号竪穴住居の埋没土と床面を1区16号掘立柱建物P7が掘り込む。1区534号ピットも住居床面を掘り込む。

埋没土 壁際で灰黄褐色土による三角堆積が認められるが、ローム漸移層土塊を多量に含む黒褐色土によってほぼ埋没するため人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 高低差は殆どなく平坦である。ほぼ中央部に硬化面が認められる。ローム粒や小塊を多量に含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北東壁中央部に付設する。カマド焚口は壊れているが、燃烧部側壁には、土師器甕(第91図11)が設置され、焚口上5cmに潰れた状態で土師器甕(同図10・12)が出土していることから、甕を横向きに設置したのち土で被覆し天井部を構築したと考えられる。燃烧部奥に支脚石が残存する。規模は、全長1.02m、焚口幅50cm、燃烧部奥行82cm、左袖状残存部36cmである。軸方向は、N-51°-Eである。掘り方は、燃烧面から焚口外側にかけて約10cm、燃烧部から煙道にかけて約5cm掘り込み、に

ぶい黄褐色土を主体に灰黄褐色土などで使用面を整えている。燃烧部奥から焚口外側にかけて広範囲に炭化物が認められる。土師器小型甕(同図9)内部から出土した炭化種実を観察したところヒエ(PL.85-14)が検出され、土師器甕(同図13)内部からはコムギ(PL.85-15)が検出された。

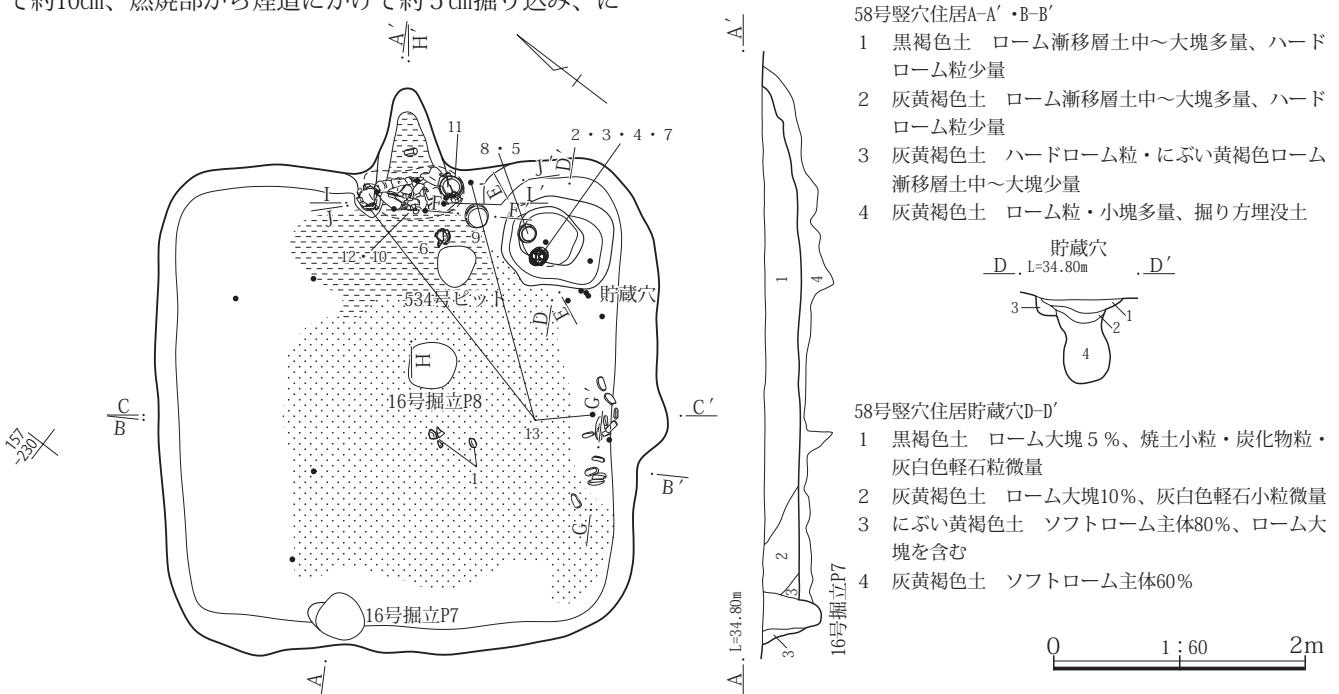
貯蔵穴 カマド右側に構築する。形状は隅丸長方形、規模は長径77cm、短径70cm、深さ72cmを測る。開口部に7~12cmの段差を設け、蓋などを設置したと考えられる。上層は焼土粒を含む黒褐色土、下層はソフトロームを多量に含む灰黄褐色土によってほぼ埋没するため人為的な埋戻しの可能性がある。土師器杯(同図2~4)、土師器高杯(同図7)は床面とほぼ同レベルの高さから、土師器小型広口壺(同図5)と土師器高杯(同図8)は、床面上6cmから出土した遺物である。

柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

掘り方 全体を約10cm掘り窪めているが、土坑などの床下施設は確認できなかった。

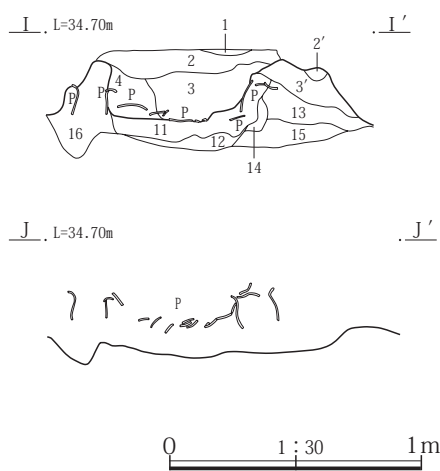
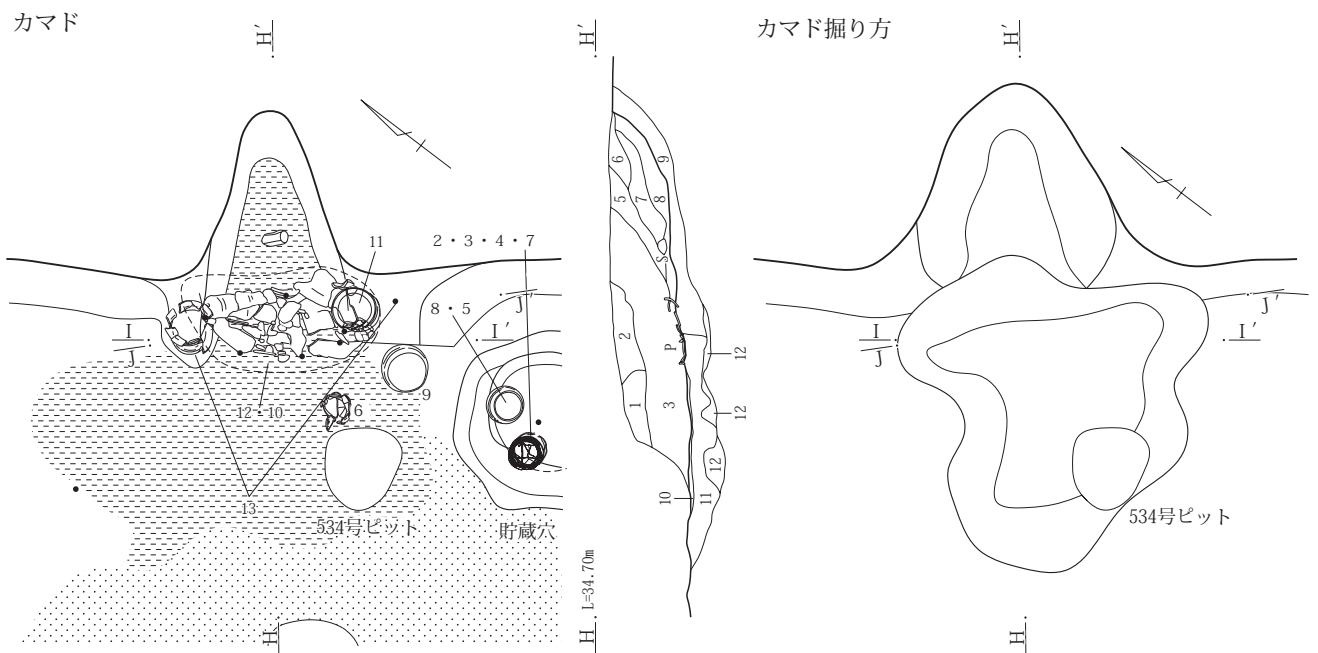
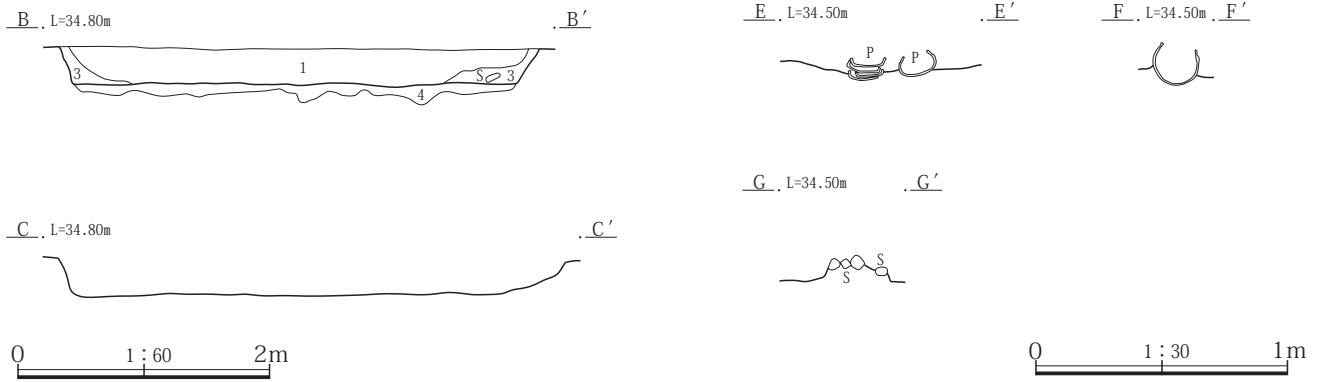
遺物出土状態 土師器杯(同図1)は床面直上6cmから、土師器高杯(同図6)は、埋没土からの出土である。東壁際中央部から棒状礫が集中して出土した。非掲載遺物は、土師器片354点(小型製品52、大型製品302)、須恵器片6点(小型製品1、大型製品5)である。

所見 出土遺物から時期は、7世紀前半と考えられる。



第89図 1区58号竪穴住居



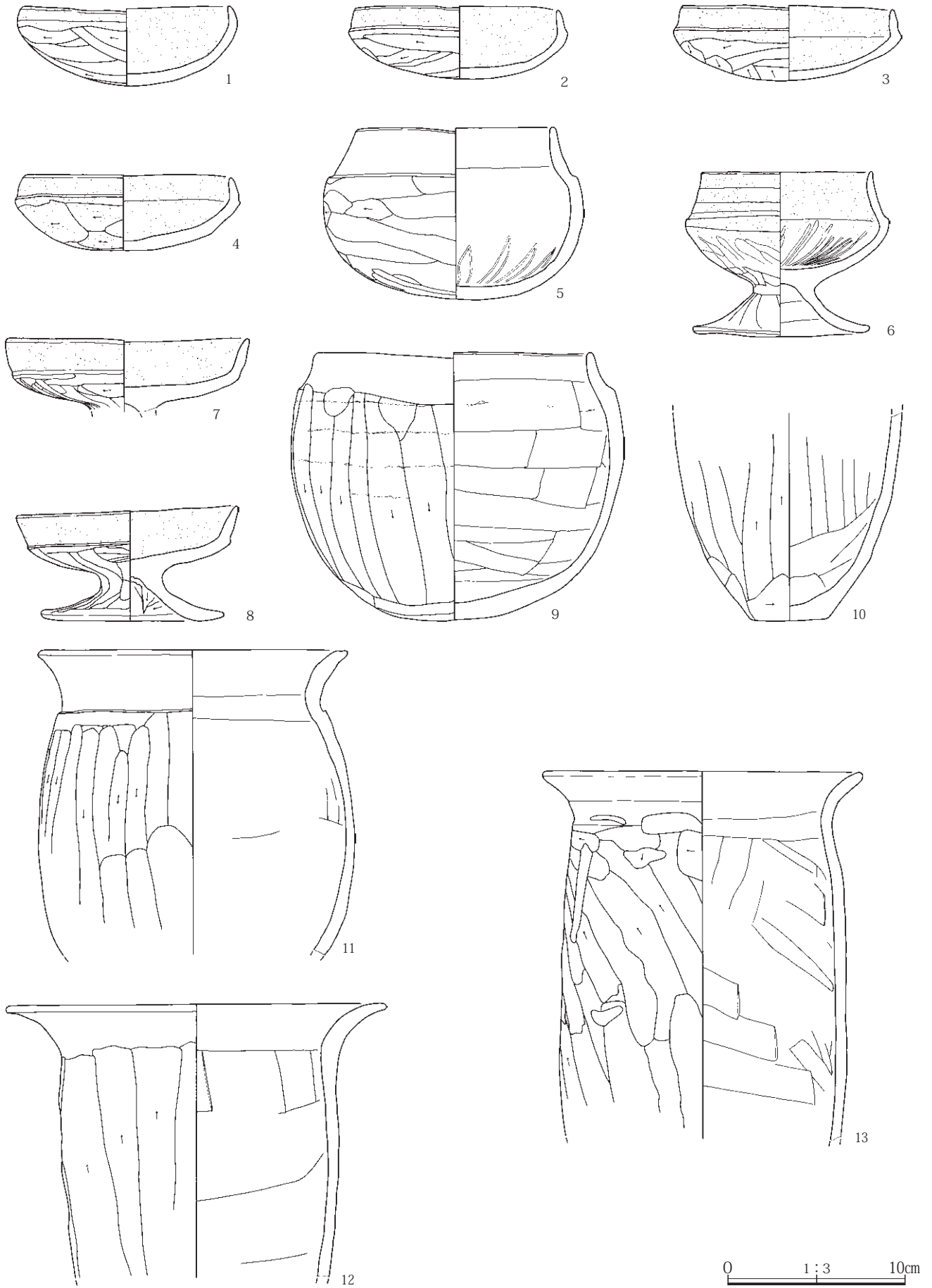


58号竪穴住居カマドH-H'・I-I'

- 1 灰黄褐色土 にぶい黄橙色粘質土塊及びハードローム小塊・ローム漸移層土中～大塊少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色弱粘質土 明黄褐色ハードローム中～大塊多量、ローム漸移層土中塊少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2' 浅黄色土 シルト質土塊、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 褐灰色土 ローム漸移層土小～中塊少量、ハードローム粒・焼土粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 3' 褐灰色土 3層土より黄味強い、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊多量、にぶい黄橙色粘質土中～大塊少量、焼土小～中粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ローム極小粒・焼土小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 6 にぶい黄色土 にぶい黄色シルト質土主体、焼土粒多量、縮まりややあり、粘性少ない
- 7 焼土主体 焼土70%、縮まりややあり、粘性少ない
- 8 焼土主体 焼土80%、縮まりややあり、粘性少ない
- 9 灰褐色土 焼土主体70%、縮まりややあり、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 浅黄粘性土・焼土小粒・炭化物小～中粒少量、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 11 にぶい黄褐色土 黒褐色土大塊多量、ハードローム粒・ハードローム大塊少量
- 12 にぶい黄褐色土 ハードローム大塊多量
- 13 灰黄褐色土 ローム中～大粒5%、焼土小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄色土 シルト質土主体、縮まりややあり、粘性やや少
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体70%、縮まりややあり、粘性少ない
- 16 黒褐色土 ソフトローム5%、縮まりややあり、粘性少ない

第90図 1区58号竪穴住居カマド

第3章 間之原遺跡の調査



第91図 1区58号竪穴住居出土遺物

1区59号竪穴住居(第92図 PL.27・64)

位置 X=159~161、Y=-220~225

形状・規模 調査区北境に位置し、住居南東のコーナー部分が66号竪穴住居と重複するため全体の形状や規模は不明である。確認できる規模は、東西長5.22m、壁高南壁23cm、東壁13cmである。

主軸方向 不明。

重複 1区66号竪穴住居が1区59号竪穴住居を掘り込む。

埋没土 ローム漸移層土塊を多く含む黒褐色土と灰黄褐色土によってほぼフラットに埋没する。自然埋没か人為的かは不明である。

床面 床面は一部のみ確認であるが、高低差は少なく

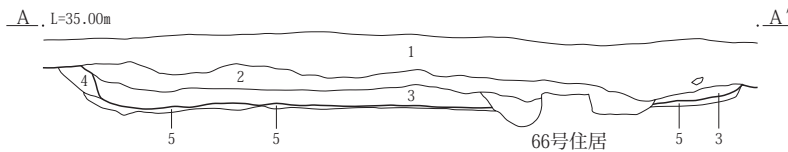
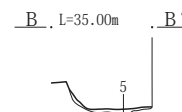
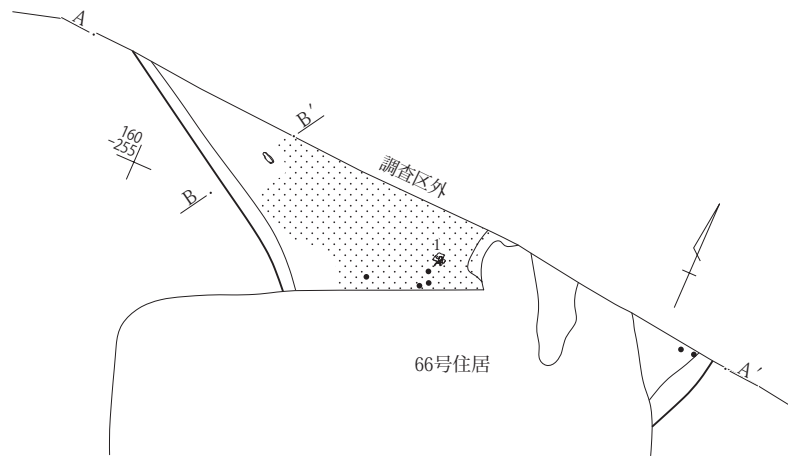
ほぼ平坦であると考えられ、硬化面が認められる。ローム粒やローム塊を多量に含む灰黄褐色土によつて床面を構築する。

カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

掘り方 ローム面を2~5cm掘り窪めている。土坑などの床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器台付甕(第92図1)は、床面上5cmからの出土である。非掲載遺物は、土師器片96点(小型製品14、大型製品82)、須恵器片12点(小型製品9、大型製品3)である。

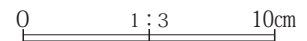
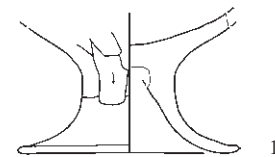
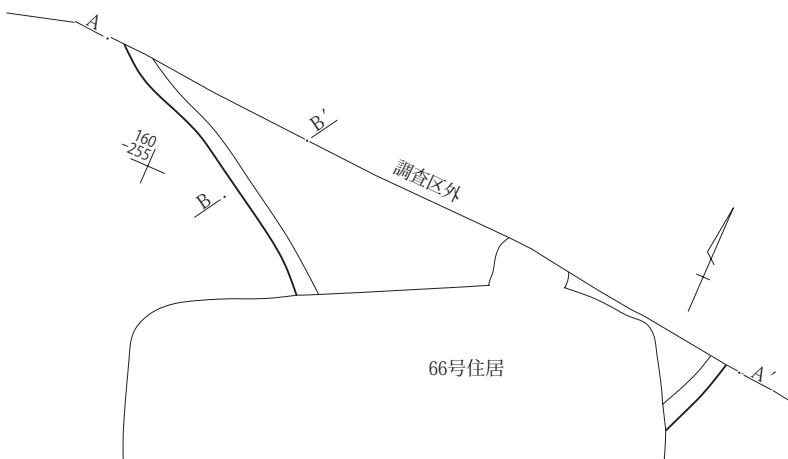
所見 出土遺物から時期は7世紀代と考えられる。



59号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 現表土
- 2 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、ローム粒少量
- 3 黒褐色土 色味はやや黒い、ローム漸移層土中~大塊少量、ローム粒少量
- 4 灰黄褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、ローム粒少量
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・塊多量、掘り方埋没土

掘り方



第92図 1区59号竪穴住居と出土遺物

1区62号竪穴住居(第93図 PL.28・63・64)

位置 X=142~146、Y=-224~229

形状・規模 1区63・68・70号住居と重複し、形状は長方形と考えられる。確認できる規模は、南北長3.16m、東西長4.52m、壁高北壁及び南壁22cmである。

主軸方向 北東-南西か。

重複 1区62号竪穴住居埋没土が1区63・68・70号竪穴住居に掘り込まれ、1区59号土坑が住居北壁を掘り込む。

埋没土 暗褐色土とにぶい黄褐色土の混土により埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。

床面 床面の高低差は少なくほぼ平坦である。ローム面を床面として整え、掘り方はなかった。

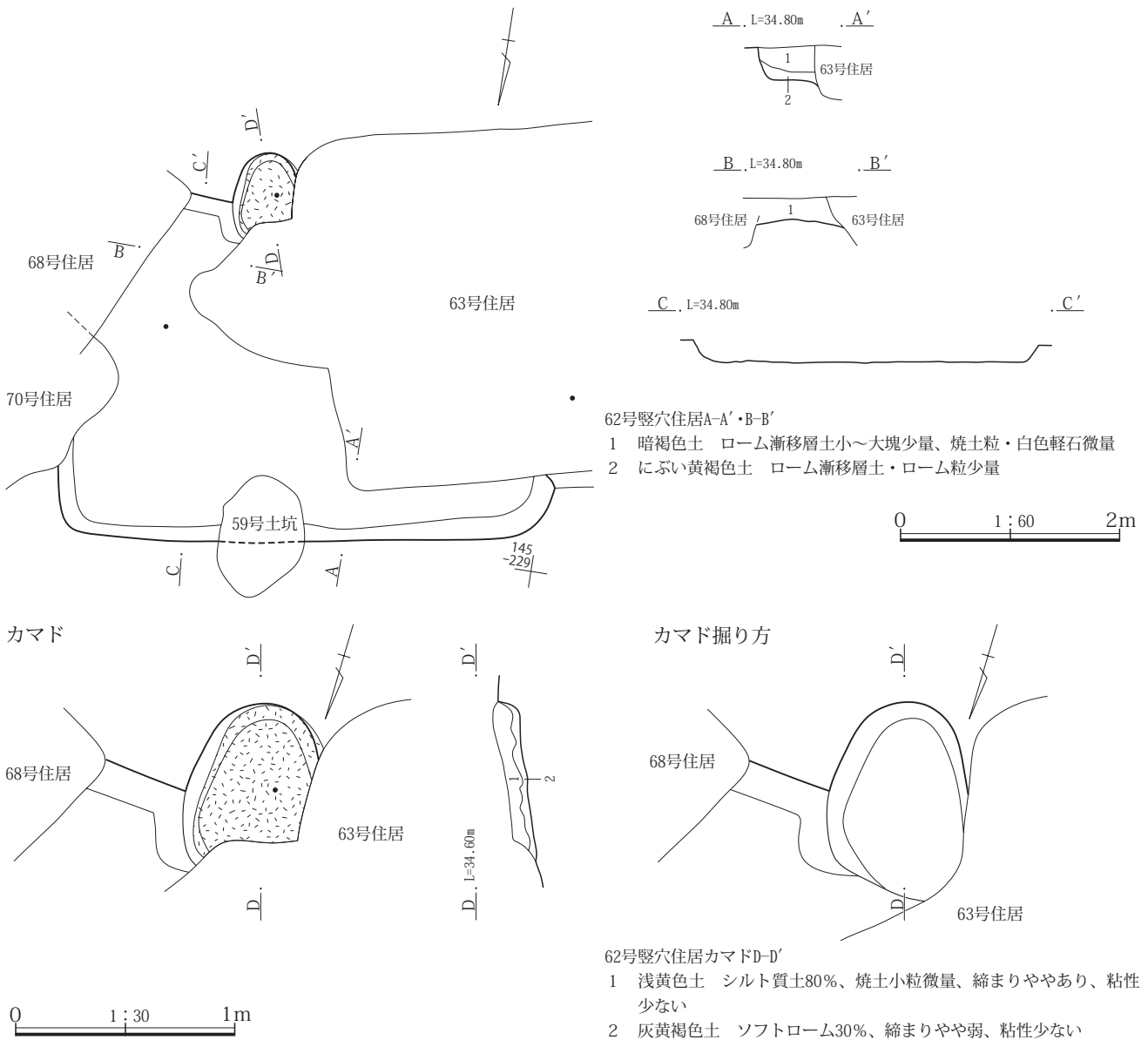
カマド 南壁に付設する。1区63号竪穴住居との重複に

よって焚口から燃烧部側壁を失い、天井から煙道にかけて削平されているため残存状況は不良である。確認できる規模は、全長90cm、左袖状残存部36cmである。軸方向は、N-165°-Eである。

貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

遺物出土状態 1区63・68・70号竪穴住居との重複のため出土遺物は少ない。非掲載遺物であるが、土師器片128点(小型製品16、大型製品112)、須恵器片29点(小型製品15、大型製品14)が出土した。

所見 重複する住居との切り合いや出土遺物から判断し、時期は6世紀後半以前と考えられる。



第93図 1区62号竪穴住居



1区67号竪穴住居(第94~96図 PL.28・29・85)

位置 X=145~151、Y=-215~221

形状・規模 形状は長方形である。長軸長4.40m、短軸長3.66m、壁高北壁24cm、南壁及び西壁26cm、東壁29cmを測る。床面積は15.28㎡である。

主軸方向 N-60°-E

重複 1区533・536・542・595・596号ピットと重複する。住居床面とカマド掘り方調査を行って確認した1区542・595号ピットが古く、1区533・536・596号ピットが新しい。

埋没土 上層に比べ下層にローム粒やローム塊が多く混入する。人為的な埋戻しと考えられる。

床面 現代の攪乱によって一部床面まで掘り込まれているが、高低差は殆どなく平坦である。中央部に硬化面が認められ、周辺より1~2cm低い。ローム塊やローム粒を多量に混入するにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 東壁の南側、貯蔵穴寄りに構築する。燃烧部側壁から天井や煙道にかけて壊されている。確認できる規模は、全長1.10m、幅1.25m、焚口幅50cm、燃烧部奥行62cm、左袖状残存部47cm、右袖状残存部52cmである。軸方向は、N-64°-Eである。住居床面から燃烧面は6cm低い。焚口から燃烧面を7~15cm掘り窪め整えている。土師器杯(第96図3)は、焚口付近の燃烧面直上から

出土し、土師器杯(同図4)は、カマド埋没土中から出土した。

貯蔵穴 カマド右側、床面の南東隅に構築する。形状は円形、規模は長径65cm、短径55cm、深さ38cmを測る。土師器小型甕(同図5)は底面から6cm、土師器小型甕(同図6)は、底面上4cmから出土した遺物である。土層断面の観察から埋没土にローム粒やローム塊が多量に含まれ、人為的な埋戻しと考えられる。

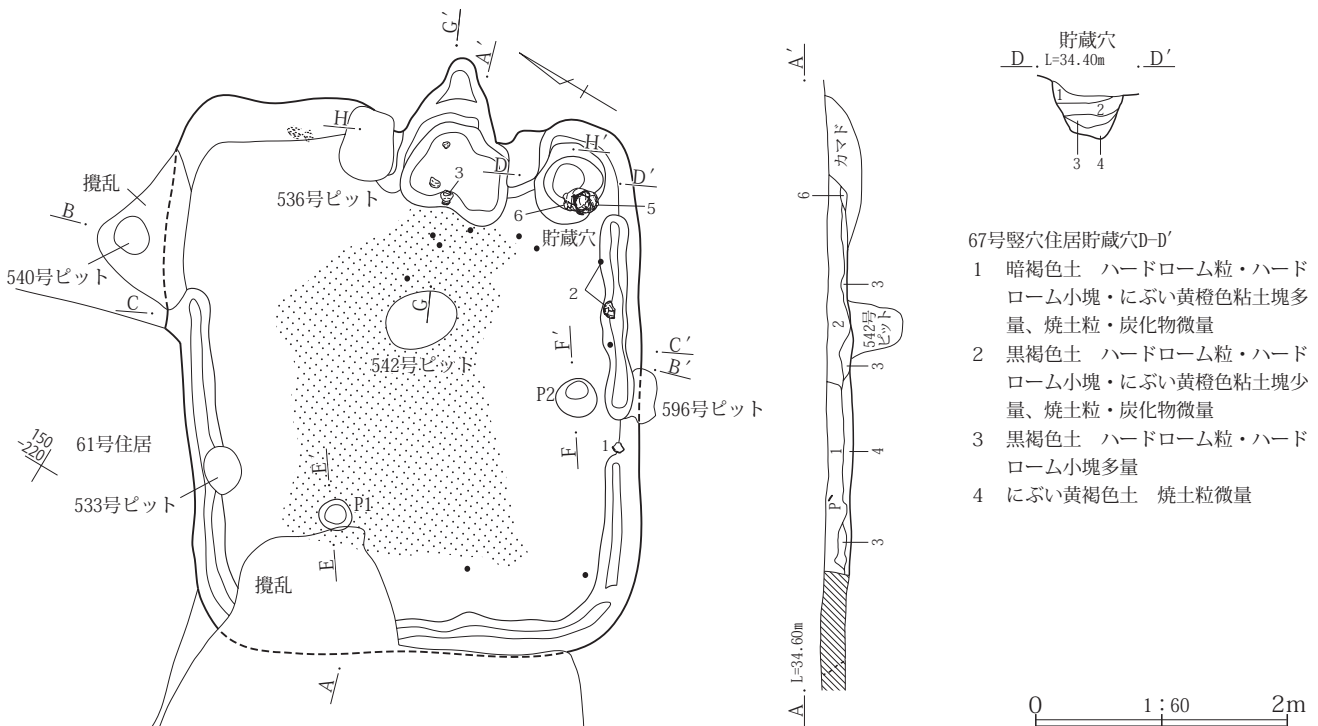
柱穴 床面精査によってピット2基を確認した。形状及び規模は、P1(円形、径26cm、深さ11cm)、P2(円形、径32cm、深さ22cm)である。2基のピットはそれぞれ黒褐色土によって埋没し、柱痕は確認できなかった。

周溝 南壁、西壁、北壁に構築する。規模は幅15~25cm、深さ2~10cmを測る。にぶい黄褐色土によって埋没し、周溝内に小ピットなどは確認できなかった。

掘り方 北壁際と南壁際を浅く掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

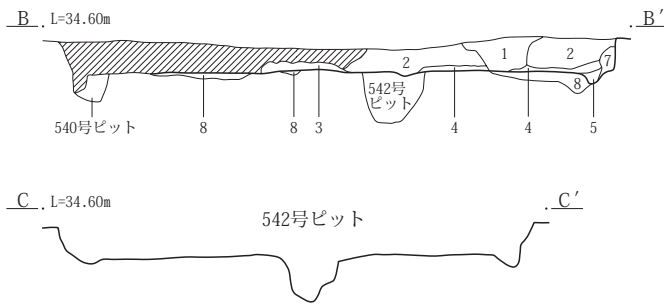
遺物出土状態 土師器杯(同図1)は床面直上から、土師器杯(同図2)は床面上3cmから出土し、住居に伴うと考えられる。非掲載遺物は、土師器片231点(小型製品34、中型製品1、大型製品194、不明2)、須恵器片24点(小型製品)である。

所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第94図 1区67号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

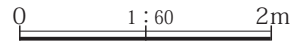


67号竪穴住居P1・P2E-E'・F-F'  
1 黒褐色土 ハードローム小塊少量

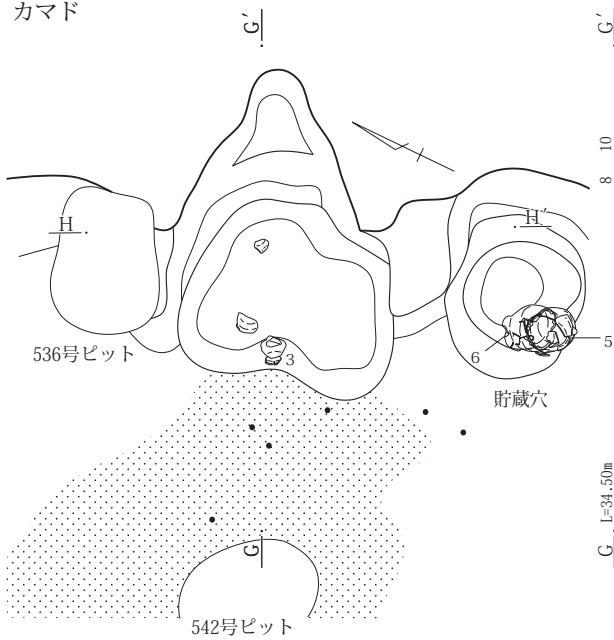
67号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・塊5%、焼土小～中粒少量、炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム粒・大塊少量、焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊20%、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

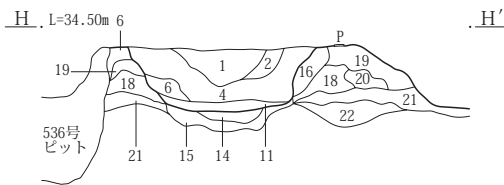
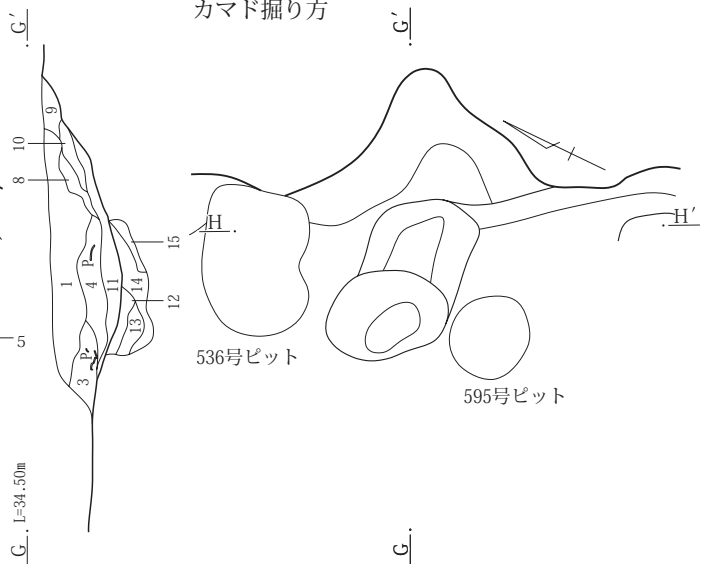
- 4 黒褐色土 ローム粒・小～中塊下層に20%、焼土粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ローム粒・大塊20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 焼土小～中粒10%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 明黄褐色土 ローム塊主体、灰黄褐色土を含む
- 8 にぶい黄褐色土 ローム塊・粒多量、掘り方理土



カマド



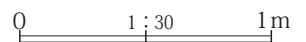
カマド掘り方



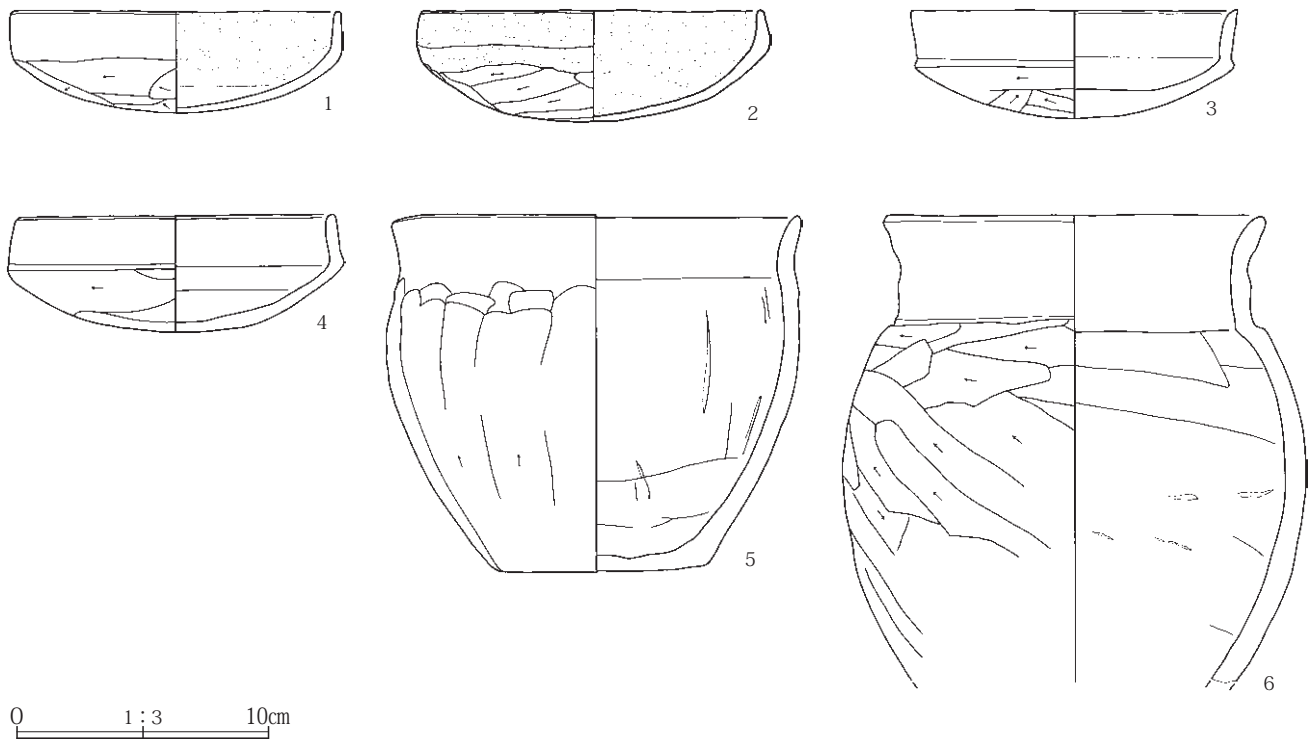
67号竪穴住居カマドG-G'・H-H'

- 1 黒褐色土 ローム塊少量、焼土粒微量
- 2 にぶい黄橙色粘質土 焼土小塊・黒色土小～中塊少量
- 3 にぶい黄橙色粘質土 カマド構築部材の飛散
- 4 黒褐色土 にぶい黄褐色粘土中～大塊多量、焼土小～大塊少量
- 5 灰黄褐色土 にぶい黄褐色粘土極小塊多量
- 6 黒褐色土 にぶい黄褐色粘土大塊少量
- 7 黒褐色土 ハードローム小塊微量

- 8 にぶい黄橙色土 粘質土、焼土小粒少量、縮まりややあり
- 9 にぶい黄橙色土 ソフトローム40%、灰白色軽石粒微量
- 10 黄褐色土 ソフトローム中心70%
- 11 灰黄褐色土 灰10%、焼土小粒微量
- 12 褐灰色土 灰層主体
- 13 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム大塊10%
- 14 にぶい黄褐色土 ローム10%
- 15 にぶい黄褐色土 ローム40%、ハードローム極小塊微量
- 16 灰黄色土が焼土化した層
- 17 黒褐色土 灰黄色シルト質土5%、焼土小～中粒少量
- 18 灰黄色土 シルト質土塊
- 19 灰黄色土 焼土小粒微量
- 20 灰黄色土 ローム小塊多量、シルト質土小塊微量
- 21 灰黄褐色土 ソフトローム20%、灰黄色シルト質土5%
- 22 にぶい黄褐色土 ソフトローム70%、ハードローム大塊少量



第95図 1区67号竪穴住居カマド



第96図 1区67号竪穴住居出土遺物

**1区68号竪穴住居**(第97・98図 PL.29)

**位置** X=140~145、Y=-220~226

**形状・規模** 形状は方形である。長軸長3.22m、短軸長3.02m、壁高北壁43cm、南壁44cm、東壁及び西壁42cmである。床面積は9.23㎡である。

**主軸方向** N-20°-E

**重複** 1区70号竪穴住居埋没土を1区68号竪穴住居が掘り込む。遺構確認状況から1区539号ピットが新しい。

**埋没土** 上層から下層にかけてローム漸移層土塊やローム塊を含み、レンズ状に堆積することから自然埋没と考えられる。

**床面** 中央部と東壁際の南東隅に硬化面が認められる。壁際に比べ中央部分が2~3cm高い。ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 南壁南東隅に構築する。構築材は灰黄褐色シルト質土で燃烧部側壁が残存する。燃烧面に炭化物が残り、燃烧面奥や煙道内側壁面に焼土化が認められる。規模は、全長73cm、幅60cm、焚口幅25cm、燃烧部奥行53cm、左袖状残存部41cm、右袖状残存部36cmを測る。軸方向は、N-160°-Wである。住居床面から燃烧面は1cm低く、煙道の立ち上がりは垂直に近い。掘り方は、焚口から外側は13cm、燃烧面を7~12cm掘り窪め整えている。土師器

甕(第98図4)が、燃烧面直上から出土した。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**柱穴** 床面精査によってピット4基を確認した。P1・P3・P4は壁際及び周溝内に位置する。形状及び規模は、P1(円形、長径28cm、短径27cm、深さ17cm)、P2(円形、長径31cm、短径30cm、深さ23cm)、P3(円形、長径35cm、短径34cm、深さ17cm)、P4(円形、長径26cm、短径25cm、深さ23cm)である。灰黄褐色土や褐灰色土によって埋没し、土層断面の観察から柱痕などは確認できなかった。

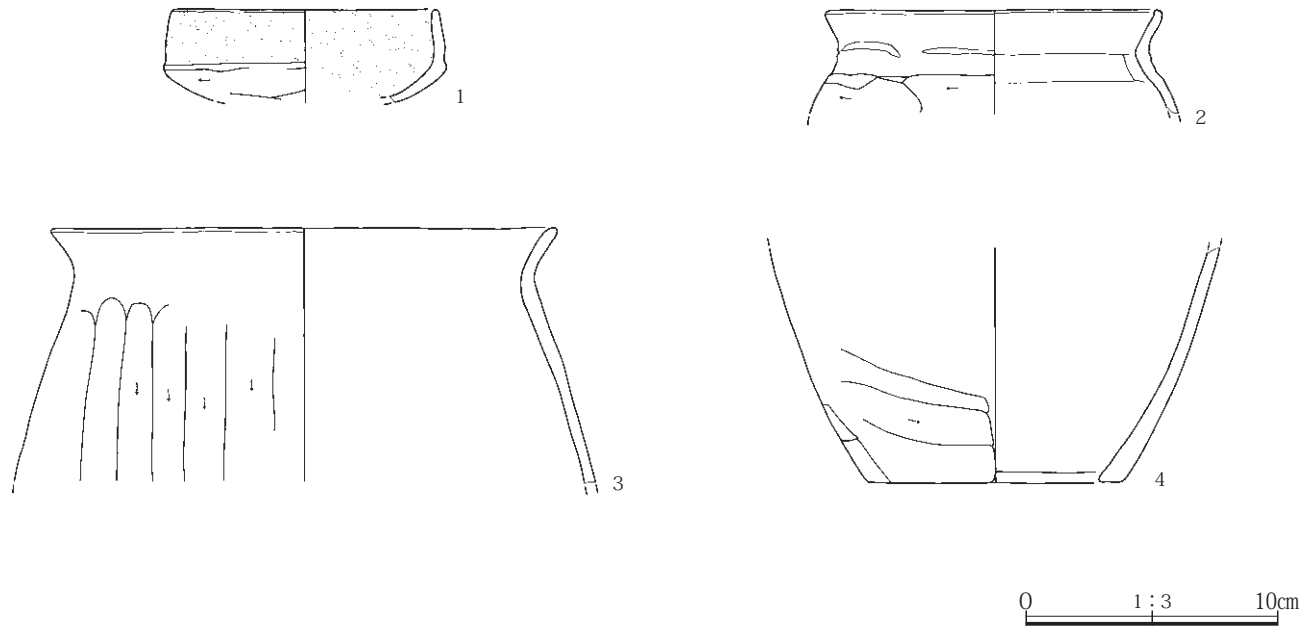
**周溝** 南壁、西壁、北壁際に構築する。規模は幅17~23cm、深さ6~13cmを測る。

**掘り方** 中央部は浅く、壁際はやや深くローム面まで掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器杯(同図1)は床面直上から、土師器小型甕(同図2)、土師器甕(同図3)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片326点(小型製品51、中型製品1、大型製品269、不明5)、須恵器片13点(小型製品9、大型製品4)である。

**所見** 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。





第98図 1区68号竪穴住居出土遺物

**1区70号竪穴住居**(第99・100図 PL.29・85)

**位置** X=141~146、Y=-220~225

**形状・規模** 南西部は1区68号竪穴住居と重複するため、形状は長方形と考えられる。確認できる規模は、長軸長3.74m、短軸長3.72m、壁高北東壁30cm、南西壁36cm、北東壁31cm、南西壁29cmである。

**主軸方向** N-50°-W

**重複** 1区70号竪穴住居が1区62号竪穴住居を掘り込み、1区68号竪穴住居に掘り込まれている。

**埋没土** 現代の攪乱を受けている。上層は灰黄褐色土、下層はローム漸移層土塊やハードローム塊を含む黒褐色土による自然埋没か人為的かは不明である。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦である。カマド焚口部分から床面中央部にかけて硬化面が認められる。ローム塊やローム粒を多量に含む黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北西壁中央部やや北寄りに付設する。燃焼部側壁に構築材であるシルト質土が残存する。燃焼面や内壁の焼土化が著しく、燃焼面から焚口外側にかけて炭化物が認められる。規模は、全長1.22m、幅83cm、焚口幅53cm、燃焼部奥行80cm、左袖状残存部18cm、右袖状残存部30cmを測る。軸方向は、N-48°-Wである。住居床面から燃焼面は1~5cm低く掘り込まれている。焚口外側

を土坑状に約3cm、燃焼面から煙道を約10cm掘り込み整えている。土師器杯(第100図1)はカマド燃焼面上6cm、焚口直上周溝底面上7cmから出土した。土師器甕(第100図4)は、焚口直上や燃焼面上6cmから出土した。燃焼面上3cmから粘土塊(PL85-5・6)が2点出土した。

**貯蔵穴** カマド右側に構築する。形状は円形、規模は長径56cm、短径54cm、深さ34cmを測る。自然埋没か人為的かは不明である。

**柱穴** 床面精査によって4本のピットを確認する。P3・P4は北東壁周溝内に位置する。形状及び規模は、P1(円形、長径25cm、短径23cm、深さ27cm)、P2(円形、長径30cm、短径29cm、深さ17cm)、P3(円形、長径26cm、短径23cm、深さ31cm)、P4(円形、長径36cm、短径33cm、深さ26cm)である。ピットには明瞭な柱痕は認められない。

**周溝** カマド付設部以外は、壁の直下に掘り込まれている。規模は幅16~23cm、深さ2~10cmを測る。

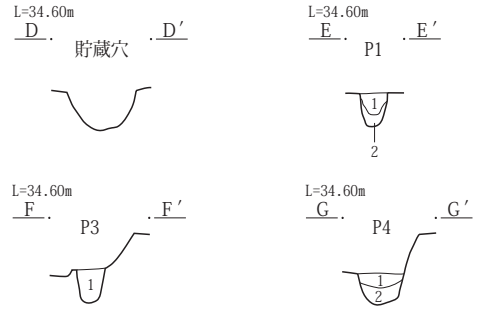
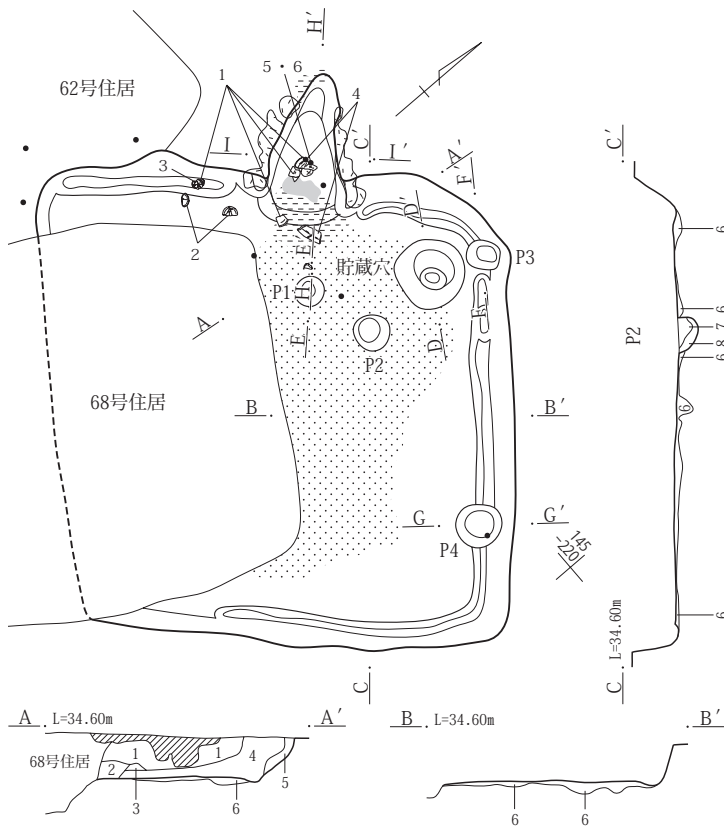
**掘り方** ローム面まで3~7cm掘り窪めている。特に床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器杯(第100図3)は床面直上から、土師器杯(第100図2)は、床面上5cmからの出土である。非掲載遺物は、土師器片20点(小型製品5、大型製品15)、須恵器片2点(大型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第3章 間之原遺跡の調査



70号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 白色軽石・ハードローム小塊・焼土粒少量
- 2 黒褐色土 ハードローム小〜中塊多量
- 3 灰白色粘質土塊 カマド構築部材の飛散か
- 4 黒褐色土 ローム漸移層土中塊・ハードローム小〜中塊少量
- 5 明黄褐色土 ローム小塊主体
- 6 にぶい黄褐色土 ローム小塊・粒多量、掘り方埋土
- 7 灰黄褐色土 ハードローム粒少量、P2埋土
- 8 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量、P2埋土

70号竪穴住居P1E-E'

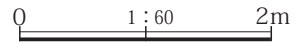
- 1 灰黄褐色土 ハードローム小塊・ハードローム粒少量
- 2 にぶい黄褐色土 ハードローム小塊多量

70号竪穴住居P3F-F'

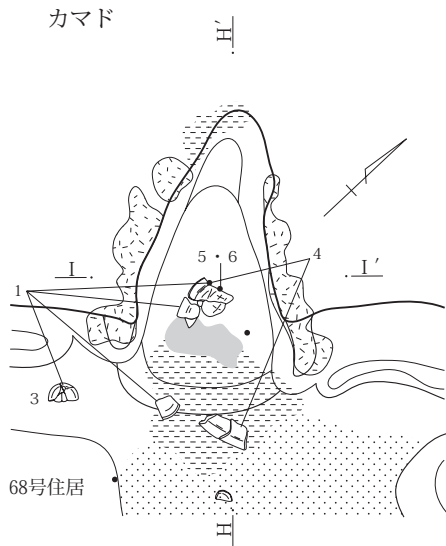
- 1 褐灰色土 ハードローム粒少量

70号竪穴住居P4G-G'

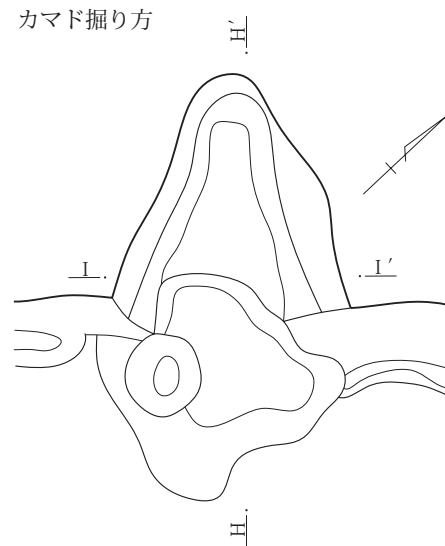
- 1 褐灰色土 ハードローム小塊少量
- 2 褐灰色土 ハードローム小〜大塊多量



カマド



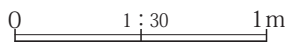
カマド掘り方



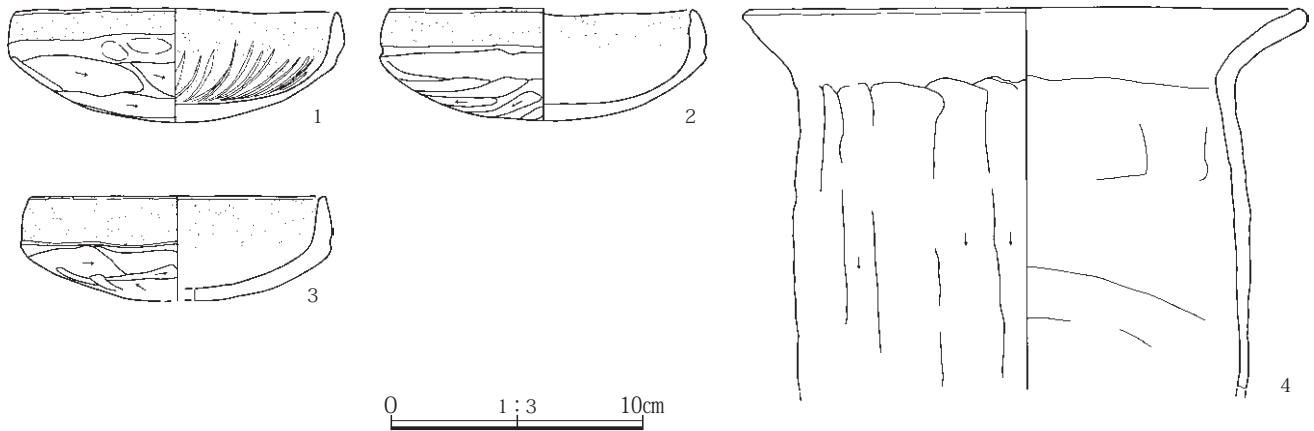
70号竪穴住居カマドH-H'・I-I'

- 1 にぶい黄褐色土 ハードローム粒・白色軽石・焼土粒少量、締まりあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 にぶい黄橙色粘質土小〜大塊・ハードローム小塊多量、締まりあり、粘性少ない、カマド構築部材
- 3 黒褐色土 ハードローム粒多量、ハードローム小塊・にぶい黄褐色粘質土小塊少量
- 4 にぶい黄褐色土 にぶい黄橙色粘質土小〜大塊多量、焼土粒微量、カマド構築部材の崩落、締まりややあり、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 焼土小〜大塊・にぶい黄褐色粘質土小〜大塊多量、ハードローム小塊少量、締まりややあり、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 焼土小〜中粒・灰白色軽石小粒、締まりややあり、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ローム小粒・焼土小〜中粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 8 黒褐色土 焼土小〜中粒微量、締まりややあり、粘性少ない

- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、焼土小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 褐灰色土 灰層20%、焼土小粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄色土 シルト質土主体、締まりややあり、粘性少ない
- 12 黄灰色土 灰黄色シルト質土+ソフトローム混入、締まりややあり、粘性少ない
- 13 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、締まりややあり、粘性少ない
- 14 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりややあり、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土5%、焼土小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 16 灰黄色土 灰黄色シルト質土中心土、締まりややあり、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土少量、締まりややあり、粘性少ない



第99図 1区70号竪穴住居



第100図 1区70号竪穴住居出土遺物

**3区72号竪穴住居**(第101～109図 PL.30・31・86～88)

位置 X=133～140、Y=-309～316

**形状・規模** 調査区南境に位置する。住居南東隅部分は調査区外となるが僅かであり、形状は方形である。長軸長5.42m、短軸長4.83m、壁高北壁25cm、南壁46cm、東壁30cm、西壁34cmを測る。確認できる床面積は26.66㎡である。

主軸方向 N-64°-W

重複 なし。

**埋没土** 壁際の三角堆積にローム塊やローム粒が多く混入する。床面から上層にかけてレンズ状の堆積が認められるため自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦である。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム粒やローム塊を多量に含む暗褐色土と灰黄褐色土の混土によって床面を構築する。

**カマド** 西壁中央部に付設する。燃烧部側壁の芯材として左壁に土師器甕(第107図21・第108図24・26)、右壁に土師器甕(第106図17・第107図25・第108図27)を逆向きに3個ずつ並べ、土師器甕(第105図16・第106図20)は片方の口縁部にもう一方の底部を入れて横向きに設置し、天井部を構築したと想定される。燃烧部側壁の掘り方は、甕を設置するために小ピット状に掘り窪めている。土師器杯(第104図2)は燃烧面上8cmから出土した。カマドの規模は、全長1.73m、焚口幅32cm、燃烧部奥行80cm、左袖状残存部75cm、右袖状残存部84cmを測る。軸方向は、N-65°-Wであり、住居主軸方向とほぼ一致する。掘り方は、焚口外側から燃烧面と煙道にかけて約5～10cm掘り込み、にぶい赤褐色土や灰黄褐色土によって整え

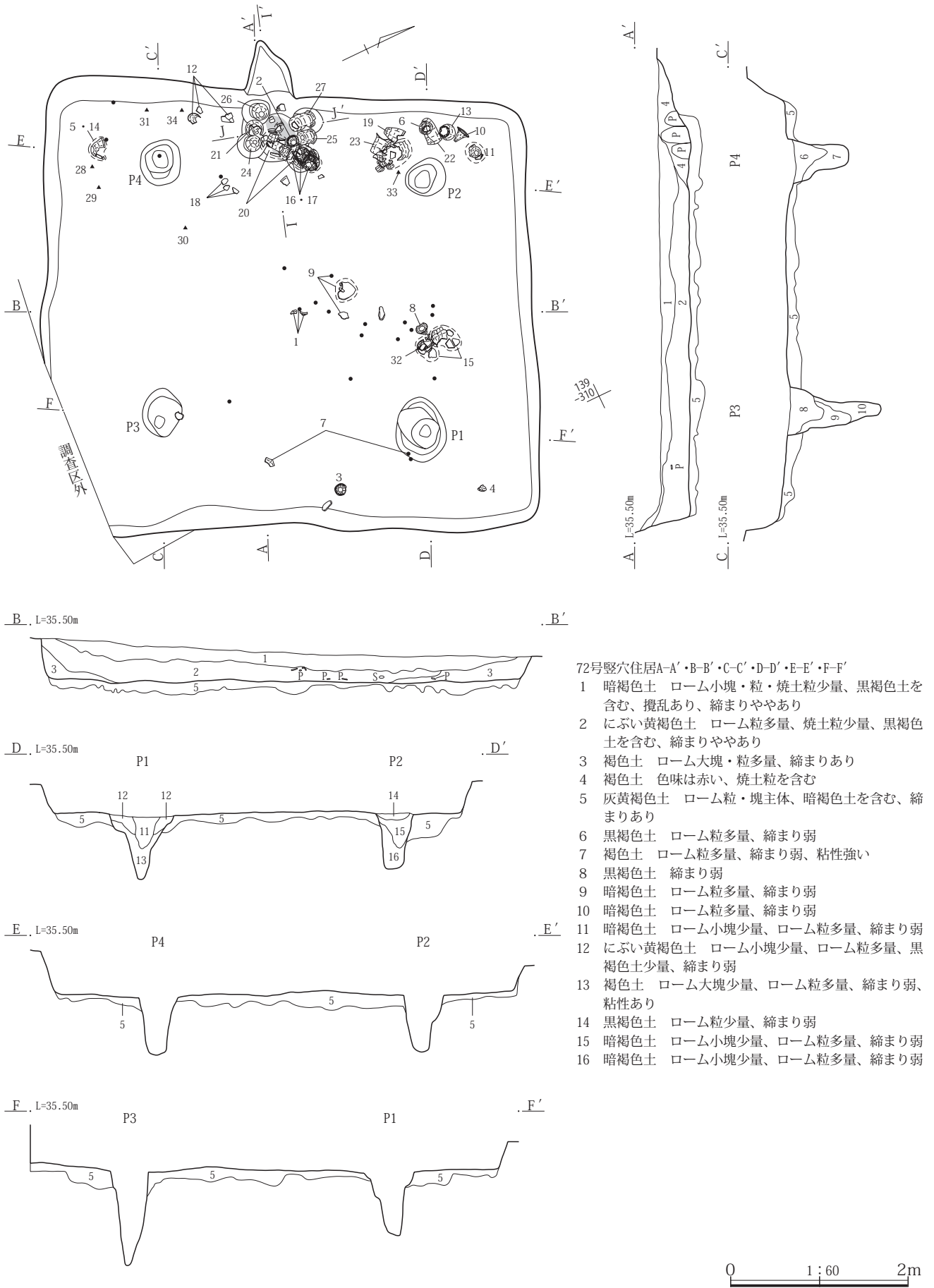
ている。

**貯蔵穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**柱穴** 床面精査によって4本のピットを確認した。床面の対角線上に位置することから支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(楕円形、長径73cm、短径56cm、深さ73cm)、P2(円形、長径45cm、短径43cm、深さ64cm)、P3(楕円形、長径55cm、短径45cm、深さ1.07m)、P4(円形、長径51cm、短径45cm、深さ65cm)である。支柱穴間はP1～P2間2.83m、P2～P4間3.00m、P3～P4間2.95m、P1～P3間3.00mを測る。ローム粒やローム塊を含む暗褐色土や黒褐色土の混土によって埋没しているが締まりが弱く、柱の抜き取り痕の可能性はある。

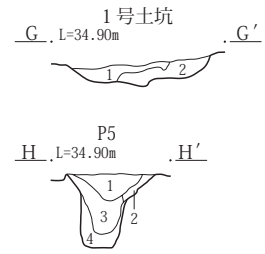
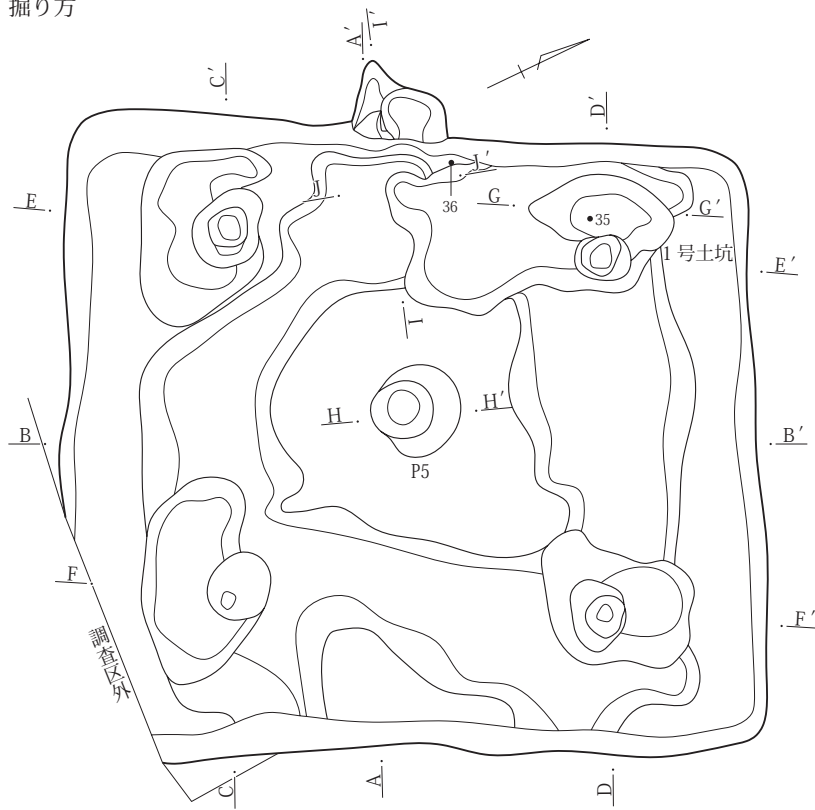
**掘り方** 中央部を浅く残して、支柱穴から外側の四隅を溝状に掘り窪めている。掘り方調査を行って住居中央部から1基のピットを確認する。P5の形状は不定形で、規模は長径74cm、短径71cm、深さ59cmである。支柱穴の対角線上の中央に位置することから支柱穴の可能性はある。床面では確認できなかったが、カマド右側のP2付近から1号土坑を確認する。形状は楕円形、規模は長径1.16m、短径60cm、深さ24cmを測る。ローム粒やローム塊を多量に含む灰黄褐色とにぶい黄褐色土の混土による人為的な埋戻しと考えられ、位置から貯蔵穴の可能性もある。

**遺物出土状態** 遺物は、カマドを中心に床面の西半部に集中し37点を図示した。土師器高杯(第104図8・9)、土師器甕(第105図15・18・第106図19・第107図23)は床面直上から、土師器杯(第104図1・3)、須恵器瓶(第104図7)、土師器高杯(第104図10・11)、土師器小型甕



第101図 3区72号竪穴住居

掘り方

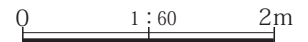


72号竪穴住居1号土坑G-G'

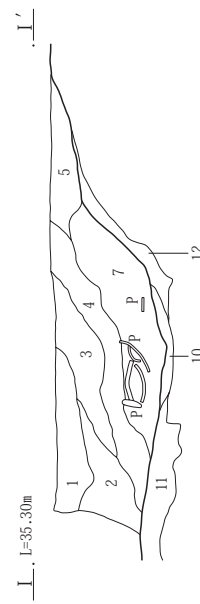
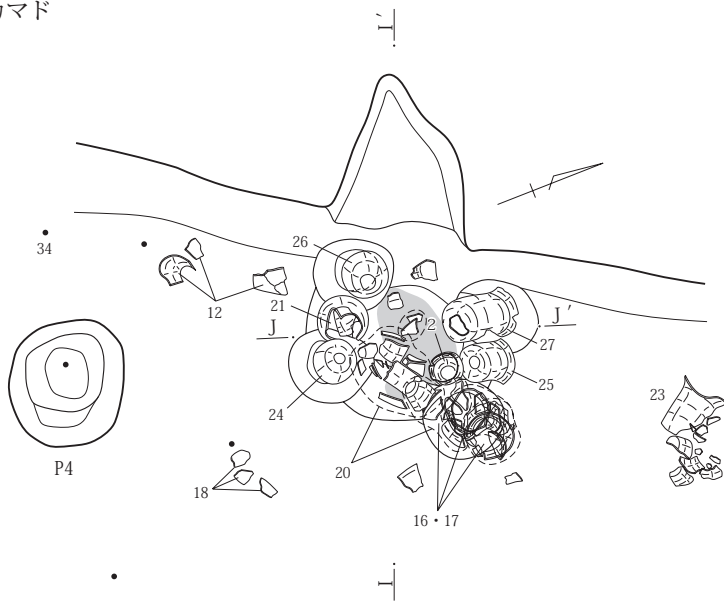
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・小塊多量、締まりあり、粘性あり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体、硬化

72号竪穴住居P5H-H'

- 1 暗褐色土 ローム大塊・小塊多量、締まり弱
- 2 褐色土 締まりややあり、粘性あり
- 3 暗褐色土 ローム小塊少量、締まり弱
- 4 灰黄褐色土 ローム大塊を含む、締まり強い

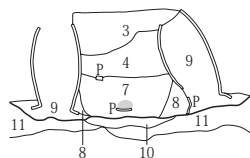


カマド



J, L=35.30m

J'



72号竪穴住居カマドI-I'・J-J'

- 1 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物微量、締まり弱
- 2 暗褐色土 ローム粒少量
- 3 暗褐色土 ローム粒多量、焼土小塊を含む、締まりあり
- 4 褐色土 褐灰色粘質土・焼土小塊を含む、締まりあり
- 5 黒褐色土 焼土粒少量
- 6 にぶい黄褐色土 黒褐色土を含む
- 7 にぶい赤褐色土 焼土粒多量、灰・焼土大塊を含む
- 8 暗赤褐色土 焼土粒多量
- 9 暗褐色土 ローム粒・遺物を含む
- 10 にぶい赤褐色土 焼土小塊多量
- 11 灰黄褐色土 ローム粒・塊を含む
- 12 暗褐色土 黄褐色土を含む

第102図 3区72号竪穴住居掘り方とカマド

第3章 間之原遺跡の調査

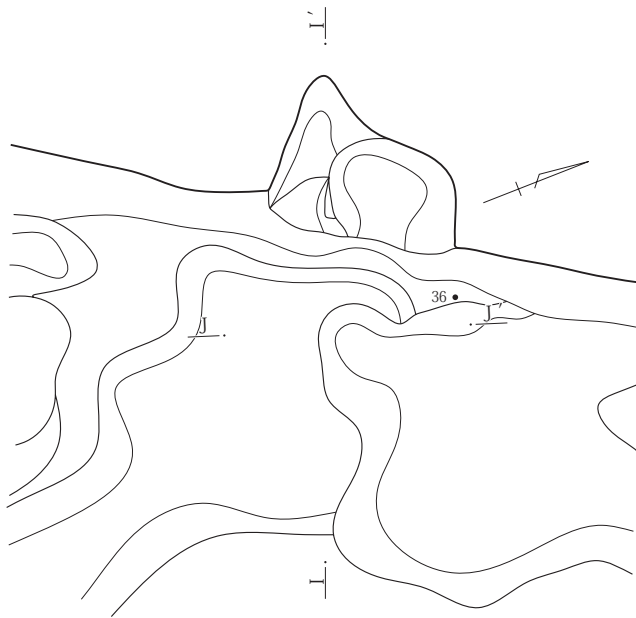
(第105図13)、土師器甕(第106図22)は床面上4~9cmからの出土である。床面上5cmから出土した須恵器短頸壺(第104図6)の内部中位よりやや低い位置から、内面を上に向けた二枚貝の殻(第109図37)が出土する。群馬県内では、黒井峯遺跡においてハマグリの出土例がある。<sup>1)</sup>床面上10cm以上の埋没土から土師器杯(第104図4)、土師器鉢(第104図5)、土師器甕(第105図14)、土師器甕(第105図12)が出土した。白玉(第109図29・30・32~34)は

床面直上、第109図28・31は床面上4cm、第109図35は1号土坑底面上8cm、第109図36は掘り方から出土した。白玉は他の竪穴住居に比べて出土数が多い。非掲載遺物は、土師器片971点(小型製品138、中型製品1、小型製品800、不明32)、須恵器片8点(小型製品5、大型製品3)である。

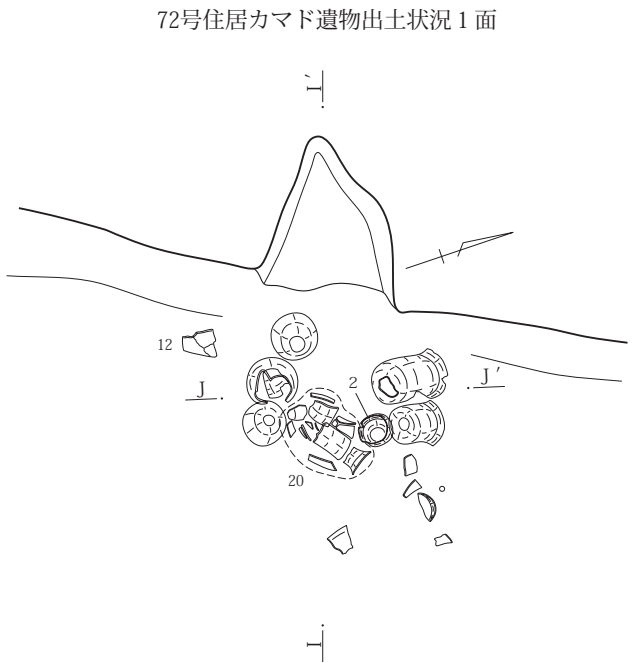
**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

註<sup>1)</sup>子持村教育委員会1990『黒井峯遺跡発掘調査報告書』B-91号竪穴住居土坑3からハマグリが2枚出土する。

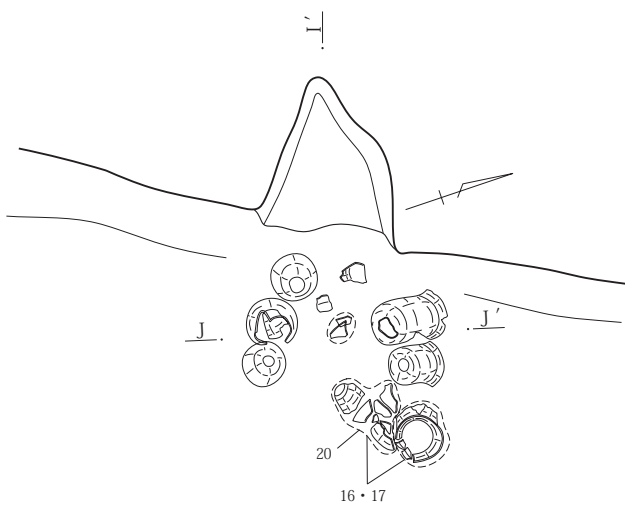
カマド掘り方



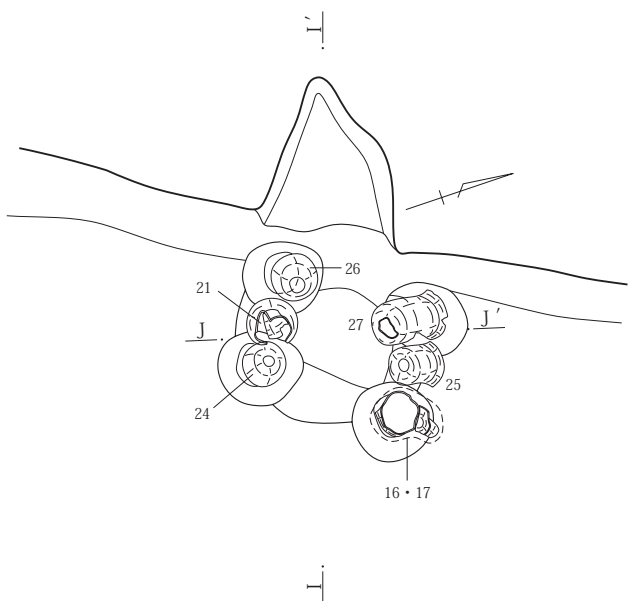
72号住居カマド遺物出土状況2面



72号住居カマド遺物出土状況1面

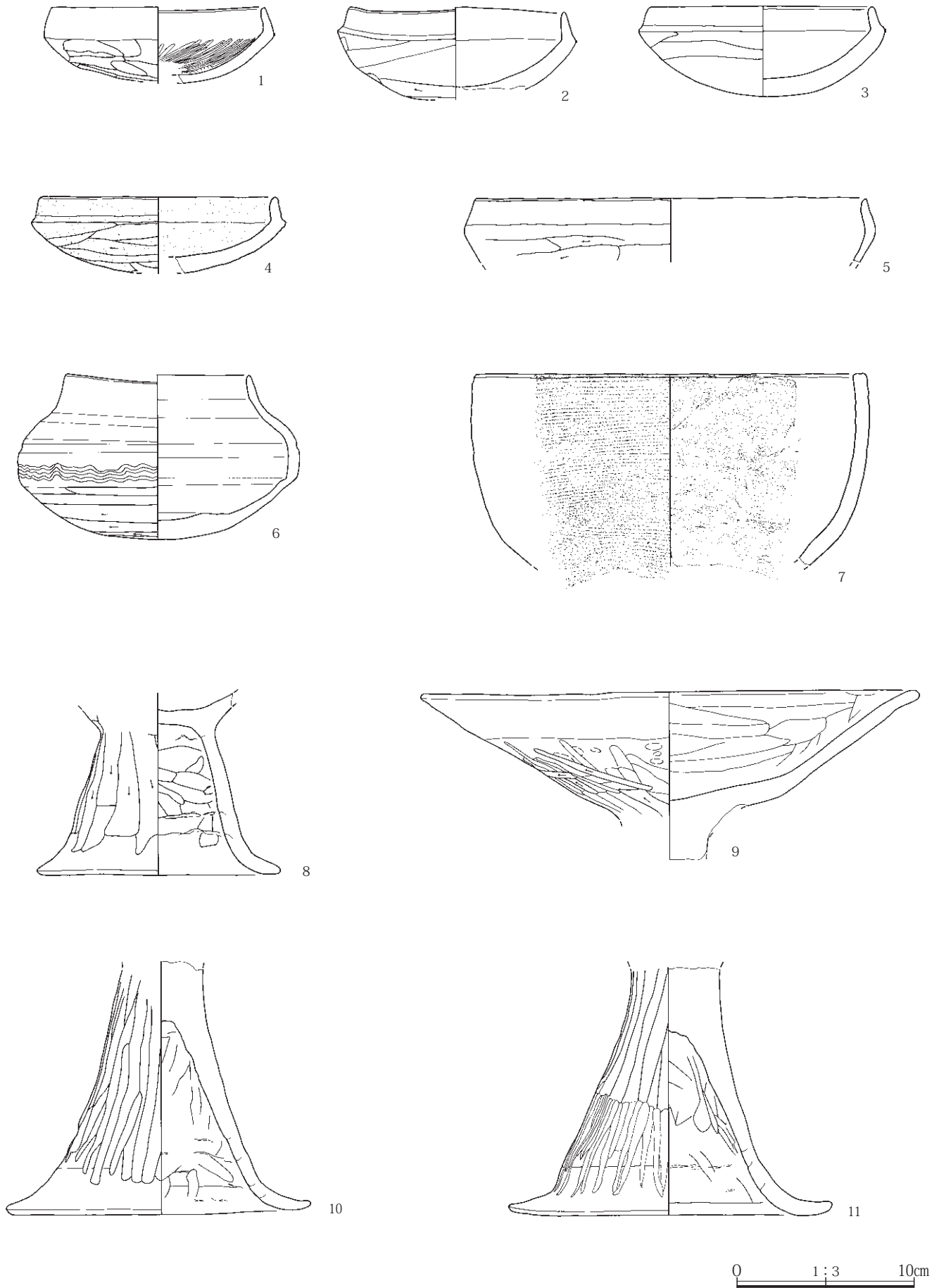


72号住居カマド遺物出土状況3面

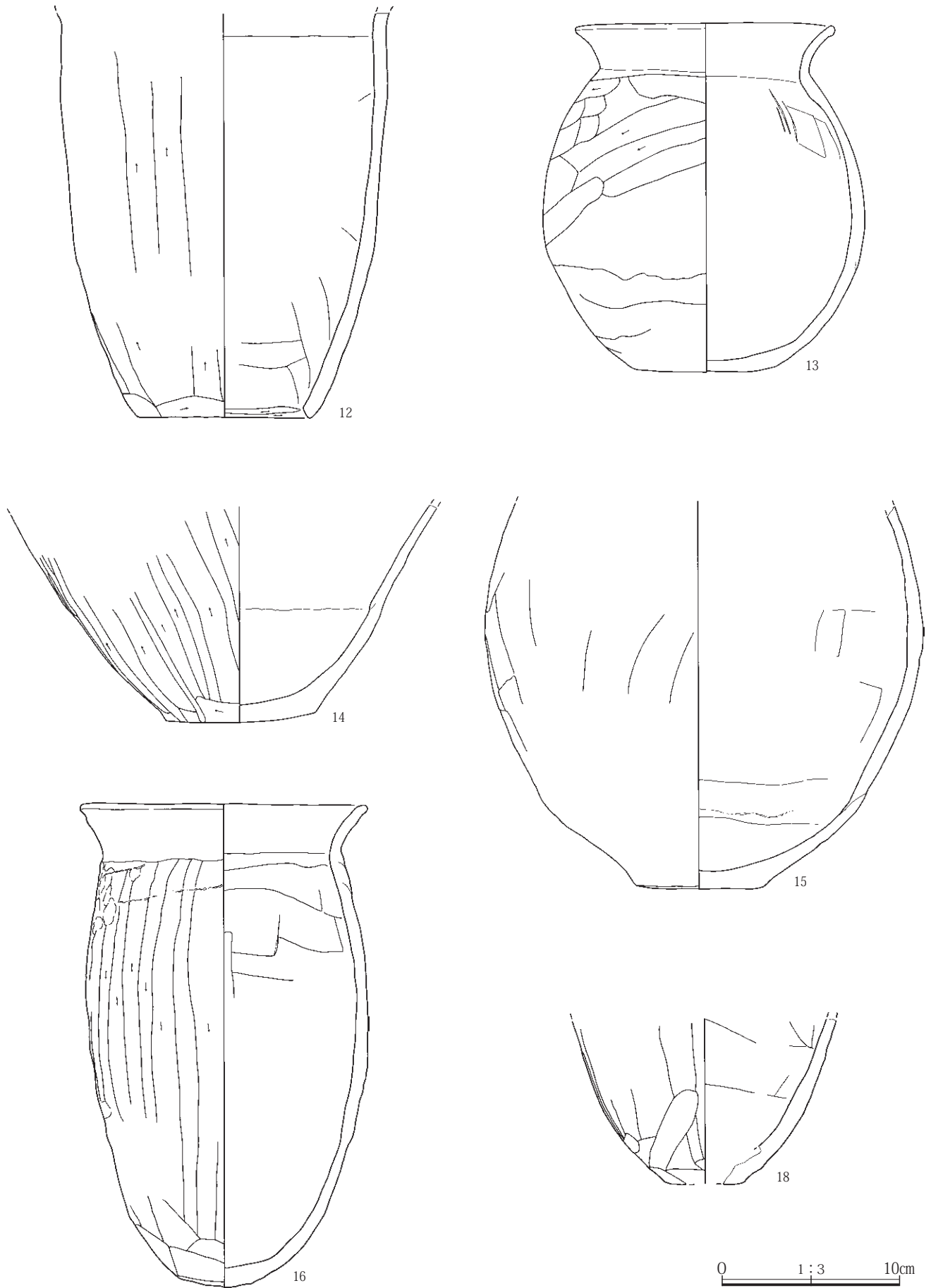


第103図 3区72号竪穴住居カマド

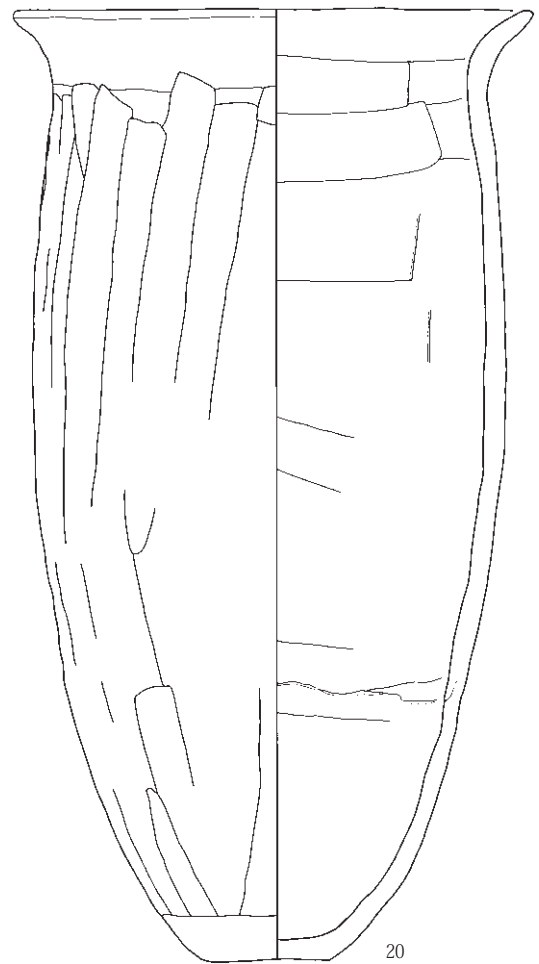
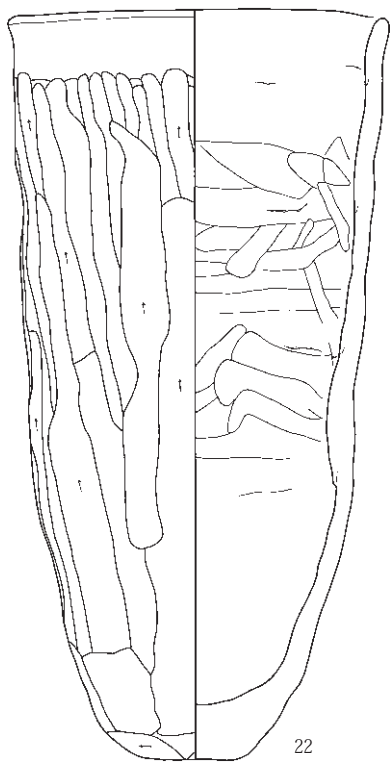
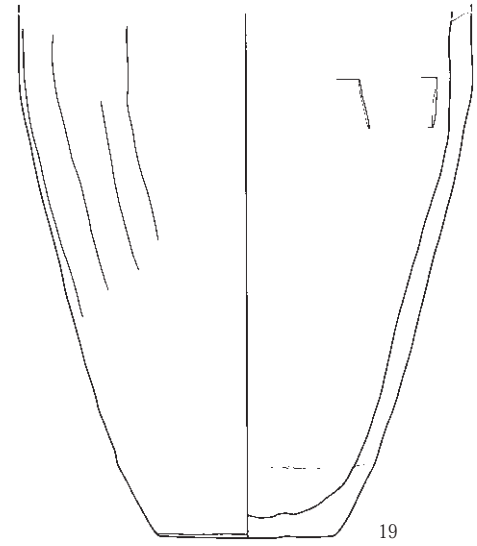
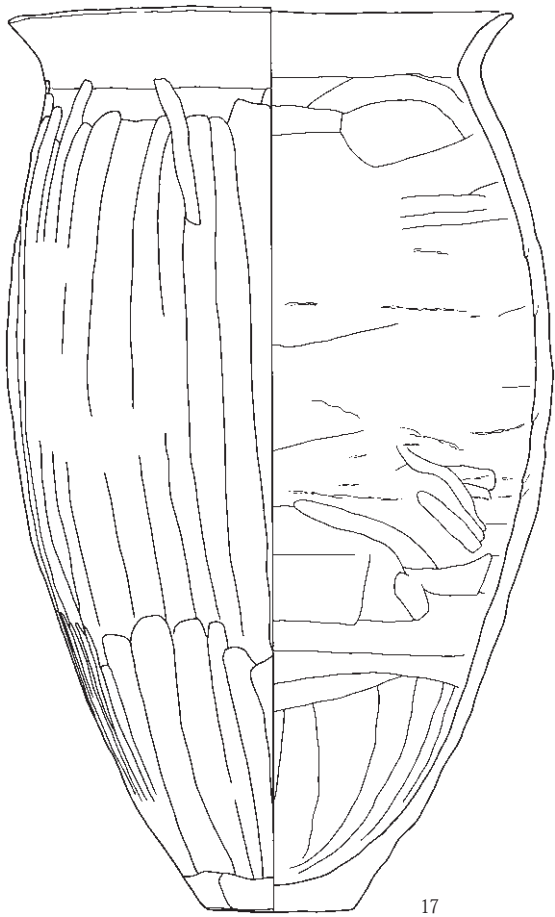




第104図 3区72号竪穴住居出土遺物(1)

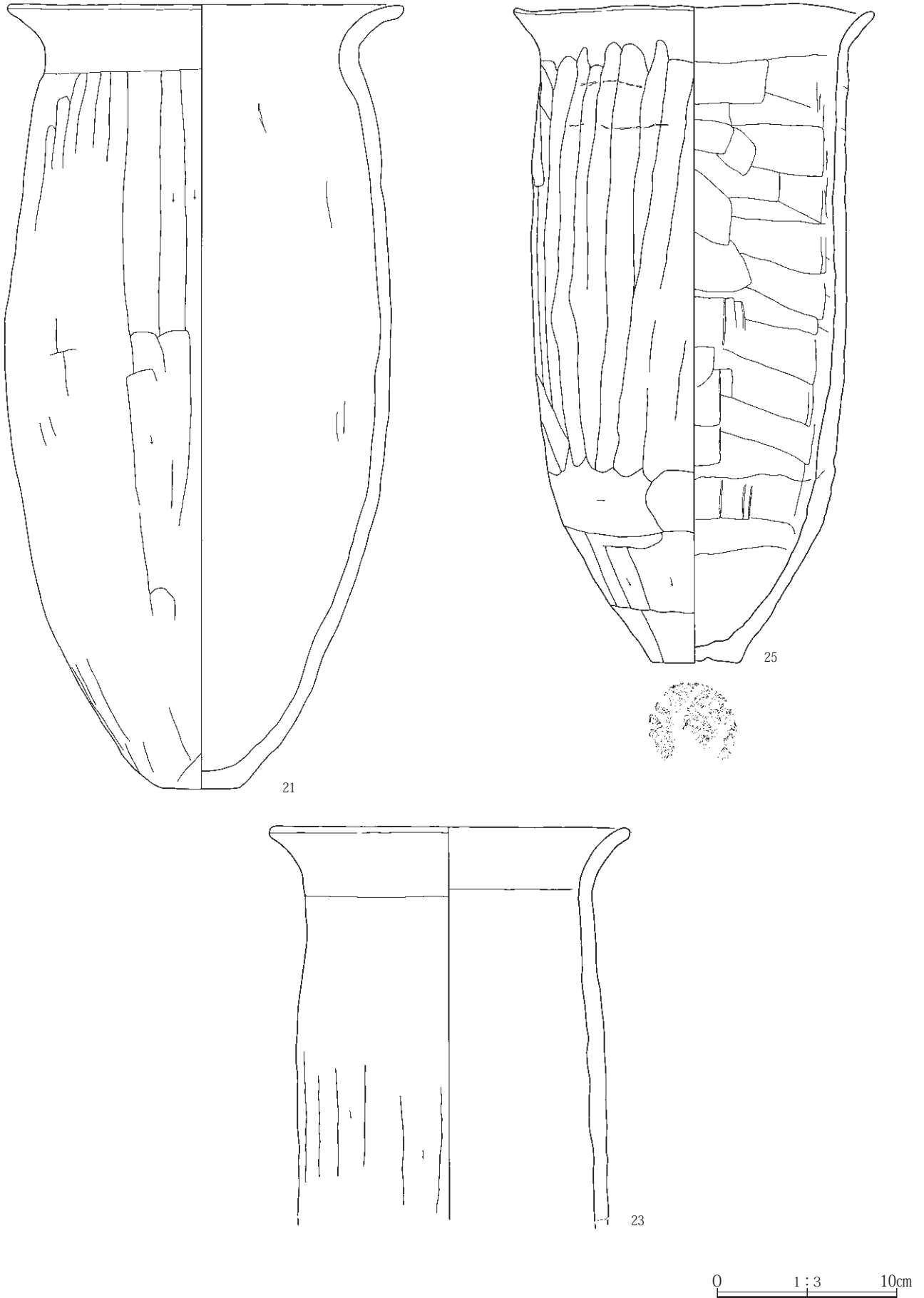


第105図 3区72号竪穴住居出土遺物(2)

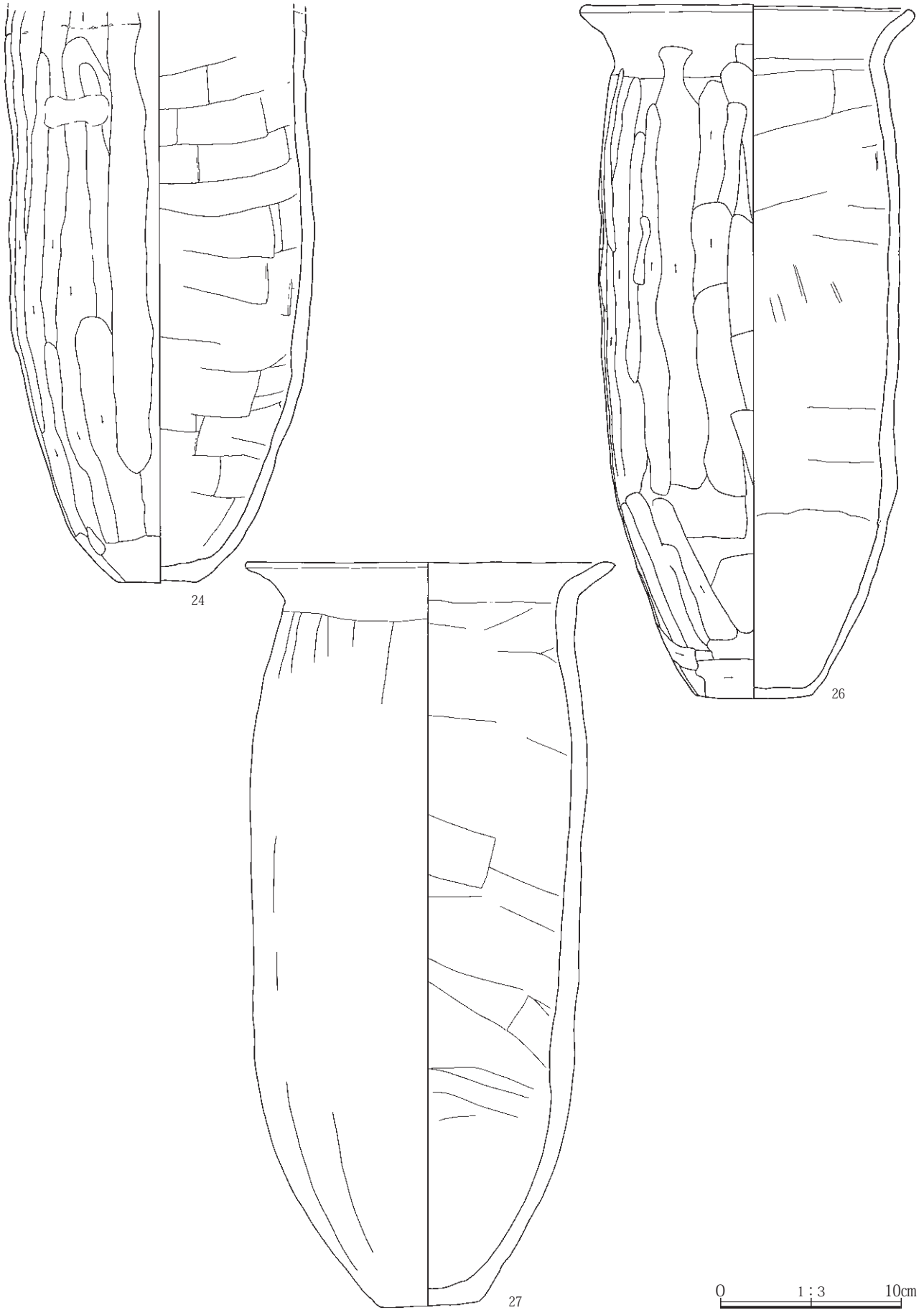


0 1:3 10cm

第106図 3区72号竪穴住居出土遺物(3)

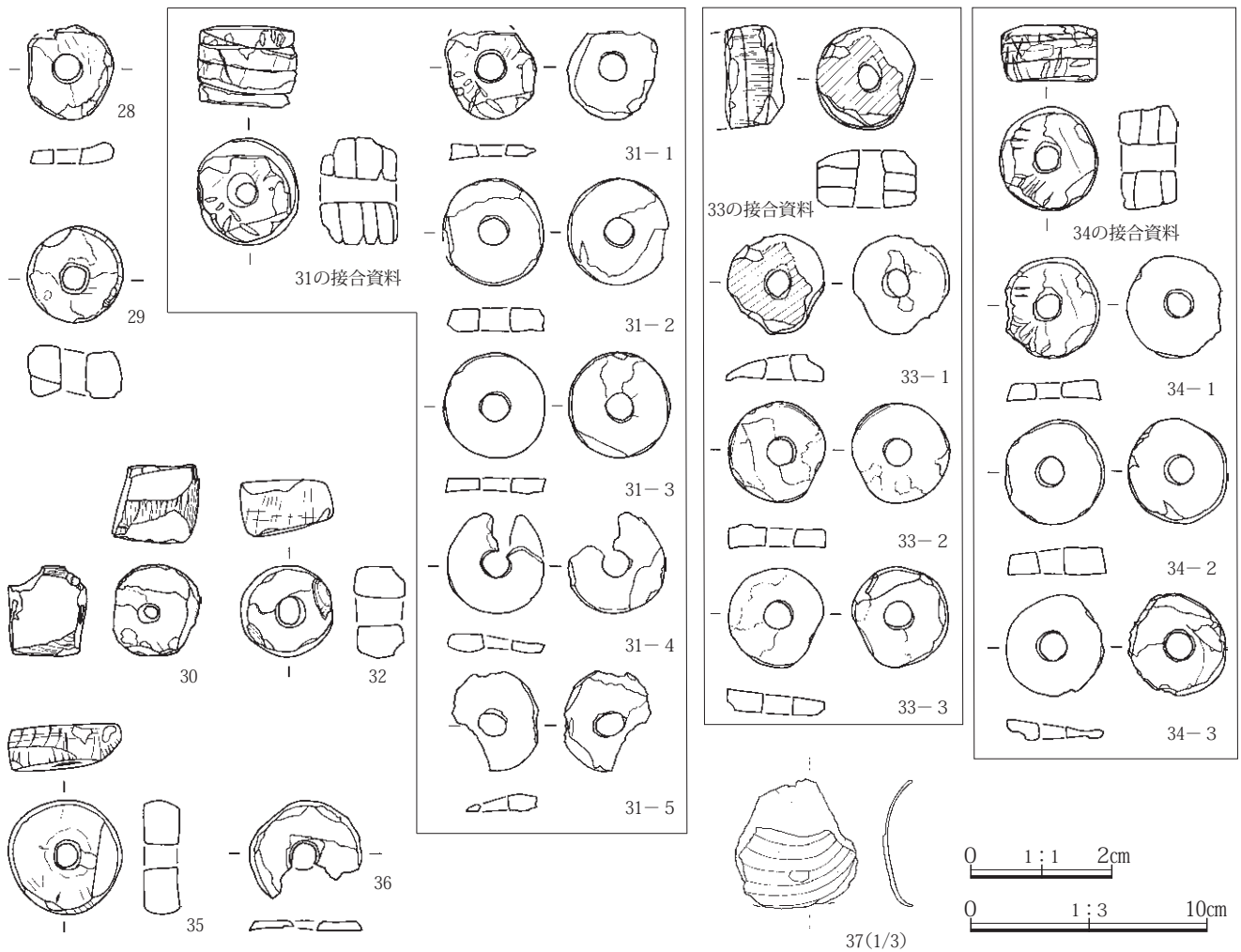


第107図 3区72号竪穴住居出土遺物(4)



第108図 3区72号竪穴住居出土遺物(5)





第109図 3区72号竪穴住居出土遺物(6)

**3区73号竪穴住居**(第110・111図 PL.31・32・89)

**位置** X=132～136、Y=-300～305

**形状・規模** 調査区南境に位置するため、全体の形状と規模は不明。確認できる規模は北西辺2.70m、北東辺3.72m、壁高北西壁60cm、北東壁55cmである。

**主軸方向** 北西-南東か。

**重複** なし。

**埋没土** 下層はローム粒やローム塊をやや多く含み、上層には焼土粒が僅かに含まれる。レンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差はなくほぼ平坦である。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム小塊と暗褐色土を混入する黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北西壁に付設する。焚口基部両側に芯材として土師器甕(第111図5・6)を逆向きに1個ずつ設置する。燃烧部には掘り方から設置した支脚石が残存する。規模は、全長98cm、幅95cm、焚口幅33cm、燃烧部奥行55cm、左右袖状残存部45cmを測り、燃烧部奥から煙道にかけ

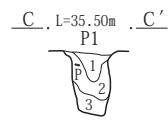
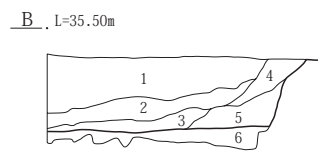
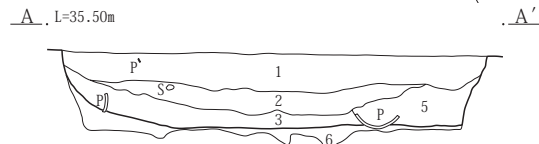
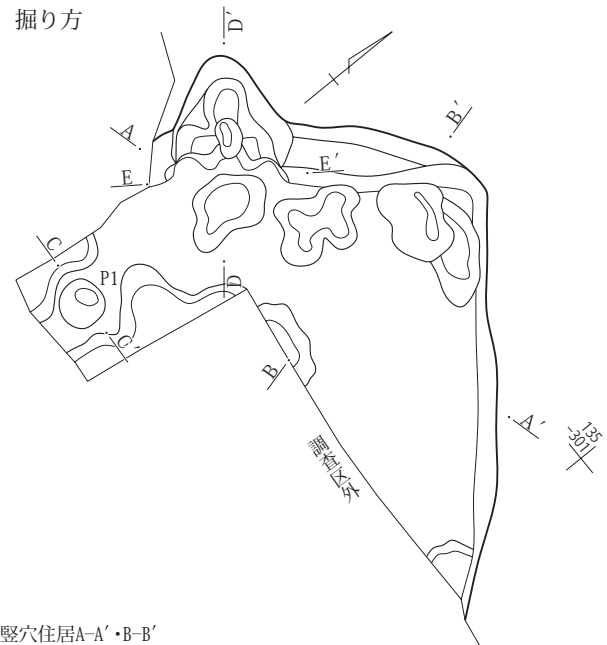
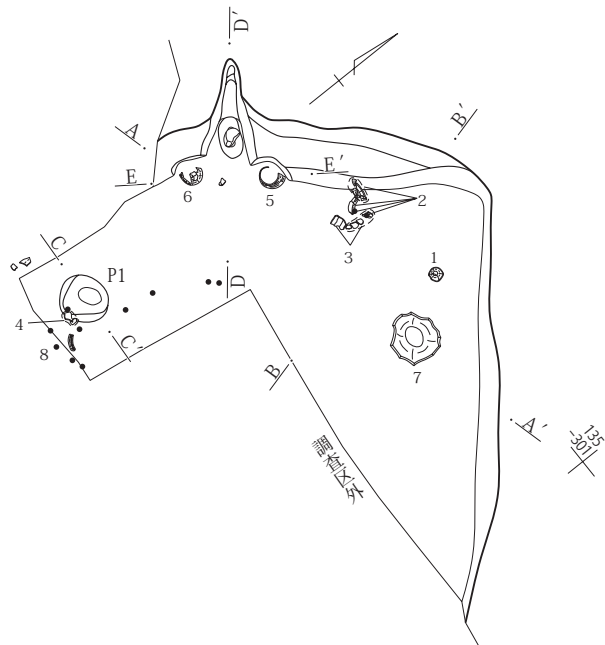
て幅が狭く、壁面の立ち上がりは垂直に近い。軸方向は、N-50°-Wである。掘り方は、約4～11cm掘り込み燃焼面を整える。

**貯蔵穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

**柱穴** 床面南側から1号ピットを確認する。形状は円形、規模は長径40cm、短径38cm、深さ50cmを測る。埋没土上層に焼土粒を多く含み、下層はローム粒やローム塊を多量に含む人為的な埋戻しである。明瞭な柱痕は認められない。  
**掘り方** 大小ピット状に掘り窪められ、凹凸が著しい。床下施設などは確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器杯(同図1)、土製品支脚か(同図8)は床面直上から出土した。須恵器甕(同図7)は床面上8cmから、土師器甕(同図2・3)、土師器甕(4)は床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片474点(小型製品56、中型製品1、大型製品398、不明19)、須恵器片30点(小型製品17、大型製品13)、石製品1点である。

**所見** 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。

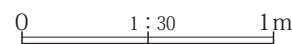
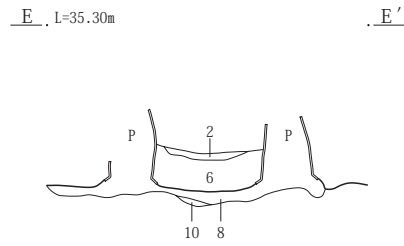
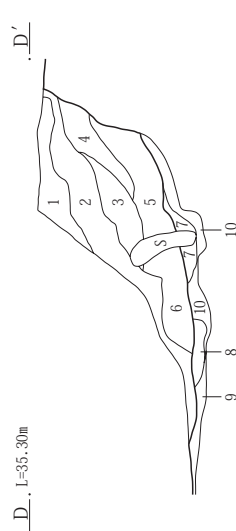
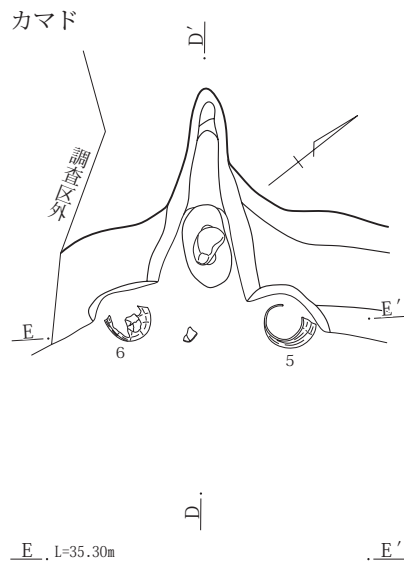
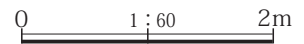


73号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 焼土小塊微量、締まりあり
- 2 黒褐色土 焼土小塊微量、やや締まる
- 3 褐色土 黒褐色土を含む、焼土粒少量、締まりあり
- 4 褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量、黒褐色土少量、やや締まる
- 5 褐色土 ローム粒を含む、やや締まる
- 6 黄褐色土 ローム小塊少量、暗褐色土を含む

73号竪穴住居P1C-C'

- 1 暗褐色土 焼土粒多量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・塊多量、遺物を含む
- 3 灰黄褐色土 ローム粒多量 1~3 締まりやや弱く、粘性あり



73号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 黒褐色土 ローム大塊を含む、締まりあり
- 2 灰黄褐色土 ローム小塊主体、粘質土、焼土粒・塊少量、炭化物を含む、やや締まる
- 3 褐灰色土 灰白色粘質土を含む、焼土小塊少量、締まり弱
- 4 褐灰色土 焼土塊微量、締まり弱
- 5 灰褐色土 やや黄色味あり、焼土小塊微量、締まりやや弱、粘性あり
- 6 赤褐色土 焼土粒・小塊多量、締まり弱、粘性あり
- 7 灰黄褐色土 ローム小塊多量、焼土粒少量、締まりややあり
- 8 暗褐色土 焼土小塊少量、炭化物を含む、かたい
- 9 黄褐色土 ローム小塊少量、締まりやや弱、粘性あり
- 10 黒褐色土 ローム粒少量、締まり弱、粘性あり

第110図 3区73号竪穴住居



第111図 3区73号竪穴住居出土遺物

3区74号竪穴住居(第112・113図 PL.32・33・90)

位置 X=142~148、Y=-302~308

形状・規模 調査区北境に位置する。現代の攪乱によって床面まで掘り込まれ、北壁と南壁を失ったため全体の形状と規模は不明。確認できる規模は東辺4.83m、壁高北東壁39cm、南西壁38cm、南東壁45cmである。

主軸方向 不明。

重複 なし。

埋没土 上層には炭化物や焼土粒が含まれる。下層にはローム塊やローム粒が多量に混入するが、壁際の三角堆積やレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 攪乱のため全体の様相は把握できないが、高低差は少なくほぼ平坦である。硬化面は確認できなかった。褐色土とローム小塊を多量に含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北東壁に付設する。上層は削平され、燃烧部側壁が壊されているため残存状況は不良である。規模は全

長95cm、焚口幅30cm、燃烧部奥行50cmである。軸方向は、N-55°-Wである。

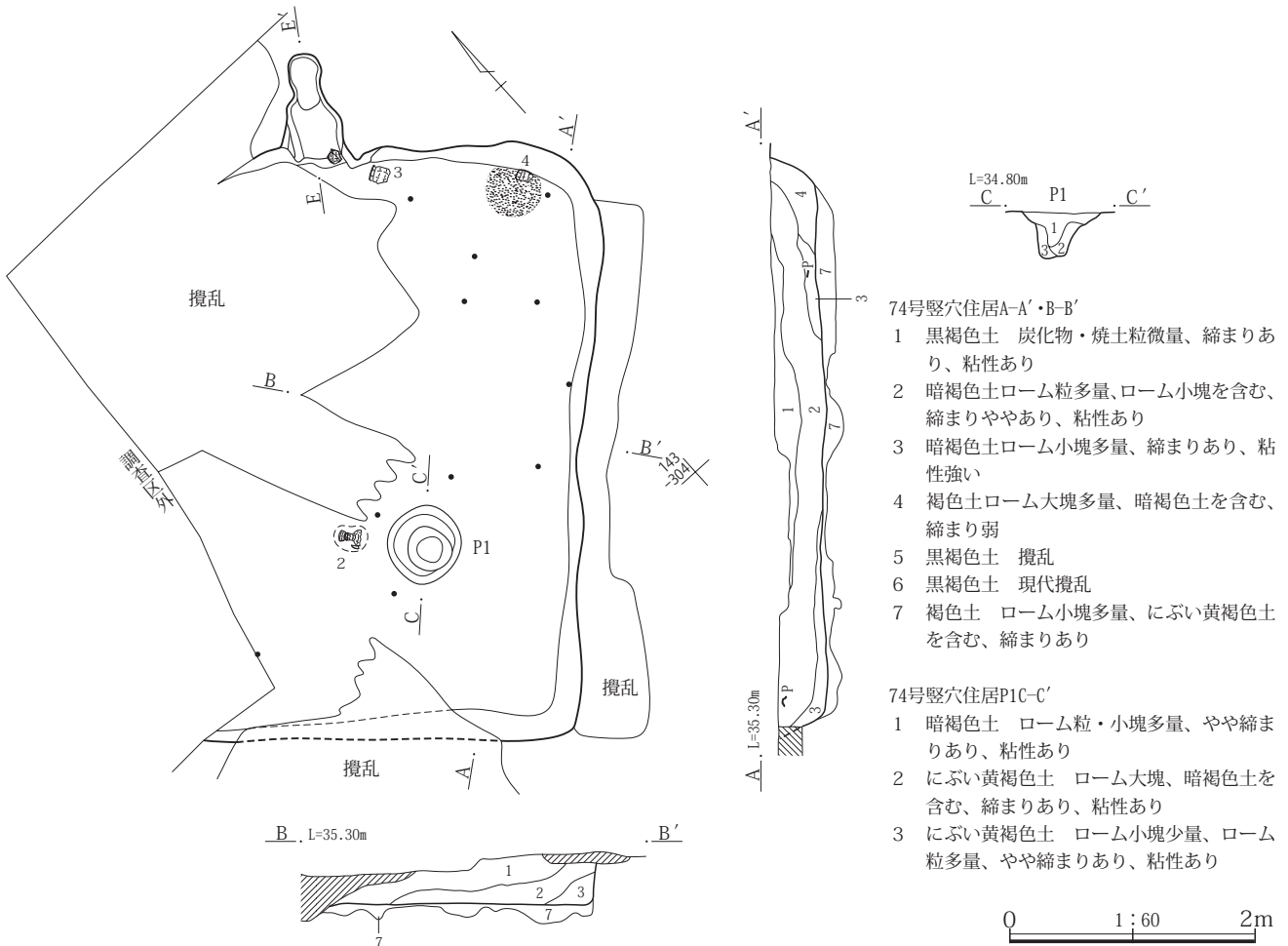
貯蔵穴 掘り方調査によってカマド右側で確認する。形状は楕円形であり、規模は長径96cm、短径52cm、深さ58cmを測る。埋没土にローム粒やローム塊が多量に含まれることから人為的な埋戻しの可能性がある。

柱穴 床面から1号ピットを確認する。形状は円形であり、規模は長径65cm、短径60cm、深さ38cmを測る。にぶい黄褐色土と暗褐色土によって埋没し、第1・第2層は柱抜き取り痕の可能性がある。

周溝 掘り方調査によって確認した。カマド右側から北東壁、南東壁、南西壁の隅にかけて構築する。規模は、幅12~25cm、深さ2~13cmを測る。

掘り方 床下全体を大小ピット状及び土坑状に掘り窪めているが、床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器甕(第113図4)は床面直上から出土した。土師器甕(同図3)、土師器高杯(同図2)は床面上5~7cmから出土し、土師器杯(同図1)は埋没土から



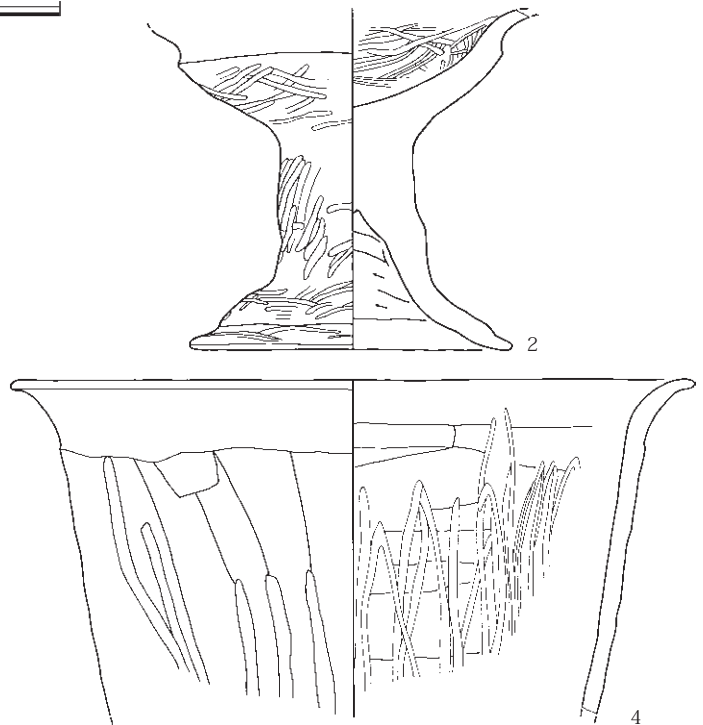
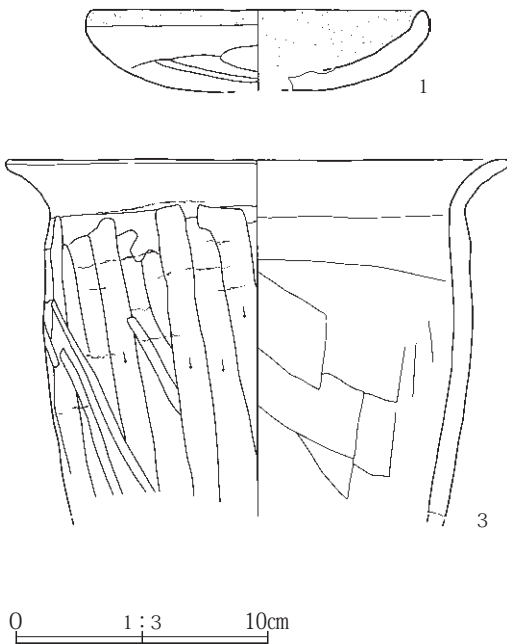
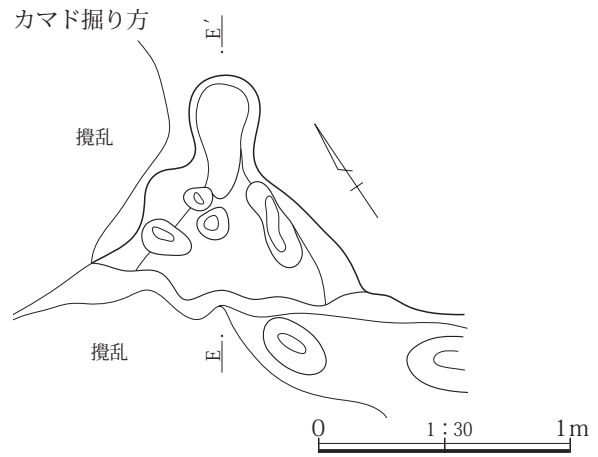
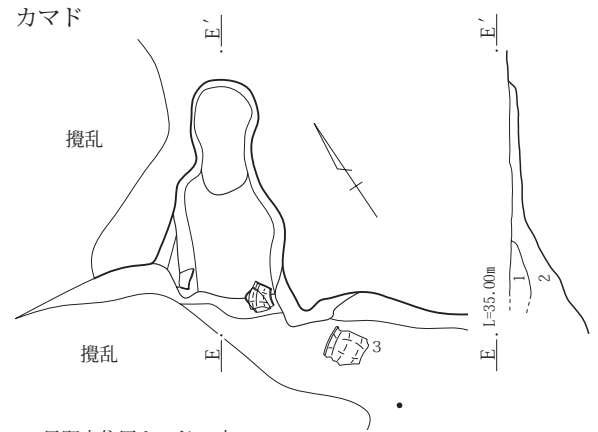
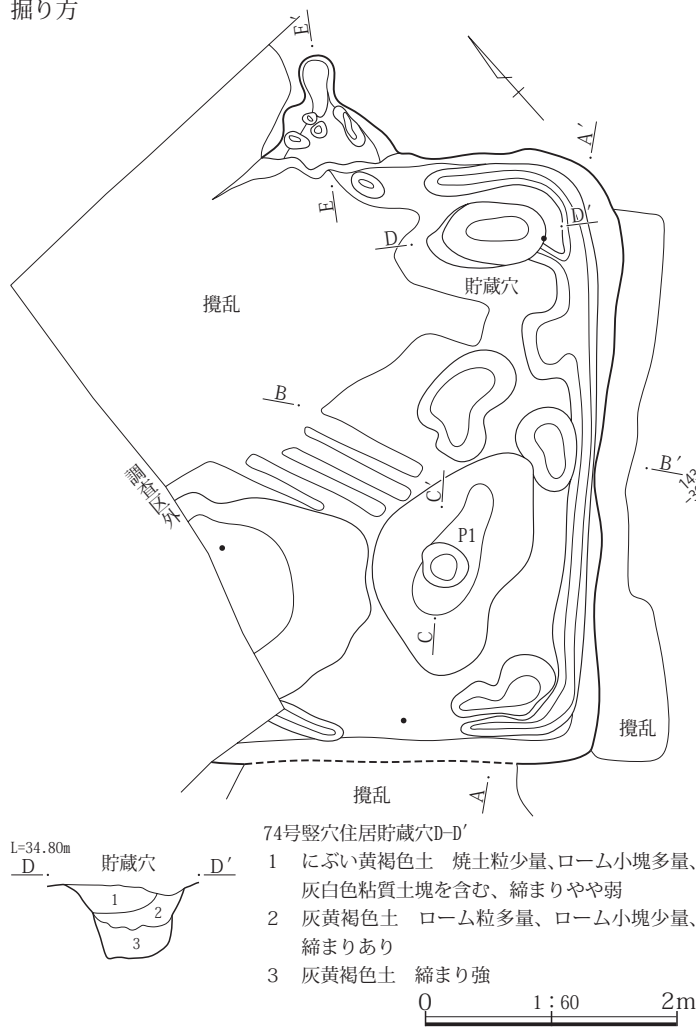
第112図 3区74号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

の出土である。非掲載遺物は、土師器片116点(小型製品21、大型製品91、不明4)、須恵器片5点(小型製品1、掘り方

大型製品4)である。

**所見** 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。



第113図 3区74号竖穴住居と出土遺物



3区75号竪穴住居(第114・115図 PL.33)

位置 X=135~140、Y=-285~290

形状・規模 形状は方形である。規模は、長軸長4.02m、短軸長3.90m、壁高北壁と東壁と西壁36cm、南壁38cmを測る。床面積は15.24㎡である。

主軸方向 N-40°-E

重複 なし。

埋没土 土層断面の観察から床面付近に炭化物が認められる。上層はローム漸移層土と見られる褐色土塊やローム粒が多量に認められ、底面から壁際は短期間に埋没した様相が窺えることから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 東壁際と西壁際の比高差は3~4cmであり、東側から西側にかけて緩やかに傾斜する。明瞭な硬化面は確認できなかった。黒色土小塊と炭化物を含む黄褐色ロームによって床面を構築する。

カマド 北壁中央部に付設する。燃烧部側壁は比較的良好に残存する。規模は全長1.32m、幅1.09m、焚口幅30cm、燃烧部奥行98cm、左袖状残存部1.00m、右袖状残存部98cmである。軸方向は、N-47°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。焚口は住居床面から5cm低く掘り窪めている。燃烧部奥から煙道は長く伸びない。掘り方は、燃烧部を13cm、燃烧部から煙道にかけて10~15

cm掘り窪めて整える。

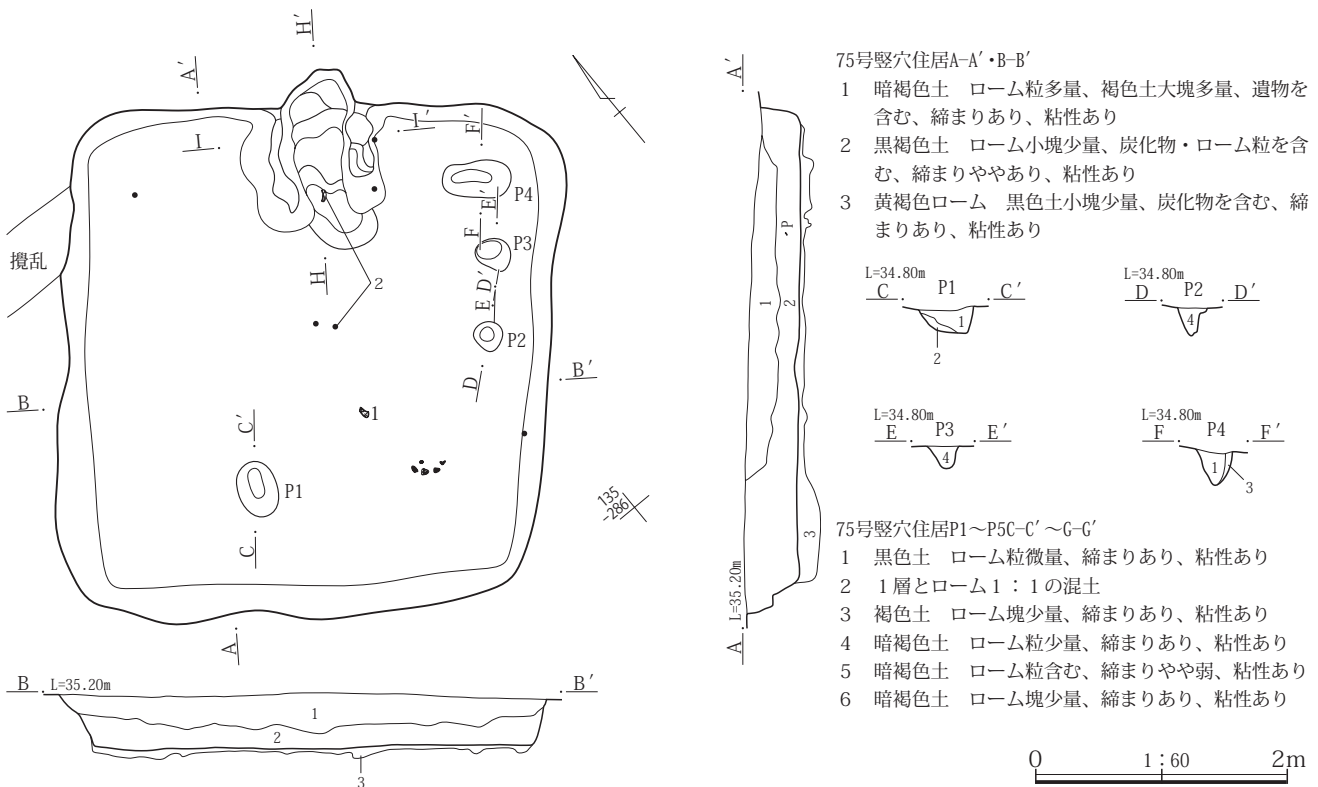
貯蔵穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

柱穴 床面精査によって4基のピットを確認した。形状及び規模は、P1(楕円形、長径44cm、短径32cm、深さ21cm)、P2(円形、径23cm、深さ24cm)、P3(楕円形、長径28cm、短径25cm、深さ17cm)、P4(楕円形、長径55cm、短径30cm、深さ29cm)である。P4はカマド右側の住居北東隅に位置する。断面の形状はV字形で小規模ではあるが、貯蔵穴の可能性はある。

掘り方 中央部をやや浅く、壁に沿って四隅を深く掘り窪めている。間仕切り溝以外の床下施設は確認できなかった。掘り方調査によって2カ所の間仕切り溝を確認した。南壁中央部の溝は長さ10.7m、幅22~29cm、深さ6~9cm、西壁中央部やや南寄りの溝は長さ73cm、幅20~28cm、深さ4~13cmを測る。

遺物出土状態 土師器杯(第115図1・2)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片312点(小型製品71、中型製品2、大型製品238、不明1)、須恵器片4点(大型製品)である。

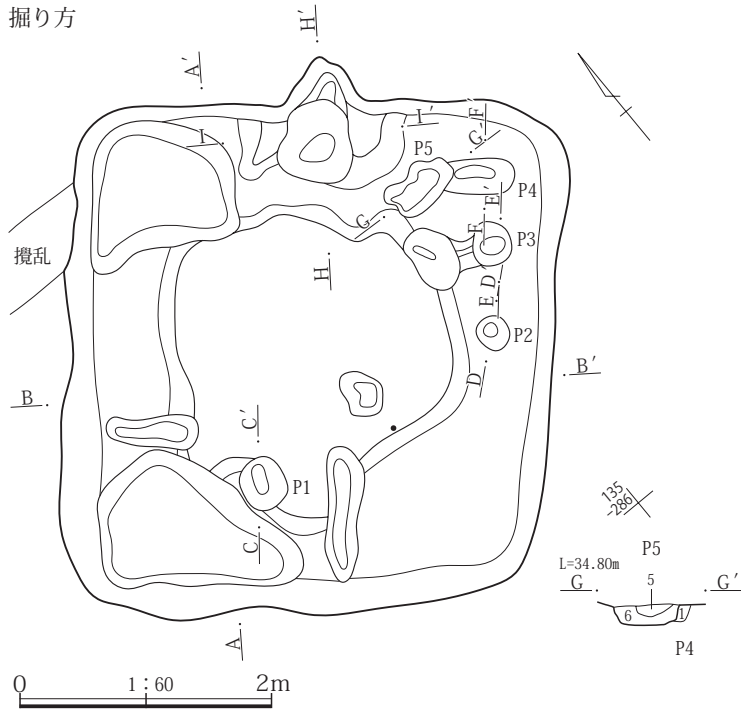
所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



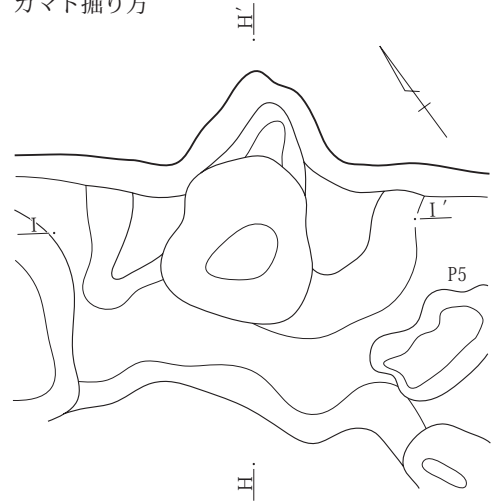
第114図 3区75号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

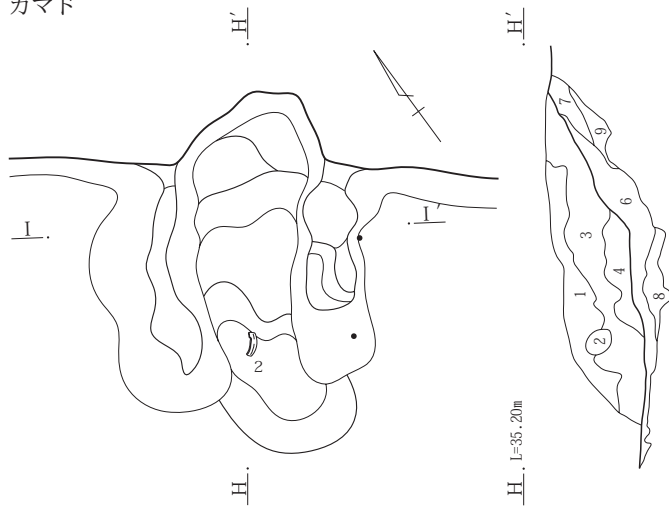
掘り方



カマド掘り方

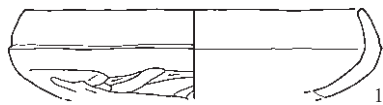
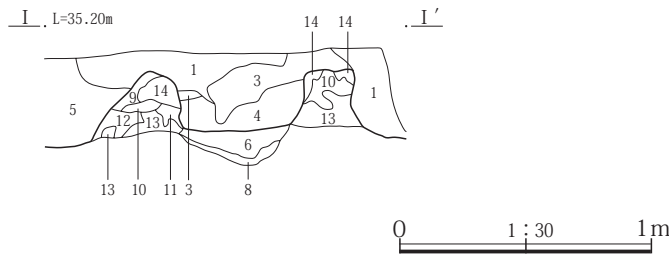


カマド



75号竪穴住居カマドH-H'・I-I'

- 1 黒褐色土 粘土小塊多量、縮まりあり、粘性あり
- 2 にぶい黄褐色土 焼土粒微量、縮まりあり、粘性あり
- 3 灰黄褐色粘土 焼土粒微量、かたく縮まり、粘性に富む
- 4 灰黄褐色粘土と焼土粒 1:1、縮まりあり、粘性あり
- 5 暗褐色土 ローム粒・炭化物粒微量、縮まりあり、粘性あり
- 6 暗褐色土 焼土小塊・炭化物粒多量、縮まりややあり、粘性あり
- 7 褐色土 粘土小塊多量、焼土粒含む、縮まりあり、粘性強
- 8 褐色土 焼土小塊多量、炭化物を含む、縮まりややあり、粘性あり
- 9 暗褐色土 褐色土小塊多量、縮まりあり、粘性強
- 10 暗褐色土 ローム粒多量、縮まりややあり、粘性あり
- 11 黒褐色土 粘土小塊・焼土塊少量、縮まりあり、粘性あり
- 12 黒色土 粘土小塊・焼土塊微量、縮まりあり、粘性あり
- 13 黄褐色ローム 黒色土粒含む、縮まりあり、粘性あり
- 14 浅黄色土 粘土塊



0 1:3 10cm

第115図 3区75号竪穴住居と出土遺物

3区76号竪穴住居(第116~119図 PL.33~35・90)

位置 X=137~143、Y=-295~301

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長5.20m、短軸長4.45m、壁高北壁44cm、南壁45cm、東壁48cm、西壁58cmを測る。床面積は22.21㎡である。

主軸方向 N-63°-W

重複 3区5号竪穴状遺構が3区76号住居埋没土を掘り込む。

埋没土 ローム漸移層土塊が上層から床面にかけて多く含まれ、埋没状況から人為的な埋戻しの可能性がある。

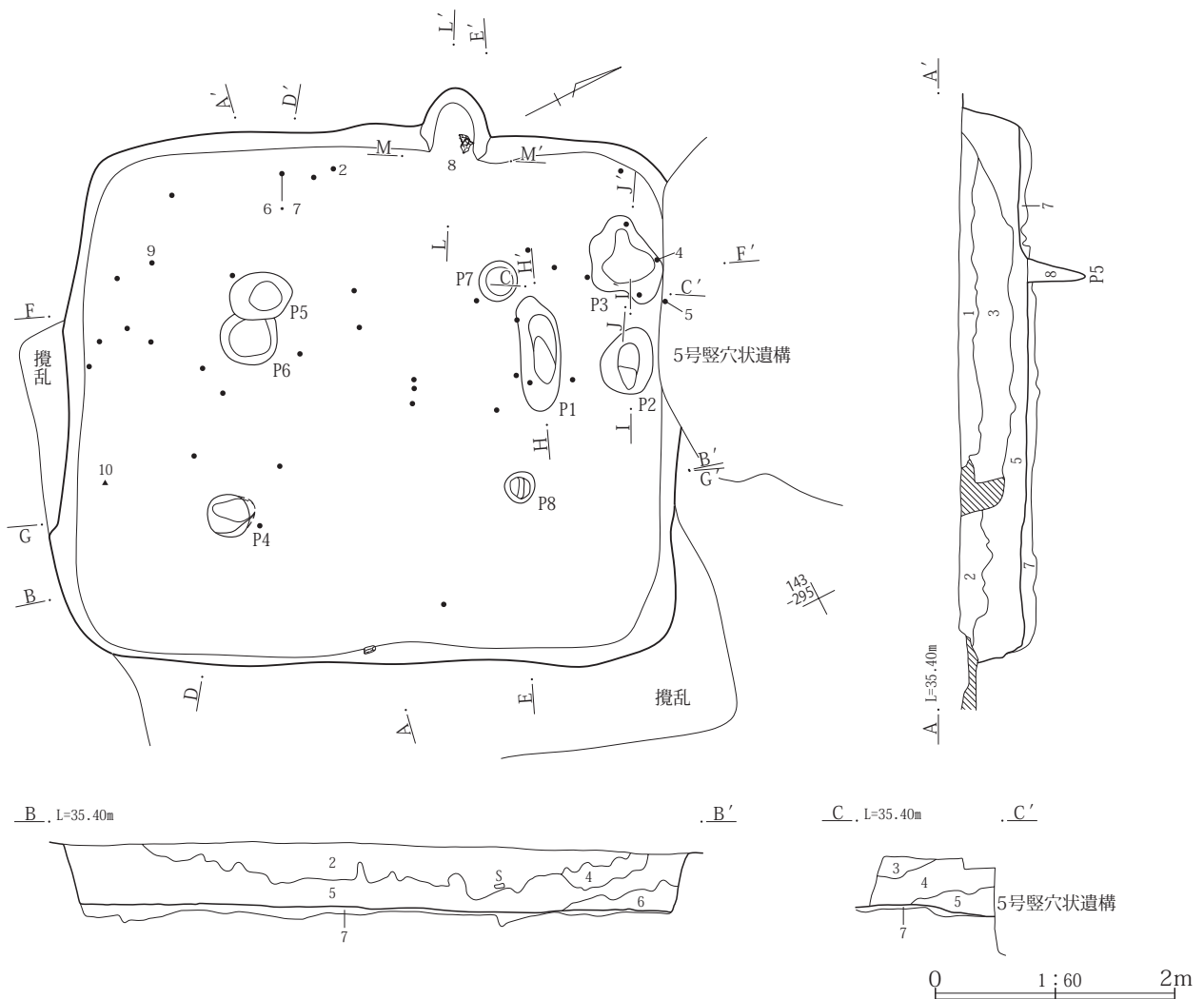
床面 南壁際から北壁際にかけて緩やかに傾斜し、比高差約5cmを測る。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。P5・P6とP4周辺は床面を掘りすぎている。黒褐色土小塊と炭化物を含む暗褐色土によって床面を構築する。

カマド 西壁中央部やや北寄りに付設する。燃焼部側壁

は失われている。埋没土に焼土塊が認められるが、燃焼面や内側壁面は焼土化せず、灰層なども確認できなかった。規模は全長55cm、焚口幅39cm、燃焼部奥行44cmである。軸方向は、N-60°-Wである。掘り方は、焚口から燃焼面奥にかけて2~12cm掘り窪め整えている。土師器甕(第119図8)は、燃焼面上8cmから出土した。

貯蔵穴・周溝 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

柱穴 9基のピットを確認する。P4・P5・P7・P8は床面の対角線上に位置することから支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(溝状、長径95cm、短径35cm、深さ45cm)、P2(楕円形、長径55cm、短径43cm、深さ28cm)、P3(不定形、長径63cm、短径60cm、深さ22cm)、P4(円形、径35cm、深さ42cm)、P5(楕円形、長径53cm、短径39cm、深さ53cm)、P6(円形、長径48cm、短径45cm、深さ16cm)、P7(円形、長径34cm、短径32cm、深さ63cm)、



第116図 3区76号竪穴住居(1)

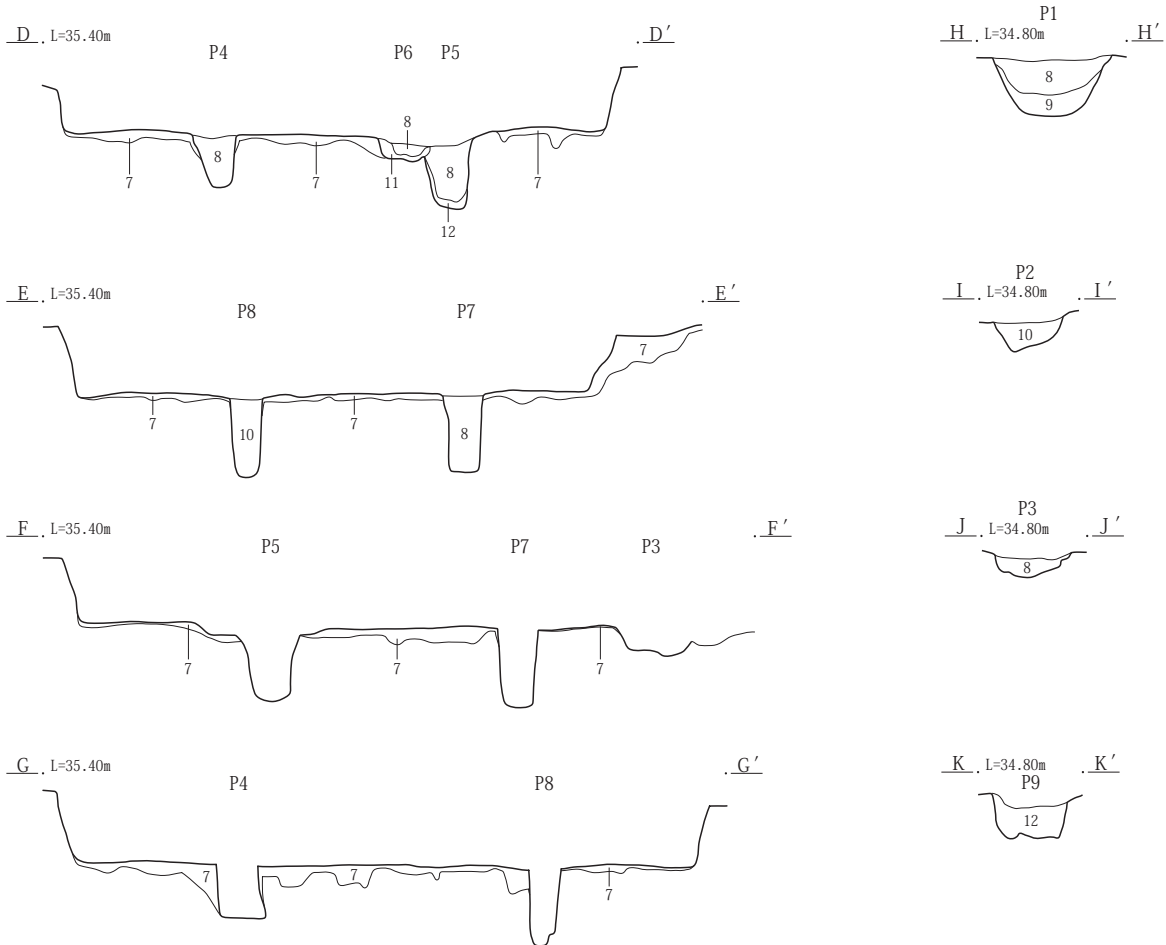
第3章 間之原遺跡の調査

P 8 (円形、径25cm、深さ60cm)である。P 4～P 5間1.75m、P 5～P 7間2.00m、P 7～P 8間1.70m、P 4～P 8間2.40mを測り、P 4～P 8間が長い。P 1は形状から間仕切り溝と考えられる。P 9 (円形、長径58cm、短径56cm、深さ33cm)は、掘り方調査によって北西隅で確認した。

**掘り方** 床下全体を大小ピット状に、中央部と南西隅は溝状に広く掘り窪めている。

**遺物出土状態** 土師器杯(同図4)は床面上3cmから、土師器杯(同図2)、須恵器杯(同図6)、須恵器椀(同図7)は床面上6～8cmから出土した。土師器杯(同図1・3・5)、土玉(同図9)、白玉(同図10)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片547点(小型製品130、大型製品408、不明9)、須恵器片48点(大型製品)、灰釉陶器1点、磨石?1点である。

**所見** 出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。



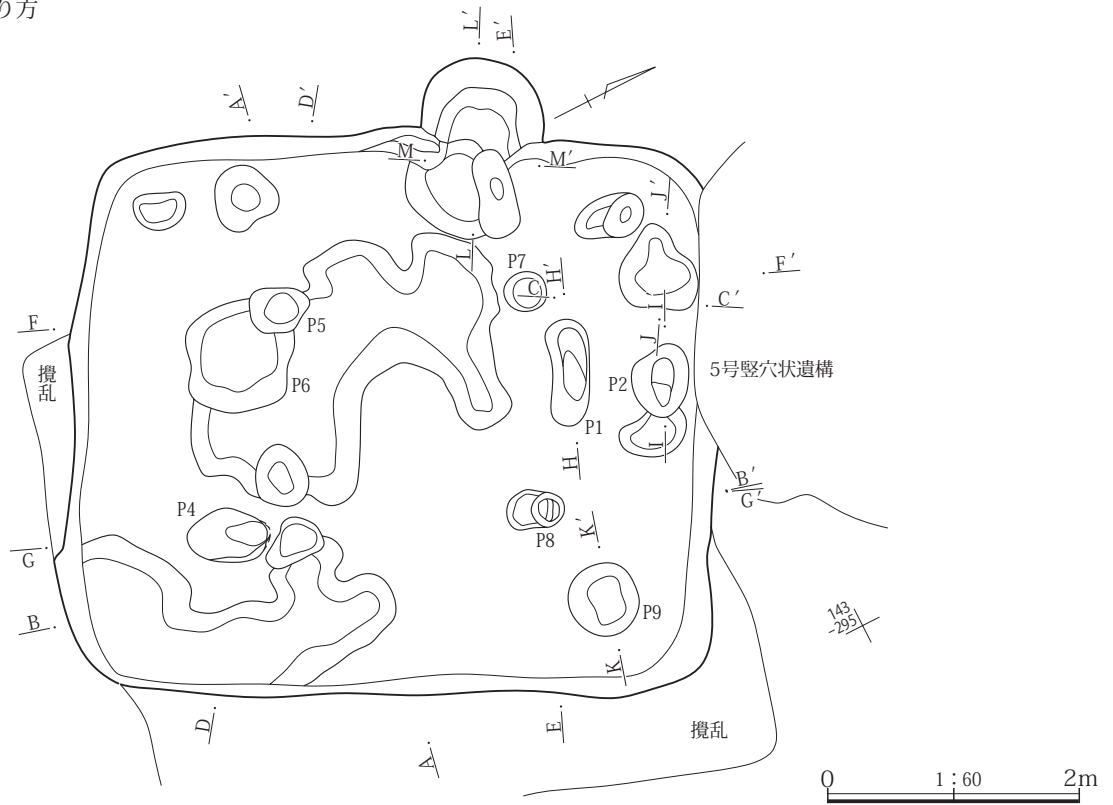
76号竪穴住居A-A'～K-K'

- 1 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 2 黒褐色土 褐色土小塊5%、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 3 黒色土 褐色土小塊10%、ローム粒・炭化物粒を含む、2層より焼土粒多い、締まりややゆるし、粘性ややあり
- 4 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、締まりやや弱、粘性ややあり
- 5 暗褐色土 褐色土中塊30%、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 6 黒褐色土 ローム小塊1%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 7 暗褐色土 黒褐色土小塊1%、炭化物粒を含む、締まり強、粘性あり
- 8 暗褐色土 ローム小塊5%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 9 褐色土 ローム小粒1%、締まりあり、粘性あり
- 10 暗褐色土 ローム小塊5%、締まり強、粘性ややあり
- 11 8層とロームの混土 1:1
- 12 褐色土 ローム粒を含む、締まり弱くボソボソする、粘性ややあり

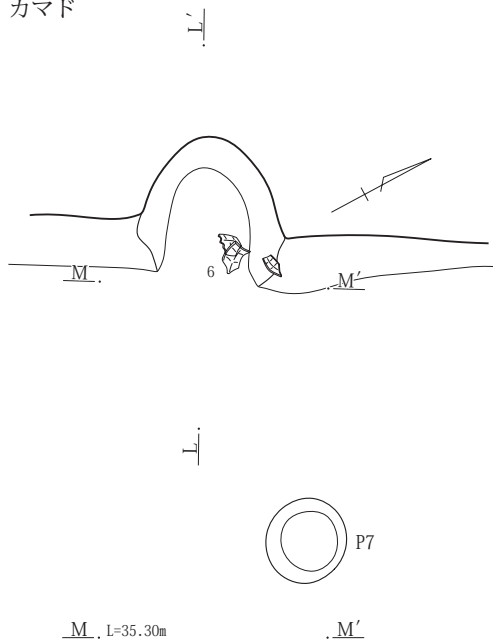


第117図 3区76号竪穴住居(2)

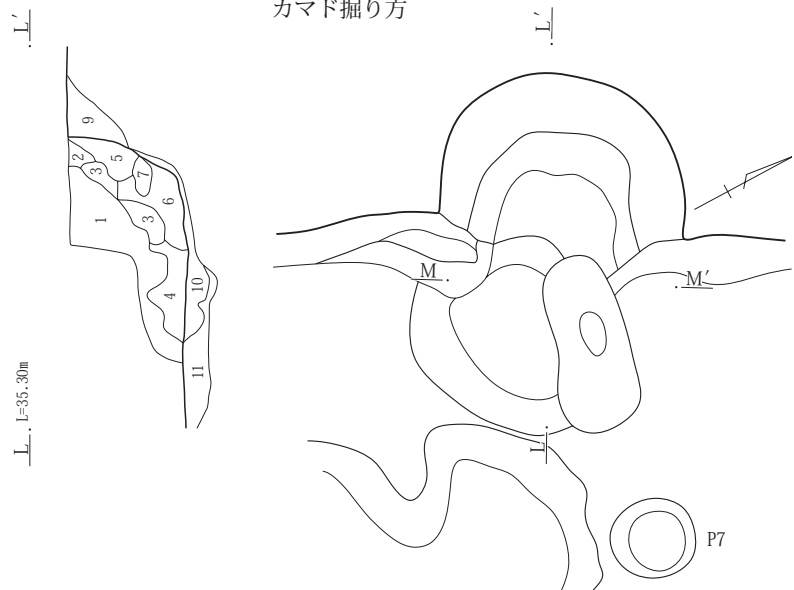
掘り方



カマド



カマド掘り方

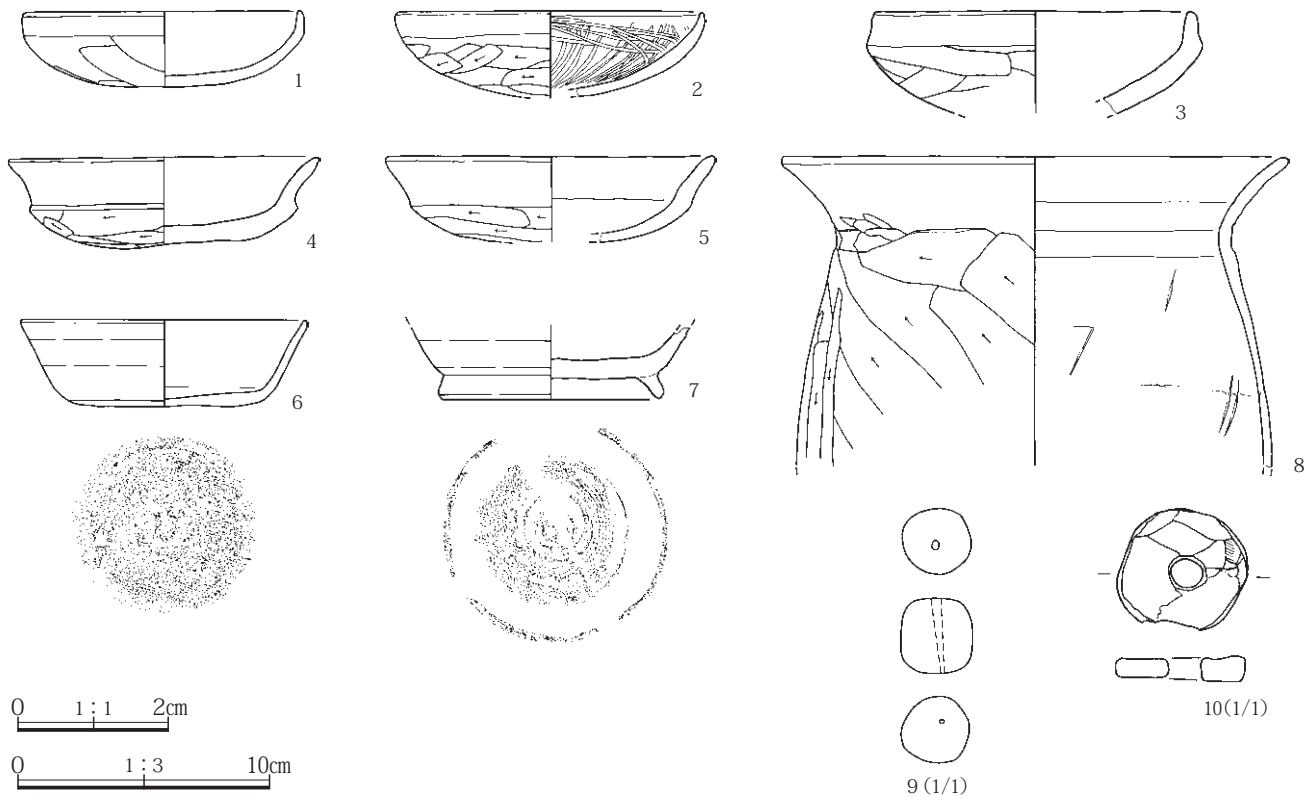


76号竖穴住居カマドL-L'・M-M'

- 1 暗褐色土 焼土小粒1%、炭化物を含む、縮まりあり、粘性あり
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性ややあり
- 3 暗褐色土 焼土小～中粒5%、炭化物粒を含む、縮まり弱くボソボソする、粘性なし
- 4 暗褐色土 焼土小～中粒・ローム小粒1%、炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性ややあり
- 5 黄褐色土 ロームを含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 6 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む、縮まり弱くボソボソ、粘性なし
- 7 暗褐色土 明赤褐色焼土大塊主体
- 8 明黄褐色土 ローム大塊
- 9 黄褐色土 ローム縮まり弱くボソボソ、粘性あり
- 10 暗褐色土 焼土小塊5%、炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 11 黒褐色土 ローム極小塊5%、炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性ややあり

第118図 3区76号竖穴住居(3)





第119図 3区76号竪穴住居出土遺物

**3区77号竪穴住居**(第120～123図 PL.35・36・90)

**位置** X=144～147、Y=-289～295

**形状・規模** 調査区北境に位置し、形状は長方形と考えられる。確認できる規模は、東西長5.60m、壁高南壁62cm、東壁63cm、西壁70cmである。

**主軸方向** 北西―南東。

**重複** なし。

**埋没土** 壁面の崩落が認められる。床面から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦であるが、中央部が不定形に掘り窪められ2～4cm低くなる。明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム塊を多量に含む暗褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 埋没土5層に焼土が多量に含まれることから調査区外となる北壁中央部に付設したと想定する。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

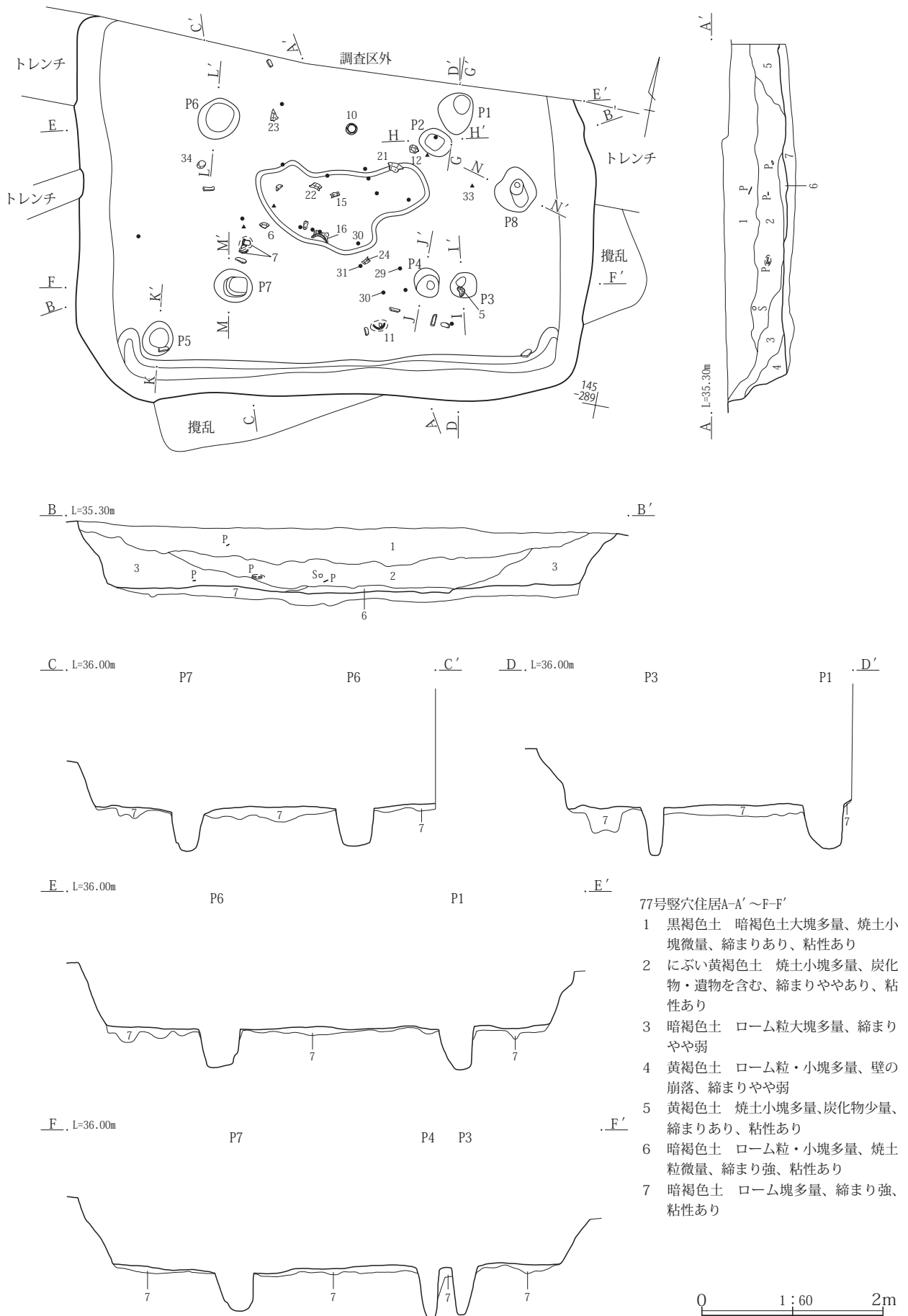
**柱穴** 床面精査によって7基のピットを確認する。P1・P3・P6・P7は、床面の対角線上に位置するとみられ、支柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(溝状、長径45cm、短径40cm、深さ50cm)、P2(楕円形、長

径35cm、短径30cm、深さ25cm)、P3(不定形、径30cm、深さ53cm)、P4(円形、長径30cm、短径29cm、深さ57cm)、P5(楕円形、長径40cm、短径35cm、深さ19cm)、P6(円形、径45cm、深さ43cm)、P7(円形、長径43cm、短径45cm、深さ42cm)、P8(円形、長径48cm、短径30cm、深さ27cm)である。P1～P3間1.95m、P3～P7間2.50m、P7～P6間1.85m、P1～P6間2.70mを測る。

**周溝** 南壁直下に構築し、規模は幅7～21cm、深さ1～4cmを測る。

**掘り方** 床面からローム面まで7～12cm掘り窪める。凹凸が著しいが床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 埋没土中からの遺物出土が多く、34点を図示した。土師器小型甕(第122図16)は床面直上から出土し、土師器杯(第121図5・6)、須恵器杯(第121図10)、土師器甕(第122図17・22・23)、土錘(第123図27)、砥石(第123図34)は床面上3～7cmから、土師器杯(第121図1・3・4・7～9・第122図11・12)、土師器小型杯(第121図2)、土師器台付甕(第122図13)、土師器甕(第122図18～21・第123図24)、須恵器甕(第123図25・26)、須恵器高杯(第122図14)、須恵器壺(第122図15)、土錘(第123図28～30)、白玉(第123図33)、羽口(第123図31)、鉄製品(第123図32)は埋没土からの出土である。非



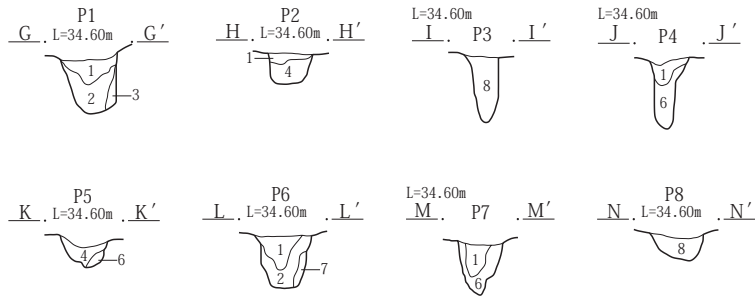
第120図 3区77号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

掲載遺物は、土師器片2,257点(小型製品356、中型製品3、大型製品1,845、不明53)、須恵器片53点(小型製品9、

大型製品44)、磨石2点である。

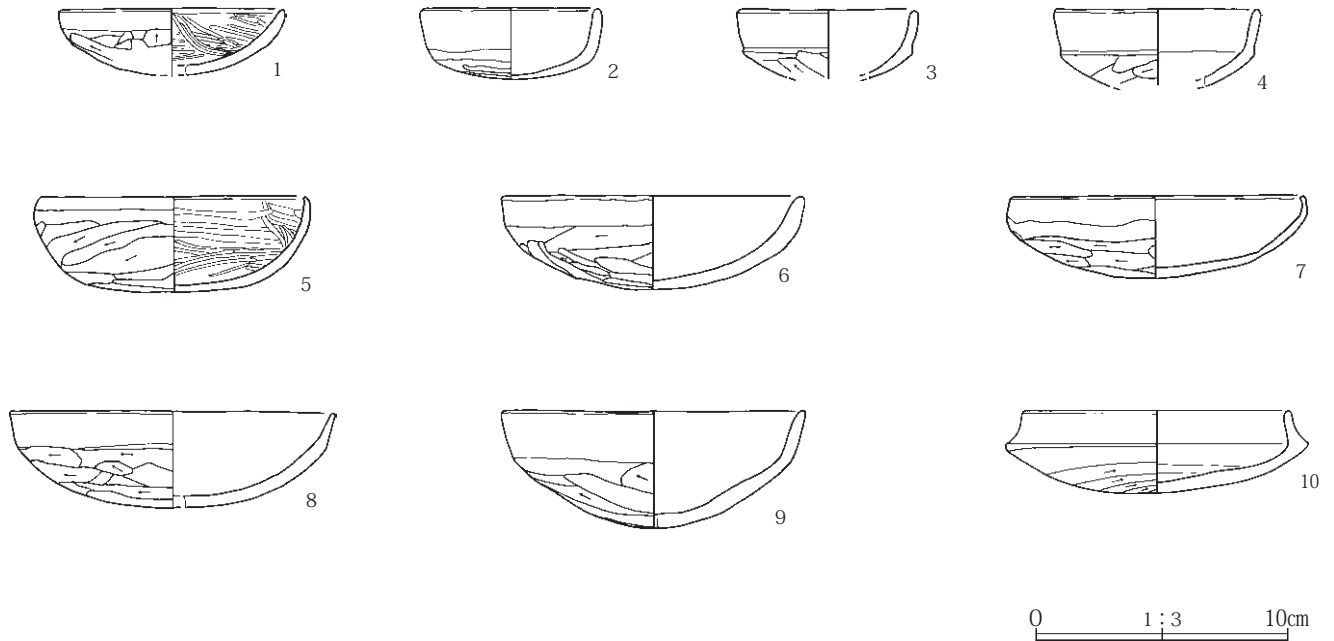
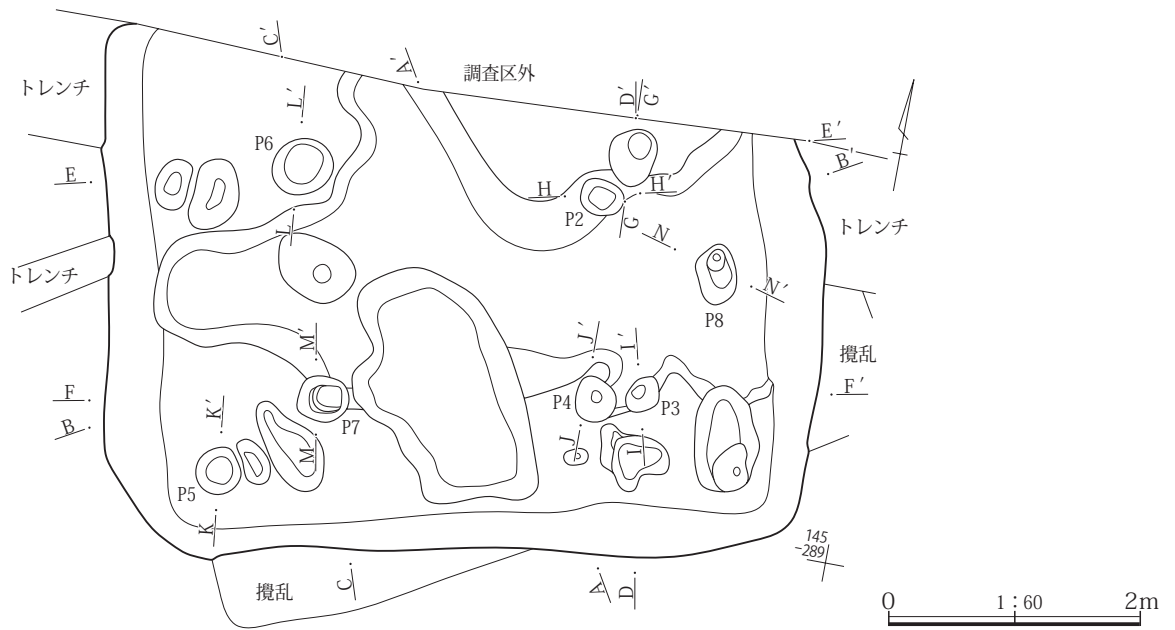
所見 出土遺物から時期は7世紀後半と考えられる。



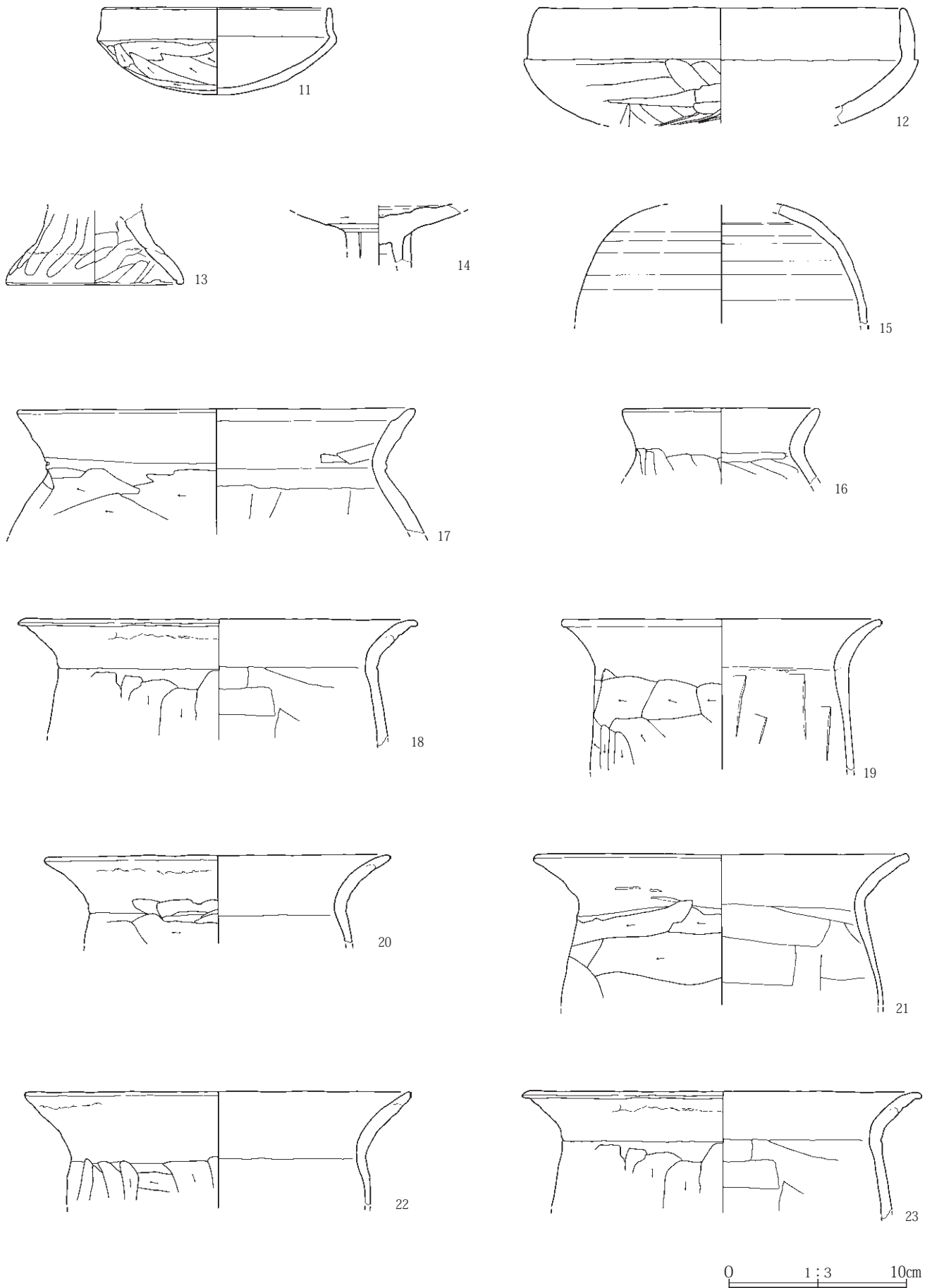
77号竪穴住居P1~P8G-G'~N-N'

- 1 暗褐色土 ローム粒多量、焼土粒・炭化物を含む、締まりあり、粘性あり
- 2 褐色土 ローム小塊を含む、締まりややあり、粘性あり
- 3 灰黄褐色土 締まりあり、粘性強
- 4 褐色土 ローム粒多量、締まりあり、粘性あり
- 5 褐色土 ローム小塊少量、焼土小粒・炭化物微量、締まりややあり、粘性あり
- 6 にぶい黄褐色土 締まりあり、粘性あり
- 7 黒褐色土 粘質土、締まりあり
- 8 褐色土 ローム大塊を含む、締まりややあり、粘性あり

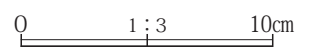
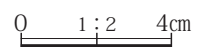
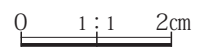
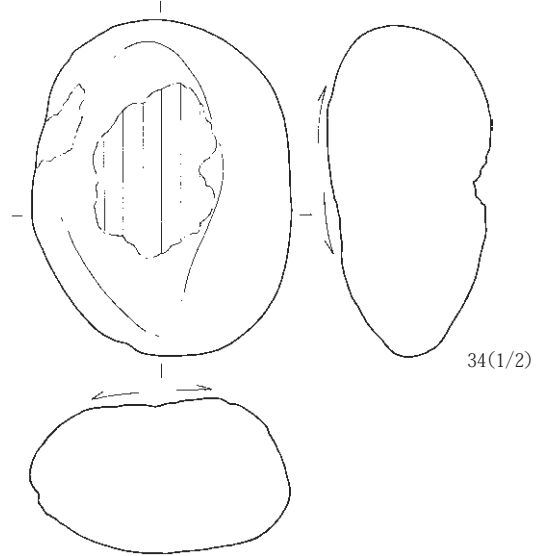
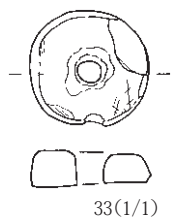
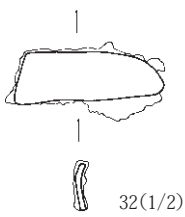
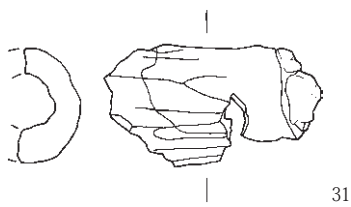
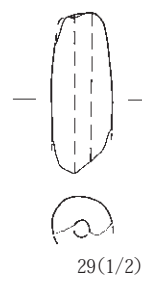
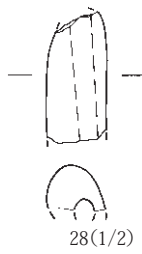
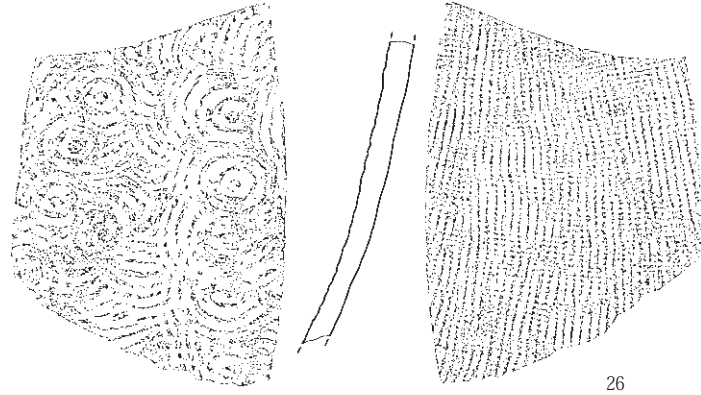
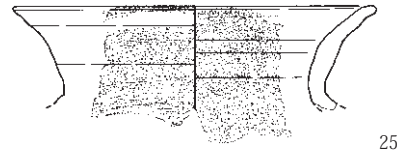
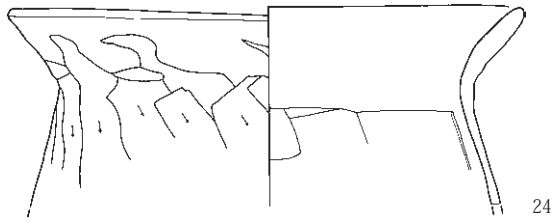
掘り方



第121図 3区77号竪穴住居と出土遺物(1)



第122図 3区77号竪穴住居出土遺物(2)



第123図 3区77号竪穴住居出土遺物(3)



3区80号竪穴住居(第124・125図 PL.37・90)

位置 X=146~149、Y=-281~285

形状・規模 調査区北境に位置し、西側は3区78号竪穴住居と重複するため形状や全体の規模は不明である。確認できる規模は東西長4.60m、壁高南壁及び東壁57cmである。

主軸方向 N-65°-E

重複 3区80号竪穴住居埋没土が3区78号竪穴住居に掘り込まれている。

埋没土 上層から下層にかけて焼土粒や炭化物を含むみレンズ状の堆積が認められる。3層から4層にかけてローム漸移層土と考えられる褐色土塊が多く含まれることから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 高低差は少なくほぼ平坦である。明瞭な硬化面を確認できなかった。褐色土小塊と黄褐色ロームの混土により床面を構築する。

カマド 東壁に付設され、南半部のみ確認であるため全体の規模は不明である。東壁面とほぼ同じが僅かに外側で煙道が立ち上がる構造である。床面から燃焼面は6

cm低く掘り窪められている。確認できる規模は、燃焼部奥行59cm、右袖状残存部58cmを測る。軸方向は、N-69°-Eである。土師器甕(第125図4)は、燃焼面上10cmから、埋没土から土製品不明(同図6)が出土する。

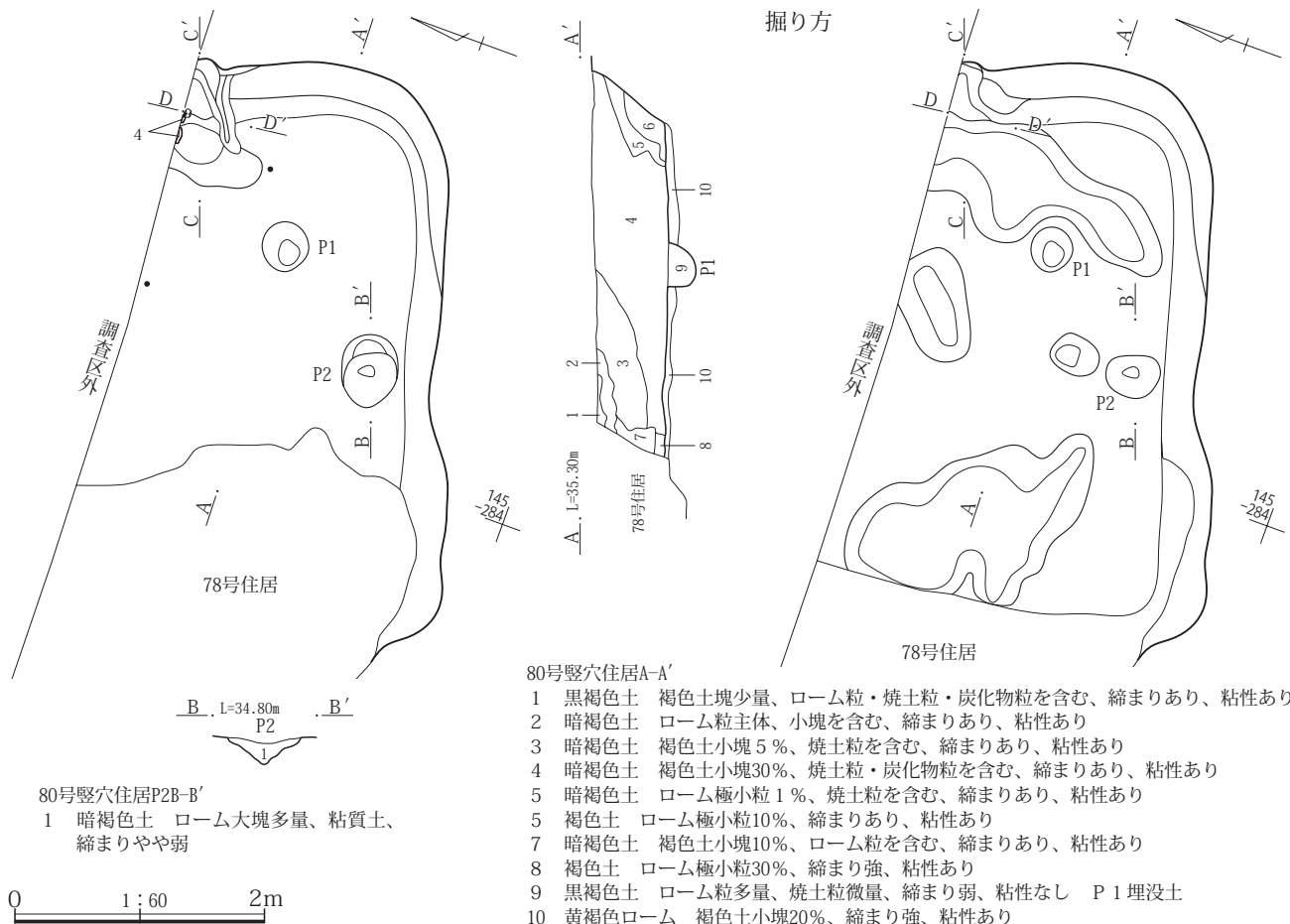
貯蔵穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

柱穴 床面精査によって2基のピットを確認する。形状及び規模は、P1(円形、長径40cm、短径36cm、深さ20cm)、P2(楕円形、長径57cm、短径44cm、深さ23cm)である。土層断面の観察から柱痕は認められないが、確認した位置からP1は支柱穴の可能性はある。

掘り方 カマド燃焼部前は溝状、中央部は大小ピット状に浅く掘り窪められている。床下施設は確認できなかった。

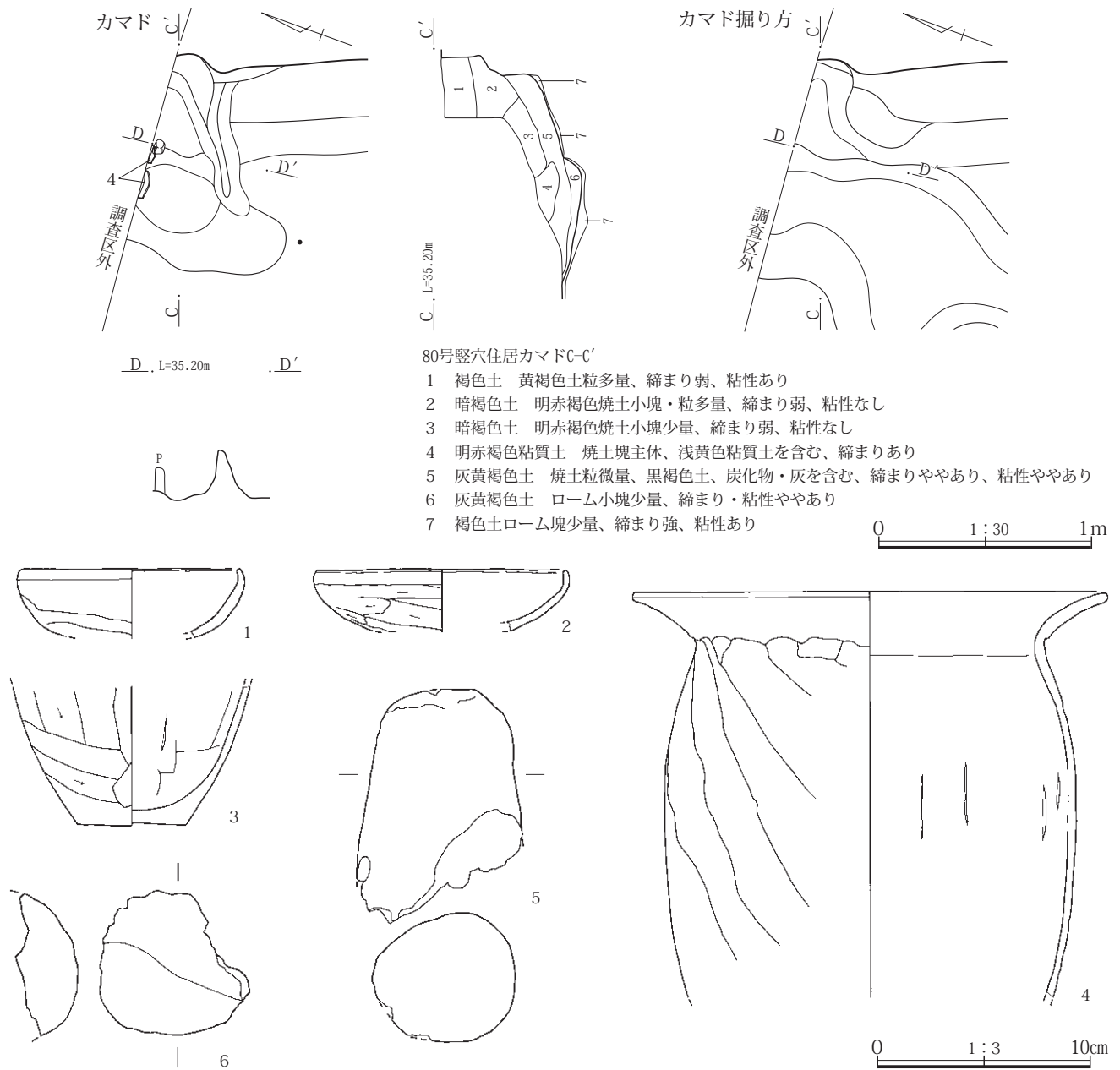
遺物出土状態 土師器杯(同図1・2)、土師器甕(同図3)、支脚とみられる土製品(同図5)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片186点(小型製品26、大型製品160)、須恵器片3点(小型製品)である。

所見 出土遺物から時期は7世紀後半と考えられる。



第124図 3区80号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査



第125図 3区80号竪穴住居カマドと出土遺物

3区81号竪穴住居(第126図 PL.37・90)

位置 X=147~149、Y=-270~274

形状・規模 調査区北東境に位置し、全体の形状や規模は不明。東西長4.31m、壁高南壁37cm、西壁44cmである。

主軸方向 不明。

重複 なし。

埋没土 床面から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 高低差は殆どなく平坦である。硬化面は確認できなかった。黄褐色土と黒褐色土の混土によって床面を構築する。

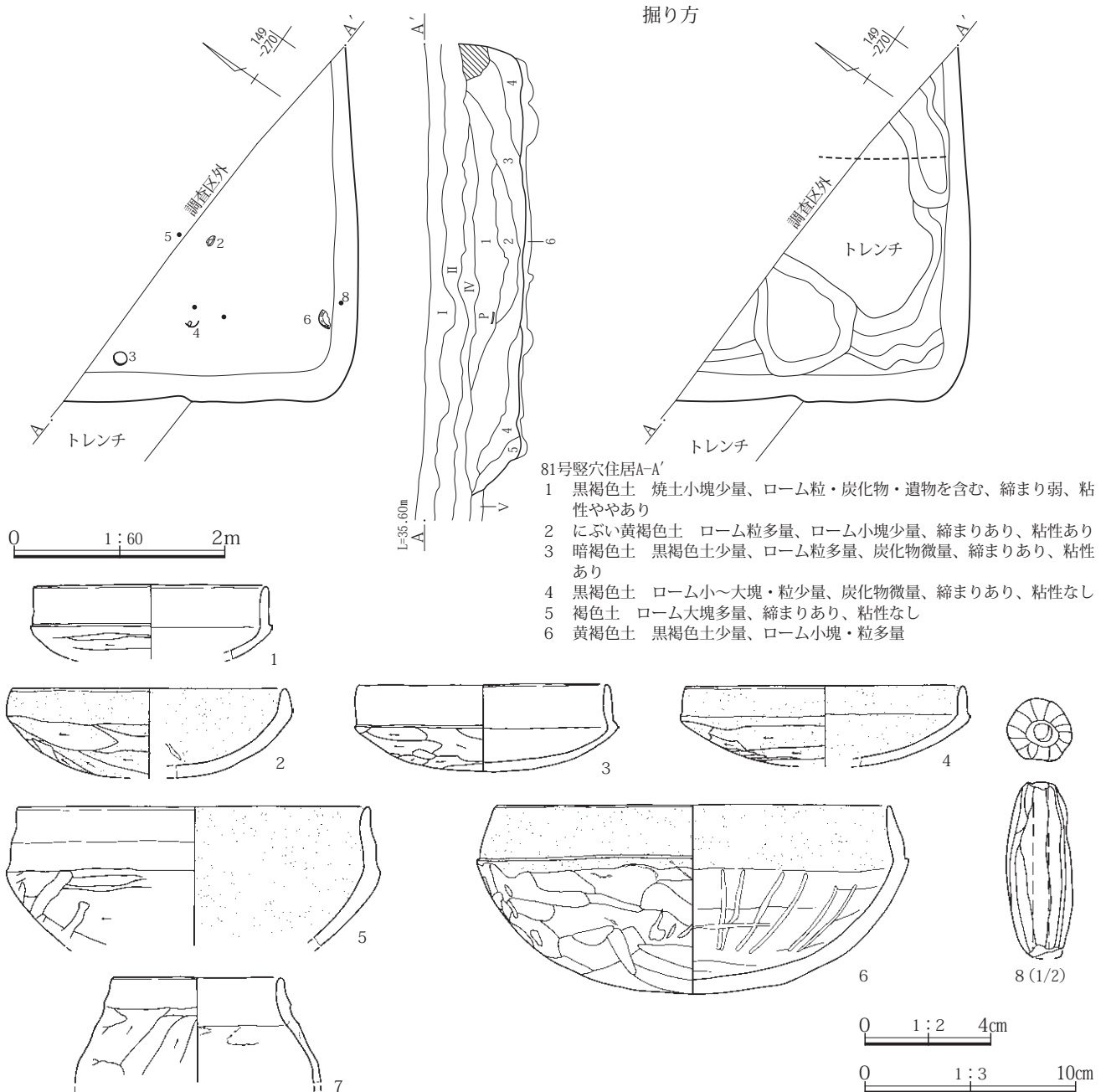
カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝 床面精査及び掘り方調査

を行ったが確認できなかった。

掘り方 中央部をやや浅く、壁際を溝状及び土坑状にやや深く掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器杯(第126図3・4)は床面上4~9cmから、土師器杯(同図1・2)、土師器鉢(同図5・6)、土師器鉢か(同図7)、土錘(同図8)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片145点(小型製品24、大型製品121)、須恵器片5点(小型製品2、大型製品3)である。出土位置は不明であるが、モモ核(PL.90-9・10)2個が検出された。

所見 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第126図 3区81号竪穴住居と出土遺物

3区83号竪穴住居(第127～129図 PL.38・91)

位置 X=139～144、Y=-280～285

形状・規模 形状は方形である。長軸長2.95m、短軸長2.85m、壁高北壁29cm、南壁15cm、西壁25cmを測る。

主軸方向 N-51°-W

重複 3区83号竪穴住居が3区2号竪穴状遺構に掘り込まれている。3区626号ピットが3区83号竪穴住居の埋没土を掘り込む。

埋没土 壁際に三角堆積が認められ、下層から上層にかけてややフラットに堆積する。自然埋没と考えられる。

床面 床面高低差は殆どなく平坦である。硬化面は確認

できなかった。ローム塊と炭化物粒を含む褐色土によって床面を構築する。

カマド 西壁やや南寄りに付設する。燃烧面から煙道にかけて焼土が僅かに残存するが、燃烧部側壁は壊されている。規模は全長1.01m、焚口幅21cm、燃烧部奥行77cmを測る。軸方向は、N-65°-Wである。掘り方は、燃烧面から煙道を5～10cm掘り窪めて整えている。

貯蔵穴 床面精査では確認できなかった。掘り方調査によって、カマド右側に長径97cm、短径70cm、深さ5cmの土坑状の窪みが認められ、遺物の出土はないが貯蔵穴の可能性はある。

第3章 間之原遺跡の調査

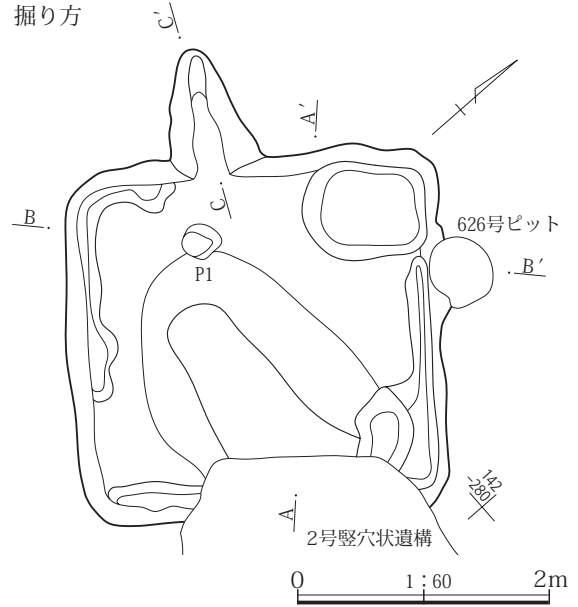
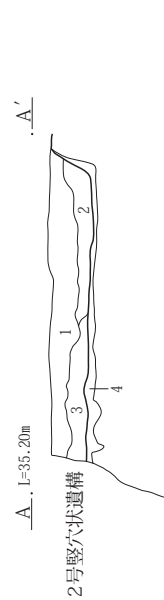
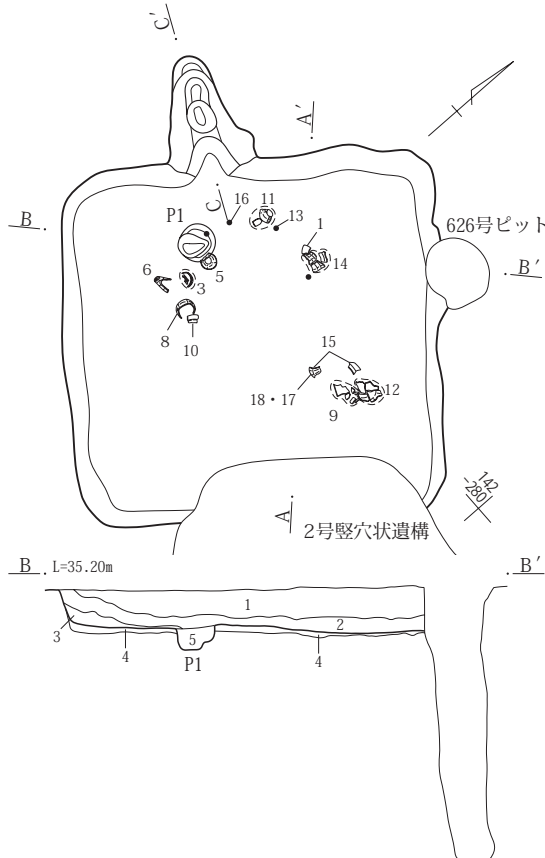
**柱穴** カマド焚口外側で1号ピットを確認する。形状は円形、規模は径30cm、深さ15cmを測る。ローム塊を含む暗褐色土によって埋没し、柱痕は確認できなかった。

**周溝** 掘り方調査によって北壁、東壁、南壁中央部からカマド左側まで掘り込まれた周溝を確認した。規模は幅10~23cm、深さ1~6cmを測る。

**掘り方** 中央部を浅く、壁際は中央部に比べ1~2cm深く掘り窪めている。床下土坑などは確認できなかった。

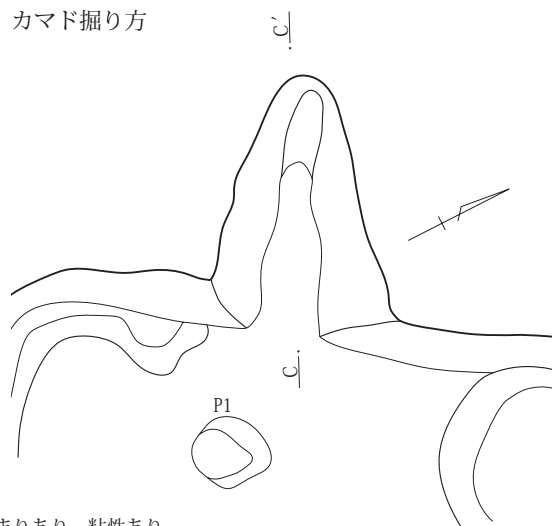
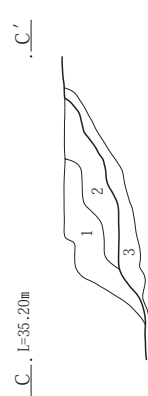
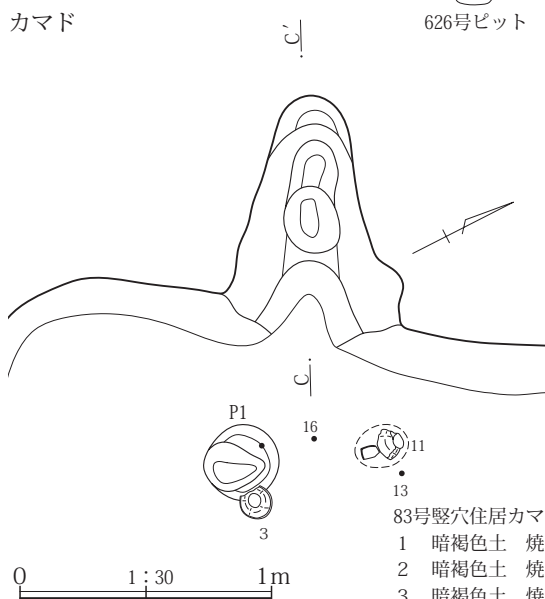
**遺物出土状態** 土師器杯(第128図1~4)、土師器鉢(第128図5・10)、土師器高杯(第128図6・7)、土師器小型甕(第128図8)、土師器甕(第128図9)、土師器甕(第128図11~13・第129図14~16・18)、土師器甕か(第129図17)、羽口(第129図19・20)は、床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片301点(小型製品59、中型製品1、大型製品241)、須恵器片1点(小型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



83号竪穴住居A-A'・B-B'

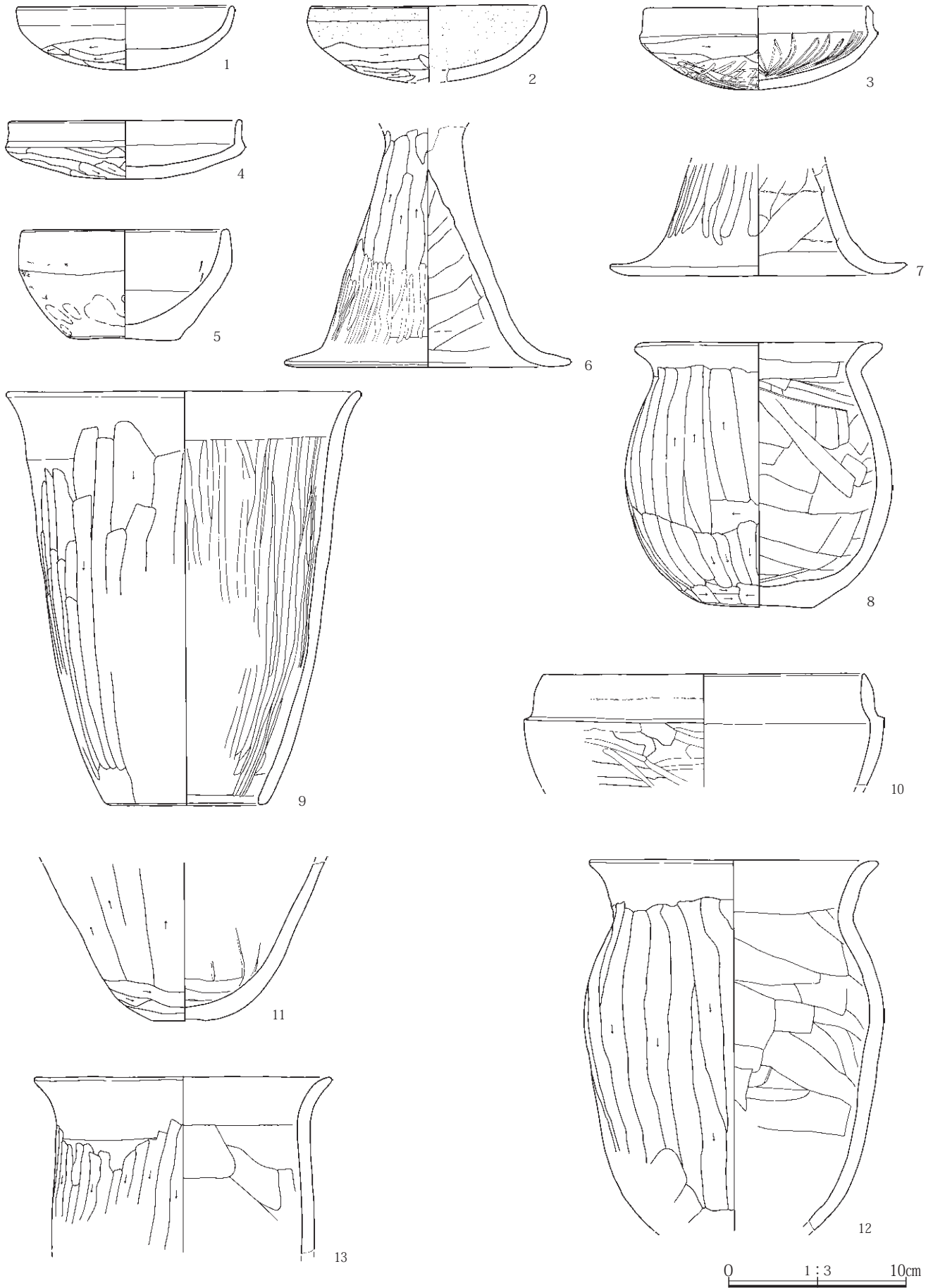
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物微量、ローム小塊・粒を含む、縮まりあり、粘性ややあり
- 2 褐色土 ローム粒少量、縮まりややあり、粘性あり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム小~大塊・粒多量、縮まりあり、粘性あり
- 4 褐色土 ローム塊多量、炭化物粒を含む、縮まり強、粘性あり
- 5 暗褐色土 ローム中~大塊5%、縮まりあり、粘性あり P1



83号竪穴住居カマドC-C'

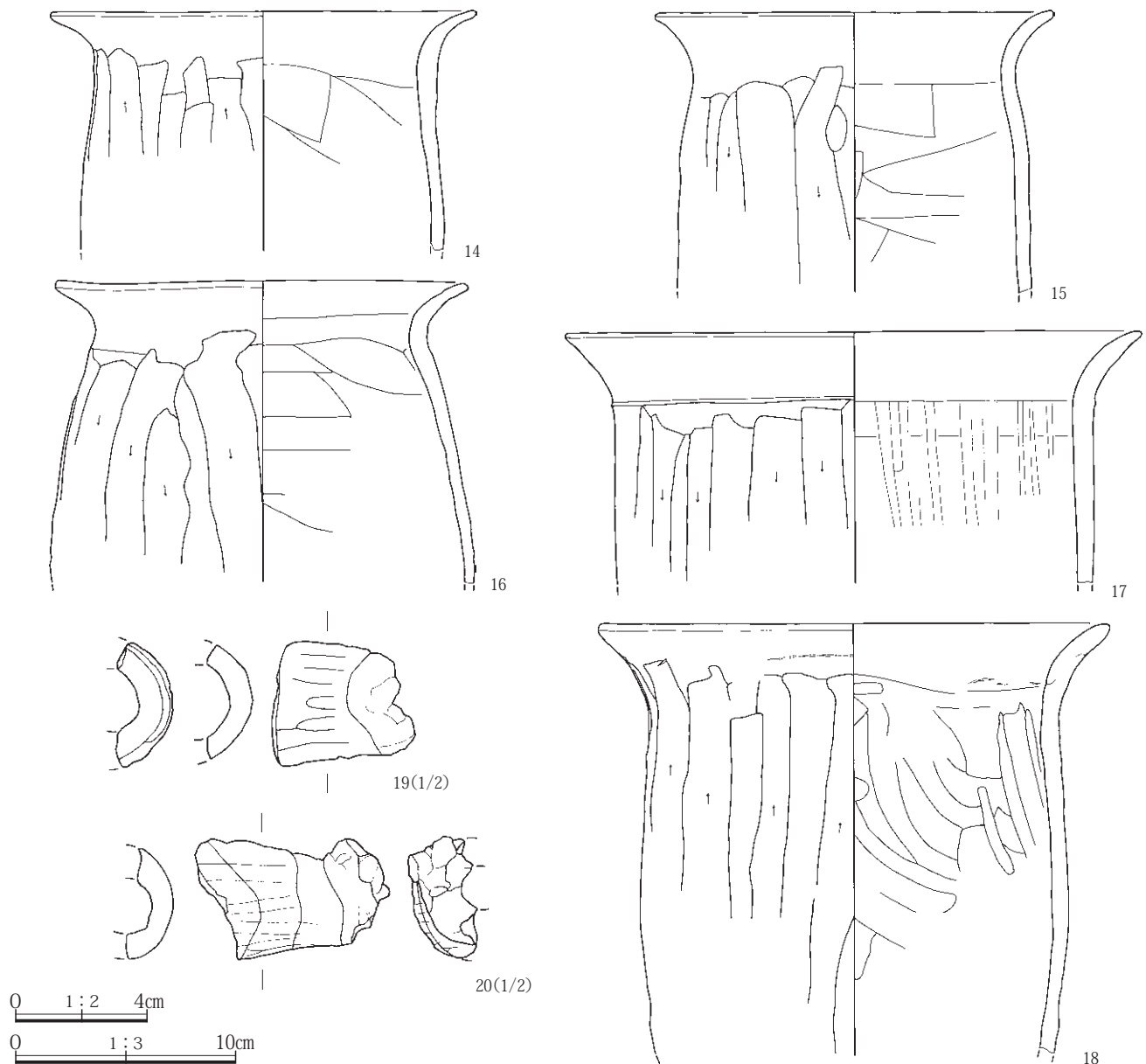
- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒微量、縮まりあり、粘性あり
- 2 暗褐色土 焼土塊・ローム塊少量、炭化物粒微量、縮まりあり、粘性あり
- 3 暗褐色土 焼土塊・ローム塊多量、縮まり強、粘性あり

第127図 3区83号竪穴住居



第128図 3区83号竪穴住居出土遺物(1)





第129図 3区83号竪穴住居出土遺物(2)

**3区84号竪穴住居**(第130図 PL.38・39・91)

**位置** X=138~141、Y=-278~282

**形状・規模** 3区2号竪穴状遺構と重複するため、形状は隅丸長方形と考えられる。確認できる規模は、南辺2.65m、東辺2.30m、壁高南壁30cm、東壁26cm、西壁17cmである。

**主軸方向** N-44°-E

**重複** 3区84号竪穴住居埋没土を2号竪穴状遺構が掘り込む。

**埋没土** にぶい黄褐色土と暗褐色土の混土が堆積し、自然埋没か人為的かは不明である。

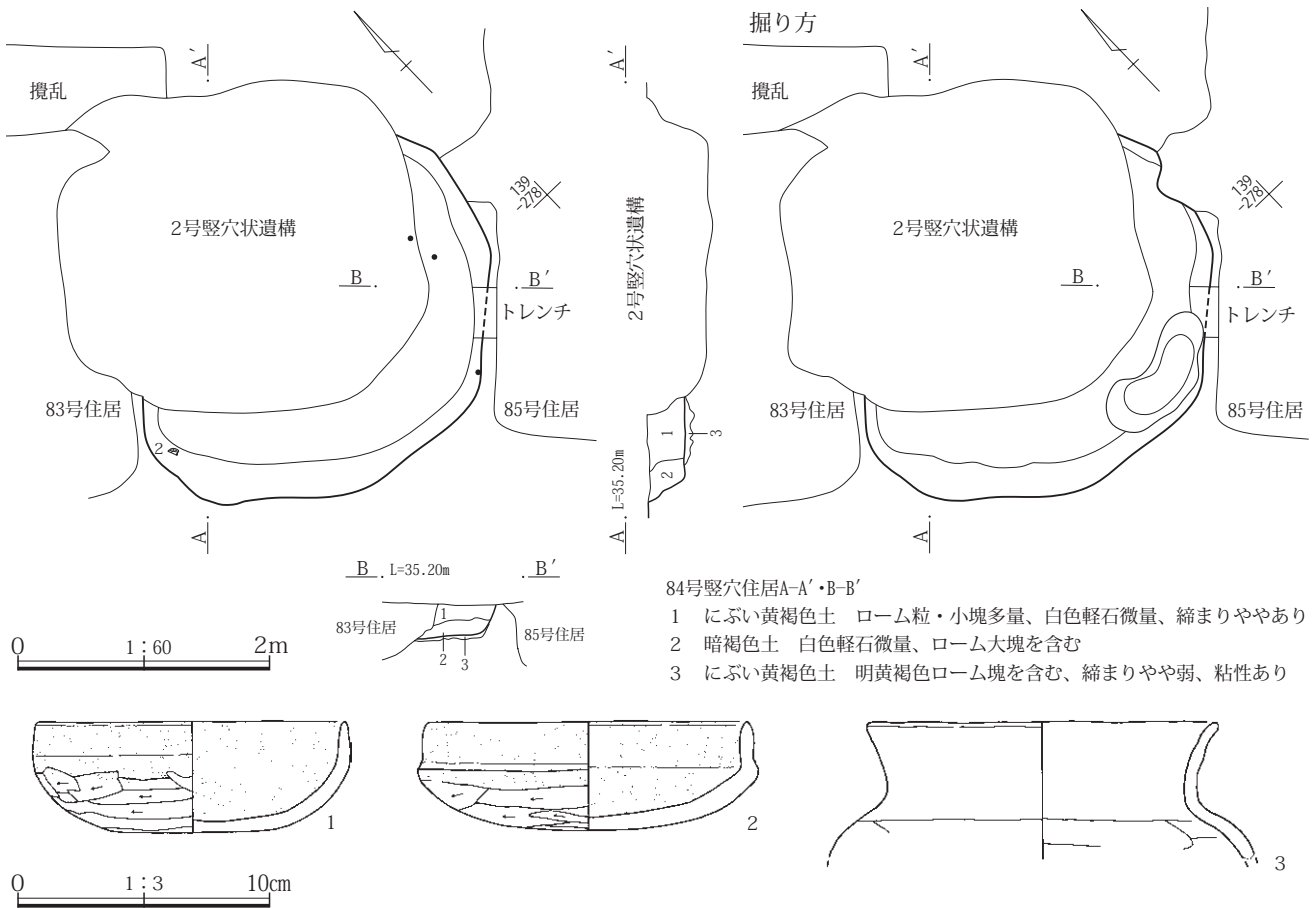
**床面** 床面の高低差はなく平坦である。にぶい黄褐色土と明黄褐色ローム塊の混土によって床面を構築する。

**カマド・貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** 壁際を土坑状に掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器杯(第130図2)は床面上12cmから、土師器杯(同図1)、土師器甕(同図3)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片147点(小型製品48、中型製品1、大型製品98)、須恵器片1点(大型製品)である。

**所見** 3区2号竪穴状遺構と重複しているため、カマドなど主要な内部施設を確認できなかったが、床面の遺物出土状況や壁面の構築状況から竪穴住居と判断した。出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。



第130図 3区84号竪穴住居と出土遺物

**3区85号竪穴住居**(第131～134図 PL.39・40・92)

**位置** X=135～141、Y=-273～280

**形状・規模** 形状は方形である。長軸長4.60m、短軸長4.50m、壁高北東壁26cm、北西壁35cm、南西壁27cm、南東壁43cmを測る。床面積は21.31㎡である。

**主軸方向** N-47°-E

**重複** 3区79・84号竪穴住居が3区85号竪穴住居を掘り込む。

**埋没土** 上層に焼土粒や炭化物粒が多量に含まれる。壁際の三角堆積やレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 支柱穴で囲まれた中央部が壁際に比べて3～5cm低い。明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム小塊やローム粒を含む灰黄褐色土と褐色土によってローム面まで掘り込み床面を構築する。

**カマド** 北西壁中央部に付設する。燃烧部側壁は僅かに残存し、焚口外側から燃烧部奥にかけて焼土化が著しい。規模は全長1.17m、幅1.22m、左袖状残存部68cmを測る。軸方向は、N-45°-Wである。掘り方は、燃烧面を10cm、

煙道を5cm掘り窪めて整えている。羽口(第134図24)がカマド埋没土から出土した。

**貯蔵穴** カマド右側に構築する。3号ピットと重複し貯蔵穴がピットを掘り込む。形状は隅丸長方形であり、規模は長径90cm、短径86cm、深さ44cmを測る。埋没土にローム粒やローム塊が多量に含まれることから人為的な埋戻しと考えられる。土師器壺(第133図16)は、底面上19cmから出土した。

**柱穴** 床面の対角線上に位置するP1～P4は支柱穴と考えられる。P4は重複する3区79号竪穴住居内で確認したが、位置から3区85号竪穴住居の柱穴と判断した。形状及び規模は、P1(不定形、長径73cm、短径70cm、深さ80cm)、P2(隅丸長方形、長径66cm、短径55cm、深さ75cm)、P3(不定形、長径70cm、短径55cm、深さ39cm)、P4(円形、長径61cm、短径56cm、深さ51cm)である。P1～P2間2.53m、P2～P3間2.75m、P3～P4間2.85m、P1～P3間2.55mを測る。

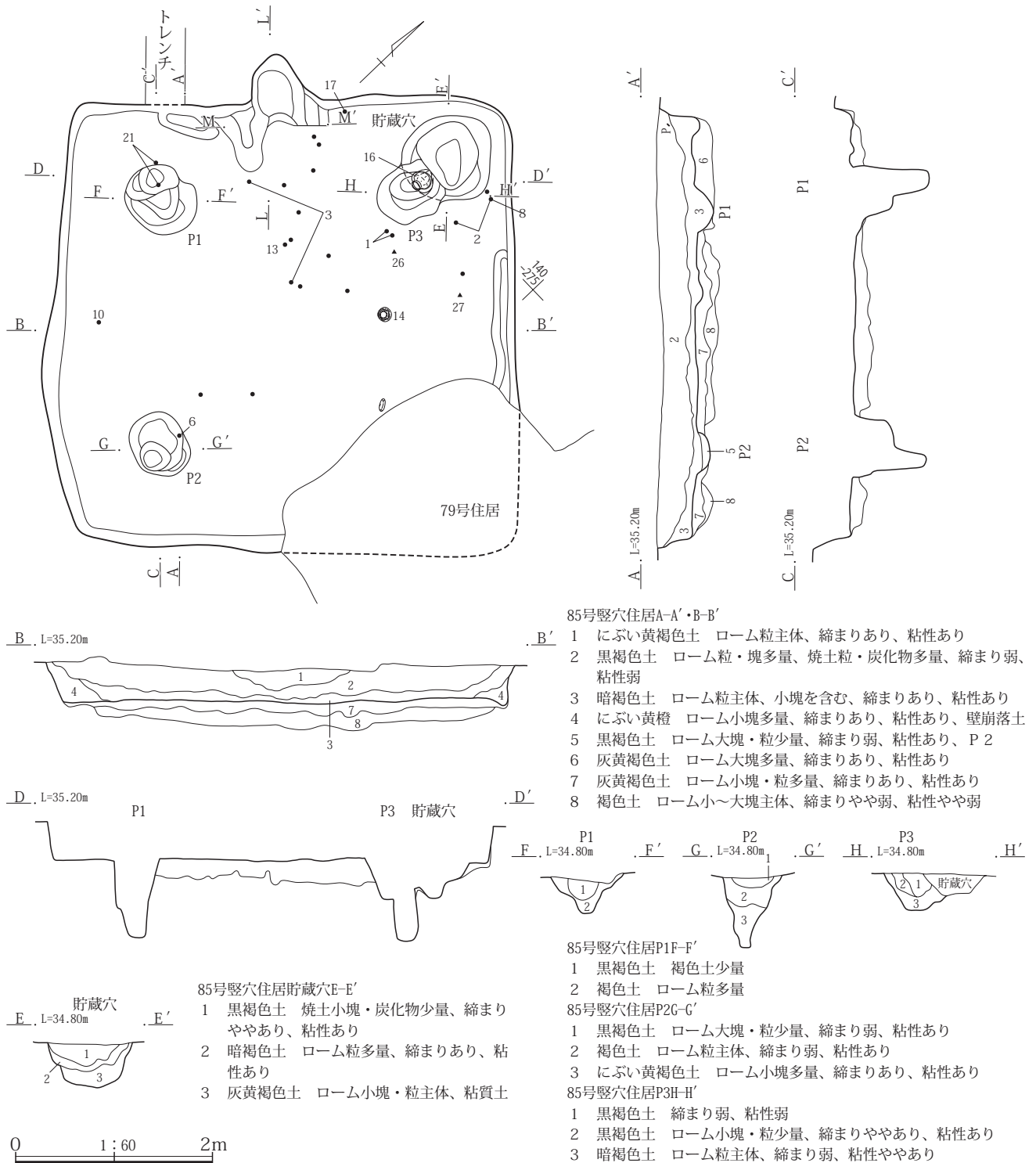
**周溝** 北東壁直下の中央部に掘り込まれている。規模は、幅20cm、深さ4～5cmである。

**掘り方** 支柱穴で囲まれた中央部から北西壁際にかけて方形状にローム面まで5~10cm掘り窪めている。床下土坑などは確認できなかった。

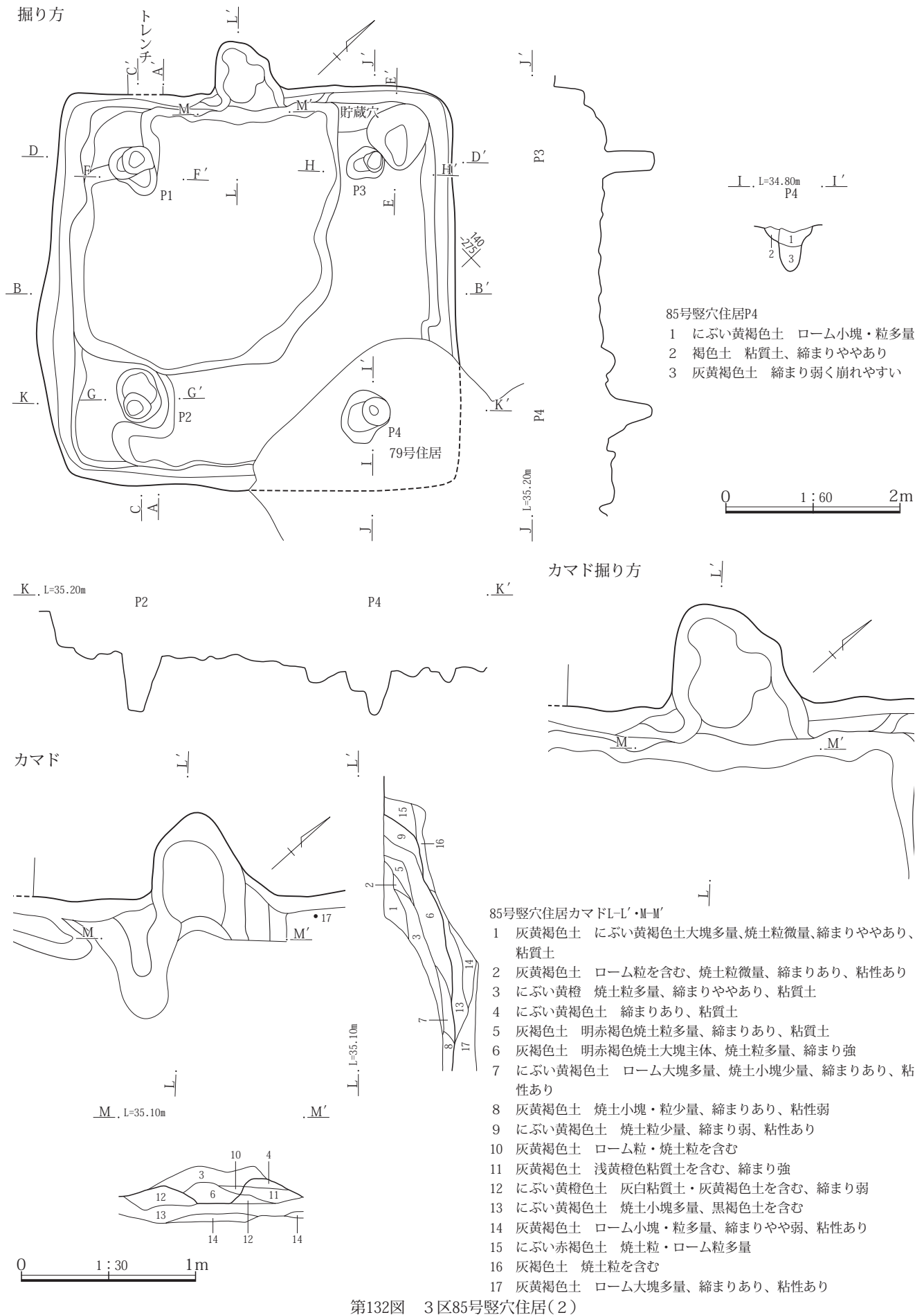
**遺物出土状態** 土師器杯(第133図3)は床面直上、土師器杯(第133図2・8)は床面上6~7cmから出土した。土師器杯(第133図1・4~7・9~12)、須恵器蓋(第133図13)、土師器小型広口壺(第133図14)、土師器高杯(第

133図15)、土師器甕(第133図17~19・22・第134図21)、土師器甕か(第134図20)、土師器手捏土器(第134図23)、白玉(第134図26・27)、炉内滓?(第134図25)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片894点(小型製品103、中型製品4、大型製品780、不明7)、須恵器片22点(小型製品6、大型製品16)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

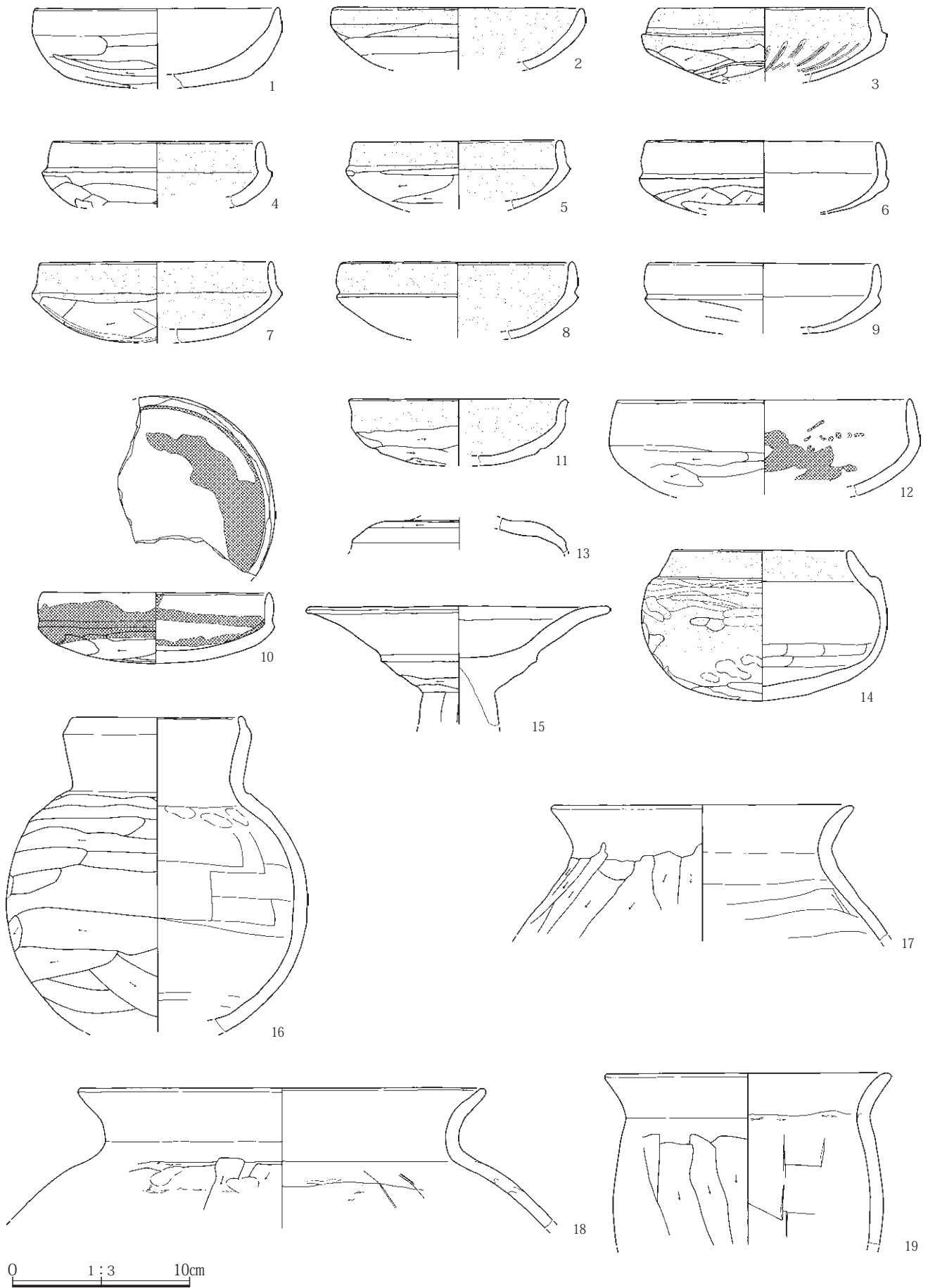


第131図 3区85号竪穴住居(1)



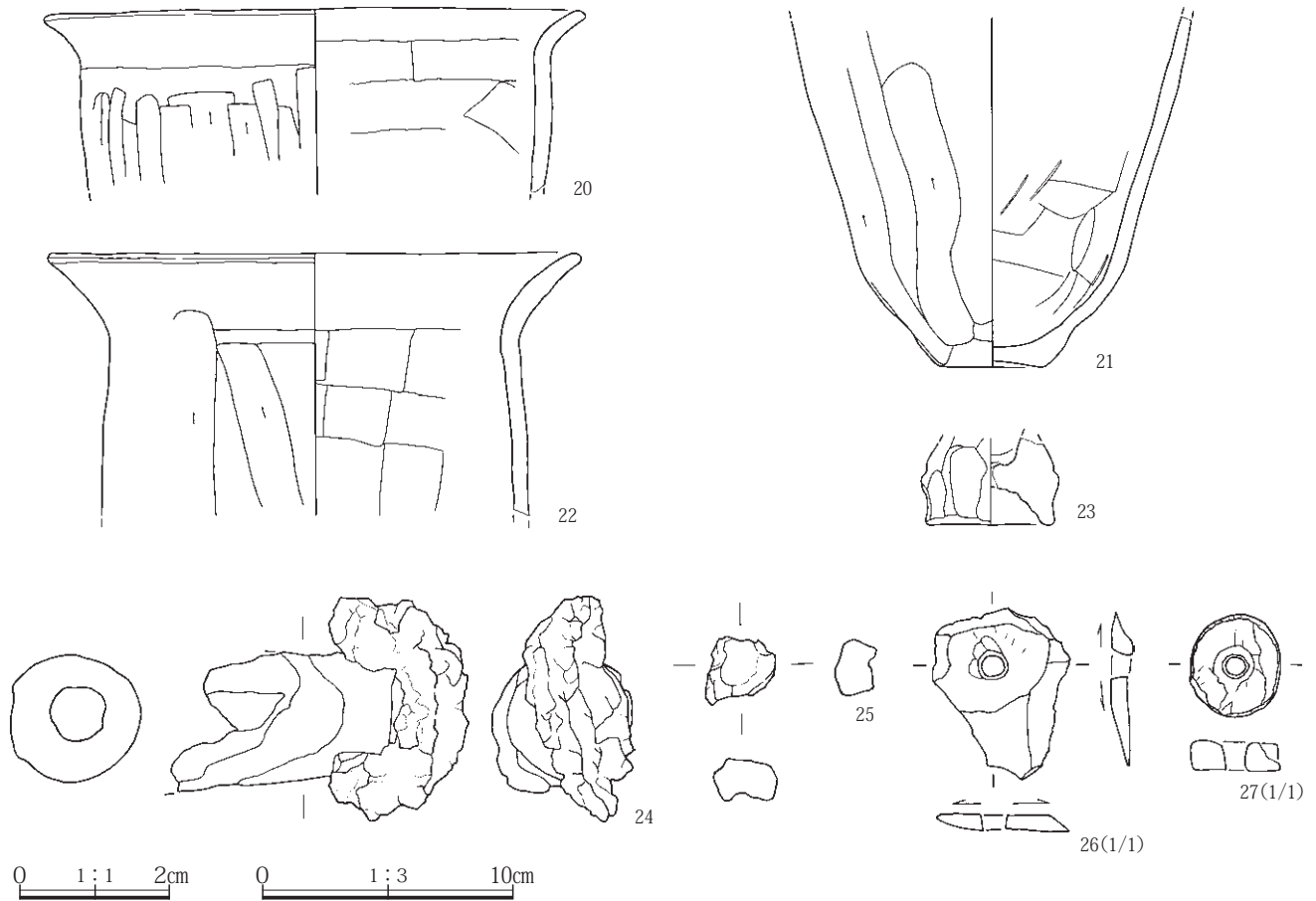
第132図 3区85号竪穴住居(2)

第3章 間之原遺跡の調査



第133図 3区85号竪穴住居出土遺物(1)





第134図 3区85号竪穴住居出土遺物(2)

**3区86号竪穴住居**(第135・136図 PL.40・67・92)

**位置** X=143~146、Y=-272~275

**形状・規模** 3区82号竪穴住居との重複のため西壁と南壁西半部をが失われている。形状は長方形と考えられ、確認できる規模は、東辺2.90m、壁高北壁60cm、南壁44cm、東壁71cmである。

**主軸方向** N-54°-E

**重複** 3区86号竪穴住居が3区82号竪穴住居に掘り込まれている。

**埋没土** 床面付近はローム塊が多量に含まれ、上層にかけてローム漸移層土と考えられる褐色土塊やローム粒を含む暗褐色土や褐色土によって埋没する。自然埋没か人為的かは不明。

**床面** ほぼ平坦である。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム塊やローム粒、暗褐色土を含む明黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 西壁に付設する。焚口から燃烧部奥壁が焼土化し、燃烧部側壁や煙道が残存する。規模は全長1.10m、幅74cm、焚口幅33cm、燃烧部奥行52cm、左袖状残存部56cm、

右袖状残存部79cmを測る。軸方向は、N-50°-Eである。掘り方は、燃烧面を7cm、焚口から外側を14cm掘り窪めて整えている。

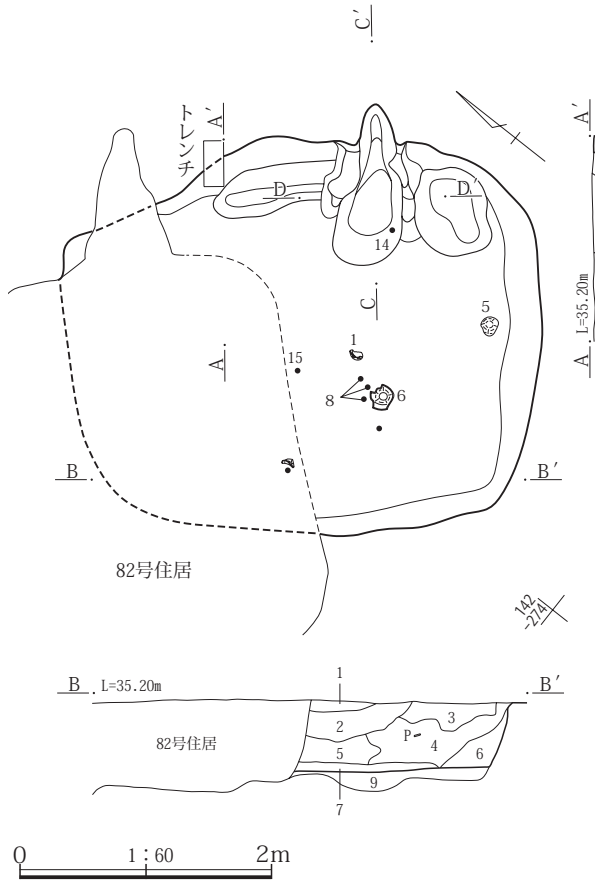
**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。カマド右側に不定形の窪みが認められる。規模は長径1.42m、短径1.13m、深さ4cmを測る。浅い掘り込みで、遺物の出土もないため貯蔵穴とは認めがたい。

**柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** 溝状及び土坑状に掘り窪められ特に東半部の凹凸が著しい。

**遺物出土状態** 土師器杯(第136図1)、土師器甑(同図6)、土師器甕(同図8)は床面直上から出土した。土師器杯(同図2~4)、土師器鉢(同図5)、土師器甕(同図7・9)須恵器壺か(同図10)、土錘(同図11~13)、羽口(同図14・15)は、埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片248点(小型製品50、中型製品1、大型製品197)、須恵器片8点(大型製品)である。

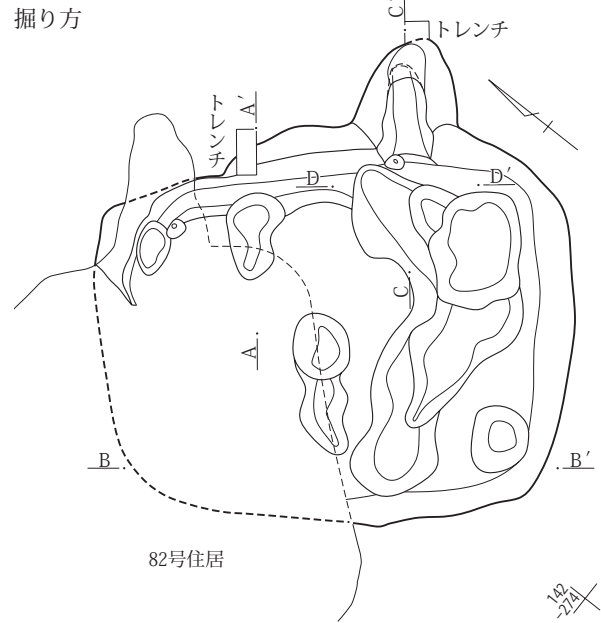
**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



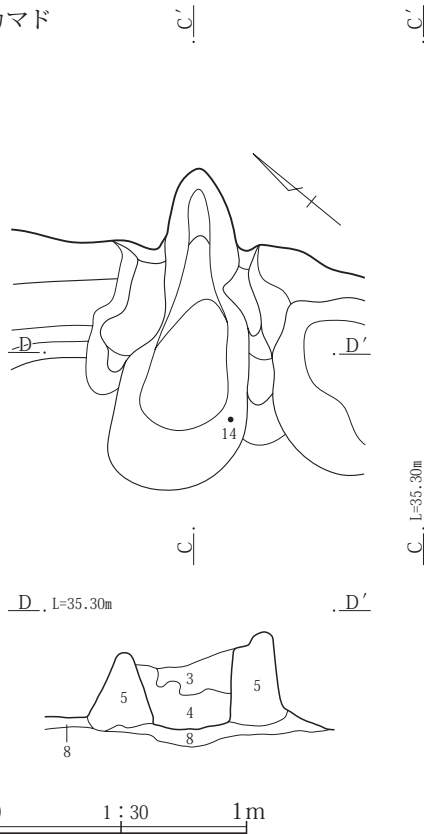
86号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 ローム粒・炭土微粒を含む、やや砂質、縮まりあり、粘性ややあり
- 2 暗褐色土 褐色土小塊5%、ローム粒・炭化物粒・焼土粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 3 褐色土 暗褐色土小塊10%、ローム小～中粒1%、炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 4 暗褐色土 ローム小粒5%、炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 5 暗褐色土 褐色土小塊20%、ローム粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 6 暗褐色土 ローム小～中粒10%、炭化物粒・ローム粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 7 暗褐色土 ローム中～大塊40%、縮まり強、粘性あり
- 8 暗褐色土 ローム大塊主体、ローム粒多量
- 9 明黄褐色土 ローム大塊・粒主体、暗褐色土少量、掘り方埋土

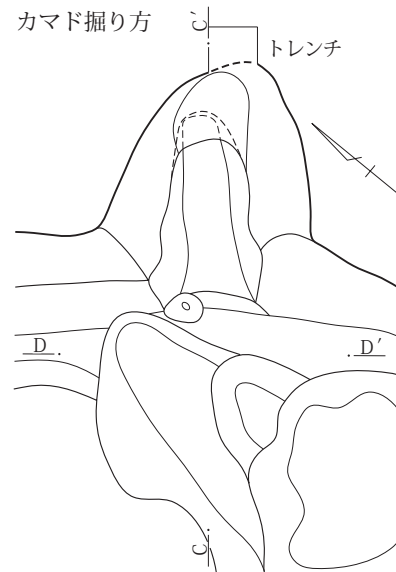
掘り方



カマド



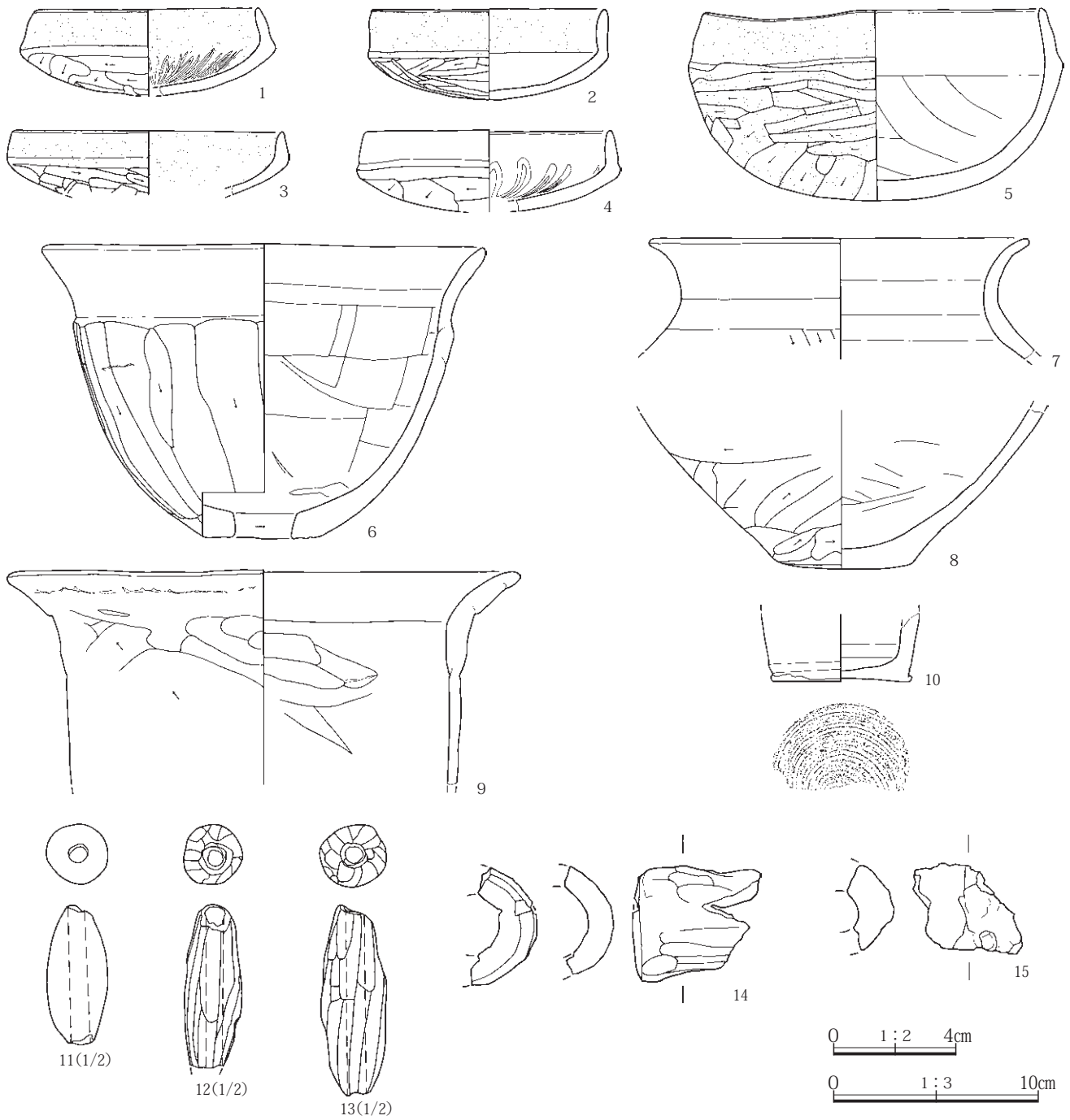
カマド掘り方



86号竪穴住居カマドC-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 褐色土小塊20%、ローム小粒・焼土粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 2 暗褐色土 褐色土小塊30%、ローム小粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 3 褐色土 焼土小粒・炭化物小粒・ローム小粒1%、縮まりあり、粘性あり
- 4 にぶい黄褐色粘質土 焼土小粒を含む、縮まりあり、粘性強
- 5 褐色土 にぶい黄褐色粘質土小塊30%、焼土粒を含む、縮まり強、粘性あり
- 6 暗褐色土 褐色土小塊10%、炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 7 暗褐色土 にぶい黄褐色粘質土中塊20%、焼土粒を含む、縮まりあり、粘性強
- 8 暗褐色土 ローム小塊50%、縮まりあり、粘性あり
- 9 暗褐色土 にぶい黄褐色粘質土中塊50%、縮まりやや弱

第135図 3区86号竪穴住居



第136図 3区86号竪穴住居出土遺物

**3区87号竪穴住居**(第137~140図 PL.40~42・92)

**位置** X=128~133、Y=-271~276

**形状・規模** 形状は長方形である。長軸長4.85m、短軸長4.05m、壁高北壁20cm、南壁24cm、東壁26cm、西壁17cmを測る。床面積は19.65㎡である。

**主軸方向** N-13°-E

**重複** 1区36号竪穴住居埋没土を3区87号竪穴住居が掘り込む。

**埋没土** 床面付近に焼土塊が多量に含まれ、壁際に崩落土がある。上層にかけてレンズ状の堆積が認められるこ

とから自然埋没と考えられる。

**床面** 主柱穴で囲まれた中央部は1~3cm高く、壁際がやや低い。北壁際より南壁際が低く、比高差5cmを測る。床面に明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム大塊を混入する灰黄褐色土とにぶい黄褐色によって床面を構築する。

**カマド** 北壁中央部に付設する。燃烧部側壁は壊されているが、煙道は僅かに残存し燃烧面から奥にかけて焼土化が認められる。規模は全長1.24m、幅85cm、焚口幅35cm、燃烧部奥行55cm、左袖状残存部58cm、右袖状残存部36cmを測る。軸方向は、N-3°-Eである。掘り方は、

第3章 間之原遺跡の調査

燃烧面を12~20cm、煙道を10cm掘り窪めて整えている。土師器甕(第140図10)は、燃烧面直上から出土した。

**貯蔵穴** カマド右側に構築する。形状は楕円形であり、規模は長径85cm、短径60cm、深さ58cmを測る。灰黄褐色土と黒褐色土の混土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明。底面から遺物の出土はなかった。

**柱穴** 床面の対角線上に位置するP1~P4は支柱穴と考えられる。形状及び規模はP1(不定形、長径40cm、短径38cm、深さ43cm)、P2(隅丸長方形、長径40cm、短径36cm、深さ53cm)、P3(不定形、長径53cm、短径40cm、深さ45cm)、P4(円形、長径33cm、短径25cm、深さ40cm)である。P1~P2間2.57m、P2~P3間2.15m、P3~P4間2.45m、P1~P4間2.25mを測る。P2と重複するP6の形状及び規模は(円形、径30cm、深さ22cm)で、P2が新しい。P4は、P5(円形、長径36cm、短径32cm、深さ34cm)とP7(円形、長径38cm、短径32cm、深さ34cm)と重複し、P5の埋没土をP7が掘り込む。

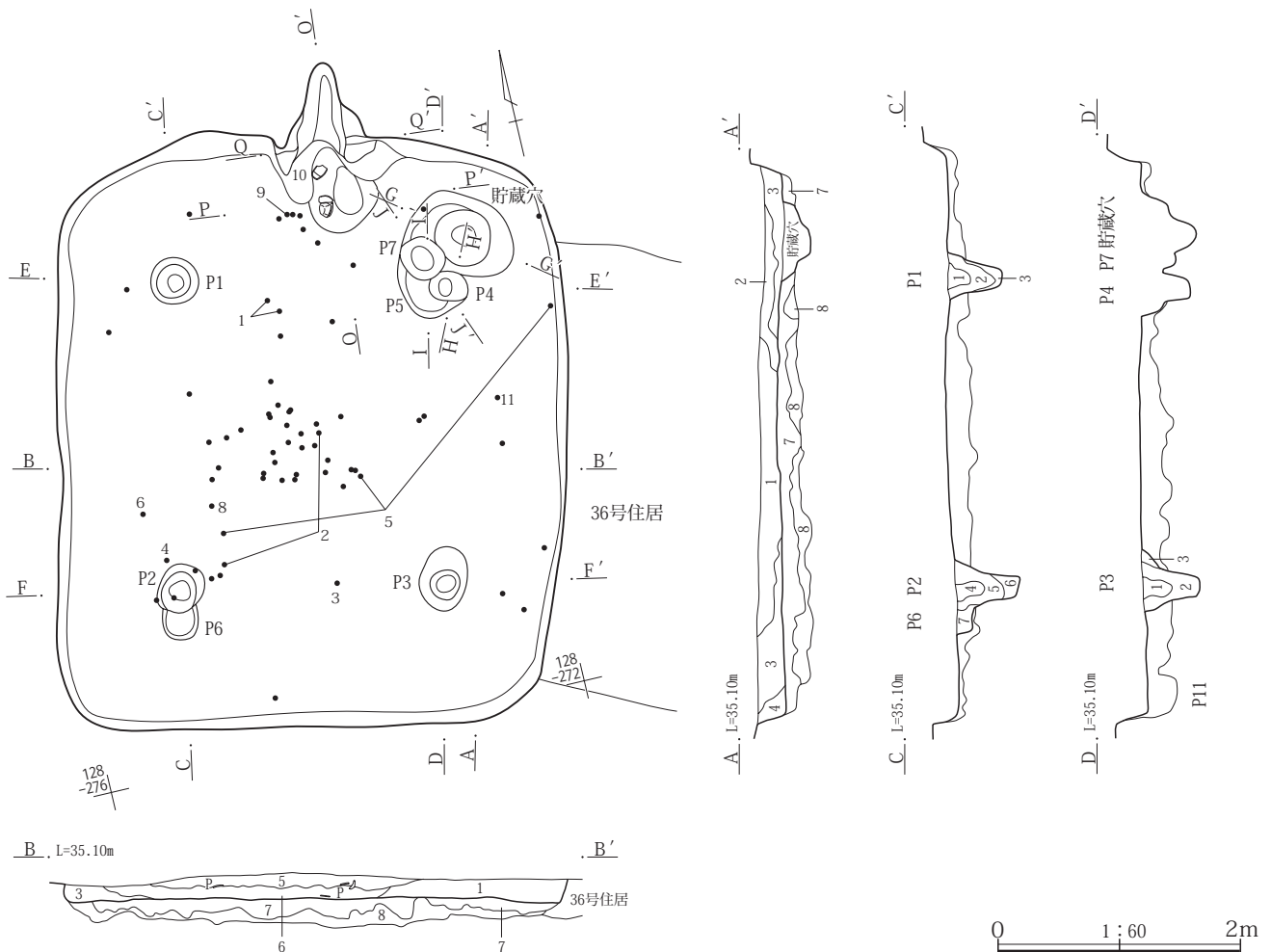
確認状況からP5とP7よりP4が新しい。P2とP4は掘り直した柱穴と考えられる。

**周溝** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

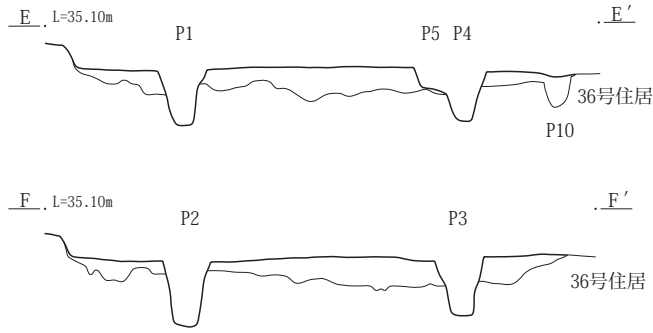
**掘り方** ピット2基を確認する。形状及び規模は、P8(円形、径37cm、深さ38cm)、P9(楕円形、長径39cm、短径30cm、深さ27cm)である。P8はP2~P3間、P9はP1~P4間に位置することから支柱穴の可能性はある。掘り方は、ローム面を5~25cm掘り窪め、全体に凹凸が認められる。

**遺物出土状態** 土師器杯(同図2・4)、土師器鉢(同図5)は床面直上から出土した。土師器杯(同図1・3)、土師器鉢(同図6)、土師器甕(同図8)、土師器甕(同図9)、土玉(同図11)は床面上5~9cmから、土師器鉢(同図7)は埋没土から出土した。非掲載遺物は、土師器片492点(小型製品71、中型製品1、大型製品387、不明33)、須恵器片8点(大型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

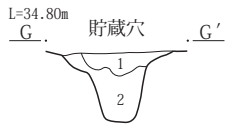


第137図 3区87号竪穴住居(1)



87号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

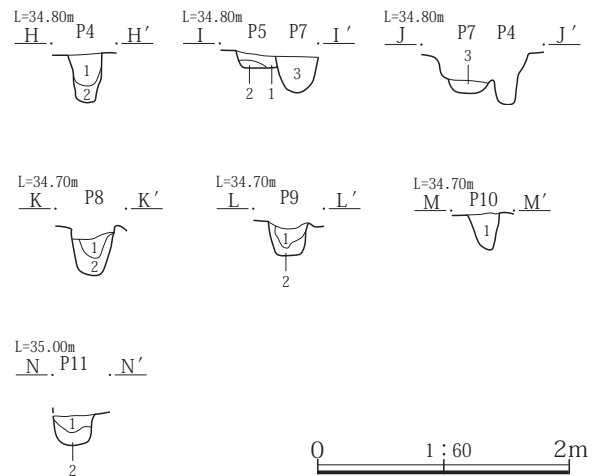
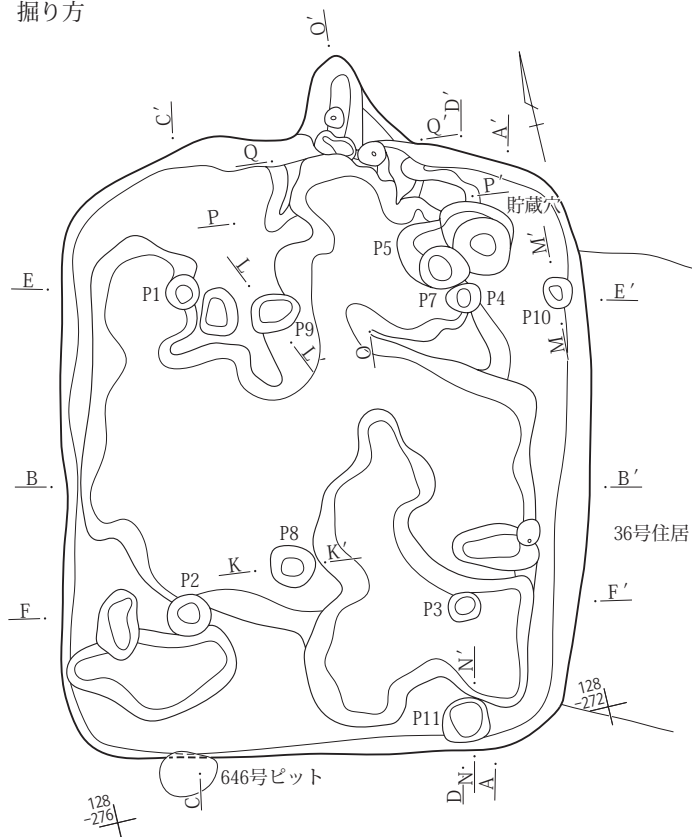
- 1 灰黄褐色土 褐色土大塊多量、焼土小塊・炭化物微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・大塊多量、縮まり・粘性ややあり
- 3 灰黄褐色土 ローム粒・小塊少量、焼土・炭化物微量、縮まりややあり、粘性あり
- 4 にぶい黄褐色土 ローム塊主体、粘質土、壁の崩落土
- 5 灰黄褐色土 焼土小塊少量、遺物・にぶい黄褐色土塊を含む、縮まりあり、粘質土
- 6 暗褐色土 黒褐色土を含む、焼土小塊多量、縮まりあり、粘性あり
- 7 灰黄褐色土 ローム中～大塊を含む、やや色味は暗い
- 8 にぶい黄褐色土ローム大塊主体



87号竪穴住居貯蔵穴G-G'

- 1 黒褐色土 炭化物・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム小大塊を含む、縮まりややあり粘質土

掘り方



87号竪穴住居P3D-D'

- 1 灰黄褐色土 灰白色土少量、ローム粒多量、ローム小塊微量、縮まりやや弱、粘質土
- 2 にぶい黄褐色土 ローム中～大塊多量、縮まりやや弱、粘質土
- 3 灰黄褐色土 ローム小塊多量

87号竪穴住居P4H-H'

- 1 黄褐色土 ローム小塊・暗褐色土・灰白色粘質土を含む、縮まりややあり
- 2 褐色土 ローム粒多量、縮まりややあり

87号竪穴住居P5・P7I-I'・J-J'

- 1 黒褐色土 ローム小塊少量、炭化物・焼土粒を含む、縮まり弱
- 2 灰黄褐色土 ローム小塊少量、縮まりやや弱、粘質土
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒・小塊少量、縮まりやや弱、粘性あり

87号竪穴住居P8K-K'

- 1 暗褐色土 ローム大塊・粒・黒褐色土を含む、縮まりややあり、粘性あり、
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、縮まりあり、粘質土

87号竪穴住居P9L-L'

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、縮まり弱
- 2 黒褐色土 ローム小塊・粒多量、黄褐色土を含む、縮まりややあり、粘性あり、

87号竪穴住居P10M-M'

- 1 黒褐色土 ローム粒多量、縮まりあり、粘性あり

87号竪穴住居P11N-N'

- 1 黒褐色土 ローム小塊少量、縮まりやや弱、粘性あり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、縮まりややあり、粘性あり

87号竪穴住居P1・P2C-C'

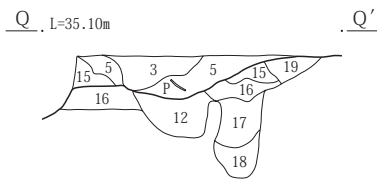
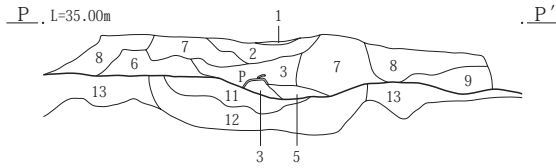
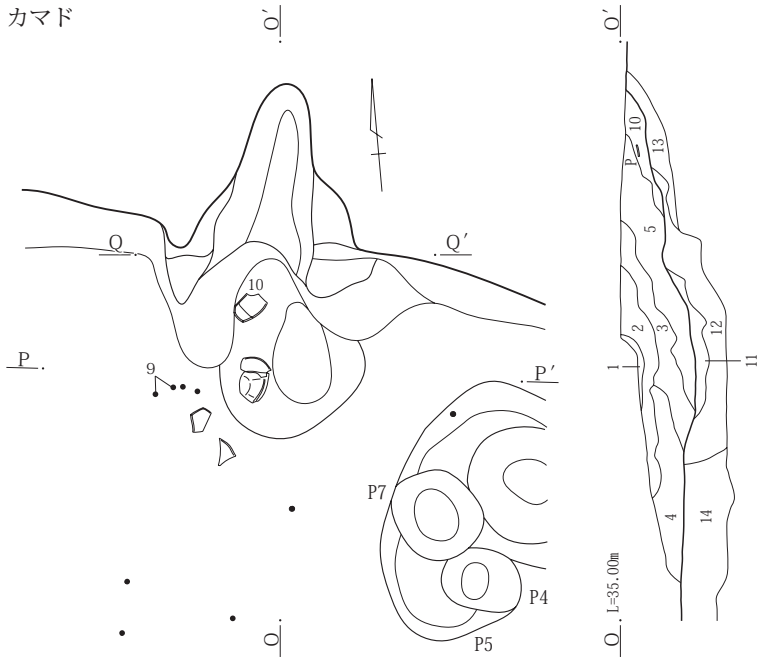
- 1 灰黄褐色土 灰白色粘土、焼土小塊、炭化物を含む、粘質土、縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム中～大塊多量、縮まりやや弱、粘性あり
- 3 褐色土 ローム粒を含む、縮まりあり、粘質弱
- 4 灰黄褐色土 灰白色粘質土を含む、縮まりあり
- 5 にぶい黄褐色土 ローム小塊・粒多量、縮まりあり、粘質土
- 6 暗褐色土 色味は暗い、縮まりあり、粘質強
- 7 灰黄褐色土 ローム小塊多量、縮まりあり、粘質土

第138図 3区87号竪穴住居(2)

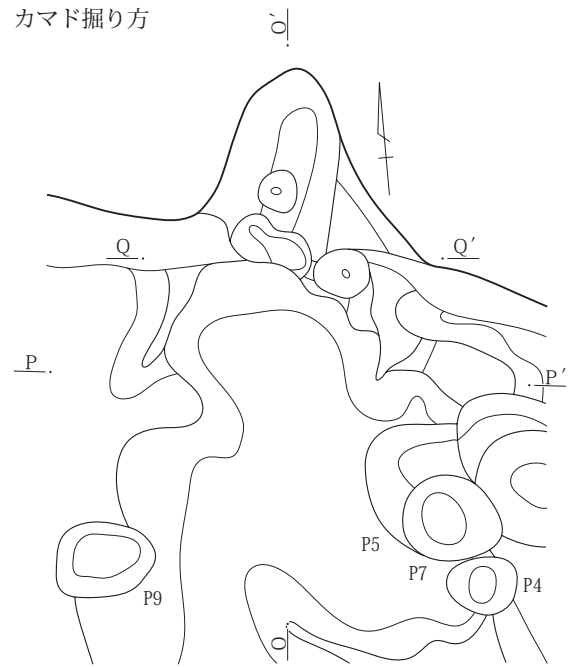


第3章 間之原遺跡の調査

カマド



カマド掘り方



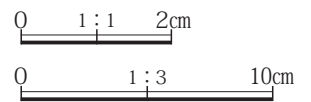
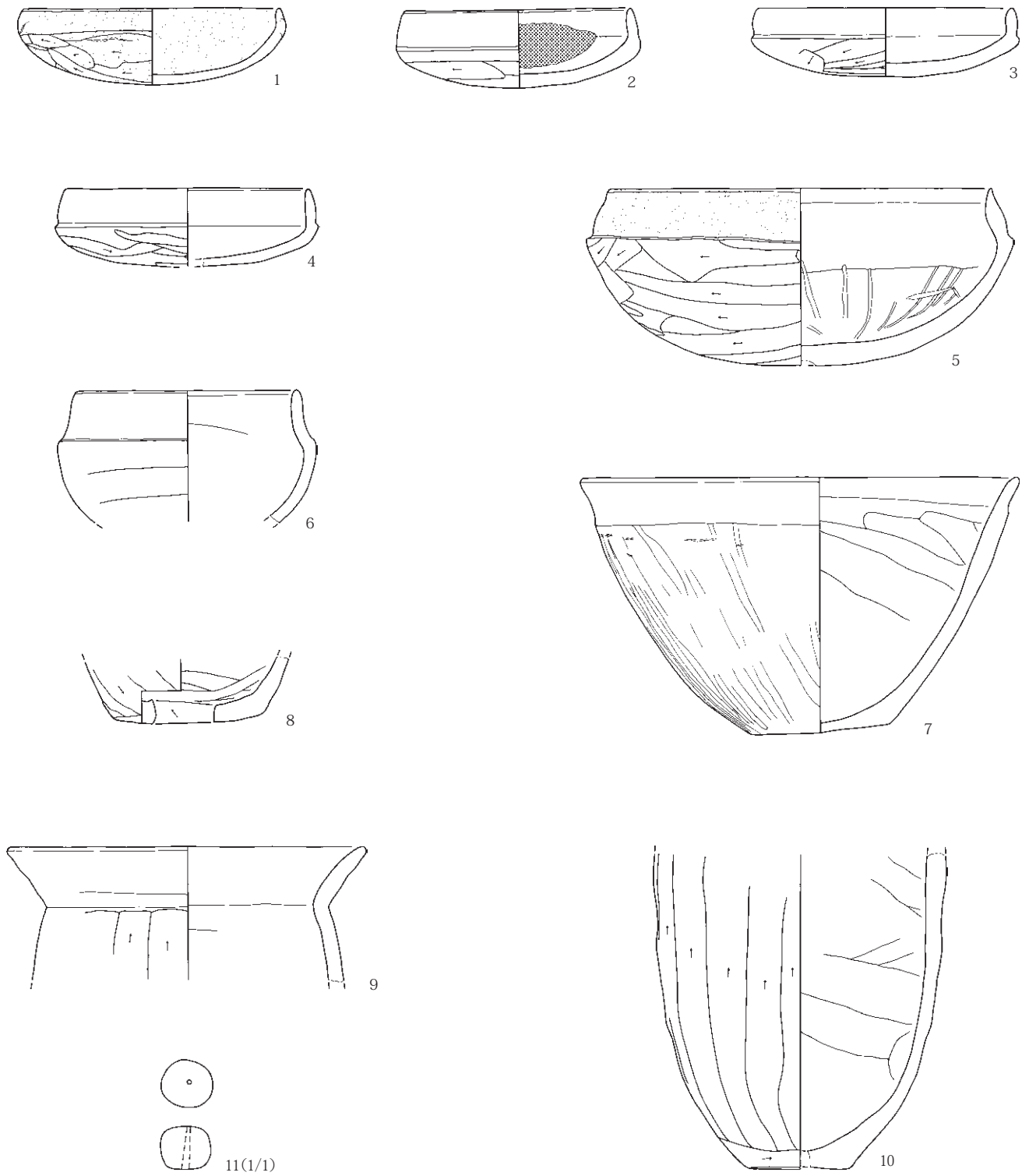
87号竪穴住居カマド0-0'・P-P'・Q-Q'

- 1 黒褐色土 縮まりあり、粘性あり
- 2 灰黄褐色土 灰白色粘質土・焼土小塊を含む
- 3 暗褐色土 焼土粒多量、灰を含む、縮まりややあり
- 4 にぶい黄褐色土 黒褐色土塊を含む、焼土小塊微量、縮まりややあり、粘質土
- 5 暗赤褐色土 焼土小塊・粒多量、縮まりあり
- 6 褐色土 焼土大塊多量、縮まりあり、粘質土
- 7 黄褐色土 焼土小塊を含む、縮まりあり、粘質土
- 8 にぶい黄褐色土 ローム粒・大塊・焼土粒を含む、縮まりあり、粘質土
- 9 黒褐色土 ローム粒を含む、縮まりあり、粘質土
- 10 にぶい黄褐色土 明赤褐色焼土塊・炭化物多量、縮まりやや弱
- 11 褐色土 焼土粒・小塊多量、縮まりやや弱
- 12 にぶい黄褐色土 ローム粒多量、ローム大塊少量、褐灰色土を含む
- 13 灰黄褐色土 焼土粒少量、ローム大塊を含む、縮まりあり、粘性あり
- 14 灰黄褐色土 ローム中～大塊を含む
- 15 褐灰色土 焼土粒微量、縮まりややあり
- 16 明黄褐色土 ローム塊主体、縮まりややあり、粘質弱
- 17 黒褐色土 ローム塊多量、やや色味は明るい
- 18 にぶい黄褐色土 ローム粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 19 にぶい黄褐色土 暗褐色土を含む、縮まりやや弱

0 1:30 1m

第139図 3区87号竪穴住居カマド

第3節 古墳時代の遺構と遺物



第140図 3区87号竪穴住居出土遺物

## 2 竪穴状遺構

1区と3区で確認した古墳時代の竪穴状遺構は5基である。形状や規模、壁面の立ち上がりが竪穴住居に類似し遺物の出土はあるが、炉やカマドなどの内部施設や柱穴が確認できなかったため竪穴状遺構とした。1区落ち込み20を3号竪穴状遺構、1区落ち込み21を4号竪穴状遺構、3区1号竪穴状遺構を5号竪穴状遺構、1区落ち込み23を6号竪穴状遺構に変更した。

### 3区2号竪穴状遺構(第141・142図 PL.38・39・42・92)

位置 X=139~142、Y=-278~282

形状・規模 形状は隅丸長方形である。長軸長2.82m、短軸長2.50m、壁高北壁47cm、南壁46cm、東壁44cm、西壁49cmを測る。床面積は6.35㎡である。

主軸方向 N-40°-E

重複 3区83・84号竪穴住居埋没土を3区2号竪穴状遺構が掘り込む。埋没土が基本土層Ⅲ層~Ⅳ層に類似するため3区631・632号ピットが新しいと考えられる。

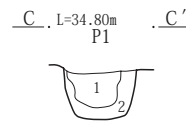
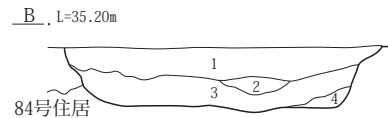
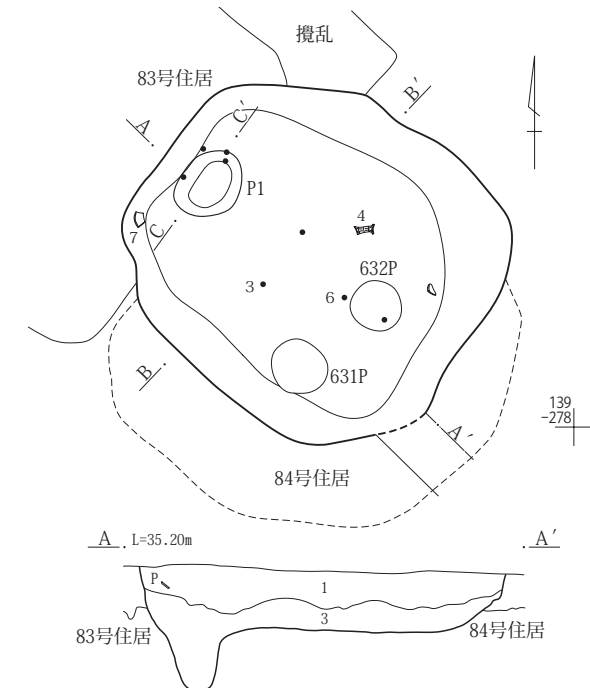
**埋没土** 上層から下層にかけて焼土粒やローム塊、ローム粒を含み、ほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しと考えられる。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦である。ローム面を床面としている。

**内部施設** 床面精査によってカマドや炉などは確認できなかった。西壁際からピット1基を確認する。形状は楕円形であり、規模は長径59cm、短径48cm、深さ44cmを測る。ローム小塊を含むにぶい黄褐色土によって人為的に埋没する。

**遺物出土状態** 土師器杯(第141図1・2)、土師器鉢(第141図3)、土師器高杯(第142図4)、土師器甕(第142図5)、土師器甕(第142図6・7)、羽口(第142図8)は床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片175点(小型製品62、中型製品4、大型製品109)、須恵器片2点(大型製品)である。

**所見** 床面などに焼土や炭化物などは認められないが、羽口破片の出土から製鉄関連遺構の可能性はある。出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

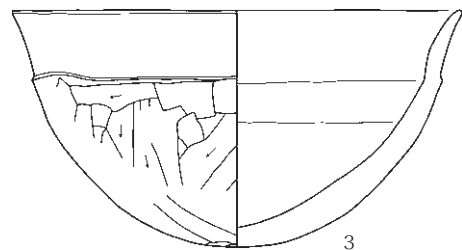
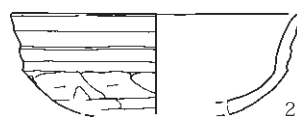
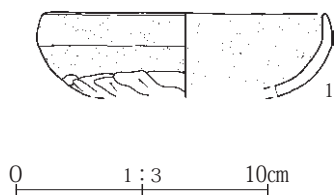
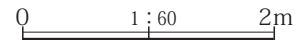


#### 2号竪穴状遺構A-A'・B-B'

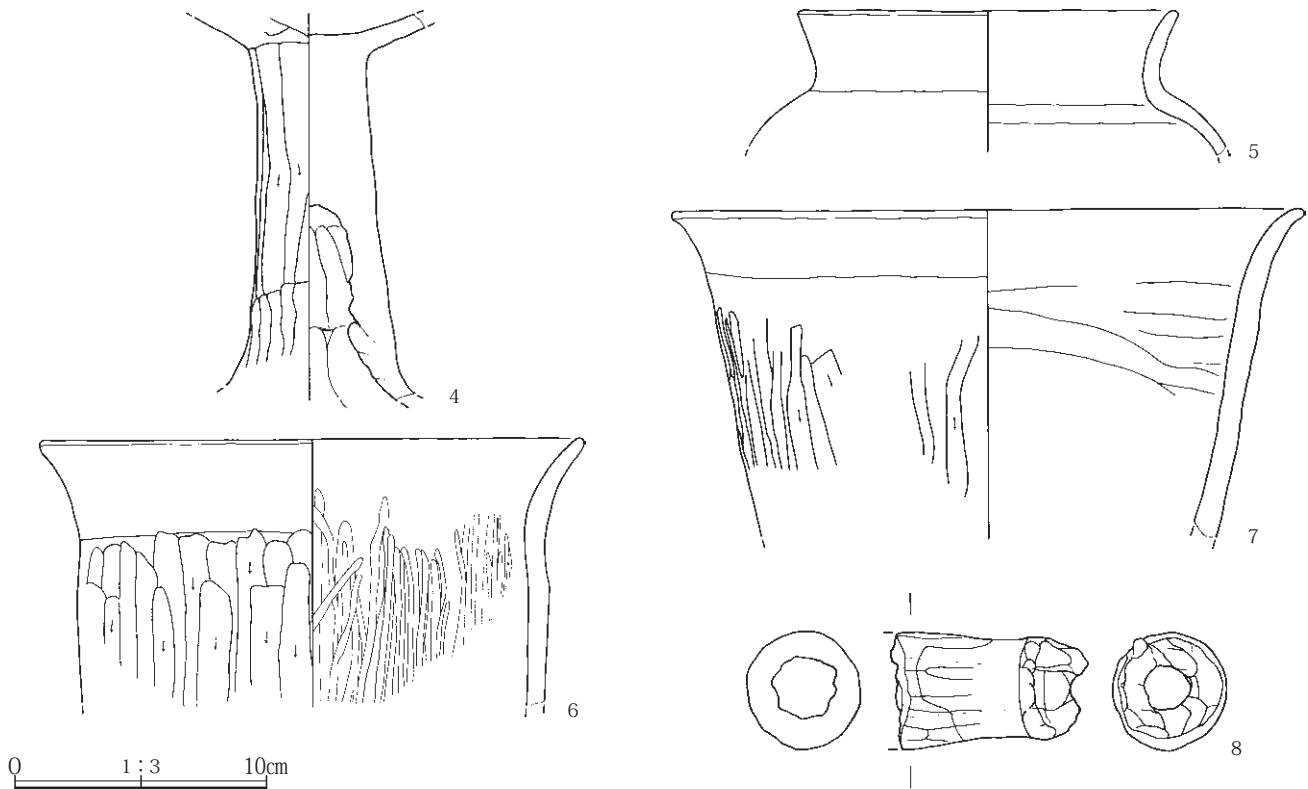
- 1 黒褐色土 ローム小塊・粒多量、焼土粒・炭化物粒多量、締まりあり、粘性あり
- 2 褐灰色土 締まりあり、粘質土
- 3 暗褐色土 ローム小塊・粒多量、焼土粒・炭化物を含む、締まりあり、粘質土
- 4 暗褐色土 ローム小塊を含む、色味は暗い、締まり弱、粘性強

#### 2号竪穴状遺構 P1C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム小塊を含む、締まりややあり、粘質土
- 2 にぶい黄褐色土 ローム大塊を含む、締まりあり、粘質土



第141図 3区2号竪穴状遺構と出土遺物(1)



第142図 3区2号竪穴状遺構出土遺物(2)

**1区3号竪穴状遺構(第143図 PL.43)**

**位置** X=147~151、Y=-257~261

**形状・規模** 調査区北境に位置し、41号竪穴住居と重複するため全体の形状や規模は不明。確認できる規模は、南辺の長さ4.05m、壁高南壁38cmである。

**重複** 1区3号竪穴状遺構埋没土を1区41号竪穴住居が掘り込む。

**埋没土** ソフトロームを含むにぶい黄褐色土と黄褐色土

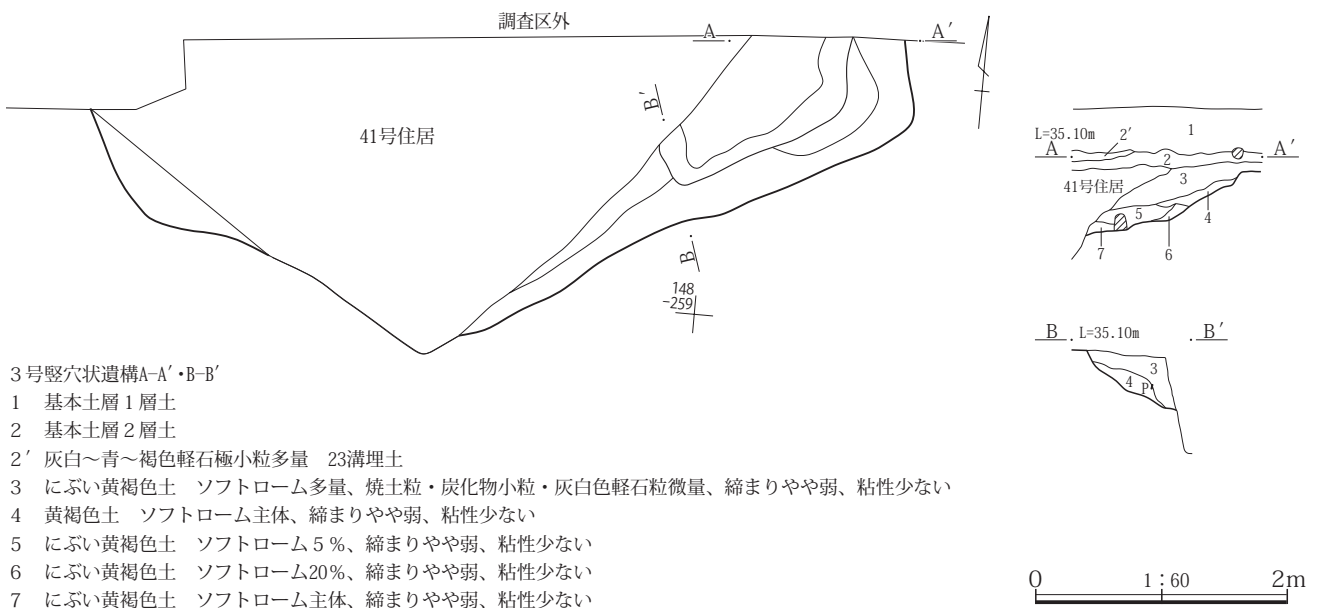
の混土によって埋没し、東壁はやや緩やかに立ち上がる。自然埋没か人為的かは不明。

**床面** 高低差はなくほぼ平坦である。掘り方はなし。

**内部施設** 床面精査ではカマド、炉、柱穴などは確認できなかった。

**遺物出土状態** 床面直上からの遺物の出土はなかった。非掲載遺物であるが、土師器片1点(大型製品)が出土する。

**所見** 出土遺物から時期は古墳時代と考えられる。



3号竪穴状遺構A-A'・B-B'

- 1 基本土層1層土
- 2 基本土層2層土
- 2' 灰白~青~褐色軽石極小粒多量 23溝埋土
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム多量、焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない

第143図 1区3号竪穴状遺構

1区4号竪穴状遺構(第144図 PL.43)

位置 X=144~149、Y=-246~251

形状・規模 45号竪穴住居との重複のため、形状は不定形であり、確認できる規模は南北長4.00m、東西長5.12m、北壁及び南壁11cm、東壁20cm、西壁15cmである。

主軸方向 北東-南西か。

重複 1区45号竪穴住居が1区4号竪穴状遺構の埋没土を掘り込む。遺構確認状況から1区564号ピットが新しい。

埋没土 にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の混土によってほ

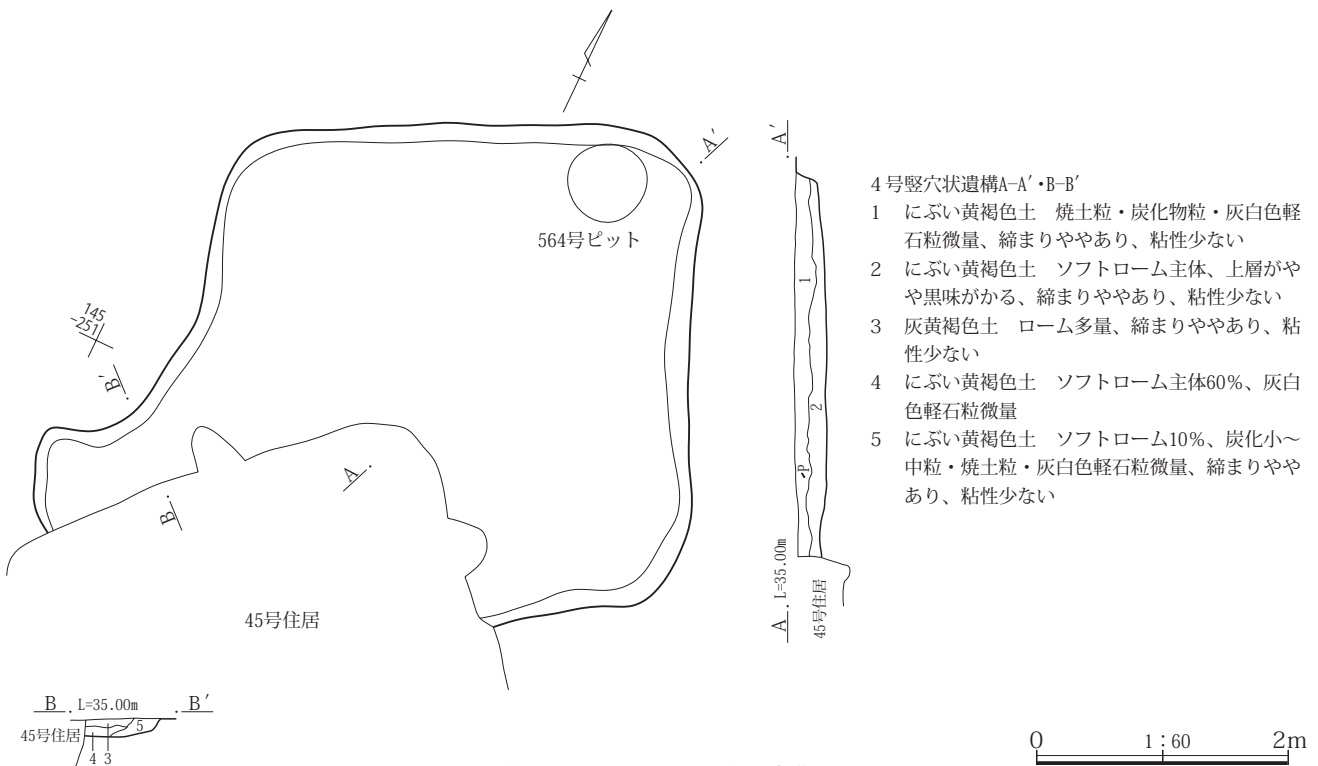
ぼフラットに埋没することから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 西壁から東壁にかけて緩やかに傾斜し、比高差10cmを測る。明瞭な硬化面は確認できず、掘り方はない。

内部施設 床面精査によってカマドや炉、柱穴などは確認できなかった。

遺物出土状態 床面直上からの遺物の出土はない。非掲載遺物であるが、土師器片1点(大型製品)が出土した。

所見 出土遺物から時期は古墳時代と考えられる。



3区5号竪穴状遺構(第145図 PL.33・34・43・92)

位置 X=143~147、Y=-295~300

形状・規模 形状は不定楕円形である。長軸長3.85m、短軸長3.55m、壁高北壁54cm、南壁57cm、東壁50cm、東壁55cmを測る。床面積は10.5㎡である。

主軸方向 N-33°-E

重複 1区5号竪穴状遺構が1区76号竪穴住居と1区63号土坑を掘り込む。

埋没土 床面付近に焼土塊が多量に含まれ、壁際に崩落土がある。上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 西壁から東壁にかけて緩やかに傾斜し、比高11cmを測る。柱穴で囲まれた中央部は1~3cm高く、壁際が

やや低い。北壁際より南壁際が低く、比高差5cmを測る。南壁際は土坑状に掘り込まれ2~8cm低く掘りすぎた可能性がある。床面に明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム大塊を混入する灰黄褐色土とにぶい黄褐色によって床面を構築する。

内部施設 カマドや炉などは確認できなかったが、ピットを2基確認した。形状及び規模は、P1(円形、長径65cm、短径51cm、深さ96cm)、P2(円形、長径50cm、短径47cm、深さ88cm)である。暗褐色土によって埋没し、柱痕などは確認できなかった。北壁側に階段状の段差を設け、炭化物が認められた。形状から出入口施設と考えられる。

掘り方 掘り方は、ローム面を3~7cm浅く掘り窪めて

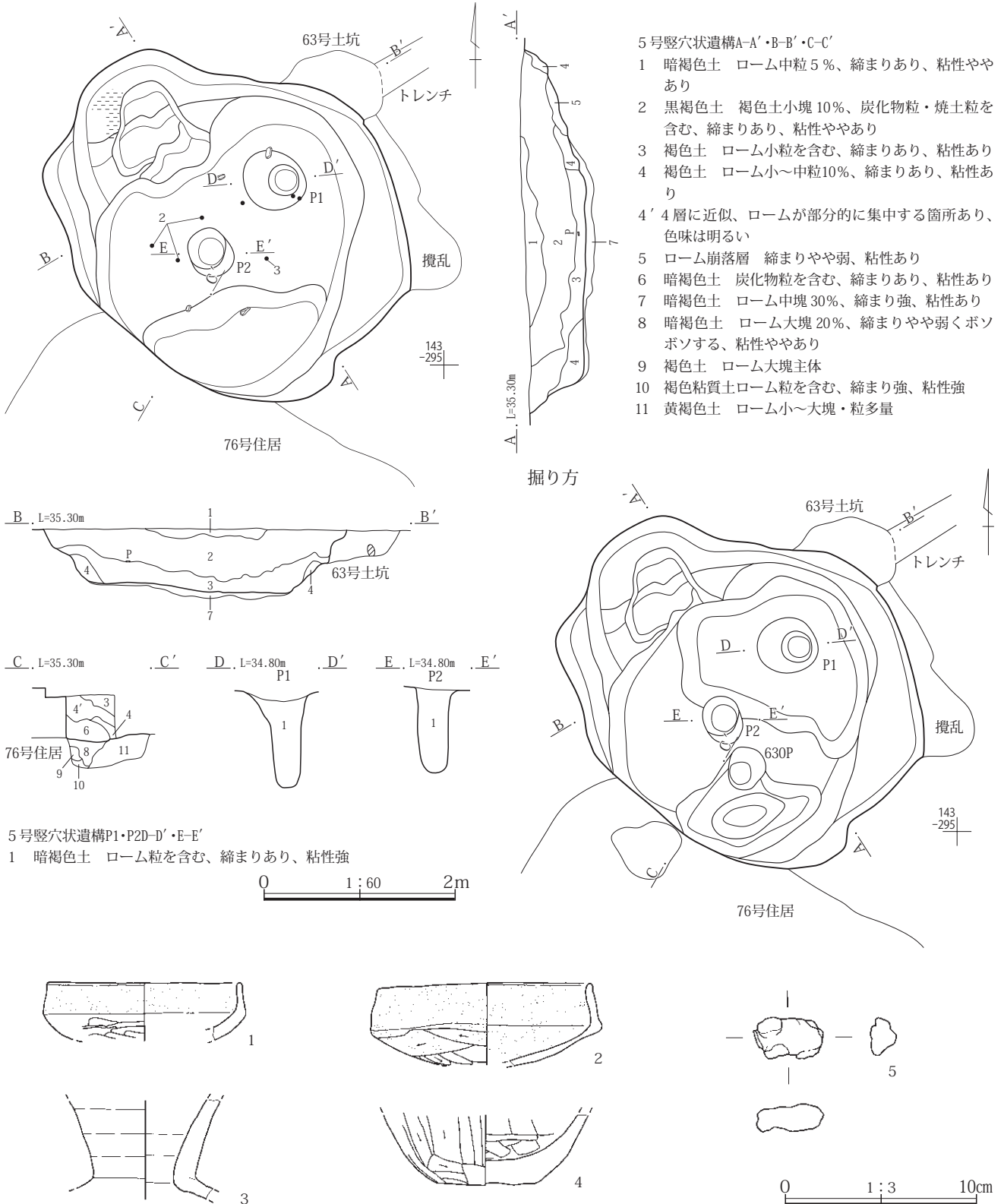


いる。

**遺物出土状態** 土師器杯(第145図2)、須恵器瓶(同図3)は床面上6~10cmから、土師器杯(同図1)、土師器甕(同図4)、鉄滓(同図5)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片187点(小型製品46、中型製品1、大

型製品140)、須恵器片8点(大型製品)である。

**所見** 床面に焼土や炭化物は認められず鉄滓の出土は1点のみであるが、製鉄関連遺構の可能性もある。出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。



第145図 3区5号竪穴状遺構と出土遺物

1区6号竪穴状遺構(第146図)

位置 X=124~127、Y=-247~251

形状・規模 調査区南境に位置し、1区2号溝と重複するため、全体の形状及び規模は不明である。確認できる規模は、東西長4.03m、壁高北壁10cm、東壁6cmである。

主軸方向 不明。

重複 遺構確認状況から1区2号溝が新しい。

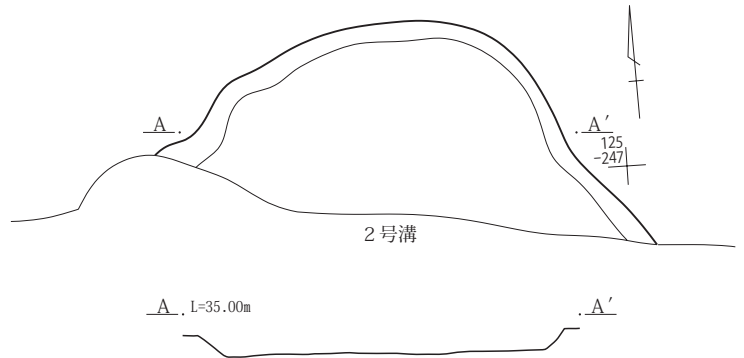
埋没土 埋没土を観察できなかったため、自然埋没か人為的かは不明である。

床面 東壁から西壁にかけて緩やかに傾斜して下り、比高差7cmを測る。明瞭な硬化面は確認できず、掘り方も

ない。

内部施設 床面精査によってカマドや炉、柱穴などは確認できなかった。

所見 1区2号溝より古く、時期は古墳時代と考えられる。



第146図 1区6号竪穴状遺構

3 土坑・ピット

1区と3区で確認した古墳時代と考えられる土坑は2基、ピットは33基である。深さ約2.0mのピットがそれぞれ隣接して2基ずつ確認され、遺物を伴うピットも確認された。出土遺物を伴う遺構については時期を特定できたが、遺物の出土がないピットについては、形状及び規模、埋没土の類似などによって古墳時代の遺構と判断した。1区3号井戸は、1区646号ピットに変更して掲載した。1区213・531号ピットは発掘調査の段階で欠番である。すべての土坑、ピットは第29表土坑計測表及び第30表ピット計測表(356~360頁に掲載)において概略を記す。3区のピットをN0.1から付番したため1区と3区の番号を統一して連番とした。第1表遺構番号変更一覧表(7・8頁)を参照されたい。

1区29号土坑(第147図 PL.43・93)

平面形状は円形、断面形状は方形を呈し、東壁の底面付近が僅かに抉られて立ち上がる。埋没土に壁の崩落土があり、下層から上層にかけてにぶい黄褐色土によるレンズ状の堆積が認められることから自然堆積と考えられる。埋没土から土師器杯(第147図1)が出土する。非掲載遺物は、土師器小型製品破片3点が出土する。出土遺物から時期は6世紀前半と考えられる。

3区63号土坑(第147図)

3区5号竪穴状遺構が3区63号土坑埋没土を掘り込む。埋没土はローム粒や炭化物粒を含み、人為的な埋戻しの可能性がある。竪穴状遺構との重複から6世紀後半以前と考えられる。

1区325号ピット(第147図)

断面形状は、底面が平坦で開口部までほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は締まりがやや弱い黒褐色土である。人為的な埋戻しかどうかは判断できない。深さ1.42mを測り、周辺に対応する柱穴は確認できなかった。遺物の出土がなく、時期は不明である。

1区362号ピット(第147図 PL.43)

断面形状は、底面が平坦で開口部までほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は砂質土で、ロームを多く含む。深さ1.43mを測る。第3層がやや締まることから柱の抜き取り穴の可能性もある。周辺に対応する柱穴は確認できなかった。非掲載遺物であるが、土師器大型製品破片6点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

1区435号ピット(第147図)

埋没土は黒褐色土で、上層に微量の炭化物粒、上層から下層にソフトロームを含む。北西方向2.50mの位置から規模や形状、埋没状況が類似する1区436号ピットを確認した。深さ1.78mを測り、下層に水が滞留する。発掘調査では柵の一部としたが、小規模な井戸の可能性もある。非掲載遺物であるが、土師器小型製品破片2点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

1区436号ピット(第148図 PL.93)

埋没土はソフトロームを含み、約20cm下層から黒褐色土でほぼ埋没する。自然埋没か人為的かは不明。下層に水が滞留する。1区436号ピットと規模や形状、埋没状況が類似する。隣接する2基のピットを発掘調査では柵としたが、柱穴としては深く1.62mを測り、小規模な

井戸の可能性もある。埋没土から土師器台付甕破片(第148図436ピットー1)が出土する。非掲載遺物は、土師器小型製品破片2点である。出土遺物から時期は6世紀代と考えられる。

#### 1区440号ピット(第148図 PL.43)

深さ2.16mを測るため、底面まで掘削できなかった。埋没土は、ローム漸移層土塊やハードローム塊を上層に多く含み、人為的な埋戻しと考えられる。周辺から深さ2m以上を測る443・444・516・646号ピットを確認した。非掲載遺物であるが、土師器小型製品破片1点が出土している。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区441号ピット(第148図 PL.44)

平面形状は整った円形であり、断面形状は底面が平坦で、開口部までほぼ垂直に立ち上がる。埋没土の第1層及び第2層は、ハードローム塊を多量に含み人為的な埋戻しと考えられ、断面形から柱穴の可能性もある。人為的な埋戻しと考えられる。深さ1.30mを測り、周辺に深さ1.30~2.16mのピットが集中し、柵の可能性もあるが、掘立柱建物の柱穴とはならなかった。非掲載遺物であるが、土師器大型製品破片9点が出土している。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区442号ピット(第148図 PL.44)

北西約1.0mの位置に形状及び規模が類似する441号ピットを確認する。断面形状から柱穴の可能性もある。下層はローム粒が少なく、上層はハードローム塊やローム漸移層土塊を含む黒褐色土で埋没する。自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器大型製品破片10点と不明破片1点、須恵器小型製品破片1点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区443号ピット(第148図 PL.44)

埋没土の下層はハードローム粒が少なく、上層はローム漸移層土塊やハードローム塊を多く含む。自然埋没土か人為的かは不明である。深さ2.39mを測り、第5層の下層に水が滞留する。径はやや狭く、小規模な井戸の可能性もある。周辺では、深さ2m以上を測る1区440・444・516・646号ピットを確認し、規模などが類似することから同時期に掘られたと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器小型製品破片1点、大型製品破片4点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区444号ピット(第148図 PL.44)

埋没土の第2層にローム粒やローム塊が多量に含まれ、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。深さ2.04mを測り、第4層の下位に水が滞留することから小規模な井戸の可能性もある。周辺では、深さ2m以上を測る1区440・443・516・646号ピットを確認した。規模などが類似することから同時期に掘られたと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器大型製品破片1点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区494号ピット(第149図 PL.44)

断面形状は、底面から開口部まで斜めに立ち上がる。埋没土の下層は、ほぼフラットに堆積し、中～上層にかけてレンズ状に堆積する。第3・4層にはソフトロームが多量に含まれ、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。深さ1.57mを測る。北へ約2.5mに9号掘立柱建物、南へ約2.0mに1区11・12号掘立柱建物が位置するが、周辺で対応するピットを確認できなかった。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区501号ピット(第149図 PL.44)

平面形状は整った円形であり、断面形状は底面からほぼ垂直に立ち上がり開口部で斜めに広がる。埋没土の第1層には焼土粒や炭化物粒が含まれ、レンズ状の堆積が認められる。第4層にソフトロームが多量に含まれることから人為的な埋戻しと考えられる。深さ1.58mを測り、周辺に対応するピットを確認できなかった。非掲載遺物であるが、土師器小型製品1点が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区516号ピット(第149図 PL.44)

平面形状は円形であり、断面形状は底面が平坦で、壁は僅かに幅が広がりながらほぼ垂直に立ち上がり開口部で斜めに広がる。埋没土第1層は土器片とともに焼土塊が多く、中～下層は焼土粒やロームを含む。ほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しと考えられる。深さ2.15mを測り、周辺では、1区440・443・444・646号ピットが深さ2m以上となる。規模などが類似することから同時期に掘られたと考えられる。第1層下層から土師器甕(第149図516ピットー1)が出土する。非掲載遺物は、土師器小型製品1点と土師器大型製品22点が出土する。出土遺物は混入の可能性もあるが、時期は古墳時代後半と考えられる。

**1区542号ピット(第149図)**

1区67号竪穴住居と重複し、床面から確認した。断面形状から柱穴の可能性はある。自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。遺物の出土はないが、1区67号竪穴住居との重複から、時期は6世紀後半以前と考えられる。

**1区595号ピット(第149図)**

1区67号竪穴住居と重複し、カマド掘り方調査によって確認した。埋没土上層の焼土粒や炭化物粒はカマドからの混入と考えられる。自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。断面形状から柱穴の可能性はある。遺物の出土はないが、1区67号竪穴住居との重複から、時期は6世紀後半以前と考えられる。

**3区623号ピット(第150図 PL.44)**

埋没土はローム小～大塊を含み人為的な埋戻しと考えられる。底面の東側がさらに一段低く掘り込まれ、深さ2.31mを測る。西隣で確認した3区624号ピットも形状や規模が類似することから同時期に掘られた可能性がある。非掲載遺物であるが、土師器片41点(小型製品21、大型製品20)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**3区624号ピット(第150図 PL.45・93)**

底面はほぼ平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がり開口部が僅かに広がる。埋没土は上層にローム粒やローム塊を含み、下層は締りが弱く自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。深さ2.36mを測り、底面から湧水が認められる。東隣で確認した3区623号ピットと形状や規模が類似することから同時期に掘られたか。遺物は、埋没土の第3層中～上層から土師器杯(第150図624ピットー1・2)、土師器甕(第150図624ピットー3・4)が出土する。非掲載遺物は、土師器82点(小型製品45、大型製品28、不明9)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物から時期は7世紀前半と考えられる。

**3区625号ピット(第149図 PL.45・93)**

埋没土は、下層にローム塊を多量に含み人為的な埋戻しの可能性がある。深さ2.38mを測り、底面から湧水が認められる。周辺では対応するようなピットを確認できなかった。遺物は、土師器杯(第149図625ピットー1)、羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片?(PL.93-625ピットー2)が埋没土から出土する。非掲載遺物は、土師器61点(小型製品20、大型製品41)、須恵器片2点(小

型製品1、大型製品1)が出土する。出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

**3区626号ピット(第150図 PL.45)**

断面形状は、底面付近の北壁側がやや抉られているが、開口部までほぼ垂直に立ち上がる。3区83号竪穴住居と重複し、3区626号ピットが埋没土を掘り込む。埋没土は、中～上層にローム粒が多く、上層に炭化物粒を含み、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。深さ2.19mを測り、周辺で対応するようなピットを確認できなかった。非掲載遺物であるが、土師器片12点(大型製品11、不明1)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

**3区627号ピット(第150図 PL.45)**

断面形状は、底部から壁はやや斜めに立ち上がり開口部で斜めに大きく広がる。ローム粒を含む灰黄褐色土と暗褐色土で埋没し、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明。深さは2.19mを測り、南側に近接する3区632号ピットと埋没状況や規模が類似する。非掲載遺物であるが、土師器片12点(小型製品2、大型製品10)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

**3区629号ピット(第150図 PL.45)**

3区3号竪穴状遺構の床面精査によって確認し、3区3号竪穴状遺構より古い。断面形状は、底面が平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がることから柱穴の可能性はある。黄褐色ロームと暗褐色土で埋没し、人為的な埋戻しと考えられる。周辺で対応する柱穴を確認できなかった。出土遺物がなく時期を特定できない。3号竪穴状遺構との重複から、古墳時代と考えられる。

**3区630号ピット(第150図 PL.45)**

3区2号竪穴状遺構と重複し、埋没土が基本土層Ⅲ層～Ⅳ層に類似することから3区630号ピットが新しい。埋没土にローム塊・粒を多く含み人為的な埋戻しと考えられる。深さ1.44m以上で狭くなり底面まで掘削できなかった。3区631号ピットと埋没土や規模が類似することから同時期に掘られた可能性がある。出土遺物がなく時期を特定できないが、古墳時代後期以降と考えられる。

**3区631号ピット(第151図 PL.45)**

3区2号竪穴状遺構と重複し、埋没土が基本土層Ⅲ層～Ⅳ層に類似することから3区631号ピットが新しい。埋没土は上層ほどローム粒が多くなり、焼土粒も含まれ、人為的な埋戻しと考えられる。深さ1.54m以上で狭いた



め底面まで掘削できなかったが、断面形状は底部からほぼ垂直に立ち上がる。近接する3区630号ピットと同時期に掘られたと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できないが、古墳時代後期以降と考えられる。

### 3区632号ピット(第151図 PL.46・93)

断面形状は、底部から斜めに広がり、壁は開口部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。ローム塊を含む黒褐色土と暗褐色土で埋没し、人為的な埋戻しと考えられる。深さは1.96mを測り、北側に近接する627号ピットと埋没状況や規模が類似する。埋没土から羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片?(PL.93-632ピット-1)が出土する。非掲載遺物であるが、土師器片9点(小型製品1、大型製品6、不明2)、須恵器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

### 3区633号ピット(第151図 PL.46)

3区632号ピットのトレンチ調査時に底部のみを確認した。深さ1.06mであるが、遺構確認面から約2.25m掘り込まれていたと考えられる。埋没土はローム塊やローム粒を多量に含む灰黄褐色土で自然埋没か人為的な埋戻しかは不明である。隣接する3区627・632号ピットと埋没土や規模が類似するため対応する柱穴の可能性もある。非掲載遺物であるが、土師器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

### 3区634号ピット(第151図 PL.93)

深さ1.38m以上であり、底部まで掘削できなかった。ローム粒やローム塊を含む黒褐色土と灰黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明である。埋没土から羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片?(PL.93-634ピット-1)が出土する。非掲載遺物であるが、土師器片6点(小型製品3、大型製品2、不明1)、須恵器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

### 3区635号ピット(第151図 PL.46)

断面形状は、底面が平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。開口部の壁際にローム塊が多量に認められ、北側は壁崩落によって斜めに立ち上がると考えられる。深さ2.43mを測り、確認できたピットの中で最も深い。底部には湧水が認められる。埋没土にローム粒やローム塊を多量にふくむため人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片31点(小型製品23、大型製品6、

不明2)、須恵器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

### 3区637号ピット(第151図 PL.46)

平面形状は円形で、断面形状は底部から開口部まで壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋没土は、上層にローム粒を多量に含み、人為的な埋戻しと考えられる。深さ2.01mを測り、底部に湧水が認められる。3区638号ピットと近接し、形状や規模、埋没土が類似することから同時期に掘削したと考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片18点(小型製品12、大型製品6)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

### 3区638号ピット(第151図 PL.46)

3区638号ピットと近接し、形状や規模、埋没土が類似する。埋没土は、上層に少量の焼土粒や炭化物粒と多量のにぶい黄褐色大塊が含まれ、人為的な埋戻しと考えられる。深さ2.10mを測り、底部に湧水が認められる。土師器杯(第151図638ピット-1)は埋没土から出土する。非掲載遺物であるが、土師器片44点(小型製品23、中型製品4、大型製品2、小型製品15、不明2)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物から時期は7世紀代と考えられる。

### 3区639号ピット(第151図 PL.46・93)

平面形状は整った円形であり、断面形状は、壁がほぼ垂直に立ち上がり、開口部で斜めに広がる。深さ2.10mを測る。埋没土にローム粒やローム塊を多量に含み人為的な埋戻しと考えられる。埋没土から土師器杯(第151図639ピット-1)が出土する。非掲載遺物であるが、土師器片6点(小型製品3、大型製品2、不明1)が出土する。出土遺物から時期は7世紀代と考えられる。

### 3区640号ピット(第152図 PL.46)

埋没土は黒褐色土と灰黄褐色土による自然埋没か人為的な埋戻しかは不明である。埋没土から土師器杯(第152図640ピット-1)が出土する。非掲載遺物であるが、土師器片1点(不明)が出土する。出土遺物から時期は6世紀代と考えられる。

### 3区641号ピット(第152図 PL.46)

断面形状は、底面から開口部まで壁はほぼ垂直に立ち上がる。深さ2.37mを測り、底面に湧水が認められる。埋没土は、第2層にローム大塊が多量に含まれ人為的な埋戻しと考えられる。周辺では隣接する3区642号ピッ



第3章 間之原遺跡の調査

トと埋没土や規模が類似し対応する可能性がある。非掲載遺物であるが、土師器片54点(小型製品30、中型製品3、大型製品21)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

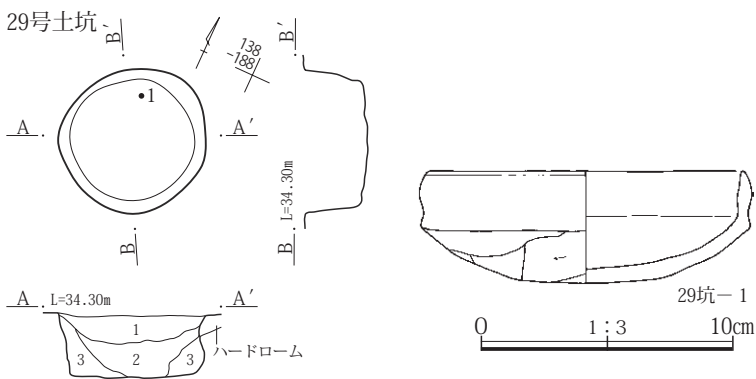
3区642号ピット(第152図 PL.46)

平面形状は円形であり、断面形状は、底面が平坦で壁は開口部まで垂直に立ち上がる。深さ2.35mを測り、底面に湧水が認められる。埋没土は3区641号ピットと類似し、人為的な埋戻しと考えられる。埋没土から土師器杯(第152図642ピット-1)が出土する。非掲載遺物は、土師器片9点(小型製品8、大型製品1)が出土する。出

土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

3区646号ピット(第152図 PL.44・47)

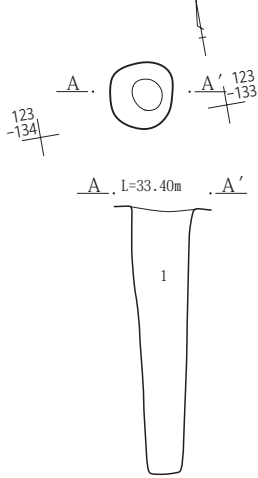
断面形状は、底面が平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がり、開口部は斜めに広がる。埋没土は、上層に炭化物粒や焼土粒を、下層はローム塊を含む黒褐色土で埋没する。人為的な埋戻しと考えられる。深さ2.17mで底部に湧水が認められる。周辺から形状及び規模が類似するピットを複数基確認したため1区3号井戸をピットに変更した。非掲載遺物であるが、土師器片12点(小型製品3、大型製品9)が出土する。出土遺物だけでは判断できないが、時期は6～7世紀と考えられる。



29号土坑A-A'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 ローム塊5%、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム塊20%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム中心80%、縮まりややあり、粘性ややあり、壁崩落土

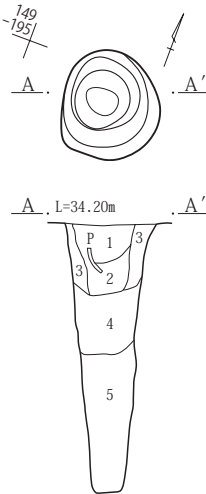
325号ピット



325号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱、粘性ややあり

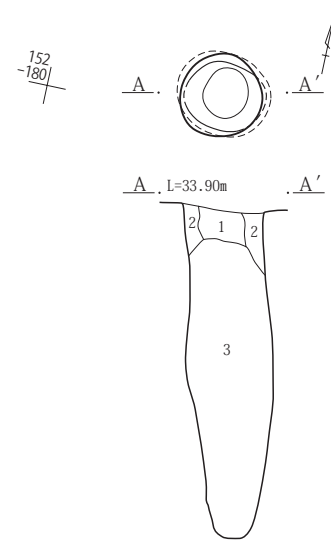
362号ピット



362号ピットA-A'

- 1 黒褐色砂質土 縮まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ローム10%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ローム20%、縮まりややあり
- 4 黒褐色砂質土 ローム5%、縮まりややあり
- 5 黒褐色砂質土 やや黒味あり、縮まりややあり

435号ピット

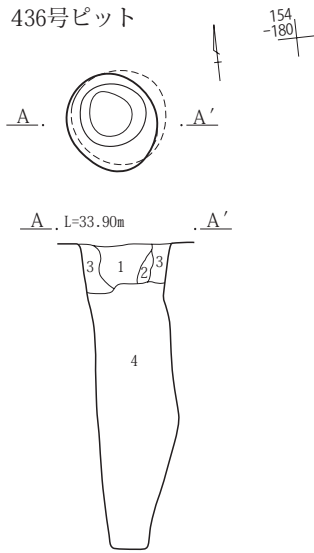


435号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ソフトローム少量、炭化物微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ソフトローム5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 黒褐色土 1層土より黒味強い、ソフトローム微量、縮まりやや弱、粘性ややあり

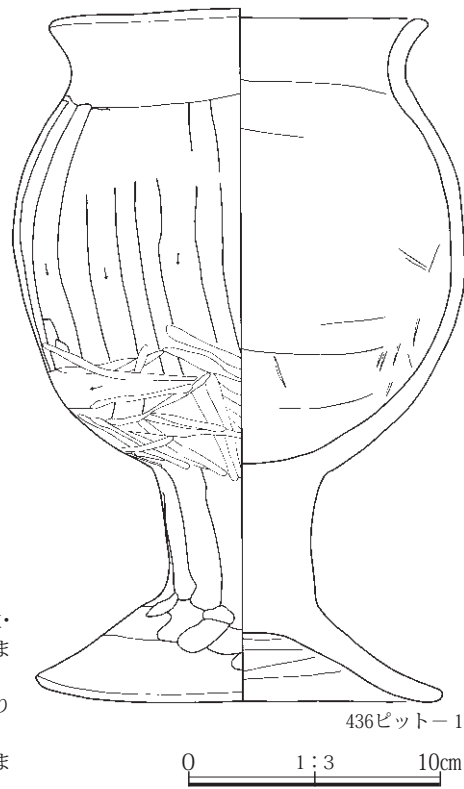
第147図 1区29号土坑と出土遺物・3区63号土坑・1区325・362・435号ピット

第3節 古墳時代の遺構と遺物

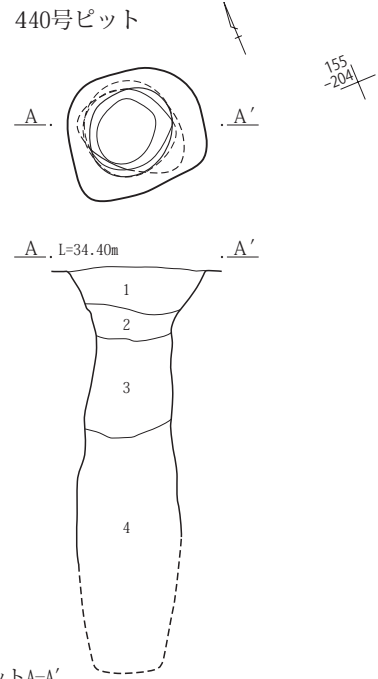


436号ピット

- 436号ピットA-A'
- 1 黒褐色土 ソフトローム微量、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 2 褐灰色土 ソフトローム5%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 3 灰黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 4 黒褐色土 1層土より黒味の強い層、ソフトローム微量、締まりやや弱



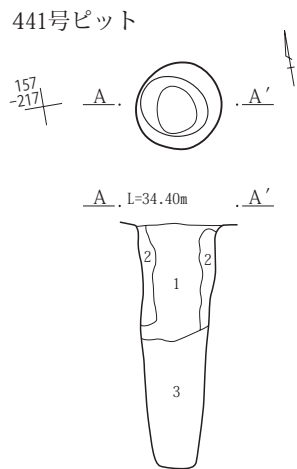
436ピット-1



440号ピット

440号ピットA-A'

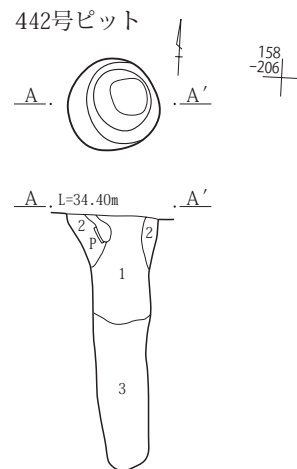
- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊・ハードローム小～中塊・黒色土小～大塊少量
- 2 灰黄褐色土 1層土+ハードローム小～中塊多量
- 3 黒褐色土 ハードローム大塊、ローム漸移層土大塊少量
- 4 黒褐色土 ハードローム粒少量



441号ピット

441号ピットA-A'

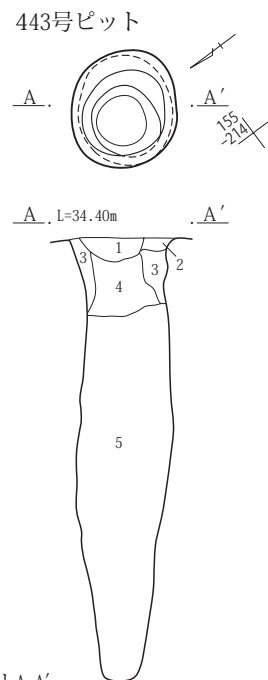
- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊・ハードローム小～中塊・黒色土小～大塊少量
- 2 灰黄褐色土 1層土+ハードローム小～中塊多量
- 3 黒褐色土 ハードローム粒少量



442号ピット

442号ピットA-A'

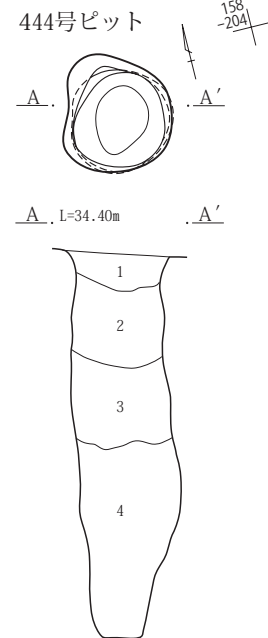
- 1 黒褐色土 2層土+ハードローム小塊
- 2 黒褐色土 ハードローム中～大塊少量、ローム漸移層土小～中塊を含む
- 3 黒褐色土 ハードローム粒少量



443号ピット

443号ピットA-A'

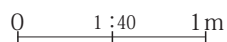
- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊・ハードローム小～中塊・黒色土小～大塊少量
- 2 灰黄褐色土 1層土+ハードローム+黒色土の混土
- 3 黒褐色土 ハードローム中～大塊少量、ローム漸移層土小～中塊を含む
- 4 黒褐色土 3層土+ハードローム小塊
- 5 黒褐色土 ハードローム粒少量、下層に水が滞水



444号ピット

444号ピットA-A'

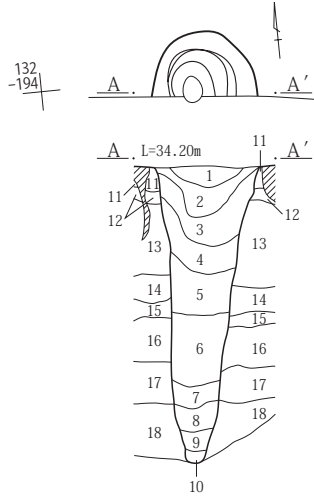
- 1 黒褐色土 ローム粒・小塊少量
- 2 黒褐色土 3層土+多量のハードローム中～大塊
- 3 黒褐色土 ハードローム中～大塊少量、ローム漸移層土小～中塊を含む
- 4 黒褐色土 ハードローム粒少量、下層に水が滞水



第148図 1区436号ピットと出土遺物・1区440～444号ピット

第3章 間之原遺跡の調査

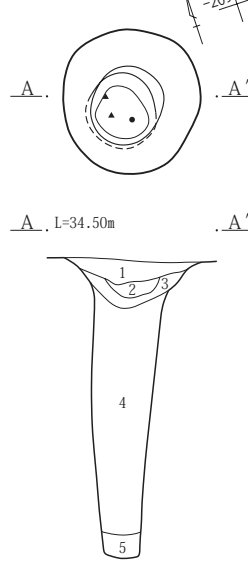
494号ピット



494号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ソフトローム少量、灰白色軽石小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ソフトローム5%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりややあり、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 4層土より少し黒味強い、縮まり弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ローム主体、5・7層土よりローム多い、縮まり弱、粘性ややあり
- 7 にぶい黄褐色土 6層土よりロームやや少量、縮まり弱、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 縮まり弱、粘性ややあり
- 9 灰黄褐色土 黒味強い、縮まり弱、粘性少ない
- 10 にぶい黄褐色土 ローム主体、粘性ややあり
- 11 基本土層VII
- 12 基本土層VIII
- 13 基本土層X
- 14 基本土層XI
- 15 基本土層XI'
- 16 基本土層XII
- 17 基本土層XIII
- 18 基本土層XIV

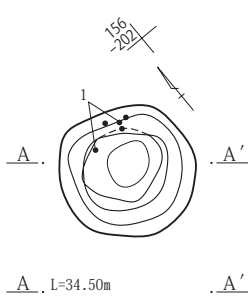
501号ピット



501号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒・ローム小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ハードローム極小塊15%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム20%、炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム70%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 4層土よりやや黒味あり、ソフトローム主体60%、縮まりやや弱、粘性少ない

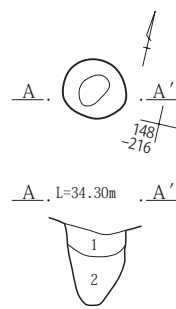
516号ピット



516号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 土器含む、焼土粒・大塊10%、灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性ややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム3%、ローム大塊・焼土小～中粒少量、灰白色軽石微細粒微量、縮まり弱、粘性少ない
- 3 黒褐色土 ローム5%、ローム中塊・焼土微細粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まり弱、粘性少ない
- 4 黒褐色土 ローム20%、焼土微細粒微量、縮まり弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム10%、縮まり弱、粘性少ない
- 6 基本土層のVI層土
- 7 基本土層のVIII層土
- 8 基本土層のX層土
- 8' 基本土層のX'層土
- 9 基本土層のXI層土
- 9' 基本土層のXI'層土
- 10 基本土層のXIII層土
- 11 基本土層のXIV層土

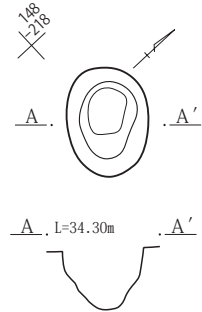
595号ピット



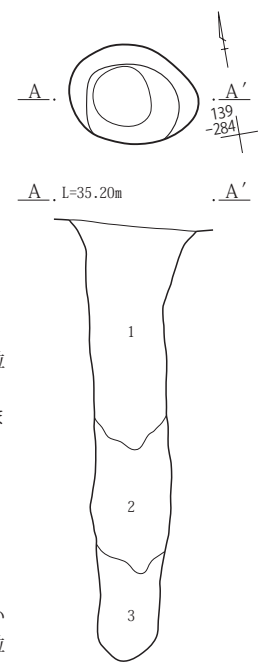
595号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 焼土小～中粒・炭化物小粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム5%、縮まりやや弱、粘性少ない

542号ピット



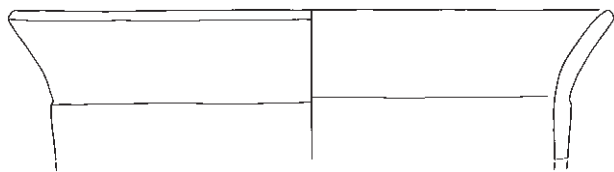
625号ピット



625号ピットA-A'

- 1 暗褐色土 ローム粒1%、縮まり緩くボソボソ、粘性なし
- 2 暗褐色土 ローム粒少量、縮まり弱い
- 3 暗褐色土 ローム小塊多量、ローム粒を含む、縮まりややあり、粘性強

0 1:40 1m



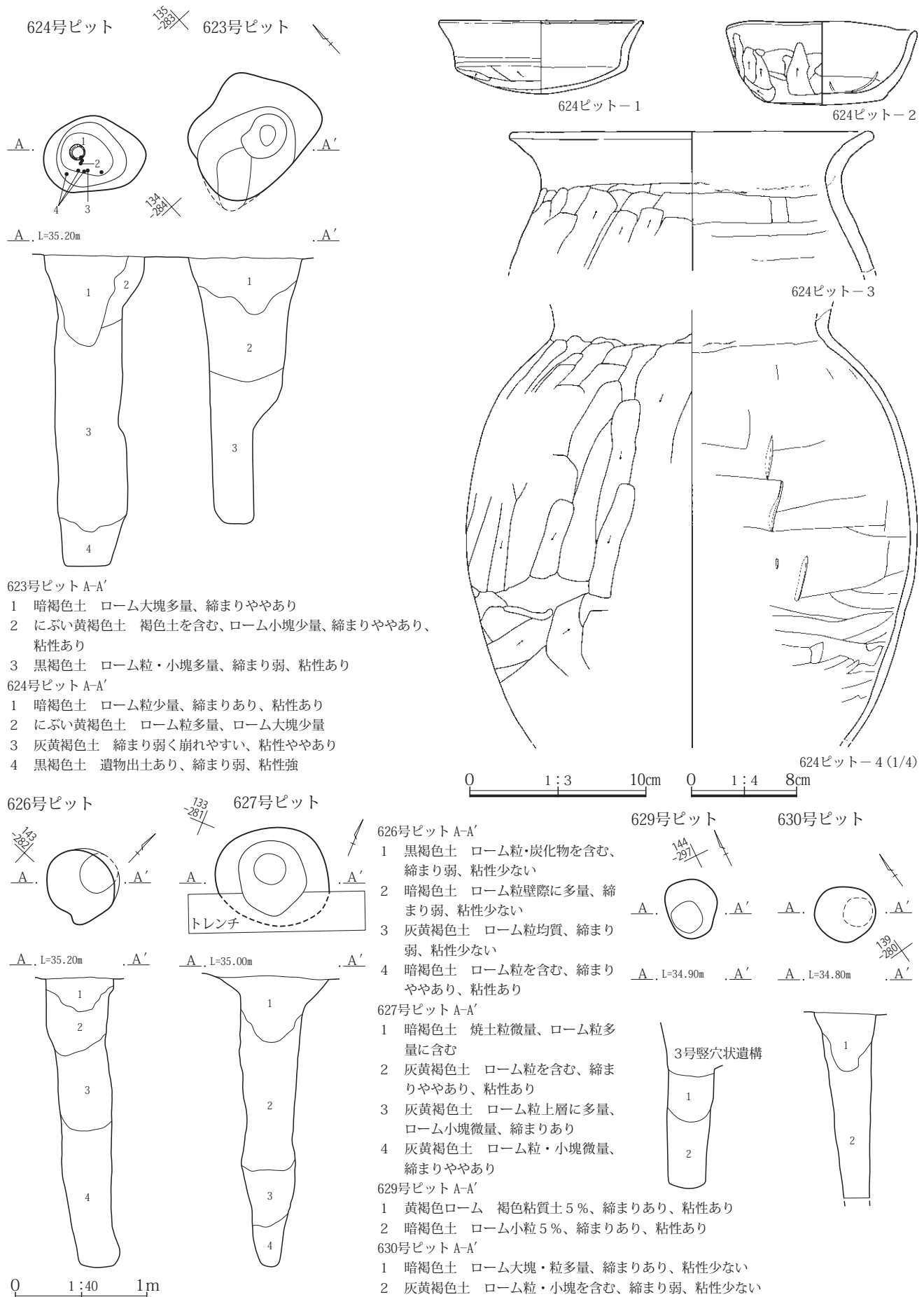
516ピット-1



625ピット-1

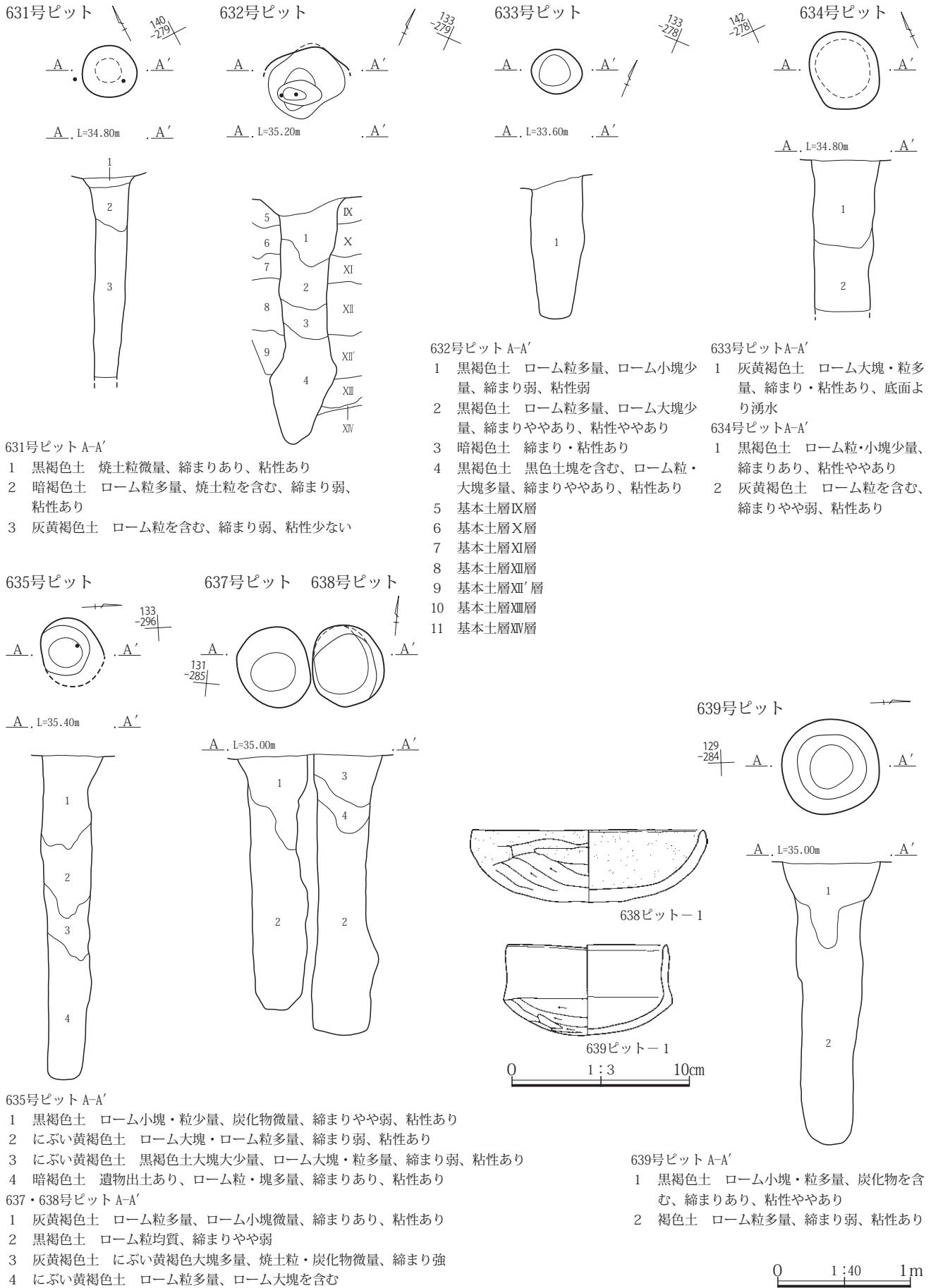
0 1:3 10cm

第149図 1区494・501号ピット・1区516号ピットと出土遺物・1区542・595号ピット・3区625号ピットと出土遺物



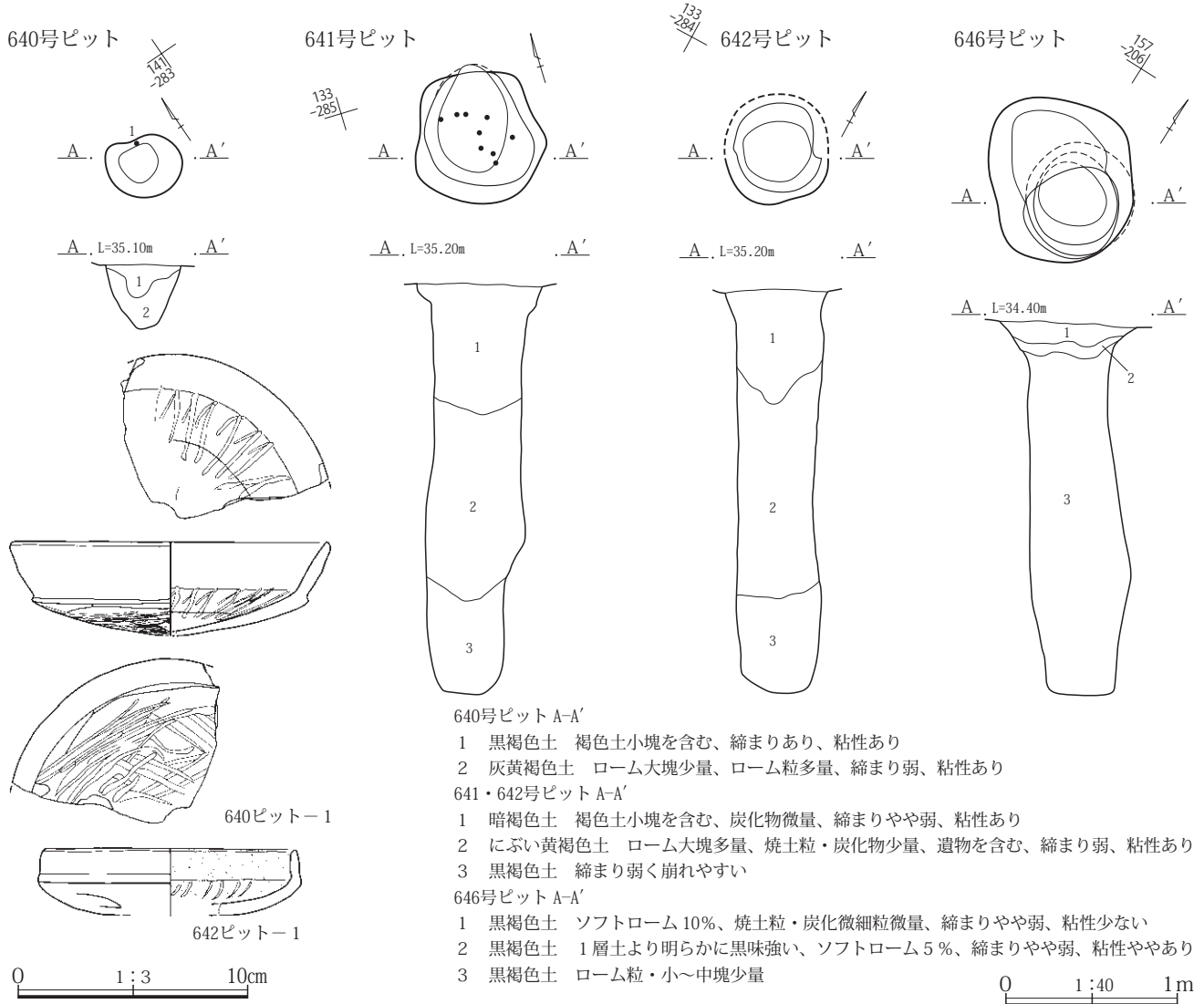
第150図 3区623号ピット・3区624号ピットと出土遺物・3区626・627・629・630号ピット

第3章 間之原遺跡の調査



第151図 3区631~635・637・3区638・639号ピットと出土遺物





第152図 3区640号ピットと出土遺物・3区641・642号ピットと出土遺物・1区646号ピット

#### 4 井戸

1区で井戸を2基確認した。井戸の周辺は、古墳時代から奈良・平安時代の竪穴住居群となるため同時期に使用されていた可能性がある。1区3号井戸は、形状や規模が他のピットと類似するため3区646号ピットに変更し、4号井戸は欠番である。

##### 1区1号井戸(第153図 PL.47)

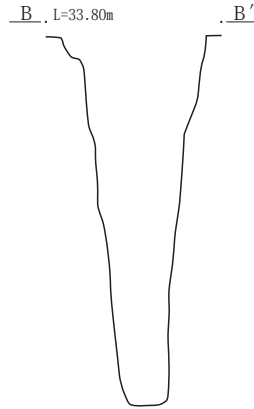
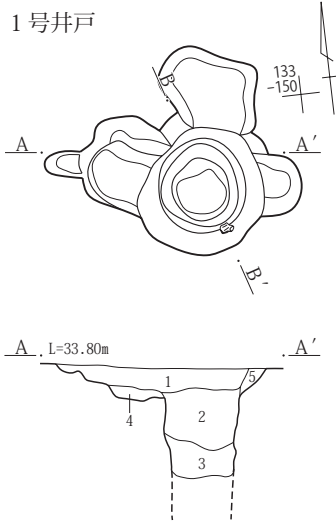
X=131~134、Y=-150~152に位置する。重複する遺構なし。開口部の主軸方向は、N-77°-Wである。平面形状は円形を呈するが、開口部の北側、東側、西側を不定形に約25cm掘り窪め段差を設けている。長径2.05m、短径1.60m、深さ3.05mを測る。底面に湧水が認められ、5月の発掘調査時点では水位(標高)31.39mであった。埋没土はロームや炭化物粒を含む黒褐色土であり自然埋没か人為的な埋戻しかは不明である。遺物の出土は

少なく、非掲載遺物であるが6~7世紀の土師器片7点(小型製品2、大型製品5)が出土する。埋没土及び出土遺物から判断し、時期は古墳時代以降と考えられる。

##### 1区2号井戸(第153図 PL.47)

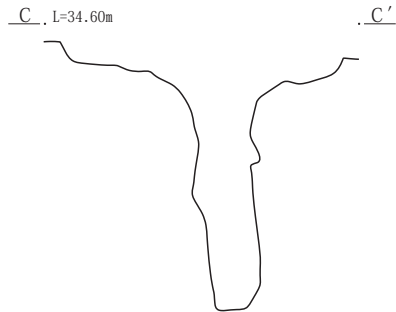
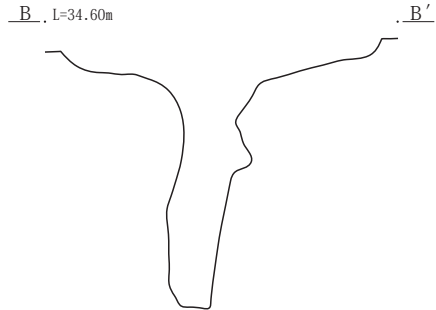
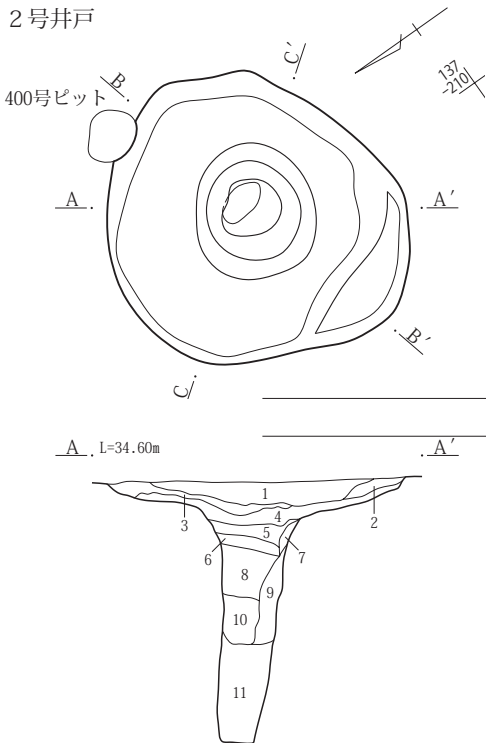
X=137~141、Y=-209~212に位置する。1区400号ピットが1区2号溝上端を掘り込む。主軸方向はN-76°-Eである。平面形状は楕円形を呈し、長径2.55m、短径2.05m、深さ2.05mを測る。底面からほぼ垂直に立ち上がり、開口部周辺を15~25cm浅く掘り窪めている。埋没土にローム粒やローム塊を含み、中層から下層にかけて黒褐色土や暗褐色土の混土、上層は灰黄褐色砂質土による人為的な埋戻しの可能性がある。遺物は土師器杯(第153図1)が埋没土から出土する。非掲載遺物であるが、6~7世紀の土師器片59点(小型製品3、大型製品56)が出土する。埋没土及び出土遺物から時期は、古墳時代以降と考えられる。

第3章 間之原遺跡の調査



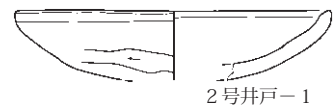
1号井戸A-A'

- 1 黒褐色土 炭化物粒含む、縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 土器含む、ローム5%、縮まりやや弱
- 3 黒褐色土 縮まりやや弱
- 4 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりやや弱
- 5 にぶい黄褐色土 ローム中心80%、縮まりやや弱



2号井戸A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊・炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石小～中粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小塊・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 ソフトローム多量、ハードローム極小塊30%、炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム中粒5%、炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 5 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小～大粒3%、炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 6 灰黄褐色砂質土 ソフトローム7%、縮まりやや弱
- 7 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小塊10%、縮まりやや弱
- 8 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊3%、縮まりやや弱
- 9 灰黄褐色砂質土 ローム5%、縮まりやや弱
- 10 黒褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小塊微量、黒味強い、縮まりやや弱
- 11 黒褐色～暗褐色土 ソフト・ハードローム中～大塊を底面付近により多く含む



0 1:60 2m

0 1:3 10cm

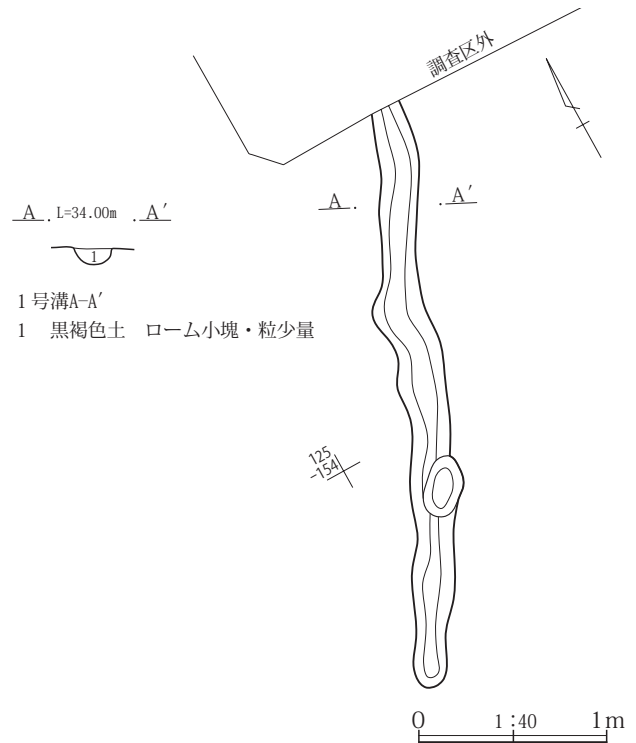
第153図 1区1号井戸・1区2号井戸と出土遺物

5 溝

確認した溝は1条である。1区中央部やや東寄りに位置し、周辺はピット群となっている。

1区1号溝(第154図 PL.47)

X = 124~127、Y = -153~155に位置する。1区88・315号ピットと重複し新旧は不明。調査区北境に位置し、全体の規模は不明である。長さは3.08m以上、上面幅20~28cm、深さ4~5cmである。南西から北東に走行し、標高は北西端33.86m、北東端33.74m、比高0.12mである。勾配は3.89%であり、高低差から南西から北東に流れていたと想定される。ローム小塊・粒を少量混入する黒褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的な埋戻しかは不明である。底面に水流の痕跡は認められない。出土遺物がなく時期の特定はできないが、古墳時代以降と考えられる。



第154図 1区1号溝

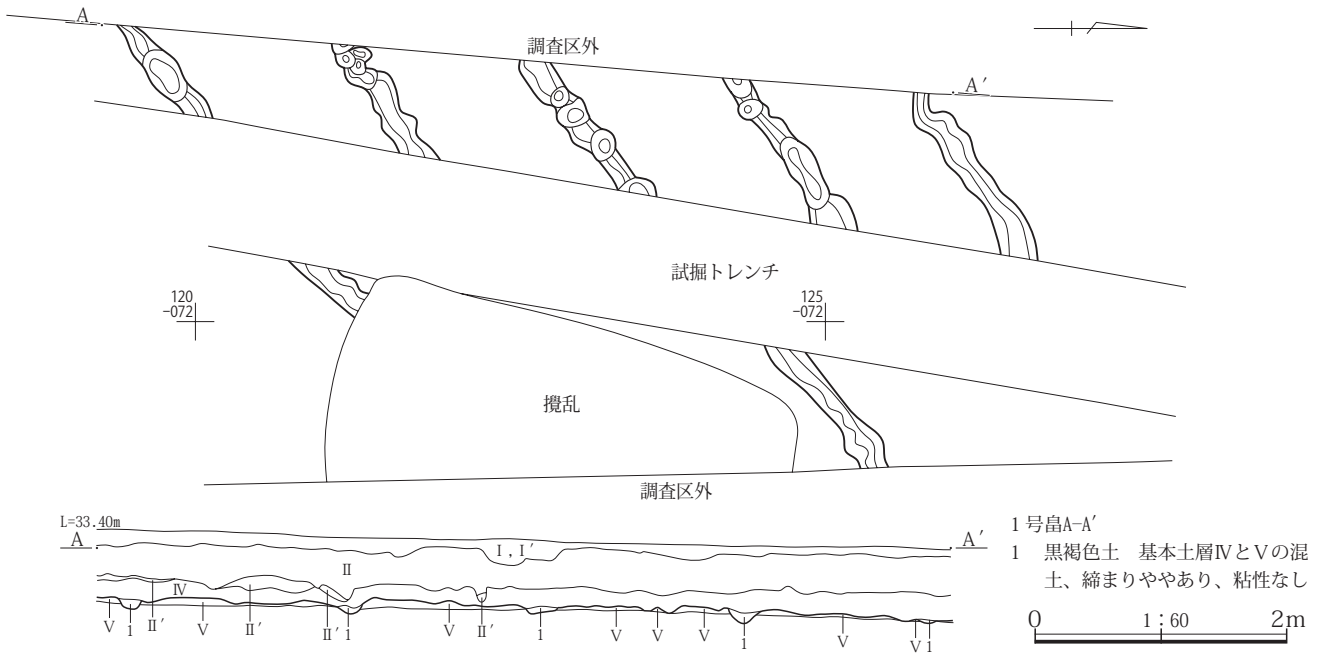
6 畠

確認できた畠は1カ所だけである。1区東端に位置する調査区内で確認した。

1区1号畠(第155図 PL.47)

X = 119~127、Y = -070~075に位置する。1区東端部の調査区で確認したため全体の規模は不明である。重

複する遺構はなかった。軸方向がほぼ同一で、サクとみられる連続した溝状の掘り込みが5条認められたため畠とした。標高は畠の北端で32.80mであり、確認できた畠の面積は、推定で26.25㎡である。畝の高まりは壁面による土層断面によって僅かに確認することができ、サクの底面から畝上面までの高さは8~14cmである。幅及び深さは、北側から幅20~26cm、深さ4cm、幅13~35cm、



第155図 1区1号畠

第3章 間之原遺跡の調査

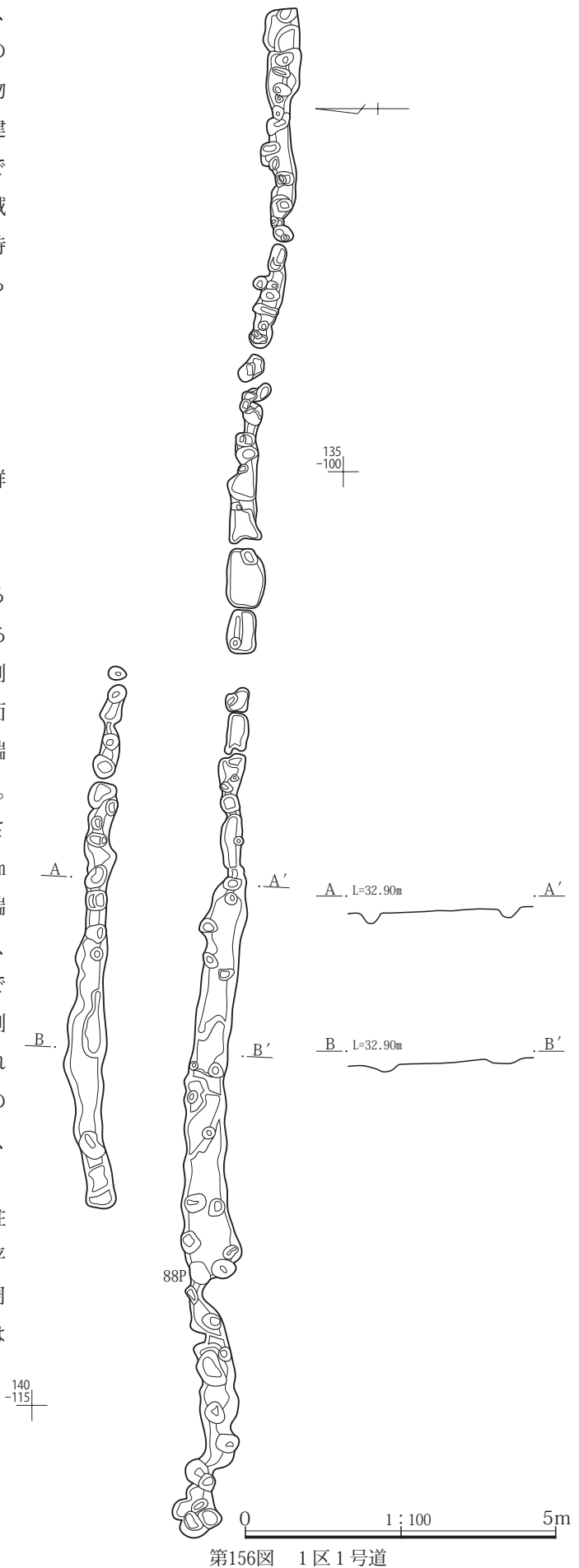
深さ4～6cm、幅17～25cm、深さ2～4cm、幅17～27cm、深さ1～4cm、幅13～27cm、深さ3～8cmを測る。畝の表面を精査したが残存状況は不良であり、耕作痕や植物痕跡などは確認できなかった。1号畝の西側は掘立柱建物やピット群、竪穴住居群となり、周辺では畝を確認できなかったことから、1号畝の東側方面にかけて生産域の広がりが見込める。1号畝から遺物の出土はなく時期を特定することはできないが、古墳時代以降と考えられる。

7 道

1区東側から道1条を確認した。道の周辺はピット群となり、掘立柱建物3棟と柵が隣接している。

1区1号道(第156図 PL.47)

X=100～115、Y=-092～117に位置する。重複する遺構は、1区88号ピットであるが新旧関係は不明である。主軸方向は、N-85°-Eである。北側と南側に側溝を構築している。両側溝に挟まれた部分には、硬化面が認められたため道とした。東端の標高32.57m、西端の標高32.89m、比高32cmであり、勾配は1.30%である。側溝の規模は、北側の溝の長さ8.8m、南側の溝の長さは一部途切れる部分があるが24.6m、側溝の幅23～90cmを測る。南側の側溝底面の標高は、東端32.44m、西端32.67mで、比高差23cmとなる。北側の溝底面の標高は、東端32.45m、西端32.66mで比高差21cmとなり、側溝で囲まれた硬化面の部分と同様に、それぞれ西側から東側にかけて緩やかに下がっている。北側と南側の溝で挟まれた内側の幅は1.30mを測る。北側の側溝は短く、南側の側溝が長い。走行方向はほぼ揃うが同じ規模にはならず、東側と西側の延長部分はそれぞれ確認できなかった。1号道の周辺からは、奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物や柵、ピット群を確認しているが、古墳時代から平安時代に至る竪穴住居は確認できなかった。両側溝や周辺から出土する遺物はなく時期を明確に特定することはできないが、古墳時代以降と考えられる。



第156図 1区1号道

## 第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の発掘調査は、古墳時代の調査と同様に、ローム漸移層(基本土層第V層)上面を遺構確認面として実施した。調査によって1区から3区では、竪穴住居、竪穴状遺構、掘立柱建物、柵、溝、土坑・ピットを確認した。以下遺構ごとに記す。

### 1 竪穴住居

平成22年度の発掘調査では1区から26軒、平成24年度は3区から4軒を確認し、竪穴住居は合わせて30軒となった。前節のとおり古墳時代の竪穴住居は44軒であり、比較すると奈良・平安時代の竪穴住居の軒数が僅かに少なかった。

竪穴住居の時期については、出土遺物などから判断し概ね8世紀第2四半期から9世紀第4四半期である。調査区域外に広がる竪穴住居や他の遺構との重複によって部分的な調査となったものもある。

#### 1区2号竪穴住居(第157・158図 PL.48)

**位置** X=134~185、Y=-160~165

**形状・規模** 平面は長方形である。規模は、長軸長3.95m、短軸長2.87m、壁高北東壁37cm、南西壁47cm、東南壁36cm、北西壁46cmを測る。床面積は10.36㎡である。

**主軸方向** N-55°-E

**重複** なし。

**埋没土** カマド周辺においてレンズ状の堆積が一部認められる。ローム漸移層土を多量に含む黒褐色砂質土がほぼフラットに堆積することから、人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 床面高低差はなくほぼ平坦であるが、カマド焚口の周辺部が壁際より2~4cm低い。使用による硬化面について、中央部で顕著に認められる。ローム小塊を含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北東壁中央部に付設する。燃焼部側壁が失われているが、燃焼部奥側の煙道と天井の一部は比較的良好であった。規模は、全長1.56m、幅1.15m、焚口幅62cm、焚口から燃焼部奥行63cmである。軸方向は、N-52°-

Eである。住居床面から燃焼面が2~6cm低い。燃焼部には焼土が残り、焚口から住居床面に、炭化物が幅約1.2mの範囲で散在する。カマドから炭化種実が出土し、自然科学分析の結果、イネの胚乳完形(第316図5・6)5個と破片4個、コムギ胚乳完形(第316図7)3個と破片2個、アワ胚乳完形1個、ヒエ近似種胚乳完形1個、イネ科(タイヌビエ?)胚乳完形(第316図13)1個、アオツヅラフジ核破片(第317図27)4個が検出された。焚口周辺や煙道にかけて広範囲に焼土が残存し、燃焼部には焼土とともに崩落した粘土が認められ造り変えを行っていたと考えられる。掘り方は、焚口から燃焼部にかけて10~22cm掘り込み、焼土粒や炭化物粒を含む暗褐色土や灰黄褐色土、黒褐色土などで燃焼面を整えていた。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**周溝** 北西壁、南東壁、南西壁の3カ所を掘り窪めている。コーナー部分が掘られていないため周溝は繋がらない。規模は、幅10~23cm、深さ1~5cmを測り、ハードロームや灰黄褐色土塊を含む明黄褐色土により埋没する。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

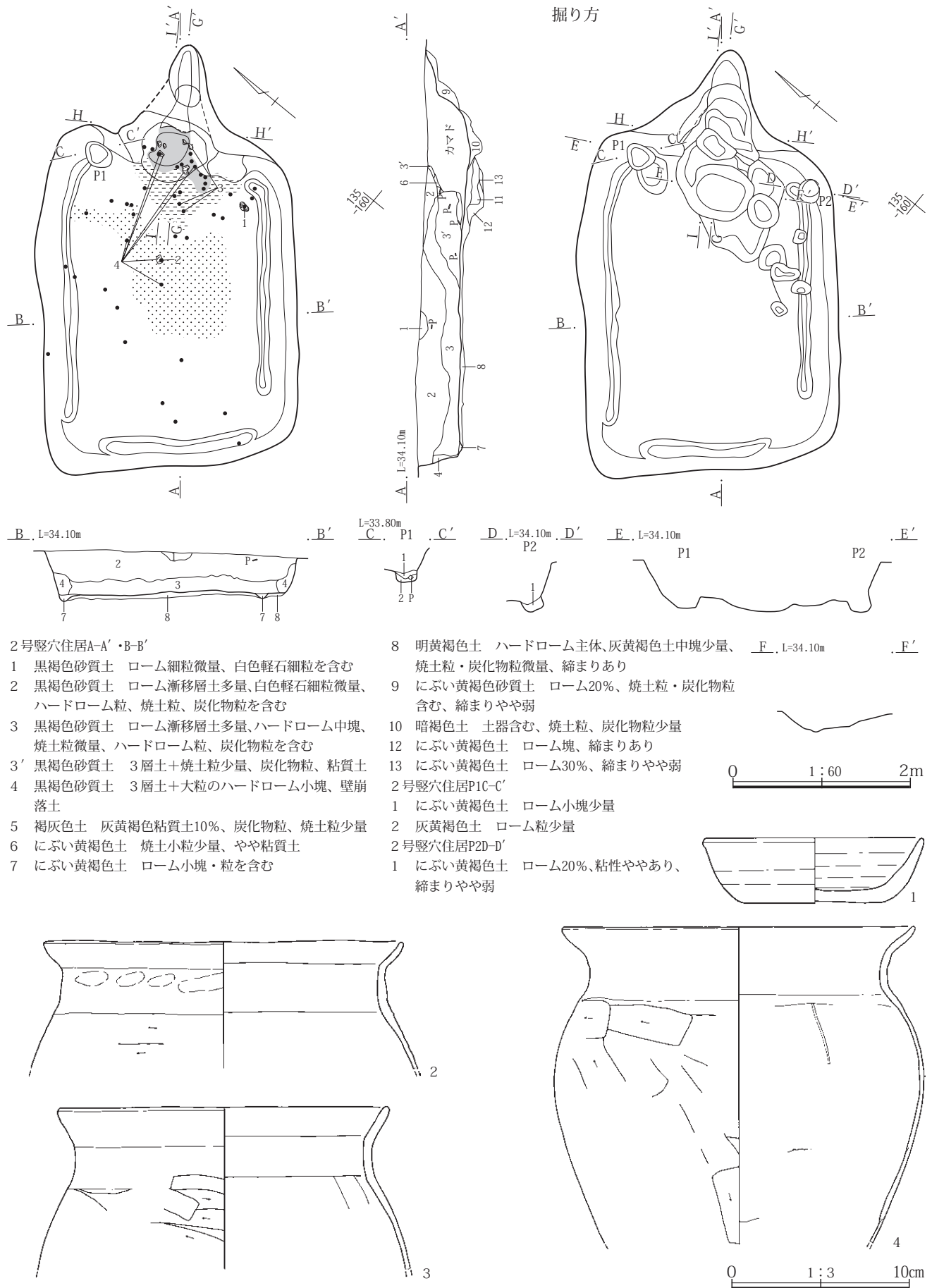
**他の施設** 床面精査によって北隅から1号ピットを確認した。平面形状は楕円形で、長軸35cm、短軸26cm、深さ13cmである。ローム小塊を含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土で埋没し自然埋没か人為的かは不明。位置から1号ピットは貯蔵穴の可能性はある。掘り方調査によって東隅から2号ピットを確認した。平面形状は楕円形で、長軸27cm、短軸23cm、深さ17cmを測る。ローム小塊を20%含むにぶい黄褐色土により人為的な埋戻しと考えられる。

**掘り方** 中央部を約1cmの高さで不定形に残し、周囲を約5cmの深さで掘り込んでいる。ピット状の窪みが認められるが床下土坑は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器甕(第157図4)は、カマド燃焼面や床面直上から、須恵器杯(同図1)は床面上3cm、土師器甕(同図2・3)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片625点(小型製品105、中型製品1、小型製品506、不明13)、須恵器片8点(小型製品4、大型製品4)である。

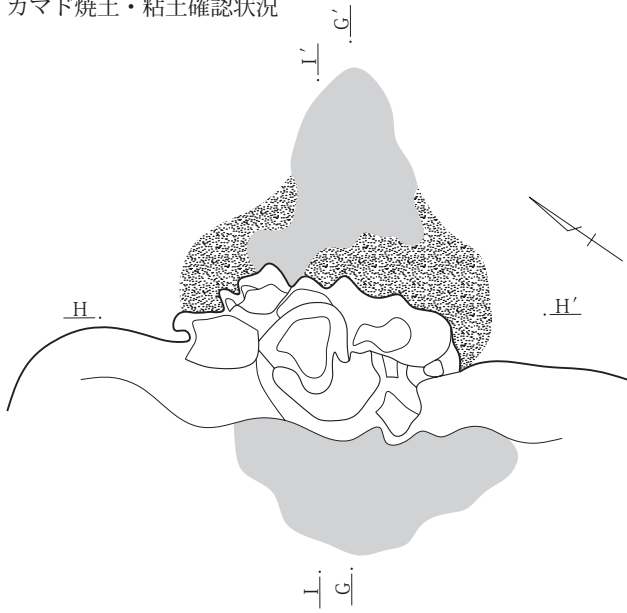
**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



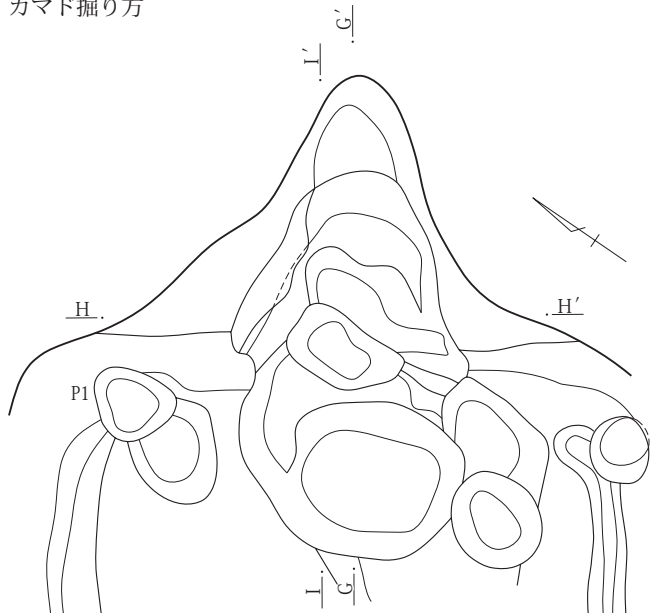


第157図 1区2号竖穴住居と出土遺物

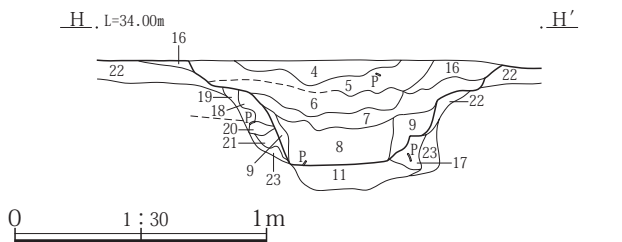
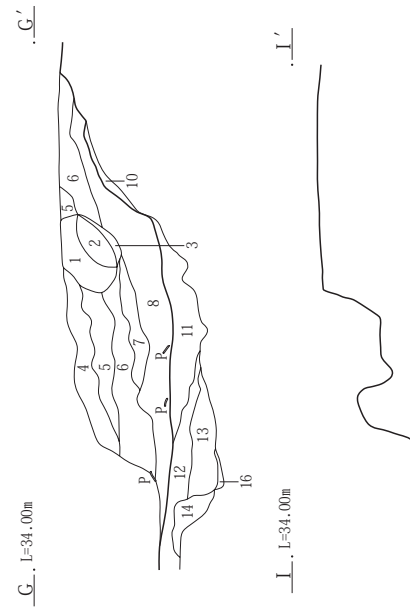
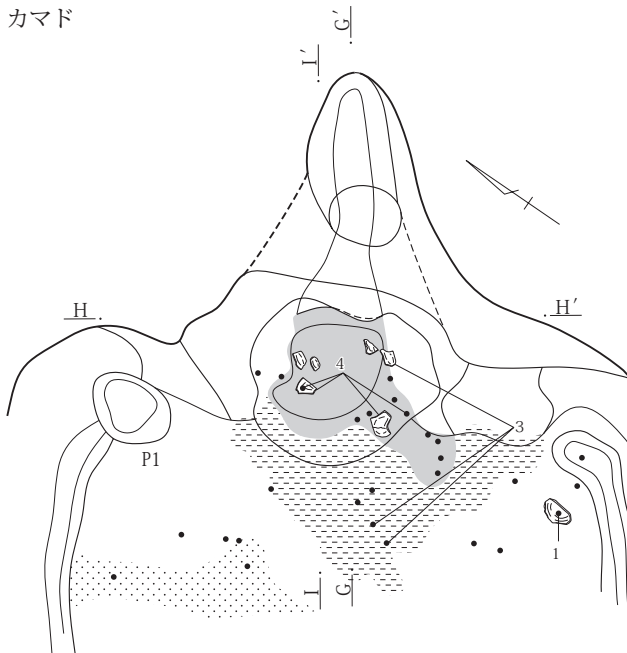
カマド焼土・粘土確認状況



カマド掘り方



カマド



- 2号竪穴住居カマドG-G'・H-H'
- 1 灰黄褐色土 カマド材のシルト質土、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりあり
  - 2 灰黄褐色土 シルト質土+灰黄褐色土、縮まりあり
  - 3 焼土主体 カマド天井内壁の焼焼面、縮まりあり
  - 4 黒褐色砂質土 2層土とほぼ同じ、炭化物粒・焼土粒微量
  - 5 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土(カマド材)20%、縮まりやや弱、粘性ややあり
  - 6 黒褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒4層土よりやや多い、カマド材の塊微量、縮まりやや弱

- 7 灰黄褐色砂質土 カマド天井または焼焼部側壁の崩落土層、炭化物粒混入、縮まりやや弱
- 8 灰黄褐色砂質土 土器含む、灰黄褐色粘土塊少量、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 9 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒混入、縮まりやや弱
- 10 にぶい黄褐色砂質土 ローム20%、焼土粒・炭化物粒含む、縮まりやや弱
- 11 暗褐色土 土器含む、焼土粒・炭化物粒少量
- 12 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりあり
- 13 黒褐色土 縮まりやや弱
- 14 にぶい黄褐色土 ローム塊、縮まりあり
- 15 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりやや弱
- 16 にぶい黄褐色土 ローム40%、焼土粒・炭化物粒少量
- 17 灰黄褐色土 土器含む、焼土粒・炭化物粒少量
- 18 灰黄褐色土 カマド材、ローム10%
- 19 灰黄褐色土 ローム30%
- 20 灰黄褐色土 土器含む、炭化物粒・焼土粒混入
- 21 にぶい黄褐色土 ローム40%、炭化物粒・焼土粒微量
- 22 ソフトローム
- 23 ハードローム

第158図 1区2号竪穴住居カマド

1区8号竪穴住居(第159~162図 PL.48・49)

位置 X=118~123、Y=-181~189

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長5.35m、短軸長4.17m、壁高北壁40cm、南壁47cm、東壁42cm、西壁45cmを測る。床面積は22.29㎡である。

主軸方向 N-96°-E

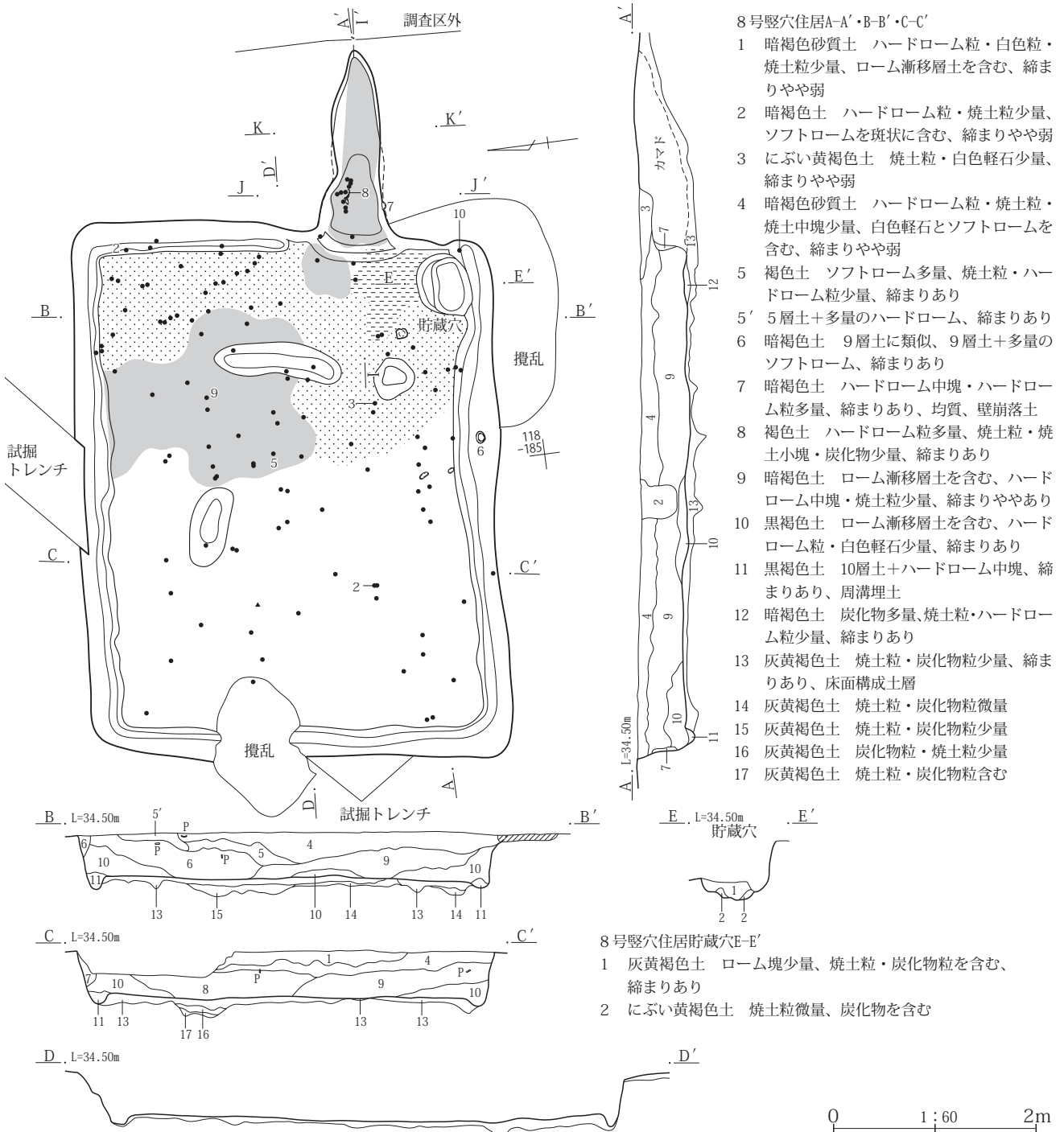
重複 なし。

埋没土 壁際の下層はローム漸移層土を含む黒褐色土による堆積がみられ、上層にかけてローム粒や焼土粒を含

む暗褐色土によるレンズ状堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 床面のほぼ北半部に硬化面と焼土が残存する。焼土と硬化面の範囲内には、長径1.26m、短径31cm、高さ3~7cmの東西方向の間仕切り状となる窪みと直径40cm、高さ3~6cmを測る粘土の高まりを確認した。中央部西寄りにも長径81cm、短径37cm、高さ2cmの楕円形の窪みが認められるが柱穴とは考えがたい。

カマド 東壁のやや南寄りに付設され、燃烧部から煙道



第159図 1区8号竪穴住居

が住居壁面から屋外に長く伸びる。燃烧部側壁を失っているが、燃烧面は焚口から煙道まで焼土の残存状況は良好である。規模は、全長2.01m、幅1.0m、焚口幅62cm、焚口から燃烧部奥行93cmである。軸方向は、N-95°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。燃烧部周辺に25~30cmの掘り方が認められ、埋没土は炭化物粒や焼土粒を含む灰黄褐色土であり、住居床面を構成した埋没土と近似する。炭化種実が多数出土したため自然科学分析を実施し、燃烧部からスモモ核破片5個、イネ穎(基部)破片2個、イネ胚乳完形3個と破片11個、ヒエ胚乳完形2個、アワ?胚乳完形2個、スゲ属果実(第316図17)1個、第9層中からモモ?核破片(第317図21)1個、イネ胚乳完形5個と破片15個、アワ胚乳破片1個など、掘り方からイネ胚乳完形3個と破片1個などが検出された。土師器甕(第162図8)は燃烧面直上から、墨書が認められる須恵器杯(同図7)は、埋没土から出土した。

**貯蔵穴** 床面精査を行いカマド右側で確認した。平面形状は隅丸長方形、規模は、長径60cm、短径50cm、深さ21cmである。北壁に幅約20cm、深さ9cmの段差を設けている。埋没土の大半がローム塊、焼土粒、炭化物粒を含む灰黄褐色土で自然埋没か人為的かは不明である。埋没土は2層に分かれ上層に壁崩落土があり下層はローム粒・塊を含む灰黄褐色土よる人為的な埋戻しと考えられる。

**周溝** 壁の直下に掘られカマド付設部分以外は壁際に沿って全周し、幅7~18cm、深さ7~10cmを測る。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

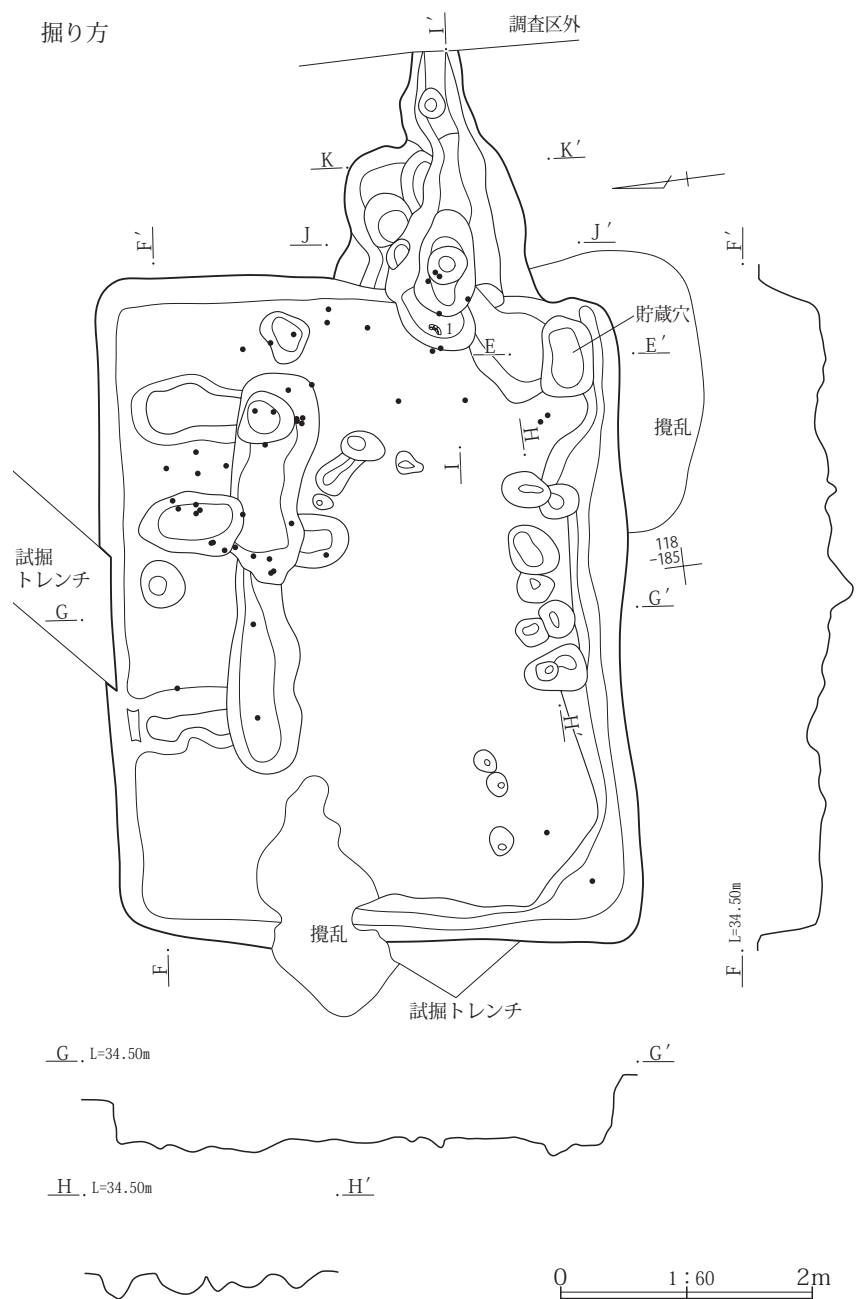
**他の施設** 南壁際の中央部に径26~49cm、深さ13~20cmを測るピット状の窪みが7カ所に連続して並んでいる。出入口の施設や板敷などの上部施設を支えた下部構造のピットの可能性がある。

**掘り方** 床面からローム面まで5~15cm掘り窪められている。住居の北半部で東

西方向と東西方向に伸びる間仕切り状の溝を確認し、東西方向の掘り込みは長径3.19m、幅36~65cm、深さ11~21cmを測る。

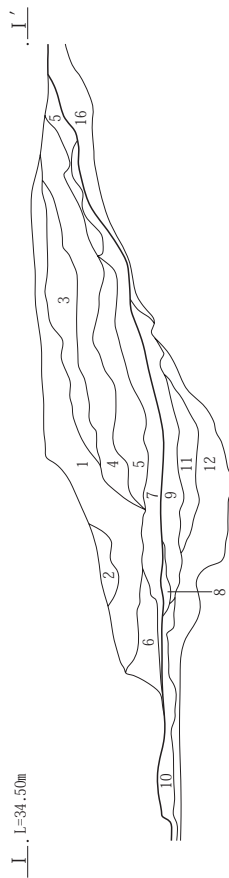
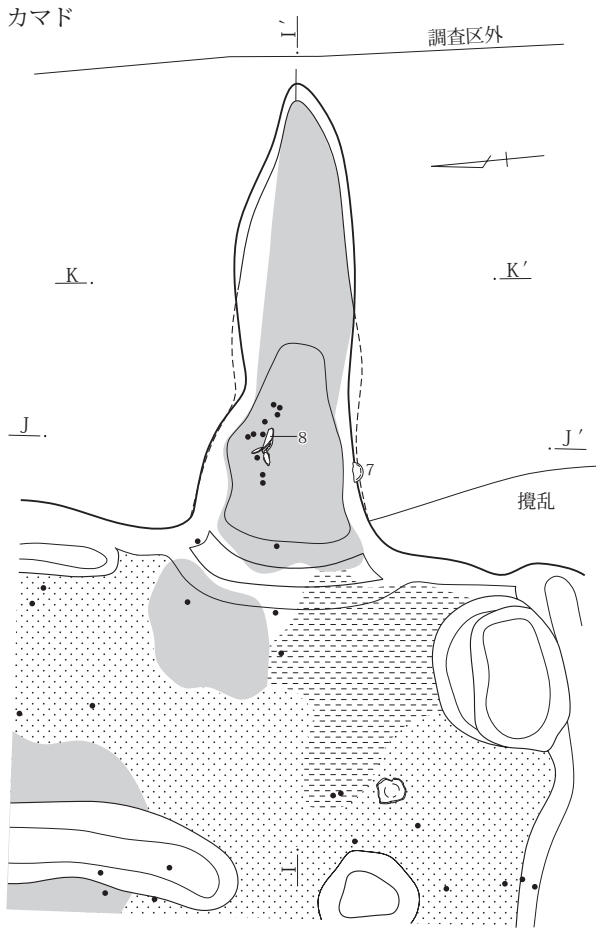
**遺物出土状態** 須恵器杯(同図4)、墨書「奇万カ」が認められる須恵器杯(同図6)土師器甕(同図10)は床面上5~6cmから、須恵器杯(同図2・3)、須恵器碗(同図5)、土師器小型甕(同図9)は埋没土から、土師器杯(同図1)はカマド焚口の掘り方調査によって出土した。非掲載遺物は、土師器片810点(小型製品241、大型製品552、不明17)須恵器片93点(小型製品87、大型製品6)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



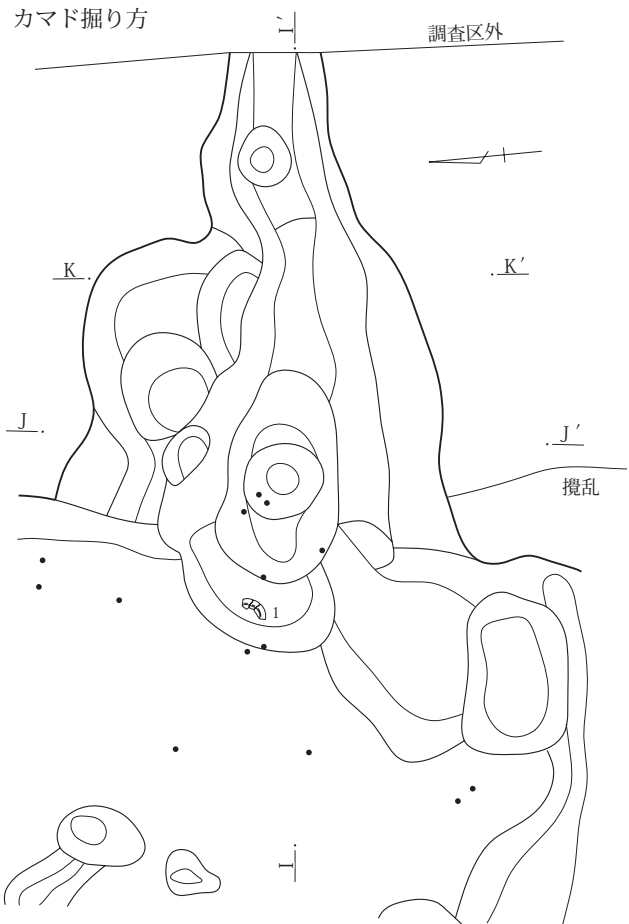
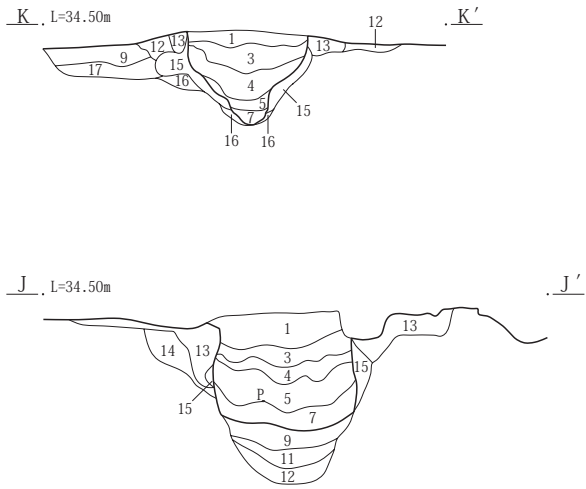
第160図 1区8号竪穴住居掘り方

第3章 間之原遺跡の調査



8号竪穴住居カマドI-I'・J-J'・K-K'

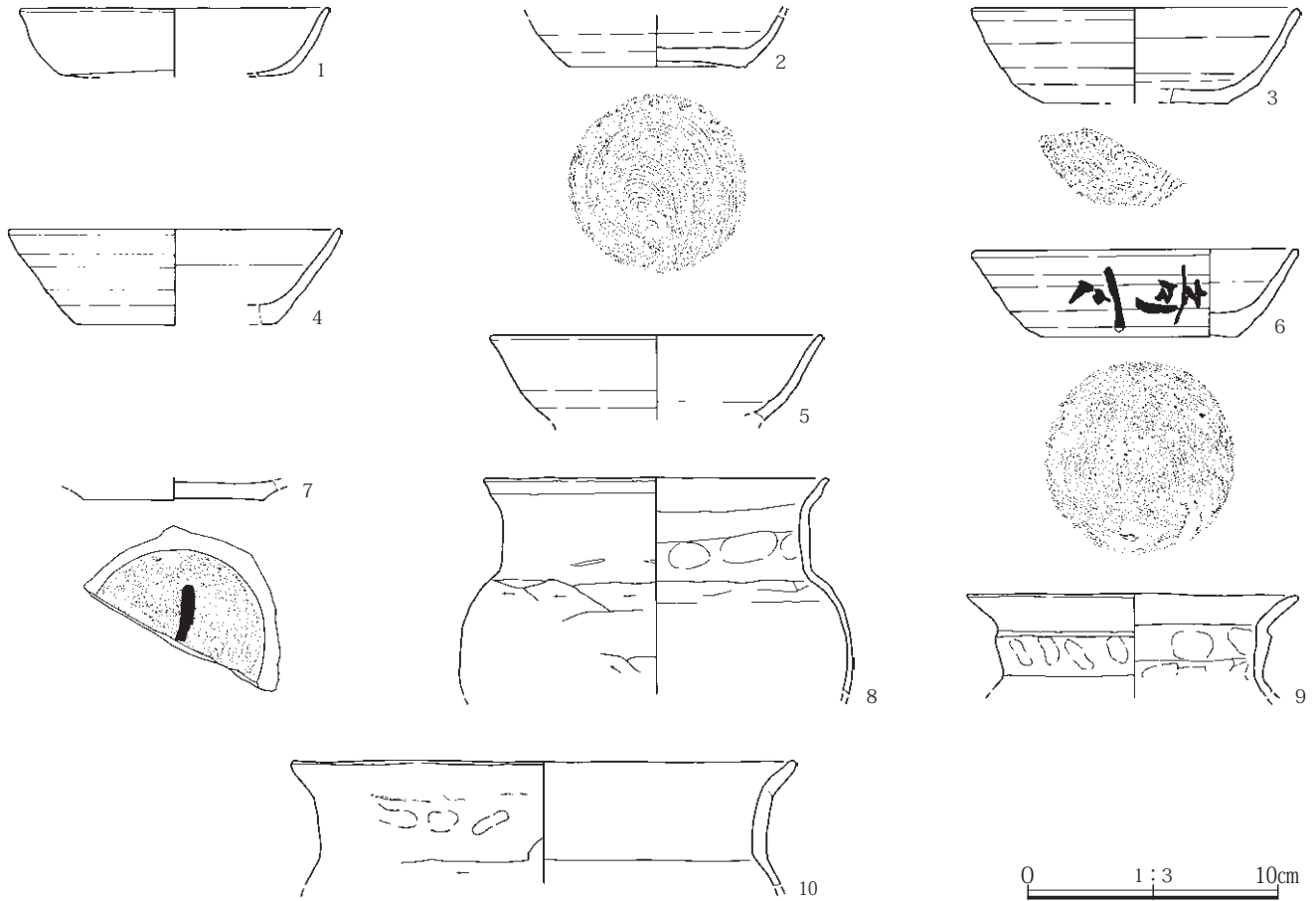
- 1 灰黄褐色土 にぶい黄橙色土塊10%、炭化物小～大粒・焼土小粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 炭化物粒・焼土粒を含む
- 3 灰黄褐色土 炭化物粒・黒褐色土微量、縮まりややあり
- 4 灰黄褐色土 炭化物粒・焼土小粒微量、縮まりややあり
- 5 焼土主体 焼土80%、焼土小塊・土器含む、天井・壁の崩落、縮まりややあり
- 6 黒褐色土 ローム漸移層土を含む、ハードローム粒・白色軽石少量、縮まりあり
- 7 灰黄褐色土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 8 灰黄褐色土 カマド材と同質のシルト質土、焼土粒少量、硬化
- 9 灰黄褐色土 焼土粒5%、炭化物粒微量、縮まりあり
- 10 灰黄褐色土 縮まりあり
- 11 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物微量、縮まりあり
- 12 灰黄褐色土 ローム小～中10%、焼土粒・炭化物微量、縮まりあり
- 13 灰黄褐色土 シルト質土、硬化
- 14 灰黄褐色土 シルト質土+ソフトローム
- 15 焼面
- 16 にぶい黄褐色土 ローム小塊・粒多量
- 17 にぶい黄橙色土 ソフトローム主体、にぶい黄褐色土・焼土粒・炭化物少量



0 1:30 1m

第161図 1区8号竪穴住居カマド





第162図 1区8号竪穴住居出土遺物

**1区9号竪穴住居**(第163図 PL.49)

**位置** X=118~122、Y=-198~202

**形状・規模** 南壁が2号溝と重複し、攪乱のため住居東壁を失っているため全体の形状は不明であるが、長方形と考えられる。確認できる規模は、南北長3.49m、壁高北壁17cm、西壁12cmである。

**主軸方向** N-93°-W

**重複** 1区34号土坑、1区13号掘立柱建物P4、1区370・371号ピット、1区2号溝と重複する。1区34号土坑が1区9号竪穴住居を掘り込み、1区13号掘立柱建物P4、1区370・371号ピットとの新旧は不明である。遺構確認状況から1区2号溝が新しい。

**埋没土** 下層に焼土粒、炭化物粒が多く含まれている。壁際の三角堆積やレンズ状の堆積が認められないことから人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 小型掘削重機による攪乱が床面まで及ぶ。北壁際から中央部にかけて硬化面が残り、焼土は東側において一部を確認した。北側から南側にかけて緩やかな傾斜となり5~8cm低い。ソフトロームを含むにぶい黄褐色土

によって床面を構築する。

**カマド** 床面精査及び掘り方調査で確認できなかったが、床面及び周辺の埋没土に焼土が残存することから東壁際に付設したと考えられる。

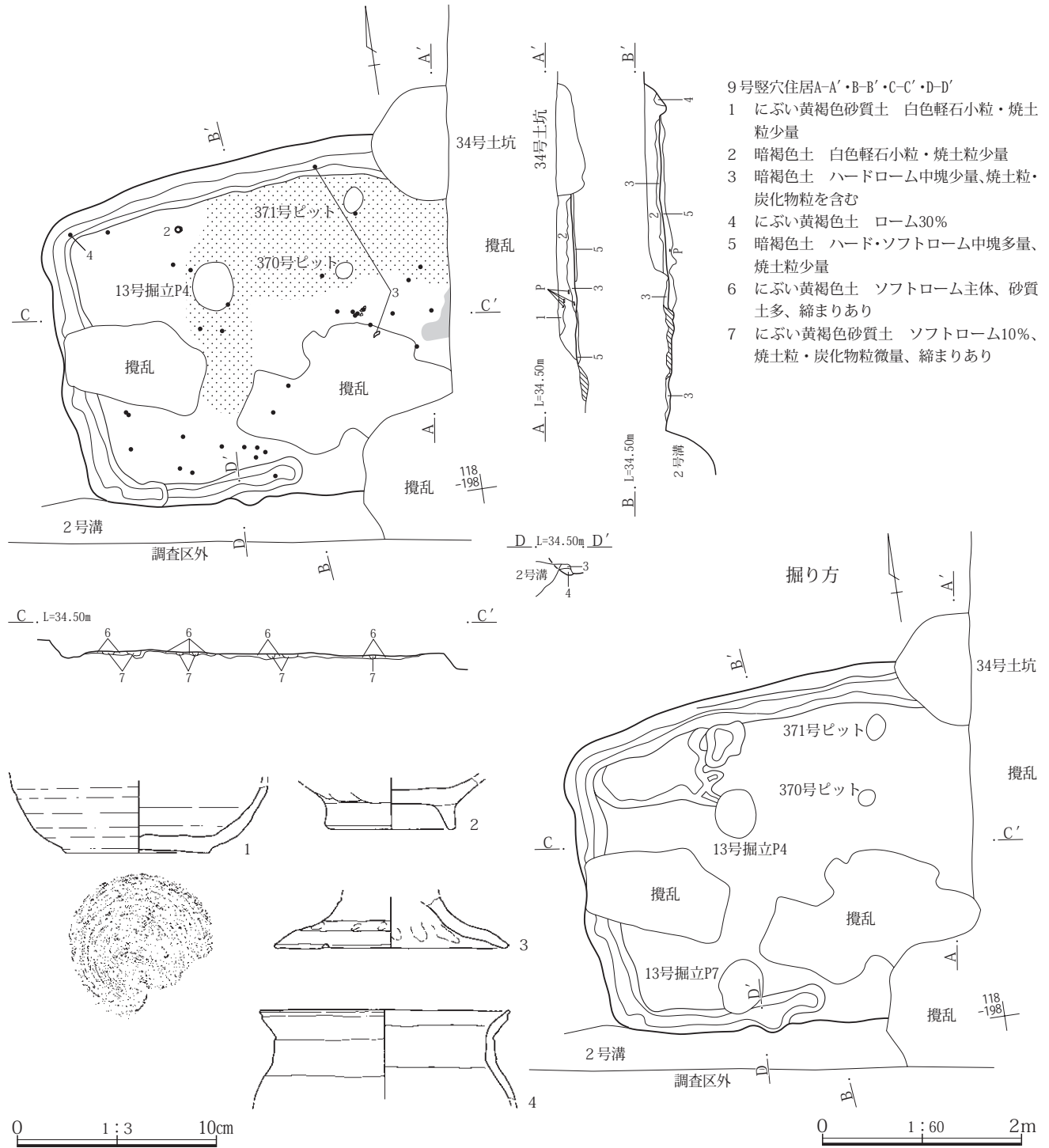
**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**周溝** 北壁、東壁、南壁を掘り窪めている。幅17~40cm、深さ1~13cmを測る。

**掘り方** 床面からローム面まで1~8cmの深さで掘り込まれ、床下の全面にピット状の大小の窪みがあるが、床下施設は認められなかった。

**遺物出土状態** 土師器高杯(第163図3)、土師器小型甕(同図4)は床面上4cmから、須恵器杯(同図1)、土師器碗(同図2)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は土師器片208点(小型製品44、大型製品163、不明1(焼粘土塊)、須恵器片5点(小型製品)、灰釉陶器瓶類1点(瓶類)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。



**1区10号竪穴住居**(第164～167図 PL.49・50)

**位置** X=127～132、Y=-198～202

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.24m、短軸長3.20m、壁高北壁23cm、東壁33cm、西壁21cmを測る。床面積は13.90㎡である。

**主軸方向** N-80°-E

**重複** 1区11号竪穴住居、1区14号掘立柱建物P2・P3と重複する。1区10号竪穴住居が1区11号竪穴住居の

北側を掘り込む。遺構確認状況から1区14号掘立柱建物が新しい。

**埋没土** 壁際に三角堆積が認められ、ローム漸移層土塊やローム塊などを含む褐灰色砂質土や黒褐色土によりほぼフラットに堆積するため人為的な埋戻しと考えられる。

**床面** カマド焚口周辺から床面中央部にかけて硬化面が顕著に認められる。南壁際が北壁際より4～13cm低く南東隅が最も低い。ハードローム塊を多量に含むにぶい黄

褐色砂質土によって床面を構築する。

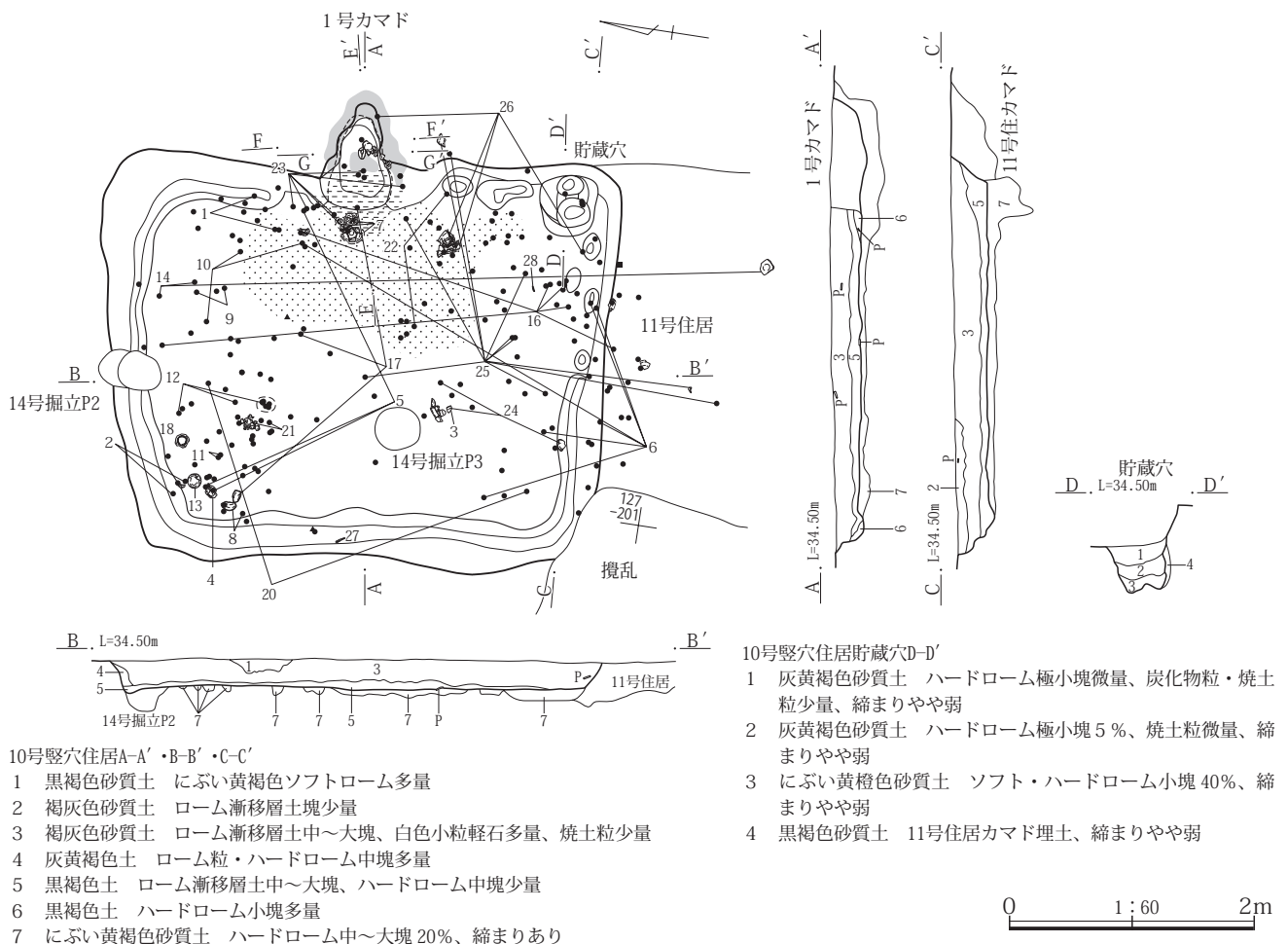
**カマド** 1号カマドは住居東壁中央部に付設する。燃焼部側壁は失われているが、燃焼部奥側の煙道の残存状況は比較的良好であり、燃焼部に支脚石が残る。規模は、焚口幅47cm、焚口から燃焼部奥行77cmであり煙道が東壁より外に伸びる。軸方向はN-76°-Eである。住居床面から3~6cm燃焼面が低い。燃焼部の壁面は焼土化が著しく、焚口から住居床面にかけて炭化物が半円形状に60~70cmの範囲に残る。埋没土に天井崩落土などが縞状に堆積する。掘り方は、焚口から燃焼部を約10cm掘り窪め床面を整える。住居掘り方調査に2号カマドを確認する。2号カマドは1号カマドの右側に位置し2号カマドが古い。埋没土中には焼土を含むにぶい黄褐色土の崩落土がみられ、燃焼部側壁左壁の構成土の一部が残存する。確認できる焚口幅48cm、奥壁までは55cmである。1号カマドより全体的に小規模である。1号カマド燃焼面や焚口外側周辺から炭化種実が多量に出土し、分析の結果、スモモ核破片(第317図20)2個、イネ穎破片1個、イネ

穎(基部)破片(第316図1)28個、イネ穎・胚乳破片(第316図3)1個、イネ胚乳完形(第316図4)15個と破片37個、オオムギ胚乳完形(第316図10)1個、コムギ胚乳完形(第316図8)3個、アワ穎・胚乳完形(第316図12)1個、アワ胚乳完形2個と破片1個、キビ胚乳完形2個と破片1個、ソバ果実完形(第317図26)1個の他、ヒエ近似種胚乳(第316図14)シソ属果実完形(第317図31)1個、トチノキ種子破片(第317図22)1個、ホタルイ属果実完形(第316図18)1個、オナモミ属総苞(第317図32)1個などが検出されている。土師器甕(第167図23)はカマド燃焼面や焚口4~10cmから出土した。

**貯蔵穴** 床面の南東隅において確認する。形状は隅丸長方形。規模は、長径49cm、短径44cm、深さ44cmを測る。下層にローム塊を多量に含むにぶい黄褐色砂質土があることから人為的な埋戻しの可能性がある。

**周溝** 北壁、西壁、東壁の東半部、東壁の北半部で確認する。規模は幅14~40cm、深さ2~11cmを測る。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査では確認できなかった。



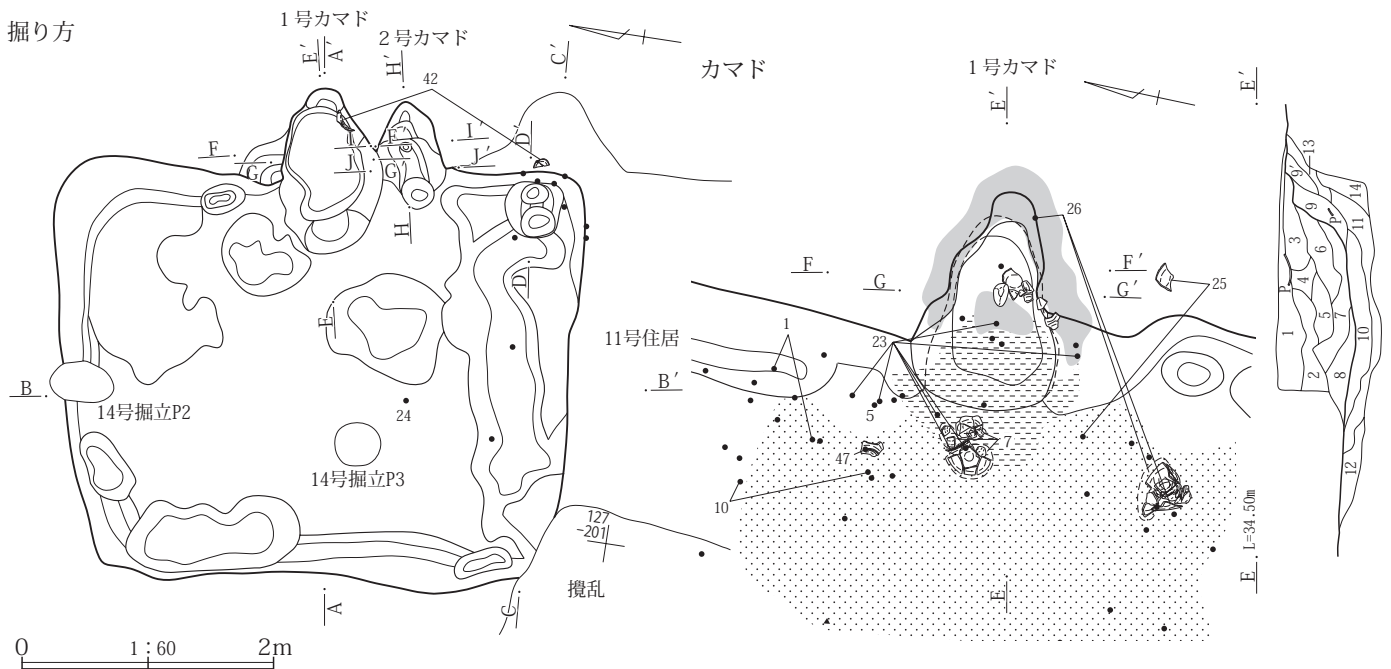
第3章 間之原遺跡の調査

**掘り方** 南壁下、西壁北西隅部寄り、北東隅部で大小土坑状の掘り込みが認められ、11号竪穴住居と重複する南壁際は幅50~65cmの溝状に掘り窪めている。カマド焚口周辺の土坑状の窪みはカマド構築のために掘られたと考えられる。床下の施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** カマド周辺や住居北西隅に集中し、29点を図示した。土師器杯(第166図6)、須恵器椀(第166図16)、土師器甕(第167図25・26)、鉄製品(第167図28)は床面直上、土師器杯(第166図7)、須恵器杯(第166図14)、土師器甕(第167図24)は床面上2~3cmから出土した。土師器杯(第166図1・3・4・8・10~12)、須

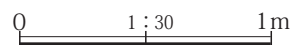
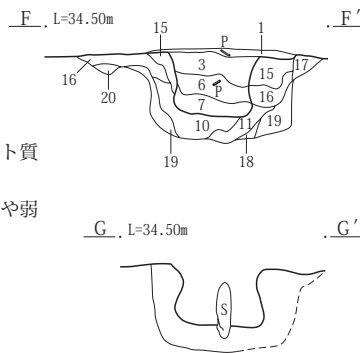
恵器皿(第166図9)、須恵器椀(第167図17)、灰釉陶器椀(第167図18)、須恵器壺(第167図20)、土師器甕(第167図21)、角釘(第167図29)は床面上4~9cmから、黒色土器杯(第166図2)、土師杯(第166図5)、須恵器杯(第166図13)、須恵器椀(第166図15)、灰釉陶器椀(第167図19)、土師器甕(第167図22)、紡輪(第167図27)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は土師器片1,128点(小型製品71、大型製品1,043、不明14)、須恵器片36点(小型製品31、大型製品5)、灰釉陶器4点(椀・皿)にのぼる。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。



10号竪穴住居 1号カマドE-E'・F-F'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒少量、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄橙色土 カマド材のシルト質土主体、縮まりあり
- 4 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒少量、縮まりやや弱
- 5 灰黄褐色土 天井の崩落土+埋土、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり、シルト質
- 6 灰黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒・ハードローム小塊微量、縮まりやや弱
- 7 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊・小粒少量、焼土粒・炭化物粒少量、縮まりやや弱
- 8 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 9 焼土主体 焼土主体の層
- 9' にぶい黄橙色 ローム・焼土30%
- 10 灰黄褐色土 焼土粒10%、ハードローム極小塊3%、炭化物微量
- 11 灰黄褐色土 ハードローム小塊5%
- 12 にぶい黄褐色土 ローム主体
- 13 にぶい黄橙色土 ローム30%
- 14 にぶい黄褐色土 ローム10%
- 15 焼土主体 縮まりあり
- 16 灰黄褐色土 ソフトローム少量、焼土粒微量、縮まりあり
- 17 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒微量、縮まりやや弱
- 18 灰黄褐色砂質土 ローム5%、縮まりやや弱
- 19 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、ハードローム小塊10%、縮まりやや弱
- 20 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、縮まりやや弱



第165図 1区10号竪穴住居(2)

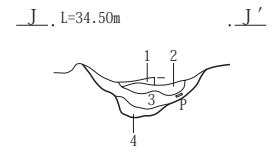
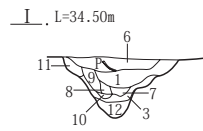
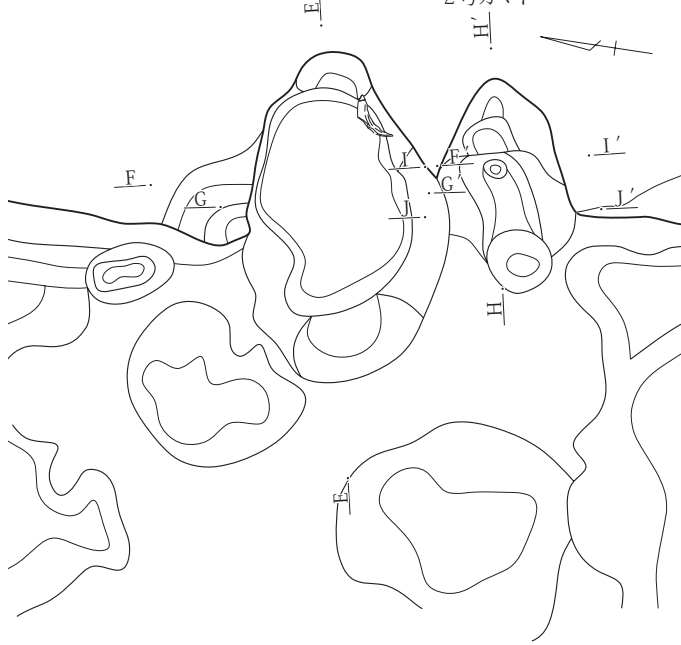
カマド掘り方

1号カマド

2号カマド

H, L=34.50m

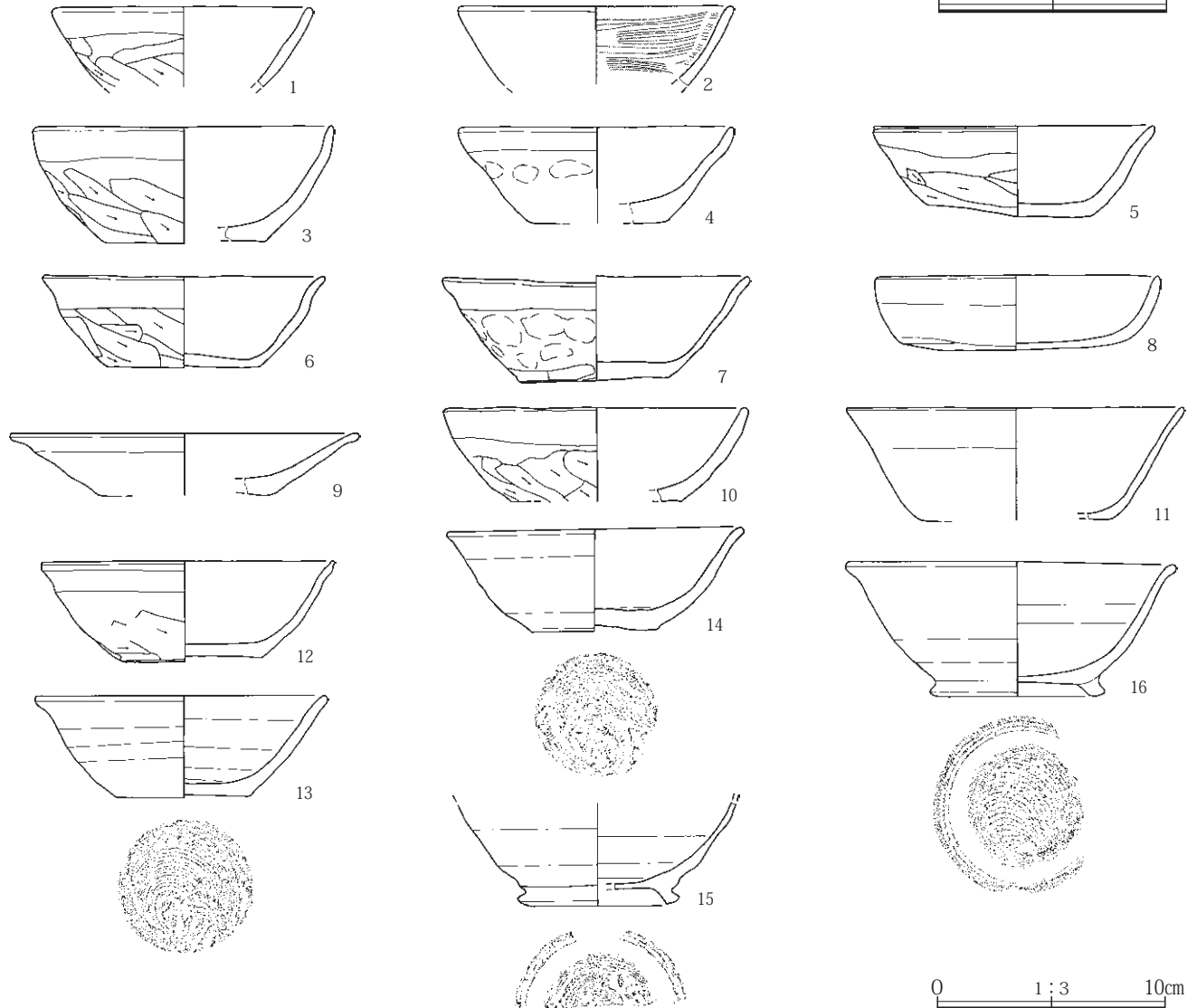
H'



10号竪穴住居2号カマドI-I'・J-J'

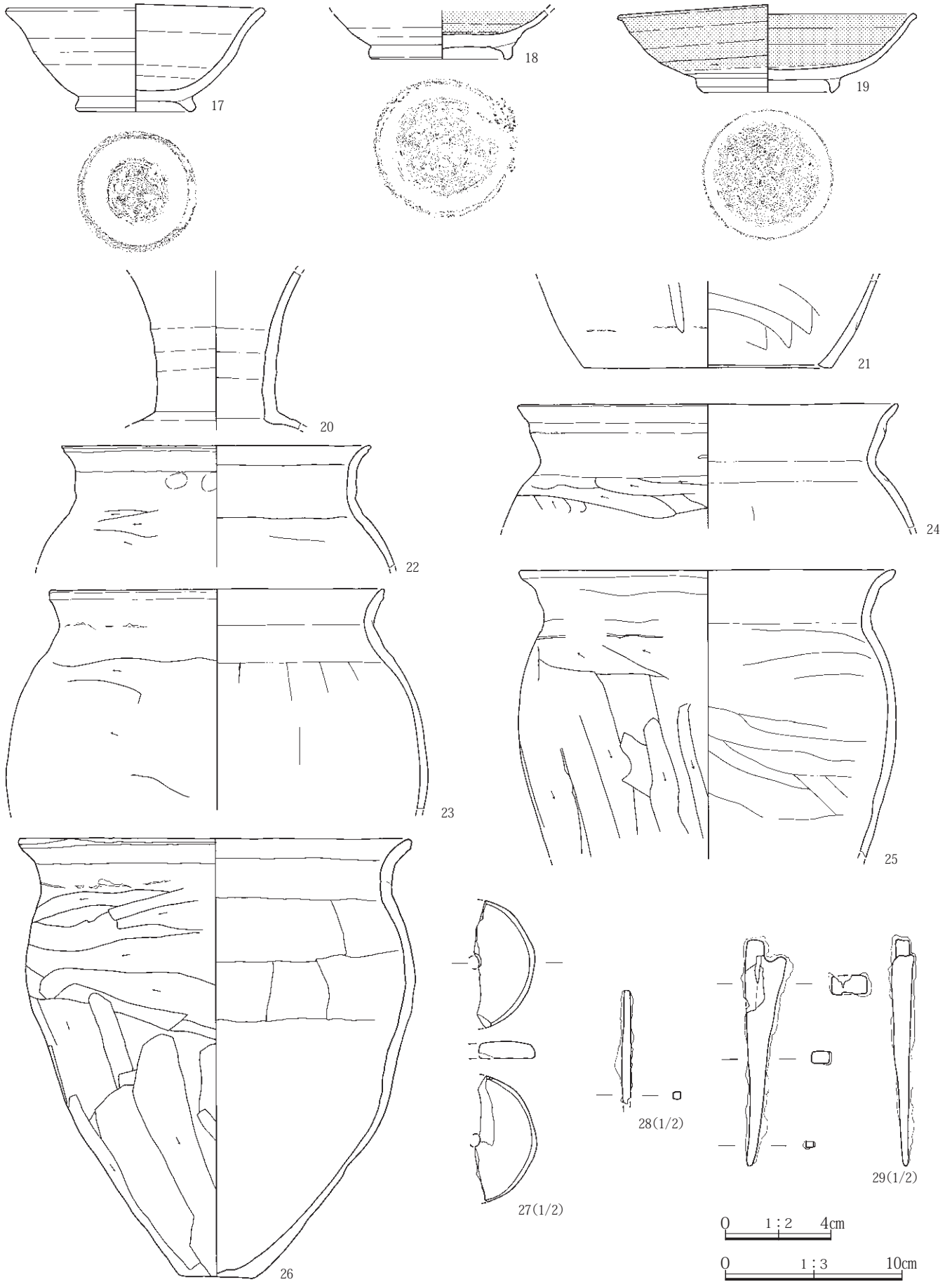
- 1 灰黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒少量、締まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 カマド崩落のシルト質土、締まりあり
- 3 灰黄褐色砂質土 土器含む、焼土粒微量、締まりやや弱
- 4 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒微量、締まりやや弱
- 5 にぶい黄褐色砂質土 燃焼部側壁の構成土、締まりやや弱
- 6 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱
- 7 にぶい黄褐色砂質土 締まりややあり
- 8 にぶい黄褐色砂質土 ローム主体、締まりややあり
- 9 にぶい黄褐色砂質土 ローム20%、締まりややあり
- 10 灰黄褐色砂質土 締まりややあり
- 11 にぶい黄褐色砂質土 ローム20%、締まりややあり
- 12 灰黄褐色砂質土 ローム10%、締まりややあり

0 1:30 1m



第166図 1区10号竪穴住居カマドと出土遺物(1)





第167図 1区10号竪穴住居出土遺物(2)

1区11号竪穴住居(第168～170図 PL.49～51 )

位置 X=125～132、Y=-198～202

形状・規模 1区10号竪穴住居との重複と現代攪乱のため全体の形状と規模は不明。確認できる規模は、南辺2.95m、壁高南壁22cm、東壁21cmである。

主軸方向 N-81°-E

重複 1区10号竪穴住居、1区11号掘立柱建物と重複する。住居北側が1区10号竪穴住居に掘り込まれる。貯蔵穴が1区11号掘立柱建物P5の埋没土を掘り込む。

埋没土 壁際の三角堆積やレンズ状の堆積がみられず第3・4層がローム漸移層土塊を含む褐灰色砂質土と黒褐色土でほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 北側から南側にかけて2～5cm緩やかに下る。使用による硬化面は確認できなかった。貯蔵穴の近くから不定形の粘土範囲を確認した。ソフトロームを主体とするにぶい黄褐色土で床面を構築する。

カマド 埋没土の断面観察から灰白色のシルト質土は天井の一部であり、第4・5層は煙道と考えられる。規模は、焚口幅88cm、焚口から燃烧部奥行60cmである。軸方向はN-89°-Eである。掘り方は、燃烧面から煙道にかけて5～12cm掘り込み灰黄褐色土によって整える。出

土した炭化種実を観察しヒエ(PL.93-24)を検出した。

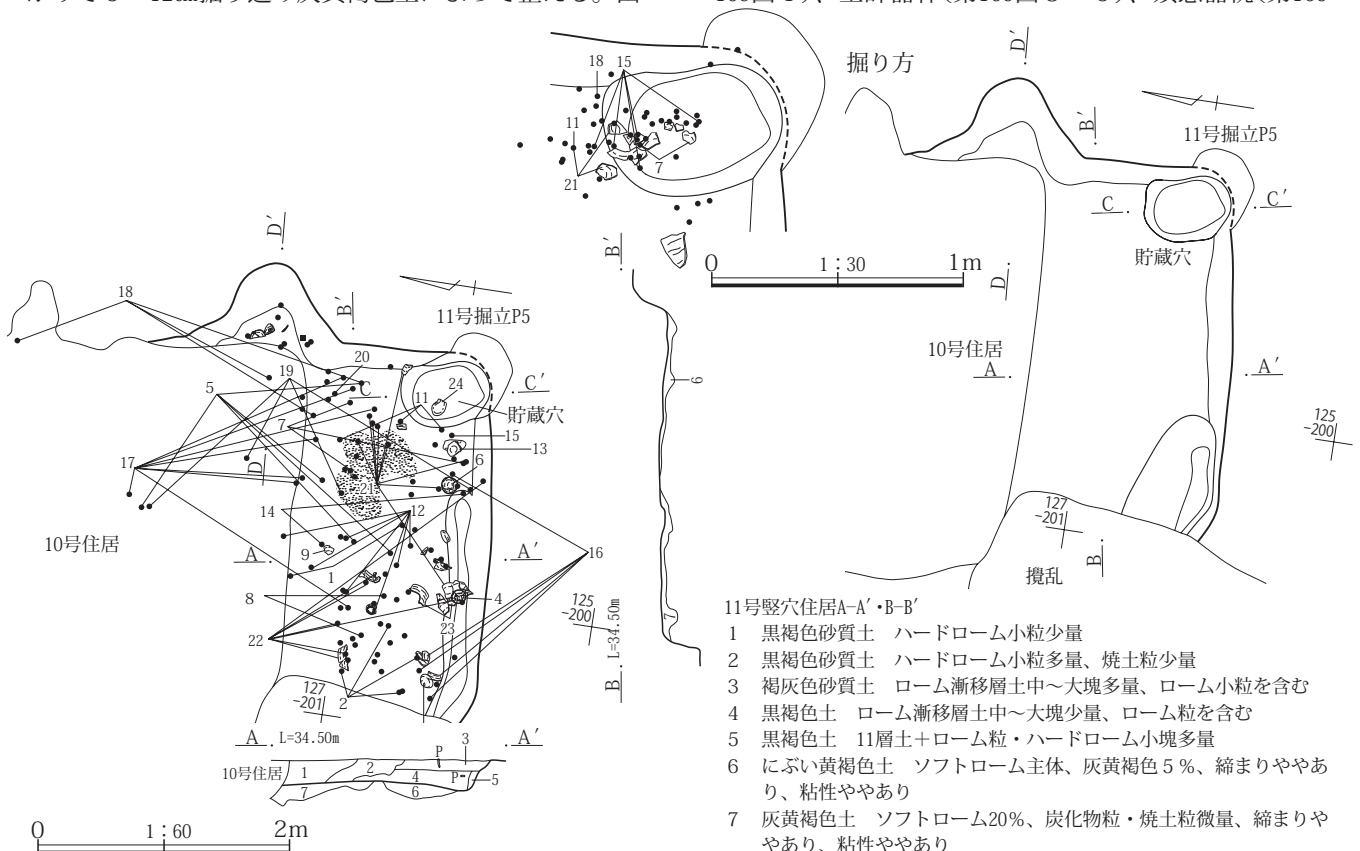
貯蔵穴 南東隅に構築する。形状は隅丸長方形を呈し、規模は、長径70cm、短径49cm、深さ43cmを測る。下層はローム塊を灰黄褐色土、上層はローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土と遺物を含む灰黄褐色土で自然埋没か人為的かは不明。炭化種実が出土し、分析の結果からイネ類(基部)破片(第316図2)16個、イネ胚乳完形1個と破片3個、オオムギ胚乳完形(第316図9)1個、コムギ胚乳完形1個と破片4個、アワ?胚乳完形1個の他、ツユクサ種子完形(第316図16)1個、タデ属果実完形(第317図25)1個が検出された。埋没土上面からの遺物の出土が多く、石製品(第170図25)は底面上33cmから出土した。

柱穴 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

周溝 南壁際で確認した。規模は幅20～27cm、深さ2～6cmを測る。

掘り方 西壁際や南壁際を土坑状に掘り窪めている。

遺物出土状態 灰釉陶器段皿(第169図2)、土師器杯(第169図6・7)、須恵器杯(第169図11)、須恵器椀(第169図13)、土師器台付甕(第169図14)、土師器小型台付甕(第169図15)、土師器甕(第170図20・21・23)、土師器小型甕(第170図18)は床面直上から出土した。土師器皿か(第169図1)、土師器杯(第169図3・5)、須恵器椀(第169



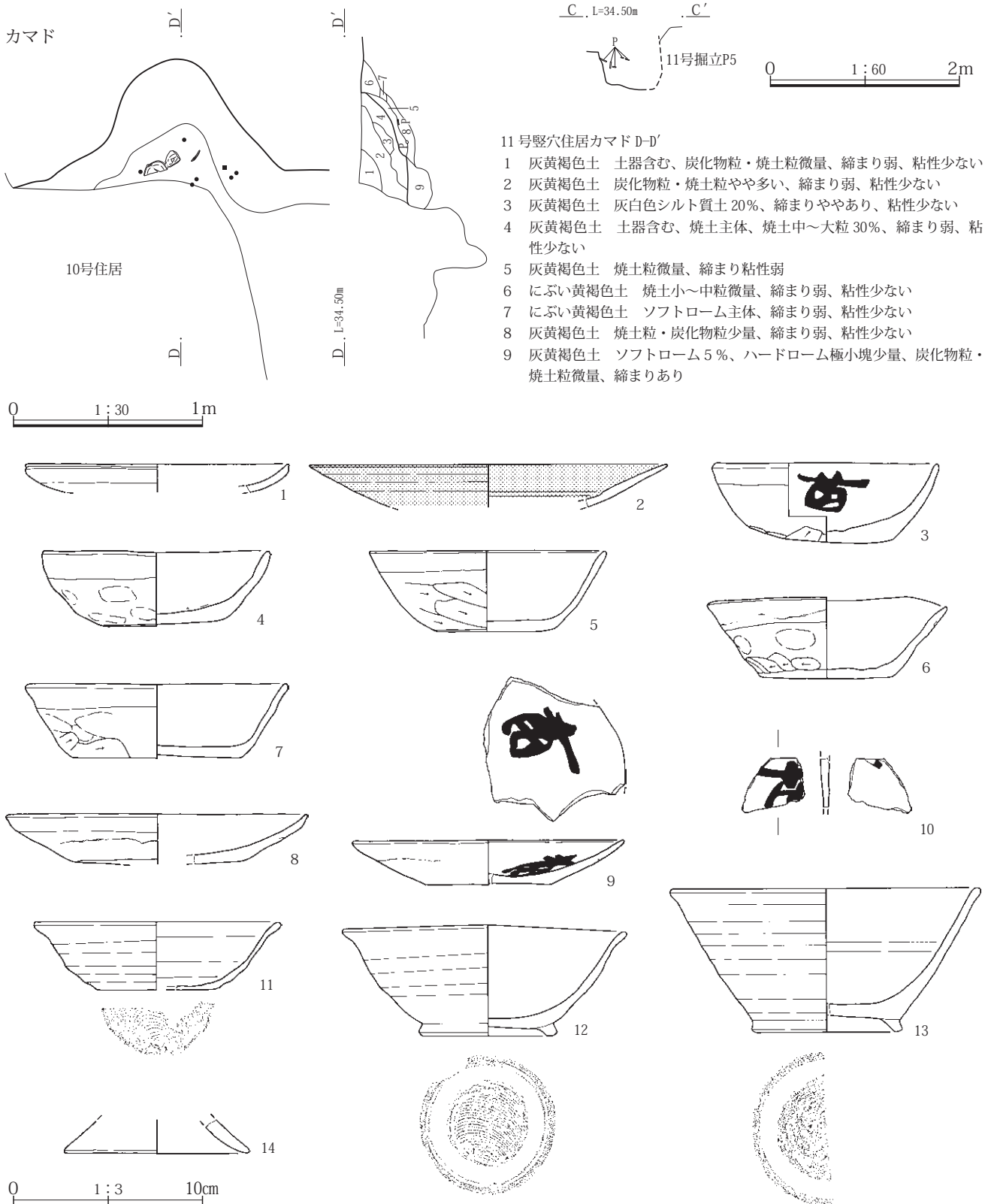
第168図 1区11号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

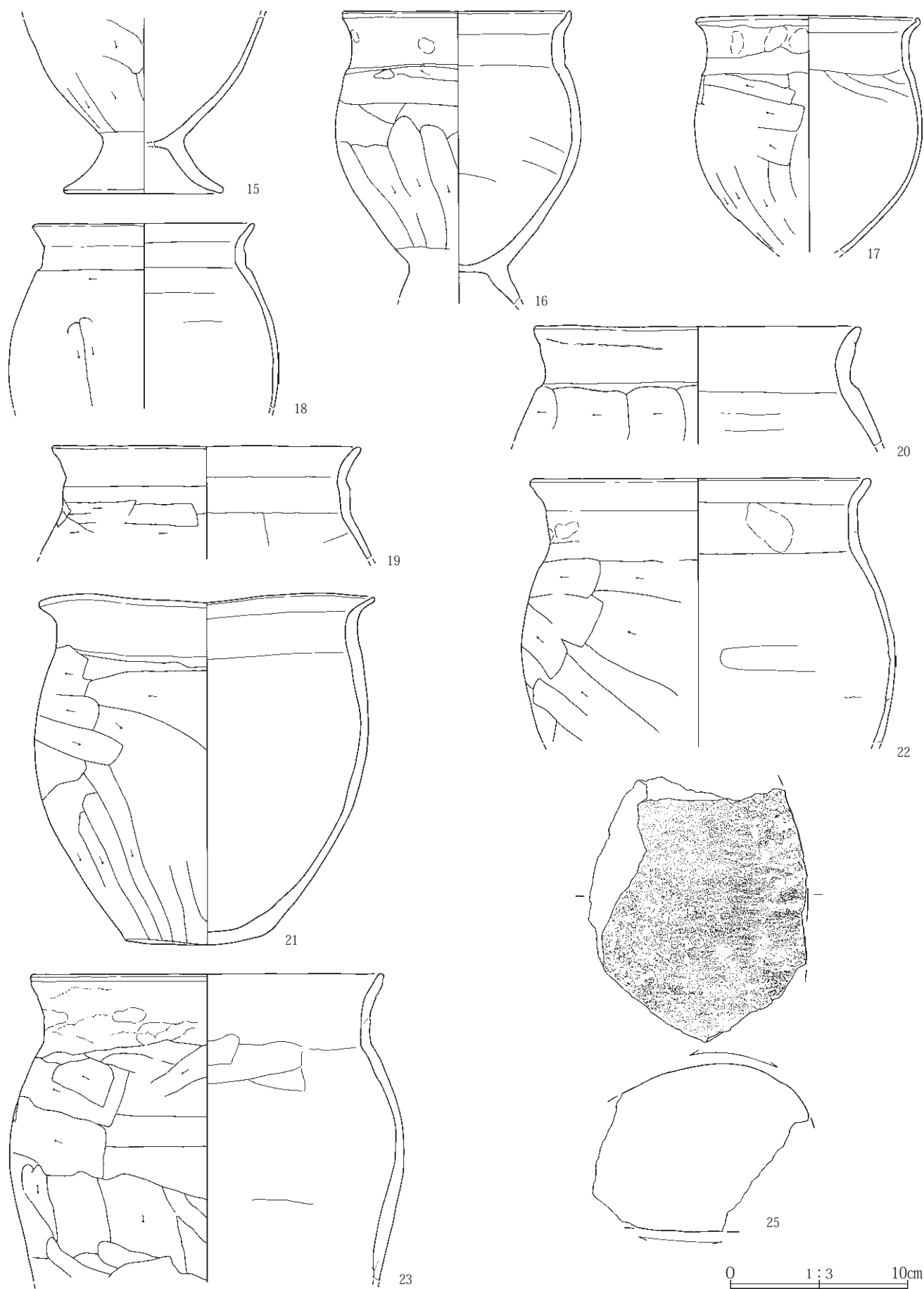
図12)、土師器台付甕(第170図16)は床面上3~8cmから、土師器杯(第169図4・9・10)、土師器皿(第168図8)、土師器小型台付甕(第170図17)、土師器甕(第170図19・22)は埋没土からの出土である。土師器杯(第169図3・9・

10)には墨書が認められる。非掲載遺物は、土師器片48点(大型製品)である。

所見 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。



第169図 1区11号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第170図 1区11号竪穴住居出土遺物(2)

1区14号竪穴住居(第171～173図 PL.51)

位置 X=121～126、Y=-205～210

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長3.93m、短軸長3.15m、壁高南壁35cm、東壁34cm、西壁33を測る。床面積は12.67㎡である。

主軸方向 N-70°-E

重複 1区15号竪穴住居と重複する。1区14号竪穴住居が15号竪穴住居を掘り込む。

埋没土 灰黄褐色土によるレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 中央部からカマド焚口周辺部に硬化面が認められるとともに床面レベルが壁際より3～6cm低い。ローム塊を含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土により床面を構築する。

カマド 東壁南東隅に付設する。攪乱によって燃焼部側壁右側を失っている。燃焼部奥から煙道の残存状況は比較的良好で焼土化が著しい。規模は、全長1.46m、焚口から奥壁までの奥行は85cm、左袖状残存部50cmである。軸方向はN-68°-Eである。軸方向は住居の主軸方向とほぼ一致する。住居床面から2～3cm燃焼面が低い。燃焼面に焼土と崩落した粘土が残る。掘り方は、焚口周辺部を15cm、燃焼面から煙道にかけて5～18cm掘り窪めて整える。カマド前面から出土した炭化種実を観察した

結果、イネを検出するとともに、自然科学分析によってスモモ?核破片8個、マメ科種子破片2個を検出した。

貯蔵穴 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

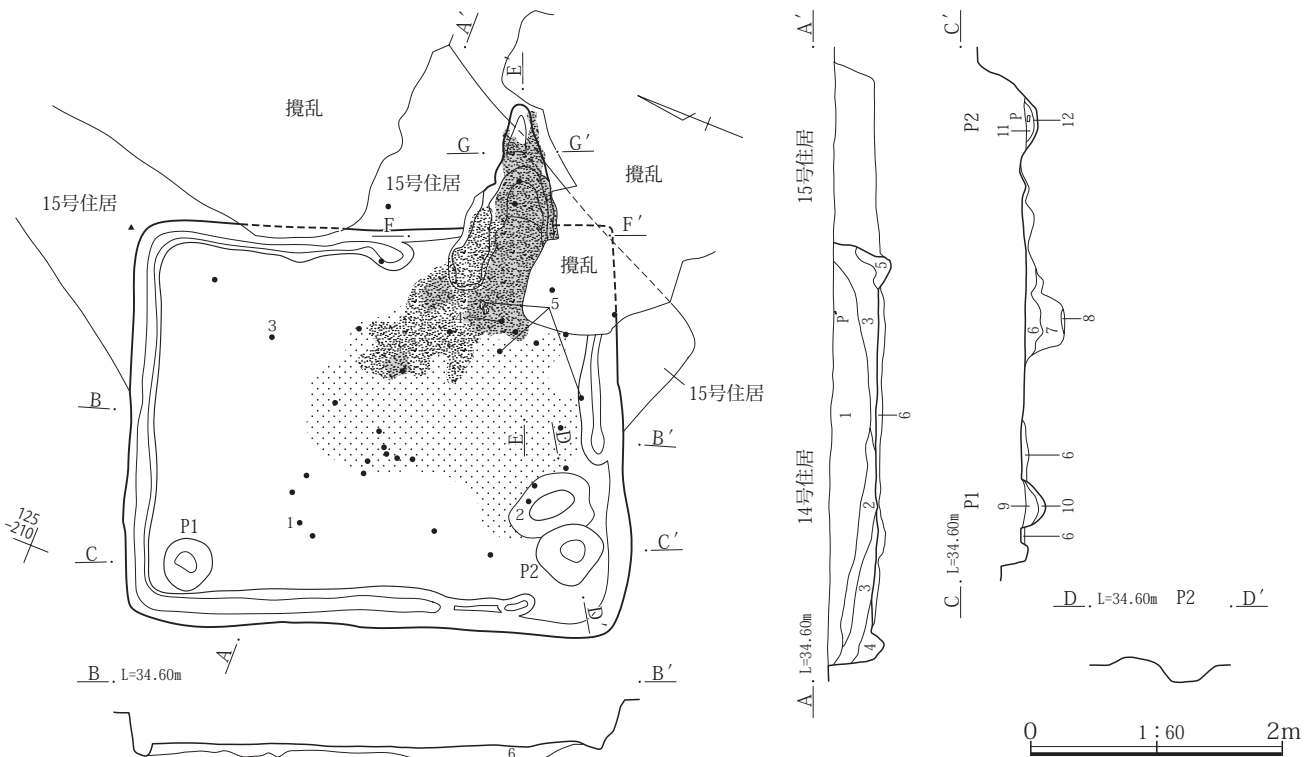
柱穴 床面の北西隅と南西隅から2基のピットを確認した。形状及び規模は、P1(円形、長径42cm、短径38cm、深さ19cm)、P2(不定形、長径54cm、短径49cm、深さ20cm)、ピット間3.10mを測る。埋没土は床面掘り方埋没土に類似し、P1とP2に柱痕は認められなかった。

周溝 北壁、南壁、東壁、西壁際で確認する。南西隅には周溝が掘られていない。規模は幅15～28cm、深さ6～10cmを測る。ローム塊を含む灰黄褐色土によって埋没していた。

掘り方 南半部は土坑状及び溝状に約5cm掘り窪められている。床下施設は確認できなかった。

遺物出土状態 土師器杯(第172図1)、土師器甕(同図5)、土製品支脚(同図3)は床面上3～9cmから、土師器杯(同図6)、須恵器杯(同図2)、土師器甕(同図4)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片792点(小型製品121、中型製品4、大型製品610、不明57)、須恵器片47点(小型製品40、大型製品7)、灰釉陶器2点(不明)である。

所見 出土遺物から時期は9世紀第2四半期と考えられる。



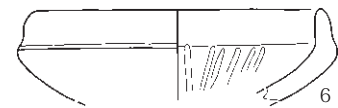
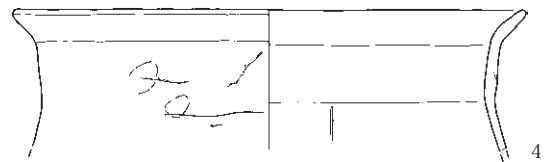
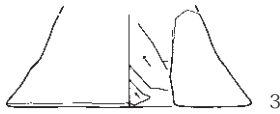
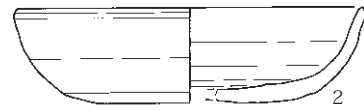
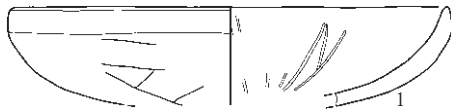
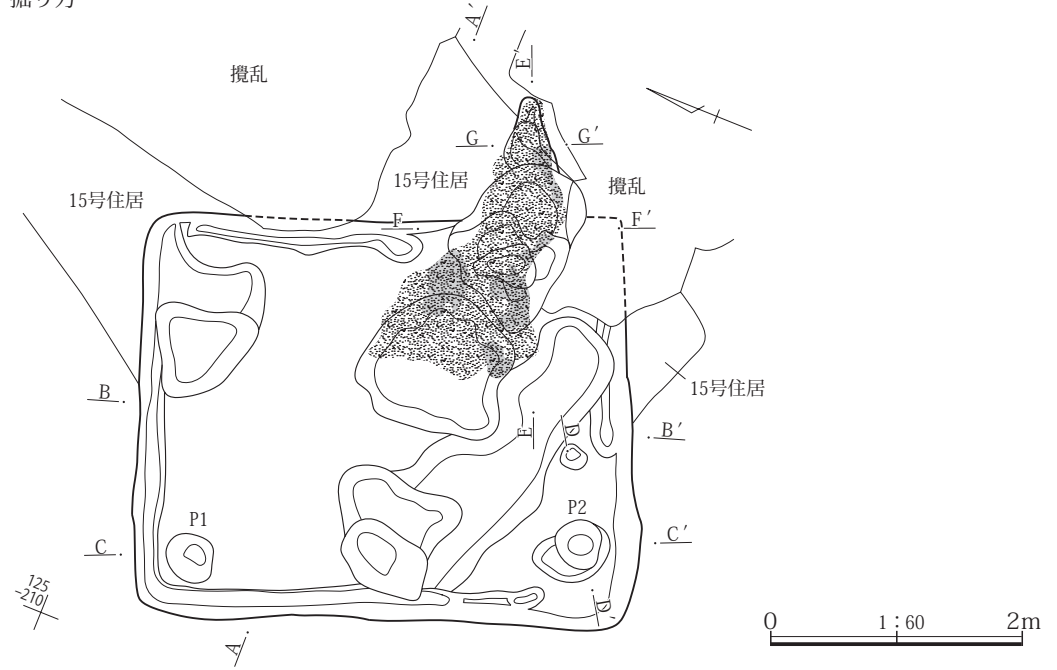
第171図 1区14号竪穴住居



14号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色砂質土 焼土粒を含む、炭化物粒少量、ハードローム中～大塊微量、締まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊を含む、焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒少量、ハードローム中塊微量、締まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム中塊20%、締まりやや弱
- 5 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊少量、締まりやや弱
- 6 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム大塊10%、焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり
- 7 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム30%、ハードローム小塊5%、締まりやや弱
- 8 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、締まりやや弱
- 9 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊5%、焼土粒・炭化物粒少量、締まりややあり
- 10 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりややあり
- 11 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小～大塊10%、締まりややあり
- 12 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム中塊10%、締まりややあり

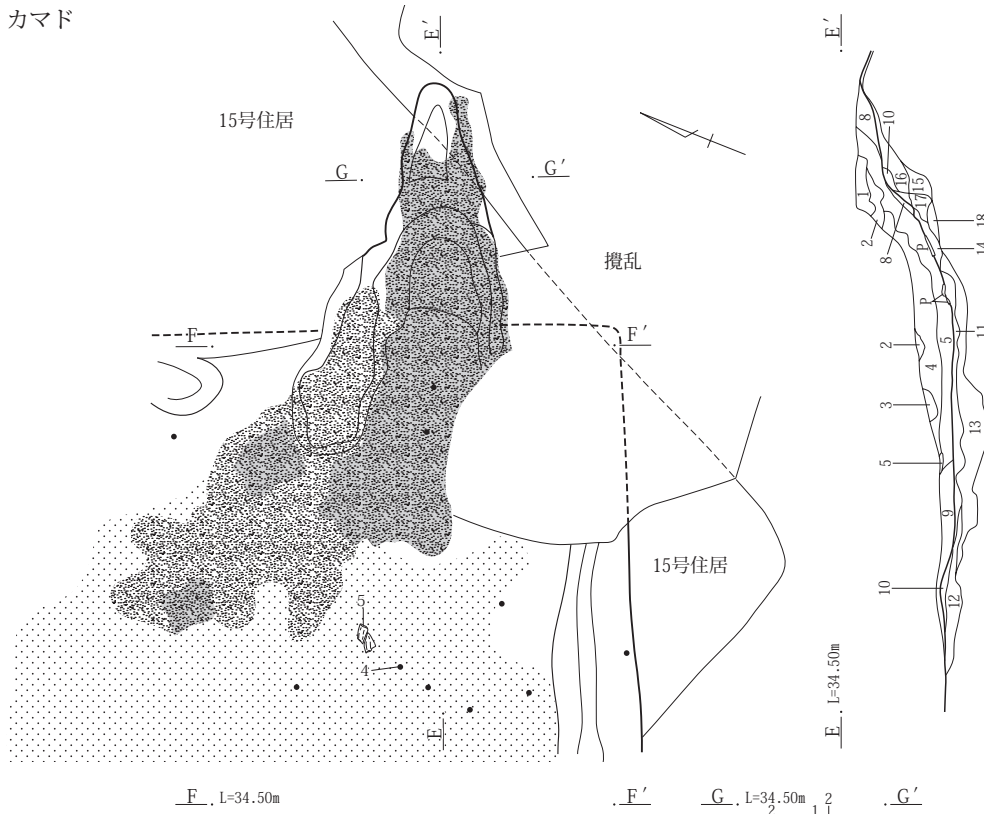
掘り方



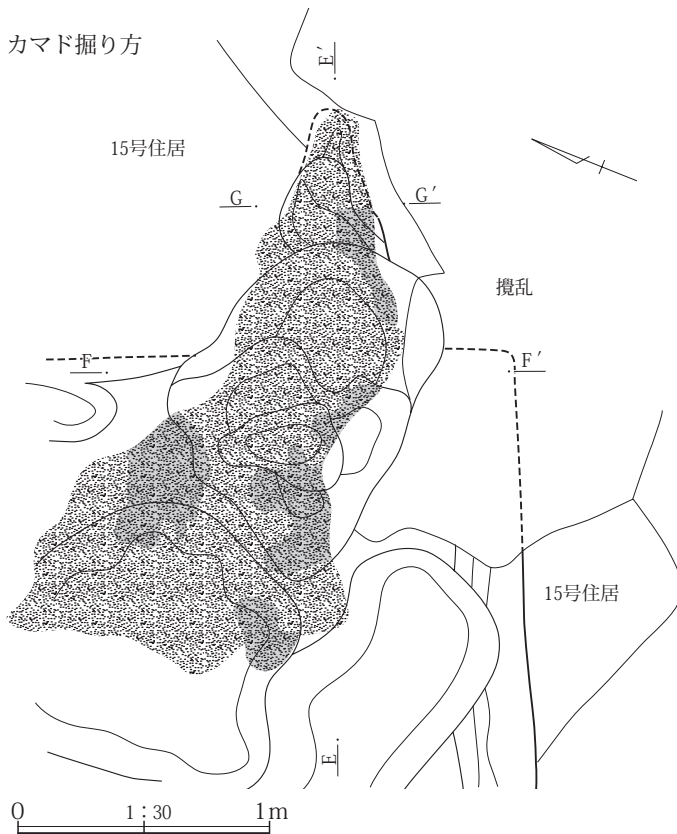
0 1:3 10cm

第172図 1区14号竪穴住居掘り方と出土遺物

カマド



カマド掘り方



14号竪穴住居カマドE-E'・F-F'・G-G'

- 1 灰黄色土 カマド材の崩落土、縮まりあり
- 2 暗灰黄色砂質土 焼土粒・炭化物粒少量、カマド材極小塊微量、縮まりやや弱
- 3 黄灰色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 4 黄褐色砂質土 シルト質土崩落層、焼土粒・炭化物粒、縮まりあり
- 5 焼土主体 砂質土、縮まりあり
- 6 灰黄褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 7 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、暗褐色土を含む、縮まりあり
- 8 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、焼土粒微量、縮まりやや弱
- 9 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム20%、縮まりやや弱
- 10 にぶい黄褐色砂質土 焼土・ローム多量、縮まりやや弱
- 11 黒褐色砂質土 焼土・炭化物粒少量、縮まりやや弱
- 12 灰黄褐色砂質土 焼土粒微量、縮まりやや弱
- 13 灰黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム極小塊10%、縮まりやや弱
- 14 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒・ローム粒少量、縮まりやや弱
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体
- 16 にぶい黄褐色土 ハードローム小塊20%
- 17 灰黄褐色土 ローム粒少量、焼土粒・炭化物粒微量
- 18 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体
- 19 にぶい黄褐色砂質土 焼土粒少量、縮まりややあり
- 20 灰黄褐色土 ソフトローム5%、炭化物粒・焼土粒微量
- 21 にぶい黄褐色土 ハードローム小～大塊40%
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質土主体
- 23 灰黄褐色土 シルト質土20%
- 24 灰黄褐色土 ローム粒5%
- 25 灰黄褐色土 焼土粒微量
- 26 灰黄褐色土 焼土粒微量
- 27 にぶい黄褐色土 ローム主体

第173図 1区14号竪穴住居カマド

1区23号竪穴住居(第174・175図 PL.51)

位置 X=139~143、Y=-215~221

形状・規模 形状は長方形。規模は、長軸長4.75m、短軸長3.40m、壁高北壁30cm、南壁17cm、東壁36cm、西壁25cmを測る。床面積は16.17㎡である。

主軸方向 N-76°-E

重複 1区22号竪穴住居が1区23号竪穴住居南壁を掘り込む。

埋没土 上層の大半は現代の攪乱によって削平される。ローム漸移層土を多量に含む黒褐色土がフラットに堆積することから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 中央部に明瞭な硬化面を確認した。壁際に比べて中央部が1~5cm高い。ローム大塊・粒を多量に含む灰黄褐色土によって壁際の床面を構築する。

カマド 東壁やや南寄りに付設する。規模は、全長84cm、幅66cm、焚口幅35cm、焚口から燃焼部奥行55cmである。軸方向は、N-75°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。燃焼部側壁を失っているが、燃焼部に焼土が残存する。掘り方は、焚口周辺から住居南東隅にかけて

土坑状に10~20cm掘り窪めている。カマド構築時に掘られたと考えられる。

貯蔵穴 カマド右側で確認した。平面形状は楕円形、規模は、長径42cm、短径36cm、深さ8cmである。土師器小型台付甕(第175図2)は底面上3cmからの出土である。

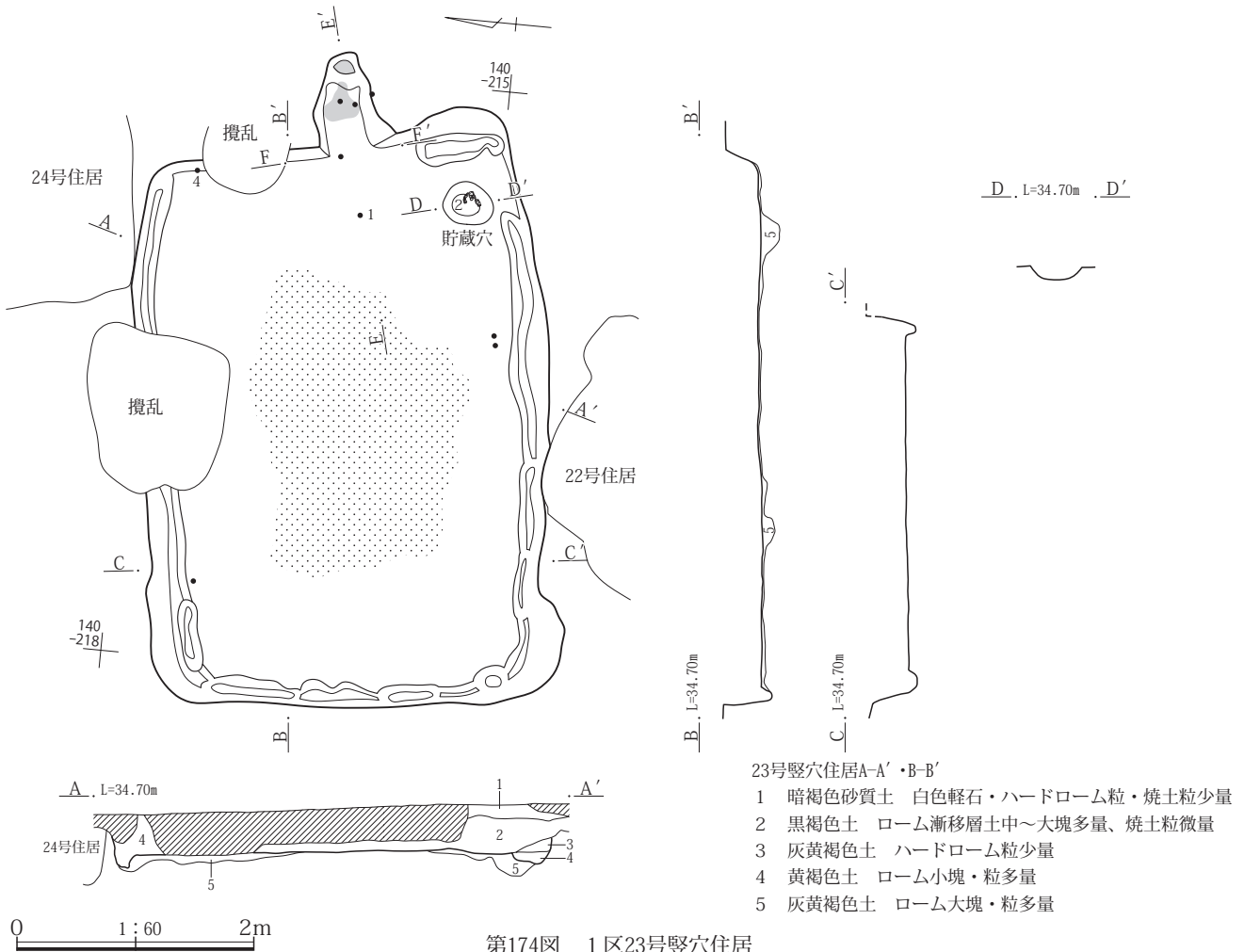
柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

周溝 北壁、西壁、南壁、東壁の一部に認められる。幅27~34cm、深さ5~9cmを測る。

掘り方 床面の中央部に掘り方はなく、壁周辺を5~20cm掘り窪めている。

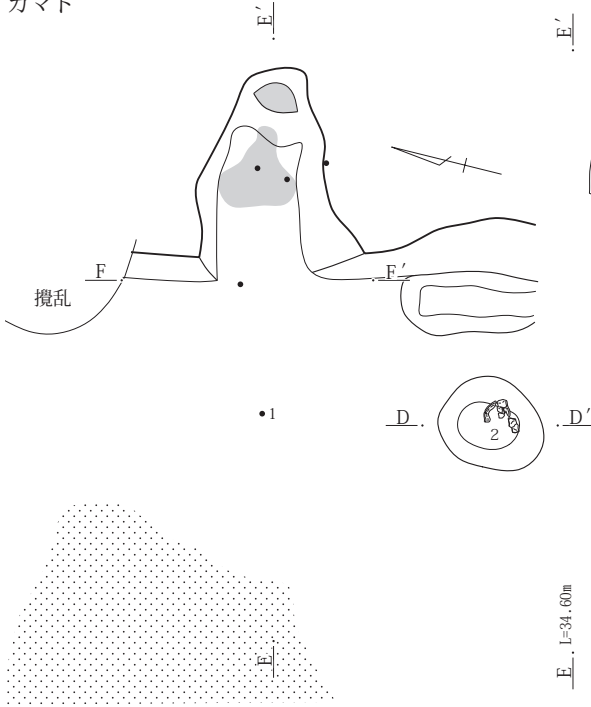
遺物出土状態 遺物は少なく、東壁際やカマドから出土する。須恵器碗(同図1)は床面直上から出土した。土師器小型甕(同図4)は床面上7cmから、土師器小型台付甕(同図3)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片75点(小型製品2、大型製品73)、須恵器片5点(小型製品2、大型製品3)である。

所見 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

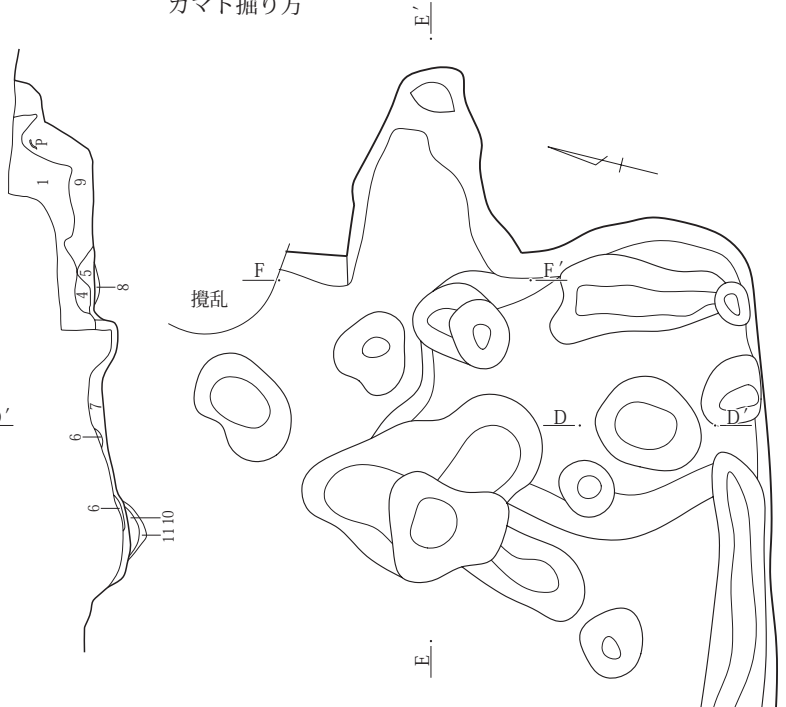


第174図 1区23号竪穴住居

カマド



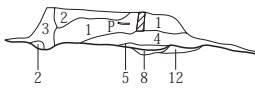
カマド掘り方



E, L=34.60m

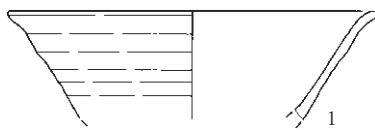
F'

23号竪穴住居カマドE-E'・F-F'

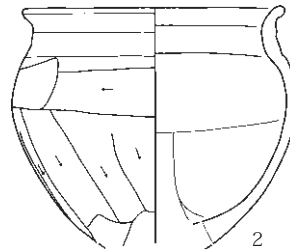


0 1:30 1m

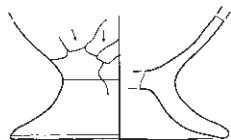
- 1 灰黄褐色土 炭化物小粒・焼土粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 1層土よりやや黒味強い、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 褐灰色土 焼土小～大粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 黒褐色土 焼土小粒3%、炭化物小粒、ローム粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 焼土・炭化物4層と同じ、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰褐色土 焼土小～中粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 にぶい黄橙色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱
- 9 にぶい黄橙色土 焼土粒・焼土小塊多量、灰白色粘土塊少量
- 10 灰褐色土 焼土小～中粒少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 11 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 12 明黄褐色土 ローム主体



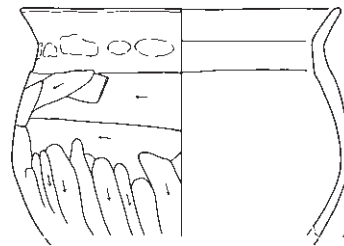
1



2



3



4

0 1:3 10cm

第175図 1区23号竪穴住居カマドと出土遺物

1区24号竪穴住居(第176~179図 PL.51・52)

位置 X=143~148、Y=-212~218

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.63m、短軸長3.28m、壁高北壁46cm、南壁44cm、東壁39cm、西壁35cmを測る。床面積は14.45㎡である。

主軸方向 N-3°-W

重複 なし。

埋没土 上層は現代の攪乱によって削平されている。下層の壁際にソフトローム塊を含む灰黄褐色土による三角堆積が認められ、ローム漸移層土塊などを多量に含む黒褐色土によってほぼ埋没しているため人為的な埋戻しの可能性がある。

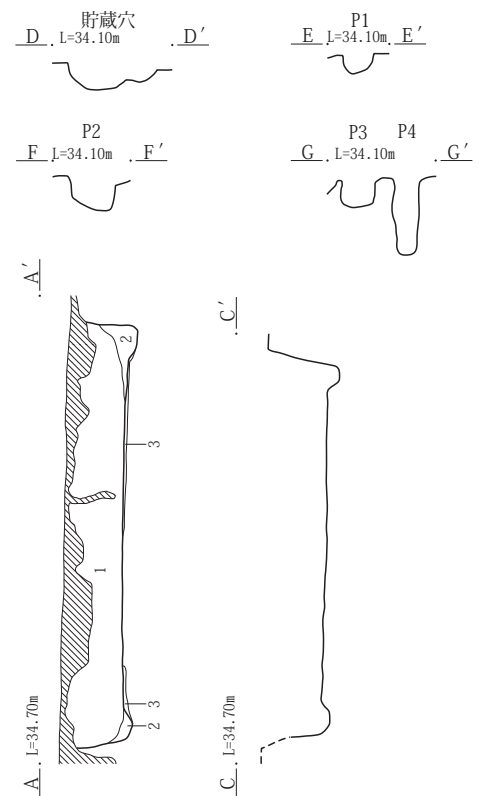
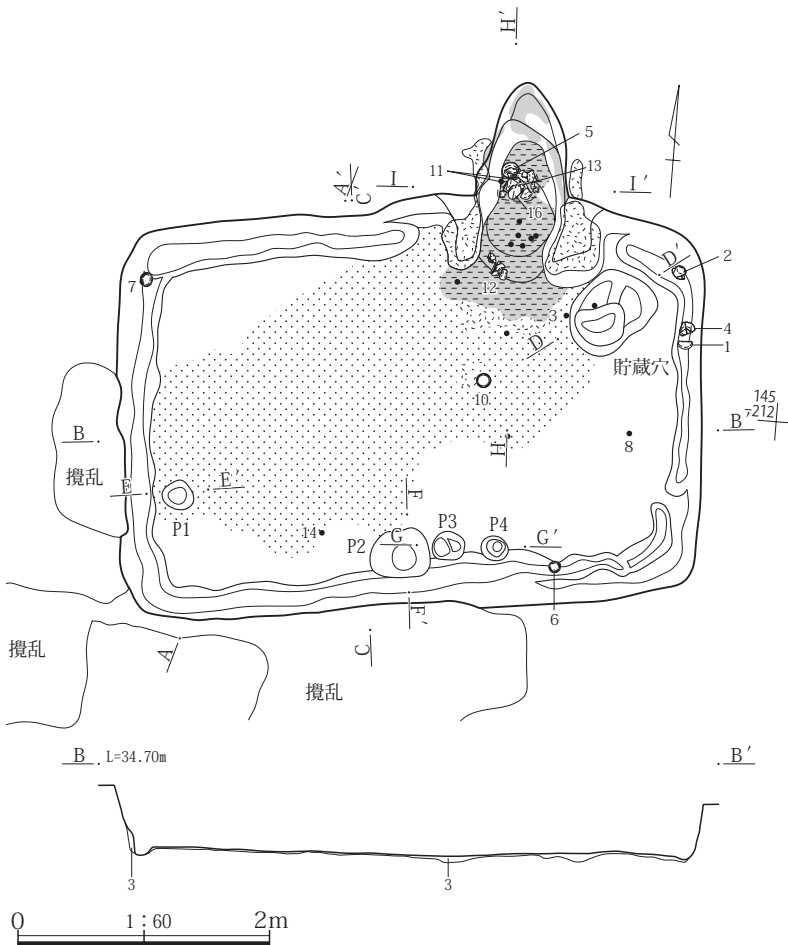
床面 床面中央部からカマド焚口周辺部が3~5cm低いが高低差は少なくほぼ平坦である。床面北東部から南西部にかけて広範囲に硬化面が認められる。シルト質土はカマド構築材の一部と考えられる。ローム塊・粒を多量に含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北壁やや東寄り付設する。残存状態は燃焼部側壁はやや壊されているが焚口から燃焼部奥側にかけて比

較的良好に残り、燃焼面には、焼土や炭化物が広範囲に認められ支脚石が設置される。遺物は、土師器甕(第179図11)が燃焼面上5cmから、須恵器杯(第178図5)、土師器甕(第179図13)、砥石(第179図16)は燃焼面20cm以上の埋没土から出土する。住居床面直上の焚口から土師器甕(第179図12)が出土した。規模は、全長1.58m、幅1.23m、焚口幅50cm、焚口から燃焼部奥行92cm、左袖状残存部59cm、右袖状残存部70cmである。軸方向は、N-4°-Wであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。掘り方は、焚口周辺から燃焼部を約15cm、煙道は3~15cm掘り窪め整えている。

貯蔵穴 カマド右側に構築する。平面形状は隅丸長方形で、規模は、長径71cm、短径55cm、深さ21cmである。自然埋没か人為的かは不明である。

周溝 カマド付設部分以外は壁でほぼ全周する。幅15~30cm、深さ2~9cmを測る。須恵器碗(第178図7)は周溝底面直上から、須恵器碗か(第178図6)、須恵器杯(第178図1)、墨書が認められる須恵器杯(第178図2・4)は周溝底面直上2~7cm上から出土した。墨書「奇万」は



24号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、ハードローム中塊・焼土粒・炭化物微量
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム中~大塊少量
- 3 にぶい黄褐色土 ローム塊・粒多量

第176図 1区24号竪穴住居

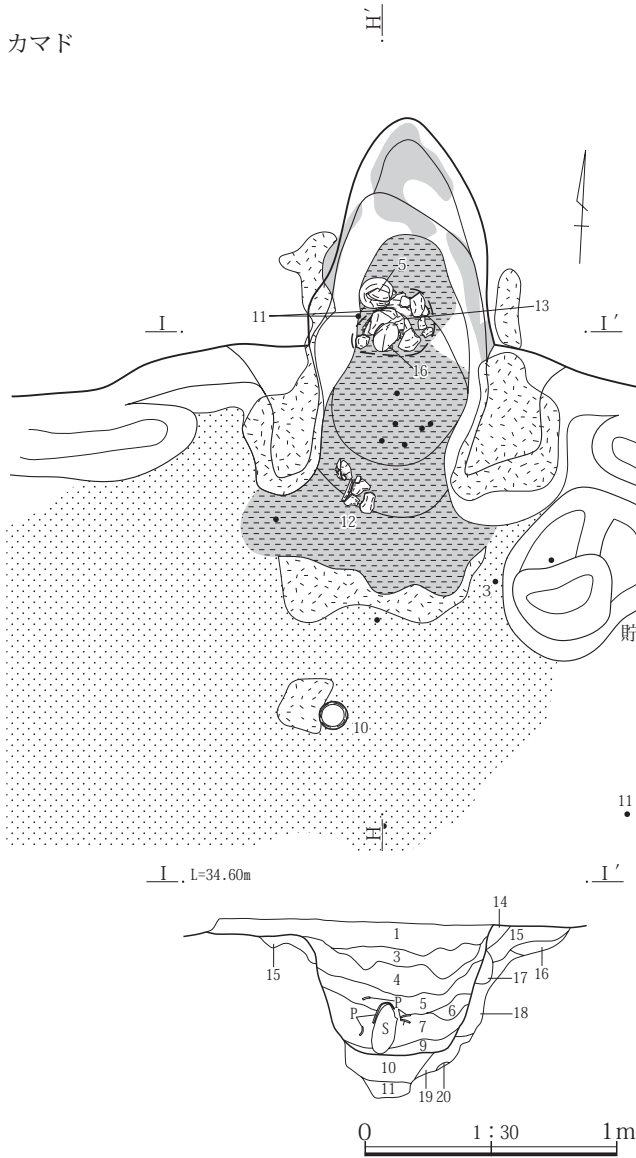


第3章 間之原遺跡の調査

1区8号竪穴住居の須恵器杯にも「奇万カ」が書かれている。

**柱穴** 床面壁際から4基のピットを確認した。形状及び規模は、P1(円形、長径25cm、短径24cm、深さ17cm)、P2(楕円形、長径47cm、短径28cm、深さ25cm)、P3(円形、長径25cm、短径22cm、深さ19cm)、P4(円形、径20cm、深さ63cm)である。P2～P3は南壁際中央部で確認し、出入口に付設された梯子など上部施設を支える下部構造の可能性がある。

カマド



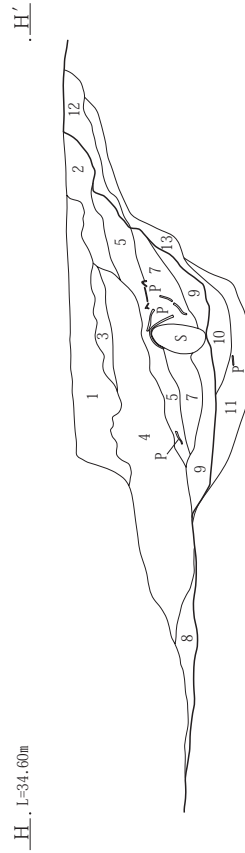
24号竪穴住居カマドH-H'・I-I'

- 1 灰黄褐色土 焼土小～中粒少量、炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 1層土+少量の浅黄～灰白色粘土中～大塊と焼土小塊
- 3 2層土+1層土
- 4 にぶい黄色土 浅黄色粘質土40%、ローム粒・塊、焼土小～中粒・炭化物小粒微量、締まりやや弱、粘性あり
- 5 にぶい赤褐色土 焼土主体、浅黄色粘質土塊を含む、締まりやや弱、粘性少ない

**掘り方** 2～5cm全体的に掘り窪められている。

**遺物出土状態** 土製品土錘(第179図14)は床面直上、土師器小型甕(第179図10)は床面上5cmから出土した。須恵器杯(第178図3)、土師器台付甕(第178図8)、土師器小型甕(第178図9)、鉄製品(第179図15)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片515点(小型製品23、大型製品481、不明11)、須恵器片48点(小型製品25、大型製品23)である。

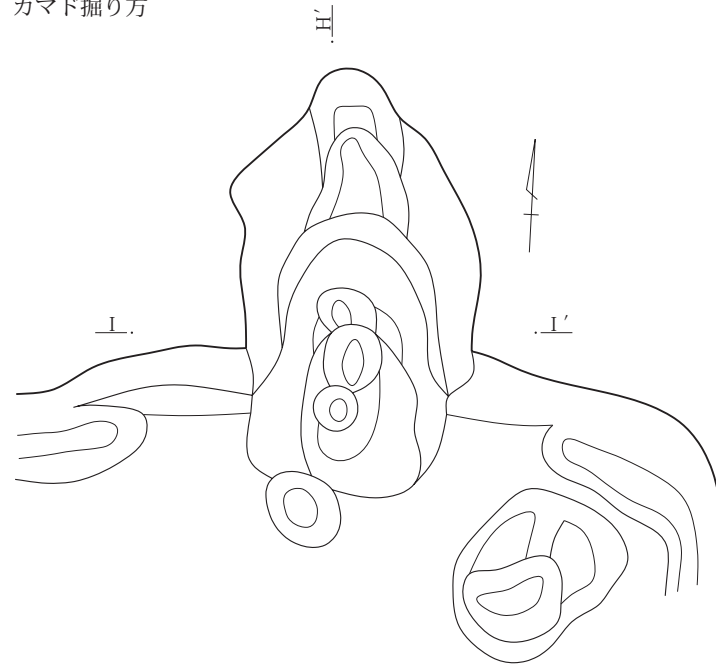
**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



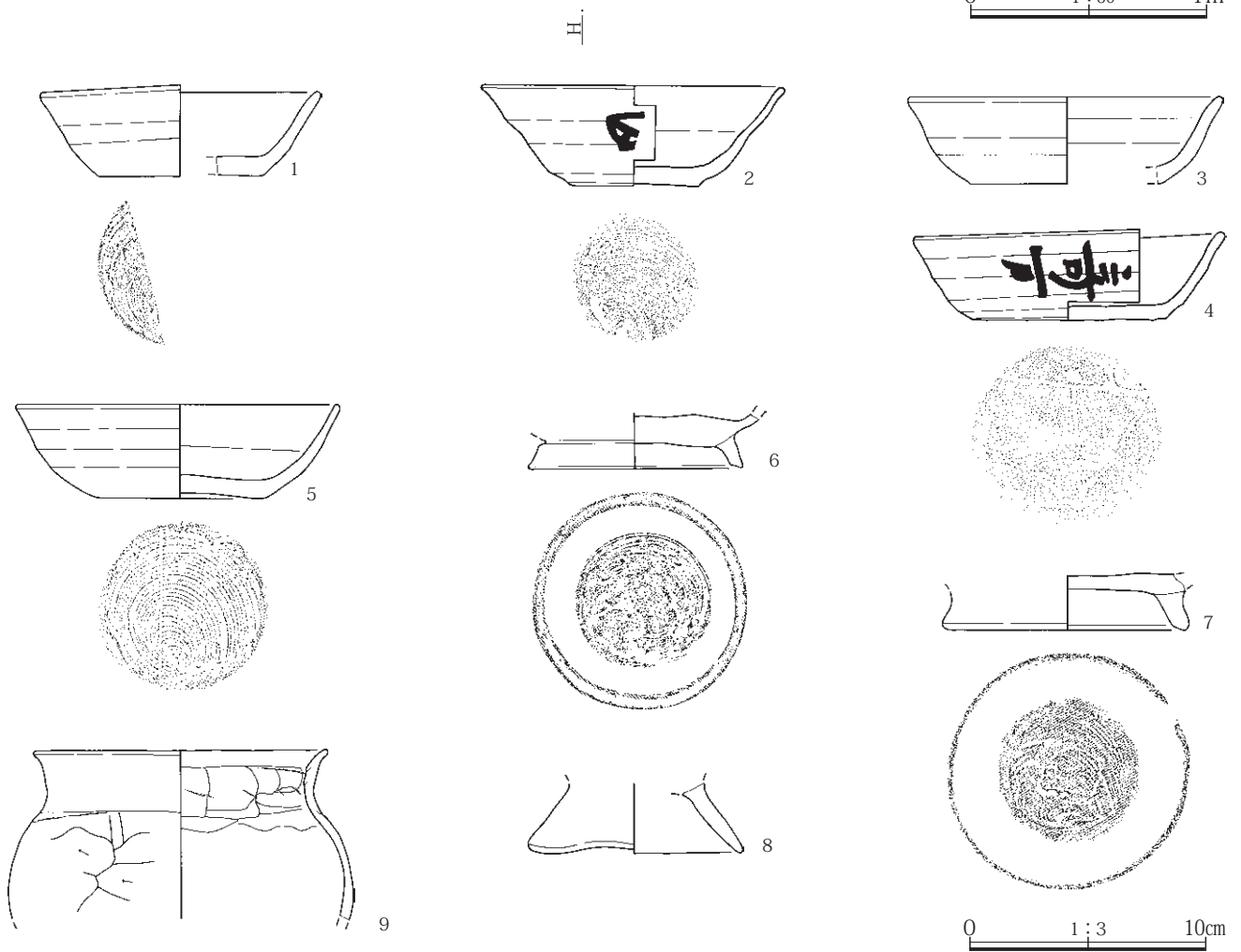
- 6 にぶい赤褐色土 焼土主体、浅黄色粘質土塊少量
- 7 灰褐色土 焼土小～中粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 浅黄色粘質土塊・焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 黒褐色土 灰黄色シルト質土・焼土小～中粒・炭化物小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄色土 シルト質土40%、焼土小粒5%、締まりやや弱、粘性ややあり
- 11 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%
- 12 灰黄褐色土 焼土小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 ソフトローム5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土・焼土小～中粒5%、締まりあり
- 15 灰黄色土 シルト質土主体、締まりあり
- 16 暗灰黄色土 シルト質土70%、締まりあり
- 17 15層土の焼土化
- 18 暗灰黄色土 シルト質土・ソフトローム50%、締まりあり
- 19 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 20 灰黄褐色土 焼土小～中粒少量、締まりやや弱、粘性ややあり

第177図 1区24号竪穴住居カマド

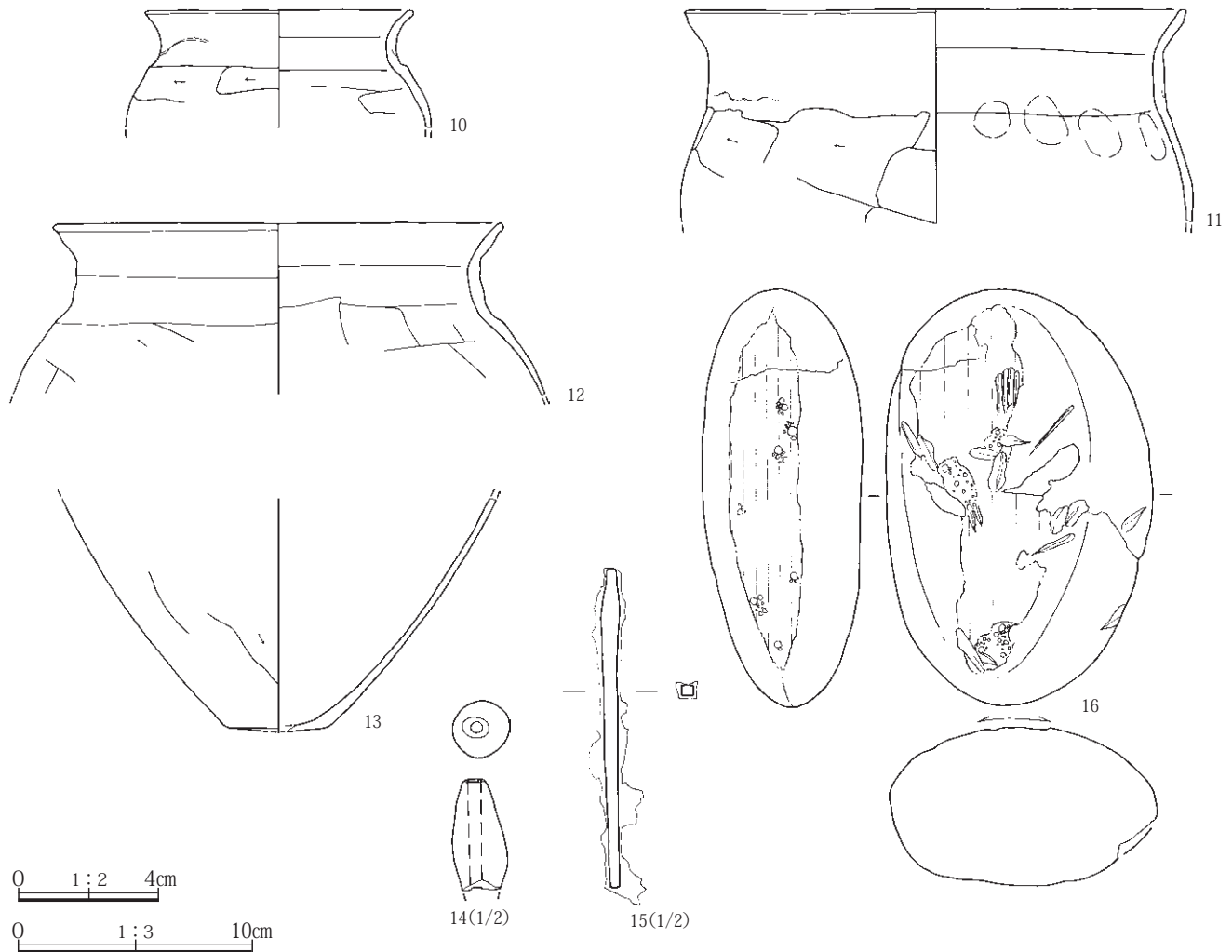
カマド掘り方



0 1:30 1m



第178図 1区24号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)



第179図 1区24号竪穴住居出土遺物(2)

**1区26号竪穴住居**(第180図 PL.52)

**位置** X=122~126、Y=-224~230

**形状・規模** 残存状況から形状は長方形と考えられる。確認できる規模は、南北長3.50m、壁高北壁35cm、西壁31cmである。

**主軸方向** N-4°-E

**重複** 1区29号竪穴住居が1区26号竪穴住居を掘り込む。

**埋没土** 上層に焼土粒や炭化物粒を含む。29号竪穴住居と重複し、残存不良のため、詳細は不明である。

**床面** 重複のため確認できた床面は狭いが、一部で硬化面が認められる。北壁際と西壁際との比較であるが、西壁際より北壁カマド焚口周辺部が約5cm低い。ローム粒・塊を多量に含む黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北壁中央部やや東寄りに付設する。残存状況はやや不良で燃焼部側壁を失っている。確認できる規模は、焚口幅51cm、焚口から燃焼部奥行41cmである。軸方向は、

N-2°-Eである。掘り方は、燃焼面から煙道を3~5cm掘り窪め整えている。

**貯蔵穴** 床面調査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

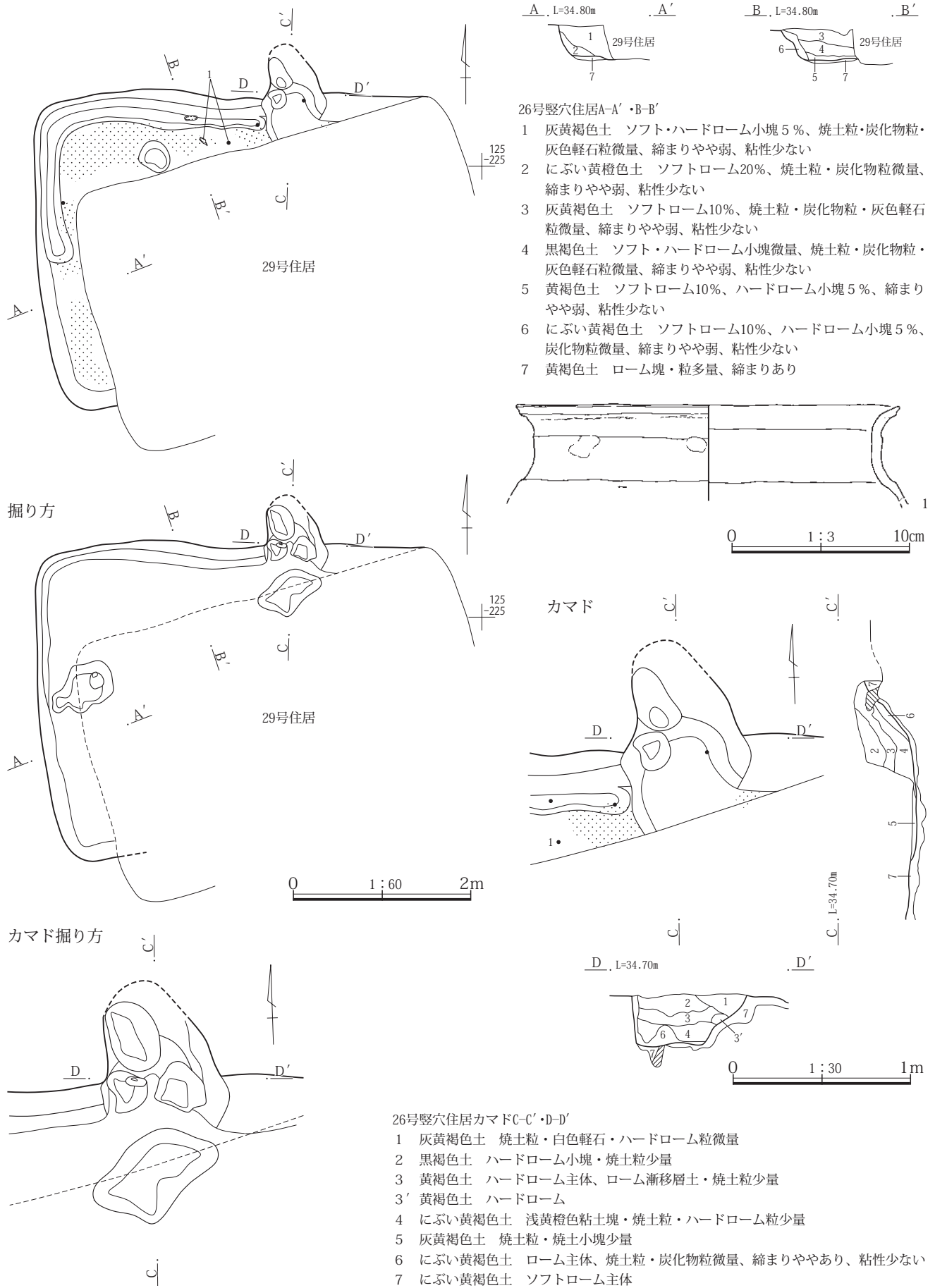
**周溝** カマド左側の北壁際から西壁北西部にかけて確認する。規模は、幅29~31cm、深さ1~2cmを測る。

**掘り方** ローム面まで3~5cm掘り込まれている。床下施設は確認できなかったが、カマド左側の円形の窪みは長径36cm、短径31cm、深さ6cmを計り、柱穴の可能性もある。

**遺物出土状態** 土師器甕(第180図1)は床面上4cmから出土した。非掲載遺物は、土師器片438点(小型製品23、中型製品3、大型製品412)、須恵器片10点(小型製品3、大型製品7)にのぼる。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第180図 1区26号竖穴住居と出土遺物

1区29号竪穴住居(第181~184図 PL.53・54・93)

位置 X=122~126、Y=-224~230

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.50m、短軸長3.05m、壁高北壁35cm、南壁33cm、東壁30cm、西壁32cmを測る。床面積は13.49㎡である。

主軸方向 N-74°-E

重複 1区29号竪穴住居が1区26号竪穴住居を掘り込む。

埋没土 壁際の三角堆積やレンズ状堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 床面北東隅や西壁中央部が5~10cm低い。カマド焚口から中央部の広範囲に硬化面が認められる。ソフトロームを含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

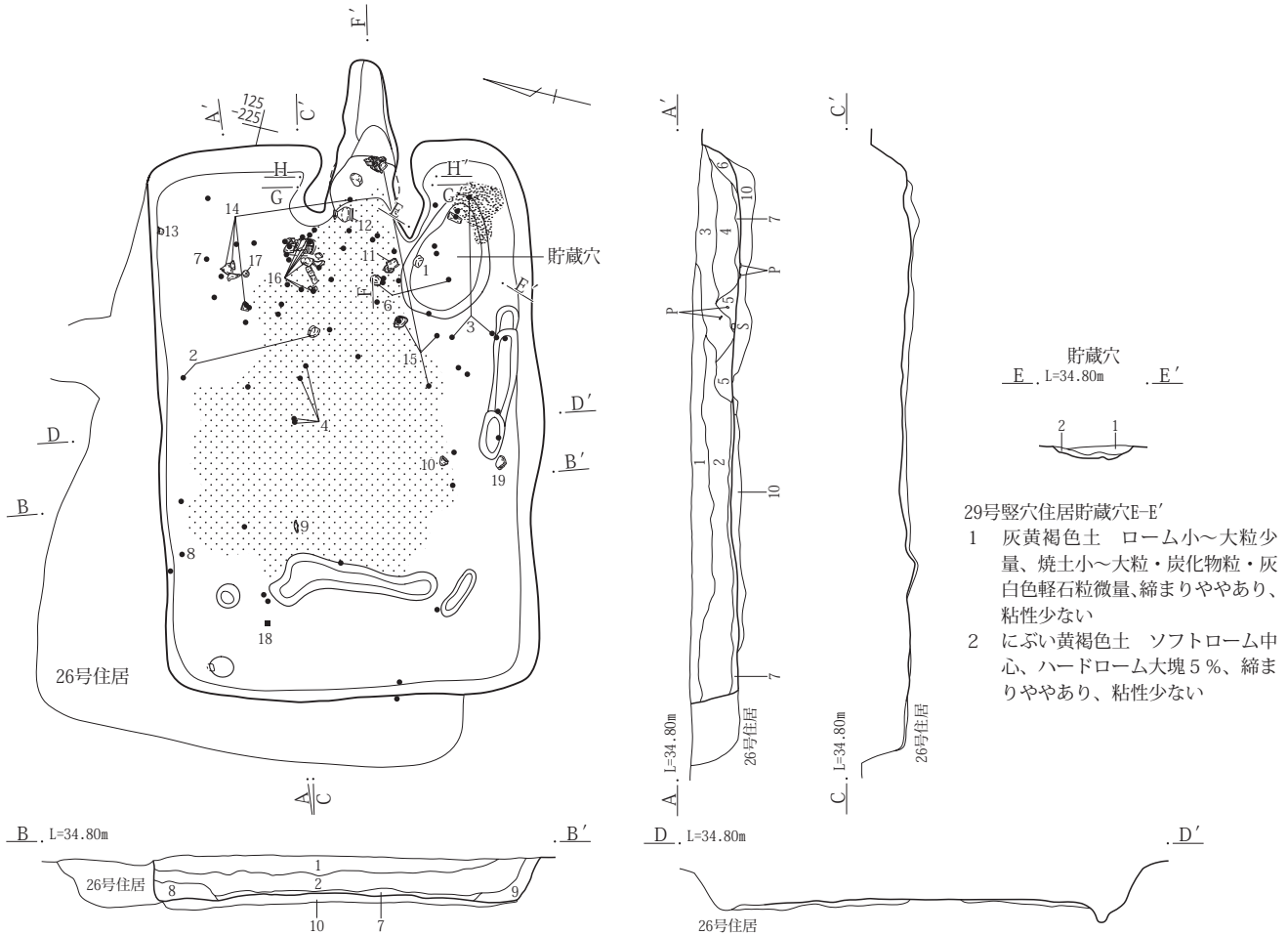
カマド 東壁中央部に付設する。残存状況は天井を失っ

ているが各部位の基部が残在する。規模は、全長1.25m、幅1.05m、焚口幅50cm、燃烧部奥行84cm、左袖状残存部55cm、右袖状残存部80cmである。軸方向は、N-75°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。掘り方は、5~10cm掘り窪め燃烧面を整えている。燃烧面から支脚石の他、遺物は、燃烧面上7cmから土師器甕(第184図15)などが出土した。

貯蔵穴 カマド右側に構築する。形状は楕円形、規模は、長径100cm、短径68cm、深さ9cmを測る。灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混土による自然埋没と考えられる。

柱穴 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

周溝 南壁際中央部やや東寄り、幅17~27cm、深さ5~9cm、長さ1.26mの溝状の掘り込みが認められる。周



29号竪穴住居 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ソフト・ハードローム小塊微量、焼土小~大粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒少量、ソフト・ハードローム小~中塊・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒少量、ソフトローム・にぶい黄褐色シルト質土・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

- 5 にぶい黄褐色土 焼土小~中粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 ハードローム小塊5%、ソフトローム少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ソフトローム20%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 10 にぶい黄褐色土 ソフトローム混入、縮まりあり、粘性ややあり

第181図 1区29号竪穴住居

0 1:60 2m



溝の一部の可能性はある。

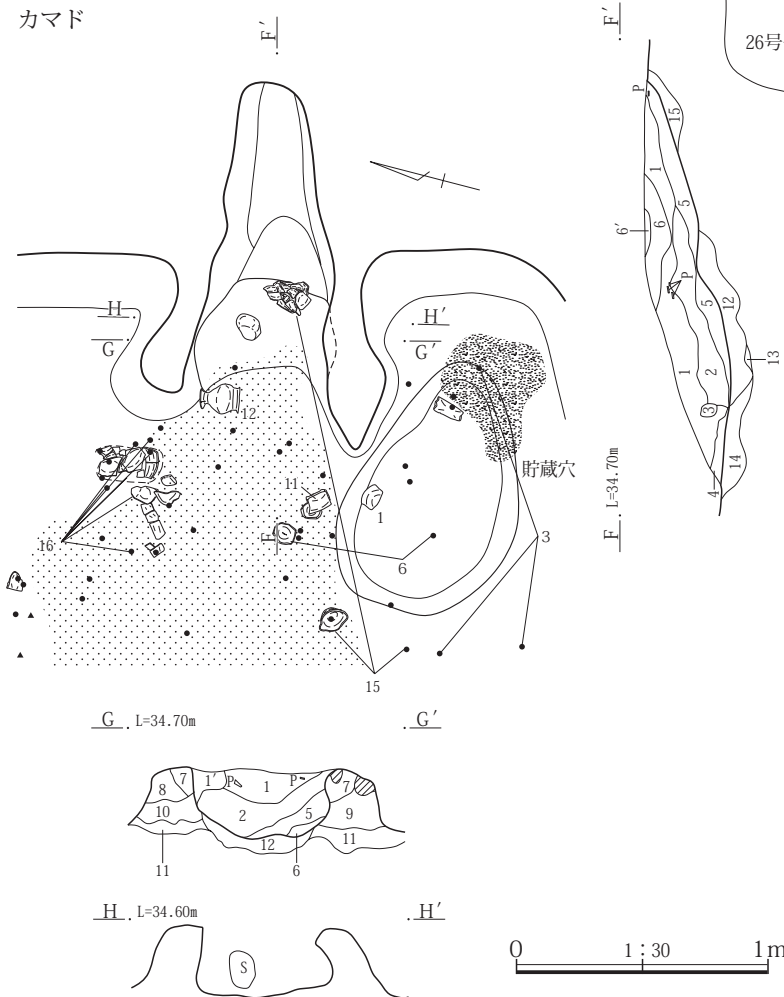
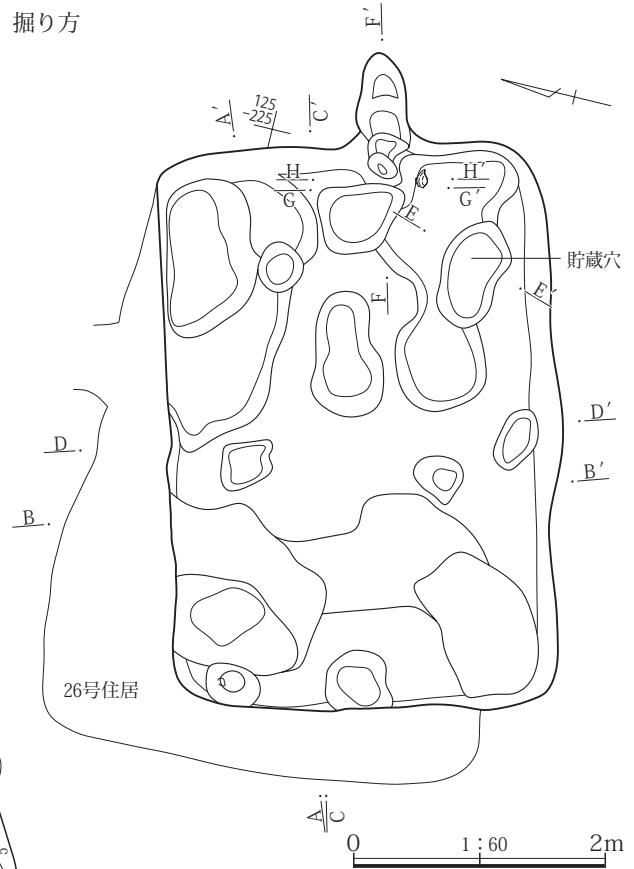
**他の施設** 床面精査で、西壁から約75cmの位置に間仕切り状の溝を確認する。規模は、南北長1.37m、幅18～32cm、深さ6cmを測る。この溝までが床面の硬化範囲となる。床面北西隅に小ピット状の窪みが2カ所認められ、板敷など上部構造を支えていた下部施設の可能性がある。

**掘り方** ローム面まで全体的に大小ピット状や溝状に3～12cm掘り窪められている。特に床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 床面西半部のカマド焚口周辺で遺物がつぶれた状態で散在する。須恵器皿(第183図1)、黒色土器杯(第183図7)、土師器甕(第184図16)は床面直上から出土した。土師器杯(第183図2・3・6)、須恵器椀(第183図11)、土師器甕(第184図13・14)、砥石? (第184図19)は床面上2～8cmから、土師器杯(第183図4)、墨書が認められる土師器杯(第183図5)、須恵器杯(第183図8)、須恵器皿か(第183図9)、須恵器椀(第183図10)、土師器台付甕(第183図12)、刀子(第184図18)、紡輪(第184図17)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片885点(小型製品109、中型製品2、大型製品774)、須恵器片75点(小型製品58、大型製品17)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

掘り方



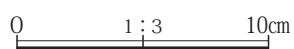
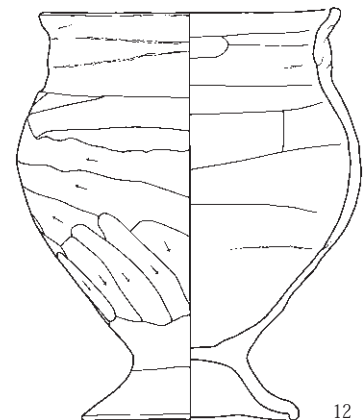
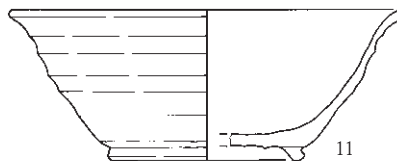
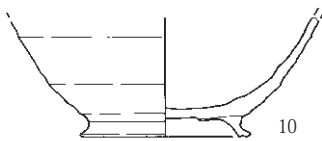
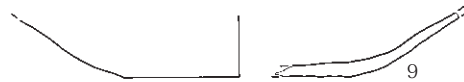
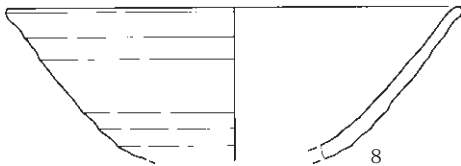
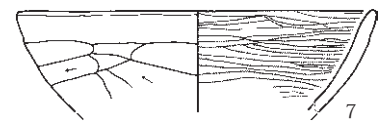
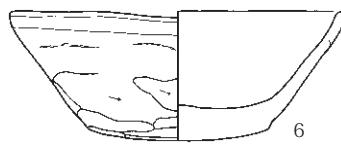
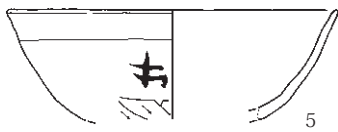
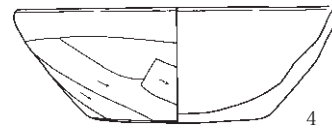
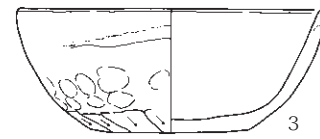
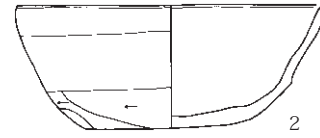
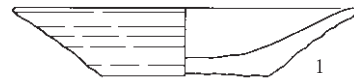
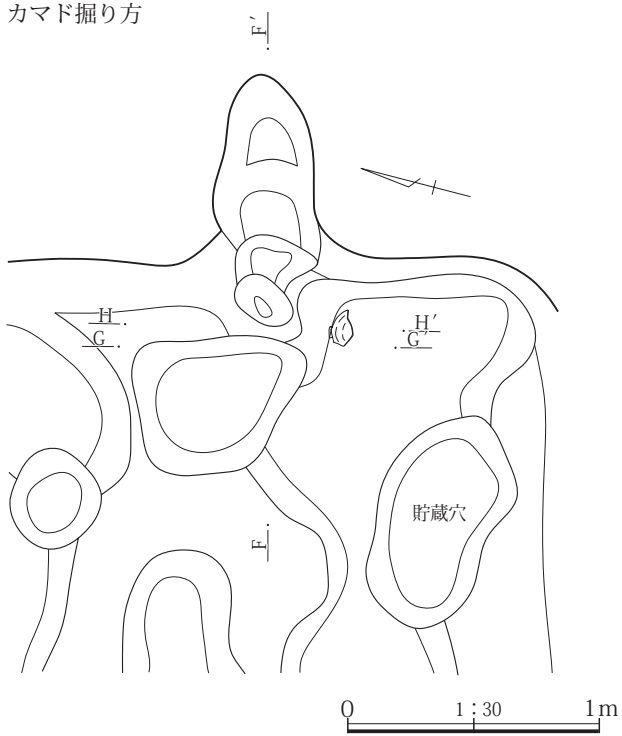
29号竪穴住居カマドF-F'・G-G'

- 1 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土塊・焼土粒少量
- 1' 褐灰色土 粘土塊多量
- 2 にぶい黄褐色土 粘質土・焼土粒多量
- 3 にぶい黄褐色土 粘質土塊
- 4 黒褐色土 ハードローム粒・ハードローム小塊・焼土粒少量
- 5 褐灰色土 にぶい黄褐色粘質土塊少量
- 6 褐灰色砂質土 1層土に類似、粘質土塊や焼土粒なし
- 6' 褐灰色砂質土 1層土に類似、焼土粒少量
- 7 灰黄褐色土 焼土小粒少量、炭化物粒・灰色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 にぶい黄褐色シルト質土10%、焼土小粒少量、炭化物粒・灰色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒・ローム粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 にぶい黄褐色シルト質土5%、締まりややあり、粘性少ない
- 11 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊5%、締まりややあり、粘性少ない
- 12 にぶい黄褐色土 炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 黒味あり、締まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒少量、締まりややあり、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない

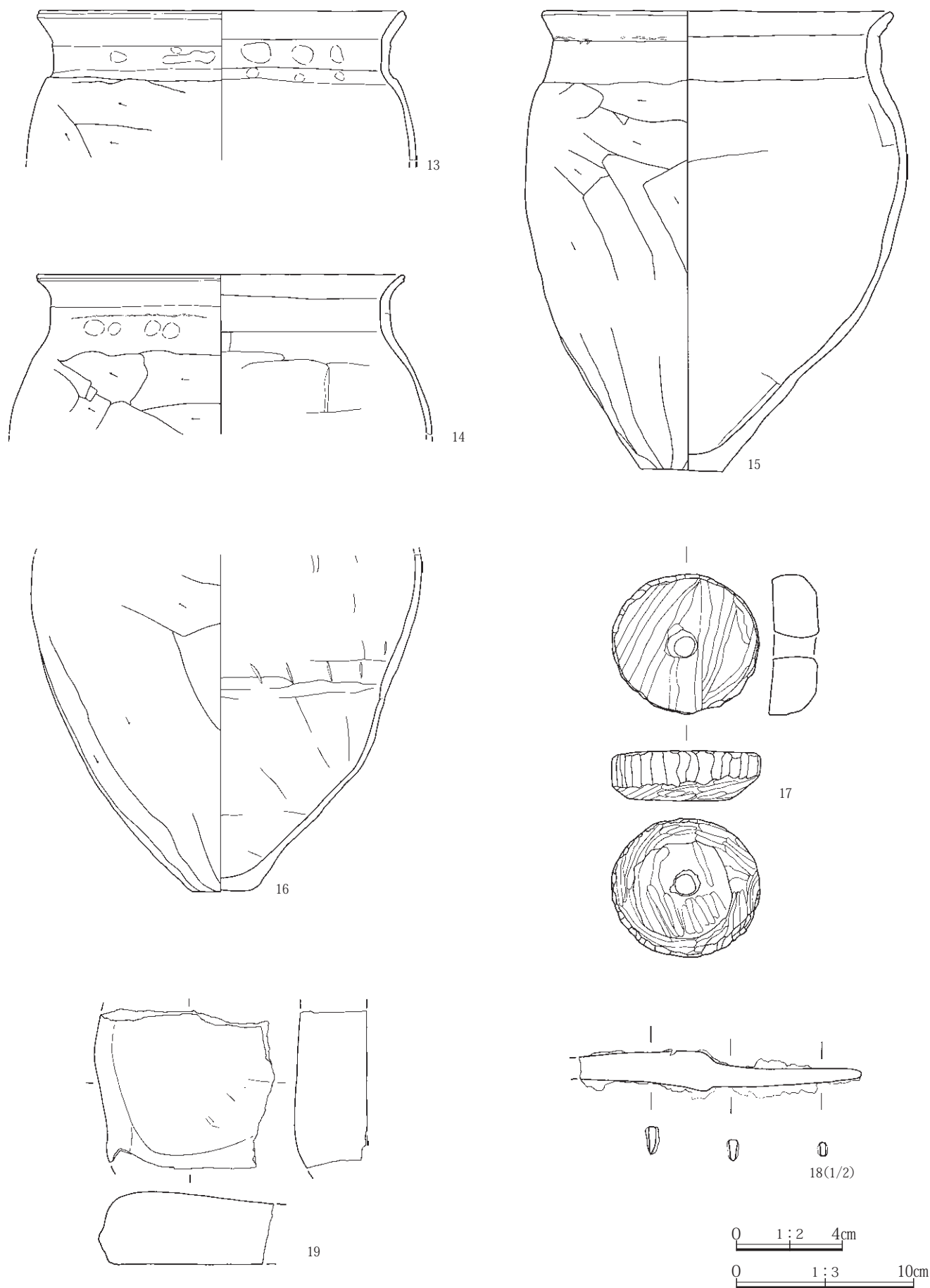
第182図 1区29号竪穴住居掘り方とカマド

第3章 間之原遺跡の調査

カマド掘り方



第183図 1区29号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)



第184図 1区29号竪穴住居出土遺物(2)

1区28号竪穴住居(第185～187図 PL.18・53)

位置 X=131～136、Y=-227～233

形状・規模 北壁を攪乱によって失っているが形状は方形と考えられる。確認できる規模は、南北長3.90m、東西長3.75m、壁高南西壁及び北西壁42cmである。

主軸方向 N-220°-E

重複 1区28号竪穴住居が1区27号竪穴住居の埋没土を掘り込む。1区508・510・522・525号ピットと重複し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。

埋没土 ローム漸移層土を含む灰黄褐色土により上層から下層までほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 床面の高低差は殆どなくほぼ平坦である。南半部から西壁際にかけて硬化面が認められる。形状は長方形であり、規模は、長径33cm、短径29cmの粘土範囲を確認した。ハードローム塊を含む黒褐色土によって床面を構築する。

カマド 南西壁西隅に付設する。燃烧部側壁に構築材であるシルト質土が残存する。規模は、全長90cm、幅96cm、

焚口幅52cm、焚口から燃烧部奥行62cm、左袖状残存部63cm、右袖状残存部62cmである。軸方向は、N-228°-Eである。掘り方は、約5cm掘り込み燃烧面を整える。

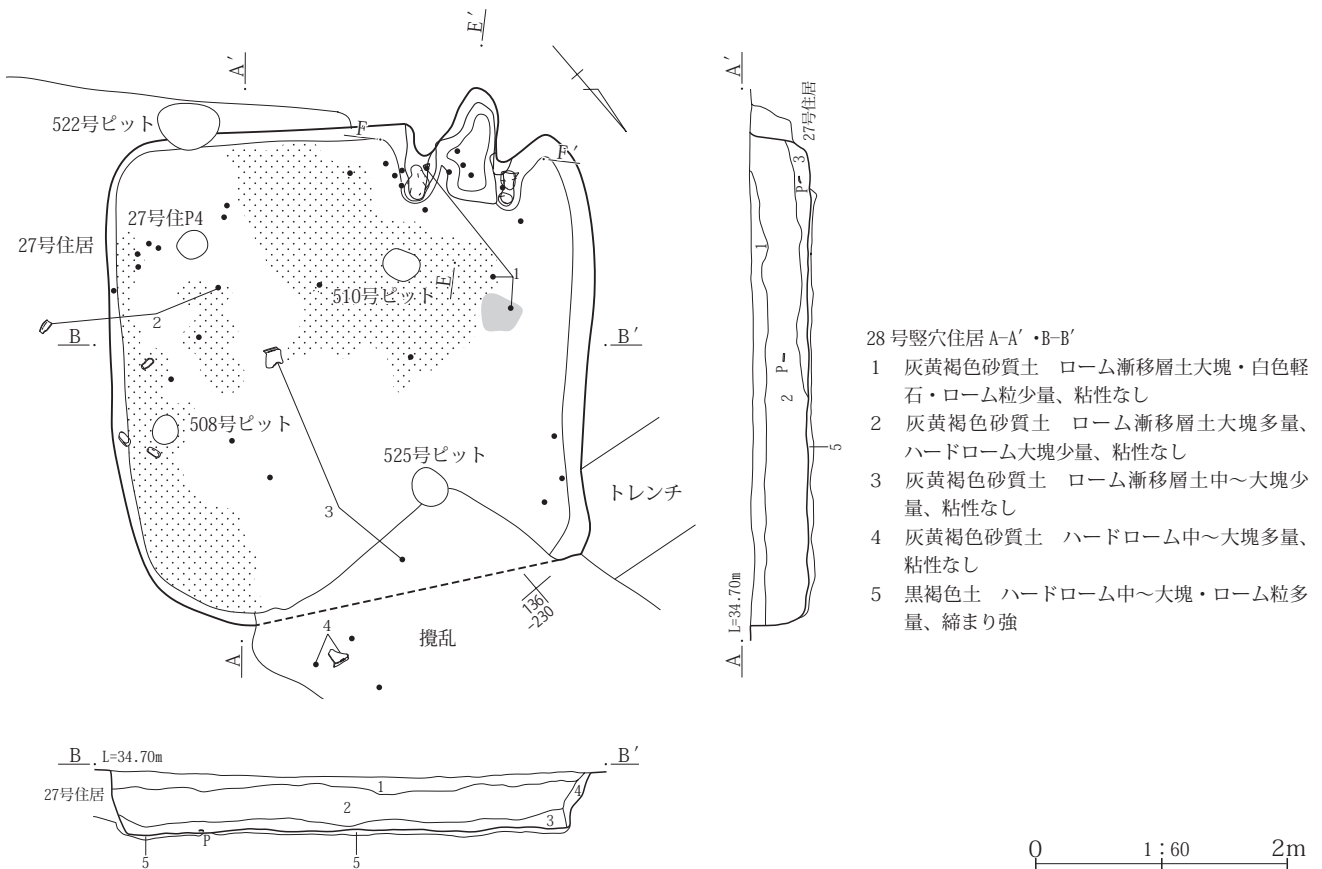
貯蔵穴・周溝 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

柱穴 床面中央部からピット1基を確認した。形状は円形であり、規模は長径30cm、短径29cm、深さ22cmを測る。

掘り方 ローム面まで全体的に2～3cm掘り窪めている。特に壁際のコーナー部分は土坑状に大きく掘り込んでいる。

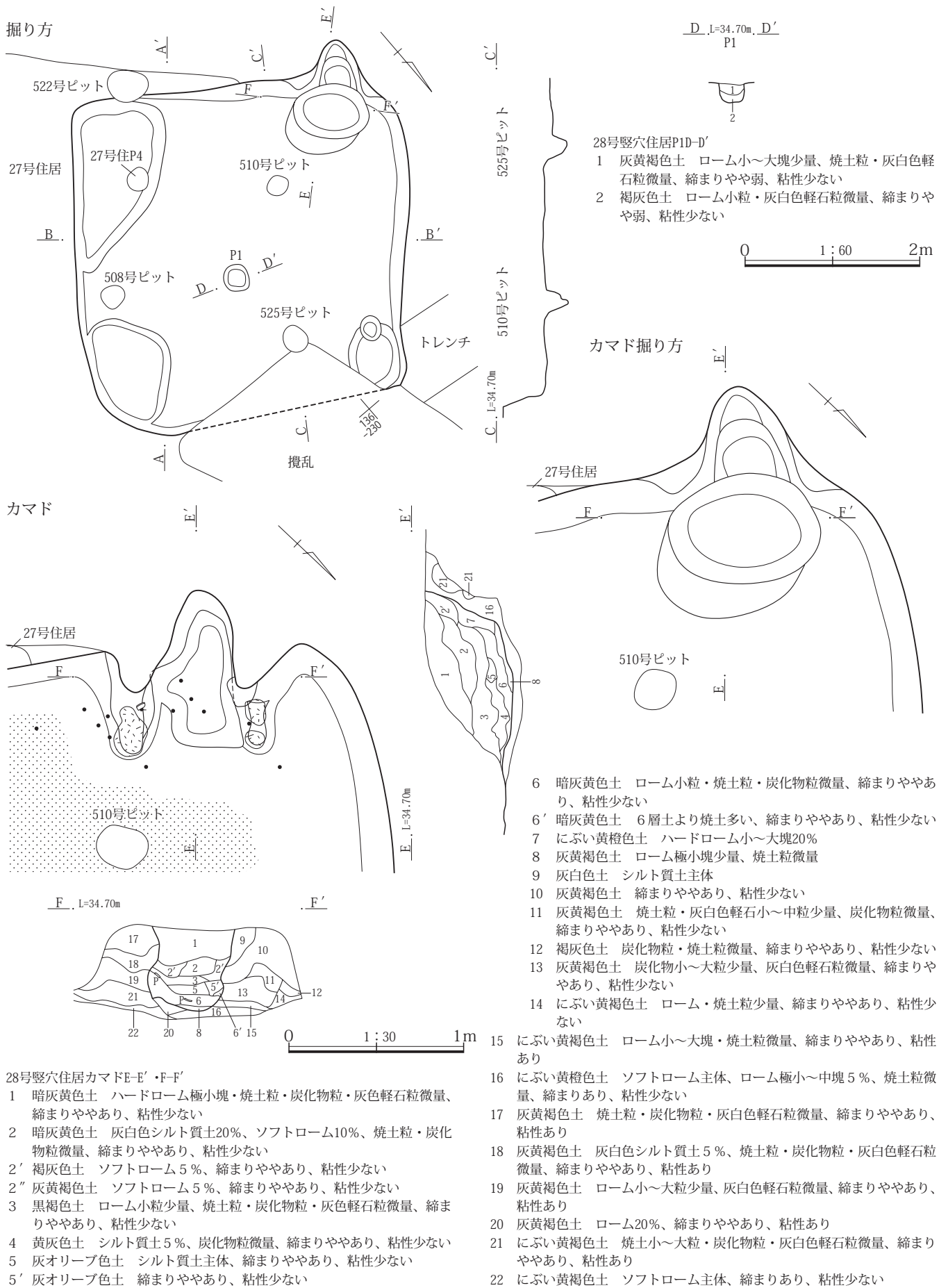
遺物出土状態 カマド周辺や東壁際埋没土からの出土が多い。土師器甕(第187図3)は床面上4cmから、土師器甕(同図1・2)、土師器甕か(同図4)、須恵器杯(同図5)は埋没土から、須恵器杯(同図6)が出土した。非掲載遺物は、土師器片1,062点(小型製品137、中型製品17、大型製品887、不明21)、須恵器片73点(小型製品44、大型製品29)、灰釉陶器1点、石核3点である。

所見 出土遺物から時期は7世紀前半代から8世紀第2四半期と考えられる。



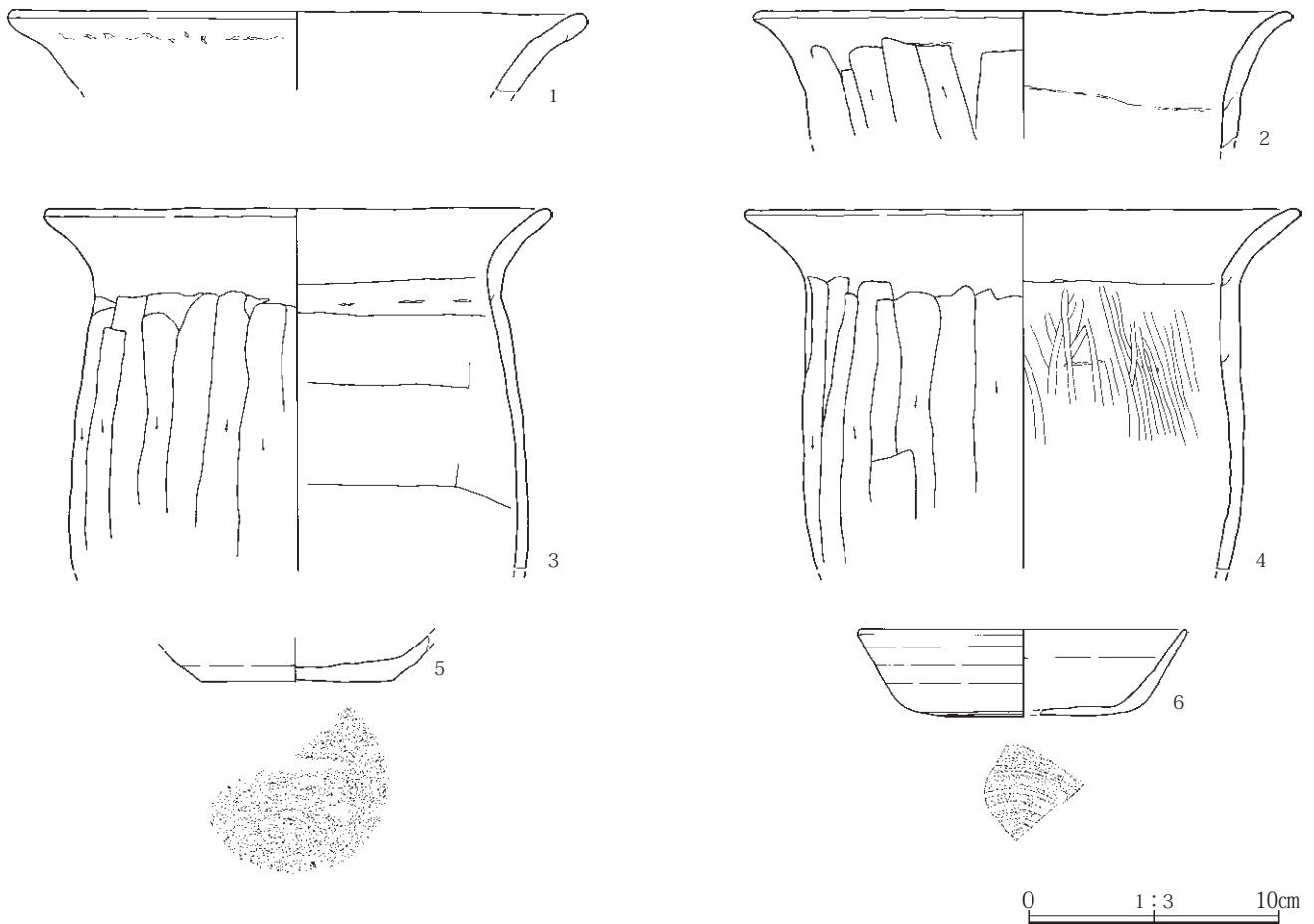
第185図 1区28号竪穴住居

第4節 奈良・平安時代の遺構と遺物



第186図 1区28号竪穴住居掘り方とカマド





第187図 1区28号竪穴住居出土遺物

**1区30号竪穴住居**(第188～191図 PL.54・93)

**位置** X=127～131、Y=-218～222

**形状・規模** 形状は方形であり、規模は、長軸長4.30m、短軸長4.15m、壁高北壁41cm、南壁37cm、東壁40cm、西壁34cmを測る。床面積は16.94㎡である。

**主軸方向** N-75°-E

**重複** 1区20・25号竪穴住居と重複する。1区30号竪穴住居が1区20・25号竪穴住居を掘り込む。

**埋没土** 上層はローム塊を多量に含む灰黄褐色土、下層は暗褐色土によって埋没している。壁際に三角堆積が認められ、レンズ状の堆積が一部で見られるが短期間で埋没した様相である。

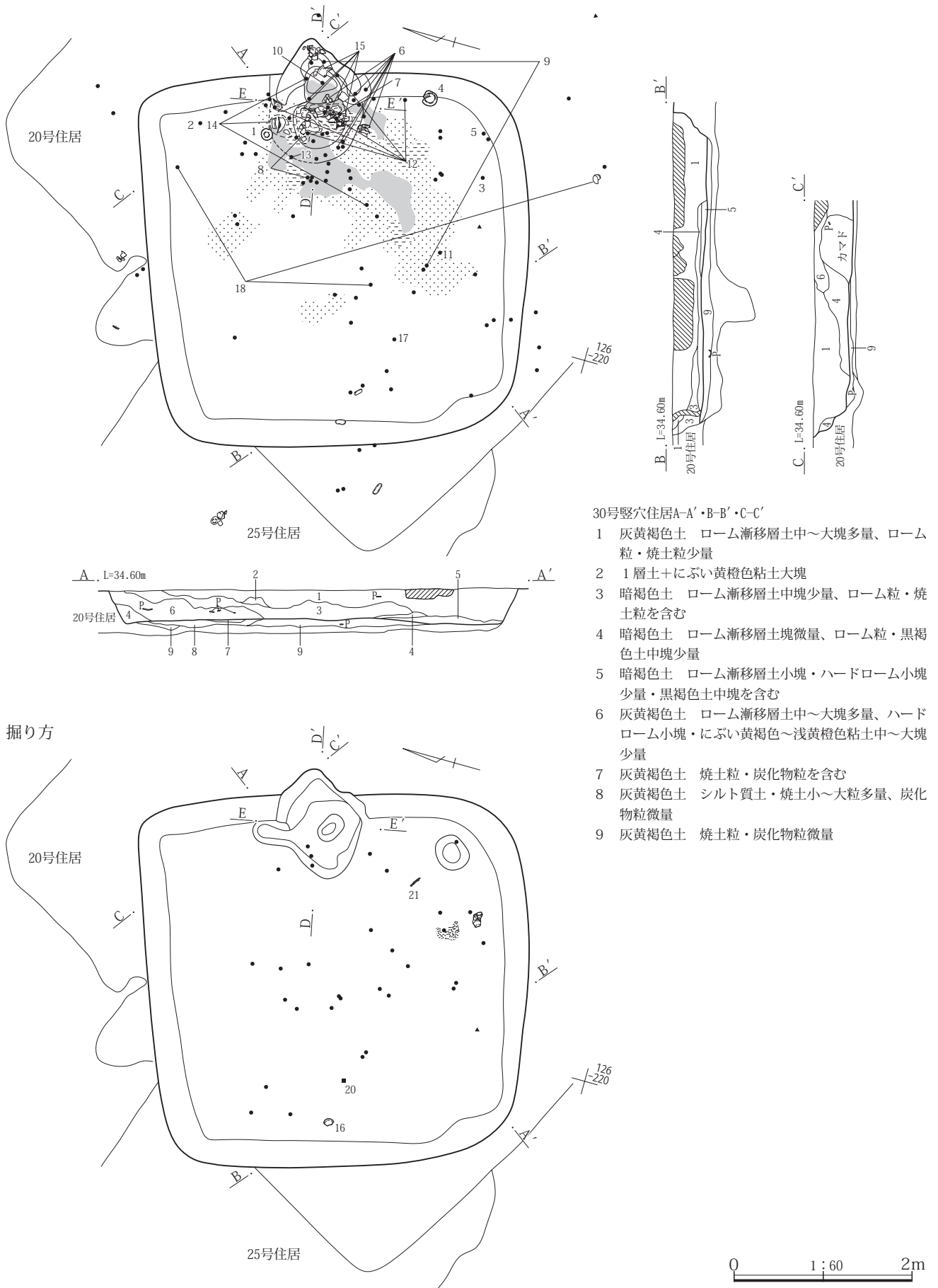
**床面** 中央部が壁際周辺より3～5cm高い。カマド焚口から床面南東部にかけて硬化面が認められ、焼土や炭化物も残存する。1区25号竪穴住居の埋没土と考えられる焼土粒や炭化物を含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 東壁中央部に付設する。規模は、全長1.39m、

幅1.11m、焚口幅60cm、焚口から燃烧部奥行58cm、煙道40cmである。軸方向は、N-78°-Eである。燃烧面は住居床面より約5～10cm低い。内部から炭化種実が出土し、分析の結果イネ類(基部)破片2個、胚乳完形2個と破片10個、アワ類・胚乳完形1個の他、オニグルミ核破片(第317図19)2個、ヤナギタデ近似種果実完形(第317図24)1個と破片1個、オナモミ属破片1個を検出した。掘り方は、燃烧面から煙道を約10cm掘り窪め整えている。遺物は、燃烧部から焚口周辺に潰れた状態で散在する。土師器小型甕(第190図8)、土師器甕(第191図15)は燃烧面上7～9cmから、土師器小型台付甕(第190図6)、土師器甕(第190図7・10・12・14)は燃烧面上10cm以上の埋没土からの出土である。

**貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

**掘り方** 大小ピット状に約5～10cm掘り窪められているが床下施設は確認できなかった。南東隅のピット状の窪みは貯蔵穴の可能性はある。



30号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊多量、ローム粒・焼土粒少量
- 2 1層土+にぶい黄橙色粘土大塊
- 3 暗褐色土 ローム漸移層土中塊少量、ローム粒・焼土粒を含む
- 4 暗褐色土 ローム漸移層土塊微量、ローム粒・黒褐色土中塊少量
- 5 暗褐色土 ローム漸移層土小塊・ハードローム小塊少量・黒褐色土中塊を含む
- 6 灰黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊多量、ハードローム小塊・にぶい黄褐色～浅黄橙色粘土中～大塊少量
- 7 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む
- 8 灰黄褐色土 シルト質土・焼土小～大粒多量、炭化物粒微量
- 9 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量

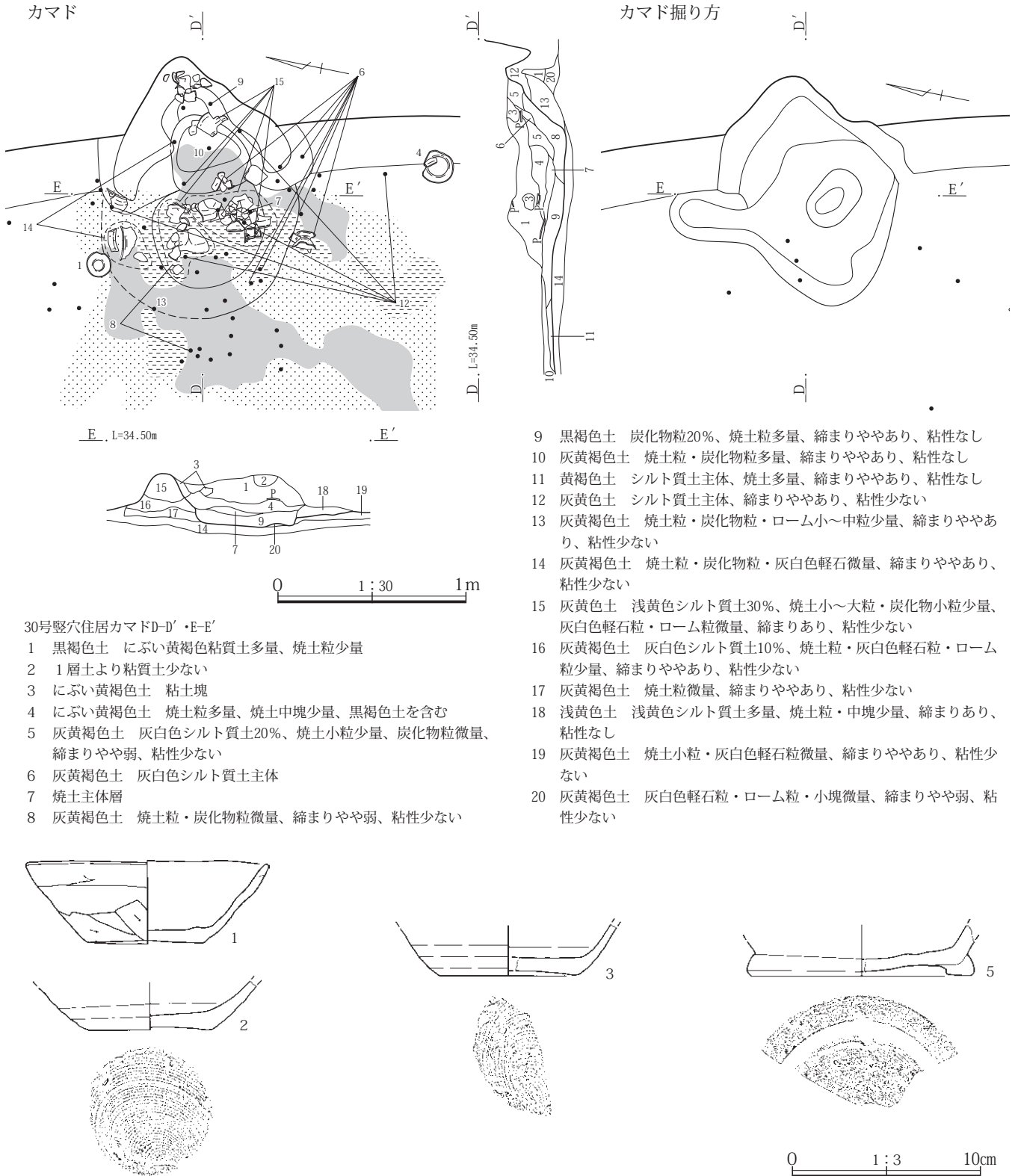
第188図 1区30号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

**遺物出土状態** 須恵器杯(第189図3)、土師器杯か(第191図18)は床面直上から出土した。土師器杯(第189図1)、灰釉陶器壺(第189図5)は床面上7~9cmから、須恵器杯(第189図2)、土師器杯(第191図17)、土師器甕(第190図9・11・13)、須恵器鉢(第190図4)、羽口(第191

図19)は埋没土からの出土である。床下からは、土師器杯(第191図16)、刀子(第191図20・21)が出土した。非掲載遺物は土師器片268点(小型製品8、大型製品259、不明1)、須恵器片8点(小型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

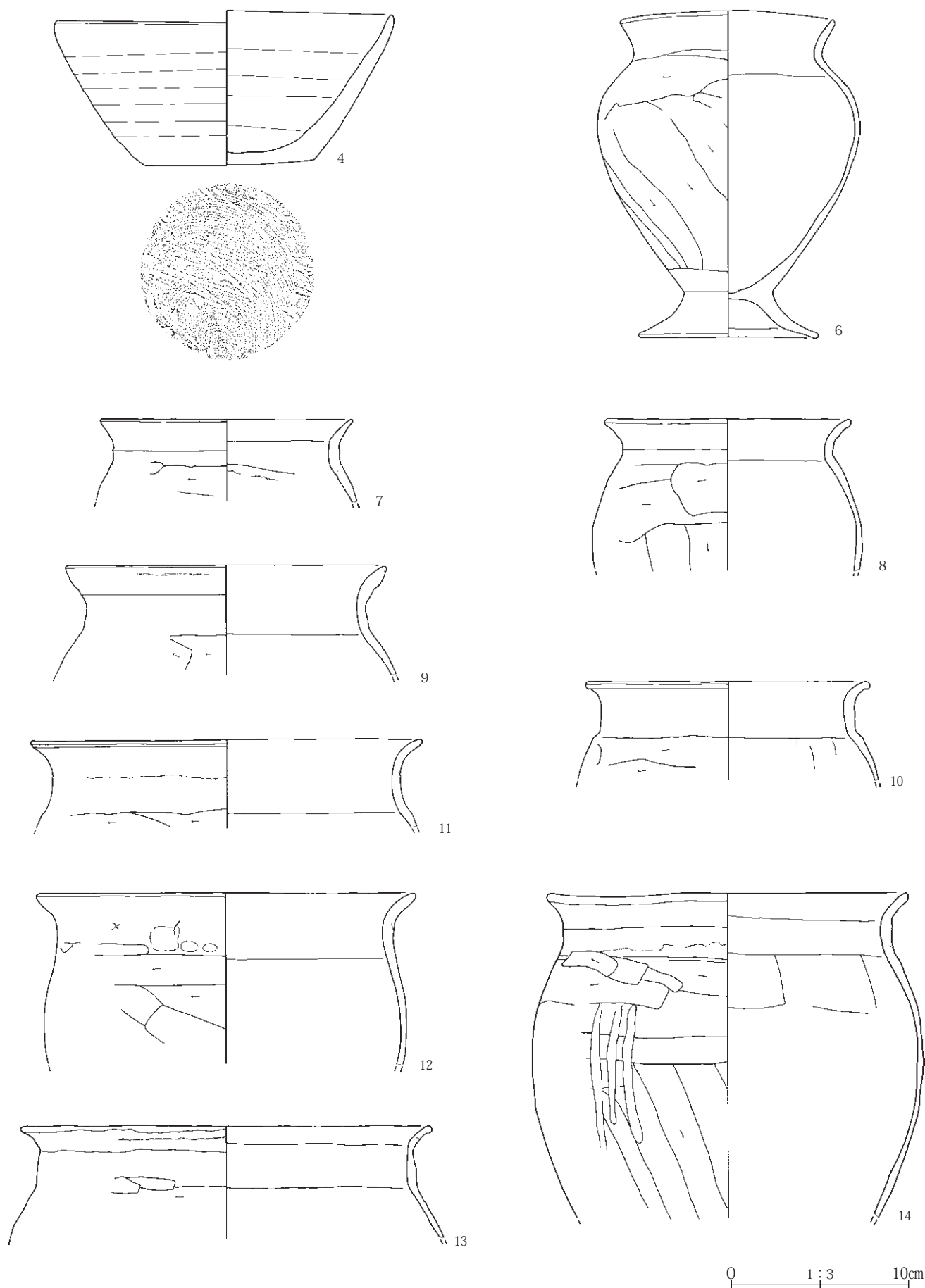


30号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

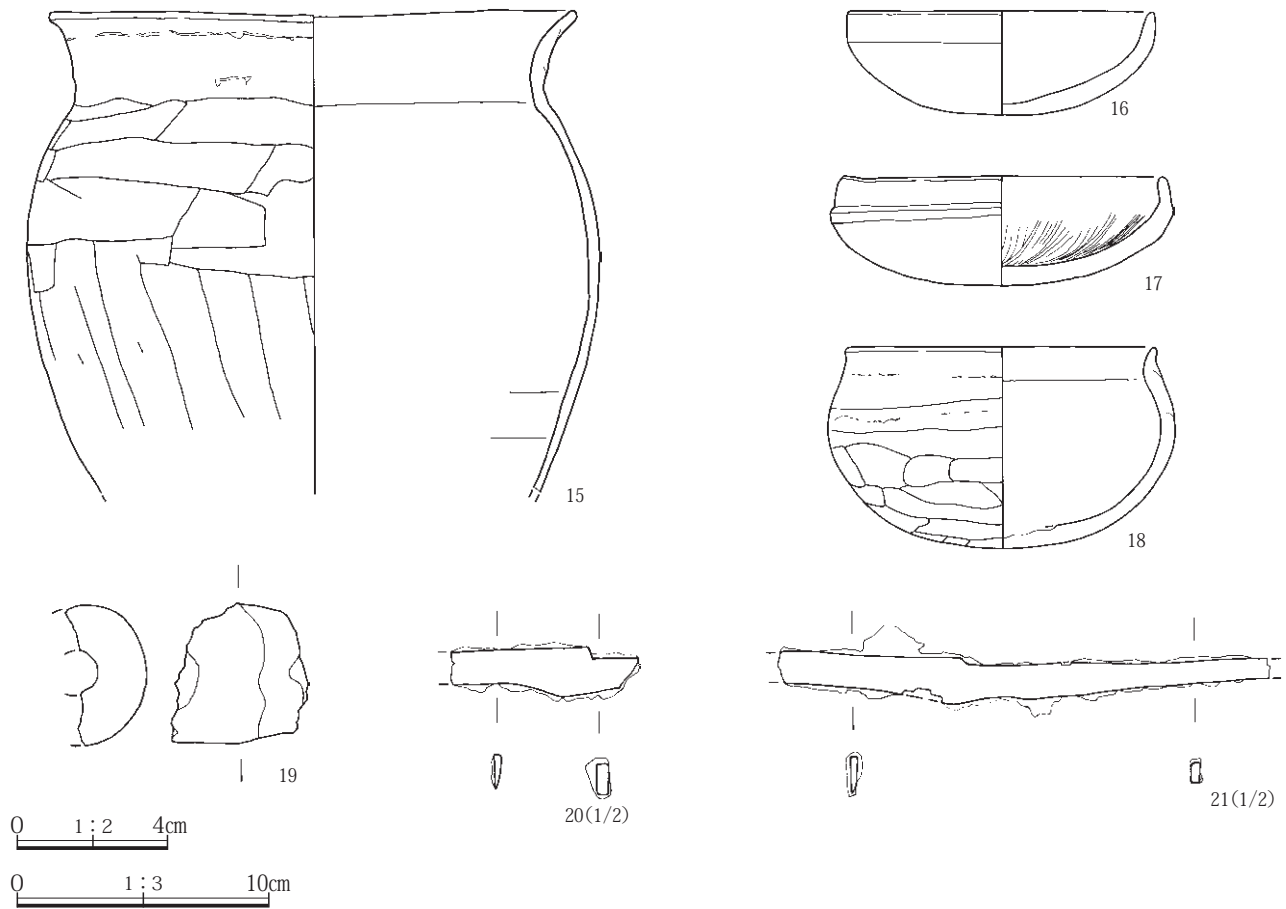
- 1 黒褐色土 にぶい黄褐色粘質土多量、焼土粒少量
- 2 1層土より粘質土少ない
- 3 にぶい黄褐色土 粘土塊
- 4 にぶい黄褐色土 焼土粒多量、焼土中塊少量、黒褐色土を含む
- 5 灰黄褐色土 灰白色シルト質土20%、焼土小粒少量、炭化物粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 灰白色シルト質土主体
- 7 焼土主体層
- 8 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

- 9 黒褐色土 炭化物粒20%、焼土粒多量、縮まりややあり、粘性なし
- 10 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒多量、縮まりややあり、粘性なし
- 11 黄褐色土 シルト質土主体、焼土多量、縮まりややあり、粘性なし
- 12 灰黄色土 シルト質土主体、縮まりややあり、粘性少ない
- 13 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム小~中粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 15 灰黄色土 浅黄色シルト質土30%、焼土小~大粒・炭化物小粒少量、灰白色軽石粒・ローム粒微量、縮まりあり、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 灰白色シルト質土10%、焼土粒・灰白色軽石粒・ローム粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 17 灰黄褐色土 焼土粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 18 浅黄色土 浅黄色シルト質土多量、焼土粒・中塊少量、縮まりあり、粘性なし
- 19 灰黄褐色土 焼土小粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 20 灰黄褐色土 灰白色軽石粒・ローム粒・小塊微量、縮まりやや弱、粘性少ない

第189図 1区30号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第190図 1区30号竪穴住居出土遺物(2)



第191図 1区30号竪穴住居出土遺物(3)

**1区31号竪穴住居**(第192～194図 PL.54～56・93)

**位置** X=151～155、Y=-172～178

**形状・規模** 北東隅は調査区外となるが形状は長方形である。規模は、長軸長4.28m、短軸長2.90m、壁高北壁32cm、南壁及び西壁21cm、東壁32cmを測る。

**主軸方向** N-61°-E

**重複** なし。

**埋没土** 下層の壁際に三角堆積が認められるが、上層にかけて埋没土にローム漸移層土塊やローム塊を混入するため人為的な埋戻しと考えられる。

**床面** 床面の高低差は殆どなく平坦であるが、南壁際の中央部が約1cm低い。床面中央部に硬化面が認められる。P2～P3間において、形状が長方形であり、規模が長径45cm、短径35cmの焼土範囲が認められたが、遺物などの出土はなかった。ソフトロームを含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 東壁中央部やや南寄りに付設する。燃焼部側壁は失われているが、燃焼面から煙道にかけて焼土が顕著に認められ残存状況は良好である。燃焼部側壁に設置し

た芯材の石が残存する。規模は、全長1.55m、幅1.0m、焚口幅47cm、焚口から燃焼部奥行92cm、左袖状残存部28cmである。軸方向は、住居の主軸方向と一致する。掘り方は、燃焼面を約5～8cm、煙道を約15cm掘り窪め整えている。燃焼部から炭化種実が出土し、顕微鏡による観察からイネ(PL.93-7)が検出された。

**貯蔵穴** カマド右側の南東隅において確認した。形状は楕円形、規模は、長径49cm、短径40cm、深さ32cmを測る。遺物は、底面上7cmから須恵器杯(第194図1)が出土した。

**柱穴** 床面からピット5基を確認した。形状及び規模は、P1(楕円形、長径32cm、短径30cm、深さ22cm)、P2(不定形、長径30cm、短径25cm、深さ23cm)、P3(円形、長径21cm、短径20cm、深さ22cm)、P4(円形、径25cm、深さ36cm)、P5(円形、長径32cm、短径30cm、深さ11cm)である。P2とP4は南壁及び北壁中央部に位置し、P2は南壁から55cm、P4は北壁から70cmに位置し、ピット間の距離は1.61mを測る。P3とP5は北壁際に位置し、出入口施設の下部構造の一部の可能性はある。

**周溝** 掘り方調査によって北壁及び南壁沿いで確認す



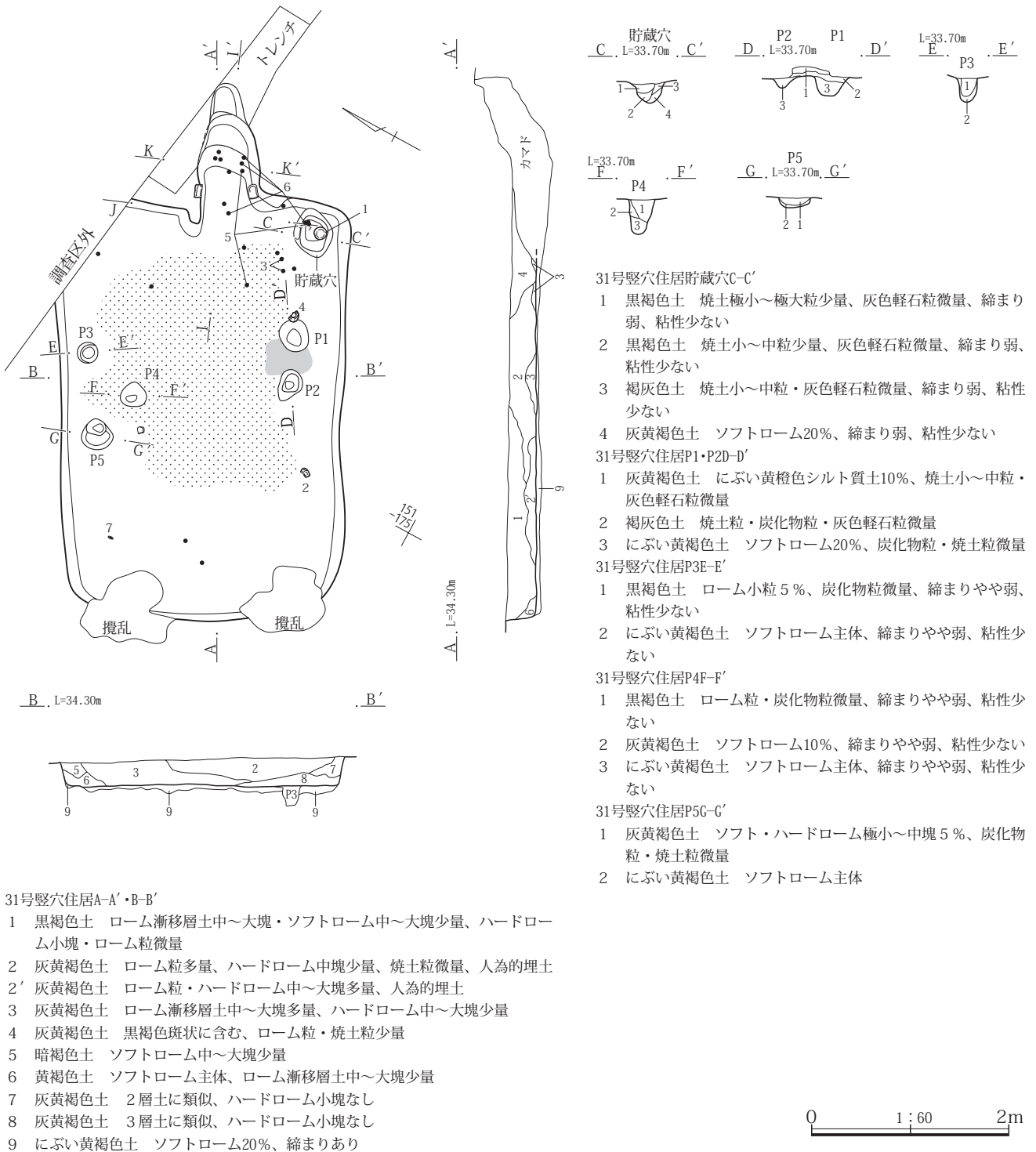
る。規模は、幅16~36cm、深さ1~5cmを測る。

**掘り方** ローム面まで全体的に3~5cm掘り窪めている。特に床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土師器甕(同図5・6)はカマド埋没土上層や床面直上、須恵器瓶(同図4)は床面直上から出土した。須恵器杯(同図2)は床面上4cmから、須恵器杯(同

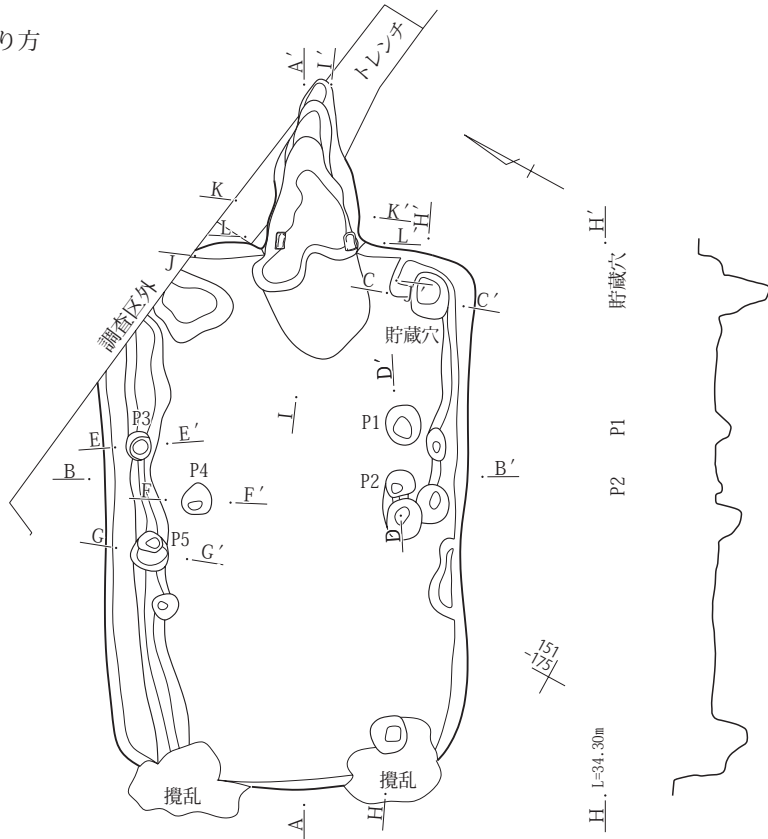
図3)、石製模造品(同図8)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片202点(小型製品36、中型製品2、大型製品161、不明3)、須恵器片3点(小型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は8世紀第4四半期~9世紀第1四半期と考えられる。

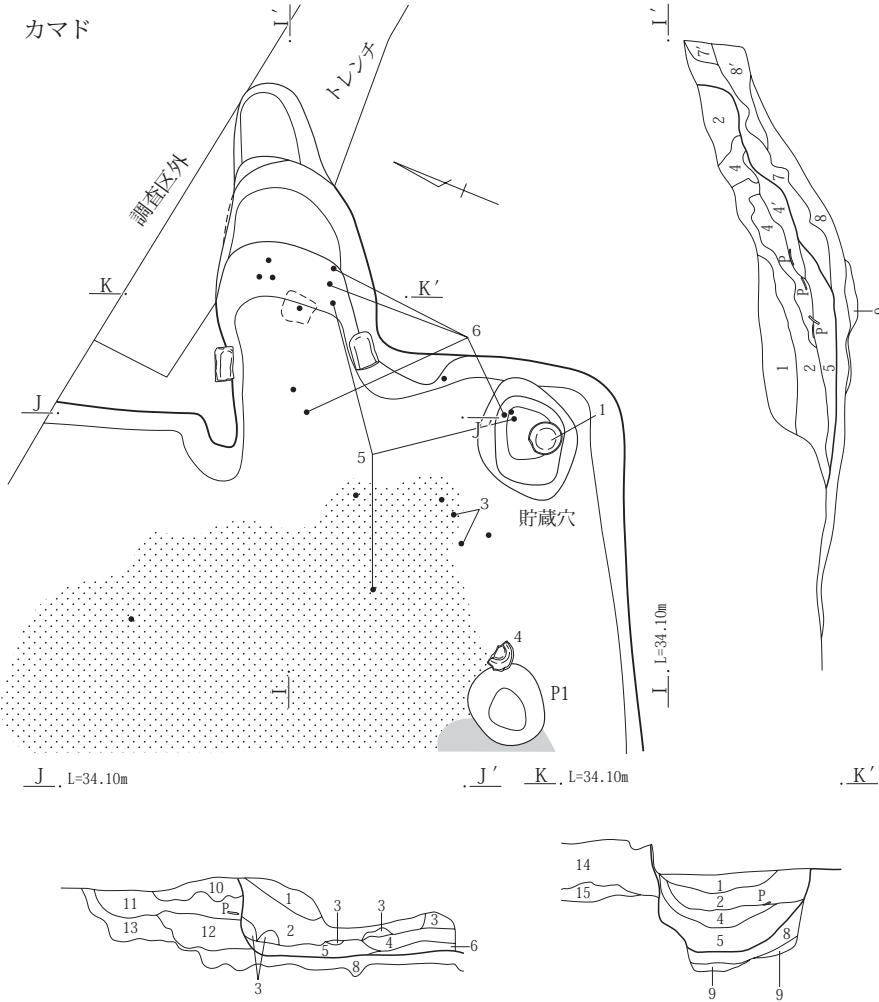


第192図 1区31号竪穴住居

掘り方



カマド

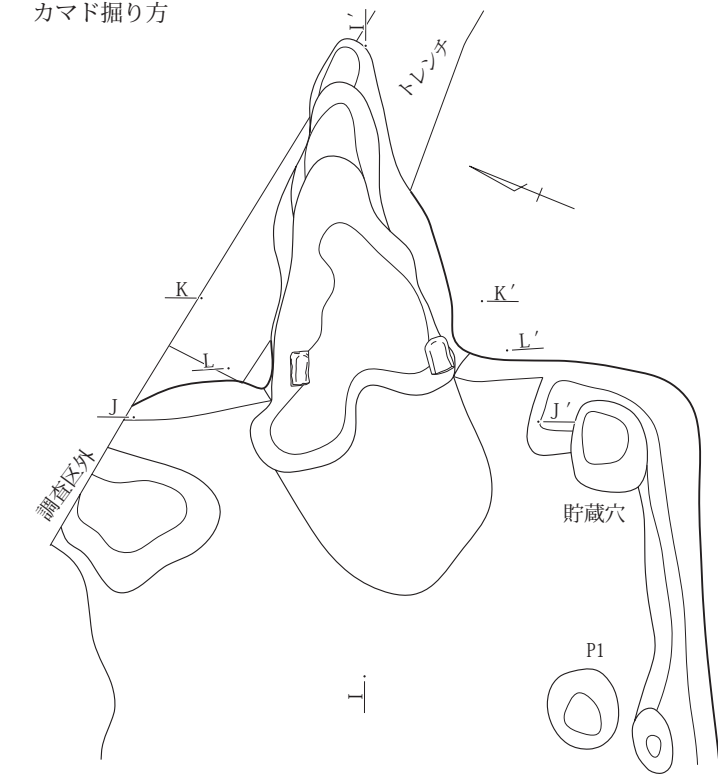


31号竪穴住居カマドI-I'・J-J'・K-K'

- 1 黒褐色土 焼土小～中粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ハードローム極小～中塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 燃焼部側壁のシルト質土主体、縮まりやや弱、粘性少ない
- 4 焼土主体
- 4' 褐灰色土 焼土主体、4層土多量
- 5 褐灰色土 焼土多量、灰混入層、炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 灰色軽石粒・炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 7 褐灰色土 焼土小塊・炭化物粒多量
- 7' 褐灰色土 7層土よりやや灰色味強い、焼土粒少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小～中塊10%、縮まりやや弱、粘性あり
- 8' 灰黄褐色土 7層土よりやや黒味強い、縮まりやや弱、粘性あり
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 11 黒褐色土 炭化物粒・ローム粒・焼土粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 12 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物小～中粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 13 にぶい黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 14 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 15 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない

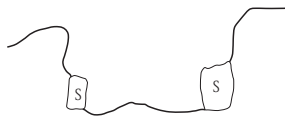
第193図 1区31号竪穴住居掘り方とカマド

カマド掘り方

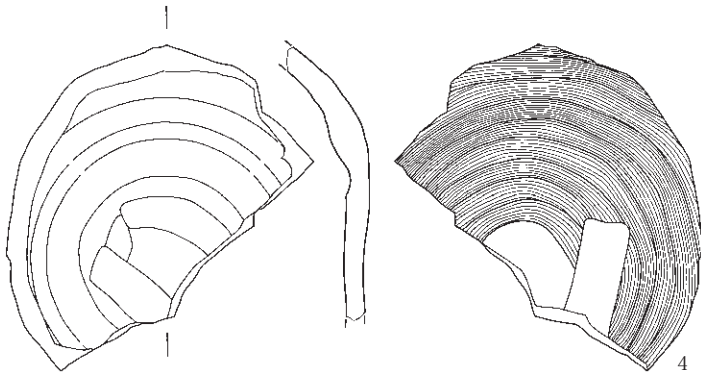


L L=34.10m

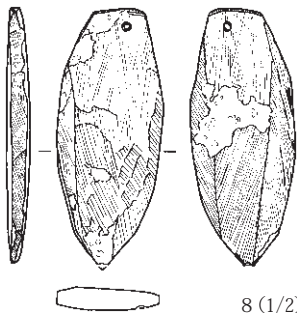
L'



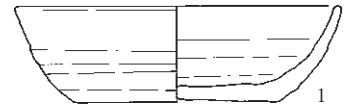
0 1:30 1m



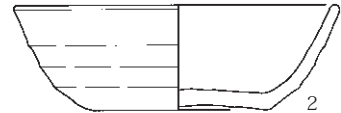
4



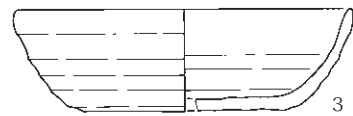
8 (1/2)



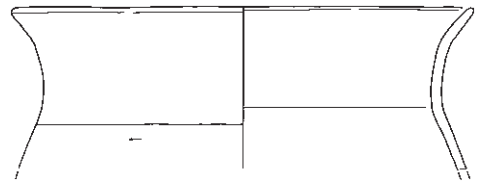
1



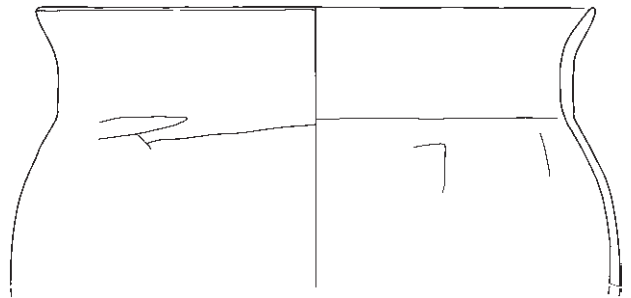
2



3



5



6

0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

第194図 1区31号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物

1区33号竪穴住居(第195~198図 PL.56・57・94)

位置 X=147~152、Y=-208~214

形状・規模 形状は長方形である。規模は、軸長4.30m、短軸長3.53m、壁高北壁38cm、南壁及び西壁39cm、東壁40cmを測る。床面積は14.97㎡である。

主軸方向 N-70°-E

重複 なし。

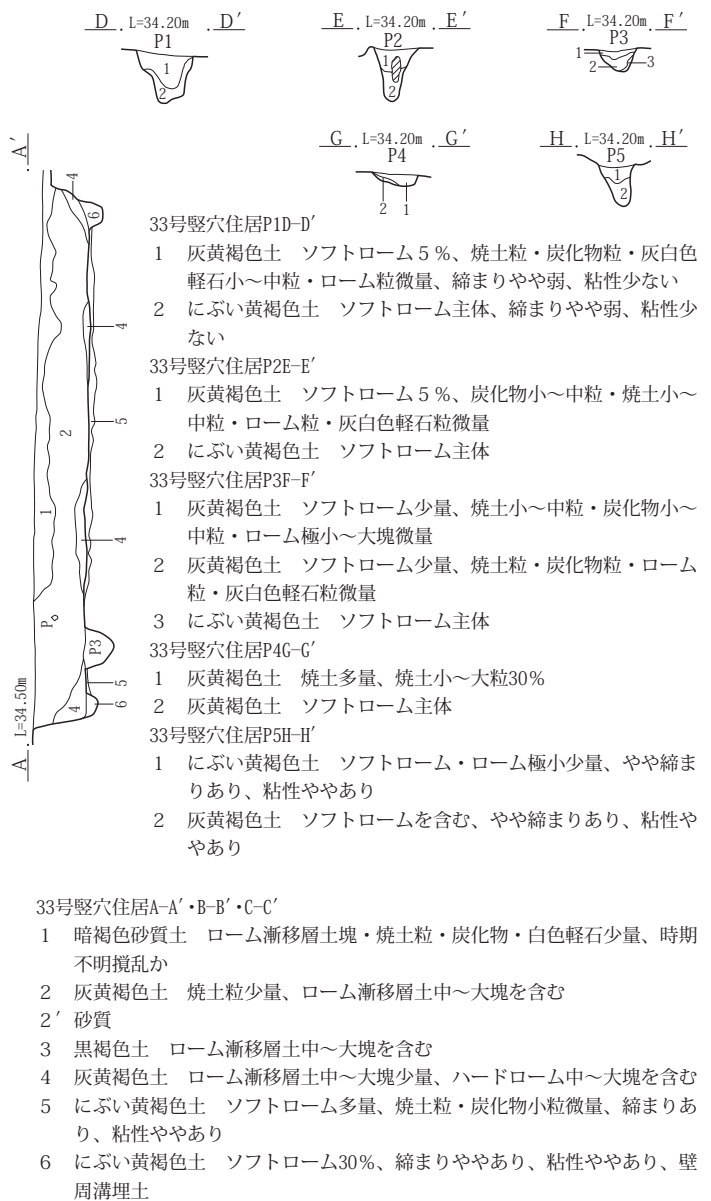
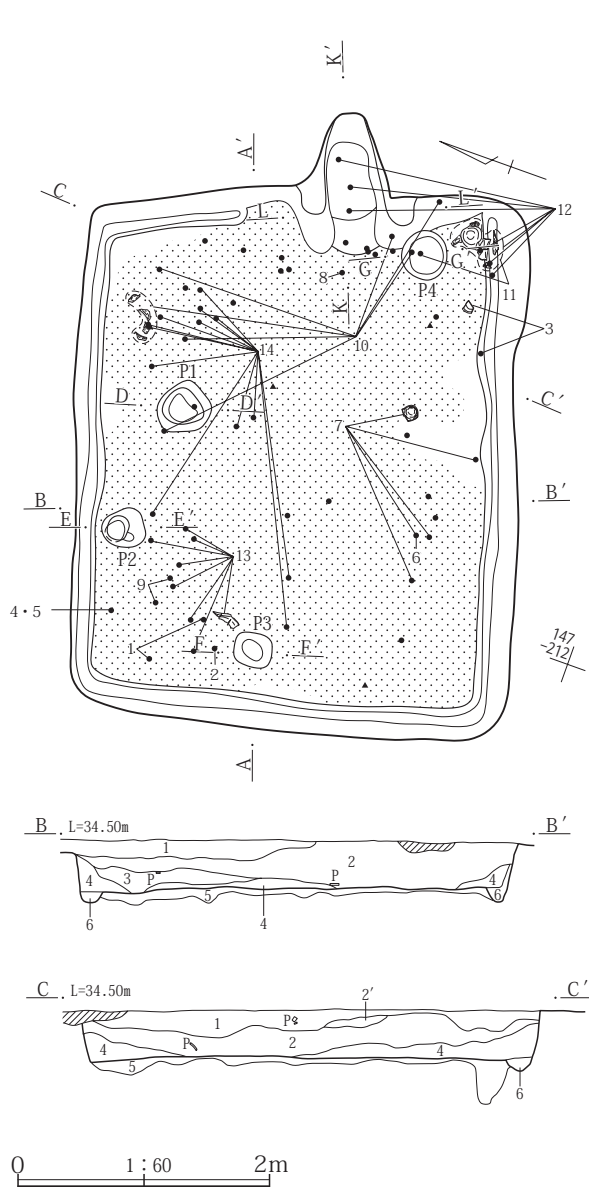
埋没土 壁際に三角堆積が認められるが、上層はローム漸移層土塊を含む灰黄褐色土や黒褐色土によってほぼフラットに埋没することから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 床面の高低差は殆どなく平坦である。ほぼ全面に硬化面が認められる。ソフトロームを含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 東壁中央部やや南寄りに付設する。規模は、全長1.12m、幅94cm、焚口幅56cm、焚口から燃焼部奥行87cm、左袖状残存部58cm、右袖状残存部41cmである。軸方向は、N-69°-Eである。掘り方は、燃焼面を約5cm、煙道を約10cm掘り窪め整えている。

貯蔵穴 カマド右側の南東隅から4号ピットを確認した。形状は円形、規模は長径38cm、短径35cm、深さ16cmを測る。小規模であるが位置から貯蔵穴の可能性はある。遺物は、底面上7cmと床面上11cmから土師器甕(第197図11)などが出土する。

柱穴 床面からピット3基を確認した。形状及び規模は、P1(不定形、長径43cm、短径40cm、深さ39cm)、P2(不定形、長径37cm、短径34cm、深さ56cm)、P3(隅丸方形、



第195図 1区33号竪穴住居

長径30cm、短径27cm、深さ21cm)である。土層断面の観察から埋没土に柱痕は確認できなかった。

**周溝** カマド付設部以外は壁際に沿って全周する。規模は、幅14~20cm、深さ4~9cmを測る。ソフトロームを多量に含むにぶい黄褐色土によって埋没する。

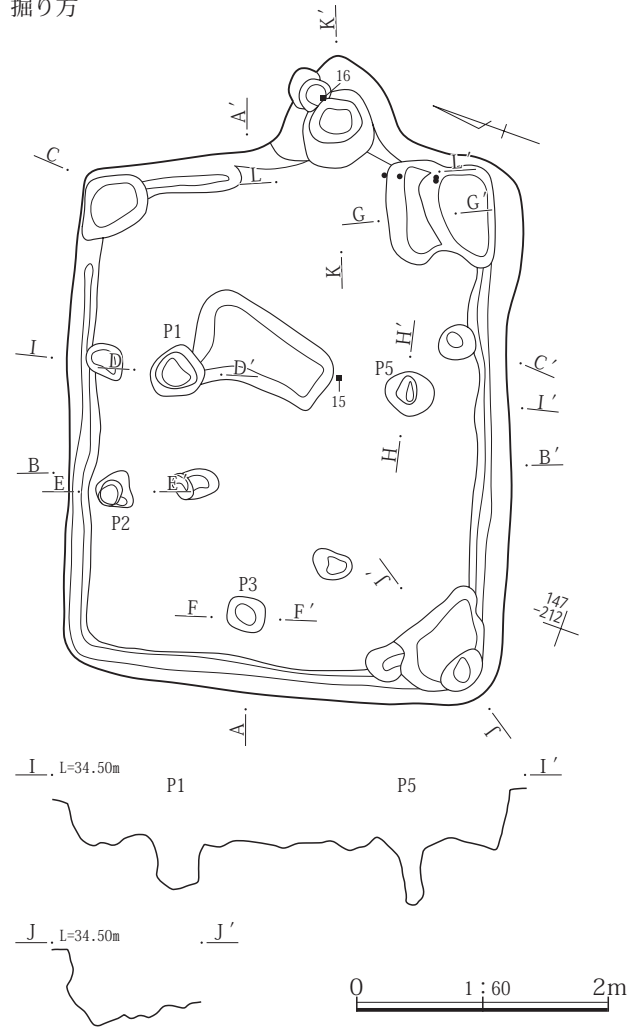
**他の施設** 掘り方調査によってP5を確認した。形状は円形で、規模は長径40cm、短径35cm、深さ52cmである。P1とP5は北壁及び南壁中央部に位置し、P1は北壁から89cm、P5は南壁から78cm離れている。P1からP5間の距離は1.83mである。

**掘り方** 大小ピット状に5~10cm掘り窪めている。中央部と南壁両隅に土坑状の掘り込みが認められる。

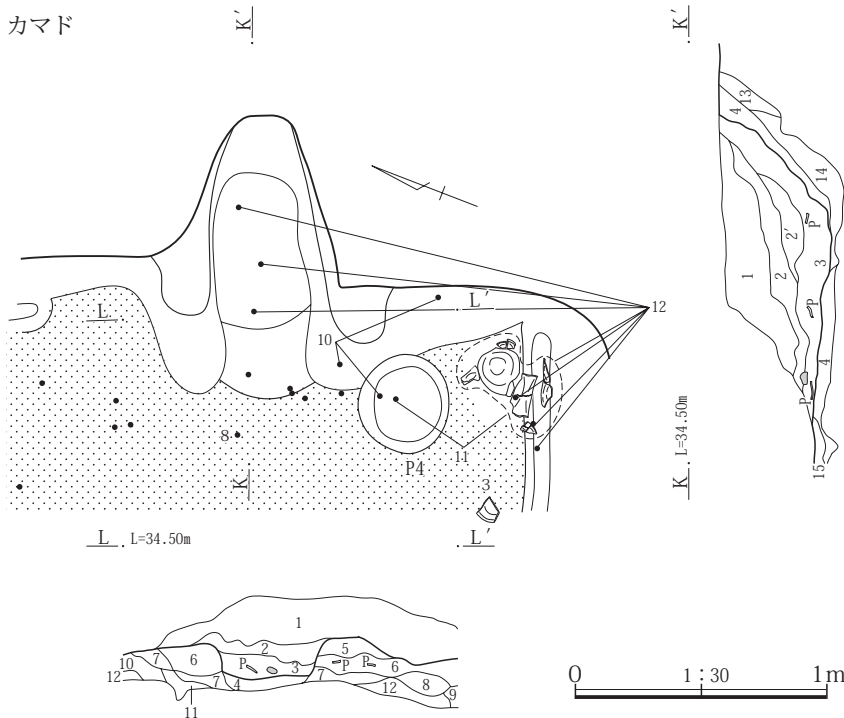
**遺物出土状態** 須恵器杯(第197図3)、須恵器壺か(第197図8)、土師器甕(第198図12)は床面直上から、土師器甕(第197図10)、灰釉陶器壺(第197図6)、須恵器壺(第197図7)、須恵器甕(第198図14)は床面上4~7cmから出土し、須恵器杯(第197図1・2・4・5)、土師器甕(第197図9・13)は埋没土からの出土である。床下から鉄製品(第198図16)と炉内滓(工具痕付)?(第198図15)が出土した。非掲載遺物は、土師器片501点(小型製品49、中型製品2、大型製品425、不明25)、須恵器片51点(小型製品43、大型製品8)、磨石?1点である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。

掘り方



カマド




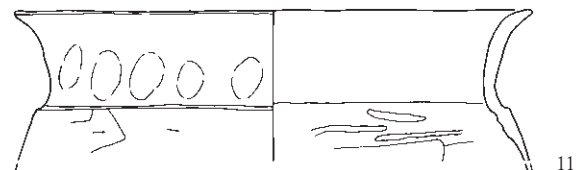
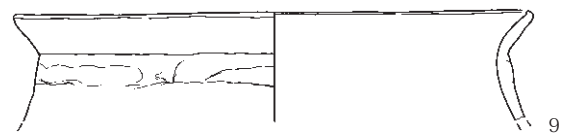
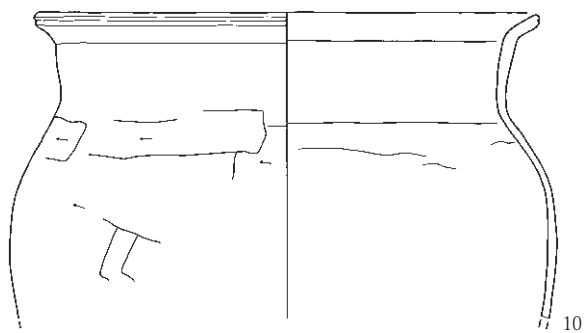
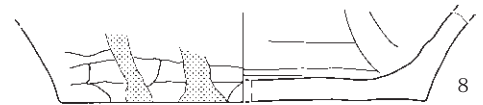
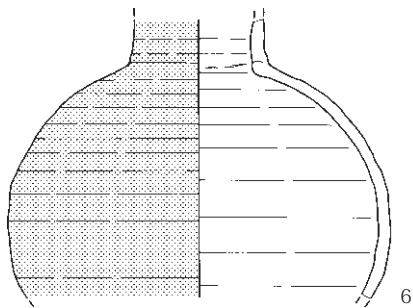
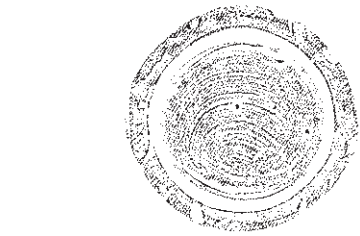
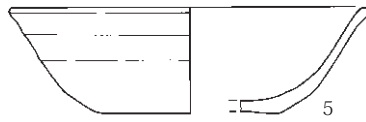
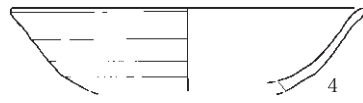
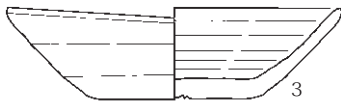
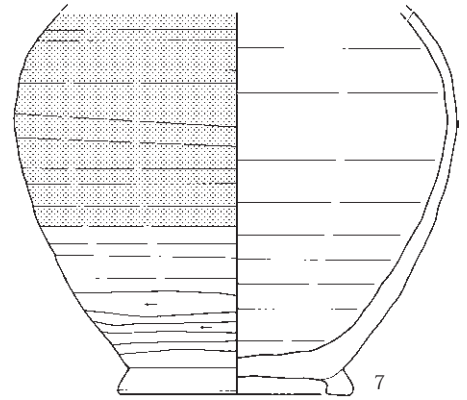
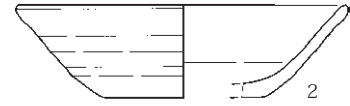
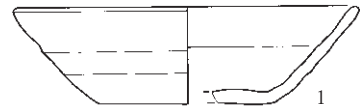
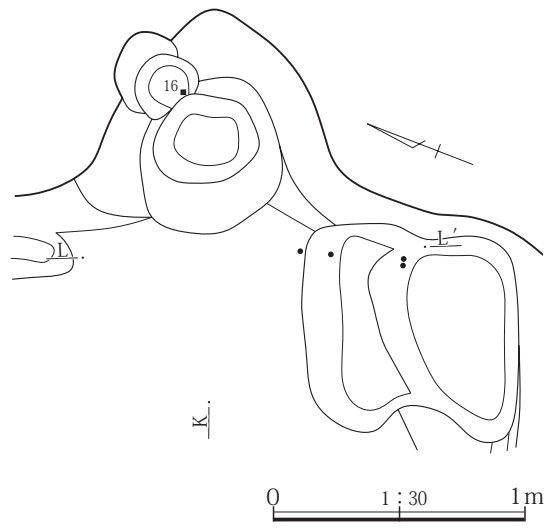
33号竪穴住居カマドK-K'・L-L'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、ハードローム小~中塊・灰色軽石小~中・炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、焼土粒・炭化物小~中粒少量、灰色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2' にぶい黄褐色土 2層土に類似、焼土小塊5%
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、焼土小~極大粒10%、炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム10%、焼土小~中粒5%、ハードローム極小~中塊・炭化物粒微量
- 5 灰黄褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量
- 6 にぶい黄褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量
- 7 にぶい黄褐色土 6層土より焼土やや多い
- 8 にぶい黄褐色土 ローム塊主体、焼土粒・炭化物小~大粒少量
- 9 灰黄褐色土 ソフトローム10%
- 10 にぶい黄褐色土 ローム塊主体
- 11 にぶい黄褐色土 10層土よりやや暗い色調
- 12 にぶい黄褐色土 ローム塊主体
- 13 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 にぶい黄褐色土 焼土粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 15 にぶい黄褐色土 締まりやや弱、粘性少ない

第196図 1区33号竪穴住居掘り方とカマド

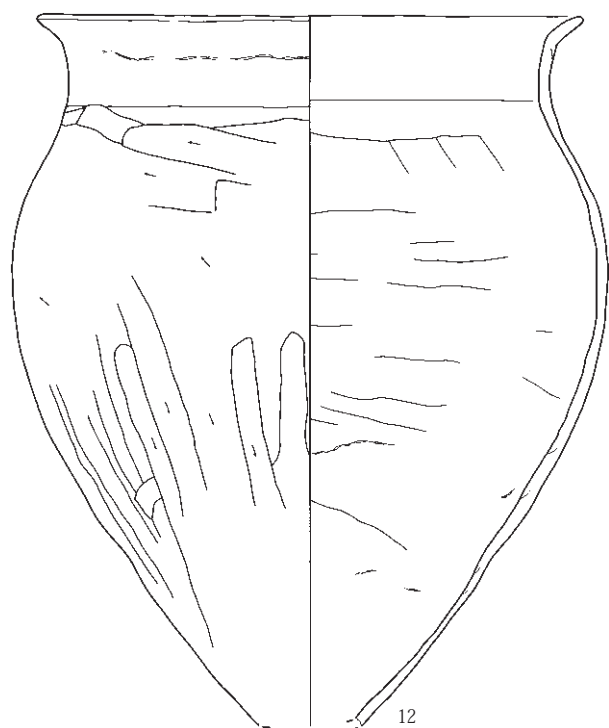


カマド掘り方 

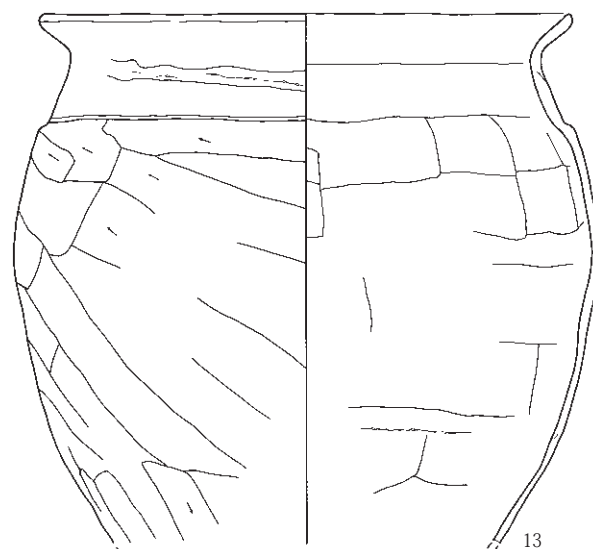


0 1:3 10cm

第197図 1区33号竪穴住居カマド掘り方と出土遺物(1)



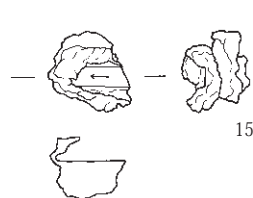
12



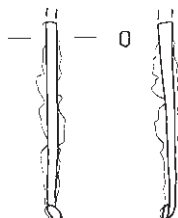
13



14(1/4)



15



16(1/2)

0 1:2 4cm

0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

第198図 1区33号竪穴住居出土遺物(2)

1区37号竪穴住居(第199～201図 PL.57・58・94)

位置 X=127～131、Y=-258～264

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.54m、短軸長3.78m、壁高北壁60cm、南壁59cm、東壁61cm、西壁66cmを測る。床面積は17.27㎡である。

主軸方向 N-91°-E

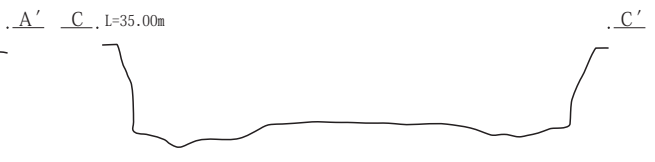
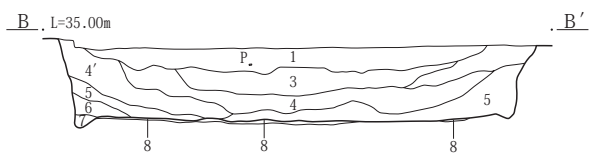
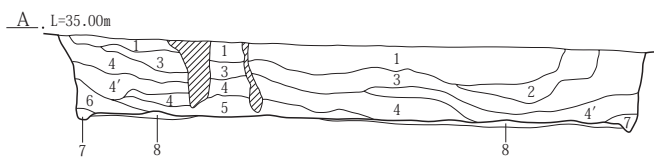
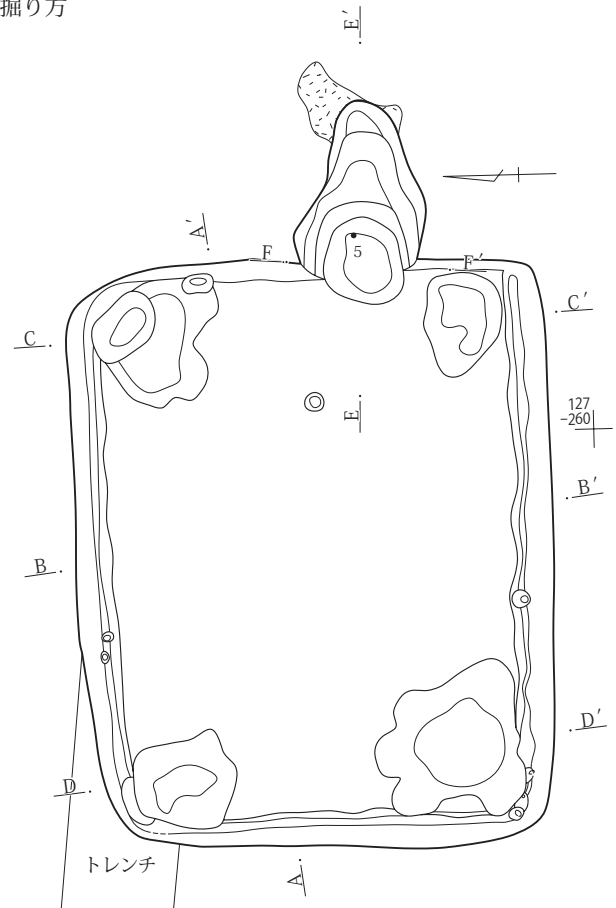
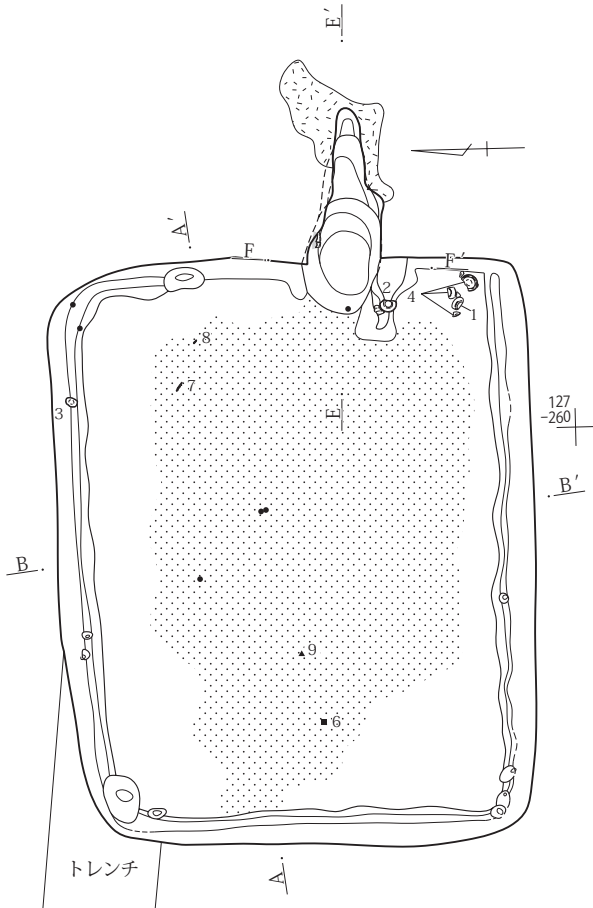
重複 なし。

埋没土 壁際に三角堆積がみられ、下層から上層にかけて

てレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

床面 西側から東側にかけて約10cm傾斜し緩やかに低い。壁際と南西隅部分を除きほぼ広範囲に硬化面が認められる。ハードロームとローム漸移層の混土によって床面を構築する。

カマド 東壁中央部やや南寄りに付設する。遺構確認面に構築材と考えられるシルト質土が広範囲に残存している掘り方

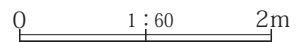


37号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土大塊・ハードローム中塊少量
- 2 灰黄褐色土 ローム漸移層土中塊・ハードローム中塊少量
- 3 にぶい黄褐色土 ハードローム中～大塊多量、ローム粒少量
- 4 黒褐色土 ハードローム中～大塊・ローム粒少量
- 4' にぶい黄褐色土 ハードローム中～大塊少量、ハードローム粒多量

5 にぶい黄褐色土 ハードローム中～大塊多量、ローム粒少量

- 6 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊少量、ハードローム粒微量
- 7 にぶい黄褐色土 ハードローム中塊少量
- 8 にぶい黄褐色土 ハードローム、ローム漸移層土を含む、締まり強、貼り床土



第199図 1区37号竪穴住居

た。東壁から燃焼面や煙道が外に突き出る。規模は、全長1.85m、幅1.04m、焚口幅50cm、焚口から燃焼部奥行90cm、左袖状残存部29cm、右袖状残存部67cmを測る。軸方向は、N-90°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。燃焼部から煙道の残存状況は良好であり、焼土化した天井の崩落土や灰層が認められる。住居床面から約1~3cm低い。掘り方は、燃焼面を10~15cm、煙道を5~30cm掘り窪め整えている。掘り方から土錘(第201図5)が出土する。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査で確認できなかった。

**周溝** 北壁、西壁、南壁沿いに掘り込まれている。ローム塊を含むにぶい黄褐色土によって埋没し、規模は幅15

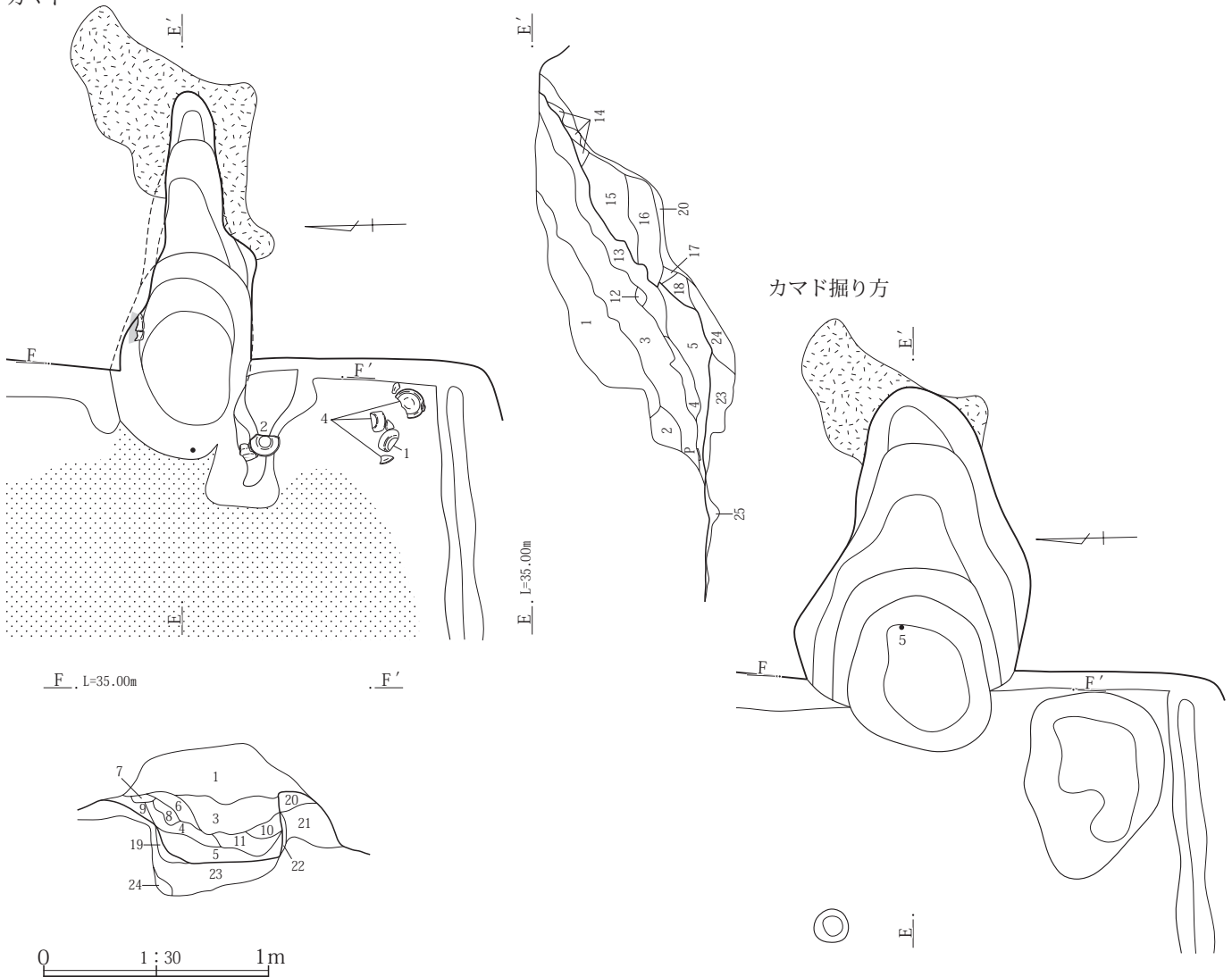
~25cm、深さ2~6cmを測る。小ピット状の窪みが南側と北側で僅かに認められる。

**掘り方** 掘り方調査によって四隅を不定形の土坑状に掘り込み窪めている。深さは北東隅9cm、南東隅8cm、北西隅22cm、南西隅13cmであった。

**遺物出土状態** 須恵器杯(同図1・2)、墨書が認められる須恵器蓋(同図4)、鉄製品(同図7・8)は床面直上から、須恵器椀(同図3)は床面上6cmから、椀形鍛冶滓(同図6)、白玉(同図9)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片504点(小型製品80、中型製品2、大型製品421、不明1)、須恵器片34点(小型製品21、大型製品13)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第2四半期と考えられる。

カマド

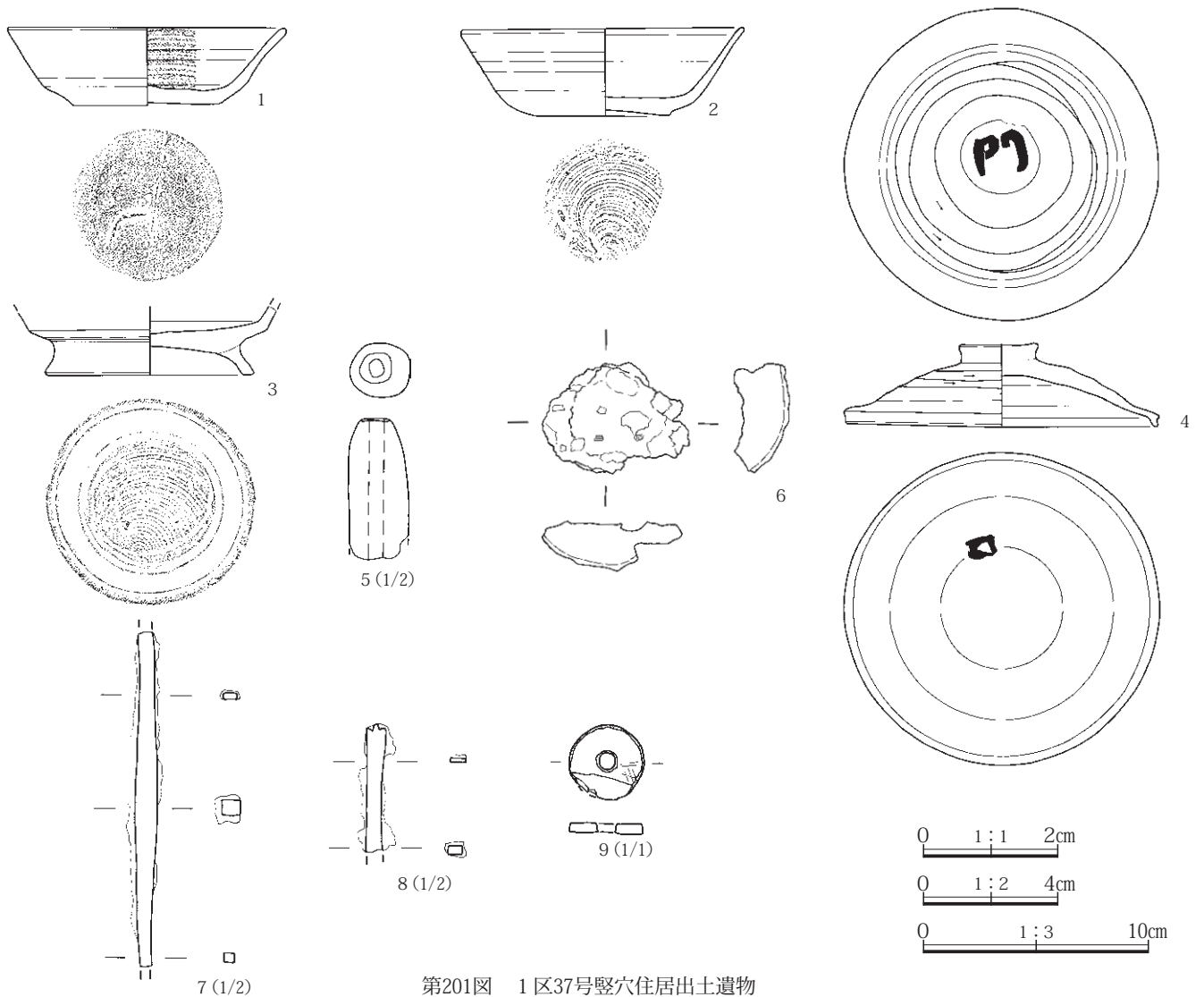


第200図 1区37号竪穴住居カマド

第3章 間之原遺跡の調査

37号竪穴住居カマドE-E'・F-F'

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土中～大塊少量、ローム粒を含む、締まりややあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 にぶい黄褐色粘質土中塊多量、締まりややあり、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色粘質土 にぶい黄褐色粘土を含む、灰白色粘土中塊・黒褐色土中塊少量、締まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 焼土粒・焼土小塊・粘土中塊多量、炭化物・灰少量、締まりやや弱、粘性少ない、崩落天井と灰層の中間堆積土
- 5 灰層 焼土粒少量
- 6 褐灰色土 焼土小～中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土少量、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 にぶい黄褐色土 灰黄色シルト質土主体、焼土5%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰褐色土 焼土粒主体70%、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ローム小～中粒・焼土小～中粒少量・炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 灰黄色土 シルト質土塊層、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない、カマド天井材
- 13 灰褐色土 焼土粒・小塊30%、焼土粒40%、灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 14 褐灰色土 焼土小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 15 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土極小塊・焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 16 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土極小塊少量、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 17 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 18 灰黄褐色土 焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 19 褐灰色土 多量の焼土粒と少量の灰を含む
- 20 灰黄褐色土 ローム小塊・粒多量、38号住居埋土
- 21 灰黄褐色粘質土 焼土粒微量、燃焼部側壁材
- 22 灰黄褐色粘質土 粘質土の焼土化
- 23 黒褐色土 ハードローム中塊少量、焼土粒微量
- 24 黒褐色土 焼土粒を含まない
- 25 にぶい黄褐色土 ハードローム、ローム漸移層土を含む



第201図 1区37号竪穴住居出土遺物



1区48号竪穴住居(第202~204図 PL.24・58・94)

位置 X=131~135、Y=-246~250

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.40m、短軸長2.35m、壁高北壁と東壁と西壁10cm、南壁8cmを測る。床面積は12.60㎡である。

主軸方向 N-4°-W

重複 1区48号竪穴住居が1区49号竪穴住居の埋没土を掘り込む。

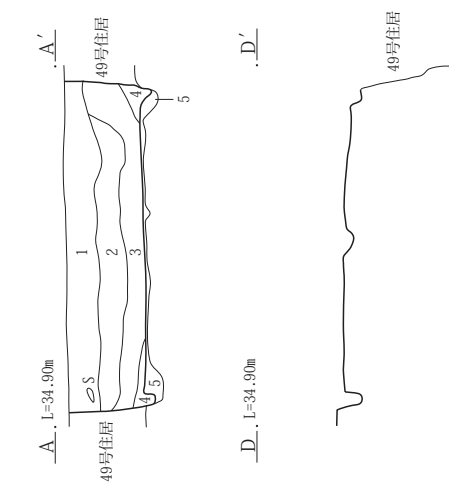
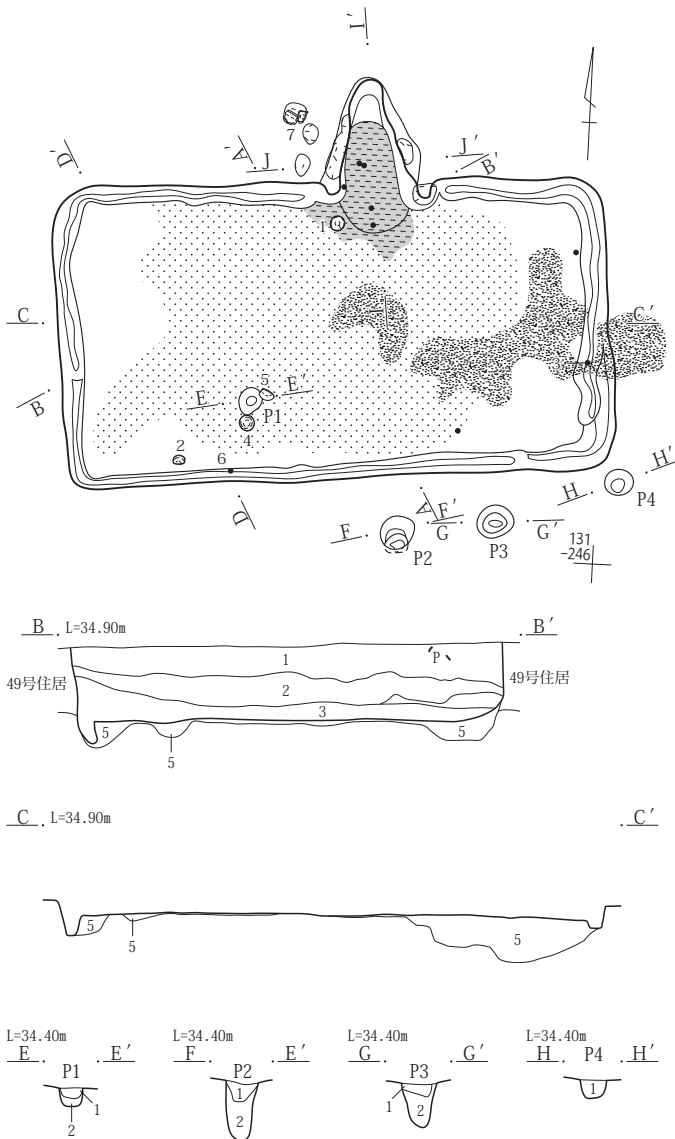
埋没土 ローム漸移層土塊を含む黒褐色土と灰黄褐色土の混土によりほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 西壁から東壁にかけて緩やかに傾斜し比高4~6cmを測る。中央部から北壁と南壁際にかけて広範囲に硬

化面が、東半部に粘土範囲が認められる。灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北壁中央部やや東寄りに付設する。シルト質土によって構築され、燃烧部側壁から燃烧部奥壁までは良好に残存し、煙道は北壁から屋外に長く伸びる構造である。燃烧面は広範囲に炭化物と焼土が残る。規模は、全長1.05m、幅95cm、焚口幅45cm、燃烧部奥行70cm、左袖状残存部16cm、右袖状残存部24cmを測る。軸方向は、N-6°-Wである。掘り方は、燃烧面を約20cm掘り窪めて整えている。シルト質土とともに須恵器甕(第204図7)が出土した。

貯蔵穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。



48号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、焼土粒・炭化物・ハードローム小塊・白色軽石少量
- 2 灰黄褐色土 ローム漸移層土小~中塊・ハードローム小塊・白色軽石少量
- 3 黒褐色土 ローム漸移層土小~中塊・ハードローム小塊・白色軽石少量
- 4 黒褐色土 ローム漸移層土小~中塊少量、ハードローム粒多量
- 5 灰黄褐色土 黒褐色土、ローム塊を含む

48号竪穴住居P1E-E'

- 1 黒褐色土 ハードローム極小~小塊少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 締まりややあり、粘性ややあり

48号竪穴住居P2F-F'

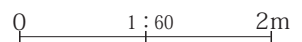
- 1 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量
- 2 灰黄褐色土 締まりややあり、粘性ややあり

48号竪穴住居P3G-G'

- 1 灰黄褐色土 炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 締まりやや弱、粘性少ない

48号竪穴住居P4H-H'

- 1 灰黄褐色土 ローム中粒少量、締まり弱、粘性少ない



第202図 1区48号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

**柱穴** 床面から1基、南壁外側から3基のピットを確認した。形状及び規模は、P1(不定形、長径22cm、短径17cm、深さ21cm)、P2(円形、長径30cm、短径26cm、深さ51cm)、P3(円形、長径30cm、短径25cm、深さ39cm)、P4(円形、長径24cm、短径20cm、深さ18cm)である。P2～P4は住居外側に位置するが、埋没土は類似し壁面にほぼ沿っていることから住居に伴うと考えられる。

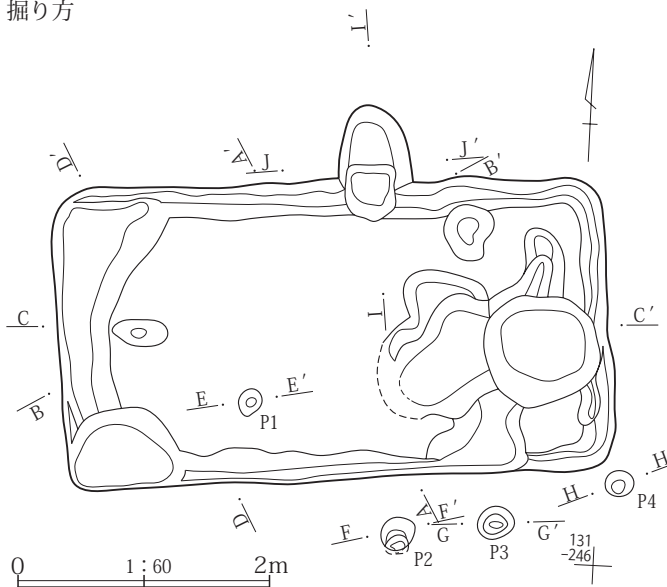
**周溝** カマド付設部分以外は壁際に沿ってほぼ全周する。規模は幅10～17cm、深さ3～7cmを測る。

**掘り方** 床面から2～15cm掘り窪めている。床下施設は確認できなかった。

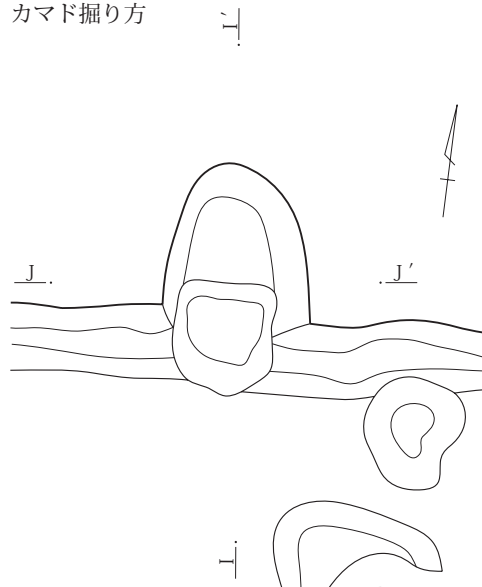
**遺物出土状態** 土師器杯(同図1)、須恵器杯(同図4・5)は床面上3～9cmから、須恵器杯(同図2・3)、須恵器蓋(同図6)、羽口(同図8)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片756点(小型製品234、中型製品9、大型製品513)、須恵器片34点(小型製品14、大型製品20)にのぼる。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第1四半期と考えられる。

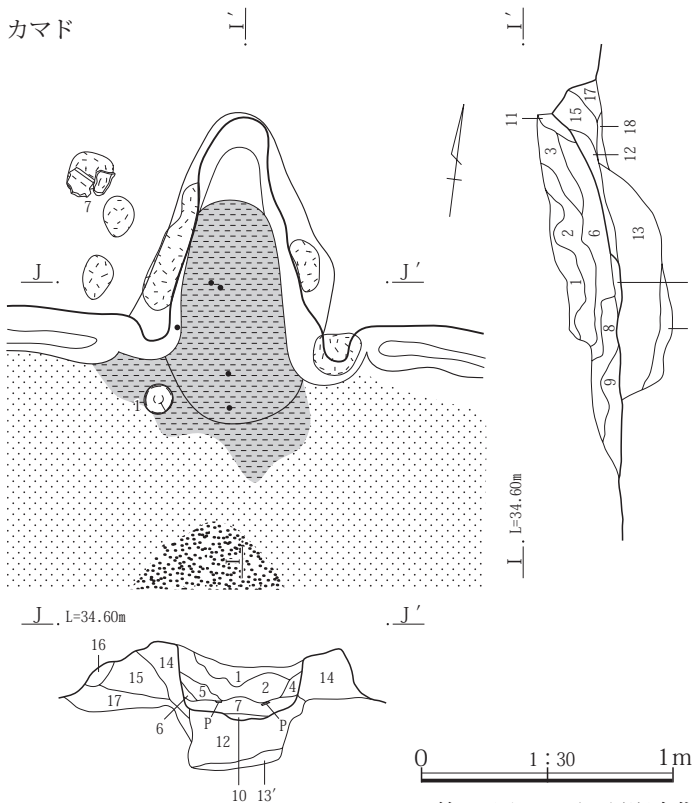
掘り方



カマド掘り方



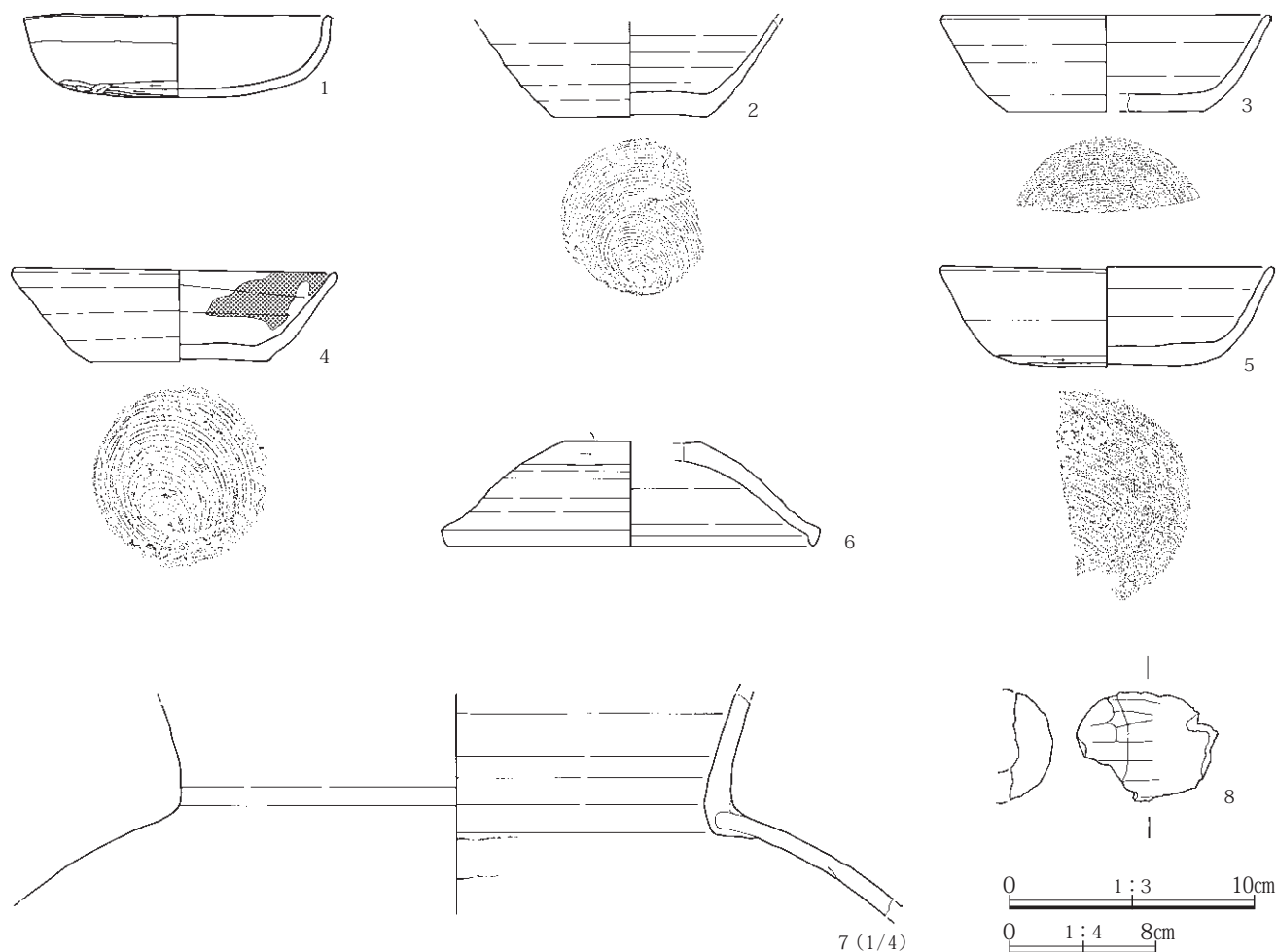
カマド



48号竪穴住居カマドI-I'・J-J'

- 1 黒褐色土 ローム粒・極小塊少量、焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱
- 2 灰黄褐色土 浅黄色粘性土主体60%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性ややあり
- 3 黒褐色土 浅黄色粘性土中塊少量、焼土粒・小塊少量
- 4 灰黄褐色土 浅黄色粘質土微量
- 5 にぶい赤褐色土 焼土極小粒40%、炭化物小粒少量、浅黄色粘性土微量
- 6 灰黄褐色土 焼土粒少量
- 7 灰黄褐色土 灰層主体、焼土粒・炭化物粒微量、締まりやや弱
- 8 灰黄褐色土 浅黄色粘性土・焼土極小粒20%、締まりやや弱、粘性ややあり
- 9 褐灰色土 灰層10%、ローム・小～大粒・焼土小～中粒、灰白色軽石小粒微量、締まりやや弱
- 10 灰褐色土 焼土小粒20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 灰黄色粘性土・焼土小粒少量、締まりやや弱、粘性ややあり
- 12 灰黄褐色土 灰層20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 13 黒褐色土 ローム漸移層土中塊多量
- 13' 黒褐色土 ローム漸移層土中塊少量
- 14 灰黄褐色土 にぶい黄橙色～浅黄橙色粘質土中～大塊多量、焼土粒少量、燃烧部側壁
- 15 灰黄褐色土 黄橙～浅黄橙色シルト塊・灰白色粘土小～中塊少量
- 16 灰黄褐色土 黄橙～浅黄橙色シルト中～大塊多量
- 17 黒褐色土 ローム粒を含む少量、49号住居埋没土
- 18 黒褐色土 ハードローム小～中塊多量、49号住居埋没土

第203図 1区48号竪穴住居掘り方とカマド



第204図 1区48号竪穴住居出土遺物

**1区50号竪穴住居**(第205・206図 PL.58・95)

**位置** X=136~141、Y=-243~248

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.15m、短軸長3.85m、壁高北壁37cm、南壁38cm、東壁36cm、西壁42cmを測る。床面積は15.19㎡である。

**主軸方向** N-93°-E

**重複** 1区50号竪穴住居が1区49号竪穴住居を掘り込む。

**埋没土** 床面付近は黒褐色土、上層は灰黄褐色土によってほぼフラットに埋没することから人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 北壁側から西側にかけてL字状に硬化面が認められる。高低差は少なく平坦であり、中央部がわずかに3~5cm低い。ローム小塊を多量に含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 東壁中央部に付設する。規模は、全長1.05m、幅1.0m、焚口幅45cm、燃烧部奥行56cm、左袖状残存部50cm、右袖状残存部35cmを測る。軸方向は、N-94°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。焚口から燃

烧部奥にかけて炭化物が残存する。住居床面と燃烧面に高低差は殆ど認められない。掘り方は、約10cm掘り込み燃烧面を整える。遺物は、土師器杯(第206図1)が燃烧面上10cmから出土した。

**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**周溝** 東壁南東隅から南壁、西壁、北壁にかけて掘り込まれている。規模は、幅12~30cm、幅2~12cmを測る。

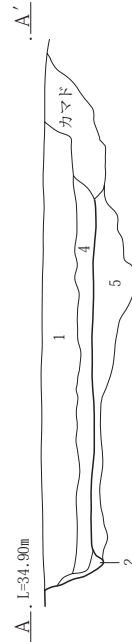
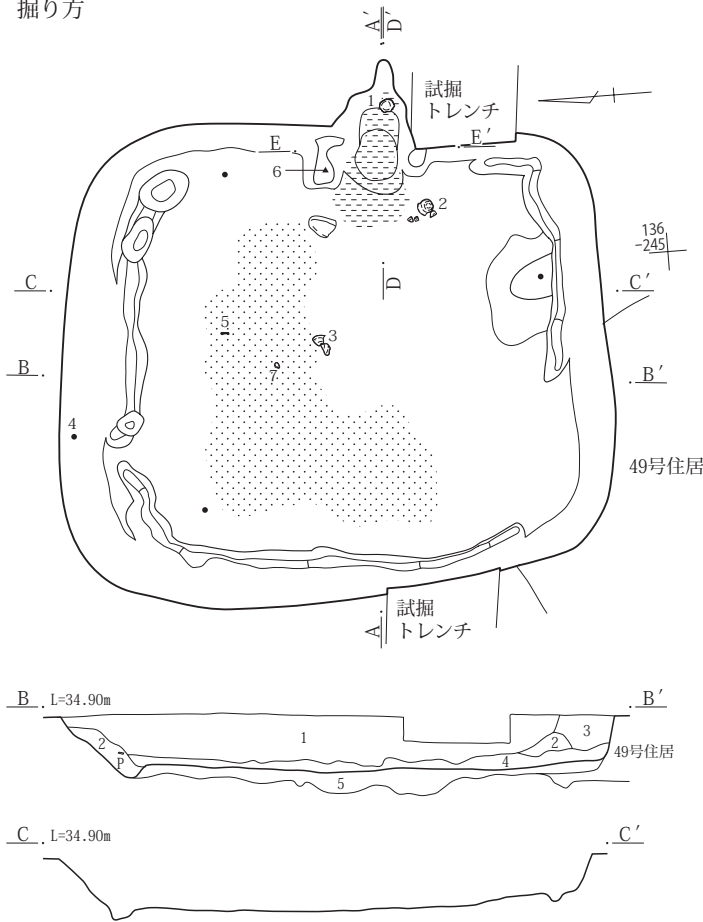
**掘り方** ローム面を5~20cm掘り込む。床下施設などは確認できなかった。

**遺物出土状態** 灰釉陶器壺(同図3)は床面直上から、須恵器碗(同図2)は床面上3cmから出土した。土師器杯(同図4)、釘(同図5)、白玉(同図6)、礫石器原石?(PL94-7)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片393点(小型製品110、大型製品283)、須恵器片31点(小型製品27、大型製品4)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

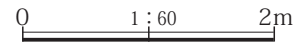
第3章 間之原遺跡の調査

掘り方

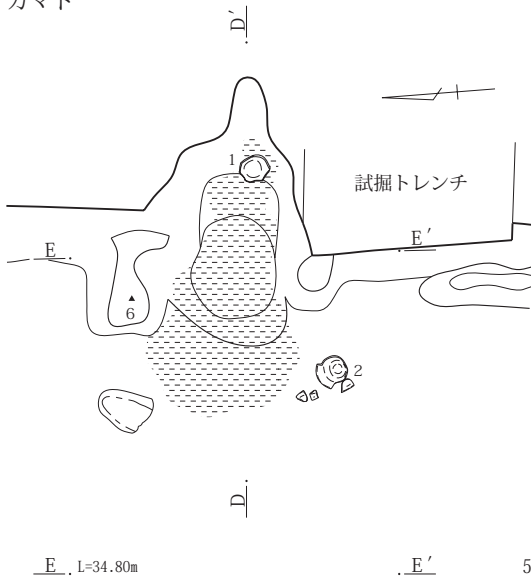


50号竪穴住居A-A'・B-B'

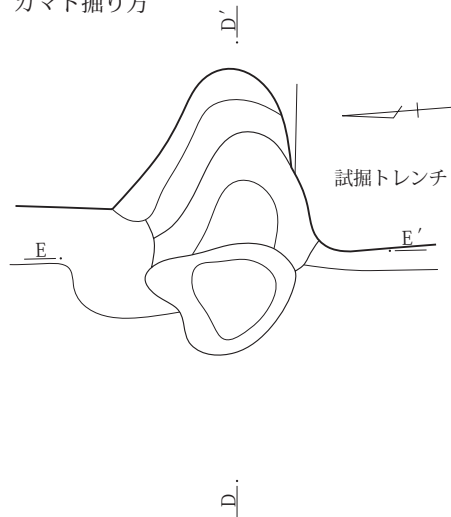
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・塊・焼土粒・炭化物小～中粒・灰白色軽石粒微量、ソフトローム大塊を含む、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム粒・小塊・焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒極少量、縮まりややあり、粘性弱
- 4 黒褐色土 ローム粒・極小塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 5 灰黄褐色土 ローム小塊多量、黒褐色土を含む



カマド

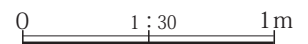


カマド掘り方

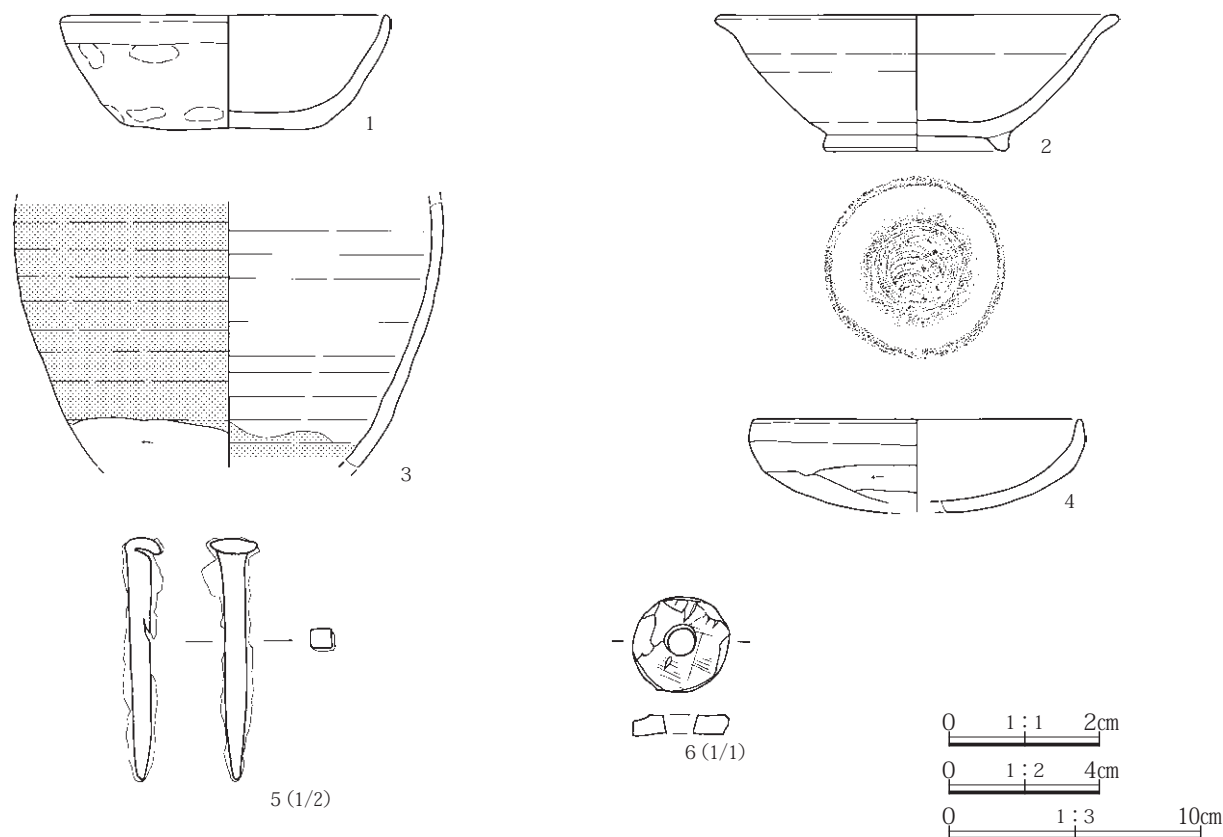


50号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 黒褐色土 焼土粒・ハードローム小塊少量
- 2 灰黄褐色土 焼土粒多量、ハードローム小塊少量
- 3 黒褐色土 ハードローム小塊少量
- 4 灰層 焼土粒・ハードローム極小塊少量
- 5 灰黄褐色土 黒褐色土を含む、ハードローム中～大塊多量



第205図 1区50号竪穴住居



第206図 1区50号竪穴住居出土遺物

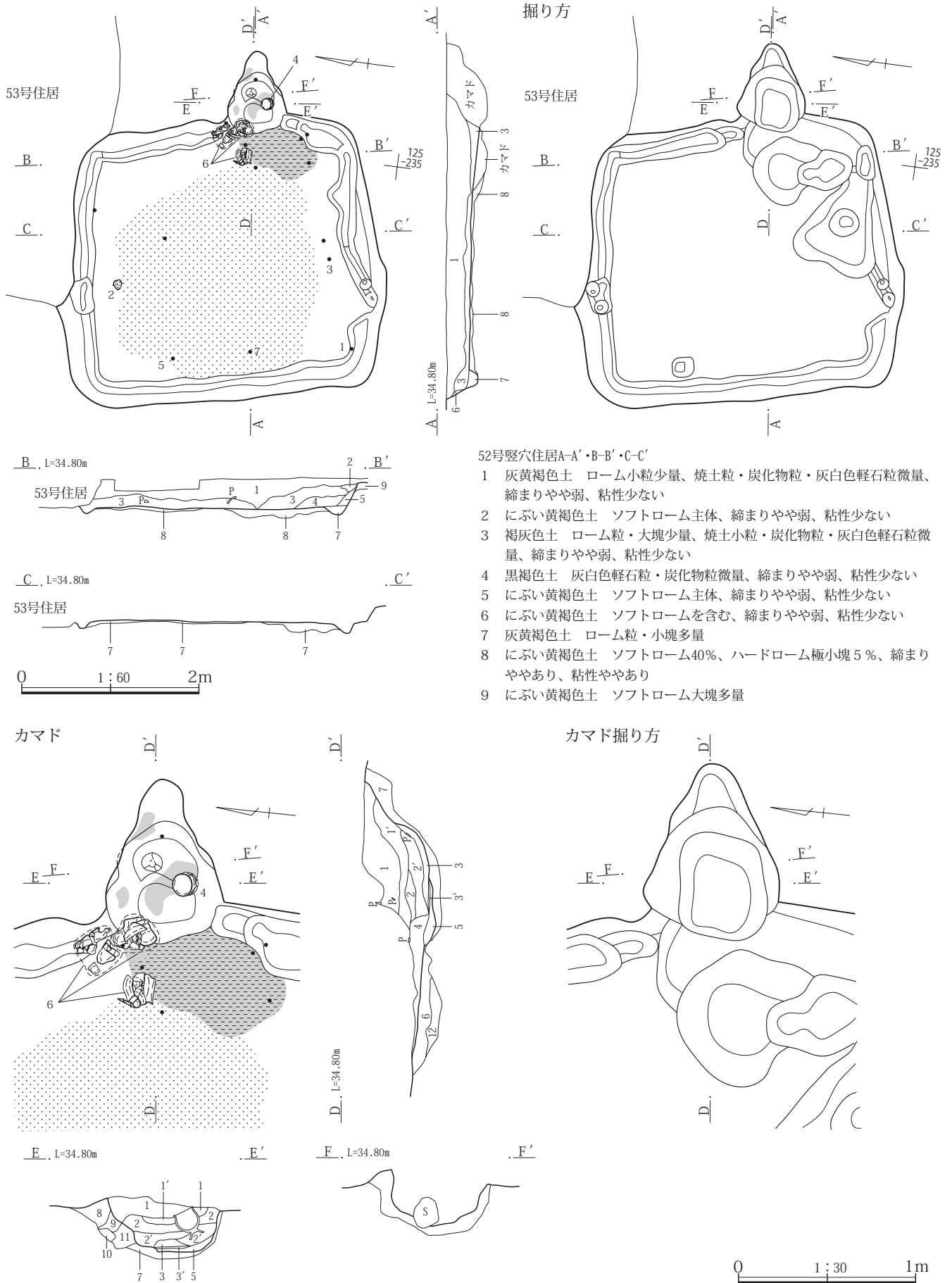
**1区52号竪穴住居**(第207・208図 PL.59~61・95)**位置** X=125~129、Y=-234~238**形状・規模** 形状は方形である。規模は、長軸長3.70m、短軸長3.15m、壁高北壁28cm、南壁26cm、東壁17cm、西壁25cmを測る。床面積は11.58㎡である。**主軸方向** N-80°-E**重複** 1区53号竪穴住居と重複し1区52号竪穴住居が掘り込まれる。**埋没土** 床面から約5cm褐色土が堆積し、上層は灰黄褐色土によってほぼフラットに埋没している。ローム塊が埋没土に含まれ人為的な埋戻しの可能性がある。**床面** 高低差は少なくほぼ平坦であるが、カマド焚口部分が約5cm低い。西壁際から中央部にかけて硬化面が認められる。カマド焚口周辺には焼土と炭化物が出土する。灰黄褐色土によって床面を構築する。**カマド** 東壁中央部やや南寄りに付設する。規模は、全長93cm、幅72cm、焚口幅52cm、燃焼部奥行48cmを測る。軸方向は、N-83°-Eである。燃焼部から燃焼部側壁左壁奥は焼土化が著しく、燃焼部には支脚石が残存する。土師器小型台付甕(第208図4)は燃焼面直上から出土し、

内部の炭化種実を観察しイネ(PL.95-8~10)が検出された。土師器甕(同図6)は焚口外側の床面直上からの出土である。住居床面から燃焼面は4~6cm低い。掘り方は、燃焼部を約7cm、焚口から住居床面にかけて約12cm掘り込み燃焼面及び周辺部を整える。

**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。**周溝** カマド付設部分以外は壁際に沿ってほぼ全周する。規模は、幅15~34cm、幅2~10cmを測る。**掘り方** ローム面を1~5cm掘り込む。カマド焚口から南壁中央部にかけて土坑状の掘り込みが認められる。カマド構築時の掘り込みか貯蔵穴の可能性もある。特に床下施設は確認できなかった。**遺物出土状態** 墨書が認められる須恵器杯(同図1)、土師器台付甕(同図3)は床面直上から、須恵器高杯(同図2)は床面上3cmから出土した。土師器甕(同図5)、土錘(同図7)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片220点(小型製品13、大型製品205、不明2)、須恵器片6点(小型製品)、灰釉陶器1点である。**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



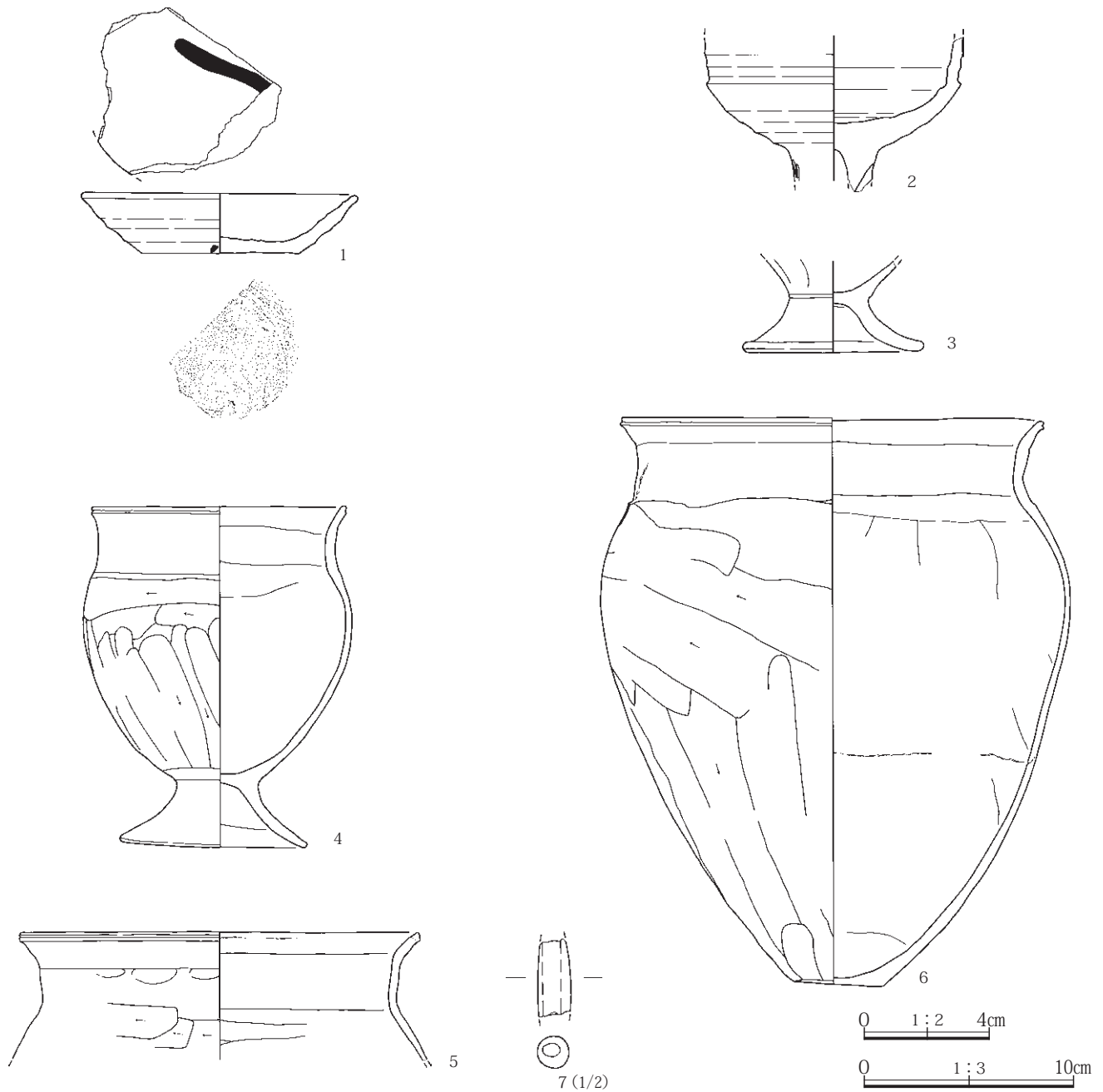
第3章 間之原遺跡の調査



第207図 1区52号竪穴住居

52号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 ハードローム極小塊少量、炭化物・焼土粒微量
- 1' 灰黄褐色土 焼土小～大粒5%、ローム小～大塊・炭化物粒・灰色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ハードローム極小塊少量、焼土粒・焼土極小塊・炭化物微量
- 2' にぶい黄褐色土 2層土+焼土中～大塊少量
- 2'' にぶい黄褐色土 焼土粒・焼土極小塊・炭化物微量
- 3 にぶい黄褐色土 焼土小～中塊多量、天井部崩落土
- 3' にぶい赤褐色土 焼土主体
- 4 黒褐色土 ハードローム小塊・ハードローム粒・焼土粒少量
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム中心80%、焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 6 にぶい黄褐色土 ソフトローム小塊多量、焼土粒・炭化物を含む
- 7 灰黄褐色土 ソフトローム斑状を含む、ハードローム粒少量
- 8 にぶい黄橙色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色土 ソフトローム3%、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 にぶい黄橙色土 ハードローム大塊主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 11 灰黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱、粘性少ない
- 12 灰黄褐色土 ソフトローム20%、炭化小～中粒少量、締まりやや弱、粘性少ない



第208図 1区52号竪穴住居出土遺物

1区53号竪穴住居(第209～211図 PL.59～61・95)

位置 X=128～132、Y=-232～238

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.05m、短軸長3.55m、壁高北壁23cm、南壁及び東壁22cm、西壁29cmを測る。床面積は13.17㎡である。

主軸方向 N-83°-E

重複 1区53号竪穴住居が1区52号竪穴住居を掘り込む。

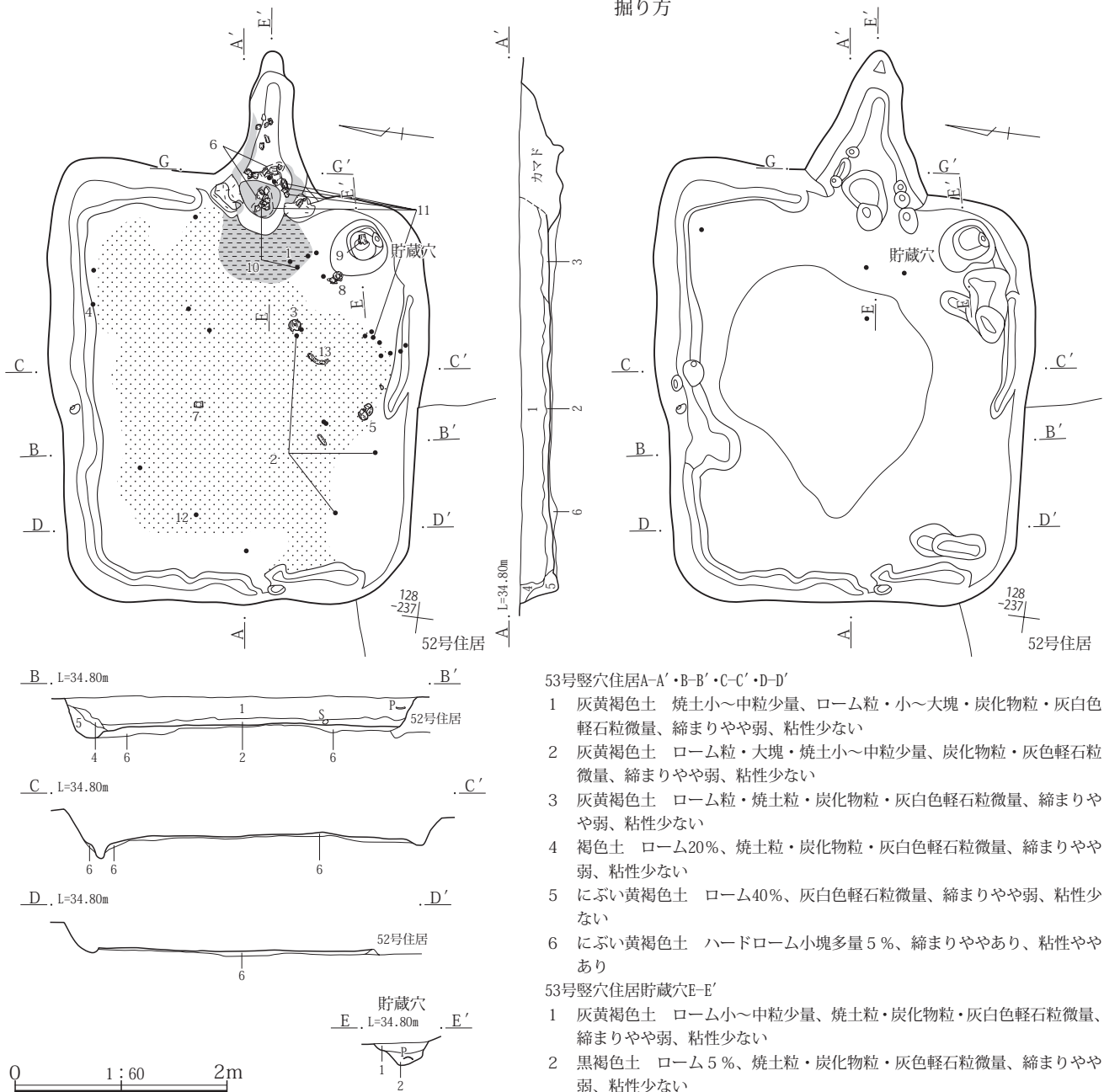
埋没土 床面付近には焼土粒が認められ、上層はローム塊を含む灰黄褐色土によってほぼフラットに埋没することから人為的な埋戻しと考えられる。

床面 床面の高低差は殆どなく平坦である。壁際は硬化

せず中央部にかけて広範囲に硬化面が認められる。ハードローム小塊を多量に含むにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 東壁中央部に付設する。規模は、全長1.74m、幅1.10m、焚口幅40cm、燃烧部奥行35cm、左袖状残存部45cm、右袖状残存部35cmを測る。軸方向は、N-82°-Eであり、住居の主軸方向とほぼ一致する。煙道が住居壁から外に長く伸びる。焚口部から住居床面にかけて焼土や炭化物が幅約80cmの範囲に認められる。燃烧面と燃烧部奥壁は焼土化し、構築材であるシルト質土が燃烧部側壁に残存する。燃烧部に支脚が残存する。土師器杯(第

掘り方



第209図 1区53号竪穴住居

211図6)、土師器甕(同図10・11)は燃烧面上3~5cmから出土し住居に伴うと考えられる。住居床面から燃烧面は4~6cm低い。掘り方は、燃烧部を約5cm、燃烧部奥にかけて約10cm掘り込み燃烧面及び煙道を整える。

**貯蔵穴** カマド右側に構築する。形状は、楕円形、規模は、長径54cm、短径50cm、深さ25cmを測る。土師器小型甕(同図9)は底面6cm上から出土した。灰黄褐色土と黒褐色土により埋没し自然埋没か人為的かは不明。

**柱穴** 床面精査及び掘り方調査によって確認できなかった。

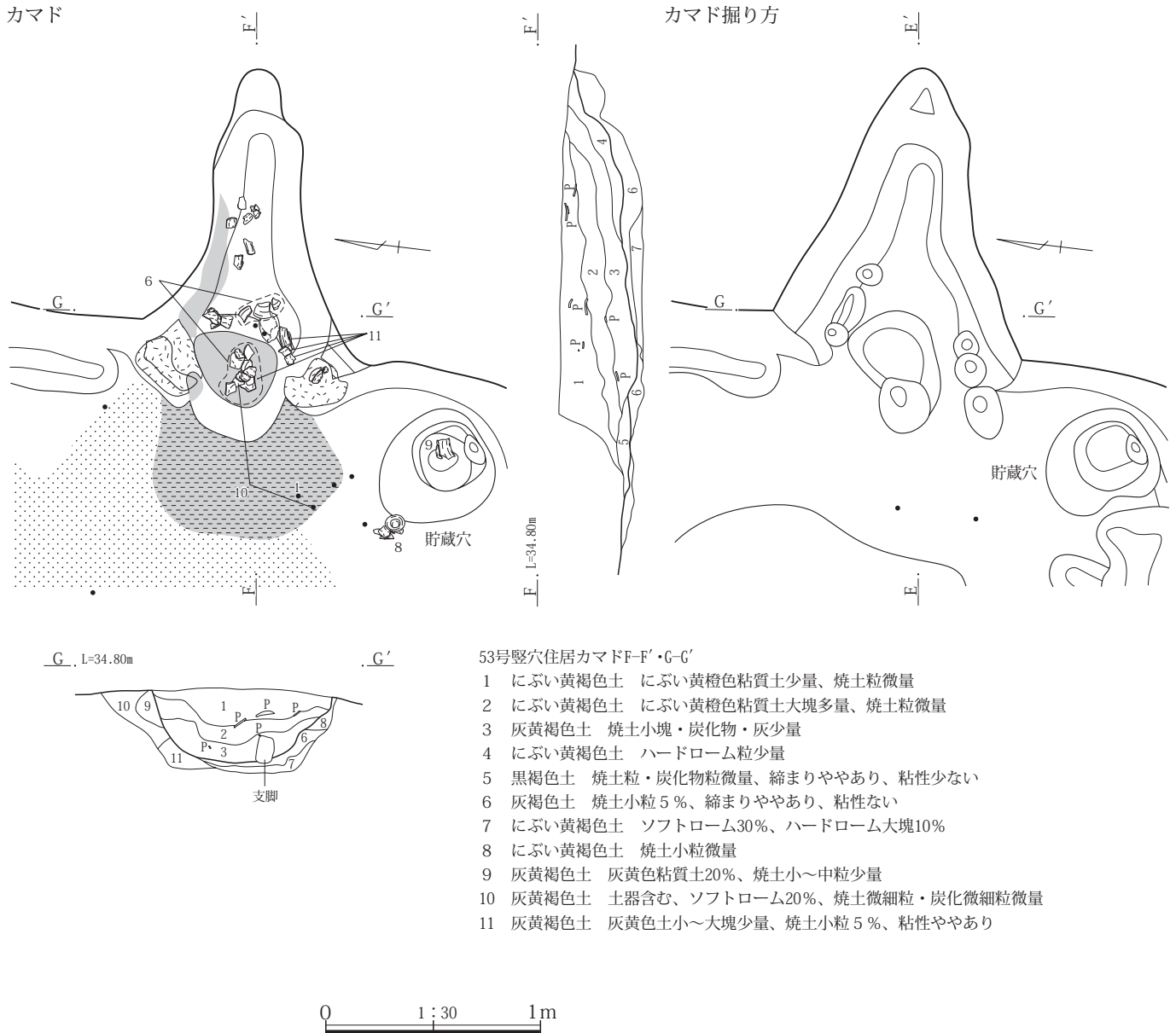
**周溝** 1区52号竪穴住居との重複のため全体は確認できないが、カマド付設部分と貯蔵穴が掘られた南東隅以外は壁際に沿ってほぼ連続的に掘り込まれている。規模は、

幅11~38cm、深さ3~7cmを測る。

**掘り方** 中央部を楕円形状に残し、壁に沿って2~7cm掘り窪めている。土坑など床下施設は確認できなかった。

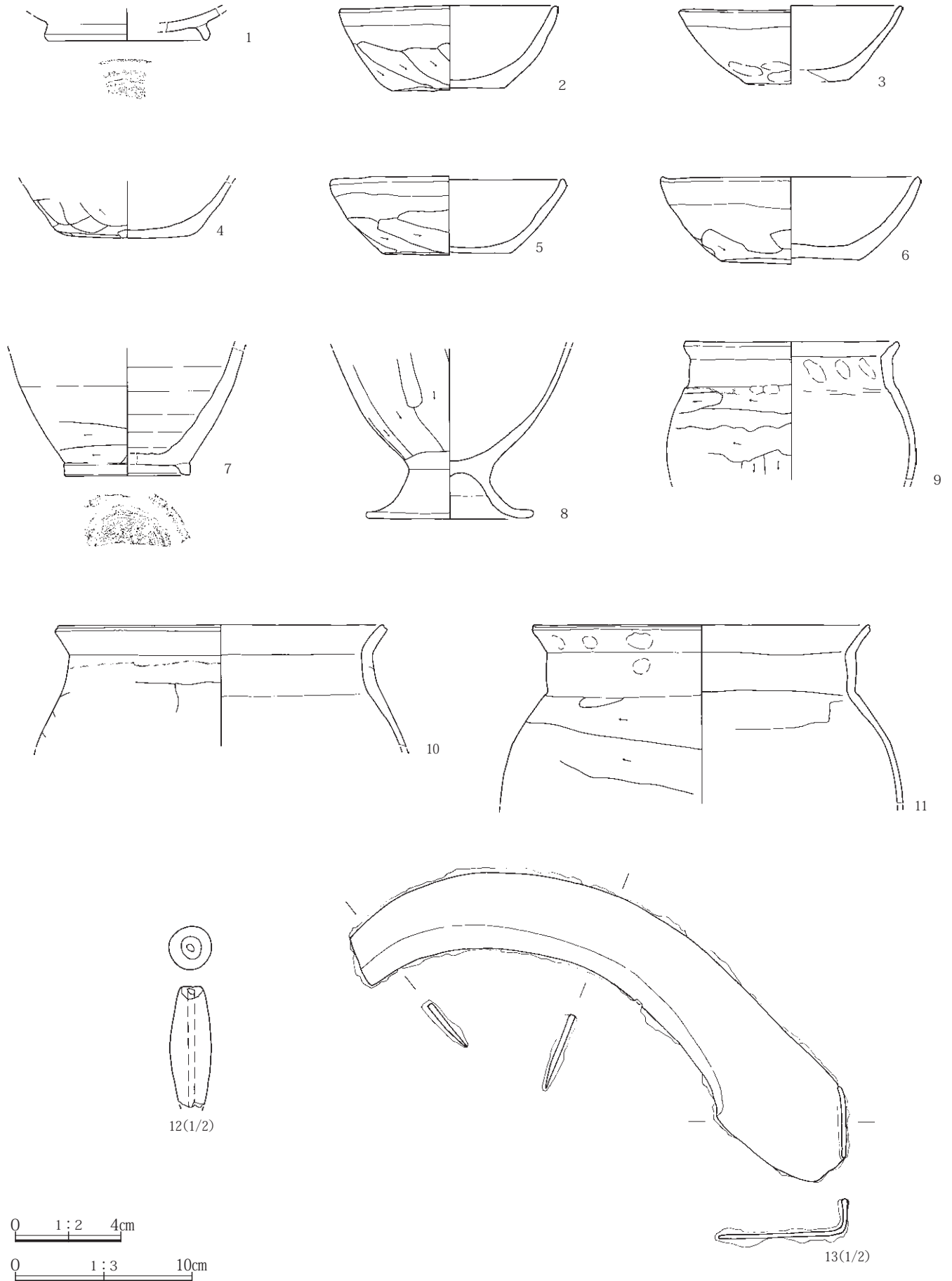
**遺物出土状態** 土師器杯(同図3・5)、土師器台付甕(同図8)、鎌(同図13)は床面直上から出土した。灰釉陶器皿(同図1)、土師器杯(同図4)、土錘(同図12)は床面上3~8cmから、土師器杯(同図2)、須恵器壺(同図7)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片848点(小型製品73、大型製品775)、須恵器片123点(小型製品47、大型製品76)、灰釉陶器1点である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



第210図 1区53号竪穴住居カマド

第3章 間之原遺跡の調査



第211図 1区53号竪穴住居出土遺物



1区54号竪穴住居(第212~217図 PL.61・62・95・96)

位置 X=131~138、Y=-235~242

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長6.08m、短軸長4.40m、壁高北壁及び南壁53cm、東壁45cm、西壁46cmを測る。床面積は26.40㎡である。

主軸方向 N-18°-W

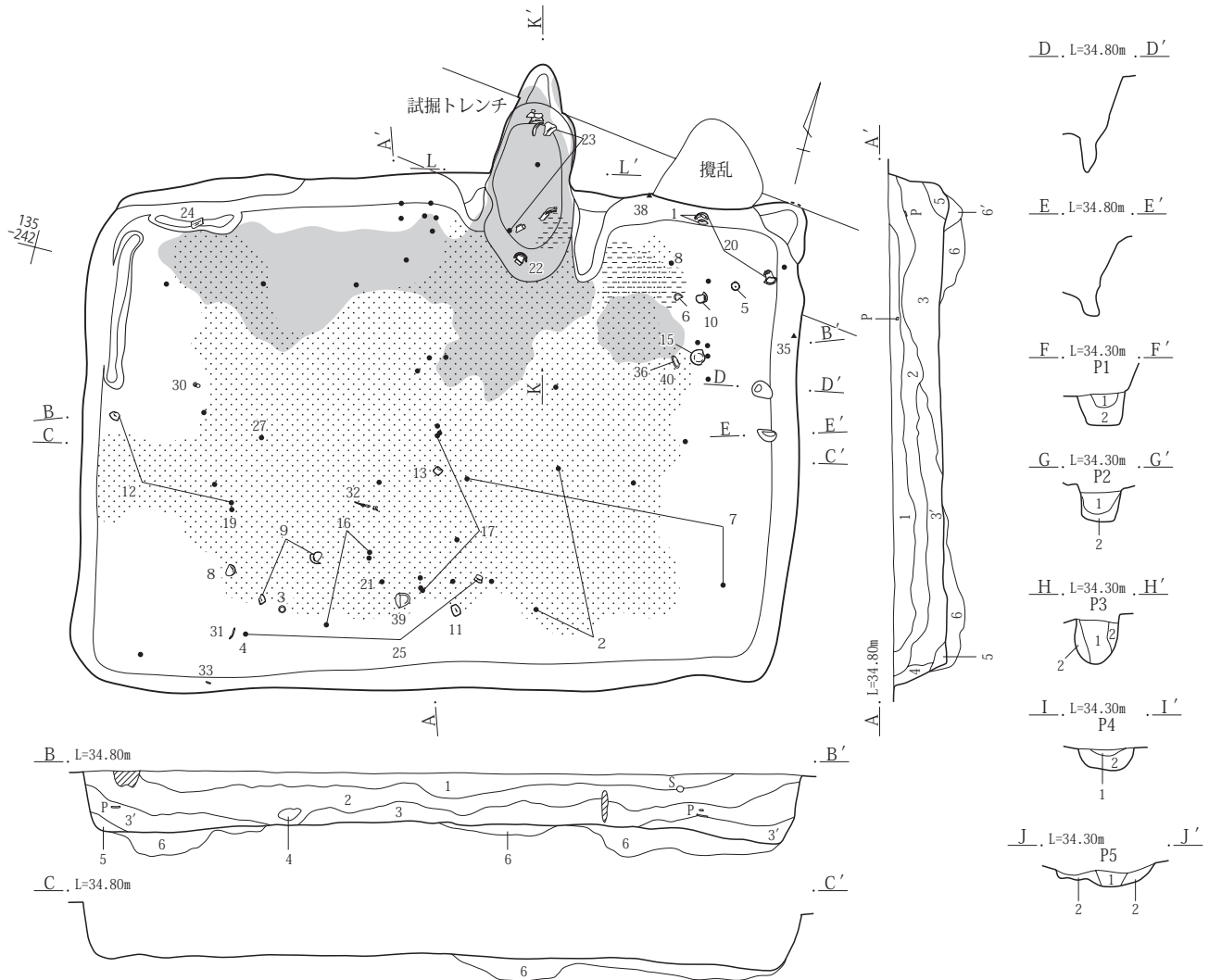
重複 なし。

埋没土 壁際に三角堆積がみられ、下層から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。土層断面の観察から焼土粒が床面付近に多く認

められる。

床面 高低差は少なく平坦であるが、北東隅周辺部は5~6cm低い。壁際は硬化せず、床面中央部で広範囲に硬化面が認められる。カマド焚口から北壁際にかけて焼土が出土する。ソフトロームやハードローム塊、焼土粒や炭化物の混土からなる灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 北壁中央部やや東寄りに付設する。燃焼部側壁左壁は失われているが、燃焼面や煙道は比較的良好に残存する。規模は、全長1.85m、幅1.30m、焚口幅50cm、



54号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土小~大塊多量、白色軽石・ローム粒・焼土粒少量
- 2 灰黄褐色土 ローム漸移層土小~大塊微量、ローム粒・焼土粒少量
- 3 灰黄褐色土 ローム漸移層土小~大塊少量、焼土粒・焼土小~中塊多量、にぶい黄橙~浅黄橙色粘土中塊少量
- 3' 灰黄褐色土 ローム漸移層土小~大塊少量
- 4 灰黄褐色土 ハードローム小~大塊・ローム粒多量
- 5 黒褐色土 ローム漸移層土小~中塊・ローム粒・焼土粒微量

- 6 灰黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム大塊10%、焼土小~中粒・炭化物小~中粒少量、締まりややあり、粘性ややあり
- 6' 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム極小塊少量、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない

54号竪穴住居P1・P4・P5I-I'・J-J'

- 1 褐灰色土 少量のハードローム中塊を含む
- 2 褐灰色土 多量のハードローム中~大塊を含み、締まり弱

54号竪穴住居P2・P3G-G'・H-H'

- 1 灰黄褐色土 少量のハードローム粒・ハードローム小~中塊を含む
- 2 褐灰色土 多量のハードローム中~大塊を含み、締まり弱

第212図 1区54号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

燃烧部奥行1.07m、左袖状残存部50cm、右袖状残存部77cmを測る。軸方向は、N-15°-Wであり住居の主軸方向に近似する。燃烧部から内壁や煙道にかけて焼土化が著しくみられ、燃烧面直上に灰層や炭化物層が認められる。住居床面から燃烧面は約6cm低い。掘り方は、約25cm掘り込み、灰黄褐色土やにぶい黄褐色土の混土によって整えている。土師器小型甕(第216図22)、土師器甕(第216図23)は埋没土からの出土である。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**柱穴** 掘り方調査によってピット4基を確認する。形状及び規模は、P1(円形、長径47cm、短径41cm、深さ27cm)、P2(楕円形、長径53cm、短径37cm、深さ42cm)、P3(円形、長径39cm、短径36cm、深さ45cm)、P4(楕円形、長径48cm、短径36cm、深さ20cm)、P5(不定形、長径90cm、短径60cm、深さ19cm)である。P1はカマド右側に位置しローム塊を多量に含む褐灰色土による人為的な埋戻しと考えられる。やや規模は小さいが貯蔵穴の可能性はある。P3の第1層は、柱痕の可能性はある。

**周溝** 西壁と北壁の北西隅で幅14~16cm、深さ5~6cmの溝状の掘り込みの一部を確認する。

**他の施設** 床面精査によって東壁中央部やや北寄りに不掘り方

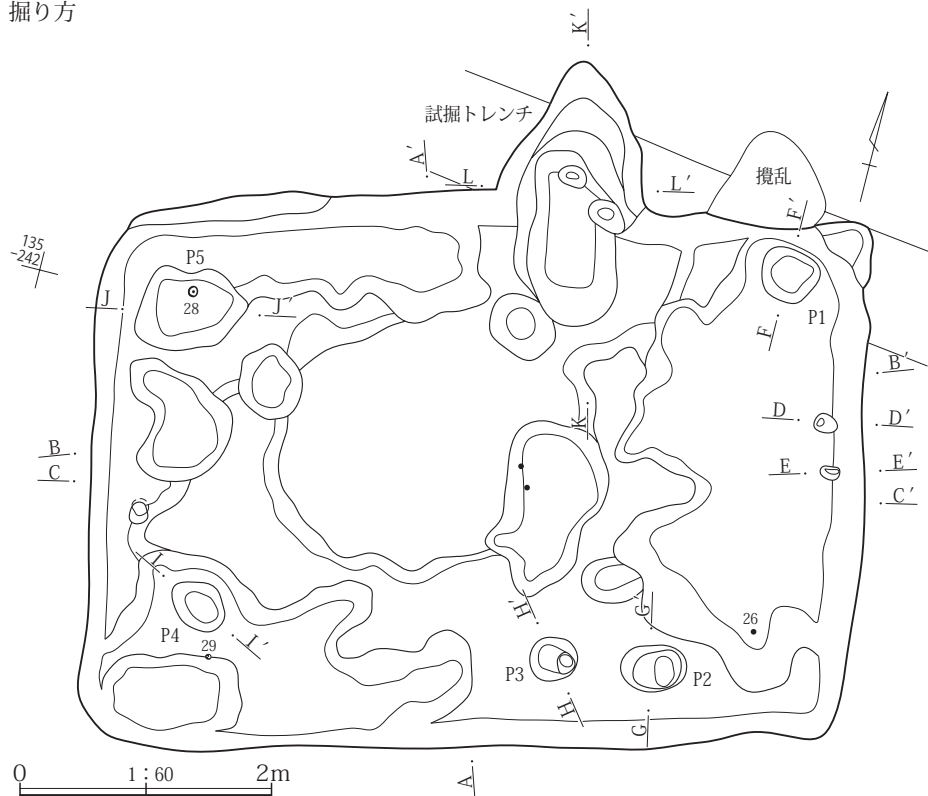
定形の小ピット状の窪みが2カ所確認された。北側の小ピットは、長径18cm、短径14cm、深さ26cm、南側の小ピットは、長径16cm、短径10cm、深さ15cmを測る。出入口に付設した梯子など上部施設を支えた下部構造の可能性はある。

**掘り方** 中央部分を円形に残し壁際に沿って大小土坑状や溝状に掘り窪めている。

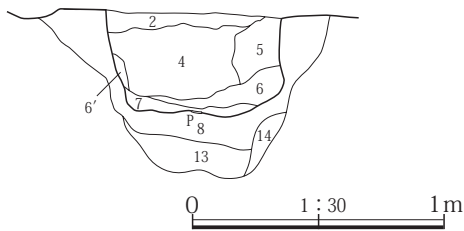
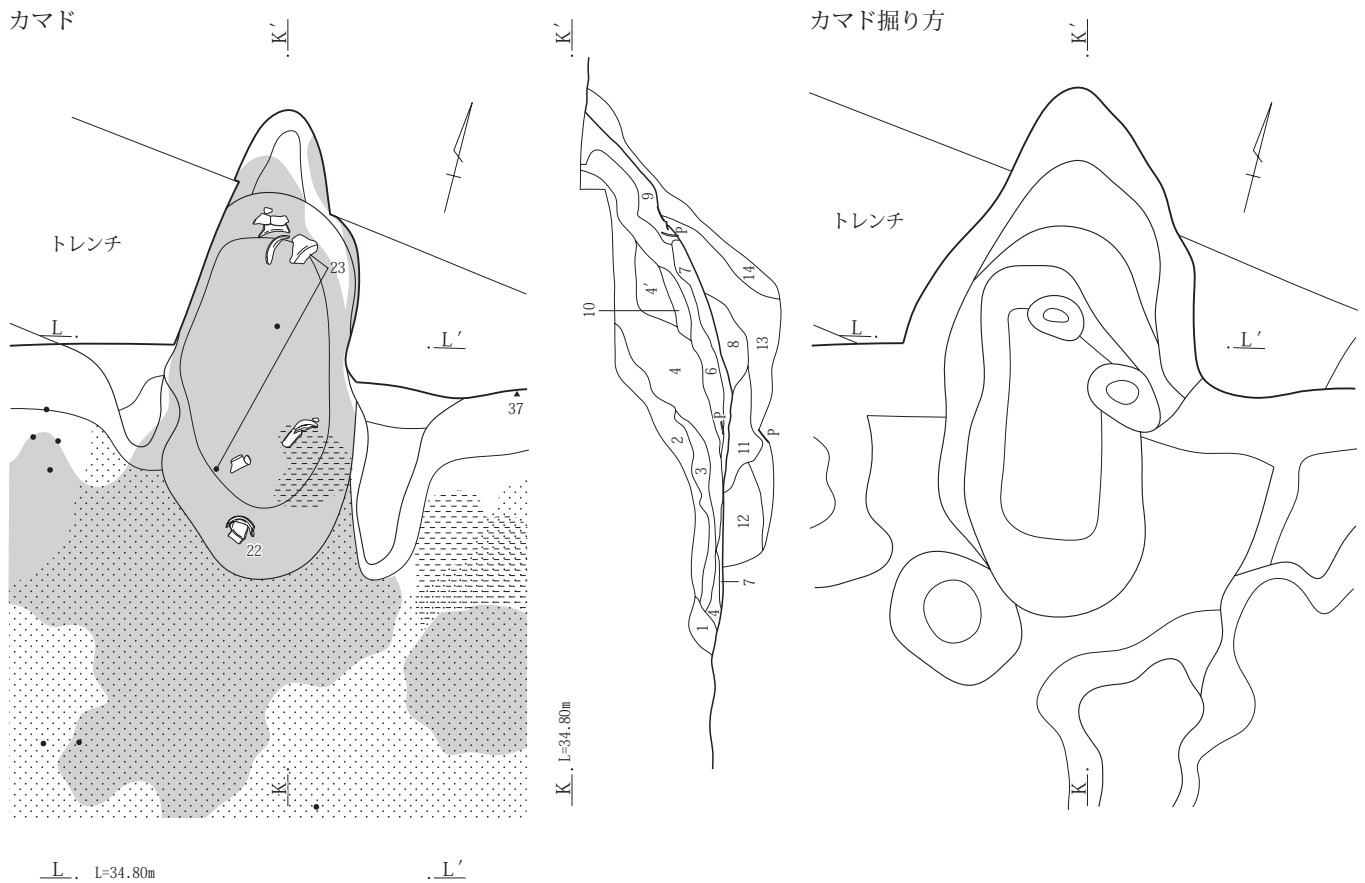
**遺物出土状態** 埋没土の他、床面北東部や南西部、カマド周辺からの出土が多く39点を図示した。土師器杯(第214図1)、須恵器杯(第214図3・第215図5・10)、黒色土器か杯(第215図18)、須恵器瓶(第216図21)、刀子(第216図32)、磨石(第217図39)は床面直上、土師器甕(第216図24)は周溝埋没土で床面とほぼ同じ高さから出土した。床面上3~8cmからは須恵器杯(第215図16・17)、鉄製品(第216図31)が、須恵器杯(第215図15)の内部からは、炭化種実が出土しイネ(PL.96-34)が検出された。土師器杯(第214図2)、須恵器杯(第215図4・6~9・11~14)、須恵器蓋(第215図19)、灰釉陶器壺(第216図20)、須恵器瓶(第216図27)、須恵器甕(第216図25)、鎌(第216図30)、鉄製品(第216図33)、火打ち石(第217図35)、石製品?(第217図36~38)、磨石(第217図40)は埋没土から、紡輪(第216図28)、須恵器甕(第216図26)、炉壁?

(第217図29)は掘り方から出土した。非掲載遺物は、土師器片2,090点(小型製品245、大型製品1828、不明17)、須恵器片350点(小型製品242、大型製品108)、灰釉陶器1点にのぼる。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



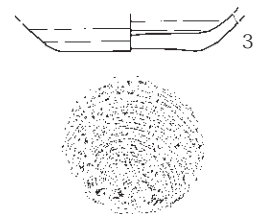
第213図 1区54号竪穴住居掘り方



54号竪穴住居カマドK-K'・L-L'

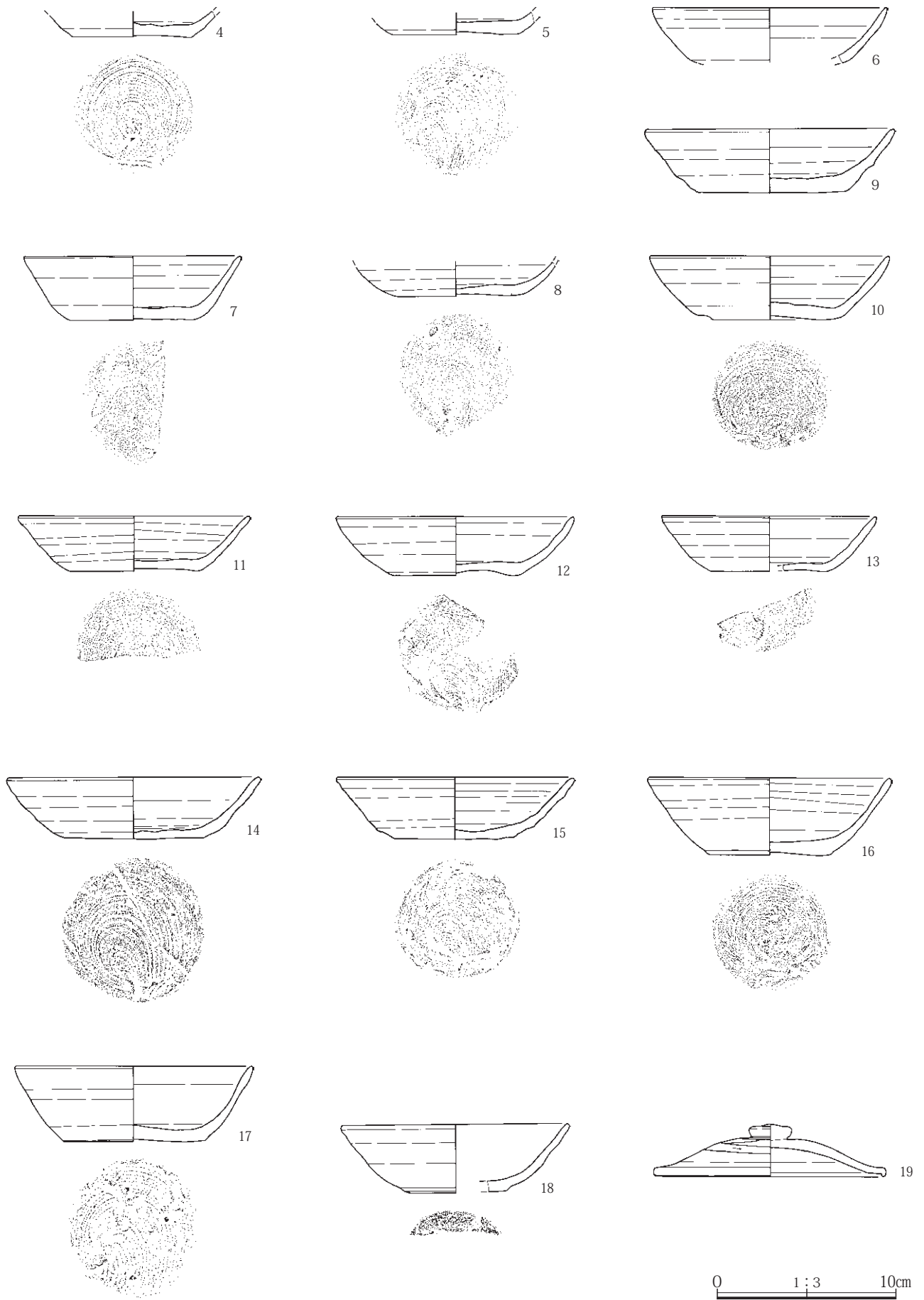
- 1 灰黄色土 シルト質土主体、締まりややあり、粘性あり
- 2 灰黄褐色土 焼土小～大粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒少量、締まりややあり、粘性あり
- 3 暗灰黄色土 灰黄色シルト質土20%、焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性あり
- 4 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土極小塊・焼土小～大粒・炭化物小粒・灰白色軽石粒少量、締まりややあり、粘性あり
- 4' 4層土に類似 粘質土多量

- 5 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土10%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 6 焼土主体 土器含む、灰黄色シルト質土極小塊少量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6' 灰褐色土 焼土主体70%、焼土小粒10%、炭化物小粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 7 褐灰色土 灰層・炭化層主体、焼土小粒10%、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 焼土主体 焼土70%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 灰黄褐色砂質土 少量のローム粒を含む
- 10 灰黄褐色砂質土 カマド天井部材
- 11 灰黄褐色土 焼土小粒5%、浅黄色粘土少量、炭化物小粒微量、締まりやや弱、粘性ややあり
- 12 灰褐色土 焼土小～大粒10%、浅黄色粘土・炭化物小～中粒少量、締まりやや弱、粘性ややあり
- 13 灰褐色土 浅黄色粘質土・焼土小～大粒・炭化物小粒5%、締まりやや弱、粘性ややあり
- 14 にぶい黄橙色土 ソフトロームに多量のハードローム中～大塊を含む

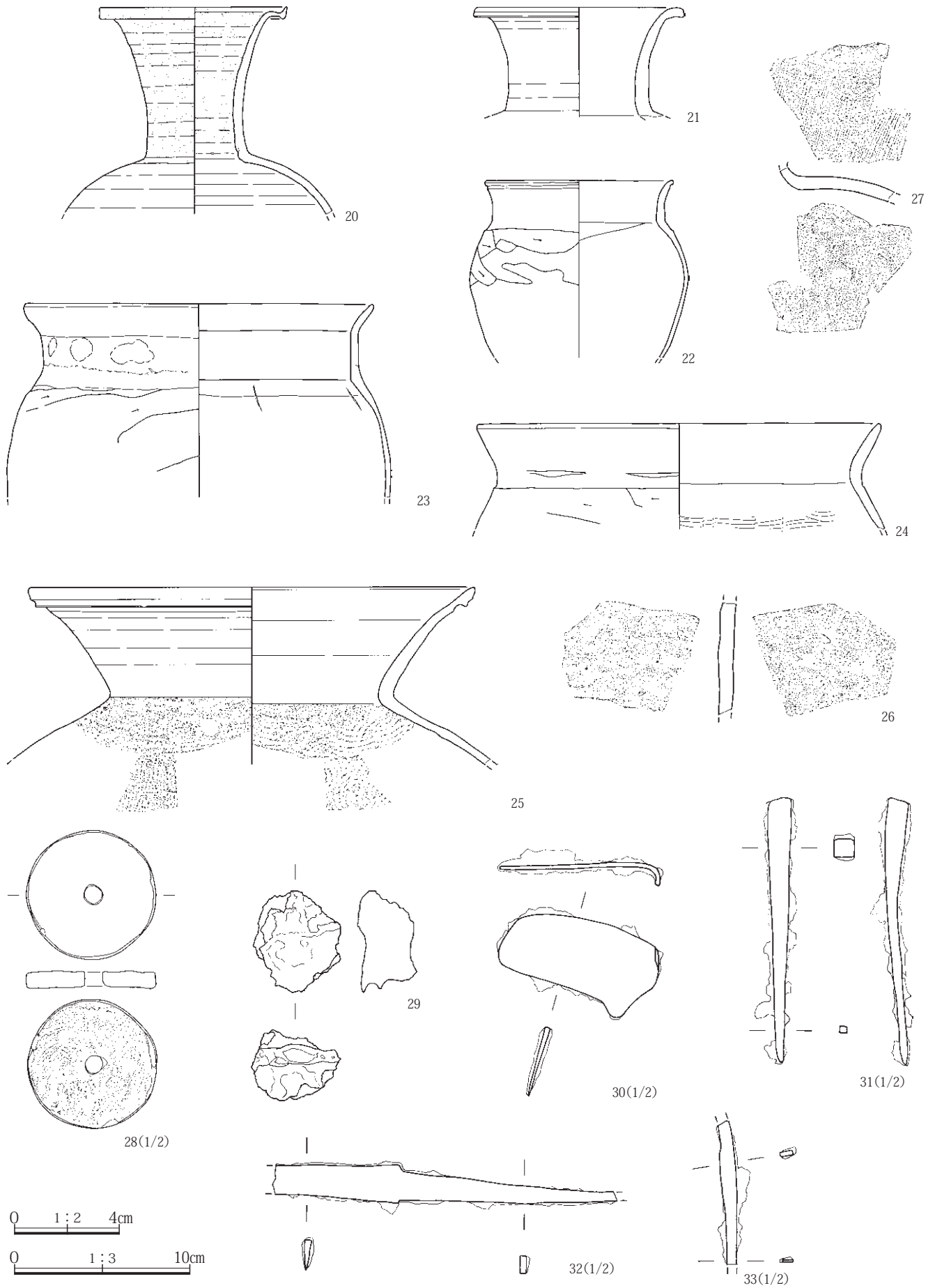


0 1:3 10cm

第214図 1区54号竪穴住居カマドと出土遺物(1)

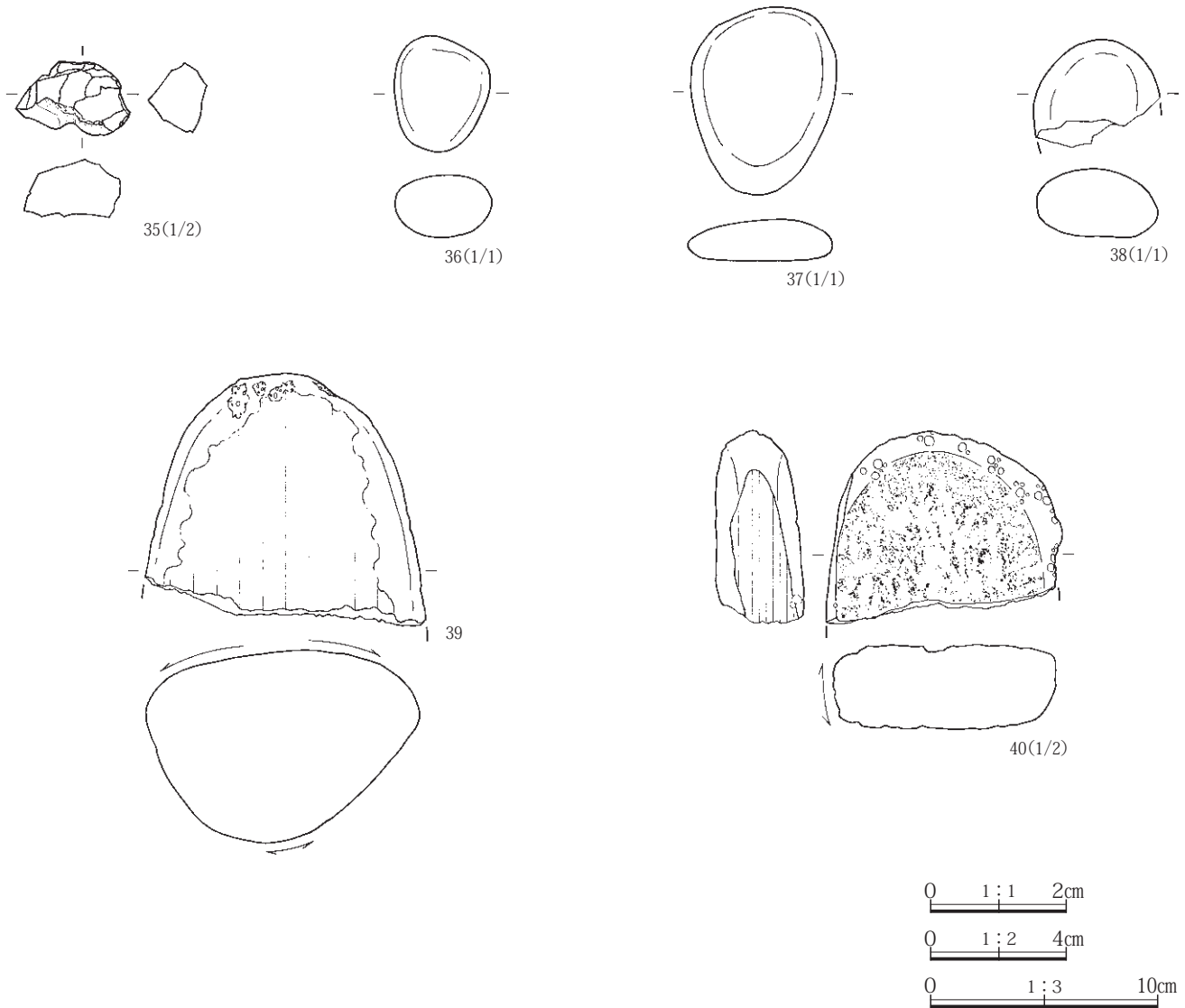


第215図 1区54号竪穴住居出土遺物(2)



第216図 1区54号竪穴住居出土遺物(3)





第217図 1区54号竪穴住居出土遺物(4)

**1区55号竪穴住居**(第218～220図 PL.62・96)

**位置** X=138～143、Y=-239～244

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.18m、短軸長3.68m、壁高北壁32cm、南壁28cm、東壁27cm、西壁31cmを測る。床面積は12.64㎡である。

**主軸方向** N-88°-E

**重複** 1区541号ピットと重複し、遺構確認状況から1区541号ピットが新しい。

**埋没土** ローム漸移層土を含む灰黄褐色土や黒褐色土の混土によりレンズ状に堆積することから自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差は少なくほぼ平坦であるが、中央部は硬化面が認められ2～4cm低い。カマド焚口周辺から中央部にかけて焼土、炭化物、シルト質土が出土する。シルト質土はカマド焚口周辺で散在し、中央部には硬化面上

に楕円形で約4cmの高まりが認められた。

**カマド** 東壁中央部に付設される。燃烧部側壁は失われているが、燃烧部から煙道は残存する。規模は、全長1.03m、焚口幅30cm、燃烧部奥行60cm、右袖状残存部38cmを測る。軸方向は、住居の主軸方向と一致する。掘り方は、5～10cm掘り込み、灰黄褐色土やにぶい黄褐色土の混土によって燃烧面を整えている。焚口から外側は構築時に溝状に掘り窪めている。遺物は須恵器杯(第219図4)が燃烧部奥の埋没土から出土した。

**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**周溝** 北壁及び西壁際の一部で確認する。規模は幅15～28cm、深さ3～4cmを測る。北壁中央部に小ピット状で深さ3～7cmの窪みが認められる。壁際に付設した施設の下部構造の可能性もある。

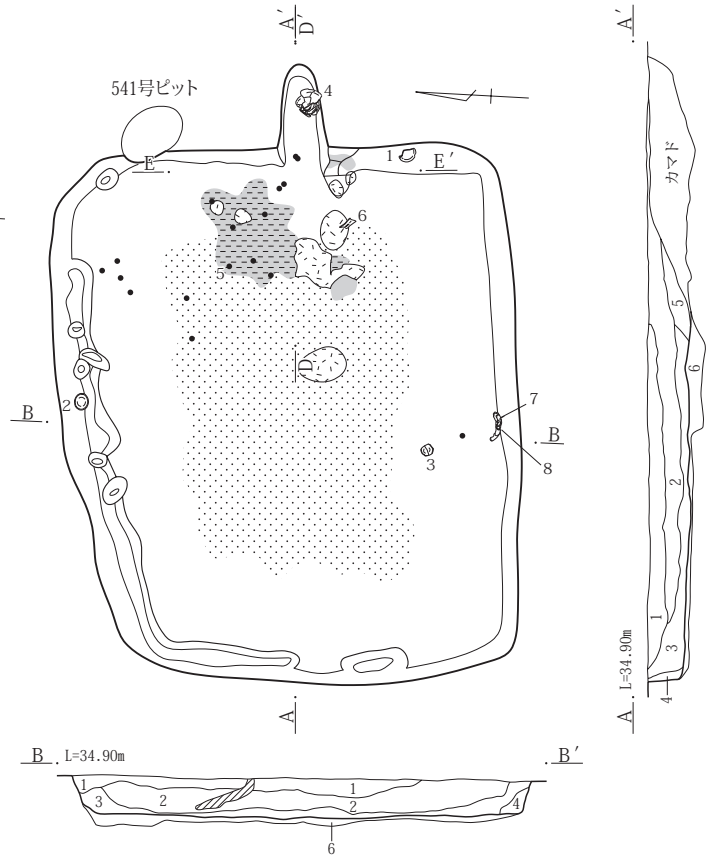
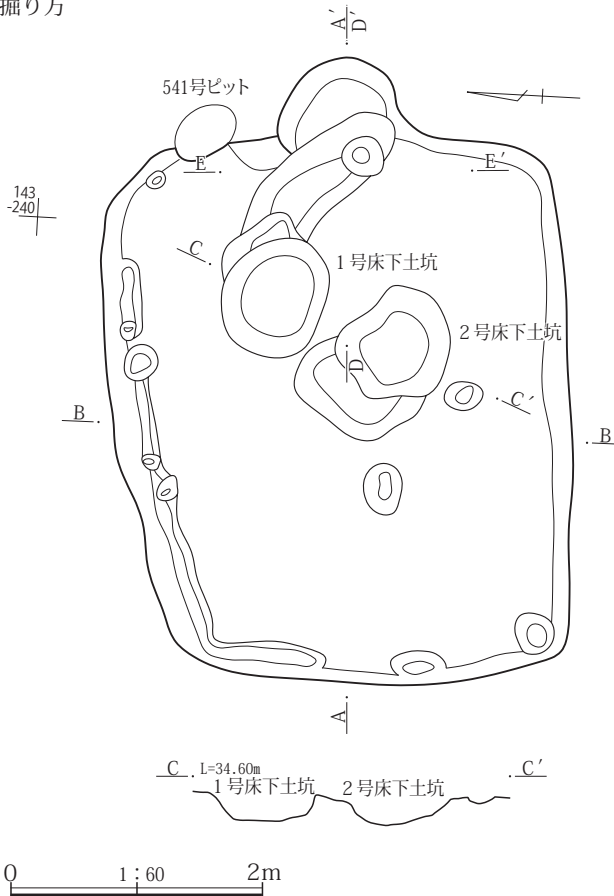
**他の施設** 掘り方調査によって2基の床下土坑を確認した。1号床下土坑は中央部よりやや東寄り、2号床下土坑は中央部に位置する。形状及び規模は、1号床下土坑(楕円形、長径97cm、短径81cm、深さ13cm)、2号床下土坑(不定形、長径94cm、短径80cm、深さ13cm)である。

**掘り方** 床下のほぼ全面を大小ピット状に2～8cm掘り窪めているが、柱穴などは確認できなかった。

**遺物出土状態** 須恵器椀(第219図3)、鎌(第220図7)、刀子が付着した鎌(第220図8)は床面上8～9cmから出土し、須恵器皿(第219図1)、土師器杯(第219図2)、土師器甕(第219図6)、土師器台付甕(第219図5)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片448点(小型製品48、大型製品396、不明4)、須恵器片27点(小型製品10、大型製品17)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。

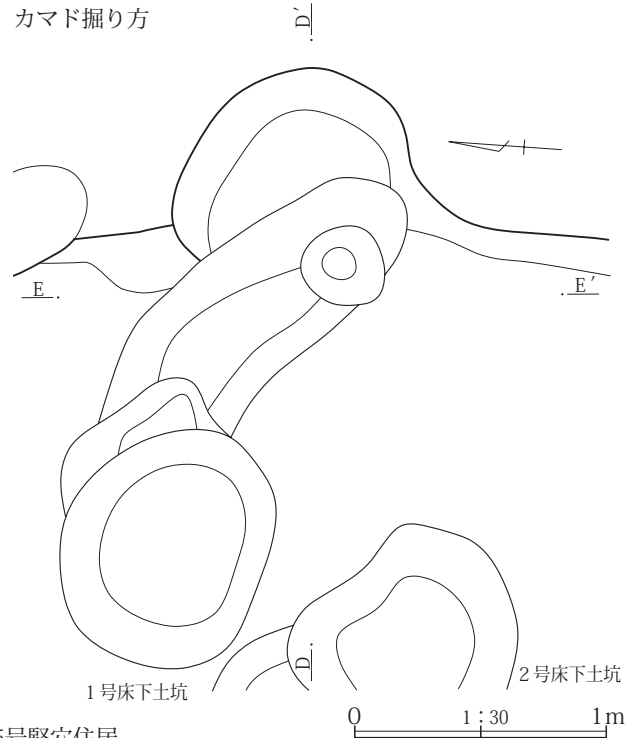
掘り方



55号竪穴住居A-A'・B-B

- 1 灰黄褐色土 ローム漸移層土中塊少量、ハードローム中塊微量
- 2 黒褐色土 ローム漸移層土中塊多量、ローム粒少量、ハードローム小～中塊微量
- 3 灰黄褐色土 ローム漸移層土塊微量、ローム粒少量
- 4 灰黄褐色土 ハードローム小～中塊多量
- 5 褐灰色土 ローム小塊・粒多量
- 6 灰黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小塊少量、焼土粒・炭化中粒微量、締まりややあり、粘性ややあり

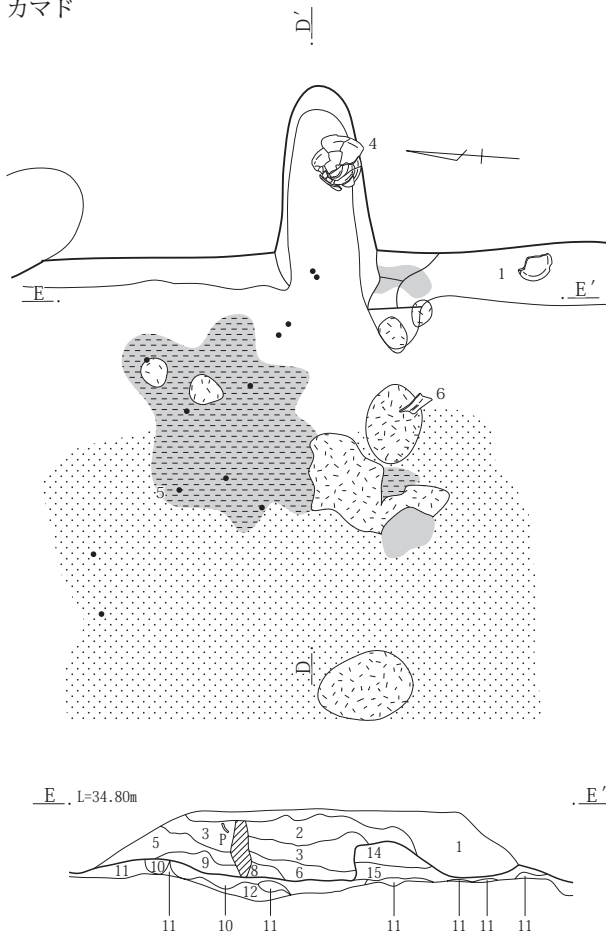
カマド掘り方



第218図 1区55号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

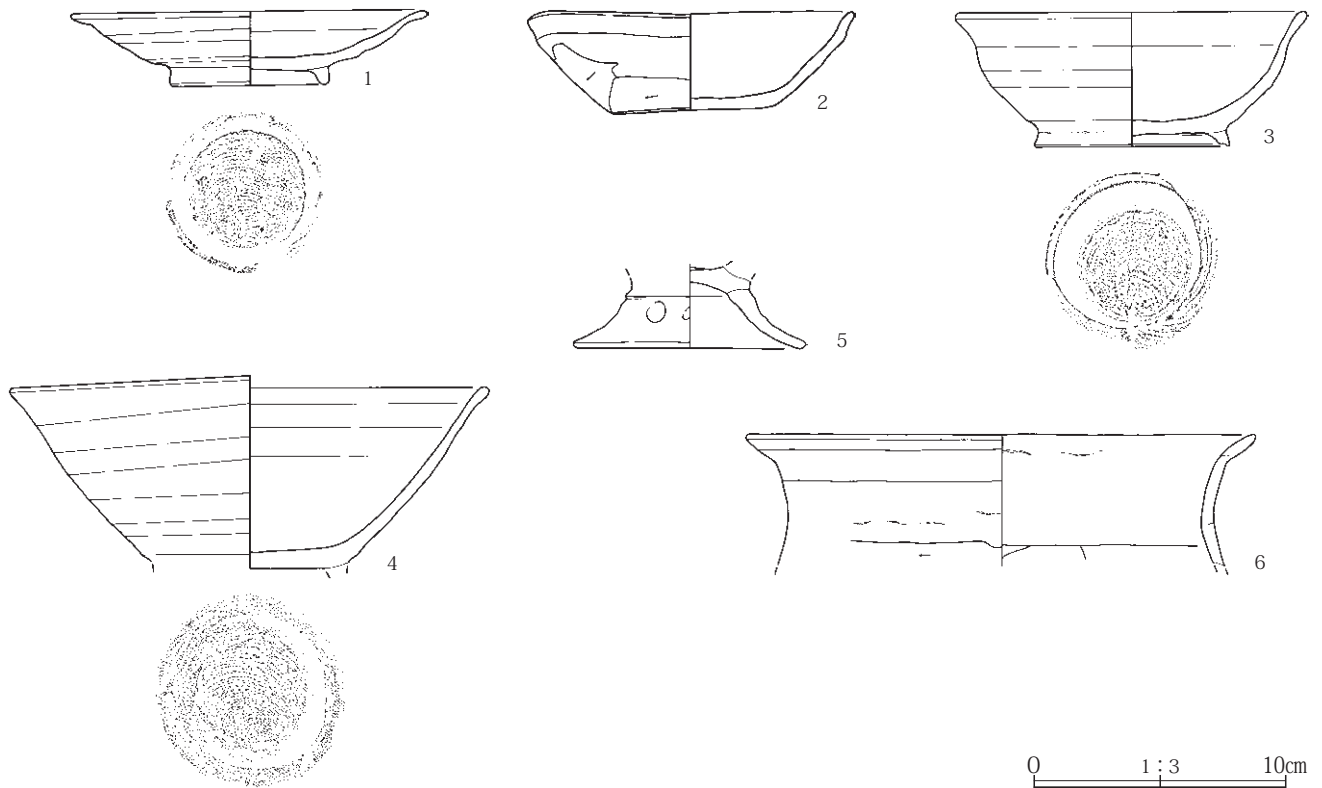
カマド



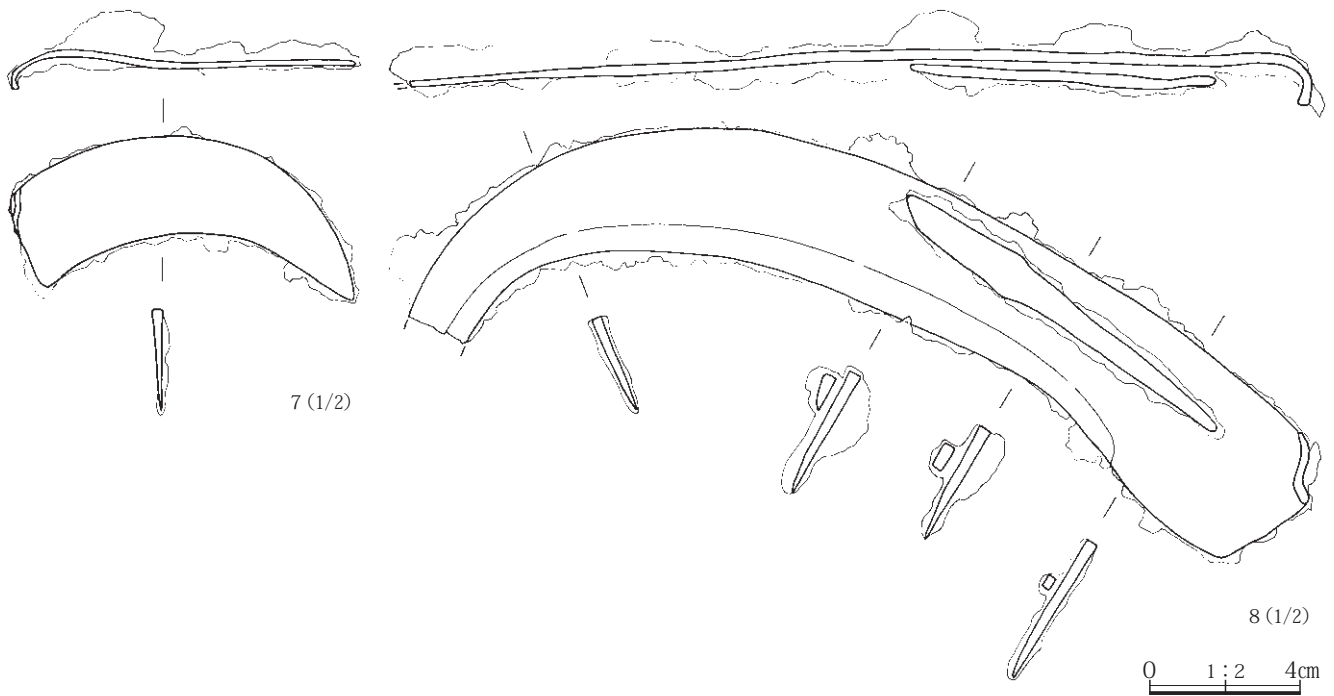
55号竪穴住居カマドD-D'・E-E'

- 1 灰黄褐色土 焼土小～大粒少量、ローム粒・小～大塊・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム・灰黄色シルト質土少量、焼土粒・大塊・炭化小粒・灰白色軽石小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 灰白色シルト質土大塊・焼土小粒・炭化小粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム10%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 5 褐灰色土 焼土小～中粒5%、灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 焼土小粒少量、ローム小～大粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 7 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量、炭化物小粒・焼土小～中粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 黒褐色土 ローム5%、焼土小～中粒・炭化物小粒・灰色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物小～中粒微量、締まりやや弱、粘性やや少
- 11 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性やや少
- 12 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱、粘性やや少
- 13 にぶい黄褐色土 ソフトローム60%、ハードローム小塊5%、締まり弱、粘性少ない
- 14 灰黄色土 シルト質土主体、焼土小～中粒微量
- 15 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土微量

0 1:30 1m



第219図 1区55号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第220図 1区55号竪穴住居出土遺物(2)

**1区57号竪穴住居**(第221・222図 PL.63)

**位置** X=158~162、Y=-24~244

**形状・規模** 調査区北西境に位置するため、全体の形状及び規模は不明である。確認できる規模は、南北長3.10m、壁高東壁39cmである。

**主軸方向** 不明。

**重複** なし。

**埋没土** ローム漸移層土塊などを多く含む暗褐色土の混土によりほぼフラットに堆積することから人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 東壁際の一部のみの確認であるため全体の様相は不明であるが、確認できた部分の床面高低差はなくほぼ平坦である。カマド焚口周辺部に焼土と硬化面が認められる。ソフトロームとローム漸移層土の混土によって床面を構築する。

**カマド** 東壁中央部やや南寄りに付設する。燃烧面から煙道は残るが、燃烧部側壁は失われている。確認できる規模は、幅65cm、焚口幅37cm、燃烧部奥行39cmである。焚口から外側の床面は土坑状に浅く掘り窪められている。掘り方は、約10cm掘り込みソフトロームを多く含む灰黄褐色土によって燃烧面を整えている。

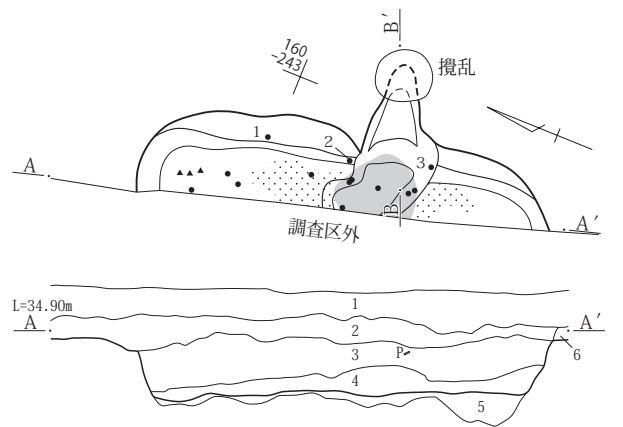
**貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** 大小ピット状に5~25cm掘り窪めている。カマ

ド右側の土坑状の落ち込みは貯蔵穴の可能性がある。

**遺物出土状態** 土師器杯(第222図1)は東壁際埋没土から、須恵器杯碗(同図2)、土師器甕(同図3)は、やカマド埋没土から出土した。非掲載遺物は、土師器片63点(大型製品62、不明1)、須恵器片2点(大型製品)、台石?2点である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。



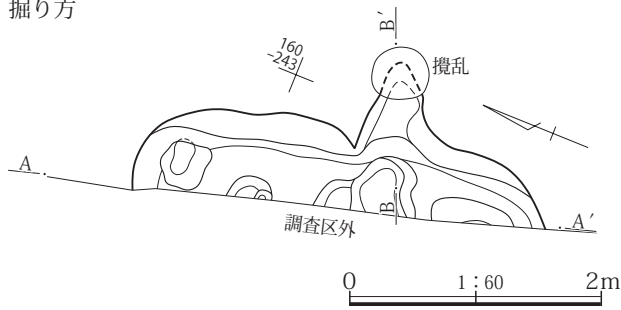
57号竪穴住居A-A'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 表土、現代耕作土
- 2 黒褐色砂質土 ローム漸移層土中~大塊少量
- 3 暗褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、焼土粒・ローム粒少量
- 4 暗褐色土 3層土+ソフトローム中塊・にぶい黄褐色粘質土小~中塊少量
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトロームとローム漸移層土の混土、ハードローム小~中塊・焼土粒少量
- 6 基本土層のVI

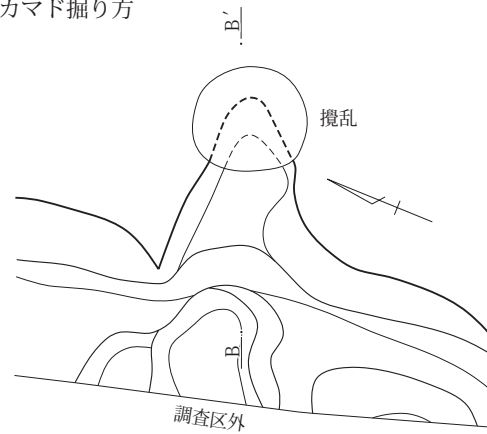
第221図 1区57号竪穴住居

第3章 間之原遺跡の調査

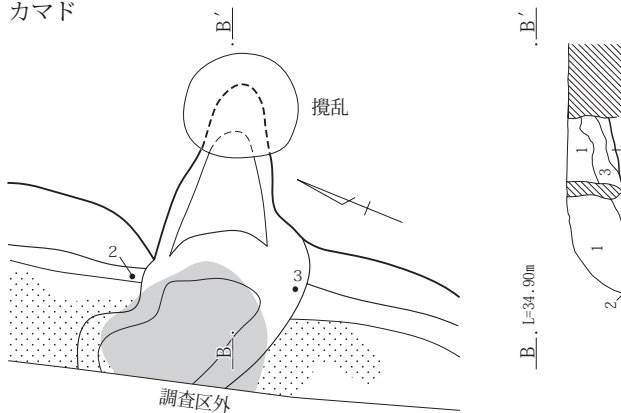
掘り方



カマド掘り方

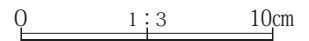
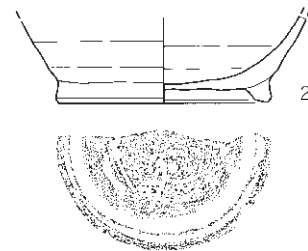
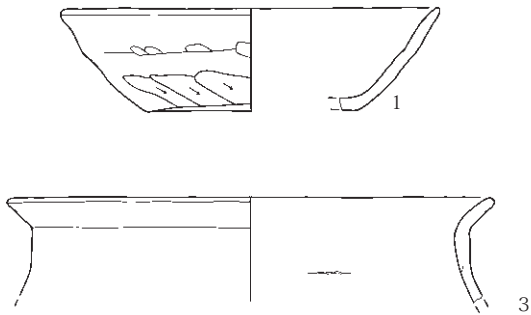
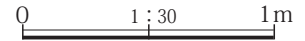


カマド



57号竪穴住居カマドB-B'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム小~中塊多量、ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
- 2 にぶい黄褐色粘質土塊
- 3 褐灰色土 焼土小~中塊多量、ローム粒・炭化物粒・にぶい黄褐色粘土小塊少量
- 4 灰黄褐色土 焼土粒・ハードローム粒少量
- 5 灰黄褐色土 ソフトローム30%



第222図 1区57号竪穴住居と出土遺物

1区60号竪穴住居(第223・224図 PL.63・96)

位置 X=153~156、Y=-217~222

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長4.00m、短軸長3.33m、壁高北壁及び東壁32cm、南壁31cm、西壁30cmを測る。床面積は13.16㎡である。

主軸方向 N-88°-E

重複 1区61号竪穴住居が1区60号竪穴住居を掘り込む。

埋没土 壁面の崩落と考えられるロームを含む黄褐色土によって埋没している。床面直上からほぼフラットに4~5cm堆積したのち、上層まで灰黄褐色土によって埋没することから人為的な埋戻しの可能性がある。

床面 高低差はなく平坦である。使用による硬化面は不明瞭である。全体を浅く掘り窪め、ローム粒やローム塊

を多量に含む灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 東壁中央部やや南寄りに付設する。焚口外側から住居南東隅に焼土が認められるが、燃烧部側壁右壁は失われている。規模は、全長1.24m、焚口幅45cm、燃烧部奥行64cm、左袖状残存部37cmである。軸方向は、N-90°-Eである。掘り方は、約10cm掘り込み灰黄褐色土やにぶい黄褐色土で燃烧面を整える。遺物は、土師器甕(第224図4)が燃烧面直上から出土した。P1・P2は燃烧部側壁に芯材を設置するために掘り窪められた痕と考えられる。

貯蔵穴・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

周溝 カマド付設部分以外は壁面直下を掘り窪めてい



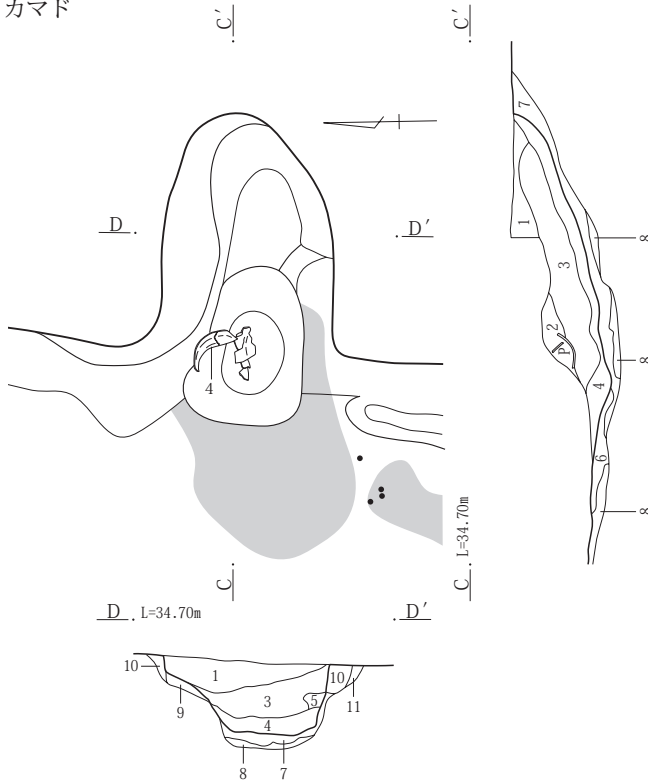
る。規模は幅15~25cm、深さ2~5cmを測る。

**掘り方** ローム面まで全体的に浅く掘り窪められている。床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 遺物は、床面南東隅やカマド焚口右側周辺に集中する。須恵器皿(同図1)、須恵器杯(同図2)、土師器台付甕(同図3)、須恵器甕(同図5)は埋没土からの出土である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。

カマド

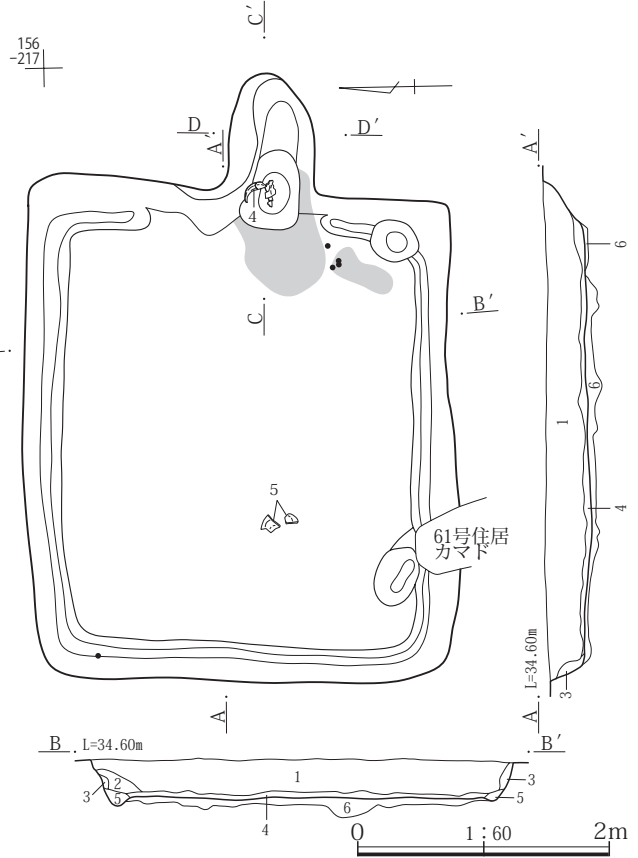


60号竪穴住居カマドC-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 焼土粒少量、白色軽石微量
- 2 にぶい黄橙色粘土 焼土粒微量、カマド構築材の飛散
- 3 灰黄褐色土 焼土粒・焼土小~中塊多量
- 4 灰黄褐色土 焼土粒・灰少量
- 5 にぶい黄褐色土 ハードローム粒・ソフトローム多量、焼土粒微量
- 6 灰黄褐色土 焼土小粒多量、灰少量
- 7 灰黄褐色土 焼土小粒少量、炭化物小粒微量
- 8 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、締まりやや弱、粘性少ない
- 9 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりやや弱、粘性少ない
- 10 灰黄褐色土 焼土小~中粒多量、締まりややあり、粘性少ない
- 11 にぶい黄橙色土 ソフトローム40%、締まりやや弱、粘性少ない

E, L=34.70m P1 P2 E'

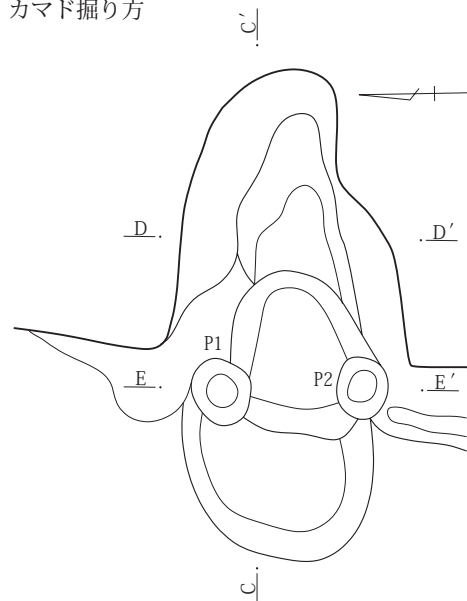
0 1:30 1m



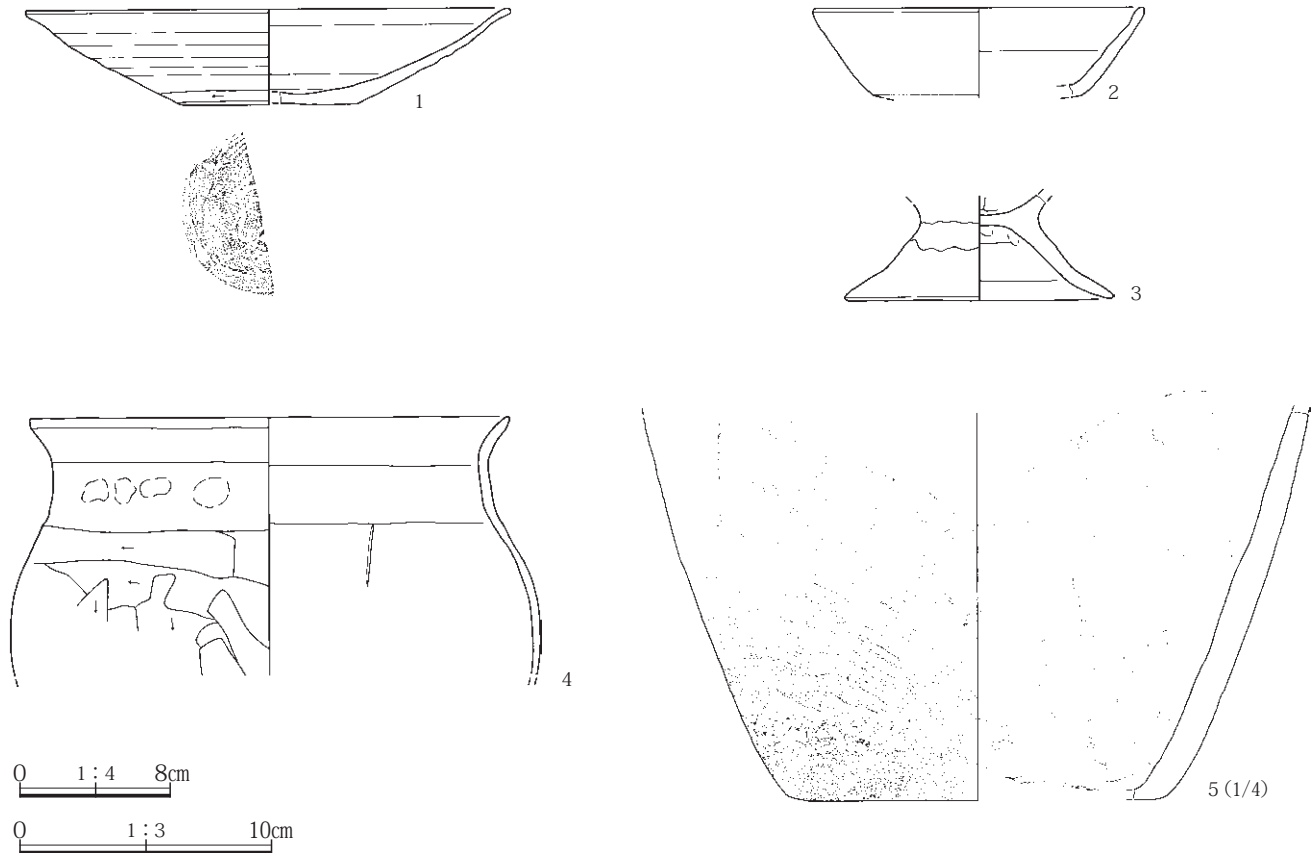
60号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・焼土小~中粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム大塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体40%、締まりやや弱、粘性少ない
- 4 灰黄褐色土 ローム粒・大塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 6 灰黄褐色土 ローム粒・小塊多量、掘り方埋没土

カマド掘り方



第223図 1区60号竪穴住居



第224図 1区60号竪穴住居出土遺物

**1区61号竪穴住居**(第225・226図 PL.63)

**位置** X=148~153、Y=-218~222

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.10m、短軸長3.25m、壁高北壁30cm、南壁17cm、東壁19cm、西壁22cmを測る。床面積は12.38㎡である。

**主軸方向** N-15°-W

**重複** 1区61号竪穴住居が1区60・67号竪穴住居を掘り込む。1区532・533号ピットと重複し、遺構確認状況から1区532・533号ピットが新しい。

**埋没土** 壁際に三角堆積が認められ、床面から上層にかけてにぶい黄褐色土による自然埋没と考えられる。

**床面** 高低差はなくほぼ平坦である。カマド焚口から床面中央部にかけて硬化面が認められる。ソフトロームが多量に含まれるにぶい黄褐色土によって床面を構築する。

**カマド** 北壁の貯蔵穴寄りに付設する。燃烧部側壁は失われシルト質土が飛散するが、燃烧面から煙道にかけて残存する。燃烧面内側の左右壁面の焼土化が著しく、煙道から焚口外側にかけて焼土と炭化物が認められる。確認できる規模は、全長1.55m、焚口幅32cm、燃烧部奥行

65cmである。軸方向は、N-11°-Wである。

**貯蔵穴** カマド右側の床面北東隅に構築する。形状は、楕円形であり、規模は長径80cm、短径51cm、深さ18cmを測る。黒褐色土と灰黄褐色土の混土によって埋没し自然埋没か人為的かは不明である。

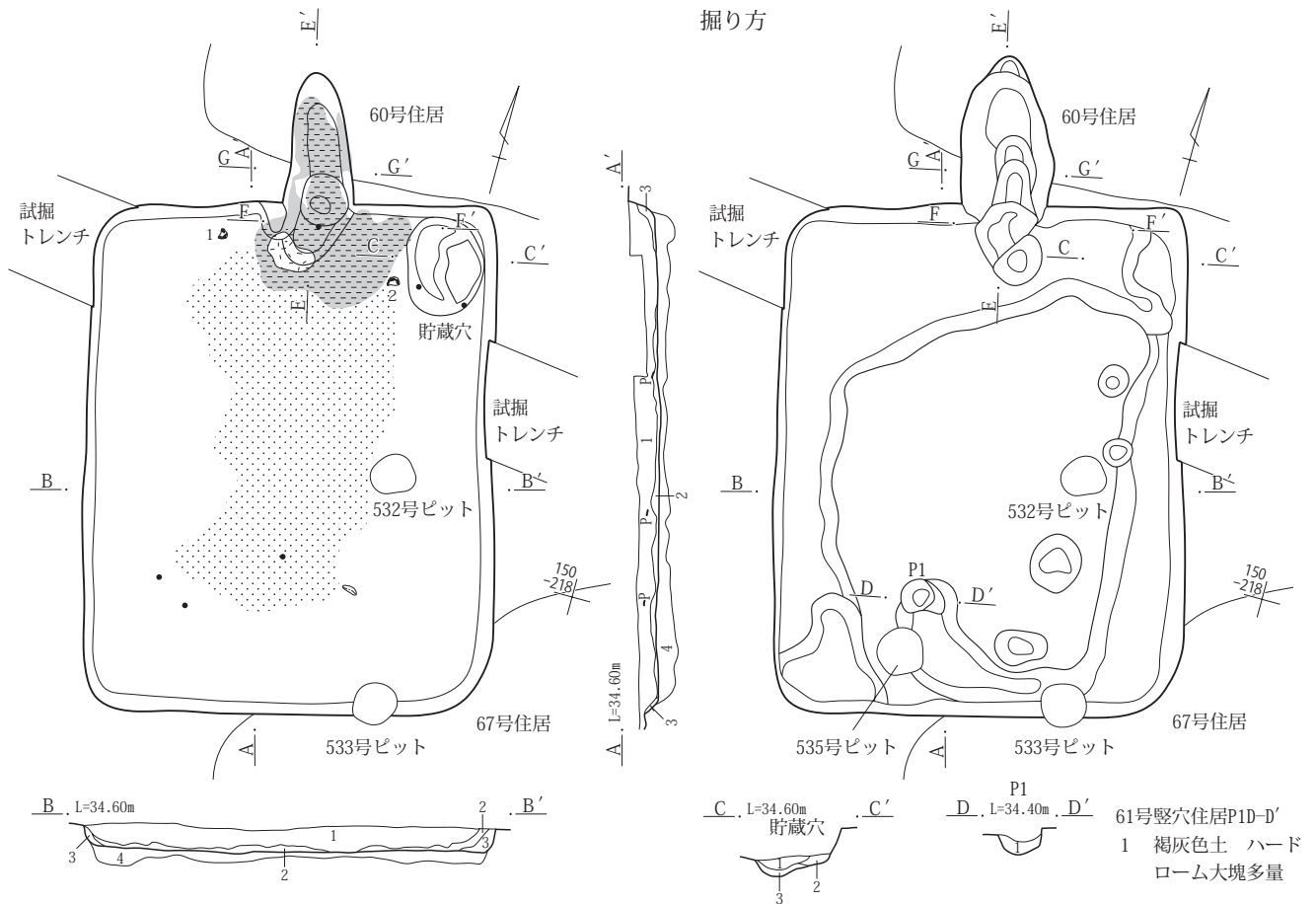
**柱穴** 掘り方調査によってピット1基を確認する。形状は、不定形であり、規模は長径30cm、短径26cm、深さ15cmを測る。ハードローム大塊を多量に含む褐灰色土によって人為的に埋戻したと考えられる。

**周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** 中央部を浅く掘り残し、壁際に沿って帯状に深く掘り窪めている。小ピット状の窪みも認められるが、床下土坑などの施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 須恵器杯(第225図1)、須恵器碗(同図2)は、床面直上からの出土であり竪穴住居に伴うと考えられる。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀後半と考えられる。



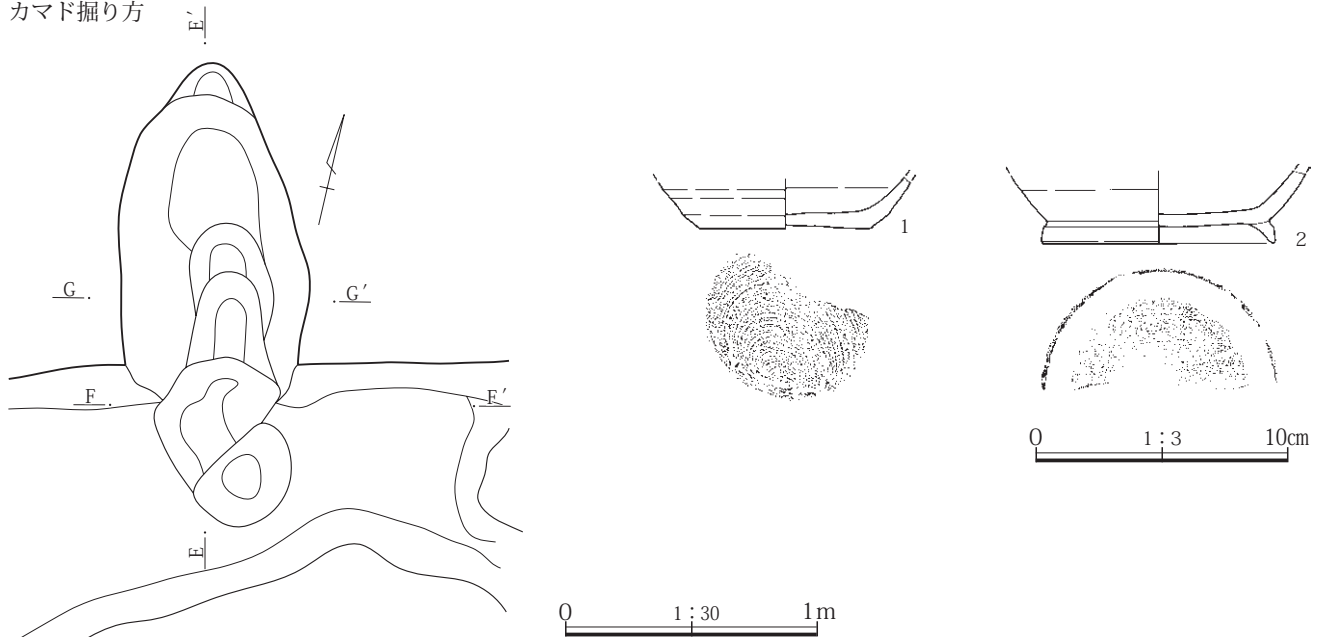
61号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム小～中粒・焼土小～中粒・炭化小粒・灰白色軽石粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体70%、焼土小粒微量、縮まりややあり、粘性ややあり

61号竪穴住居貯蔵穴C-C'

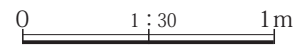
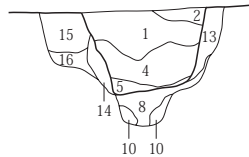
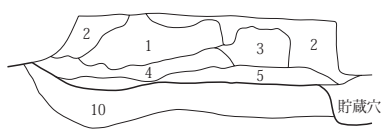
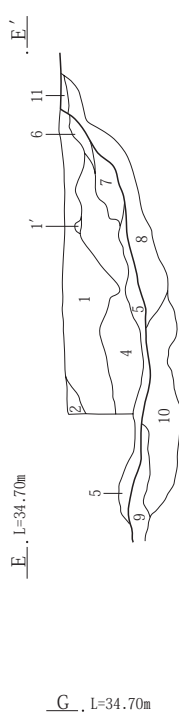
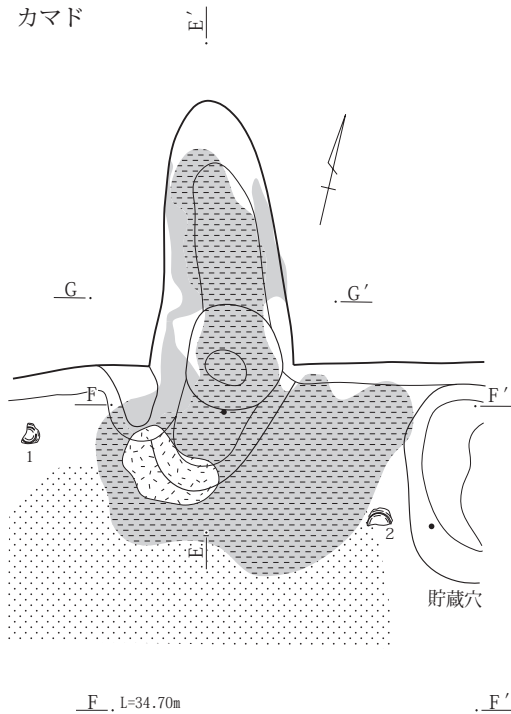
- 1 黒褐色土 ローム・大塊、焼土小～中粒少量、灰黄色シルト質塊・炭化物小粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土主体70%、焼土小粒少量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰褐色土 焼土小～大粒5%、灰黄色シルト質土塊微量、縮まりやや弱、粘性少ない

カマド掘り方



第225図 1区61号竪穴住居と出土遺物

カマド



61号竪穴住居カマドE-E'・F-F'・G-G'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム漸移層土中塊・ローム粒・白色軽石少量
- 1' 灰黄色土 シルト質土、締まりあり、粘性ややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ローム粒・白色軽石少量
- 3 灰黄褐色砂質土 ローム粒・小塊多量、白色軽石少量
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム小～中塊・焼土小～中塊多量、にぶい黄褐色粘質土小～中塊少量
- 5 灰層 灰、焼土粒・焼土小塊多量、にぶい黄褐色粘質土小～中塊少量
- 6 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 7 灰黄褐色土 焼土小粒・ローム粒・炭化物粒・灰白色軽石粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 8 灰黄褐色土 焼土粒・焼土小塊・炭化物少量
- 9 灰黄褐色土 ローム粒・小～中塊5%、焼土小～中粒少量、炭化物小粒微量
- 10 にぶい黄褐色土 ローム粒・大塊20%、焼土小粒微量
- 11 灰黄褐色土 にぶい黄褐色シルト質土中～大塊多量
- 12 にぶい黄褐色土 黄褐色ローム大塊40%
- 13 灰黄褐色土 ローム粒・焼土小塊少量
- 14 にぶい黄褐色土 ハードローム粒・灰白色粘土極小塊多量
- 15 灰黄褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量
- 16 灰黄褐色土 ローム大塊多量、焼土粒少量

第226図 1区61号竪穴住居カマド

1区63号竪穴住居(第227～229図 PL.63・64・96)

位置 X=140～145、Y=-225～230

形状・規模 形状は長方形である。規模は、長軸長3.25m、短軸長3.20m、壁高北壁47cm、南壁48cm、東壁35cm、西壁49cmを測る。床面積は11.08㎡である。

主軸方向 N-75°-E

重複 1区62号竪穴住居の埋没土を1区63号竪穴住居が掘り込む。

埋没土 南側や北側の壁際には、にぶい黄褐色土による三角堆積が認められるが、床面上から上層にかけてローム漸移層土塊が多量に含まれるため短期間に人為的に埋戻した可能性がある。

床面 西壁際から東壁際にかけて比高差5～8cmを測り緩やかに傾斜して下る。北壁際中央部と南壁際西半部の一部や床面東半部で使用による硬化面が認められる。ローム塊やローム粒が多量に含まれる灰黄褐色土によって床面を構築する。

カマド 東壁中央部やや南寄りに付設する。天井部分が壊され構築材と考えられるシルト質土が焚口や燃焼部側

壁の外側、煙道外側など広範囲に飛散している。燃焼面から内側左壁面にかけて焼土化が著しい。燃焼面には、支脚石と考えられる棒状礫が南北方向に2個並んで残存していた。確認できる規模は、全長1.41m、幅1.17m、焚口幅54cm、燃焼部奥行95cm、左袖状残存部42cm、右袖状残存部58cmを測る。軸方向は、N-82°-Eである。掘り方は、ローム塊を多量に含むにぶい黄褐色土や焼土や炭化物を含む黄褐色土などによって約5～20cm掘り窪め、燃焼面や煙道を整えている。カマド燃焼面直上から炉内滓又は炉底塊(第229図6)が出土する。

貯蔵穴・柱穴 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

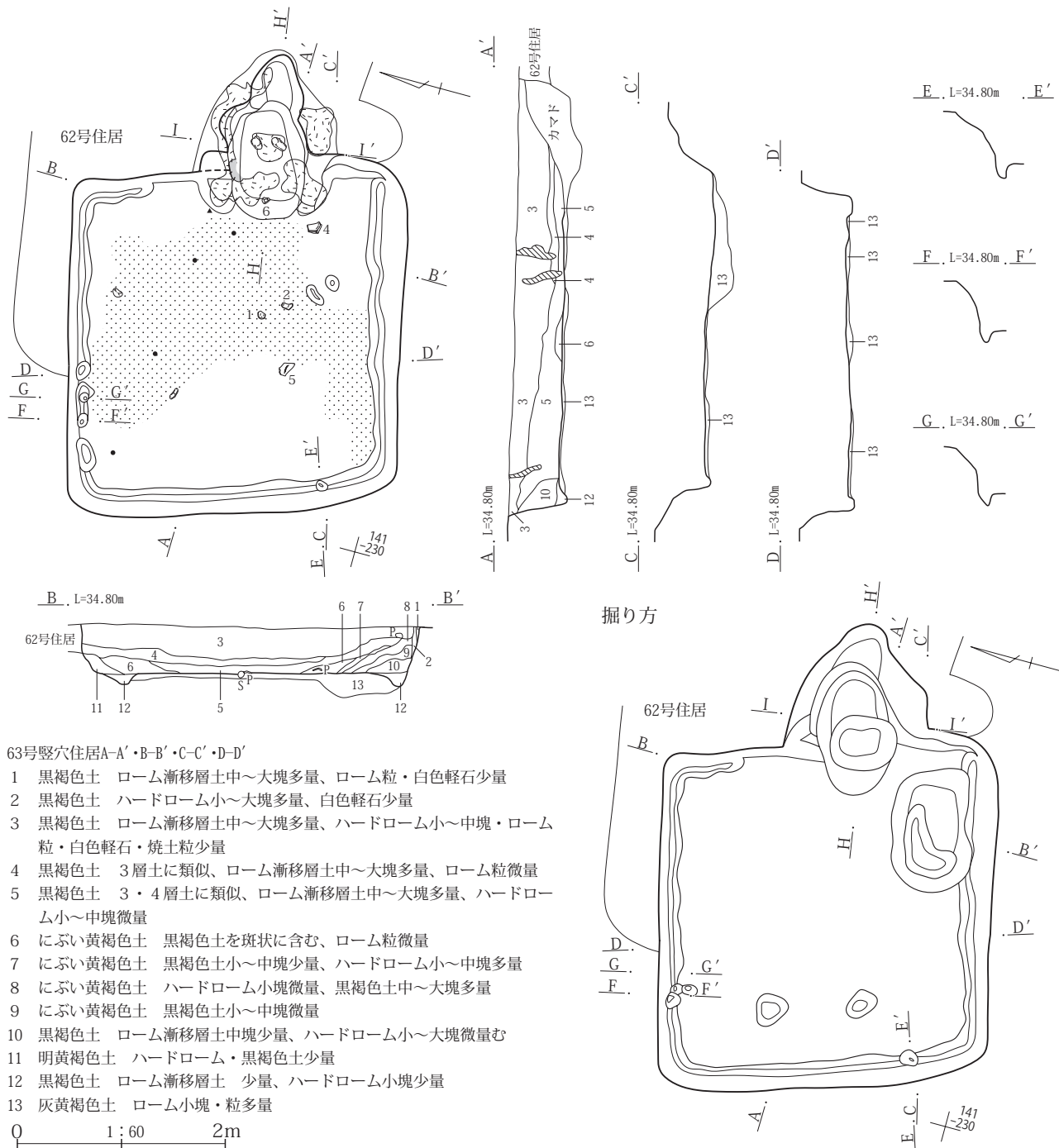
周溝 南壁、西壁、北壁際に構築され、東壁は北東隅に一部確認できた。規模は幅10～20cm、深さ4～9cmを測り、ローム漸移層土とハードローム小塊を含む黒褐色土によって埋没する。北壁西側の周溝内に長さ18～44cm、深さ5～12cmの小ピット状の掘り込みが認められ、壁面に何らかの施設を持ち、上部施設などを支えるための下部構造の可能性はある。

**掘り方** カマド右側は、形状が隅丸長方形で、規模が長径120cm、短径70cm、深さ25cmの土坑状に掘り込まれ、西側底面に溝状の段差を持つ。床面精査では確認できなかったが、上面の床面には硬化がみられず、カマド右側に位置することから貯蔵穴の可能性もある。西壁から小ピット状のが南北方向に2カ所並んで確認された。北側の小ピットは長径32cm、短径28cm、深さ7cmであり、西壁から60cm離れ、南側の小ピットは長径31cm、短径22cm、深さ9cmであり、西壁から65cm離れている。小ピット間

88cmを測り、柱穴となる可能性もある。

**遺物出土状態** 須恵器椀(第228図2)、須恵器甕(第228図5)は床面上5~7cmから、須恵器椀(第228図1)、土師器甕(第228図4)、須恵器壺(第228図3)、刀子(第229図7)は埋没土からの出土であり、住居に伴うと考えられる。非掲載遺物は、土師器片266点(小型製品34、中型製品2、大型製品230)、須恵器片57点(小型製品30、大型製品27)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第4四半期と考えられる。

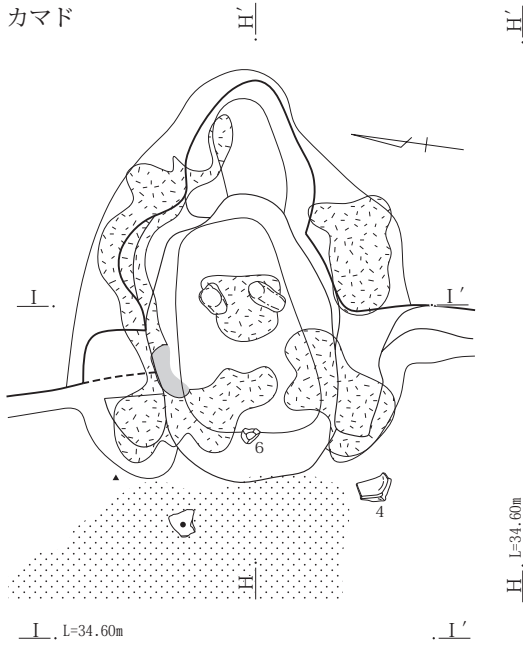


第227図 1区63号竪穴住居

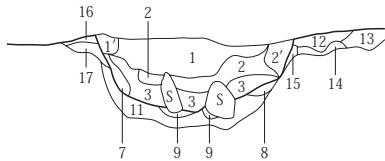
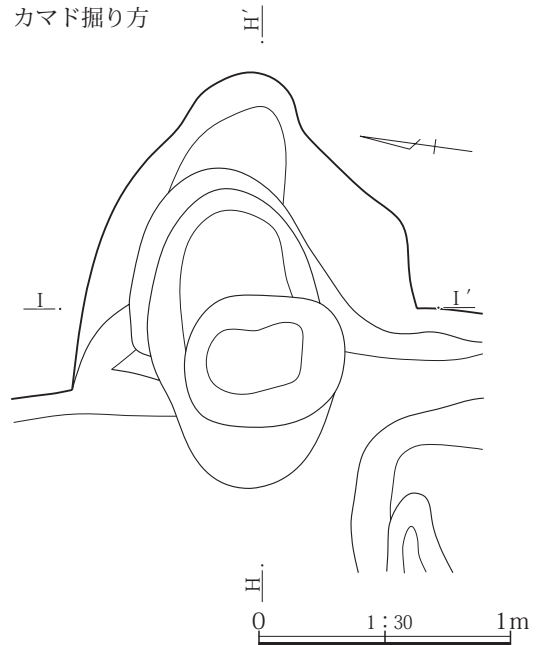


第3章 間之原遺跡の調査

カマド



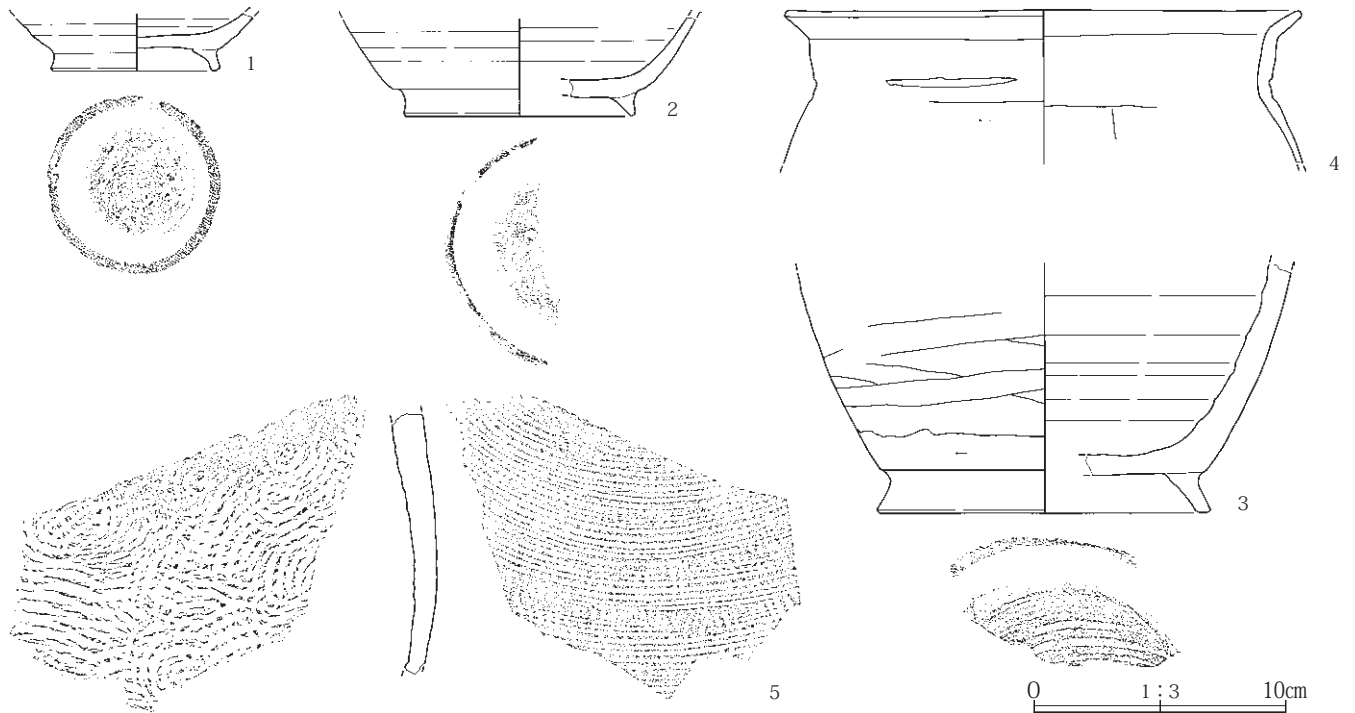
カマド掘り方



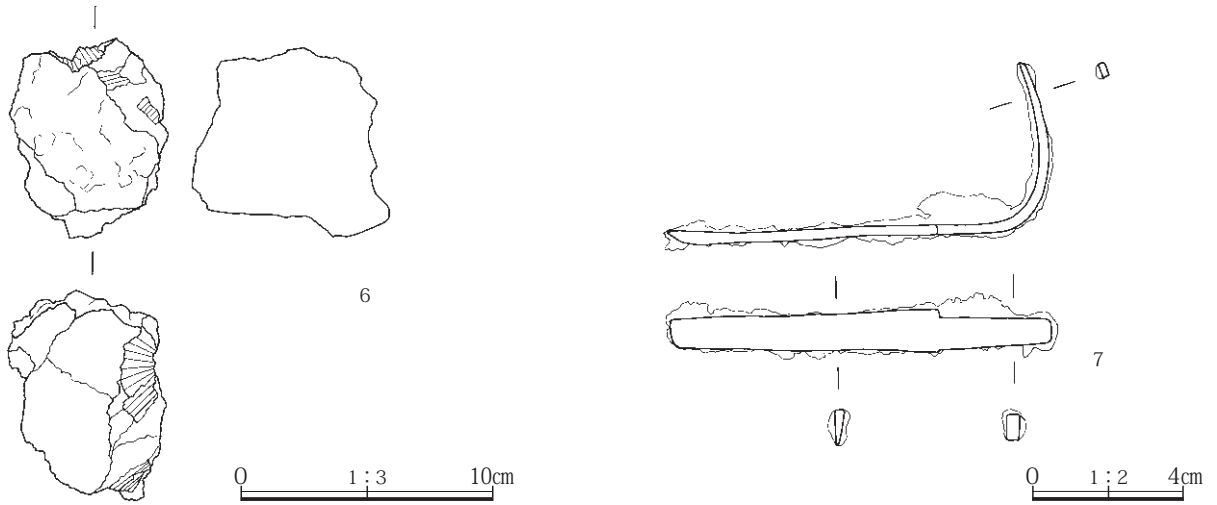
63号竪穴住居カマドH-H'・I-I'

- 1 にぶい黄褐色土 にぶい黄褐色粘質土少量、焼土粒・炭化物微量
- 1' 1層土+焼土小塊
- 2 にぶい黄褐色土 にぶい黄褐色粘質土多量、焼土粒・炭化物少量、崩落天井部
- 2' 2層土+ハードローム粒多量
- 3 にぶい黄褐色土 焼土小~中塊多量、下層に灰を含む 崩落天井部
- 4 灰白色土 粘土塊
- 5 灰黄褐色土 にぶい黄褐色粘質土塊微量

- 6 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量
- 7 明黄褐色土 焼土化したハードローム
- 8 明黄褐色土 ローム塊
- 9 黒褐色土 締まりやや弱、粘性少ない 支脚石のピット状掘り込み
- 10 褐灰色土 炭化物・焼土粒・灰多量、上層は著しく焼土化
- 11 灰黄褐色土 焼土・炭化物多量、使用面下層
- 12 灰黄褐色土 灰黄色土10%、ソフトローム5%、粘性ややあり
- 13 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム極小塊少量
- 14 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊50%
- 15 灰黄褐色土 焼土小粒微量
- 16 灰黄色土 灰黄色の粘質土主体
- 17 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊5%、焼土小粒微量
- 18 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム中塊10%
- 19 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%
- 20 にぶい黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム小~中粒5%



第228図 1区63号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第229図 1区63号竪穴住居出土遺物(2)

**1区66号竪穴住居**(第230～232図 PL.64・65)

**位置** X=156～161、Y=-220～225

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.27m、短軸長3.25m、壁高北壁33cm、南壁31cm、東壁30cm、西壁32cmを測る。床面積は14.63㎡である。

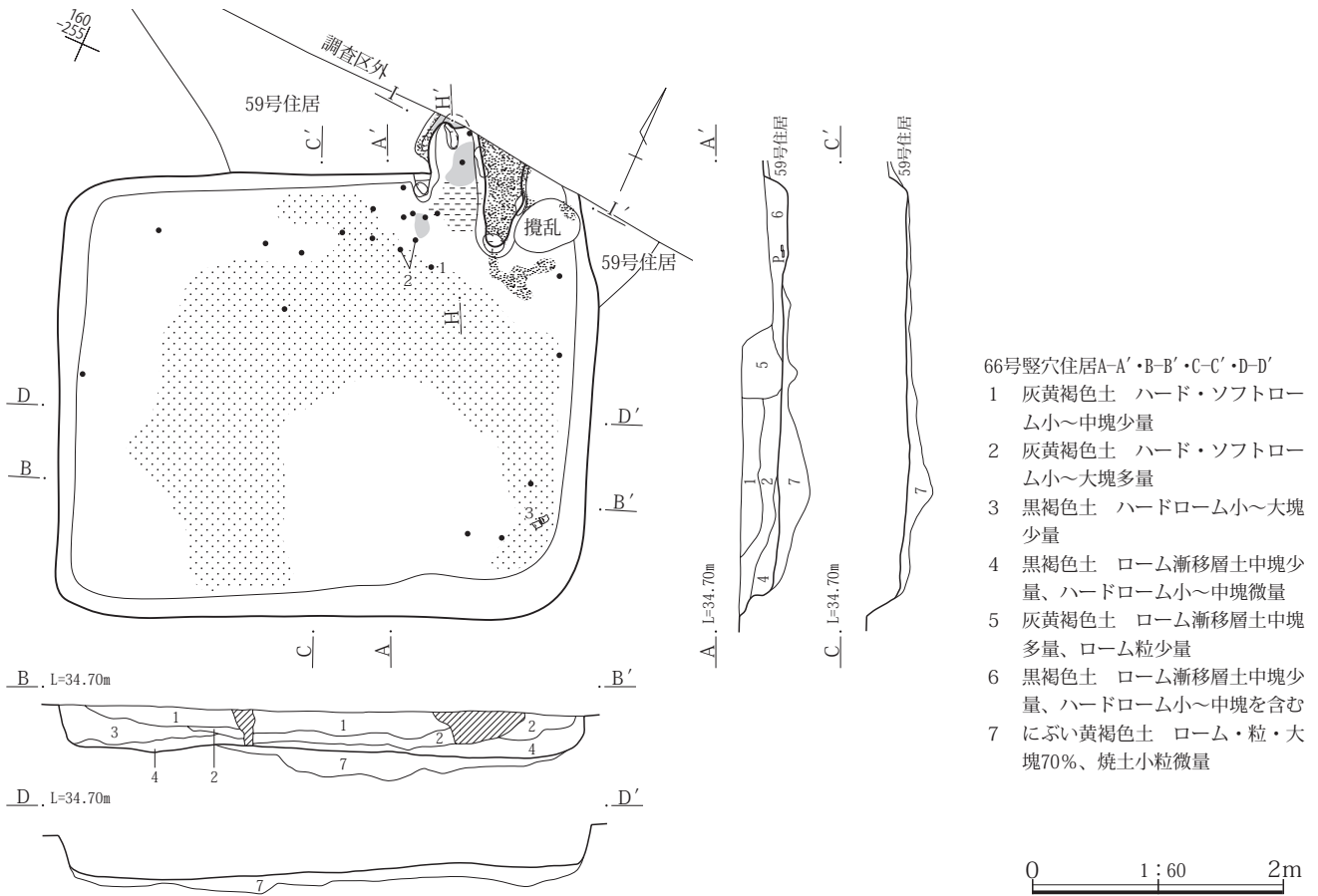
**主軸方向** N-24°-W

**重複** 1区66号竪穴住居が1区59号竪穴住居を掘り込む。

**埋没土** 土層断面を観察し埋没土下層から上層にかけて

レンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** 西壁際から東壁際の比高差6～7cmであり、南壁際から北壁際の比高差は6cmを測る。カマドが付設部分から北東隅周辺にかけて最も低くなる。東壁際から北壁と西壁にかけてU字状の硬化面を確認した。ローム粒や大塊、焼土粒を混入するにぶい黄褐色土によって床面を構築する。



第230図 1区66号竪穴住居

**カマド** 北壁東寄りに付設する。燃烧部側壁左壁は失われ、構築材とみられるシルト質土が燃烧部側壁右壁には多量に残存する。燃烧面から焚口外側にかけて焼土や炭化物が確認でき、煙道外側と焚口から外側には粘土が残る。調査区北外に位置するため煙道先端部分は確認できなかった。確認できる規模は、全長1.0m、焚口幅35cm、燃烧部奥行82cm、左袖状残存部23cm、右袖状残存部75cmある。掘り方は、燃烧面を12cm掘り窪めている。焚口から外側は構築時の土坑状の掘り込みが認められる。燃烧部奥の棒状礫は支脚石とみられる。

**貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

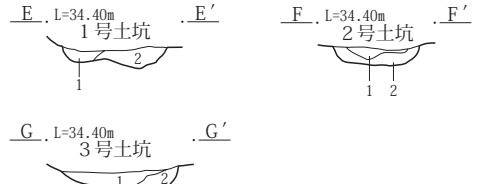
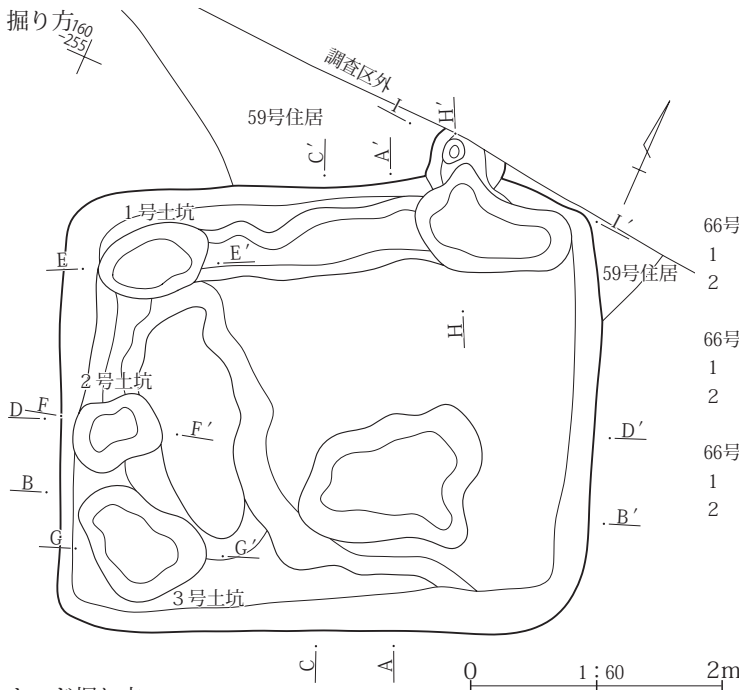
**掘り方** 中央部は浅く、特に北壁から西壁にかけて溝状に、南壁から中央部にかけて周辺を土坑状に深く掘り窪

めている。

**他の施設** 掘り方調査によって西壁際から3基の土坑を確認した。形状及び規模は、1号土坑(楕円形、長径83cm、短径58cm、深さ12cm)、2号土坑(不定形、長径72cm、短径50cm、深さ17cm)、3号土坑(不定形、長径100cm、短径80cm、深さ12cm)を測る。埋没土にローム塊などが多量に含まれることから人為的な埋戻しと考えられる。

**遺物出土状態** 土師器甕(第231図2・3)は床面直上から出土し竪穴住居に伴うと考えられる。須恵器杯(同図1)は床面上10cm以上の埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片266点(小型製品17、大型製品249)、須恵器片17点(小型製品14、大型製品3)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



66号竪穴住居 1号土坑E-E'

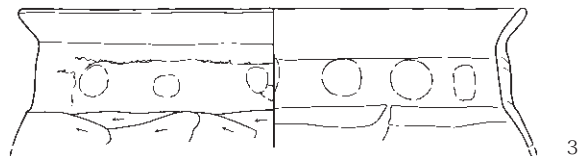
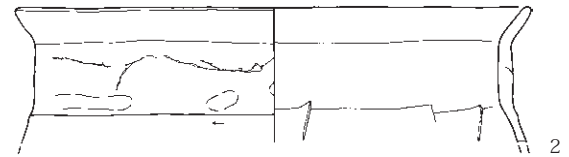
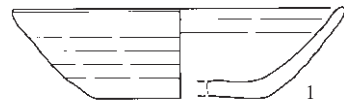
- 1 黒褐色土 ローム粒・大塊20%、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・大塊70%、締まりややあり、粘性少ない

66号竪穴住居 2号土坑F-F'

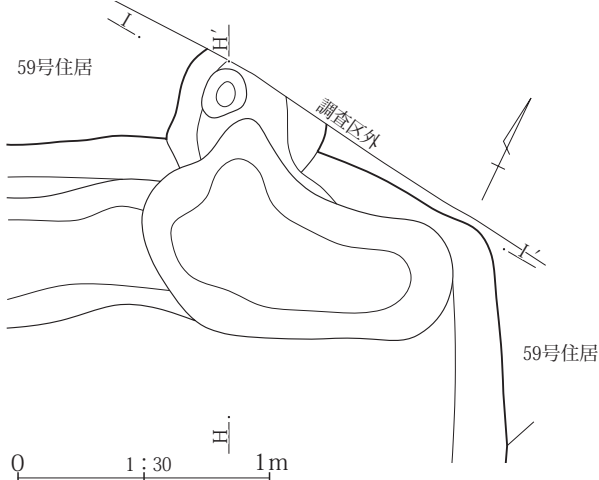
- 1 灰黄褐色土 ローム小~大粒20%、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム80%、ローム粒・大塊を含む、締まりややあり、粘性少ない

66号竪穴住居 3号土坑G-G'

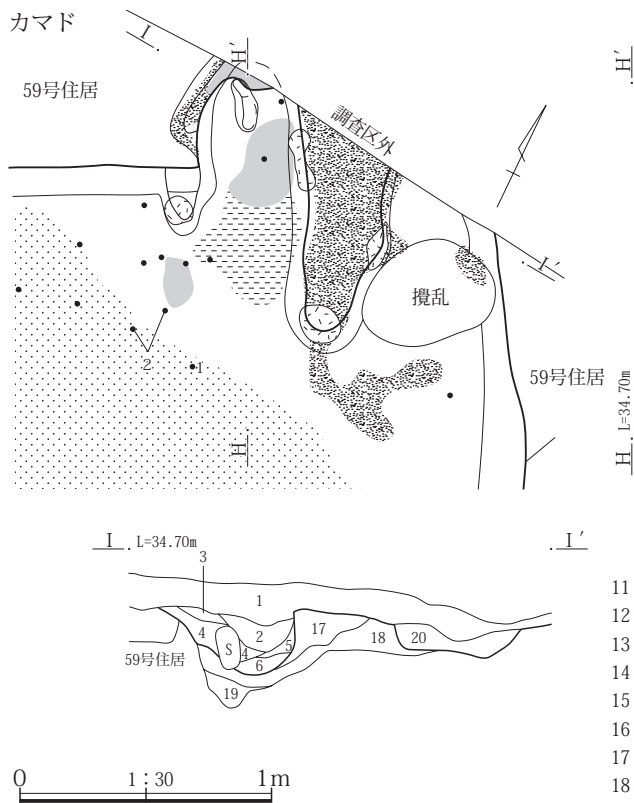
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・大塊20%、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム80%、ソフトローム中心、締まりややあり、粘性少ない



カマド掘り方



第231図 1区66号竪穴住居掘り方と出土遺物



- 66号竪穴住居カマドH-H'・I-I'
- 1 黒褐色土 ローム漸移層土塊多量、ローム粒少量
  - 2 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土・焼土小～中粒・炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 3 灰黄色土 シルト質土主体、締まりややあり、粘性ややあり
  - 4 にぶい赤褐色土 焼土主体、締まりややあり
  - 5 灰黄褐色土 焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 6 灰黄褐色土 焼土小～大粒5%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 7 灰黄褐色土 灰黄色シルト質土10%、ローム小～大粒少量、焼土小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 8 黒褐色土 ローム粒・焼土小粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 9 黒褐色土 ローム粒・大塊少量、焼土小～大粒・灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 10 灰黄色土 シルト質土主体、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 11 黒褐色土 炭化物粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 12 褐灰色土 焼土小～大粒多量、ローム中塊微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 13 灰褐色土 焼土小粒5%、灰白色軽石粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 14 褐灰色土 ローム小粒10%、焼土小粒少量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 15 褐灰色土 ローム小粒10%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 16 にぶい黄褐色土 ローム小～中粒20%、締まりやや弱、粘性少ない
  - 17 灰黄褐色土 焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 18 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、焼土小粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
  - 19 にぶい黄褐色土 ローム塊多量、締まりやや弱
  - 20 黒褐色土 ローム漸移層土塊少量

第232図 1区66号竪穴住居カマド

### 3区71号竪穴住居(第233・234図 PL.65・96)

**位置** X=143~146、Y=-317~321

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長3.82m、短軸長2.90m、壁高北壁38cm、南壁36cm、東壁40cm、東壁45cmを測る。東壁側に幅35~50cmテラス状の段差を設けている。床面積は11.32㎡である。

**主軸方向** N-96°-E

**重複** 遺構確認状況から620号ピットが新しい。

**埋没土** 土層断面を観察し、上層に比べ下層にローム塊を多量に混入する。壁際には三角堆積が、床面から上層にかけてレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。

**床面** ほぼ平坦であるが、東壁際から西壁際にかけて緩やかに傾斜して下り、比高差は2~3cmを測る。使用による明瞭な硬化面は認められなかった。ローム小塊を多量に含む褐色土によって床面を構築している。

**カマド** 東壁やや南寄り付設する。焼部側壁は失われているが、焼部から煙道にかけて残存し、焼部内側の焼土化が著しい。確認できる規模は、全長1.30m、幅94cm、焚口幅47cm、焼部奥行52cm、左袖状残存部49cm、

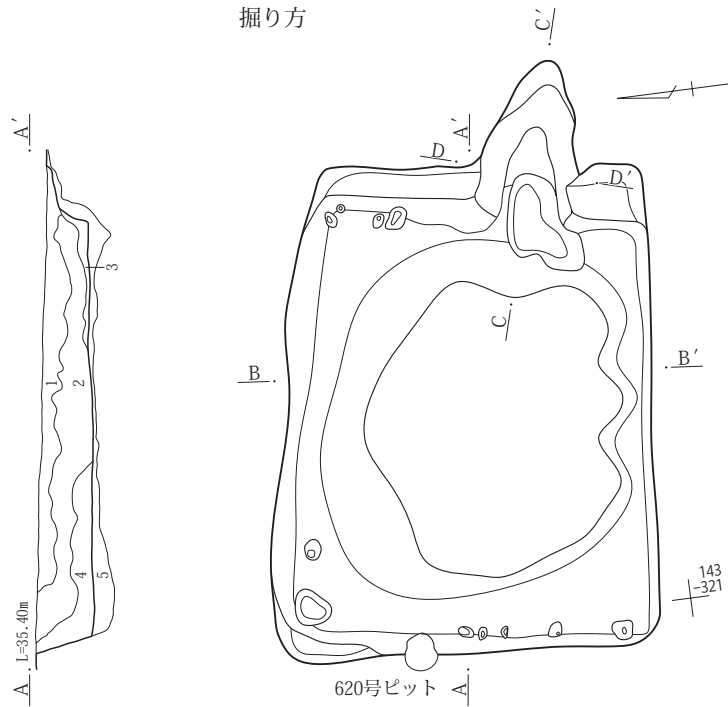
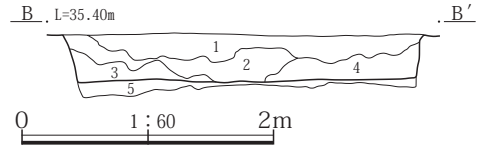
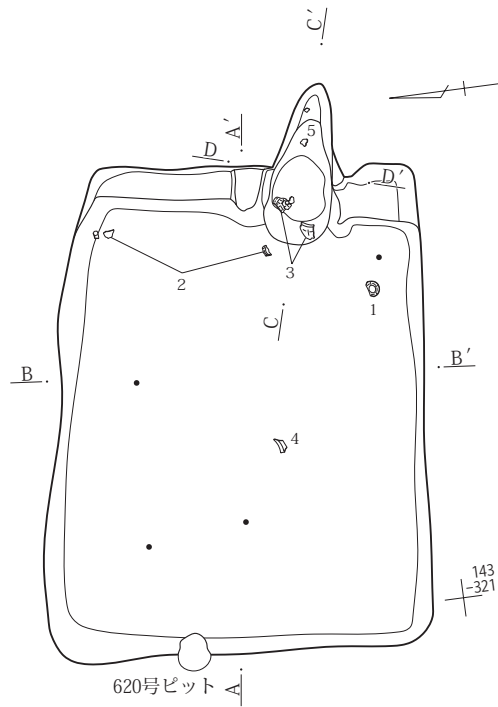
右袖状残存部48cmを測る。軸方向は、N-116°-Eであり、住居の主軸方向に比べ僅かに南側に傾く。焼部は、住居床面から2~7cm低い。焚口外側から焼部にかけて25cm、焼部から煙道を5cm掘り込み焼部を整えている。土塊(PL.96-5)は焼部4cm、土塊(PL.96-6)は埋没土から、土師器甕(第234図3)は焼部上20cm以上の埋没土から出土した。

**貯蔵穴・柱穴・周溝** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**掘り方** 中央部を楕円形状に浅く残し、壁際を溝状に深く掘り窪めている。西壁際、東壁の北東隅、北壁の北西隅には、上端6~30cm、深さ1~10cm小ピット状の掘り込みが連続して並ぶ。特に西壁際に多く、出入口など壁際の構造物を支えるための下部施設の可能性がある。

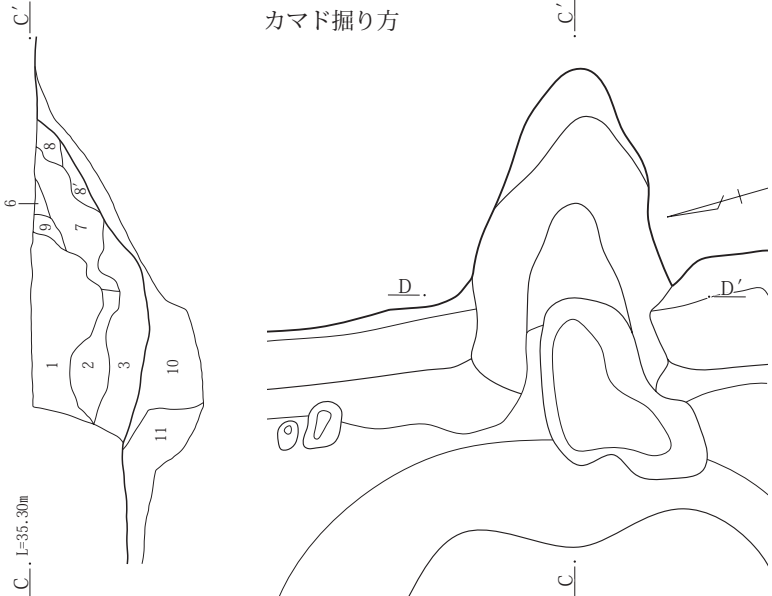
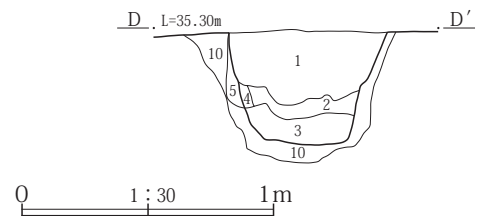
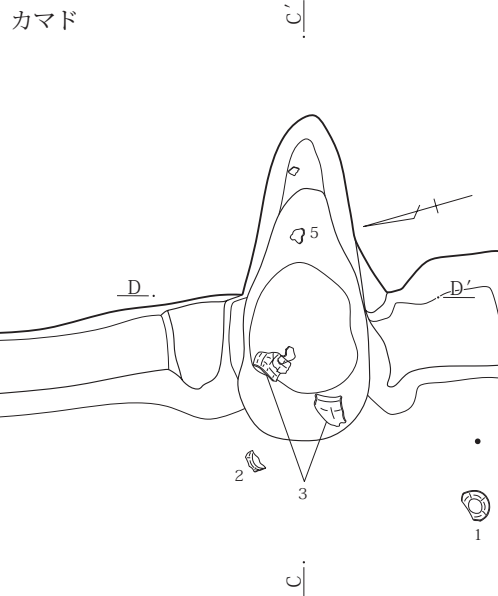
**遺物出土状態** 墨書した須恵器杯(同図1)、須恵器杯(同図2)、土師器甕(同図4)は床面直上からの出土であり竪穴住居に伴うと考えられる。非掲載遺物は、土師器片246点(小型製品18、大型製品211、不明17)、須恵器片3点(大型製品)である。

**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。



71号竪穴住居A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 砂質土、ローム小塊3%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性なし
- 2 黒色土 ローム小塊3%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりやや弱、粘性あり
- 3 暗褐色土 ローム小塊5%、焼土粒・炭化物を含む、締まりあり、粘性あり
- 4 褐色土 ローム小塊・ローム極小粒3%、締まりあり、粘性あり
- 5 褐色土 ローム小塊30%、硬化、粘性ややあり

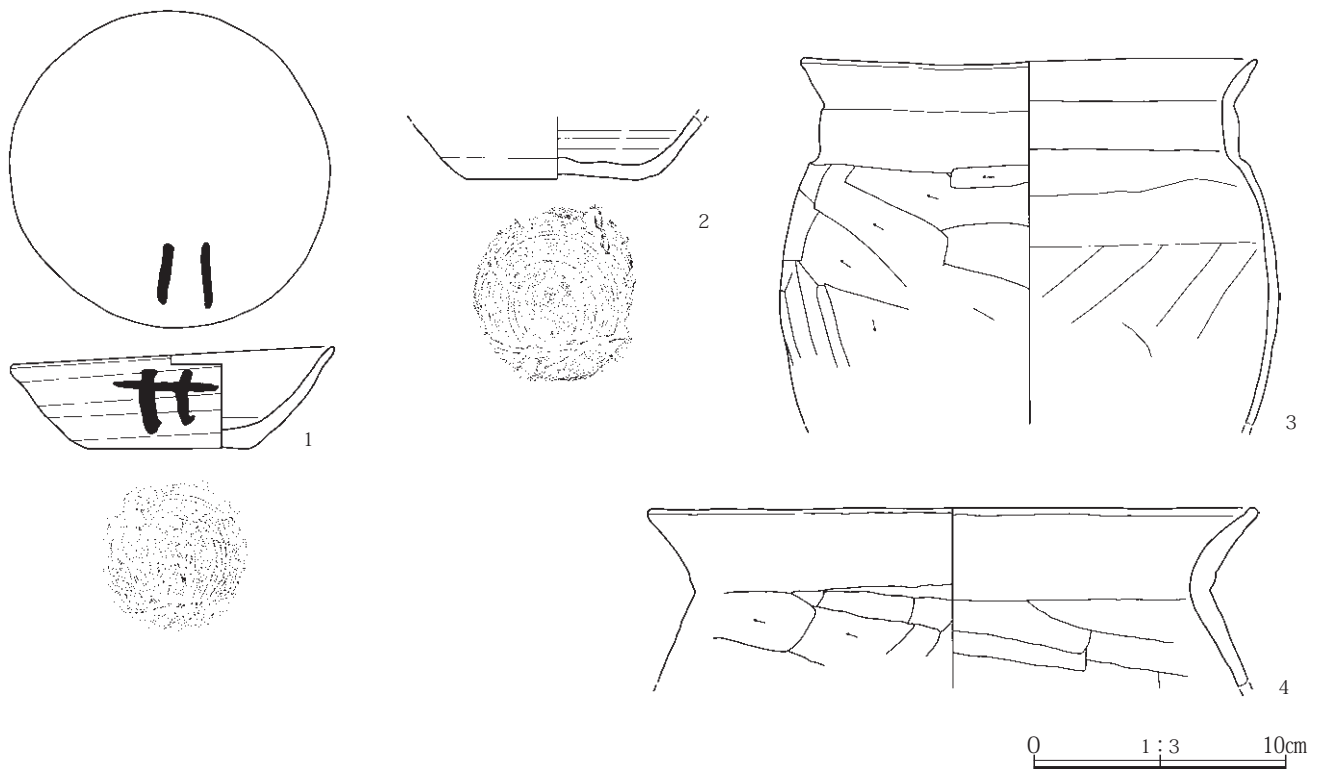


71号竪穴住居カマドC-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 ローム小～中粒5%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 2 黒褐色土 粘質土小塊30%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 3 黒色土 焼土中粒5%、炭化物粒を含む、ボソボソで締まり弱、粘性なし
- 4 褐色土 ローム大粒5%、焼土粒・炭化物粒を含む、ボソボソで締まり弱、粘性ややあり
- 5 4層とロームの混土
- 6 1層と焼土の混土
- 7 黒褐色土 焼土小～中粒5%、粘質土大粒3%、炭化物粒を含む、ボソボソ、粘性なし
- 8 黒褐色土 粘質土大粒5%、締まりあり、粘性あり
- 8' 8層よりやや明るい色調
- 9 黒褐色土 焼土小～中粒・ローム粒・炭化物粒1%、締まりあり、粘性ややあり
- 10 褐色土 ローム小塊30%、硬化、粘性ややあり

第233図 3区71号竪穴住居





第234図 3区71号竪穴住居出土遺物

**3区78号竪穴住居**(第235・236図 PL.65・66・96)

**位置** X=145~148、Y=-284~288

**形状・規模** 調査区北境に位置し、形状や全体の規模は不明である。確認できる規模は、東西長4.10m、壁高は南壁、東壁、西壁53cmである。

**主軸方向** N-96°-E

**重複** 3区78号竪穴住居が3区80号竪穴住居の埋没土を掘り込む。

**埋没土** 焼土粒や炭化物を含む暗褐色土と黒褐色土の混土により埋没する。上層はローム漸移層土とみられる褐色土塊が多量に混入し、下層はローム粒がやや多く含まれている。自然埋没か人為的かは不明である。

**床面** ほぼ平坦であるが、北東部が約10cm低く、掘りすぎた可能性がある。使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。ローム塊を含む暗褐色土によって床面を構築している。

**カマド** 東壁やや南寄りに付設する。燃烧面と奥壁の焼土化が著しい。東壁から煙道が屋外に長く伸び、燃烧部側壁の一部は残存する。確認できる規模は、全長1.32m、焚口幅31cm、燃烧部奥行81cmである。軸方向は、N-90.5°-Eである。掘り方は、カマド焚口から外側を

土坑状に10cm、燃烧部から煙道にかけて10~20cm掘り窪め、ローム粒を含む褐色土によって整えている。遺物は、白玉(第236図6)が燃烧面奥の直上から、土師器甕(同図3)が燃烧面上10cm以上の埋没土から出土する。

**貯蔵穴・柱穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

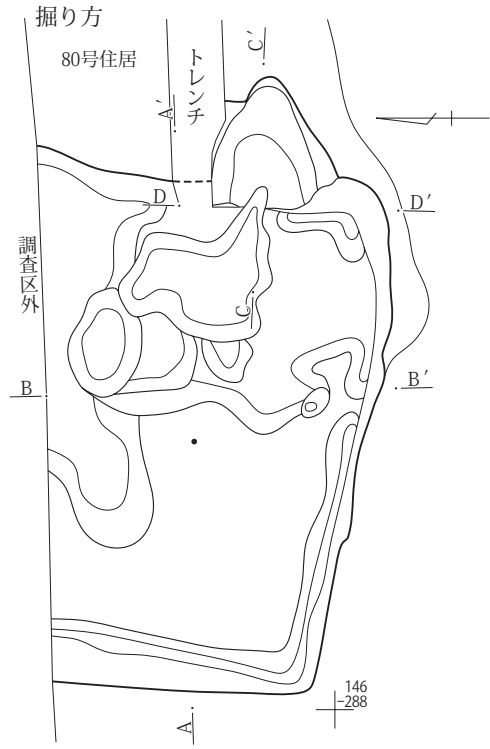
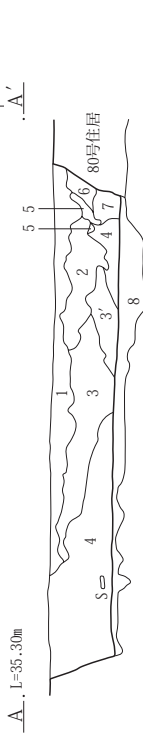
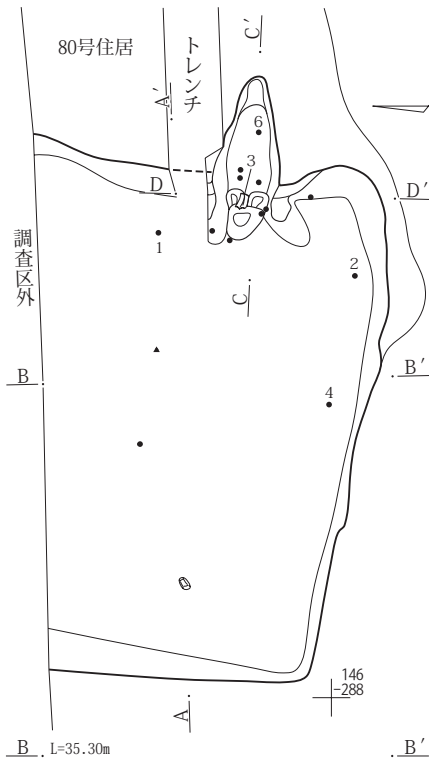
**周溝** 掘り方調査によって確認し、南東隅、南壁直下中央部より西側、西壁際に構築していた。規模は幅13~23cm、深さ3~7cmを測る。

**掘り方** ローム面まで5~12cm掘り窪めている。東半部のカマド焚口周辺部が広範囲に掘り込まれている。床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 須恵器甕(同図2)は床面直上から、土師器甕(同図4)は床面上3cmから出土した。須恵器椀(同図1)、羽口(同図5)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片554点(小型製品82、中型製品1、大型製品462、不明9)、須恵器片28点(小型製品10、大型製品18)である。

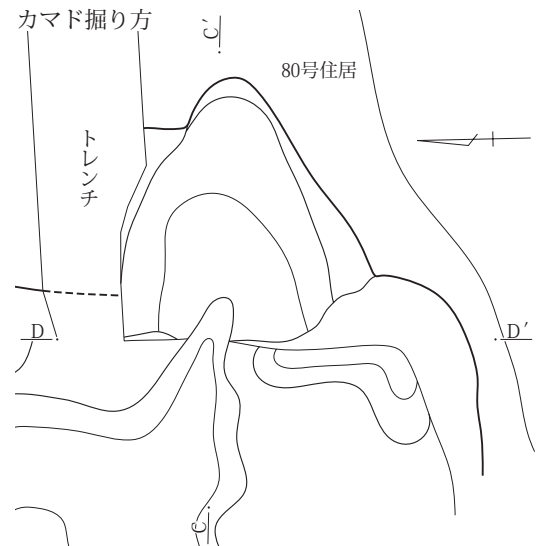
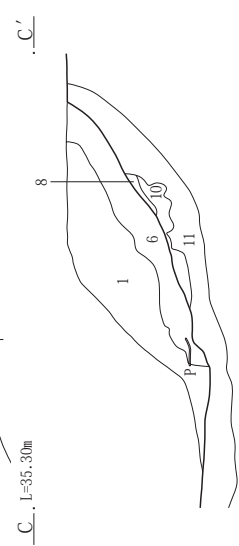
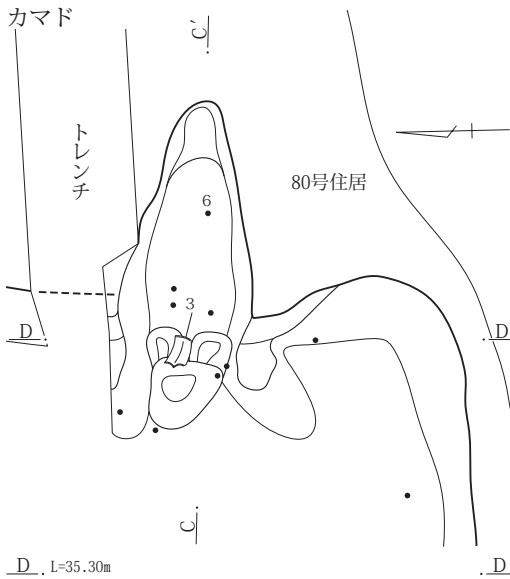
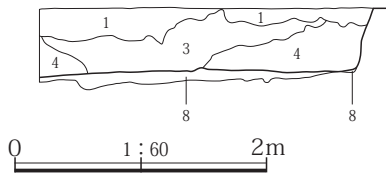
**所見** 出土遺物から時期は9世紀第3四半期と考えられる。

第3章 間之原遺跡の調査



78号竪穴住居 A-A'・B-B'

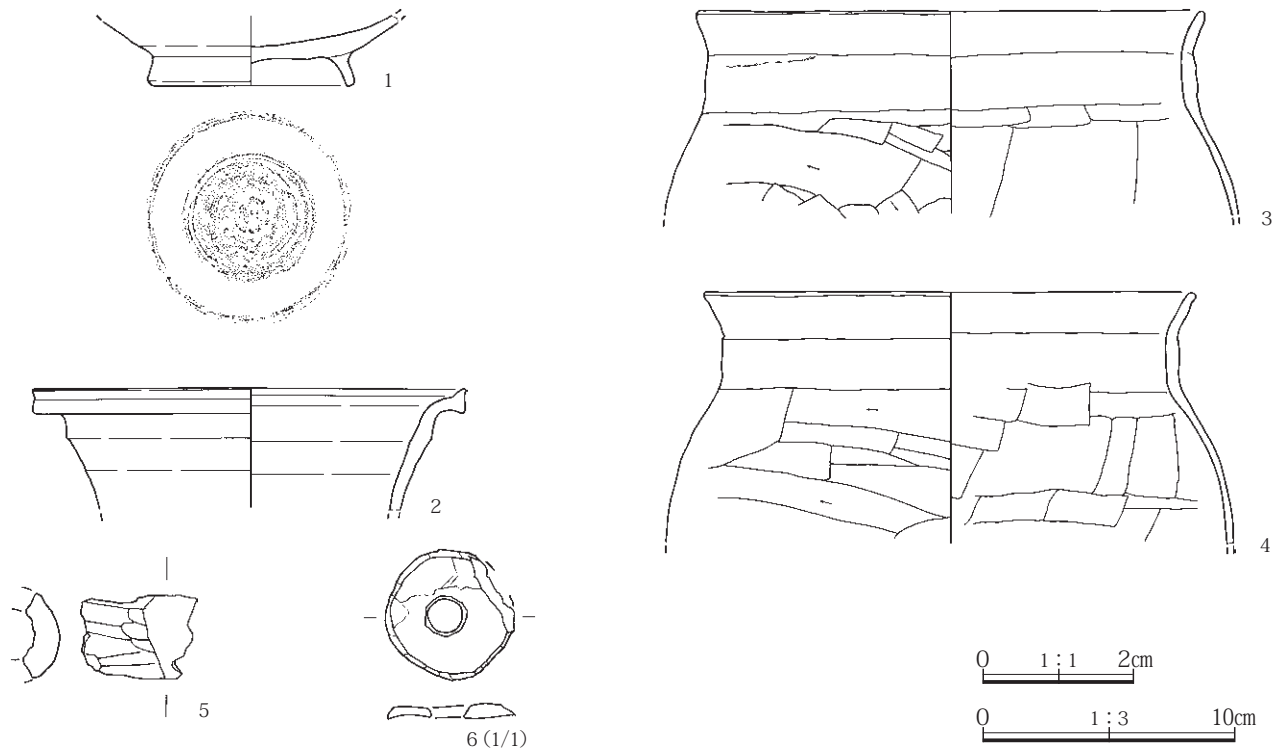
- 1 暗褐色土 褐色土中塊30%、焼土粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 2 黒褐色土 褐色土中塊15%、焼土粒・ローム粒を含む、締まり弱、粘性ややあり
- 3 黒褐色土 褐色土小塊5%、焼土粒・ローム粒・炭化物粒を含む、締まりやや弱、粘性ややあり
- 3' 3層よりやや明るい色調
- 4 暗褐色土 ローム大粒5%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 5 灰黄褐色土 粘土小塊、焼土粒・炭化物粒を含む
- 6 黒褐色土 炭化物粒を含む、やや砂質、締まり弱、粘性なし
- 7 黒褐色土 褐色土小塊5%、ローム小粒1%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 8 暗褐色土 ローム中塊4%、炭化物粒を含む、締まり強、粘性あり



78号竪穴住居カマド C-C'・D-D'

- 1 黒褐色土 ローム小～中粒1%、締まりあり、粘性ややあり
- 2 黒褐色土 炭化物粒を含む、やや砂質、締まりあり、粘性なし
- 3 黒褐色土 ローム小～中粒30%、焼土粒・炭化物粒を含む、締まりあり、粘性ややあり
- 4 暗褐色土 ローム小粒10%
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム粒を含む、締まりあり、粘性あり
- 6 黄褐色粘土 焼土小～中粒30%、締まりあり、粘性強
- 7 明黄褐色土 粘土塊
- 8 赤褐色土 焼土、暗褐色土を含む
- 9 暗褐色土 炭化物粒1%、締まりあり、粘性ややあり
- 10 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒1%、締まり弱、粘性ややあり
- 11 褐色土 ローム小～中粒1%、炭化物粒を含む、締まりあり、粘性あり

第235図 3区78号竪穴住居



第236図 3区78号竪穴住居出土遺物

**3区79号竪穴住居**(第237・238図 PL.66・67・97)

**位置** X=136~140、Y=-271~275

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長4.10m、短軸長2.80m、壁高北壁70cm、南壁62cm、東壁66cm、西壁60cmを測る。床面積は11.64㎡である。

**主軸方向** N-S

**重複** 3区79号竪穴住居が3区85号竪穴住居の埋没土を掘り込む。

**埋没土** 上層はローム漸移層土とみられる褐色土塊が多量に混入し、下層も褐色土塊はローム粒が含まれているため人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 東壁際と西壁際の比高差は8cmであり、中央部に比べカマド焚口周辺部が3~4cm低い。使用による明瞭な硬化面を確認できなかった。にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の混土により床面を構築している。

**カマド** 北壁中央部に付設する。燃烧部側壁は失われているが、燃烧面から煙道は残存し北壁から屋外に延びる構造である。規模は、全長1.35m、幅1.06m、焚口幅40cm、燃烧部奥行80cmである。軸方向は、N-3°-Wである。掘り方は、燃烧部から煙道にかけて約5cm掘り窪め整えている。遺物は埋没土から土師器杯(第238図1・2)、椀形鍛冶滓(同図11)が出土する。

**貯蔵穴** カマド右側に構築し、掘り方調査によって確認

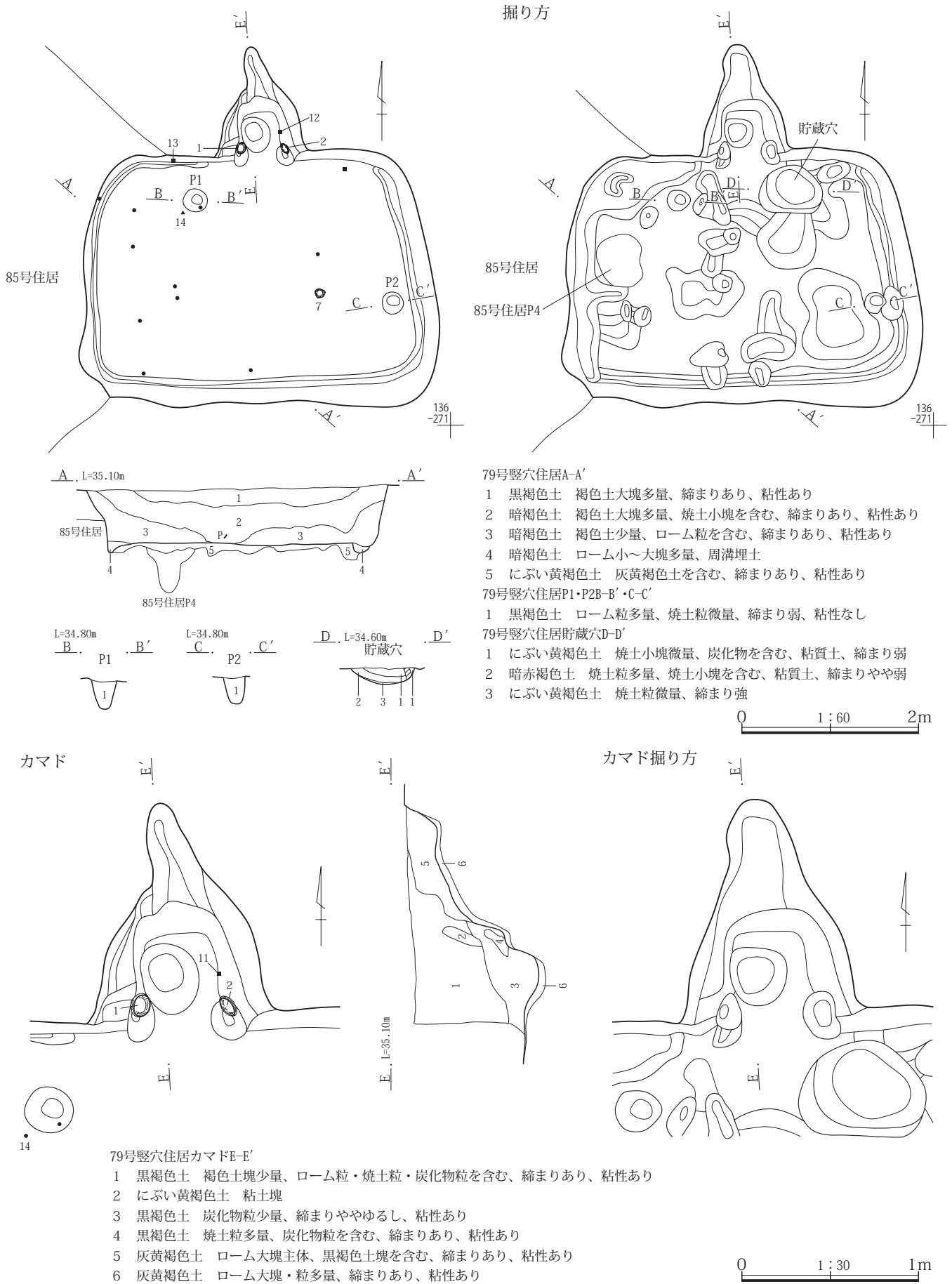
した。形状は楕円形であり、規模は長径72cm、短径55cm、深さ22cmを測る。焼土粒を含むにぶい黄褐色土と暗赤褐色土によって埋没する。自然埋没か人為的かは不明。

**柱穴** 床面精査によって2基のピットを確認する。形状及び規模は、P1(円形、長径25cm、短径24cm、深さ19cm)、P2(円形、長径27cm、短径25cm、深さ22cm)である。埋没埋没土に焼土粒や焼土塊が多量に3含まれ、人為的な埋戻しと考えられる。

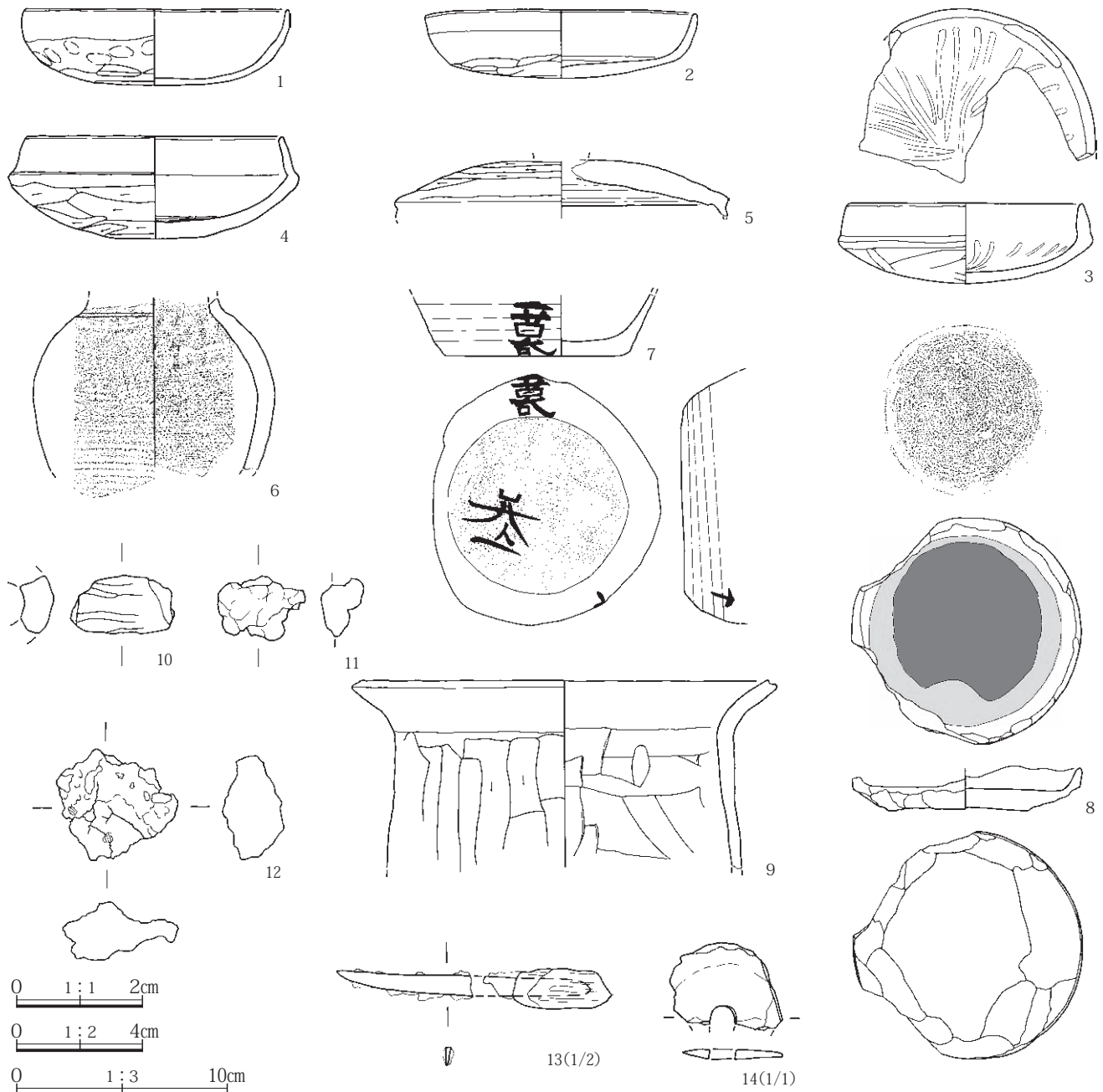
**周溝** カマド付設部分以外は壁直下を掘り込む。規模は幅5~15cm、深さ3~6cmを測る。カマド左側周溝内の底面から刀子(同図13)が出土する。

**掘り方** 全体を大小ピット状に掘り窪め、凹凸が著しくピットを含む可能性がある。南壁と西壁中央部分にやや短い溝状の掘り込みが認められ、間仕切り溝の可能性がある。

**遺物出土状態** 土師器杯(同図3・4)、須恵器蓋(同図5)、須恵器小型壺(同図6)、墨書した須恵器杯(同図7)、須恵器転用硯(同図8)、土師器甕(同図9)、椀形鍛冶滓(同図12)、炉壁?(同図11)、羽口(同図10)、白玉(同図14)は埋没土からの出土である。非掲載遺物は、土師器片1,038点(小型製品166、中型製品8、大型製品864)、須恵器片45点(小型製品15、大型製品30)、磨石1点である。  
**所見** 出土遺物から時期は8世紀第3四半期と考えられる。



第237図 3区79号竪穴住居



第238図 3区79号竪穴住居出土遺物

**3区82号竪穴住居**(第239～241図 PL.40・67・97)

**位置** X=143～147、Y=-274～277

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長3.40m、短軸長2.65m、壁高北壁60cm、南壁57cm、東壁48cm、西壁54cmを測る。床面積は8.95㎡である。

**主軸方向** N-42°-E

**重複** 3区86号竪穴住居埋没土を3区82号竪穴住居が掘り込む。

**埋没土** 壁際下層はローム塊を含む暗褐色土や褐色土、床面から上層にかけて焼土粒や炭化物を含む黒褐色土によって堆積し、自然埋没か人為的かは不明。

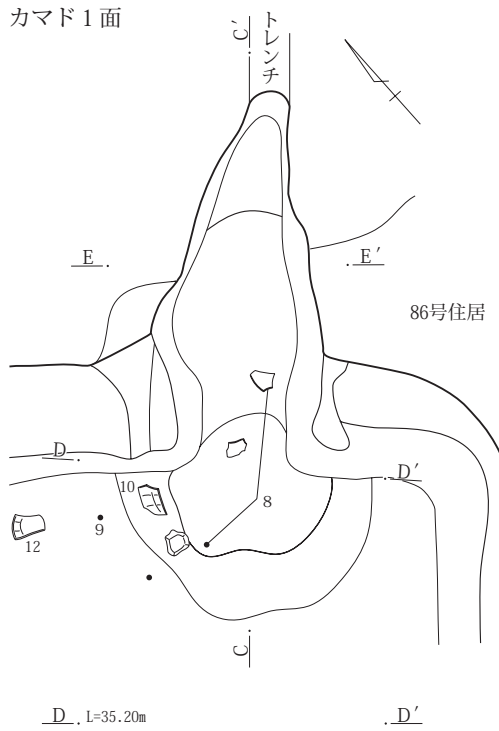
**床面** 南壁際から北壁際にかけて緩やかに傾斜する。比高差は9cmで、北西隅周辺が最も低い。明瞭な硬化面は確認できなかったが、ローム塊を多量に混入する暗褐色土によって床面を構築している。

**カマド** 北壁中央部に付設する。燃烧部側壁左壁は失われているが燃烧部から煙道にかけて焼土が残存し北壁から屋外に長く伸びる構造である。規模は、全長1.82m、幅1.00m、焚口幅33cm、燃烧部奥行1.03m、左袖状残存部52cm、右袖状残存部44cmを測る。カマド焚口が半円状に住居床面より10cm高い。軸方向は、住居の主軸方向と一致する。掘り方は、焚口外側を10～20cm土坑状に掘り

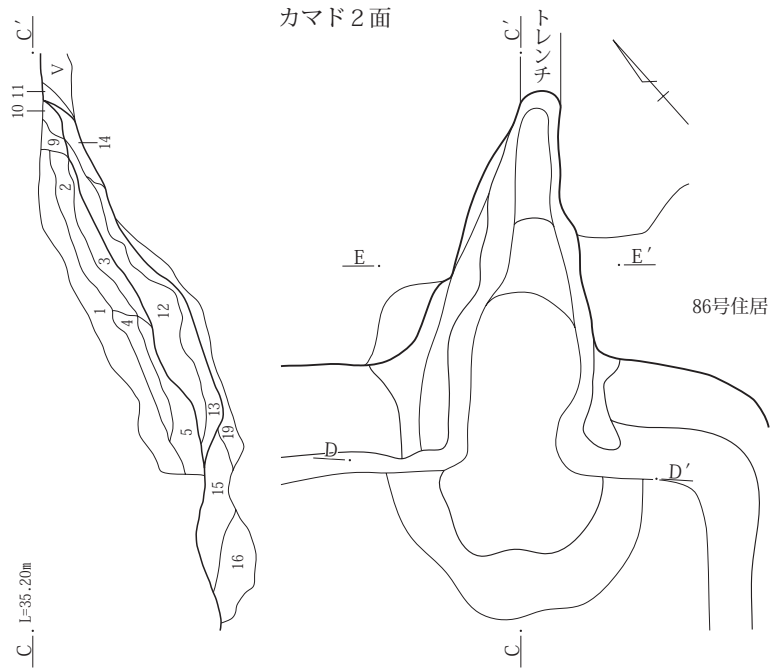




カマド1面

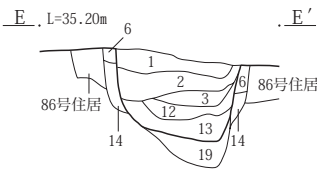
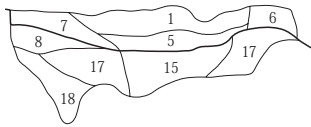


カマド2面



L=35.20m

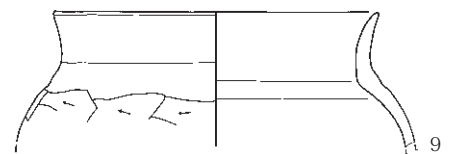
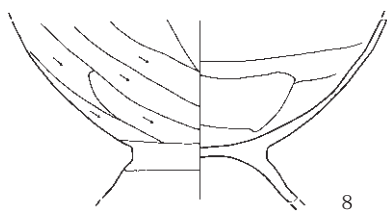
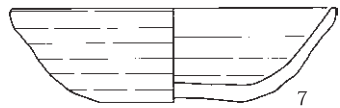
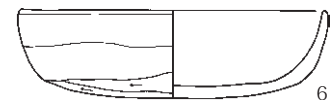
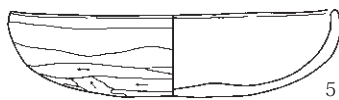
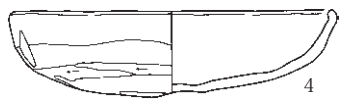
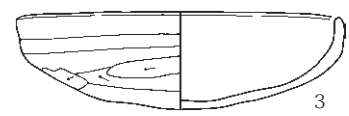
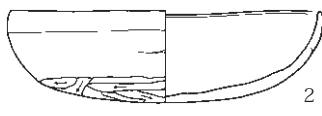
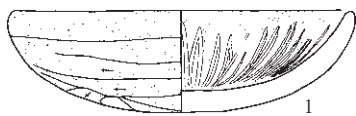
L=35.20m



0 1:30 1m

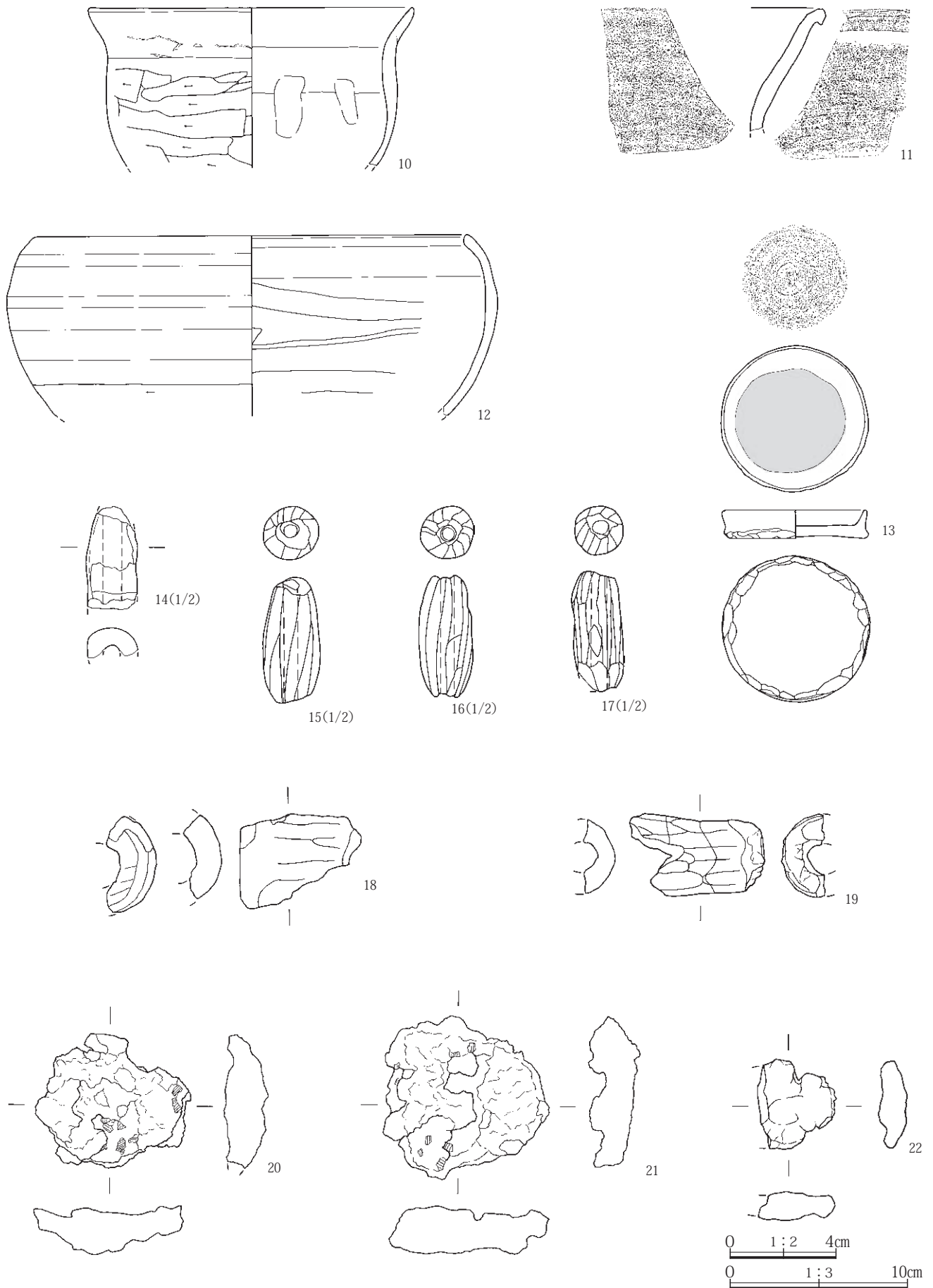
82号竪穴住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黒褐色土 焼土小塊少量、縮まりあり、粘質土
- 2 明褐色土 焼土粒・炭化物を含む、縮まり強、粘質土
- 3 にぶい褐色土 焼土小塊・粒多量、縮まりややあり、粘質土
- 4 褐色土 ローム小塊・粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 5 黒褐色土 焼土粒少量、炭化物多量、色味は暗い、縮まり弱
- 6 褐色土 ローム大塊多量、焼土粒少量、縮まり強
- 7 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物微量、縮まりややあり、粘質土
- 8 褐色土 ローム小塊多量、縮まり弱、粘質土
- 9 暗褐色土 粘質土塊多量、焼土粒含む、縮まりあり、粘性あり
- 10 にぶい黄褐色土 焼土粒多量、縮まりあり、粘性あり
- 11 灰黄褐色土 焼土粒多量、縮まりあり、粘性あり
- 12 にぶい赤褐色土 明赤褐色焼土粒・大塊多量、縮まりあり、粘質土
- 13 褐色土 焼土小塊微量、遺物を含む、縮まり弱
- 14 暗褐色土 ローム粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 15 灰黄褐色土 ローム小塊多量、焼土小塊微量、縮まりあり
- 16 にぶい黄褐色土 ローム塊主体、暗褐色土を含む、縮まりあり、粘質土
- 17 にぶい黄橙色土 粘質土、縮まり強
- 18 にぶい黄褐色土 ローム塊主体、灰黄褐色土少量、縮まり弱、粘質土
- 19 にぶい黄褐色土 ローム塊・焼土粒を含む、縮まりあり、粘性あり



0 1:3 10cm

第240図 3区82号竪穴住居カマドと出土遺物(1)



第241図 3区82号竪穴住居出土遺物(2)

## 2 竪穴状遺構

1区と3区で確認した竪穴状遺構のうち奈良・平安時代は1基のみである。

### 1区1号竪穴状遺構(第242図 PL.67・97)

**位置** X=130~134、Y=-166~170

**形状・規模** 形状は長方形である。規模は、長軸長2.20m、短軸長1.82m、壁高北壁19cm、南壁30cm、東壁26cm、西壁24cmを測る。床面積は3.96㎡である。

**主軸方向** N-25°-E

**重複** なし。

**埋没土** 黄褐色砂質土及びにぶい黄褐色土によって埋没する。埋没土にローム塊が多く含まれることから人為的な埋戻しの可能性がある。

**床面** 西壁側から東壁側にかけて緩やかに傾斜する。比高差7~8cmを測る。床面の北半部において硬化面が認められる。にぶい黄褐色土によって東壁際と南半部の床

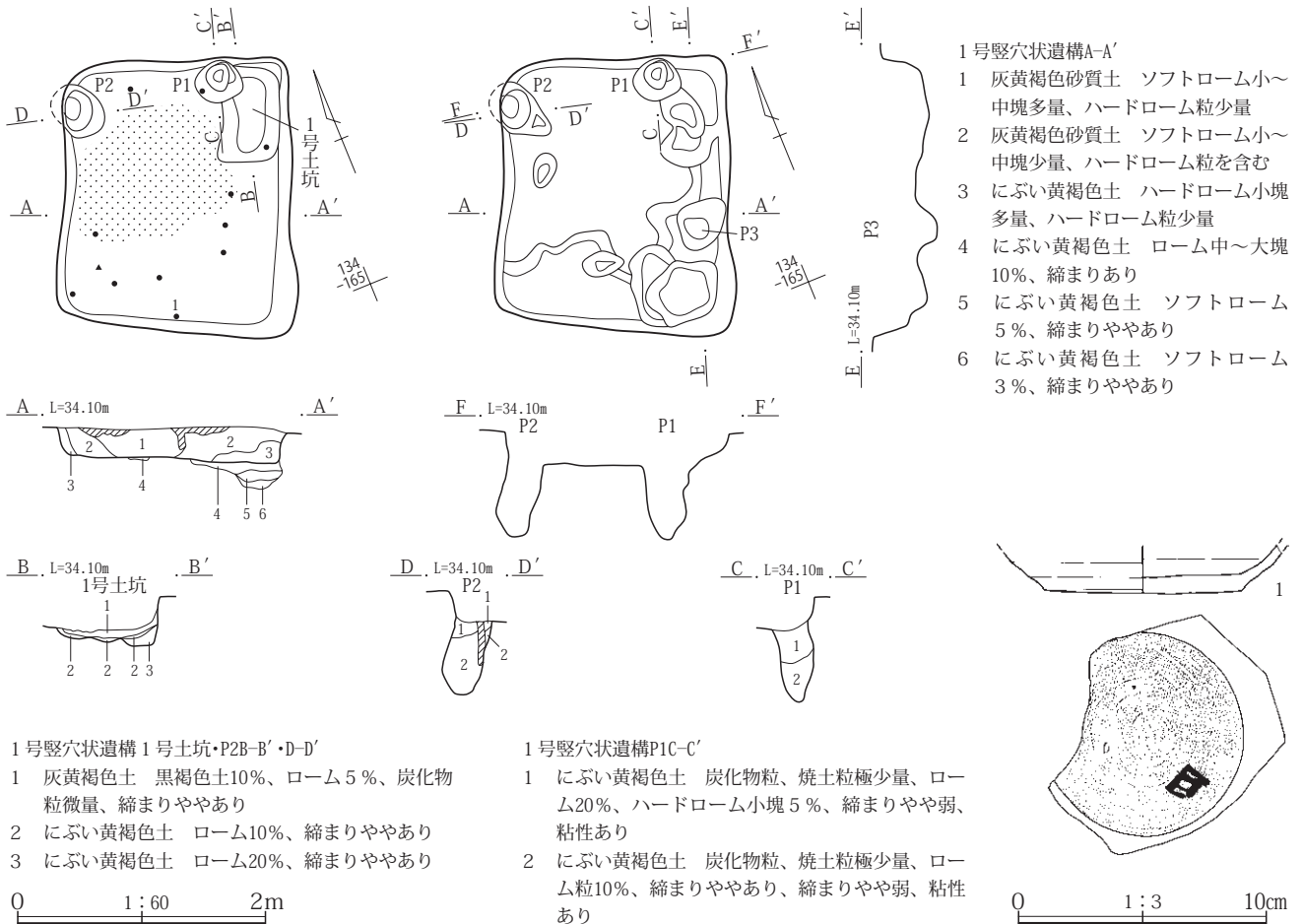
面を構築する。

**内部施設** 土坑1基、ピット3基を確認する。形状及び規模は、1号土坑(長方形、長径76cm、短径46cm、深さ20cm)、P1(不定形、長径39cm、短径34cm、深さ59cm)、P2(隅丸長方形、長径47cm、短径35cm、深さ62cm)であり、掘り方調査によってP3(不定形、長径48cm、短径37cm、深さ20cm)を確認した。ロームを含む灰黄褐色土やにぶい黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。床面精査及び掘り方調査を行ったがカマドや炉などは確認できなかった。

**掘り方** 東壁際から南壁際にかけて溝状や土坑状に深く掘り窪め、床面を整えている。

**遺物出土状態** 墨書した須恵器杯(第242図1)は、南壁際の床面上7cmからの出土である。炭化種実が出土し、自然科学分析の結果から、スモモ?(核)4個、イネ胚乳破片1個、コムギ胚乳完形1個、マメ科種子1個(第317図30)が検出された。

**所見** 出土遺物から時期は8世紀後半と考えられる。



第242図 1区1号竪穴状遺構と出土遺物

### 3 掘立柱建物

1区のピット群を再検討した結果、1区東部と中央部であわせて17棟の掘立柱建物を確認した。2区と3区では1区に比べてピットが少なく、掘立柱建物は確認できなかった。柱穴の埋没土から出土した遺物はあるが、数が少なく明確に時期を特定できなかった。奈良・平安時代に帰属させたが、古墳時代後期の掘立柱建物が含まれている可能性もある。

#### 1区1号掘立柱建物(第243・244図 PL.68)

位置 X=120~127、Y=-094~100

重複 なし。

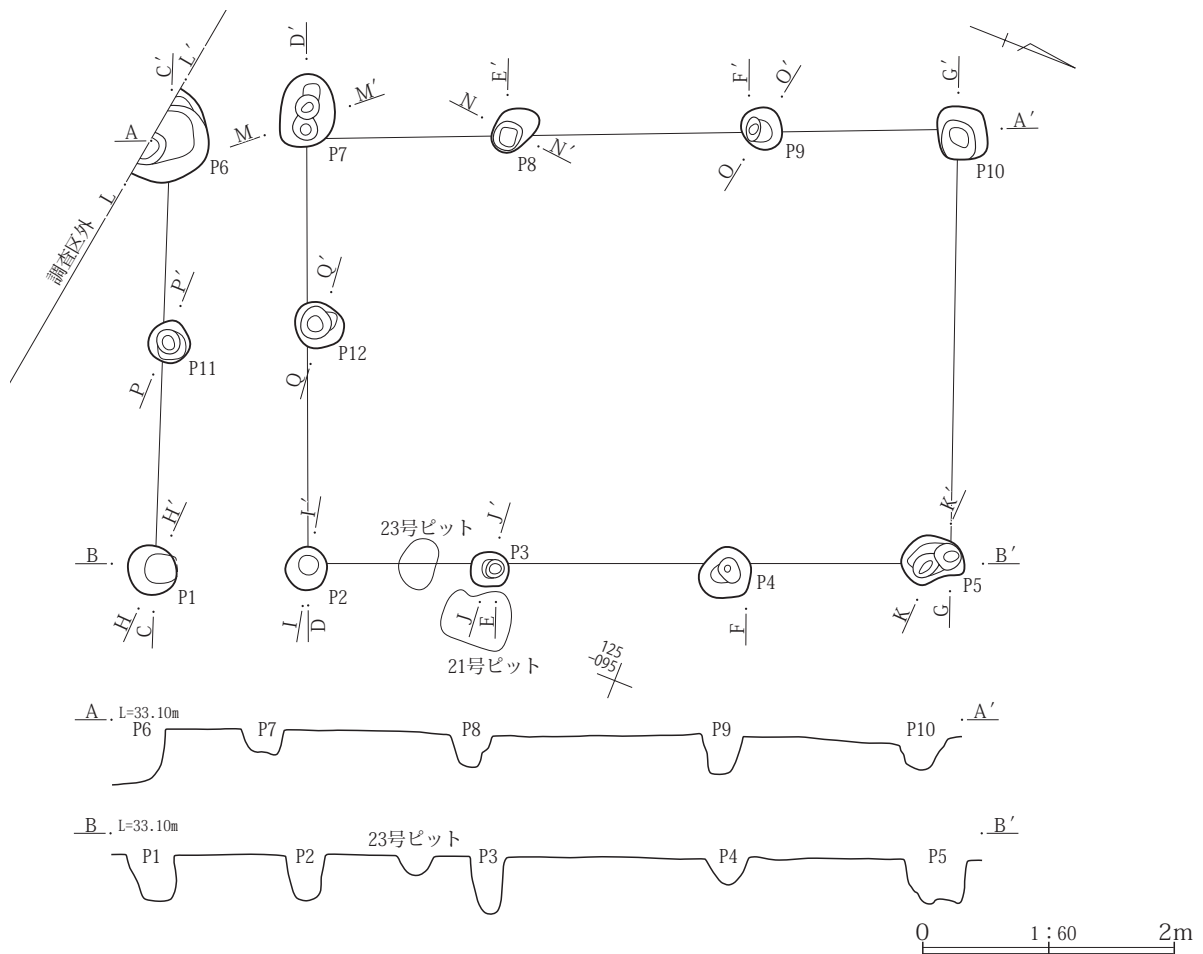
主軸方向 N-157°-E

規模・形態 南側が調査区外となるが、12基の柱穴が見つかった。規模は北辺3.42m、南辺3.35m、東辺6.31m、西辺6.27mである。北辺のP5~P10間の柱穴は確認できなかったが、東辺で4間分、南辺で2間分を確認した。北辺P5~P10とP2~P7の軸線は揃うが、南辺のP

1からP6は内側に傾くため歪みが生じる。東辺と西辺では、P1~P2間とP6~P7間が狭いことなどから南側が廂のような施設となり、北側が南北3間、東西2間の側柱建物と想定される。柱穴の計測値は、第4表のとおりであるが、上面形状は円形や楕円形で大きさにばらつきがある。P3・P11・P12に柱痕が認められ、土層断面から柱の直径は約15~20cmと考えられる。掘り方は、ロームを含むにぶい黄褐色土によって充填している。東辺の軸線上に位置する23号ピットは、P3に接近し、他の柱穴に比べて深さ30cmでやや浅いため柱穴とは認めなかったが、P2~23号ピット間が90cmとなるため出入り口の可能性もある。

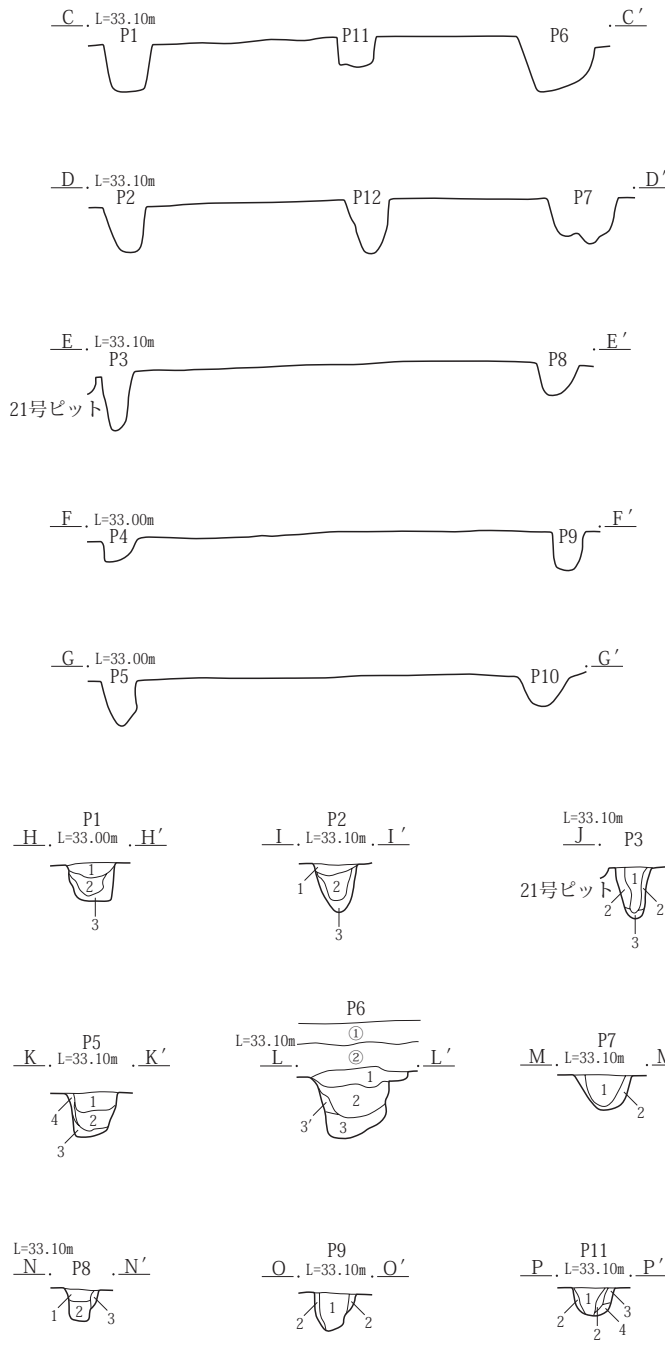
出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片が出土する。P1から大型製品3点、P5から小型製品2点、P6から小型製品2点、P8から小型製品1点と大型製品2点、P12から大型製品1点である。

所見 1区2・3・4号掘立柱建物と隣接するが、出土遺物だけでは時期を特定できない。



第243図 1区1号掘立柱建物(1)





1号掘立柱建物

P1H-H'

- 1 黒褐色土 ロームを含む、縮まりあり
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体、縮まりあり

P2I-I'

- 1 黒褐色土 ローム10%、縮まりあり
- 2 黒褐色土 ローム微量、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体、縮まりあり

P3J-J'

- 1 黒褐色土 ローム微量、縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ロームを含む、縮まりあり
- 3 黒褐色土 にぶい黄褐色土多量、縮まりあり

P5K-K'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 灰黄褐色土 ロームを含む、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体、縮まりあり
- 4 にぶい黄褐色土 ローム主体、色味はやや明るい縮まりあり

P6L-L'

- 1 黒褐色土 ローム3%、縮まりややあり
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 3 暗褐色土 ローム20%、縮まりややあり
- 3' 灰黄褐色土 ローム主体中心、縮まりややあり

P7M-M'

- 1 黒褐色土 ローム10%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム主体、縮まりややあり

P8N-N'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 ロームを含む、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム主体、2層土を含む、縮まりあり

P9O-O'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体、縮まりあり

P11P-P'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 ロームを含む、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりあり
- 4 褐色土 ローム主体、縮まりあり

P12Q-Q'

- 1 黒褐色土 縮まりややあり
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム多量、縮まりややあり

第244図 1区1号掘立柱建物(2)

第4表 1区1号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積21.88㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	41	39	37	不整形	P 1-P 2 1.20, P 1-P 11 1.80
P 2	34	33	36	円形	P 2-P 3 1.50, P 2-P 12 1.94
P 3	30	27	46	不整形	P 3-P 4 1.83, P 3-P 8 3.45
P 4	41	40	26	不整形	P 4-P 5 1.75, P 4-P 9 3.50
P 5	50	40	37	不整形	P 5-P 10 3.45
P 6	77	(45)	43	不明	P 6-P 7 1.10, P 6-P 11 .60
P 7	58	43	37	不整形	P 7-P 8 1.62, P 7-P 12 1.75
P 8	35	33	25	不整形	P 8-P 9 2.00
P 9	34	33	33	円形	P 9-P 10 1.64
P 10	32	29	27	隅丸長方形	
P 11	34	33	25	円形	
P 12	39	36	44	不整形	

1区2号掘立柱建物(第245図 PL.68)

位置 X=129~133、Y=-097~102

重複 なし。

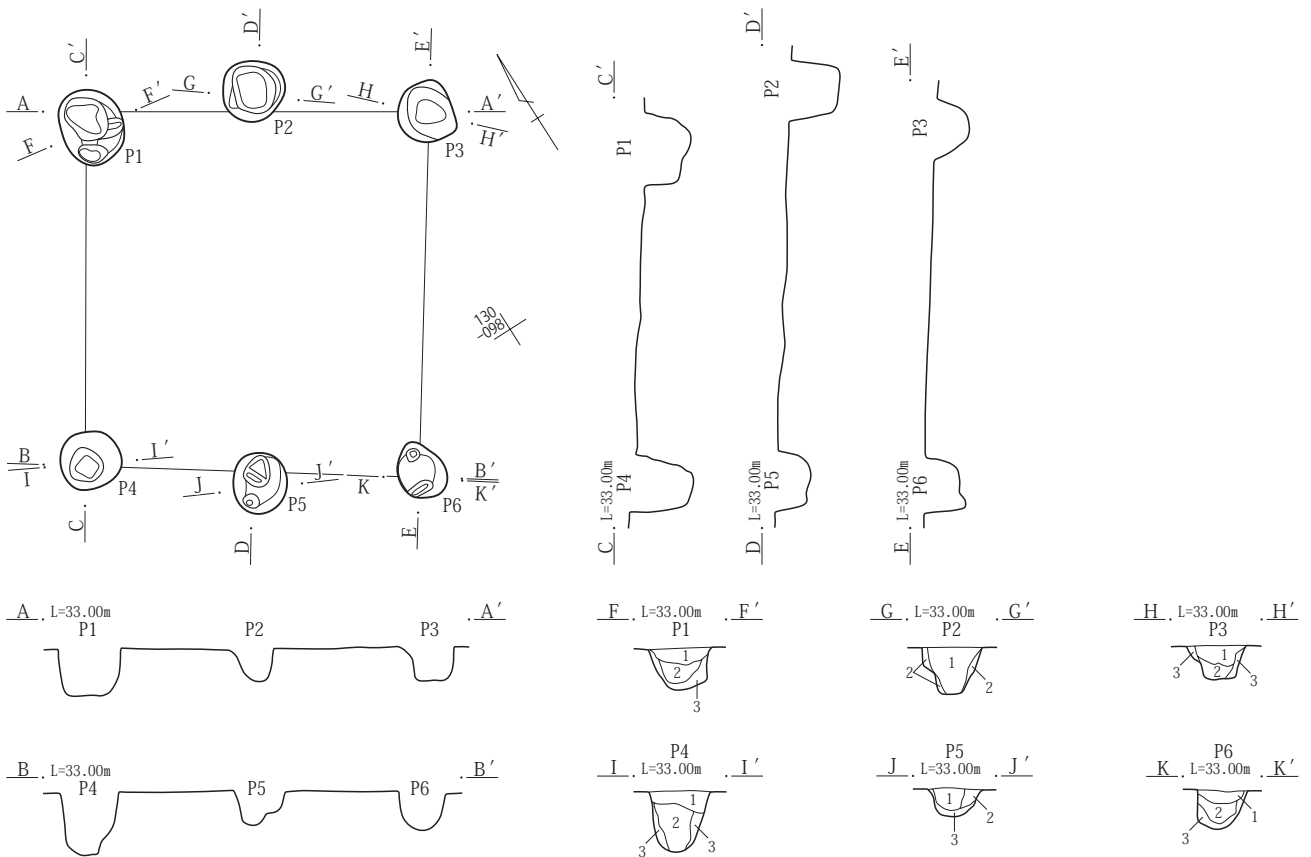
主軸方向 N-33°-E

規模・形態 南北1間、東西2間の側柱建物であり、6基の柱穴を確認した。柱穴の計測値は、第5表のとおりであるが、北辺の柱間はそれぞれ1.35m、南辺の柱間は1.40m+1.28mで、P5~P6間が狭い。東辺は2.86m、西辺は2.81mであり、東西辺より南北辺が長い。P

4には柱痕が認められ、土層断面から柱の直径は約20cmであったと考えられる。掘り方は、ロームを含む暗褐色土によって充填している。北辺と南辺の中央に位置するP2とP5は四隅の柱穴に比べて浅い。

出土遺物 なし。

所見 1区3号掘立柱建物が隣接し、軸方向が類似することから同時期に建てられたと考えられる。出土遺物がないので時期は特定できない。



2号掘立柱建物

P1F-F'

- 1 黒褐色土 ローム粒5%、縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 ローム20%、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色土 ローム粒50%、縮まりやや弱

P2G-G'

- 1 黒褐色土 ローム粒5%、縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

P3H-H'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 色味はやや明るい、縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

P4I-I'

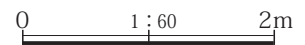
- 1 黒褐色土 ローム10%、縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

P5J-J'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

P6K-K'

- 1 暗褐色土 縮まりややあり
- 2 黒褐色土 縮まりややあり
- 3 灰黄褐色土 ローム30%、縮まりややあり



第245図 1区2号掘立柱建物

第5表 1区2号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積7.59㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	60	50	37	楕円形	P 1-P 2 1.35, P 1-P 4 2.81
P 2	59	58	21	円形	P 2-P 3 1.35, P 2-P 5 3.00
P 3	50	45	25	不整形	P 3-P 6 2.87
P 4	48	47	48	円形	P 4-P 5 1.40
P 5	48	43	31	楕円形	P 5-P 6 1.28
P 6	42	37	31	不整形	

1区3号掘立柱建物(第246図 PL.68)

位置 X=131~136、Y=-101~106

重複 なし。

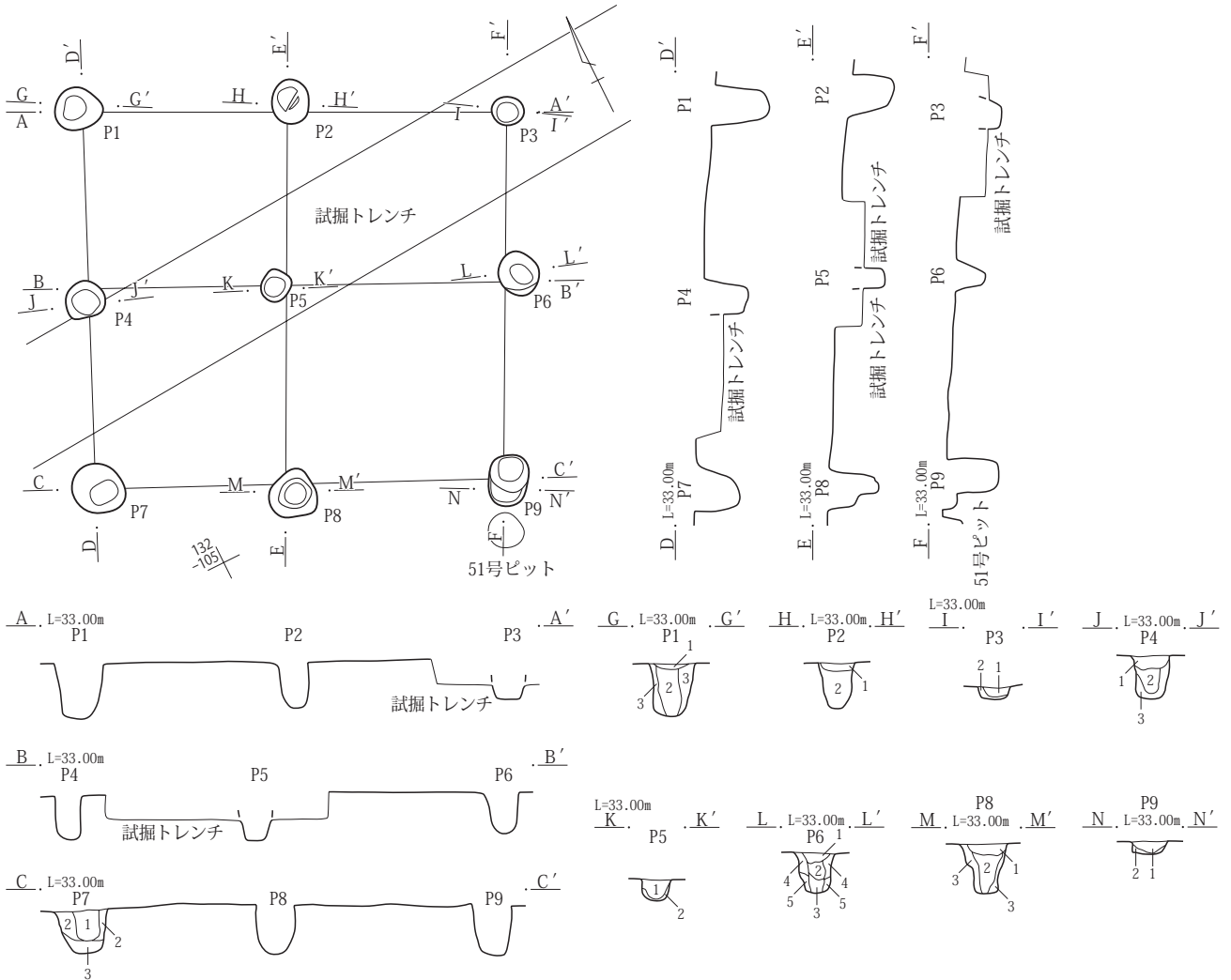
主軸方向 N-116°-E

規模・形態 9基の柱穴が見つかった。南北2間、東西2間の総柱建物である。柱穴の計測値は、第6表のとおりであるが、北辺は1.75m+1.85m、南辺は1.65m+1.80mであり、P7~P8間が狭く歪みがが生じている。外形は台形に近い。東辺が西辺より短く、北辺が南辺より

長い。柱痕はP1・P6・P8に認められ、土層断面から柱の直径は14~18cmと考えられる。掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土などで充填する。

出土遺物 東辺から約1.5m南東に位置する2号掘立柱建物は、軸方向が類似することから同時期に建てられた可能性がある。非掲載遺物であるが、P4の埋没土から土師器片小型製品1点と大型製品7点が出土する。

所見 出土遺物が少なく時期を特定できない。



3号掘立柱建物

P1G-C'

- 1 黒褐色土 ローム3%、縮まりあり
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム60%、縮まりあり

P2H-H'

- 1 黒褐色土 ローム5%
- 2 灰黄褐色土 ローム20%

P3I-I'

- 1 黒褐色土 ローム3%、縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

P4J-J'

- 1 黒褐色土 ローム粒5%、縮まり弱
- 2 黒褐色土 縮まり弱
- 3 暗褐色土 ローム20%、縮まり弱

P5K-K'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 暗褐色土 縮まりあり

P6L-L'

- 1 黒褐色土 ローム中~大塊・粒多量
- 2 黒褐色土 ローム粒多量、ローム小塊少量
- 3 黒褐色土 ローム小塊・粒多量
- 4 灰黄褐色土 ローム大塊・粒多量
- 5 灰黄褐色土 黒褐色土少量、ローム小塊・粒少量

P7C-C'

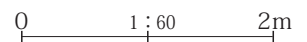
- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム40%、縮まりあり

P8M-M'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 ローム粒20%、縮まりやや弱

P9N-N'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 ローム粒10%、縮まりやや弱



第246図 1区3号掘立柱建物

第6表 1区3号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積11.13㎡	
	長径	短径	深さ		柱間の寸法(m)	
P 1	40	36	48	不整形	P 1-P 2 1.75, P 1-P 4 1.65	
P 2	38	30	39	楕円形	P 2-P 3 1.85, P 2-P 5 1.52	
P 3	27	25	21	円形	P 3-P 6 1.35	
P 4	33	31	18	円形	P 4-P 5 1.59, P 4-P 7 1.55	
P 5	25	24	16	隅丸方形	P 5-P 6 2.06, P 5-P 8 1.78	
P 6	37	34	35	不整形	P 6-P 9 1.71	
P 7	47	40	38	楕円形	P 7-P 8 1.65	
P 8	40	40	24	不整形	P 8-P 9 1.80	
P 9	43	32	46	楕円形		

1区4号掘立柱建物(第247・248図 PL.68)

位置 X=131~136、Y=-108~113

重複 なし。

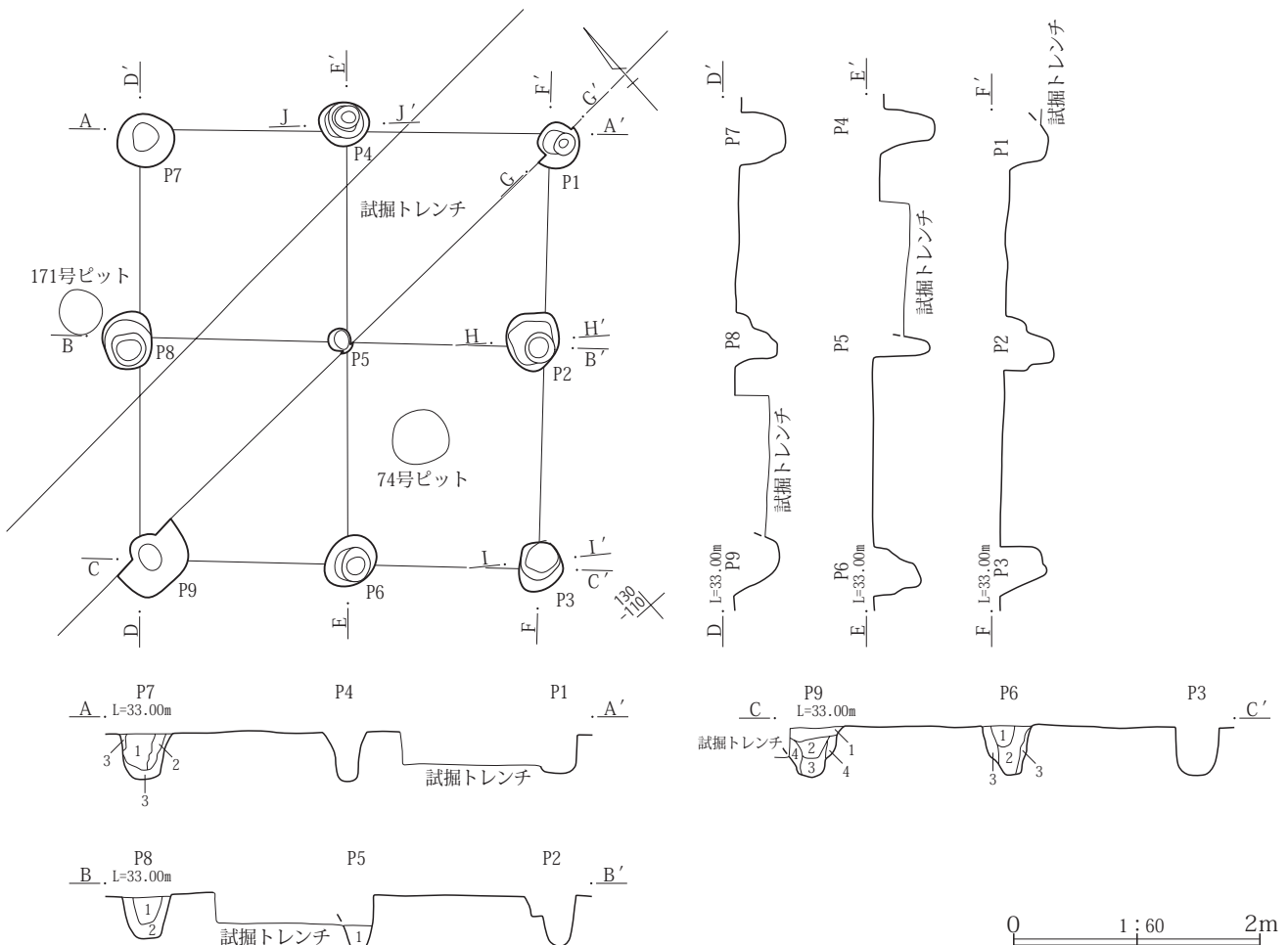
主軸方向 N-132°-E

規模・形態 9基の柱穴を確認した。南北2間、東西2間の縦柱建物である。北辺中央部のP8と東中央部のP4は、軸線からやや外れる。柱穴の計測値は、第7表のとおりであるが、北辺3.42m、南辺3.45m、東辺3.30m、西辺3.25mを測り、全体として外形はほぼ正方形である。西辺のP3~P6間よりP6~P9間が20cm長くなるた

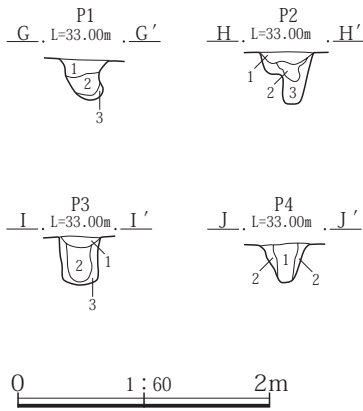
めやや歪みが生じている。土層断面からP3・P4・P6・P7・P9に柱痕が認められ、柱の直径は12~20cmであったと考えられ、掘り方は、黄褐色土と黒褐色土の混土によって人為的に埋戻す。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片と須恵器片が出土する。P2から土師器小型製品1と大型製品2、P4から土師器大型製品1、P7から土師器小型製品5点、須恵器大型製品1点である。

所見 周辺に主軸方向が一致する掘立柱建物はなかった。出土遺物が少なく時期を特定できない。



第247図 1区4号掘立柱建物(1)



4号掘立柱建物

P1G-G'

- 1 黒褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

P2H-H'

- 1 黒褐色土 ローム5%、縮まりあり
- 2 黒褐色土 縮まりやや弱
- 3 黒褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

P3I-I'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 縮まり弱
- 3 暗褐色土 ローム10%、縮まり弱

P4J-J'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 暗褐色土 ローム20%、縮まりあり

P5B-B'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱

P6C-C'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 縮まりやや弱

P7A-A'

- 1 黒褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 ローム10%、縮まりあり
- 3 暗褐色土 ローム20%、縮まりあり

P8B-B'

- 1 黒褐色土 縮まりやや弱
- 2 暗褐色土 ローム15%、縮まりやや弱

P9C-C'

- 1 暗褐色土 縮まりあり
- 2 黒褐色土 縮まりあり
- 3 暗褐色土 ローム10%、縮まりあり
- 4 灰黄褐色土 ローム20%、縮まりあり

第248図 1区4号掘立柱建物(2)

第7表 1区4号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積11.14㎡	
	長径	短径	深さ		柱間の寸法(m)	
P 1	(40)	(35)	33	不整形	P 1-P 2 1.65, P 1-P 4 1.75	
P 2	47	43	39	不整形	P 2-P 3 1.80, P 2-P 5 1.55	
P 3	40	35	35	不整形	P 3-P 6 1.51	
P 4	40	36	42	楕円形	P 4-P 5 1.75, P 4-P 7 1.68	
P 5	23	22	44	円形	P 5-P 6 1.81, P 5-P 8 1.75	
P 6	47	36	39	楕円形	P 6-P 9 1.71	
P 7	45	43	37	円形	P 7-P 8 1.68	
P 8	46	40	33	不整形	P 8-P 9 1.75	
P 9	(62)	(46)	38	不明		

1区5号掘立柱建物(第249・250図 PL.68)

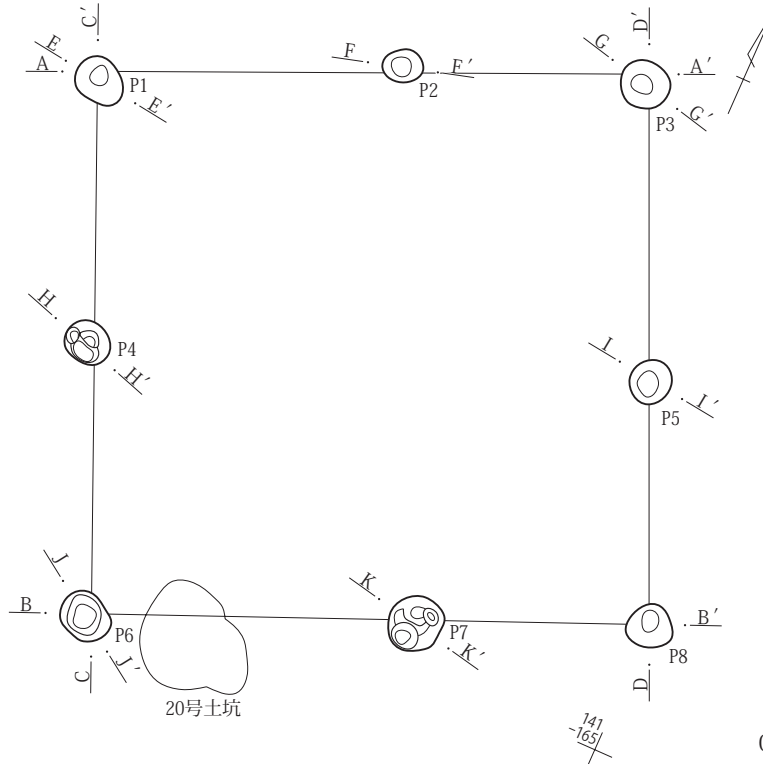
位置 X=131~136、Y=-108~113

重複 なし。

主軸方向 N-114°-W

規模・形態 南北2間、東西2間の側柱建物である。柱

穴は8基見つかったが、本体中央部に柱穴を確認できなかった。規模は北辺4.37m、南辺4.42m、東辺4.33m、西辺4.30mを測り、外形はほぼ正方形である。P 4は西辺のほぼ中央に位置するが、東辺のP 5は中央部よりやや南寄りに、北辺P 2と南辺P 7も中央部からやや東寄



第249図 1区5号掘立柱建物(1)

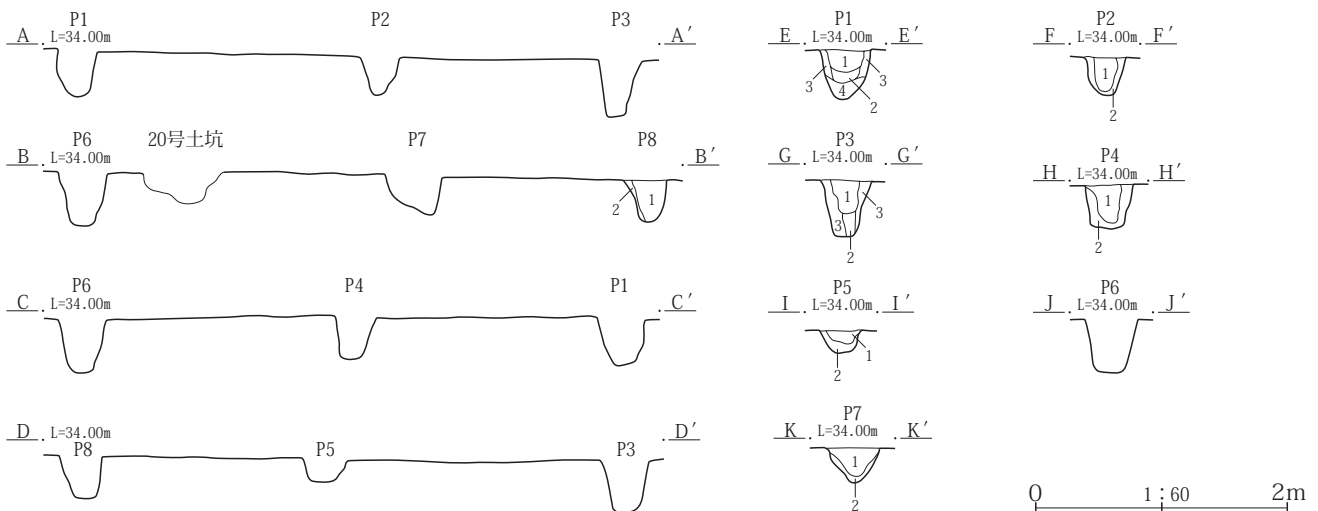


第3章 間之原遺跡の調査

りに位置している。柱穴の計測値は、第8表のとおりであるが、深さは30~45cmであり、土層断面から柱痕がP2・P3・P4に認められ、柱の直径は17~18cmと考えられる。掘り方は、黄褐色土と黒褐色土の混土によって人為的に埋戻す。

出土遺物 なし。

所見 主軸方向は1区15号掘立柱建物とほぼ一致するが、出土遺物がないので規模や形状だけでは時期を特定できない。



5号掘立柱建物

P1E-E'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム20%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりややあり
- 4 黒褐色土 ローム2%、縮まりややあり

P2F-F'

- 1 灰黄褐色土 縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 縮まりややあり

P3G-G'

- 1 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりややあり
- 2 黒褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりややあり

P4H-H'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりややあり

P5I-I'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりあり

P7K-K'

- 1 褐灰色土 縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム3%、縮まりややあり

P8B-B'

- 1 灰黄褐色土 縮まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりあり

第250図 1区5号掘立柱建物(2)

第8表 1区5号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積19.08㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	40	34	40	不整形	P 1-P 2 2.41, P 1-P 4 2.15
P 2	33	26	30	楕円形	P 2-P 3 1.95, P 2-P 7 4.35
P 3	39	38	45	円形	P 3-P 5 2.45
P 4	35	35	35	円形	P 4-P 5 4.42, P 4-P 6 2.18
P 5	35	33	44	円形	P 5-P 8 1.90
P 6	39	39	43	楕円形	P 6-P 7 2.47
P 7	46	42	37	不整形	P 7-P 8 1.95
P 8	37	35	34	不整形	

1区6号掘立柱建物(第251図 PL.68・69)

位置 X=120~123、Y=-175~180

重複 なし。

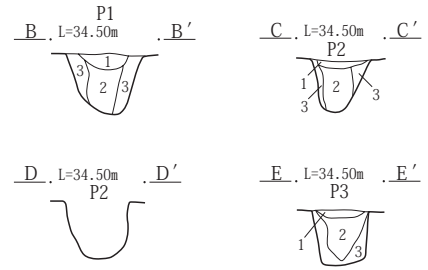
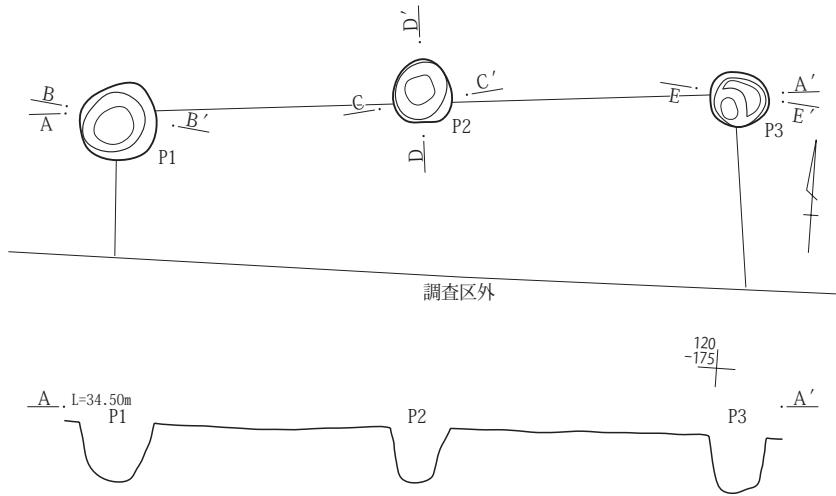
主軸方向 北辺の方位は、N-84°-E

規模・形態 1区調査区南境に位置するため、北辺のみ確認した。東西2間、南北1間以上と想定される。3基の柱穴によって東西4.90mを測る。北辺のP2はほぼ中央に位置する。土層断面に柱痕が認められ、掘り方は、

ロームを含む灰黄褐色砂質土により充填する。柱穴の計測値は、第9表のとおりである。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴P2とP3の埋戻土から土師器片が出土した。P2からは小型製品1点、P3からは大型製品1点であった。

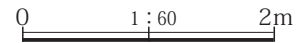
所見 北辺しか調査できなかったが、1区8号掘立柱建物南辺と方位が近似することから、近い時期に建てられた可能性がある。出土遺物がなく時期を特定できない。



6号掘立柱建物

P1・P2・P3B-B'・C-C'・E-E'

- 1 黒褐色砂質土 黒味強い、ローム2%、炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 2 黒褐色砂質土 ローム5%、縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 ローム20%、縮まりやや弱



第251図 1区6号掘立柱建物

第9表 1区6号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	65	61	49	不整形	P 1-P 2 2.40
P 2	50	46	45	不整形	P 2-P 3 2.47
P 3	47	44	41	不整形	

1区7号掘立柱建物(第252・253図 PL.69)

位置 X=127~132、Y=-176~181

重複 なし。

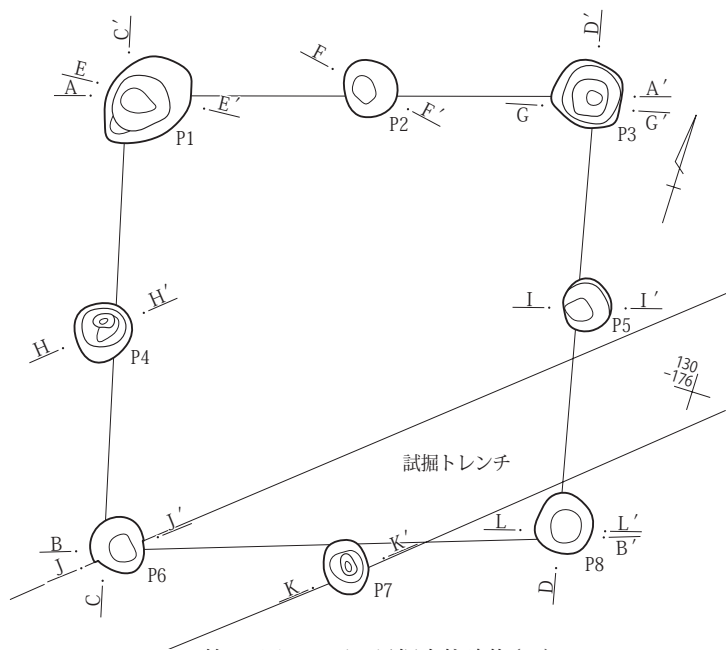
主軸方向 N-107°-W

規模・形態 南北2間、東西2間の側柱建物である。8基の柱穴を確認した。本体中央部に柱穴は確認できなかった。規模は北辺3.72m、南辺3.47m、東辺3.50m、西辺3.60mを測る。南辺のP7はP6~P8の軸線上に乗らず、P8が内側に傾くため歪みが生じている。柱穴の計測値は、第10表のとおりであるが、柱穴の深さは35

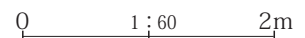
~50cmを測りやや不揃いである。土層断面からすべての柱穴で柱痕が認められ、柱の直径は約15~25cmと考えられる。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片が出土した。P1から土師器大型製品1点、P2から大型製品2点、P6から土師器大型製品1点、P7から土師器小型製品1点である。

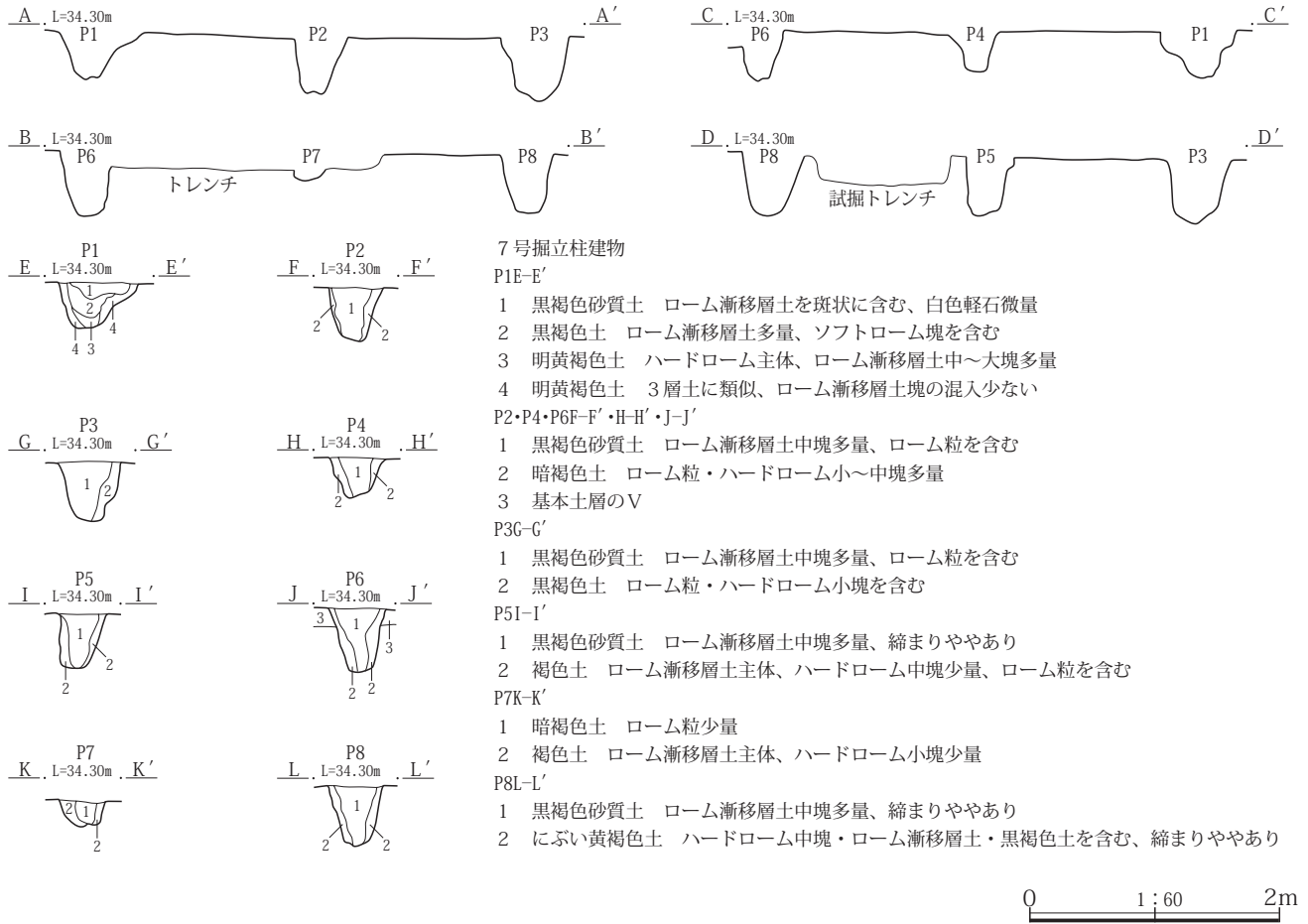
所見 主軸方向が1区5・15号掘立柱建物と近似することから近い時期と考えられる。出土遺物も少なく時期を特定できない。



第252図 1区7号掘立柱建物(1)



第3章 間之原遺跡の調査



7号掘立柱建物

P1E-E'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土を斑状に含む、白色軽石微量
- 2 黒褐色土 ローム漸移層土多量、ソフトローム塊を含む
- 3 明黄褐色土 ハードローム主体、ローム漸移層土中〜大塊多量
- 4 明黄褐色土 3層土に類似、ローム漸移層土塊の混入少ない

P2・P4・P6F-F'・H-H'・J-J'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土中塊多量、ローム粒を含む
- 2 暗褐色土 ローム粒・ハードローム小〜中塊多量
- 3 基本土層のV

P3G-G'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土中塊多量、ローム粒を含む
- 2 黒褐色土 ローム粒・ハードローム小塊を含む

P5I-I'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土中塊多量、締まりややあり
- 2 褐色土 ローム漸移層土主体、ハードローム中塊少量、ローム粒を含む

P7K-K'

- 1 暗褐色土 ローム粒少量

P8L-L'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土中塊多量、締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ハードローム中塊・ローム漸移層土・黒褐色土を含む、締まりややあり

第253図 1区7号掘立柱建物(2)

第10表 1区7号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積12.87㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	82	60	35	不整形	P 1-P 2 1.90, P 1-P 4 1.80
P 2	46	42	41	不整形	P 2-P 3 1.90
P 3	58	53	50	不整形	P 3-P 5 1.67
P 4	48	45	35	不整形	P 4-P 6 1.80
P 5	42	39	43	円形	P 5-P 8 1.75
P 6	(46)	(42)	50	不整形	P 6-P 7 1.80
P 7	(42)	(35)	41	楕円形	P 7-P 8 1.75
P 8	49	48	50	隅丸方形	

1区8号掘立柱建物(第254図 PL.69)

位置 X=127~131、Y=-185~189

重複 柱穴P 1が1区6号竪穴住居埋没土を掘り込む。

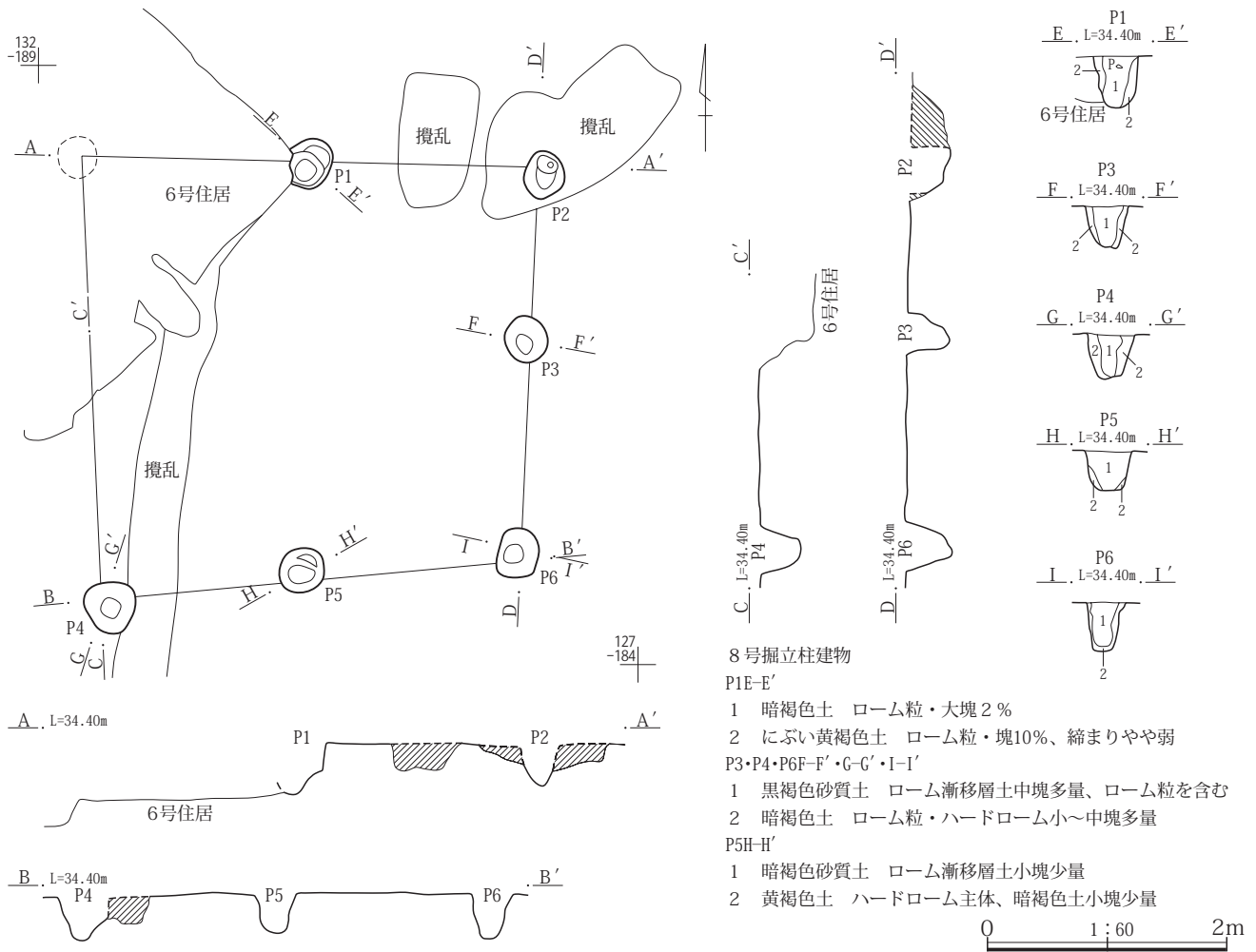
主軸方向 南辺の方位は、N-85°-E

規模・形態 1区6号竪穴住居との重複のため北西隅と西辺中央部の柱穴は確認できなかったが、6基の柱穴を見つけた。南北2間、東西2間の側柱建物であったと考えられる。東辺よりP 1~P 5間が長く、P 4はさらに南側に位置するため、外形は台形に近い。柱穴の計測値は、第11表のとおりであるが、柱穴の深さは32~45cmを

測り、土層断面の観察からP 1・P 3・P 4・P 6に直径13~20cmの柱痕が認められる。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片と須恵器片が出土する。P 1から土師器大型製品1点と須恵器小型製品1点、P 4から土師器大型製品1点、P 6から土師器大型製品4点である。

所見 遺物が少なく時期を特定できないが、南辺と1区6号掘立柱建物北辺の方位と近似することから近い時期の可能性はある。



第254図 1区8号掘立柱建物

第11表 1区8号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	44	38	45	不整形	P 1-P 2 2.00
P 2	40	34	32	不整形	P 2-P 3 1.45
P 3	40	36	34	楕円形	P 3-P 6 1.78
P 4	43	43	39	円形	P 4-P 5 1.60
P 5	41	37	33	円形	P 5-P 6 1.78
P 6	42	33	41	隅丸長方形	

1区9号掘立柱建物(第255図 PL.69)

位置 X=134~137、Y=-191~194

重複 なし。

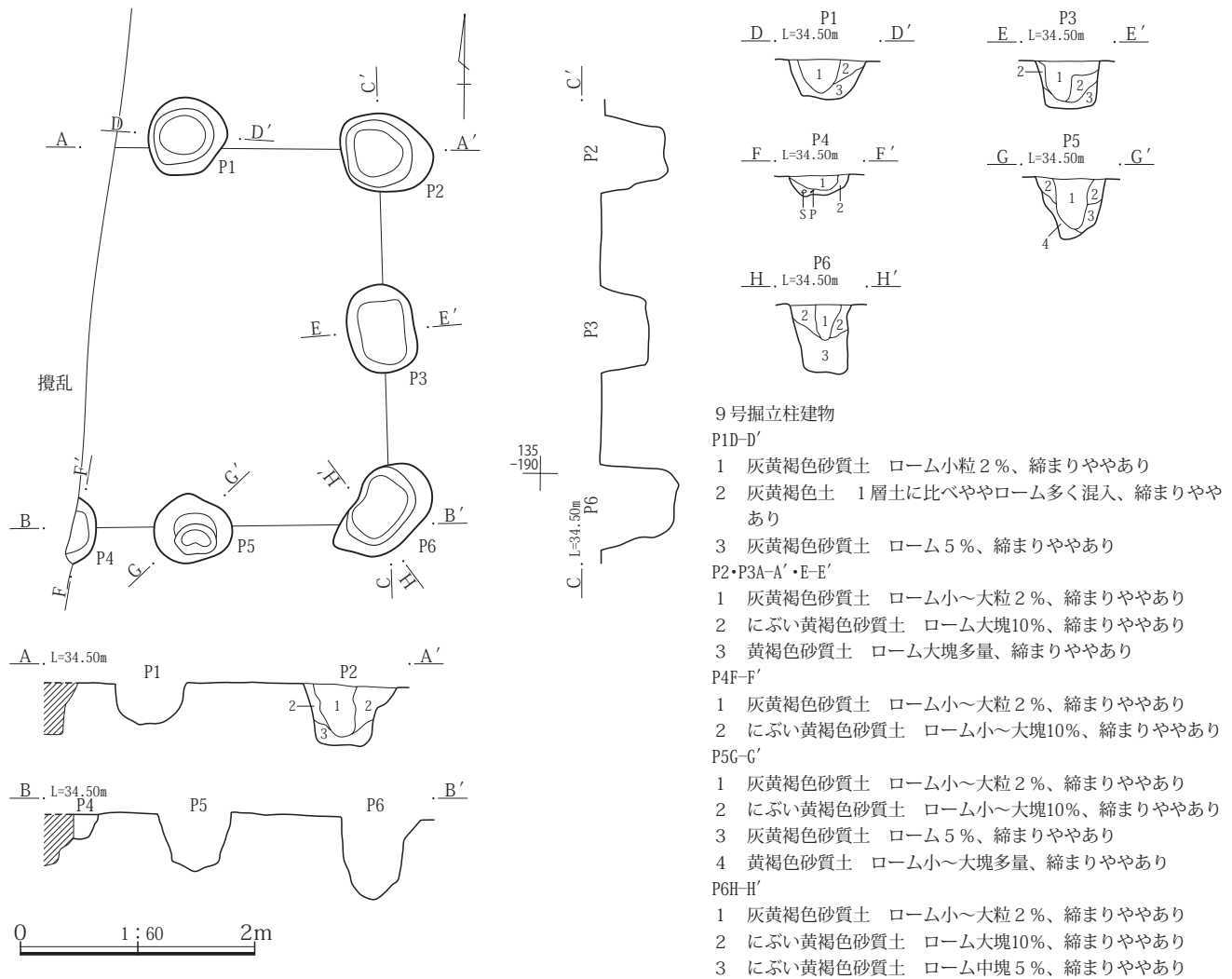
主軸方向 東辺の方位は、N-2°-W

規模・形態 攪乱によって壊されているため全体の規模や形態は不明であるが、南北2間、東西2間が2間以上の側柱建物と想定される。6基の柱穴を確認し計測値は、第12表のとおりであるが、上面形状は不整形、楕円形、隅丸長方形で、深さも19~62cmと不揃いである。東辺は1.55m+1.50m、P1~P2間は1.70m、P5~P6間は1.72mと南北に比べて東西のピット間が長い、P4~P5間が1.05mと他の柱穴間に比べ最も短い。柱痕は不明瞭

であるが、土層断面からP5に直径約15cmの柱痕が認められる。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片と須恵器片が出土した。P1から土師器大型製品1点、P2から土師器大型製品4点と須恵器大型製品1点、P3から土師器小型製品1点と大型製品6点、P4から土師器大型製品1点、P5から土師器大型製品4点、P6から土師器大型製品2点である。

所見 出土遺物だけでは時期を特定できないが、4.5m南側に位置する1区11・12号掘立柱建物の東辺と本建物の東辺の方位が近似することから、同時期となり規模も類似する可能性が高い。



第255図 1区9号掘立柱建物

第12表 1区9号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	68	66	34	不整形	P 1-P 2 1.70
P 2	83	67	52	不整形	P 2-P 3 1.55
P 3	76	57	40	隅丸長方形	P 3-P 6 1.50
P 4	(57)	(22)	19	不明	P 4-P 5 1.05
P 5	67	60	55	楕円形	P 5-P 6 1.72
P 6	97	60	62	不整形	

1区10号掘立柱建物(第256図 PL.69)

位置 X=139~144、Y=-179~185

重複 1区5号竪穴住居の床面から柱穴P1を確認し新旧は不明である。

主軸方向 N-15°-W

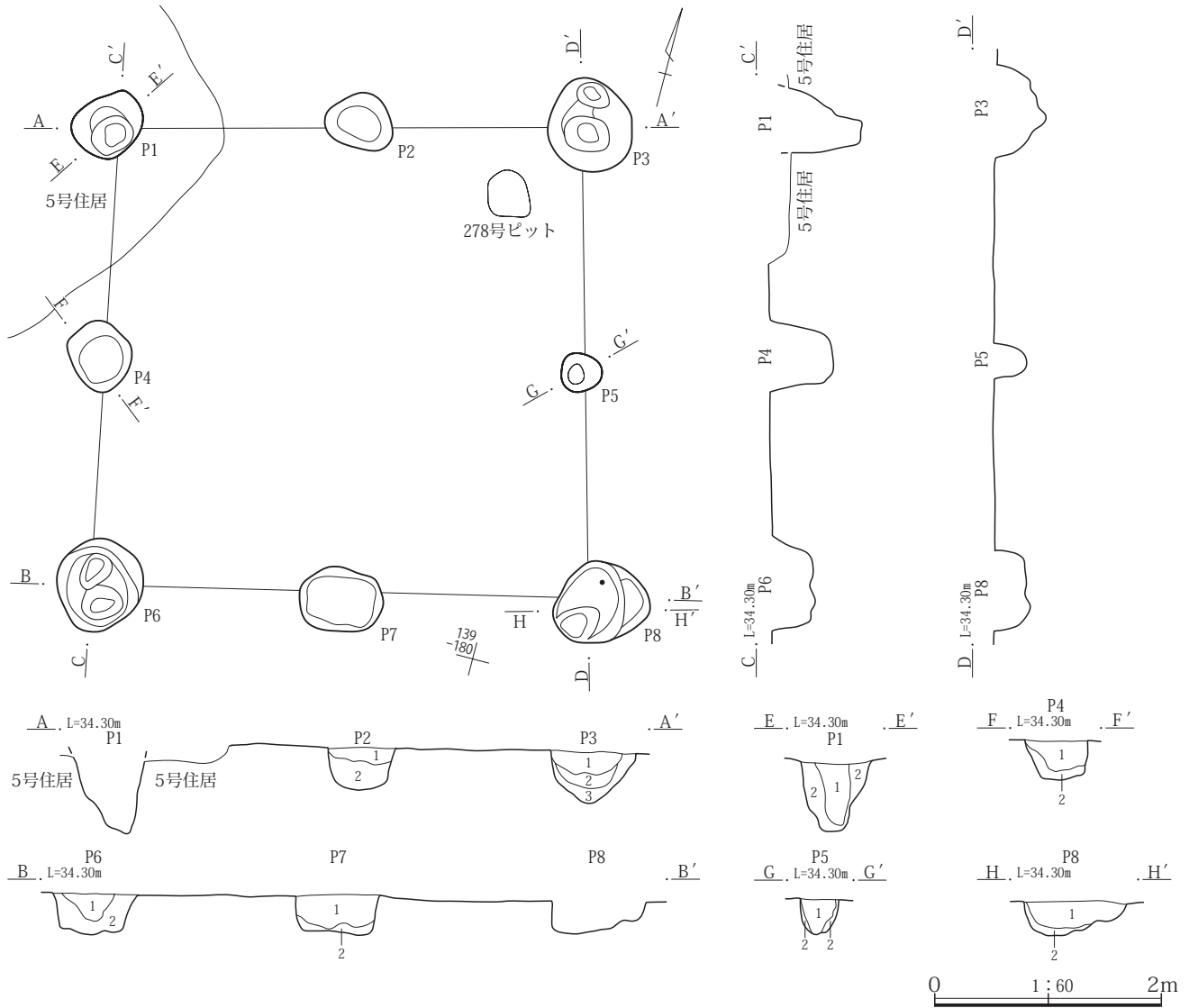
規模・形態 8基の柱穴を確認し、南北2間、東西2間の側柱建物である。規模は北辺4.08m、南辺4.38m、東辺4.15m、西辺4.10mであり、P1がやや内側となるため南辺に比べ北辺が短く歪みが生じ、形状は台形に近い。

柱穴及び柱間計測値は、第13表のとおりであるが、上面形状は不定形や楕円形、深さは30~64cmを測りそれぞれ不揃いである。土層断面から柱痕は不明瞭であるが、柱痕がP1に認められ、ロームを多量に含む人為的な埋戻しによって充填し、柱の直径は約20cmと考えられる。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片が出土する。P1から小型製品2点と大型製品1点、P8から小型製品1点と大型製品3点である。

所見 出土遺物が少なく時期を特定できない。





10号掘立柱建物

P1E-E'

- 1 暗褐色土 ローム粒・極小~小塊2%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりややあり

P2A-A'

- 1 暗褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 2 黒褐色土 ローム3%、縮まりややあり

P3A-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色土 ローム・塊主体60%、縮まりややあり

P4F-F'

- 1 黒褐色砂質土 ローム塊5%、焼土粒・炭化物粒微量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、粘性ややあり

P5G-G'

- 1 黒褐色土 ローム2%
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%

P6B-B'

- 1 黒褐色砂質土 ローム粒5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム60%、縮まりややあり、粘性ややあり

P7B-B'

- 1 灰黄褐色土 ローム20%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、縮まりややあり

P8H-H'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、縮まりあり
- 2 灰黄褐色土 ローム30%、縮まりあり

第256図 1区10号掘立柱建物

第13表 1区10号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積17.09㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	64	53	64	不整形	P 1-P 2 2.10, P 1-P 4 2.00
P 2	60	57	52	不整形	P 2-P 3 2.00, P 2-P 7 4.15
P 3	85	76	42	不整形	P 3-P 5 2.15
P 4	59	53	31	不整形	P 4-P 6 2.00, P 4-P 5 4.15
P 5	36	34	30	不整形	P 5-P 8 2.00
P 6	82	76	39	不整形	P 6-P 7 2.20
P 7	74	57	30	楕円形	P 7-P 8 1.98
P 8	(1.14)	72	32	不整形	

1区11号掘立柱建物(第257・258図 PL.69)

位置 X=126~130、Y=-193~199

重複 P5を1区11号竪穴住居貯蔵穴が掘り込む。P1・P3・P4・P6が1区12号掘立柱建物の柱穴P1・P2・P3・P6をそれぞれ掘り込む。

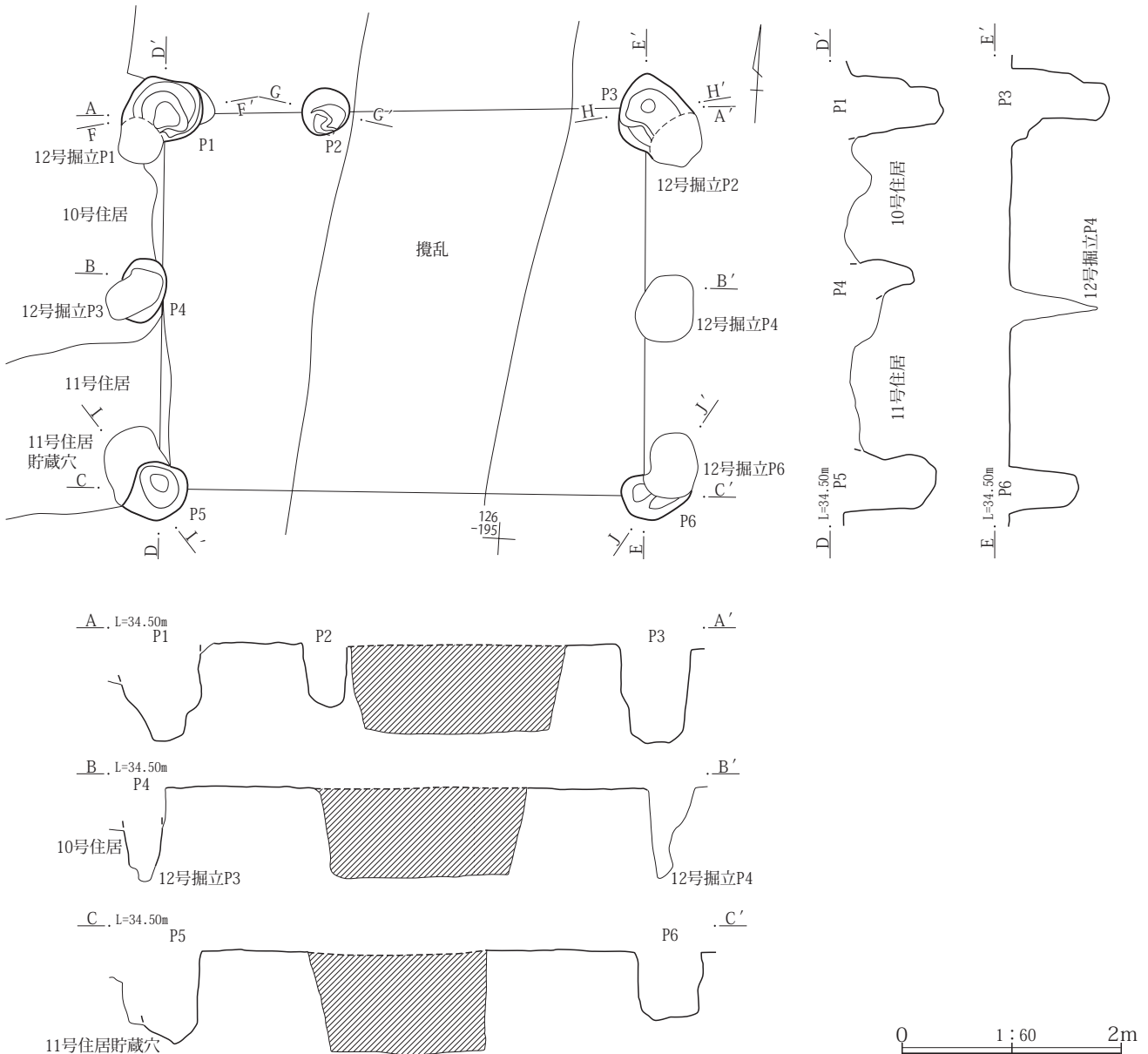
主軸方向 N-94°-W

規模・形態 6基の柱穴を確認した。柱穴及び柱間計測値は、第14表のとおりであるが、P1~P2間よりP2~P3間が長く、P5~P6間も長い。ため攪乱によって柱穴が壊されたと考えられる。東辺の軸線上からやや外れるが1区12号掘立柱建物P4と同位置に柱穴があり柱を立てていた可能性が高い。南北2間、東西2間あるいは

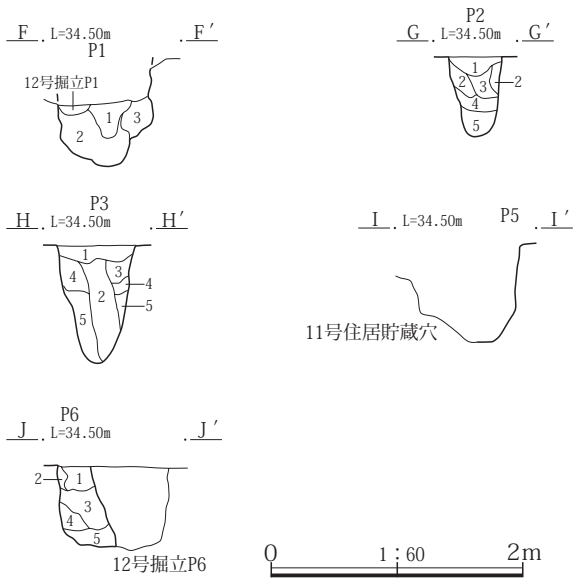
は2間以上の側柱建物と想定される。規模は北辺4.40m、南辺4.42m、東辺3.52m、西辺3.40mの東西棟である。柱穴の深さは60~90cmであり、土層断面からP3に直径約20cmの柱痕が認められ、掘り方は、ソフトロームを多量に含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土の混土によって人為的に埋戻す。

出土遺物 非掲載遺物であるが、P2から土師器大型製品の破片1点が出土した。

所見 重複する柱穴を1区12号掘立柱建物としたが、1区11号掘立柱建物を建て替えた可能性があり、ほぼ同時期と考えられる。出土遺物が少なく時期を特定できない。



第257図 1区11号掘立柱建物(1)



11号掘立柱建物

P1F-F'

- 1 黒褐色土 ローム漸移層土塊・ハードローム中塊少量
- 2 にぶい黄褐色土 ハードロームとローム漸移層土の混土
- 3 灰黄褐色土 ハードローム小〜大塊多量

P2G-G'

- 1 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊20%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム極小〜中塊40%、締まりやや弱
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム10%、締まりやや弱
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム20%、締まりやや弱
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、締まりやや弱

P3H-H'

- 1 灰黄褐色砂質土 炭化物粒微量、締まりやや弱
- 2 黒褐色砂質土 締まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小〜小塊10%、締まりやや弱
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小〜小塊5%、炭化物粒微量、締まりやや弱
- 5 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小〜中塊20%、締まりやや弱

P6J-J'

- 1 灰黄褐色砂質土 締まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ハードローム大塊40%、締まりややあり、壁崩落土
- 3 灰黄褐色砂質土 ソフトローム40%、締まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ソフトローム5%、締まりややあり
- 5 にぶい黄褐色砂質土 ハードローム極小〜大塊20%、締まりややあり

第258図 1区11号掘立柱建物(2)

第14表 1区11号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積15.85㎡	
	長径	短径	深さ		柱間の寸法(m)	
P 1	73	55	90	不整形	P 1-P 2	1.50, P 1-P 4
P 2	44	43	59	円形	P 2-P 3	2.90
P 3	91	60	89	不整形	P 3-P 6	3.50
P 4	58	40	60	不整形	P 4-P 5	1.30
P 5	56	(48)	85	不整形	P 5-P 6	4.40
P 6	(70)	46	66	不整形		

1区12号掘立柱建物(第259・260図 PL.69)

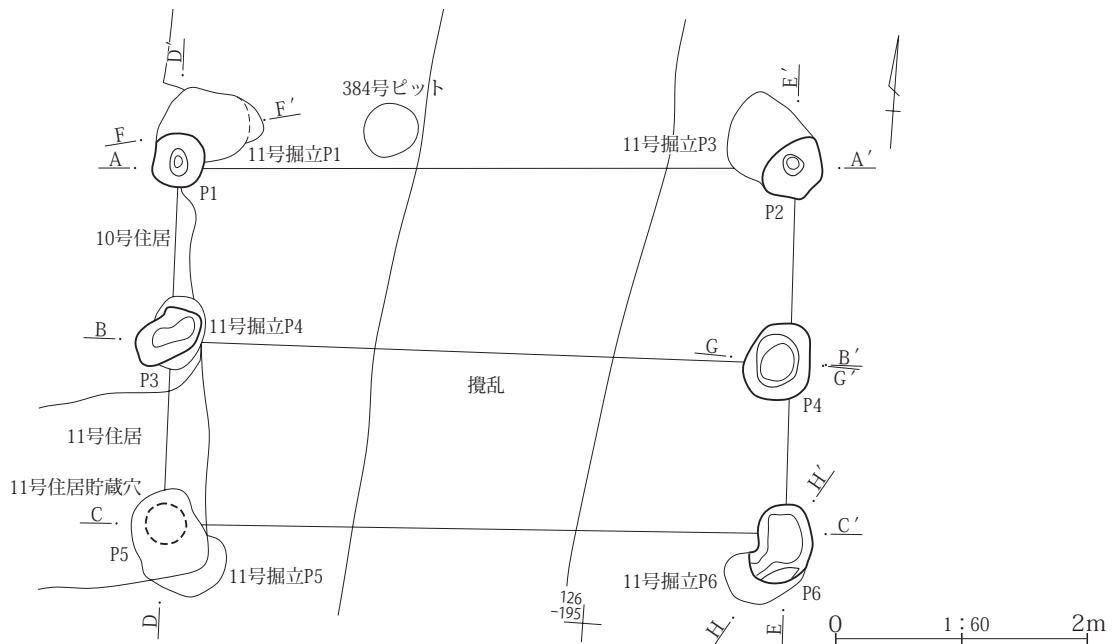
位置 X=126~130、Y=-193~199

重複 柱穴P1・P2・P3・P6が1区11号掘立柱建物柱穴P1・P4・P5・P6をそれぞれ掘り込む。柱

穴P1とP4が1区10号竪穴住居埋没土を掘り込み、P5が1区11号竪穴住居埋没土を掘り込む。

主軸方向 N-95°-W

規模・形態 攪乱のため北辺及び南辺中央部は不明であ



第259図 1区12号掘立柱建物(1)

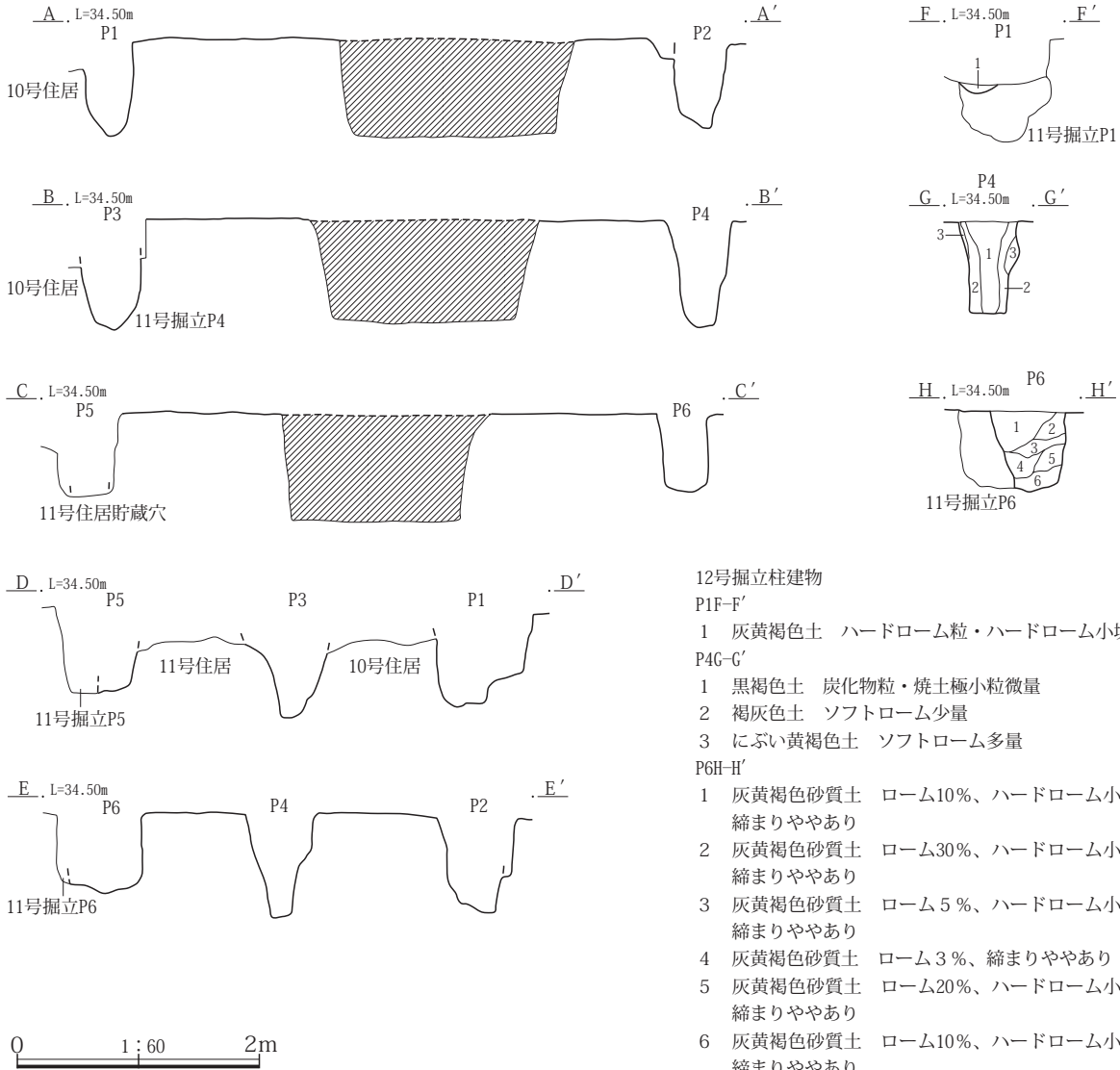
第3章 間之原遺跡の調査

るが、P 1～P 2間、P 5～P 6間が長い間柱穴があった可能性が高い。南北2間、東西1間が2間の側柱建物と想定される。規模は北辺4.40m、南辺4.42m、東辺3.52m、西辺3.35mの東西棟で、西辺に比べ東辺が長い。柱穴は6基確認し、柱穴及び柱間計測値は、第15表のとおりであるが、深さは52～93cmを測り、上面形状は不揃いである。土層断面からP 4に明瞭な柱痕が認められる。掘り方は、ソフトロームを含む褐灰色土とにぶい黄褐色

土による人為的な埋戻し土で充填し、柱の直径は約15cmと考えられる。

**出土遺物** 非掲載遺物であるが、P 5から土師器大型製品の破片8点が出土した。

**所見** 1区11号掘立柱建物とほぼ同位置にあることから、本建物が1区11号掘立柱建物の建て替えの可能性が高い。出土遺物が少なく時期を特定できないが、竪穴住居との重複関係から奈良・平安時代以降と考えられる。



12号掘立柱建物

P1F-F'

- 1 灰黄褐色土 ハードローム粒・ハードローム小塊少量

P4G-G'

- 1 黒褐色土 炭化物粒・焼土極小粒微量
- 2 褐灰色土 ソフトローム少量
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム多量

P6H-H'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム10%、ハードローム小塊(φ 1～10mm)、締まりややあり
- 2 灰黄褐色砂質土 ローム30%、ハードローム小塊(φ 1～10mm)、締まりややあり
- 3 灰黄褐色砂質土 ローム5%、ハードローム小塊(φ 1～10mm)、締まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ローム3%、締まりややあり
- 5 灰黄褐色砂質土 ローム20%、ハードローム小塊(φ 1～20mm)、締まりややあり
- 6 灰黄褐色砂質土 ローム10%、ハードローム小塊(φ 1～20mm)、締まりややあり

第260図 1区12号掘立柱建物(2)

第15表 1区12号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積14.15㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	43	40	74	不整形	P 1-P 2 4.90, P 1-P 3 1.30
P 2	90	55	93	不整形	P 2-P 4 1.80
P 3	57	30	52	不整形	P 3-P 4 4.80, P 3-P 5 1.50
P 4	60	52	85	不整形	P 4-P 6 1.40
P 5	(30)	(33)	69	不明	P 5-P 6 4.95
P 6	(60)	45	63	不整形	

1区13号掘立柱建物(第261・262図 PL.69)

位置 X=118~125、Y=-200~205

重複 柱穴P3が1区373号ピットを掘り込む。柱穴P1と1区15号竪穴住居との新旧関係は不明である。柱穴P6埋没土を1区2号溝が掘り込む。

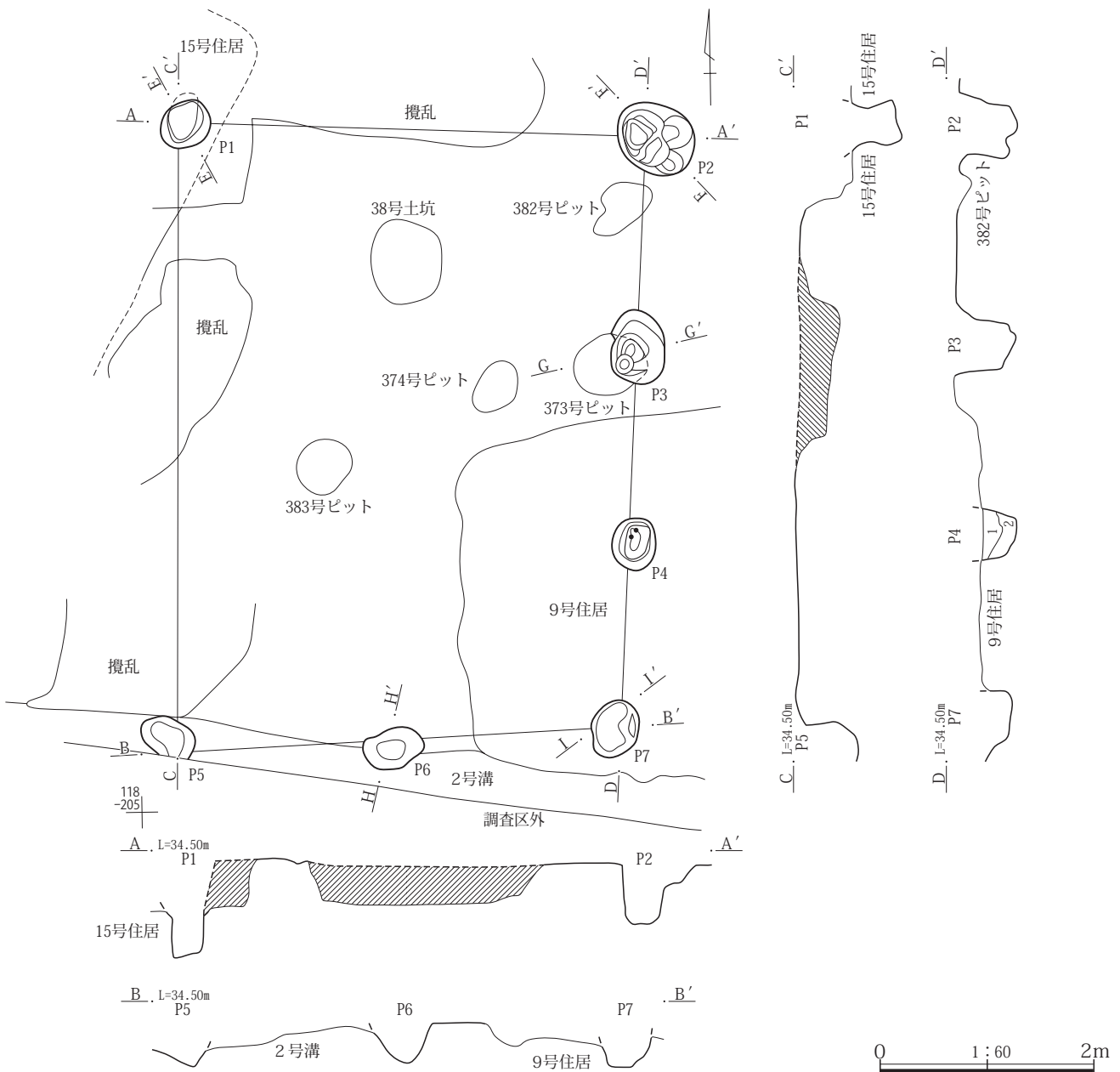
主軸方向 N-87°-W

規模・形態 7基の柱穴を見つけた。北辺P1~P2間と西辺P1~P5間は、攪乱によって柱穴を確認できなかったが、東辺3間、南辺2間であることから、南北3間、東西2間の側柱建物と想定される。柱穴及び柱間計測値は、第16表のとおりであるが、規模は北辺4.35m、南辺4.15m、東辺5.52m、西辺5.92mで、P7が内側に傾く

ため北辺と南辺の軸線が揃わず歪みが生じ外形は台形に近い。柱穴の深さは30~63cmを測り不揃いである。柱痕は不明瞭であるが、土層断面から柱穴P3の第1層が柱痕であり、柱の直径は約12cmと考えられる。掘り方は、ロームなどを含むにぶい黄褐色土砂質土によって人為的に埋戻す。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片が出土する。P2から小型製品13点と大型製品25点、P3から小型製品3点と大型製品4点、P4から小型製品4点と大型製品11である。

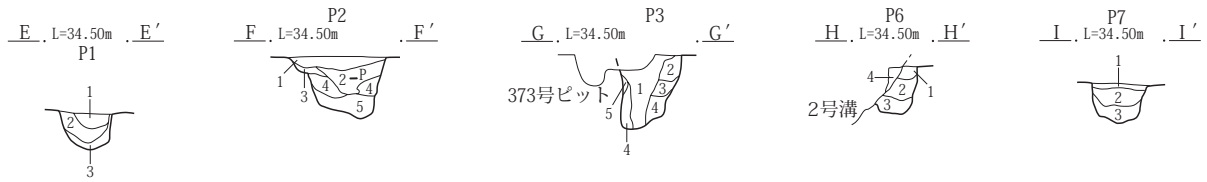
所見 出土遺物が少なく時期を特定できない。



第261図 1区13号掘立柱建物(1)



第3章 間之原遺跡の調査



13号掘立柱建物

P1E-E'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊 5%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ハードローム小～大塊20%、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、ハードローム小～中塊、縮まりやや弱

P2F-F'

- 1 黒褐色砂質土 ハードローム小塊 2%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 黒褐色砂質土 土器含む、ソフトローム 5%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体60%、縮まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ソフトローム20%、縮まりややあり
- 5 黒褐色砂質土 ソフトローム 5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり

P3G-G'

- 1 灰黄褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ローム30%、焼土粒微量、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ローム 5%、炭化物粒微量、縮まりややあり
- 4 にぶい黄褐色砂質土 ローム20%、縮まりややあり
- 5 にぶい黄褐色砂質土 ローム主体、縮まりややあり、壁崩落土

P4D-D'

- 1 灰黄褐色土 ローム 5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 褐灰色土 ローム小～大塊20%、縮まりややあり

P6H-H'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム塊 2%、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ローム塊10%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ローム塊 5%、縮まりややあり
- 4 2号溝12層

P7I-I'

- 1 灰黄褐色土 ローム塊10%、炭化物粒・焼土粒含む、縮まりあり
- 2 黒褐色土 ローム 5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

第262図 1区13号掘立柱建物(2)

第16表 1区13号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積17.18㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	50	44	41	不整形	P 1-P 2 4.37, P 1-P 5 5.75
P 2	79	65	57	楕円形	P 2-P 3 2.02
P 3	71	51	63	楕円形	P 3-P 4 1.75
P 4	49	41	35	楕円形	P 4-P 7 1.73
P 5	54	35	40	不整形	P 5-P 6 2.00
P 6	58	38	41	不整形	P 6-P 7 2.20
P 7	55	45	30	不整形	

1区14号掘立柱建物(第263・264図 PL.69)

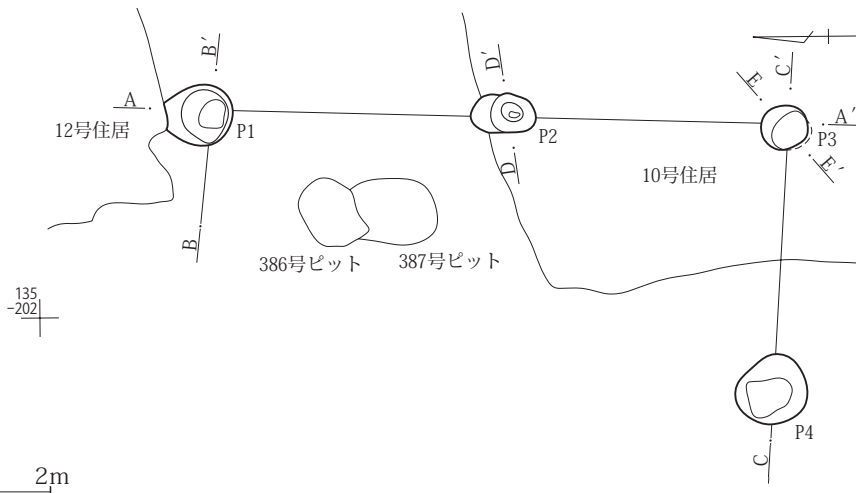
位置 X=129~134、Y=-200~203

重複 柱穴P 1が1区12号竪穴住居を掘り込み、柱穴P 2・P 3が1区10号竪穴住居を掘り込む。

主軸方向 東辺の方向は、N-2°-E

規模・形態 本建物の西側は攪乱のため全体の規模や形

態は不明である。南北2間、東西2間か2間以上と想定される。柱穴は4基見つかリ、規模は東辺4.75m、南辺2.15mである。柱穴及び柱間計測値は、第17表のとおりであるが、柱穴間はP 1~P 2が他の柱穴間に比べて長い。上面形状は不定形や円形となり、深さは32~69cmでやや不揃いである。土層断面から明瞭な柱痕は認められ



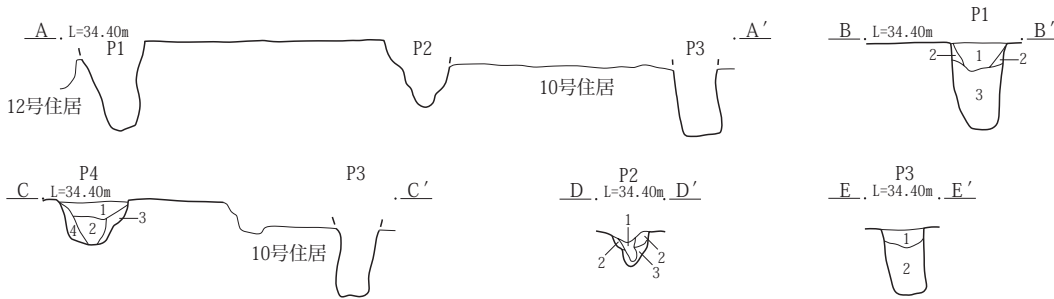
第263図 1区14号掘立柱建物(1)

なかった。埋没土は、ロームを多量に含む灰黄褐色土や黒褐色土によって人為的に埋戻す。

**出土遺物** 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師器片が出土した。P 3から大型製品3点、P 4から小型

製品9点と大型製品13点である。

**所見** 出土した遺物だけでは時期を特定できないが、1区10号竪穴住居との重複関係から9世紀第4四半期以降と考えられる。



14号掘立柱建物

P1B-B'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム・炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりややあり
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム5%、炭化物粒含む、縮まりややあり

P2D-D'

- 1 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小塊3%、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム極小塊5%、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、縮まりやや弱

P3E-E'

- 1 黒褐色土 ハードローム極小～小塊5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱

P4C-C'

- 1 黒褐色砂質土 炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小～小塊微量、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム中心土層、縮まりやや弱、壁崩落土
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム極小～小塊5%、焼土粒微量、縮まりやや弱

第264図 1区14号掘立柱建物(2)

第17表 1区14号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	(54)	49	69	不整形	P 1-P 2 2.38
P 2	52	31	32	不整形	P 2-P 3 2.15
P 3	37	35	54	円形	P 3-P 4 2.10
P 4	58	53	34	不整形	

1区15号掘立柱建物(第265・266図 PL.70)

**位置** X=141~146、Y=-196~202

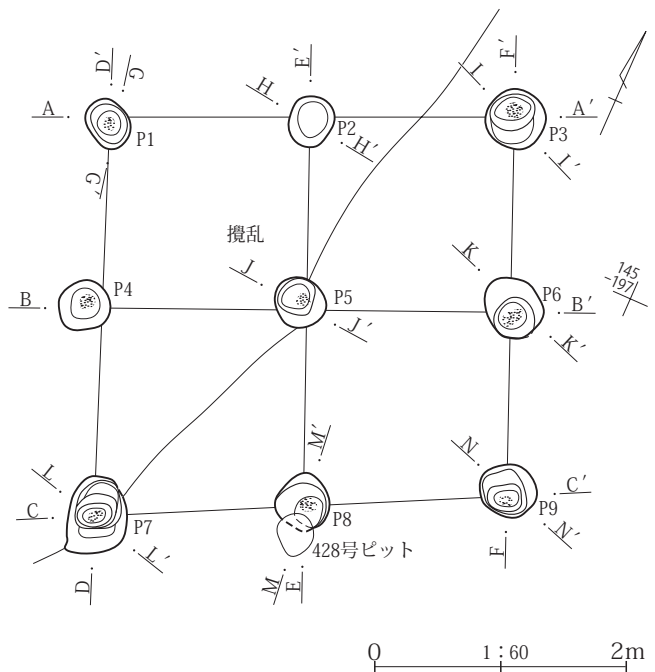
**重複** 1区428号ピットが柱穴P 8埋没土を掘り込む。

**主軸方向** N-114°-W

**規模・形態** 9基の柱穴を確認した。南北2間、東西2間の総柱建物である。柱穴及び柱間計測値は、第18表のとおりであるが、西辺のP 1が内側に傾くため、P 4が軸線上に乗らず、P 9も内側に傾くため全体的に歪みが生じている。土層断面からP 1・P 3・P 6・P 9に柱痕が認められ、柱の直径は16~22cmである。掘り方は、ロームを多く含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土など人為的な埋戻し土で充填する。P 2を除く8基の柱穴底面に粘土が確認できた。除湿のために敷設した可能性がある。

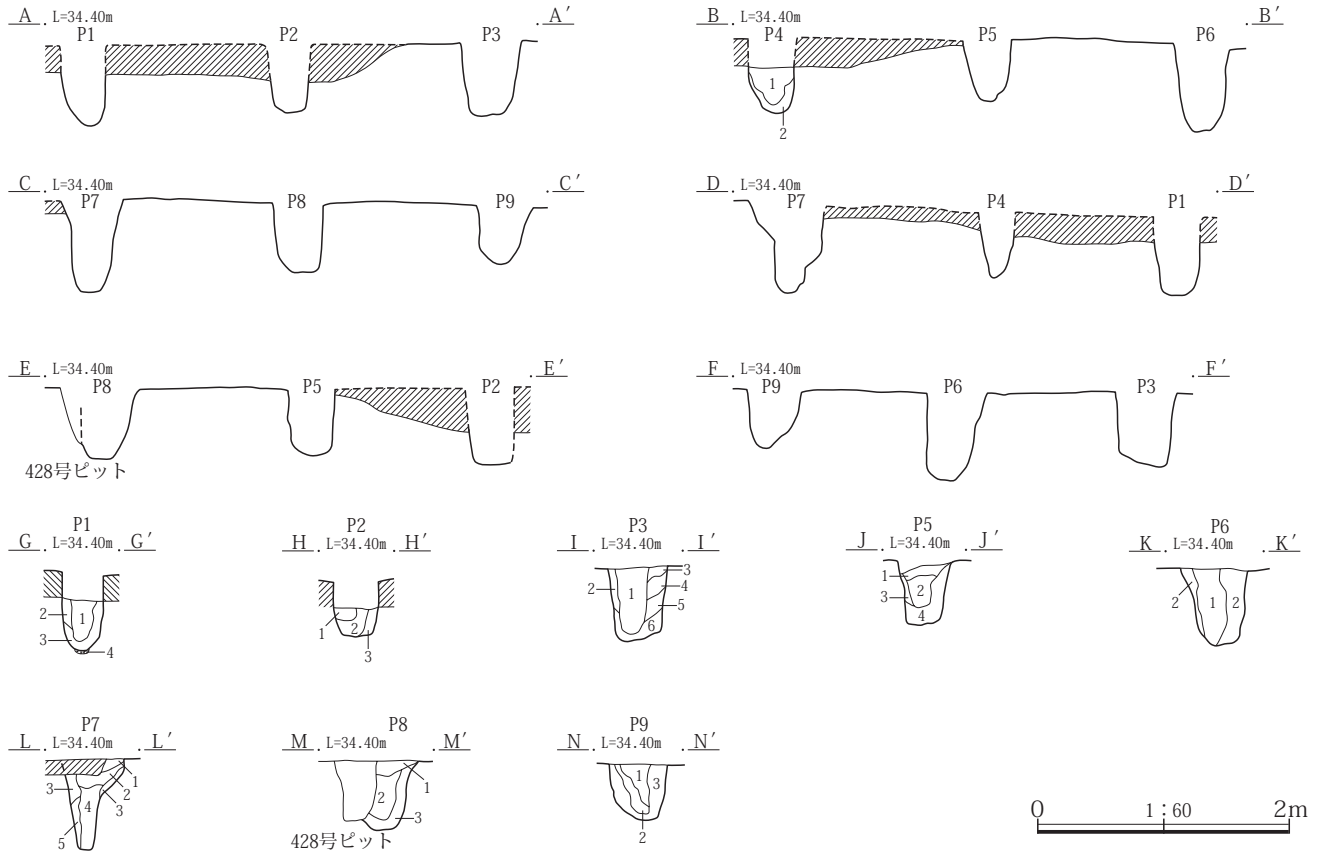
**出土遺物** 非掲載遺物であるが、P 2から土師器小型製品1点と大型製品1点が出土した。

**所見** 主軸方向は1区5号掘立柱建物とほぼ一致することから近い時期の可能性はある。出土遺物が少なく時期を特定できない。



第265図 1区15号掘立柱建物(1)

第3章 間之原遺跡の調査



第266図 1区15号掘立柱建物(2)

15号掘立柱建物

P1G-C'

- 1 黒褐色砂質土 ソフトローム5%、ハードローム小塊微量、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、ハードローム小塊5%、縮まりやや弱
- 3 灰黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム小塊5%、縮まりやや弱
- 4 暗灰黄色～灰黄褐色土 シルト質土、粘性ややあり、縮まりあり

P2H-H'

- 1 明黄褐色砂質土 ソフトローム中心、ハードローム小塊10%、縮まりやや弱
- 2 黒褐色砂質土 ソフトローム10%、ハードローム小塊5%、縮まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、ハードローム小塊10%、縮まりやや弱

P3I-I'

- 1 黒褐色砂質土 ソフト・ハードローム小～大塊5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、縮まりややあり
- 3 灰黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム小～大塊5%、炭化物粒微量、縮まりややあり
- 4 灰黄褐色砂質土 ハードローム小塊5%、縮まりややあり
- 5 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム小塊5%、縮まりややあり
- 6 灰黄褐色砂質土 ソフトローム10%、縮まりややあり

P4B-B'

- 1 褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム小～大塊5%、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム30%、縮まりやや弱

P5J-J'

- 1 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム10%、ハードローム小塊5%、焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム20%、ハードローム中塊5%、縮まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、縮まりややあり、壁崩落土
- 4 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム主体、縮まりややあり

P6K-K'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、ハードローム小～中塊・炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム小塊3%、縮まりややあり、粘性少ない

P7L-L'

- 1 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊5%、炭化物粒・焼土粒・灰色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性弱
- 2 黒褐色土 ソフトローム5%、ハードローム小塊、炭化物粒・焼土粒・灰色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性弱
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性弱
- 4 灰黄褐色土 ソフトローム5%、縮まりやや弱、粘性弱
- 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりやや弱、粘性弱

P8M-M'

- 1 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム小～中塊10%、炭化物粒・焼土粒・灰色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性あり
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりややあり、粘性あり
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム小～中塊10%、縮まりややあり、粘性あり

P9N-N'

- 1 黒褐色土 ソフトローム5%、ハードローム小塊、炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小～中塊10%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム極小～中塊10%、縮まりややあり、粘性少ない

第18表 1区15号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)( )は現存値			形状	面積9.89㎡	
	長径	短径	深さ		柱間の寸法(m)	
P 1	40	32	41	楕円形	P 1-P 2 1.58, P 1-P 4 1.50	
P 2	40	35	25	楕円形	P 2-P 3 1.63, P 2-P 5 1.53	
P 3	49	48	60	円形	P 3-P 6 1.55	
P 4	42	40	34	不整形	P 4-P 5 .75, P 4-P 7 1.65	
P 5	43	40	53	不整形	P 5-P 6 1.60, P 5-P 8 1.55	
P 6	51	43	70	不整形	P 6-P 9 1.45	
P 7	62	47	72	不整形	P 7-P 8 1.65	
P 8	(47)	43	55	不整形	P 8-P 9 1.62	
P 9	45	42	46	不整形		

1区16号掘立柱建物(第267・268図 PL.70・97)

位置 X=150~156、Y=-224~230

重複 柱穴P 7とP 8が1区58号竪穴住居と重複し、P 7とP 8が1区58号竪穴住居埋没土を掘り込む。

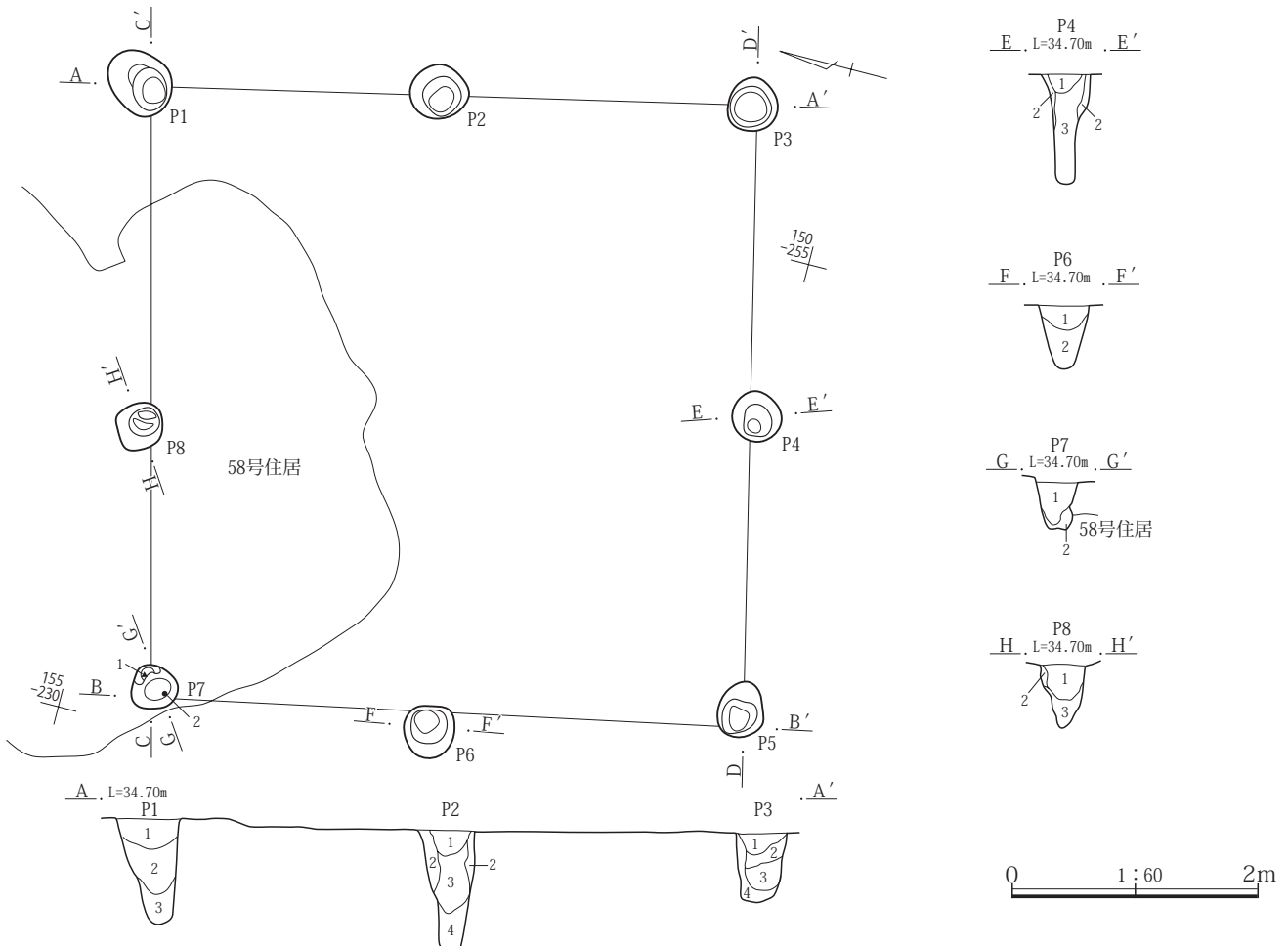
主軸方向 N-77°-E

規模・形態 南北2間、東西2間の側柱建物である。規模は北辺4.90m、南辺5.00m、東辺4.89m、西辺4.80mであり、外形は正方形に近い。柱穴及び柱間計測値は、第19表のとおりであるが、柱穴を8基確認し、本建物中央部に柱穴を確認できなかった。西辺中央部のP 6は、P 5~P 7の軸線上に揃わず外側にわずかに外れてい

る。柱穴の深さは14~97cmと不揃いであり、すべての柱穴に明瞭な柱痕は認められなかった。

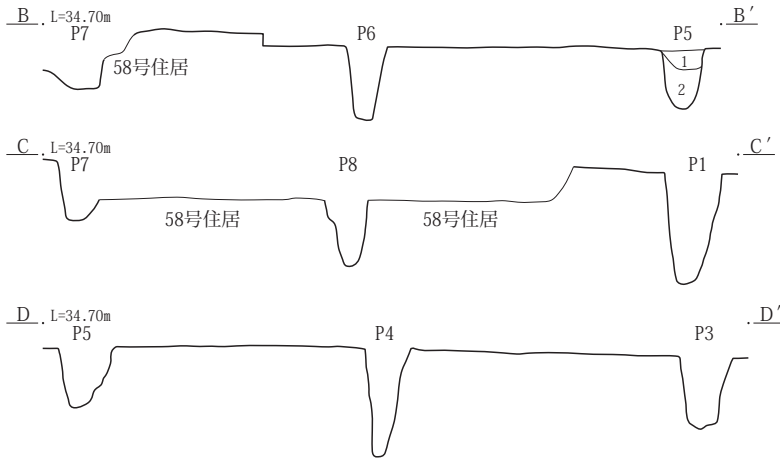
出土遺物 土師器杯(第268図1)は柱穴P 7底面上13cmから、石製紡輪(同図2)は柱穴P 7底面上53cmから出土する。紡輪には天長七年(西暦830年)正月三日の紀年銘などが刻書されていた。刻書紡輪については第6章第4節を参照されたい。

所見 出土遺物が少なく時期を特定できないが、竪穴住居との重複関係から平安時代と考えられる。



第267図 1区16号掘立柱建物(1)

第3章 間之原遺跡の調査



16号掘立柱建物

P1A-A'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりややあり、粘性やや少ない
- 2 黒褐色土 ソフトローム少量、縮まりややあり、粘性やや少ない
- 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりややあり、粘性やや少ない

P2A-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・焼土小粒・炭化物粒・灰白色軽石少量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりややあり、粘性少ない、壁崩落土
- 3 黒褐色土 縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、縮まりややあり、粘性少ない

P3A-A'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、焼土粒・炭化物中粒少量・灰白色軽石微細粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム極小～大塊5%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム10%、縮まりややあり、粘性少ない
- 4 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりややあり、粘性少ない

P4E-E'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム40%、縮まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム10%、縮まりややあり、粘性少ない

P5B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、ハードローム極小～中塊5%、焼土小粒少量、炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、粘性ややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム30%、ハードローム極小～大塊5%、粘性ややあり

P6F-F'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム10%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ソフトローム5%、縮まりややあり、粘性少ない

P7G-G'

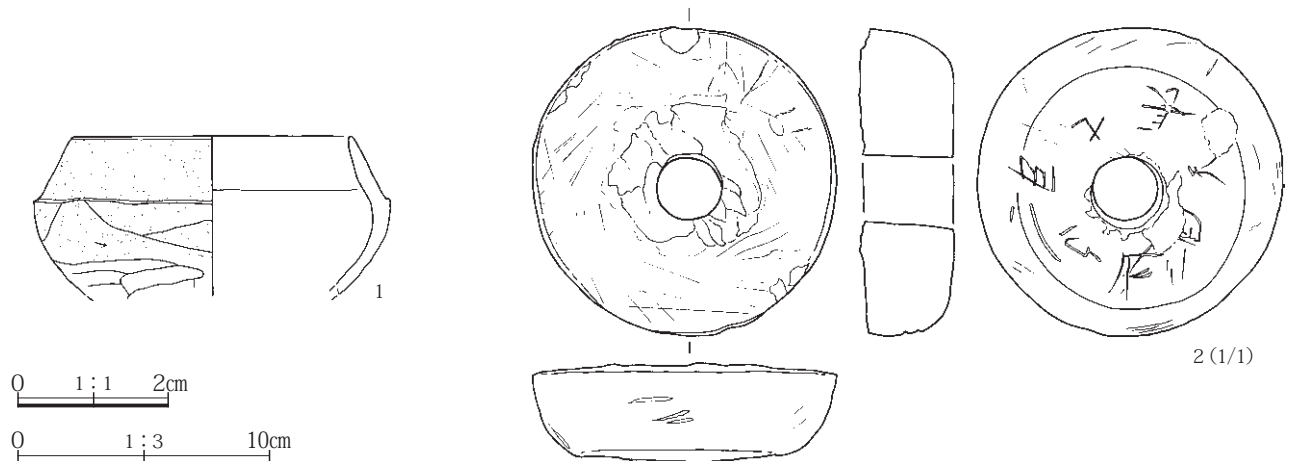
- 1 灰黄褐色土 ローム中粒・焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム小～大粒10%、炭化物中粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

P8H-H'

- 1 黒褐色土 ローム小粒・焼土小粒・炭化物中粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性少ない、壁崩落土
- 3 にぶい黄褐色土 ローム小粒5%、縮まりやや弱、粘性少ない

第19表 1区16号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積23.42㎡ 柱間の寸法(m)	
	長径	短径	深さ			
P 1	53	52	89	不整形	P 1-P 2 2.35, P 1-P 8 2.70	
P 2	48	45	97	不整形	P 2-P 3 2.57, P 2-P 6 5.05	
P 3	43	40	59	円形	P 3-P 4 2.53	
P 4	40	40	89	円形	P 4-P 5 2.45, P 4-P 8 4.96	
P 5	45	39	48	不整形	P 5-P 6 2.55	
P 6	43	41	41	不整形	P 6-P 7 2.25	
P 7	37	35	14	不整形	P 7-P 8 2.15	
P 8	37	36	63	不整形		



第268図 1区16号掘立柱建物(2)と出土遺物



1区17号掘立柱建物(第269図)

位置 X=145~150、Y=-236~242

重複 なし。

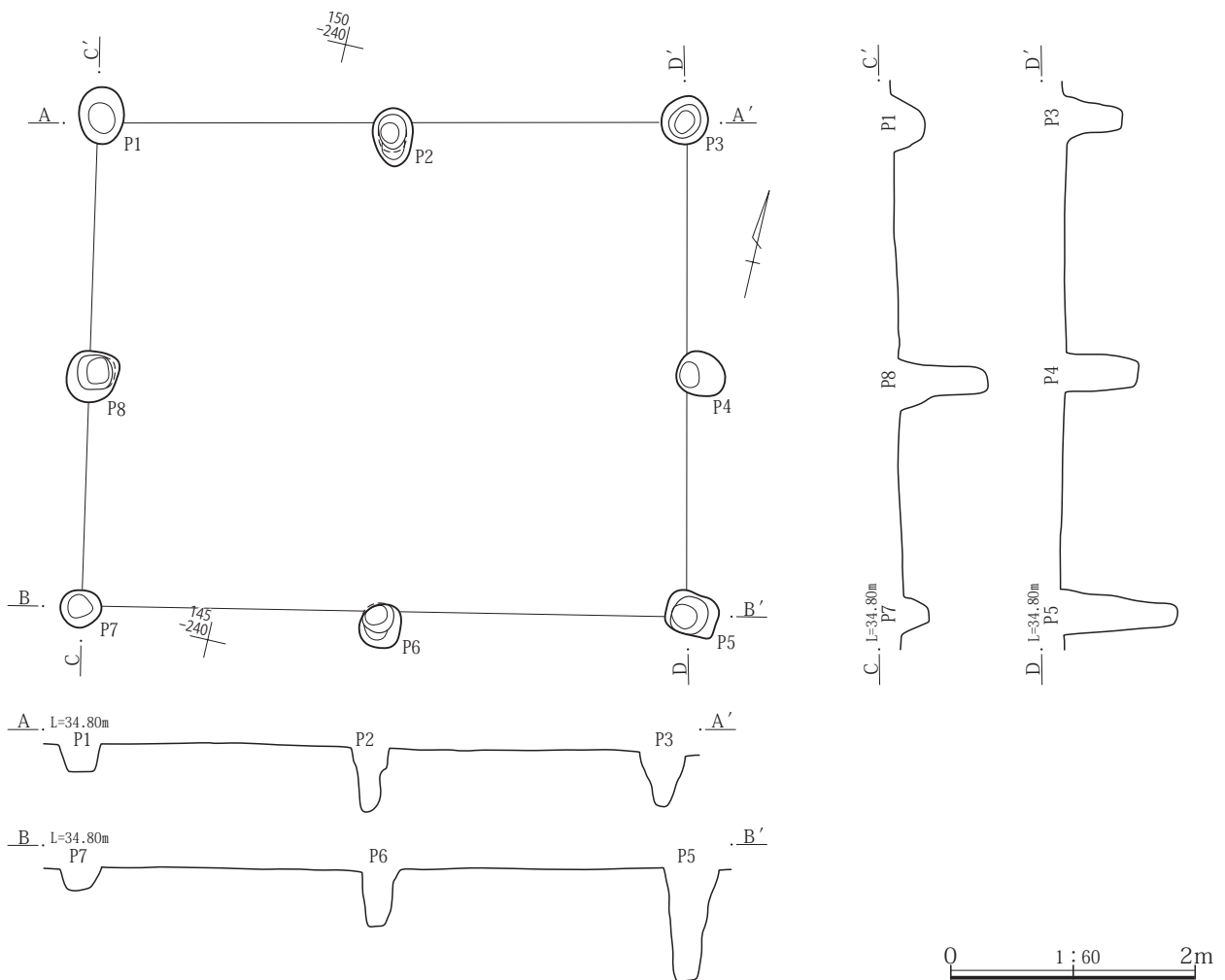
主軸方向 N-77°-E

規模・形態 南北2間、東西2間の側柱建物である。柱穴及び柱間計測値は、第20表のとおりであるが、規模は北辺4.75m、南辺4.95m、東辺4.00m、西辺3.95mの東西棟である。柱穴は8基確認したが、深さは21~90cmで不揃いである。

出土遺物 非掲載遺物であるが、柱穴の埋没土から土師

器片や須恵器片が出土する。P1から土師器大型製品3点、P4から大型製品14点、P5から土師器小型製品1点と大型製品2点、須恵器小型製品1点、P6から土師器大型製品6点、P7から土師器大型製品1点、P8から土師器大型製品11点、須恵器小型製品1点である。

所見 北辺北側に位置する1区10号柵が隣接し、方向がほぼ一致することから廂のような施設の可能性がある。北東へ約8m離れた位置にある1区16号掘立柱建物と主軸方向が一致することから近い時期と考えられる。出土遺物だけでは時期を特定できない。



第269図 1区17号掘立柱建物

第20表 1区17号掘立柱建物計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	面積19.24㎡ 柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	45	36	26	楕円形	P 1-P 2 2.36, P 1-P 8 2.02
P 2	47	32	51	楕円形	P 2-P 3 2.40, P 2-P 6 4.02
P 3	39	36	47	円形	P 3-P 4 2.10
P 4	40	37	55	円形	P 4-P 5 1.95, P 4-P 8 4.82
P 5	42	33	90	不整形	P 5-P 6 2.56
P 6	36	33	44	不整形	P 6-P 7 2.40
P 7	32	31	21	円形	P 7-P 8 2.00
P 8	42	40	74	不整形	

4 柵

1区で確認した柵は8条である。直線上に複数基のピットを確認し、掘立柱建物とならないため柵とした。柵の周辺では、掘立柱建物や道などの遺構を確認していることから関連する可能性がある。1区1号柵(P76・P75)と1区9号柵(P435・P436)は、規模や形状が類似するが、2基のピットだけでは柵とは認めがたいため欠番とし、土坑・ピットの項目に掲載した。第3章第4節5土坑・ピットを参照されたい。

1区2号柵(第270図)

位置 X=143~146、Y=-113~117

重複 なし。

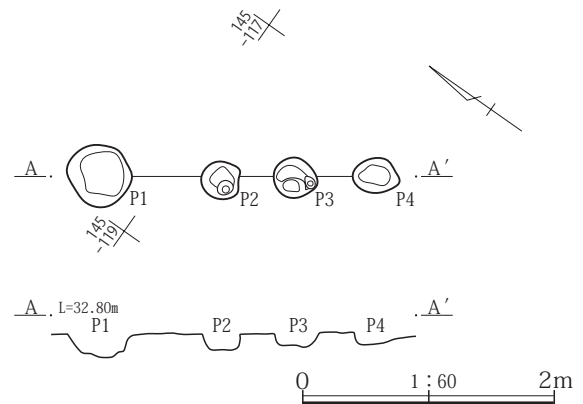
主軸方向 N-97°-W

規模・形態 2.15m。4基の柱穴を確認し直線上に並ぶ。

柱穴及び柱間計測値は、第21表のとおりであるが、上端長径30~52cm、深さ10~20cmを測り、P1~P2間が他の柱間より広い。埋没土の観察はできなかった。深さは揃うが全体的に浅く、P4は南壁の立ち上がりが僅かに残り不明瞭である。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がないので時期を特定できない。



第270図 1区2号柵

第21表 1区2号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	52	50	15	不整形	P 1-P 2 0.90
P 2	30	30	20	円形	P 2-P 3 0.55
P 3	36	35	10	円形	P 3-P 4 0.70
P 4	37	30	12	不整形	

1区3号柵(第271図)

位置 X=141~142、Y=-113~119

重複 なし。

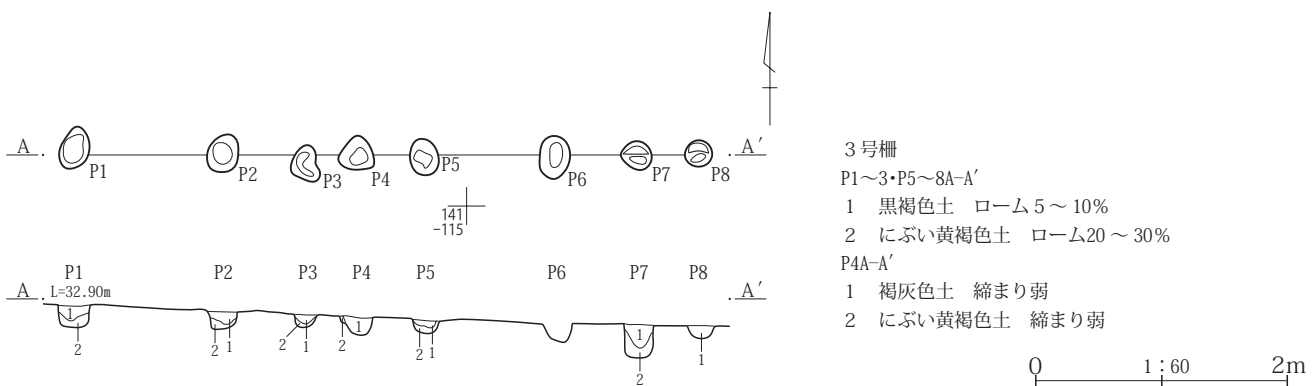
主軸方向 N-90°-W

規模・形態 5.00m。柱穴を8基確認した。柱穴及び柱間計測値は、第22表のとおりであるが、上端長径22~35cm、深さ10~27cmを測る。直線上に柱穴が並ぶが、柱間の距離は不揃いであり、P1~P2間が1.20m、P5~

P6間が1.05mと間隔が開いている。P3~P4間が45cmと最も間隔が狭い。P7が最も深く掘られているが、他の柱穴に大きな差は認められない。すべての柱穴に明瞭な柱痕は認められなかった。

出土遺物 なし。

所見 1区4・5号柵と隣接し軸線はほぼ一致する。約3m南側に位置する1区1号道の走行方向とほぼ同じである。出土遺物がないので時期を特定できない。



3号柵

P1~3・P5~8A-A'

1 黒褐色土 ローム5~10%

2 にぶい黄褐色土 ローム20~30%

P4A-A'

1 褐灰色土 締まり弱

2 にぶい黄褐色土 締まり弱

第271図 1区3号柵

第22表 1区3号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	35	23	10	不整形	P 1-P 2 1.20
P 2	32	25	15	不整形	P 2-P 3 0.65
P 3	27	25	12	不整形	P 3-P 4 0.45
P 4	28	28	15	不整形	P 4-P 5 0.50
P 5	30	23	11	楕円形	P 5-P 6 1.05
P 6	34	24	15	不整形	P 6-P 7 0.65
P 7	24	22	27	不整形	P 7-P 8 0.45
P 8	22	22	11	円形	

1区4号柵(第272図)

位置 X=141~142、Y=-115~118

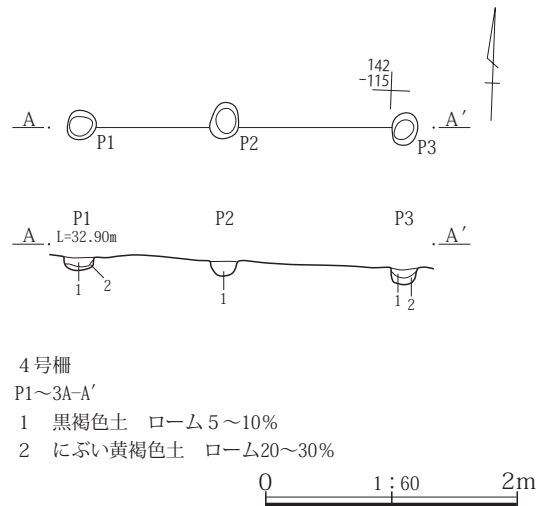
重複 なし。

主軸方向 N-94°-W

規模・形態 2.60m。3基の柱穴を確認し、ほぼ直線上に並ぶ。柱穴及び柱間計測値は、第23表のとおりであるが、上端長径24~30cm、深さ10~13cmを測る。柱間の長さは不揃いであり、P 1~P 2に比べP 2~P 3が30cm長い。埋没土はロームを多量に混入する黒褐色土やにぶい黄褐色土である。深さは揃うがやや浅く、明瞭な柱痕は認められなかった。P 4以外は埋没土にロームが多量に含まれることから人為的な埋戻しと考えられる。

出土遺物 なし。

所見 1区3・5号柵と隣接し軸線はほぼ一致する。約3.5m南側に位置する1区1号道の走行方向と同一である。出土遺物がないので時期を特定できない。



第272図 1区4号柵

第23表 1区4号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	24	22	10	不整形	P 1-P 2 1.15
P 2	30	23	13	不整形	P 2-P 3 1.45
P 3	26	20	12	楕円形	

1区5号柵(第273図)

位置 X=141~142、Y=-115~119

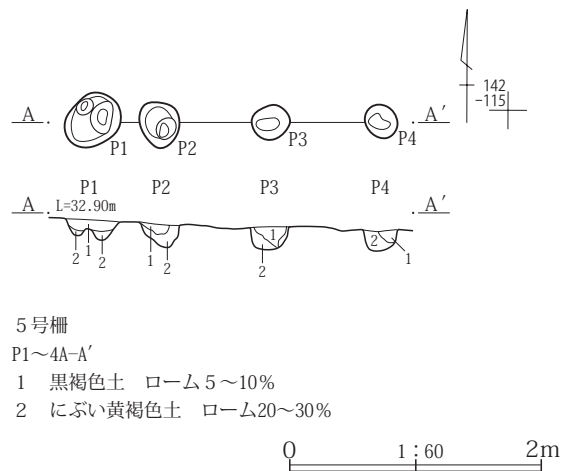
重複 なし。

主軸方向 N-90°-W

規模・形態 2.30m。4基の柱穴を確認し、直線上に並ぶ。柱穴及び柱間計測値は、第24表のとおりであるが、P 1~P 2間がP 2~P 3間とP 3~P 4間に比べ40cm短い。上端長径28~48cm、深さ17~19cmを測る。深さの差は殆ど認められない。埋没土は、1区4号柵柱穴と類似し、ロームを多量に混入する黒褐色土やにぶい黄褐色土による人為的な埋戻しである。すべての柱穴に明瞭な柱痕は認められなかった。

出土遺物 なし。

所見 1区3・4号柵と隣接し軸線はほぼ一致する。約3.5m南側に位置する1区1号道の走行方向と同じである。出土遺物がないので時期を特定できない。



第273図 1区5号柵

第24表 1区5号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	48	39	19	楕円形	P 1-P 2 0.50
P 2	38	32	18	不整形	P 2-P 3 0.90
P 3	31	28	19	円形	P 3-P 4 0.90
P 4	28	25	17	円形	

1区6号柵(第274図)

位置 X=139~142、Y=-123~126

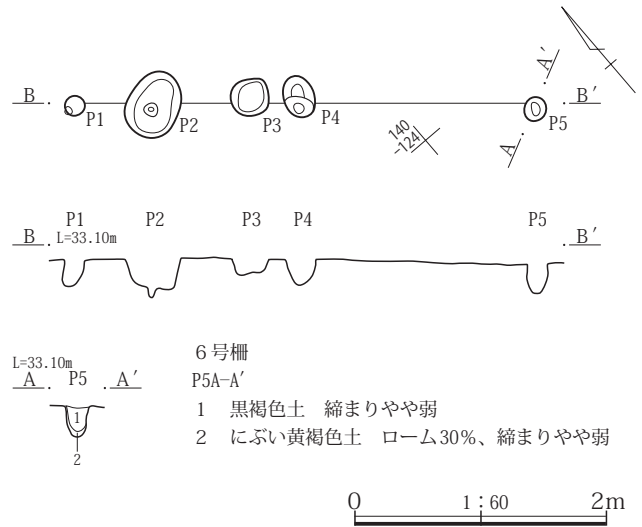
重複 なし。

主軸方向 N-49°-W

規模・形態 3.65m。5基の柱穴を確認した。P 4~P 5間は1.85mの距離に位置し、やや離れるが直線上に並ぶため柵の一部とした。柱穴及び柱間計測値は、第25表のとおりであるが、上端長径16~54cm、深さ16~42cmを測る。P 3~P 4間は37cmと狭く、柱穴の規模や柱間隔もそれぞれ不揃いである。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がないので時期を特定できない。



第274図 1区6号柵

第25表 1区6号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	16	16	25	円形	P 1-P 2 0.62
P 2	54	42	31	楕円形	P 2-P 3 0.76
P 3	31	29	11	隅丸方形	P 3-P 4 0.37
P 4	34	25	21	楕円形	P 4-P 5 1.85
P 5	20	18	25	円形	

1区7号柵(第275図)

位置 X=124~126、Y=-114~120

重複 なし。

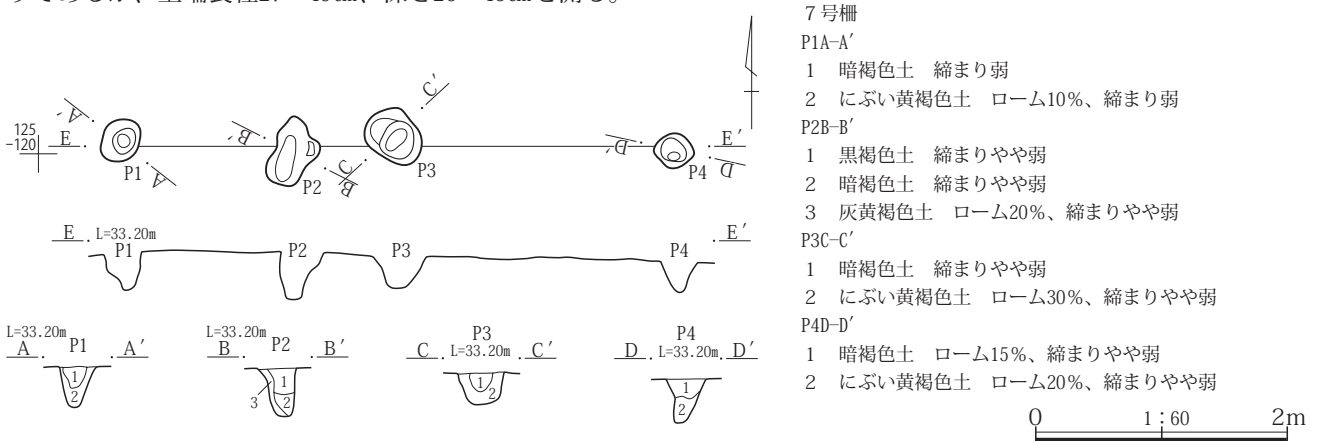
主軸方向 N-90°-W

規模・形態 4.35m。4基の柱穴を確認し、P 1~P 5が直線上に並ぶ。柱穴及び柱間計測値は、第26表のとおりであるが、上端長径27~49cm、深さ26~45cmを測る。

柱穴の規模や柱間の距離はそれぞれ不揃いである。土層断面からP 2に柱痕が認められ、掘り方は、ロームを混入する灰黄褐色土によって人為的に埋戻す。

出土遺物 非掲載遺物であるが、P 2埋没土から須恵器の小型製品破片1点が出土する。

所見 出土遺物だけでは時期を特定できない。



第275図 1区7号柵

第26表 1区7号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	37	31	34	不整形	P 1-P 2 1.30
P 2	55	36	45	不整形	P 2-P 3 0.85
P 3	49	37	26	不整形	P 3-P 4 2.20
P 4	27	26	37	隅丸方形	

1区8号柵(第276図 PL.71)

位置 X=133~139、Y=-184~188

重複 なし。

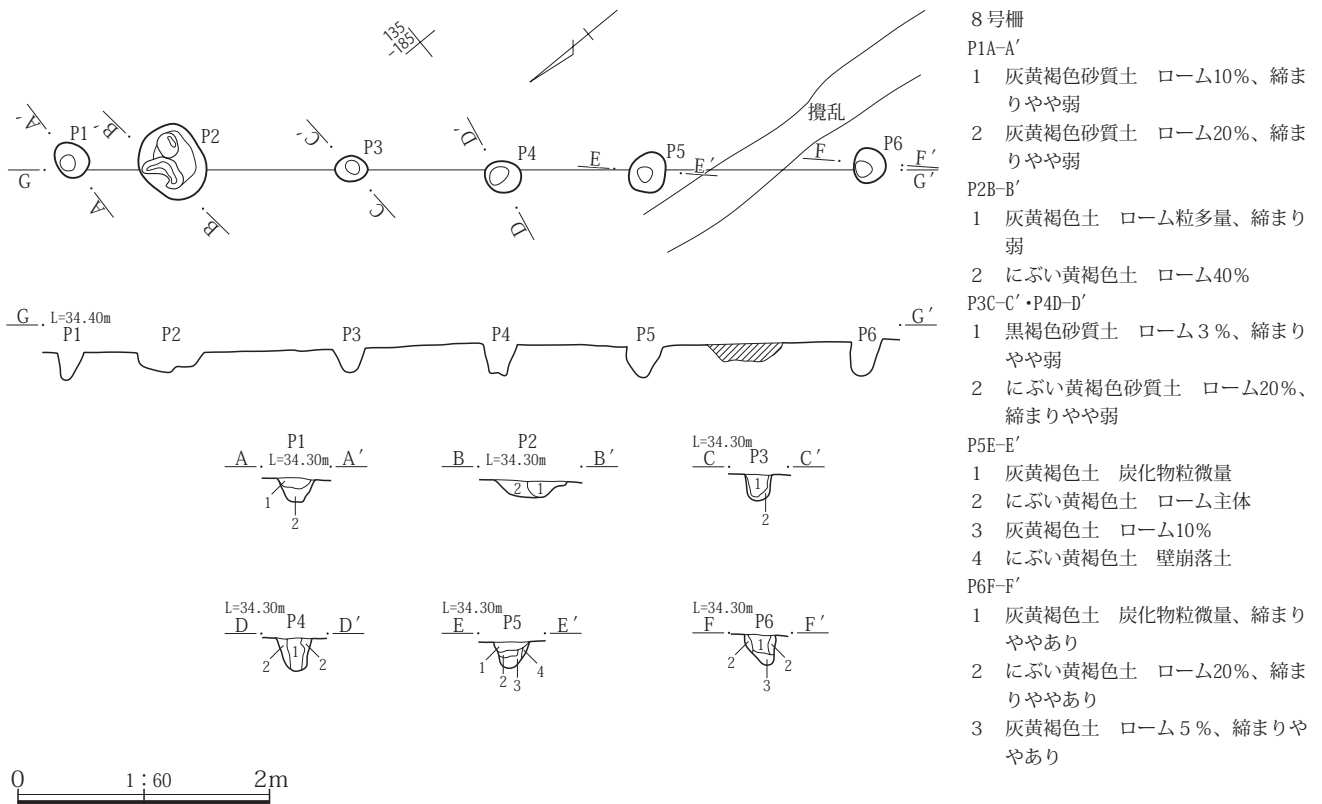
主軸方向 N-52°-W

規模・形態 2.50m。6基の柱穴を確認した。柱穴及び柱間計測値は、第27表のとおりであるが、上端長径24~59cm、深さ17~31cmを測る。他の柱穴間に比べ柱穴P 1

~P 2間が80cmと最も短く、P 5~P 6間が1.75mと最も長い。P 2以外の柱穴は規模が類似する。土層断面から柱穴P 3・P 4・P 6の第1層は柱痕であり、掘り方は、ロームを多量に混入するにふい黄褐色土や灰黄褐色土などによって人為的に埋戻す。

出土遺物 なし。

所見 出土遺物がないので時期を特定できない。



第276図 1区8号柵

第27表 1区8号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	30	25	22	不整形	P 1-P 2 0.80
P 2	59	48	17	不整形	P 2-P 3 1.45
P 3	24	22	21	不整形	P 3-P 4 1.20
P 4	29	25	30	不整形	P 4-P 5 1.15
P 5	32	27	26	不整形	P 5-P 6 1.75
P 6	28	25	31	不整形	



1区10号柵(第277図)

位置 X=149~151、Y=-237~243

重複 なし。

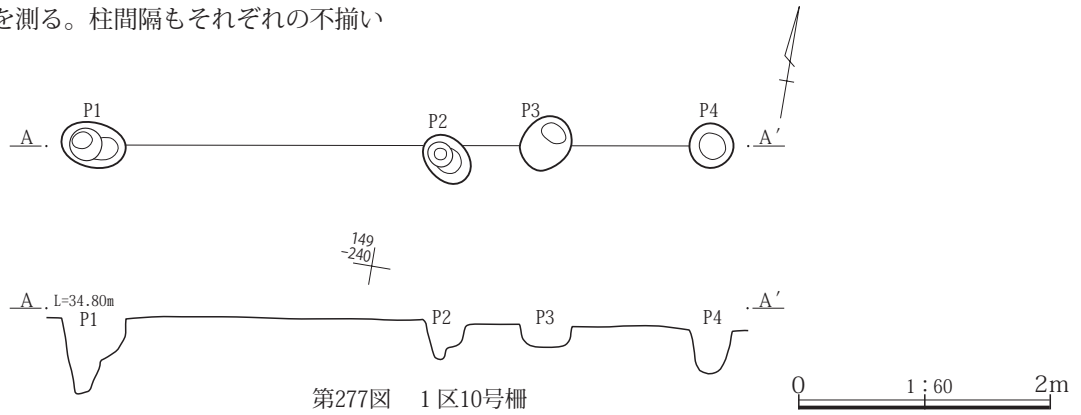
主軸方向 N-100°-W

規模・形態 5.05m。4基の柱穴を確認した。柱穴及び柱間計測値は、第28表のとおりであるが、上端長径27~53cm、深さ26~59cmを測る。柱間隔もそれぞれの不揃い

であり、P1~P2間が2.85mと最も長く、P2~P3間が90cmと最も短い。

出土遺物 なし。

所見 1区17号掘立柱建物の北辺と近接し、主軸方向がほぼ一致することから1区17号掘立柱建物の廂などの施設の可能性はある。出土遺物がないので時期を特定できない。



第28表 1区10号柵計測表

柱穴No.	規模(cm)			形状	柱間の寸法(m)
	長径	短径	深さ		
P 1	51	34	59	楕円形	P 1-P 2 2.85
P 2	53	32	26	楕円形	P 2-P 3 0.90
P 3	44	37	26	不整形	P 3-P 4 1.26
P 4	27	25	31	不整形	

5 土坑・ピット

1区~3区で確認した奈良・平安時代とみられる土坑は53基、ピットは470基である。古墳時代とみられる土坑とピット以外のものを奈良・平安時代とした。

ピットについては、1区東端部や2区、3区では少なく、特に1区東部から中央部にかけて集中して確認することができた。整理作業によってピットを再検討した結果、6基の土坑と110基のピットを掘立柱建物の柱穴に、36基のピットを柵の柱穴にそれぞれ変更し、3基のピットを竪穴住居に伴うピットとして変更した。

確認した土坑についてはすべて掲載し、ピットについては、遺物の出土や他遺構との重複、柱痕などの特徴が認められる52基について、以下のとおり平面及び断面形状を図示し、記載を行った。すべての土坑とピットの概略などについては、第29表土坑計測表及び第30表ピット計測表(308~312頁)に掲載した。奈良・平安時代に帰属したが、出土遺物が少なかったり、無かったりするため時期の特定ができず、古墳時代や奈良・平安時代以降の新しい土坑やピットが含まれている可能性もある。

1区1号土坑(第278図 PL.71)

断面形状は台形を呈する。埋没土は、ロームを含む黒褐色土と灰黄褐色土による人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

1区2号土坑(第278図)

断面形状は台形を呈する。埋没土は、ロームを含む黒褐色土と灰黄褐色土による人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片2点(小型製品1、大型製品1)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

1区3号土坑(第278図)

埋没土はロームを含む黒褐色土と灰黄褐色土で、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片4点(大型製品)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

1区4号土坑(第278図 PL.71)

ロームを含む黒褐色土で埋没し、自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片2点(大型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定で

きない。

#### 1区5号土坑(第278図 PL.71)

断面形状は三角形を呈する。埋没土は、ロームを含む黒褐色土と灰黄褐色土による人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片3点(小型製品1、大型製品2)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

#### 1区6号土坑(第278図 PL.71)

断面形状は三角形を呈する。ロームを主体とする灰黄褐色土と黒褐色土によって埋没していることから人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片3点(小型製品2、大型製品1)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

#### 1区9号土坑(第278図 PL.71)

断面形状は深い椀形を呈する。埋没土は、ローム多量に含む黒褐色土と灰黄褐色土であり、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区10号土坑(第278図)

断面形状は台形を呈する。埋没土にレンズ状の堆積が認められるが、ロームを多量に含むことから人為的な埋戻しの可能性がある。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区11号土坑(第278図 PL.71)

平面形状は隅丸方形、断面形状は椀形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土であり、人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区12号土坑(第278図)

平面形状は楕円形、断面形状は台形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含むことから人為的な埋戻しの可能性がある。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区13号土坑(第278図 PL.71)

断面形状は三角形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含む、人為的な埋戻しの可能性がある。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区14号土坑(第278図)

断面形状は、浅い方形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含むことから人為的な埋戻しの可能性がある。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区15号土坑(第278図)

断面形状は三角形を呈する。埋没土は、14号土坑に類似し、ロームを多量に含むことから人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区16号土坑(第278図)

平面形状は円形である。底面は、西側より東側が約6cm深く掘り窪められている。埋没土は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土と黒褐色土の混土による人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区17号土坑(第278図)

断面形状は椀形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土と黒褐色土による人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、土師器片1点(大型製品)が出土する。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区18号土坑(第278図 PL.71)

平面形状は円形、断面形状は台形を呈する。埋没土は、黒褐色土とにぶい黄褐色土であり、レンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区19号土坑(第279図 PL.71)

埋没土は、ロームを含む黒褐色土とにぶい黄褐色土で、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区20号土坑(第279図 PL.71)

埋没土は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土と灰黄褐色土で、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片2点(小型製品)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区21号土坑(第279図 PL.72)

平面形状は楕円形、断面形状は三角形を呈する。埋没土はロームを多量に含むにぶい黄褐色土と灰黄褐色土で、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区24号土坑(第279図 PL.72)

断面形状は三角形を呈する。埋没土に壁崩落土が認められ、堆積状況から自然埋没と考えられる。遺物の出土

がなく時期を特定できない。

**1区25号土坑**(第279図 PL.72)

断面形状は台形を呈する。埋没土は下層にロームを多量に含み人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片2点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区26号土坑**(第279図)

調査区境に位置し、断面形状は楕形を呈する。ロームを含む灰黄褐色土と黒褐色土によって埋没し、堆積状況から自然埋没の可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片3点(小型製品1、大型製品2)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区27号土坑**(第279図 PL.72)

断面形状は三角形を呈する。埋没土は黒褐色砂質土とぶい黄褐色土で、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区30号土坑**(第279図 PL.72)

後世の攪乱によって西半部を失っている。埋没土は、上層に炭化物粒を、下層にロームを多量に含むことから人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片6点(小型製品3、大型製品3)、須恵器片3点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区32号土坑**(第279図 PL.72)

平面形状は整った円形で、底面はほぼ平坦であるが、径25cmの小ピット状の窪みが認められる。埋没土は、ロームを含む人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区34号土坑**(第280図)

重複する遺構は、1区9号竪穴住居と2号溝である。34号土坑が9号竪穴住居埋没土を掘り込み、2号溝に掘り込まれている。底面は東側より西側が約14cm深い。埋没土は焼土粒やローム漸移層土塊を含む暗褐色砂質土と灰黄褐色砂質土で、人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(小型製品)が出土する。遺物の出土が少なく時期を特定できない。

**1区35号土坑**(第280図 PL.72)

埋没土は、1区36号土坑に類似し、上層に炭化物粒や焼土粒を、下層にロームを多く含むことから人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土

師器片16点(小型製品2、大型製品14)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区36号土坑**(第280図)

平面形状は楕円形、断面形状は浅い方形で、西壁際を約9cm掘り窪めている。埋没土は、ロームを多量に含む人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区37号土坑**(第280図 PL.72)

平面形状は隅丸方形、断面形状は、浅い方形を呈する。後世の攪乱によって東半部上層を失っている。埋没土は焼土粒や炭化物粒、ハードローム塊などを含み、堆積状況から人為的な埋戻しの可能性がある。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片4点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区38号土坑**(第280図 PL.72)

埋没土は、1区40号土坑に類似し、灰黄褐色土砂質土とソフトロームを多量に含む灰黄褐色砂質土による人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区39号土坑**(第280図)

平面形状は円形で、断面形状は浅い方形を呈する。堆積状況から自然埋没と考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片25点(小型製品1、大型製品24)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区40号土坑**(第280図)

断面形状は台形を呈する。後世の攪乱により西半部を失う。埋没土は、ソフトローム塊やハードローム塊などを含むが、自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片5点(小型製品1、大型製品4)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区41号土坑**(第280図 PL.72・97)

埋没土にソフトロームを含み、堆積状況から判断し人為的な埋戻しと考えられる。底面を小ピット状に掘り窪めている。須恵器杯(第280図41土-1)は底面上4cmから出土する。非掲載遺物は、埋没土から土師器片12点(小型製品6、大型製品6)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。出土遺物から時期は8世紀後半と考えられる。

**1区42号土坑**(第281図 PL.72)

平面形は隅丸方形を呈する。埋没土は、上層に焼土粒や炭化物粒を、下層にソフトロームを多量に含むことか

ら人為的な埋戻しと考えられる。底面を小ピット状に掘り窪めている。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。遺物の出土が少なく時期を特定できない。

#### 1区43号土坑(第281図 PL.72)

1区25号竪穴住居と重複する。43号土坑が25号竪穴住居を掘り込む。埋没土の第2層にソフトロームを多量に含むが、堆積状況から判断し、自然埋没の可能性が高い。非掲載遺物は、埋没土から土師器片21点(小型製品1、大型製品20)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区44号土坑(第281図 PL.72)

平面形状は隅丸方形を呈し、底面はほぼ平坦である。1区20号竪穴住居と重複し、住居南東隅の壁を掘り込む。炭化物粒や焼土粒を含む灰黄褐色土砂質土とにぶい黄褐色砂質土で人為的に埋没する。遺物の出土が多く、非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片46点(小型製品2、大型製品31、不明13)、須恵器片2点(小型製品1、大型製品1)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区45号土坑(第281図 PL.72)

調査区北境に位置するため南半部のみ確認である。断面形状は、浅い長方形を呈する。埋没土は、ソフトロームやハードローム塊などを含み、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。南壁際の底面から1基のピットを確認した。P1の平面形状は円形であり、規模は径25.0cm、深さ28.0cmを測る。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区47号土坑(第281図 PL.72)

平面形状は楕円形、断面形状は三角形を呈する。底面の北半部を約14cm掘り窪め段差が認められる。埋没土は、ロームを主体とするにぶい黄褐色土と黒褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区48号土坑(第281図)

断面形状は浅い楕形を呈する。埋没土は、ソフトロームを多量に含むにぶい黄褐色土とにぶい黄橙色土による人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区49号土坑(第281図 PL.73)

断面形状は台形を呈する。埋没土は、ソフトロームを含む黒褐色土とにぶい黄褐色土の混土で、堆積状況から

人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区50号土坑(第282図 PL.73)

平面形状は楕円形、断面形状は底面がほぼ平坦であり、壁はほぼ垂直に近い立ち上がりである。堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区51号土坑(第282図 PL.73)

断面形状は三角形で、中央やや東寄りに小ピット状の窪みが認められる。埋没土は、灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で、自然埋没か人為的かは不明。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区52号土坑(第282図 PL.73)

平面形状は円形、断面形状は楕形を呈する。埋没土は、灰黄褐色土と黒褐色土が縞状に堆積し、人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片(小型製品1点)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。遺物の出土が少なく時期を特定できない。

#### 1区53号土坑(第282図)

平面形状は円形、断面形状は楕形を呈する。埋没土は、ローム漸移層土塊、ハードローム塊、黒褐色土塊を含む暗褐色土で、自然埋没か人為的な埋戻しか判断できない。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区54号土坑(第282図)

平面形状は隅丸長方形、断面形状は浅い方形を呈する。規模や形状、埋没土などは1区55号土坑に類似する。埋没土は、ローム漸移層土を多量に含む、堆積状況から判断し人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区55号土坑(第282図)

平面形状は隅丸長方形、断面形状は浅い方形を呈する。規模や形状、埋没土は1区54号土坑に類似する。埋没土は、ローム漸移層土を多量に含む、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片19点(小型製品1、大型製品7、不明11)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区56号土坑(第282図 PL.73)

断面形状は浅い楕形を呈する。埋没土は、暗褐色土とにぶい黄褐色土の混土による人為的な埋戻しと考えられ



る。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片15点(小型製品5、大型製品10)、須恵器片1点(大型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

**1区57号土坑(第282図 PL.73)**

平面形状は円形、断面形状は浅い楕形を呈する。埋没土にソフトローム塊やハードローム塊を含むことから人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区58号土坑(第282図 PL.73)**

断面形状は台形を呈する。埋没土にローム塊やローム粒を含み、堆積状況から人為的な埋戻しと考えられる。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区59号土坑(第283図)**

1区62号竪穴住居と重複し、1区59号土坑が住居埋没土を掘り込む。埋没土にソフトロームやハードローム塊を多量に含み、堆積状況から判断し人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片5点(小型製品2、大型製品3)、須恵器片1点(小型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

**3区60号土坑(第283図 PL.73)**

断面形状は、底面がほぼ平坦面で壁は斜めに立ち上がる。埋没土は、ローム大塊及びローム粒を含むことから人為的な埋戻しの可能性がある。遺物がなく時期を特定できない。

**3区61号土坑(第283図 PL.73)**

平面形状は、楕形を呈する。底面の北半部をピット状に約9cm掘り込んでいるため段差が認められる。埋没土は、暗褐色土と褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

**3区62号土坑(第283図 PL.73)**

断面形状は、底面がほぼ平坦面であり、壁は斜めに立ち上がる。埋没土にローム大塊及びローム粒を含むことから、人為的な埋戻しの可能性がある。遺物の出土がなく時期を特定できない。

**1区64号土坑(第283図)**

平面形状は不定形、断面形状は浅い台形を呈する。自然埋没か人為的かは不明である。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片3点(大型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

**1区2号ピット(第283図 PL.73・97)**

断面形状から柱穴と考えられる。底面は平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がり開口部で斜めに開く。埋没土は、第2層にローム塊が多量に含まれることから人為的な埋戻しと考えられる。深さ1.02mを測り、周辺に対応するピットを確認できなかった。遺物は、埋没土第1層下層から磨石?(第283図2ピット-1)が出土する。遺物が少なく時期を特定できない。

**1区3号ピット(第283図 PL.73)**

土層断面の観察から第1～3層が柱痕とみられ、ロームを含む灰黄褐色土によって人為的に埋没する。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。遺物が少なく時期を特定できない。

**1区8号ピット(第283図)**

平面形状は整った円形であり、断面形状から柱穴と考えられ、柱痕が認められる。掘り方は、ロームを含む灰黄褐色土によって充填する。周辺に対応するピットを確認できなかった。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区57号ピット(第284図)**

断面形状は、底面が平坦であり、壁は開口部までほぼ垂直に立ち上がる。形状から柱穴と考えられる。埋没土は、ロームを含む暗褐色土と黒褐色土による人為的な埋戻しである。埋没土から土師器片4点(大型製品)が出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

**1区60号ピット(第284図)**

断面形状から柱穴と考えられ、柱痕が認められる。埋没土は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土で人為的な埋戻しである。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区102号ピット(第284図)**

第1・2層が柱痕と考えられる。掘り方は、ロームを含むにぶい黄褐色土による人為的な埋戻しである。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区105号ピット(第284図)**

底面は平坦であり、壁は斜めに立ち上がる。形状から柱穴と考えられ、土層断面に柱痕が認められる。掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土で人為的に埋没する。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区115号ピット(第284図)**

断面形状は、底面は平坦であり、壁は斜めに立ち上がる。第1層が柱痕とみられ、掘り方は、にぶい黄褐色土



によって人為的に埋没する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区120号ピット(第284図)

平面形状は円形であり、断面形状から柱穴と考えられ、柱痕が認められる。掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土や灰黄褐色土によって充填する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区152号ピット(第284図)

断面形状は、底面から壁が斜めに立ち上がり、土層断面の観察から柱痕が認められた。掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色で充填する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区161号ピット(第284図 PL.73)

断面形状は、底面が平坦で壁は斜めに立ち上がる。第1層が柱痕で、掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色で充填する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区162号ピット(第284図)

平面形状は円形で、断面形状から柱穴と考えられる。埋没土は1区161号ピットに類似し、第1層が柱痕と考えられる。掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土で充填する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区267号ピット(第284図 PL.73)

トレンチによって東半部上層を失っているが、平面形は楕円形、断面形状は浅い碗形を呈する。埋没土は、ロームを多量に含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土による人為的な埋戻しの可能性がある。須恵器杯(第282図267ピット-1)が埋没土から出土する。出土遺物から時期は9世紀後半と考えられる。

#### 1区282号ピット(第284図 PL.73)

平面形状は整った円形で、断面形状から柱穴と考えられる。埋没土は、ロームを含む黒褐色土と灰黄褐色土で人為的に埋没する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区313号ピット(第285図)

平面形状は整った円形で、断面形状は、底面から壁は斜めに立ち上がる。第1層が柱痕とみられ、炭化物粒が微量に含まれ、掘り方は、ロームを多量に含むにぶい黄褐色土で人為的に埋没する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区323号ピット(第285図)

平面形状は整った円形で、断面形状は底面が平坦で壁は

ほぼ垂直に立ち上がる。黒褐色土と灰黄褐色土による人為的な埋戻しである。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区370号ピット(第285図)

1区9号竪穴住居と重複し、新旧関係は不明。平面形状から柱穴の可能性もある。埋没土に炭化物粒や焼土粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で人為的に埋没する。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区371号ピット(第285図)

1区9号竪穴住居と重複し、新旧関係は不明。埋没土は370号ピットに類似し、炭化物粒や焼土粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で埋没する。自然埋没か人為的かは不明。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区502号ピット(第285図)

1区27号竪穴住居の周溝内で確認し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区503号ピット(第285図)

1区27号竪穴住居の床面で確認した。1区503号ピットと埋没土が類似し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。断面形状から柱穴の可能性がある。炭化物粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区504号ピット(第285図)

1区27号竪穴住居と重複し、床面の硬化面を掘り込むためピットが新しい。炭化物粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区505号ピット(第285図)

1区27号竪穴住居と重複し、床面を掘り込む。1区504号ピットに隣接する。平面形状は円形で、断面形状は、底面はほぼ平坦である。炭化物粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区506号ピット(第285図)

1区27号竪穴住居と重複し、床面の硬化面を掘り込む。断面形状から壁は底面から斜めに立ち上がる。埋没土は炭化物粒を含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区507号ピット(第285図)**

1区27号竪穴住居と重複し、床面の硬化面を掘り込む。断面形状から柱穴と考えられる。埋没土は焼土粒と炭化物粒を含む黒褐色土と暗褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

**1区508号ピット(第285図)**

1区28号竪穴住居と重複し、床面の硬化面を掘り込む。埋没土は焼土粒と炭化物粒などを含む灰黄褐色土で埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区510号ピット(第285図)**

1区28号竪穴住居と重複し、床面の硬化面を掘り込む。断面形状から柱穴の可能性はある。焼土粒と炭化物粒などを含む灰黄褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区511号ピット(第285図)**

1区27号竪穴住居の周溝内で確認した。遺構確認状況から511号ピットが新しい。埋没土は炭化物粒や焼土粒、ローム粒などを含む黒褐色土と暗褐色土であり、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区512号ピット(第285図)**

1区27号竪穴住居の周溝内で確認した。1区511号ピットに隣接し、遺構確認状況からピットが新しい。埋没土は炭化物粒や焼土粒、ローム粒などを含む黒褐色土と灰黄褐色土で、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区513号ピット(第286図)**

1区27号竪穴住居内で確認し、遺構確認状況から513号ピットが新しいと判断した。埋没土は1区512号ピットに類似し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区514号ピット(第286図)**

平面形状は整った円形で、断面形状は、底面から壁はほぼ垂直に立ち上がる。土層断面に明瞭な柱痕は認められないが、深さ75cmを測り、柱穴の可能性はある。炭化物粒や焼土粒などを含む灰黄褐色土と黒褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物が

なく時期を特定できない。

**1区518号ピット(第286図)**

平面形状は円形で、断面形状は、斜めに立ち上がり、柱穴と考えられる。第1・2層は柱痕であり炭化物粒を含む。掘り方は、ローム塊含む灰黄褐色土で人為的に埋没する。周辺で対応するピットを確認できなかった。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区522号ピット(第286図)**

1区27・28号竪穴住居と重複し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。灰黄褐色土とにぶい黄褐色土で埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区525号ピット(第286図)**

1区28号竪穴住居と重複し、遺構確認状況からピットが新しいと判断した。自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区529号ピット(第286図)**

1区43号竪穴住居周溝内で確認した。遺構確認状況から529号ピットが新しい。自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区530号ピット(第286図)**

1区43号竪穴住居周溝内で確認し、1区537号ピットと重複する。遺構確認状況から43号竪穴住居より新しく、537号ピットより古い。自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区533号ピット(第286図)**

1区63号竪穴住居周溝を533号ピットが掘り込む。焼土粒や炭化物粒、ロームを含む灰黄褐色土とにぶい黄褐色土によって埋没する。壁の崩落土が認められ自然埋没と考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区534号ピット(第286図)**

1区58号竪穴住居と重複し534号ピットが床面を掘り込む。焼土粒や炭化物粒、ロームを含む灰黄褐色土によって埋没し、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

**1区536号ピット(第286図)**

1区67号竪穴住居と重複し536号ピットがカマド燃焼部側壁左壁を掘り込む。焼土粒や炭化物粒、ロームを含む灰黄褐色土と黒褐色土によって埋没し、自然埋没と考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片2点(大型製品)

が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区537号ピット(第286図)

1区43号竪穴住居の周溝内で確認し、1区530号ピットと重複する。遺構確認状況から43号竪穴住居と530号ピットより新しい。自然埋没か人為的かは不明。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 1区538号ピット(第286図)

1区43号竪穴住居周溝内で確認し、538号ピットが周溝と住居北壁を掘り込む。自然埋没か人為的かは不明。遺物の出土がなく時期を特定できない。

#### 1区539号ピット(第287図)

1区68号竪穴住居南壁を539号ピットが掘り込む。ハードローム粒を多量に含む灰黄褐色土で埋没し、自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、土師器片2点(小型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区541号ピット(第287図)

1区55号竪穴住居東壁を541号ピットが掘り込む。自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、土師器片2点(小型製品と大型製品)が出土する。遺物だけでは時期を特定できないが、1区55号竪穴住居との重複から9世紀第3四半期以降と考えられる。

#### 1区575号ピット(第287図 PL.74・97)

上面形状は楕円形で、断面形状は底面に僅かな段差が認められ、壁は斜めに立ち上がる。自然埋没か人為的かは不明である。遺物は、須恵器皿(第285図575ピット-1)が底面上18cmから出土した。非掲載遺物は、土師器片2点(大型製品)が出土する。出土遺物から時期は、9世紀後半と考えられる。

#### 1区596号ピット(第287図)

1区67号竪穴住居南壁を595号ピットが掘り込む。断面形状から柱穴の可能性がある。自然埋没か人為的かは不明。遺物だけでは時期を特定できない。

#### 1区606号ピット(第287図)

平面形状は隅丸方形である。自然埋没か人為的かは不明。須恵器杯(第287図606ピット-1)は、埋没土から出土した。非掲載遺物は土師器片5点(小型製品3、大型製品2)が出土する。出土遺物から時期は、9世紀前半と考えられる。

#### 1区611号ピット(第287図)

上面形状は円形で、断面形状は底面が平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がり、開口部で斜めに開く。深さ1.06mを測り、自然埋没か人為的かは不明。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 3区617号ピット(第287図 PL.74)

3区618号ピットと重複し、遺構確認状況から617号ピットが新しい。上面形状は円形で、断面形状は底面が平坦であり、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は、ローム塊を含む暗褐色土と褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 3区618号ピット(第287図 PL.74)

3区617号ピットと重複し、遺構確認状況から618号ピットが古い。断面形状は底面が平坦であり、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は、ローム塊・粒を含む暗褐色土と褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 3区620号ピット(第287図)

3区71号竪穴住居西壁を620号ピットが掘り込む。底面から壁がほぼ垂直に立ち上がり、柱穴の可能性がある。暗褐色土と黒褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

#### 3区628号ピット(第287図 PL.74)

埋没土は、ローム大塊を多量に含む暗褐色土と褐色土による人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片3点(小型製品2、大型製品1)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

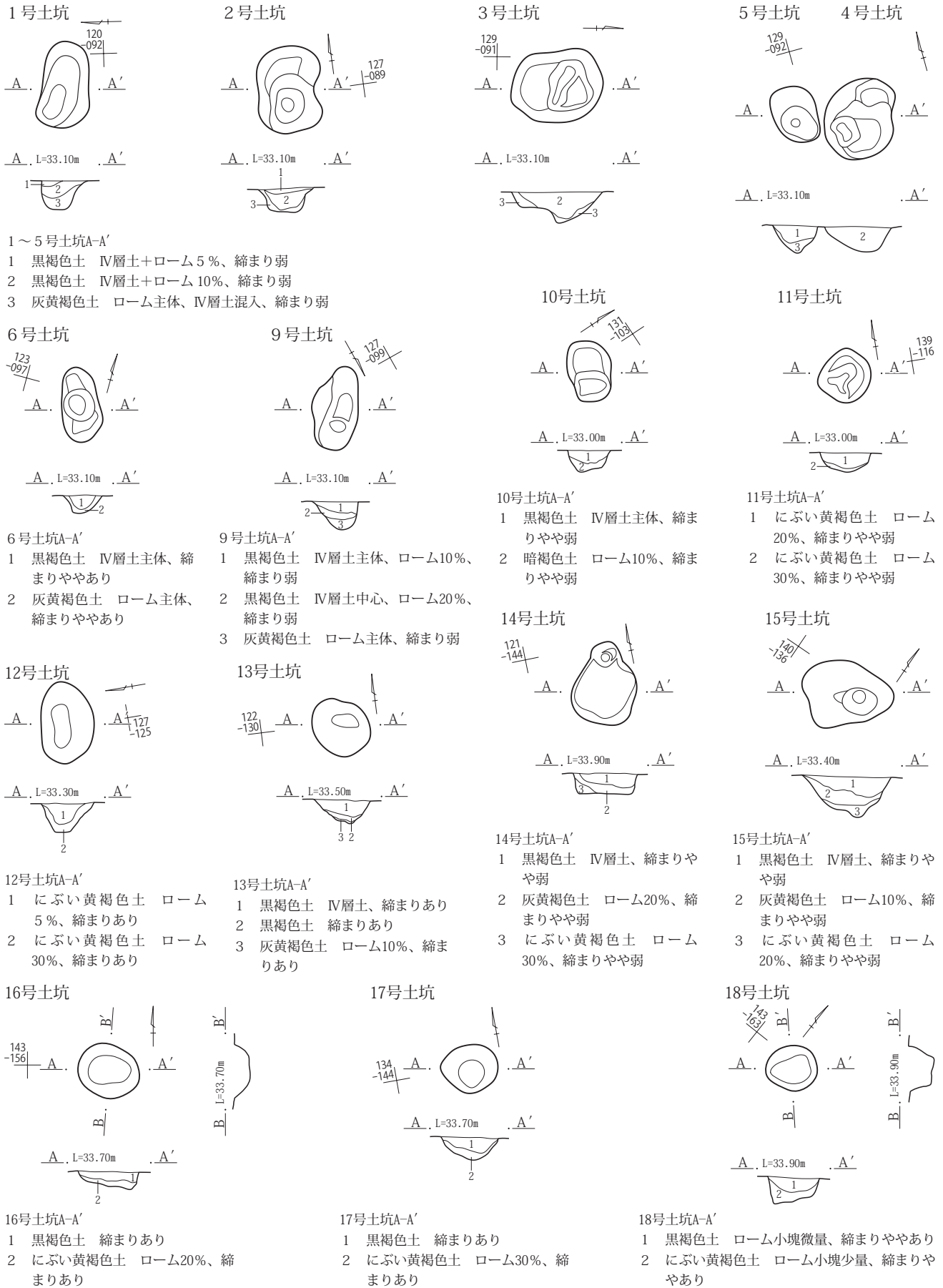
#### 3区643号ピット(第287図)

平面形状は円形であり、断面形状は三角形を呈する。埋没土にローム粒や褐色土塊を多量に含むことから人為的な埋戻しと考えられる。非掲載遺物であるが、土師器片7点(小型製品4、大型製品3)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

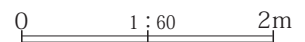
#### 3区644号ピット(第287図 PL.74)

3区87号竪穴住居と重複し、遺構確認状況から644号ピットが新しい。断面形状から柱穴の可能性がある。埋没土にローム粒・塊を含み、自然埋没か人為的かは不明。非掲載遺物であるが、土師器片4点(小型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

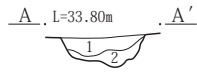
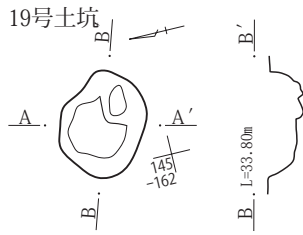
第3章 間之原遺跡の調査



第278図 1区1~6・9~18号土坑

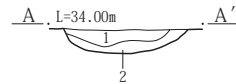
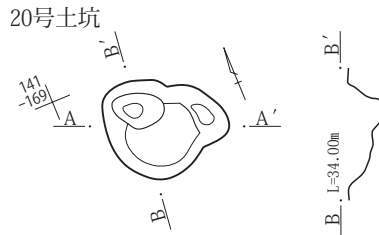






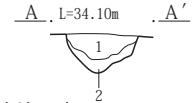
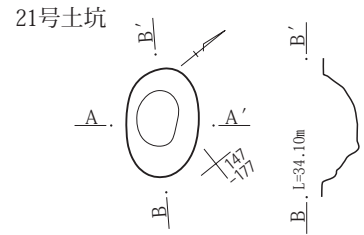
19号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 ローム10%、締まり弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、締まり弱



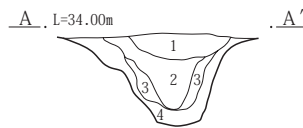
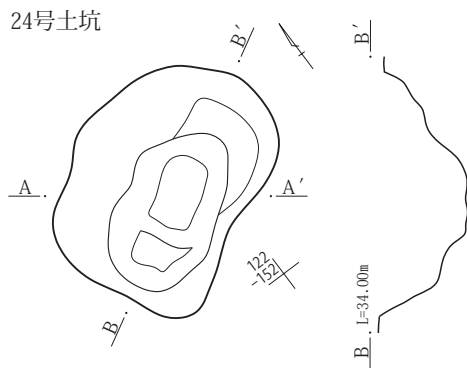
20号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム10%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、締まりややあり



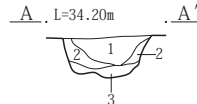
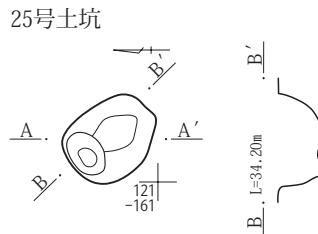
21号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、締まりややあり



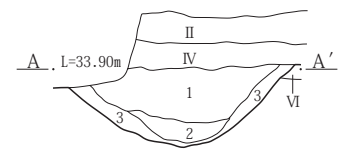
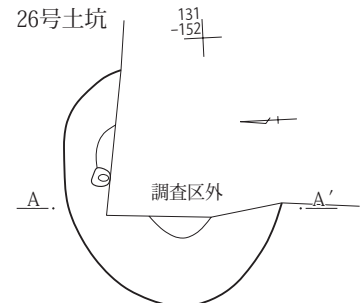
24号土坑A-A'

- 1 褐灰色土 ローム微量、締まりやや弱
- 2 黒褐色土 ローム3%、締まりやや弱
- 3 黒褐色土 ローム10%、締まりやや弱
- 4 にぶい黄褐色土 ローム40%、締まりやや弱、壁崩落土



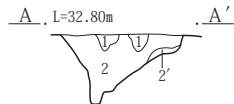
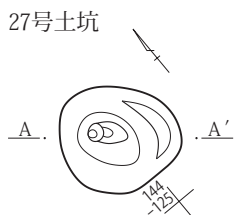
25号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒・大塊5%、締まりやや弱
- 2 灰黄褐色土 ローム3%、締まりやや弱
- 3 にぶい黄褐色土 ローム40%、締まりやや弱



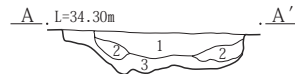
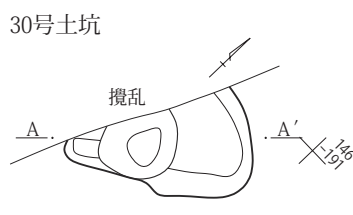
26号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 ローム小～大粒3%、締まりやや弱
- 2 黒褐色土 ローム小～大粒5%、締まりやや弱
- 3 灰黄褐色土 ローム30%、締まりやや弱



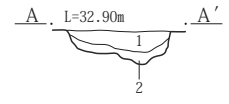
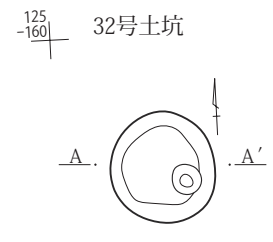
27号土坑A-A'

- 1 黒褐色砂質土 ローム漸移層土小塊少量、白色軽石粒を含む
- 2 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土主体、ソフトローム・黒褐色土大塊を含む、締まりあり
- 2' にぶい黄褐色土 IV層土+ハードローム粒多量



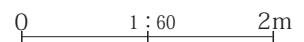
30号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム10%、炭化物粒微量、締まりややあり
- 2 暗褐色砂質土 ローム5%、締まりややあり
- 3 にぶい黄褐色砂質土 ローム中心80%、締まりややあり



32号土坑A-A'

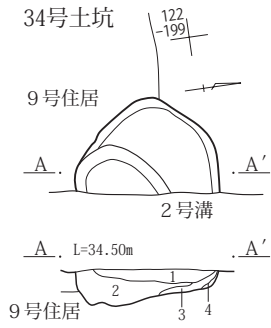
- 1 にぶい黄褐色土 2次堆積ローム混入、締まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、締まりあり、粘性ややあり



第279図 1区19～21・24～27・30・32号土坑

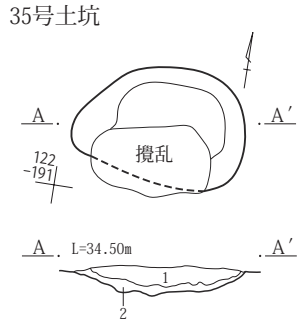


第3章 間之原遺跡の調査



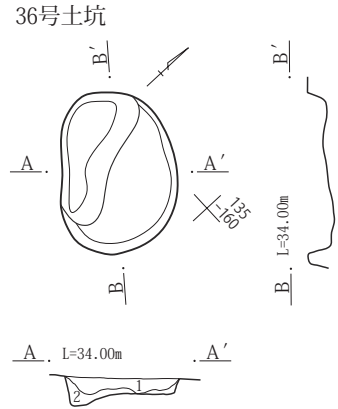
34号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 白色軽石粒多量、焼土粒少量
- 2 暗褐色砂質土 ローム漸移層土小～中塊を斑状に少量含む、焼土粒少量
- 3 暗褐色砂質土 ローム漸移層土小～中塊を斑状に多量に含む、焼土粒少量
- 4 暗褐色砂質土 ローム漸移層土多量



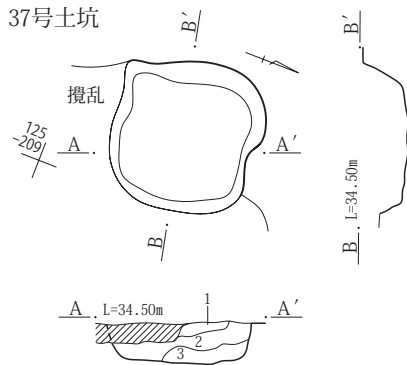
35号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム大塊5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりややあり



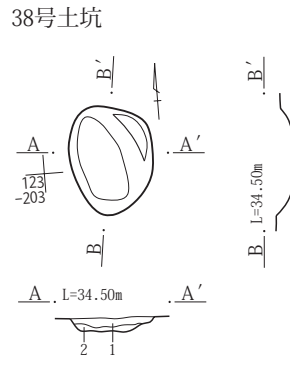
36号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ローム5%、縮まりややあり
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ローム30%、縮まりややあり



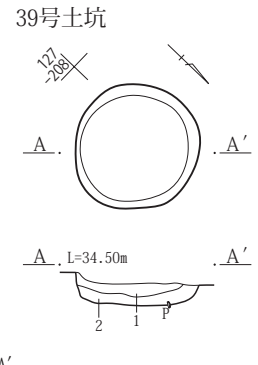
37号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 ハードローム極小塊・炭化物粒・焼土粒微量
- 2 灰黄褐色土 ハードローム小塊3%、炭化物粒・焼土粒微量
- 3 灰黄褐色土 ソフト・ハードローム極小塊5%、炭化物粒・焼土粒多量



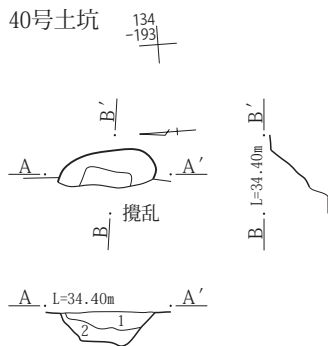
38号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフトローム5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム30%、縮まりやや弱



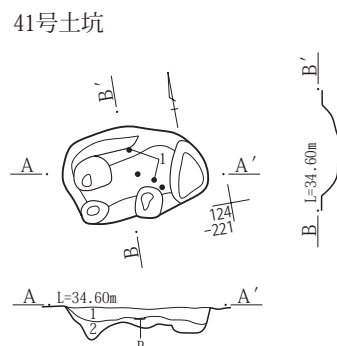
39号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフトローム粒少量
- 2 黒褐色砂質土 灰黄褐色土小塊少量



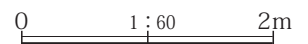
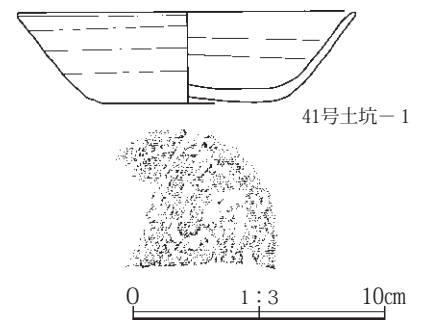
40号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色砂質土 ソフトローム少量、ハードローム小塊5%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフト・ハードローム小塊5%、縮まりやや弱

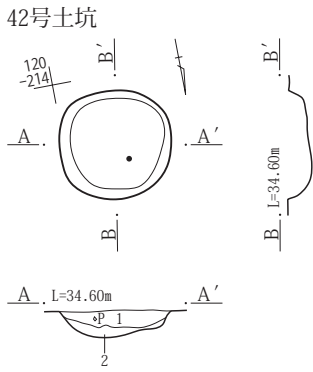


41号土坑A-A'

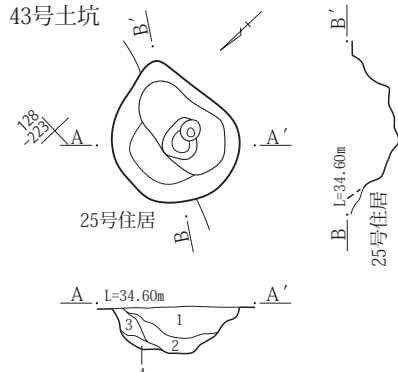
- 1 黒褐色砂質土 ソフトローム5%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム10%、縮まりやや弱



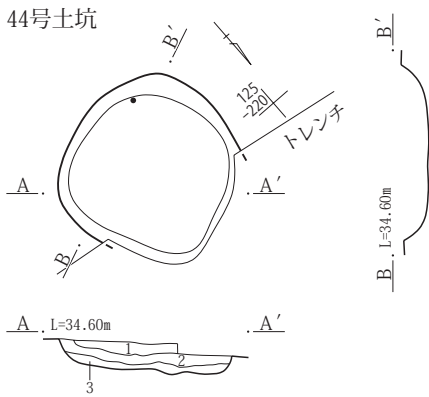
第280図 1区34～41号土坑と出土遺物



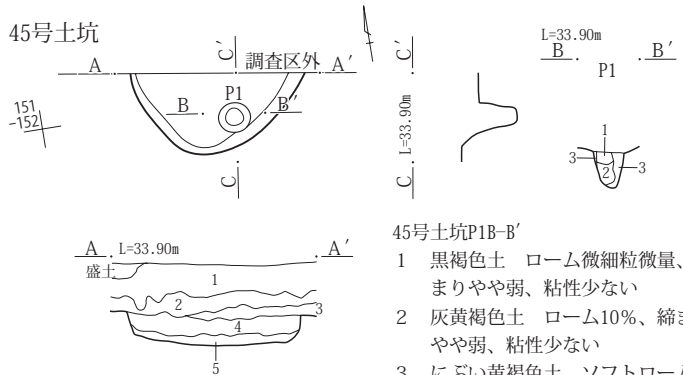
- 42号土坑A-A'
- 1 黒褐色砂質土 焼土粒・炭化物粒少量、縮まりややあり
  - 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、縮まりややあり



- 43号土坑A-A'
- 1 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム5%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりやや弱
  - 2 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、縮まりやや弱
  - 3 黒褐色砂質土 ローム粒微量、縮まりやや弱
  - 4 灰黄褐色砂質土 ソフトローム5%、縮まりやや弱

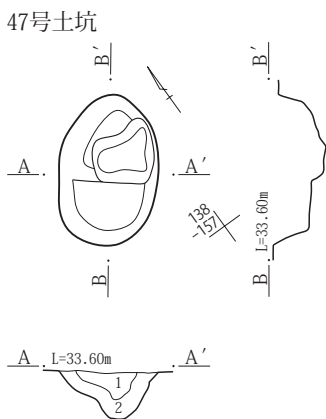


- 44号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色砂質土 ソフトローム3%、炭化物粒・焼土粒微量、縮まりややあり
  - 2 灰黄褐色砂質土 ソフトローム5%、焼土粒・炭化物粒微量、縮まりややあり
  - 3 にぶい黄褐色砂質土 ソフトローム40%、縮まりややあり

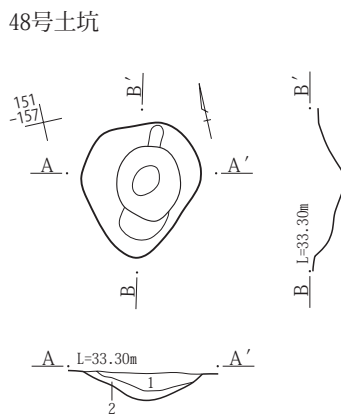
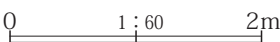


- 45号土坑P1B-B'
- 1 黒褐色土 ローム微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 2 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体60%、黒褐色土10%、縮まりやや弱、粘性少ない

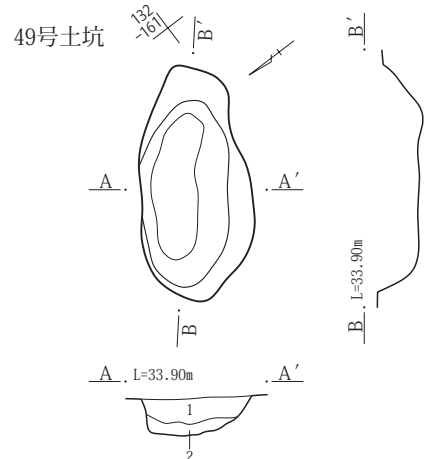
- 45号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 耕作土層
  - 2 黒褐色土 ソフト・ハードローム小塊粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 3 黒褐色土 炭化物粒・灰色軽石粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 4 黒褐色土 ソフトローム少量、ハードローム小〜中塊・焼土粒・炭化物粒・灰色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 5 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体・ハードローム極小塊少量、縮まりやや弱、粘性少ない



- 47号土坑A-A'
- 1 黒褐色土 灰白色軽石微細粒少量、縮まりややあり、粘性少ない
  - 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりややあり、粘性少ない



- 48号土坑A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、黒褐色土塊、ローム極小塊・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
  - 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりやや弱、粘性ややあり

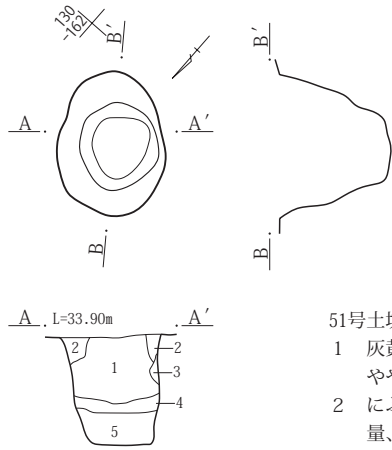


- 49号土坑A-A'
- 1 黒褐色土 ソフトローム10%、灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性なし
  - 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム20%、黒褐色土小〜大塊・ハードローム小〜大塊10%、縮まりあり、粘性ややあり

第281図 1区42～45・47～49号土坑

第3章 間之原遺跡の調査

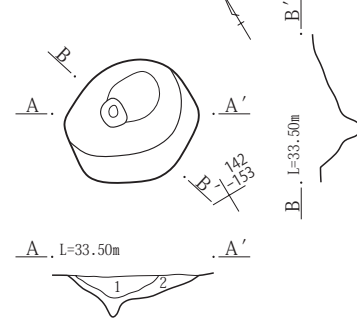
50号土坑



50号土坑A-A'

- 1 黒褐色土 ソフトローム極小塊・灰白色軽石粒少量、縮まりあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、縮まりあり
- 3 にぶい黄褐色土 IV層土よりやや赤味のあるソフトローム主体
- 4 灰黄褐色土 縮まりあり、粘性ややあり
- 5 黒褐色土 縮まりあり、粘性ややあり

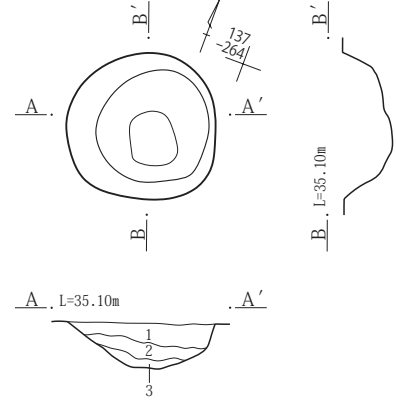
51号土坑



51号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 黒褐色土小塊少量、灰白色軽石粒微量、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム極小塊少量、縮まりややあり、粘性少ない

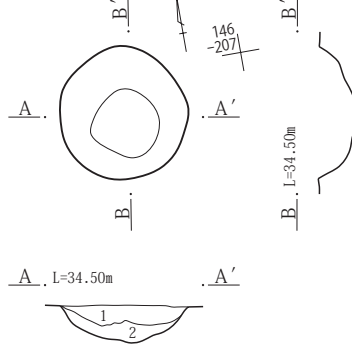
52号土坑



52号土坑A-A'

- 1 灰黄褐色土 ソフトローム5%、炭化物粒・ローム粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 炭化物粒・灰白色軽石微細粒・ローム粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ソフトローム20%、縮まりやや弱、粘性少ない

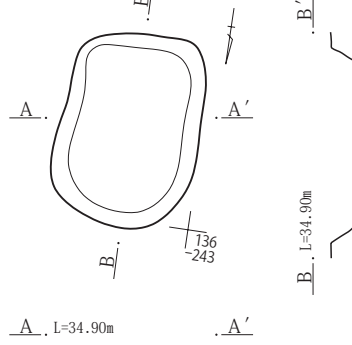
53号土坑



53号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 ローム漸移層土塊少量、ハードローム小塊を含む
- 2 暗褐色土 1層土+黒褐色土中~大塊を含む

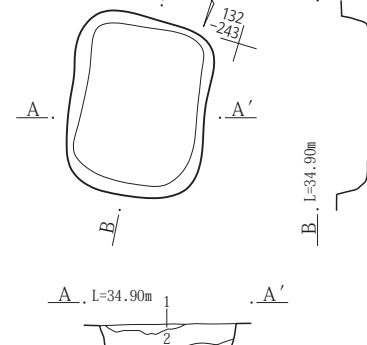
54号土坑



54号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒微量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、白色軽石少量、ハードローム粒を含む
- 3 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊少量、ハードローム中塊を含む

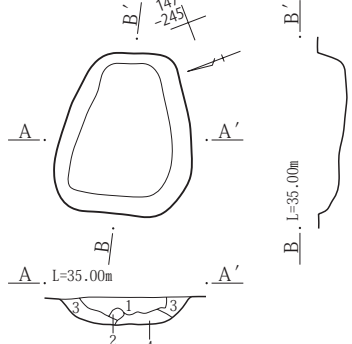
55号土坑



55号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 焼土粒・ローム粒微量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土中~大塊多量、白色軽石少量、ハードローム粒を含む
- 3 黒褐色土 ローム漸移層土中~大塊少量、ハードローム中塊を含む

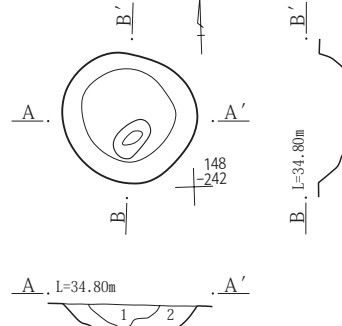
56号土坑



56号土坑A-A'

- 1 暗褐色土 ローム漸移層土小~中塊少量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土塊
- 3 暗褐色土 ローム漸移層土小塊・ソフトローム少量
- 4 にぶい黄褐色土 ローム漸移層土とソフトロームの混土、ハードローム小塊少量

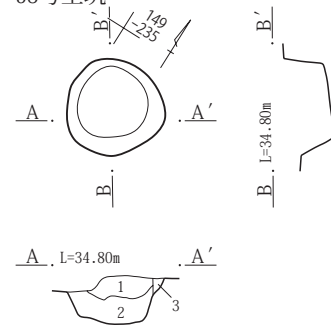
57号土坑



57号土坑A-A'

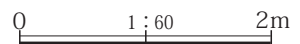
- 1 灰黄褐色土 ソフトローム小塊多量
- 2 にぶい黄褐色土 ソフト・ハードローム小塊少量

58号土坑

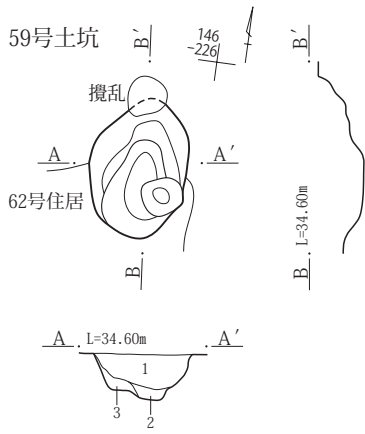


58号土坑A-A'

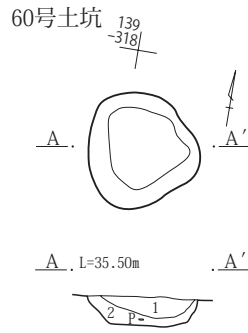
- 1 灰黄褐色土 ローム粒少量
- 2 灰黄褐色土 ハードローム小塊少量
- 3 黄褐色土 ローム塊



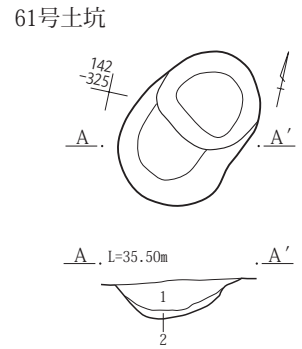
第282図 1区50~58号土坑



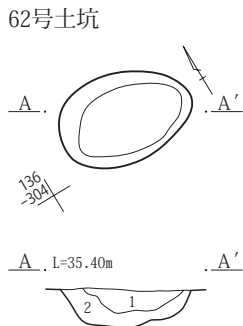
- 59号土坑A-A'
- 1 灰黄褐色土 ソフトローム10%、ハードローム小塊少量、焼土小粒・炭化物小粒・灰白色軽石小粒微量、粘性少ない
  - 2 にぶい黄褐色土 ハードローム小〜中塊50%、ソフトローム40%、粘性少ない
  - 3 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、ハードローム極小塊10%、粘性少ない、壁崩落土



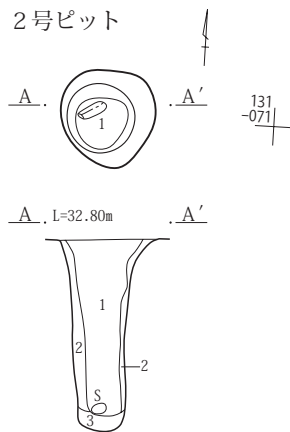
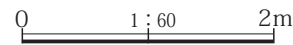
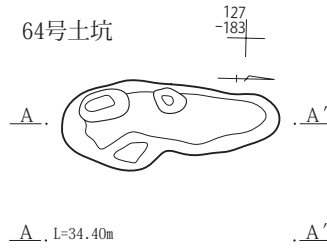
- 60号土坑A-A'
- 1 暗褐色土 ローム大塊を含む、締まりあり、粘性ややあり
  - 2 褐色土 ローム粒多量、締まりあり、粘性あり



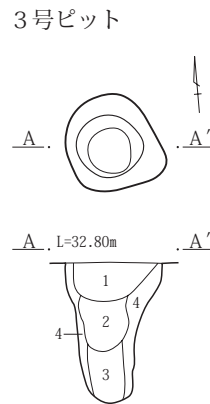
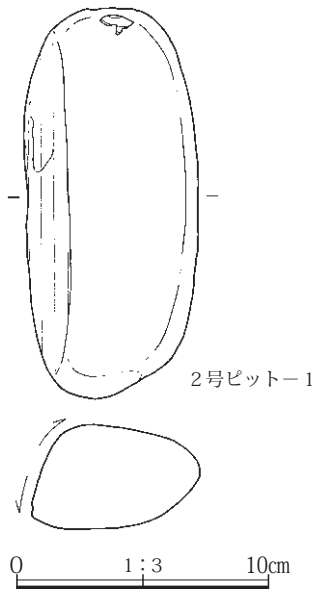
- 61号土坑A-A'
- 1 暗褐色土 ローム大塊を含む、締まりややあり、粘性ややあり
  - 2 褐色土 ローム粒多量、遺物出土あり、締まりあり、粘性ややあり



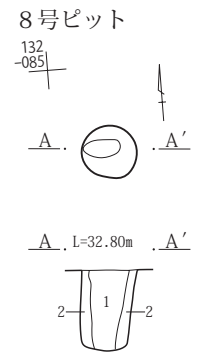
- 62号土坑A-A'
- 1 暗褐色土 ローム粒を含む、締まり弱く、粘性あり
  - 2 褐色土 ローム大塊・粒多量、締まり弱く、粘性あり



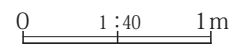
- 2号ピットA-A'
- 1 黒褐色土 ローム粒・小塊少量
  - 2 にぶい黄褐色土 ローム粒・小〜中塊多量
  - 3 にぶい黄褐色土 締まりややあり、粘性ややあり



- 3号ピットA-A'
- 1 黒褐色土 粘性少ない
  - 2 黒褐色土 締まりやや弱
  - 3 黒褐色土 締まりやや弱、粘性ややあり
  - 4 灰黄褐色土 ロームを含む



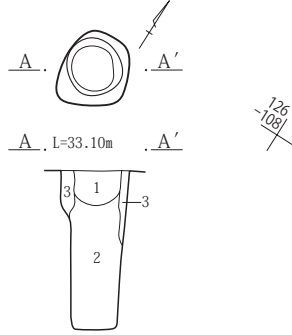
- 8号ピットA-A'
- 1 黒褐色土 締まりやや弱
  - 2 灰黄褐色土 ローム含む、締まりやや弱



第283図 1区59号土坑・3区60～62・64号土坑・1区2・3・8号ピットと出土遺物

第3章 間之原遺跡の調査

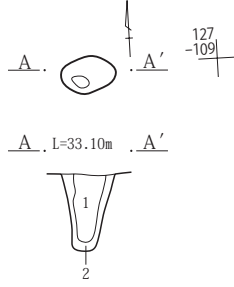
57号ピット



57号ピットA-A'

- 1 暗褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 2 黒褐色土 2層土中心、縮まりやや弱
- 3 暗褐色土 ローム10%、縮まりやや弱

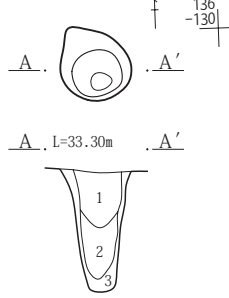
60号ピット



60号ピットA-A'

- 1 にぶい黄褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

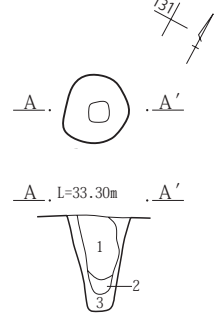
102号ピット



102号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 縮まり弱
- 2 暗褐色土 ローム2%、縮まり弱
- 3 にぶい黄褐色土 ローム10%、縮まり弱

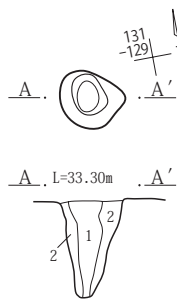
105号ピット



105号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 縮まり弱
- 2 灰黄褐色土 ローム10%、縮まり弱
- 3 にぶい黄褐色土 ローム40%、縮まり弱

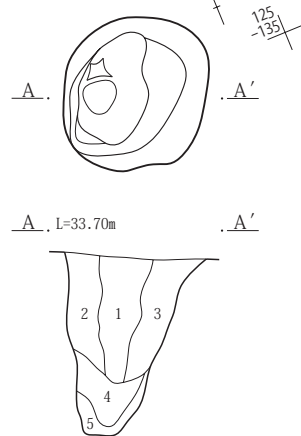
115号ピット



115号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 2層土を含む、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 縮まりやや弱

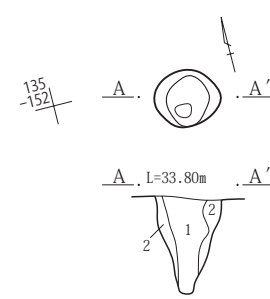
120号ピット



120号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒多量
- 2 にぶい黄褐色土 ローム40%
- 3 灰黄褐色土 ローム10%、ローム20%
- 4 黒褐色土 ローム粒多量、ローム小塊微量
- 5 にぶい黄褐色土 ローム粒少量

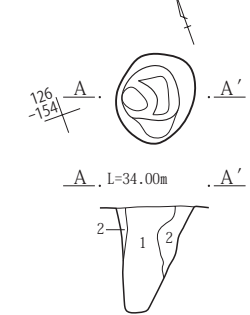
152号ピット



152号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりやや弱
- 2 灰黄褐色土 ローム15%、縮まりやや弱

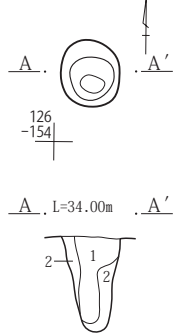
161号ピット



161号ピットA-A'

- 1 暗褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム40%、縮まりやや弱

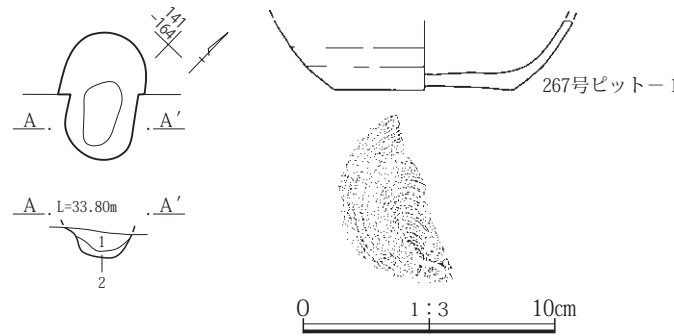
162号ピット



162号ピットA-A'

- 1 暗褐色土 ローム5%、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりやや弱

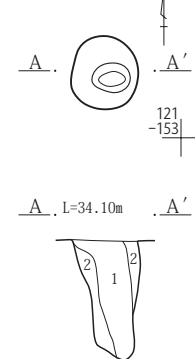
267号ピット



267号ピットA-A'

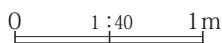
- 1 灰黄褐色土 ローム5%、炭化物を含む、しまりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、しまりやや弱

282号ピット



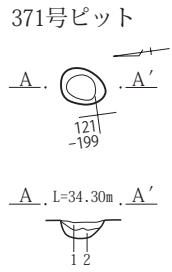
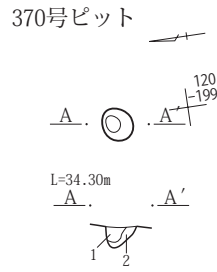
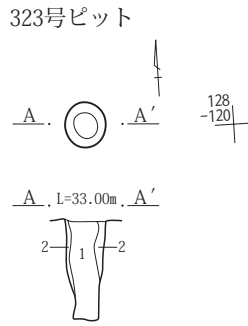
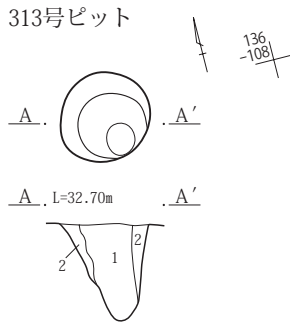
282号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒1%、縮まりやや弱
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、縮まりやや弱



第284図 1区57・60・102・105・115・120・152・161・162・267・282号ピットと出土遺物





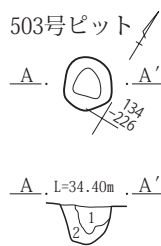
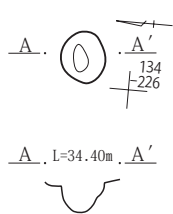
313号ピットA-A'

- 1 褐灰色土 ローム5%、炭化物粒微量、締まりあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム20%、締まりあり

323号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 締まりやや弱、粘性ややあり
- 2 灰黄褐色土 ローム20%、締まりやや弱、粘性ややあり

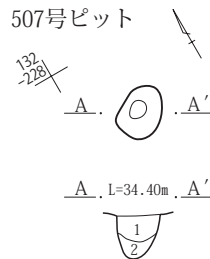
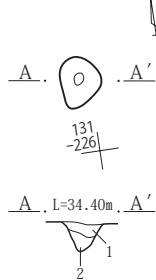
502号ピット



503号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム小粒少量、炭化物微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体、締まりやや弱、粘性少ない

506号ピット



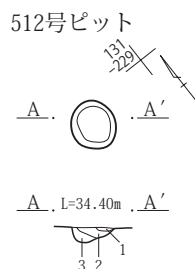
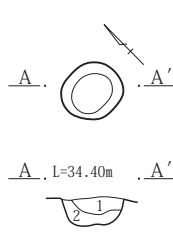
506号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～大粒・炭化物微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム主体、締まりややあり、粘性少ない

507号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ローム中粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 暗褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない

511号ピット



511号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 暗褐色土 炭化物粒・ローム小粒微量、締まりややあり、粘性少ない

512号ピットA-A'

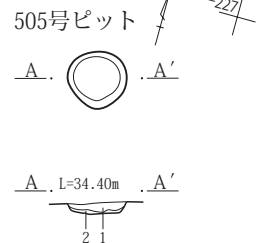
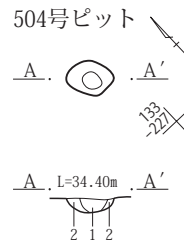
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・ローム小粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム小～大塊少量、締まりややあり、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 炭化物粒・ローム塊粒少量、締まりややあり、粘性少ない

370号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム10%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム40%、締まりややあり

371号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、炭化物粒・焼土粒微量、締まりややあり
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、締まりややあり



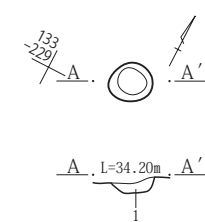
504号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム小粒・炭化物微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりややあり、粘性少ない

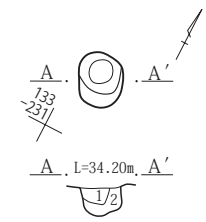
505号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～中粒少量・炭化物小～中粒微量、締まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ソフトローム主体、締まりややあり、粘性少ない

508号ピット



510号ピット

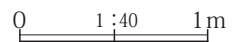


508号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム中粒少量、炭化物粒・焼土粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりややあり、粘性少ない

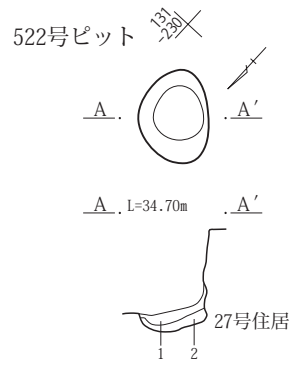
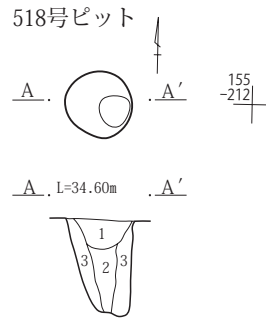
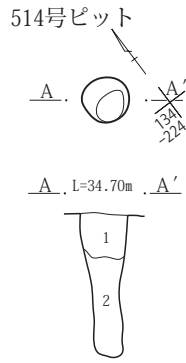
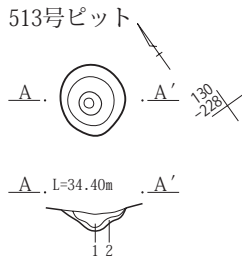
510号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム小～大粒少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 ローム中～大塊5%、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、締まりやや弱、粘性少ない



第285図 1区313・323・370・371・502～508・510～512号ピット

第3章 間之原遺跡の調査



513号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒・ローム微細粒微量
- 2 灰黄褐色土 ローム主体

514号ピットA-A'

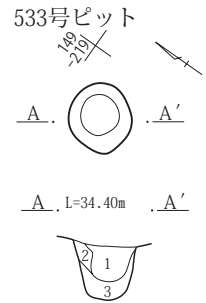
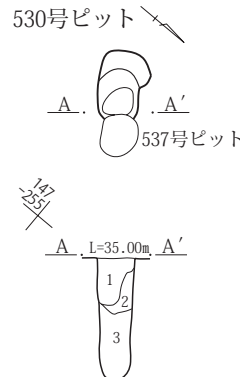
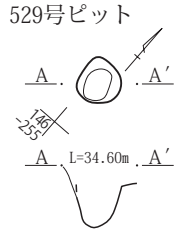
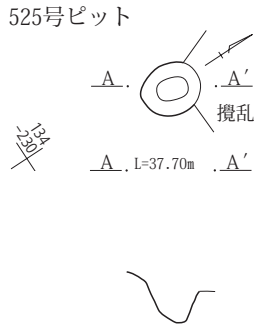
- 1 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石粒・ローム微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 1層土より黒味強い層、縮まりやや弱、粘性少ない

518号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム5%、ローム極小塊少量、炭化物微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 灰黄褐色土 炭化物微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 3 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりやや弱、粘性少ない

522号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・小塊5%、縮まりややあり、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム30%、炭化物極小粒微量、縮まりややあり、粘性少ない

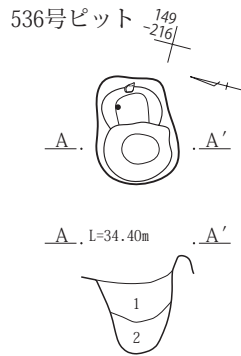
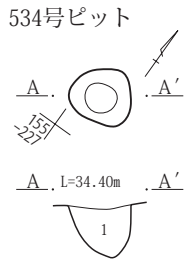


530号ピットA-A'

- 1 黒褐色土 ローム粒・小塊少量、炭化物小粒・灰白色軽石粒極少量、しまりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ローム土30%、焼土粒・灰白色軽石粒極少量、しまりやや弱、粘性少ない
- 3 黒褐色土 ローム粒・小塊5%、焼土粒・炭化粒極少量、しまりやや弱、粘性少ない

533号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 にぶい黄褐色土 ハードローム30%、縮まりやや弱、粘性少ない、壁崩落土
- 3 灰黄褐色土 ローム10%、縮まりあり

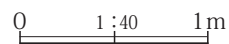
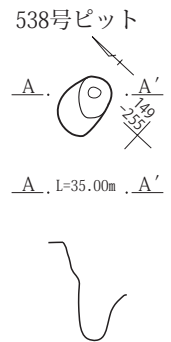
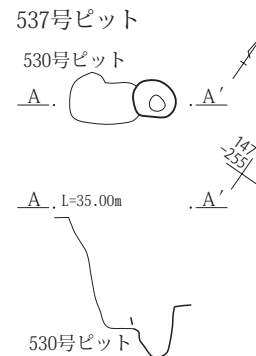


534号ピットA-A'

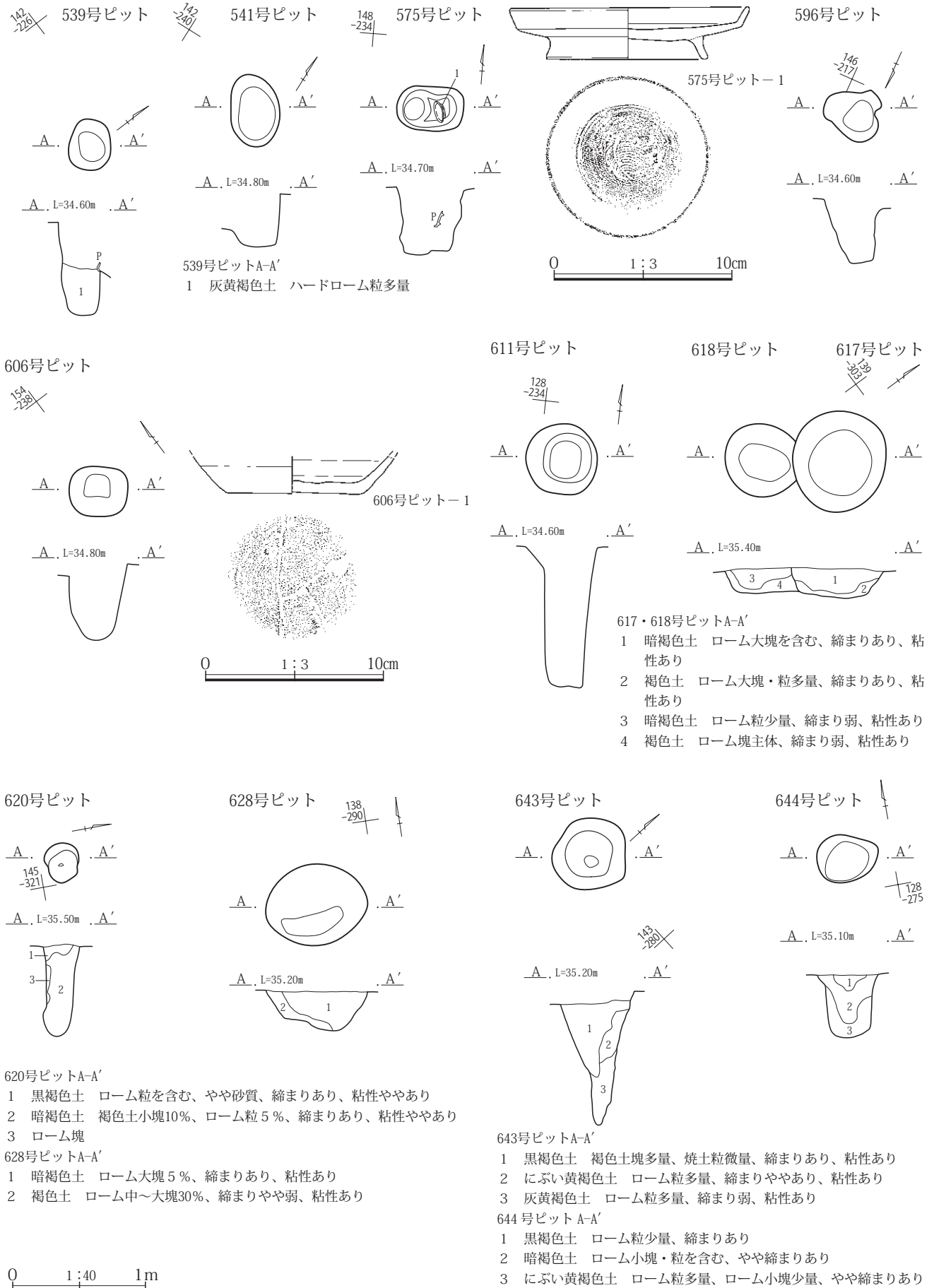
- 1 灰黄褐色土 ローム粒・極小塊少量、焼土粒・炭化物粒・灰白色軽石微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない

536号ピットA-A'

- 1 灰黄褐色土 ローム粒・小塊少量、焼土粒・炭化物中粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない
- 2 黒褐色土 ローム極小塊少量、焼土粒・炭化物微細粒微量、縮まりやや弱、粘性少ない



第286図 1区513・514・518・522・525・529・530・533・534・536～538号ピット



第287図 1区539・541・575・596・606・611号ピット・3区617・618・620・628・643・644号ピットと出土遺物

## 6 溝

1区で溝1条を確認した。1区2号溝は、現在太田市と大泉町を分けて東西に走行する道路際に沿って直線状に掘り込まれた溝である。

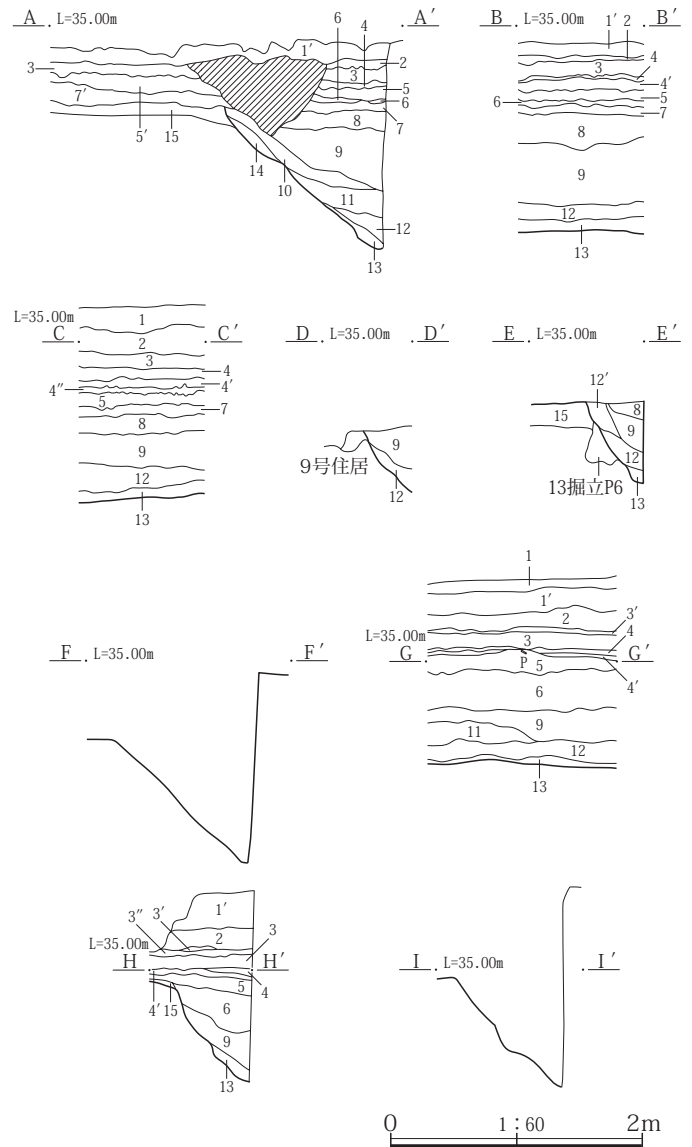
### 2号溝(第288・289図 PL.74)

X=198~269、Y=-117~127に位置する。1区2号溝が1区9号竪穴住居埋没土を掘り込み、1区13号掘立柱建物柱穴P6を1区2号溝が掘り込む。調査区南境に位置するため、一部確認できなかった部分があるが東西方向にほぼ直線状に走行すると考えられる。2号溝東端と西端は調査区外となり全体を確認することができなかったが、調査区境の道路に沿ってさらに直線状に延長すると想定され、全体の規模は不明である。確認できる規模は、全長70m、幅0.3~1.2m、深さ0.7~1.5mを測る。底面の標高が測定できないため、正確な比高や勾配は不明である。底面から溝北側の立ち上がりまでを調査した。確認できた幅が最大約1.2mであることから、北側の立ち上がりの傾斜で溝の底からV字状に南側に折り返してみると全体の幅は約2.4m以上の大溝となると想定される。

土層断面の観察から埋没土にレンズ状の堆積が認められることから自然埋没と考えられる。底面付近にはローム塊が混入しているが、砂質土などの堆積は認められず、水流の痕跡などは確認できなかった。埋没土上層となる第3層の砂層は、火山灰分析によってAs-B二次堆積層であることが確認された。埋没土の最下層からも僅かにAs-Bが検出されたが一次堆積ではない。土層断面の観察によって、埋没土上層である第3'層は約5cmの硬化層であり、火山灰分析によって第5層中にも硬化層が認められることから、明確な時期は不明であるがAs-B降下以降に溝が埋没する過程で一定期間、道として機能していた可能性もある。

出土遺物は、非掲載遺物であるが埋没土から6~7世紀の土師器片135点(小型製品20、大型製品115)、須恵器6点(小型製品2、大型製品4)が出土した。

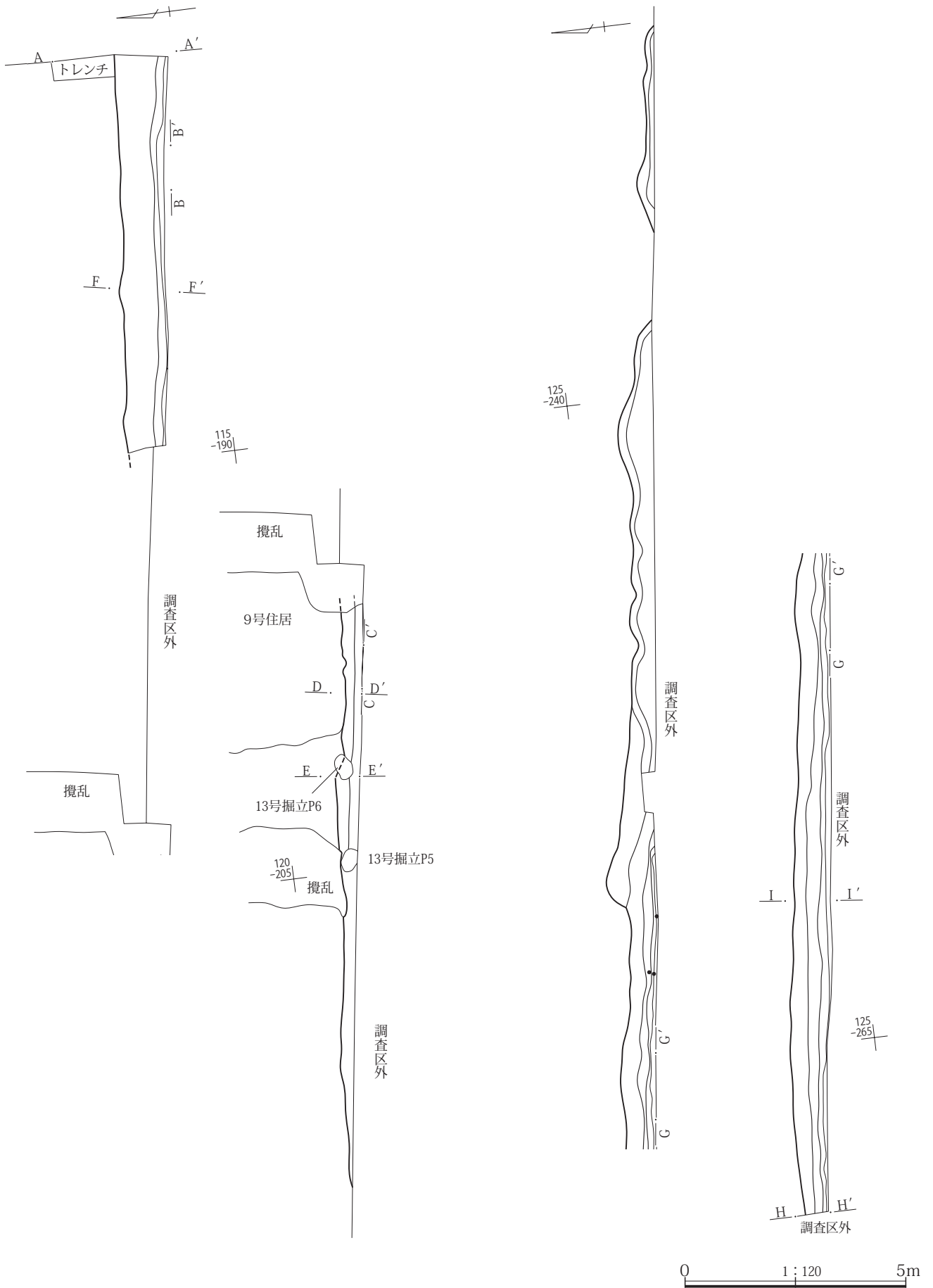
西側に位置する間之原遺跡3区や間之原東遺跡1区では2号溝の延長部分を確認することができなかったため、道路に沿ってさらに直線状に延長する可能性が高い。現在太田市と大泉町を分断する道路が東西方向に走行していることから、境界溝として構築された可能性もある。掘削時期は、As-B以降の可能性はあるが分からない。



### 2号溝

- 1 基本土層のI層土
- 1' 基本土層のI'層土
- 2 灰黄褐色土 3層土の砂質土・ソフトローム20%、1'層土の耕作土を含む
- 3 砂質土主体 明褐色砂と灰白色砂主体、灰黄褐色土30%
- 3' 灰黄褐色土 締まりの非常に硬い層、砂質土5%、硬化、道路状の遺構があったか
- 3'' 3'層土に近似、締まりは3'より弱
- 4 灰黄褐色土 砂質土、灰白色軽石(A s - B) 30%、灰白~黄褐色粒2~3%
- 4' 4層土の下だが3層土に近似し、5層土より砂を多く含む
- 4'' 4'層土に比べ5層土がやや多く混入する
- 5 灰黄褐色土 4層土の砂質土10%、下層の6層土5%
- 5' 黒褐色土 5層土に比べ色調暗い
- 6 にぶい黄褐色土 2次堆積ローム主体
- 7 灰黄褐色土 2次堆積ローム10%
- 7' 黒褐色土 7層土に比べ色調暗い
- 8 灰黄褐色土 2次堆積ローム主体、焼土粒微量
- 9 灰黄褐色土 2次堆積ローム中心、7層土に比べ色調暗い
- 10 灰黄褐色土 ローム塊5%、焼土粒微量
- 11 黒褐色土 9・10層土に比べ黒味がかかる、ローム塊5%
- 12 灰黄褐色土 2次堆積ローム中心
- 13 にぶい黄褐色土 ハードローム小塊20%
- 14 にぶい黄褐色土 ローム30%
- 15 にぶい黄褐色土 ローム漸移層

第288図 1区2号溝(1)



第289図 1区2号溝(2)



## 第5節 遺構外の出土遺物

(第290～303図、PL.98～101)

1区～3区では、表土中や遺構埋没土などから遺構に伴わない遺物が出土し、本節において遺構外の出土遺物として掲載した。縄文時代の他に中近世から近現代に至る遺物も多数出土したが、当該時期の遺構はなかった。

出土した遺物について時代別にみると、縄文時代の遺物は遺構確認面及び遺構埋没土中などから、前期を主体に早期、前期、後期の土器片が出土し、このうち67点を図示した。早期は野島式(第290図1)、前期は有尾式(第290図2～55)、諸磯b(第290図56・58)、諸磯c(第290図57・59)、浮島式(第290図60)が出土した。中期は加曾利E1(第291図61)、加曾利E2(第291図62)、加曾利E3(第291図63)が出土し、後期では称名寺1式(第291図64)、堀之内1式(第291図65)、堀之内2式(第291図66・67)が出土した。非掲載遺物は、前期の有坂式など繊維土器が1,604点、諸磯式40点、中期から後期37点であり、出土遺物全体の約95%が繊維土器であった。

石器は、表土中や遺構確認面などから石鏃(第292図68～72)、石錐(第292図73)、尖頭器(第292図74)、打製石斧(第292図75～78)、石皿(第292図79)、多孔石(第292図80)が出土した。古墳時代や奈良・平安時代に比定される竪穴住居から出土した石鏃、打製石斧、多孔石については埋没土に混入した遺物である。非掲載遺物は、石核3点、二次加工ある剥片2点である。

間之原遺跡1区～3区の調査区内では縄文時代の遺構はなかったが、土器及び石器の出土数から判断し、1区～3区の周辺に前期を中心とする縄文時代の遺構が発見される可能性がある。

古墳時代から奈良・平安時代の遺物は、墨書が認められる土師器杯(第293図81・83)、土師器杯(第82・84～87)、土師器大型杯(第293図88)、須恵器杯(第293図89～91)、須恵器蓋(第293図92)、須恵器鉢(第293図93)、須恵器小型壺(第293図94)、須恵器壺(第293図95)、土師器甕(第293図96～100・102・103)、土師器甕(第294図101)、須恵器甕(第294図104・106)、須恵器甕か(第294図105)、手捏土器(第294図107～112)、土錘(第294図113)、土製品の紡輪(第294図114)が確認面や表土中から出土した。非掲載遺物は、土師器片10,170点(小型製品

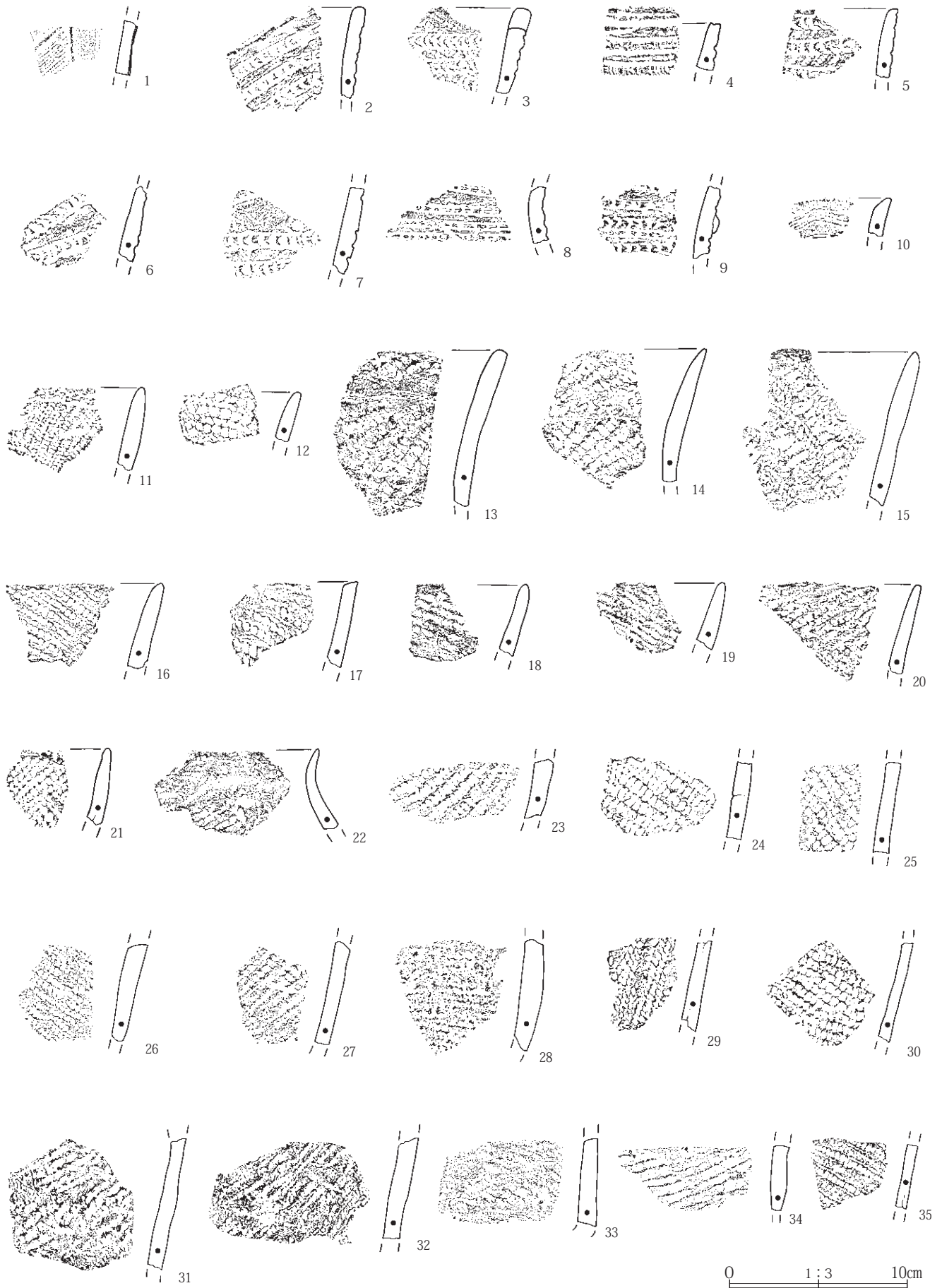
2,274、中型製品56、大型製品7,811、不明29)、須恵器片721点(小型製品360、大型製品361)、灰釉陶器片8点(椀・皿4、瓶類4)にのぼる。

金属類では、鉄製品(第295図121～123)の他、羽口(第295図115～120)が出土する。

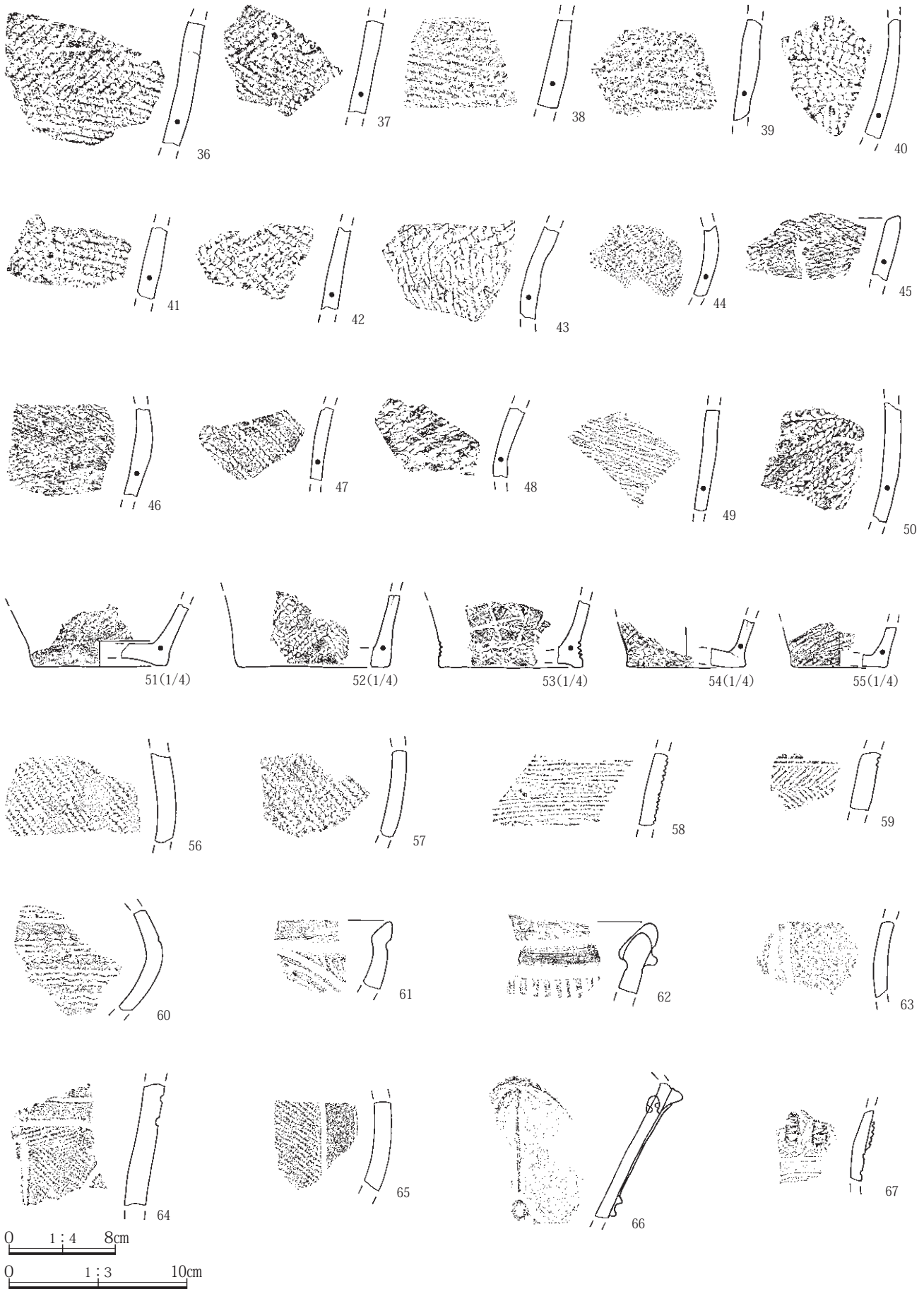
石器は、石製紡輪(第295図124)、白玉(第295図125～127)、砥石(第296図128～131)、磨石(第296図132～134)、石製品(第296図135)、礫石器原石(PL.99-136)、剥片石器剥片(PL.99-137)が出土し、非掲載遺物は石製品1点、磨石1点、磨石?2点である。

中近世から近現代の遺物は、表土中などから青磁染付碗(第297図138)、碗(第297図139)、腰鍔碗(第297図140)、皿(第297図141～157・第298図158～167)、植木鉢(第298図168・169)、焙烙(第298図170～173・第299図174～188)、(PL.100-189～208、PL.101・209～212)、鍋(第300図213)、香炉か(第300図214)、風炉か火鉢(第300図215)、火鉢か(第300図216～218)、置輪(第300図219・220)、置輪(PL.101-221)、甕(第300図222・223)、羽口(第301図224)、不明棒状土製品(第301図225～232・第302図233～238・第303図239)、(PL.101-240～244)、十能瓦(第303図245～247・249・251・253)、棧瓦(第303図248)、十能瓦軒先部(第303図250・254)、軒先瓦(第303図252・255)が出土した。邑楽郡大泉町北小泉は、明治時代から大正時代にかけて窯業が盛んな地域であった。瓦製造の他、小泉焼として焙烙鍋などの土器製造が昭和50年代後半まで行われていた。近隣住民によると1区から調査区外にかけて廃棄坑などを掘り、小泉焼の焙烙鍋などを廃棄していたらしい。発掘調査では遺構の確認はできなかったが、瓦や焙烙などが多量に出土している状況から、近世以降の廃棄坑などが調査区内にあった可能性がある。非掲載遺物は、中世では在地系鉢・鍋1点、近世では国産磁器2点、国産施釉陶器10点、国産焼締陶器3点、近世・近代では在地系焙烙(平底)1,717点、在地系焙烙(丸底)8点、在地系鍋35点、在地系焙烙・鍋(主に底部)2,831点、在地系火鉢・竈など472点、在地系皿1,078点、在地系棒状不明土製品6点、在地系土器置輪8点、羽口9点、十能瓦486点、瓦12点、近現代では陶磁器27点など合わせて6,705点にのぼる。

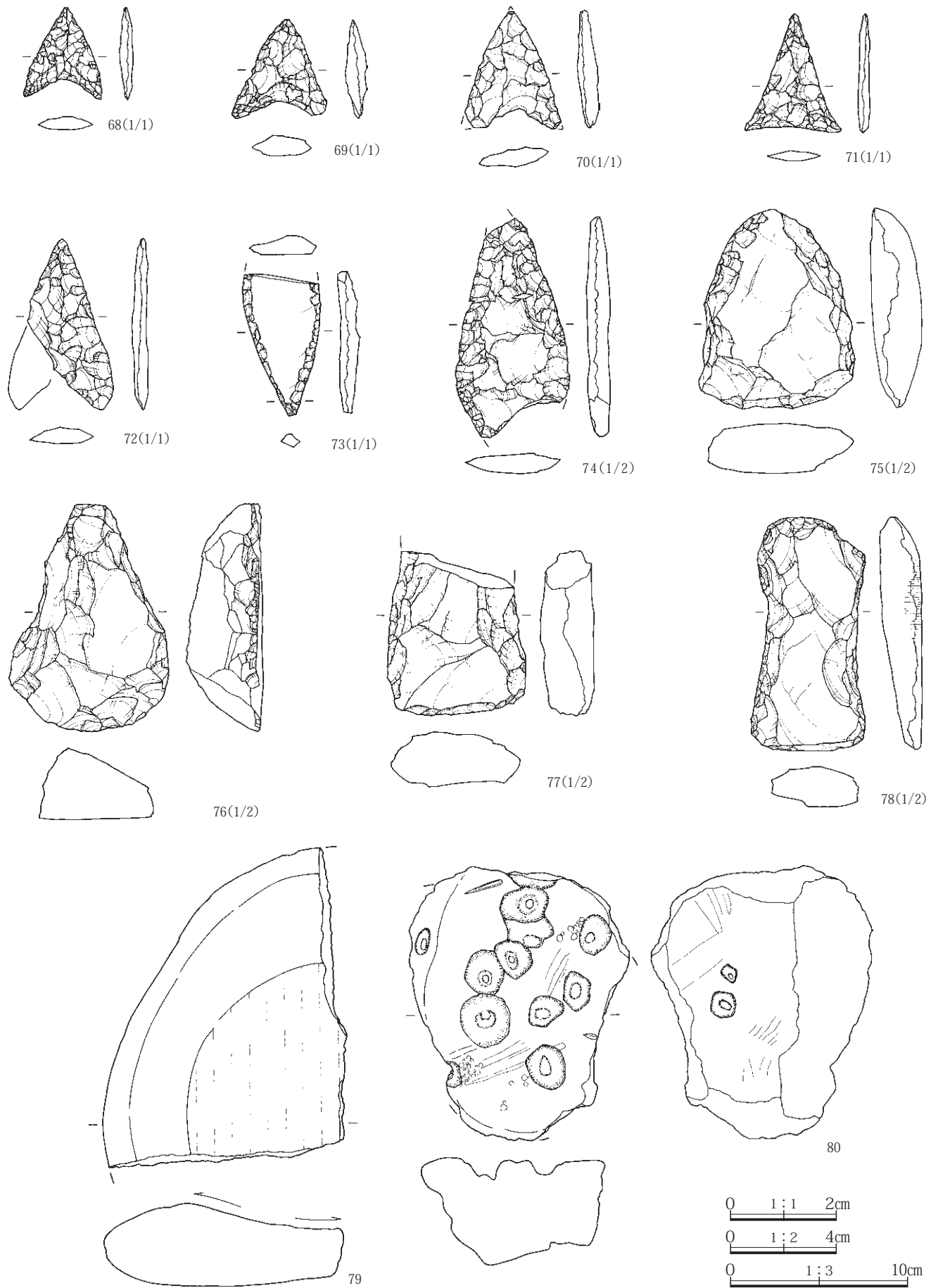
3区の表土中からは、層塔笠部(PL.101-256)や石灯籠火袋部(PL.101-257)などの石造物が出土した。



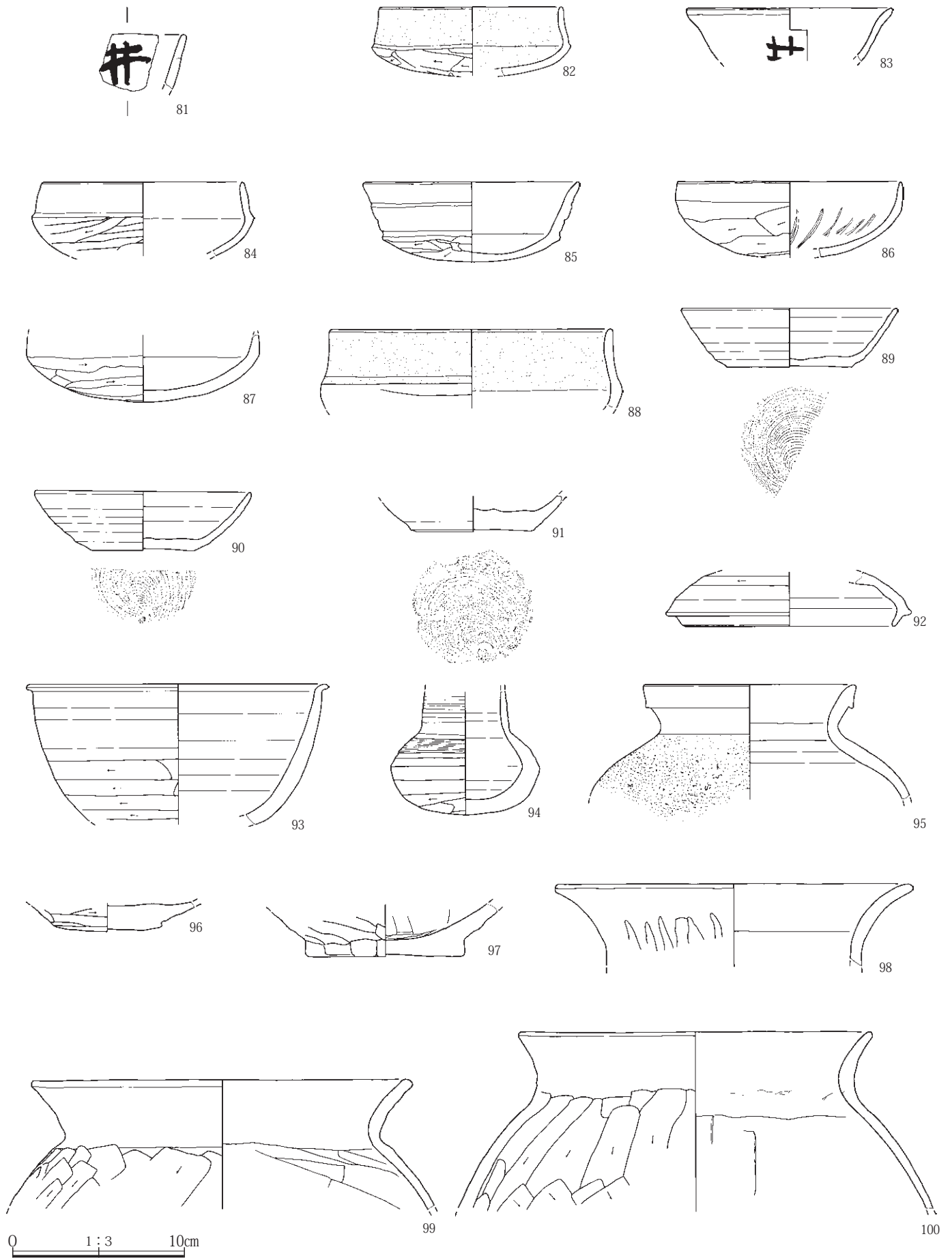
第290図 遺構外の出土遺物(1)



第291図 遺構外の出土遺物(2)

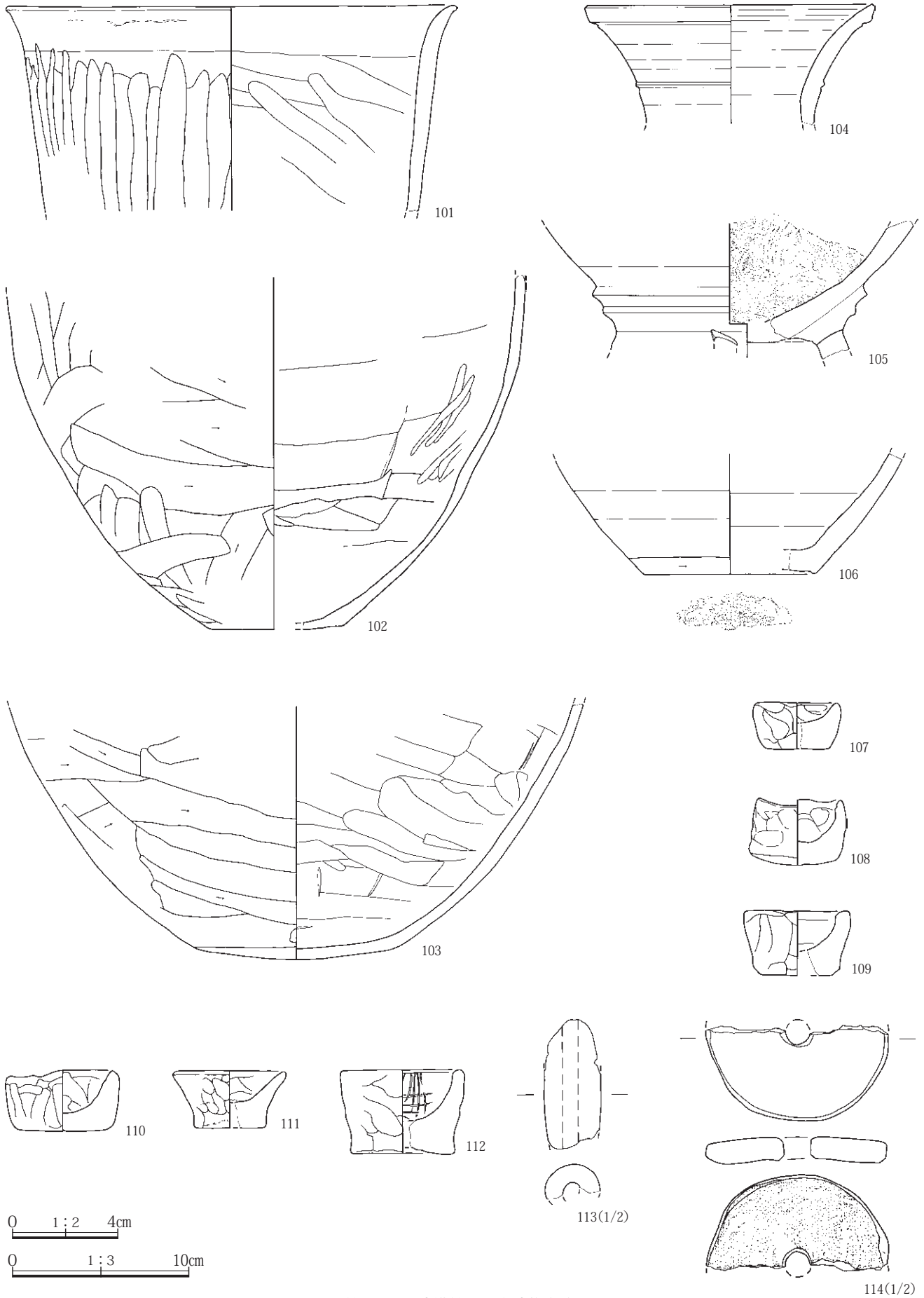


第292図 遺構外の出土遺物(3)

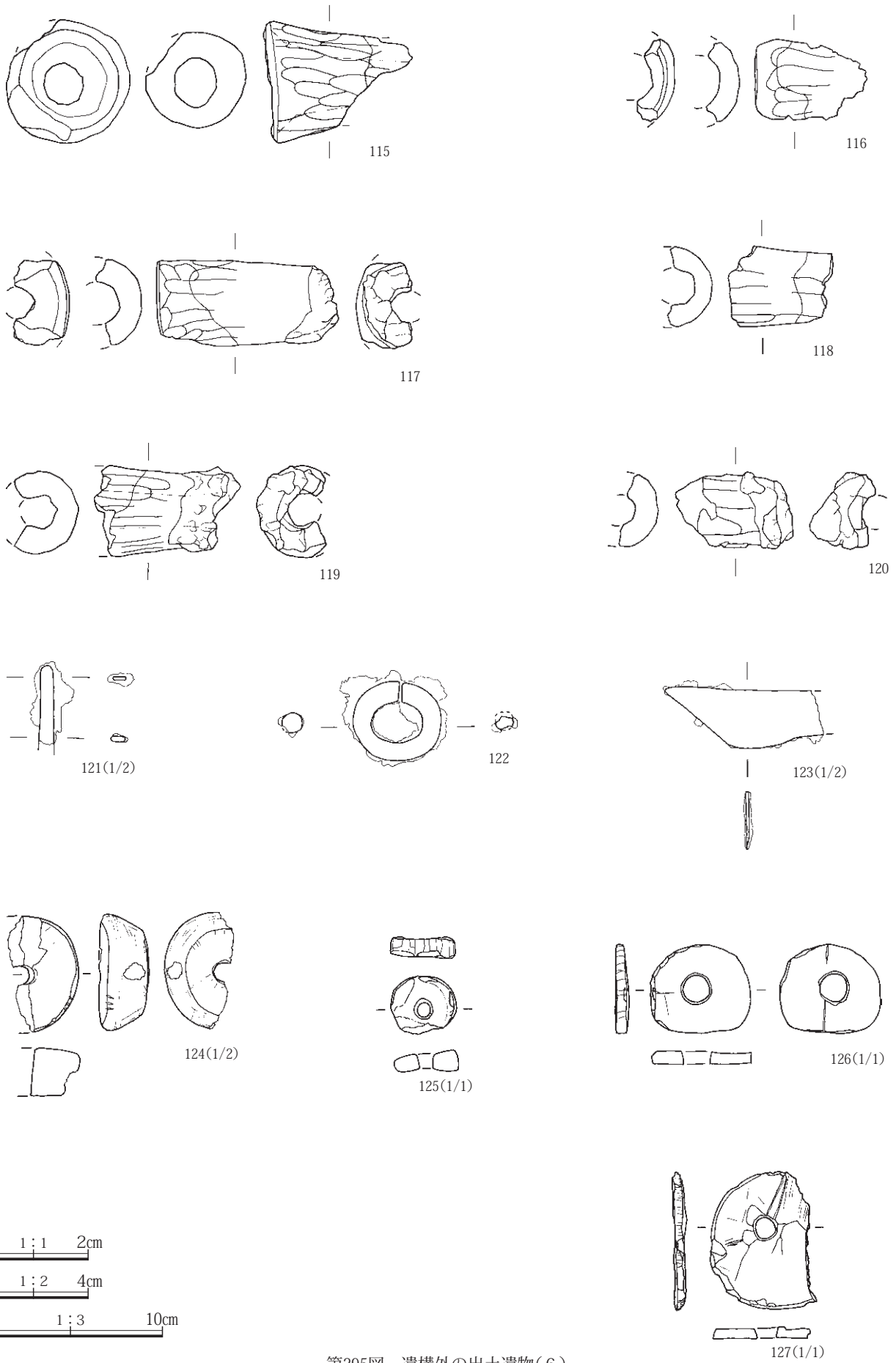


第293図 遺構外の出土遺物(4)

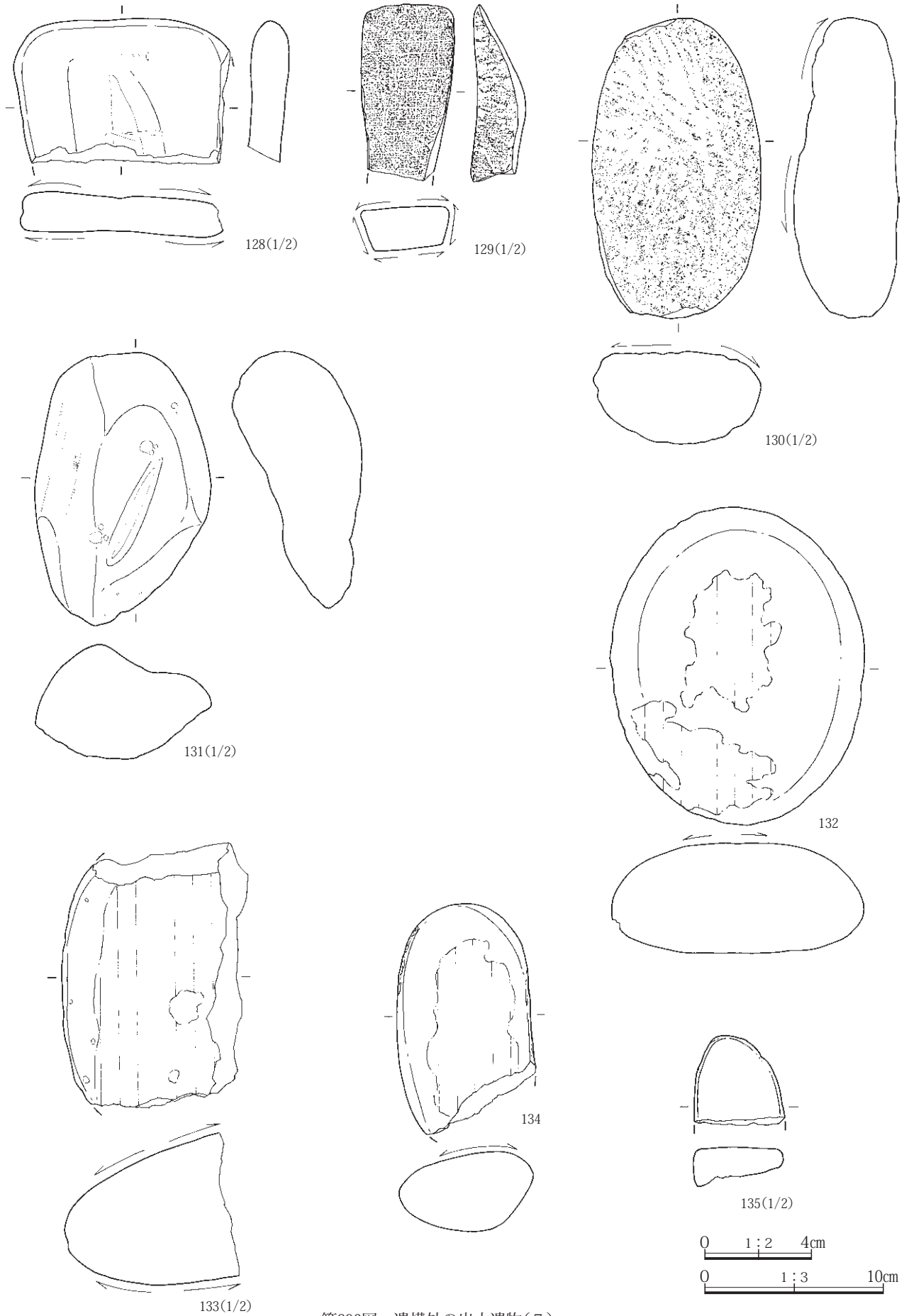




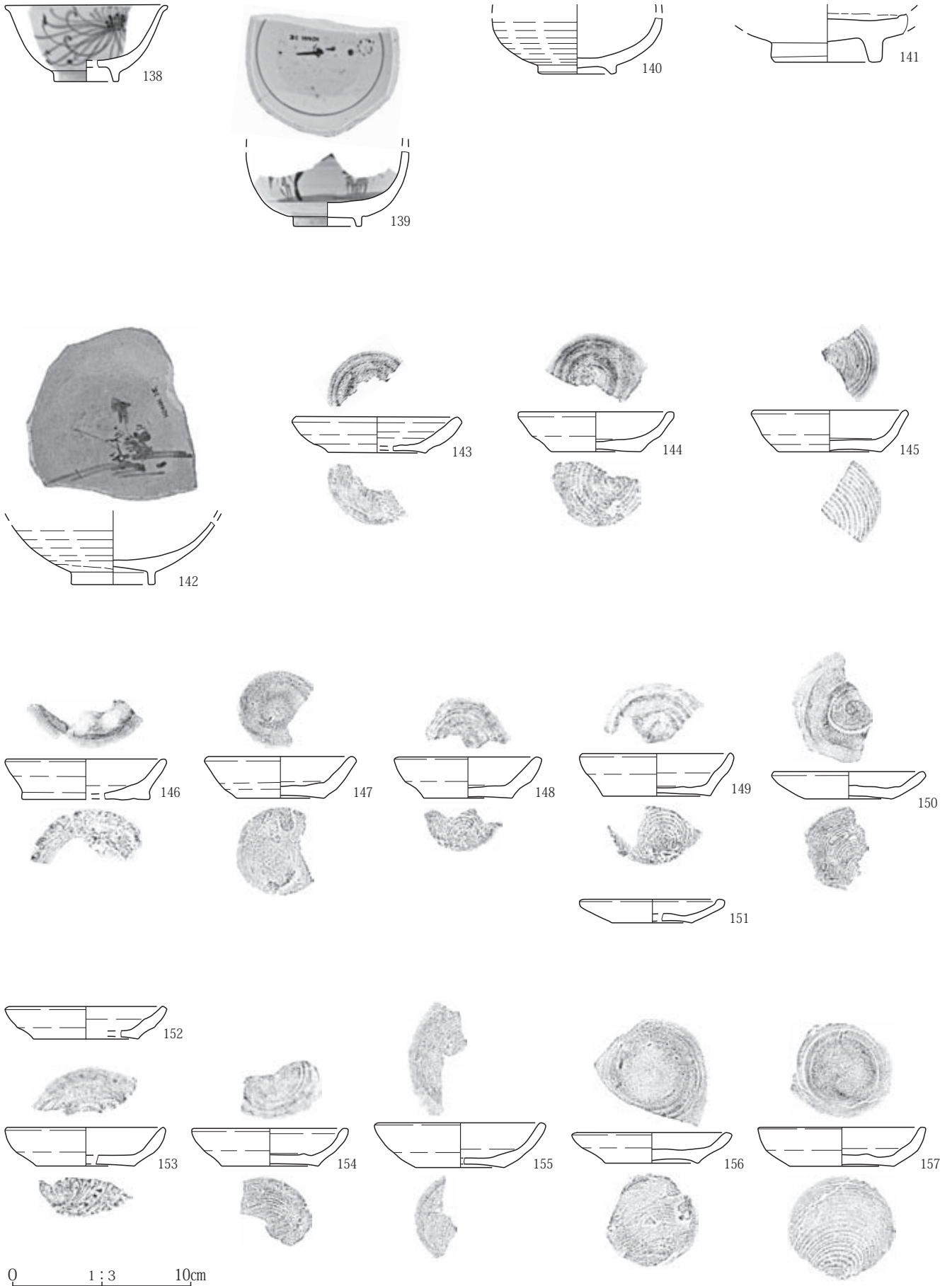
第294図 遺構外の出土遺物(5)



第295図 遺構外の出土遺物(6)



第296図 遺構外の出土遺物(7)

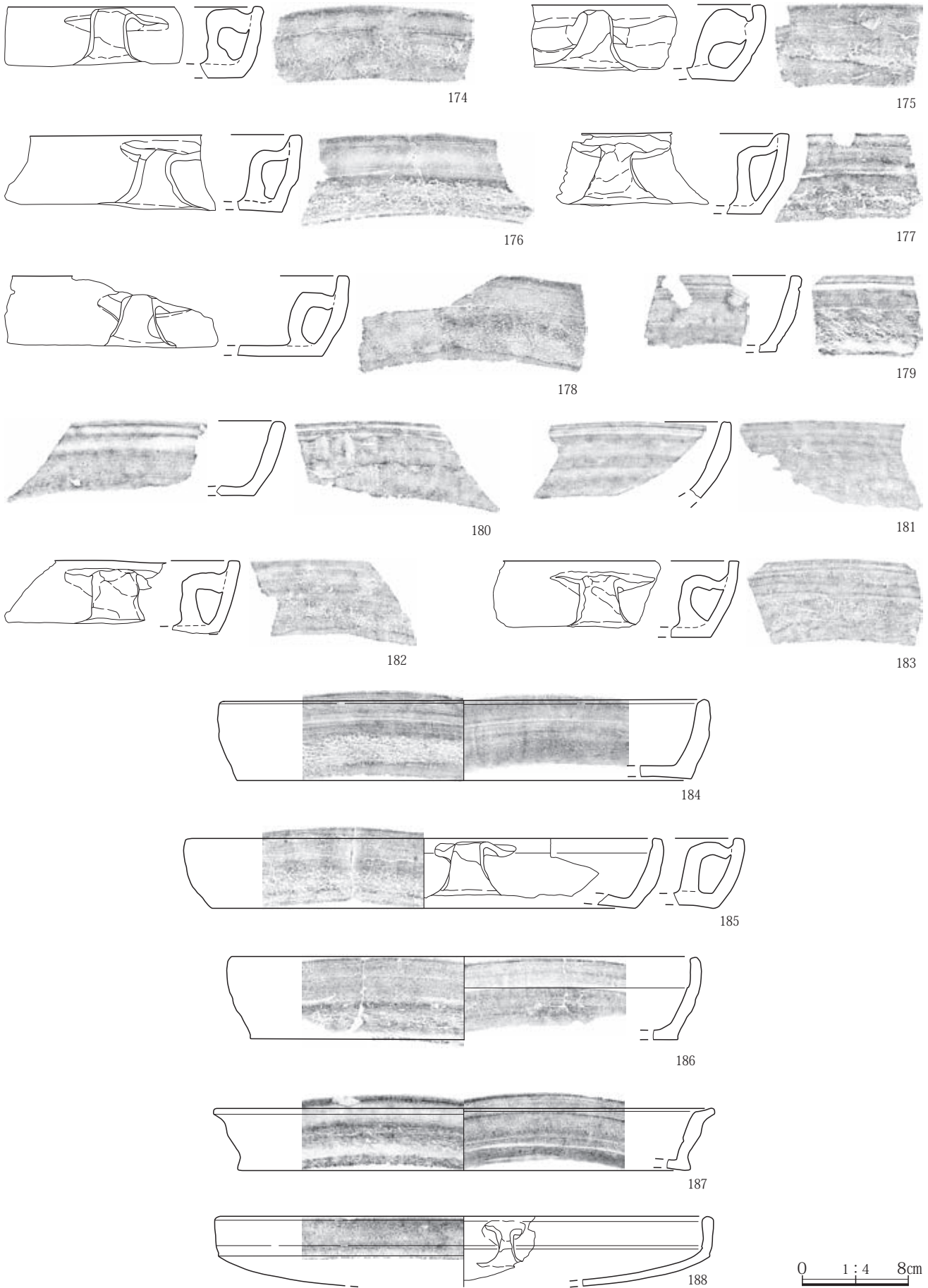


第297図 遺構外の出土遺物(8)

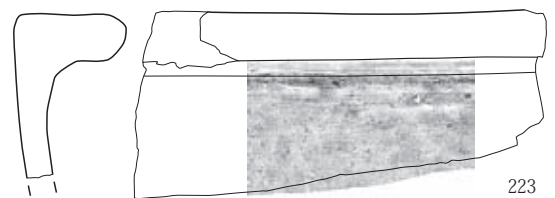
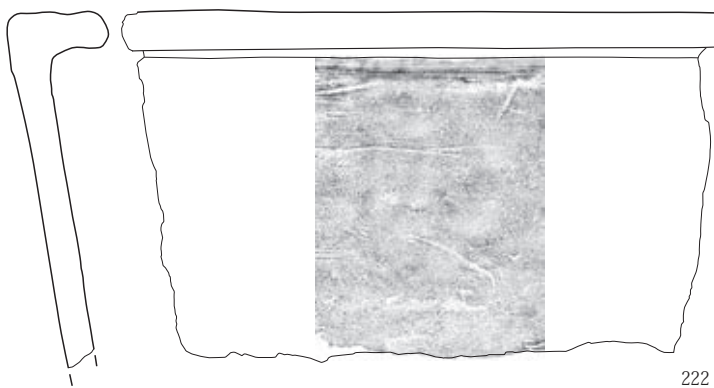
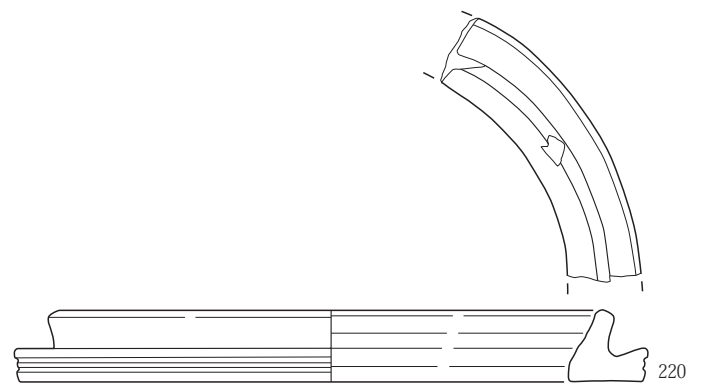
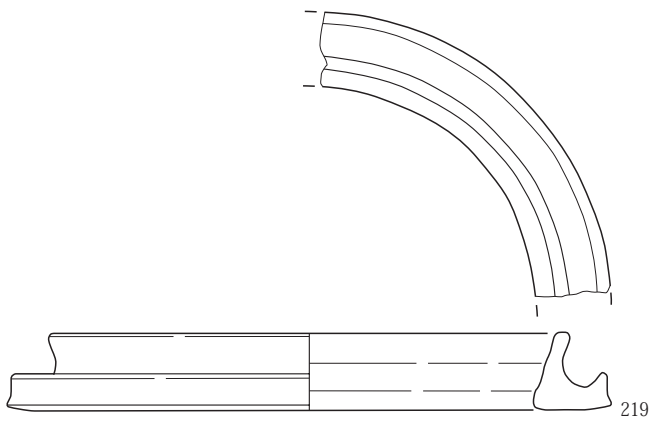
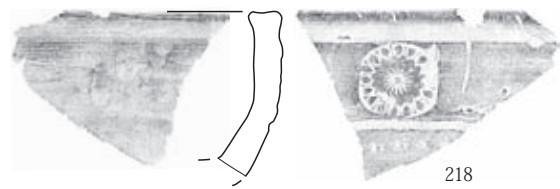
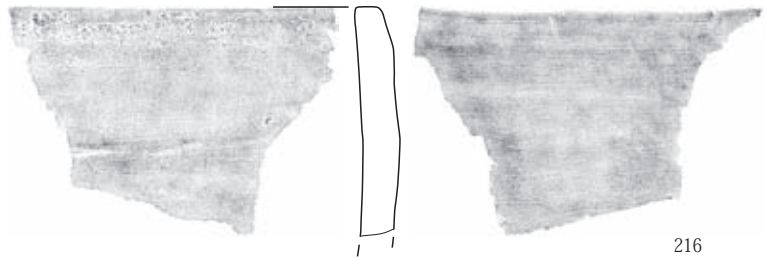
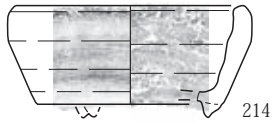
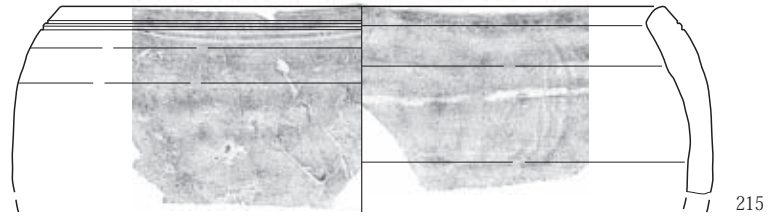
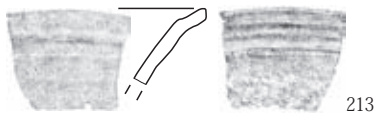


第298図 遺構外の出土遺物(9)





第299図 遺構外の出土遺物(10)



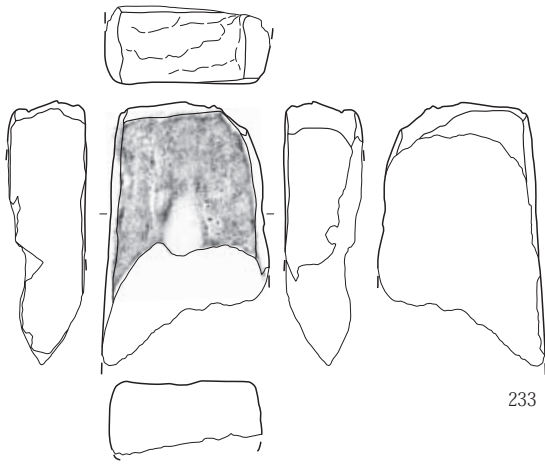
0 1:4 8cm

第300図 遺構外の出土遺物(11)

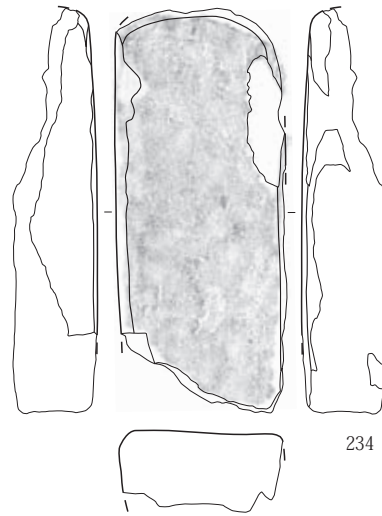
第3章 間之原遺跡の調査



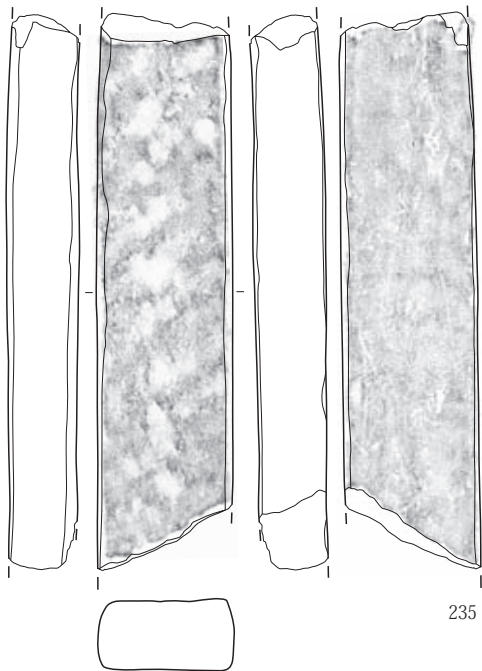
第301図 遺構外の出土遺物(12)



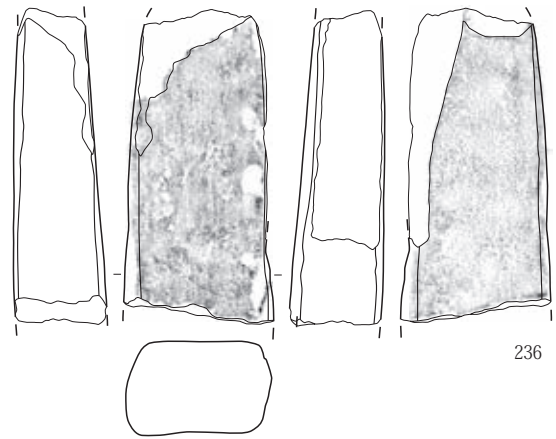
233



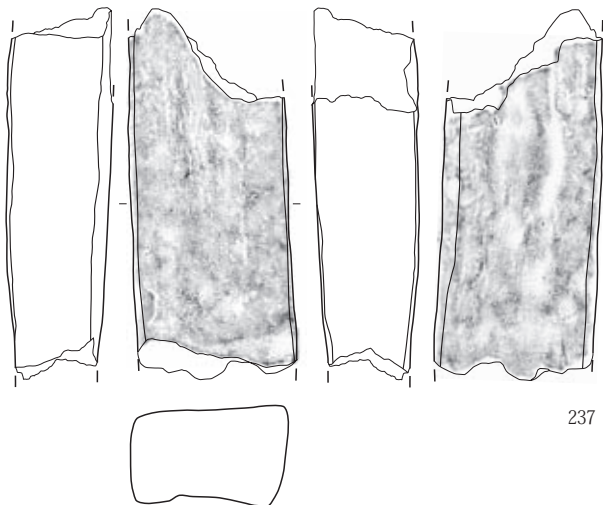
234



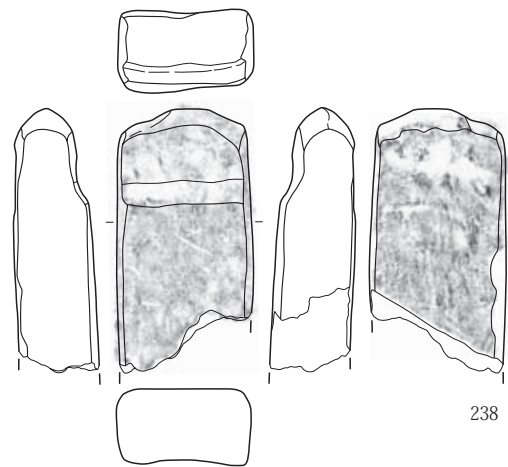
235



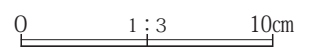
236



237

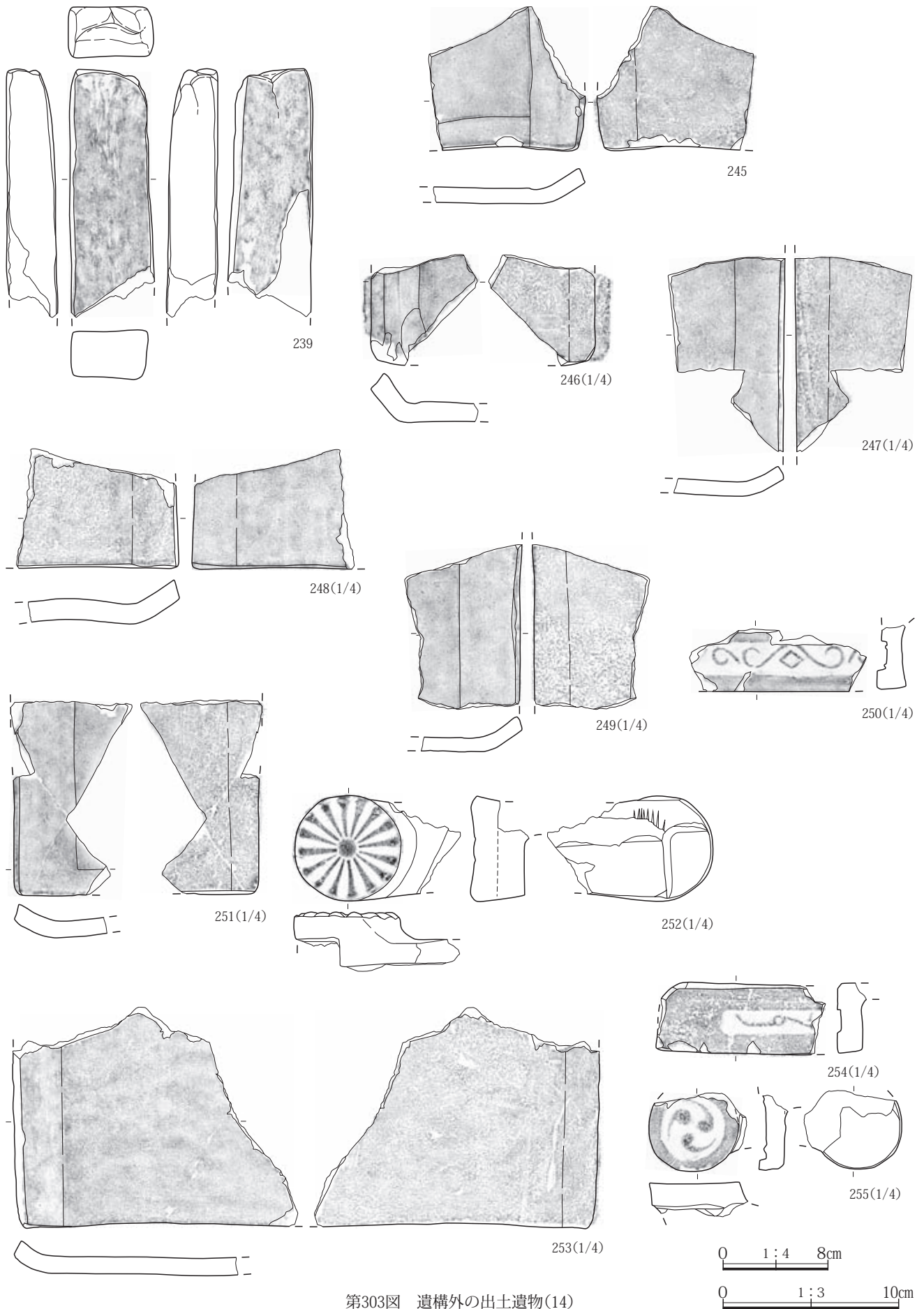


238



第302図 遺構外の出土遺物(13)





第303図 遺構外の出土遺物(14)

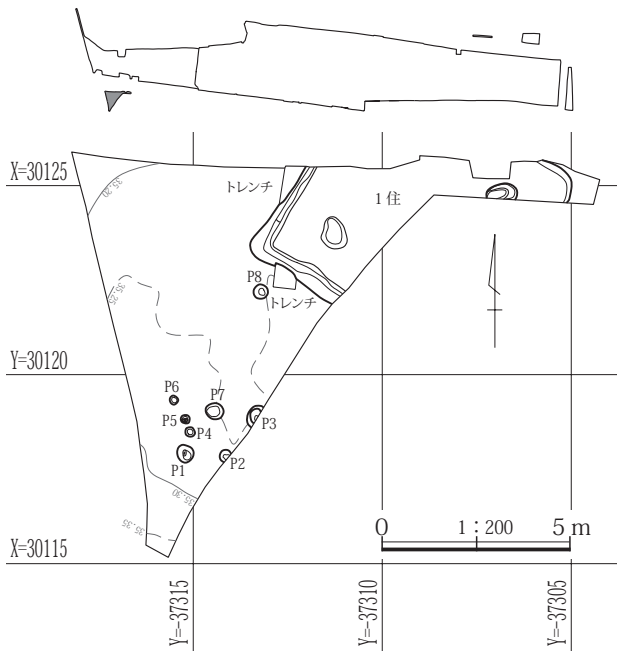


## 第4章 間之原東遺跡の調査

### 第1節 間之原東遺跡の概要

間之原東遺跡1区は、西側で県道38号足利千代田線に接するため調査区の形状が略三角形となっている。調査区北側には、東西方向に走行する道路を挟み間之原遺跡3区が所在する。平成24年度に間之原遺跡3区と並行して間之原東遺跡1区の発掘調査を実施し、古墳時代の竪穴住居とピットを確認した。

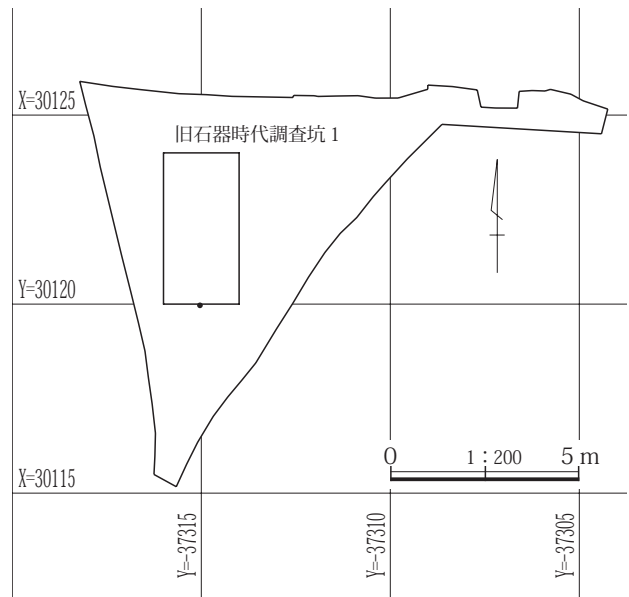
1区における遺構の分布状況は、以下のような特徴がみられる。第3章のとおり間之原遺跡1～3区では、これまでに古墳時代から平安時代に至る竪穴住居、掘立柱建物、土坑・ピット、溝、井戸などが確認された。また、2章第2節1で述べたとおり平成23年の大泉町教育委員会による間之原東遺跡1区東隣の発掘調査で古代の住居1軒が確認されている。東西方向の道路から南側に位置する間之原東遺跡1区でも古墳時代の竪穴住居が存在することが分かり、古墳時代から平安時代に至る集落がさらに広範囲に広がる可能性が高くなった。調査区北西部は、ローム面まで現代の攪乱が及んでいたため遺構を確認することができなかったが、調査区南側からピットを確認した。



第304図 間之原東遺跡1区全体図

### 第2節 旧石器時代の調査

古墳時代の竪穴住居とピットの発掘調査終了後に、旧石器時代の調査を実施した。調査地点は第305図のとおりである。調査区に2m×4mの旧石器時代調査坑を1カ所設定し、暗色帯下層となる第XI層まで約1.0m掘削した。現場作業員による手作業によって慎重に掘り下げながら確認したが、当該時期の遺構や遺物は出土しなかった。



旧石器時代調査坑  
35.30m

#### 旧石器時代調査坑

- V層 泥い黄褐色土(10YR4/3) ローム漸移層、基本土層IV層より締まり弱
- VII層 泥い黄褐色土(10YR5/4) ローム層を含む、基本土層VI層土をやや含み締まりは同じ、やや粘性あり
- VIII層 黄褐色土(10YR5/6) ローム層、ローム塊を含む、締まりあり、やや粘性あり
- VIII'層 黄褐色土(10YR5/6) 極めて固いローム中心層、白色細粒を含む黄褐色土(10YR5/6) ローム層、ローム塊下層に含む
- IX層 黄褐色土(10YR5/6) ローム層、締まりあり、やや粘性あり
- X層 泥い黄褐色土(10YR5/3) ローム層、締まりあり、やや粘性あり
- XI層 灰黄褐色土(10YR4/2) 暗色帯 IX層に比べ締まり弱く、粘性あり
- XI'層 泥い黄褐色土(10YR5/3) 暗色帯下層、XI層よりやや暗い色調で粘性は同じ

第305図 間之原東遺跡 旧石器時代調査坑位置図と土層断面図

### 第3節 古墳時代以降の遺構と遺物

発掘調査は、ローム漸移層(基本土層第V層)上面を遺構確認面として竪穴住居1軒、ピット8基を確認した。以下のとおり遺構ごとに記す。

#### 1 竪穴住居

##### (1)古墳時代の竪穴住居

1区で確認した古墳時代の竪穴住居は1軒である。調査区北境などに位置するため部分的な調査となった。

##### 1号竪穴住居(第306~309図 PL.75・102)

**位置** X=122~126、Y=-304~314

**形状・規模** 調査区北境と南東境に位置し、全体の形状や規模は不明。確認できた南辺2.78m、西辺2.60m、壁高南壁48cm、西壁36cmである。住居北東隅と南西隅の一部を基に推定すると形状は方形で、東西及び南北6m以上の規模と考えられる。

**主軸方向** 北西-南東か。

**重複** なし。

**埋没土** 土層断面の観察から、ローム粒やローム塊、褐色土塊を含む黒褐色土や暗褐色土などにより埋没する。

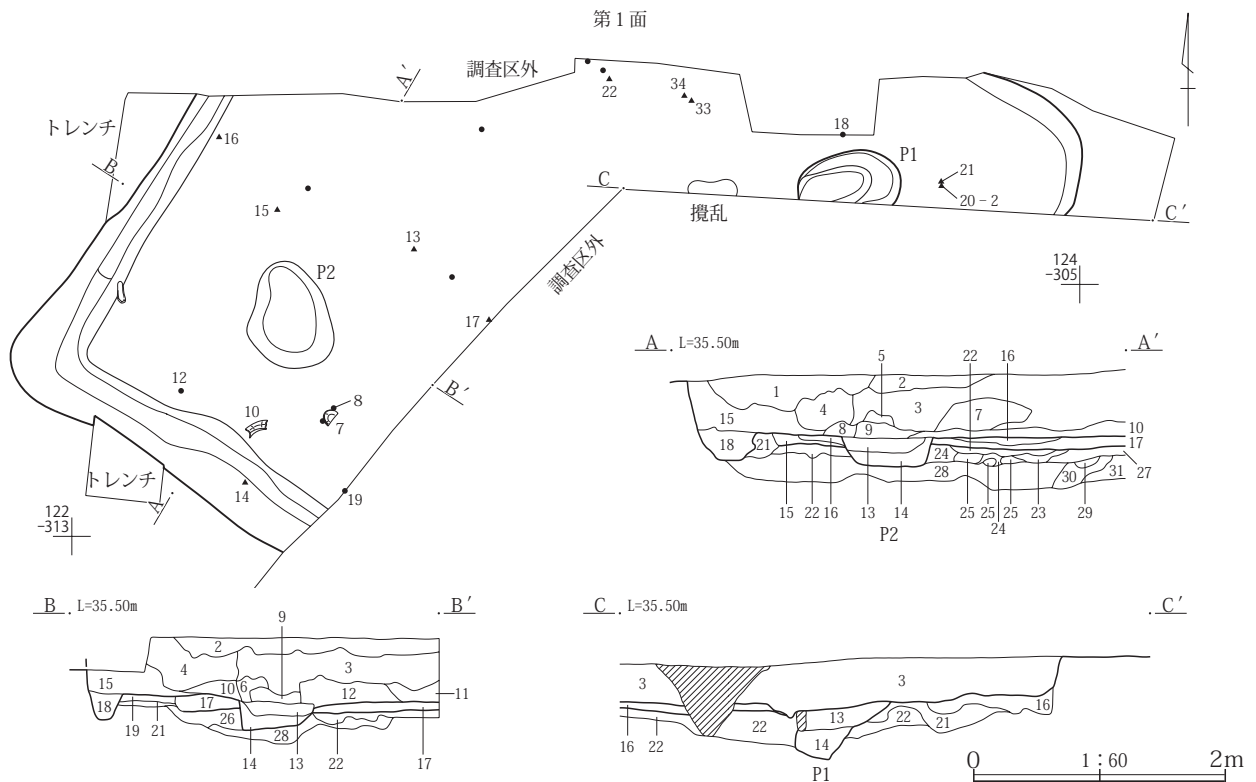
壁際の三角堆積やレンズ状の堆積がみられず人為的な埋戻しと考えられる。

**床面** 床面精査によって住居の建て替えを確認した。新規の住居である第1面の床面は、壁際に比べ中央部が1~2cm低くなるが、使用による明瞭な硬化面は確認できなかった。南壁と西壁を掘り広げ住居を拡張していた。ローム小塊及びローム小~中粒を含む黒褐色土によって床面を構築する。第2面となる古い住居の床面は、硬く締まる第15・17層より下層である。ローム中~大塊、ローム粒を含む暗褐色土で埋戻し床面を構築していた。

**カマド** 調査できる範囲が狭いため床面精査及び掘り方調査でも確認できなかった。第2面となる床面の北壁中央部付近には、焼土、炭化物、粘土などが散在し、西壁際にも焼土範囲を一部確認した。北壁にカマドを付設していた可能性が高い。

**貯蔵穴** 床面精査及び掘り方調査を行ったが確認できなかった。

**周溝** 南壁と西壁のコーナー部分で確認する。第1面の壁際直下に深く掘り窪められている。規模は、幅20~40cm、深さ12~24cmを測る。北東隅では周溝を確認できなかった。第2面の床面では、平面及び土層断面の観察でも周溝を確認することができなかった。



第306図 1区1号竪穴住居(1)

**柱穴** 北東と南西の対角線上に2基のピットを確認し、対角線上に位置することから主柱穴と考えられる。形状及び規模は、P1(楕円形、長径83cm、短径45cm以上、深さ43cm)、P2(不定形、長径85cm、短径67cm、深さ18cm)である。埋没土にローム粒・塊、焼土、炭化物を含み、土層断面の観察からも明瞭な柱痕は確認できなかった。P2と重複するP3(不定形、長径54cm、短径38cm、深さ33cm)は、掘り方調査によって確認した。遺構確認状況からP3が古く、第2面の床面に伴う主柱穴と考えられる。

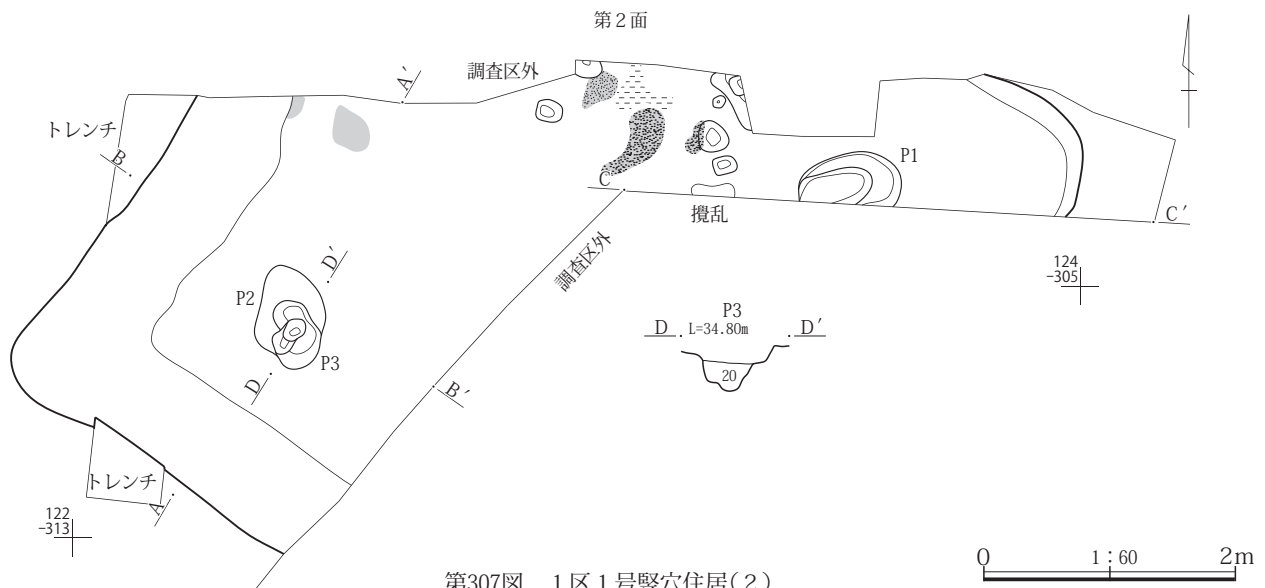
**掘り方** 特に壁際のロームを溝状に12~40cm掘り窪め、全体に凹凸が著しい。大小ピット状の窪みが認められるが、土坑など床下施設は確認できなかった。

**遺物出土状態** 土玉(第308図13)は床面直上、土師器杯(第308図8)、土師器甕(第308図11)は床面上6~10cmから出土した。土師器杯(第308図1~7・9)、土師器小型甕(第308図10)、土錘(第308図12)、土玉(第308図14)は埋没土から出土した。石器では白玉の出土数が多く21点にのぼる。白玉(第308図15~18・第309図19・22・31・32)は埋没土から、白玉(第309図20・21・33・34)は床面上10cmから、白玉(第309図23~30)は掘り方から出土した。出土した白玉のうち、(第309図20-1・20-2・21)、(第309図23・24)、(第309図33・34)が接合した。非掲載遺物は、土師器片374点(小型製品77、中型製品5、大型製品292)、須恵器片1点(小型製品)、石核2点である。

**所見** 出土遺物から時期は6世紀後半と考えられる。

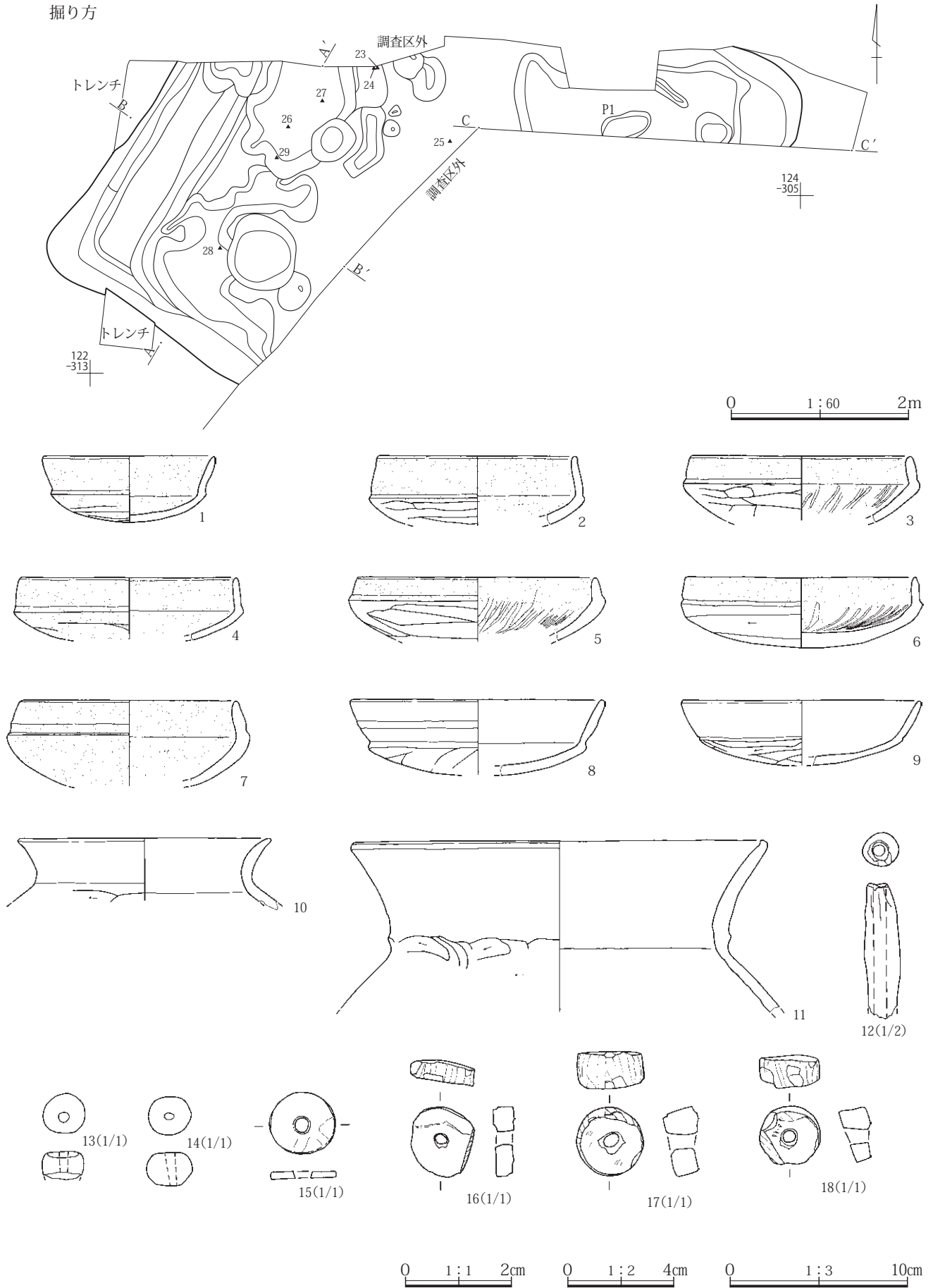
1号竪穴住居A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 2 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性ややあり、やや砂質
- 3 暗褐色土 褐色土小塊20%、縮まりあり、粘性あり
- 4 暗褐色土 褐色土小塊40%、縮まりあり、粘性あり
- 5 黒褐色土 ローム小~中塊20%、縮まりあり、粘性あり
- 6 黒褐色土 ローム小~中塊10%、炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 7 褐色土 ローム粒・炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 8 暗褐色土 褐色土小塊10%、ローム粒・焼土粒・炭化物粒1%、縮まりあり、粘性あり
- 9 暗褐色土 ローム粒10%、縮まり強、粘性あり
- 10 黒褐色土 炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 11 黒褐色土 ローム粒・炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 12 暗褐色土 ローム粒10%、焼土粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 13 黒色土 ローム粒・焼土粒・炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり、やや砂質、P1・P2覆土
- 14 黒褐色土 ローム中~大塊10%、炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり、P1・P2覆土
- 15 黒色土 ローム小~中粒1%、焼土粒・炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり
- 16 黒褐色土 ローム小塊30%、縮まり強、粘性あり、第1面貼床
- 17 黒褐色土 ローム小~中粒5%、縮まり強、粘性あり、第1面貼床
- 18 黒褐色土 ローム小~中粒10%、炭化物粒を含む、縮まりやや弱、粘性あり
- 19 褐色土 ローム小塊30%、縮まり強、粘性あり、第1面の貼床
- 20 暗褐色土 ローム中粒・褐色土中粒5%、縮まりやや弱、粘性あり、P3覆土
- 21 暗褐色土 ローム小粒・焼土小粒・炭化物粒1%、縮まり強、粘性あり、第1面貼床
- 22 暗褐色土 ローム中~大塊を30%、縮まり強、粘性あり、第2面貼床
- 23 暗褐色土 焼土極小粒・ローム極小粒1%、褐色土粒を含む、縮まり強、粘性あり、第2面貼床
- 24 暗褐色土 黒色土粒・ローム粒・炭化物粒を含む、縮まりあり、粘性あり、第2面貼床
- 25 暗褐色土 ローム小粒20%、縮まり強、粘性あり、第2面貼床
- 26 暗褐色土 ローム粒を含む、縮まりあり、粘性あり、第2面貼床
- 27 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒・褐色土粒を含む、縮まり強、粘性あり、第2面貼床
- 28 褐色土 ローム小~中粒30%、縮まり強、粘性あり
- 29 暗褐色土 焼土小~中粒・褐色粘質土3%、炭化物粒を含む、縮まり強、粘性あり
- 30 褐色土 ローム小~中粒10%、縮まり弱くボソボソ、粘性あり
- 31 褐色土 ローム中塊30%、縮まり極めて強、粘性あり

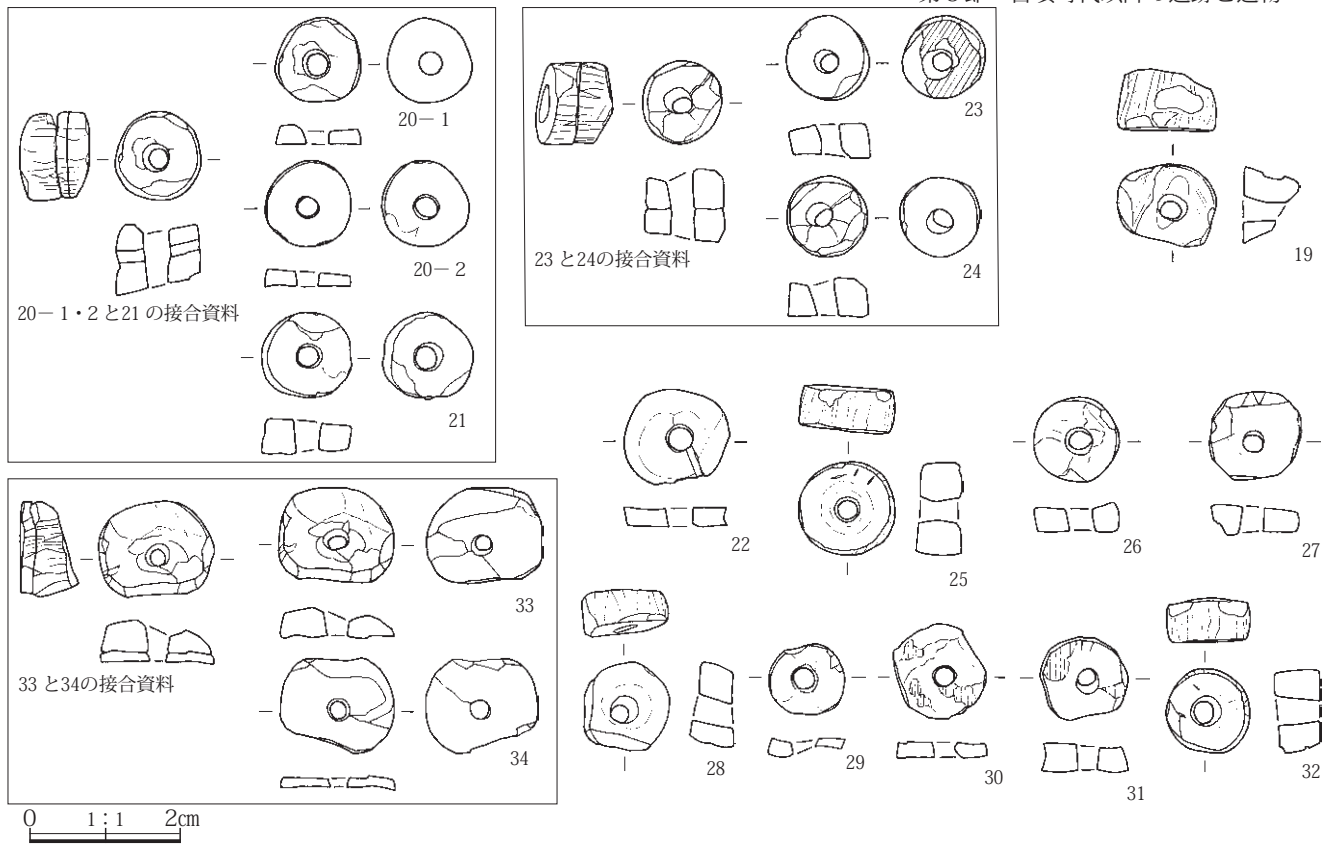


第307図 1区1号竪穴住居(2)

掘り方



第308図 1区1号竪穴住居(3)と出土遺物(1)



第309図 1区1号竪穴住居出土遺物(2)

## 2 ピット

遺構確認面はローム漸移層上層である。表土から遺構確認面まで現代の攪乱や削平が著しく認められ、残存状況はやや不良であるが、8基のピットを確認した。現在は移転したが、調査区内にかつて観音堂があり、石造物などが配置されていたことから関連が想定される。

### 1区1号ピット(第310図 PL.76)

埋没土はローム粒を含む黒褐色土で人為的な埋戻しと考えられる。周辺で対応するピットを確認できなかった。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。

### 1区2号ピット(第310図)

埋没土はローム粒や褐色土塊を多量に含み人為的な埋戻しと考えられる。調査区境に位置するため対応するピットを確認できなかった。出土遺物がなく時期を特定できない。

### 1区3号ピット(第310図 PL.76)

断面形状から柱穴と考えられ、柱痕が認められる。掘り方は、暗褐色土によって充填し固く締まる。調査区境に位置するため対応する柱穴を確認できなかった。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(小型製品)が

出土する。出土遺物だけでは時期を特定できない。

### 1区4号ピット(第310図 PL.76)

平面形状は円形で底面が平坦であり、壁は斜めに立ち上がる。埋没土は砂質土で、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

### 1区5号ピット(第310図 PL.76)

平面形状は円形である。埋没土は黒色砂質土で、自然埋没か人為的かは不明である。出土遺物がなく時期を特定できない。

### 1区6号ピット(第310図 PL.76)

平面形状は円形である。埋没土は黒色砂質土で、自然埋没か人為的かは不明。4・5・6号ピットが隣接し、形状や規模も類似することから同時期に掘られたと考えられる。出土遺物がなく時期を特定できない。

### 1区7号ピット(第310図 PL.76)

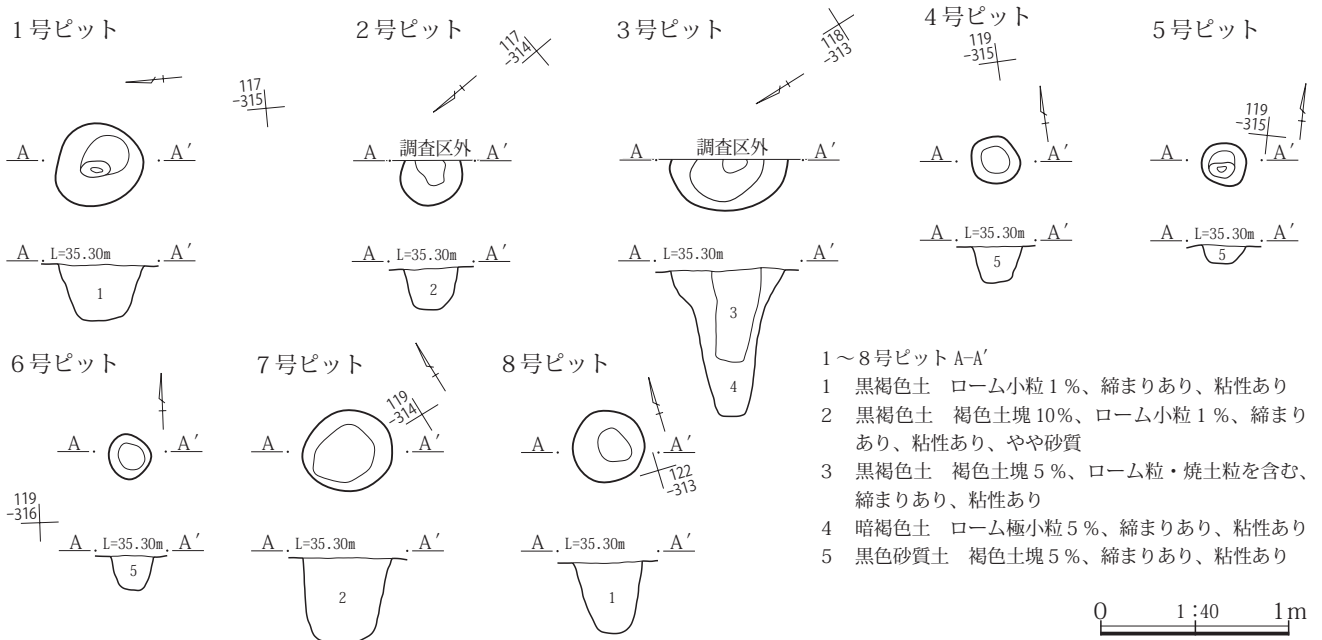
平面形状は円形で、断面形状は、底面が平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。柱穴と考えられるが柱痕は認められない。埋没土はローム粒や褐色土塊を多量に含む人為的な埋戻しである。非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片3点(大型製品2、不明1)、近世国産磁器1点(小型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。



1区8号ピット(第310図 PL.76)

埋没土はローム粒を含む黒褐色土で人為的な埋戻しと考えられる。周辺で対応するピットを確認できなかった。

非掲載遺物であるが、埋没土から土師器片1点(大型製品)が出土する。出土遺物が少なく時期を特定できない。



第310図 1区1・2・3・4・5・6・7・8号ピット

第4節 遺構外の出土遺物(第311図 PL.102)

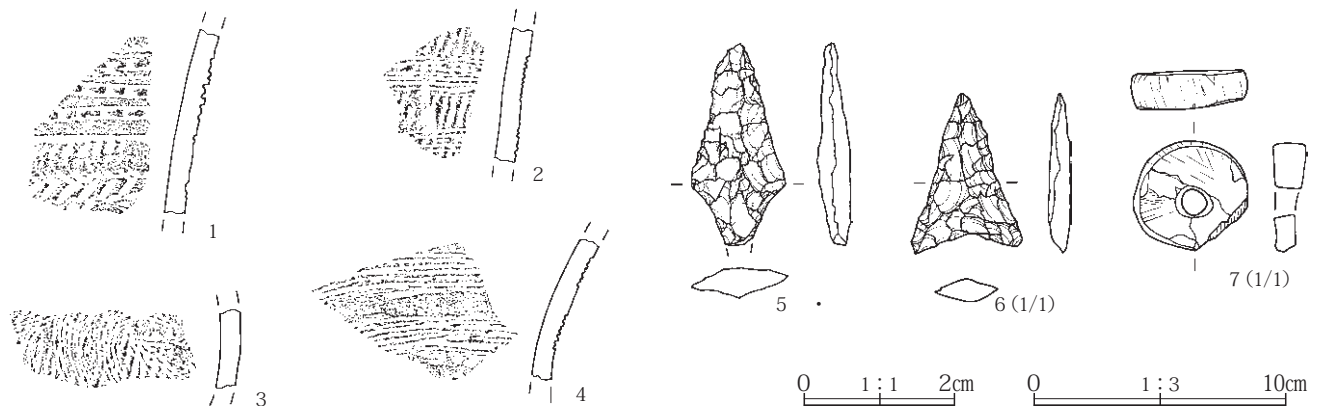
1区では遺構確認面や表土掘削時に採取した遺物について古墳時代の遺物を中心に縄文時代から近現代に至る遺物が出土した。

時代別に出土遺物をみると、縄文時代の遺物は遺構確認面及び遺構埋没土中などから14点出土し、このうち4点を図示した。前期の浮島式(第311図1)、諸磯b式(第311図2～4)が出土する。非掲載遺物は、諸磯b式10点である。石器は、石鏃(第311図5・6)が出土し、非掲載遺物は石核2点であった。縄文時代の遺構は確認できなかったが、縄文土器の出土から判断して、遺跡周辺に

前期を主体に中期や後期の遺構が発見される可能性もある。

古墳時代から奈良・平安時代の非掲載遺物は、土師器片166点(小型製品26、大型製品140)、須恵器4点(小型製品3、大型製品1)である。石製品は白玉(第311図7)が出土し、非掲載遺物は磨石?1点、が出土する。

1区1号竪穴住居埋没土から、陶磁器類が55点出土している。非掲載遺物であるが在地系焙烙7点、在地系焙烙・鍋30点、在地系火鉢・竈など5点、在地系皿9点在地系棒状不明土製品1点、十能瓦3点が出土した。第3章第5節で述べたように、遺物の出土数から小泉焼の焙烙や瓦などの廃棄坑があった可能性が高い。



第311図 遺構外の出土遺物

## 第5章 自然科学分析

### 第1節 概要

間之原遺跡では、火山灰分析と炭化種実分析の自然科学分析を実施した。

まず、火山灰分析については1区2号溝と1区50号竪穴住居の埋没土から分析試料を採取した(第312図)。1区2号溝は、調査区南境に位置するため底部から北半部のみでの調査となり、出土遺物も少ない。発掘調査における土層断面の観察から、埋没土中にAs-Bの可能性のある軽石を含む砂層が認められた。また1区では古墳時代前期から平安時代に至る竪穴住居が多数確認されているが、1区50号竪穴住居の埋没土中にテフラ粒子が認められた。発掘調査で正確な判断ができなかったため、1区2号溝と1区50号竪穴住居のテフラ分析を行い、1区2号溝の掘削年代を限定するとともに1区50号竪穴住居の土層の層位や年代を明確にすることを目的として、火山灰考古学研究所に火山灰分析を委託した。

自然科学分析によって3種類のテフラ粒子が検出された。1区2号溝西端部東地点試料7と試料24、1区2号溝西端部西地点試料1に含まれる淡褐色の軽石型火山ガラス、1区50号竪穴住居埋没土上位に含まれる白色の軽石、1区2号溝西端部東地点試料24や1区50号竪穴住居埋没土下部に含まれる灰白色の軽石型ガラスである。

屈折率測定などにより淡褐色の軽石型火山ガラスは、As-Bに由来すると指摘され、1区2号溝埋没土中に認められる砂層はAs-Bの二次堆積であり、下層からも僅かにAs-Bが検出されるが、1区2号溝とAs-Bとの層位関係は不明であった。1区50号竪穴住居の埋没土最下層に含まれる白色の軽石は、Hr-FAに由来する可能性が高いと指摘され、1区50号竪穴住居の層位はHr-FAより上位と推定された。1区2号溝や1区50号竪穴住居埋没土下部に少量含まれる灰白色の軽石型ガラスはAs-Cと考えられた。

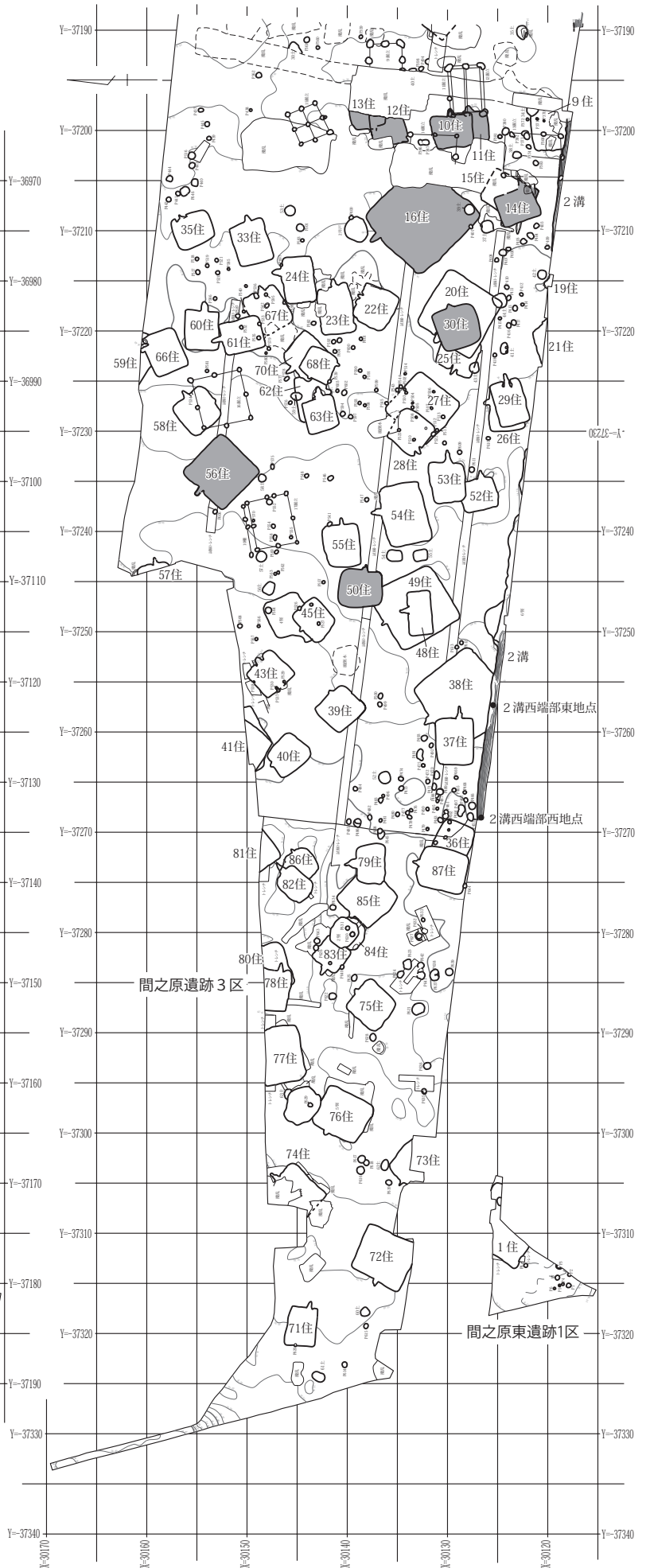
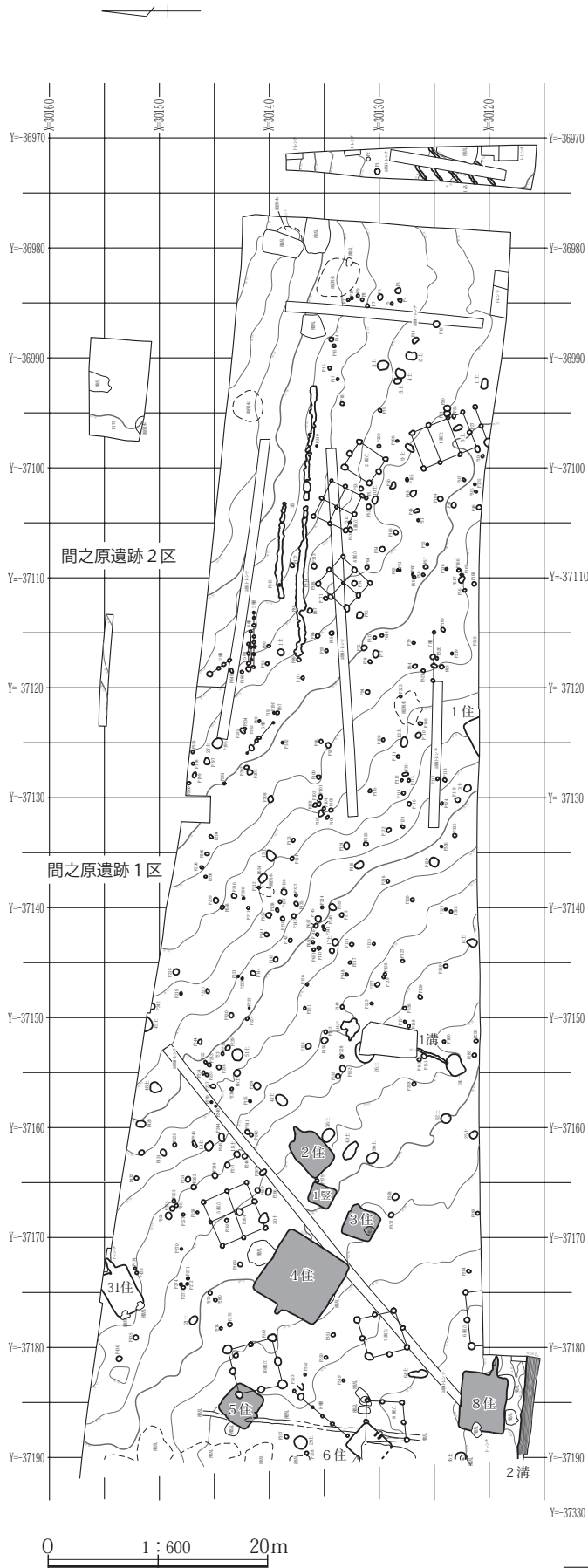
以上の分析結果から、間之原遺跡でもAs-B、Hr-FA、As-Cに由来するテフラを確認することができた。1区2号溝の掘削時期については、As-B降下以降の埋没である可能性が推量される。1区50号竪穴住居は、Hr-FA降下以降に構築されたと考えられる。

次に、間之原遺跡では、竪穴住居や竪穴状遺構の残存

状況が比較的良好であり、カマドや貯蔵穴、床面などから炭化種実をあわせて73資料を抽出した。この資料には顕微鏡による観察によってイネなど明瞭に判断が可能な穀物類が複数点含まれているが、正確な判定が難しいものも多く含まれていた。判定が可能な炭化種実以外で、分析成果が期待できる6世紀前半から後半の竪穴住居、8世紀後半から9世紀代の竪穴住居、8世紀後半の竪穴状遺構から出土した20資料(約400点)を事前に選別した。炭化種実には竪穴住居カマド燃焼面や貯蔵穴などからの出土であり、当時の日常生活に直結する資料である。炭化種実の種類や数量を明確にし、古墳時代から平安時代の人々の食生活の様相や遺跡周辺の環境、竪穴状遺構の性格付けなどの解明に資することを目的としてパリーノ・サーヴェイ株式会社に炭化種実同定を委託した。

平安時代のすべての竪穴住居からイネが出土し、時期別にみると古墳時代より平安時代の出土個数が圧倒的に多い。特に1区8・10号竪穴住居カマド燃焼部や1区11号竪穴住居貯蔵穴からの出土個数が多い結果となった。平安時代の1区10号竪穴住居からはイネ、スモモ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ、ソバの他、トチノキが検出された。オオムギ、ソバ、シソについては平安時代の1区10・11号竪穴住居からの検出であり、古墳時代の竪穴住居からは検出されなかった。

以上の分析結果から、間之原遺跡では、イネ、コムギ、アワ、キビなどが古墳時代から平安時代にかけて継続的に栽培され、特にイネの検出数が多かった。出土した栽培種だけで、間之原遺跡の栽培傾向を判断することはできないが、マメ科については古墳時代を中心に、オオムギ、ソバ、シソなどについては、主に平安時代に栽培していたことが窺える。さらに、周辺の環境ではツユクサ、スゲ属など人里植物が確認され、ヤナギタデなど周辺域でも水湿地の生息が指摘された。1区1号竪穴状遺構については、埋没土中の流れ込みの可能性もあるが、床面などに焼土が認められないことから調理加工された栽培種が外部から持ち込まれ、1区1号竪穴状遺構が住居に準じた利用が行われていたことが想定される。周辺遺跡から出土した炭化種実の分析結果とあわせて今後もさらに検討する必要がある。



## 第2節 間之原遺跡の火山灰分析

### 1. はじめに

関東地方北西部に位置する群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層や土層の中には、赤城、榛名、浅間など、北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、中部地方、中国地方、さらには九州地方に分布する火山から噴出したテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く挟まれている。その多くについては、すでに層位や噴出年代が明らかにされており、それら指標テフラを利用することで、地形の形成年代や地層の堆積年代のみならず、考古遺物や遺構の層位や年代に関する資料を収集できるようになっている。

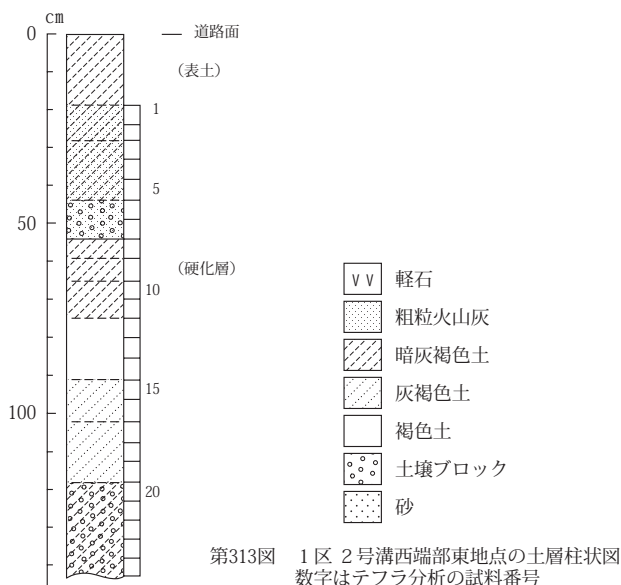
間之原遺跡の発掘調査の際にも、テフラ層やテフラ粒子が認められたことから、地質調査を行って土層層序やテフラに関する記載を行うとともに、採取された高純度の試料についてテフラ分析により、遺物包含層などの土層や、遺構の層位や年代に関する資料を得ることになった。

調査分析の対象は、1区2号溝西端部東地点、1区2号溝西端部西地点、1区50号竪穴住居覆土の3地点である。

### 2. 土層の層序

#### (1) 1区2号溝西端部東地点

1区2号溝の代表的な覆土断面を観察できた1区2号溝西端部東地点では、下位より褐色土粒子を少量含む暗



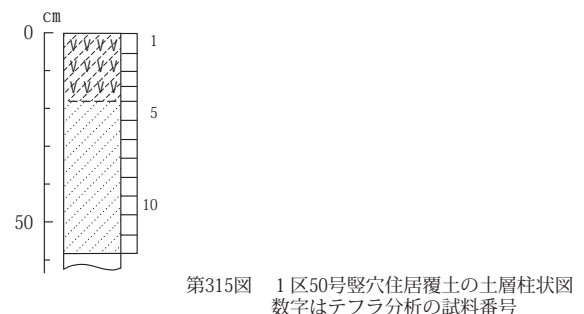
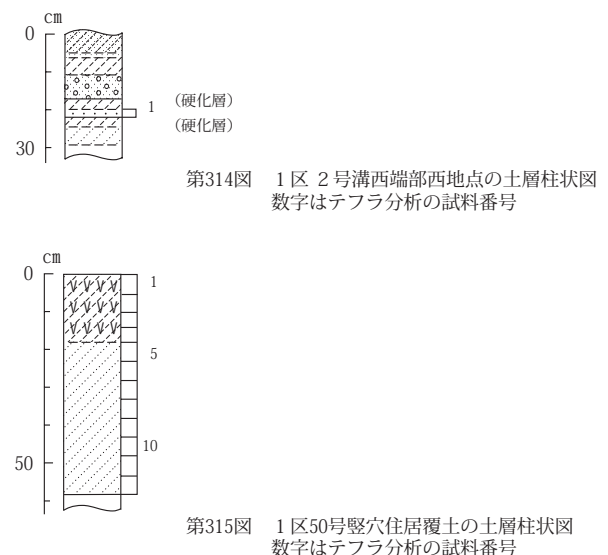
灰褐色土(層厚25cm以上)、わずかに色調が暗い灰褐色土(層厚16cm)、灰褐色土(層厚11cm)、若干灰色をおびた褐色土(層厚16cm)黒みをおびた暗灰褐色土(層厚10cm)、黒みをおび締まった暗灰褐色土(6 cm, いわゆる硬化層)、黒みがかかった暗灰褐色土(層厚 5 cm)、褐色土粒子や土器片を含む黒灰色砂層(層厚10cm)、黒みがかかった砂混じり暗灰褐色土(層厚16cm)、砂を多く含む暗灰褐色土(層厚 9 cm)、灰色がかかった暗褐色表土(層厚19cm)が認められる(第313図)。

#### (2) 1区2号溝西端部西地点

硬化層を複数確認できた1区2号溝西端部西地点の溝の覆土の一部では、下位より灰色がかかった褐色土(層厚 3 cm以上)、黒みがかかった暗灰褐色土(層厚 5 cm)、黒みをおび締まった暗灰褐色土(層厚 2 cm, 硬化層)、褐色土粒子を含む暗灰褐色砂層(層厚 2 cm)、黒みをおび締まった暗灰褐色土(層厚 3 cm, 硬化層)、褐色土粒子を多く含む暗灰色砂層(層厚 6 cm)、黒灰色砂層(層厚 5 cm)、褐色土粒子に富む灰褐色砂層(層厚 1 cm)、砂混じりで若干黒い暗灰褐色土(層厚 5 cm以上)が認められる(第314図)。

#### (3) 1区50号竪穴住居

1区50号竪穴住居覆土の断面では、下位より黄褐色土ブロックを多く含む若干暗い灰褐色土(層厚40cm)、細粒の白色軽石を含み黒みがかかった暗灰褐色土(層厚18cm、軽石の最大径 3 mm)が認められる(第315図)。





### 3. テフラ検出分析

#### (1) 分析試料と分析方法

土層断面において、テフラ層ごと、または土層の層界をまたがないように基本的に5cmごとに設定採取された試料のうち、8試料を対象にテフラ粒子の相対的な特徴を把握するテフラ検出分析を実施した。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料ごとに7gずつ秤量。
- 2) 超音波洗浄装置を用いながら、ていねいに泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で、テフラ粒子の量や色調などを観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を第29表に示す。1区2号溝西端部東地点では、いずれの試料からもテフラ粒子を検出できた。検出されたテフラ粒子は3種類で、もっとも多いものは比較的良好に発泡した淡褐色軽石やその細粒物で

ある淡褐色の軽石型火山ガラスである。その斑晶には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。このテフラ粒子は、試料7でもっとも多く認められる。ただ、このテフラ粒子は量は少ないながらも下位の試料からも検出される。たとえば、対象試料のうちもっとも下位にある試料24にも、淡褐色の軽石型ガラスが少量含まれている。また、このテフラ粒子は、1区2号溝西端部西地点の試料1にも多く含まれている。

ほかには、さほど発泡の良くない白色の軽石型ガラスが多く試料から検出される。今回は、別に1区50号縦穴住居覆土の上部に含まれる軽石粒子についても同じ工程で洗浄・乾燥処理と検鏡を実施した。その結果、やはり発泡がさほど良くない白色の軽石(最大径6.9mm)であることが明らかになった。軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。

1区2号溝西端部東地点の試料24や、1区50号縦穴住居覆土下部には、ほかにスポンジ状に発泡した灰白色の軽石型ガラスが少量含まれている。

第29表 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
1区2号溝西端部東地点	2				**	pm	淡褐
	4				**	pm	淡褐>白
	7	*	淡褐	3.5	***	pm	淡褐>白
	9	*	淡褐	2.3	*	pm	淡褐>白
	13				*	pm	淡褐, 白
1区2号溝西端部西地点	24				*	pm	淡褐, 白, 灰
	1	*	淡褐	2.7	***	pm	白
1区50号縦穴住居覆土	12				*	pm	淡褐>白
							白, 灰白

\*\*\*: とくに多い, \*\*: 多い, \*: 中程度, \*: 少ない, 最大径の単位: mm, pm: 軽石型.

### 4. 屈折率測定

#### (1) 測定試料と測定方法

指標テフラとの同定精度を向上させるために、温度変化型屈折率測定法により、1区2号溝西端部東地点の試料24に含まれる淡褐色の軽石型火山ガラスと、試料7に含まれる淡褐色の軽石のガラス部について、屈折率測定を実施した。測定には、古澤地質社製MAIOTを使用した。なお、いずれも実体顕微鏡下で手選後、軽く粉碎して測定対象とした。

#### (2) 測定結果

屈折率測定の結果を第30表に示す。1区2号溝西端部

東地点の試料24に含まれる淡褐色の軽石型火山ガラス(18粒子)の屈折率(n)は、1.527-1.532である。また、試料7に含まれる淡褐色の軽石のガラス部(24粒子)の屈折率(n)は、1.526-1.532である。

### 5. 考察

テフラ検出分析で検出された淡褐色の軽石や火山ガラスは、岩相や火山ガラスの屈折率などから、1108(天仁元年)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 町田・新井, 2003)に由来すると考えられる。したがって、発掘調査で検出された硬化層の層位は、As-Bよりも上位と推定される。一方、1区2号



第30表 屈折率測定結果

地点	試料	測定対象	屈折率 (n)	測定粒子数
1区2号溝西端部東地点	7	淡褐色軽石	1.526-1.532	24
	24	淡褐色火山ガラス	1.527-1.532	18

屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定装置(MA10T)による。

溝とAs-Bとの層位関係については、砂層中に多くのAs-B起源のテフラ粒子は認められるものの二次堆積で、さらに今回分析対象の最下位の試料からもわずかながら検出されたことから不明である。

また、白色の軽石や火山ガラスは、岩相や本遺跡とテフラ分布の関係などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992, 2003)に由来する可能性が高いと考えられる。覆土最下位の試料からこのテフラ粒子が検出されたことから、1区50号竪穴住居の層位はHr-FAより上位と推定される。

テフラ検出分析で検出された灰白色の軽石型ガラスは、その層位や岩相などから、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石(As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000, 町田・新井, 2003)に由来すると考えられる。

## 6. まとめ

間之原遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石(As-C, 4世紀初頭)、榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ(As-B, 1108年)などに由来するテフラ粒子を検出することができた。発掘調査で検出された1区2号溝内の硬化層の層位はAs-Bより上位と考えられる。

### 文献

- 新井房夫(1979)関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.  
 荒牧重雄(1968)浅間火山の地質。地研専報, no.45, 65p.  
 町田 洋・新井房夫(1992)火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.  
 町田 洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス。東京大学出版会, 336p.  
 坂口 一(1986)榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土器と須恵器。群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.  
 早田 勉(1989)6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害。第四紀研究, 27, p.297-312.  
 友廣哲也(1988)古式土器出現期の様相と浅間山C軽石。群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.  
 若狭 徹(2000)群馬の弥生土器が終わるとき。かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動くー古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

## 第3節 間之原遺跡の炭化種実同定

### はじめに

間之原遺跡(群馬県太田市龍舞町地内)では、発掘調査の結果、古墳時代後期から平安時代にかけての掘立柱建物や竪穴住居などが確認されている。本報告では、これらの各時期の竪穴住居に付帯するカマド埋積物等の水洗選別により回収された炭化種実の同定を実施し、当時の植物利用について検討を行った。

### 1. 試料

試料は、1区1号竪穴状遺構や、1区2号竪穴住居(カマドA)、1区3号竪穴住居(カマド内炭化物)、1区4号竪穴住居(カマド内炭化物A)、1区5号竪穴住居(カマドA)、1区8号竪穴住居(炭化物集中所 掘方カマド前A、カマド内燃焼部B、燃焼部B(9層))、1区10号竪穴住居(1号カマド炭層A、カマド炭層A、1号カマド炭層B、1号カマドB)、1区11号竪穴住居(貯蔵穴)、1区12号竪穴住居(第26図4)、1区13号竪穴住居(カマド前面炭化物A)、1区14号竪穴住居(カマド前面炭化物A)、1区16号竪穴住居(カマド燃焼部B、(第38図8内部)、1区30号竪穴住居(カマドA)、1区56号竪穴住居(第83図20内部の中の土)より検出された炭化種実20試料(約450個)である。

炭化種実は、いずれも水洗選別(フローテーション)により回収されており、乾燥した状態でポリ袋やプラケースなどに保管された状態にある。

## 2. 分析方法

試料を粒径別に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実を抽出する。炭化種実の同定は、現生標本および吉崎(1992)、椿坂(1993)、石川(1994)、中山ほか(2000)、小畑(2008;2011)等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表と写真図版に示す。なお、保存状態が良好な一部の炭化種実には、デジタルノギスを用いて長さ、幅、厚さ等を計測し、その結果を一覧表に併記した。

分析後は、炭化種実を分類群毎に容器に入れ、残渣は袋に入れて保管する。

## 3. 結果

### (1) 炭化種実の出土状況

炭化種実の同定結果を第31・32表、出土状況を第33表に示す。

分析に供された20試料を通じて、被子植物40分類群431個の種実が同定された。45個は状態が不良であったため、同定に至らなかった。

同定された分類群のうち、炭化していない草本17分類群(オヒシバ、エノコログサ属、オオクサキビ、イネ科、ギシギシ属、イヌタデ近似種、イシミカワ近似種、サナエタデ近似種、アカザ属、タケニグサ、カタバミ属、エノキグサ、コムカンソウ、ヒメミカンソウ、ハナイバナ、キュウリグサ属、ナス科)117個は、混入の可能性が高いため解析からは除外している。

炭化種実には、被子植物24分類群(オニグルミ、スモモ、モモ?、トチノキ、ミズキ、イネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ、ヒエ近似種、イネ科(タイヌビエ?、他)、ツルクサ、スゲ属、ホタルイ属、ヤナギタデ近似種、タデ属、ソバ、アオツヅラフジ、マメ科(アズキ類、他)、シソ属、オナモミ属)314個が同定された。

試料(遺構)別の出土個数は、1区10号竪穴住居1号カマドBが52個と最も多く、1区16号竪穴住居カマド燃焼部B(35個)、1区11号竪穴住居貯蔵穴(29個)、1区8号竪穴住居カマド内燃焼部B(27個)が次いで多い。一方、1区56号竪穴住居カマド第83図23内部の土が2個と最も少なく、1区3号竪穴住居カマド内炭化物、1区4号竪

穴住居カマド内炭化物A、1区5号竪穴住居カマドAもそれぞれ3個と少ない。

栽培種は、スモモの核が19個(スモモ? 17個含む)、モモ?の核が1個と、イネの穎が65個(うち基部64個)、穎・胚乳が1個、胚乳が130個、オオムギの胚乳が2個、コムギの胚乳が24個、アワの穎・胚乳が4個、胚乳が15個(アワ? 8個含む)、キビの穎・胚乳が2個、胚乳が10個(キビ? 2個含む)、ソバの果実が1個の、計274個が確認された。穀類のイネが最も多く(全体の62.4%)、雑穀類のアワ、キビが次ぎ、ソバと果樹のスモモ、モモ?が少量混じる組成を示す。なお、栽培種の種実が占める割合は、全体の87.3%である。

栽培の可能性を含む分類群は、ヒエ近似種の胚乳が4個、イネ科(タイヌビエ?)の胚乳が1個、アワやヒエ、キビの可能性のあるイネ科の穎・胚乳が1個、胚乳が4個と、マメ科(アズキ類)の種子が1個、マメ科の種子が10個(マメ科? 2個含む)、シソ属の果実が1個の、計22個(全体の7.0%)が確認された。

栽培種やその可能性を含む分類群以外では、木本3分類群(河畔林要素で高木になる落葉広葉樹のオニグルミ、トチノキ、ミズキ)4個、草本7分類群(ツルクサ、スゲ属、ホタルイ属、ヤナギタデ近似種、タデ属、アオツヅラフジ、オナモミ属)14個の、計18個(全体の5.7%)が確認された。

### (2) 主な炭化種実の記載

出土した炭化種実各分類群を第316・317図に、一部の炭化種実の計測値を第31・32表に示す。また、以下に主な分類群の形態的特徴等を述べる。

#### ・イネ(*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

長さ、幅、厚さが完全な胚乳(炭化米)19個の計測値は、長さが最小2.5～最大5.3(平均4.15±標準偏差0.64)、幅が1.2～2.7(平均2.15±0.38)、厚さが0.7～1.9(平均1.51±0.36)であった。佐藤(1988)の定義による粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)を検討した結果、短粒で極々小型が3個、極小型が7個、小型が2個、長粒で極々小型が4個、極小型が3個であった。表面が明瞭な個体が多く、穎の破片が付着する個体も確認された。胚乳1個を包む穎(果)は、主に径1.0mm程度の斜切状円柱形の果実序柄(小穂軸)が確認された。

第31表 炭化種実同定結果(1)

No.	遺構名/地点名		同定結果				計測値(mm)1)				備考
	遺構	詳細位置等	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅	厚さ	
1	1区1 竪		スモモ?	核	破片	4	-	3.6 +	-	-	
1	1区1 竪		イネ	胚乳	完形	1	-	3.9	2.6	1.9	表面明瞭
1	1区1 竪		コムギ	胚乳	完形	1	-	2.8	2.2 +	1.7	1 側面窪む
1	1区1 竪		マメ科	種子	完形	1	-	3.1	2.0	2.2 *	厚さ:焼き膨れている, 腹面:臍欠損,幼根長1.0mm
1	1区1 竪		不明		破片	1	-	1.9 +	-	-	
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	完形	5	1	4.8	2.7	1.9	完形未満と破片(頂部)が接合(完形1 個体)
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	完形	-	2	4.7	2.2	1.7	
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	完形	-	3	4.0	1.7	1.0	
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	完形	-	4	2.5	1.2	0.7	
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	完形	-	5	3.1 +	2.1	2.0	基部欠損
3	1区2 住	カマダ	イネ	胚乳	破片	4	-	-	-	-	
3	1区2 住	カマダ	コムギ	胚乳	完形	3	1	3.3	1.8 +	1.9	1 側面欠損
3	1区2 住	カマダ	コムギ	胚乳	完形	-	2	2.8	1.9	1.7	
3	1区2 住	カマダ	コムギ	胚乳	完形	-	3	2.3	1.9	1.6	
3	1区2 住	カマダ	コムギ	胚乳	破片	2	-	-	-	-	
3	1区2 住	カマダ	アワ	胚乳	完形	1	-	1.3	1.2	0.9	
3	1区2 住	カマダ	ヒエ近似種	胚乳	完形	1	-	1.7	1.2	0.8	胚長1.2mm
3	1区2 住	カマダ	イネ科(タイムビエ?)	胚乳	完形	1	-	1.2	0.9	0.5	胚長0.8mm
3	1区2 住	カマダ	アオツヅラフジ	核	破片	4	-	-	2.7 +	-	
3	1区2 住	カマダ	不明		破片	1	-	1.7 +	-	-	
5	1区3 住	カマダ内炭化物	ミズキ	核	破片	1	-	1.8 +	-	-	
5	1区3 住	カマダ内炭化物	アワ	穎・胚乳	完形	1	-	1.6 *	1.2 *	1.2 *	焼き膨れている。腹面に穎付着
5	1区3 住	カマダ内炭化物	アワ?	胚乳	完形	1	-	0.9	0.9	0.5	
5	1区3 住	カマダ内炭化物	不明		破片	3	-	3.8 +	-	-	
6	1区4 住	カマダ内炭化物A	イネ	胚乳	完形	1	-	3.1 +	2.3	1.6	基部欠損
6	1区4 住	カマダ内炭化物A	イネ	胚乳	破片	1	-	-	-	-	
6	1区4 住	カマダ内炭化物A	コムギ	胚乳	完形	1	-	2.3	1.7	1.4	
10	1区5 住	カマダ	イネ	穎(基部)	破片	2	-	1.3 +	-	-	
10	1区5 住	カマダ	キビ	胚乳	完形	1	-	2.0	1.7	1.5 +	背面やや欠損,胚長0.5mm
17	1区8 住	炭化物集中所 掘方カマダ前A	イネ	胚乳	完形	3	1	4.4	2.6	1.9	表面明瞭
17	1区8 住	炭化物集中所 掘方カマダ前A	イネ	胚乳	完形	-	2	3.9	2.0	1.5	表面明瞭
17	1区8 住	炭化物集中所 掘方カマダ前A	イネ	胚乳	完形	-	3	3.6	1.9	1.3	表面明瞭
17	1区8 住	炭化物集中所 掘方カマダ前A	イネ	胚乳	破片	1	-	-	-	-	下半部欠損
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	スモモ?	核	破片	5	-	4.2 +	-	-	
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ	穎(基部)	破片	2	-	1.5 +	-	-	
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ	胚乳	完形	3	1	4.3	2.3	1.5	表面明瞭
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ	胚乳	完形	-	2	3.7 +	1.8 +	1.3 +	表面摩耗
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ	胚乳	完形	-	3	3.2 +	1.7 +	1.6	両端欠損,表面摩耗
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ	胚乳	破片	11	-	-	-	-	
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	ヒエ近似種	胚乳	完形	2	1	1.9	1.1	1.0	胚長1.4mm
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	ヒエ近似種	胚乳	完形	-	2	1.8	1.0	0.8	胚長1.5mm
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	アワ?	胚乳	完形	2	1	1.2	1.1	0.6	胚長1.1mm
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	アワ?	胚乳	完形	-	2	1.1	1.1	0.8	胚長0.9mm
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	イネ科	胚乳	完形	1	-	1.1	1.0	0.4	
18	1区8 住	カマダ内燃焼部B	スゲ属	果実	完形	1	-	1.3	0.9	0.4	2 面体
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	モモ?	核	破片	1	-	3.8	-	-	
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	完形	5	1	3.8	2.0 +	1.4 +	表面明瞭,一部摩耗
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	完形	-	2	4.0	2.4	1.6	表面明瞭,一部摩耗
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	完形	-	3	3.1 +	1.5	1.4	頂部欠損,表面一部摩耗
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	完形	-	4	3.3 +	2.3	1.5	頂部欠損,表面明瞭
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	完形	-	5	2.6 +	2.0	1.4	基部欠損,表面明瞭
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	イネ	胚乳	破片	15	-	-	-	-	
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	アワ	胚乳	破片	1	-	0.8 +	-	-	
19	1区8 住	燃焼部B(E層)	不明(堅果類)	核	破片	1	-	2.9	-	-	
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	スモモ	核	破片	2	-	5.7 +	-	-	
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	トキノキ	種子	破片	1	-	6.7 +	-	-	
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	イネ	穎(基部)	破片	2	-	1.2 +	-	-	
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	イネ	胚乳	完形	1	-	3.8 +	2.4	1.7	基部欠損,表面明瞭
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	イネ	胚乳	破片	9	-	-	-	-	
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	オオムギ	胚乳	完形	1	-	3.9 +	2.2	1.9	基部欠損,表面明瞭
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	アワ	穎・胚乳	完形	1	-	1.3	1.2	1.2	腹面に穎付着
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	イネ科	胚乳	完形	1	-	1.4	0.8	0.7	胚長0.5mm
23	1区10 住	1号カマダ炭層A	ホタルイ属	果実	完形	1	-	2.0	1.6	0.9	
24	1区10 住	カマダ炭層A	イネ	穎・胚乳	破片	1	-	4.4 +	2.1 +	2.0	
24	1区10 住	カマダ炭層A	イネ	胚乳	完形	2	1	4.9	2.5	1.8	表面明瞭
24	1区10 住	カマダ炭層A	イネ	胚乳	完形	-	2	3.3 +	1.9	1.7	基部欠損,表面明瞭
24	1区10 住	カマダ炭層A	イネ	胚乳	破片	9	-	-	-	-	
24	1区10 住	カマダ炭層A	コムギ	胚乳	完形	2	1	3.5	3.2 +	2.5	1 側面欠損
24	1区10 住	カマダ炭層A	コムギ	胚乳	完形	-	2	2.7	2.1 +	1.8 +	1 側面,背面欠損
24	1区10 住	カマダ炭層A	キビ	胚乳	完形	1	-	1.8	1.5	1.3	
24	1区10 住	カマダ炭層A	ソバ	果実	完形	1	-	3.0	3.1	-	
24	1区10 住	カマダ炭層A	シソ属	果実	完形	1	-	1.6	1.5	1.3	表面不明瞭
25	1区10 住	1号カマダ炭層B	イネ	胚乳	完形	3	1	4.0	2.3	1.3	表面明瞭
25	1区10 住	1号カマダ炭層B	イネ	胚乳	完形	-	2	4.4	2.3	1.9	表面明瞭

第5章 自然科学分析

第32表 炭化種実同定結果(2)

No	遺構名/地点名		同定結果			計測値(mm)1)				備考	
	遺構	詳細位置等	分類群	部位	状態	個数	枝番	長さ	幅		厚さ
25	1区10住	1号カマド炭層B	イネ	胚乳	完形	-	3	4.9	2.1 +	1.4	1側面欠損, 表面明瞭
25	1区10住	1号カマド炭層B	イネ	胚乳	破片	10	-	-	-	-	
25	1区10住	1号カマド炭層B	アワ	胚乳	完形	1	-	1.1	1.1	0.7	
25	1区10住	1号カマド炭層B	キビ	胚乳	破片	1	-	1.7 +	-	-	
26	1区10住	1号カマドB	イネ	穎(基部)	破片	26	-	1.1 +	-	-	
26	1区10住	1号カマドB	イネ	穎	破片	1	-	1.6 +	-	-	
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	9	1	5.3	2.2	1.8	表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	2	4.9	2.3	1.8	表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	3	4.2	2.2	1.5	表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	4	3.8	2.1	1.0	表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	5	3.3	1.5	1.0	表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	6	3.2 +	2.3	2.0	基部欠損, 表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	7	3.3 +	2.2	1.8	基部欠損, 表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	8	2.7 +	1.9	1.6	基部欠損, 表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	完形	-	9	3.6 +	1.8	1.3	両端欠損, 表面明瞭
26	1区10住	1号カマドB	イネ	胚乳	破片	9	-	-	-	-	
26	1区10住	1号カマドB	アワ	胚乳	完形	1	-	0.9 +	1.0 +	0.9 +	表面欠損
26	1区10住	1号カマドB	アワ	胚乳	破片	1	-	1.0 +	-	-	
26	1区10住	1号カマドB	イネ科	穎・胚乳	完形	1	-	0.9 +	1.0	0.6	頂部欠損, 背面に穎付着
26	1区10住	1号カマドB	コムギ	胚乳	完形	1	-	3.0	2.1 +	2.0	両側面欠損
26	1区10住	1号カマドB	ヒエ近似種	胚乳	完形	1	-	1.8	1.7	0.9	背面やや欠損
26	1区10住	1号カマドB	キビ	胚乳	完形	1	-	2.1	1.8	1.3	胚長0.5mm
26	1区10住	1号カマドB	オナモミ属	総苞	破片	1	-	2.5 +	-	-	
29	1区11住	貯蔵穴	イネ	穎(基部)	破片	16	-	1.6 +	-	-	
29	1区11住	貯蔵穴	イネ	胚乳	完形	1	-	2.4 +	1.6	0.5	頂部欠損, 表面明瞭
29	1区11住	貯蔵穴	イネ	胚乳	破片	3	-	-	-	-	
29	1区11住	貯蔵穴	オオムギ	胚乳	完形	1	-	3.9 +	1.7 +	1.4	頂部欠損, 表面摩耗
29	1区11住	貯蔵穴	コムギ	胚乳	完形	1	-	2.9	2.3 +	2.0 +	表面欠損(発泡)
29	1区11住	貯蔵穴	コムギ	胚乳	破片	4	-	2.9	-	-	表面欠損(発泡)
29	1区11住	貯蔵穴	アワ?	胚乳	完形	1	-	0.9	1.1	0.6	胚長=胚乳長
29	1区11住	貯蔵穴	ツククサ	種子	完形	1	-	2.8	3.5	2.2	
29	1区11住	貯蔵穴	タデ属	果実	完形	1	-	1.5	0.9	-	3面体, 表面粗面
32	1区12住	第26図4	キビ	穎・胚乳	完形	1	-	1.3	1.3	1.0	背面に穎付着, 胚長0.6mm
32	1区12住	第26図4	キビ	胚乳	完形	2	1	2.1	1.9	1.5	胚長0.9mm
32	1区12住	第26図4	キビ	胚乳	完形	-	2	1.0	0.8	0.8	胚長0.4mm
32	1区12住	第26図4	イネ科	胚乳	完形	2	-	1.5	0.6	0.5	
32	1区12住	第26図4	マメ科(アズキ類)	種子	完形	1	-	4.1	2.9	2.8 +	表面摩耗, 臍残存長0.9mm, 半露出型(小畑, 2008:2010)
32	1区12住	第26図4	マメ科	種子	完形	1	-	4.7	3.3	2.3	背面焼き膨れて突出, 臍長1.6mm, 残存幅0.4(復元0.8)mm
32	1区12住	第26図4	マメ科	種子	破片	6	-	-	-	-	
32	1区12住	第26図4	不明	破片	11	-	4.6 +	-	-	-	
33	1区13住	カマド前面 炭化物A	イネ	胚乳	完形	2	1	4.0	2.0	1.5	表面明瞭
33	1区13住	カマド前面 炭化物A	イネ	胚乳	完形	-	2	2.6 +	1.5	1.1	基部欠損, 表面明瞭
33	1区13住	カマド前面 炭化物A	キビ	穎・胚乳	完形	1	-	2.2	1.8	1.6	背面に穎付着, 胚長0.9mm
33	1区13住	カマド前面 炭化物A	コムギ	胚乳	破片	3	-	3.8 +	-	-	
33	1区13住	カマド前面 炭化物A	不明	破片	2	-	3.3 +	-	-	-	
34	1区14住	カマド前面 炭化物A	スモモ?	核	破片	8	-	2.8 +	-	-	
34	1区14住	カマド前面 炭化物A	マメ科?	種子	破片	2	-	2.2 +	2.0	1.2 +	半分厚:復元厚2.4mm
34	1区14住	カマド前面 炭化物A	不明	破片	1	-	2.2 +	-	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	イネ	穎(基部)	破片	14	-	1.3 +	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	イネ	胚乳	破片	8	-	-	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	コムギ	胚乳	完形	1	-	3.5	2.3 +	1.8 +	1側面欠損, 表面欠損
37	1区16住	カマド燃焼部B	コムギ	胚乳	破片	5	-	-	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	アワ	穎・胚乳	完形	1	-	1.1	1.0	0.9	背腹両面に穎付着
37	1区16住	カマド燃焼部B	アワ?	胚乳	完形	3	-	-	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	キビ?	胚乳	完形	2	-	-	-	-	
37	1区16住	カマド燃焼部B	タデ属	果実	完形	1	-	1.3	1.0	-	2面体, 表面粗面, 焼き膨れている
37	1区16住	カマド燃焼部B	不明	破片	19	-	2.2 +	-	-	-	
38	1区16住	第38図8	イネ	胚乳	破片	2	-	-	-	-	分析残渣:菌核多量確認
38	1区16住	第38図8	アワ?	胚乳	完形	2	-	-	-	-	
38	1区16住	第38図8	キビ	胚乳	破片	2	-	1.8 +	-	-	
47	1区30住	カマドA	オニグルミ	核	破片	2	-	4.8 +	-	-	
47	1区30住	カマドA	イネ	穎(基部)	破片	2	-	1.2 +	-	-	
47	1区30住	カマドA	イネ	胚乳	完形	2	1	3.1 +	2.1	1.3	基部欠損, 表面明瞭
47	1区30住	カマドA	イネ	胚乳	完形	-	2	2.4 +	1.9	1.1	基部欠損, 表面明瞭
47	1区30住	カマドA	イネ	胚乳	破片	10	-	-	-	-	
47	1区30住	カマドA	アワ	穎・胚乳	完形	1	-	1.0	1.1	0.6	腹面に穎付着
47	1区30住	カマドA	ヤナギタデ近似種	果実	完形	1	-	2.1	1.4	1.3 *	焼き膨れている
47	1区30住	カマドA	ヤナギタデ近似種	果実	破片	1	-	-	-	-	
47	1区30住	カマドA	オナモミ属	総苞	破片	1	-	2.4 +	-	-	
47	1区30住	カマドA	不明	破片	6	-	3.5 +	-	-	-	
59	1区56住	第83図23内部の土	アワ?	胚乳	完形	1	-	0.9	0.7	0.6	胚長0.3mm
59	1区56住	第83図23内部の土	タデ属	果実	破片	1	-	1.2	0.8	-	2面体, 表面粗面, 焼き膨れている

1)計測はデジタルノギスを使用。



・アワ(*Setaria italica* (L.) P.Beauv.) イネ科エノコログサ属

胚乳は、長さ1.0~1.3mm、幅1.0~1.2mm、厚さ0.6~1.2mmの半偏球体で、腹面(内穎)は平らで背面(外穎)は丸みがある。胚乳の基部正中線上は、背面に胚乳長の2/3程度を占める深い馬蹄形の胚の凹みがあり、腹面には長径0.5mm程度の浅い広倒卵形の窪みがある。胚乳表面はやや平滑で、穎(果)(有ふ果)が付着する個体も確認された。果皮は薄く、表面には特有の微細な乳頭突起が横列する。

・ヒエ近似種(*Echinochloa cf. utilis* Ohwi et Yabuno)

イネ科イヌビエ属

胚乳は、長さ1.7~1.9mm、幅1.0~1.7mm、厚さ0.8~1.0mmの、アワよりも大型で細長い半広卵体を呈する。胚乳基部正中線上は、背面に胚乳長の2/3程度を占める浅い馬蹄形の胚の窪みがあり、腹面にも径0.5~0.8mm程度の扇形で基部がやや尖る浅い窪みがある。胚乳表面は粗面。

・キビ(*Panicum miliaceum* L.) イネ科キビ属

胚乳は、長さ1.0~2.2mm、幅0.8~1.9mm、厚さ0.8~1.6mmの、アワやヒエよりも大型で長い半広卵体を呈する。胚乳基部正中線上は、背面に胚乳長の約半分の長さ(0.4~0.9mm)の馬蹄形の胚の窪みがあり、腹面にも径0.5mmの扇形の浅い窪みがある。胚乳表面は粗面で、表面に穎の破片が付着する個体も確認された。

なお、本報告では、径1~1.5mmの小型で上述のアワやヒエ近似種、キビに同定できなかった6個をイネ科としているが、これらは変異の範囲内の可能性や、未熟個体に由来する可能性がある。

・マメ科(*Leguminosae*)

1区12号竪穴住居より、栽培種を含むアズキ類に似る種子と、その他に由来する複数の形状が確認された。

アズキ類に似る種子は、長さ4.1mm、幅2.9mm、(残存)厚さ2.8mmを測る。やや偏平な直方体状非対称楕円体で、腹面の子葉合わせ目上に残存長0.9mmの長楕円形の臍が確認され、半露出型(小畑,2008;2010)を呈する。幼根はわずかに突出する。種皮は薄く、表面は摩耗している。

アズキ類とは異なる形状を呈する種子は、長さ4.7mm、幅3.3mm、厚さ2.3mmを測り、上述した個体よりも偏平である。背面が焼き膨れて突出しており、腹面には長さ1.6mm、残存幅0.4(復元0.8)mmの臍が突出する。

#### 4. 考察

各遺構より出土した炭化種実の時期別の組成を第34表に示す。炭化種実群は、9世紀第4四半期が17分類群152個(うち栽培種は7分類群138個)と分類群、個数ともに最も多く、9世紀第3四半期の9分類群74個(うち栽培種は5分類群64個)がこれに次ぐ。

栽培種は、果樹のスモモ、モモ?、穀類のイネ、オオムギ、コムギ、アワ、キビ、ソバが確認され、オオムギとソバは平安時代の遺構より確認された。また、栽培の可能性のある分類群では、ヒエ近似種、イネ科、マメ科(アズキ類含む)、シソ属などが確認された。これらの栽培種やその可能性を含む炭化穀類は、当時利用された植物質食料を反映すると考えられる。また、炭化穀類の表面は比較的明瞭で、イネ、アワ、キビには穎(籾)が残り、イネには穎の基部(小穂軸)も多く確認された。このような状況から、籾がついた生の段階で火を受けた個体も含まれると考えられる。

栽培種やその可能性のある分類群以外では、木本類は、高木になる落葉広葉樹のオニグルミ、トチノキ、ミズキが確認された。いずれも河畔林要素であることから、遺跡周辺の河畔などに分布した林分に由来すると考えられる。また、オニグルミは、あく抜きせずに子葉が食用可能であり、トチノキは、あく抜きすることで子葉が食用可能となる。これらの堅果類の出土個数は少量ではあるが、栽培種と共伴する状況を考慮すると、周辺域の森林より持ち込まれ利用された可能性がある。

草本類は、ツククサ、スゲ属、ホタルイ属、ヤナギタデ近似種、タデ属、アオツツラフジ、オナモミ属などの、明るく開けた場所を好んで生育する、いわゆる人里植物に属する分類群が確認された。これらは、当時の調査区周辺域の草地環境に生育していたと考えられる。また、スゲ属、ホタルイ属、ヤナギタデ近似種などの、水湿地生植物を含む分類群も含むことから、周辺域に水湿地の存在も推定される。





第3節 間之原遺跡の炭化種実同定

引用文献

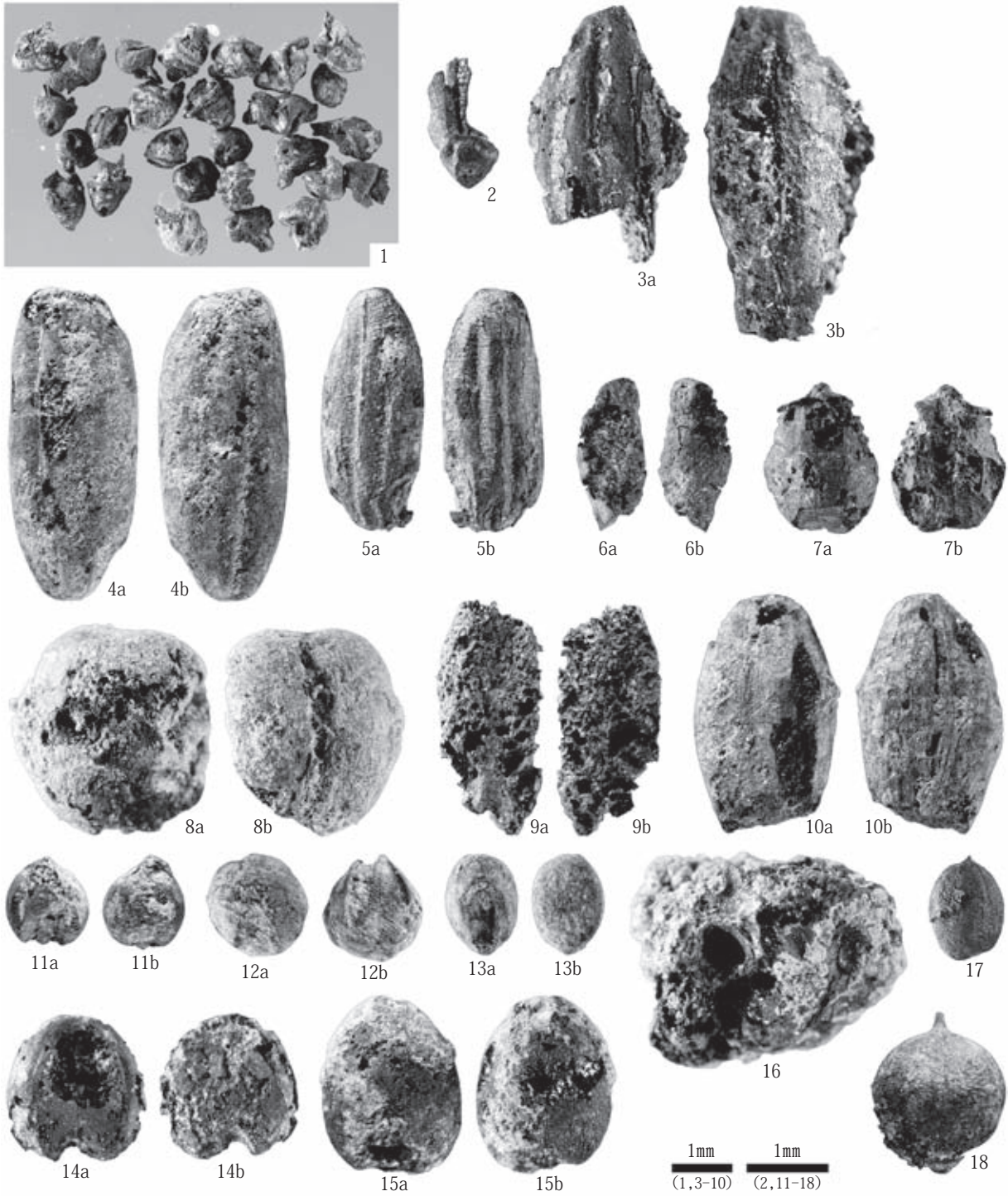
石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.  
 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p.  
 小畑弘己,2008,マメ科種子同定法.「極東先史古代の雑穀3」,日本学術振興会平成16～19年度科学研究費補助金(基盤B-2)(課題番号16320110)「雑穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究

成果報告書,小畑弘己編,熊本大学埋蔵文化財調査室,225-252.  
 小畑弘己,2011,東北アジア古民族植物学と縄文農耕.同成社,309p.  
 佐藤敏也,1988,弥生のイネ.弥生文化の研究2生業,金関 怨・佐原 真編,雄山閣,97-111.  
 椿坂恭代,1993,アワ・ヒエ・キビの同定.吉崎昌一先生還暦記念論集「先史学と関連科学」,261-281.  
 吉崎昌一,1992,古代雑穀の検出.月刊考古学ジャーナル,№355,2-14.

第34表 炭化種実組成(時期別)

分類群	6世紀 前半	6世紀 後半	8世紀後半	9世紀 第2四半期	9世紀 第3四半期	9世紀 第4四半期	計
<b>栽培種</b>							
スモモ	-	-	-	-	-	2	2
スモモ?	-	-	4	8	5	-	17
モモ?	-	-	-	-	1	-	1
イネ 類	2	14	-	-	2	47	65
イネ 胚乳	2	12	1	-	47	69	131
オオムギ	-	-	-	-	-	2	2
コムギ	1	9	1	-	5	8	24
アワ	-	2	-	-	4	5	11
アワ?	-	7	-	-	-	1	8
キビ	1	6	-	-	-	3	10
キビ?	-	2	-	-	-	-	2
ソバ	-	-	-	-	-	1	1
<b>栽培の可能性</b>							
ヒエ近似種	-	-	-	-	3	1	4
イネ科	-	2	-	-	2	2	6
マメ科(アズキ類)	-	1	-	-	-	-	1
マメ科	-	7	1	-	-	-	8
マメ科?	-	-	-	2	-	-	2
シソ属	-	-	-	-	-	1	1
<b>その他の木本</b>							
オニグルミ	-	-	-	-	-	2	2
トチノキ	-	-	-	-	-	1	1
ミズキ	-	1	-	-	-	-	1
<b>その他の草本</b>							
ツユクサ	-	-	-	-	-	1	1
スゲ属	-	-	-	-	1	-	1
ホタルイ属	-	-	-	-	-	1	1
ヤナギタデ近似種	-	-	-	-	-	2	2
タデ属	-	2	-	-	-	1	3
アオツツラフジ	-	-	-	-	4	-	4
オナモミ属	-	-	-	1	-	2	3
<b>合計(個数)</b>							
栽培種	6	52	6	8	64	138	274
栽培の可能性	-	10	1	2	5	4	22
その他の木本	-	1	-	-	-	3	4
その他の草本	-	2	-	-	5	7	14
合計	6	65	7	10	74	152	314
<b>合計(分類群数)</b>							
栽培種	3	4	3	1	5	7	-
栽培の可能性	-	3	1	1	2	3	-
その他の木本	-	1	-	-	-	2	-
その他の草本	-	1	-	-	2	5	-
合計	3	9	4	2	9	17	-

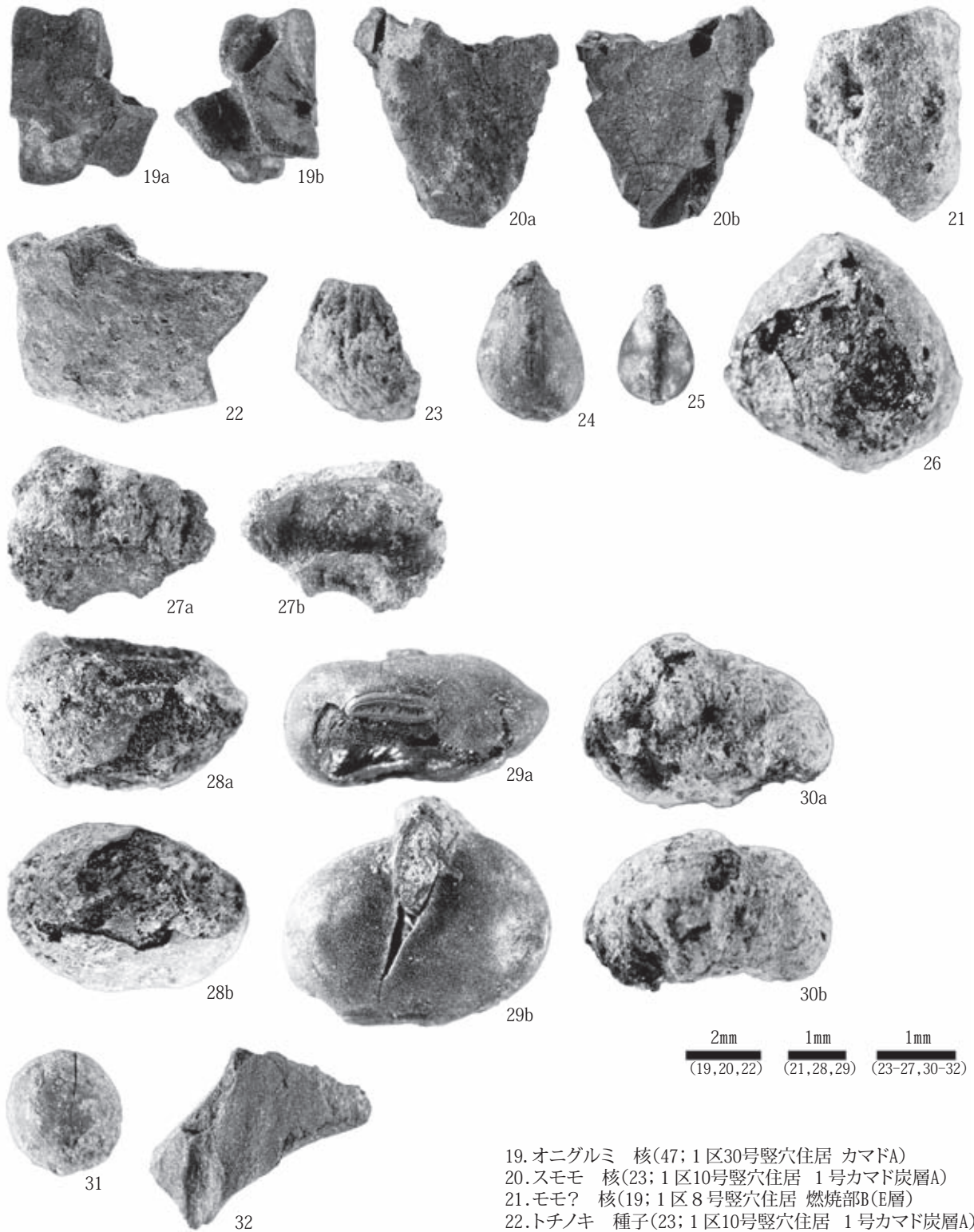
第316図 炭化種実(1)



- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1. イネ 穎(基部)(26; 1区10号竪穴住居 1号カマドB)    | 2. イネ 穎(基部)(29; 1区11号竪穴住居 貯蔵穴)         |
| 3. イネ 穎・胚乳(24; 1区10号竪穴住居 カマド炭層A)     | 4. イネ 胚乳(試料中最大)(26; 1区10号竪穴住居 1号カマドB)  |
| 5. イネ 胚乳(3; 1区2号竪穴住居 カマドA)           | 6. イネ 胚乳(試料中最小)(3; 1区2号竪穴住居 カマドA)      |
| 7. コムギ 胚乳(試料中最小)(3; 1区2号竪穴住居 カマドA)   | 8. コムギ 胚乳(試料中最大)(24; 1区10号竪穴住居 カマド炭層A) |
| 9. オオムギ 胚乳(29; 1区11号竪穴住居 貯蔵穴)        | 10. オオムギ 胚乳(23; 1区10号竪穴住居 1号カマド炭層A)    |
| 11. アワ 穎・胚乳(37; 1区16号竪穴住居 カマド燃焼部B)   | 12. アワ 穎・胚乳(23; 1区10号竪穴住居 1号カマド炭層A)    |
| 13. イネ科(タイヌビエ?) 胚乳(3; 1区2号竪穴住居 カマドA) | 14. ヒエ近似種 胚乳(26; 1区10号竪穴住居 1号カマドB)     |
| 15. キビ 穎・胚乳(33; 1区13号竪穴住居 カマド前面炭化物A) | 16. ツククサ 種子(29; 1区11号竪穴住居 貯蔵穴)         |
| 17. スゲ属 果実(18; 1区8号竪穴住居 カマド内燃焼部B)    | 18. ホタルイ属 果実(23; 1区10号竪穴住居 1号カマド炭層A)   |



第317図 炭化種実(2)



- 19. オニグルミ 核(47; 1区30号竪穴住居 カマドA)
- 20. スモモ 核(23; 1区10号竪穴住居 1号カマド炭層A)
- 21. モモ? 核(19; 1区8号竪穴住居 燃焼部B(E層))
- 22. トチノキ 種子(23; 1区10号竪穴住居 1号カマド炭層A)
- 23. ミズキ 核(5; 1区3号竪穴住居 カマド内炭化物)
- 24. ヤナギタデ近似種 果実(47; 1区30号竪穴住居 カマドA)
- 25. タデ属 果実(29; 1区11号竪穴住居 貯蔵穴)
- 26. ソバ 果実(24; 1区10号竪穴住居 カマド炭層A)
- 27. アオツラフジ 核(3; 1区2号竪穴住居カマドA)
- 28. マメ科(アズキ類) 種子(32; 1区12号竪穴住居 第26図4)
- 29. マメ科 種子(32; 1区12号竪穴住居 第26図4)
- 30. マメ科 種子(1; 1区1号竪穴状遺構)
- 31. シソ属 果実(24; 1区10号竪穴住居 カマド炭層A)
- 32. オナモミ属 総苞(26; 1区10号竪穴住居 1号カマドB)

## 第6章 総括

### 第1節 調査の成果

本報告書で報告する間之原遺跡及び間之原東遺跡で調査した遺構は以下のとおりである。間之原遺跡では、古墳時代から奈良・平安時代に至る竪穴住居74軒、竪穴状遺構6基、掘立柱建物17棟、柵8条、溝2条、井戸2基、土坑55基、ピット503基、畠1カ所、道1カ所である。間之原東遺跡で調査した遺構は、古墳時代の竪穴住居1軒とピット8基である。

間之原遺跡は太田市から邑楽郡大泉町、間之原東遺跡は邑楽郡大泉町に所在し、継続的に広範囲に発掘調査が行われている遺跡である。第2章第1節のとおり、これまでの発掘調査によって、縄文時代前期から平安時代の竪穴住居の他、古墳、掘立柱建物、中近世の溝などが確認されている。

前述したように、平成22年度及び平成24年度の発掘調査によって、これまでの間之原遺跡の発掘調査で最も多くの竪穴住居を確認することができた。出土遺物や残存状況が良好な竪穴住居なども複数あり、周辺では古墳時代から平安時代にかけて集落が継続的に営まれていた地域であったことが明らかとなった。

出土遺物も多く、時代別の遺物総数は、間之原遺跡では縄文土器1,748点、縄文時代から中近世の石器及び石製品など109点、土師器・須恵器など53,113点、中近世から近現代の陶磁器類6,705点、金属類など56点、炭化種実70資料にのぼる。間之原東遺跡では、縄文土器14点、縄文時代から中近世の石器及び石製品など28点、土師器・須恵器など545点、中世から近現代の陶磁器類56点、金属類など40点、炭化種実試料2点である。

遺構に伴う遺物ではないが、縄文時代前期の土器を主体として中期や後期の土器や中近世から近現代の陶磁器や石製品など幅広い時期の遺物が表土中や遺構埋没土などから出土し、遺構外出土遺物として掲載した。出土位置などについては出土遺物観察表(361～399頁)を参照されたい。

縄文時代や中近世の遺構は確認できなかったが、遺物の出土状況から判断し、間之原遺跡1区～3区や間之原

東遺跡1区周辺地域には、縄文時代や中近世の遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

本章では以下のとおり、6世紀から9世紀の竪穴住居の時期別変遷、間之原遺跡で確認した特徴あるピットの性格や機能、遺物では、県内初の出土となった紀年銘が刻書された紡輪について考察する。

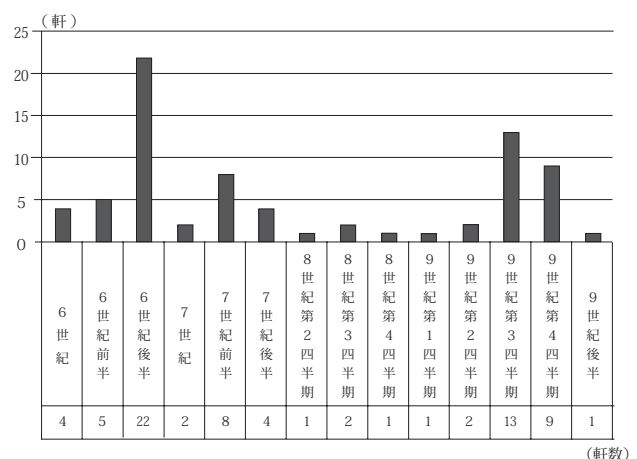
### 第2節 間之原遺跡・間之原東遺跡の竪穴住居の変遷について

#### はじめに

間之原遺跡の竪穴住居は74軒、間之原東遺跡では1軒の竪穴住居を確認した。竪穴住居の軒数について時期別の推移を表したものが第318図である。竪穴住居の床面直上やカマド燃烧面などから出土し、竪穴住居に帰属すると考えられる杯、皿、甕、壺などの遺物の他、重複遺構との関係などから使用されていた時期を判断した。

出土遺物が少なく、時期を特定できないため6世紀代や7世紀代と判断した竪穴住居もあるが、間之原遺跡及び間之原東遺跡で確認した古墳時代の竪穴住居45軒、奈良・平安時代30軒のうち、6世紀後半に比定される竪穴住居が22軒と最も多く、次いで9世紀第3四半期の13軒であり、6世紀後半の竪穴住居軒数が全体の29%を占めている。6世紀後半の軒数がピークとなり、7世紀前半から9世紀前半まで徐々に減少し、9世紀第3四半期になると再度増加に転じる(第318図)。

以下、各時期別の特徴を記す。



第318図 竪穴住居の時期別軒数



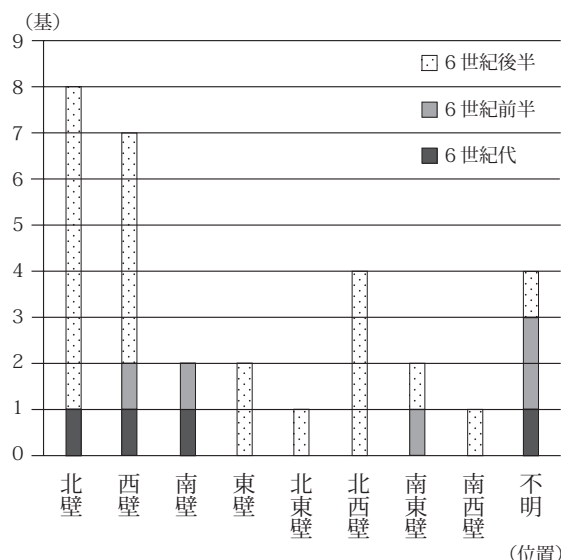
### 1. 6世紀代の竪穴住居について

間之原遺跡と間之原東遺跡から確認された竪穴住居は、6世紀代と判断した4軒を含め、6世紀前半5軒、6世紀後半22軒であり、合わせて30軒である。1区36号竪穴住居は重複関係から6世紀前半以前と考えられるが時期が特定できないため本節では6世紀代とした。6世紀後半の22軒は、一時期としては最多となった。隣接する間之原東遺跡では6世紀後半が1軒確認され、間之原遺跡において確認した竪穴住居とほぼ同一の住居群を構成していたと考えられる。竪穴住居の分布状況は、6世紀前半が1区中央部に認められるが、大半は1区西側から3区東側を中心に広範囲に分布している(第320図)。間之原東遺跡からも竪穴住居が確認されている点からも、1区及び3区南側への竪穴住居の広がりが想定される。

調査区域外に広がる竪穴住居や重複する遺構によって全体の規模が不明なものがあるが、6世紀前半では1区4号竪穴住居の床面積が42㎡以上の大規模となり、1区5号竪穴住居は10㎡程の小規模であった。確認できた他の竪穴住居も1区5号竪穴住居とほぼ同規模になると考えられる。

6世紀後半に入ると、6世紀前半に比べ大規模な竪穴住居が増加する。1区16・20・38・49号竪穴住居の4軒は40㎡以上の大規模であった。特に1区16・38号竪穴住居は重複や一部攪乱があるが、確認できる面積でも1区16号竪穴住居64.63㎡、1区38号竪穴住居51.45㎡を測り、特大規模の住居となった。1区16・20号竪穴住居と1区38・49号竪穴住居はそれぞれ近接する位置にあるため同時期に使用していたとは考え難く、建て替えなどを行いながら特大規模の竪穴住居を中心に2～3箇所の纏まりで小・中規模の竪穴住居による住居群を構成していたと考えられる。

間之原遺跡と間之原東遺跡では、それぞれの住居四壁面にいずれかの壁面にカマドが付設されているため、時期別の特徴を捉えたいと考えた。6世紀代のカマド付設位置と時期別数を表したものが第319図である。6世紀前半は、竪穴住居の軒数が少なく全体の傾向を把握することは困難であるが、西壁、南壁、南東壁にそれぞれ付設されていた。6世紀後半になるとカマドの付設位置が北壁7基、西壁5基、北西壁4基となり、位置不明を

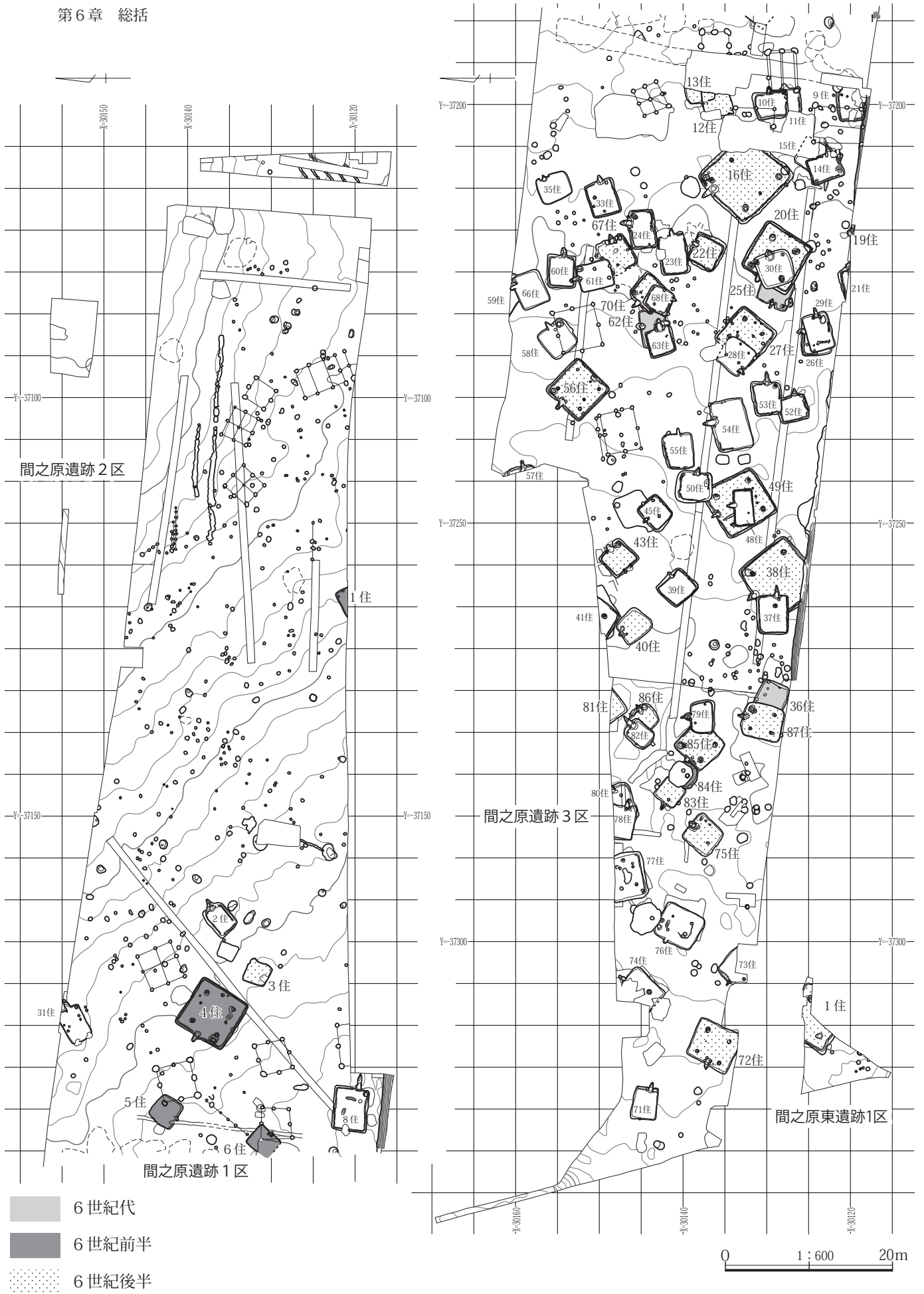


第319図 6世紀代のカマド付設位置と時期別数

除き全体の59%を占める。間之原遺跡及び間之原東遺跡では、6世紀後半の竪穴住居のカマドについて西壁から北壁に付設する特徴が認められ、南壁には付設していなかった。6世紀後半は北壁や西壁の付設が好まれたか、1区16・20・38・49号竪穴住居のような特大規模の竪穴住居のカマドについても北壁や西壁に付設する傾向が窺えることから、周辺の小・中規模の竪穴住居が特大規模の竪穴住居に倣って付設していた可能性も考えられる。

竪穴住居の貯蔵穴については、6世紀代の竪穴住居31軒のうち床面精査及び掘り方調査によって確認できた竪穴住居は8軒であり、2軒の竪穴住居についてはカマド周辺に貯蔵穴の可能性のある窪みが認められた。6世紀前半の1区4号竪穴住居と6世紀代1区25号竪穴住居はカマド左側に、6世紀後半の竪穴住居はカマド右側に貯蔵穴を築く傾向となった。

主柱穴が確認できた竪穴住居は10軒であり、主柱穴の可能性のあるピットを持つ竪穴住居は1軒である。6世紀前半では1区4号竪穴住居で主柱穴の他、支柱穴も確認できた。6世紀後半では1区16・38・56・3区72・87号竪穴住居の5軒で主柱穴と支柱穴が、1区20・27・49・3区85号竪穴住居で主柱穴が確認できた。床面積20㎡以下の3区75・87号竪穴住居や1区56号竪穴住居などにも支柱穴となるピットを持つが、主に40㎡以上の大規模な竪穴住居であった。出入口施設に伴う小ピットやピット状の窪みが周溝内や壁際で確認できたのは、6世紀後半の1区16・20号竪穴住居の2軒であった。

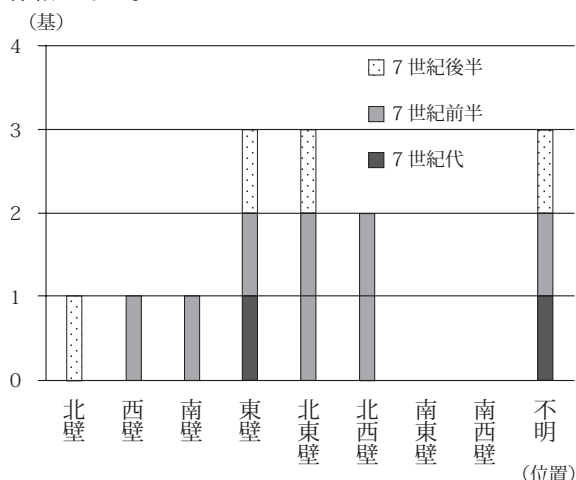


第320図 竪穴住居の時期別変遷(6世紀)

## 2. 7世紀代の竪穴住居について

7世紀代と確認できた竪穴住居の軒数は、6世紀後半に比べ減少する。7世紀代に比定した竪穴住居2軒を含めて7世紀前半8軒、7世紀後半4軒であり、合わせて14軒となった。竪穴住居は、1区西部から3区にかけて分布しているが、主として調査区北寄りに散在していた(第323図)。調査区域外に広がるため全体の規模が不明な竪穴住居もあり、床面積が確認できた住居は14軒中6軒であった。7世紀前半に比定される3区76号竪穴住居の床面積が22.21㎡と最も広く、7世紀後半の3区77号竪穴住居についても、北側が調査区外となるため全体の規模は不明であるが、3区76号竪穴住居とほぼ同規模と想定される。他の竪穴住居の床面積は9.23～14.42㎡であり、床面積の平均値は13.88㎡であった。6世紀代にみられたような床面積が40㎡以上となる特大規模の竪穴住居は7世紀代では確認できなかった。

7世紀代のカマドの付設位置と時期別数については、第321図のとおりである。確認できた竪穴住居の数が少なく7世紀代として全体の傾向を正確に把握することはできないが、7世紀前半に比定される8軒の竪穴住居のカマド付設位置は西壁、南壁、東壁にそれぞれ1基、北東壁2基と北西壁2基であった。概ね東壁から北東壁、西壁から北西壁に付設する傾向が窺える。7世紀後半についても数は少ないが、カマドを北壁、東壁、北東壁にそれぞれ付設するなど、特定の位置に限定していなかった様相である。



第321図 7世紀代のカマド付設位置と時期別数

竪穴住居の貯蔵穴については、床面精査や掘り方調査によって確認できなかった竪穴住居がほとんどである

が、1区58号竪穴住居はカマド右側に構築していた。この貯蔵穴には開口部に段差が認められることから、蓋などを設置していた可能性がある。

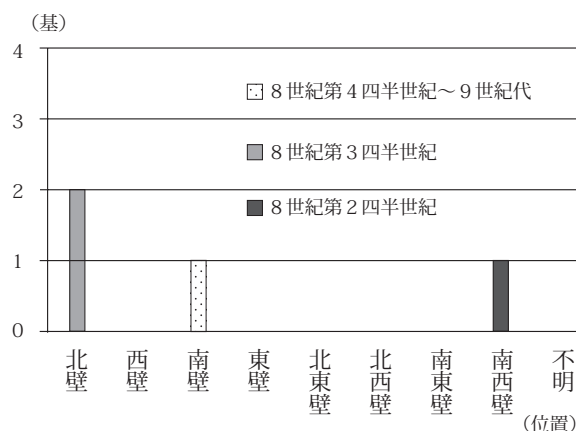
主柱穴が確認できた竪穴住居は7世紀前半の1区41号竪穴住居、7世紀後半の77号竪穴住居である。主柱穴の可能性があるピットを確認した竪穴住居も2軒あった。

1区39号竪穴住居の周溝内には小ピット状の窪みが連続的に認められた。出入口の施設や或いは、壁面に付設した何らかの構造物に関連するピットの可能性も考えられる。

## 3. 8世紀代の竪穴住居について

8世紀代に比定される竪穴住居は4軒である。8世紀第2四半期1軒、8世紀第3四半期2軒、8世紀第4四半期～9世紀代と考えられる1軒である。7世紀後半から竪穴住居数が減少し、8世紀代が一時期としては最も少なく、1区中央部や西部、3区西部において僅かに確認できたにすぎない(第324図)。床面積は8.92～11.64㎡を測り、ほとんどが小規模であった。

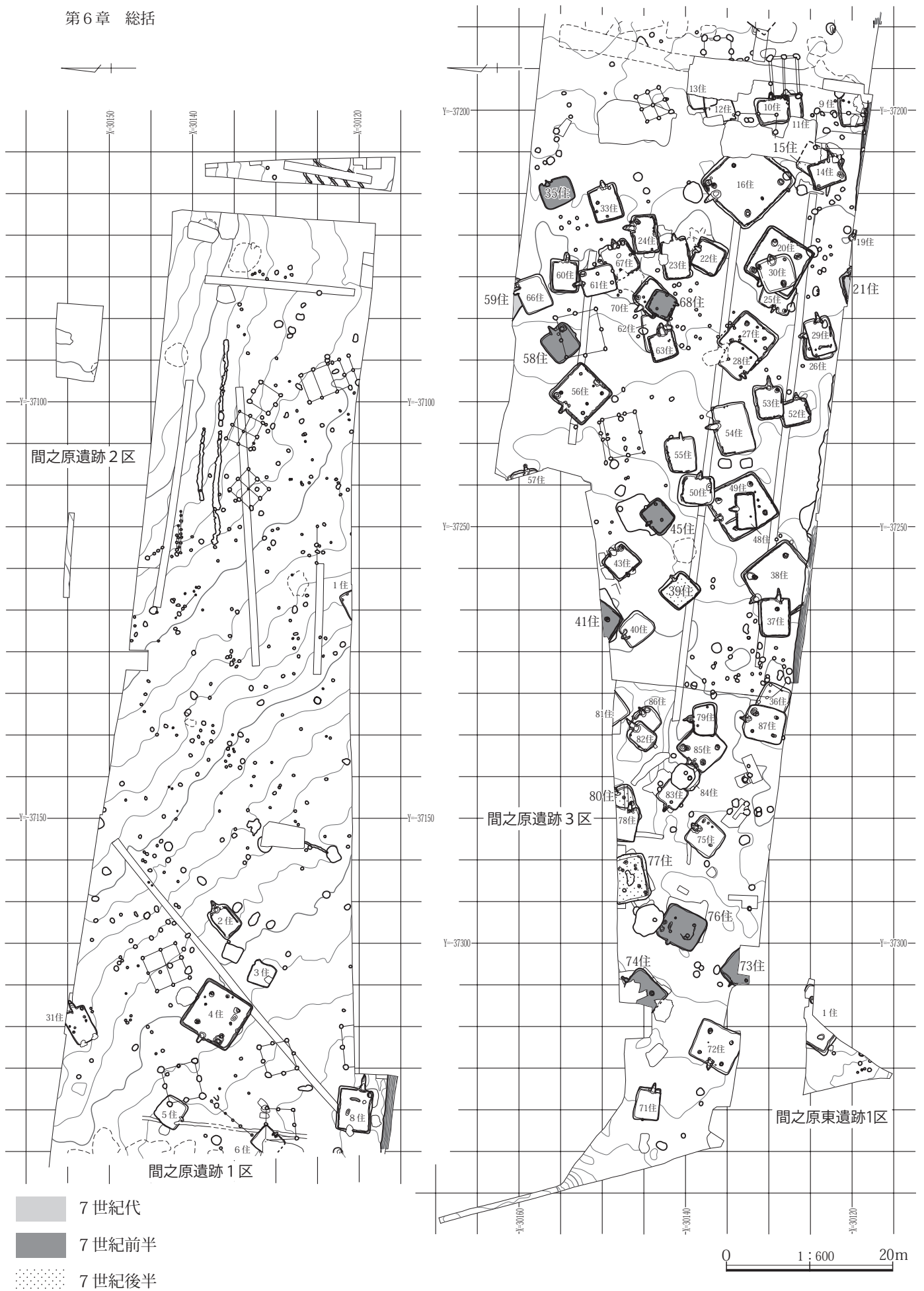
竪穴住居のカマドの付設位置については、8世紀第2四半期が南西壁、8世紀第3四半期が北壁、8世紀第4四半期～9世紀代は東壁に付設していた。8世紀代については確認できた数が少なく全体の傾向を把握できないが、北壁にカマドを備える竪穴住居が僅かに多い(第322図)。



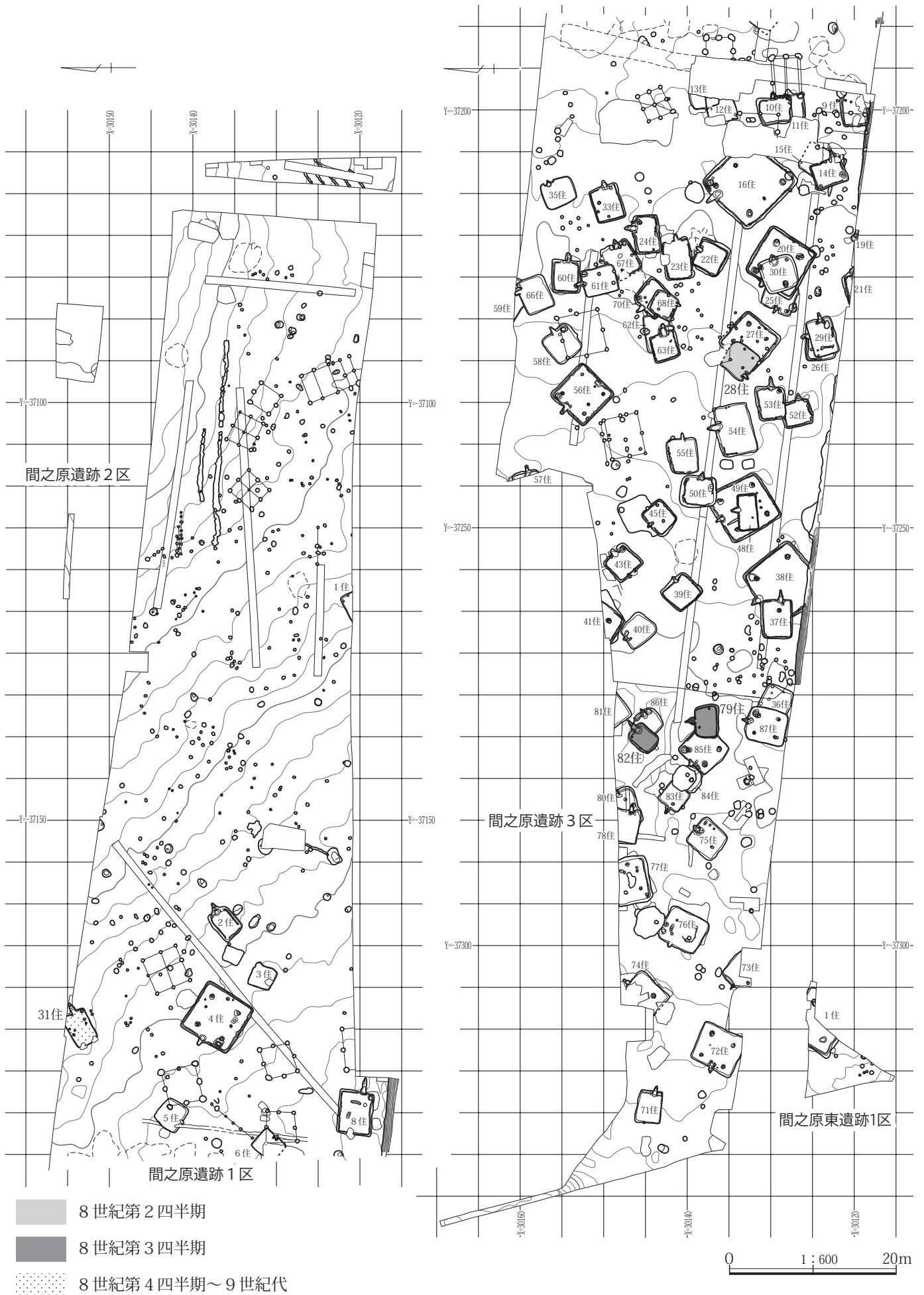
第322図 8世紀代のカマド付設位置と時期別数

竪穴住居の貯蔵穴については、8世紀第3四半期の3区79号竪穴住居と8世紀第4四半期～9世紀代の1区31号竪穴住居はカマド右側に構築していた。

4軒の竪穴住居では、それぞれ主柱穴を確認できなかったが、1区31号竪穴住居の周溝内北壁際から、出入口施設の可能性がある2基の小ピットを確認した。







第324図 竪穴住居の時期別変遷(8世紀)



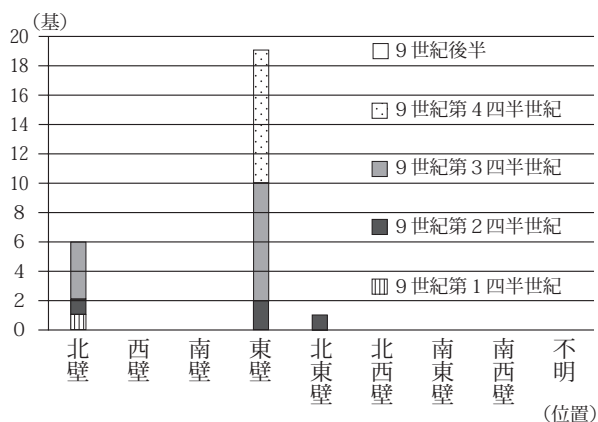
#### 4. 9世紀代の竪穴住居について

9世紀に入ると7世紀後半から8世紀にかけて減少していた竪穴住居の軒数が再び増加する。竪穴住居の時期別軒数は、9世紀第1四半期1軒、9世紀第2四半期2軒、9世紀第3四半期13軒、9世紀第4四半期9軒、9世紀後半1軒で、合わせて26軒となり、6世紀代の31軒に次ぐ結果となった。竪穴住居の分布状況については、9世紀第3四半期は3区西端まで範囲を広げているが、主に1区中央部から西部が中心であった(第326図)。

9世紀第2四半期の竪穴住居の床面積は12.67㎡と17.27㎡であった。9世紀第3四半期は、1区8号竪穴住居22.29㎡、1区54号竪穴住居26.40㎡の他、床面積が不明であった2軒以外の9軒については11.32～14.97㎡であった。9世紀第4四半期9軒のうち床面積が不明であった4軒以外の5軒については、床面積が11.08～16.17㎡であり、9世紀後半の1区61号竪穴住居は12.38㎡である。竪穴住居の床面積の平均値は9世紀前半14.18㎡、9世紀後半14.67㎡となり、6世紀前半にみられた特大規模の竪穴住居はない。

9世紀代のカマドの付設位置と時期別数については、第325図のとおりである。9世紀第2四半期の2軒は東壁に付設していた。9世紀後半に比定される1区61号竪穴住居は北壁にカマドを付設していたが、9世紀第3四半期と第4四半期の22軒の竪穴住居のうち17基のカマドが東壁に付設されていた。9世紀第3四半期以降から東壁や北東壁にカマドを付設する特徴が認められ、9世紀代でみても全体の73%を占める結果となった。

竪穴住居の貯蔵穴については、床面精査や掘り方調査



第325図 9世紀代のカマド付設位置と時期別数

によって確認できなかった竪穴住居もあるが、確認できた9軒の貯蔵穴は全てカマド右側に構築していた。

9世紀代の竪穴住居内にもピットは確認できたが、主柱穴と判断できるものはなかった。壁際に掘り込まれた複数基の小ピットが確認できた竪穴住居は4軒であり、南壁中央部2軒、東壁中央部、西壁などに認められ、出入口施設の一部と考えられる。

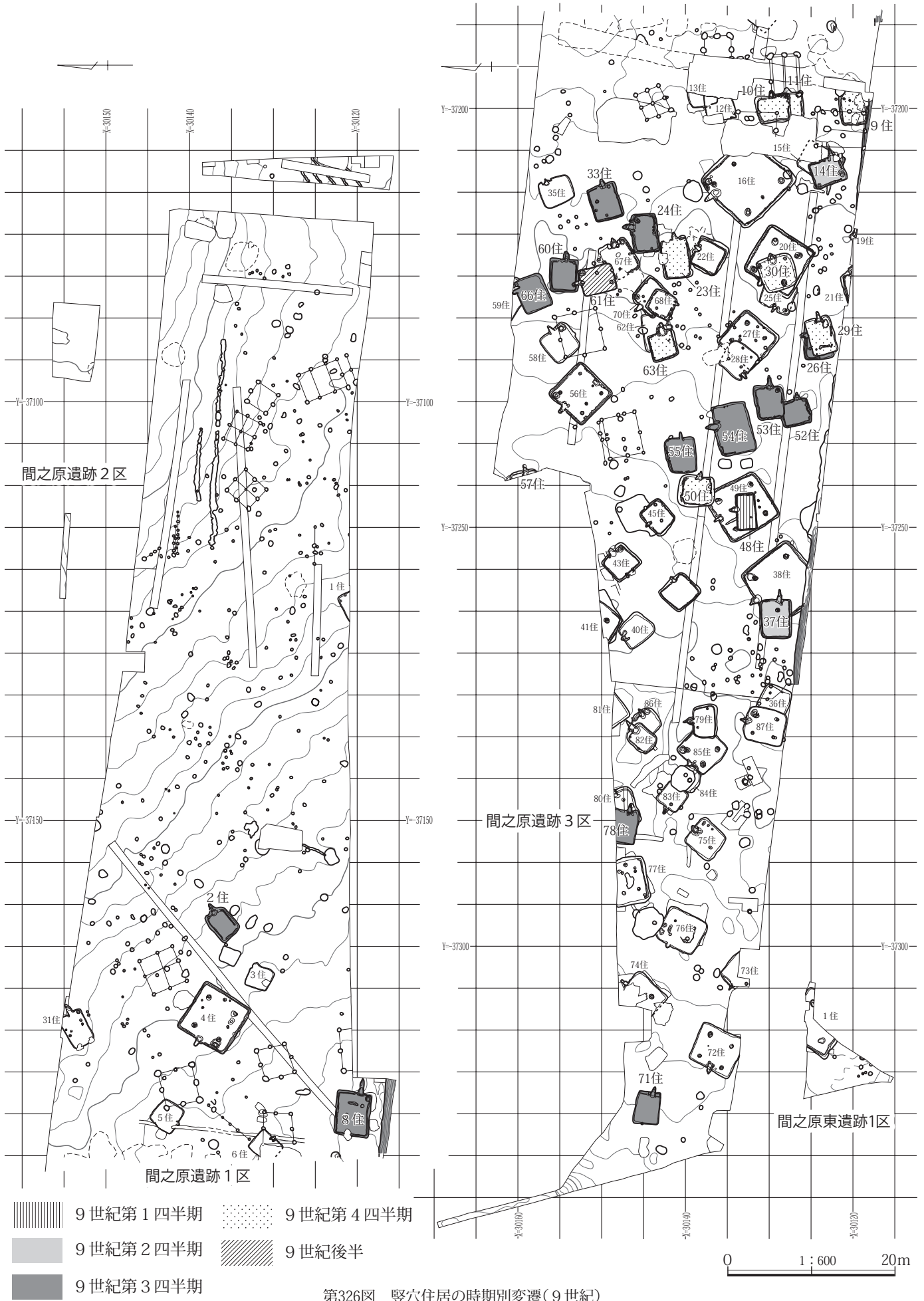
#### 5. まとめ

間之原遺跡と間之原東遺跡における6世紀から9世紀に至る竪穴住居の特徴は以下のとおりである。竪穴住居の時期別構成については、6世紀後半が一時期としては最も多く、分布状況から大規模や特大規模の竪穴住居を中心に小・中規模の竪穴住居が2～3箇所の纏まりで住居群を構成していたと考えられる。間之原遺跡1区と3区では、7世紀から8世紀にかけて竪穴住居の軒数が急激に減少する。減少した要因は不明であるが、調査区北側や南側などに居住域を拡大したか、或いは他の周辺地域へ人々が流出した可能性もある。9世紀代に入ると徐々に竪穴住居の軒数が増加し、9世紀第3四半期には13軒となった。

竪穴住居のカマドについては、付設方向に多様性が認められた。あらゆる壁面に付設されていることから、それぞれ時期別に分けて検討した。6世紀後半では、カマドのほとんどが西壁や北壁など住居北半部に付設されていた。7世紀や8世紀の竪穴住居は確認数が少なく全体の傾向を十分把握できないが、7世紀は南東壁や南西壁以外に、8世紀代は北壁に付設する傾向が窺える。7世紀代や8世紀代については、カマド付設に一定の規則性を持たなかった可能性がある。9世紀第3四半期に入ると状況は一変し、竪穴住居のほとんどが東壁にカマドを付設するという結果となった。

主柱穴については8世紀や9世紀では確認できなかったが、出入口施設の可能性がある小ピットを壁際などで確認できた竪穴住居もあった。

カマドの付設位置については時期別の特徴を捉えることができた。間之原遺跡や間之原東遺跡の周辺地域の発掘調査の成果や今後の発掘調査の結果を基に、さらに検討していきたいと考える。



第326図 竪穴住居の時期別変遷(9世紀)

### 第3節 深さ約1.5m以上のピットの機能や性格について

間之原遺跡では、発掘調査によって1区から3区にかけて古墳時代から平安時代に比定される503基のピットを確認した。掘立柱建物や柵の柱穴などに変更したピットも複数基あり、間之原遺跡では600基以上のピットを調査した。遺物を伴うピットもあるが、埋没土からの出土が多く、時期の比定は困難であった。出土遺物を基に形状、規模、埋没土などが類似するピットを古墳時代や奈良平安時代にそれぞれ帰属させた。

間之原遺跡1区や3区で確認したピットの中には、遺構確認面であるローム漸移層からピット底面までの深さが約1.3m以上あるピットが29基確認された。このうち深さ2.0m以上となるピット開口部の長径は、0.47~1.10mを測り、最も深いピットは3区635号ピットの2.43mであった。これらのピット周辺では、深さ1.5~2.0mのピットもあり、1.3m以上の325・362・441・442号ピットも確認された。遺構確認面の高低によって深さが変わる可能性があるため、1.5m以下の深さであったが関連が想定されるため本節に含めている。深さ1.3~1.5mは6基、1.5~2.0mは6基、2.0m以上は16基となった。ピットの形状や規模などについては第40表を参照されたい。3区633号ピットについては、3区632号ピットのトレンチ調査中に確認したピットであり、深さ1.06mとなっているが、遺構確認面から底面まで約2.25m掘り込まれていたと想定される。周辺で確認されたピットも含め再度検討を試みたが、土層断面に明瞭な柱痕は認められず、掘立柱建物や柵などの柱穴にはならなかった。

深さに特徴が認められるこれらのピットが確認された位置については、間之原遺跡1区東部、中央部、3区東部の3箇所である(第327・328図)。特に1区中央部北側と3区東部に集中する。1区325・362・494・501号ピットのようにそれぞれ単独で確認されるピットもあったが、2基一組や複数基の纏まりによって確認できるピットが多い。2基一組のピットでは、1区440・443号ピット(ピット間1.60m)、1区443・444号ピット(ピット間2.55m)、1区443・516号ピット(ピット間1.05m)、1区436・435号ピット(ピット間2.50m)、1区441・442号ピット(ピット間1.15m)、1区440・646号ピット(ピッ

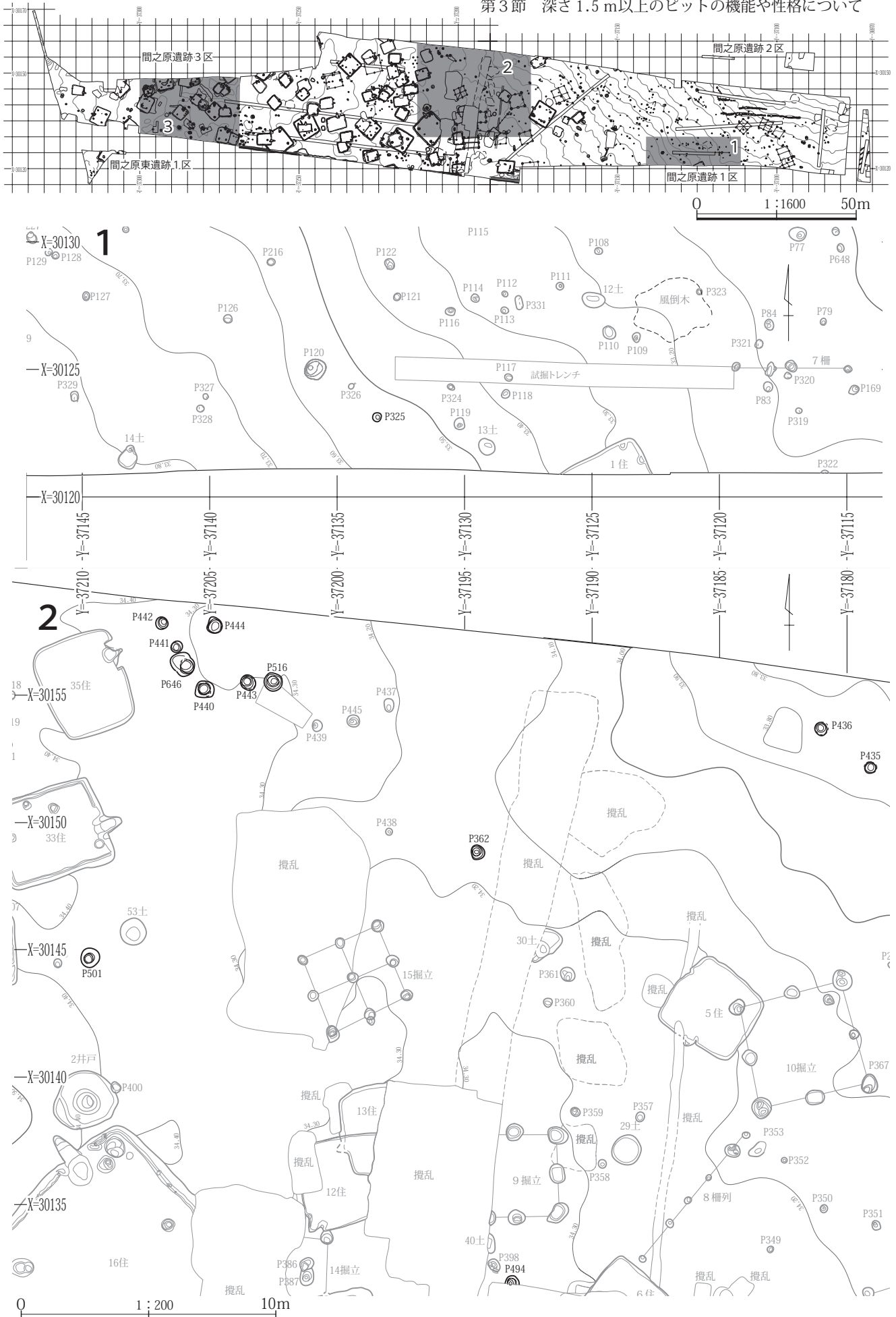
ト間1.15m)などであり、1区440~442号ピットについては柵の様相を呈する。また、3区では624・623号ピット(ピット間1.45m)、3区641・642号ピット(ピット間1.00m)、3区632・633号ピット(ピット間1.15m)、3区630・631号ピット(ピット間0.80m)などが2基一組となる可能性が高い。ピット間は0.80~2.55mの距離となり、形状や規模が類似する3区367号ピットと638号ピットは近接した場所から確認された。

発掘調査では、径が50cm程の狭さで、1.5m以上の深さになると底面まで詳細に調査することは困難である。このため1.5m以上のピット8基については、ピット半部を残し周囲をトレンチ状に掘り下げることによって土層断面の観察などを行った。ピットは、硬化したローム面を1.5~2.0m掘り込み、ローム塊やローム粒、ローム漸移層土などを含む黒褐色土などで埋没していた。人為的な埋戻しも確認できたが、自然埋没か人為的か不明なピットが多数である。開口部から底面まで壁面の観察を行ったが明瞭な工具痕跡などは確認できなかった。

ピットの埋没土中には遺物が含まれ、1区436号ピットから6世紀代の土師器台付甕、1区516号ピットから古墳時代後半の土師器甕、3区624号ピットから7世紀前半の土師器杯や甕、3区625・642号ピットから6世紀後半の土師器杯、3区638・639号ピットから7世紀代の土師器杯、3区640号ピットから6世紀代の土師器杯、1区646号ピットから6~7世紀の土師器片がそれぞれ出土した。1区3号井戸については整理作業によって再検討し、長径が78cmであること、他のピットと形状や規模が類似することから1区646号ピットに変更した。1区646号ピットは、深さ2.17mを測り底部には湧水が認められ、他にも底部に湧水が認められたピットは、1区435・436・443・444号ピット、3区624・625・637・638・641・642号ピットであった。

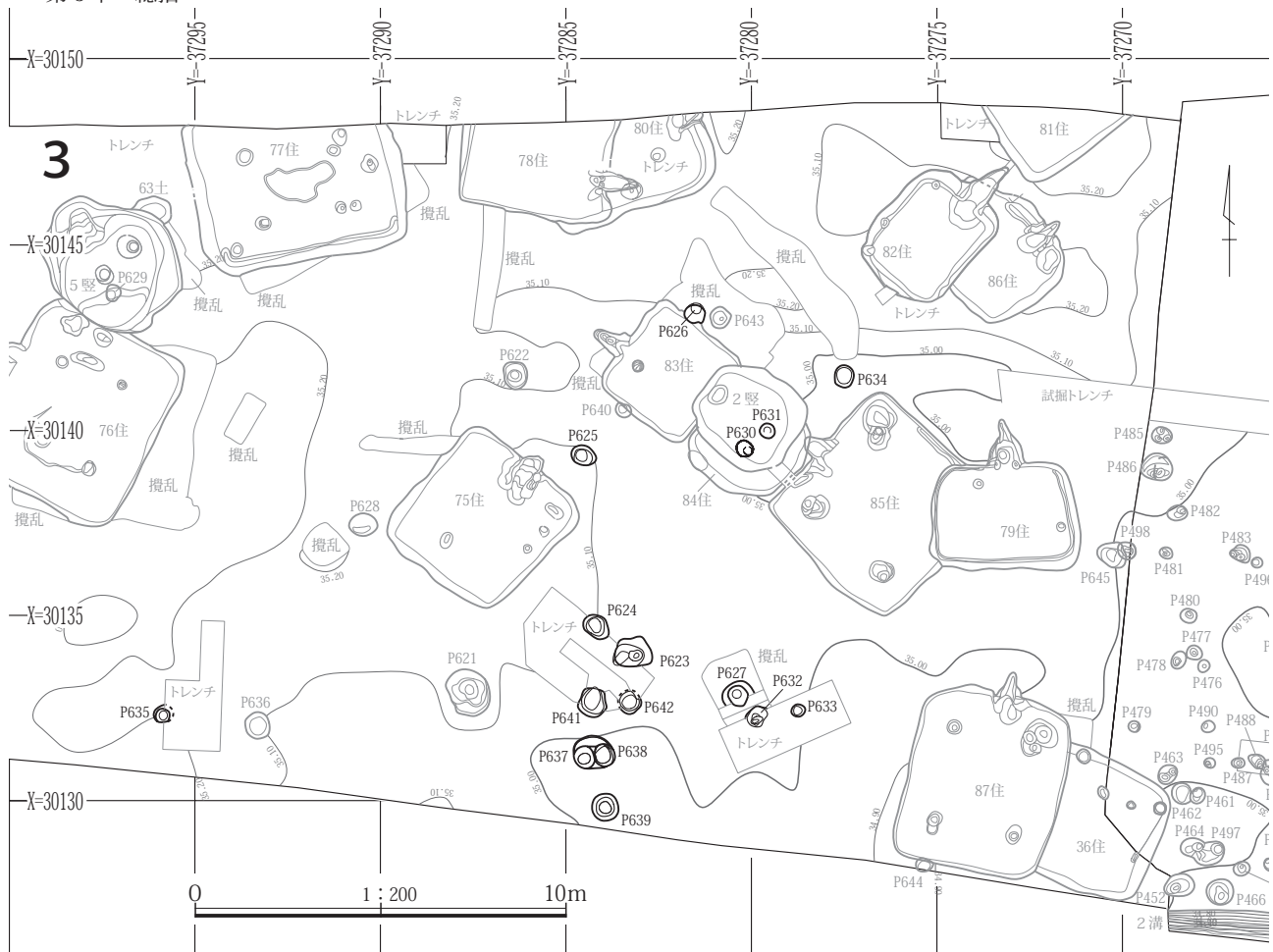
第327図-2・第328図のようにピットの周辺では、6世紀から9世紀に至る竪穴住居が複数確認された。3区で確認されたピットは、6世紀後半の竪穴住居に囲まれた状況にあり、竪穴住居に関連する何らかの施設の可能性があるが、柱穴として固いローム層を約2.0m以上も掘る必要があるとは考えがたい。柱穴の多さから旗などを立てる柱穴として使われたとも考えられず、使用目的については明確にできなかった。

第3節 深さ1.5m以上のピットの機能や性格について



第327図 間之原遺跡1区深さ約1.5m以上のピット位置図





第328図 間之原遺跡3区深さ約1.5m以上のピット位置図

類例をみると、間之原遺跡から約1.6km北西に位置する川向・中西田遺跡(第5図・第2表3)(12・13頁)の発掘調査では、古墳時代中期の竪穴住居や奈良・平安時代の竪穴住居の他、26基の井戸が調査された。このうち12基が上端径約0.5m、深さ約1.1mの規模であり、小型の井戸として報告されている。また、前橋市二之宮町の二之宮谷地遺跡では、間之原遺跡において確認されたピットに類似する4基の土坑が確認されている。86～89号土坑の規模は径0.3～0.4m、深さ0.7～1.5mを測り、7世紀後半に位置づけられている。

間之原遺跡で確認した深さ約1.5m以上のピットの機能や性格などについては、川向・中西田遺跡のように小型の井戸の可能性も高いと考えられるが、断定はできなかった。周辺での発掘調査や他の類例と比較しながら、今後もさらに検討していく必要がある。

参考文献

太田市教育委員会 1982『大塚・間之原遺跡』-川向・中西田地区(第2次)-  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1994『二之宮谷地遺跡』

第35表 間之原遺跡1区・3区 深さ約1.5m以上のピット一覧表

区	NO.	形状	規模(m) ( )は残存値			本文頁	挿図	写真図版
			長径	短径	深さ			
1	325	不定形	0.36	0.33	1.42	165頁	第147図	—
1	362	不定形	0.58	0.55	1.43	165頁	第147図	P L .43
1	435	ほぼ円形	0.44	0.43	1.78	165頁	第147図	—
1	436	楕円形	0.53	0.46	1.62	165頁	第148図	—
1	440	隅丸方形	0.72	0.65	2.16	165頁	第148図	P L .43
1	441	ほぼ円形	0.47	0.44	1.30	165頁	第148図	P L .44
1	442	ほぼ円形	0.58	0.48	1.35	165頁	第148図	P L .44
1	443	楕円形	0.64	0.58	2.39	165頁	第148図	P L .44
1	444	不定形	0.65	0.62	2.04	165頁	第148図	P L .44
1	494	—	0.56	(0.35)	1.57	165頁	第149図	P L .44
1	501	ほぼ円形	0.77	0.73	1.58	165頁	第149図	P L .44
1	516	不定形	0.75	0.73	2.15	165頁	第149図	P L .44
3	623	不定形	1.01	0.79	2.31	166頁	第150図	P L .44
3	624	不定形	0.78	0.57	2.36	166頁	第150図	P L .45
3	625	楕円形	0.68	0.53	2.38	166頁	第149図	P L .45
3	626	不定形	0.55	0.51	2.19	166頁	第150図	P L .45
3	627	—	0.86	(0.67)	2.19	166頁	第150図	P L .45
3	630	不定形	0.46	0.42	(1.44)	166頁	第150図	P L .45
3	631	ほぼ円形	0.41	0.39	(1.54)	166頁	第151図	P L .45
3	632	—	(0.62)	(0.50)	1.96	167頁	第151図	P L .46
3	633	楕円形	0.38	0.33	(1.06)	167頁	第151図	P L .46
3	634	不定形	0.60	0.52	(1.38)	167頁	第151図	P L .46
3	635	—	0.47	(0.43)	2.43	167頁	第151図	P L .46
3	637	不定形	0.61	0.53	2.01	167頁	第151図	P L .46
3	638	不定形	0.61	0.54	2.10	167頁	第151図	P L .46
3	639	ほぼ円形	0.73	0.71	2.10	167頁	第151図	P L .46
3	641	不定形	0.78	0.77	2.37	167頁	第152図	P L .46
3	642	—	0.60	(0.59)	2.35	167頁	第152図	P L .46
3	646	—	0.78	(0.54)	2.17	169頁	第152図	P L .47



## 第4節 間之原遺跡出土の紀年銘が刻書された紡輪について

紡輪は、糸の繊維素材に撚りをかけるために使用する紡錘車の弾み車である。平成22年度と平成24年度の間の間之原遺跡における発掘調査によって、土製品4点、石製品2点の紡輪が出土した。9世紀第4四半期の1区10号・29号竪穴住居埋没土から土製品、9世紀第3四半期の1区54号竪穴住居掘り方から須恵器杯<sup>1</sup>または碗の底部を二次加工したもの、遺構外では1区遺構確認面から須恵器杯の底部を二次加工したものであり、石製品については、1区16号掘立柱建物の柱穴埋没土と3区遺構確認面からそれぞれ1点ずつ出土している。

出土した紡輪のうち刻書など文字が認められるものは1点のみである。この紡輪が出土した1区16号掘立柱建物(第267・268図PL70・97)は、古墳時代後期に比定する1区58号竪穴住居が廃絶されて完全に埋没したあとに建てられた掘立柱建物であり、柱穴を8基確認した。刻書された紡輪は7号ピット壁際の埋土上部から出土し、紀年銘の書かれた面が下向きになっていた。7号ピットから出土した6世紀後半の土師器杯も刻書された紡輪と同様に柱穴の埋没土に混入したものと考えられる。他の柱穴から出土遺物がなく時期の比定は難しいが、1区58号竪穴住居との重複や刻書された紡輪の出土などから時期を平安時代とした。

刻書された紡輪は円盤状で、断面形は逆台形である。中央部には、回転軸を挿入するための孔を穿つ。規模は、上面径4.02~4.10cm、下面径3.10~3.30cm、厚み縁辺1.05~1.18cm、孔周辺1.25~1.28cm、上面孔径0.85~0.95cm、下面孔0.95cm、重さは33.87gをそれぞれ測る。石材については、蛇紋岩であった。

紡輪に刻書された文字については、高島英之氏によって下面「天長七年正月三日」、側面「三」カ「川」カ、上面「日奉マ」と釈読された。表面の観察からは、紡錘車の紡輪としての長期間の使用による摩滅が顕著に認められ、この摩滅の上に刻書されていることが分かる。紡輪の表面には、引っ搔いた傷のような文字が刻まれ、先端が尖った鋭利な器具のようなものを使用していた。紀年銘は、紡輪の下面に明瞭に残存し、「天長七年正月三日」の年月日が刻まれている。この紀年銘は縦書きではなく、紡輪下

面を右回りに回しながら左から右へ一周するように横書きしている点に特徴がある。「天・長・七・年・正・月・日」の文字は、紡輪の孔に対してそれぞれ上向きに刻書し、配置されているが、「三」だけは文字の向きが左側に傾く。字間については、「天・長・七・年・正・月」の文字間隔をやや広く開け、「三日」は文字間隔が詰まっている。一月については「正月」と刻書している<sup>註1)</sup>。側面の刻書については、紡輪下面「月」の隣接箇所に「三」<sup>2)</sup>または「川」と読めるような線刻が認められるが下面のように明瞭ではない。

紡輪上面には長期間の使用による線状痕があらゆる方向に無数に認められる。紡輪下面の年月日のような明瞭さはなく「日奉マ(部)」「ひまつりべ」と高島氏は釈読しているが、線状痕と線刻文字との区別は困難であり判然としない。なお「日奉マ(部)」とは祭祀を司ると考えられている品部の一つであり、氏族を示すものである。

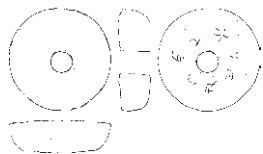
群馬県内の発掘調査では、これまでに県内各地域から紡輪が出土している。矢田遺跡では、「物部郷長」と「氏名」が刻書された紡輪<sup>註2)</sup>を含めこれまでに122点の紡輪が出土するなど県内では群を抜く数であり、県南西部に位置する吉井町(現高崎市)地域からの出土が数多く報告されるなど<sup>註3)</sup>、古代より紡錘車を使用した糸生産が盛んに行われていたことに深く関連すると考えられている。刻書された紡輪については、関東地方の北部に位置する埼玉県北西部から群馬県南西部など限られた地域に濃密に分布することが指摘され<sup>註4)</sup>、高島氏の集成によると群馬県内では64点、埼玉県内では61点、東京都では6点が出土している<sup>註5)</sup>。

刻書された紡輪のうち紀年銘が刻書されたものに限ると、間之原遺跡以外では、佐賀県小城市の丁永遺跡出土の石製紡輪(丁亥年六月十二日・西暦687年)<sup>註6)</sup>、東京都日野市の落川遺跡出土の石製紡輪(和銅七年十一月二日・西暦714年)<sup>註7)</sup>、埼玉県川越市の仲遺跡出土の石製紡輪(大同元年七〇十四日・西暦806年)<sup>註8)</sup>、埼玉県上里町の若宮台遺跡出土の石製紡輪(天安二年十二月廿八日・西暦856年)<sup>註9)</sup>の4点であり、間之原遺跡出土を含めてもわずか5点にすぎない(第41表)。間之原遺跡から出土した紀年銘が刻書された石製紡輪は、群馬県内初の出土となったが、紀年銘を含めて上面、側面、下面にそれぞれ文字が記載された石製の紡輪となると全国的にも類例が

第36表 紀年銘刻書紡輪一覧表

番号	遺跡名	調査場所	調査年月	刻書紡輪の概要
1	間之原遺跡	群馬県太田市龍舞町	2010.4.1~ 2010.9.30、 2012.4.1~ 2012.6.30	出土遺構：1区16号掘立柱建物7号ピット 石材：蛇紋岩 残存率：完形 上面径：4.02-4.10cm 下面径：3.10-3.30cm 厚み縁辺：1.05-1.18cm 孔周辺：1.25-1.28cm 上面孔径：0.85-0.95cm 下面孔径：0.95cm 重量：33.87g 線刻部位：上面・側面・下面 線刻文字：下面「天長七年正月三日」 側面「三」カ「川」カ 上面「日奉マ(部)」 年代：天長七年・西暦830年
2	丁永遺跡	佐賀県小城市	2区 2007.8.16~ 2007.10.11	出土遺構：2区小穴P70 石材：片状蛇紋岩(滑石を含むか) 残存率：完形 直径：4.58cm 厚さ：0.75cm 孔径：0.77cm 重量：27.5g 線刻部位：上面 線刻文字：「丁亥年六月十二日 赤※十万呂」 年代：丁亥年・西暦687年 ※木偏に是
3	落川遺跡	東京都日野市落川	1993.4.1~ 1996.3.31	出土遺構：住居SI36の床面から出土 石材：輝緑岩か 残存率：完形 上面径：4.2cm 下面径：2.7cm 厚さ：1.8cm 孔径：0.7cm 重量：54.6g 線刻部位：上面 線刻文字：「和銅七年十一月二日鳥取部直六手縄」 年代：和銅七年・西暦714年
4	仲遺跡	埼玉県川越市	1952	出土遺構：表採 石材：滑石 残存率：完形 径：5.3-5.4cm 厚さ：1.0cm 線刻部位：上面 線刻文字：「大同元年七□十四日」 年代：大同元年・西暦806年
5	若宮台遺跡	埼玉県児玉郡上里町大字帯刀	1974.11.8- 1976.1.22	出土遺構：第44号住居跡(国分第Ⅱ期) 石材：滑石 残存率：完形 重量：57g 刻書部位：上面 線刻文字：「天安二年十二月廿八日 □成」 年代：天安二年・西暦856年

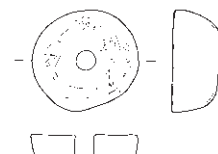
4は大川原竜一・黒済玉恵 2009「資料紹介：川越市仲遺跡出土刻書紡錘車の調査」『明治大学古代学研究所紀要』10より転載。それ以外は各報告書より転載。



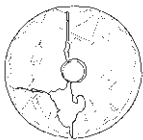
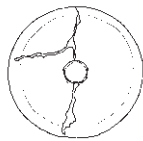
1. 群馬県 間之原遺跡



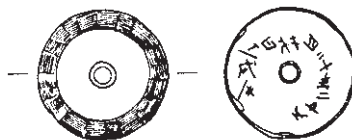
2. 佐賀県 丁永遺跡



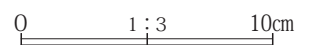
3. 東京都 落川遺跡



4. 埼玉県 仲遺跡



5. 埼玉県 若宮台遺跡



第329図 紀年銘が刻書された紡輪

ない稀有で重要な資料の一つである。

紡輪に文字などを刻書する目的などについては未だ明確ではない。これまでのいくつかの論考では、仏教信仰に関わる文字や絵画などが記されることから本来の用途ではなく、仏事をはじめとする儀礼の場での使用<sup>註10)</sup>、集落の中における何らかの呪術、祭祀、儀礼などの行為を行った年月日とその行為の主体者や祈願者である人名を刻書した可能性<sup>註11)</sup>の他、調庸布製作などに関わる地名や所有者名<sup>註12)</sup>、人物葬送儀礼において紡錘車を供献する儀礼行為<sup>註13)</sup>、などが考察されている。しかながら祭祀や儀礼などが行われたとするような明確な事例が示されておらず、確証を得るには至らない。間之原遺跡でも、刻書された紡輪の出土した1区16号掘立柱建物をはじめとして調査区内において祭祀や儀礼などを行った痕跡があるか慎重に発掘調査を行ったが、確認することができなかった。

文字資料については、間之原遺跡1区及び3区の発掘調査によって墨書土器が15点出土している。墨書土器のほとんどが8～9世紀に比定される竪穴住居からの出土である。墨書土器には紀年銘などが刻書された石製紡輪に関連するような文字は認められなかった。

石製紡輪の下面に刻書された「天長七年」は、西暦830年である。間之原遺跡の周辺地域における「天長七年」に発生した事件や自然災害などを記した資料は確認できなかったが、「天長七年正月三日」に該当する資料を探したところ、『類聚國史』巻第七十一の中に、「天長七年正月三日」に発生した出羽国の大地震に関する被害状況などの上奏が行われていたことが記されていた。この災害に関する記録については、出羽国から遠く離れた間之原遺跡と直接関連する資料になり得るとは考えがたい。しかしながら、2011年(平成23年)に発生した東日本大震災では、本県でも各地域で様々な被害が生じていることから、資料として記録には残らなかったが、間之原遺跡の周辺地域でも何らかの被害があったかもしれない。また、紡輪に刻書された「天長七年正月三日」以前に何らかの事件、災害、疫病などが発生していたことも考えられる。「正月三日」に祭祀や儀礼などが行われたとすると、元日や二日でなく三日にどのような事が行われていたのか、正月に紡輪を使用した祭祀や儀礼などが他にあったのか、間之原遺跡の所在地で刻書されたものか或いは他

所で刻書されたものが持ち込まれたか、など出土遺物だけでは解明できない点も多く残る。

今後にも発掘調査によって出土する紀年銘などが刻書された紡輪をはじめ他の文字資料などを求めながら、紡輪に文字が記された経緯や目的などについてさらに検討する必要がある。

註

註1)高島英之氏は、註5)・註12)で「一月」と釈読しているが、記者発表資料などで「正月」と釈読しており本報告書でも「正月」を用いた。

註2)関和彦 1991「物部郷長の世界」『矢田遺跡Ⅱ』平安時代住居跡編(2)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団、小林昌二 1992「物部の分布とその意味について」・高島英之 1992「矢田遺跡出土の平安期における文字資料について」『矢田遺跡Ⅲ』平安時代住居跡編(3)(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

註3)小根澤雪絵 2008「多胡郡の紡錘車生産」『紡む』吉井町多胡碑記念館

註4)高島英之 2006『古代東国地域史と出土文字資料』

註5)高島英之 2014「伊勢崎市関遺跡出土刻書紡錘車」『本関町古墳群・関遺跡(2)』(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

註6)小城市教育委員会 2010『北小路遺跡1・2区 丁永遺跡1・2・4・5区』・小城市教育委員会 2008「丁永遺跡出土刻書紡錘車説明資料」『調査研究報告書第3集』小城市立歴史資料館・小城市立中林梧竹記念館

註7)日野市落川土地区画整理組合 1998『おちかわ』

註8)大川原竜一・黒済玉恵 2009「資料紹介：川越市仲遺跡出土刻書紡錘車の調査」『明治大学古代学研究所紀要』10

註9)(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983 第28集 関越自動車道関係 埋蔵文化財発掘調査報告書-XII-『若宮台』

註10)宮瀧交二 2000「日本古代の民衆と「村道」『村のなかの古代史』野田嶺志編、同 2006「刻書紡錘車からみた日本古代の民衆意識」『古代の信仰と社会』国土館大学考古学会編

註11)井上唯雄 1987「線刻をもつ紡錘車について」『古代学研究会』115

註12)高島英之 2014「紀年銘刻書紡錘車の基礎的研究」『日本古代の国家と王権・社会』吉村武彦編

註13)大谷徹 1998「新屋敷古墳群の様相」『新屋敷古墳群D区』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

参考文献

高島英之 2008「文字が書かれた紡錘車」『紡む』吉井町多胡碑記念館

新倉明彦・中沢悟・高島英之 2010「太田市間之原遺跡出土の紀年銘紡錘車について」『埋文群馬』N0.52(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

第37表 間之原遺跡土坑計測表

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	1	120-092	不整形	N-77°-W	0.96/0.56/0.38
1	2	127-089	不整形	N-3°-E	0.91/0.71/0.38
1	3	129-090	不整形	N-9°-W	1.04/0.79/0.33
1	4	128-091	不整形	N-42°-E	0.95/ (0.80) /0.32
1	5	128-091	不整形	N-33°-W	0.69/0.52/0.33
1	6	123-096	不整形	N-20°-W	0.84/0.45/0.24
1	9	126-098	不整形	N-43°-E	0.94/0.53/0.36
1	10	130-103	不整形	N-63°-W	0.68/0.49/0.22
1	11	139-116	隅丸方形	N-45°-E	0.56/0.54/0.21
1	12	127-125	不整形	N-82°-W	0.91/0.59/0.33
1	13	121-129	不整形	N-31°-W	0.69/0.59/0.23
1	14	121-143	不整形	N-25°-E	0.91/0.69/0.43
1	15	139-135	不整形	N-58°-E	0.99/0.75/0.46
1	16	142-155	円形	N-62°-W	0.69/0.57/0.17
1	17	133-143	不整形	N-80°-W	0.64/0.54/0.24
1	18	143-162	円形	N-51°-E	0.58/0.51/0.26
1	19	145-161	不整形	N-72°-W	0.85/0.68/0.29
1	20	140-168	不整形	N-58°-W	1.03/0.76/0.27
1	21	147-177	楕円形	N-48°-W	0.87/0.58/0.27
1	24	122-154	不整形	N-64°-E	1.95/1.44/0.69
1	25	121-160	不整形	N-44°-W	0.75/0.60/0.34
1	26	131-153	楕円形か	-	(1.68) / (0.71) /0.56
1	27	144-125	不整形	N-47°-W	0.97/0.85/0.51
1	29	137-188	円形	N-65°-E	1.17/1.55/0.50
1	30	145-191	不整形	N-35°-E	1.48/ (0.82) /0.34
1	31	欠番			
1	32	123-159	円形	N-5°-W	0.89/0.83/0.29
1	34	121-197	不整形	-	(1.14) / (0.77) /0.25
1	35	122-190	不整形	N-82°-E	1.38/ (0.98) /0.18
1	36	134-160	楕円形	N-50°-W	1.29/0.92/0.25
1	37	125-209	不整形	N-79°-E	1.20/1.18/0.34
1	38	123-202	不整形	N-8°-W	0.87/0.67/0.12
1	39	127-208	円形	N-85°-E	1.03/0.98/0.23
1	40	133-194	-	-	0.78/ (0.30) /0.22
1	41	124-221	不整形	N-81°-W	1.16/0.73/0.26
1	42	120-214	隅丸方形	N-76°-W	0.89/0.86/0.15
1	43	127-223	不整形	N-59°-W	1.14/1.00/0.44
1	44	124-216	隅丸方形	N-68°-E	1.42/1.34/0.21
1	45	150-150	-	-	1.38/ (0.65) /0.20
1	46	欠番			
1	47	138-157	楕円形	N-37°-E	1.20/0.79/0.42
1	48	150-156	不整形	N-14°-E	1.05/0.95/0.24
1	49	132-162	不整形	N-58°-W	1.88/0.91/0.35
1	50	130-162	楕円形	N-44°-W	1.15/0.86/0.88
1	51	142-153	不整形	N-65°-W	1.07/0.97/0.35
1	52	135-264	円形	N-25°-E	1.23/1.22/0.40
1	53	145-208	円形	N-10°-E	1.06/1.02/0.27
1	54	134-242	隅丸長方形	N-2°-W	1.55/1.14/0.28
1	55	132-241	隅丸長方形	N-11°-W	1.43/1.08/0.27
1	56	147-245	不整形	N-63°-W	1.28/1.06/0.22
1	57	148-242	円形	N-47°-W	1.05/1.01/0.27
1	58	148-234	不整形	N-77°-E	0.79/0.77/0.30
1	59	145-226	不整形	N-3°-W	(1.12) /0.78/0.36
3	60	138-317	不整形	N-10°-W	0.92/0.89/0.22
3	61	142-324	不整形	N-25°-E	1.32/0.90/0.37
3	62	136-302	不整形	N-72°-W	1.09/0.73/0.31
3	63	145-296	-	-	0.85/ (0.84) /0.32
1	64	125-182	不整形	N-5°-W	1.74/0.73/0.25

第38表 間之原遺跡ピット計測表

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	1	130-072	不定形	N-86°-W	0.55/0.47/0.41
1	2	131-071	不定形	N-24°-W	0.54/0.51/1.02
1	3	128-083	隅丸方形	N-15°-W	0.51/0.47/0.75
1	4	128-084	不定形	N-43°-E	0.37/0.32/0.024
1	5	128-085	ほぼ円形	N-54°-W	0.28/0.23/0.15
1	6	130-084	不定形	N-70°-W	0.56/0.44/0.55
1	7	131-085	隅丸方形	N-6°-W	0.31/0.30/0.31
1	8	131-084	ほぼ円形	N-33°-W	0.29/0.28/0.44
1	9	132-084	不定形	N-49°-W	0.28/0.26/0.16
1	10	132-084	ほぼ円形	N-60°-E	0.26/0.23/0.43
1	11	132-084	不定形	N-45°-W	0.29/0.24/0.55
1	12	124-087	円形	N-40°-W	0.60/0.57/0.31
1	13	126-088	不定形	N-39°-W	0.62/0.40/0.34
1	14	134-088	不定形	N-10°-W	0.40/0.37/0.25
1	15	134-088	楕円形	N-2°-E	0.33/0.28/0.21
1	16	134-090	ほぼ円形	N-47°-E	0.37/0.29/0.13
1	17	133-091	ほぼ円形	N-78°-W	0.25/0.23/0.25
1	18	133-094	隅丸方形	N-12°-E	0.36/0.29/0.16
1	19	130-094	不定形	N-48°-E	0.32/0.29/0.25
1	20	123-094	楕円形	N-11°-E	0.60/0.51/0.18
1	21	123-095	不定形	N-3°-W	0.54/0.47/0.23
1	23	123-095	不定形	N-83°-E	0.41/0.29/0.29
1	46	121-103	楕円形	N-19°-W	0.44/0.38/0.35
1	47	123-103	ほぼ円形	N-88°-W	0.47/0.44/0.35
1	48	126-104	不定形	N-22°-W	0.57/0.37/0.46
1	49	127-102	不定形	N-44°-W	0.63/0.48/0.41
1	50	128-101	不定形	N-82°-W	0.62/0.39/0.70
1	51	131-102	ほぼ円形	N-50°-W	0.31/0.30/0.26
1	52	131-103	円形	N-45°-E	0.45/0.44/0.23
1	53	131-101	隅丸方形	N-79°-E	0.41/0.38/0.14
1	54	129-107	ほぼ円形	N-89°-W	0.47/0.46/0.16
1	55	125-107	ほぼ円形	N-20°-W	0.25/0.24/0.23
1	56	121-111	楕円形	N-26°-W	0.34/0.27/0.51
1	57	125-109	不定形	N-22°-E	0.44/0.39/0.84
1	58	126-109	ほぼ円形	N-69°-E	0.27/0.26/0.46
1	59	126-109	不定形	N-20°-E	0.32/0.27/0.32
1	60	126-109	楕円形	N-86°-W	0.29/0.20/0.52
1	61	128-109	不定形	N-75°-W	0.20/0.16/0.28
1	62	128-109	楕円形	N-80°-W	0.24/0.18/0.28
1	63	132-105	楕円形	N-90°	0.44/0.34/0.15
1	64	131-108	ほぼ円形	N-57°-W	0.38/0.34/0.26
1	79	126-115	楕円形	N-22°-E	0.27/0.23/0.26
1	83	124-118	ほぼ円形	N-42°-W	0.38/0.36/0.40
1	84	126-118	楕円形	N-15°-W	0.43/0.34/0.19
1	85	134-115	不定形	N-9°-E	0.41/0.40/0.16
1	86	135-115	不定形	N-39°-W	0.40/0.38/0.28
1	87	136-113	不定形	N-31°-W	0.47/0.43/0.20
1	88	137-112	不定形	N-52°-E	0.42/0.30/0.33
1	89	137-117	不定形	N-23°-E	0.38/0.32/0.35
1	90	140-116	不定形	N-24°-E	0.32/0.27/0.31
1	92	140-117	不定形	N-41°-W	0.32/0.29/0.34
1	93	134-116	ほぼ円形	N-66°-W	0.32/0.28/0.28
1	94	131-120	不定形	N-29°-W	0.41/0.38/0.30
1	95	134-125	不定形	N-31°-E	0.47/0.46/0.24
1	96	135-124	ほぼ円形	N-77°-E	0.36/0.31/0.18
1	97	139-122	不定形	N-10°-W	0.34/0.31/0.39
1	98	139-123	ほぼ円形	N-69°-E	0.20/0.18/0.25
1	99	140-123	不定形	N-38°-W	0.23/0.20/0.18
1	100	135-128	不定形	N-20°-E	0.40/0.37/0.49



区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	101	135-129	楕円形	N-80°-W	0.44/0.32/0.32
1	102	135-130	不定形	N-31°-W	0.43/0.36/0.68
1	103	135-130	楕円形	N-81°-W	0.45/0.31/0.57
1	104	135-130	不定形	N-54°-W	0.31/0.27/0.24
1	105	134-131	不定形	N-34°-E	0.37/0.36/0.50
1	106	134-131	不定形	N-47°-W	0.42/0.25/0.52
1	107	135-131	不定形	N-61°-E	0.52/0.50/0.40
1	108	129-124	隅丸方形	N-89°-W	0.30/0.26/0.21
1	109	126-123	不定形	N-4°-W	0.39/0.31/0.29
1	110	126-124	不定形	N-34°-W	0.55/0.48/0.22
1	111	128-126	ほぼ円形	N-68°-W	0.31/0.30/0.28
1	112	128-128	楕円形	N-57°-W	0.25/0.22/0.20
1	113	127-128	不定形	N-82°-W	0.30/0.27/0.15
1	114	127-129	ほぼ円形	N-33°-W	0.34/0.32/0.23
1	115	130-129	不定形	N-41°-W	0.33/0.32/0.52
1	116	127-130	不定形	N-85°-W	0.37/0.31/0.30
1	117	124-128	不定形	N-74°-W	0.31/0.28/0.19
1	118	124-128	不定形	N-29°-E	0.35/0.30/0.39
1	119	122-130	不定形	N-12°-W	0.46/0.40/0.36
1	120	125-135	不定形	N-29°-E	0.83/0.76/0.96
1	121	127-132	楕円形	N-47°-E	0.32/0.27/0.17
1	122	129-132	楕円形	N-34°-W	0.45/0.34/0.32
1	123	131-134	隅丸長方形	N-9°-E	0.40/0.33/0.48
1	124	132-134	楕円形	N-88°-E	0.64/0.48/0.38
1	125	131-136	不定形	N-30°-W	0.85/0.59/0.39
1	126	127-139	不定形	N-47°-W	0.36/0.34/0.28
1	127	127-144	不定形	N-2°-W	0.34/0.29/0.39
1	128	129-146	不定形	N-23°-E	0.28/0.27/0.31
1	129	129-146	不定形	N-27°-E	0.29/0.25/0.34
1	130	130-143	ほぼ円形	N-5°-W	0.25/0.24/0.20
1	131	132-143	不定形	N-6°-W	0.38/0.34/0.42
1	132	134-144	不定形	N-36°-E	0.44/0.43/0.30
1	133	137-133	楕円形	N-64°-W	0.35/0.28/0.37
1	134	138-135	ほぼ円形	N-54°-W	0.38/.034/0.20
1	135	137-139	楕円形	N-41°-E	0.44/0.35/0.40
1	136	138-138	隅丸方形	N-55°-E	0.54/0.49/0.30
1	137	139-139	ほぼ円形	N-79°-W	0.32/0.29/0.23
1	138	139-140	不定形	N-70°-E	0.37/0.27/0.35
1	139	138-140	不定形	N-35°-E	0.39/0.35/0.26
1	140	137-140	不定形	N-73°-E	0.39/0.38/0.31
1	141	140-142	不定形	N-26°-E	0.43/0.37/0.16
1	142	138-142	不定形	N-54°-E	0.35/0.34/0.21
1	143	139-144	不定形	N-63°-W	0.46/0.38/0.19
1	144	141-146	楕円形	N-14°-E	0.50/0.40/0.68
1	145	135-141	不定形	N-45°-E	0.55/0.53/0.43
1	146	135-142	不定形	N-84°-E	0.29/0.28/0.20
1	147	135-143	不定形	N-4°-E	0.36/0.30/0.27
1	148	132-147	不定形	N-58°-E	0.25/0.22/0.45
1	149	133-149	隅丸方形	N-63°-E	0.33/0.32/0.28
1	150	136-146	ほぼ円形	N-83°-E	0.26/0.23/0.24
1	151	136-149	楕円形	N-73°-W	0.27/0.22/0.19
1	152	134-151	楕円形	N-76°-W	0.36/0.31/0.50
1	153	136-152	不定形	N-72°-W	0.53/0.48/0.35
1	154	140-156	不定形	N-32°-E	0.64/0.60/0.39
1	155	141-157	隅丸方形	N-68°-E	0.27/0.23/0.30
1	156	134-152	不定形	N-40°-W	0.58/0.52/0.58
1	157	127-150	楕円形	N-52°-E	0.29/0.22/0.17
1	158	127-150	不定形	N-72°-W	0.31/0.25/0.18
1	159	126-148	不定形	N-44°-E	0.43/0.36/0.41
1	160	124-152	不定形	N-73°-E	0.29/0.27/0.14

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	161	126-153	不定形	N-30°-E	0.47/0.40/0.56
1	162	126-153	楕円形	N-6°-W	0.36/0.32/0.54
1	163	128-105	隅丸長方形	N-37°-E	0.43/0.36/0.16
1	164	124-102	不定形	N-14°-E	0.49/0.42/0.27
1	165	127-101	楕円形	N-68°-E	0.31/0.25/0.39
1	166	122-109	楕円形	N-2°-E	0.33/0.28/0.22
1	167	122-109	楕円形	N-27°-W	0.28/0.24/0.18
1	168	121-110	ほぼ円形	N-10°-E	0.39/0.38/0.32
1	169	124-114	不定形	N-66°-E	0.44/0.33/0.30
1	171	134-111	ほぼ円形	N-S	0.37/0.36/0.51
1	172	138-108	不定形	N-86°-W	0.41/0.38/0.38
2	173	154-096	ほぼ円形	N-7°-E	0.27/0.25/0.43
1	174	136-119	不定形	N-52°-W	0.31/0.28/0.37
1	181	141-118	不定形	N-15°-E	0.35/0.23/0.10
1	189	142-118	隅丸方形	N-64°-E	0.28/0.25/0.24
1	190	139-122	不定形	N-80°-E	0.21/0.19/0.32
1	191	139-122	楕円形	N-58°-E	0.22/0.18/0.16
1	196	144-125	ほぼ円形	N-49°-W	0.26/0.24/0.27
1	197	145-126	不定形	N-66°-E	0.61/0.50/0.38
1	199	146-128	楕円形	N-69°-W	0.53/0.32/0.21
1	200	147-128	不定形	N-2°-W	0.35/0.27/0.32
1	201	144-128	不定形	N-42°-E	0.24/0.23/0.13
1	202	142-127	不定形	N-9°-W	0.41/0.35/0.31
1	203	141-127	不定形	N-11°-W	0.50/0.43/0.26
1	204	145-133	不定形	N-32°-E	0.40/0.27/0.27
1	205	145-135	不定形	N-4°-W	0.38/0.28/0.16
1	206	146-136	不定形	N-24°-E	0.34/0.27/0.24
1	207	145-137	楕円形	N-9°-W	0.27/0.22/0.34
1	208	139-130	不定形	N-78°-W	0.61/0.48/0.15
1	209	144-139	ほぼ円形	N-88°-W	0.50/0.48/0.40
1	210	143-138	不定形	N-31°-E	0.48/0.38/0.52
1	211	141-140	不定形	N-10°-W	0.27/0.26/0.19
1	212	141-138	楕円形	N-24°-E	0.25/0.20/0.30
1	213	欠番			
1	214	135-140	不定形	-	0.24/0.24/0.17
1	215	133-140	不定形	N-79°-W	0.39/0.34/0.34
1	216	129-137	ほぼ円形	N-87°-W	0.31/0.30/0.17
1	217	132-145	楕円形	N-25°-W	0.31/0.25/0.17
1	218	148-145	不定形	N-36°-W	0.56/0.53/0.17
1	219	148-147	楕円形	N-86°-W	0.27/0.23/0.25
1	220	145-147	楕円形	N-78°-E	0.41/0.29/0.30
1	221	142-146	不定形	N-50°-W	0.20/0.19/0.34
1	222	142-146	楕円形	N-48°-W	0.22/0.20/0.23
1	223	141-149	不定形	N-46°-W	0.15/0.14/0.17
1	224	141-150	楕円形	N-61°-W	0.33/0.25/0.45
1	225	130-148	不定形	N-3°-E	0.29/0.24/0.13
1	226	121-152	不定形	N-20°-W	0.35/0.30/0.21
1	227	130-146	不定形	N-23°-W	0.47/0.36/0.50
1	228	133-153	隅丸方形	N-25°-W	(0.30)/0.27/0.31
1	229	143-152	不定形	-	(0.36)/(0.30)/0.43
1	230	143-152	不定形	-	(0.40)/(0.36)/0.34
1	231	144-153	楕円形	N-85°-W	0.32/0.27/0.30
1	232	145-154	隅丸長方形	N-59°-E	0.29/0.24/0.29
1	233	145-154	不定形	N-31°-E	0.39/0.33/0.22
1	234	145-155	楕円形	N-72°-W	0.36/0.26/0.34
1	235	145-155	ほぼ円形	N-60°-E	0.32/0.28/0.57
1	236	144-154	不定形	-	0.43/0.43/0.46
1	237	145-156	不定形	N-4°-W	0.48/0.36/0.41
1	238	143-156	楕円形	N-30°-W	0.30/0.26/0.31
1	239	145-157	不定形	N-33°-E	0.22/0.20/0.31



区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	240	144-158	隅丸方形	N-48°-E	0.18/0.15/0.18
1	241	142-160	楕円形	N-38°-E	0.46/0.40/0.40
1	242	141-160	不定形	N-57°-E	0.35/0.31/0.40
1	243	146-152	不定形	N-68°-W	0.47/0.34/0.34
1	244	144-160	不定形	-	(0.47)/(0.46)/0.20
1	245	144-160	不定形	N-50°-E	(0.56)/(0.40)/0.19
1	246	142-162	隅丸方形	N-29°-W	0.44/0.43/0.20
1	247	143-163	楕円形	N-84°-W	0.52/0.45/0.18
1	248	145-164	不定形	N-54°-E	0.53/0.46/0.22
1	249	146-161	不定形	N-61°-E	0.63/0.32/0.40
1	250	148-161	ほぼ円形	N-86°-W	0.35/0.33/0.28
1	251	147-164	不定形	N-73°-W	0.50/0.45/0.17
1	252	147-165	不定形	N-56°-W	0.47/0.45/0.24
1	253	148-166	不定形	N-66°-W	0.35/0.31/0.27
1	254	148-167	ほぼ円形	N-32°-W	0.33/0.31/0.22
1	255	148-167	不定形	N-23°-E	0.44/0.43/0.28
1	256	149-167	不定形	N-71°-E	0.64/0.55/0.23
1	257	147-167	不定形	N-84°-E	0.29/0.28/0.30
1	258	146-167	円形	-	0.24/0.24/0.21
1	262	143-168	楕円形	N-77°-W	0.37/0.33/0.12
1	264	142-167	不定形	N-47°-E	0.64/0.58/0.33
1	266	140-165	不定形	N-66°-W	0.66/0.47/0.22
1	267	140-164	-	N-37°-W	(0.67)/(0.45)/0.35
1	269	142-172	隅丸方形	N-12°-E	0.41/0.39/0.23
1	270	148-170	不定形	N-39°-E	0.22/0.21/0.14
1	271	147-173	不定形	N-64°-W	0.28/0.25/0.35
1	272	147-174	不定形	N-25°-W	0.26/0.21/0.22
1	273	147-174	不定形	N-4°-W	0.36/0.28/0.53
1	274	148-174	不定形	N-60°-W	0.27/0.25/0.34
1	275	143-177	不定形	N-10°-W	0.40/0.37/0.33
1	276	144-178	不定形	N-56°-W	0.26/0.25/0.45
1	278	143-180	不定形	N-65°-W	0.46/0.41/0.34
1	279	145-175	ほぼ円形	-	0.37/0.37/0.20
1	280	144-175	不定形	N-54°-E	0.35/0.31/0.14
1	282	121-153	不定形	N-25°-W	0.39/0.38/0.62
1	283	121-167	不定形	N-18°-W	0.35/0.32/0.13
1	284	121-173	不定形	N-14°-E	0.40/0.30/0.46
1	288	126-156	不定形	N-19°-W	0.38/0.35/0.34
1	304	120-099	不定形	N-76°-W	0.30/0.24/0.35
1	305	121-101	不定形	N-4°-E	0.24/0.23/0.23
1	306	121-102	楕円形	N-14°-E	0.28/0.18/0.18
1	307	122-101	不定形	N-56°-E	0.33/0.23/0.22
1	308	128-097	不定形	N-13°-W	0.26/0.21/0.34
1	309	129-098	不定形	N-14°-E	0.33/0.32/0.87
1	310	135-098	ほぼ円形	N-66°-E	0.17/0.16/0.18
1	311	126-104	ほぼ円形	N-58°-E	0.23/0.21/0.22
1	312	132-105	楕円形	N-32°-E	0.27/0.22/0.26
1	313	135-109	ほぼ円形	N-68°-E	0.50/0.47/0.51
1	314	136-111	ほぼ円形	N-37°-W	0.31/0.30/0.15
1	315	139-110	ほぼ円形	N-27°-W	0.24/0.23/0.24
1	316	123-109	不定形	N-8°-W	0.24/0.22/0.19
1	317	130-115	楕円形	N-14°-W	0.31/0.27/0.28
1	318	135-110	楕円形	N-6°-E	0.21/0.18/0.18
1	319	123-117	不定形	N-87°-W	0.25/0.22/0.15
1	320	124-117	不定形	N-90°	0.28/0.26/0.28
1	321	126-118	不定形	N-26°-E	0.36/0.29/0.15
1	322	121-115	-	-	(0.32)/(0.13)/0.24
1	323	128-120	楕円形	N-3°-E	0.24/0.22/0.52
1	324	124-130	不定形	N-65°-W	0.31/0.23/0.17
1	325	123-133	不定形	N-10°-E	0.36/0.33/1.42

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	326	124-134	楕円形	N-40°-E	0.23/0.21/0.53
1	327	123-140	隅丸方形	N-6°-W	0.21/0.18/0.22
1	328	123-140	円形	N-74°-E	0.29/0.27/0.20
1	329	124-145	不定形	N-5°-W	0.38/0.30/0.37
1	330	143-149	不定形	N-86°-E	0.43/0.39/0.17
1	331	127-127	隅丸長方形	N-11°-W	0.54/0.27/0.13
1	332	138-125	ほぼ円形	-	0.23/0.23/0.10
1	333	141-124	不定形	N-6°-W	0.50/0.27/0.27
1	334	142-123	不定形	N-48°-E	0.58/0.31/0.32
1	335	142-123	不定形	-	0.29/(0.27)/0.27
1	336	147-125	楕円形	N-75°-W	0.30/0.25/0.28
1	337	137-138	ほぼ円形	-	0.25/0.25/0.31
1	338	142-139	不定形	N-46°-W	0.25/0.20/0.16
1	339	140-140	不定形	N-21°-W	0.53/0.49/0.58
1	340	135-141	隅丸方形	N-67°-E	0.21/0.18/0.33
1	341	135-141	円形	-	0.25/0.25/0.30
1	342	150-149	-	-	0.53/(0.32)/0.34
1	349	133-183	隅丸方形	N-16°-E	0.27/0.25/0.14
1	350	134-180	ほぼ円形	N-28°-E	0.32/0.30/0.40
1	351	134-178	不定形	N-21°-W	0.38/0.31/0.40
1	352	136-182	ほぼ円形	-	0.23/0.23/0.21
1	353	137-183	-	N-54°-E	(0.98)/0.44/0.32
1	357	138-188	楕円形	N-18°-E	0.39/0.33/0.30
1	358	136-189	ほぼ円形	N-13°-W	0.34/0.32/0.31
1	359	137-190	楕円形	N-70°-W	0.39/0.34/0.31
1	360	143-191	不定形	-	0.35/0.35/0.18
1	361	144-190	楕円形	N-58°-W	0.61/0.54/0.33
1	362	148-194	不定形	N-46°-W	0.58/0.55/1.43
1	363	124-161	不定形	N-46°-W	0.42/0.39/0.15
1	364	121-165	楕円形	N-7°-E	0.39/0.34/0.20
1	370	120-199	楕円形	N-57°-E	0.18/0.16/0.11
1	371	121-198	楕円形	N-26°-E	0.25/0.19/0.08
1	372	122-198	隅丸方形	N-50°-E	0.27/0.25/0.13
1	373	122-200	不定形	N-76°-E	(0.69)/0.57/0.23
1	374	121-201	不定形	N-31°-E	0.53/0.37/0.22
1	377	128-168	楕円形	N-35°-W	0.50/0.43/0.29
1	378	128-166	不定形	N-38°-W	0.60/0.55/0.21
1	379	135-164	楕円形	N-31°-E	0.36/0.29/0.30
1	381	124-200	ほぼ円形	N-9°-E	0.39/0.38/0.20
1	382	123-200	不定形	N-53°-E	0.66/0.40/0.21
1	383	121-203	不定形	N-40°-E	0.54/0.47/0.41
1	386	132-201	不定形	N-55°-E	0.57/0.45/0.33
1	387	131-201	不定形	N-3°-E	(0.64)/0.53/0.72
1	398	132-193	不定形	N-36°-W	0.55/0.39/0.28
1	400	139-208	不定形	N-55°-W	0.42/0.37/0.18
1	401	127-209	隅丸長方形	N-46°-E	0.41/0.34/0.38
1	403	121-209	不定形	N-43°-W	0.55/0.41/0.31
1	404	121-210	不定形	N-43°-E	0.73/0.53/0.42
1	405	122-211	不定形	N-9°-W	0.66/0.55/0.20
1	406	124-211	隅丸長方形	N-4°-W	0.47/0.34/0.28
1	407	124-212	-	N-5°-E	(0.73)/0.63/0.35
1	408	125-212	不定形	N-35°-W	0.45/0.39/0.33
1	409	120-211	楕円形	N-19°-W	0.45/0.35/0.18
1	410	124-215	不定形	N-35°-E	0.48/0.40/0.20
1	411	124-216	隅丸長方形	N-55°-W	0.53/0.41/0.29
1	412	122-216	不定形	N-21°-E	0.37/0.32/0.20
1	413	123-217	楕円形	N-84°-E	0.57/0.48/0.30
1	414	122-217	不定形	N-17°-W	0.34/0.30/0.21
1	415	124-218	楕円形	N-38°-W	0.34/0.31/0.25
1	416	123-219	不定形	N-77°-E	0.55/0.45/0.27

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	417	123-219	不定形	N-53°-E	0.58/0.51/0.18
1	418	125-222	不定形	N-53°-W	0.38/0.35/0.35
1	428	142-198	不定形	N-13°-W	0.35/0.30/0.48
1	429	151-159	不定形	N-6°-E	0.83/0.57/0.28
1	430	151-162	楕円形	N-31°-W	0.51/0.43/0.20
1	431	149-162	不定形	N-63°-E	0.63/0.48/0.36
1	432	152-164	不定形	N-4°-W	0.39/0.38/0.20
1	433	152-173	楕円形	N-22°-W	0.30/0.27/0.47
1	434	152-172	ほぼ円形	N-67°-E	0.26/0.25/0.37
1	435	152-178	ほぼ円形	N-39°-E	0.44/0.43/1.78
1	436	153-181	楕円形	N-30°-W	0.53/0.46/1.62
1	437	154-198	不定形	N-5°-W	0.53/0.37/0.21
1	438	149-197	ほぼ円形	N-37°-W	0.28/0.27/0.15
1	439	153-200	不定形	N-3°-W	0.46/0.39/0.56
1	440	154-205	隅丸方形	N-82°-W	0.72/0.65/2.16
1	441	157-206	ほぼ円形	N-58°-E	0.47/0.44/1.30
1	442	157-207	ほぼ円形	N-23°-E	0.58/0.48/1.35
1	443	155-203	楕円形	N-30°-W	0.64/0.58/2.39
1	444	157-204	不定形	N-18°-W	0.65/0.62/2.04
1	445	154-199	隅丸方形	N-84°-W	0.49/0.47/0.21
1	452	127-268	不定形	N-79°-E	0.83/0.61/0.44
1	453	132-163	不定形	N-32°-W	0.41/0.37/0.31
1	454	133-164	不定形	N-45°-W	0.65/0.46/0.13
1	455	134-165	不定形	N-81°-E	0.95/0.37/0.17
1	456	151-161	隅丸長方形	N-18°-E	0.75/0.28/0.16
1	457	150-162	不定形	N-75°-E	0.87/0.46/0.38
1	458	132-165	ほぼ円形	N-64°-E	0.25/0.24/0.24
1	459	132-167	ほぼ円形	N-81°-E	0.25/0.23/0.22
1	460	131-167	隅丸長方形	N-74°-W	0.43/0.30/0.33
1	461	130-267	楕円形	N-36°-E	0.45/0.37/0.50
1	462	130-268	不定形	N-3°-W	0.58/0.51/0.28
1	463	130-268	楕円形	N-45°-E	0.58/0.47/0.18
1	464	128-267	-	-	(0.65)/0.50/0.52
1	465	129-265	不定形	N-44°-W	0.40/0.39/0.34
1	466	127-267	不定形	N-71°-W	0.73/0.71/0.32
1	467	128-266	ほぼ円形	N-73°-E	0.44/0.39/0.29
1	468	128-266	ほぼ円形	N-3°-W	0.34/0.33/0.36
1	469	129-264	楕円形	N-6°-E	0.38/0.32/0.24
1	470	130-264	不定形	N-84°-W	0.82/0.52/0.40
1	471	131-265	不定形	N-84°-W	0.69/0.43/0.40
1	472	132-264	不定形	N-72°-W	0.47/0.40/0.28
1	473	134-265	不定形	N-62°-W	0.52/0.43/0.37
1	474	134-264	不定形	N-31°-E	0.48/0.41/0.32
1	475	132-263	不定形	N-29°-E	0.35/0.32/0.47
1	476	133-267	不定形	N-34°-E	0.35/0.31/0.24
1	477	134-267	不定形	N-79°-W	0.42/0.37/0.37
1	478	133-268	楕円形	N-26°-E	0.50/0.37/0.36
1	479	132-269	ほぼ円形	N-78°-W	0.32/0.30/0.36
1	480	134-268	隅丸方形	N-70°-W	0.44/0.37/0.49
1	481	136-268	不定形	N-52°-W	0.36/0.31/0.37
1	482	137-268	不定形	N-80°-E	0.53/0.40/0.43
1	483	136-266	不定形	N-63°-W	0.57/0.43/0.48
1	484	139-265	不定形	N-11°-E	0.45/0.43/0.30
1	485	139-269	楕円形	N-78°-W	0.54/0.44/0.31
1	486	138-269	不定形	N-78°-W	0.84/0.70/0.40
1	487	131-266	不定形	N-82°-W	0.36/0.28/0.30
1	488	131-266	-	N-53°-W	(0.48)/0.36/0.35
1	489	130-266	不定形	N-10°-W	0.72/0.63/0.44
1	490	132-267	楕円形	N-73°-E	0.36/0.32/0.31
1	491	132-262	不定形	N-76°-W	1.02/0.58/0.38

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	492	131-261	楕円形	N-61°-W	0.49/0.38/0.24
1	493	132-260	不定形	N-35°-W	0.63/0.55/0.27
1	494	131-193	-	-	0.56/(0.35)/1.57
1	495	131-267	楕円形	N-65°-W	0.31/0.27/0.29
1	496	136-266	ほぼ円形	N-66°-E	0.31/0.28/0.19
1	497	128-267	-	-	0.60/(0.53)/0.42
1	498	136-269	-	-	0.46/(0.23)/0.19
1	499	136-257	不定形	N-72°-W	0.48/0.46/0.41
1	500	136-256	不定形	N-72°-W	0.60/0.43/0.27
1	501	144-209	ほぼ円形	N-19°-E	0.77/0.73/1.58
1	502	134-225	不定形	N-78°-E	0.28/0.24/0.18
1	503	134-226	不定形	N-30°-W	0.29/0.25/0.22
1	504	133-227	不定形	N-47°-W	0.26/0.18/0.06
1	505	133-227	不定形	N-78°-E	0.32/0.31/0.06
1	506	131-226	不定形	N-4°-W	0.26/0.22/0.18
1	507	131-227	不定形	N-50°-E	0.29/0.22/0.24
1	508	133-228	不定形	N-41°-E	0.24/0.21/0.05
1	509	132-229	隅丸方形	N-87°-W	0.24/0.22/0.04
1	510	133-230	不定形	N-28°-W	0.30/0.23/0.20
1	511	131-229	楕円形	N-88°-W	0.32/0.29/0.12
1	512	130-229	ほぼ円形	N-10°-E	0.27/0.24/0.07
1	513	130-228	ほぼ円形	N-25°-E	0.38/0.34/0.12
1	514	134-224	ほぼ円形	N-53°-W	0.25/0.24/0.75
1	516	155-202	不定形	N-20°-W	0.75/0.73/2.15
1	517	154-214	ほぼ円形	N-76°-E	0.48/0.43/0.26
1	518	155-212	ほぼ円形	N-14°-W	0.36/0.35/0.55
1	519	154-213	不定形	N-63°-E	0.39/0.35/0.38
1	520	152-214	楕円形	N-3°-W	0.42/0.38/0.35
1	521	153-212	楕円形	N-80°-E	0.40/0.35/0.32
1	522	131-230	不定形	N-46°-W	0.50/0.37/0.53
1	525	134-229	楕円形	N-8°-E	0.32/0.28/0.25
1	526	144-247	-	-	(0.40)/(0.31)/0.48
1	527	142-249	隅丸方形	N-79°-E	0.33/0.26/0.38
1	528	143-247	不定形	N-5°-E	0.33/0.29/0.17
1	529	146-255	不定形	N-40°-W	0.25/0.24/0.21
1	530	146-255	不定形	N-55°-E	(0.34)/0.27/0.60
1	531	欠番			
1	532	150-219	不定形	N-54°-E	0.36/0.32/0.41
1	533	148-219	楕円形	N-55°-E	0.38/0.34/0.31
1	534	155-226	不定形	N-55°-E	0.33/0.30/0.28
1	535	148-220	不定形	N-16°-W	0.38/0.37/0.27
1	536	149-216	不定形	N-75°-E	0.56/0.44/0.62
1	537	147-255	不定形	N-55°-E	0.23/0.20/0.27
1	538	149-255	不定形	N-88°-W	0.33/0.20/0.51
1	539	141-225	不定形	N-53°-W	0.38/0.32/0.71
1	540	150-218	不定形	N-18°-E	0.30/0.28/0.23
1	541	141-239	楕円形	N-45°-W	0.55/0.37/0.25
1	542	148-217	楕円形	N-47°-W	0.58/0.43/0.34
1	543	134-225	不定形	N-88°-W	0.38/0.33/0.28
1	544	134-225	楕円形	N-81°-W	0.39/0.35/0.26
1	545	136-227	楕円形	N-12°-E	0.38/0.32/0.33
1	546	141-234	隅丸長方形	N-32°-W	0.59/0.43/0.28
1	547	138-236	不定形	N-49°-W	0.43/0.42/0.40
1	548	144-234	不定形	N-23°-W	0.41/0.37/0.33
1	550	147-236	ほぼ円形	N-77°-E	0.41/0.40/0.38
1	552	147-237	不定形	N-22°-E	0.59/0.54/0.61
1	554	147-239	不定形	N-64°-E	0.43/0.38/0.44
1	555	145-240	ほぼ円形	-	0.32/0.32/0.16
1	557	142-245	楕円形	N-26°-W	0.33/0.30/0.18
1	558	147-240	不定形	N-80°-E	0.59/0.33/0.32

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	560	147-241	楕円形	N-43°-W	0.44/0.33/0.42
1	562	146-244	不定形	N-64°-E	0.32/0.26/0.21
1	563	147-244	ほぼ円形	N-64°-E	0.30/0.27/0.12
1	564	148-247	不定形	N-7°-E	0.63/0.62/1.03
1	566	148-249	楕円形	N-11°-W	0.30/0.28/0.21
1	567	149-250	不定形	N-74°-E	0.31/0.30/0.18
1	568	150-249	楕円形	N-12°-W	0.47/0.43/0.22
1	570	149-238	楕円形	N-42°-W	0.25/0.23/0.17
1	575	147-233	隅丸長方形	N-88°-E	0.50/0.33/0.50
1	576	145-227	不定形	N-51°-W	0.38/0.32/0.48
1	577	146-224	不定形	—	0.33/(0.27)/0.35
1	578	146-224	不定形	—	0.34/(0.26)/0.93
1	579	147-221	不定形	N-13°-E	0.34/0.32/0.40
1	580	148-222	不定形	N-85°-W	0.26/0.22/0.24
1	581	153-224	楕円形	N-6°-W	0.34/0.31/0.22
1	582	143-219	楕円形	N-18°-W	0.50/0.39/0.73
1	583	144-211	楕円形	N-3°-W	0.35/0.32/0.28
1	584	150-215	ほぼ円形	N-46°-E	0.28/0.26/0.40
1	585	151-213	不定形	—	0.27/0.27/0.25
1	586	153-216	ほぼ円形	N-78°-W	0.37/0.35/0.27
1	587	150-218	不定形	—	0.45/0.45/0.30
1	588	135-223	不定形	N-56°-E	0.39/0.37/0.47
1	589	136-222	不定形	N-37°-E	0.53/0.40/0.43
1	590	138-224	不定形	N-7°-W	0.35/0.34/0.41
1	591	138-224	不定形	N-33°-E	0.33/0.31/0.66
1	592	141-221	楕円形	N-64°-W	0.45/0.40/0.36
1	593	138-227	不定形	N-70°-W	0.33/0.32/0.54
1	594	140-228	不定形	N-44°-W	0.50/0.46/0.57
1	595	148-216	不定形	N-77°-W	0.35/0.31/0.42
1	596	146-217	不定形	N-71°-W	0.45/0.43/0.43
1	597	139-228	不定形	N-2°-E	0.44/0.42/0.77
1	598	138-227	不定形	N-74°-W	0.31/0.28/0.22
1	599	137-225	不定形	N-66°-E	0.36/0.35/0.63
1	600	139-221	不定形	N-36°-W	0.38/0.36/0.18
1	601	138-220	不定形	N-84°-W	0.36/0.32/0.44
1	602	140-226	楕円形	N-58°-W	0.53/0.47/0.42
1	603	141-225	楕円形	N-58°-W	0.34/0.31/0.27
1	604	141-222	隅丸長方形	N-11°-E	0.38/0.35/0.57
1	605	140-221	不定形	N-81°-W	0.50/0.45/0.57
1	606	153-237	隅丸長方形	N-53°-W	0.44/0.38/0.58
1	607	146-213	ほぼ円形	N-50°-E	0.27/0.26/0.27
1	608	130-231	不定形	N-56°-W	0.45/0.43/0.31
1	609	128-232	不定形	N-20°-W	0.43/0.41/0.37
1	610	126-230	隅丸長方形	N-2°-E	0.41/0.32/0.50
1	611	127-233	ほぼ円形	N-88°-E	0.54/0.53/1.06
1	612	128-251	不定形	N-66°-E	0.40/0.38/0.27
1	613	129-251	不定形	N-25°-E	0.36/0.35/0.50
3	614	140-323	楕円形	N-83°-E	0.56/0.50/0.15
3	615	138-319	楕円形	N-67°-W	0.51/0.42/0.48
3	616	138-303	不定形	N-67°-E	0.77/0.74/0.23
3	617	138-302	ほぼ円形	N-47°-W	0.77/0.70/0.22
3	618	138-302	ほぼ円形	N-53°-W	0.55/(0.53)/0.18
3	619	135-305	楕円形	N-16°-E	0.61/0.51/0.22
3	620	145-321	不定形	N-81°-W	0.30/0.26/0.70
3	621	132-287	不定形	N-30°-W	1.31/1.07/0.52
3	622	141-286	不定形	N-3°-W	0.73/0.63/0.27
3	623	133-283	不定形	N-86°-E	1.01/0.79/2.31
3	624	134-284	不定形	N-54°-W	0.78/0.57/2.36
3	625	139-284	楕円形	N-70°-W	0.68/0.53/2.38
3	626	143-281	不定形	N-43°-W	0.55/0.51/2.19

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
3	627	132-280	—	—	0.86/(0.67)/2.19
3	628	137-290	楕円形	N-89°-W	0.77/0.61/0.32
3	629	143-297	不定形	N-16°-E	0.44/0.39/0.89
3	630	139-280	不定形	N-47°-W	0.46/0.42/(1.44)
3	631	140-279	ほぼ円形	N-64°-W	0.41/0.39/(1.54)
3	632	132-279	—	—	(0.62)/(0.50)/1.96
3	633	132-278	楕円形	N-74°-E	0.38/0.33/(1.06)
3	634	141-277	不定形	N-7°-E	0.60/0.52/(1.38)
3	635	132-295	—	—	0.47/(0.43)/2.43
3	636	131-293	不定形	N-12°-W	0.72/0.65/0.25
3	637	131-284	不定形	N-26°-W	0.61/0.53/2.01
3	638	131-283	不定形	N-16°-W	0.61/0.54/2.10
3	639	129-284	ほぼ円形	N-13°-W	0.73/0.71/2.10
3	640	140-283	不定形	N-45°-W	0.45/0.37/0.37
3	641	132-284	不定形	N-8°-E	0.78/0.77/2.37
3	642	132-283	—	—	0.60/(0.59)/2.35
3	643	143-280	不定形	N-5°-W	0.58/0.57/0.99
3	644	128-275	不定形	N-87°-E	0.47/0.37/0.48
3	645	136-270	不定形	N-54°-W	0.83/0.67/0.48
1	646	156-205	—	—	0.78/(0.54)/2.17
1	647	122-110	不定形	N-55°-W	0.68/0.45/0.18
1	648	129-115	不定形	N-16°-W	0.33/0.28/0.15
1	649	143-118	楕円形	N-69°-E	0.42/0.23/0.13
1	650	136-143	隅丸長方形	N-47°-E	0.30/0.24/0.29
1	651	135-143	楕円形	N-44°-W	0.32/0.28/0.21
1	652	133-154	ほぼ円形	N-84°-E	0.54/0.52/0.10
1	653	133-155	ほぼ円形	N-61°-W	0.44/0.24/0.06
1	654	137-140	不定形	N-52°-W	0.86/0.57/0.23
1	655	134-139	楕円形	N-38°-E	0.70/0.55/0.10
1	656	127-149	不定形	N-29°-E	0.35/0.31/0.18
1	657	135-140	ほぼ円形	N-86°-W	0.39/0.34/0.32
1	658	144-139	ほぼ円形	N-32°-W	0.35/0.33/0.21
1	654	141-165	ほぼ円形	N-80°-E	0.47/0.43/0.13

第39表 間之原東遺跡ピット計測表

区	NO.	位置	形状	主軸方向	規模(m)長/短/深
1	1	117-315	不定形	N-43°-W	0.47/0.44/0.25
1	2	117-314	—	N-40°-E	0.33/(0.24)/0.23
1	3	119-313	—	N-32°-E	0.62/(0.28)/0.77
1	4	118-315	不定形	N-44°-W	0.27/0.25/0.20
1	5	118-315	不定形	N-38°-W	0.25/0.23/0.15
1	6	119-315	不定形	N-3°-W	0.24/0.23/0.18
1	7	119-314	不定形	N-65°-W	0.48/0.43/0.44
1	8	122-313	ほぼ円形	N-73°-E	0.39/0.38/0.39

第40表 間之原遺跡出土遺物観察表

1区1号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第10図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.0	高	3.9	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状のへら磨き。	口縁部外面に 漆塗布。
第10図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.0	高	3.7	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面は摩滅。

1区3号竪穴住居

第15図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状のへら磨き。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第15図	2	須恵器 甕	床面上10cm 口縁部1/4	口底	-	高	-	粗砂粒/還元焰・ やや軟質/灰白	紐づくり後、ロクロ整形。	器面は摩滅。

1区4号竪穴住居

第20図	1	土師器 杯	床面上約10cm 口縁部～底部片	口底	11.2	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。口縁部外 面と内面全 面に漆残存。
第20図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.4	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状のへら磨き。	-
第20図	3	土師器 杯	床面上約10cm 1/4	口底	10.8	高	3.9	粗砂粒/良好/黄灰	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。	口縁部の内外 面に漆附着。 器面は摩滅。
第20図 PL.77	4	土師器 杯	床面上約10cm 完形	口底	11.1	高	3.5	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。底部外面は手持ちへら削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面に漆塗 布。内面は摩 滅か。
第20図 PL.77	5	土師器 杯	床面上約10cm 口縁一部欠	口底	11.4	高	4.3	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。底部の亀裂は旧事か。	器面は摩滅。 口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第20図 PL.77	6	土師器 杯	床面上約10cm 3/4	口底	12.4	高	4.5	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。器面は 摩滅。
第20図 PL.77	7	土師器 杯	床面上約10cm 2/3	口底	12.9	高	4.5	粗砂粒少/良好/褐 灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第20図 PL.77	8	土師器 杯	床面上約10cm 口縁一部欠	口底	12.1	高	3.9	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削りと考えられる。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。器面は 摩滅。
第20図 PL.77	9	土師器 杯	床面上約10cm 2/3	口底	12.6	高	-	粗砂粒少/良好/明 赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第20図 PL.77	10	土師器 杯	床面上約10cm 3/4	口底	12.7	高	4.0	粗砂粒少/良好/褐 灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上にへら磨き。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第20図 PL.77	11	土師器 杯	床面上約10cm 3/4	口底	13.0	高	3.95	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第20図	12	土師器 杯	カマド床直 1/3	口底	13.4	高	3.8	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面に漆塗 布。口縁部外 面にも残存。 外面も全面か。
第20図	13	土師器 杯	埋没土 破片	口底	14.7	高	-	細砂粒/良好/黄灰	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着か。
第20図	14	土師器 小型壺か	床上約10cm 口縁部1/3	口底	9.7	高	-	細砂粒/良好/橙	横ナデ。	器面に炭素吸 着。

1区5号竪穴住居

第22図	1	土師器 杯	床面上7cm 口縁部～底部1/4	口底	11.4	高	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。
------	---	----------	---------------------	----	------	---	---	----------	---	--------------

1区6号竪穴住居

第24図 PL.77	1	土師器 杯	床面上3～4cm 完形	口底	10.6	高	4.0	粗砂粒少/良好/黄 灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。内面に漆 塗布か。
第24図 PL.77	2	土師器 杯	床面上3～4cm 完形	口底	11.5	高	4.3	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面に炭素吸 着。器面に漆 塗布か。
第24図 PL.77	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	11.3	高	3.3	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第25図 PL.77	4	土師器 杯	床直 2/3	口底	12.1	高	4.2	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。上位にナデの部分を残す。内面はナデ。	-
第25図 PL.77	5	黒色土器 杯	床面上3～4cm 完形	口底	11.2	高	4.0	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。口縁部と底部は内外面ともにへら磨き。	内面は黒色処 理。外面にも 炭素吸着。
第25図	6	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内面に炭素吸 着。器面に漆 塗布か。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口 底	高 -	厚 重				
第25図 PL.77	7	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部 1/4	口 底	13.4 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は中位に弱い稜をなし、底部との間に稜を有する。 横ナデ。先端は内側がそがれるようにして尖る。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第25図 PL.77	8	土師器 杯	埋没土 1/2	口 底	11.8 -	高 -	4.4	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第25図 PL.77	9	土師器 杯	埋没土 3/4	口 底	11.6 -	高 -	4.5	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部は内外 面に漆残存。 内面は摩滅。
第25図	10	土師器 鉢	床面上8cm 口縁部～底部1/4	口 底	11.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は中位に弱い変換点が見られる。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。	焼成時に炭素 吸着。
第25図	11	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口 底	13.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は縦・ 横位のナデ。	-
第25図 PL.77	12	土師器 壺	埋没土 口縁一部欠	口 底	11.1 6.5	高 -	20.4	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は内傾して立ち上がる。中位と胴部との間の2カ所 に段をなす。中段の対向する位置に直径0.8cmの焼成前穿 孔が2孔見られる。横ナデ。胴部外面は横位・斜位のヘラ 削り。下位はヘラナデを重ねる。内面はヘラナデ。	胴部外面に黒 斑。
第25図 PL.77	13	礫石器 敲石	埋没土 完形	長 幅	13.2 7.8	厚 重	4.5 733.7	粗粒輝石安山岩 /-/-	扁平な楕円礫の上端部に敲打痕が見られる。	-

1区12号竪穴住居

第26図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	9.7 -	高 -	3.8 -	細砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第26図	2	土師器 甕	カマド燃烧部と 燃烧部側壁左壁 口縁部～頸部片	口 底	20.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	横ナデ。頸部に胴部整形時の工具痕。	器面は摩滅。
第26図 PL.77	3	鉄製品 不明	床直 破片	長 幅	2.4 1.6	厚 重	1.0 3.38	-/-/-	厚さ1mmほどの薄い鉄板で一面のみ直線的な輪郭を留める が、周囲は劣化破損し詳細は不明。	-

1区13号竪穴住居

第28図	1	土師器 杯	床面上10cm 口縁部～底部片	口 底	9.9 -	高 -	-	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 残存。
第28図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口 底	11.2 -	高 -	-	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面の口縁部 直下までと内 面に漆塗布。

1区16号竪穴住居

第38図	1	土師器 杯	床面上3～4cm 口縁部～底部1/2	口 底	10.9 -	高 -	-	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗 布。
第38図 PL.78	2	土師器 杯	床直 口縁部～底部1/2	口 底	11.1 -	高 -	-	細砂粒/良好/灰黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第38図	3	土師器 杯	床面上3～4cm 1/3	口 底	12.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗 布か。殆ど残 存していない
第38図 PL.78	4	須恵器 蓋	埋没土 3/4	口 底	12.0 -	高 -	4.0	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部静止糸切り後、周縁部に回転 ヘラ削り。	-
第38図	5	須恵器 鉢	床直 胴部下半～底部	口 底	8.1 -	高 -	-	白色鈹物粒/還元 焰 ・やや軟質/暗黄 灰	ロクロ整形(左回転か)。底部寄りに回転を伴うヘラ削り。 底部外面は粗雑なナデ。	-
第38図	6	土師器 甕	掘り方 胴部下位～底部	口 底	4.5 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/赤 褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位、内面はヘラナ デ。	被熱。器面は 摩滅。
第39図 PL.78	7	土師器 甕	P6内部から 口縁部～胴部 上半	口 底	17.7 -	高 -	-	粗砂粒・軽石多/ 良好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。中位に輪積痕。 胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第38図 PL.78	8	土師器 甕	カマド 口縁部一部欠	口 底	22.2 6.7	高 -	39.2 -	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位・中位が縦位の、下位は 横位・斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。内 面は摩滅。
第39図 PL.78	9	鉄製品 不明	埋没土 破片	長 幅	2.9 1.6	厚 重	1.0 3.28	-/-/-	断面ほぼ正方形の鉄製品で一端は角形で他の端部に向かい 薄くなりながらY字状に尖り終わる。	-
PL.78	10	イネ	貯蔵穴埋没土 破片	-	-	-	-	-/-/-	1.5mm程のイネ炭化種実で微小破片。	写真のみ掲 載。
PL.78	11	イネ	貯蔵穴埋没土 破片	幅 高	2.5 4.0	-	-	-/-/-	胚部分を一部破損するイネ炭化種実で炭化・発泡している。	写真のみ掲 載。
第39図 PL.78	12	礫石器 磨石	埋没土 破片	長 幅	(6.9) (6.4)	厚 重	(3.5) 238.9	粗粒輝石安山岩 /-/-	正面中央部を中心に周囲より平滑であったため磨石とし た。	-
第39図 PL.78	13	礫石器 磨石	埋没土 完形	長 幅	11.7 6.6	厚 重	4.1 470.2	粗粒輝石安山岩 /-/-	正面中央部が周囲よりも平滑であるため磨石とした。	-
第39図 PL.78	14	石製品 丸玉	掘り方 略完形	長 幅	1.3 1.3	厚 重	1.2 2.0	蛇紋岩/-/-	孔径3mm。厚さが均一でないものの、全面丁寧な研磨で仕 上げている。	-

1区20号竪穴住居

第45図 PL.78	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口 底	11.5 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 口縁部外面と 内面に漆塗 布。摩滅。
---------------	---	----------	------------	--------	-----------	--------	----------	-----------	-----------------------------	------------------------------------



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第45図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	11.6	高 -	3.5	粗砂粒少・赤色粘土粒/良好/灰黄褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	-
第45図 PL.78	3	土師器 杯	床面上3～6cm 2/3	口底	11.6	高 -	3.6	粗砂粒・赤褐色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	内面は摩滅。
第45図 PL.78	4	土師器 杯	床直 2/3	口底	11.7	高 -	4.0	粗砂粒少/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面は漆塗布。外面にも塗布か。炭素吸着。
第45図	5	土師器 杯	床面上3～6cm 1/3	口底	14.6	高 -	4.3	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデと考えられるが摩滅。	-
第45図	6	土師器 鉢	カマド 口縁部～体部片	口底	14.8	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ。	被熱か。
第45図	7	土師器 高杯	床面上3～6cm 脚部下位1/4	口底	-	高脚	16.0	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は指ナデ。裾部は横ナデ。	-
第45図	8	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部 上位	口底	20.6	高 -	-	粗砂粒・軽石/良好/橙	口縁部は先端の外側に輪積痕を残し、肥厚する。横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第45図	9	土師器 甕	カマド 口縁部～胴部 上位1/4	口底	21.6	高 -	-	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ、ヘラ削り。	-
第46図 PL.78	10	礫石器 磨石	床面上3～6cm 破片	長幅	(7.1) (5.8)	厚重	(3.8) 186.1	砂岩/-/-	幅狭の左側面が非常に平滑である。破損面付近で変色および亀裂が見られることから被熱の可能性はある。	-
第46図 PL.78	11	石製品 砥石	床面上3～6cm 略完形	長幅	11.5 5.4	厚重	4.1 338.9	粗粒輝石安山岩 /-/-	楕円形の棒状礫の右側面に断面V字状で鋭利な工具によると思われる線状痕が横位に多数見られる。礫の一部は赤色に変化し、被熱によるハジケが認められる。	-
第46図	12	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.1 7.0	高 -	3.9	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部外面は先端に横ナデ。中位に指オサエ痕。下位にヘラ削り。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面は摩滅。
第46図	13	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	12.6 7.8	高 -	4.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は先端に横ナデ。以下は指ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。

1区22号竪穴住居

第52図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	11.5	高 -	-	粗砂粒/良好/黄灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第52図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	13.0	高 -	-	細砂粒/良好/灰褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。
第52図	3	土師器 高杯か	埋没土 脚部裾部片	口底	-	高脚	15.2	細砂粒/良好/灰褐	内外面とも横ナデ。	-
第52図	4	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部 中位片	口底	12.0	高 -	-	粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位にナデに近いヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第52図	5	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部 中位片	口底	11.4	高 -	-	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位の手持ちヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第52図 PL.79	6	土師器 甕	床面上4～10cm 口縁部一部欠	口底	21.1	高孔	9.9 3.2	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	鉢状を呈する。口縁部は横ナデ。体部は斜横位のヘラ削り。内面は丁寧なナデ。平底の底部中央に直径3.2cmの焼成前穿孔。	-
第53図 PL.79	7	土師器 小型広口壺	床直 2/5	口底	13.5 8.0	高 -	11.0	粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	底部外面に木葉痕。
第53図 PL.79	8	土師器 甕	埋没土 胴部一部欠	口底	14.0 8.4	高 -	20.8	粗砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラナデ。下位はヘラ削り。内面は摩滅のため整形不明。底部外面に木葉痕。	被熱のため器面に炭素吸着。摩滅。
第53図 PL.79	9	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 中位1/2	口底	15.6	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱の為か、器面は摩滅。
第53図 PL.80	10	土師器 甕	床面上3cm 口縁部～胴部 中位1/3	口底	18.4	高 -	-	粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位・斜横位にヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第53図	11	土師器 甕	床面上3cm 口縁部～胴部 中位1/4	口底	24.4	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。一部横位あり。内面はヘラナデ。	外面に黒斑。内面は摩滅。
第53図	12	土師器 甕	床面上4～10cm 口縁部～胴部 1/4	口底	15.8	高 -	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第54図 PL.80	13	土師器 小型甕	埋没土 3/4	口底	18.7 3.5	高 -	19.8	粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/にぶい 褐	口縁部をはじめ、器形は全体が歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面上半部は横位のヘラナデ。下半部もナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第54図 PL.80	14	土師器 小型甕	床直 口縁部～底部2/3	口底	16.3	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面上位は横位のヘラナデ。以下もナデ。	被熱。炭素吸着。
第54図	15	土師器 甕	床面上4～10cm 口縁部～胴部 中位片	口底	15.7	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第54図 PL.80	16	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 中位片	口底	18.2	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第54図 PL.80	17	土師器 甕	床面上4～10cm 口縁部～胴部 中位片	口底	17.0	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい 黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	被熱。内外面共とも摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第54図 PL.80	18	土師器 甕	床面上3cm 口縁部～胴部 上位	口底	18.5 -	高 -	- 粗砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。やや摩滅。
第54図 PL.80	19	土師器 甕	床面上3cm 3/4	口底	23.9 8.0	高 -	27.6 粗砂粒・白色鉾物 粒/良好/明黄褐	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。孔の縁部はヘラ削り。	器面はやや摩滅。

1区25号竪穴住居

第49図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部-底部片	口底	12.6 -	高 -	- 粗砂粒少/良好/灰 黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に漆塗布。内面は摩滅。
第49図 PL.79	2	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口底	13.0 -	高 -	4.2 粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。底部中央に黒斑。	内面は全面に漆塗布。外面は口縁部から底部中位まで残存。
第49図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部-底部1/3	口底	13.4 -	高 -	- 粗砂粒・赤黒色粘 土粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は放射状にヘラ磨き。	器面は摩滅。
第49図 PL.79	4	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口底	12.6 -	高 -	3.7 粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
第49図 PL.79	5	土師器 杯	床面上4-6cm 3/4	口底	13.1 -	高 -	4.3 粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はヘラ磨きか。	器面は摩滅。
第49図 PL.79	6	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口底	13.0 -	高 -	4.0 粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	底部外面に黒斑。
第49図	7	須恵器 高杯	埋没土 杯部1/4	口底	17.6 -	高 -	- 白色鉾物粒/還元 焰/褐灰	ロクロ整形。回転方向は不明。受部外面に粗雑なカキ目。	-
第49図 PL.79	8	土師器 鉢	床直 口縁部一部欠	口底	9.6 5.4	高 -	7.4 粗砂粒/良好/橙	口縁部は胴部から屈曲。内傾して立ち上がる。横ナデ。体部はナデ。外面に輪積痕を残す。内面はナデ。	底部外面に木葉痕。
第49図 PL.79	9	土師器 鉢	カマド燃焼面 口縁部一部欠	口底	9.9 5.9	高 -	7.1 粗砂粒/良好/橙	口縁部は胴部から屈曲。内傾して立ち上がる。横ナデ。体部はナデ。外面に輪積痕を残す。内面はナデ。	底部外面に木葉痕。
第49図 PL.79	10	土師器 鉢	カマド燃焼面 口縁部一部欠	口底	11.5 5.8	高 -	9.3 粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。下位にナデの部分を残す。内面はナデ。底部は凸面状。	-
第49図 PL.79	11	土師器 鉢	埋没土 1/2	口底	14.9 8.0	高 -	10.2 粗砂粒/良好/橙	器形はやや歪んでいる。口縁部は横ナデ。体部外面は指ナデ。輪積痕を残す。内面は丁寧なナデ。底部外面に木葉痕。	器面は摩滅。
第49図 PL.79	12	土師器 小型甕	埋没土 完形	口底	13.0 7.5	高 -	15.6 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱か。器面は摩滅。
第49図 PL.79	13	土師器 小型甕	床面上4-6cm 2/3.底部欠	口底	10.1 -	高 -	- 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面は摩滅。

1区27号竪穴住居

第57図 PL.81	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	13.3 -	高 -	3.8 粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面は底部中心から放射状に、ヘラ磨きが施されているか。	器面は摩滅。
第57図	2	土師器 鉢	埋没土 口縁部～胴部 下位破片	口底	9.0 -	高 -	- 粗砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ。	器面の一部に炭素吸着。
第57図 PL.81	3	土師器 小型壺	床面上6cm 2/3	口底	6.1 -	高 -	6.0 細砂粒/良好/浅黄 橙	外面はナデの上に横位のヘラ磨き。内面は口縁部が横位のヘラ磨き。胴部もヘラナデの上にヘラ磨き。	内面とも完全に赤色塗彩。底部寄り外面に黒斑。
第57図 PL.81	4	土師器 高杯	埋没土 杯部のみ	口底	14.4 -	高 -	- 粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	器内は全体に厚い。先端は強く外反。横ナデ。中位以下はヘラ削りの上にヘラナデ。内面はヘラ磨き。	-
第57図 PL.81	5	土師器 高杯	埋没土 杯部1/2～脚部 中位	口底	15.0 -	高 -	- 粗砂粒/良好/明赤 褐	杯部は内外面とも横位のヘラ磨き。脚部外面は縦位のヘラナデ。内面はヘラ削り。	杯部外面の一部に黒斑。
第57図	6	土師器 小型甕	床直 胴部下位～底 部1/2	口底	- 6.2	高 -	- 粗砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位の、内面はナデの上に規則性のない横位のヘラ磨き。	-
第57図	7	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底 部1/2	口底	- 6.0	高 -	- 粗砂粒多/良好/灰 黄褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位。内面はヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第57図	8	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位1/3	口底	21.8 -	高 -	- 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は摩滅。内面は横位のヘラナデ。	-
第57図 PL.81	9	土製品 支脚	埋没土 底部欠	口底	8.0 -	高 -	- 粗砂粒/酸化焰/橙	下端に向かって、やや直径を増す円筒状を呈す。上端面は平坦。外面は縦位のヘラ削り。内面は指ナデ・指オサエ。輪積痕をそのまま残す。	被熱。上端面に木葉痕。
第57図	10	須恵器 杯	流れ込み 口縁部下位～底 部片	口底	- 6.5	高 -	- 小礫・粗砂粒/還 元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。

1区35号竪穴住居

第59図 PL.81	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	11.0 -	高 -	- 粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面に漆残存。
第59図 PL.81	2	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口底	11.8 -	高 -	4.1 細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部は内外面に漆残存。
第59図 PL.81	3	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	11.8 -	高 -	4.3 粗砂粒/良好/赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面は漆塗布。口縁部外面にも塗布。
第59図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.8 -	高 -	4.1 粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第59図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	11.8	高	-	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	-
第59図	6	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/3	口底	11.6	高	-	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	-
第59図 PL.81	7	土師器 杯	埋没土 3/4	口底	12.4	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第59図	8	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	12.4	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面の一部に黒斑。摩滅。
第59図 PL.81	9	土師器 杯	床直 2/3	口底	11.5	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は先端内面側に小さな屈曲点。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は被熱の 為か変色、摩滅。
第59図	10	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/3	口底	13.4	高	-	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	-
第59図	11	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	-	高	-	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は内傾して立ち上がる。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。内外面に漆塗布。
第59図 PL.81	12	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部2/3	口底	11.0	高	-	粗砂粒/良好/灰黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ後、ヘラ磨きか。	器面に炭素吸着。摩滅。
第60図	13	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	11.0	高	4.3	粗砂粒少/良好/褐灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第60図	14	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.0	高	3.8	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第60図	15	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	11.0	高	-	粗砂粒少/良好/灰黄褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗布。
第60図	16	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第60図 PL.81	17	須恵器 蓋	埋没土 1/4	口底	11.4	高 摘径	4.0 1.6	黒色鉱物粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。天井部外面はナデに近い回転ヘラ削り。	-
第60図	18	土師器 台付甕	床直 胴部中位～台部中位	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	器面は全体に厚く洗練さは見られない。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第60図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底	18.4	高	-	粗砂粒/良好/にぶい褐	3回に分けて横ナデ。	-
第60図	20	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部上位1/4	口底	22.8	高	-	粗砂粒・黒色鉱物粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は粗雑に斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-

1区36号竪穴住居

第61図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	11.8	高	-	細砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は底部との間に弱い稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第61図	2	土師器 高杯	埋没土 杯部1/4	口底	10.0	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。受け部外面はヘラ削り。内面はナデ。	内面は摩滅。

1区38号竪穴住居

第66図	1	土師器 杯	床直 口縁部～底部1/3	口底	12.4	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。	器面に炭素吸着。内外面とも漆塗布。
第66図	2	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.8	高	4.0	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に漆塗布。内面は塗布後に剥離か。
第66図 PL.81	3	土師器 杯	床直 1/2	口底	12.4	高	4.8	粗砂粒少/良好/にぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第66図 PL.81	4	土師器 杯	床直 2/3	口底	11.5	高	4.7	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。口縁部の内外面に漆残存。
第66図	5	土師器 杯	床直 口縁部～底部1/4	口底	12.0	高	-	粗砂粒少/良好/灰黄褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第66図 PL.81	6	土師器 鉢	床直 2/3	口底	17.8	高	9.1	粗砂粒・茶褐色粘土粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はヘラナデ。一部に工具痕。	口縁部の内外面に漆残存。外面の一部に黒斑。
第66図	7	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底部1/3	口底	9.8	高	-	粗砂粒/良好/明赤褐	胴部外面は斜位のヘラ削り。内面はナデ。最下位はヘラ削り。その後、縦位のヘラ磨き。	被熱。器面は摩滅。
第66図 PL.81	8	土師器 小型甕	カマド(支脚)完形	口底	14.6 8.0	高	17.4	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第66図	9	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中位1/4	口底	15.0	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第66図	10	土師器 甕	カマド袖補強材 口縁部～胴部上位片	口底	19.0	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。外面に黒斑。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚	重			
第67図	11	土師器 甕	カマド袖補強材 胴部下位～底部	口底	5.0	高	-	粗砂粒多・白色鋳物粒・黒色鋳物粒/良好/にぶい黄橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。器面は摩滅。
第67図	12	土師器 甕	カマド袖補強材 胴部下位～底部	口底	5.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。
第67図	13	土師器 甕	埋没土 1/3	口底	21.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第67図 PL.81	14	土師器 甕	カマド袖補強材 口縁部～胴部下位1/4	口底	20.2	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱。外面に炭素吸着。内面は摩滅。
第67図 PL.81	15	鉄製品 鏝	埋没土 ほぼ完形	長幅	5.1 2.1	厚重	0.7 5.35	-/-/-	無茎鏝で中央に丸孔を持つが錆化により閉塞している、矢柄の木質等は確認できない。本体は薄く錆化により稜等は見られない。	-

1区39号竪穴住居

第69図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	15.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。	器面は摩滅。
第69図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	11.0	高	-	粗砂粒・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第69図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	12.8	高	-	粗砂粒少・赤黒色粘土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に中央から放射状にヘラ磨きを重ねる。	-
第69図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	13.7	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第69図 PL.82	5	鉄製品 釘	埋没土 破片	長幅	2.5 1.3	厚重	1.3 4.07	-/-/-	角釘頭部分の破片で、端部を広く延ばし折り曲げている。先端側は劣化破損し不明。	-

1区40号竪穴住居

第71図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	12.8	高	-	粗砂粒/良好/灰黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第71図	2	土師器 鉢	埋没土 口縁部～底部1/3	口底	16.9	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第71図 PL.82	3	礫石器 磨石	埋没土 完形	長幅	8.0 7.5	厚重	4.8 344.8	溶結凝灰岩/-/-	扁平な円礫の表裏面中央部および側面の一部が周囲より平滑であったため磨石とした。	-

1区41号竪穴住居

第73図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	10.8	高	-	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に漆塗布か。
第73図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも漆付着。
第73図	3	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口底	-	高	-	白色・黒色鋳物粒少/還元焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。	-
第73図	4	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口底	-	高	-	白色・黒色鋳物粒少/還元焰/褐灰	紐づくり後、ロクロ整形。外面に平行する7条の沈線による区画。	-
第73図	5	須恵器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上位片	口底	17.6	高	-	白色鋳物粒/還元焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形(右回転)。	-
第73図	6	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上位1/4	口底	19.8	高	-	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第73図 PL.82	7	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	6.2 1.9	厚孔	1.8 0.6	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	小口部分の仕上げ業はやや粗雑。器面はナデ。一部にヘラ削り。	重量16.66g

1区43号竪穴住居

第76図 PL.82	1	土師器 杯	床直 2/3	口底	12.1	高	4.9	粗砂粒少/良好/灰	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。口縁部外面に漆か。
第76図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.4	高	-	粗砂粒少/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第76図	3	土師器 杯	床直 1/4	口底	13.0	高	-	細砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
第76図	4	土師器 杯	床直 口縁部～底部1/4	口底	15.0	高	-	粗砂粒少/良好/黒	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。
第76図	5	土師器 小型甕	床面上5cm 口縁部～胴部上位片	口底	13.6	高	-	粗砂粒/良好/灰黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第76図	6	土師器 甕	カマド燃焼面～焚口 胴部下位～底部	口底	3.9	高	-	粗砂粒・白色鋳物粒少/良好/にぶい黄橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには斜横位のヘラ削り。底部外面に木葉痕。内面にヘラナデ。	内面は摩滅。
第76図 PL.82	7	土師器 甕	カマド燃焼面～焚口 口縁部～胴部上位片	口底	19.0	高	-	粗砂粒・赤色粘土粒・軽石/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	器面は摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第76図 PL.82	8	土師器 小型甕	カマド 口縁部一部欠・ 底部欠	口底	16.9 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横位の強い当たりのヘラナデ。	外面に黒色の付着物。煤か。
第76図 PL.82	9	土製品 支脚か	カマド 脚部片	口底	- 9.3	高 -	-	粗砂粒/酸化焰/ - ぶい橙	横断面は円形を呈すると考えられる。下端に向かって徐々にその径を増している。底部は平坦。	-
第76図 PL.82	10	石製品 白玉	埋没土 完形	長幅	1.4 1.5	厚 重	0.4 0.9	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。上面には凹凸が残る。側面に縦方向の研磨痕が見られる。	-

1区45号竪穴住居

第78図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	11.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。内外面に漆塗布。
第78図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口底	14.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	内外面に漆塗布。
第78図	3	土師器 杯	床面上5cm 口縁部～底部 上位片	口底	17.8 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。

1区49号竪穴住居

第81図 PL.82	1	土師器 杯	床直 底部一部欠	口底	13.0 -	高 -	4.6	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部は内外面に漆残存。
第81図 PL.82	2	土師器 杯	床面上3cm 口縁部一部欠	口底	13.4 -	高 -	4.6	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部外面に黒斑。	内面全面に漆塗布。口縁部外面に漆残存。
第81図	3	土師器 杯	床直 2/3	口底	13.3 -	高 -	3.6	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗布。
第81図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	11.6 -	高 -	-	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面は横位のヘラ磨き。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	-
第81図	5	土師器 杯	床直 口縁～底部片	口底	12.4 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間にわずかにナデの部分を残す。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	内面に漆塗布。外面は口縁部から底部上位に漆残存。
第81図 PL.82	6	土師器 杯	床面上6～9cm 3/4	口底	13.7 -	高 -	7.1	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。底部上位に指オサエ痕。	内外面とも漆塗布。口縁部から底部上半部に漆残存。
第81図 PL.82	7	土師器 杯	埋没土 完形	口底	21.5 -	高 -	6.6	粗砂粒少/良好/にぶ い黄橙	大径。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。器面は摩滅。
第82図 PL.82	8	土師器 小型広口壺	床直 胴部一部欠	口底	9.4 -	高 -	11.4	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部との間には段を有する。胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。	口縁部を中心に内外面に炭素吸着。漆塗布か。
第82図	9	土師器 鉢	埋没土 口縁～底部1/2	口底	12.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面全面に漆塗布。内面は上半部に漆残存。器面は摩滅。
第82図 PL.82	10	土師器 小型甕	床直 胴部一部欠	口底	11.3 6.0	高 -	14.0	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は短く内傾気味に立ち上がる。内面先端はヘラで削り落とされ尖る。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	内外面とも炭素吸着。
第82図	11	土師器 高杯	床面上6～9cm 脚部3/4	口底	- -	高 脚	15.5	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は上位に横位のヘラ削り。以下はナデ。横ナデ。部分的に縦位のナデに近い磨き。	-
第82図 PL.82	12	土師器 甕	床面上6～9cm 口縁部～胴部上 半	口底	17.0 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデと考えられるが輪積痕を多く残す。	内面に炭素吸着。やや剥離。
第82図 PL.83	13	土師器 甕	床直 完形	口底	19.5 5.1	高 孔	17.8 1.8	粗砂粒多/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。最下位は斜横位。内面は斜位・斜横位のヘラナデ。平底の底部中央からややずれた位置に直径1.8cmの焼成前穿孔。	被熱。
第82図	14	土師器 甕	カマド 燃焼面 直上 2/3	口底	14.1 3.7	高 -	21.9	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は口縁部直下に横位の、それ以下は斜縦位のヘラ削り。底部寄りには斜位。内面はヘラナデ。	被熱。胴部下位に炭素吸着。
第82図 PL.83	15	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 下位1/2	口底	25.0 -	高 -	-	粗砂粒多/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。
第82図	16	土製品 土錘	埋没土 完形	長径	4.9 1.5	高 孔	0.4	細砂粒/酸化焰/ - ぶい黄橙	小口面は端部を絞るように整形。ヘラ切による平坦面は見られない。	器面は摩滅。重量9.8g
第82図	17	須恵器 杯	住居に伴わず 混入 3/4	口底	8.0 4.1	高 -	1.9	粗砂粒少/酸化焰/ - ぶい黄橙	ロクロ整形(左回転か)。底部回転糸切り後、周縁部に手持ちヘラ削り。	-
第82図 PL.83	18	石製品 白玉	床面上6～9cm 完形	長幅	(1.2) 1.3	厚 重	0.3 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-

1区56号竪穴住居

第86図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.6 -	高 -	-	細砂粒/良好/褐灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	内面全面に漆塗布。外面も全面に漆塗布か。
------	---	----------	------------	----	-----------	--------	---	-----------	--	----------------------



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第86図 PL.83	2	土師器 杯	床面上4～10cm 口縁部・底部一部欠	口底	13.5	高	-	粗砂粒少/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。口縁部との間に ナデの部分を残す。内面はナデ後、放射状のヘラ磨き。	内外面に漆塗 布。
第86図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	14.7	高	-	細砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間のナデの 部分に指オサエ痕。内面はナデ。	-
第86図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.8	高	-	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第86図	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	12.7	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも 漆塗布。
第86図	6	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面とも 漆塗布。
第86図	7	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ の上に放射状にヘラ磨きを重ねる。器面は摩滅。	口縁部外面お よび内面は漆 塗布と考えら れる。
第86図 PL.83	8	土師器 杯	床面上4～10cm 口縁部・底部一部欠	口底	14.0	高	4.1	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面は炭素吸 着。摩滅。
第86図 PL.83	9	土師器 杯	床面上4～10cm 2/3	口底	-	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。器面 は摩滅。	内面に漆塗 布。口縁部外 面に漆残存。 外面も全面塗 布か。
第86図 PL.83	10	土師器 杯	埋没土 口縁部・底部一部欠	口底	11.8	高	4.7	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。一部にナデの部分を残す。型肌。内面 はナデ。	内面全面と外 面の一部に炭 素吸着。
第86図	11	土師器 杯	カマド補強材 1/4	口底	23.7	高	-	粗砂粒/良好/灰褐	口径は大きく皿状を呈する。口縁部は底部との間に弱い稜 を有する。中位にも弱い段をなす。底部外面は手持ちヘラ 削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 外面に炭素吸 着。
第86図 PL.83	12	土師器 鉢	床直 1/4	口底	9.8 7.4	高	10.2	粗砂粒少/良好/明 黄褐	口縁部は体部との間に弱い段をなす。横ナデ。体部外面は 上半部が縦位、下半部が横位のヘラ削り。内面に斜位のヘ ラナデ。	-
第86図 PL.83	13	須恵器 鉢	床面上4～10cm 底部一部欠	口底	16.4	高	-	粗砂粒/還元焰/灰 黄	器肉厚く、重い。ロクロ整形(左回転)。口縁部は外側に稜 をなし、短屈曲。内傾気味に短く立ち上がる。体部最下位 と底部外面に、粗雑なカキ目が加えられる。	内面下半はロ クロ目がなくな るぐらいに摩 耗。
第86図	14	土師器 高杯か	埋没土 脚部片	口底	-	高	-	細砂粒少/良好/橙	外面は縦位のヘラ削り。内面は、横位のナデ。	-
第87図	15	土師器 高杯	埋没土 杯部下位～脚部 上位片	口底	-	高	-	粗砂粒少/良好/橙	外面は縦位のヘラ削り。脚部内面は粘土紐の輪積痕を明瞭 に残す。ナデ。	-
第87図 PL.83	16	須恵器 壺	埋没土 口縁部欠	口底	-	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/暗灰	口縁部は中位に2本1単位の沈線を巡らし、上下2段に区画、 それぞれに波状文を配す。肩部にはカキ目を巡らす。胴部 中位は2本の沈線で区画。区画内に櫛状工具による刺突文 を連続する。直径0.7cmの注口を配す。底部外面にヘラ刻み。	-
第87図 PL.83	17	須恵器 壺	埋没土 胴部～底部2/3	口底	-	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、叩き整形。下半部外面に叩き目。内面に当て 具痕を残す。上半部外面はロクロ整形によるカキ目。底部 外面に布目痕。	-
第87図 PL.83	18	土師器 甕	カマド補強材 口縁部～胴部 中位	口底	20.6	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。器面は 摩滅。
第87図 PL.84	19	土師器 甕	カマド補強材 口縁部～胴部 下位	口底	21.4	高	-	粗砂粒・白色鉱物 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。中位に一部、 横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。炭素吸 着。
第87図 PL.84	20	土師器 甕	カマド補強材 口縁部～胴部 下位	口底	20.6	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位にヘラ削り。内面は横 位に丁寧なヘラナデ。甕の可能性はある。	被熱。外面に 炭素吸着。
第88図 PL.84	21	土師器 甕	カマド補強材 口縁部～胴部一 部欠	口底	19.4 4.7	高	36.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。器面に 炭素吸着。摩 滅。
第88図 PL.84	22	土師器 甕	カマド補強材 口縁部～胴部一 部欠	口底	18.3 4.6	高	38.5	粗砂粒/良好/橙	器形はやや歪み胴部下位の膨らみが均等ではない。口縁部 は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。頸部直下に細いナ デ状の整形。内面は横位のヘラナデ。工具痕を残す。	被熱。外面に 粘土付着。
第88図 PL.84	23	土師器 手捏	床面上4～10cm 3/4	口底	8.9 5.6	高	2.9	粗砂粒/良好/にぶ い橙	皿状を呈する。整形は粗雑で器形は大きく歪んでいる。口 縁部は外面に指オサエ痕を残す。内面はナデ。	-
第88図 PL.84	24	土師器 手捏	床面上4～10cm 一部欠	口底	8.5 4.3	高	3.5	粗砂粒少/良好/橙	皿状を呈する。整形は粗雑で器形も大きく歪んでいる。口 縁部は外面に指オサエ痕を残す。内面はナデ。	-
第88図 PL.84	25	土師器 手捏	床面上4～10cm 口縁部一部欠損	口底	10.1 5.6	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	皿。平面形は長円形を呈する。整形は粗雑で口縁部には指 オサエ痕を多く残す。内面はナデ。	-
第88図	26	土師器 手捏	埋没土 口縁部下半～ 底部1/2	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/橙	外面は丁寧なナデ。底部内面は指ナデか。	被熱。
第88図	27	土師器 手捏	床直 2/3	口底	-	高	2.9	粗砂粒/良好/にぶ い橙	内外面とも粗雑な指ナデ。	-
第88図	28	土師器 手捏	埋没土 1/4	口底	6.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	内外面とも指ナデ。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	高			
第88図 PL.84	29	土師器 鉢	埋没土 完形	口底 6.6	高 -	高 7.5	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。体部外面はヘラナデ。輪積痕が残る。内面はヘラナデ。	-

1区58号竪穴住居

第91図 PL.85	1	土師器 杯	床面上6cm 3/4	口底	11.5 -	高 -	4.4 -	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面に漆塗布。口縁部外面に漆残存。
第91図 PL.85	2	土師器 杯	貯蔵穴床面 完形	口底	11.2 -	高 -	4.0 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。底部外面に黒斑。
第91図 PL.85	3	土師器 杯	貯蔵穴床面 完形	口底	11.8 -	高 -	4.2 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。内面全面と口縁部外面に漆塗布。
第91図 PL.85	4	土師器 杯	貯蔵穴床面 完形	口底	11.4 -	高 -	4.2 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面に漆塗布。外面も口縁部に漆残存。全面に塗布か。
第91図 PL.85	5	土師器 小型広口壺	貯蔵穴床上6cm 口縁部一部欠	口底	10.8 -	高 -	9.6 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は胴部との間に段をなす。横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。下位には底部中央から放射状に延びるヘラ磨き。	内外面に炭素吸着。漆か。
第91図 PL.85	6	土師器 高杯	埋没土 3/4	口底	9.4 -	高脚	9.2 9.7	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	杯部の口縁部は内傾して立ち上がる。中位に弱い稜を有する。横ナデ。受け部は斜位のヘラ磨き。内面は放射状のヘラ磨き。脚部外面は縦位のヘラ削り。内面は横ナデ。	杯部は内外面に漆塗布。受部上半まで残存。
第91図 PL.85	7	土師器 高杯	貯蔵穴床面 坏部	口底	13.4 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	杯部下端欠損部は割れ口を丁寧に調整。杯として二次利用している。口縁部は横ナデ。受部はヘラ削りの上にヘラナデ。内面はナデ。	口縁部外面と内面に漆塗布。
第91図 PL.85	8	土師器 高杯	貯蔵穴床上6cm 完形	口底	12.2 -	高脚	6.4 8.3	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	杯部口縁部は受け部との間に弱い稜を有する。横ナデ。受部から脚部までヘラ削り。脚部裾部は横ナデ。内面はヘラ削り。	杯部口縁部外面と杯部内面は漆塗布。
第91図 PL.85	9	土師器 小型甕	カマド 完形	口底	15.2 -	高 -	14.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。輪積痕を残す。底部はヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に黒色の付着物。煤か。
第91図	10	土師器 甕	カマド焚口上5cm 胴部下位～底部	口底	- 4.3	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには横位の、内面は縦位・斜位のヘラナデ。	被熱。器面に炭素吸着。
第91図 PL.85	11	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁 口縁部～胴部 中位	口底	16.5 -	高 -	-	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。
第91図	12	土師器 甕	カマド焚口上5 cm 口縁部～胴部 上位1/2	口底	20.9 -	高 -	-	粗砂粒・軽石多/ 良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭素吸着。
第91図 PL.85	13	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁 口縁部～胴部 下位	口底	17.6 -	高 -	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラ削り。	被熱。
PL.85	14	ヒエ	土師器小型甕 (第91図9)内部 ほぼ完形	幅高	1.5 1.5	- -	- -/-	-	ほぼ完形のヒエ炭化種実。	写真のみ掲載。
PL.85	15	コムギ	土師器甕(第91 図13)ほぼ完形	幅高	2.0 3.5	- -	- -/-	-	ほぼ完形のコムギ炭化種実。	写真のみ掲載。

1区59号竪穴住居

第92図	1	土師器 台付甕	床面上5cm 胴部下位～台 部片	口底	- -	高台	- 8.6	細砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。台部は内外面に横ナデ。	器面は摩滅。
------	---	------------	------------------------	----	--------	----	----------	----------	----------------------------------	--------

1区67号竪穴住居

第96図	1	土師器 杯	床直 1/3	口底	12.8 -	高 -	4.0 -	粗砂粒少/良好/黒	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。内面に漆塗布。
第96図 PL.85	2	土師器 杯	床面上3cm 口縁部一部欠	口底	13.3 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/黒	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第96図	3	土師器 杯	カマド焚口燃焼 面直上 口縁部～底部1/2	口底	12.8 -	高 -	-	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第96図 PL.85	4	土師器 杯	カマド埋没土 3/4	口底	12.4 -	高 -	4.5 -	粗砂粒少/良好/褐 灰	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面に炭素吸着。摩滅。
第96図 PL.85	5	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上6 cm 口縁部・胴部一 部欠	口底	15.8 8.3	高 -	14.0 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面はヘラ削り。	器面は摩滅。
第96図 PL.85	6	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上4cm 1/3	口底	14.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。煤か。

1区68号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高					
第98図	1	土師器 杯	床直 破片	口底	10.3	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ	内外面に漆塗 布。底部外面 は剥離。
第98図	2	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部 上位1/3	口底	13.1	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	-
第98図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	19.8	高	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	器面は摩滅。
第98図	4	土師器 甕	カマド焼面 直上 胴部下位～底 部1/2	口底	10.0	高	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	胴部外面は斜横位のヘラ削り。底部はヘラ削り。内面は摩 滅。	外面に黒斑。

1区70号竪穴住居

第100図 PL.85	1	土師器 杯	カマド焼面 上6cmと焚口直 上と周溝底面 上7cm 2/3	口底	12.6	高	4.5	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ 後放射状にヘラ磨き。	内面全面に漆 塗布。口縁部 外面に漆残 存。底部中央 に黒斑。
第100図 PL.85	2	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口底	11.8	高	4.4	粗砂粒少/良好/灰 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。口縁部の 内外面に漆残 存。
第100図	3	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/2	口底	11.6	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ	口縁部の内外 面に漆残存。
第100図	4	土師器 甕	焚口直上とカマ ド焼面上6cm 口縁部～胴部 上位	口底	21.7	高	-	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。器面に 炭素吸着。摩 滅。
PL.85	5	土塊 不明	カマド焼面 上3cm 一部	口底	-	高	-	細砂粒少/酸化焰/ 浅黄橙	スサを多く混入。片面に粗雑なナデ。	写真のみ掲 載。
PL.85	6	土塊 不明	カマド焼面 上3cm 一部	口底	-	高	-	細砂粒少/酸化焰/ 橙	スサを多く混入。片面の一部に粗雑なナデ。	写真のみ掲 載。

3区72号竪穴住居

第104図 PL.86	1	土師器 杯	床面上4～9cm 3/4	口底	11.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ の上に放射状にヘラ磨き。	外面に黒斑。 内面も炭素吸 着。外面に漆 塗布か。
第104図 PL.86	2	土師器 杯	カマド焼面 上8cm 口縁部一部欠	口底	12.0	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	器肉は厚い。口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナ デ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	外面に黒斑 か。
第104図 PL.86	3	土師器 杯	床面上4～9cm 口縁部一部欠	口底	12.4	高	5.0	粗砂粒少/良好/明 褐灰	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ち ヘラ削りであるが摩滅。	-
第104図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面と内面に 漆を塗布。器 面は摩滅。
第104図	5	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部上 位片	口底	21.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。体部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第104図 PL.86	6	須恵器 広口短頸壺	床面上5cm 完形	口底	10.2	高	9.1	白色鈹物粒少/還 元焰/灰	口縁部は変形・歪んでいる。ロクロ整形(右回転)。中位は やや下に沈線を巡らし、その下位に波状文を配す。下半部 は回転ヘラ削り。	-
第104図	7	須恵器 瓶	床面上4～9cm 胴部破片	口底	21.5	高	-	白色鈹物粒/還 元焰/灰オリーブ	瓶を転用して鉢あるいは甕として使用したものと考えられる。 整形は紐づくり後、ロクロ整形。外面はカキ目。内面はナデ。	-
第104図 PL.86	8	土師器 高杯	床直 脚部	口底	-	高 脚	13.2	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい褐	外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面はヘラ削り。 輪積痕を残す。裾部は横ナデ。	-
第104図 PL.86	9	土師器 高杯	床直 杯部3/4	口底	27.4	高	-	粗砂粒・白色鈹物 粒少・赤色粘土粒 少/良好/橙	杯部は皿状に斜め上方に開く。先端は横ナデ。以下の外面 はナデの上に弱いヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第104図 PL.86	10	土師器 高杯	床面上4～9cm 脚部	口底	-	高 脚	15.8	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/橙	外面は縦位のヘラ削り。裾部は横ナデ。内面は斜縦位のヘ ラナデ。裾部は横ナデ。	被熱。
第104図 PL.86	11	土師器 高杯	床面上4～9cm 脚部	口底	-	高 脚	18.0	粗砂粒/良好/橙	外面上位は縦位のヘラ削り。下位はナデの上に縦位のヘラ 磨き。裾部は横ナデ。内面の上半部はヘラナデ。下半部は 横ナデ。	-
第105図 PL.86	12	土師器 甕	埋没土 胴部上位～底部	口底	9.4	高	-	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/にぶい黄 橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内 面は丁寧なヘラナデ。孔の切開面はヘラ削り。	被熱。器面に 炭素吸着。
第105図 PL.86	13	土師器 小型甕	床面上4～9cm 口縁一部欠	口底	14.1 8.1	高	19.5	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位・横位のヘラ削り。内 面はヘラナデ。	被熱の為か器 面摩滅。
第105図 PL.86	14	土師器 甕	埋没土 胴部中位～底部	口底	8.3	高	-	粗砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 外面に黒斑。
第105図	15	土師器 甕	床直 胴部上位～底 部2/3	口底	7.0	高	-	粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/にぶい 橙	胴部外面はヘラ削りか。内面はヘラナデか。	器面は摩滅。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第105図 PL.86	16	土師器 甕	カマド天井部 材 3/4	口底	15.4 4.1	高 -	27.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は斜横位のヘラ削り。内面上位は横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第106図 PL.87	17	土師器 甕	カマド燃焼部側 壁右壁 胴部一部欠	口底	19.7 5.8	高 -	35.6 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に2回に分けてヘラ削り。最下位底部寄りには横位のヘラ削り。内面は上位から中位が横位のヘラナデ。下位は縦位のヘラナデ。輪積痕を多く残す。	やや被熱。
第105図 PL.86	18	土師器 甕	床直 胴部下位～底部	口底	- 4.4	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面最下位は横位の、それ以外は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。粘土付着。
第106図	19	土師器 甕	床直 胴部中位～底 部1/3	口底	- 7.0	高 -	- -	粗砂粒・白色鉾物 粒少/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。底部外面は砂粒が多く砂底状。	被熱。器面は摩滅。
第106図 PL.87	20	土師器 甕	カマド天井部 材 3/4	口底	20.0 5.0	高 -	37.4 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は複数回に分けて縦位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。下位はナデ。	被熱。器面は摩滅。外面に粘土付着。
第107図 PL.87	21	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁左壁 一部欠損	口底	21.4 4.3	高 -	43.4 -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は複数回に分けて縦位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	被熱。器面は摩滅。顕著。2片から図上復元。
第106図 PL.87	22	土師器 甕	床面上4～9cm 胴部一部欠	口底	14.5 3.9	高 -	29.6 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内面は規則性のないヘラナデ。下位はナデ。	外面に黒斑。
第107図 PL.88	23	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 下位	口底	19.3 -	高 -	- -	粗砂粒・白色鉾物 粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。	被熱。器面は著しく摩滅。
第108図 PL.87	24	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁左壁 胴部中位～底部	口底	- 4.3	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。最下位のみ横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面上位に粘土付着。
第107図 PL.88	25	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁右壁 完形	口底	19.5 4.8	高 -	36.2 -	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位にヘラ削り。下位は横位のヘラ削り。内面は上位から中位が横位のヘラナデ。下位はナデ。底部外面に木葉痕。	被熱。器面は摩滅。外面に炭素吸着・粘土付着。
第108図 PL.88	26	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁左壁 完形	口底	17.8 6.5	高 -	38.1 -	粗砂粒多/良好/に ぶい黄橙	下位から中位への成形粗雑。口縁部は横ナデ。胴部外面は数回に分けて縦位にヘラ削り。最下位は横位のヘラ削り。内面は上位から中位が横位のヘラナデ。下位はナデ。	被熱。器面に炭素吸着。
第108図 PL.88	27	土師器 甕	カマド燃焼部 側壁右壁 完形	口底	19.5 5.4	高 -	40.9 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。器面は摩滅。
第109図 PL.88	28	石製品 白玉	床面上4cm 完形	長幅	1.3 1.2	厚重	0.3 0.4	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。全体的に彎曲し、平面形も不整形である。側面の一部で研磨の痕跡が見られる。	-
第109図 PL.88	29	石製品 白玉	床直 完形	長幅	1.3 1.3	厚重	0.7 1.6	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。上下面とも研磨の痕跡が部分的に残る。側面には縦方向の研磨痕が見られる。側面を研磨し円柱状になった素材を輪切りにする途中のものとして推定される。	-
第109図 PL.88	30	石製品 白玉	床直 完形	長幅	1.3 1.2	厚重	1.1 2.1	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。荒割りの角柱状素材の側面を研磨している段階。	-
第109図 PL.88	31	石製品 白玉	床面上4cm 完形	長幅	1.5 1.4	厚重	1.1 2.8	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。側面を研磨した円柱状の素材を輪切りにした段階の接合資料。輪切りにした後の研磨は見られない。	同一地点で出土した5点が接合。計測値は5点接合した状態。
第109図 PL.88	32	石製品 白玉	床直 完形	長幅	1.3 1.3	厚重	0.8 1.5	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。側面を研磨した円柱状素材。輪切りにするため、側面から打撃を加えているのが認められる。	-
第109図 PL.88	33	石製品 白玉	床直 完形	長幅	1.4 1.4	厚重	0.9 1.9	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。側面を研磨した円柱状素材を輪切りにした段階の接合資料。下半部を欠く。輪切りにした後の研磨は見られない。	3点接合。
第109図 PL.88	34	石製品 白玉	床直 完形	長幅	1.5 1.4	厚重	0.8 2.1	硬質泥岩/-/-	孔径3.5mm。側面を研磨した円柱状素材を輪切りにした段階の接合資料。素材の上下面では研磨等整形痕が認められるが、輪切りにした後は割りっぱなしで、研磨は見られない。	同一地点で出土した3点が接合。計測値は3点接合した状態。
第109図 PL.88	35	石製品 白玉	1号土坑底面上 8cm 完形	長幅	1.6 1.6	厚重	0.6 2.2	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。上下面は平滑で、側面は縦方向の研磨痕を有する。	-
第109図 PL.88	36	石製品 白玉	掘り方 完形	長幅	1.4 1.6	厚重	0.2 0.4	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。側面を研磨した円柱状素材を輪切りにする段階で失敗したものと推定される。	-
第109図 PL.88	37	二枚貝 貝殻	須恵器短頸壺 (第164図)内部 破片	長幅	5.6 5.3	厚重	1.2 6.49	-/-/-	大型の二枚貝類の右殻破片で殻頂・腹縁を含め外周部分を破損する。表面は白色平滑で成長線にそって僅かに隆起する程度。一部剥落が見られるが、現存する範囲からは加工の痕跡は確認できない。	-
3区73号竪穴住居										
第111図 PL.89	1	土師器 杯	床直 3/4	口底	12.1 -	高 -	3.9 -	粗砂粒・白色鉾物 粒少/良好/明赤褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第111図 PL.89	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位	口底	18.0 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/褐灰	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。工具が頸部器面に強く当たっている。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に煤付着。
第111図 PL.89	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底 部片	口底	- 3.8	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/明褐	胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。外面は摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第111図 PL.89	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位片	口底	24.8	高	-	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部外面は横ナデ。内面は横位のヘラ磨き。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位のヘラ磨き。	-
第111図 PL.89	5	土師器 甕	カマド燃焼部側 壁右壁 口縁部～胴部下位	口底	21.6	高	-	粗砂粒/良好/黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第111図 PL.89	6	土師器 甕	カマド燃焼部側 壁左壁 口縁部～胴部下位	口底	21.8	高	-	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は やや摩滅。
第111図 PL.89	7	須恵器 甕	床面上8cm 胴部下位～底部	口底	-	高	-	白色鉱物・黒色鉱 物粒/還元焰/黄灰	紐づくり後、叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕をナデ消している。	-
第111図 PL.89	8	土製品 支脚か	床直 破片	口底	5.0	高	-	粗砂粒少/酸化焰/ 明黄褐	上端は平坦面となる中実品。下位がやや裾広がりととなる。側面は指ナデ。上端面には木葉痕。	-

### 3区74号竪穴住居

第113図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	13.0	高	-	細砂粒/良好/淡黄	口縁部は欠損後、割れ口を再調整して継続して使用している。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部は外面・ 内面の全面に 漆を塗布か。
第113図 PL.90	2	土師器 高杯	床面上5～7cm 口縁部一部欠	口底	-	高 脚	12.2	粗砂粒・白色鉱物 粒少/良好/明赤褐	口縁部は先端が大きく外反して立ち上がる。外面は先端が横ナデ。以下は受け部が粗雑なヘラ磨き。内面も粗雑なヘラ磨き。胴部上半は柱状。裾部に至り外反。外面はヘラ磨き。内面はヘラ削り。	-
第113図 PL.90	3	土師器 甕	床面上5～7cm 口縁部～胴部上 位破片	口底	19.5	高	-	粗砂粒多/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。一部この上にヘラナデ。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。
第113図	4	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 上半破片	口底	26.5	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデに近いヘラ削りの上に幅の狭いヘラナデ。内面はヘラナデの上にやや粗雑な縦位のヘラ磨き。	内外面に黒 斑。

### 3区75号竪穴住居

第115図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	13.2	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第115図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口底	12.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸 着か。

### 3区76号竪穴住居

第119図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	10.8	高	2.9	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。
第119図	2	土師器 杯	床面上6～8cm 1/2	口底	11.9	高	-	赤色粘土粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。上位には斜横位の磨きが重なる。	-
第119図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口底	12.4	高	-	粗砂粒少/良好/淡 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第119図 PL.90	4	土師器 杯	床面上3cm 3/4	口底	12.1	高	3.55	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸 着。黒色処理か。
第119図 PL.90	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/2	口底	12.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着か。
第119図 PL.90	6	須恵器 杯	床面上6～8cm 1/2	口底	11.1	高	3.4	赤褐色粘土粒/酸 化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ切り。	-
第119図	7	須恵器 椀	床面上6～8cm 底部下位～高台 部	口底	-	高 台	8.4	白色鉱物粒・海綿 骨針/酸化焰/灰褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	内面は摩耗。
第119図	8	土師器 甕	カマド燃焼面上 8cm 口縁部～胴部上 位1/3	口底	19.7	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位・縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第119図	9	土製品 土玉	埋没土 完形	長 幅	0.9 0.9	厚 孔	0.9 0.05 ～0.1	精選/良好/橙	焼成前に穿孔。孔は軸がずれている。	重量0.78g
第119図 PL.90	10	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.6 1.8	厚 重	0.3 1.1	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。円柱状素材を輪切りにした後、正面右側に残った凸部を研磨によって平坦にしようとしたと推定される。裏面には横方向の線刻または擦痕が見られる。	-

### 3区77号竪穴住居

第121図 PL.90	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	8.7	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に斜横位のヘラ磨き。	外面は摩滅。
第121図 PL.90	2	土師器 小型杯	埋没土 3/4	口底	6.9 6.3	高	2.8	粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒 斑。
第121図	3	土師器 杯	埋没土 破片	口底	6.8	高	-	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	小径。口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	-
第121図	4	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	7.9	高	-	細砂粒/良好/にぶ い赤褐	小径。口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	-
第121図 PL.90	5	土師器 杯	床面上3～7cm 1/2	口底	10.4	高	3.7	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に横位のヘラ磨き。	-
第121図	6	土師器 杯	床面上3～7cm 1/3	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第121図 PL.90	7	土師器 杯	埋没土 完形	口底	11.4	高	3.2	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第121図 PL.90	8	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.6	高	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第121図 PL.90	9	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	11.8	高	4.55	粗砂粒・白色鉱物 粒少/良好/にぶい 黄橙	器形歪んでいるか。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。やや摩滅。
第121図 PL.90	10	須恵器 杯	床面上3～7cm 口縁部一部欠	口底	10.4	高	3.2	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。切り離し後、底部中心寄りに回転ヘラ削り。	-
第122図 PL.90	11	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.5	高	4.8	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。底部外面に黒斑。
第122図	12	土師器 杯	埋没土 破片	口底	20.2	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	大径。口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	-
第122図	13	土師器 台付甕	埋没土 脚部1/3	口底	-	高台	9.7	粗砂粒/良好/橙	外面はナデの上にナデに近い縦位のヘラ削り。内面は斜位のヘラナデ。	-
第122図	14	須恵器 高杯	埋没土 胴部下位～脚部 上位片	口底	-	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転か)。杯部底面は回転ヘラ削り。脚部は3方に透孔を配す。	-
第122図	15	須恵器 壺	埋没土 胴部上位～中 位片	口底	-	高	-	黒色鉱物粒/還元 焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面に自然釉付着。	-
第122図 PL.90	16	土師器 小型甕	床直 口縁部片	口底	10.7	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第122図 PL.90	17	土師器 甕	床面上3～7cm 口縁部～胴部上 位1/3	口底	21.9	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第122図	18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	21.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第122図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口底	17.6	高	-	細砂粒・白色鉱物 粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は頸部直下が横位、この下位は斜位・縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第122図	20	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	19.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第122図 PL.90	21	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位破片	口底	20.6	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第122図	22	土師器 甕	床面上3～7cm 口縁部～胴部上 位片	口底	21.3	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に被熱。煤付着。
第122図	23	土師器 甕	床面上3～7cm 口縁部～胴部上 位片	口底	21.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第123図 PL.90	24	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位	口底	20.1	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。口縁部は内面が黒色。煤付着か。
第123図	25	須恵器 甕	埋没土 口縁部片	口底	13.8	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形か。	-
第123図	26	須恵器 甕	埋没土 胴部片	口底	-	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	紐づくり後、叩き整形。外面は疑似格目状の叩き目。内面は同心円文状の当て具痕を残す。	-
第123図 PL.90	27	土製品 土錘	床面上3～7cm 完形	長幅	4.0 1.2	厚孔	1.2 0.3	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	小口部分は端部を絞るように収束させ、ヘラ切りの平坦面を有さない。	器面は摩滅。 重量4.94g
第123図	28	土製品 土錘	埋没土 1/4	長幅	3.4	厚孔	0.5	細砂粒少/酸化焰/ 暗灰黄	上端の小口部分は旧事の欠損か。	器面は摩滅。 重量5.23g
第123図	29	土製品 土錘	埋没土 1/3	長幅	4.2	厚孔	0.4	細砂粒少/酸化焰/ 灰黄	器面は摩滅。	重量4.53g
第123図	30	土製品 土錘	埋没土 1/2	長幅	3.0 1.5	厚孔	1.6 0.45	細砂粒少/酸化焰/ 灰黄褐	器面はナデか。	器面と割れ口は磨滅。 重量3.91g
第123図 PL.90	31	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	8.5 4.7	厚重	3.0 54.66	-/-/-	羽口先端近くの破片で外径4.8cm孔径2.1cm。整形痕が残るが先端側は被熱により不明瞭となる。先端側は灰黒色で細かく発泡する。孔表面は径0.5～1cm程の溝状に凹む。先端近くの破断面に植物痕の空洞が見られる。	-
第123図 PL.90	32	鉄製品 不明	埋没土 破片	長幅	4.2 2.1	厚重	0.9 6.22	-/-/-	断面ゆがんだ長方形の板状鉄製品で、錆瘤により変形し詳細は不明。木質等の付着も見られない。	-
第123図 PL.90	33	石製品 白玉	埋没土 完形	長幅	1.6 1.6	厚重	0.5 1.5	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。上面および側面は丁寧に研磨されている。	-
第123図 PL.90	34	石製品 砥石?	床面上3～7cm 完形	長幅	8.9 6.8	厚重	4.3 120.0	二ツ岳軽石/-/-	扁平な楕円形に整形した軽石の正面中央部に平滑面を有し、浅く窪むことから砥石としたが、詳細は不明である。	-
3区80号竪穴住居										
第125図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	10.2	高	-	粗砂粒少/良好/褐 灰	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	器面は摩滅。
第125図	2	土師器 杯	埋没土 破片	口底	11.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第125図	3	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底 部片	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第125図 PL.90	4	土師器 甕	カマド焼面 上10cm 口縁部～胴部 中位	口底	22.0	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラ ナデ。	器面は摩滅。
第125図	5	土製品 支脚	埋没土 上半部	長底	(10.9)	高	-	粗砂粒/酸化焰/浅 黄	截円推状を呈する。上面は凸面状をなす。器面をナデ調整。	-
第125図	6	土製品 不明	カマド焼面 埋没土 破片	長幅	7.0 6.6	厚 重	3.0	-/-/-	羽口に似た土製品で推定外径7.5cmの破片で現存部分には 孔の構造は見当たらない。斜め半分に灰色の熱変色が見ら れるが、現存範囲からは羽口とは断定できない。	-

### 3区81号竪穴住居

第126図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	11.0	高	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第126図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	12.8	高	-	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗 布。
第126図 PL.90	3	土師器 杯	床面上4～9cm 完形	口底	11.7	高	4.1	粗砂粒・白色鈹物 粒少/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第126図	4	土師器 杯	床面上4～9cm 1/2	口底	13.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。内面はナ デ。	内外面に漆塗 布。
第126図	5	土師器 鉢	埋没土 口縁部～底部片	口底	16.4	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 はヘラ削り。内面はナデ。	内面は漆塗布 か。
第126図 PL.90	6	土師器 鉢	埋没土 1/2	口底	18.5	高	8.9	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は ナデに近いヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	口縁部の内外 面に漆残存。
第126図	7	土師器 鉢か	埋没土 口縁部～体部上 位片	口底	7.9	高	-	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。体部外面は斜縦位のヘラ削り。内面はナ デ。	-
第126図 PL.90	8	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	5.5 2.1	厚 孔	1.9 0.4	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	小口部分は端部を絞るようにして収束させ、ヘラ切りの平 坦面を有さない。器面はヘラ削り。孔の直径は大きい。	-
PL.90	9	モモ核	破片	-	-	-	-	-	破損したモモ炭化核破片。	写真のみ掲載。
PL.90	10	モモ核	破片	-	-	-	-	-	破損したモモ炭化核破片。	写真のみ掲載。

### 3区83号竪穴住居

第128図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.0	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの 部分を残す。内面はナデ。	-
第128図	2	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	13.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との 間にナデの部分を残す。内面はヘラナデ。	外面の口縁部 から底部上半 と内面全面に 漆塗布。
第128図 PL.91	3	土師器 杯	埋没土 完形	口底	12.4	高	4.6	細砂粒/良好/浅黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りの上に規則性のないヘラ磨き。内面はナデの 上に放射状にヘラ磨き。	底部外面に黒 斑。
第128図	4	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.7	高	3.2	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第128図 PL.91	5	土師器 鉢	埋没土 3/4	口底	11.4 6.5	高	6.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。体部はナデ。一部に指オサエ痕。底部外 面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第128図 PL.91	6	土師器 高杯	埋没土 脚部2/3	口底	-	高 脚	16.0	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	外面は縦位のヘラ削り。下半部はこれに縦位のヘラ磨きを 重ねる。裾部は横ナデ。内面は斜位のナデ。裾部は横ナデ。	-
第128図	7	土師器 高杯	埋没土 脚部下半1/3	口底	-	高 脚	16.4	粗砂粒少/良好/橙	外面はナデの上に縦位のヘラナデ。裾部は横ナデ。内面は 斜位のヘラナデ。	-
第128図 PL.91	8	土師器 小型甕	埋没土 口縁部1/3欠	口底	13.8 6.4	高	14.8	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	器形は歪み横断面は楕円形。口縁部は横ナデ。胴部外面は 縦位のヘラナデ。最下位は横位のヘラ削り。内面は横位を 主体としたヘラナデ。	-
第128図	9	土師器 甕	埋没土 1/4	口底	19.6 8.2	高 孔	23.1	粗砂粒/良好/淡黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位 の磨き状のナデ。孔の周縁部はヘラ削り。	-
第128図	10	土師器 鉢	埋没土 口縁部～体部片	口底	18.0	高	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は体部との間に段をなす。横ナデ。体部外面はヘラ 削りの上に斜横位のヘラ磨き。内面はナデ。	-
第128図	11	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底 部	口底	-	高	3.0	粗砂粒/良好/明黄 褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。底部寄りには横位。内面はヘラ ナデ。	-
第128図 PL.91	12	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 下位	口底	16.0	高	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。下位は斜位 のヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。
第128図 PL.91	13	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/2	口底	-	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位・ 斜位のヘラナデ。	-
第129図 PL.91	14	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位1/2	口底	18.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。
第129図 PL.91	15	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位1/2	口底	17.6	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。
第129図 PL.91	16	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 中位	口底	18.3	高	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。器面は摩 滅。
第129図	17	土師器 甕か	埋没土 口縁部～胴部 上位	口底	25.8	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ の上に縦位のヘラ磨き。	被熱。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	22.8 高 -	高 -			
第129図 PL.91	18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 中位	口 底	22.8 高 -	高 -	チャート・小礫・ 粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は斜縦 位・斜位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第129図 PL.91	19	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	6.5 5.7	厚 重 2.6 49.19	-/-/-	羽口基部片。基部推定外径6.0～5.6cm基部孔径4.6～2.8 cm。基部はラッパ状に広がる、外面は基部まで灰色に被熱 変色し端から3cm程度まで発泡している。	-
第129図 PL.91	20	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	8.7 5.5	厚 重 3.1 62.45	-/-/-	羽口胴部～先端部片。推定外径5.0～4.8cm推定孔径2.5 ～2.0cm。外面には整形痕が残るが先端側で被熱不明瞭と なる。先端部は発泡し灰黒色となる。孔表面は比較的平滑。	-

### 3区84号竪穴住居

第130図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.0 高 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に漆塗布。 外面も全面と 考えられる。
第130図 PL.91	2	土師器 杯	床面上12cm 1/2	口 底	12.5 高 -	高 -	4.3 -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。器面は摩滅。	口縁部外面に 漆残存。外面 全面に塗布 か。内面は全 面に塗布。
第130図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	13.6 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。	器面は摩滅。 一部に炭素吸 着。

### 3区85号竪穴住居

第133図 PL.92	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.6 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面に 漆塗布か。
第133図	2	土師器 杯	床面上6～7cm 口縁部～底部 1/4	口 底	14.0 高 -	高 -	- -	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布か。
第133図 PL.92	3	土師器 杯	床直 1/2	口 底	11.9 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/暗 灰黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	内外面に漆塗 布。器面は摩 滅。
第133図	4	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	11.6 高 -	高 -	- -	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に漆塗 布。
第133図 PL.92	5	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/2	口 底	11.6 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面全面に漆 塗布。口縁部 外面にも残存。
第133図	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.0 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第133図	7	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.0 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に漆塗布。 外面も口縁部 から底部上位 に残存。
第133図	8	土師器 杯	床直6～7cm 口縁部～底部1/4	口 底	13.0 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第133図	9	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.9 高 -	高 -	- -	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に漆塗布 したか。
第133図 PL.92	10	土師器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.7 高 -	高 -	3.9 -	粗砂粒少/良好/灰 黄褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭化 物付着。
第133図	11	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	12.0 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。 底部外面に黒斑。	口縁部外面と 内面全面に漆 塗布。
第133図	12	土師器 杯	埋没土 口縁部片	口 底	16.4 高 -	高 -	- -	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の 付着物。
第133図	13	須恵器 蓋	埋没土 口縁部～天井 部片	口 底	- 高 -	高 -	- -	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(左回転か)。天井部外面はナデに近い回転ヘラ 削り。	-
第133図 PL.92	14	土師器 小型広口壺	埋没土 完形	口 底	- 高 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は胴部との間に段を有する。横ナデ。胴部外面は横 位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	漆塗布。外面 は胴部中位ま で残存。内面 は口縁部に残 存。
第133図	15	土師器 高杯	埋没土 杯部～脚部上位 破片	口 底	16.8 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	杯部は中位に段を有する。上半部は横ナデ。以下基部まで はヘラ削り。脚部外面は縦位のヘラ削り。	-
第133図 PL.92	16	土師器 壺	貯蔵穴底面上 19cm 口縁部～胴部 下位	口 底	9.4 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は先端が外面に弱い稜を持った後、内折気味に立ち 上がる。横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。頸部直下に指オサエ痕。	-
第133図	17	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 上位	口 底	16.8 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。炭素吸 着。
第133図	18	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	22.6 高 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	やや被熱。
第133図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位片	口 底	15.8 高 -	高 -	- -	粗砂粒・白色鈹物 粒/良好/浅黄	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第134図	20	土師器 甌か	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	21.0	高	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	-
第134図	21	土師器 甕	埋没土 胴部中位～底部	口底	4.2	高	-	粗砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第134図	22	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	20.8	高	-	粗砂粒多/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	被熱。
第134図 PL.92	23	土師器 手捏	埋没土 1/2	口底	4.9	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	台部を有する。内外面とも粗雑な指ナデ。指オサエ。	-
第134図 PL.92	24	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	11.7 8.8	厚重	5.6 175.80	-/-/-	羽口先端側破片で、先端部には三日月形に発泡ガラス化し た滓が付着する。外径5.0cm孔径2.2cm(不整形)。羽口先端 は被熱溶融後に破損し、その破断面を覆うように発泡・ガ ラス化した滓が付着している。	-
第134図 PL.92	25	鉄滓 炉内滓?	埋没土 破片	長幅	2.7 2.7	厚重	1.8 14.74	-/-/-	上面に磁着有り僅かに放射割れが見られるがメタルは確認 できない。	-
第134図 PL.92	26	石製品 白玉	埋没土 完形?	長幅	2.3 1.8	厚重	0.3 0.9	硬質泥岩/-/-	未成品。孔径4mm。正面平坦部および裏面の一部に研磨が 認められる。	-
第134図 PL.92	27	石製品 白玉	埋没土 完形	長幅	1.3 1.2	厚重	0.4 0.9	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面および裏面では凸部を中心に研磨が見られ る。側面には縦方向の研磨痕が認められる。正面孔周囲に は穿孔時の痕跡が残る。	-

### 3区86号竪穴住居

第136図	1	土師器 杯	床直 1/4	口底	10.8	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ の上に放射状にヘラ磨き。	内面全面と口 縁部外面に漆 塗布。底部外 面に黒斑。
第136図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	11.0	高	4.3	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部の内外 面に漆残存。 底部外面に黒 斑。
第136図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部の外面 と内面に漆塗 布。
第136図 PL.92	4	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	11.8	高	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。器面 は摩滅。	内面に漆塗 布。口縁部外 面に漆残存。 外面全面に塗 布か。
第136図 PL.92	5	土師器 鉢	埋没土 2/3	口底	16.2	高	9.2	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に漆塗布。 内面に炭素吸 着。
第136図 PL.92	6	土師器 甌	床直 2/3	口底	21.1 5.0	高	14.2	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。体部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。平底の底部中央に直径2.6cmの焼成前穿孔。 切開面にヘラ削り。	外面の一部に 黒斑。
第136図	7	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	18.0	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。	-
第136図 PL.92	8	土師器 甕	床直 胴部下位～底 部	口底	6.5	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。接合部で 欠損。鉢として二次利用か。	外面に黒斑。 内面に炭化物 付着。
第136図	9	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	24.4	高	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。外面に輪積痕を残す。胴部外面は斜位の ヘラ削り。内面は斜横位のヘラナデ。	被熱。
第136図 PL.92	10	須恵器 壺か	埋没土 底部片	口底	6.6	高	-	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転切り後、無調整。	-
第136図 PL.92	11	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	4.5 1.9	厚孔	2.0 0.6	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	器形は両小口部分に向かって絞られるように収束する。器 面はナデ。	重量12.23g
第136図 PL.92	12	土製品 土錘	埋没土 小口部分一部 欠損	長幅	5.4 1.9	厚孔	2.0 0.5	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	小口部分の整形は粗雑。器面はヘラ削り。孔の直径は大き い。	重量13.77g
第136図 PL.92	13	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	6.2 2.1	厚孔	2.0 0.6	細砂粒/酸化焰/灰 黄褐	小口部分は端部を絞るように収束させており、ヘラ切りによ る平坦面は見られない。孔の直径は大きい。器面はヘラ削り。	器面に炭素 吸着。重量 16.50g
第136図 PL.92	14	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	6.3 5.7	厚重	3.1 46.29	-/-/-	羽口基部片。基部推定外径6.4～5.8cm基部推定孔径5.0 ～3.0cm。基部側端部は3～5mmと薄くなる。発泡・被熱 変色は見られない。	-
第136図 PL.92	15	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	5.3 4.5	厚重	2.3 23.73	-/-/-	羽口先端部片。推定外径4.4cm推定孔径2.0cm。外面は灰黒 色で先端側は大きく発泡する。孔表面は平滑で端部近くは 鮮赤色。	-

### 3区87号竪穴住居

第140図	1	土師器 杯	床面上5～9cm 1/4	口底	13.0	高	3.8	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に漆塗 布。
第140図	2	土師器 杯	床直 1/4	口底	11.5	高	3.9	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭素 吸着。内面に 炭化物付着。
第140図	3	土師器 杯	床面上5～9cm 1/3	口底	13.0	高	3.4	赤褐色粘土粒/良 好/にぶい橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面 は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第140図	4	土師器 杯	床直 1/4	口底	12.4 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。
第140図 PL.92	5	土師器 鉢	床直 2/3	口底	19.2 -	高 -	8.9	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に段を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状にへら磨き。	口縁部外面に 漆塗布か。上 に炭化物付着。
第140図	6	土師器 鉢	床面上5～9cm 破片	口底	11.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	-
第140図 PL.92	7	土師器 鉢	埋没土 2/3	口底	22.0 7.0	高 -	13.0	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はナデの上に縦位のへら磨き。内面は斜横位のへらナデ。	内面は下位に 炭化物付着。欠 損後にも被熱。 外面は摩滅。
第140図	8	土師器 甌	床面上5～9cm 胴部下位～底部	口底	- 7.5	高 -	-	粗砂粒多/良好/に ぶい黄	平底気味の底部中央に直径縦3.1cm、横2.8cmの焼成前穿孔。胴部と底部の外面はへら削り。内面はへらナデ。	被熱。
第140図	9	土師器 甕	床面上5～9cm 口縁部～胴部上 位片	口底	17.8 -	高 -	-	粗砂粒・軽石/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	被熱。
第140図	10	土師器 甕	カマド燃焼面 直上 胴部中位1/4～ 底部1/2	口底	- 5.0	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	胴部外面は縦位のへら削り。最下位は横位、内面は横位のへらナデ。	被熱。
第140図	11	土製品 土玉	床面上5～9cm 完形	長幅	0.7 0.85	厚 孔	0.8 0.07 ～0.1	精選/良好/灰黄褐	器形はやや歪。焼成前に穿孔。	重量0.47g 器面に炭素吸 着。

### 3区2号竪穴状遺構

第141図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	10.9 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。口縁部との間にナデの部分を残す。内面はナデ。	外面口縁部から 底部上半と 内面全面に漆 が残存。
第141図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部1/4	口底	11.2 -	高 -	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は中位2カ所に段を有する。底部との間には稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第141図	3	土師器 鉢	埋没土 1/4	口底	17.6 -	高 -	9.2	粗砂粒少/良好/灰 黄	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	漆塗布か。口 縁部に一部残 存。底部外面 に黒斑。
第142図	4	土師器 高杯	埋没土 杯部最下位～ 脚部下位	口底	- -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	杯部外面はへら削り。内面はナデ。脚部外面は縦位のへら削り。内面は指ナデ・オサエ。残存下位に大きな接合痕。	器面はやや摩 滅。
第142図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	14.7 -	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削りか。内面は横位のへらナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第142図	6	土師器 甌	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	21.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位に一単位の幅の狭いへら削り。内面は縦位のへら磨き。	-
第142図	7	土師器 甌	埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口底	24.5 -	高 -	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。内面は横位のへらナデ。	器面は摩滅。
第142図 PL.92	8	土製品 羽口	埋没土 一部破損	長幅	7.8 4.5	厚 重	4.4 94.02	-/-/-	羽口先端部破片。推定外径4.5～3.7cm孔径2.4～1.7cm(不整形)。先端は被熱後破損、破断面はさらに被熱発泡・ガラス化する。	-

### 3区5号竪穴状遺構

第145図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	10.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面はへら削り。内面はナデ。	口縁部の内外 面に漆残存。
第145図 PL.92	2	土師器 杯	床面上6～10cm 3/4	口底	11.0 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状のへら磨き。器面は摩滅。	内面に漆塗布。 口縁部から底 部にかけて漆 残存。外面も 全面に塗布か。
第145図	3	須恵器 瓶	床面上6～10cm 口縁部下位～頸 部片	口底	- -	高 -	-	白色鈹物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形。	内外面に自然 釉付着。
第145図	4	土師器 甕	埋没土 胴部下位～底 部片	口底	- 5.0	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	胴部外面はへら削り。内面はへらナデ。底部外面はへら削り。	被熱。
第145図 PL.92	5	鉄滓 炉内滓?	埋没土 完形	長幅	3.7 2.2	厚 重	1.7 12.38	-/-/-	全体を酸化土砂が覆う小型完形の鉄滓で割れ等は認められない。	-

### 1区29号土坑

第147図 PL.93	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.4 -	高 -	4.4	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	-
----------------	---	----------	------------	----	-----------	--------	-----	-------------------	-----------------------------	---

### 1区436号ピット

第148図 PL.93	1	土師器 台付甕	埋没土 3/4	口底	14.1 -	高 台	27.4 15.5	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	台部は高く高杯の脚状を呈する。口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のへら削り。下位はこの上に一部横位の磨きを重ねる。内面は横位のへらナデ。台部外面はへら削り。裾部は横ナデ。内面も横ナデ。	器面は摩滅。
----------------	---	------------	------------	----	-----------	--------	--------------	------------------	--	--------

### 1区516号ピット

第149図	1	土師器 甕	第1層下層 口縁部～胴部 上位1/4	口底	23.4 -	高 -	-	粗砂粒/良好/浅黄 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はへら削り。内面はへらナデ。	-
-------	---	----------	--------------------------	----	-----------	--------	---	----------------	----------------------------	---



3区624号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第150図 PL.93	1	土師器 杯	埋没土第3層中 ～上層 底部一部欠	口底	11.2 -	高 -	4.1 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第150図 PL.93	2	土師器 杯	埋没土第3層中 ～上層 完形	口底	10.5 6.6	高 -	4.6 -	粗砂粒/良好/灰黄	口縁部先端は横ナデ。以下はナデ・ヘラ削り。底部外面はヘラ削り。底部内面にヘラの当たった痕跡を残す。	-
第150図	3	土師器 甕	埋没土第3層中 ～上層 口縁部～胴部 上位	口底	20.2 -	高 -	- -	粗砂粒・赤褐色粘 土粒/良好/にぶい 橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第150図	4	土師器 甕	埋没土第3層中 ～上層 頸部～胴部下 位片	口底	- -	高 -	- -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/浅黄橙	外面は上半部が斜縦位、下半部が斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。一部削りに近い部分もある。	外面の一部に黒斑。

3区625号ピット

第149図 PL.93	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	12.2 -	高 -	4.2 -	細砂粒/良好/灰白	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
PL.93	2	炉壁? -	埋没土 破片	長 幅	3.3 2.5	厚 重	1.4 3.84	-/-/-	発泡した軽軟な滓で白色の微小粒子を含む。羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片の可能性ある。	写真のみ掲載。

3区632号ピット

PL.93	1	炉壁? -	埋没土 破片	長 幅	3.1 2.0	厚 重	1.0 3.78	-/-/-	発泡した軽軟な滓で、白・褐色小粒子を含む。羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片の可能性ある。	写真のみ掲載。
-------	---	----------	-----------	--------	------------	--------	-------------	-------	--	---------

3区634号ピット

PL.93	1	炉壁? -	埋没土 破片	長 幅	2.4 2.3	厚 重	1.4 3.94	-/-/-	発泡した軽軟な滓で白色粒子を含む。羽口先端部に生じたガラス質(滓化)の破片の可能性ある。	写真のみ掲載。
-------	---	----------	-----------	--------	------------	--------	-------------	-------	--	---------

3区638号ピット

第151図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	12.9 -	高 -	4.0 -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。器面は摩滅。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
-------	---	----------	------------	----	-----------	--------	----------	-------------------	-----------------------------	-----------------

3区639号ピット

第151図 PL.93	1	土師器 杯	埋没土 3/4	口底	8.8 -	高 -	5.0 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
----------------	---	----------	------------	----	----------	--------	----------	----------	-----------------------------	---

3区640号ピット

第152図	1	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	13.6 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/浅 黄	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り後、ヘラ磨きを重ねる。内面はナデ後、放射状にヘラ磨き。	底部外面に黒斑。
-------	---	----------	------------	----	-----------	--------	--------	----------------	---	----------

3区642号ピット

第152図	1	土師器 杯	埋没土 破片	口底	10.8 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い黄褐	口縁部は横ナデ。底部は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
-------	---	----------	-----------	----	-----------	--------	--------	------------------	--------------------------------------	-----------------

1区2号井戸

第153図	1	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.3 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ	器面に炭素吸着。摩滅。
-------	---	----------	----------------	----	-----------	--------	--------	----------------	----------------------------	-------------

1区2号竪穴住居

第157図	1	須恵器 杯	床面上3cm 1/2	口底	12.0 8.0	高 -	3.6 -	粗砂粒/還元焰・ やや軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。器面摩滅のため、底部の切り離し方法不明。	-
第157図	2	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部 片	口底	20.0 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。外面の中位に指オサエ痕。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第157図	3	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	18.4 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第157図	4	土師器 甕	カマド燃焼面 と床直 口縁部～胴部 中位片	口底	19.6 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は最上位が横位の、それより下位は斜縦位のヘラ削り。	外面に炭素吸着。粘土付着。

1区8号竪穴住居

第162図	1	土師器 杯	カマド焚口掘り 方 口縁部～底部 片	口底	12.2 -	高 -	2.7 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	器面は摩滅。
第162図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部下半～ 底部	口底	- 7.0	高 -	- -	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩耗。
第162図	3	須恵器 杯	埋没土 1/4	口底	12.6 -	高 -	3.7 -	白色・黒色鉱物粒 少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第162図	4	須恵器 杯	床面上5～6cm 1/4	口底	13.0 8.0	高 -	3.8 -	粗砂粒少/酸化焰/ 明赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削りか。	-
第162図	5	須恵器 椀	埋没土 口縁部片	口底	13.0 -	高 -	- -	赤黒色粘土粒/酸 化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。	-
第162図	6	須恵器 杯	床面上5～6cm 2/3	口底	12.6 7.6	高 -	3.4 -	粗砂粒/酸化焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整と考えられる。	口縁部に墨書「奇万カ」。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	径				
第162図	7	須恵器 杯	埋没土 底部1/2	口底	7.0	高	-	赤色粘土粒/酸化 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	器面は摩滅。 底部外面に墨書「□」。
第162図	8	土師器 甕	カマド燃焼面 直上 口縁部～胴部 上位片	口底	13.5	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第162図	9	土師器 小型甕	埋没土 口縁部片	口底	13.0	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。内外面の中位に、指オサエ痕。	-
第162図	10	土師器 甕	床面上5～6cm 口縁部～胴部片	口底	19.8	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-

1区9号竪穴住居

第163図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部下半～ 底部1/2	口底	7.0	高	-	粗砂粒多/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面はやや摩滅。
第163図	2	土師器 椀	埋没土 口縁部下位～高 台部	口底	-	高台	6.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部外面にはヘラ削り。高台部は付高台。	-
第163図	3	土師器 高杯	床面上4cm 脚裾部1/3	口底	-	高脚	11.4	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	内外面共に横ナデ。一部に指オサエ痕。	器面に炭素吸着。
第163図	4	土師器 小型甕	床面上4cm 口縁部～胴部 上位片	口底	12.2	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-

1区10号竪穴住居

第166図	1	土師器 杯	床面上4～9cm 口縁部1/4	口底	11.0	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部の先端は横ナデ。外面下半部には斜位のヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第166図	2	黒色土器 杯	埋没土 口縁部1/3	口底	11.8	高	-	粗砂・細砂粒/酸 化焰/明赤褐	ロクロ整形(右回転)。内面は横位のヘラ磨き。	内面に黒色処理。
第166図	3	土師器 杯	床面上4～9cm 1/4	口底	12.8 7.0	高	5.0	粗砂粒/良好/橙	口縁部は先端に横ナデ。以下外面は斜位のヘラ削り。一部ナデの部分を残す。内面はナデ。底部外面はヘラ削り。	器面の一部に炭素吸着。摩滅。
第166図	4	土師器 杯	床面上4～9cm 1/4	口底	11.8 6.0	高	4.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は先端に横ナデ。以下はナデ。中位に指オサエ痕。内面はナデ。底部外面はヘラ削り。	-
第166図	5	土師器 杯	埋没土 2/3	口底	12.0 7.2	高	3.9	粗砂粒少/良好/浅 黄橙	口縁部先端は横ナデ。以下は斜位のヘラ削り。間にナデの部分を残す。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	底部外面に黒斑。
第166図	6	土師器 杯	床直 1/2	口底	12.0 6.6	高	3.9	粗砂粒少/良好/に ぶい橙	口縁部先端は横ナデ。以下は斜位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや炭素吸着。
第166図	7	土師器 杯	床面上2～3cm 2/3	口底	13.2 6.3	高	4.6	粗砂粒少/良好/に ぶい褐	口縁部外面は先端が横ナデ。以下はナデ。指オサエ痕を残す。最下位にヘラ削り。底部外面はナデに近いヘラ削り。内面はナデ。	-
第166図	8	土師器 杯	床面上4～9cm 1/2	口底	12.2 9.8	高	3.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部は上位に横ナデ。以下はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第166図	9	須恵器 皿	床面上4～9cm 1/3	口底	15.0 7.6	高	2.7	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転か)。底部回転糸切りと考えられる。	器面は摩滅。
第166図	10	土師器 杯	床面上4～9cm 口縁部1/4	口底	13.2	高	4.0	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は上位横ナデ。以下外面、底部外面は手持ちヘラ削り。	器面に炭素吸着。
第166図	11	土師器 杯	床面上4～9cm 口縁部～底部片	口底	14.6 8.4	高	4.9	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は先端に横ナデ。最下位にヘラ削りか。底部外面はヘラ削り。	器面は摩耗。
第166図	12	土師器 杯	床面上4～9cm 2/3	口底	12.6 6.0	高	4.3	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部先端は横ナデ。底部寄りに手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。
第166図	13	須恵器 杯	埋没土 完形	口底	12.5 5.8	高	4.4	粗砂粒・白色鉍物 粒/酸化焰/にぶい 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後無調整。	内面に炭素吸着。
第166図	14	須恵器 杯	床面上2～3cm 1/2	口底	12.6 5.6	高	4.4	粗砂粒/酸化焰/灰 黄褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第166図	15	須恵器 椀	埋没土 1/3	口底	-	高台	6.0	粗砂粒多・灰黒色 粘土粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第166図	16	須恵器 椀	床直 4/5	口底	14.1	高台	5.9 6.8	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/酸化焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面に炭素吸着。
第167図	17	須恵器 椀	床面上4～9cm 1/3	口底	14.2	高台	6.0 6.4	小礫・粗砂粒・赤 黒色粘土粒/酸化 焰/赤褐	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面は摩滅。
第167図	18	灰釉陶器 椀	床面上4～9cm 口縁部下位～高 台部片	口底	-	高台	7.8	白色鉍物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(左回転か)。高台部は角高台、底部回転ヘラ削り後の付け高台。貼付後、周縁部にナデ調整。内面は口縁部に施釉。重ね焼き痕あり。	高台部に焼成時の窯体付着。遠江産9c代。
第167図	19	灰釉陶器 椀	埋没土 2/3	口底	16.4	高台	4.9 7.2	黒色鉍物粒少/還 元焰/灰白	口縁部は先端が強く外反。外面下位に回転ヘラ削り。高台部は下半の外側が削られるようにして端部が尖る。ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転ヘラ削り後の付高台。内面に重ね焼きの痕跡。施釉は内外面に漬け掛け。	-
第167図	20	須恵器 壺	床面上4～9cm 口縁部下半～頸 部片	口底	-	高	-	粗砂粒少/還元焰・ 軟質/灰	ロクロ整形(右回転)。	被熱か。器面に炭素吸着。
第167図	21	土師器 甕	床面上4～9cm 胴部下位～底部 片	口底	14.0	高	-	細砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面はナデ後、縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。切開面はヘラ削り。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第167図	22	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	17.2	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第167図	23	土師器 甕	カマド燃焼面と 焚口上4～10cm 口縁部～胴部上 位1/4	口底	18.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第167図	24	土師器 甕	床面上2～3cm 口縁部～胴部上 位1/2	口底	21.2	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は中位に段をなす。頸部直下まで横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面に炭素吸着。被熱。
第167図	25	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位1/4	口底	20.8	高	-	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は最上位に斜横位のヘラ削り。それ以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第167図	26	土師器 甕	床直 1/3	口底	21.7 4.1	高	24.7	粗砂・細砂粒/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位のヘラ削り。中位以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は被熱。摩滅。
第167図	27	土製品 紡輪	埋没土 1/3	長幅	4.7 2.1	厚 孔	0.65	細砂粒/還元焰・ 不良/にぶい黄	上面と側面は丁寧なナデ。下面には回転糸切りの痕跡が見られる。中央の孔は焼成前穿孔か。	重量8.11g
第167図	28	鉄製品 不明	床直 一部破損	長幅	4.2 0.7	厚 重	0.7 1.95	-/-/-	棒状の鉄製品破片で、断面は正方形に近いが錆化のためか明瞭な稜は見られない。端部は角型で一方の端部は劣化破損する。紡錘車の紡軸の可能性が有るが、小破片のため断定はできない。	-
第167図	29	鉄製品 角釘	床面上4～9cm 一部破損	長幅	9.2 2.0	厚 重	1.1 14.43	-/-/-	角形の棒状鉄製品で、断面長方形で一方の端部に向かい細くなりややとがる。他の端部は階段状に段差を持つが、錆瘤が発生による変形と見られる。	-

1区11号竪穴住居

第169図	1	土師器 皿か	床面上3～8cm 口縁部～体部上 位1/4	口底	13.6	高	-	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は横ナデ。以下外面は型肌部分を残す。内面はナデ。	-
第169図	2	灰釉陶器 段皿	床直 口縁部1/2	口底	18.8	高	-	白色鉱物粒少/還 元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。内外面に施釉。	光ヶ丘1号窯式期。
第169図	3	土師器 杯	床面上3～8cm 完形	口底	11.5	高	4.2	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい黄 橙	口縁部の先端に横ナデ。以下はナデ。底部寄りにヘラ削り。底部外面は手持ちヘラ削り。	口縁部内面に墨書「苗」
第169図	4	土師器 杯	埋没土 完形	口底	11.7 6.3	高	3.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部外面は先端に横ナデ。以下はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸着。
第169図	5	土師器 杯	床面上3～8cm 2/3	口底	12.3 6.15	高	4.2	粗砂粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。底部寄りに手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭素吸着。
第169図	6	土師器 杯	床直 完形	口底	12.4 6.8	高	4.2	粗砂粒/良好/にぶ い橙	器形は大きく歪む。口縁部先端は横ナデ。底部寄りはヘラ削り。その間は指オサエ痕を残すナデ。底部外面は砂底。周縁部に手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第169図	7	土師器 杯	床直 1/4	口底	13.6 8.8	高	3.8	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は先端に横ナデ。以下外面には指押さえ痕。ヘラ削り。内面はナデ。底部外面はヘラ削り。	器面に炭素吸着。
第169図	8	土師器 皿	埋没土 破片	口底	15.7	高	-	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は先端に横ナデ。以下は型肌部分を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。
第169図	9	土師器 杯	埋没土 1/4	口底	14.2 6.7	高	2.3	粗砂粒/良好/橙	口縁部の先端に横ナデ。以下はナデ。内面はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	口縁部内面に墨書「苗」
第169図	10	土師器 杯	埋没土 底部破片	口底	-	高	-	細砂粒/良好/橙	底部小破片。	内外面に墨書。ともに「□」
第169図	11	須恵器 杯	床直 1/3	口底	12.4 6.2	高	3.5	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第169図	12	須恵器 碗	床面上3～8cm 2/3	口底	14.7	高台	5.8 6.7	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰・軟 質/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は低くハの字状を呈す。底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	内面に摩耗。
第169図	13	須恵器 碗	床直 1/3	口底	16.0	高台	7.5 7.6	粗砂粒・灰褐色粘 土粒/還元焰・ 軟質/黄灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は低く断面台形。底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	器面やや摩耗。
第169図	14	土師器 台付甕	床直 台部裾部片	口底	-	高台	9.4	細砂粒/良好/橙	内外面とも横ナデ。	-
第170図	15	土師器 小型台付甕	床直 胴部下位～台 部片	口底	-	高台	8.6	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。台部は内外面とも横ナデ。	器面は摩滅。
第170図	16	土師器 小型台付甕	床面上3～8cm 口縁部～底部 1/2・台部裾部欠	口底	12.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。台部は内外面とも横ナデ。	被熱。器面は摩滅。
第170図	17	土師器 小型台付甕	埋没土 口縁部～底部 1/2・台部欠	口底	12.2	高	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上半部が斜横位の、下半部が縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第170図	18	土師器 小型甕	床直 口縁部～胴部 中位	口底	12.1	高	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位に、それ以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第170図	19	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	17.2	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。外面に輪積痕を残す。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第170図	20	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口底	18.1	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。外面に輪積痕を残す。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第170図	21	土師器 甕	床直 2/3	18.5 8.2	高 -	19.6 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位に斜横位、中位以下は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	底部外面に黒斑。
第170図	22	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部1/3	18.7 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面はやや摩滅。
第170図	23	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上位1/3	19.5 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。一部に指オサエ痕。胴部外面は上位が斜横位、中位が縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	被熱。炭素吸着。
PL.93	24	ヒエ	カマド ほぼ完形	幅高 1.8 1.5	- -	- -	-/-/-	ほぼ完形のヒエ炭化種実。	写真のみ掲載。
第170図	25	石製品 不明	貯蔵穴底面上 33cm 破片	長幅 (14.8) (12.3)	厚重	9.7 1812.7	粗粒輝石安山岩 /-/-	大型の楕円礫を素材とする。正面中央部および裏面が非常に平滑で、横方向の浅い線状痕を多数有する。周囲には敲打痕が見られる。	-

1区14号竪穴住居

第172図	1	土師器 杯	床面上3～9cm 口縁部～底部片	17.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状にヘラ磨き。	器面は摩滅。
第172図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	13.6 -	高 -	- -	白色・黒色鉱物粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部はヘラ削り。	-
第172図	3	土製品 支脚	床面上3～9cm 脚部片	- -	高脚	9.6	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	高杯の脚部のように下端に向かって外反する。中空。外面はナデ。内面はヘラ削り。	-
第172図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上位	20.0 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。	-
第172図	5	土師器 甕	床面上3～9cm 口縁部～胴部上位	20.0 -	高 -	- -	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第172図	6	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部片	11.2 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。内面はナデ後、底部中央から放射状にヘラ磨き。	器面は摩滅。

1区23号竪穴住居

第175図	1	須恵器 椀	床直 口縁部1/4	14.4 -	高 -	- -	粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/灰黄褐	ロクロ整形(右回転)。	-
第175図	2	土師器 小型台付甕	貯蔵穴底面上3cm 台部欠損	10.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は2回に分けて横ナデ。胴部外面は上位に横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面はナデ。	外面に炭化物付着。
第175図	3	土師器 小型台付甕	埋没土 胴部下位～台部	- -	高台	8.4	細砂粒/良好/橙	胴部外面はヘラ削り。内面はナデ。台部は内外面とも横ナデ。	-
第175図	4	土師器 小型甕	床面上7cm 口縁部1/2～胴部中位片	12.5 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面に指オサエ痕。胴部外面は上位に横位の、それ以下は縦位のヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。

1区24号竪穴住居

第178図	1	須恵器 杯	周溝底面直上2～7cm 口縁部～底部1/4	11.6 6.9	高 -	3.8 -	粗砂粒/酸化焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。外面に炭素吸着。
第178図	2	須恵器 杯	周溝底面直上2～7cm 3/4	12.7 5.5	高 -	4.2 -	粗砂粒少/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に墨書「□」。
第178図	3	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	13.0 -	高 -	- -	粗砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。外面に炭素吸着。
第178図	4	須恵器 杯	周溝底面直上2～7cm 口縁部一部欠	12.9 8.2	高 -	3.85 -	粗砂粒・茶褐色粘土粒/還元焰/にぶい黄	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転ヘラ削り。	口縁部外面に墨書「奇万」。器面は摩滅。
第178図	5	須恵器 杯	カマド埋没土 3/4	13.5 7.0	高 -	3.9 -	粗砂粒少・赤色粘土粒少/酸化焰/橙	ロクロ整形。底部回転糸切り後、無調整。	-
第178図	6	須恵器 椀か	周溝底面直上2～7cm 底部～高台部	- -	高台	8.8	黒色鉱物粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部をナデ調整。口縁部を打ち欠いて、二次利用した可能性があるか。	0
第178図	7	須恵器 椀	周溝底面直上 底部～高台部	- -	高台	9.9	粗砂粒/還元焰・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部をナデ調整。口縁部欠損後も二次利用か。	底部は内外ともに、中央部分かやや摩滅。
第178図	8	土師器 台付甕	埋没土 台部片	- -	高台	8.7	粗砂・細砂粒/良好/橙	内外面とも横ナデ。	-
第178図	9	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部中位片	12.2 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第179図	10	土師器 小型甕	床面上5cm 口縁部～胴部上位	11.2 -	高 -	- -	細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に炭化物付着。煤か。
第179図	11	土師器 甕	カマド燃焼面 上5cm 口縁部～胴部上位1/3	21.0 -	高 -	- -	細砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。頸部直下に指オサエ痕。	-
第179図	12	土師器 甕	床直の焚口 口縁部～胴部上位片	18.8 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面に、横位のヘラ削り。内面は横位のナデ。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第179図	13	土師器 甕	カマド埋没土 胴部下位～底部	口底 4.4	高 -	厚 -	細砂粒/良好/橙	胴部外面は縦位のヘラ削り。	内面は摩滅。	
第179図	14	土製品 土錘	床直 1/2	長幅 1.6	厚 3.2	厚孔 1.6	細砂粒少/酸化焰/ 明黄褐	小口の一方は欠損。残存する小口面は指で押さえて整形。 器面はナデ。	重量6.33g	
第179図	15	鉄製品 不明	埋没土 一部破損	長幅 1.7	厚 9.6	厚重 1.0	-/-/-	断面四角形の角棒状鉄製品。両端に向かいなだらかに細く なるが端部は尖らず角形。一方の端は端部から1cm程で膨 らむような形状を示すが段は認められない。	-	
第179図	16	石製品 砥石	カマド埋没土 完形	長幅 11.3	厚 17.7	厚重 6.9	粗粒輝石安山岩 /-/-	正面および左側面に平滑面を形成し、断面V字状の線状痕 を多数伴うことから砥石と判断した。	-	
1区26号竪穴住居										
第180図	1	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部 上位片	口底	21.2	高 -	粗砂・細砂粒/良好 /橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラ ナデ。	-	
1区28号竪穴住居										
第187図	1	土師器 甕	埋没土 口縁部片	口底	22.6	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	横ナデ。外面に輪積痕の一部を残す。	-	
第187図	2	土師器 甕	埋没土 口縁 部～胴部上位片	口底	20.8	高 -	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	内外面に炭素 吸着。	
第187図	3	土師器 甕	床面上4cm 口縁部～胴部 上位1/3	口底	19.8	高 -	粗砂粒/良好/明黄 褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位 のナデ。	-	
第187図	4	土師器 甕か	埋没土 口縁 部～胴部上位1/4	口底	21.8	高 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は縦位 のヘラ磨き。	内面は摩滅。	
第187図	5	須恵器 杯	埋没土 口縁 部下位～底部2/3	口底	7.4	高 -	粗砂粒/還元焰/淡 黄	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、無調整と考えら れる。	器面は摩滅。	
第187図	6	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.8	高 -	粗砂粒少/還元焰/ 灰白	ロクロ整形(右回転か)。底部回転ヘラ削り。	-	
1区29号竪穴住居										
第183図	1	須恵器 皿	床直 1/3	口底	13.4	高 6.5	2.6 粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩耗。	
第183図	2	土師器 杯	床面上2～8cm 1/2	口底	12.1	高 6.3	4.8 粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は上位に横ナデ。下位は手持ちヘラ削り。間にナデ の部分を残す。内面はナデ。	器面は摩滅。	
第183図	3	土師器 杯	床面上2～8cm 1/4	口底	11.9	高 6.2	4.8 粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデ。指オサエ痕が見られる。 下位は斜位のヘラ削り。底部外面もヘラ削り。内面はナデ。	-	
第183図	4	土師器 杯	埋没土 3/4	口底	15.5	高 7.0	4.5 粗砂粒・赤色鉱物 粒少/良好/にぶ い橙	口縁部先端は横ナデ。以下の外面は斜位の手持ちヘラ削り。 底部外面も手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に炭素吸 着。	
第183図	5	土師器 杯	埋没土 破片	口底	12.9	高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部先端に横位、残存部下位にヘラ削り。	口縁部外面に 墨書「井」または 「記号」。
第183図	6	土師器 杯	床面上2～8cm 1/2	口底	13.0	高 -	5.0 粗砂粒/良好/橙	口縁部は先端に横ナデ。以下はナデの上に横位のヘラ削り。 底部外面もヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。 外面に黒斑。	
第183図	7	黒色土器 杯	床直 口縁部1/4	口底	14.0	高 -	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下は斜横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラ磨き。	内面に黒色処 理。
第183図	8	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口底	17.8	高 -	-	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/酸化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。	器面は摩滅。
第183図	9	須恵器 皿か	埋没土 口縁部下位～ 底部1/4	口底	9.0	高 -	-	粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第183図	10	須恵器 椀	埋没土 口縁部下位～高 台部1/4	口底	-	高台 -	6.4 粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。 貼付後、周縁部にナデ調整。	-	
第183図	11	須恵器 椀	床面上2～8cm 1/4	口底	15.4	高台 -	5.9 粗砂粒/酸化焰/灰 7.4 黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。 貼付後、周縁部にナデ調整。	器面は摩滅。	
第183図	12	土師器 台付甕	埋没土 口縁一部欠	口底	11.5	高台 8.1	16.2 粗砂・細砂粒/良 好/明黄褐	口縁部は横ナデ。輪積痕を残す。胴部外面は上半部が横位・ 斜横位の、下半部は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナ デ。基部から台部は内外面とも横ナデ。	外面に煤付 着。内面に黒 色の付着物。	
第184図	13	土師器 甕	床面上2～8cm 口縁部片	口底	20.2	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。下半部には指オサエ痕を残す。胴部外面 は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。指オサエ痕を残す。	-
第184図	14	土師器 甕	床面上2～8cm 口縁部～胴部上 位1/4	口底	20.4	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。下半部には指オサエ痕を残す。胴部外面 は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。指オサエ痕を残す。	-
第184図	15	土師器 甕	カマド燃焼面7 cm 2/3	口底	19.3	高 4.5	25.7 粗砂粒/良好/橙	器形は大きく歪んでいる。口縁部は横ナデ。胴部外面上位 は斜横位の、以下は斜縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	被熱。外面の 炭素吸着は黒 斑か。	
第184図	16	土師器 甕	床直 胴部中位～底部	口底	3.2	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	胴部外面中位は斜横位、下位は斜縦位のヘラ削り。内面は 下位の一部に斜縦位、他は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。
第184図 PL.93	17	土製品 紡輪	埋没土 完形	長幅 5.2	厚 5.4	厚孔 1.8	1.0 細砂粒/酸化焰/黒	紡輪部分。上下両面はヘラ磨き。側面は複数回にわたり面 を削り、平面円形の形状に近づけている。孔は焼成後の穿 孔。	二次利用か。 器面に炭素 吸着。重量 58.73g	
第184図	18	鉄製品 刀子	埋没土 一部破損	長幅 10.5	厚 1.9	厚重 1.3	-/-/-	棟および刃になだらかな関を持つ刀子で、刃は5cm程で劣 化4破損する。茎は5.5cm程で表面に木質等の痕跡は認め られない。	-	



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	(8.6) (10.1)	厚 重			
第184図	19	石製品 砥石?	床面上2~8cm 破片			4.1 680.0	砂岩/-/-	表裏面が平滑で平坦面を形成しているため砥石としたが、 詳細は不明である。	-

1区30号竪穴住居

第189図 PL.93	1	土師器 杯	床面上7~9cm 口縁部一部欠	口 底	12.6 6.0	高 -	4.3 -	粗砂粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデの上に斜位のヘラ削り。 底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第189図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位~底 部片	口 底	- 7.2	高 -	- -	灰黒色粘土粒多・ 白色鈹物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第189図	3	須恵器 杯	床直 口縁部下半~底 部片	口 底	- 6.6	高 -	- -	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面の一部 に、炭素吸着。
第190図 PL.93	4	須恵器 鉢	埋没土 口縁部一部欠	口 底	18.6 9.7	高 -	8.7 -	粗砂粒/還元焰・ やや酸化焰きみ/ 灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。糸切り に板目状の圧痕が重なる。	器面に炭素吸 着。
第189図	5	灰釉陶器 壺	床面上7~9cm 底部~高台部片	口 底	- 11.6	高 -	- -	細砂粒少/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形(右回転か)。高台部は低い付け高台。	底部内面に自然 釉。美濃産 ではない。9c 代。
第190図 PL.93	6	土師器 小型台付甕	カマド埋没土 3/4	口 底	11.8 9.6	高 -	18.3 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面最上位は横位の、それ以下は斜 縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。基部から台部の内外面 とも横ナデ。	外面に炭素吸 着。煤か。内 面は摩滅。
第190図	7	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部~胴部 上位片	口 底	13.9 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラナデ。内面は横位 のナデ。	-
第190図	8	土師器 小型甕	カマド燃焼面上 7~9cm 口縁部~胴部中 位片	口 底	13.6 -	高 -	- -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面最上位は横位の、中位は縦位 のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第190図	9	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位片	口 底	17.6 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラナデ。内面は横位 のナデ。	-
第190図	10	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部~胴部 上位片	口 底	15.7 -	高 -	- -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラナデ。内面は横位 のナデ。	-
第190図	11	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位片	口 底	21.7 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラナデ。内面は横位 のナデ。	-
第190図	12	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部~胴部 上位1/2	口 底	21.0 -	高 -	- -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位の、以下は斜位 のヘラ削り。内面は横位のナデ。	器面剥離。
第190図	13	土師器 甕	埋没土 口縁部~胴部上 位片	口 底	22.8 -	高 -	- -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	-
第190図	14	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部~胴部 下位1/4	口 底	19.8 -	高 -	- -	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位の、中位以下は縦位 のヘラ削り。一部にナデを重ねる。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は 一部摩滅。
第191図 PL.93	15	土師器 甕	カマド燃焼面上 7~9cm 口縁部~胴部中 位	口 底	20.5 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/浅黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位のヘラ削り。中位以 下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	器面は摩滅。
第191図 PL.93	16	土師器 杯	床面下 1/2	口 底	12.0 -	高 -	4.0 -	粗砂粒/良好/灰白	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削りと考えられる。 内面はナデ。	器面は摩滅。 底部は外面に 黒斑。内面に やや炭素吸着。
第191図 PL.93	17	土師器 杯	埋没土 口縁部一部欠	口 底	12.5 -	高 -	4.3 -	粗砂粒少/良好/明 黄褐	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手 持ちヘラ削りと考えられるが摩滅。内面はナデの上に放射 状のヘラ磨き。	器面は摩滅。 一部に炭素吸 着。
第191図	18	土師器 杯か	床直 口縁部~底部1/3	口 底	12.0 -	高 -	7.9 -	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。体部から底部の最上位にナデを残し、以 下はヘラ削り。	内面は摩滅。
第191図 PL.93	19	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	5.4 5.5	厚 重	3.3 72.27	-/-/-	羽口端部破片。推定外径5.8cm推定孔径1.8cm。先端側は灰 色で僅かに発泡し一部酸化土砂が付着する。	-
第191図 PL.93	20	鉄製品 刀子	床面下 破片	長 幅	5.1 1.6	厚 重	0.8 6.62	-/-/-	刃先端部および茎を欠く刀子破片。棟側には明瞭な関を持 つが刃側はなだらかに茎に移行する。刃先はカーブし研ぎ 減りと見られるが錆化が著しく詳細な形状は不明。	-
第191図 PL.93	21	鉄製品 刀子	床面下 一部破損	長 幅	12.9 2.1	厚 重	1.6 17.77	-/-/-	細長い刀子で棟側に関を持ち刃側はなだらかに茎に移行す る。刃は5cm程で劣化破損する。茎は長く8cm程で劣化破 損し表面に木質等の痕跡は認められない。	-

1区31号竪穴住居

第194図 PL.93	1	須恵器 杯	貯蔵穴底面上7cm 口縁部一部欠	口 底	12.5 7.8	高 -	3.8 -	赤黒色粘土粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(左回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘ ラ削り。	-
第194図	2	須恵器 杯	床面上4cm 1/3	口 底	12.7 7.0	高 -	4.1 -	粗砂粒/酸化焰/黄 褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩滅。 口縁部外面の 先端に炭素吸 着。
第194図	3	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.2 8.0	高 -	4.0 -	白色・黒色鈹物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。	内面はやや摩 耗。
第194図	4	須恵器 瓶	床直 底部片1/2	口 底	- 9.6	高 -	- -	白色鈹物粒/還元 焰/暗灰	紐作り後、ロクロ整形か。外面にカキ目を施す。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第194図	5	土師器 甕	床直とカマド 埋没土 口縁部～胴部 上位片	口底	18.0	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第194図	6	土師器 甕	床直とカマド 埋没土 口縁部～胴部 上位片	口底	21.8	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。器面は 摩滅。
PL.93	7	イネ	カマド燃焼部 ぼぼ完形	幅高	2.5 5.0	-	-	-/-/-	ぼぼ完形のイネ炭化種実。	写真のみ掲載。
第194図 PL.93	8	石製品 石製模造品 (剣)	埋没土 略完形	長幅	(6.7) 2.8	厚重	0.7 17.8	蛇紋岩/-/-	孔径2mm。敲打の後全面研磨により整形している。研磨時の擦痕が顕著である。	-

1区33号竪穴住居

第197図	1	須恵器 杯	埋没土 1/4	口底	13.5 7.0	高	3.8	粗砂粒/酸化焰/黄 灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸着。
第197図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	12.8 6.5	高	3.6	粗砂粒・灰黒色粘 土粒少/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第197図	3	須恵器 杯	床直 1/2	口底	13.0 5.4	高	3.6	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰	底部回転糸切り後、無調整。	底部周縁部、 摩滅。
第197図	4	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口底	13.8	高	-	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄	ロクロ整形(右回転)。	-
第197図	5	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底	14.0 7.2	高	4.1	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/酸化焰/灰黄	ロクロ整形(回転方向不明)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第197図 PL.94	6	灰釉陶器 壺	床面上4～7cm 口縁部～胴部下 位1/4	口底	-	高	-	粗砂粒少/還元焰/ にぶい黄	ロクロ整形(右回転)。胴部整形後、口縁部を整形する。外面全面に自然釉。	井ヶ谷78号 窯式期
第197図 PL.94	7	須恵器 壺	床面上4～7cm 胴部上位～高台 部	口底	-	高台	7.2	黒色鉱物粒少/還 元焰 ・酸化焰ぎみ/に ぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。胴部下位に回転ヘラ削り。高台部は付高台。胴部下位に回転ヘラ削り。肩部に自然釉。	-
第197図	8	須恵器 壺か	床直 胴部下位～底部 片	口底	14.4	高	-	粗砂粒・白色鉱物 粒・海綿骨針/還 元焰/灰	紐づくり後、叩き整形か。胴部外面はヘラナデ。内面にもナデ。	外面は釉たれる。 内面は自然 釉。窯体付 着。
第197図	9	土師器 甕	埋没土 口縁部1/4	口底	20.4	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/黒褐	内外面とも横ナデ。外面に輪積痕を残す。	-
第197図 PL.94	10	土師器 甕	床面上4～7cm 口縁部～胴部上 位	口底	19.6	高	-	粗砂・細砂粒・白 色鉱物粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位、斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。
第197図	11	土師器 甕	貯蔵穴底面上7 ～11cm 口縁部～胴部上 位片	口底	20.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は、横位のヘラナデ。	-
第198図 PL.94	12	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 下位1/3	口底	21.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は横ナデ。中位に輪積痕を残す。胴部外面上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	被熱。外面に 炭素吸着。粘 土も付着。
第198図 PL.94	13	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部中 位片	口底	20.8	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。中位に輪積痕を残す。胴部外面は上位に斜横位の、中位に斜位の、下位にかけて斜縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。
第198図	14	須恵器 甕	床面上4～7cm 胴部片	口底	-	高	-	白色鉱物粒・海 綿骨針/還元焰/オ リーブ灰	紐づくり後叩き整形。外面は平行叩き目。内面は当て具痕の上にナデを重ねる。	-
第198図 PL.94	15	鉄滓 炉内滓(工 具痕付)?	床面下 ぼぼ完形	長幅	3.2 3.2	厚重	2.7 15.20	-/-/-	工具痕を有する炉内滓。工具は幅8mmで平たく先端は丸い。滓は黒色で光沢が有り内部は発泡し、工具痕下の気泡は工具の長軸方向に引き伸ばされている状況が見られる。広葉樹材の炭片が崩載れている。一部に白緑色の酸化物が見られる。	掘方
第198図 PL.94	16	鉄製品 不明	床面下 破片	長幅	5.3 0.8	厚重	0.8 2.32	-/-/-	断面ぼぼ円形の棒状鉄製品で、端に向かい徐々に細くなり端部4mm程がねじれる様に曲がる。紡錘車の棒軸の可能性が考えられるが他の端部が劣化破損するため詳細は不明。	-

1区37号竪穴住居

第201図 PL.94	1	須恵器 杯	床直 口縁部一部欠	口底	12.2 6.6	高	3.5	白色鉱物粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削り。口縁部内面に、櫛描き状。	-
第201図 PL.94	2	須恵器 杯	床直 1/2	口底	12.4 5.9	高	3.9	小礫・粗砂粒/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面やや摩 耗。
第201図	3	須恵器 椀	床面上6cm 底部～高台部片	口底	-	高台	9.0	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第201図 PL.94	4	須恵器 蓋	床直 完形	口底	13.7	高摘	3.6 3.5	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後に摘み部を貼付。天井部中心寄りには回転ヘラ削り。	内面は著しく 摩耗。摘み部上 面に墨書「門」。 内面「口」。
第201図	5	土製品 土錘	カマド掘り方 1/2	長幅	4.2 1.7	厚孔	1.6 0.45	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	器面に細かなシワ状の痕跡。布目か。	重量10.57g
第201図 PL.94	6	鉄滓 椀形鍛冶滓	埋没土 ぼぼ完形	長幅	6.5 5.0	厚重	2.4 64.95	-/-/-	上面の一部に酸化土砂が付着、全面発泡が見られる。下面を覆うように炉床土が付着する。	-
第201図 PL.94	7	鉄製品 不明	床直 破片	長幅	9.9 1.3	厚重	0.9 14.11	-/-/-	断面ぼぼ正方形の棒状鉄製品で、中央が一番太く両端に向かい細くなり両端部とも劣化破損する。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	口 径			
第201図 PL.94	8	鉄製品 錐	床直 破片	長 幅 3.9 1.1	厚 重 0.7 3.05	口 径 -	-/-/-	断面長方形の角棒状の鉄製品で、端部に向かい厚みを減じ端部はM字状に尖る他の端部は劣化破損で有り、所謂鼠歯錐の形状を示す。	-
第201図 PL.94	9	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅 1.1 1.1	厚 重 0.2 0.2	口 径 -	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-

1区48号竪穴住居

第204図 PL.94	1	土師器 杯	床面上3～9cm 完形	口 底	12.2 -	高 -	3.3 -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデの部分を残す。底部はへら削り。	-
第204図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部上位～ 底部	口 底	- 6.2	高 -	- -	粗砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はやや磨 耗。
第204図	3	須恵器 杯	埋没土 1/4	口 底	13.2 8.0	高 -	3.9 -	白色鉱物・赤黒色 粘土粒/還元焰/灰 オリーブ	ロクロ整形(右回転)。底部切り離し後、回転へら削り。	器面は摩耗。
第204図 PL.94	4	須恵器 杯	床面上3～9cm 完形	口 底	13.0 7.2	高 -	3.8 -	粗砂粒/酸化焰/に ぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部内面の 広い範囲に煤 付着。
第204図	5	須恵器 杯	床面上3～9cm 1/3	口 底	13.4 6.4	高 -	4.0 -	白色鉱物粒/酸化 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転へら削り。	器面は摩滅。
第204図	6	須恵器 蓋	埋没土 1/3摘み部欠	口 底	14.8 -	高 -	- -	黒色鉱物粒少/還 元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、中心部寄りに回転へら削り。	-
第204図	7	須恵器 甕	確認面 口縁部～胴部上 位片	口 底	- -	高 -	- -	粗砂粒/還元焰/に ぶい黄	紐づくり後、口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。内面に当て具痕を残す。	器面は摩滅。
第204図 PL.94	8	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	5.7 4.5	厚 重	1.8 29.90	-/-/-	羽口端部破片。推定外径4.6cm孔径は計測不可。先端側は発泡・ガラス化し僅かに孔内側に回り込む。	-

1区50号竪穴住居

第206図	1	土師器 杯	カマド燃焼面上 10cm 1/2	口 底	12.7 7.7	高 -	4.5 -	粗砂粒/良好/明赤 褐	口縁部は先端に横ナデ。以下はナデか。一部に指オサエ痕。	器面は摩滅。
第206図	2	須恵器 碗	床面上3cm 1/3	口 底	15.3 -	高 台	5.3 7.1	小礫多・粗砂粒多 /還元焰 ・軟質/暗灰黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第206図	3	灰釉陶器 壺	床直 胴部中位片	口 底	- -	高 -	- -	黒色鉱物粒/還元 焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。残存部下位に回転へら削り。外面に施釉。	-
第206図	4	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口 底	12.8 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。
第206図 PL.95	5	鉄製品 釘	埋没土 ほぼ完形	長 幅	6.4 1.6	厚 重	1.1 11.12	-/-/-	断面正方形に近い角釘で頭は薄く延ばしたのち折り曲げている。先端側2cm程で急に細くなり尖る。木質等の痕跡は見られない。	-
第206図 PL.95	6	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.2 1.2	厚 重	0.2 0.6	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。側面に縦方向の研磨痕が見られ、下面の一部でも研磨の痕跡が認められる。	-
PL.95	7	礫石器 原石?	埋没土 完形	長 幅	5.3 3.4	厚 重	3.2 88.9	糖晶状チャート /-/-	小形転石。	写真のみ掲 載。

1区52号竪穴住居

第208図	1	須恵器 杯	床直 1/4	口 底	12.8 7.4	高 -	2.8 -	白色鉱物粒/還元 焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に 墨書「□」。底 部内面に墨書 「□」。
第208図	2	須恵器 高杯	床面上3cm 杯部2/3(口唇部 欠)	口 底	- -	高 -	- -	白色鉱物粒/還元 焰/灰	無蓋で長脚の高杯。ロクロ整形(右回転)。脚部の3方に透孔を配する。	-
第208図	3	土師器 台付甕	床直 胴部下位～台 部片	口 底	- -	高 台	- 8.2	粗砂粒/良好/明赤 褐	胴部外面はへらナデか。台部は内外面に横ナデ。	-
第208図 PL.95	4	土師器 小型台付甕	カマド燃焼面 直上 4/5	口 底	11.8 -	高 台	16.0 8.6	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は横位の、それ以下は縦位のへら削り。内面はへらナデ。基部から台部は内外面とも横ナデ。	外面に炭素吸 着。内面に黒 色味。
第208図	5	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口 底	18.8 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のへら削り。内面は横位のナデ。	-
第208図 PL.95	6	土師器 甕	焚口外側床直 胴部一部欠	口 底	19.7 4.2	高 -	26.8 -	粗砂・細砂粒/良 好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面上位は斜横位の、中位以下は斜縦位のへら削り。内面上半部は横位のへらナデ。下半部は縦位のへらナデ。	被熱。煤付着。
第208図	7	土製品 土錘	埋没土 1/2	長 幅	2.4 1.0	厚 孔	1.0 0.5	細砂粒少/酸化焰/ にぶい黄橙	両小口とも欠損。器面はナデ。	重量2.45g
PL.95	8	イネ	土師器小型台付甕 (第208図4)内部 ほぼ完形	幅 高	1.5 2.5	- -	- -	-/-/-	イネ炭化種実ではほぼ完形。	写真のみ掲 載。
PL.95	9	イネ	土師器小型台付甕 (第208図4)内部 破片	幅 高	2.0 4.0	- -	- -	-/-/-	イネ炭化種実で上下一部破損。	写真のみ掲 載。
PL.95	10	イネ	土師器小型台付甕 (第208図4)内部 ほぼ完形	幅 高	2.5 5.0	- -	- -	-/-/-	幅2.5mm×高さ4.0mmと5.0mmのイネ炭化種実で二つが炭化癒着したもの。	写真のみ掲 載。



1区53号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第211図 PL.95	1	灰釉陶器 皿	床面上3～8cm 底部～高台部片	口底	- 高 8.8	-	黒色鉍物粒少/還元焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は断面三日月形の付高台。底部内面に重ね焼き痕。内外面に施釉。	光ヶ丘1号窯式期。
第211図 PL.95	2	土師器 杯	埋没土 2/3	口底	12.1 高 6.3	4.8	粗砂粒・黒色鉍物粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデの上に斜位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	-
第211図 PL.95	3	土師器 杯	床直 3/4	口底	12.3 高 5.7	-	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部外面は先端に横ナデ。以下はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第211図	4	土師器 杯	床面上3～8cm 口縁部下半～底部1/2	口底	- 高 7.0	-	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部外面はナデに近いヘラ削り。内面はナデ。底部外面は、手持ちヘラ削り。	-
第211図 PL.95	5	土師器 杯	床直 底部一部欠	口底	13.0 高 7.2	4.4	粗砂粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデの上に斜位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。内面の一部に炭素吸着。
第211図 PL.95	6	土師器 杯	カマド燃焼面上 3～5cm 1/3	口底	14.4 高 7.8	4.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部先端は横ナデ。以下はナデの上に斜位のヘラ削り。底部外面はヘラ削り。内面はナデ。	器面はやや摩滅。
第211図	7	須恵器 壺	埋没土 胴部下位～底部片	口台	- 高 6.9	-	白色・黒色鉍物粒/還元焰/青灰	ロクロ整形(右回転か)。胴部最下位に回転ヘラ削り。高台部は断面台形。底部切り離し後の付け高台。	-
第211図	8	土師器 台付甕	床直 胴下位1/4～脚部	口底	- 高 -	-	粗砂・細砂粒/良好/褐	胴部外面は縦位のヘラ削り。内面はナデ。基部から台部外面は横ナデ。内面も横ナデ。	被熱。
第211図	9	土師器 小型甕	貯蔵穴底面上6cm 口縁部～胴部上位1/4	口底	11.8 高 -	-	粗砂・細砂粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。内面には指オサエ痕。胴部外面上位は横位の、それ以下は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	器面に炭素吸着。摩滅。
第211図	10	土師器 甕	カマド燃焼面上 3～5cm 口縁部～胴部上位片	口底	18.3 高 -	-	粗砂粒/良好/にぶい褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第211図	11	土師器 甕	カマド燃焼面上 3～5cm 口縁部～肩部1/3	口底	18.6 高 -	-	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。外面に指オサエ痕を残す。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
第211図 PL.95	12	土製品 土錘	床面上3～8cm 一部欠損	長幅	4.5 厚 1.6	1.6 0.25	細砂粒/酸化焰/にぶい黄橙	小口部分の欠損は旧事か。器面はナデ。	重量10.70g
第211図 PL.95	13	鉄製品 鎌	床直 一部破損	長幅	18.8 厚 11.9	1.9 106.93	-/-/-	大型の鉄鎌破片で、大きくカーブした鎌先端は劣化破損する。柄装着部は直角に大きく曲げられているが柄の木質等は見られない。柄装着部端から4.5cmでカーブし研ぎ減りと考えられる。	-

1区54号竪穴住居

第214図 PL.95	1	土師器 杯	床直 口縁部一部欠	口底	11.6 高 7.8	3.4	粗砂粒/良好/明褐	口縁部は先端に横ナデ。以下はナデ。指オサエ痕を残す。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第214図	2	土師器 杯	埋没土 口縁部～底部1/4	口底	11.8 高 -	-	粗砂粒少/良好/赤褐	口縁部の上半に横ナデ。以下底部にかけて型肌部分を残す。底部外面は中央寄りにヘラナデ。内面はナデ。	-
第214図	3	須恵器 杯	床直 口縁部下位～底部片	口底	- 高 5.6	-	白色鉍物粒・海綿骨針/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はやや摩耗。
第215図	4	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底部片	口底	- 高 6.6	-	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面はやや摩耗。
第215図	5	須恵器 杯	床直 口縁部下位～底部片	口底	- 高 7.0	-	灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面の周縁部と内面は全面摩耗。
第215図	6	須恵器 杯	埋没土 口縁部片	口底	12.8 高 -	-	白色鉍物粒少/還元焰/黄灰	ロクロ整形(右回転か)。	外面口縁部先端に摩耗。
第215図	7	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底	11.8 高 6.9	3.6	粗砂粒・赤黒色粘土粒/酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第215図	8	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～底部片	口底	- 高 7.0	-	白色鉍物粒/酸化焰/灰オリーブ	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り。その後、周縁部に回転ヘラ削りか。	器面は摩滅。
第215図 PL.95	9	須恵器 杯	埋没土 2/3	口底	13.4 高 8.0	3.6	粗砂・細砂粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面摩滅。
第215図	10	須恵器 杯	床直 1/3	口底	13.1 高 6.5	3.5	灰黒色粘土粒多/酸化焰/暗灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第215図	11	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底	12.6 高 7.0	3.1	白色鉍物粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はやや摩耗。
第215図	12	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底	13.0 高 6.8	3.2	灰黒色粘土粒/還元焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩耗。
第215図	13	須恵器 杯	埋没土 口縁部～底部片	口底	11.8 高 6.4	3.05	細砂粒多/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
第215図 PL.95	14	須恵器 杯	埋没土 3/4	口底	13.6 高 7.8	3.4	粗砂粒・灰黒色粘土粒/酸化焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第215図 PL.95	15	須恵器 杯	床面上3～8cm 2/3	口底 12.8 6.6	高 -	3.4 -	粗砂粒・白色鉍 物粒/還元焰/灰オ リーブ	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第215図	16	須恵器 杯	床面上3～8cm 2/3	口底 13.4 6.8	高 -	4.3 -	灰黒色粘土粒/還 元焰 ・軟質/灰オリー ブ	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	外面はやや摩 滅。内面は摩 耗。
第215図	17	須恵器 杯	床面上3～8cm 1/3	口底 13.1 8.0	高 -	4.2 -	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/酸化焰/灰黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面に炭素吸 着。摩滅。
第215図	18	黒色土器か 杯	床直 1/3	口底 12.5 5.8	高 -	3.8 -	赤褐色粘土粒/還 元焰/橙	ロクロ整形。(回転方向不明)。	器面は摩滅。 内面に炭素吸 着。
第215図	19	須恵器 蓋	埋没土 口縁部～底部片	口底 12.6 2.35	高 -	2.9 -	白色鉍物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。天井部を切り離し後、ボタン状の摘 みを貼付。天井部外面の中心寄りに、回転ヘラ削り。	内面は摩耗。
第216図 PL.95	20	灰釉陶器 壺	埋没土 口縁部～肩部片	口底 10.6 -	高 -	-	白色・黒色鉍物粒 少/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。口縁部の内外面に釉。	光ヶ丘1号窯 式期。
第216図	21	須恵器 瓶	床直 口縁部1/2	口底 11.4 -	高 -	-	粗砂粒多/還元焰/ 灰	口縁部の先端は、大きく外反。ロクロ整形(右回転)。	-
第216図	22	土師器 小型甕	カマド埋没土 口縁部～胴部 上位1/2	口底 10.4 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はナ デ。	器面に炭素吸 着。
第216図 PL.95	23	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部～肩部1/2	口底 19.6 -	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。下半部にナデ。指オサエ痕を残す。胴部 外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ削り。	-
第216図	24	土師器 甕	周溝埋没土 口縁部～胴部 上位1/4	口底 22.6 -	高 -	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位 のナデ。残存部下に、横位のハケ状工具による削り。	-
第216図	25	須恵器 甕	埋没土 口縁部～胴部 片	口底 25.0 -	高 -	-	白色鉍物粒/還元 焰/灰	紐作り後、口縁部はロクロ整形。胴部は叩き整形。外面に 平行叩き目。内面に青海波文状の当て具痕。	-
第216図	26	須恵器 甕	掘り方 胴部片	口底 -	高 -	-	粗砂粒・海綿骨針 /還元焰/灰オリー ブ	紐作り後、ロクロ整形。外面はナデの後に、斜位のヘラナ デ。内面は横位のナデ。	-
第216図	27	須恵器 瓶	埋没土 肩部片	口底 -	高 -	-	粗砂粒/還元焰/灰	紐作り後、ロクロ整形。胴部成形後に横倒し、成形時の胴 部に穿孔。ここに口縁部を取り付けている。外面はカキ目 後、頸部周縁部に横ナデ。内面はナデ。	-
第216図 PL.95	28	土製品 紡輪	掘り方 完形	長幅 7.3 7.3	厚 0.95	厚孔 1.0	細砂粒/還元焰/灰 黄	須恵器の杯、あるいは碗の底部を二次利用したもの。側面 は割れ口を丁寧に調整している。中央に直径1cmの焼成後 穿孔。須恵器の整形はロクロ整形(右回転)。底部回転糸切 り後、無調整。	重量63.76g
第216図 PL.95	29	炉壁? 中段?	掘り方 破片	長幅 4.9 5.8	厚 37.87	-	-	強く発泡し軽軟。表面は皺状で僅かに金属光沢を有する。 破断面は灰白色で白色・透明粒子を含む。	-
第216図 PL.95	30	鉄製品 鎌	埋没土 破片	長幅 6.3 4.2	厚 15.23	1.9	-	鎌破片で、右端部は耳状に折れ曲がる丸みを持ち木質等 の痕跡も見られず、柄装着部とは断定できない。先端側も短 く不定形で鎌の破片と考えられる。	-
第216図 PL.95	31	鉄製品 角釘	床面上3～8cm ほぼ完形	長幅 10.1 1.6	厚 14.67	1.6	-	断面ほぼ正方形の角釘で、頭はやや斜め角型で折り返し等 は9人出来ない。先端に向かい緩やかに細くなりやや丸 みを持って終わる	-
第216図 PL.95	32	鉄製品 刀子	床直 破片	長幅 13.1 2.0	厚 16.66	0.9	-	刀子破片で、棟・刃ともに明瞭な関を持つ。刃は厚く先端 は劣化破損、茎はほぼ完形に近いが端部の一部は劣化破損 し木質等の痕跡は確認できない。	-
第216図 PL.95	33	鉄製品 不明	埋没土 破片	長幅 5.4 1.2	厚 4.12	1.4	-	断面長方形の角棒状の鉄製品で、一端に向かい厚みを減ず るが関・段等は認められない。両端部とも劣化破損するた 詳細は不明。	-
PL.96	34	イネ	須恵器杯(第 215図15)内部 破片	幅高 1.5 1.5	-	-	-	微小炭化物破片中より抽出したイネ炭化種実破片1点、現 存部分は幅1.5×高さ1.5mm程の胚を含む小破片で全体形状 等詳細不明。	写真のみ掲 載。
第217図 PL.96	35	石製品 火打石	埋没土 完形	長幅 2.2 3.3	厚 11.6	1.7	玉髓/-/-	稜線上の潰れが著しい。	-
第217図 PL.96	36	石製品 不明	埋没土 完形	長幅 1.7 1.5	厚 0.9 3.4	0.9	石英/-/-	不整な楕円形の扁平小礫である。加工痕および使用痕は明 瞭ではない。37・38と同一住居から出土。	-
第217図 PL.96	37	石製品 不明	埋没土 完形	長幅 2.8 2.1	厚 6.2	0.7	珪質頁岩/-/-	不整な楕円形の扁平小礫である。加工痕および使用痕は明 瞭ではない。36・38と同一住居から出土。	-
第217図 PL.96	38	石製品 不明	埋没土 1/2	長幅 (1.6) 1.9	厚 3.8	1.0	石英/-/-	扁平な楕円小礫である。加工痕および使用痕は明瞭ではな い。36・37と同一住居から出土。	-
第217図 PL.96	39	礫石器 磨石	床直 破片	長幅 (11.1) (12.1)	厚 1158.7	(8.7)	粗粒輝石安山岩 /-/-	断面三角形の大型礫を素材とする。正面と裏面の一部に平 滑面を有する。上端部には敲打痕が認められる。	-
第217図 PL.96	40	礫石器 磨石	埋没土 1/2	長幅 (5.7) (6.9)	厚 111.7	(2.6)	粗粒輝石安山岩 /-/-	幅狭の左側面に平滑面を形成する。正面中央部では、縦方 向の線状痕が多数認められる。	-
1区55号竪穴住居									
第219図 PL.96	1	須恵器 皿	埋没土 2/3	口底 13.6 6.2	高 -	2.8 -	粗砂粒/酸化焰/橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。周縁部にナデ調整。	内面に炭素吸 着。
第219図 PL.96	2	土師器 杯	埋没土 口縁一部欠	口底 12.6 6.4	高 -	4.0 -	粗砂粒・軽石/良 好/橙	口縁部外面は先端に横ナデ。以下はナデの上に横位のヘラ 削り。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第219図	3	須恵器 碗	床面上8～9cm 1/2	口底 13.5 -	高 台	5.2 7.6	粗砂粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付け高 台。	器面の広い範 囲に、焼成時 の炭素吸着。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	厚				
第219図 PL.96	4	須恵器 碗	カマド埋没土 2/3・高台部欠	口底	18.6	高	-	粗砂粒・黒色鉱物 粒/酸化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は、底部回転糸切り後の付高台。高台部欠落後も、剥落部を調整して、継続使用している。	器面の一部に 炭素吸着。
第219図	5	土師器 台付甕	埋没土 台部片	口底	-	高台	8.8	粗砂・細砂粒/良 好/橙	内外面共に横ナデ。	被熱か。炭素 吸着。
第219図	6	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	19.9	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は、横 位のヘラナデ。	-
第220図 PL.96	7	鉄製品 鎌	床面上8～9cm 破片	長 幅	9.3 4.6	厚 重	2.1 23.35	-/-/-	断面狭三角形で先端は大きくカーブし尖る鎌破片。左端部 は曲がり左聞き用の柄装着部を思わせるが木質等の痕跡は 見られず、上面から見るとゆるくS字状に屈曲することか ら、薄手の鉄鎌の破損した破片と考えられる。	-
第220図 PL.96	8	鉄製品 鎌・刀子	床面上8～9cm 一部破損	長 幅	24.6 11.8	厚 重	2.7 120.05	-/-/-	大型の鉄鎌破片で、大きくカーブした鎌先端は劣化破損す る。柄装着部は角を小さく曲げているが柄の木質等は見ら れない。柄装着部端から5cmでカーブし研ぎ減りと考えら れる。柄装着部から刃部に平行して刀子と見られる鉄製品 が錆付着する、刀子は棟・刃側ともになだらかに茎に移 行する。茎は6.5cmを有するのに対し、刃は短く3.5cmを留 める。	-

#### 1区57号竪穴住居

第222図	1	土師器 杯	東壁際埋没土 口縁部～底部片	口底	14.7 8.4	高	4.0	粗砂粒・赤黒色粘 土粒/良好/明赤褐	口縁部外面は先端に横ナデ。以下に斜位のヘラ削り。底部 外面もヘラ削り。内面はナデ。	-
第222図	2	須恵器 碗	カマド埋没土 口縁部下位～ 底部1/2	口底	-	高台	8.1	粗砂粒多・赤黒色 粘土粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。 貼付後、周縁部にナデ調整。	器面は摩滅。
第222図	3	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部片	口底	18.8	高	-	粗砂粒/良好/橙	内外面とも横ナデ。	-

#### 1区60号竪穴住居

第224図 PL.96	1	須恵器 皿	埋没土 1/2	口底	18.9 7.0	高	3.8	粗砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。口縁部 と底部寄りに回転ヘラ削りか。	器面は摩滅。
第224図	2	須恵器 杯	埋没土 口縁部1/3	口底	12.8	高	-	灰黒色粘土粒/還 元焰・軟質/灰黄	ロクロ整形(左回転か)。	器面は摩滅。
第224図	3	土師器 台付甕	埋没土 胴部下位～台部 1/2	口底	-	高台	10.4	粗砂・細砂粒/良 好/明赤褐	胴部内面はヘラナデ。台部は内外面に横ナデ。	-
第224図	4	土師器 甕	カマド燃焼面 直上 口縁～胴部上 位片	口底	18.7	高	-	粗砂・細砂粒/良 好/明褐	口縁部は横ナデ。下半部に指オサエ痕。胴部外面上位は横 位の、以下は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第224図	5	須恵器 甕	埋没土 胴部下位～底部 片	口底	19.8	高	-	白色鉱物粒/還元 焰・やや軟質/灰 黄	紐作り後、叩き整形。胴部外面は平行叩き目。底部寄りに ヘラ削り。内面に当て具痕。底部寄りにナデ。	器面は摩滅。

#### 1区61号竪穴住居

第225図	1	須恵器 杯	床直 口縁部下位～底 部1/2	口底	-	高	-	白色鉱物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面は摩耗。
第225図	2	須恵器 碗	床直 口縁部下位～高 台部1/2	口底	-	高台	9.0	粗砂粒/還元焰/灰 黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部切り離し後の付高台。	器面は摩滅。

#### 1区63号竪穴住居

第228図	1	須恵器 碗	埋没土 口縁部下位～高 台部片	口底	-	高台	6.4	赤黒色粘土粒/還 元焰 ・軟質/灰白	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。	-
第228図	2	須恵器 碗	床面上5～7cm 口縁部下位～高 台部1/2	口底	-	高台	8.8	粗砂粒・灰黒色粘 土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。 貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第228図	3	須恵器 壺	埋没土 胴部下位～高台 部片	口底	-	高台	12.9	粗砂粒/良好/灰黄	ロクロ整形(右回転か)。胴部最下位に回転ヘラ削り。高台部 は底部回転糸切り後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第228図	4	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 位1/4	口底	20.2	高	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は手持ちヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	-
第228図	5	須恵器 甕	床面上5～7cm 胴部片	口底	-	高	-	白色鉱物粒少/還 元焰/灰	詳細な部位は不明。紐づくり後に叩き整形。外面にカキ目 を充填。内面に当て具痕を残す。一部にナデ。	-
第229図 PL.96	6	鉄滓 炉内滓又は 炉底塊	カマド燃焼面 直上 破片	長 幅	6.2 7.9	厚 重	7.7 416.48	-/-/-	緻密で重厚、表面に酸化土砂が付着する。破断面随所に木材 の痕跡と見られる空洞が多数見られ、最大の物は3cm程になる。	-
第229図 PL.96	7	鉄製品 刀子	埋没土 破片	長 幅	10.3 1.6	厚 重	4.8 16.49	-/-/-	棟・刃側ともに間を持つ刀子で、刃の先端は破損し錆瘤に 覆われる。茎は約6.5cmで中ほどで大きく折れ曲がる。木 質等の痕跡は見られない。	-

#### 1区66号竪穴住居

第231図	1	須恵器 杯	埋没土 1/4	口底	12.9 6.8	高	3.5	白色・黒色鉱物粒 /還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩耗。
第231図	2	土師器 甕	床直 口縁部片	口底	20.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	口縁部は横ナデ。外面に粘土紐の接合痕を残す。	-
第231図	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 上位片	口底	19.8	高	-	粗砂粒/良好/灰褐	口縁部は内外面とも横ナデ。中位に指頭圧痕を残す。胴部 外面は横位のヘラ削り。	-

3区71号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	口径				
第234図 PL.96	1	須恵器 杯	床直 完形	口底	12.5 6.2	高 -	3.7 -	粗砂粒・灰黒色粘土粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部外面に墨書「二十カ」。内面にも墨書「□」。
第234図	2	須恵器 杯	床直 口縁部下位～ 底部片	口底	- 6.8	高 -	- -	白色鈹物粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	内面はやや摩耗。
第234図 PL.96	3	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部～胴部 中位片	口底	17.5 -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は上位が斜横位、以下は斜縦位のヘラ削り。内面は上位が横位、以下は斜位のヘラナデ。	外面に煤付着。
第234図	4	土師器 甕	床直 口縁部～胴部 上位片	口底	23.6 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	-
PL.96	5	土塊 不明	カマド燃焼面 上4cm 一部	口底	- -	高 -	- -	粗砂粒少/酸化焰/橙	スサを多く混入。片面は平坦。ナデ。	写真のみ掲載。
PL.96	6	土塊 不明	カマド埋没土 一部	口底	- -	高 -	- -	粗砂粒少/酸化焰/橙	スサを多く混入。片面は平坦。ナデ。	写真のみ掲載。

3区78号竪穴住居

第236図	1	須恵器 碗	埋没土 底部下位～高 台部	口底	- -	高 台	7.7	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形。右回転。高台部は底部切り離し後の付高台。貼付後、周縁部にナデ調整。	-
第236図	2	須恵器 甕	床直 口縁部片	口底	17.0 -	高 -	- -	白色鈹物粒/還元焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形と考えられる。	-
第236図	3	土師器 甕	カマド埋没土 口縁部～胴部 上位片	口底	19.8 -	高 -	- -	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部は斜横位にヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第236図	4	土師器 甕	床面上3cm 口縁部～胴部 上位	口底	19.1 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	-
第236図 PL.96	5	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	4.6 3.3	厚 重	1.4 17.27	-/-/-	羽口の胴部片で外径3.8cm孔径2.0cm。整形痕が残るが先端側は被熱により不明瞭になる。孔表面は溝状に凹む。	-
第236図 PL.96	6	石製品 白玉	燃焼面直上 完形	長 幅	1.7 1.7	厚 重	0.3 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径5mm。正面上部の凸部を中心に研磨されている。側面には縦方向の研磨痕が見られる。	-

3区79号竪穴住居

第238図 PL.97	1	土師器 杯	カマド埋没土 底部一部欠	口底	12.4 -	高 -	3.55	粗砂粒・赤色粘土粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。口縁部との間に残るナデの部分は指オサエ痕。内面はナデ。	-
第238図 PL.97	2	土師器 杯	カマド埋没土 口縁部一部欠	口底	12.7 -	高 -	3.2	粗砂粒/良好/にぶい橙	口縁部は横ナデ。体部外面はナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面は摩滅。煤付着。
第238図 PL.97	3	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	11.0 -	高 -	3.8	粗砂粒少/良好/にぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状の磨き。	内外面に炭素吸着。漆塗布か。
第238図	4	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	12.0 -	高 -	4.75	粗砂粒少/良好/黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。摩耗。下位にヘラ磨きか。	-
第238図	5	須恵器 蓋	埋没土 1/2	口底	- -	高 -	- -	粗砂粒・赤褐色粘土粒/還元焰不良/灰白	ロクロ整形(右回転か)。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。外縁部寄りにもヘラが当たっている部分あり。	-
第238図	6	須恵器 小型甕	埋没土 頸部～胴部下 位片	口底	- -	高 -	- -	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。外面は横位のカキ目。内面頸部直下は指オサエ。ナデ。	-
第238図 PL.97	7	須恵器 杯	埋没土 3/4	口底	- 8.5	高 -	- -	粗砂粒少/還元焰・ やや酸化焰ぎみ/ 浅黄	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	口縁部外面に墨書「□□」。底部外面にも墨書「□」。
第238図	8	須恵器 転用碗	埋没土 口縁部一部欠	口底	- -	高 -	- -	粗砂・細砂粒/還元焰/灰	碗の口縁部を打ち欠き、高台部を再利用し底部外面を硯面としている。器面は摩滅し墨痕が認められる。碗の整形としてはロクロ整形(右回転)。高台部は付高台。底部を切り離し後、回転ヘラ削りを施している。	-
第238図	9	土師器 甕	埋没土 口縁部～胴部上 半部片	口底	19.0 -	高 -	- -	粗砂粒/良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	やや被熱。
第238図 PL.97	10	土製品 羽口	埋没土 破片	長 幅	4.9 2.8	厚 重	1.6 16.47	-/-/-	羽口胴部破片。推定外径3.8cm推定孔径2.0cm。先端側で熱変色が見られるが小破片のため詳細は不明。	-
第238図 PL.97	11	鉄滓 不明	埋没土 破片	長 幅	4.1 3.0	厚 重	2.0 7.96	-/-/-	灰～黒色で発泡したガラス質の軽軟な滓。炉壁破片または羽口先端部ガラス質片の可能性あり。	-
第238図 PL.97	12	鉄滓 碗形鍛冶滓	埋没土 ほぼ完形	長 幅	5.7 5.2	厚 重	2.7 62.41	-/-/-	ほぼ完形の碗型鍛冶滓で、上面に炉焼土と酸化土砂が付着する。一番厚みのある部分に微小な放射割れが見られるが現状でメタルは確認できない。	-
第238図 PL.97	13	鉄製品 刀子	周溝底面 一部破損	長 幅	8.7 1.3	厚 重	0.9 5.36	-/-/-	刀子の刃部分および茎の破片で、直接接合はしないが同一個体と考えられる。茎は鞘材と見られる木質に覆われ関等は確認できない。鞘材は広葉樹散孔材の柾目材だが詳しい構造は確認できない。	-
第238図 PL.97	14	石製品 白玉	埋没土 1/2	長 幅	(1.4) (1.8)	厚 重	0.2 0.4	硬質泥岩/-/-	厚さのわりに平面形が大きいため未成品と判断した。孔径4mm。側面に研磨痕は見られない。裏面には斜行の線状痕が認められる。	-

3区82号竪穴住居

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考		
				口底	高さ	口径					
第240図 PL.97	1	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	13.2	高 -	3.9	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨き。	内外面に漆塗布。器面は摩滅。	
第240図	2	土師器 杯	埋没土	口底	12.1	高 -	3.6	粗砂粒少/良好/に ぶい黄褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	器面に黒色の付着物。煤か。	
第240図 PL.97	3	土師器 杯	埋没土 3/4	口底	12.5	高 -	3.8	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	-	
第240図 PL.97	4	土師器 杯	埋没土 完形	口底	12.5	高 -	3.3	粗砂粒/良好/橙	底部中央は整形が粗雑なため粘土を貼り足し補修している。口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	-	
第240図 PL.97	5	土師器 杯	埋没土 3/4	口底	12.8	高 -	3.3	粗砂粒少/良好/に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	内面に黒色の付着物。炭化物か。	
第240図	6	土師器 杯	埋没土 1/3	口底	12.0	高 -	3.4	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ。	-	
第240図 PL.97	7	須恵器 杯	埋没土 1/3	口底	12.7	高 5.9	3.7	灰黒色粘土粒/酸 化焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-	
第240図	8	土師器 台付甕	カマド燃焼面上 5cm 胴部下位～台部 上位	口底	-	高 -	-	細砂粒多/良好/橙	胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。台部は内外面とも横ナデ。	-	
第240図	9	土師器 小型甕	床面上5cm 口縁部～胴部 上位片	口底	12.6	高 -	-	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	外面に炭素吸着。	
第241図	10	土師器 鉢?	カマド埋没土 口縁部～体部 下位片	口底	18.0	高 -	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。内面はヘラナデ。指オサエ痕を残す。	-	
第241図	11	須恵器 甕	埋没土 口縁部～頸部片	口底	-	高 -	-	黒色鉱物粒少/還元 焰/灰	紐づくり後、ロクロ整形。内面に自然釉が付着。	-	
第241図 PL.97	12	須恵器 鉢	埋没土 口縁部～体部 上位片	口底	24.0	高 -	-	粗砂粒・黒色鉱物 粒/還元焰/灰白	ロクロ整形(右回転)。外面は残存部下端に回転ヘラ削り。内面の中位以下にもヘラ削り。	-	
第241図	13	須恵器 転用硯	埋没土 高台部	口底	-	高 -	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	碗の口縁部を丁寧に打ち欠き、高台部内面を硯面としている。器面は摩耗著しい。碗の整形としてはロクロ整形(右回転)。高台部は付高台。底部は切り離し後、回転ヘラ削り。	-	
第241図	14	土製品 土錘	埋没土 1/4	長幅	3.5	厚 1.8	0.5	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	器面はナデ。	器面は摩滅。	
第241図 PL.97	15	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	4.7	厚 2.1	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	両小口部分はヘラにより粗雑に調整されている。器面はヘラ削り。	器面に炭素吸着。重量 14.71g	
第241図 PL.97	16	土製品 土錘	埋没土 一部欠損	長幅	4.6	厚 2.0	2.0	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄	小口部分は端部を絞るように収束させ、ヘラ切りによる平坦面を有さない。器面はヘラ削り。	やや炭素吸着。重量 12.26g	
第241図 PL.97	17	土製品 土錘	埋没土 完形	長幅	4.4	厚 1.8	1.8	細砂粒/酸化焰/に ぶい黄橙	器面はヘラ削り。図下位の小口部分寄り器面を強く削り取っている。孔の直径は大きい。	重量12.05g	
第241図 PL.97	18	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	6.9	厚 5.3	2.8	-/-/-	52.04	羽口基部～胴部片。基部推定外径7.0cm胴部推定外径6.2cm、基部推定孔径5.2cm胴部推定孔径2.8cm。	-
第241図 PL.97	19	土製品 羽口	埋没土 破片	長幅	7.5	厚 4.6	2.3	-/-/-	45.45	羽口胴部～先端部片。胴部推定外径4.7cm先端部推定外径4.1cm孔径1.7cm。外面には整形痕が残るが先端側では被熱により不明瞭になり、先端付近は強く発泡ガラス化する。	-
第241図 PL.97	20	鉄滓 碗形鍛冶滓	埋没土 ほぼ完形	長幅	8.7	厚 7.5	2.5	-/-/-	165.71	ほぼ完形の碗型鍛冶滓で、上面全体に磁着が見られる。上面の一部および破断面に酸化土砂が付着する。	-
第241図 PL.97	21	鉄滓 碗形鍛冶滓	埋没土 ほぼ完形	長幅	9.3	厚 9.2	2.6	-/-/-	289.36	ほぼ完形の碗型鍛冶滓で、上面全体に磁着が見られる。上面の一部に酸化土砂が付着する。一か所に放射割れが見られるが現状でメタルは確認できない。	-
第241図 PL.97	22	鉄滓 碗形鍛冶滓	埋没土 破片	長幅	4.5	厚 5.0	1.6	-/-/-	40.66	碗型鍛冶滓破片。上面中央付近に酸化土砂が付着し強く磁着するがメタルは認められない。	-

1区1号竪穴状遺構

第242図 PL.97	1	須恵器 杯	南壁床面上7cm 口縁部下位～底 部3/4	口底	-	高 7.8	-	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい赤褐	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削り。	底部外面に墨書「目」。
----------------	---	----------	-----------------------------	----	---	----------	---	--------------------	---------------------------------	-------------

1区16号掘立柱建物

第268図	1	土師器 杯	P7床面上13cm 1/4	口底	11.0	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	口縁部から底部上位の外面に漆塗布。内面にも施したか。	
第268図 PL.97	2	石製品 紡輪	P7底面上53cm 完形	径幅	4.0	厚 -	1.3	33.8	蛇紋岩/-/-	孔径9mm。下面に「天長七年正月三日」の文字を刻む。側面には明瞭ではないが「三」または「川」のような線刻がある。上面では多方向の線状痕が無数に認められ、「日奉マ(部)」の可能性のある線刻文字と線状痕との区別が困難である。上面軸孔周辺には整形時の敲打痕が残り、敲打後研磨されている。	-

1区41号土坑

第280図 PL.97	1	須恵器 杯	床面上4cm 1/3	口底	13.2	高 7.0	3.6	粗砂粒/酸化焰/灰 白	ロクロ整形(右回転)。底部回転ヘラ削りか。	器面は摩滅。
----------------	---	----------	---------------	----	------	----------	-----	----------------	-----------------------	--------



1区2号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	15.4 6.7	厚 重	4.2 703.5			
第283図 PL.97	1	礫石器 磨石?	埋没土第1層下 層 完形				ホルンフェルス /-/-	左側面が摩耗し非常に平滑な面を形成している。上部小口 面には敲打痕が見られる。		

1区267号ピット

第284図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部下半～ 底部1/2	口 底	- 7.0	高 -	- -	白色・黒色鋳物粒 /酸化焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面はやや摩 滅。
-------	---	----------	------------------------	--------	----------	--------	--------	---------------------	--------------------------	--------------

1区575号ピット

第287図 PL.97	1	須恵器 皿	底面上18cm 3/4	口 底	13.1 -	高 台	2.9 8.9	小礫・粗砂粒/酸 化焰/浅黄	ロクロ整形(右回転)。高台部は底部回転糸切り後の付高台。 貼付後、周縁部の広い範囲にナデ調整。	器面は摩滅。
----------------	---	----------	----------------	--------	-----------	--------	------------	-------------------	--	--------

1区606号ピット

第287図	1	須恵器 杯	埋没土 口縁部下位～ 底部片	口 底	7.6	高 -	- -	粗砂・細砂粒/還 元焰・酸化ぎみ/ にぶい橙	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面は摩滅。
-------	---	----------	----------------------	--------	-----	--------	--------	------------------------------	--------------------------	--------

間之原遺跡遺構外

第290図 PL.98	1	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/D	細隆起線の区画内に半截竹管の平行沈線文を充填施文。 内面風化。	野島式
第290図 PL.98	2	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	波状口縁。半截竹管の横位連続爪形文を複数条施文。内面 横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	3	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位施文し、半截竹管の連続爪形文を横・斜位に 施す。内面やや風化。	有尾式
第290図 PL.98	4	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	波状口縁。半截竹管の横位連続爪形文を複数条施文。内外 面風化。	有尾式
第290図 PL.98	5	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	波状口縁。LR縄文を横位施文し、半截竹管の横位連続爪形 文を複数条施す。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	6	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	半截竹管の連続爪形文を横・斜位に施文。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	7	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/B	半截竹管の連続爪形文を横・斜位に施文。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	8	縄文土器 深鉢	- 頸部片	-	-	-	-	-/-/B	半截竹管の連続爪形文を横位多段に施文。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	9	縄文土器 深鉢	- 頸部片	-	-	-	-	-/-/A	半截竹管の連続爪形文を横位多段に施文し、横位隆帯上にも 施す。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	10	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	波状口縁。口唇下にLR縄文を横位施文。口縁に多截竹管の 平行沈線による三角形の意匠を構成。	有尾式
第290図 PL.98	11	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	0段多条のLR縄文を横位施文。内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	12	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	波状口縁。RL(太さの異なる2本のL)縄文を横位に施文。 内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	13	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	RL縄文を横位多段に施文。内外面被熱風化。	有尾式
第290図 PL.98	14	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	やや粗大なLR縄文を横位・多段に施文。内面磨きに近い横 篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	15	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	L縄文を横位・多段に施文し、2本単位のL縄側面圧痕を 施す。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	16	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	附加条RL+R・R縄を横位に施文。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	17	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/B	附加条RL+R・R縄を横位に施文。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	18	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	RL縄文を横位施文。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	19	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	RL縄文を横位施文。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	20	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	RLとLR縄文を横位・交互に施文して羽状構成。内面横篋撫 で。	有尾式
第290図 PL.98	21	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	RLとLR縄文を横位・交互に施文して羽状構成。内面磨きに 近い横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	22	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-	-/-/A	L縄文を横位施文。内外面風化。	有尾式
第290図 PL.98	23	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位に施文。内外面風化。	有尾式
第290図 PL.98	24	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	RL縄文を横位施文。内面風化。	有尾式
第290図 PL.98	25	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/B	LR縄文を横位に施文。内面縦篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	26	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位に施文。内面縦篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	27	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位施文し、篋状工具の細沈線文を条方向に沿っ て施す。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	28	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	0段多条のLR縄文を横位施文。内外面風化。	有尾式
第290図 PL.98	29	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位・多段に施文。内面やや風化。	有尾式

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第290図 PL.98	30	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	RI縄文を横位施文。内外面やや風化。	有尾式
第290図 PL.98	31	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位・多段に施文。内外面風化。	有尾式
第290図 PL.98	32	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	L縄文を横位・多段に施文。内面横篋撫で。	有尾式
第290図 PL.98	33	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	LR縄文を横位に施文。内外面やや風化。	有尾式
第290図 PL.98	34	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	L縄文を横位に施文。内外面やや風化。	有尾式
第290図 PL.98	35	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	附加条RL+R縄を横位に施文。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	36	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	0段多条のLRとR L縄文を横位施文し、菱形意匠を構成。内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	37	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/B	RLとLR縄文を横位施文して羽状構成。内外面風化。	有尾式
第291図 PL.98	38	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	39と同一個体。	有尾式
第291図 PL.98	39	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	0段多条のLRとR L縄文を横位施文し、菱形意匠を構成。外面風化、内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	40	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	LRとRL縄文を横位施文し、菱形意匠を構成。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	41	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	0段多条のLRとR L縄文を横位施文し、菱形意匠を構成。内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	42	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	LRとRL縄文を横位施文し、菱形意匠を構成。内面風化。	有尾式
第291図 PL.98	43	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	RLとLR縄文を横位施文して羽状構成。内面煤状炭化物付着。	有尾式
第291図 PL.98	44	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/E	RLとLR縄文を横位施文して縦羽状を構成。内面縦篋撫で。	五領ヶ台式
第291図 PL.98	45	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-/-/A	各2本単位のL及びRの絡条体を斜位に回転施文し、羽状構成。内面磨きに近い横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	46	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	各2本単位のL及びRの絡条体を斜位に回転施文し、羽状構成。内面風化。	有尾式
第291図 PL.98	47	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	3本単位のL絡条体を斜位に回転施文。内面風化。	有尾式
第291図 PL.98	48	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	2本単位のL絡条体を斜位に回転施文。内面横篋磨き。	有尾式
第291図 PL.98	49	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	R絡条体を斜位に回転施文。内外面やや風化。	有尾式
第291図 PL.98	50	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/A	LRとRLの直前段L合摺縄文を横位施文。上位に横位の連続爪形文を施文。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	51	縄文土器 深鉢	- 底部1/4	-	(9.7)	-	-/-/A	上げ底状の底部。L縄文を横位施文。内面風化。	有尾式
第291図 PL.98	52	縄文土器 深鉢	- 底部1/8	-	(11.2)	-	-/-/A	上げ底状の底部。LRとRLの直前段L合摺および直前段R合摺縄文を横位施文して菱形意匠を構成か。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	53	縄文土器 深鉢	- 底部1/8	-	(10.2)	-	-/-/A	R縄の側面圧痕を縦横位に施して格子目状の意匠を構成。下位に半截竹管の連続爪形文を横位2段に施文。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	54	縄文土器 深鉢	- 底部1/8	-	(8.8)	-	-/-/A	平底。LR縄文を横位施文。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	55	縄文土器 深鉢	- 底部1/10	-	(7.0)	-	-/-/A	若干の上げ底。LR縄文を横位施文。内面横篋撫で。	有尾式
第291図 PL.98	56	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/C	LR縄文を横位・多段に施文。内面横篋磨き。	諸磯b式
第291図 PL.98	57	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	RI縄文を横位施文。開端部の自縄自縛と思われる結節縄文あり。内面風化。	諸磯c式
第291図 PL.98	58	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	RI縄文を横位施文し、集合沈線文を横位・多段に施す。	諸磯b式
第291図 PL.98	59	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	半截竹管の横位集合沈線文や羽状構成の集合沈線文を施す。内面風化。	諸磯c式
第291図 PL.98	60	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/E	貝殻腹縁状工具による横位の波状文を重層的に施す。内面横篋撫で。	浮島式
第291図 PL.98	61	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-/-/D	LR縄文を横位施文し、弧状沈線文を施す。内面横篋磨き。	加曾利E1式
第291図 PL.98	62	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-/-/D	波状かつ内側への折返し口縁。口縁に隆帯区画文を施し、縦位沈線文を充填。内面横篋磨き。	加曾利E2式
第291図 PL.98	63	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	LRL縄文を縦位に施文し、2条の懸垂文を施す。内面風化。	加曾利E3式
第291図 PL.98	64	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	沈線区画文を施し、LR縄文を充填。内外面やや風化。	称名寺I式
第291図 PL.98	65	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	LR縄文を縦位施文し、沈線文を縦位に施す。	堀之内1式
第291図 PL.98	66	縄文土器 深鉢	- 口縁部片	-	-	-	-/-/F	波状口縁。口唇は短く内折。口唇下に小突起を付す。口頸部に細隆起縄文を縦位や弧状に施し、円形貼付文を施文。内面横篋磨き。	堀之内2式



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	口 径			
第291図 PL.98	67	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-/-/D	沈線により横位区画文を施し、LR縄文を充填。縦位の刻目隆帯を2本貼付。内面横磨ぎ。	堀之内2式
第292図 PL.98	68	剥片石器 石鏃	- 完形	長幅 1.7 1.5	厚重 0.3 0.4	-	チャート/-/-	両面全面に丁寧な二次加工を施す。	凹基無茎鏃
第292図 PL.98	69	剥片石器 石鏃	- 完形	長幅 1.9 1.8	厚重 0.4 0.8	-	チャート/-/-	両面全面に押圧剥離による二次加工を施す。返し部が左右対称ではないが、欠損ではない。	凹基無茎鏃
第292図 PL.98	70	剥片石器 石鏃	- 略完形	長幅 (2.2) (1.8)	厚重 0.4 0.98	-	黒色安山岩/-/-	両面全面二次加工を施す。	凹基無茎鏃
第292図 PL.98	71	剥片石器 石鏃	- 完形	長幅 2.2 1.8	厚重 0.2 0.6	-	チャート/-/-	両面全面に二次加工を施し整形。返し部が外側に開く形状が特徴的である。	平基無茎鏃
第292図 PL.98	72	剥片石器 石鏃	- 2/3	長幅 3.2 (1.7)	厚重 0.3 1.1	-	黒曜石/-/-	背面は全面に、腹面は周縁に二次加工を施し整形。左返し部欠損。	凹基無茎鏃
第292図 PL.98	73	剥片石器 石鏃(ドリル)	- 破片	長幅 (2.7) 1.4	厚重 0.4 1.3	-	珪質頁岩/-/-	正面は周縁に、裏面は刃部周辺に二次加工を施す。刃部の稜線に摩耗が認められる。	-
第292図 PL.99	74	剥片石器 尖頭器	- 2/3	長幅 (8.2) 4.3	厚重 0.9 31.4	-	硬質頁岩/-/-	両面全面に二次加工を施し、木葉形に整形している。表面の経年変化が著しい。	-
第292図 PL.99	75	剥片石器 打製石斧	- 完形	長幅 7.5 5.9	厚重 1.9 103.2	-	ホルンフェルス /-/-	表裏面周縁に二次加工を施し整形している。裏面の大部分は自然面。左右側縁は摩滅している。	撥形
第292図 PL.99	76	剥片石器 打製石斧	- 完形	長幅 8.6 6.0	厚重 2.9 144.8	-	ホルンフェルス /-/-	厚手の剥片を素材とし、周縁に二次加工を施し整形している。裏面は全面自然面。	撥形
第292図 PL.99	77	剥片石器 打製石斧	- 破片	長幅 (6.2) (5.2)	厚重 2.1 87.4	-	ホルンフェルス /-/-	上部欠損。正面は全面に、裏面は周縁に二次加工を施し整形している。	-
第292図 PL.99	78	剥片石器 打製石斧	- 完形	長幅 8.8 4.2	厚重 1.5 75.8	-	珪質頁岩/-/-	表裏面周縁に二次加工を施し整形している。刃部は折れた後調整を加え再生している。左右の括れ部は稜線が摩滅し捲縛痕と推定される。	-
第292図 PL.99	79	礫石器 石皿	- 1/4	長幅 (17.8) (13.8)	厚重 (5.1) 1538.1	-	粗粒輝石安山岩 /-/-	扁平な楕円礫の中央部が凹状に窪み、平滑面を形成している。	-
第292図 PL.99	80	礫石器 多孔石	- 破片	長幅 15.3 (12.3)	厚重 7.5 1110.6	-	粗粒輝石安山岩 /-/-	表裏面に断面漏斗状の小孔と線状痕が見られる。裏面は皿状に窪む。	-
第293図 PL.99	81	土師器 杯	- 口縁部破片	口底	高 -	-	粗砂粒少/良好/橙	口縁部先端に横ナデ。	外面に墨書「井」または「記号」。
第293図 PL.99	82	土師器 杯	- 1/2	口底	高 -	10.5	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデの上に放射状のヘラ磨ぎ。	内面に漆塗布。 口縁部外面にも漆残存。
第293図	83	土師器 杯	- 口縁部片	口底	高 -	11.9	粗砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。	外面に墨書「井」または「記号」か。
第293図	84	土師器 杯	- 破片	口底	高 -	11.5	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第293図	85	土師器 杯	- 3/4	口底	高 -	12.4	粗砂粒少/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。中位には弱い段をなす。横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	-
第293図	86	土師器 杯	- 1/4	口底	高 -	12.8	粗砂粒少/良好/灰 褐	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。間にナデの部分を残す。内面はナデ後、放射状にヘラ磨ぎ。	器面に炭素吸着。
第293図	87	土師器 杯	- 1/4、口縁部先端欠	口底	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸着。 黒斑か。摩滅。
第293図	88	土師器 大型杯	- 口縁部～底部上位片	口底	高 -	16.0	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。底部外面は手持ちヘラ削り。	口縁部の内外面に漆残存。
第293図	89	須恵器 杯	- 1/2	口底	高 -	12.3 7.2	灰黒色粘土粒/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第293図	90	須恵器 杯	- 1/4	口底	高 -	12.4 6.0	白色鉱物粒少/還元 焰/灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	-
第293図	91	須恵器 杯	- 口縁部下位～底部	口底	高 -	6.7	白色鉱物粒/還元 焰/黄灰	ロクロ整形(右回転)。底部回転糸切り後、無調整。	器面はやや摩滅。
第293図	92	須恵器 蓋	- 口縁部～天井部片	口底	高 -	12.0	粗砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形。右回転。天井部外面は中心寄りに回転ヘラ削り。	-
第293図	93	須恵器 鉢	- 口縁部～体部下位1/4	口底	高 -	17.0	白色鉱物粒・赤黒 色粘土粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形(右回転)。体部下半は回転ヘラ削り。	内面はやや摩耗。
第293図 PL.99	94	須恵器 小型壺	- 2/3	口底	高 -	-	白色鉱物粒/還元 焰/灰	口縁部は扁平な胴部からわずかに内傾して上方に立ち上がる。ロクロ整形(右回転)。頸部にナデ。胴部中位はやや上位に沈線が巡る。これより上位にはカキ目。沈線より下位は手持ちヘラ削り。	-
第293図	95	須恵器 壺	- 口縁部～胴部上位片	口底	高 -	12.0	細砂粒/還元焰/灰	ロクロ整形(右回転か)。外面は肩部にカキ目。内面はナデ調整。	-
第293図	96	土師器 甕	- 底部片	口底	高 -	6.2	粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面はヘラ削り。内面はヘラナデ。欠損後、皿状に二次利用か。	-
第293図	97	土師器 甕	- 胴部下位～底部	口底	高 -	8.8	粗砂粒/良好/にぶ い橙	胴部外面はヘラ削りと考えられる。内面はヘラナデ。欠損後、皿状に二次利用か。	器面は摩滅。
第293図	98	土師器 甕	- 口縁部片	口底	高 -	20.3	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	外面は横ナデの上に、縦位のヘラ削り。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第293図	99	土師器 甕	口縁部～胴部 上位1/4	21.3	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は斜横 位のヘラナデ。	-
第293図	100	土師器 甕	口縁部～胴部 上位1/4	20.2	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は斜位のヘラ削り。内面は横位 のヘラナデ。	-
第294図 PL.99	101	土師器 甕	口縁部～胴部 上位	25.0	高	-	粗砂粒・赤色粘土 粒少/良好/明赤褐	口縁部は横ナデ。胴部外面は縦位のナデに近いヘラ削り。 内面は斜横位のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第294図	102	土師器 甕	胴部中位～底部 1/2	7.5	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は斜縦位・斜横位のヘラ削り。内面は横位のヘラ ナデ。一部に横位のヘラ削り。	外面に炭素吸 着。
第294図	103	土師器 甕	胴部中位～底部 1/3	11.6	高	-	粗砂粒/良好/にぶ い黄橙	胴部外面は斜横位のヘラ削り。底部外面もヘラ削り。内面 は斜横位のヘラナデ。	外面に炭素吸 着。
第294図	104	須恵器 甕	口縁部片	16.0	高	-	白色鋳物粒/還元 焰/にぶい褐	紐づくり後ロクロ整形か。	-
第294図 PL.99	105	須恵器 甕か	破片	-	高	-	白色鋳物粒/還元 焰/灰	透孔を伴う脚台部がつくが、全容は不明。本体は紐づくり後、 叩き整形。外面に平行叩き目、内面は当て具痕の上にナデ。	-
第294図	106	須恵器 甕	底部～胴部下 位片	9.6	高	-	粗砂粒・白色鋳物 粒/還元焰/黄灰	紐づくり後、ロクロ整形。胴部外面最下位は、回転ヘラ削り。	器面に自然釉 付着。
第294図 PL.99	107	土師器 手捏	1/2	4.6	高	2.6	粗砂粒少/良好/ にぶい橙	内外面とも指ナデ。	-
第294図	108	土製品 手捏	口縁部一部欠	4.6 4.8	高	3.7	粗砂粒少/良好/ 橙	内外面とも粗雑な指ナデ。外面には粘土の重ねた痕跡を残 す。	-
第294図 PL.99	109	土師器 手捏	1/4	5.8 4.0	高	3.6	粗砂粒少/良好/ にぶい橙	平底。内外面とも指ナデ。	-
第294図 PL.99	110	土師器 手捏	2/3	5.7 5.3	高	3.4	粗砂粒/良好/にぶ い赤褐	器高に比して直径の大きな底部を有する。内外面とも指ナ デ。	-
第294図 PL.99	111	土師器 手捏	1/4	6.0 4.0	高	3.2	細砂粒/良好/にぶ い橙	鉢状を呈する。平底。内外面ともナデ。	-
第294図 PL.99	112	土師器 手捏	1/4	5.6	高	-	粗砂粒少/不良・ やや還元気味/に ぶい黄橙	内外面ともナデ。	内面は縦横に 線状の刻み。
第294図	113	土製品 土錘	1/2	4.8 2.0	高 孔	0.60	細砂粒少/酸化焰/ 灰黄	器面はナデか。器面と割れ口は磨滅。	重量9.26g
第294図 PL.99	114	土製品 紡輪	1/2	3.3 6.3	厚 孔	1.0 1.0	粗砂粒少/酸化焰/ にぶい黄	須恵器の杯の底部を二次利用。周縁部は割れ口を丁寧に調 整している。杯の整形はロクロ整形(右回転)。底部回転糸 切り後、無調整。	重量22.7g
第295図 PL.99	115	土製品 羽口	一部破損	8.1 6.6	厚 重	6.7 119.72	-/-/-	羽口基部破片。外径6.6～5.4cm孔径5.3～2.1cm。外面全 体に整形痕が残る。先端側は熱変色を受けるが破損のため 先端は不明。基部に向かいラッパ状に広がり端部は5mm程 度に薄く調整されている。	-
第295図 PL.99	116	土製品 羽口	破片	6.0 4.3	厚 重	2.1 28.01	-/-/-	羽口基部破片。推定外径6.0～5.0cm推定孔径4.2～2.5cm。 基部近くまで熱変色を受けた破片で先端側は灰黒色とな る。基部端に向かい徐々に薄くなる。孔表面は平滑。	-
第295図 PL.99	117	土製品 羽口	破片	9.8 4.5	厚 重	3.0 75.56	-/-/-	羽口基部～先端部片。基部推定外径8.0cm胴部推定外径4.8 cm先端部推定外径4.4cm基部推定孔径5.0cm胴部推定孔径 2.3cm先端部推定孔径1.7cm。基部近くまで被熱し先端では 発泡・ガラス化する。本体は基部より4cm程で緩やかに厚 みを減じ、基部端では5mm程になる。	-
第295図 PL.99	118	土製品 羽口	破片	5.6 4.4	厚 重	2.5 34.53	-/-/-	羽口胴部破片。推定外径4.5cm推定孔径2.0cm。両端を欠く が先端側では被熱灰黒色となる。孔表面には整形痕跡が残 るが比較的平滑。	-
第295図 PL.99	119	土製品 羽口	破片	7.9 4.9	厚 重	3.7 75.34	-/-/-	羽口先端部。外径4.5～4.3cm孔径2.0～1.7cm。先端部は 発泡・ガラス化し孔内側に5mmほど垂れ下がる。	-
第295図 PL.99	120	土製品 羽口	破片	6.5 4.1	厚 重	3.6 39.47	-/-/-	羽口先端部破片。推定外径4.0cm推定孔径1.8cm。先端は発 泡・ガラス化し破損する。	-
第295図 PL.99	121	鉄製品 不明	破片	3.0 1.6	厚 重	0.9 3.03	-/-/-	断面長方形の棒状鉄製品で端部は丸みをおび、他の端部は 劣化破損する。錆瘤により変形し詳細は不明。	-
第295図 PL.99	122	鉄製品 耳環	一部破損	3.9 3.4	厚 重	1.4 16.22	-/-/-	鉄製耳環で断面は円形に近くC字型に曲げられている。 錆化は著しく詳細な形状は不明。表面および破損面に銅錆 および金・銀等の痕跡は認められない。	-
第295図 PL.99	123	鉄製品 不明	破片	5.3 2.5	厚 重	0.7 5.78	-/-/-	薄い板状の鉄製品で、端部は三角形だが鋭利ではなくやや 波打ち破損後錆化したと可能性が有る。鎌等の破損品の可 能性が有るが他の端部は劣化破損し詳細は不明。	-
第295図 PL.99	124	石製品 紡輪	1/2	4.2 (2.5)	厚 重	1.8 22.6	滑石/-/-	推定孔径7mm。丁寧に研磨で整形されているものの、広面・ 狭面の周縁を中心にキズが多数見られる。	-
第295図 PL.99	125	石製品 白玉	完形	1.1 1.2	厚 重	0.4 0.6	硬質泥岩/-/-	孔径2.5mm。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-
第295図 PL.99	126	石製品 白玉	完形	1.6 1.8	厚 重	0.3 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径5mm。大きめだが、側面に縦方向の研磨痕を有し、未 成品ではない。裏面に縦方向の線刻が1条見られる。	-
第295図 PL.99	127	石製品 白玉	完形	2.4 1.9	厚 重	0.3 0.9	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。正面には幅約1mmの線刻が見られる。側面には 縦方向の研磨痕が認められる。	-
第296図 PL.99	128	石製品 砥石	破片	(5.4) (8.1)	厚 重	(1.6) 119.3	砂岩/-/-	正面中央部に断面皿状の浅い溝を有し、周辺は凹状となっ ている。裏面は全体的に凹状を呈する。右半分が赤色に変 化し、被熱の可能性が有る。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚 重	容 積			
第296図 PL.99	129	石製品 砥石	- 破片	長 幅 (6.6) 3.5	厚 重 (1.8) 54.3		砥沢石/-/-	4面使用。正面では砥面に格子が線刻されている。下部破損面は線刻を切っていることから、破損する前に格子が刻まれている。側面から見ると船底状を呈し、右側面には加工時のノミ状工具痕が認められる。	-
第296図 PL.99	130	石製品 砥石	- 完形	長 幅 (11.2) 6.2	厚 重 3.9 302.6		粗粒輝石安山岩 /-/-	扁平な楕円形の正面上半部に幅約1mmの線状痕が多数認められる。線状痕の方向は縦位および斜行で、大きく3方向認められる。線状痕の周囲には平滑面も見られる。	-
第296図 PL.99	131	石製品 砥石	- 破片	長 幅 10.2 6.6	厚 重 4.5 111.3		二ツ岳軽石/-/-	正面に浅いU字状の溝を有することから砥石と判断した。	-
第296図 PL.99	132	礫石器 磨石	- 完形	長 幅 17.6 14.1	厚 重 6.1 1879.5		粗粒輝石安山岩 /-/-	扁平な楕円形の中央部に平滑面を有する。	-
第296図 PL.99	133	礫石器 磨石	- 破片	長 幅 (9.9) (6.9)	厚 重 (5.7) 540.5		溶結凝灰岩/-/-	扁平な楕円形を素材とし、表裏両面の中央部に平滑面を有する。	-
第296図 PL.99	134	礫石器 磨石	- 3/4	長 幅 12.8 7.6	厚 重 4.5 594.5		粗粒輝石安山岩 /-/-	正面中央部に平滑面を有する。	-
第296図 PL.99	135	石製品 不明	- 破片	長 幅 (3.4) (3.4)	厚 重 1.4 6.3		二ツ岳軽石/-/-	平面形が楕円形の板状の軽石。表面は研磨により整形されている。	-
PL.99	136	礫石器 原石	- 完形	長 幅 3.8 4.1	厚 重 2.8 63.4		チャート/-/-	小形転石。	写真のみ掲載。
PL.99	137	剥片石器 剥片	- 完形	長 幅 1.7 1.3	厚 重 0.7 1.5		珪化凝灰岩/-/-	緑色を呈し、石製品の素材の可能性が有る。	写真のみ掲載。
第297図	138	瀬戸・美濃 磁器 青磁染付碗	- 1/5	口 底 (9.0) (3.)	高 - (4.3) -		-/-/白	外面酸化コバルトによる菊花文。高台端部を除きクロム青磁釉。高台端部無釉。	-
第297図 PL.100	139	肥前磁器 碗	- 体部下半1/2、 底部完	口 底 - 3.8	高 - -		-/-/白	体部下位半球状。外面染付。内面底部周縁1重圏線内に不明文様。	-
第297図	140	瀬戸・美濃 陶器 腰鍔碗	- 底部	口 底 4.3	高 - -		-/-/灰白	内面貫入のある灰釉。外面胎釉に近い鉄釉。高台端部のみ無釉。	-
第297図	141	肥前陶器 皿	- 底部	口 底 6.1	高 - -		-/-/黒	残存部外面無釉、内面緑色釉施釉後に蛇ノ目剥ぎ。高台脇周縁を内側から打ち欠いている可能性高い。	-
第297図	142	肥前京焼風 陶器 皿	- 体部下半	口 底 4.7	高 - -		-/-/灰白	底部内面鉄絵具による山水文。内面から高台脇透明釉。	-
第297図 PL.100	143	在地系土器 皿	- 1/3	口 底 (9.0) (5.4)	高 - 2.0		-/-/黒	口縁部から体部器壁厚く、底部は薄い。底部内面轆轤目顕著。底部右回転糸切無調整。	-
第297図	144	在地系土器 皿	- 口縁部一部、底 部一部	口 底 (8.5) (5.0)	高 - 2.3		-/-/黒	口縁部丸みを持つ。底部内面同心円状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	145	在地系土器 皿	- 口縁部1/8、底 部1/4	口 底 (8.5) (5.8)	高 - 2.3		-/-/灰白・暗灰	口縁部外反気味。底部内面轆轤目は同心円状か。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	146	在地系土器 皿	- 口縁部1/4、底 部1/3	口 底 (8.7) (7.0)	高 - 2.3		-/-/灰白・灰	外部外面下端直立気味。体部から口縁部直線的。底部内面周縁指頭圧痕状の窪み巡る。底部左回転糸切無調整。	-
第297図 PL.100	147	在地系土器 皿	- 口縁部1/3、底 部3/4	口 底 (8.6) 4.9	高 - 2.3		-/-/にぶい褐	器高高く、器壁厚い。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	148	在地系土器 皿	- 1/4	口 底 (8.0) (5.0)	高 - 2.3		-/-/浅黄橙	外面中位轆轤目顕著。底部内面周縁沈線状轆轤目。口縁部内面僅かに窪む。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	149	在地系土器 皿	- 1/3	口 底 (8.5) (6.0)	高 - 2.4		-/-/淡黄	口縁部内湾。体部内面轆轤目。底部内面沈線状轆轤目。底部周縁一部撫で。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	150	在地系土器 皿	- 口縁部1/8、底 部1/2	口 底 (8.5) (5.0)	高 - 1.5		-/-/黒	体部から口縁部直線的に開く。底部内面沈線状の窪み巡る。底部左回転糸切無調整。体部下端から底部周縁篋削り。	-
第297図	151	在地系土器 皿	- 1/4	口 底 (8.0) (4.5)	高 - 1.3		-/-/にぶい橙	口縁部内湾気味に肥厚。底部回転糸切無調整。	-
第297図	152	在地系土器 皿	- 1/2	口 底 (8.7) (6.0)	高 - 1.8		-/-/浅黄橙	体部中央器壁厚い。底部内面沈線状轆轤目。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	153	在地系土器 皿	- 1/4	口 底 (8.8) (5.5)	高 - 2.2		-/-/にぶい橙	体部中位やや厚い。口縁部から体部緩く内湾。底部右回転糸切無調整。	-
第297図	154	在地系土器 皿	- 口縁部1/6、底 部1/4	口 底 (8.7) (5.5)	高 - 2.1		-/-/にぶい橙	口縁部肥厚。底部内面轆轤目。底部内面撫で。底部内面周縁ドーナツ状に窪む。底部左回転糸切無調整。	-
第297図	155	在地系土器 皿	- 1/4	口 底 (9.4) (5.0)	高 - 2.5		-/-/灰	体部から口縁部内湾気味。底部左回転糸切無調整。	-
第297図 PL.100	156	在地系土器 皿	- 底部2/3、口縁 部1/3	口 底 (9.0) 5.2	高 - 2.7		-/-/暗灰	体部開き、口縁部やや肥厚。底部内面やや不鮮明な同心円状轆轤目。底部外面回転糸切無調整。底部糸切りの切り直しあり。ロクロ左回転か。	-
第297図 PL.100	157	在地系土器 皿	- 底部完、口縁部 1/4	口 底 (9.4) 5.9	高 - 2.2		-/-/淡黄	体部内湾。底部周縁の一部撫で。底部左回転糸切無調整。	-
第298図	158	在地系土器 皿	- 1/4	口 底 (10.0) (7.5)	高 - 1.9		-/-/灰白～黒	口に比して底大きい。底部内面轆轤目。底部内面周縁指頭圧痕状の窪み巡る。底部内面中央窪む。底部左回転糸切無調整。	-



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高さ	口径			
第298図	159	在地系土器 Ⅲ	- 1/4	口底 (9.5) (6.0)	高 -	1.9 -	-/-/黒	体部から口縁部緩く内湾。底部内面周縁凸帯状の轆轤目。底部右回転糸切無調整。	-
第298図	160	在地系土器 Ⅲ	- 1/4	口底 (9.2) (7.0)	高 -	1.9 -	-/-/淡黄	口に比して底大きい。底部内面轆轤目。底部左回転糸切無調整。口縁部尖る。	-
第298図	161	在地系土器 Ⅲ	- 1/6	口底 (10.0) (7.0)	高 -	2.2 -	-/-/黒	口に比して底大きい。底部内面轆轤目。底部左回転糸切無調整。	-
第298図	162	在地系土器 Ⅲ	- 口縁部1/7、底部1/5	口底 (9.5) (5.8)	高 -	1.8 -	-/-/灰	口縁部緩く内湾。体部内面下端ドーナツ状に盛り上がる。口縁部外面やや平坦となる。底部左回転糸切無調整。	-
第298図	163	在地系土器 Ⅲ	- 1/4	口底 (9.1) (6.1)	高 -	1.7 -	-/-/浅黄橙	体部から口縁部緩く内湾。底部内面側に向かい器厚増す。底部内面周縁ドーナツ状に窪む。回転糸切無調整。	-
第298図	164	在地系土器 Ⅲ	- 1/4	口底 (9.2) (6.0)	高 -	1.6 -	-/-/灰	口に比して底大きい。口縁部内湾。底部中央に向かい器厚増す。底部左回転糸切無調整。	-
第298図	165	在地系土器 Ⅲ	- 1/4	口底 (9.2) (5.6)	高 -	1.8 -	-/-/浅黄橙	底部中央器壁厚い。外面轆轤目やや顕著。底部左回転糸切無調整。	-
第298図	166	在地系土器 Ⅲ	- 1/3	口底 (9.0) (6.0)	高 -	1.4 -	-/-/淡黄	口に比して底大きい。口縁部内湾。底部器壁薄い。轆轤目左回転。底部回転糸切無調整。	-
第298図	167	在地系土器 Ⅲ	- 底部	口底 7.0	高 -	-	-/-/にぶい黄橙	内面螺旋状轆轤目。底部左回転糸切無調整。底部指で挟んだ部分が変形する。	-
第298図 PL.100	168	在地系土器 植木鉢	- 体部以下	口底 10.6	高 -	-	-/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面轆轤目顕著。底部中央水抜き穴1カ所。底部外面篋状工具による撫で。	-
第298図 PL.100	169	在地系土器 植木鉢	- 口縁部1/10、底部一部	口底 (12.5) (9.5)	高 -	11.5 -	-/-/にぶい橙	高台部分水抜きの挟り残る。外面の撫では丁寧で器表平滑。	-
第298図	170	在地系土器 焙烙	- 底部片	口底	高 -	-	-/-/灰	底部内面押印1カ所。	-
第298図	171	在地系土器 焙烙	- 底部片	口底	高 -	-	-/-/灰黄	断面灰白色、器表灰黄色。内面菊花状のスタンプ文。外面型痕。平底。	-
第298図	172	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	6.2 -	-/-/褐灰	断面中央黒色、器表付近灰黄色、内面から口縁部外面回転篋撫で。外面口縁部下篋削り。底部外面型痕残る。平底。	-
第298図	173	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.5 -	-/-/黄灰・暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転篋撫で。口縁部下外面篋削りで、中央部は型痕削り残る。底部外面型痕残る。	-
第299図 PL.100	174	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.3 -	-/-/灰白～黒	断面から器表付近灰白色、器表灰白色～黒色。内耳1カ所残存。内面から口縁部外面回転篋撫で。外面口縁部下接合痕残る。外面中位から底部外面型痕。体部外面下端篋削り。	-
第299図 PL.100	175	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.6 -	-/-/褐灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表褐灰色。内面から口縁部外面回転篋撫で、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。外面中位から底部外面型痕。体部外面下篋削り。平底。	-
第299図 PL.100	176	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.8 -	-/-/灰白～褐灰	断面灰白色、器表灰白色から褐灰色。内面から口縁部外面回転篋撫で。外面中位接合痕残る。内耳1カ所残存。外面中位から底部外面型痕。体部下端の篋削りなし。平底。	-
第299図 PL.100	177	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	6.0 -	-/-/灰黄	断面にぶい黄橙色、器表灰黄色。内面から口縁部外面回転篋撫で、内耳貼り付け。貼り付け部の幅は広い。外面中位接合痕残る。体部外面下位から底部外面型痕。体部外面下端幅の狭い篋削り。	-
第299図	178	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	6.3 -	-/-/黒	断面にぶい黄橙色、器表黒色。内面から外面中位回転篋撫で。内耳1カ所残存。外面口縁部下接合痕残る。外面中位から底部外面型痕残る。体部外面下端篋削り。平底。	-
第299図	179	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.8 -	-/-/灰黄～暗灰	内面から外面中位回転篋撫で。口縁部外面凹線1条。外面中位接合痕残る。体部外面下位以下型痕。体部外面下端は窪み、境は突き出る。平底。	-
第299図	180	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.6 -	-/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転篋撫で、外面口縁部以下から体部下端篋削り。体部外面の型痕削り取る。口縁部内面轆轤目。底部外面型痕。平底。	-
第299図	181	在地系土器 焙烙	- 口縁部から体部片	口底	高 -	-	-/-/浅黄橙	断面から器表浅黄橙色。口縁部幅広でやや窪む。口縁部下やや内湾。内面から口縁部外面回転篋撫で、外面口縁部下篋削り。内面轆轤目顕著。平底。	-
第299図	182	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.5 -	-/-/暗灰	断面黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色。内面から口縁部外面回転篋撫で、内耳貼り付け。体部外面下位から底部外面型痕。体部外面下端篋削り。平底。	-
第299図	183	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	高 -	5.7 -	-/-/黒	断面灰色、器表黒色。内面から口縁部外面回転篋撫で、内耳貼り付け。体部外面下位から底部外面型痕。体部外面下端篋削り。平底。	-
第299図	184	在地系土器 焙烙	- 1/4	口底 (36.4) (34.2)	高 -	6.0 -	-/-/黒	断面から外面器表の一部灰白色、器表灰色。内面から口縁部外面回転篋撫で。体部外面下位から底部外面型痕残るが、体部下端のみ篋削り。外面口縁部下接合痕残る。	-
第299図 PL.100	185	在地系土器 焙烙	- 1/5	口底 (35.6) (32.0)	高 -	5.3 -	-/-/灰白	断面中央黒色、器表付近から器表灰白色。内面回転篋撫で。内耳1カ所残存。外面中位接合痕残る。体部外面下位から底部外面型痕。体部外面下端篋削り。平底。	-
第299図 PL.100	186	在地系土器 焙烙	- 1/5	口底 (35.0) (32.0)	高 -	6.2 -	-/-/褐灰	断面にぶい橙色、器表褐灰色。口縁部内湾し、内面に小さく明瞭な段差。内面から体部外面下端回転篋撫で。体部外面中位以下の回転篋撫では弱く、型痕残る。外面中位の接合痕明瞭。体部と底部外面境突き出る。底部外面型痕。	-
第299図 PL.100	187	在地系土器 焙烙	- 1/5	口底 (37.2) (34.0)	高 -	4.6 -	-/-/暗灰	断面灰白色、器表黒色。体部外面下位括れ、口縁部外反。内外面部分的に接合痕残る。内面から体部外面中位回転篋撫で。体部外面下位から底部外面型痕残る。平底。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第299図 PL.100	188	在地系土器 焙烙	- 1/6	口底	(36.6)	高 -	-/-/黒	断面中央灰白色、器表付近にぶい橙色、内面器表にぶい橙色、外面器表黒褐色。丸底。底部外面型痕。	-
PL.100	189	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.7 -/-/黒	断面灰黄色、器表黒色。口縁部から体部外面器表の一部灰白色。口縁部内面から外面中位強い回転横撫で。内面口縁部以下回転横撫で。外面中央接合痕明瞭に残る。体部外面下位から底部外面型痕残るが、体部下端のみ窺削り。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	190	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/灰黄褐	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内耳1箇所残存。内面内耳貼り付け時の撫で。口縁部外面回転横撫で。外面口縁部下粗い窺削り。外面下位窪み部分に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	191	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	6.1 -/-/灰黄~灰	断面から外面器表灰白色、内面器表黄灰色。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部外面下接合痕明瞭に残る。外面中位から底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	192	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.8 -/-/にぶい黄橙	断面中央灰白色、器表灰色。内面内耳貼り付け時の撫で。口縁部外面回転横撫で。体部外面下位から底部外面型痕残る。体部外面下端のみ型痕を窺削り。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	193	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.7 -/-/にぶい橙	断面中央黒色、器表付近灰白色、内面から口縁部外面回転横撫で。外面下位以下型痕残る。体部外面下位斜めの線状窪み。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	194	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.1 -/-/褐灰	内面から口縁部外面回転横撫で。内耳1箇所残存。口縁部外面下接合痕残る。外面中位以下型痕を窺で削るが一部残存。底部外面型痕残る。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	195	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.3 -/-/黒	断面灰白色、器表黒色。口縁部端部やや平坦。体部やや内湾。内面から口縁部外面回転横撫で。内面輪軸目顕著。外面口縁部以下型痕を窺で削り取る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	196	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.4 -/-/灰黄・黒	断面中央黒色、器表付近と内面器表灰黄色、外面器表黒色。内面から口縁部外面回転横撫で後、体部外面窺削り。体部外面下位の窪んだ部分に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	197	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.6 -/-/灰白	断面から器表灰白色。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。口縁部の回転横撫では弱く、外面窪みの撫で残しが認められる。体部外面窺削り、下位の窪み部分に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	198	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/暗灰	断面灰白色、器表暗灰色。内面から口縁部外面回転横撫で後、体部外面窺削り。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	199	在地系土器 焙烙	- 口縁部から体部片	口底	-	高 -	-/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。体部中位屈曲味に内湾。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部外面接合痕残る。体部外面中位以下型痕。体部外面下端窺削り。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	200	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色、底部外面器表灰白色。内面から口縁部外面回転横撫で。外面口縁部下から底部外面型痕。体部外面下端窪み、境は底部境は突き出る。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	201	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.0 -/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。口縁部外面窺削り、中位の窪み部分は帯状に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	202	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.4 -/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。口縁部外面接合痕残る。体部外面窺削り、中位の窪み部分は帯状に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	203	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.4 -/-/灰	断面灰白色、器表灰色。体部内湾し、口縁部肥厚。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部内面輪軸目顕著。外面口縁部以下窺削り。体部外面部分的に型痕削り残りあり。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	204	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	6.0 -/-/黒	断面灰白色、器表黒色。内面から外面中位回転横撫で後、内耳貼り付け。体部中位外面から底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	205	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	6.4 -/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面から体部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。外面中位接合痕明瞭に残る。体部外面下位から底部外面型痕。底部外面下端括れ、底部境突き出る。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	206	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	6.2 -/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。口縁部内外面輪軸目顕著。外面中位接合痕明瞭に残る。体部下位底部外面型痕。体部外面下端型窺で削り取る。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	207	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁部内湾。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。体部外面窺削りて体部下位窪み部分帯状に型痕残る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.100	208	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.9 -/-/灰白・暗灰	断面と内面器表灰白色、外面器表暗灰色。内面から外面中位回転横撫で。外面中位接合痕明瞭に残る。外面中位から底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.101	209	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/灰白・灰	断面と内面器表灰白色、外面器表灰色。体部から口縁部直線的に立ち上がる。体部下位から口縁部に向かうにしたがい器壁薄くなる。内面から外面下位回転横撫で後、外面下位窺削り。体部外面に型痕残らない。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
PL.101	210	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部片	口底	-	高 -	5.5 -/-/暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表暗灰色。体部内湾。口縁部肥厚。内面から口縁部外面回転横撫で後、内耳貼り付け。内耳貼り付け部は幅広い。外面口縁部下窺削り。体部の型痕すべて削り取る。底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。



挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高	5.8				
PL.101	211	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部 片	口底	-	高	5.8	-/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内縁から口縁部外面回転横撫で。口縁部外面下位接合痕明瞭に残る。外面中位から底部外面型痕。体部外面下位窪み、底部境やや突き出る。平底。	写真のみ掲載。
PL.101	212	在地系土器 焙烙	- 口縁部から底部 片	口底	-	高	5.8	-/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。内面から外面中位回転横撫で。体部外面下位から底部外面型痕。外面中位接合痕残る。体部外面下位の窪み部接合痕か。体部外面下位から底部外面型痕。平底。	写真のみ掲載。
第300図	213	在地系土器 鍋	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/褐灰	口縁部外反し、内面やや窪む。内面から口縁部外面回転横撫で。口縁部外面以下撫で。	-
第300図	214	在地系土器 香炉か	- 1/6	口底	(12.0) (9.7)	高	5.4	-/-/灰黄~灰	断面黒色、器表付近灰黄色、器表灰黄色から灰色。内面轆轤目顕著。外面器表剥離部分多い。脚の1部残存。脚は3カ所であろう。	-
第300図	215	在地系土器 風炉か火鉢	- 口縁部1/6	口底	(33.5)	高	-	-/-/浅黄橙	断面中央黒色、器表付近灰白色、外面黒色。内面口縁部した接合痕残る。内面器表煤付着。	-
第300図	216	在地系土器 火鉢か	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/黄灰・暗灰	断面中央黒色、器表付近から内面器表黄灰色、外面器表暗灰色。内面から口縁部外面回転横撫で。外面口縁部下粗い磨き。	-
第300図	217	在地系土器 火鉢か	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。口縁部内側に突き出る。内面回転横撫で。口縁部上面から外面磨きにより光沢有する。	-
第300図	218	在地系土器 火鉢か	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/にぶい黄橙	断面灰黄色、器表付近から器表にぶい黄橙色。口縁部強い回転横撫で。体部外面回転横撫で。他は撫で。外面スタンブ文1カ所残存。	-
第300図 PL.101	219	在地系土器 置輪	- 1/4	口底	(27.3) (32.0)	高	4.1	-/-/にぶい黄橙	断面「L」字状。底面器表外半は器表黒色。内面下端窪削り。	-
第300図	220	在地系土器 置輪	- 1/6	口底	(28.8) (33.0)	高	3.8	-/-/灰黄褐	器表煤付着。割れ口にも煤付着。内面下端窪削り。	-
PL.101	221	在地系土器 置輪	- 破片	口底	-	高	-	-/-/灰白	断面「L」字状。底面器表は煤付着し黒色。内面下端窪削り。	写真のみ掲載。
第300図	222	常滑陶器か 甕	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/黒	断面中央暗灰色、器表付近から器表橙色。口縁部回転横撫で。体部内外面板状工具による横位撫で。焼き締まり無く土器に近い。	赤物か。
第300図	223	常滑陶器 甕	- 口縁部片	口底	-	高	-	-/-/黒	断面淡黄色、器表橙色、口縁部上面暗灰色。内外面回転横撫で。酸化炎焼成。焼き締まる。	-
第301図	224	在地系土器 羽口	- 先端部	外内	5.2~6.1 2.6~3.0	長	-	-/-/褐灰	先端に被熱痕は認められない。型作り。	-
第301図 PL.101	225	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	25.7	厚	2.4	-/-/淡黄	形状は小型砥石状。表裏共に凹凸多い。	-
第301図	226	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	-	厚	4.0	-/-/黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。表面中央やや窪む。裏面指頭圧痕状窪み。	-
第301図	227	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	6.1	厚	2.3	-/-/黒	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表黒色。表面中央溝状にやや窪む。	-
第301図 PL.101	228	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	4.2	厚	2.7	-/-/にぶい褐	断面中央灰色、器表付近から器表にぶい褐色。横断面不整楕円形。裏面縦方向の溝状窪み複数。他の不明製品と断面形状異なる。	-
第301図	229	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長幅	5.0	厚	3.3	-/-/灰	断面浅黄色、器表灰色。表面皺状の筋。型作り痕か。中央部やや窪む。	-
第301図	230	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	-	厚	-	-/-/灰	断面灰白色、器表灰色。表面溝状の窪み複数条。裏面の状態は欠損し不明。	-
第301図	231	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長幅	-	厚	-	-/-/淡黄	横断面形が楕円形か。欠損部多く詳細不明。	-
第301図	232	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	5.5	厚	2.8	-/-/灰白~黒	断面灰白色、器表は灰白色から黒色。表面は皺状の細かい窪みが線状に入る。型作り痕か。他の面は丁寧な撫で調整。	-
第302図	233	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	6.2	厚	3.1	-/-/黒	断面灰白色、器表黒色。表面中央浅い溝状に窪む。裏面欠損。	-
第302図	234	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長幅	6.7	厚	-	-/-/灰白	幅広の角棒状。一方の平面欠損。	-
第302図	235	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長幅	5.3	厚	2.7	-/-/にぶい黄橙	角棒状を呈し、一方の平面中央付近に指頭圧痕状の窪みがらぶ。	-
第302図 PL.101	236	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長幅	5.7	厚	3.7	-/-/灰白~灰	断面灰白色、器表灰白色から灰色。次第に幅狭くなり、端部付近の破片であろう。平面、側面共に指頭圧痕状の窪み。	-
第302図 PL.101	237	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長幅	6.2	厚	4.1	-/-/浅黄橙	中央部黒灰色、器表付近から器表浅黄橙色。一方の平面中央付近、浅い溝状に窪む。	-

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長 幅	厚	3.0			
第302図 PL.101	238	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長 幅 5.4	厚 -	3.0	-/-/暗灰	断面灰白色、器表暗灰色。表面段差部分のみ器表灰白色。表面端部付近段差。裏面中央部は窪む。	-
第303図 PL.101	239	在地系土器 不明棒状土 製品	- 端部片	長 幅 4.2	厚 -	2.1	-/-/浅黄橙	角棒状を呈し、先端部はやや細い。先端部は粘土を潰したような痕跡残る。平面中央は浅い溝状に窪み、条線状の深い皺をなす。	-
PL.101	240	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/浅黄橙	表面は平坦。小片のため断面形不明。	写真のみ掲載。
PL.101	241	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/灰	断面灰白色、器表灰色。小片のため断面形状不明。	写真のみ掲載。
PL.101	242	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/浅黄橙	表面中央浅い溝状に窪む。小片のため断面形不明。	写真のみ掲載。
PL.101	243	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長 幅 4.8	厚 -	2.9	-/-/浅黄橙	表裏面平坦。小片のため詳細不明。	写真のみ掲載。
PL.101	244	在地系土器 不明棒状土 製品	- 破片	長 幅 -	厚 -	4.1	-/-/灰白~灰	断面形は隅丸長方形。角柱状製品の一部分であろう。	写真のみ掲載。
第303図	245	瓦 十能瓦	- 角部片	長 幅 -	厚 -	1.2	-/-/灰白~暗灰	断面黒色、器表灰白色、器表灰白色から暗灰色。	-
第303図	246	瓦 十能瓦	- 角部片	長 幅 -	厚 -	1.5	-/-/灰黄	断面黒色、器表付近から器表灰黄色~灰色。側縁屈曲し、端部広い平坦面。	-
第303図	247	瓦 十能瓦	- 側縁部片	長 幅 -	厚 -	1.2	-/-/にぶい黄褐	酸化炎焼成。裏面型痕。側縁湾曲部表面撫で。	-
第303図	248	瓦 棧瓦	- 1/8	長 幅 -	厚 -	-	-/-/黒	断面中央灰色、器表付近灰白色、器表暗灰色から黒色。	-
第303図	249	瓦 十能瓦	- 側縁部片	長 幅 -	厚 -	1.0	-/-/にぶい黄褐	酸化炎焼成。裏面型痕。側縁湾曲部表面撫で。	-
第303図	250	瓦 十能瓦軒先 部	- 軒先部片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/灰~暗灰	断面中央黒色、器表付近灰白色、器表灰色から暗灰色。文様区は広く、明瞭な唐草文。文様区裏面は撫で。	-
第303図	251	瓦 十能瓦	- 角部片	長 幅 -	厚 -	1.4	-/-/灰白	断面黒色、器表付近から器表灰白色。裏面型痕。側縁湾曲部と下端部表面撫で。	-
第303図 PL.101	252	瓦 軒先瓦	- 軒先部片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/黒	断面灰色、器表付近灰白色、器表黒色。軒先部菊花文で、中心部暗赤褐色。焼き締まりはない。軒先貼り付け部は直線的。	-
第303図	253	在地系土器 十能瓦	- 1/4	長 幅 -	厚 -	1.4	-/-/黒	瓦側縁を湾曲させる。湾曲部上面撫で。裏面型痕残る。	-
第303図	254	瓦 十能瓦軒先 部	- 軒先部片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/灰黄褐	断面中央黒色、器表付近から器表灰黄褐色。文様区は狭い。文様は簡略化した唐草文。文様区裏面は型痕残る。	-
第303図 PL.101	255	瓦 軒先瓦	- 軒先部片	長 幅 -	厚 -	-	-/-/灰~黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表灰色~黒色。軒先部三巴文。裏面貼り付け部は「へ」字状。	-
PL.101	256	石造物 多層塔屋蓋 部	- 略完形	長 幅 29.3 29.9	厚 重 9.0 12900.0	-	溶結凝灰岩/-/-	軒の反りはなく平坦。丁寧な成・整形で工具痕を殆ど残さず。単品のため層数不明。検出時は上位軸部箇所に燈籠火袋部をコンクリート付。近世~近代。	写真のみ掲載。
PL.101	257	石造物 石燈籠火袋 部	- 破片	長 幅 15.1 15.6	厚 重 5.6 1802.6	-	溶結凝灰岩/-/-	火袋下端部片。側面に額縁状の造り出し。外面は丁寧な成・整形。内面下方に丸タガネ状の工具痕を筋状に残す。近世~近代。	写真のみ掲載。

第41表 間之原東遺跡出土遺物観察表  
間之原東1区1号竪穴住居

第308図	1	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	9.6 -	高 -	3.7 -	細砂粒/良好/橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面に漆塗布。
第308図	2	土師器 杯	埋没土 1/4	口 底	11.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第308図	3	土師器 杯	埋没土 1/4	口 底	12.1 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状のへら磨きを重ねる。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第308図	4	土師器 杯	埋没土 破片	口 底	12.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面に漆塗布。器面は摩滅。
第308図	5	土師器 杯	埋没土 1/3	口 底	13.2 -	高 -	-	粗砂粒少/良好/に ぶい黄橙	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状にへら磨き。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。
第308図 PL.102	6	土師器 杯	埋没土 2/3	口 底	12.8 -	高 -	3.9	粗砂粒・赤色粘土 粒/良好/黒	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデの上に放射状にへら磨き。	口縁部外面と内面全面に漆塗布。器面は摩滅。
第308図	7	土師器 杯	埋没土 破片	口 底	12.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い黄橙	口縁部は底部との間に稜を有する。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面とも漆塗布。
第308図	8	土師器 杯	床面上6~10cm 1/3	口 底	14.0 -	高 -	-	細砂粒/良好/にぶ い褐	口縁部は中位に弱い段を有する。底部との間に稜をなす。横ナデ。底部外面は手持ちへら削り。内面はナデ。	内外面に炭素吸着。

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口底	高さ	厚み				
第308図 PL.102	9	土師器 杯	埋没土 1/2	口底	13.2	高 -	-	粗砂粒/良好/灰黄 褐	口縁部は底部との間に弱い稜を有する。底部外面は手持ち ヘラ削り。内面はナデ。	器面に炭素吸 着。摩滅。内 面に漆塗布か。
第308図	10	土師器 小型甕	埋没土 口縁部～胴部上 位片	口底	13.9	高 -	-	粗砂粒/良好/にぶ い橙	口縁部は横ナデ。胴部外面は横位のヘラ削り。	被熱。内面は 摩滅。
第308図	11	土師器 甕	床面上6～10cm 口縁部～胴部上 位1/3	口底	22.8	高 -	-	粗砂粒・黒色粘土 粒/良好/橙	口縁部は横ナデ。胴部外面はヘラ削り。	内面は摩滅。
第308図 PL.102	12	土製品 土錘	埋没土 一部欠損	長 幅	5.1 1.3	厚 孔	1.3 0.4	細砂粒/酸化焰/明 黄褐	小径。両小口部分の直径と最大径の差が小さく棒状を呈す る。	器面はやや摩 滅。重量6.86g
第308図	13	土製品 土玉	床直 1/2	長 幅	- 0.8	厚 孔	0.7 0.15	精選/良好/灰黄褐	焼成前に穿孔。小口部分に平坦面を有す。一方の小口部分 は欠損。	重量さ0.26g 器面に炭素吸 着。
第308図	14	土製品 土玉	埋没土 完形	長 幅	0.6 0.8	厚 孔	0.7 0.1～ (0.15)	精選/良好/オリ ブ黒	焼成前に穿孔。器面は丁寧なナデ。	重量さ0.37g 器面に炭素吸 着。
第308図 PL.102	15	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.2 1.2	厚 重	0.1 0.3	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-
第308図 PL.102	16	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.3 1.2	厚 重	0.5 0.9	硬質泥岩/-/-	孔径2mm。正面は割ったままで研磨は認められない。裏面 には粗削り時の剥離痕が残る。側面に縦方向の研磨痕が見 られる。	-
第308図 PL.102	17	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.3 1.2	厚 重	0.7 1.3	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。側面に研磨の痕跡が縦方向に残る。	-
第308図 PL.102	18	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.5 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面左側に工具痕またはキズが見られる。側面 に縦方向の研磨痕が認められる。	-
第309図 PL.102	19	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.1 1.3	厚 重	0.8 1.3	硬質泥岩/-/-	孔径2.5mm。正面に研磨痕あり。側面に縦方向または横方 向の研磨痕が残る。	-
第309図 PL.102	20	石製品 白玉	床面上10cm 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.4 0.7	硬質泥岩/-/-	2点接合。孔径4mm。円柱状素材の端部。輪切り後は割っ たままで研磨は認められない。	21と接合。計 測値は20が2点 接合した状態。
第309図 PL.102	21	石製品 白玉	床面上10cm 完形	長 幅	1.2 1.2	厚 重	0.5 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。裏面に側面方向からの剥離痕が認められる。側 面に縦方向の研磨痕が見られる。	20と接合。
第309図 PL.102	22	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.3 1.4	厚 重	0.3 0.6	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面に溝状の線刻？が見られる。裏面の一部に 研磨の痕跡が残る。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-
第309図 PL.102	23	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.5 0.7	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。正面は割ったまま。側面に研磨の痕跡が縦方向 に残る。	24と接合。
第309図 PL.102	24	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.5 0.7	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。正面の一部は研磨の痕跡が見られる。裏面は割っ たまま。側面に縦方向の研磨痕が残る。	23と接合。
第309図 PL.102	25	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.2 1.3	厚 重	0.6 1.3	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面・裏面とも研磨されている。正面では孔と 同心円状の線状痕が残る。側面に縦方向の研磨痕が見られ る。	-
第309図 PL.102	26	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.4 0.6	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面・裏面とも一部研磨痕が残る。側面に縦方 向の研磨痕を有する。	-
第309図 PL.102	27	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.2 1.2	厚 重	0.5 0.8	硬質泥岩/-/-	孔径2.5mm。正面・裏面とも研磨されている。側面に縦方 向の研磨痕が見られる。	-
第309図 PL.102	28	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.2 1.1	厚 重	0.6 1.1	硬質泥岩/-/-	孔径3.5mm。正面・裏面とも研磨されている。側面に縦方 向の研磨痕が残る。	-
第309図 PL.102	29	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.0 1.0	厚 重	0.3 0.3	硬質泥岩/-/-	孔径3.5mm。側面に縦方向の研磨痕を有する。	-
第309図 PL.102	30	石製品 白玉	掘り方 完形	長 幅	1.3 1.2	厚 重	0.2 0.5	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面・裏面とも研磨痕が部分的に見られる。側 面には研磨の痕跡が縦方向に認められる。	-
第309図 PL.102	31	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.1 1.2	厚 重	0.4 0.7	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面・裏面とも研磨痕が部分的に見られる。側 面には縦方向の研磨痕を有する。	-
第309図 PL.102	32	石製品 白玉	埋没土 完形	長 幅	1.1 1.1	厚 重	0.6 1.0	硬質泥岩/-/-	孔径4mm。正面・裏面とも研磨されている。側面には縦方 向の研磨痕が見られる。	-
第309図 PL.102	33	石製品 白玉	床面上10cm 完形	長 幅	1.3 1.5	厚 重	0.4 1.1	硬質泥岩/-/-	孔径3.5mm。孔周辺に穿孔時の痕跡が残る。正面の凸部の 研磨痕が見られる。側面に縦方向の研磨痕が認められる。	34と接合。
第309図 PL.102	34	石製品 白玉	床面上10cm 完形	長 幅	1.3 1.5	厚 重	0.2 0.4	硬質泥岩/-/-	孔径3mm。正面は割ったまま。側面に研磨の痕跡が縦方向 に残る。	33と接合。

間之原東遺跡遺構外

第311図 PL.102	1	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/D	半截竹管及び篋状工具による連続爪形文や変形爪形文を横 位多段に施文。外面に煤状炭化物付着。	浮島式
第311図 PL.102	2	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/C	L縄文を横位施文し、多截竹管の横位集合沈線文を多段に 施文。	諸磯b式
第311図 PL.102	3	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/C	L縄文を横位施文し、多截竹管の集合沈線文により渦巻状 の意匠を構成。内面一部に煤状炭化物付着。	諸磯b式
第311図 PL.102	4	縄文土器 深鉢	- 胴部片	-	-	-	-	-/-/C	多截竹管の横位集合沈線文を多段に施文。	諸磯b式
第311図 PL.102	5	剥片石器 石鏃	- 略完形	長 幅	(2.7) 1.3	厚 重	0.4 1.0	チャート/-/-	両面全面に押圧剥離による二次加工を施し整形している。 正面先端部の剥離痕は衝撃剥離による可能性が高い。下端 部欠損。	凸基有茎鏃
第311図 PL.102	6	剥片石器 石鏃	- 完形	長 幅	2.1 1.5	厚 重	0.3 0.6	チャート/-/-	表裏全面に二次加工を施し整形している。	凹基無茎鏃
第311図 PL.102	7	石製品 白玉	- 完形	長 幅	1.5 1.5	厚 重	0.5 1.4	硬質泥岩/-/-	孔径4.0mm。正面・裏面とも研磨。側面に縦方向の研磨痕 を有する。	-

# 写真図版







1. 1区東部全景(東上空から)



2. 1区東部全景(上が北)





1. 1区中央部全景(上が北)



2. 1区中央部全景(上が北)





1. 1区西部全景(上が北)



2. 3区全景(上が北)





1. 3区全景(北東上空から)



2. 3区全景(東から)

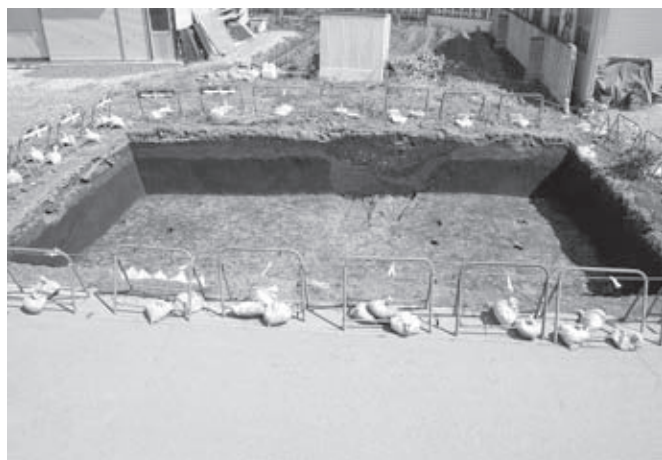




1. 1区東端調査区全景(北から)



2. 2区西部全景(東から)



3. 2区東部全景(南から)



4. 3区北西部全景(南から)

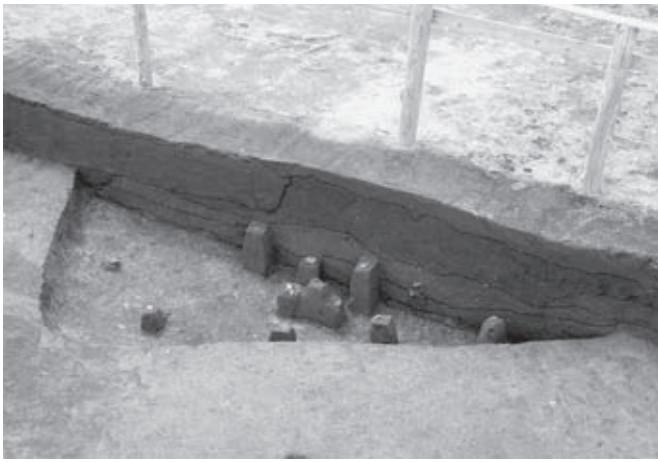


5. 1区基本土層断面2(西から)



6. 1区基本土層断面4(北から)





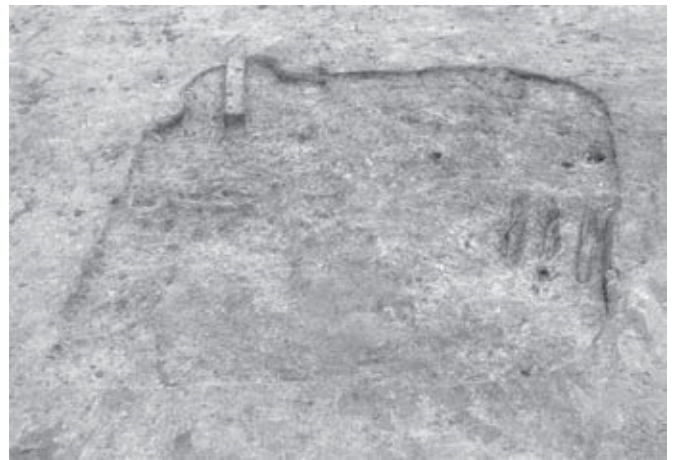
1. 1区1号竪穴住居遺物出土状態(北西から)



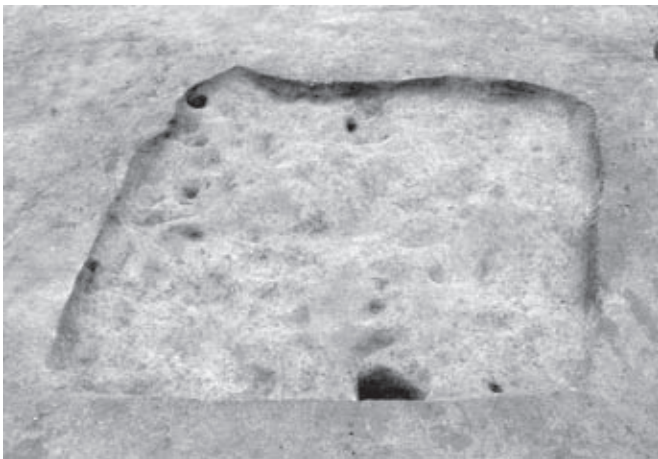
2. 1区1号竪穴住居全景(北西から)



3. 1区1号竪穴住居掘り方全景(北西から)



4. 1区3号竪穴住居全景(西から)



5. 1区3号竪穴住居掘り方全景(西から)



6. 1区4号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



7. 1区4号竪穴住居遺物出土状態(東から)

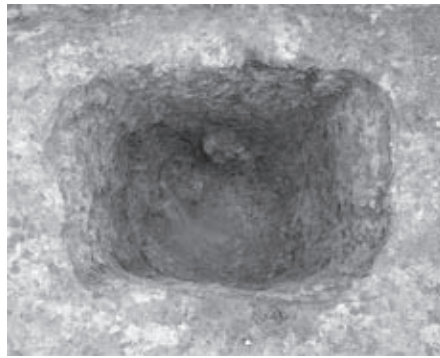


8. 1区4号竪穴住居全景(南東から)

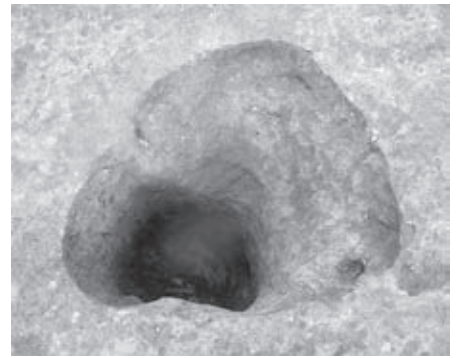




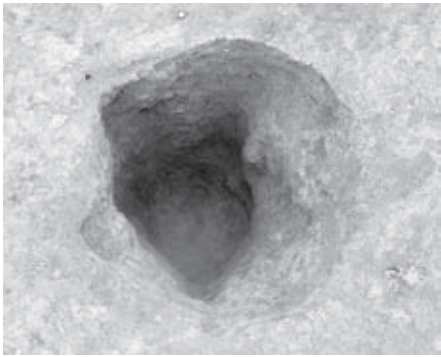
1. 1区4号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(東から)



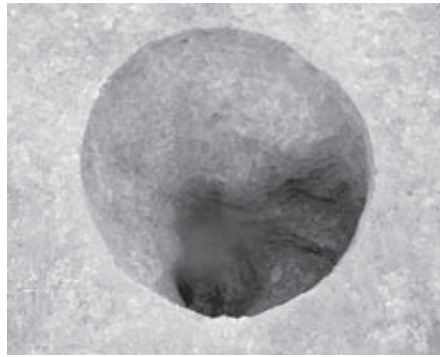
2. 1区4号竪穴住居貯蔵穴全景(東から)



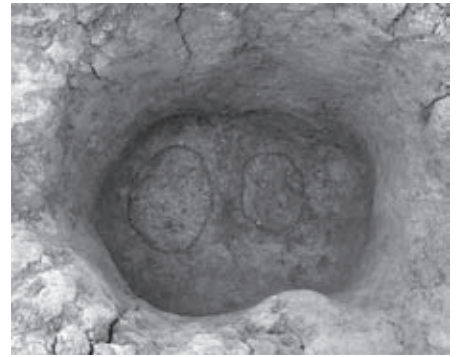
3. 1区4号竪穴住居P 1 全景(東から)



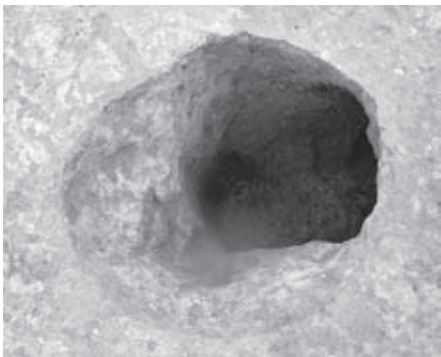
4. 1区4号竪穴住居P 2 全景(東から)



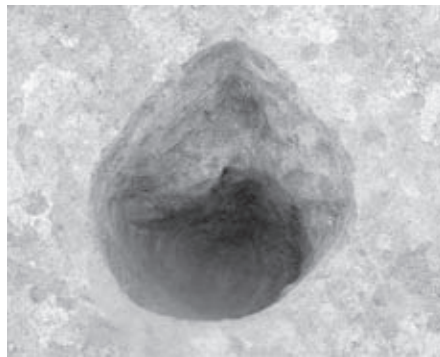
5. 1区4号竪穴住居P 3 全景(東から)



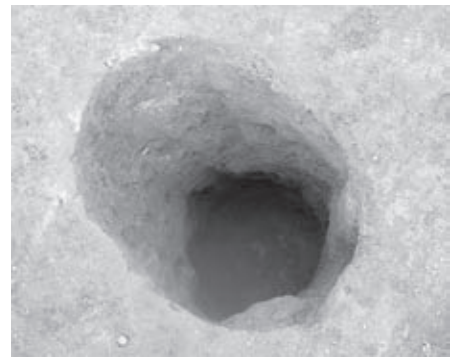
6. 1区4号竪穴住居P 3 底面全景(西から)



7. 1区4号竪穴住居P 4 全景(東から)



8. 1区4号竪穴住居P 5 全景(東から)



9. 1区4号竪穴住居P 6 全景(東から)



10. 1区4号竪穴住居P10・11・15全景(南東から)



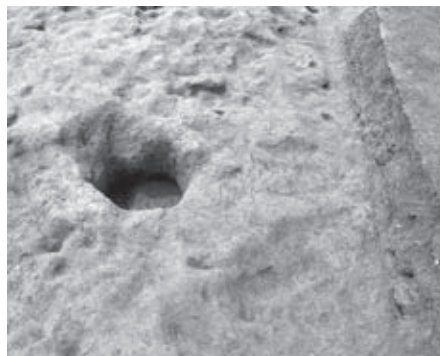
11. 1区4号竪穴住居P15全景(東から)



12. 1区4号竪穴住居P12～14全景(南東から)



13. 1区4号竪穴住居P 1 南側間仕切り溝(南東から)

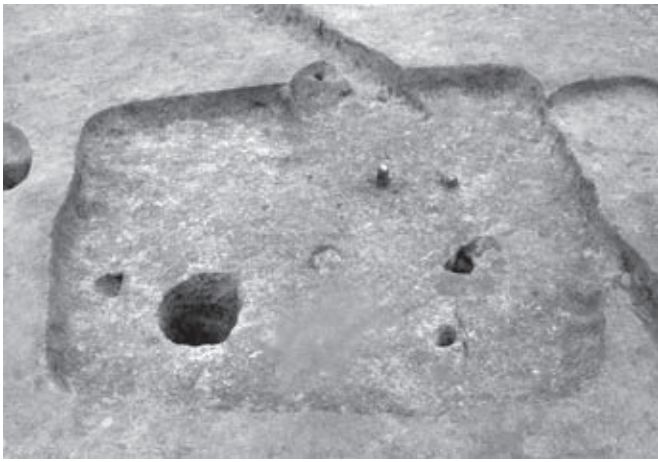


14. 1区4号竪穴住居P 3 北側間仕切り溝(南東から)



15. 1区4号竪穴住居掘り方全景(南東から)

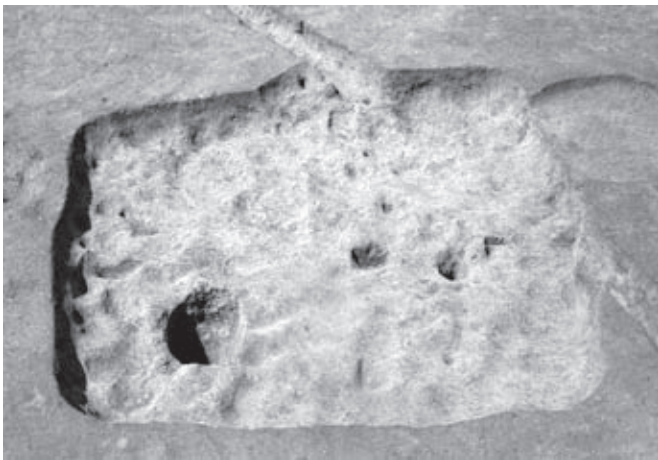




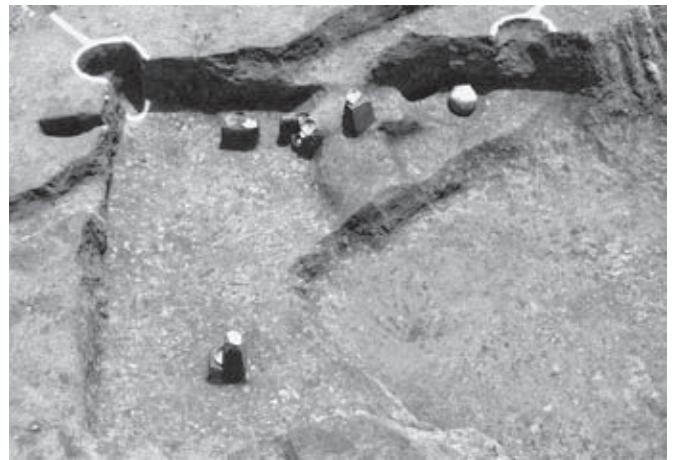
1. 1区5号竪穴住居遺物出土状態(北東から)



2. 1区5号竪穴住居カマド全景(北東から)



3. 1区5号竪穴住居掘り方全景(北東から)



4. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)



5. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)



6. 1区6号竪穴住居遺物出土状態(北西から)

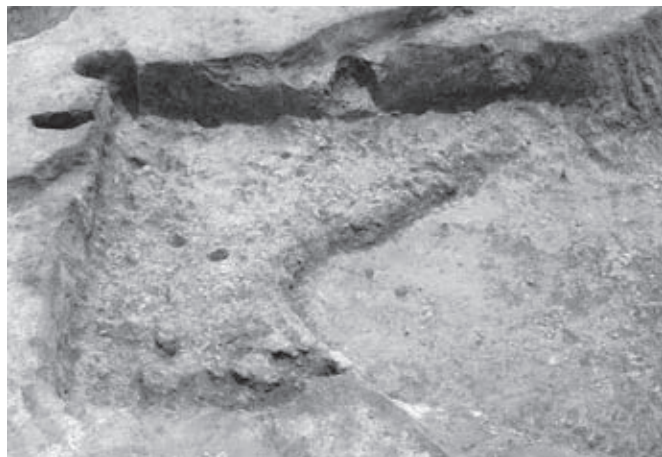


7. 1区6号竪穴住居全景(北西から)



8. 1区6号竪穴住居カマド全景(北西から)





1. 1区6号竪穴住居掘り方全景(北西から)



2. 1区12号竪穴住居遺物出土状態(北から)



3. 1区12号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)



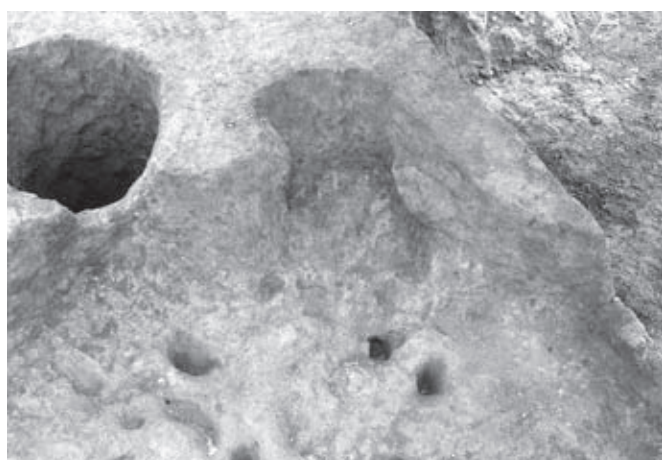
4. 1区12号竪穴住居カマド全景(北東から)



5. 1区12号竪穴住居全景(北から)



6. 1区12号竪穴住居掘り方全景(北から)



7. 1区12号竪穴住居カマド掘り方全景(北東から)

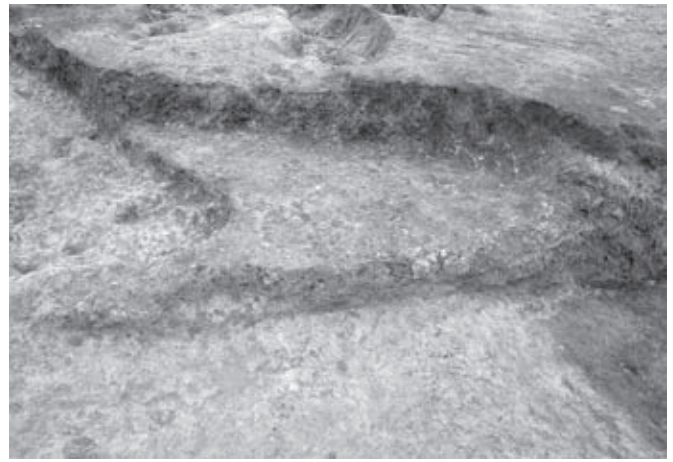


8. 1区13号竪穴住居カマド土層断面(南東から)

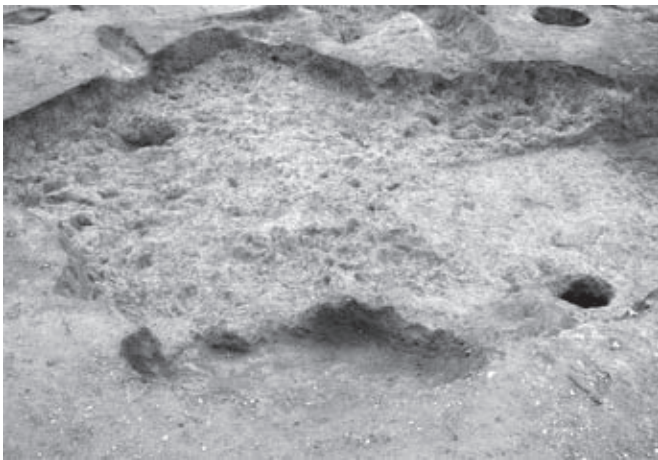




1. 1区13号竪穴住居掘り方全景(東から)



2. 1区15号竪穴住居全景(南東から)



3. 1区15号竪穴住居掘り方全景(南東から)



4. 1区16号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



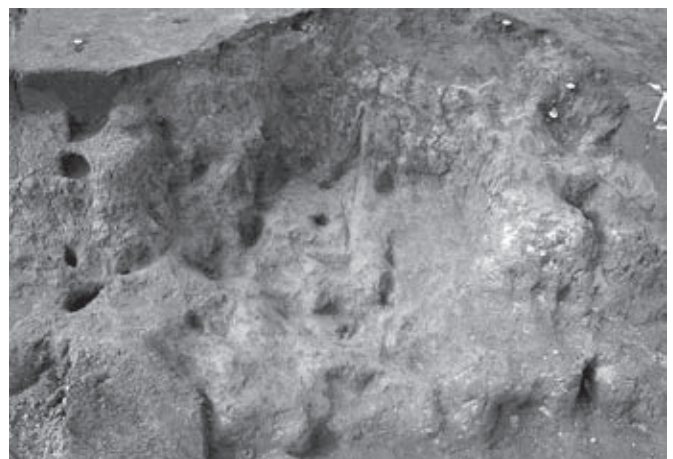
5. 1区16号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



6. 1区16号竪穴住居1号カマド遺物出土状態(南東から)

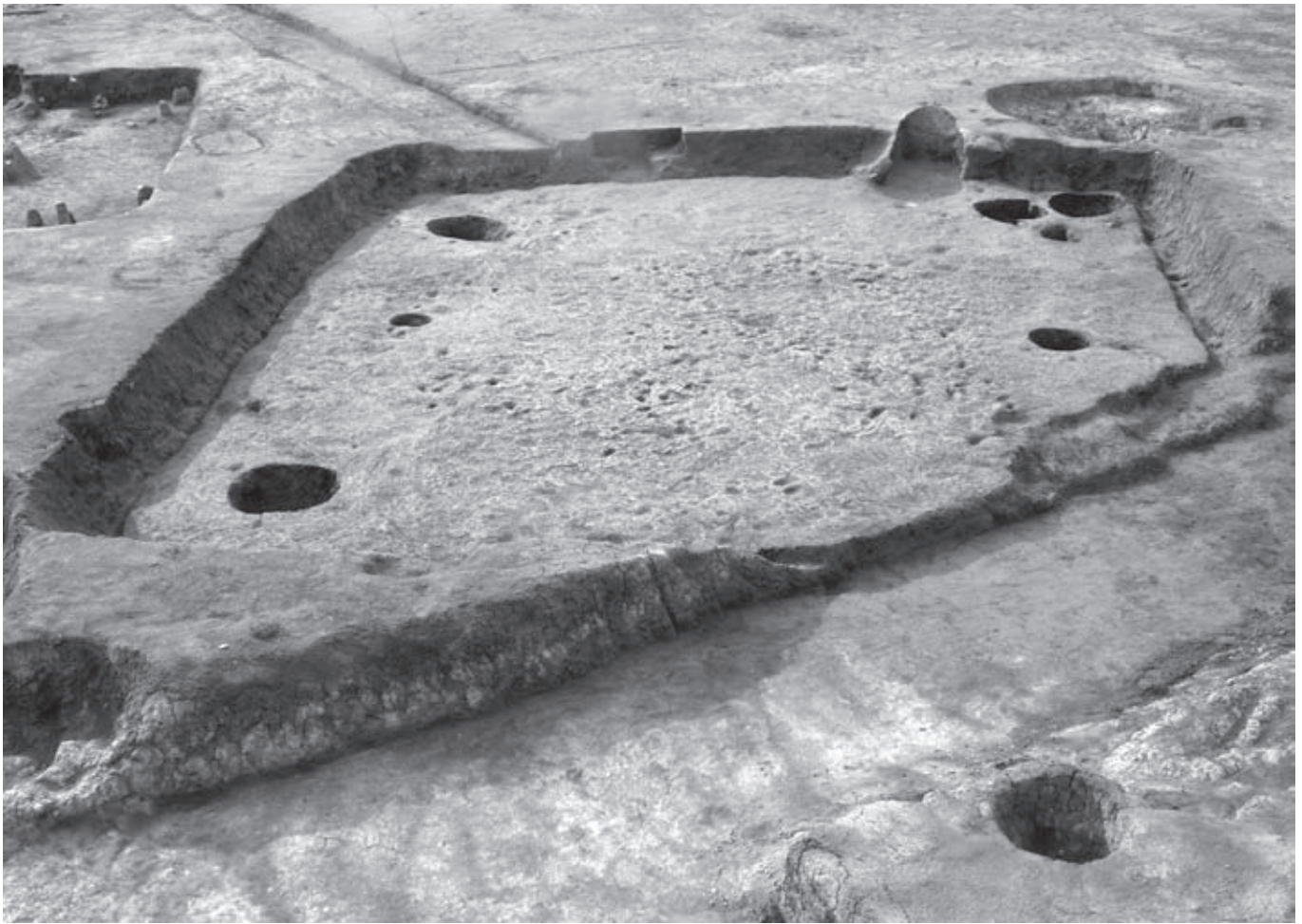


7. 1区16号竪穴住居1号カマド全景(南東から)

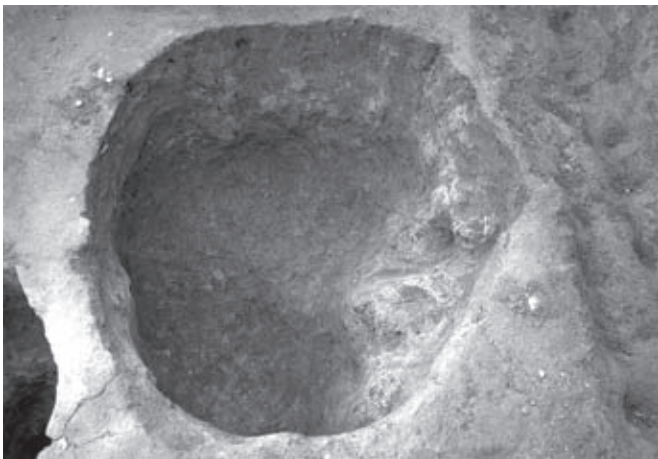


8. 1区16号竪穴住居1号カマド掘り方全景(南東から)

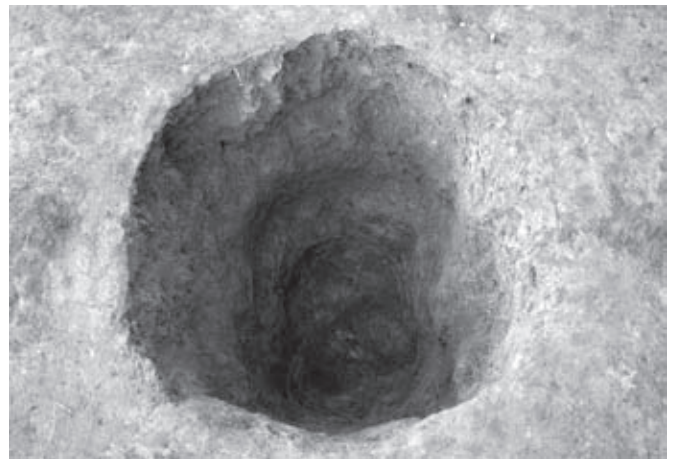




1. 1区16号竪穴住居全景(南東から)



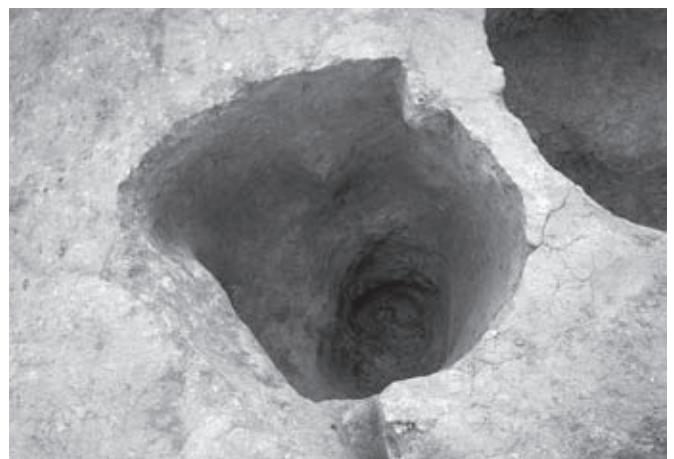
2. 1区16号竪穴住居貯蔵穴全景(南東から)



3. 1区16号竪穴住居P 1 全景(南から)

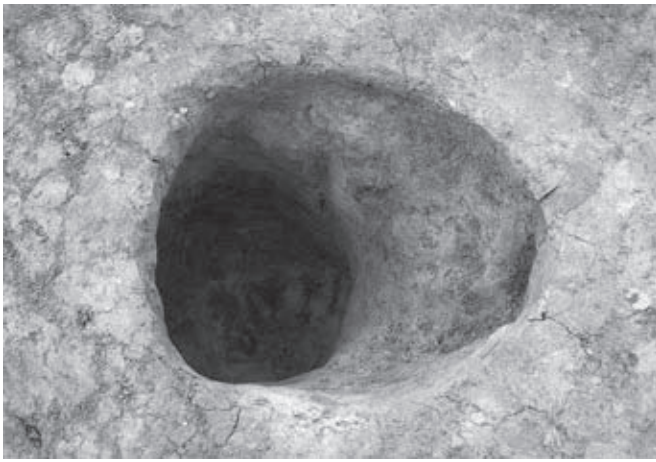


4. 1区16号竪穴住居P 2 全景(南から)

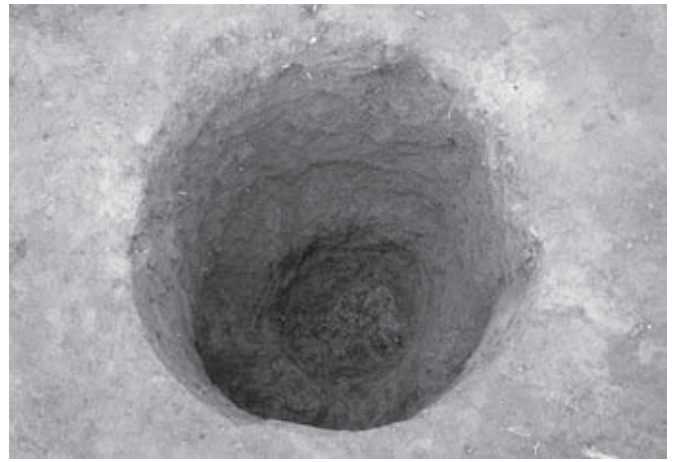


5. 1区16号竪穴住居P 3 全景(南東から)

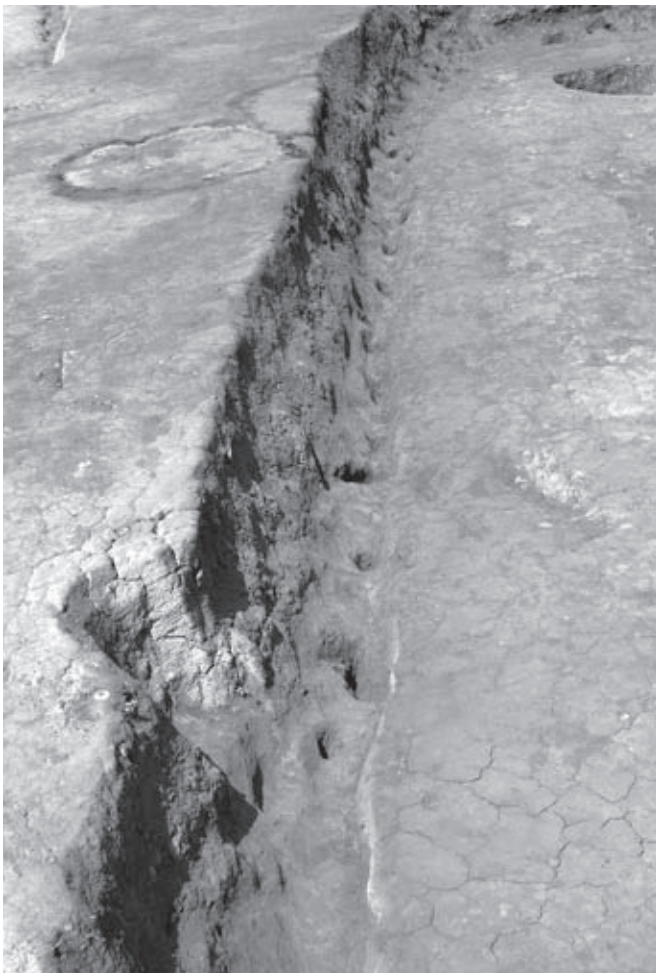




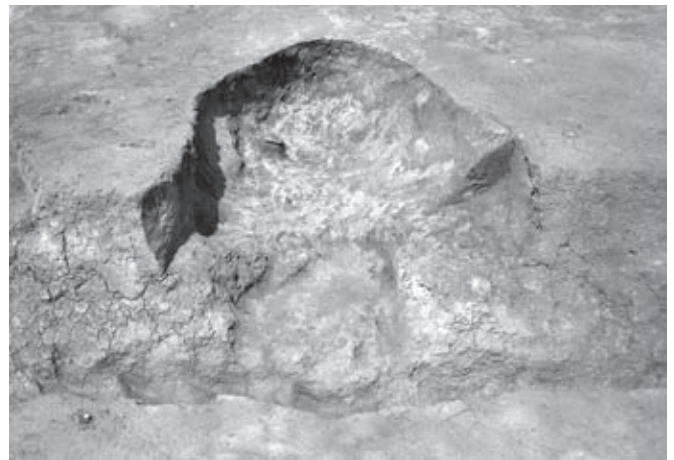
1. 1区16号竪穴住居P 4 全景(南から)



2. 1区16号竪穴住居P 5 全景(南から)



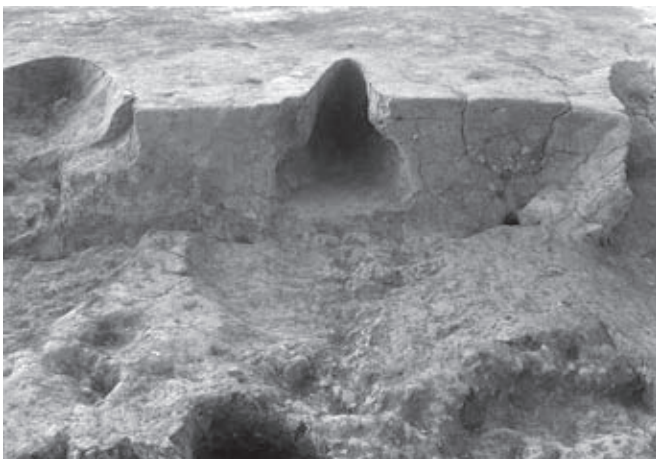
3. 1区16号竪穴住居西壁周溝全景(北東から)



4. 1区16号竪穴住居2号カマド全景(南東から)



5. 1区16号竪穴住居2号カマド掘り方全景(南東から)



6. 1区16号竪穴住居3号カマド全景(南東から)



7. 1区16号竪穴住居3号カマド掘り方全景(南東から)





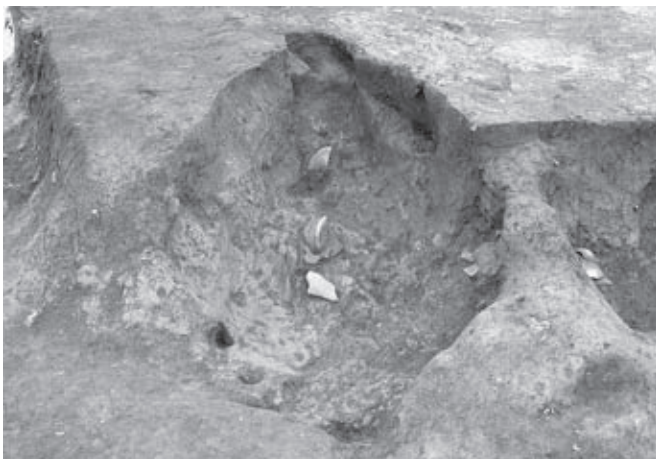
1. 1区16号竪穴住居と竪穴住居群(上が南)



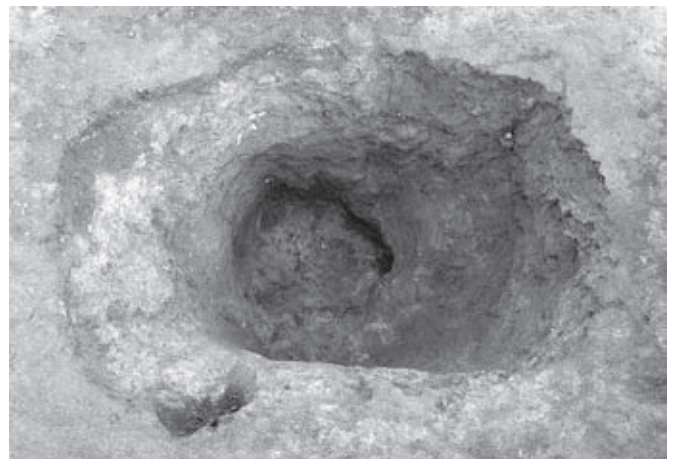
2. 1区19号竪穴住居全景(北から)



3. 1区20号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区20号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)

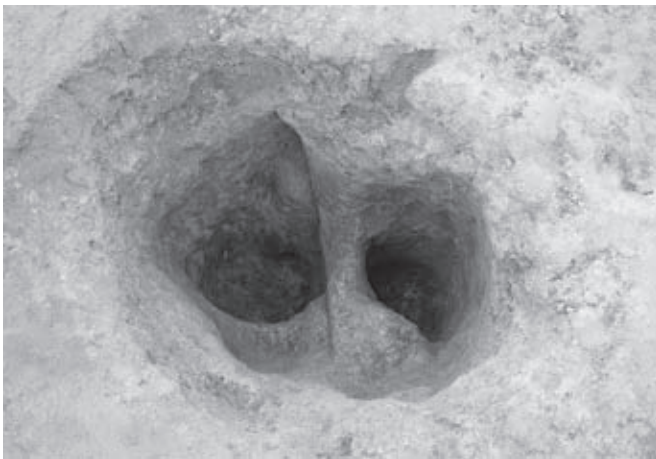


5. 1区20号竪穴住居貯蔵穴全景(北西から)

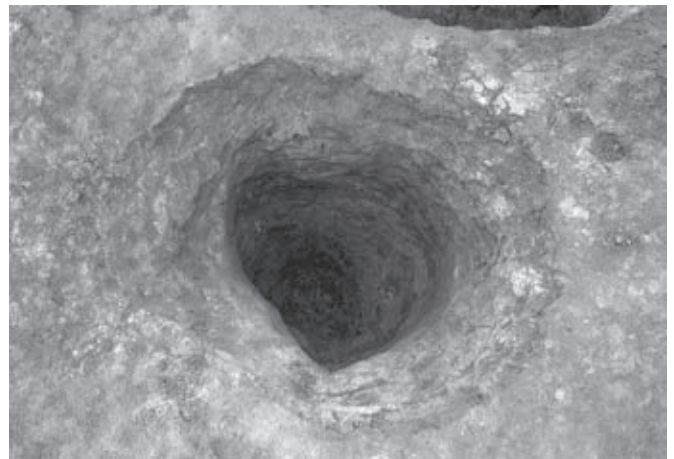




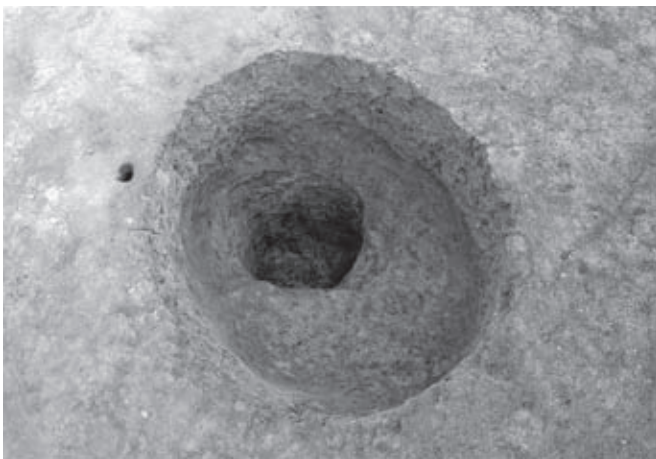
1. 1区20号竪穴住居全景(南東から)



2. 1区20号竪穴住居P 2 全景(南東から)



3. 1区20号竪穴住居P 3 全景(南から)



4. 1区20号竪穴住居P 4 全景(北西から)



5. 1区20号竪穴住居掘り方全景(南東から)





1. 1区21号竪穴住居遺物出土状態(西から)



2. 1区21号竪穴住居土層断面(北から)



3. 1区21号竪穴住居全景(北西から)



4. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(南西から)





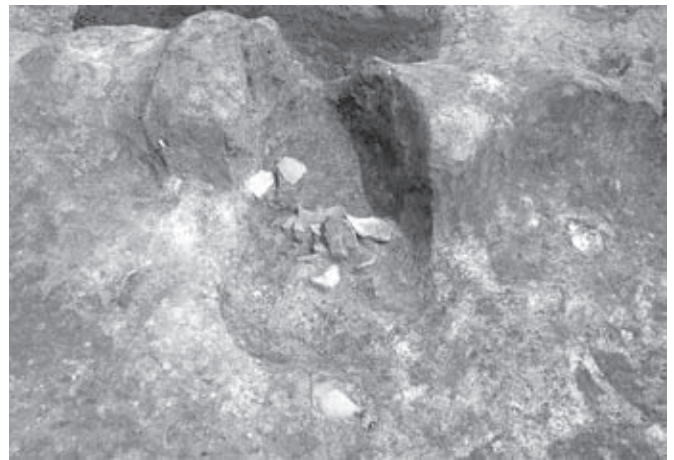
1. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(南から)



2. 1区22号竪穴住居遺物出土状態(西から)



3. 1区22号竪穴住居全景(南西から)



4. 1区22号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)



5. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(南東から)





1. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(東から)



2. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(東から)



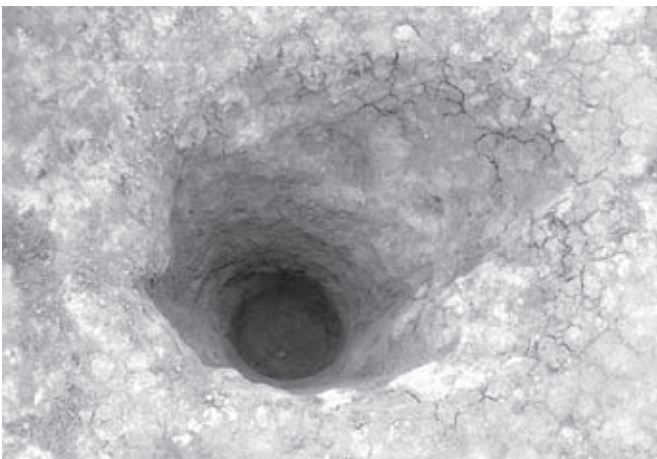
3. 1区25号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



5. 1区25号竪穴住居カマド全景(南東から)



4. 1区25号竪穴住居全景(南東から)



6. 1区25号竪穴住居貯蔵穴全景(南東から)



7. 1区25号竪穴住居掘り方全景(南東から)





1. 1区27号竪穴住居遺物出土状態(北東から)



2. 1区27号竪穴住居遺物出土状態(北東から)



3. 1区27号竪穴住居全景(北東から)



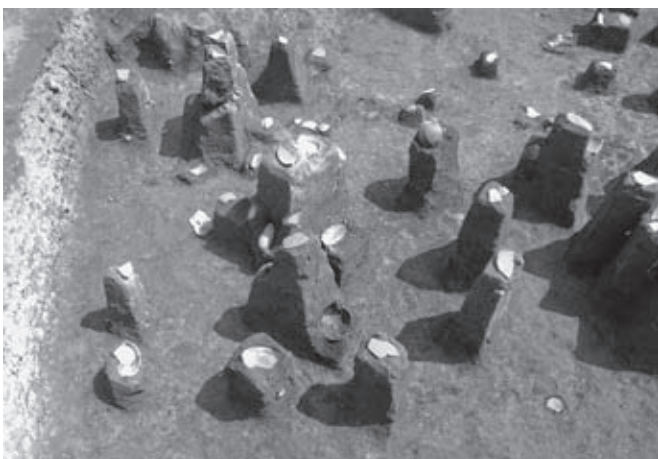
4. 1区27・28号竪穴住居掘り方全景(北東から)



5. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



6. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)

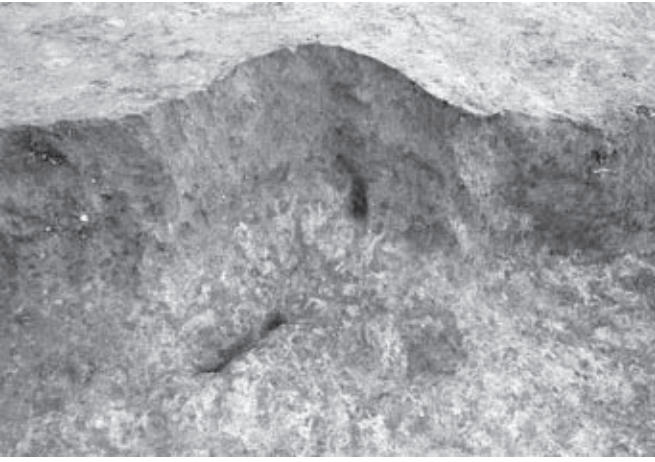


7. 1区35号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



8. 1区35号竪穴住居カマド全景(南西から)





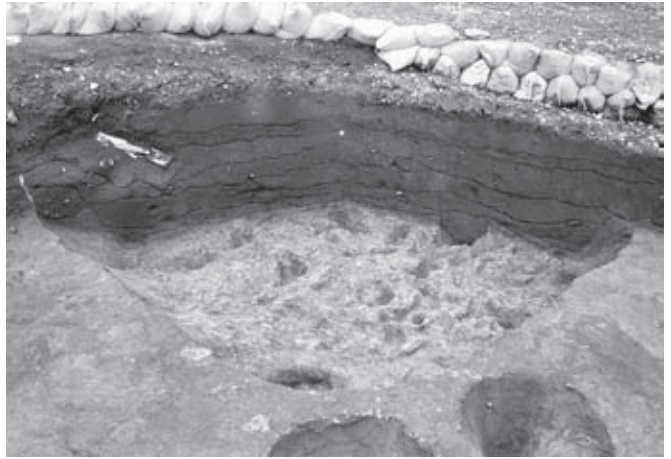
1. 1区35号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)



2. 1区35号竪穴住居全景(南西から)



3. 1区36号竪穴住居東半部全景(北東から)



4. 1区36号竪穴住居東半部掘り方全景(東から)



5. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)





1. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



2. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



3. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区38号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



5. 1区38号竪穴住居全景(北西から)



6. 1区38号竪穴住居全景(南東から)

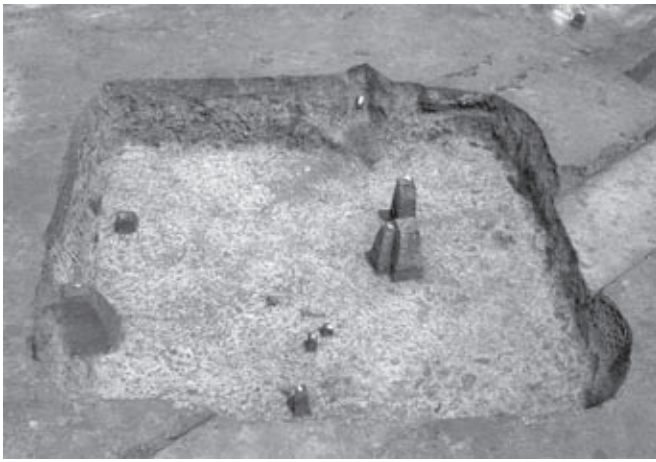


7. 1区38号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



8. 1区38号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)





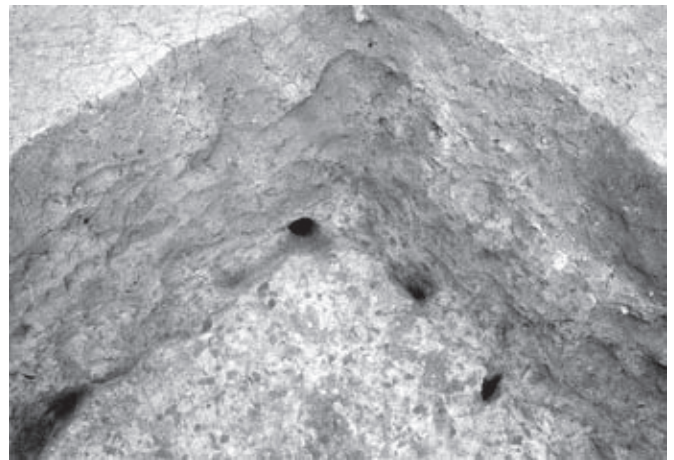
1. 1区39号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



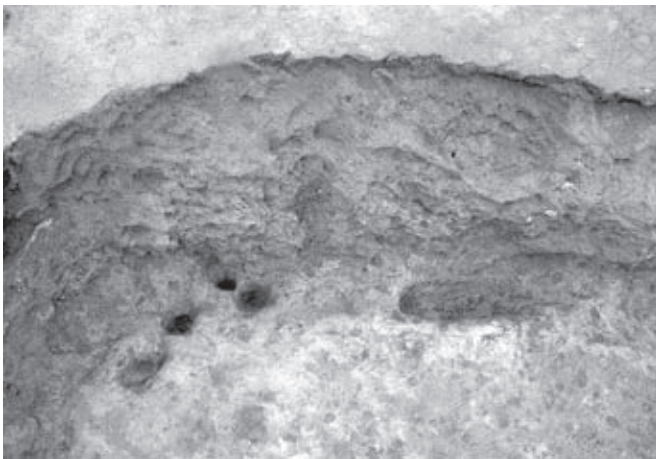
2. 1区39号竪穴住居全景(南西から)



3. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(南西から)



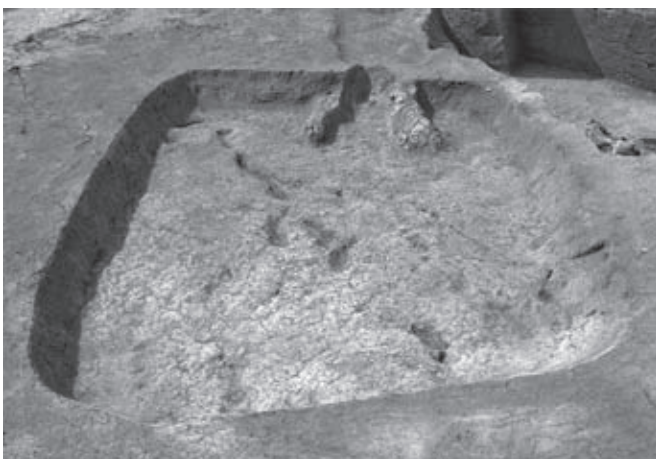
4. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(南から)



5. 1区39号竪穴住居周溝内小ピット群全景(北西から)



6. 1区40号竪穴住居土層断面と遺物出土状態(南から)



7. 1区40号竪穴住居全景(南東から)



8. 1区40号竪穴住居カマド土層断面(南東から)





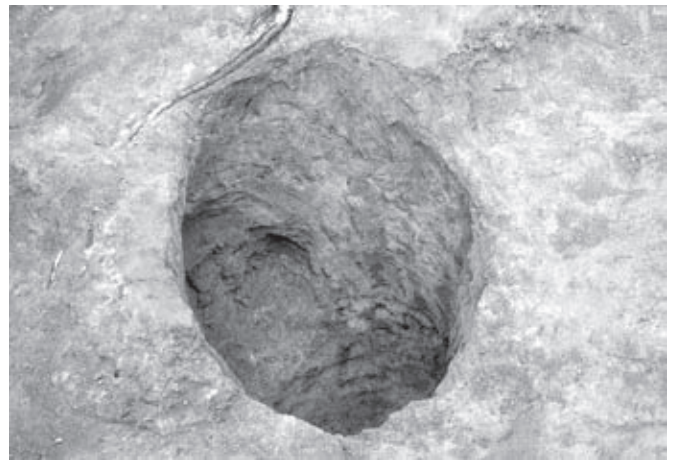
1. 1区40号竪穴住居掘り方全景(南東から)



2. 1区41号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



3. 1区41号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区41号竪穴住居P 1 全景(南西から)

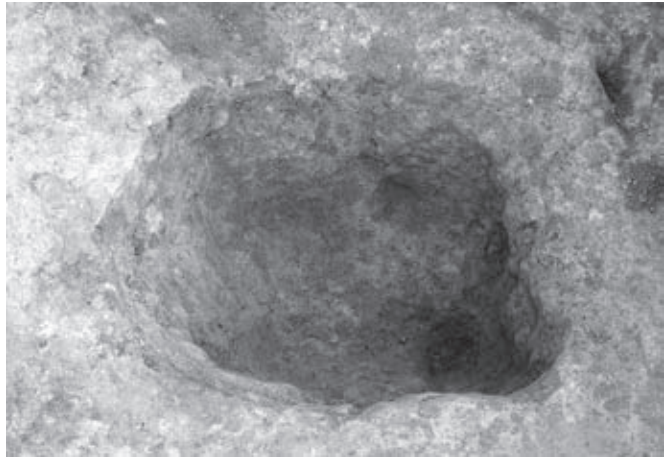


5. 1区43号竪穴住居全景(南西から)





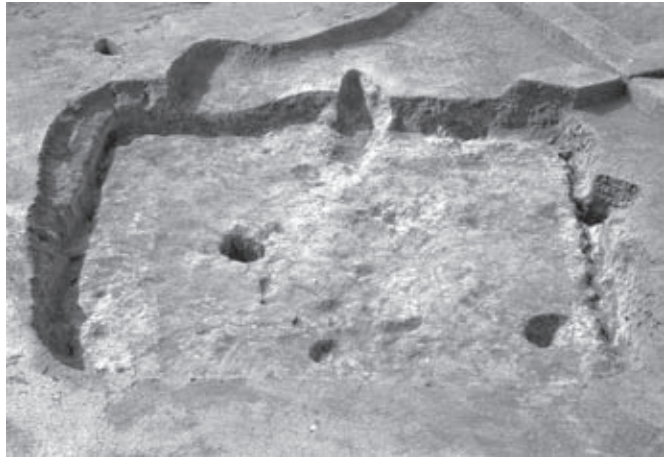
1. 1区43号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)



2. 1区43号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)



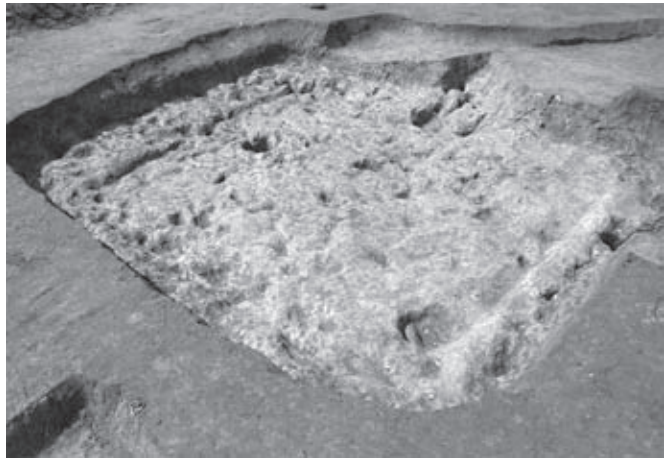
3. 1区45号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区45号竪穴住居全景(南東から)



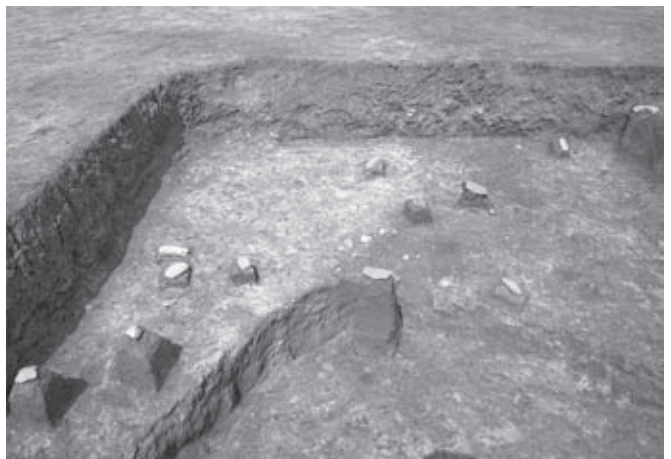
5. 1区45号竪穴住居掘り方全景(南東から)



6. 1区45号竪穴住居掘り方全景(東から)



7. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(西から)



8. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)

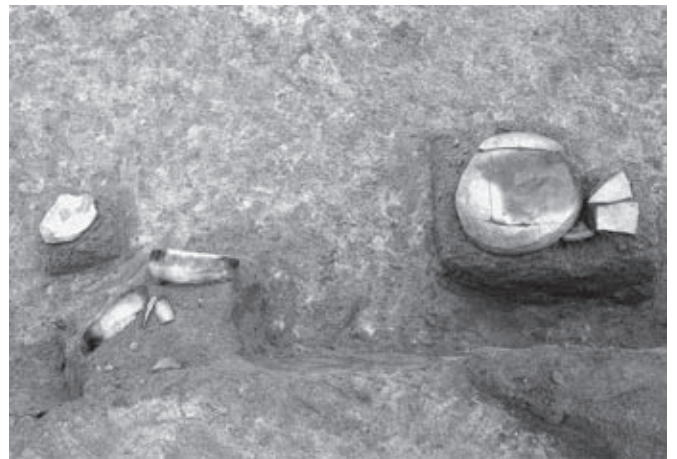




1. 1区48・49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



2. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



3. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)

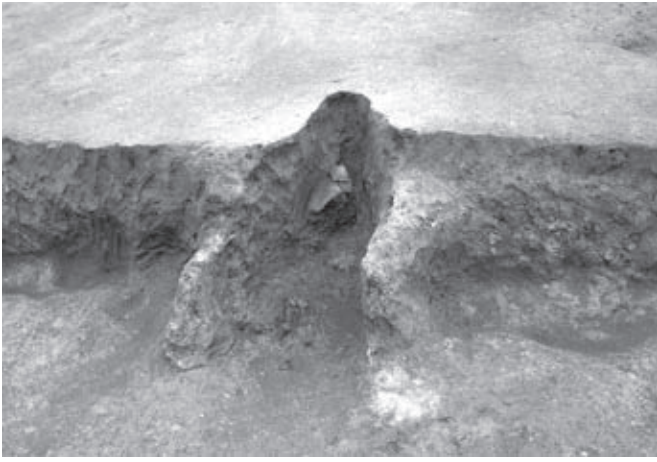


4. 1区49号竪穴住居遺物出土状態(南東から)

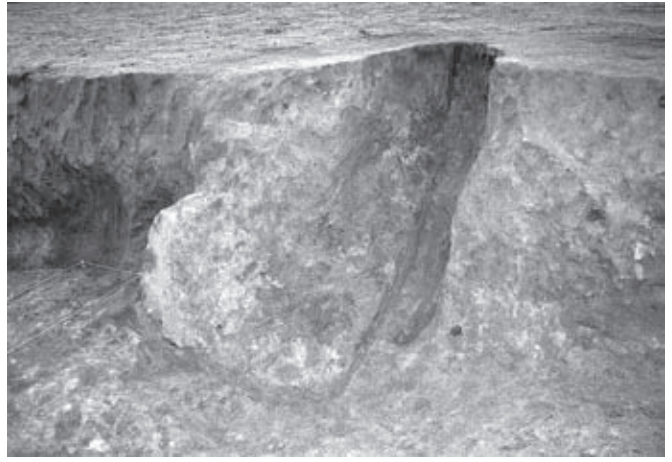


5. 1区48・49号竪穴住居全景(南東から)





1. 1区49号竪穴住居カマド全景(南東から)



2. 1区49号竪穴住居カマド掘り方土層断面(東から)



3. 1区56号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区56号竪穴住居遺物出土状態(南から)



5. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



6. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)



7. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(北西から)

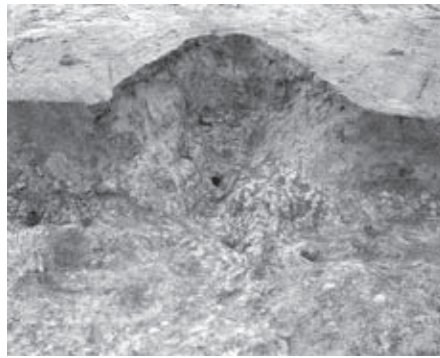


8. 1区56号竪穴住居全景(南東から)

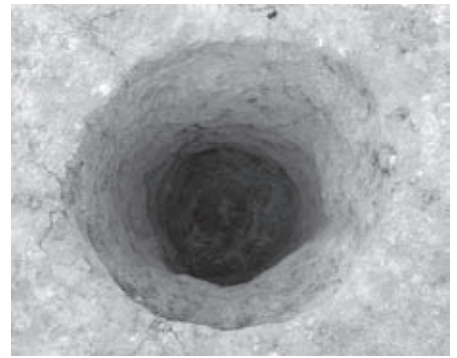




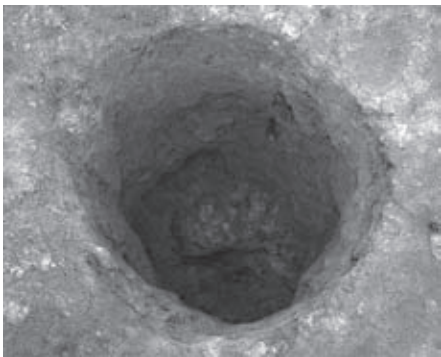
1. 1区56号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



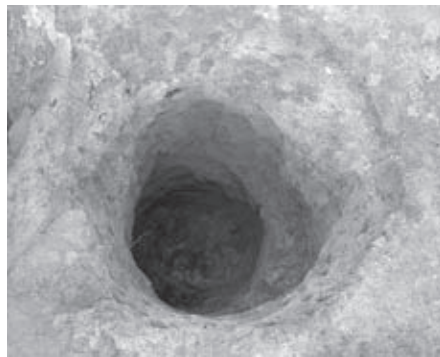
2. 1区56号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)



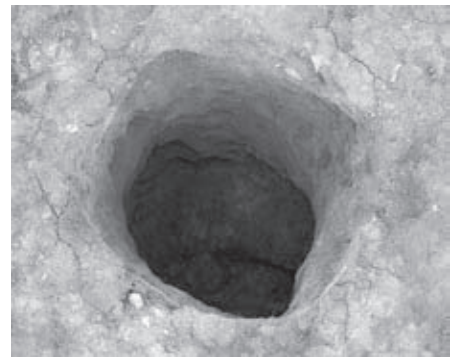
3. 1区56号竪穴住居P 1 全景(南から)



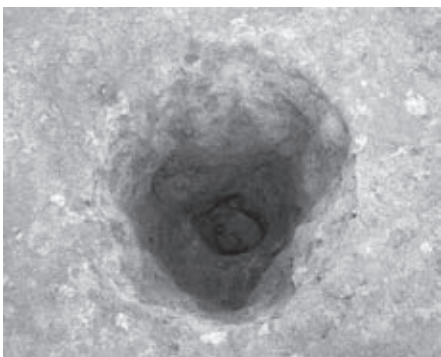
4. 1区56号竪穴住居P 2 全景(南から)



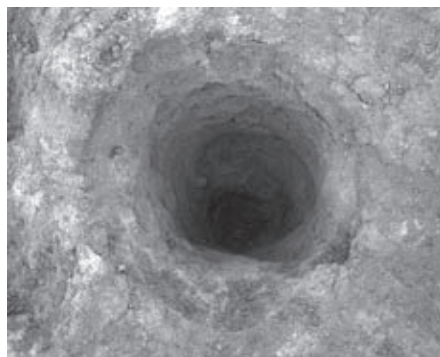
5. 1区56号竪穴住居P 3 全景(南から)



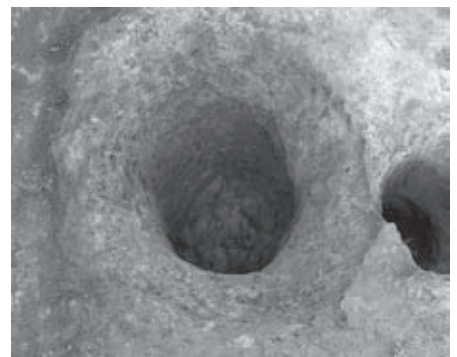
6. 1区56号竪穴住居P 4 全景(南から)



7. 1区56号竪穴住居P 5 全景(南から)



8. 1区56号竪穴住居P 6 全景(南から)



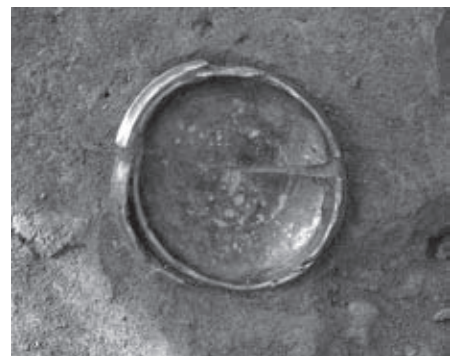
9. 1区56号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)



10. 1区58号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)



11. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(東から)



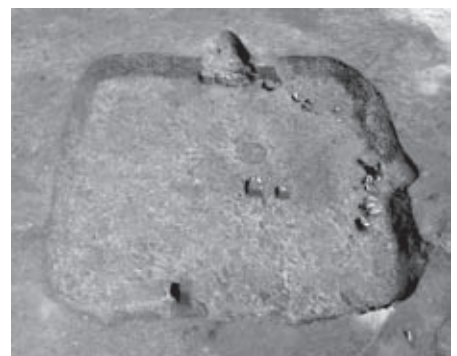
12. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(東から)



13. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(西から)

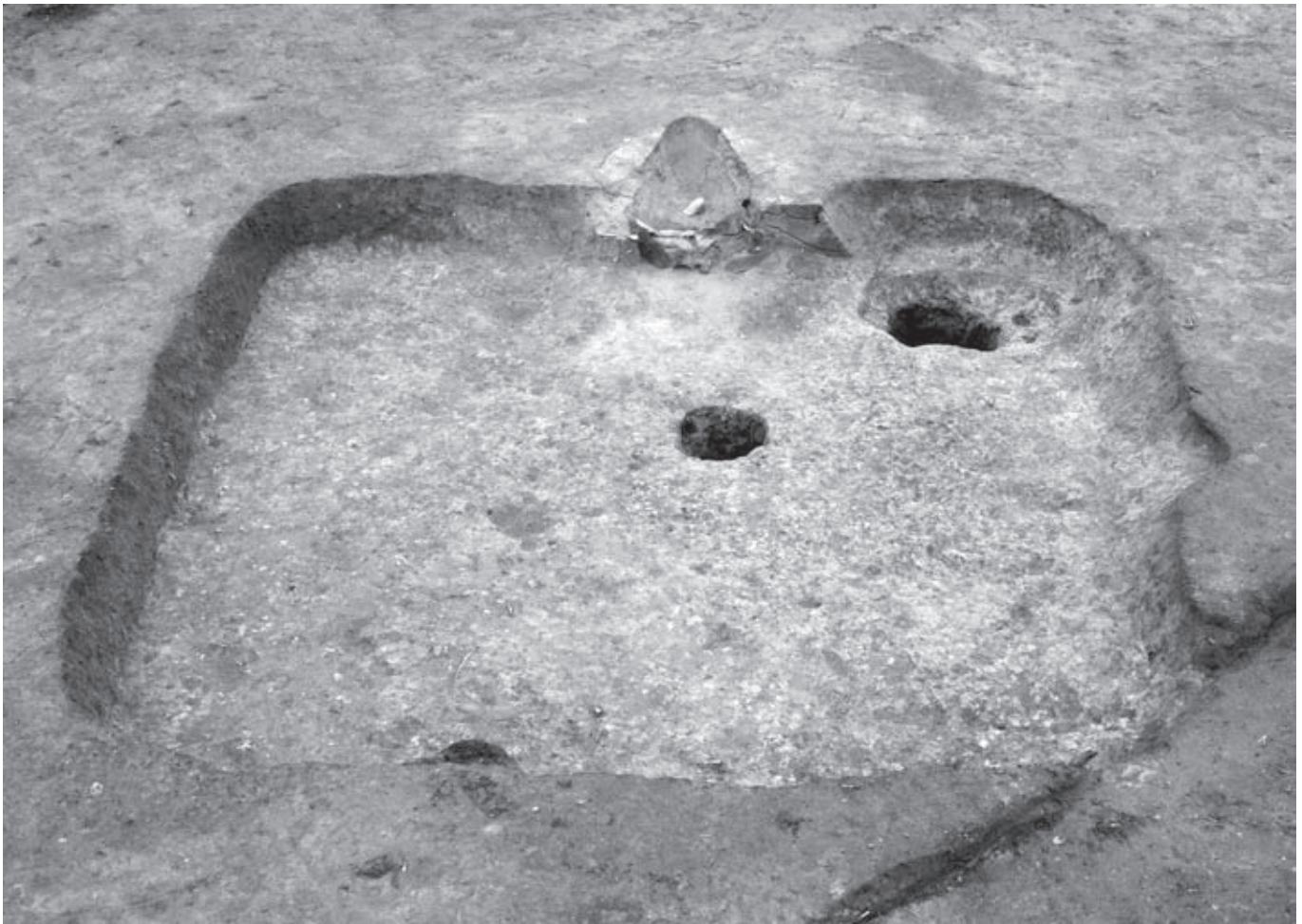


14. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



15. 1区58号竪穴住居遺物出土状態(南西から)





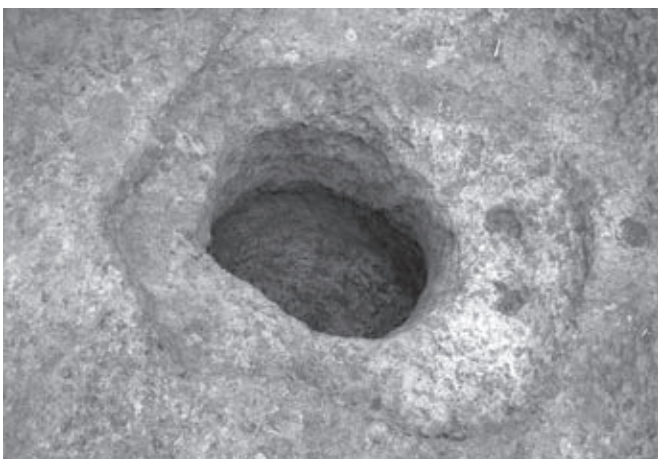
1. 1区58号竪穴住居全景(南西から)



2. 1区58号竪穴住居カマド全景(南西から)



3. 1区58号竪穴住居カマド掘り方土層断面(南から)



4. 1区58号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)

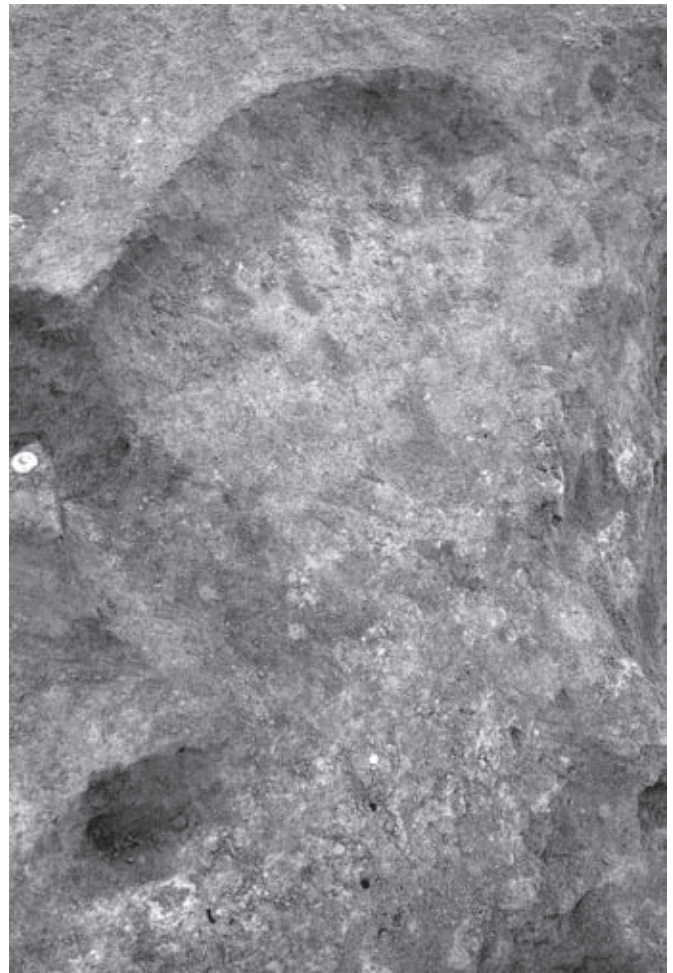


5. 1区59号竪穴住居遺物出土状態(南から)

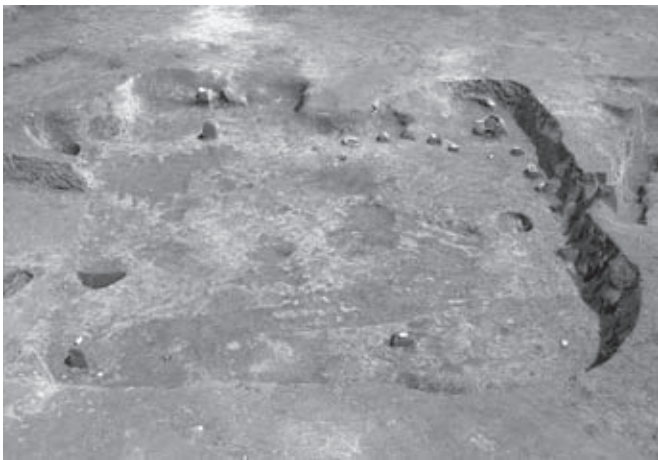




1. 1区62号竪穴住居全景(北から)



3. 1区62号竪穴住居カマド全景(北から)



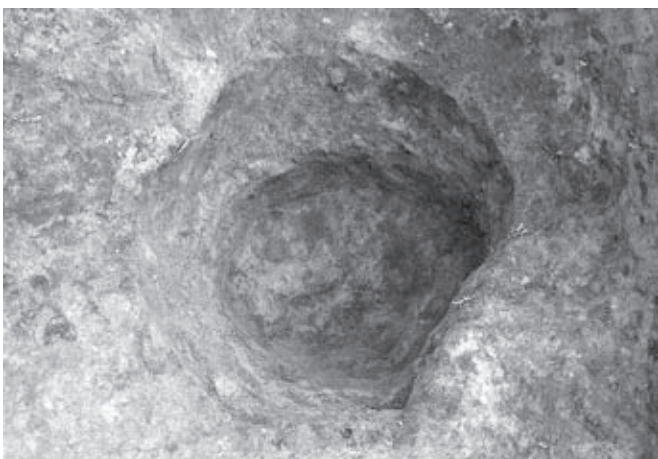
2. 1区67号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



5. 1区67号竪穴住居カマド全景(南西から)



4. 1区67号竪穴住居遺物出土状態(西から)

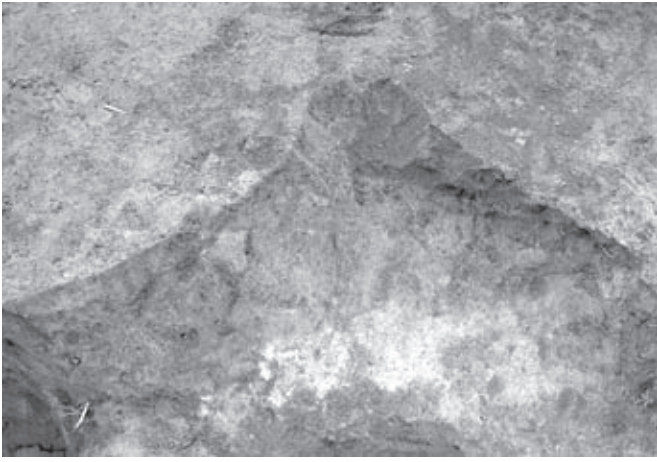


6. 1区67号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)



7. 1区67号竪穴住居全景(南西から)





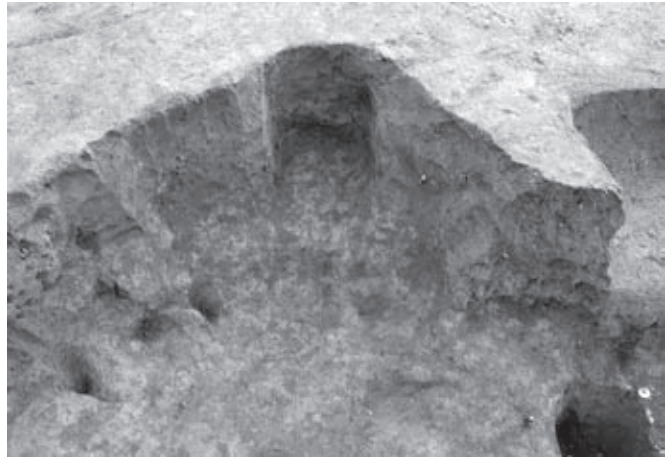
1. 1区67号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)



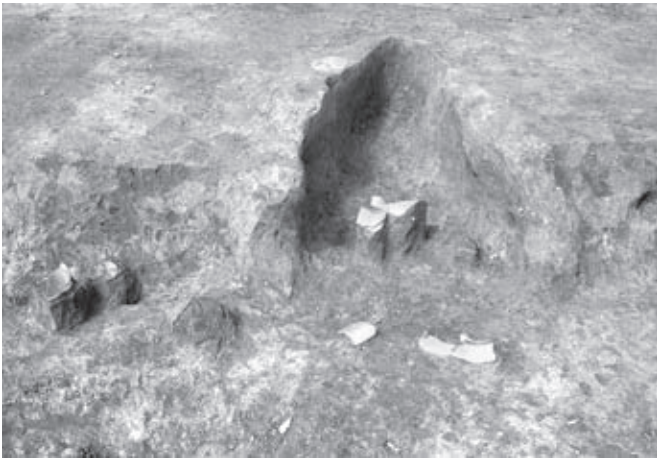
2. 1区68号竪穴住居カマド遺物出土状態(北東から)



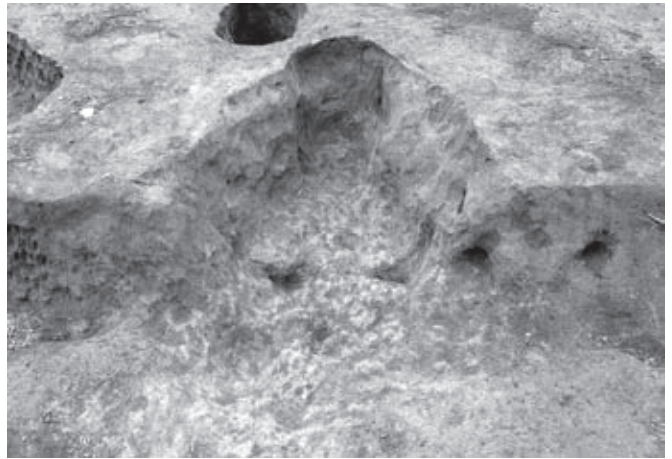
3. 1区68号竪穴住居全景(北東から)



4. 1区68号竪穴住居カマド掘り方全景(北東から)



5. 1区70号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



6. 1区70号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)



7. 1区70号竪穴住居全景(南東から)



8. 1区68・70号竪穴住居全景(南東から)





1. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



2. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)



3. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)



4. 3区72号竪穴住居遺物出土状態(東から)

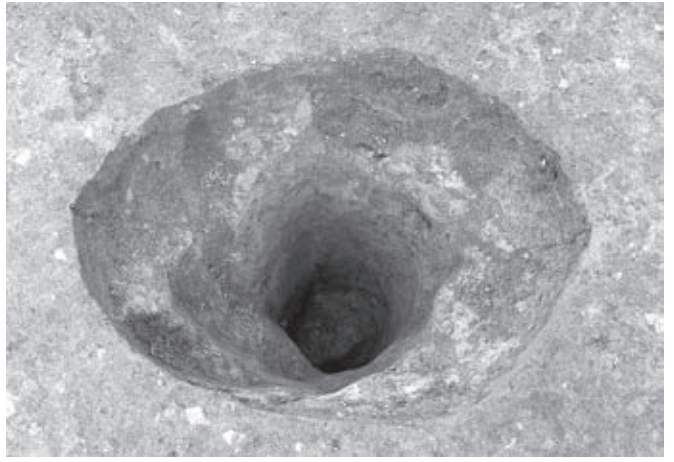


5. 3区72号竪穴住居全景(南東から)

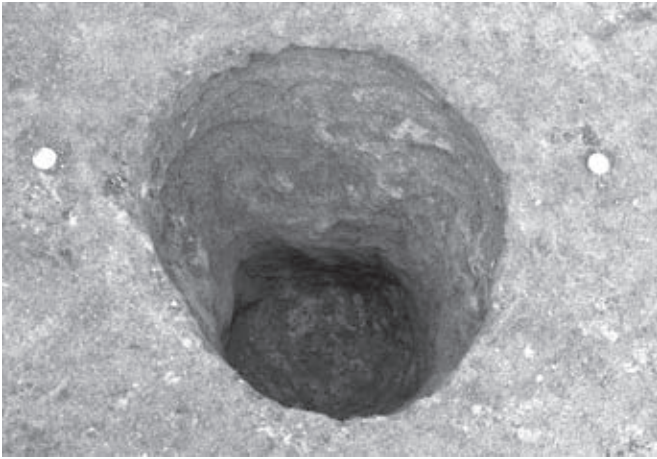




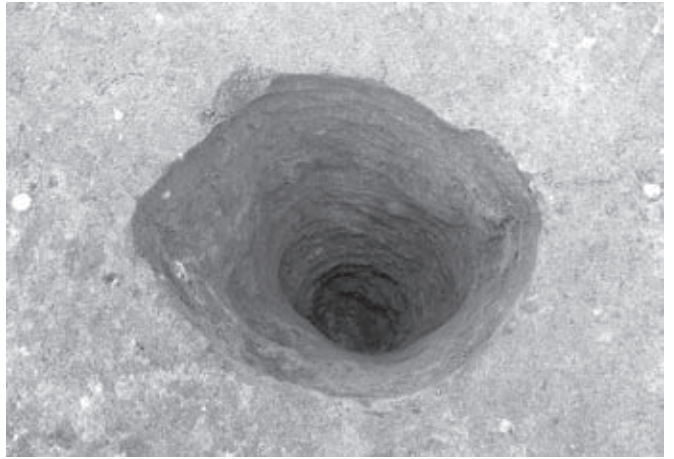
1. 3区72号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



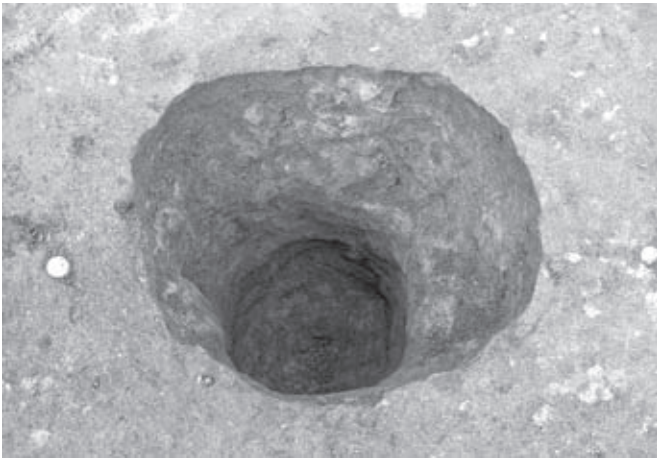
2. 3区72号竪穴住居P 1 全景(南から)



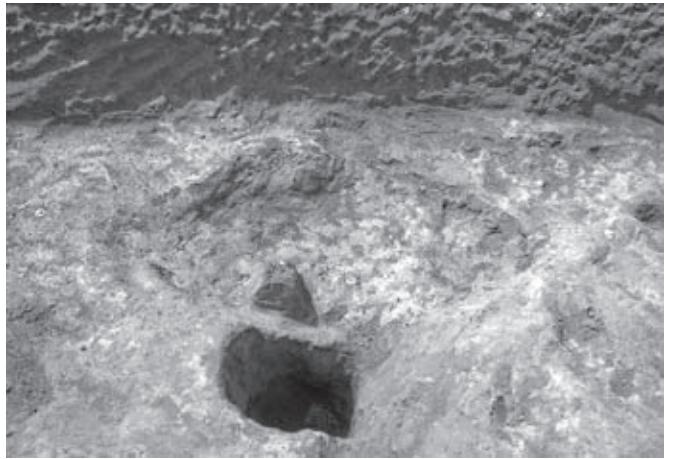
3. 3区72号竪穴住居P 2 全景(南から)



4. 3区72号竪穴住居P 3 全景(南から)



5. 3区72号竪穴住居P 4 全景(南から)



6. 3区72号竪穴住居1号土坑全景(東から)



7. 3区72号竪穴住居掘り方全景(南東から)



8. 3区73号竪穴住居遺物出土状態(南東から)

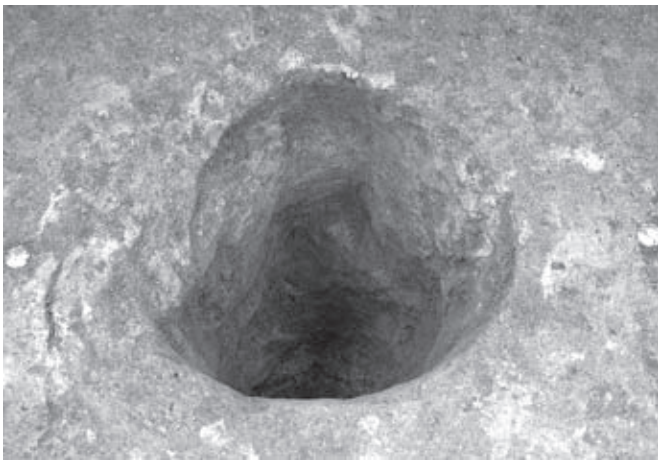




1. 3区73号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



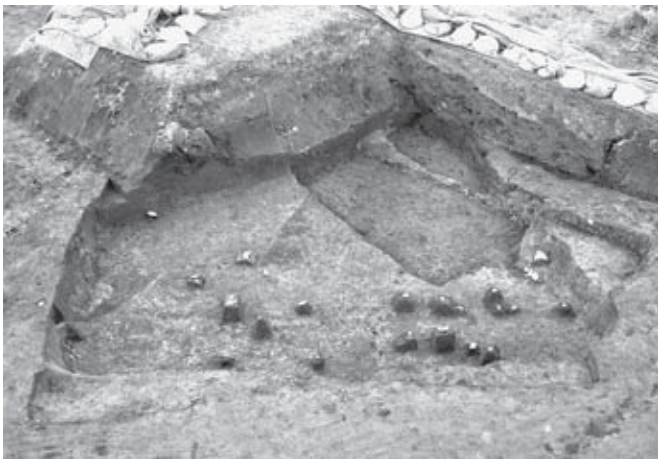
2. 3区73号竪穴住居カマド全景(南東から)



3. 3区73号竪穴住居P 1 全景(北から)



4. 3区73号竪穴住居掘り方全景(北東から)



5. 3区74号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



6. 3区74号竪穴住居全景(南東から)



7. 3区74号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)

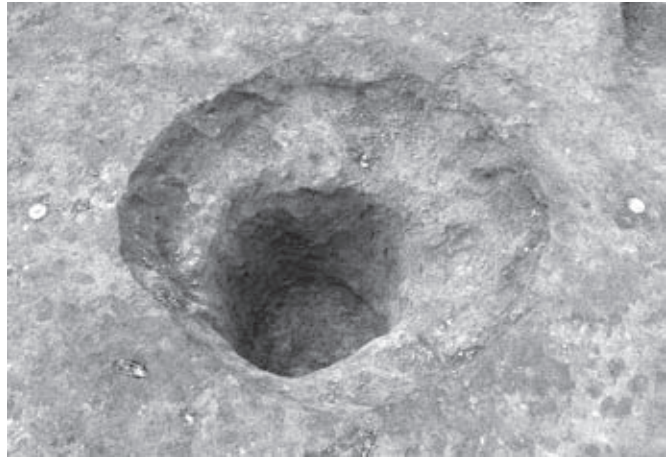


8. 3区74号竪穴住居カマド全景(南西から)

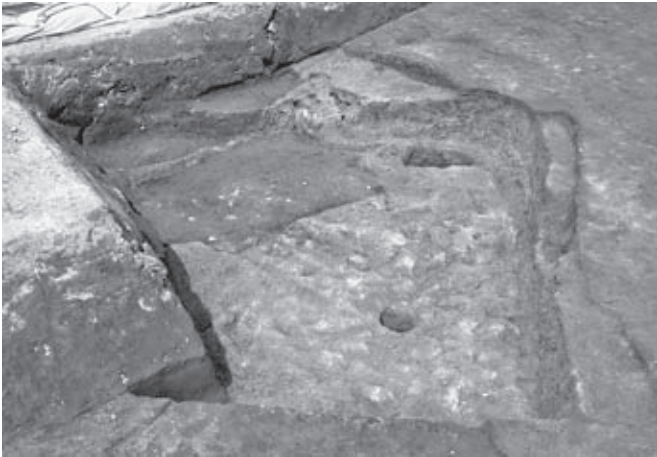




1. 3区74号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)



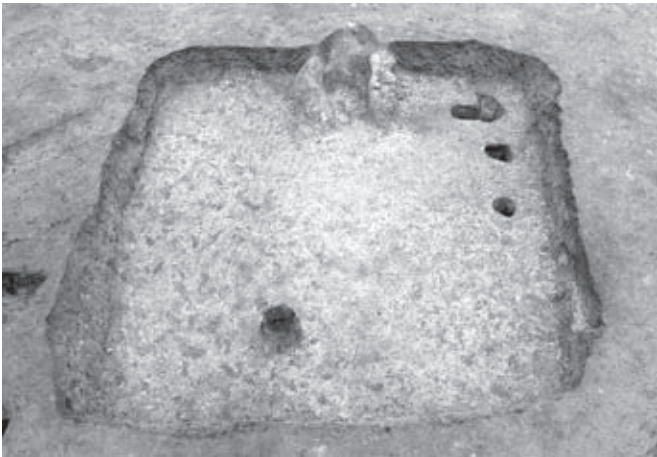
2. 3区74号竪穴住居P 1 全景(南東から)



3. 3区74号竪穴住居掘り方全景(南西から)



4. 3区75号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



5. 3区75号竪穴住居全景(南西から)



6. 3区75号竪穴住居カマド全景(南西から)



7. 3区75号竪穴住居掘り方全景(南西から)



8. 3区76号竪穴住居・5号竪穴状遺構遺物出土状態(南東から)

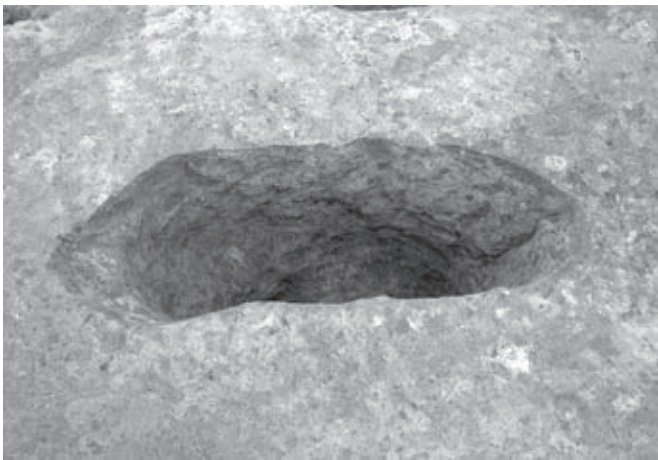




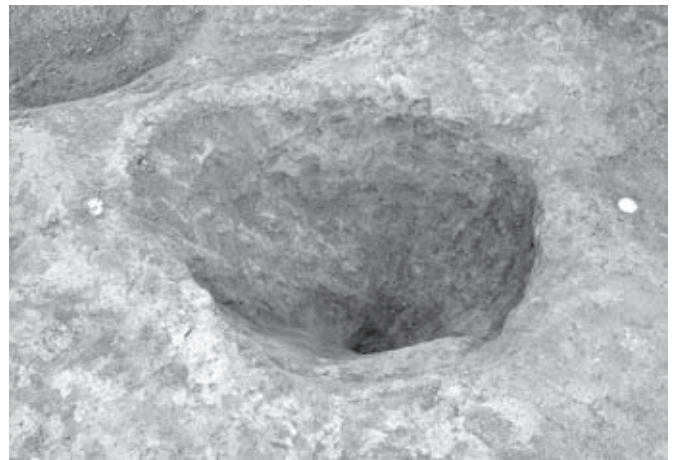
1. 3区76号竪穴住居・5号竪穴状遺構全景(南東から)



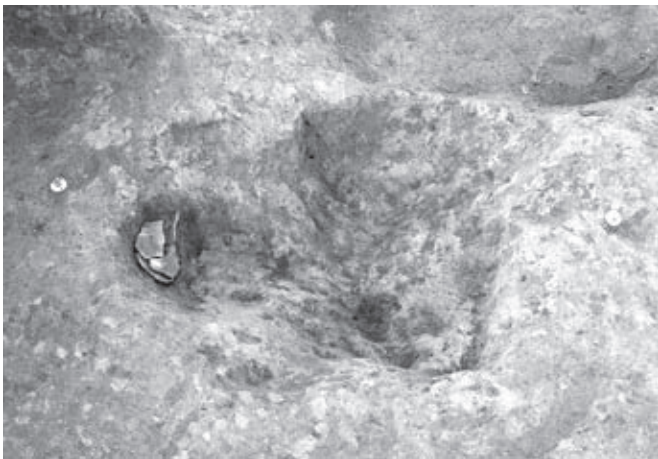
2. 3区76号竪穴住居カマド遺物出土状態(南東から)



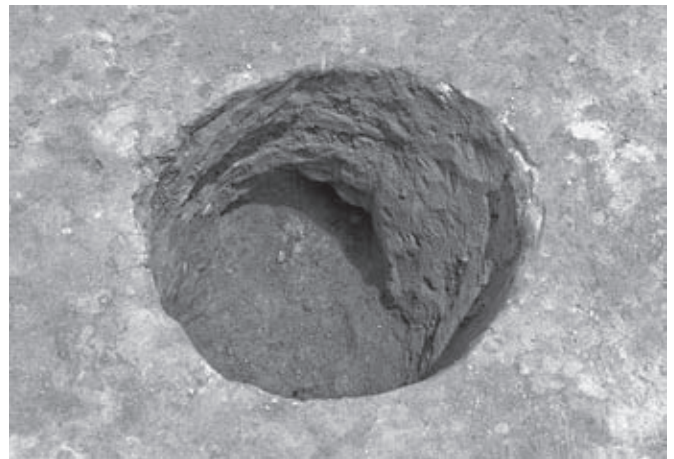
3. 3区76号竪穴住居P 1 全景(南から)



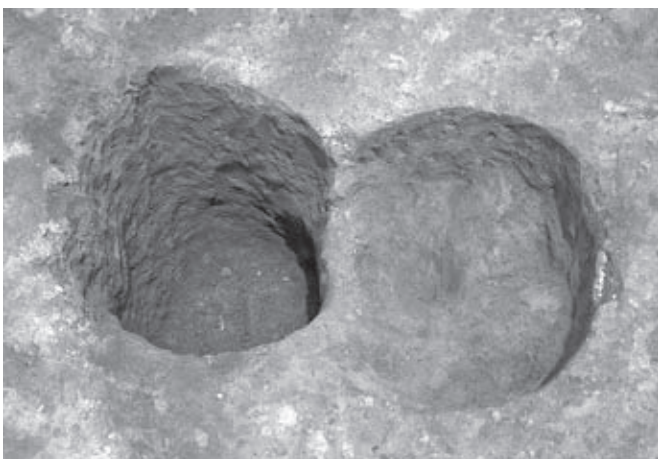
4. 3区76号竪穴住居P 2 全景(南から)



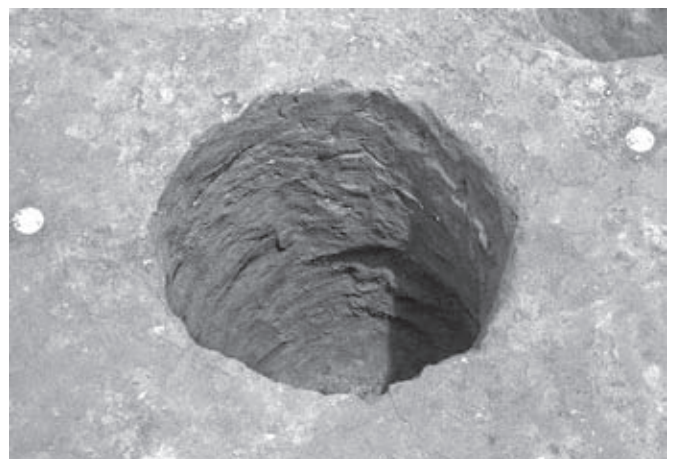
5. 3区76号竪穴住居P 3 全景(南から)



6. 3区76号竪穴住居P 4 全景(南から)

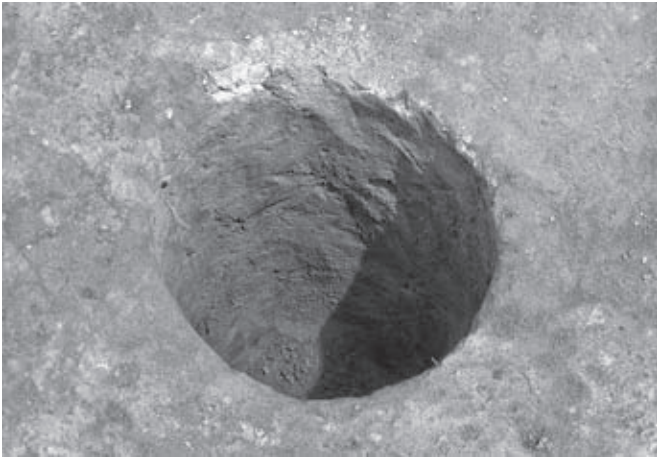


7. 3区76号竪穴住居P 5・6 全景(南から)



8. 3区76号竪穴住居P 7 全景(南から)





1. 3区76号竪穴住居P 8全景(南から)



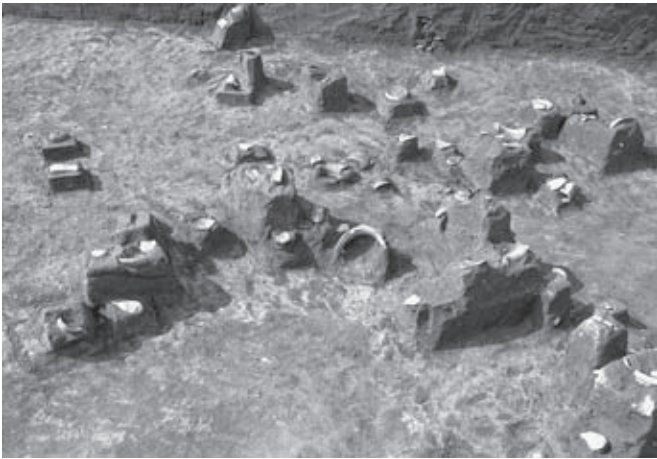
2. 3区76号竪穴住居掘り方全景(南東から)



3. 3区76号竪穴住居調査風景(南東から)



4. 3区77号竪穴住居遺物出土状態(南から)



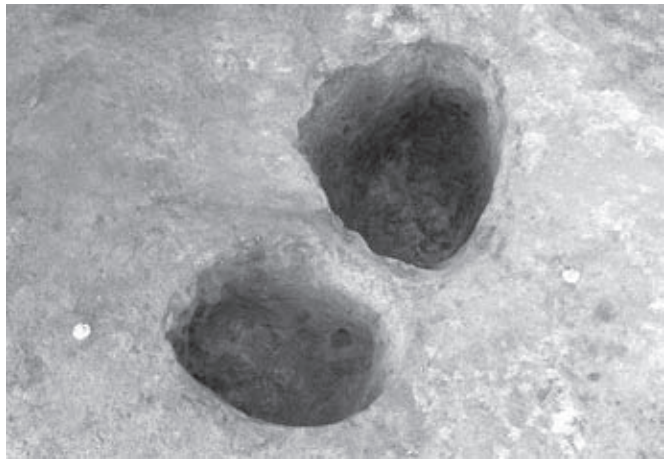
5. 3区77号竪穴住居遺物出土状態(南から)



6. 3区77号竪穴住居調査風景(南から)

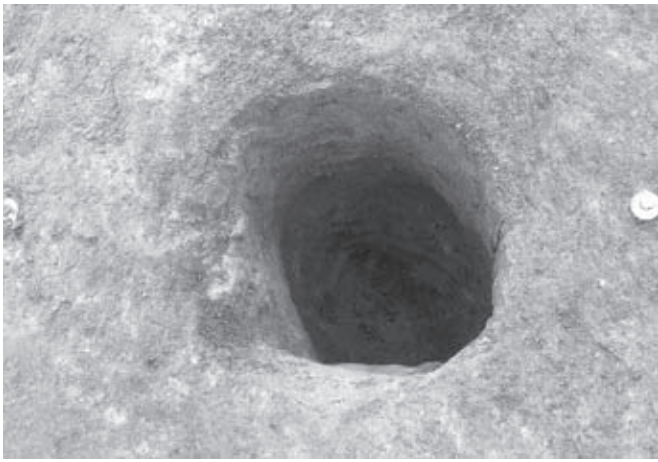


7. 3区77号竪穴住居全景(南から)

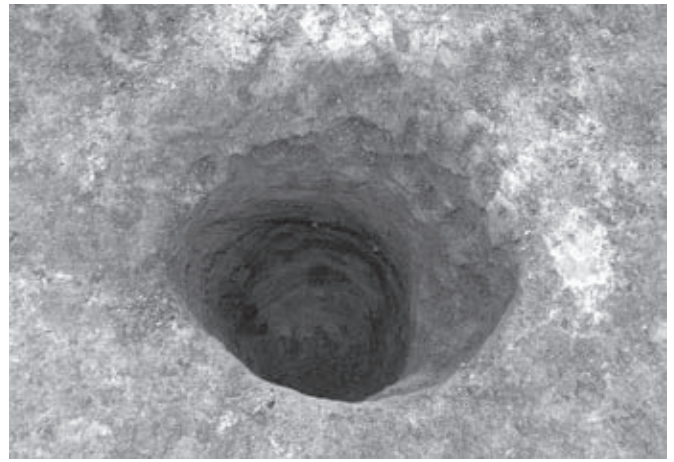


8. 3区77号竪穴住居P 1・2全景(南から)

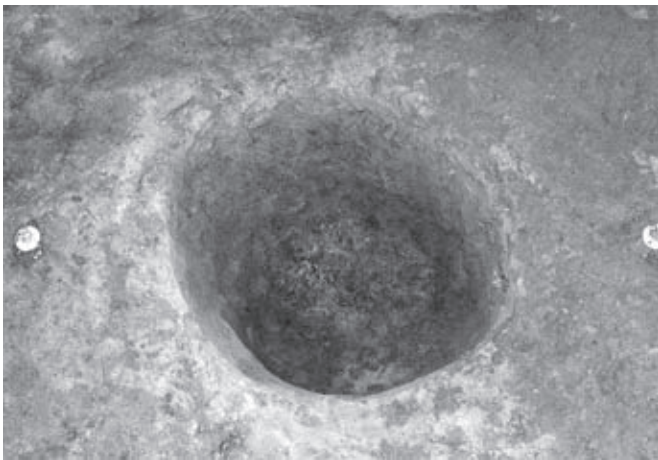




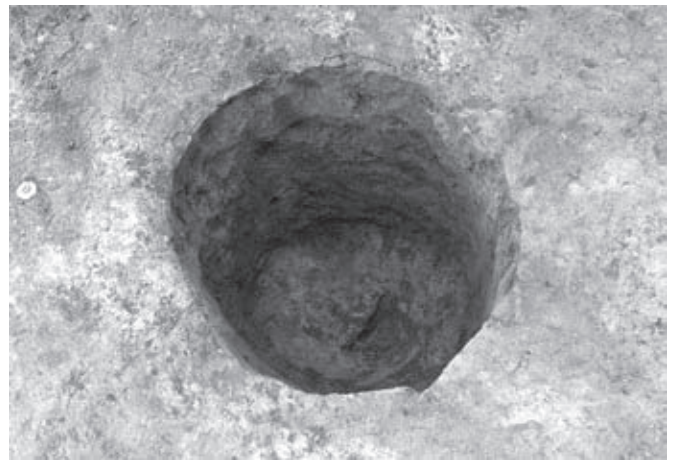
1. 3区77号竪穴住居P 3全景(東から)



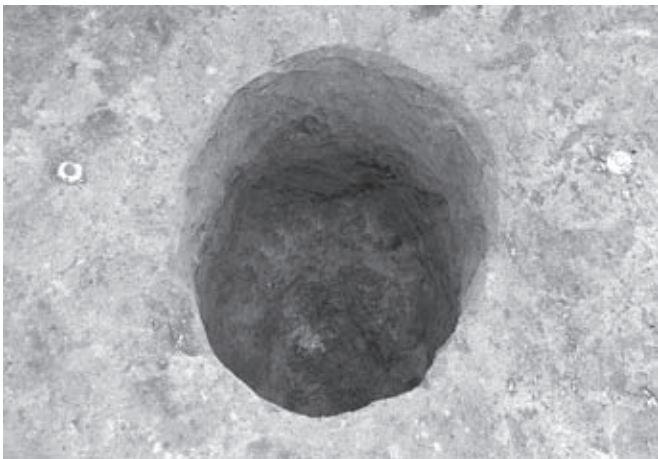
2. 3区77号竪穴住居P 4全景(東から)



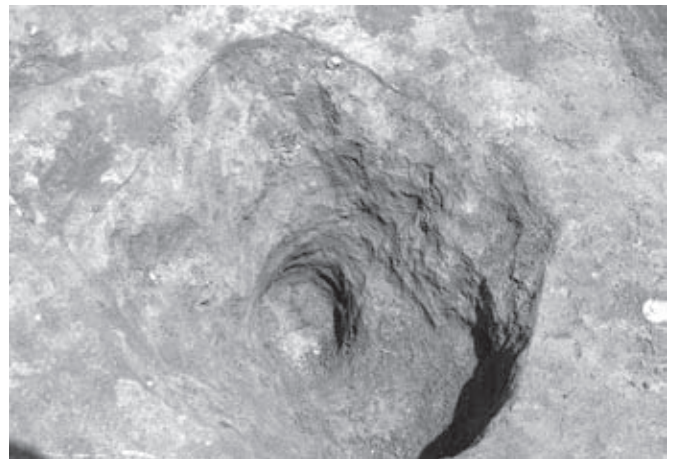
3. 3区77号竪穴住居P 5全景(東から)



4. 3区77号竪穴住居P 6全景(東から)



5. 3区77号竪穴住居P 7全景(東から)



6. 3区77号竪穴住居P 8全景(南から)



7. 3区77号竪穴住居掘り方全景(南から)



8. 3区77号竪穴住居調査風景(北西から)

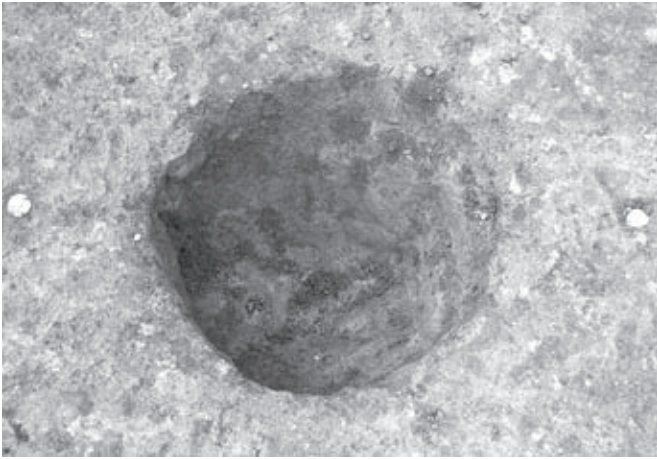




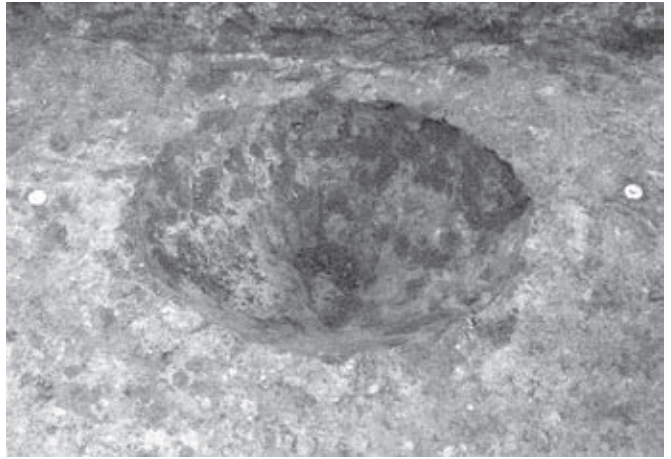
1. 3区80号竪穴住居全景(西から)



2. 3区80号竪穴住居カマド全景(西から)



3. 3区80号竪穴住居P 1 全景(南から)



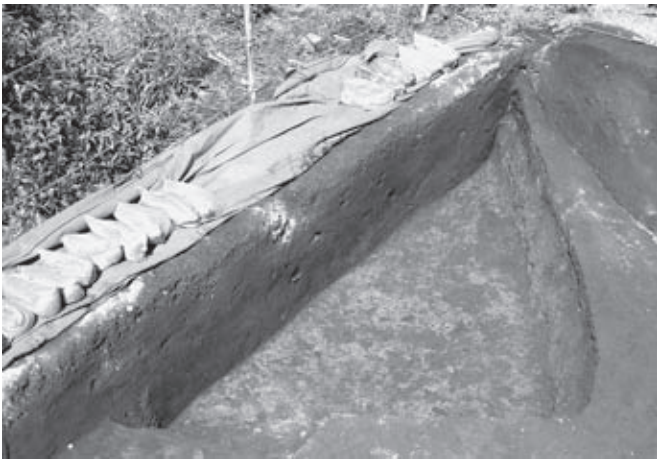
4. 3区80号竪穴住居P 2 全景(北から)



5. 3区80号竪穴住居掘り方全景(西から)



6. 3区81号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



7. 3区81号竪穴住居全景(南西から)



8. 3区81号竪穴住居掘り方全景(南東から)

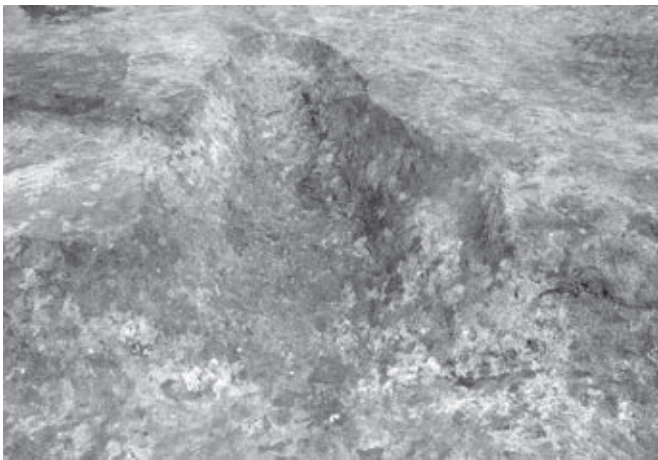




1. 3区83号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



2. 3区83号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



3. 3区83号竪穴住居カマド全景(南東から)



4. 3区83号竪穴住居全景(南東から)



5. 3区83号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)



6. 3区83号竪穴住居掘り方全景(南東から)



7. 3区84号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



8. 3区84号竪穴住居・2号竪穴状遺構全景(南東から)

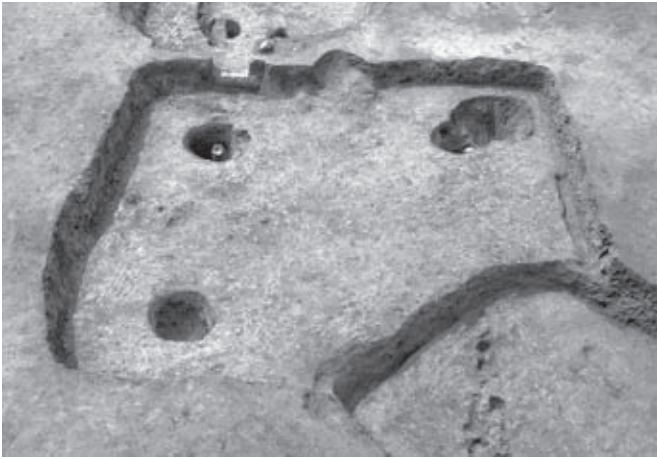




1. 3区84号竪穴住居・2号竪穴状遺構掘り方全景(南東から)



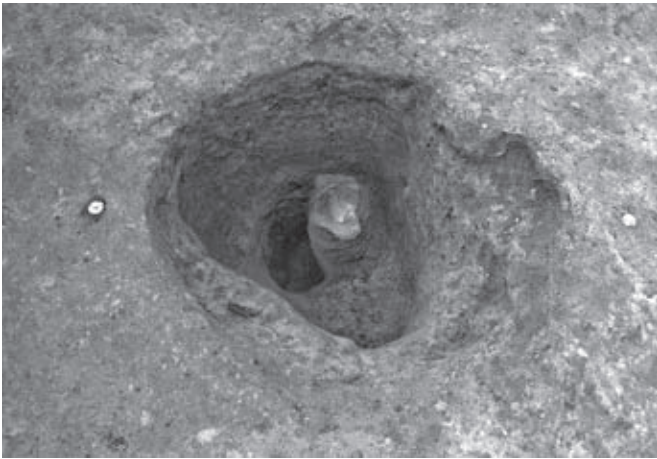
2. 3区85号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



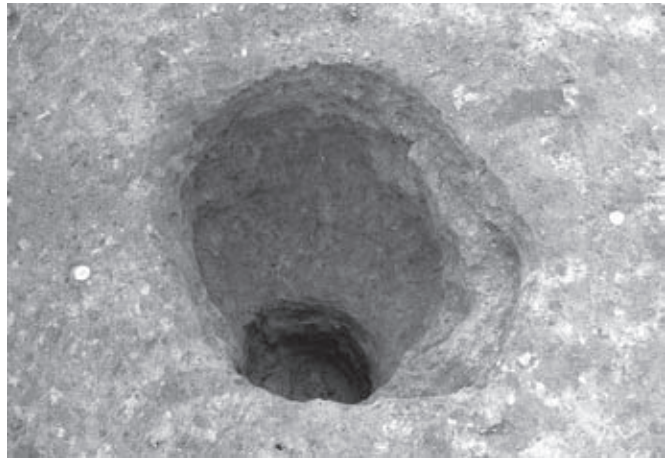
3. 3区85号竪穴住居全景(南東から)



4. 3区85号竪穴住居カマド全景(南東から)



5. 3区85号竪穴住居P 1 全景(南東から)



6. 3区85号竪穴住居P 2 全景(南東から)



7. 3区85号竪穴住居P 3・貯蔵穴遺物出土状態(南東から)

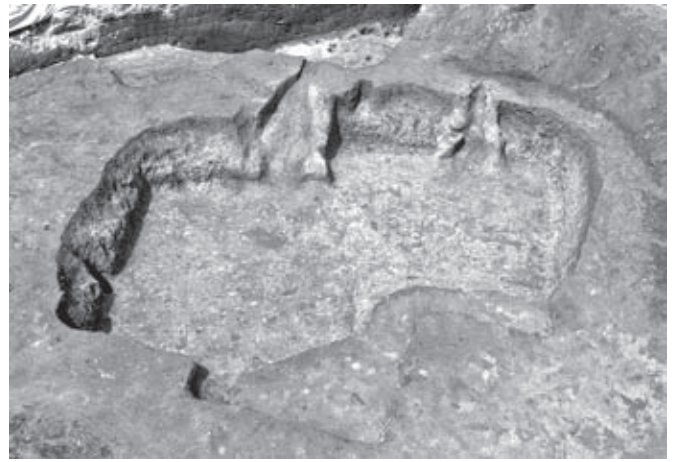


8. 3区85号竪穴住居掘り方全景(南東から)





1. 3区85号竪穴住居カマド掘り方全景(南東から)



2. 3区82・86号竪穴住居全景(南西から)



3. 3区86号竪穴住居カマド全景(南西から)



4. 3区82・86号竪穴住居掘り方全景(南西から)



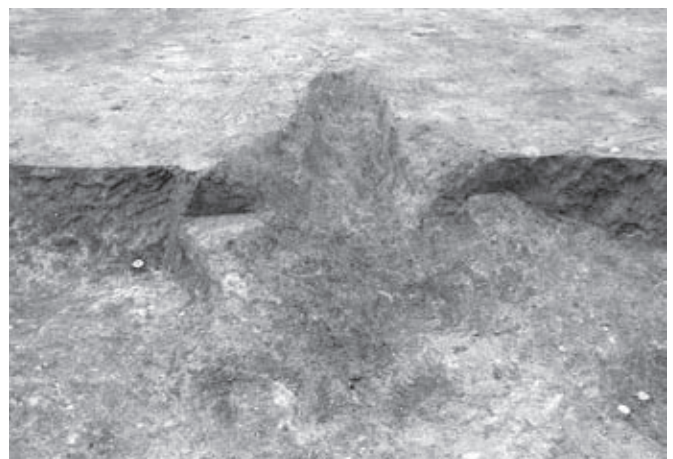
5. 3区86号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)



6. 3区87号竪穴住居遺物出土状態(南から)



7. 3区87号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)

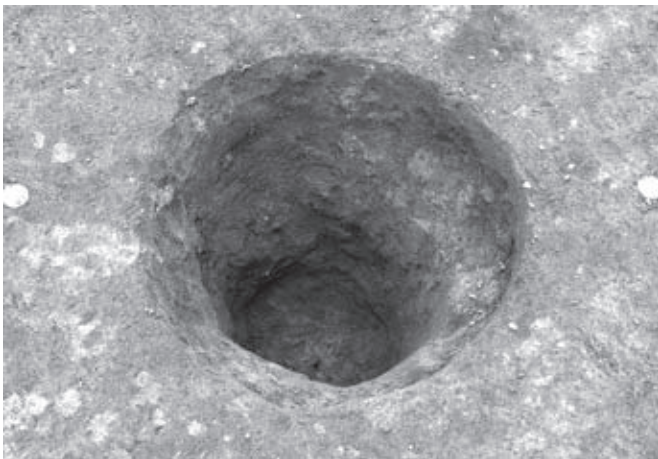


8. 3区87号竪穴住居カマド全景(南から)

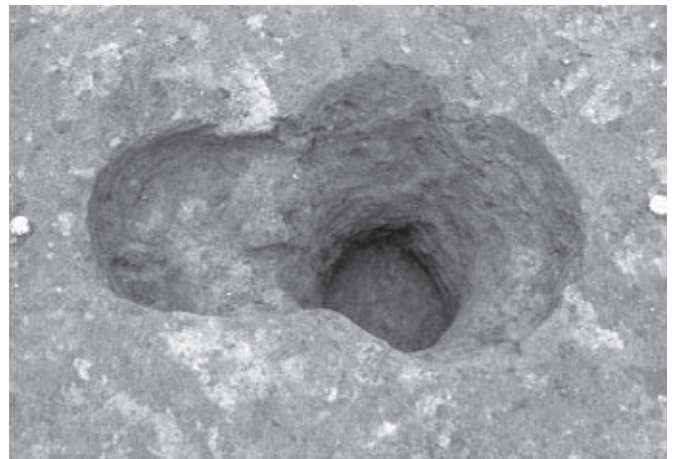




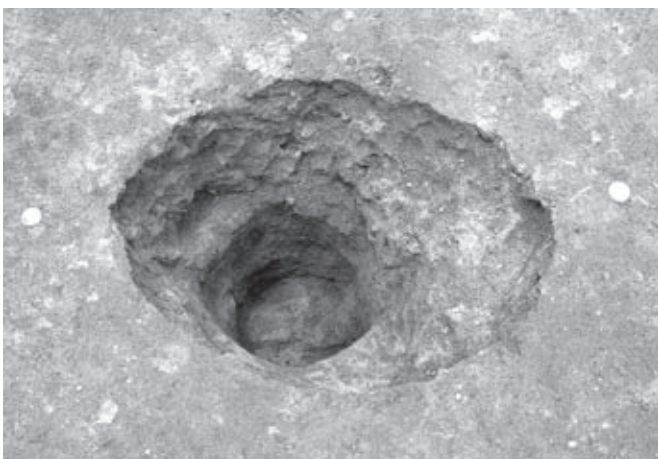
1. 3区87号竪穴住居・1区36号竪穴住居西半部全景(南西から)



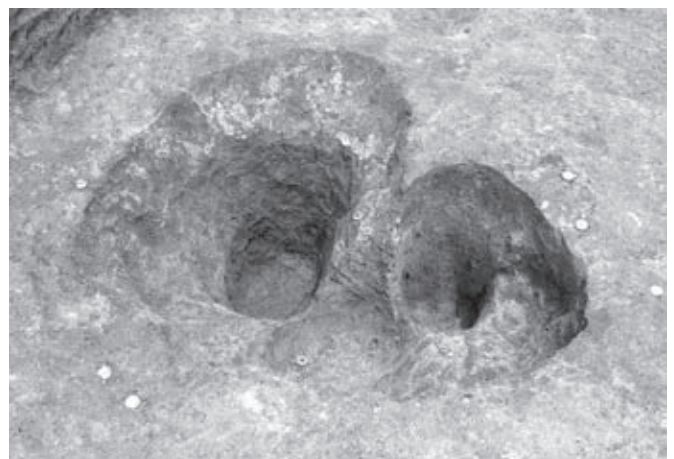
2. 3区87号竪穴住居P 1 全景(東から)



3. 3区87号竪穴住居P 2・6 全景(東から)



4. 3区87号竪穴住居P 3 全景(東から)

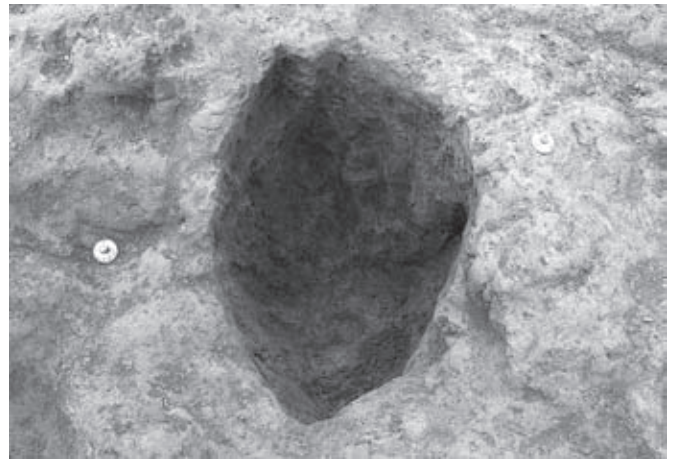


5. 3区87号竪穴住居P 4・5・7 全景(西から)

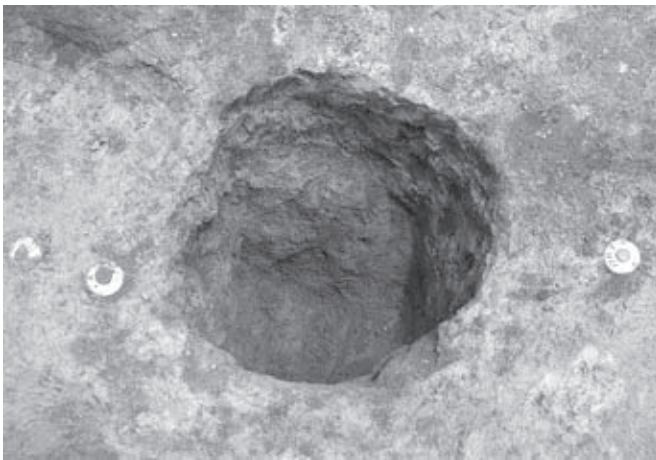




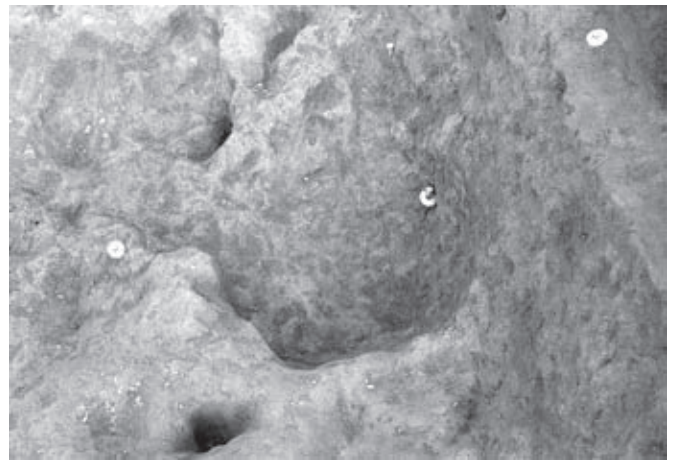
1. 3区87号竪穴住居P 8全景(南から)



2. 3区87号竪穴住居P 9全景(東から)



3. 3区87号竪穴住居P 10全景(西から)



4. 3区87号竪穴住居P 11全景(西から)



5. 3区87号竪穴住居掘り方全景(南から)



6. 3区87号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)



7. 3区87号竪穴住居調査風景(北西から)



8. 3区2号竪穴状遺構遺物出土状態(南東から)





1. 1区3号竪穴状遺構全景(南東から)



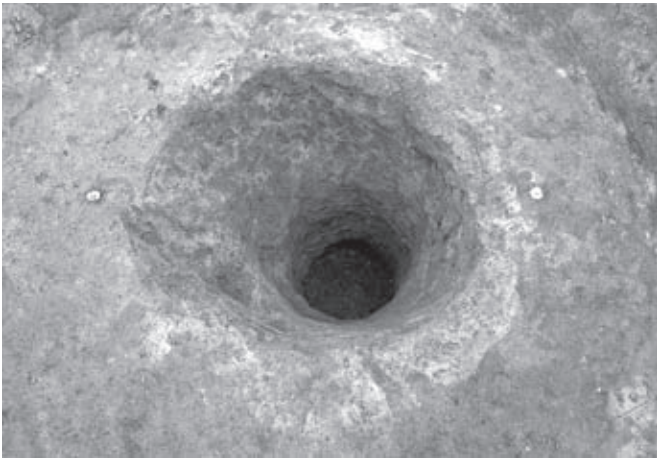
2. 1区4号竪穴状遺構土層断面(南東から)



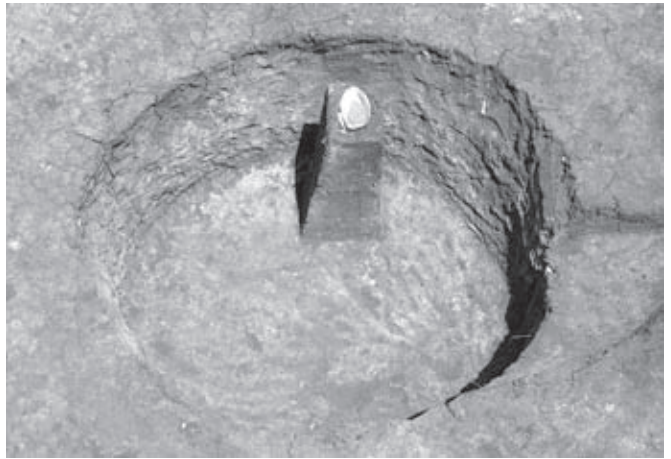
3. 3区5号竪穴状遺構遺物出土状態(南東から)



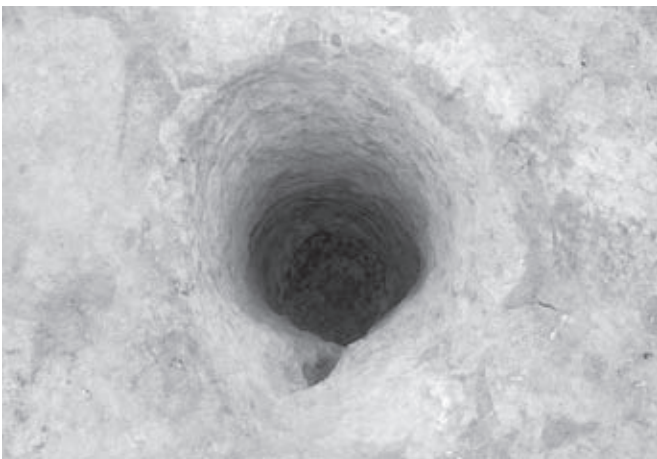
4. 3区5号竪穴状遺構調査風景(北から)



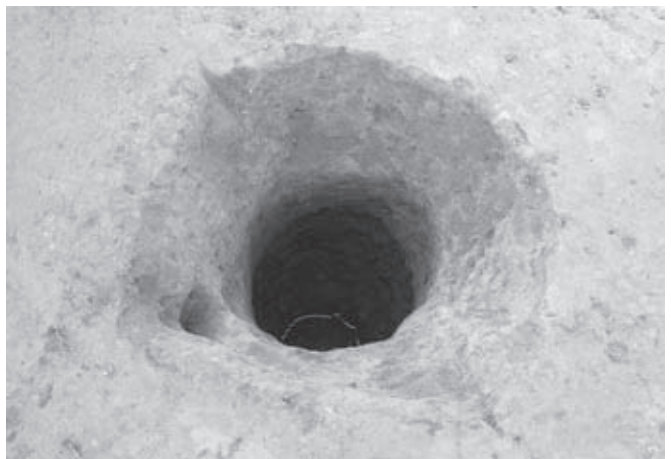
5. 3区5号竪穴状遺構P1全景(南から)



6. 1区29号土坑遺物出土状態(南から)

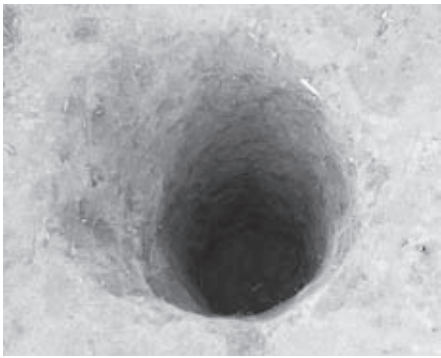


7. 1区362号ピット全景(南から)

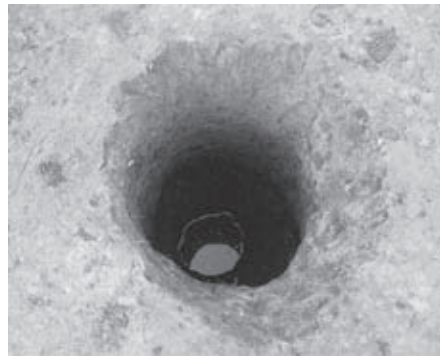


8. 1区440号ピット全景(南東から)

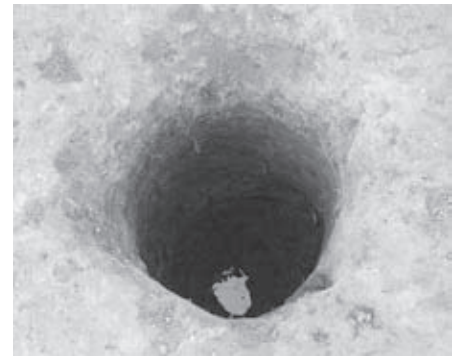




1. 1区442号ピット全景(南東から)



2. 1区443号ピット全景(南東から)



3. 1区444号ピット全景(南東から)



4. 1区440～444・516・646号ピット全景(南西から)



5. 1区494号ピット土層断面(南から)



6. 1区494号ピット全景(南から)



8. 1区501号ピット全景(南西から)



7. 3区623号ピット全景(南西から)



9. 1区516号ピット遺物出土状態(南西から)





1. 3区624号ピット遺物出土状態(南西から)



2. 3区624号ピット遺物出土状態(南西から)



3. 3区625号ピット全景(南から)



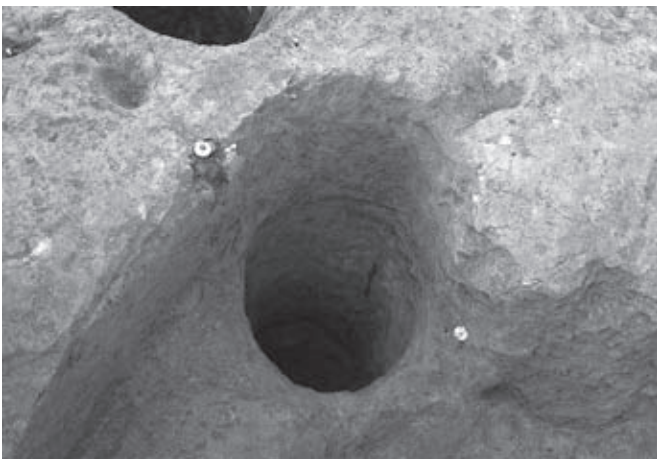
4. 3区626号ピット全景(東から)



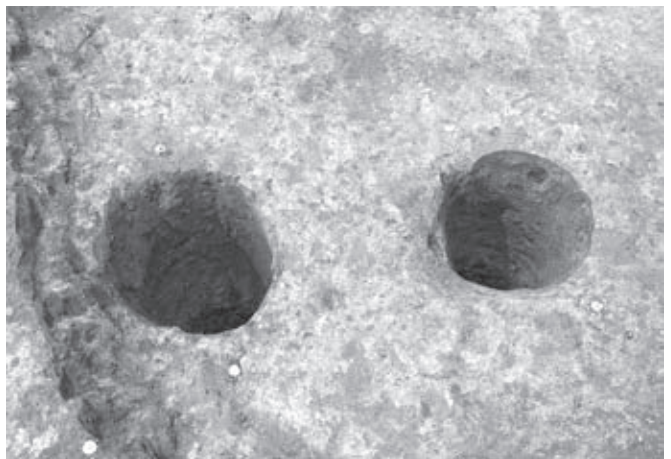
5. 3区626号ピット全景(東から)



6. 3区627号ピット全景(南から)



7. 3区629号ピット全景(南から)



8. 3区630・631号ピット全景(南東から)





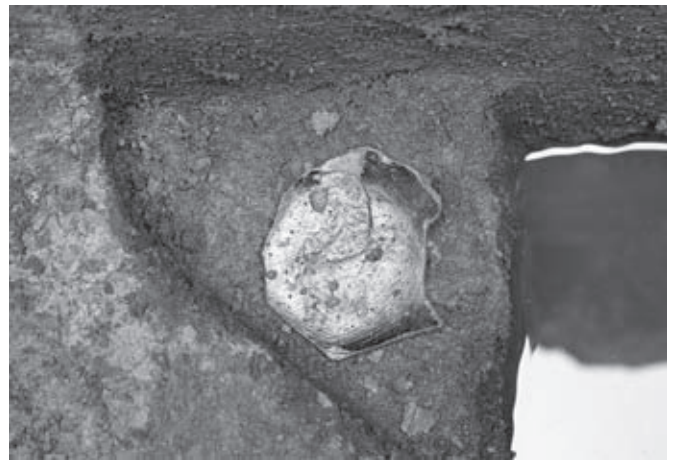
1. 3区632・633号ピット全景(南東から)



2. 3区635号ピット遺物出土状態(東から)



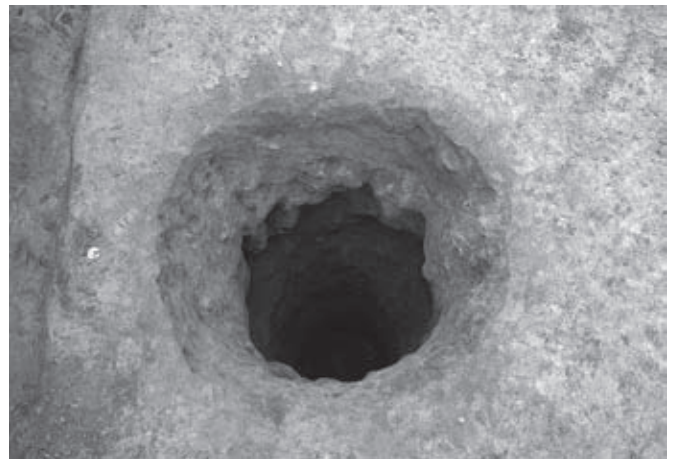
3. 3区637・638号ピット土層断面(南から)



4. 3区638号ピット遺物出土状態(南から)



5. 3区637・638号ピット全景(南から)



6. 3区639号ピット全景(東から)

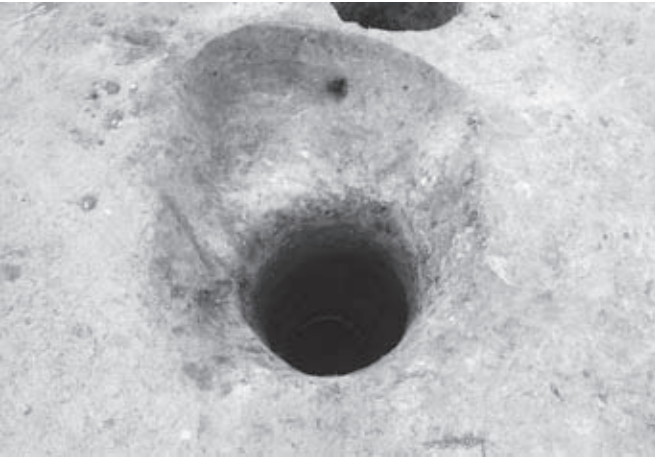


7. 3区640号ピット土層断面(北東から)

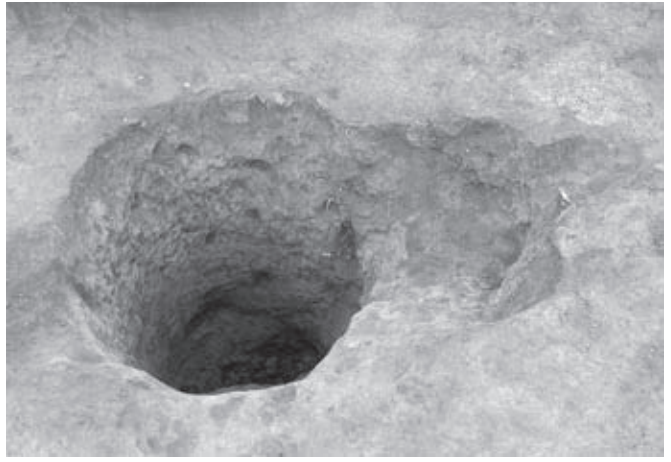


8. 3区641・642号ピット全景(北から)

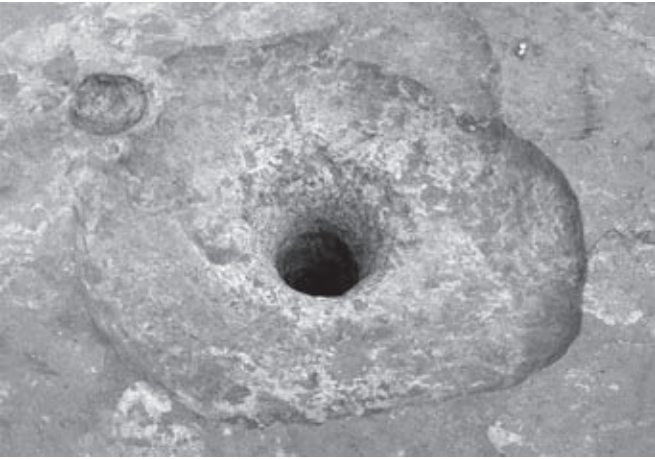




1. 1区646号ピット全景(南東から)



2. 1区1号井戸全景(北から)



3. 1区2号井戸全景(西から)



4. 1区1号道とピット群全景(北西から)



5. 1区1号溝全景(南西から)



6. 1区1号畠全景(東から)



7. 1区1号畠全景(南から)





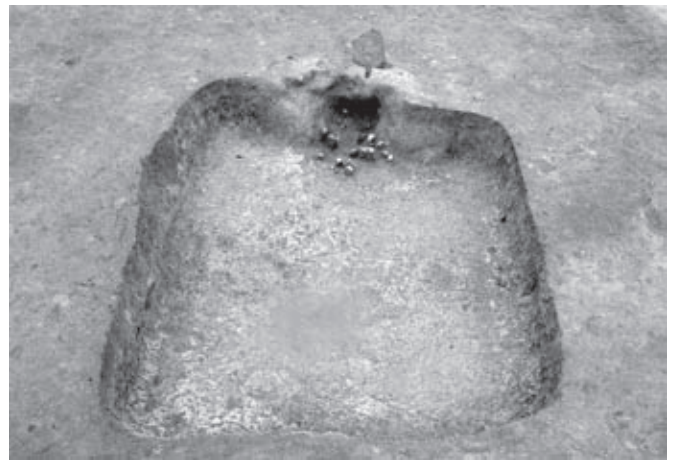
1. 1区2号竪穴住居カマド確認状態(南西から)



2. 1区2号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)



3. 1区2号竪穴住居カマド全景(南西から)



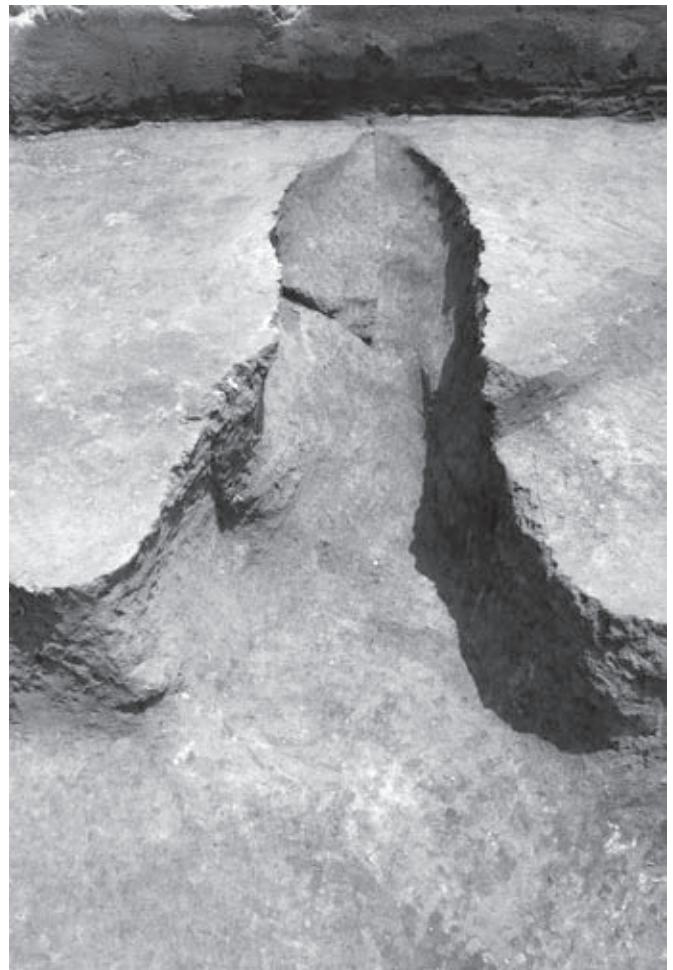
4. 1区2号竪穴住居全景(南西から)



5. 1区2号竪穴住居掘り方全景(南西から)

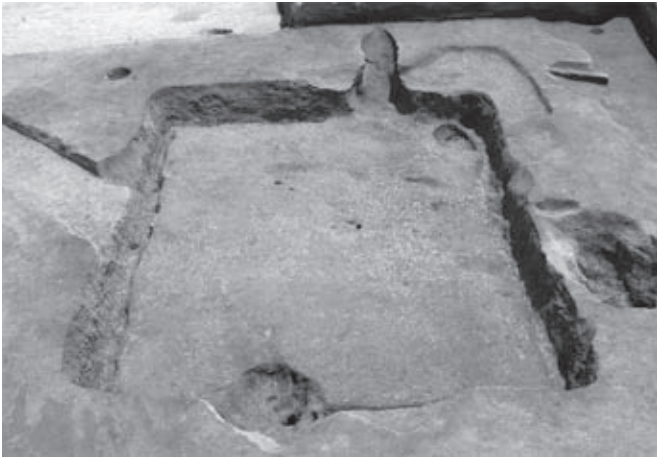


6. 1区8号竪穴住居遺物出土状態(西から)

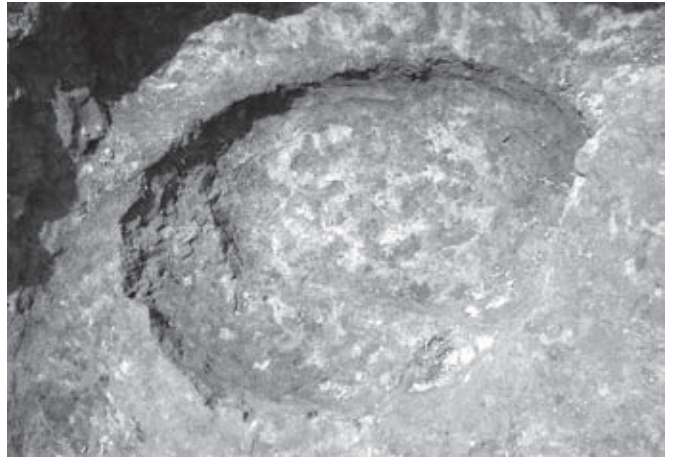


7. 1区8号竪穴住居カマド全景(西から)

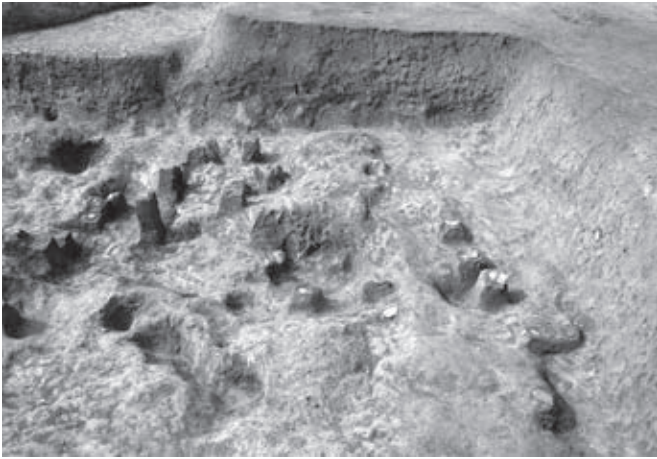




1. 1区8号竪穴住居全景(西から)



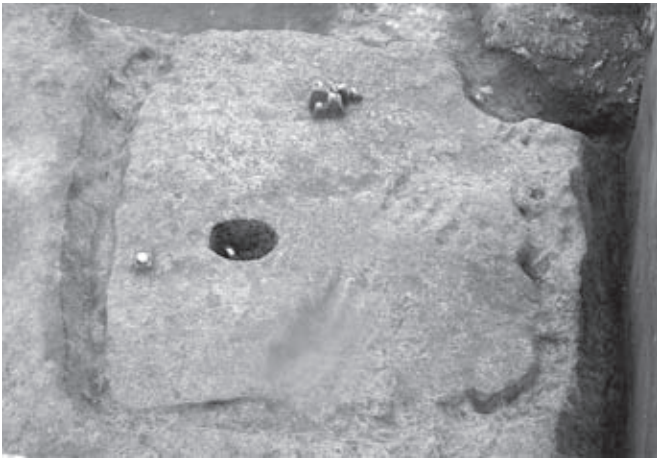
2. 1区8号竪穴住居貯蔵穴全景(北から)



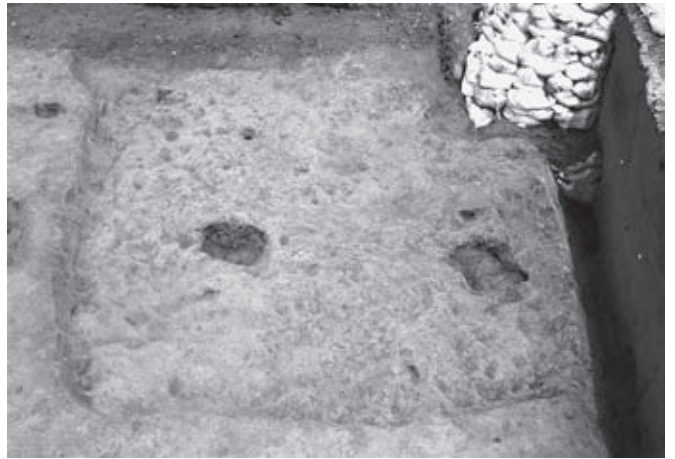
3. 1区8号竪穴住居掘り方遺物出土状態(西から)



4. 1区8号竪穴住居掘り方全景(西から)



5. 1区9号竪穴住居遺物出土状態(西から)



6. 1区9号竪穴住居掘り方全景(西から)



7. 1区10号竪穴住居遺物出土状態(南から)



8. 1区10・11号竪穴住居遺物出土状態(西から)





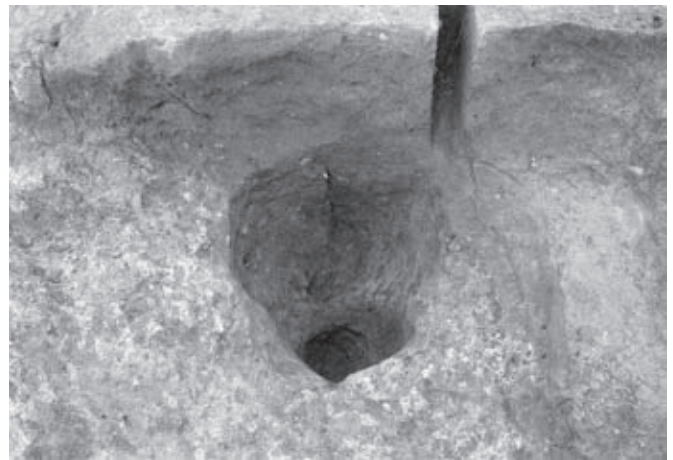
1. 1区10号竪穴住居全景(西から)



2. 1区10号竪穴住居1号カマド全景(西から)



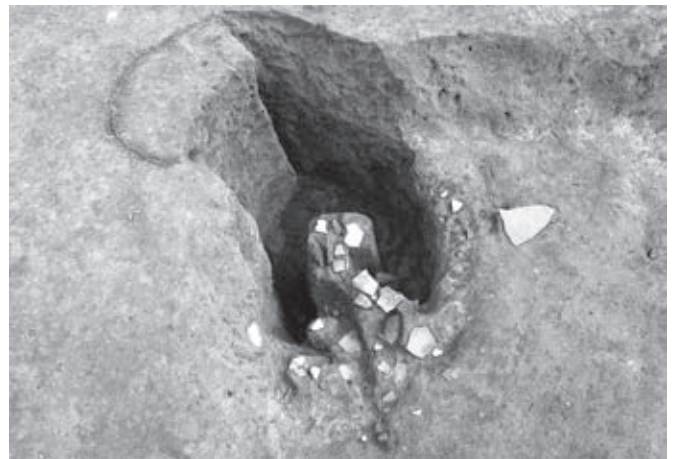
3. 1区10号竪穴住居2号カマド掘り方全景(西から)



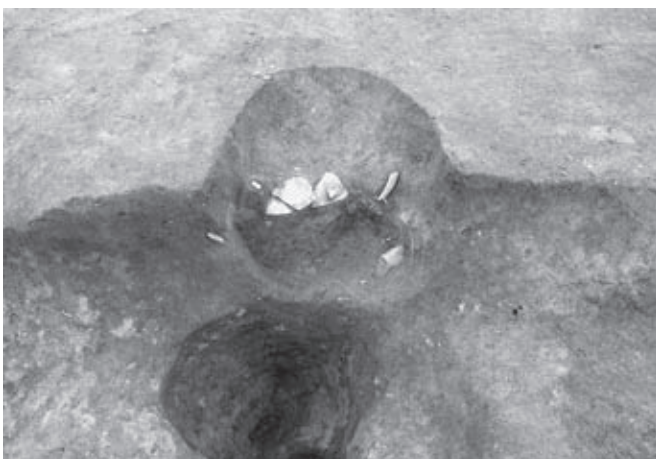
4. 1区10号竪穴住居貯蔵穴全景(西から)



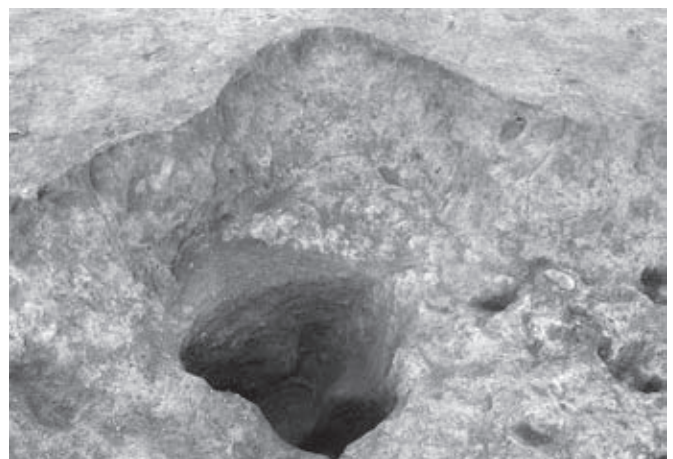
5. 1区11号竪穴住居遺物出土状態(西から)



6. 1区11号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(北から)



7. 1区11号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)



8. 1区11号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)





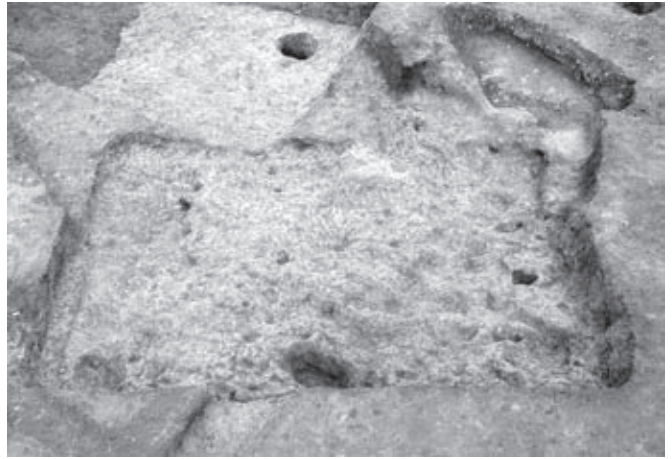
1. 1区11号竪穴住居掘り方全景(西から)



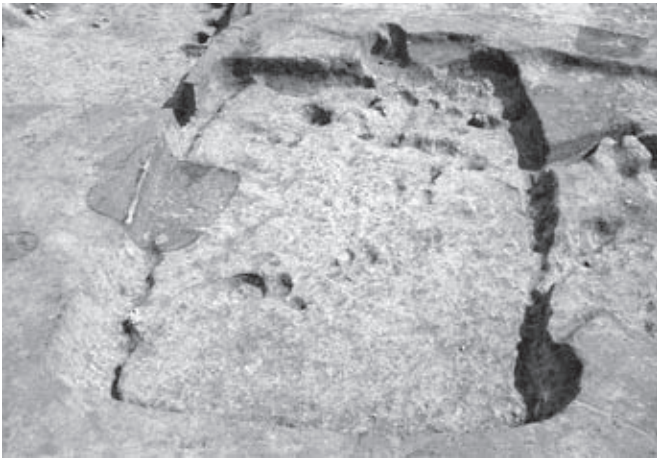
2. 1区14号竪穴住居全景(南西から)



3. 1区14号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)



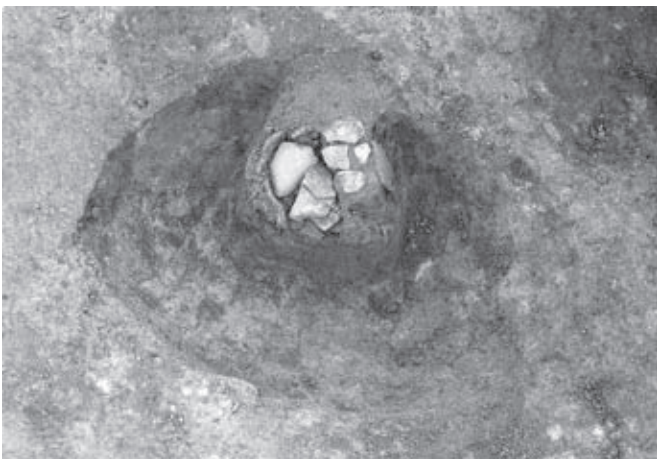
4. 1区14号竪穴住居掘り方全景(南西から)



5. 1区23号竪穴住居全景(西から)



6. 1区23号竪穴住居カマド全景(西から)



7. 1区23号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)



8. 1区24号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)





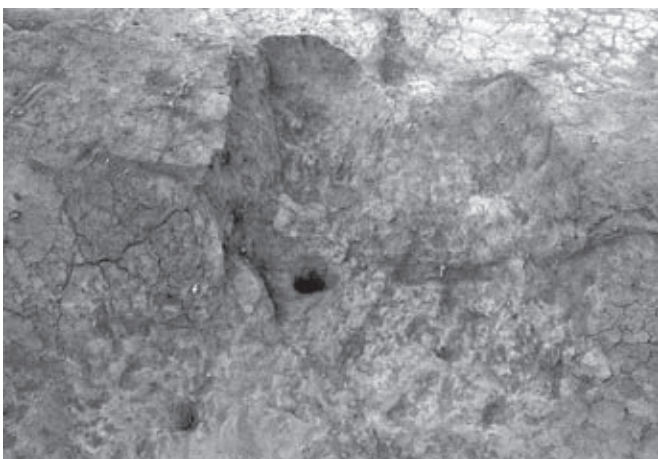
1. 1区24号竪穴住居全景(南から)



2. 1区26号竪穴住居土層断面(南から)



3. 1区26号竪穴住居全景(南から)



4. 1区26号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)



5. 1区26号竪穴住居掘り方全景(南から)





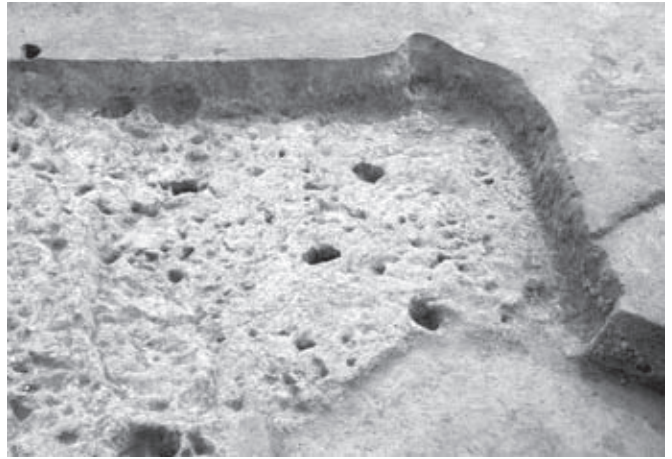
1. 1区28号竪穴住居遺物出土状態(北東から)



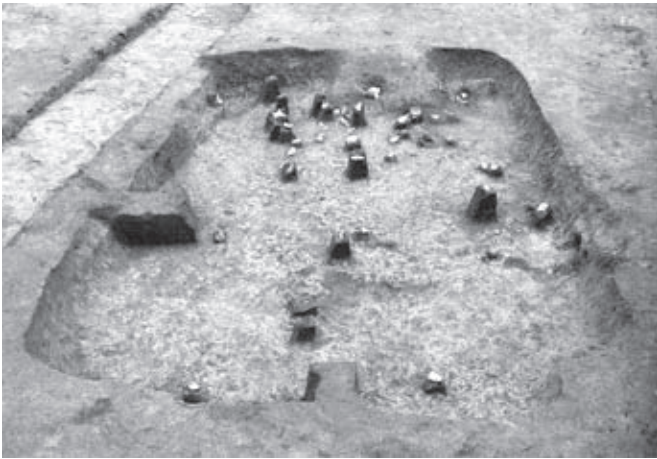
2. 1区28号竪穴住居全景(北東から)



3. 1区28号竪穴住居カマド全景(北東から)



4. 1区28号竪穴住居掘り方全景(北東から)



5. 1区29号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



6. 1区29号竪穴住居全景(南西から)

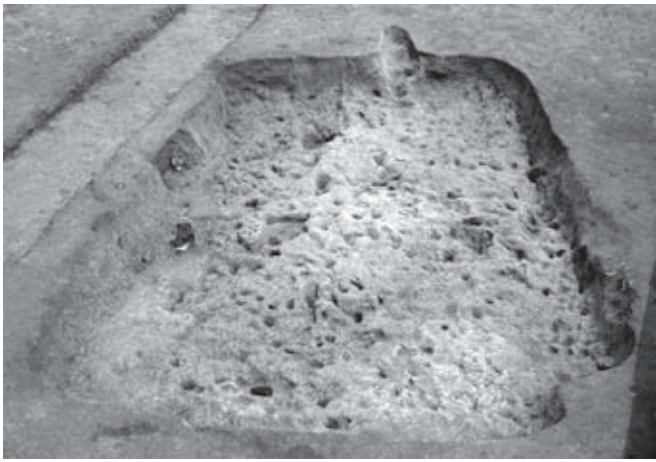


7. 1区29号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)



8. 1区29号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)





1. 1区29号竪穴住居掘り方全景(南西から)



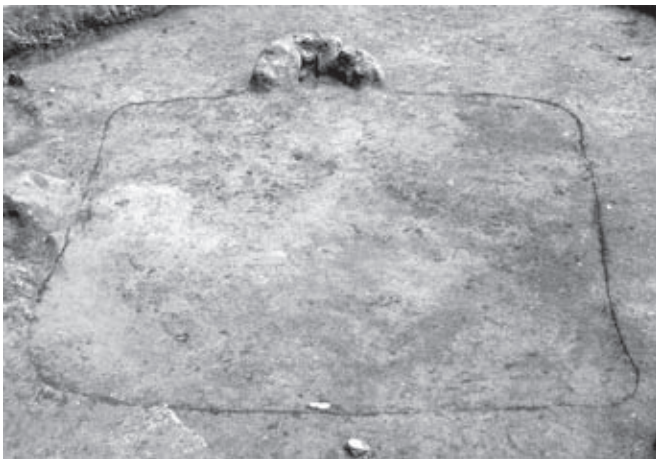
2. 1区30号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



3. 1区30号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



4. 1区30号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)



5. 1区30号竪穴住居全景(南西から)



6. 1区30号竪穴住居カマド全景(南西から)



7. 1区30号竪穴住居掘り方全景(南西から)



8. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)

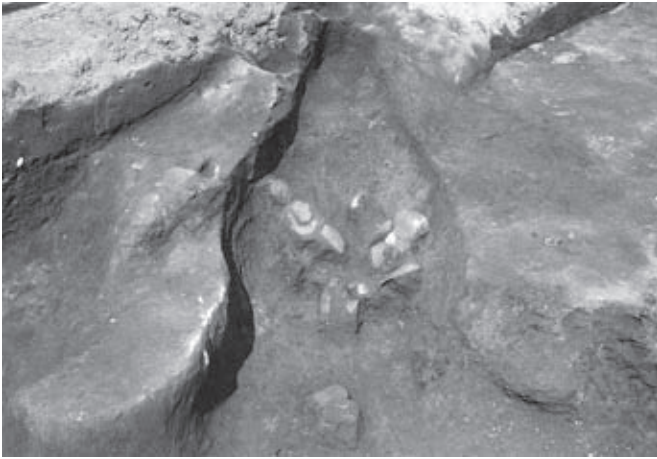




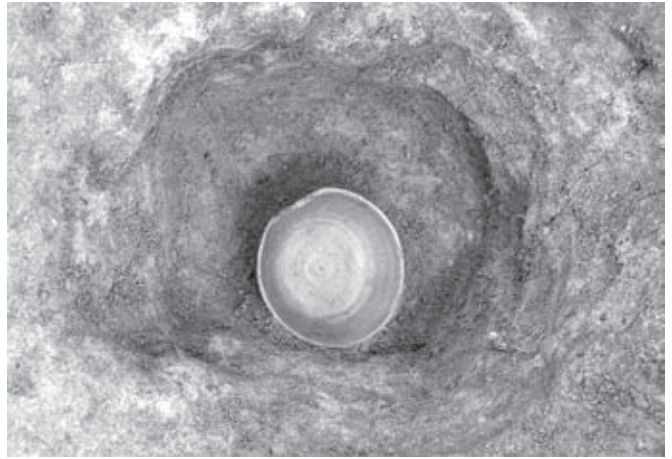
1. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



2. 1区31号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



3. 1区31号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)

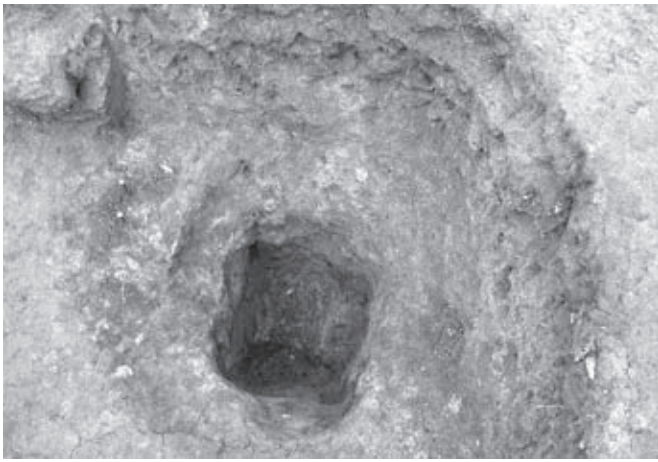


4. 1区31号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(南から)



5. 1区31号竪穴住居全景(南西から)





1. 1区31号竪穴住居貯蔵穴全景(南西から)



2. 1区31号竪穴住居掘り方全景(南西から)



3. 1区33号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



4. 1区33号竪穴住居遺物出土状態(南から)

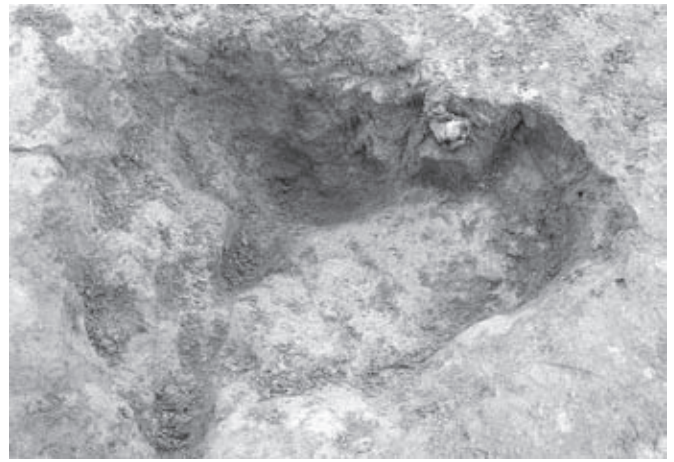


5. 1区33号竪穴住居全景(南西から)





1. 1区33号竪穴住居カマド遺物出土状態(南西から)



2. 1区33号竪穴住居鉄滓出土状態(南から)



3. 1区33号竪穴住居掘り方全景(南西から)



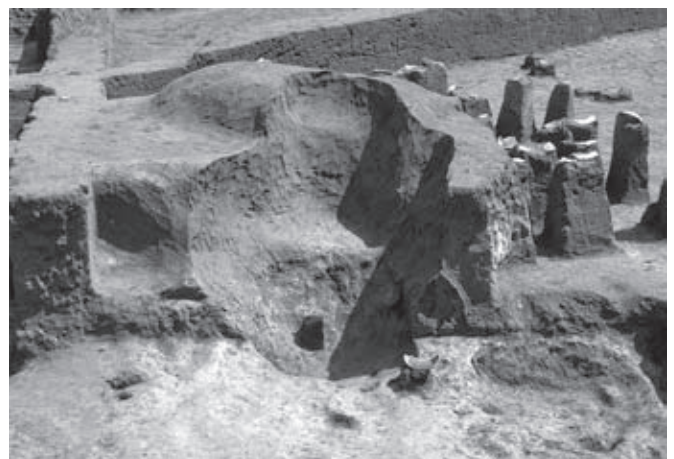
4. 1区37号竪穴住居遺物出土状態(西から)



5. 1区37号竪穴住居全景(西から)



6. 1区37号竪穴住居カマド全景(西から)



7. 1区37号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)





1. 1区37号竪穴住居掘り方全景(西から)



2. 1区48号竪穴住居遺物出土状態(西から)



3. 1区48号竪穴住居カマド全景(南から)



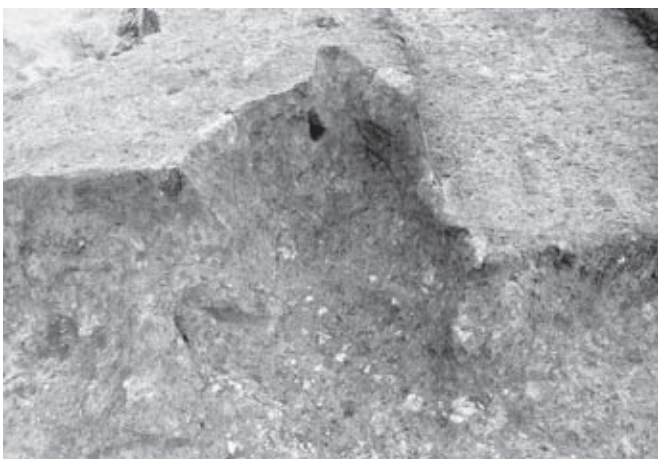
4. 1区48号竪穴住居全景(南から)



5. 1区50号竪穴住居全景(西から)



6. 1区50号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)



7. 1区50号竪穴住居カマド全景(西から)



8. 1区50号竪穴住居全景(西から)





1. 1区52・53号竪穴住居遺物出土状態(西から)



2. 1区52号竪穴住居遺物出土状態(西から)



3. 1区52号竪穴住居遺物出土状態(西から)



4. 1区52号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)



5. 1区52号竪穴住居カマド全景(西から)





1. 1区52号竪穴住居全景(西から)



2. 1区52号竪穴住居掘り方全景(西から)



3. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)



4. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)



6. 1区53号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)



7. 1区53号竪穴住居カマド全景(西から)



5. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)



8. 1区53号竪穴住居遺物出土状態(西から)



9. 1区53号竪穴住居貯蔵穴遺物出土状態(西から)

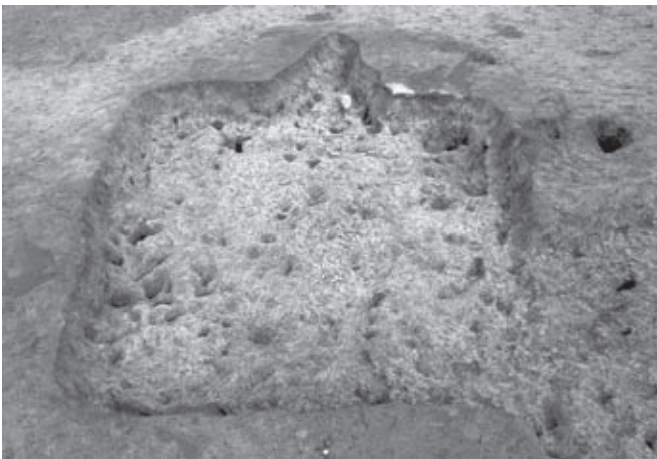


10. 1区53号竪穴住居全景(西から)





1. 1区52・53号竪穴住居全景(西から)



2. 1区53号竪穴住居掘り方全景(西から)



3. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)



4. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)



5. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)





1. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)



2. 1区54号竪穴住居遺物出土状態(南から)



3. 1区54号竪穴住居カマド全景(南から)



4. 1区54号竪穴住居全景(南から)



5. 1区55号竪穴住居遺物出土状態(西から)



6. 1区55号竪穴住居遺物出土状態(北から)



7. 1区55号竪穴住居全景(西から)



8. 1区55号竪穴住居掘り方全景(西から)





1. 1区57号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



2. 1区57号竪穴住居全景(東から)



3. 1区60号竪穴住居全景(西から)



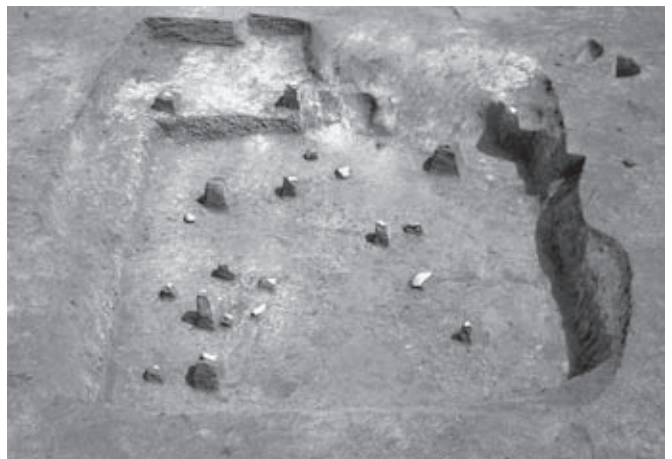
4. 1区61号竪穴住居遺物出土状態(南から)



5. 1区61号竪穴住居カマド全景(南から)



6. 1区61号竪穴住居掘り方全景(南から)



7. 1区62・63号竪穴住居遺物出土状態(西から)

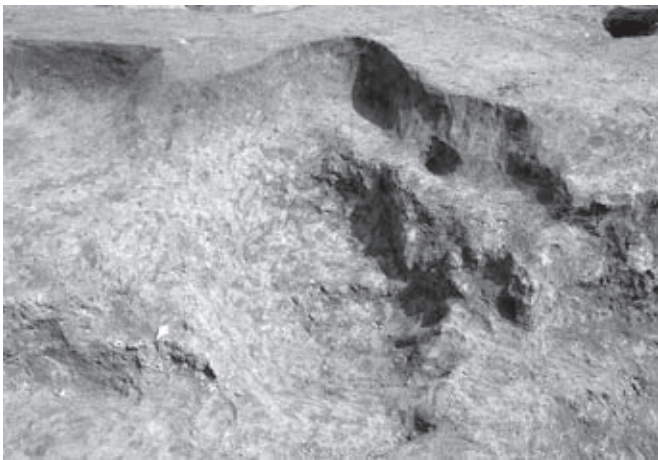




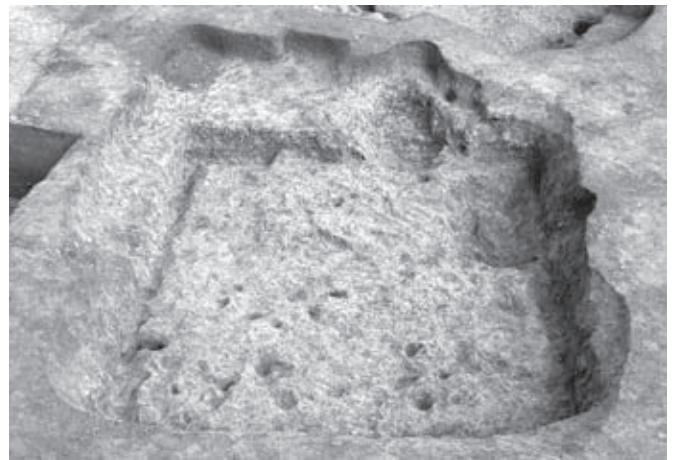
1. 1区62・63号竪穴住居全景(西から)



2. 1区63号竪穴住居カマド全景(西から)



3. 1区63号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)



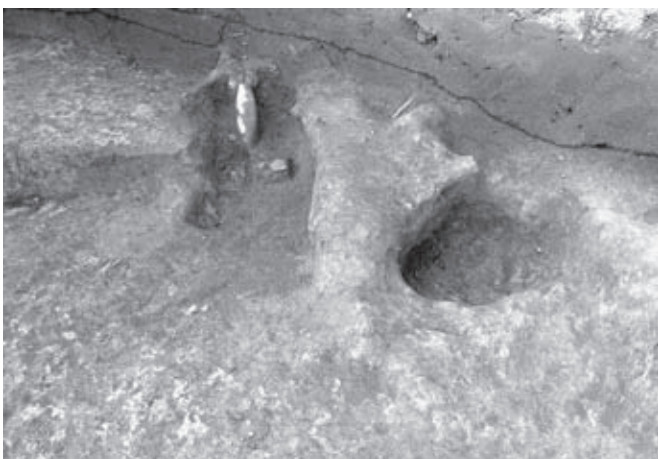
4. 1区63号竪穴住居掘り方全景(西から)



5. 1区66号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



6. 1区59・66号竪穴住居遺物出土状態(南東から)



7. 1区66号竪穴住居カマド全景(南東から)

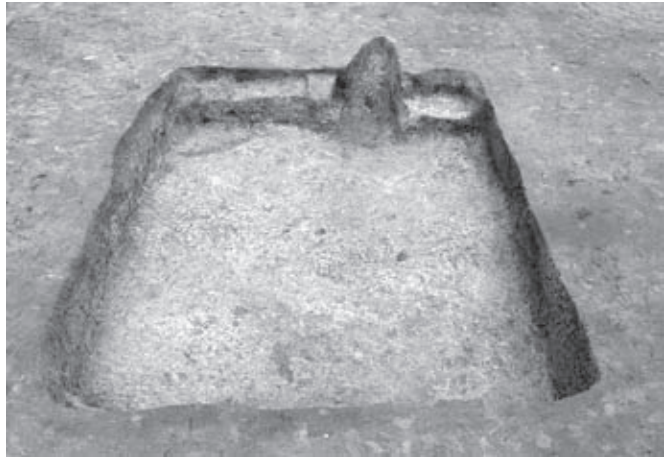


8. 1区66号竪穴住居全景(南東から)





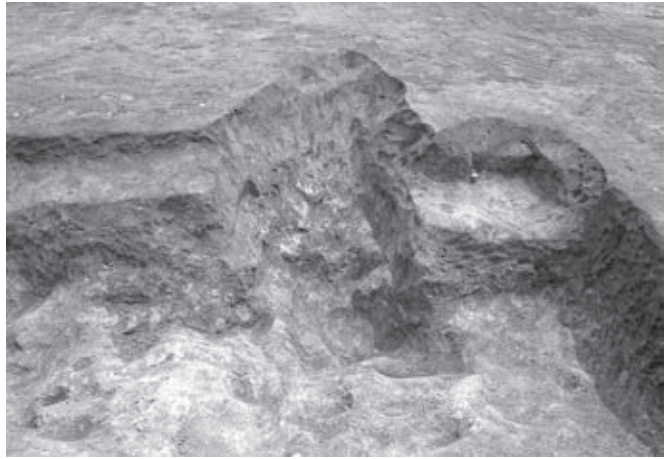
1. 1区66号竪穴住居掘り方全景(南東から)



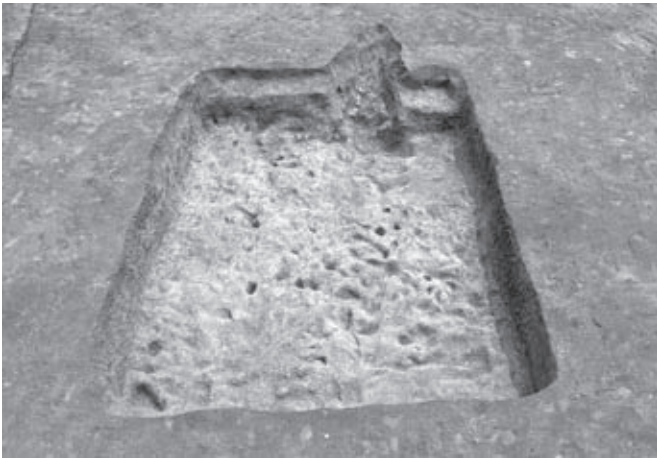
2. 3区71号竪穴住居全景(西から)



3. 3区71号竪穴住居カマド遺物出土状態(西から)



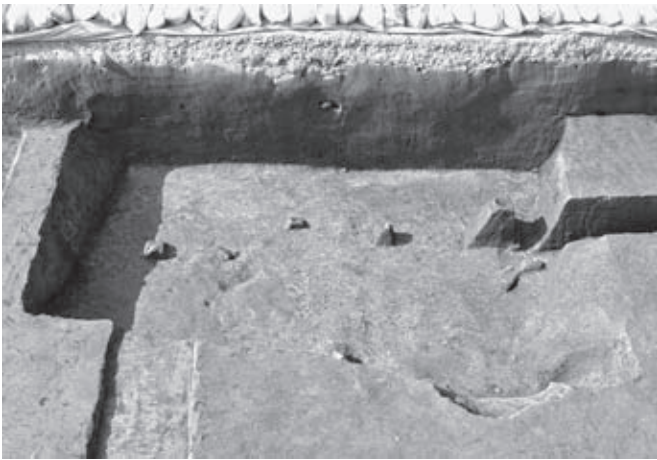
4. 3区71号竪穴住居カマド掘り方全景(西から)



5. 3区71号竪穴住居掘り方全景(西から)



6. 3区71号竪穴住居調査風景(北西から)



7. 3区78号竪穴住居遺物出土状態(南から)



8. 3区78号竪穴住居全景(西から)





1. 3区78号竪穴住居カマド全景(西から)



2. 3区78号竪穴住居掘り方全景(西から)



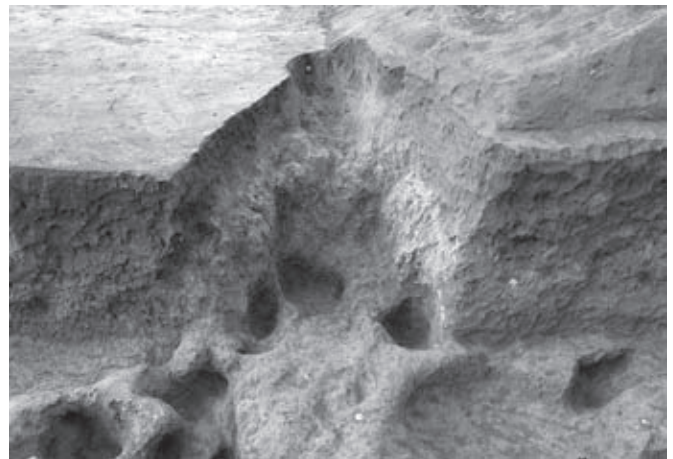
3. 3区79号竪穴住居遺物出土状態(東から)



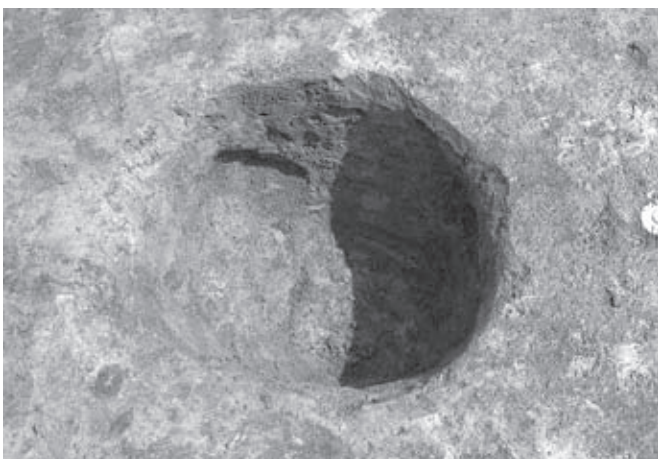
4. 3区79号竪穴住居全景(南から)



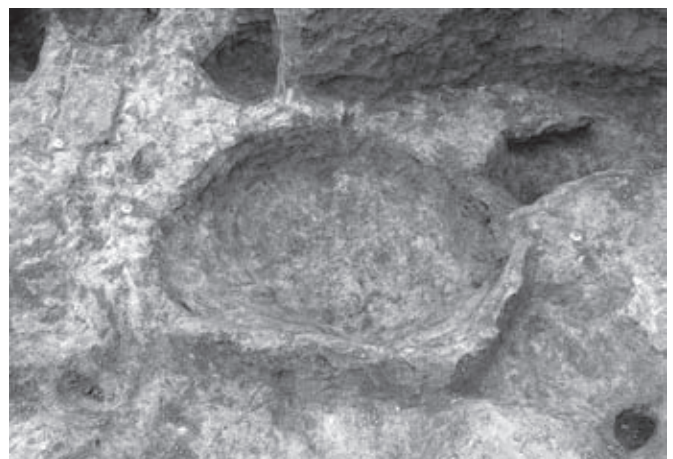
5. 3区79号竪穴住居カマド遺物出土状態(南から)



6. 3区79号竪穴住居カマド掘り方全景(南から)



7. 3区79号竪穴住居P 1 全景(南から)



8. 3区79号竪穴住居貯蔵穴全景(南から)





1. 3区79号竪穴住居掘り方全景(南から)



2. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



3. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



4. 3区82・86号竪穴住居遺物出土状態(南西から)



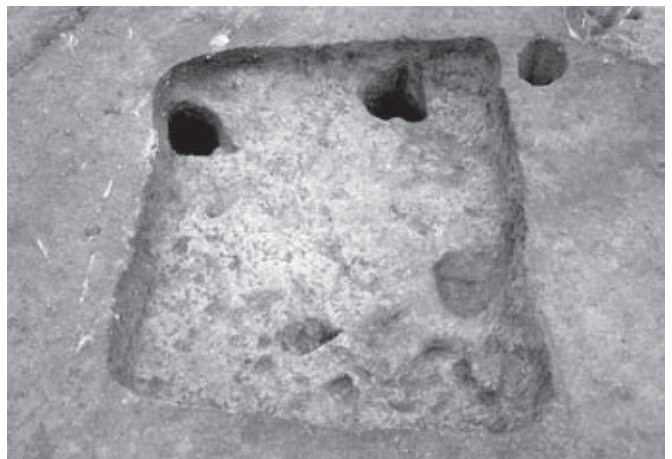
5. 3区82号竪穴住居カマド全景(南西から)



6. 3区82号竪穴住居カマド掘り方全景(南西から)

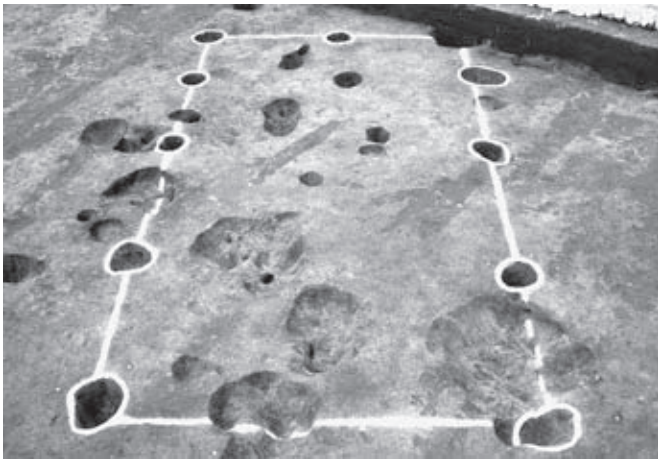


7. 1区1号竪穴状遺構遺物出土状態(西から)

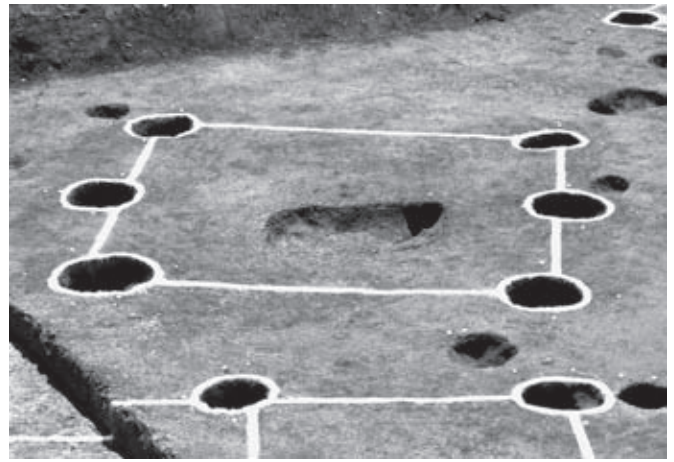


8. 1区1号竪穴状遺構掘り方全景(南から)

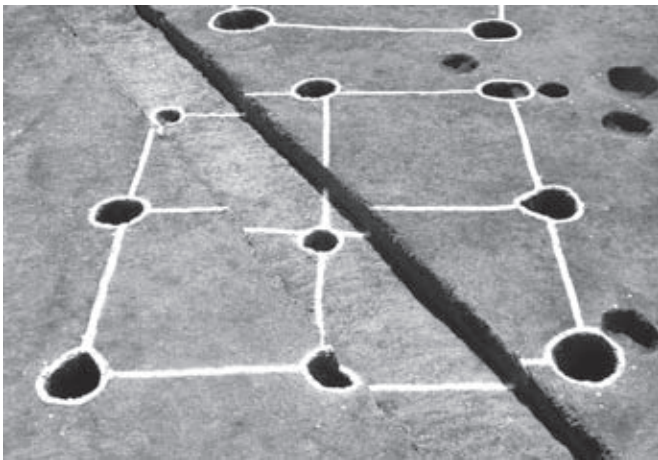




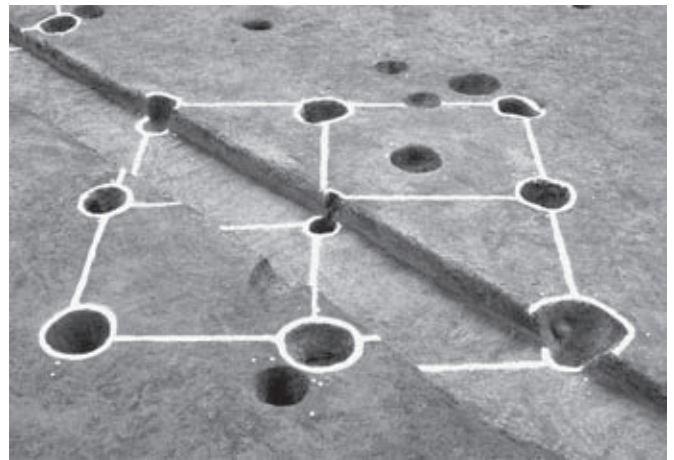
1. 1区1号掘立柱建物全景(北西から)



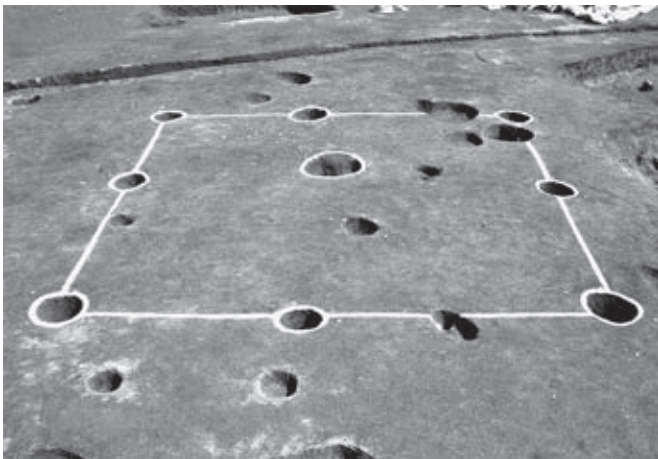
2. 1区2号掘立柱建物全景(西から)



3. 1区3号掘立柱建物全景(西から)



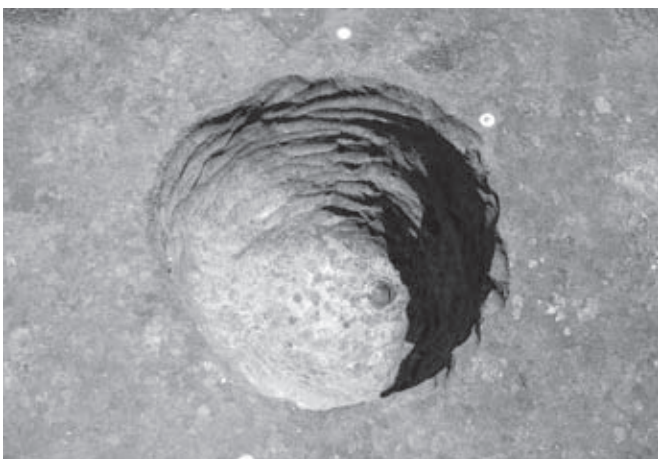
4. 1区4号掘立柱建物全景(北西から)



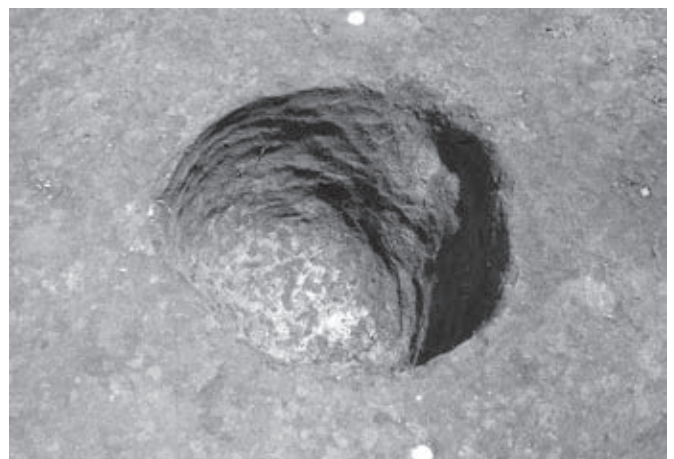
5. 1区5号掘立柱建物全景(北西から)



6. 1区6号掘立柱建物全景(北から)

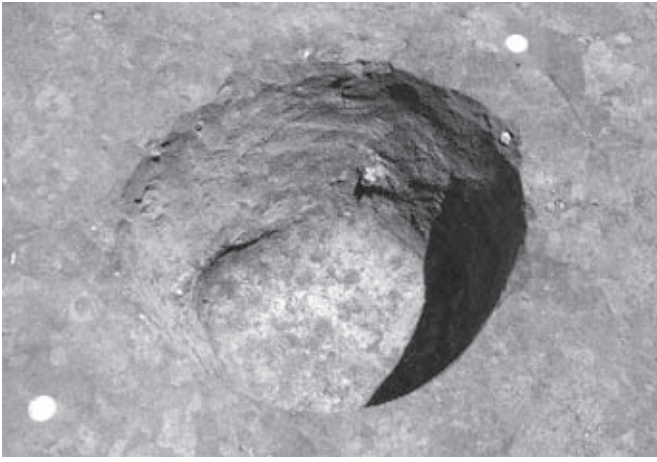


7. 1区6号掘立柱建物P 1全景(南から)

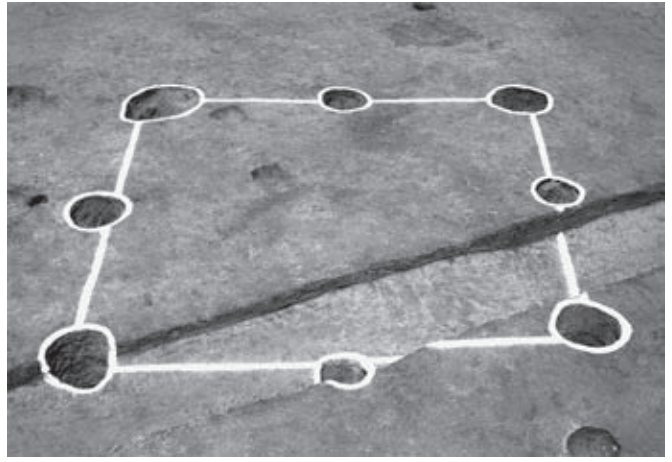


8. 1区6号掘立柱建物P 2全景(南から)

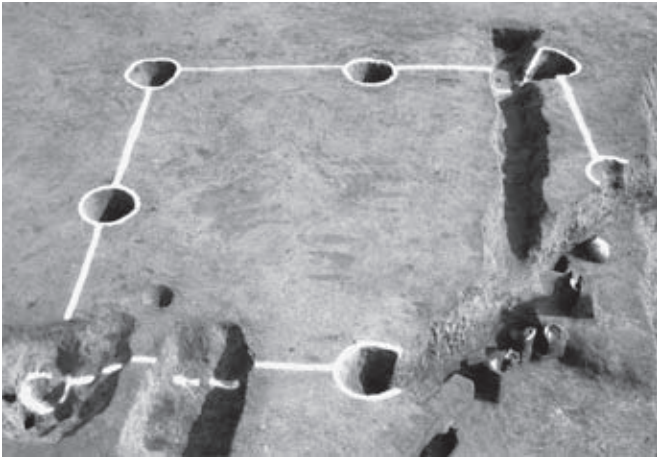




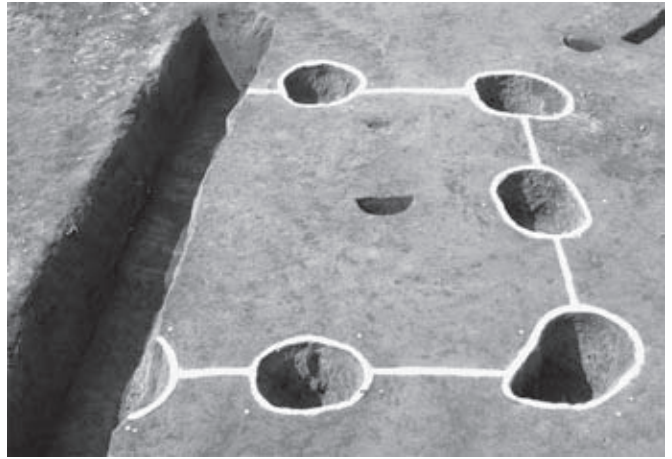
1. 1区6号掘立柱建物P3全景(南から)



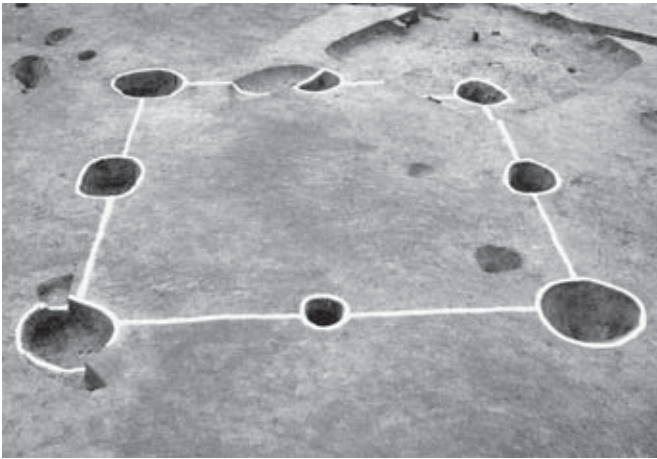
2. 1区7号掘立柱建物全景(南から)



3. 1区8号掘立柱建物全景(北から)



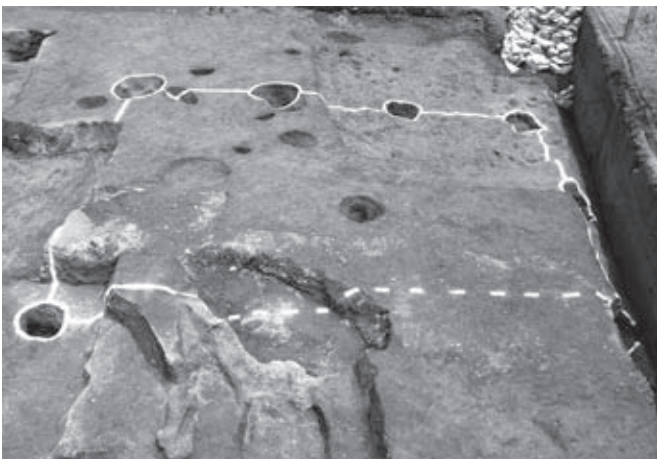
4. 1区9号掘立柱建物全景(南から)



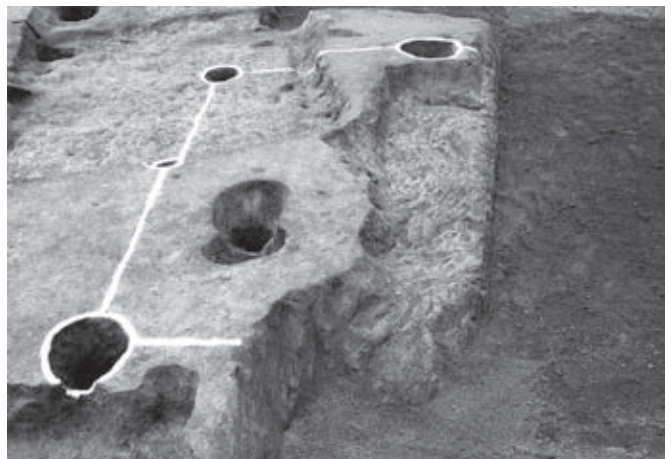
5. 1区10号掘立柱建物全景(東から)



6. 1区11・12号掘立柱建物全景(南から)

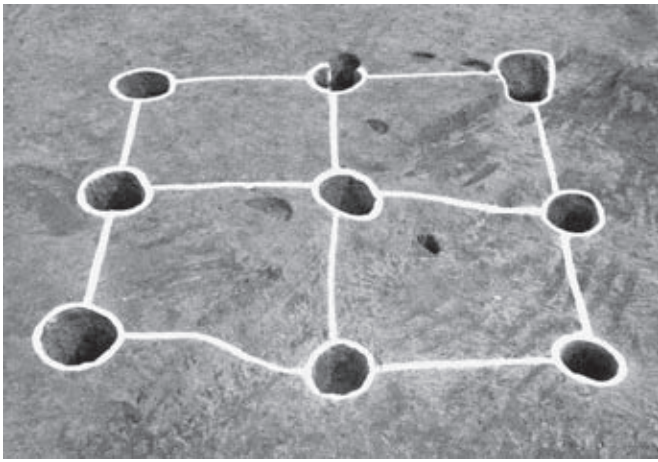


7. 1区13号掘立柱建物全景(西から)



8. 1区14号掘立柱建物全景(北から)





1. 1区15号掘立柱建物全景(北西から)



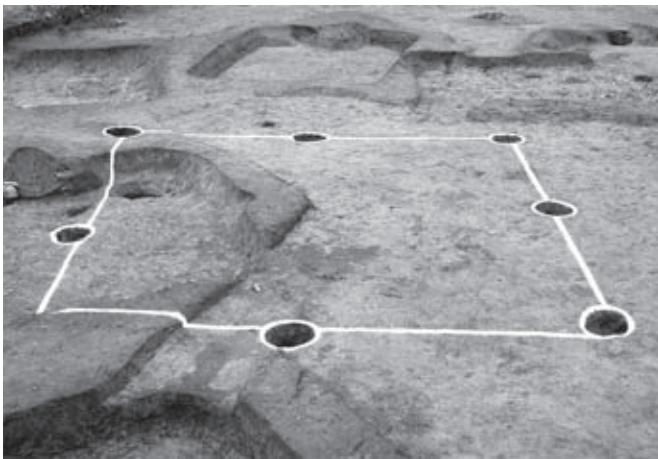
2. 1区15号掘立柱建物P 1土層断面(西から)



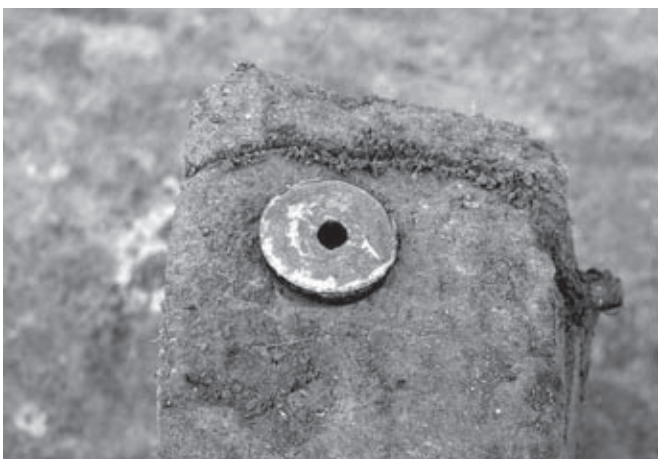
3. 1区15号掘立柱建物P 2土層断面(南から)



4. 1区15号掘立柱建物P 3土層断面(西から)



5. 1区16号掘立柱建物全景(西から)

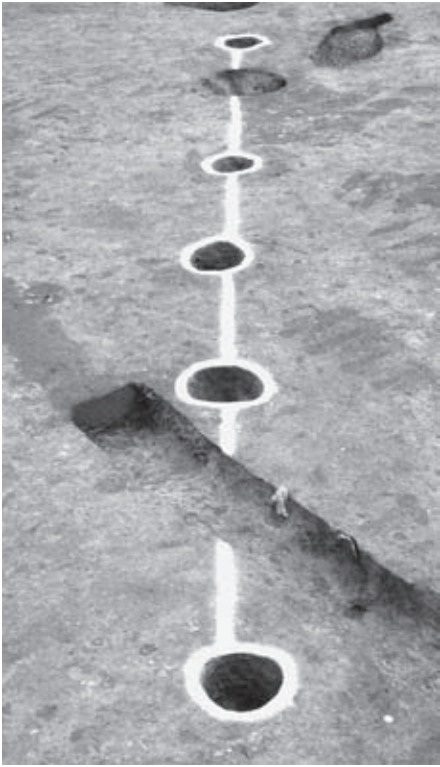


6. 1区16号掘立柱建物P 7遺物出土状態(北西から)



7. 1区16号掘立柱建物P 7土層断面(南西から)





1. 1区8号柵全景(南西から)



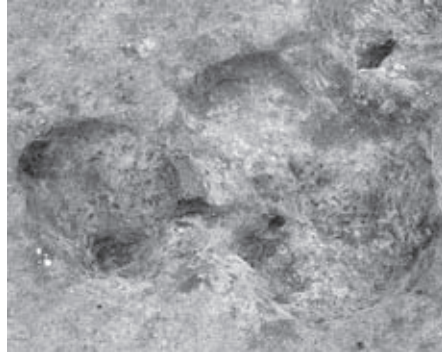
2. 1区1号土坑全景(東から)



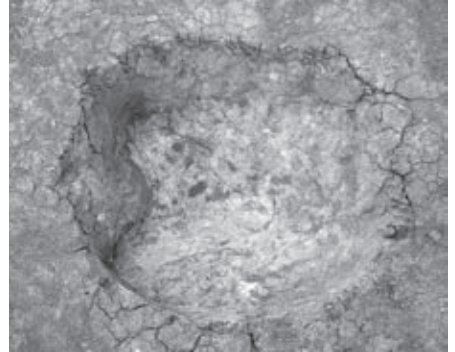
3. 1区6号土坑全景(南東から)



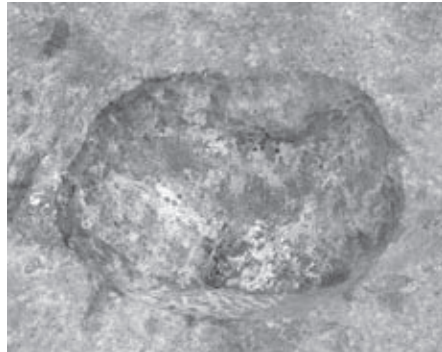
4. 1区9号土坑全景(南西から)



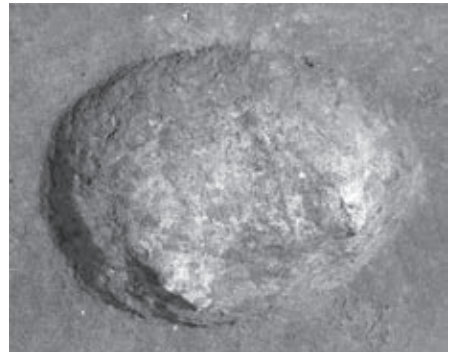
5. 1区4・5号土坑全景(南から)



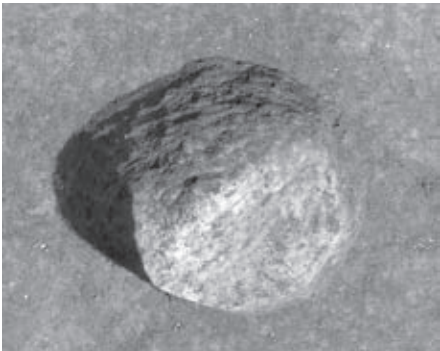
6. 1区11号土坑全景(東から)



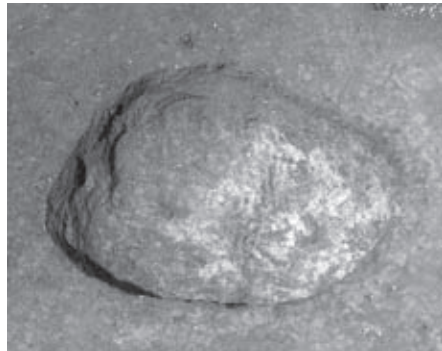
7. 1区13号土坑全景(南から)



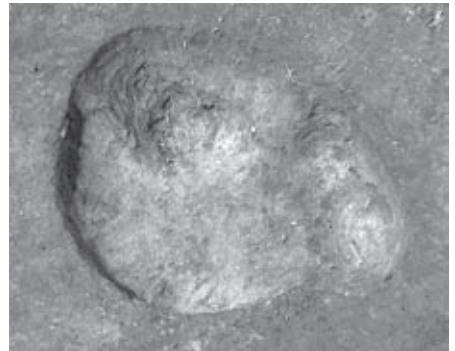
8. 1区16号土坑全景(東から)



9. 1区18号土坑全景(南西から)

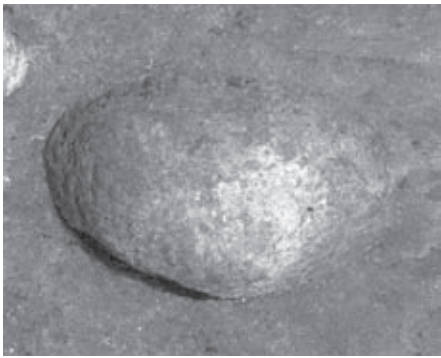


10. 1区19号土坑全景(南から)

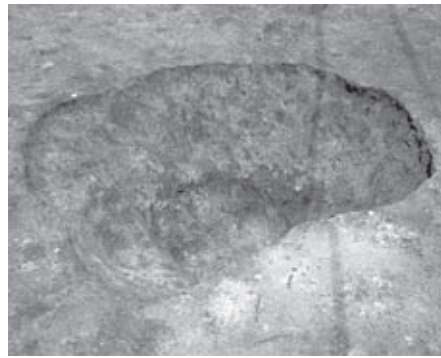


11. 1区20号土坑全景(南東から)

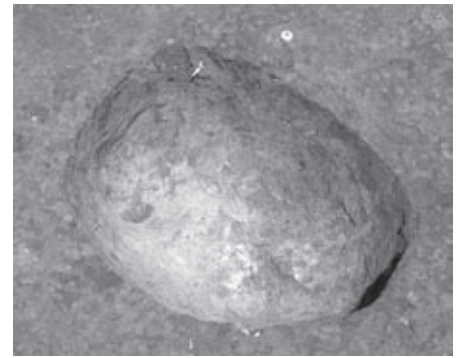




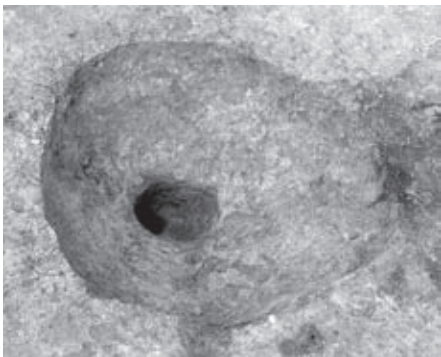
1. 1区21号土坑全景(南から)



2. 1区24号土坑全景(南から)



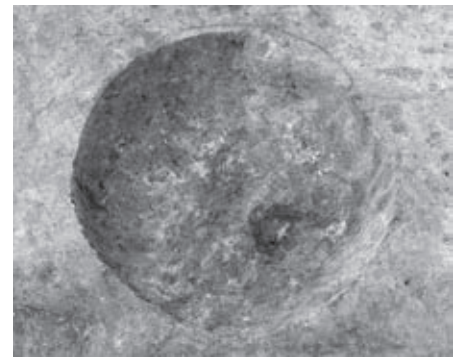
3. 1区25号土坑全景(南から)



4. 1区27号土坑全景(南西から)



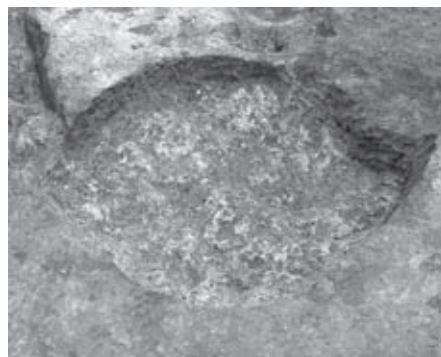
5. 1区30号土坑全景(南東から)



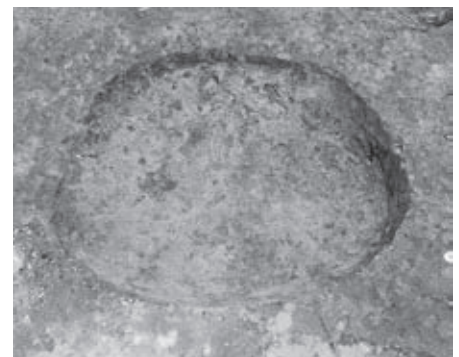
6. 1区32号土坑全景(南から)



7. 1区35号土坑遺物出土状態(南から)



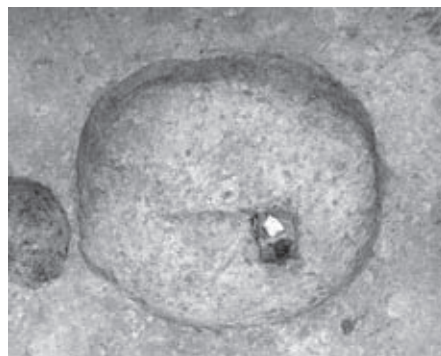
8. 1区37号土坑全景(北から)



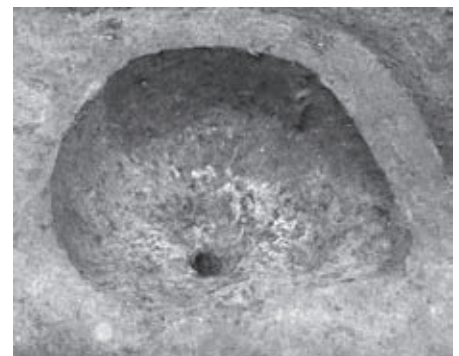
9. 1区38号土坑全景(西から)



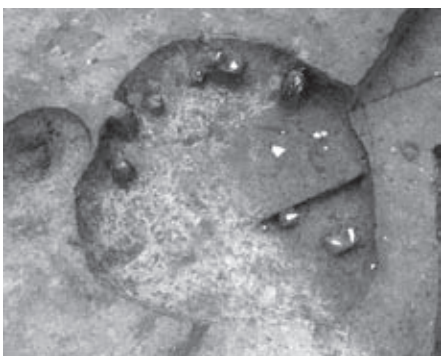
10. 1区41号土坑遺物出土状態(北から)



11. 1区42号土坑遺物出土状態(北から)



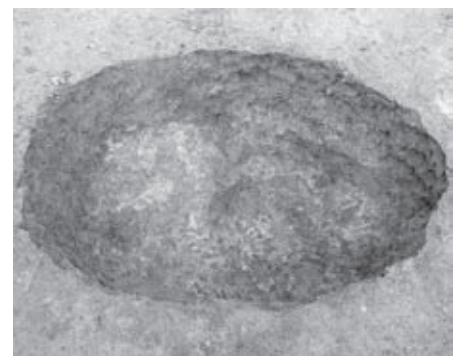
12. 1区43号土坑全景(南から)



13. 1区44号土坑遺物出土状態(北東から)

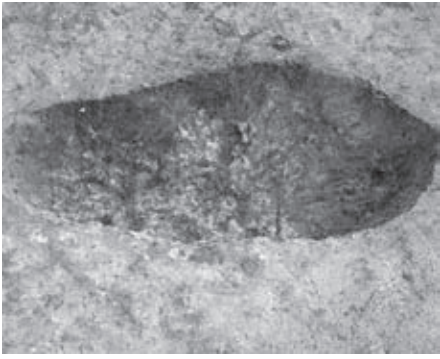


14. 1区45号土坑全景(南から)

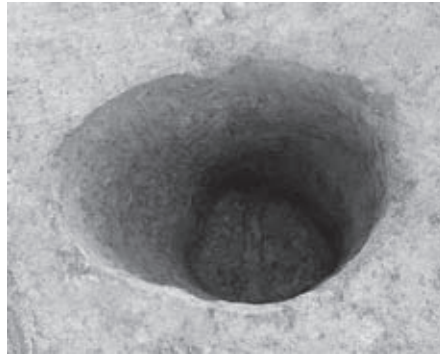


15. 1区47号土坑全景(東から)

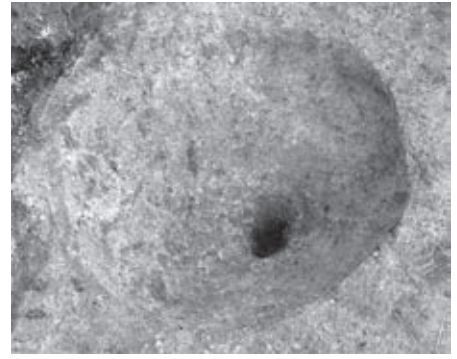




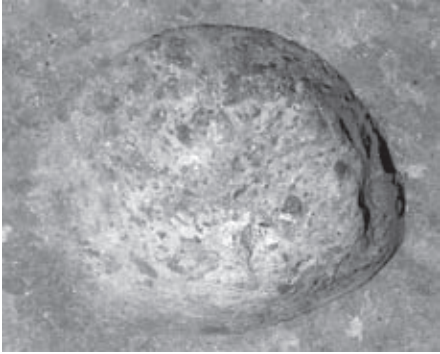
1. 1区49号土坑全景(北から)



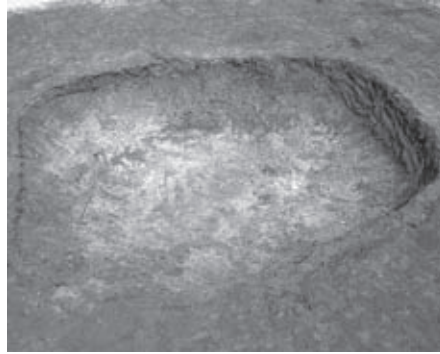
2. 1区50号土坑全景(北から)



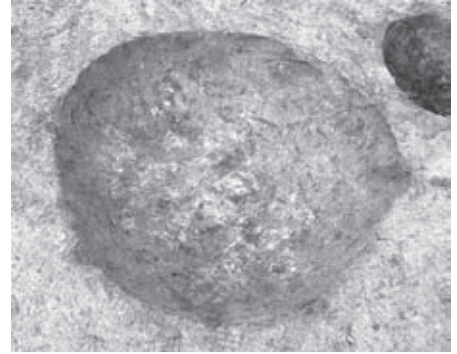
3. 1区51号土坑全景(北から)



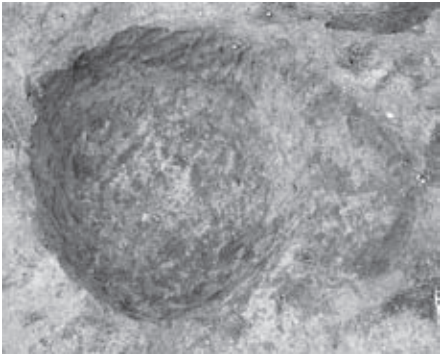
4. 1区52号土坑全景(南から)



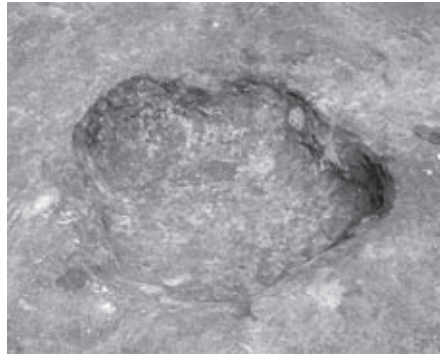
5. 1区56号土坑全景(南西から)



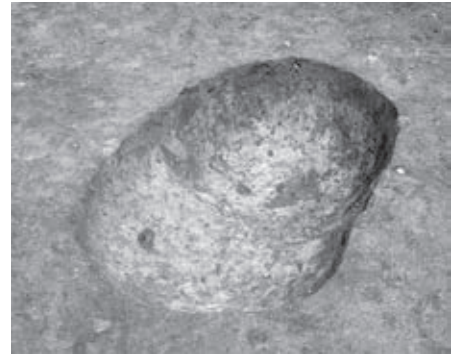
6. 1区57号土坑全景(南から)



7. 1区58号土坑全景(南から)



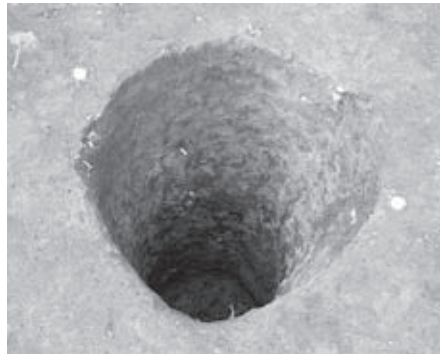
8. 3区60号土坑全景(南から)



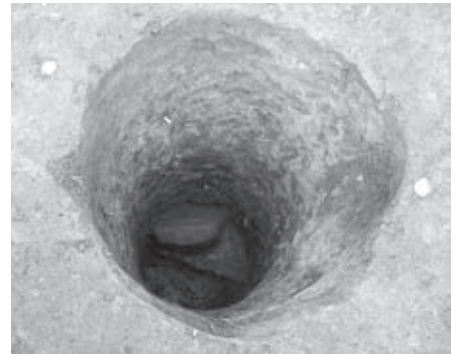
9. 3区61号土坑全景(南から)



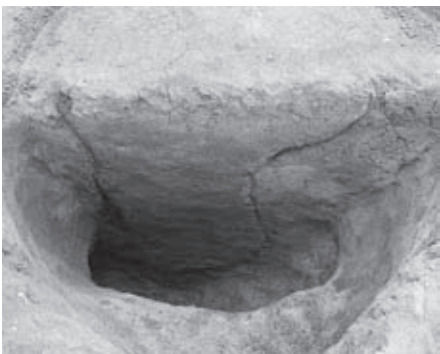
10. 3区62号土坑全景(南西から)



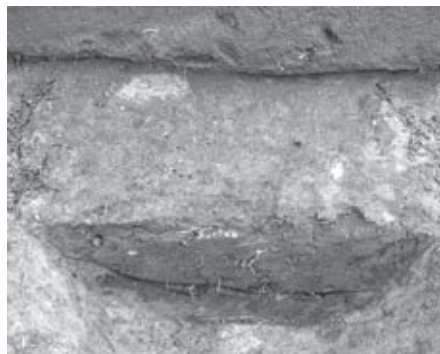
11. 1区2号ピット全景(南から)



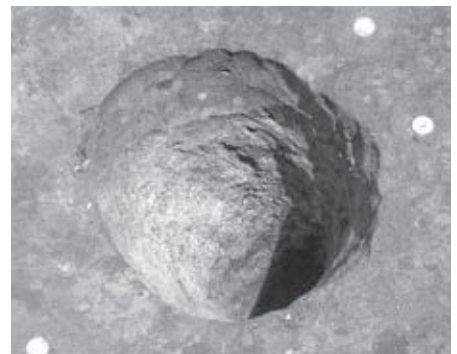
12. 1区3号ピット全景(南から)



13. 1区161号ピット土層断面(南から)

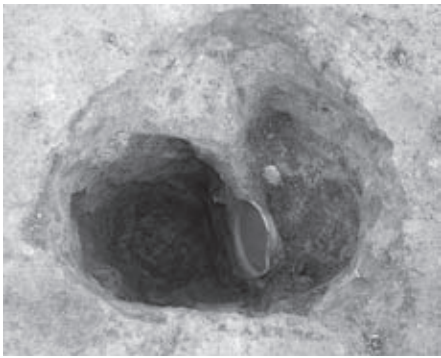


14. 1区267号ピット土層断面(南から)



15. 1区282号ピット全景(南から)

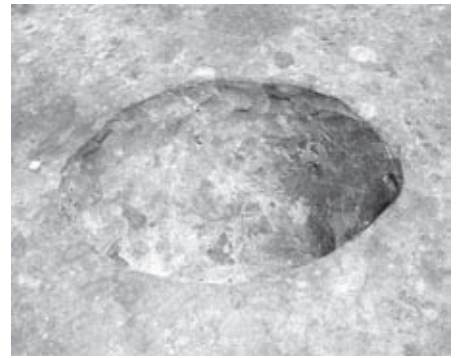




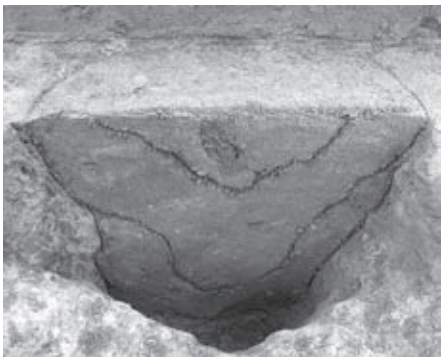
1. 1区575号ピット遺物出土状態(南から)



2. 3区617・618号ピット全景(南から)



3. 3区628号ピット全景(南から)



4. 3区644号ピット土層断面(北から)



6. 1区2号溝全景(西から)



7. 1区2号溝全景(西から)



5. 1区旧石器時代調査坑1・2全景(西から)



8. 1区旧石器時代調査坑1土層断面(西から)



9. 1区旧石器時代調査坑5土層断面(西から)



10. 1区旧石器時代調査坑17土層断面(南から)



11. 3区旧石器時代調査坑24土層断面(東から)



12. 3区旧石器時代調査坑掘削状態(西から)



13. 3区表土掘削作業風景(西から)





1. 1区全景(北から)



2. 1区1号竪穴住居遺物出土状態(西から)



3. 1区1号竪穴住居全景(西から)

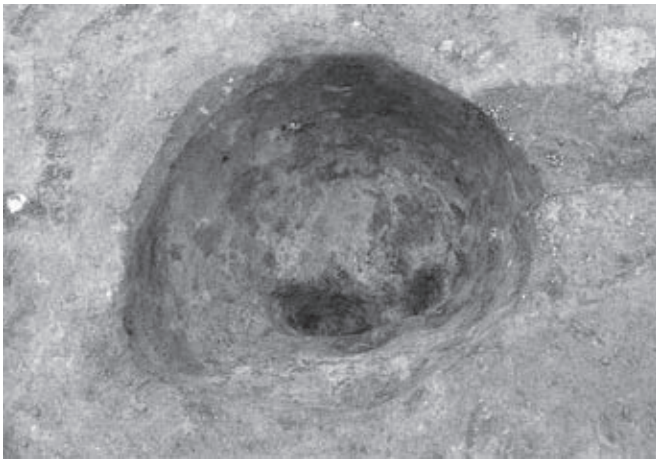


4. 1区1号竪穴住居2面全景(西から)

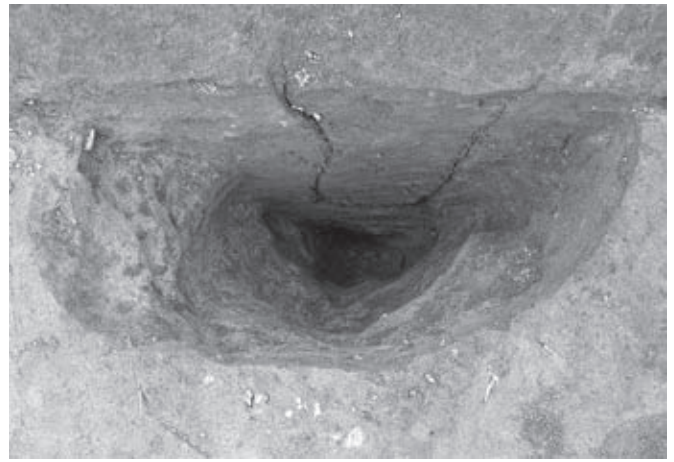


5. 1区1号竪穴住居掘り方全景(西から)

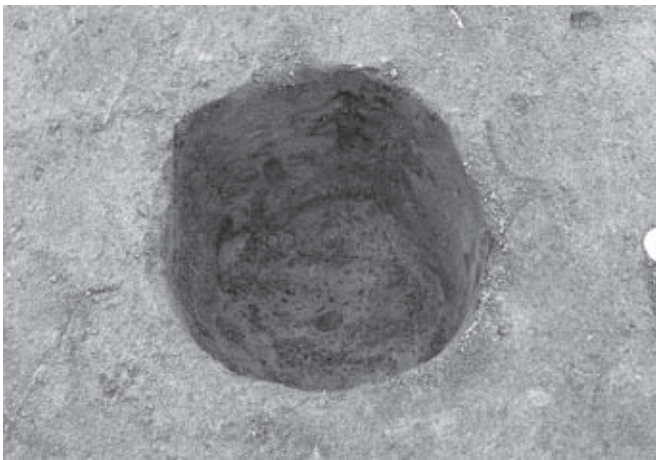




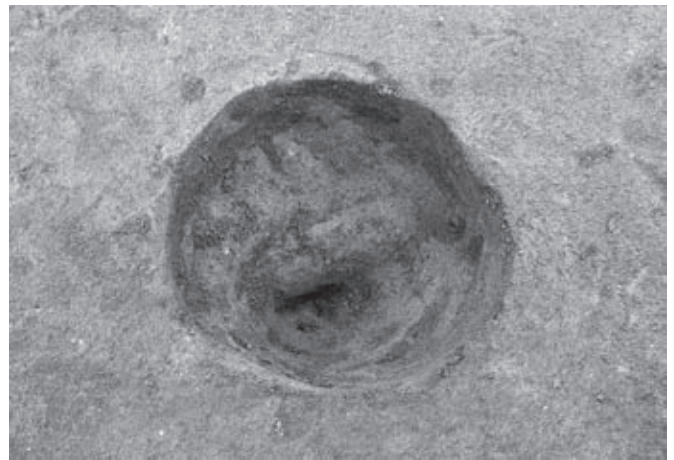
1. 1区1号ピット全景(西から)



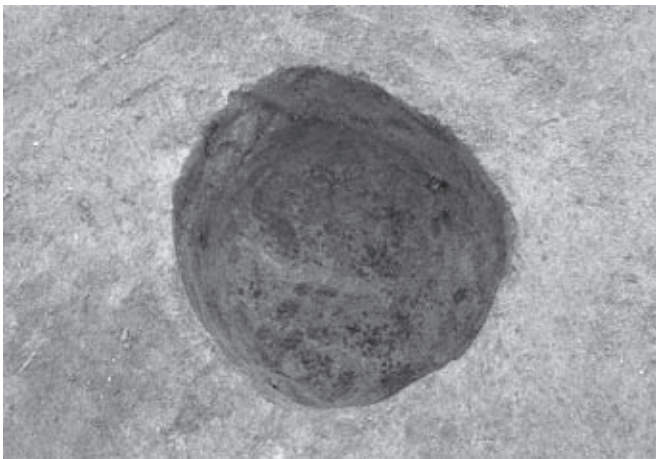
2. 1区3号ピット土層断面(西から)



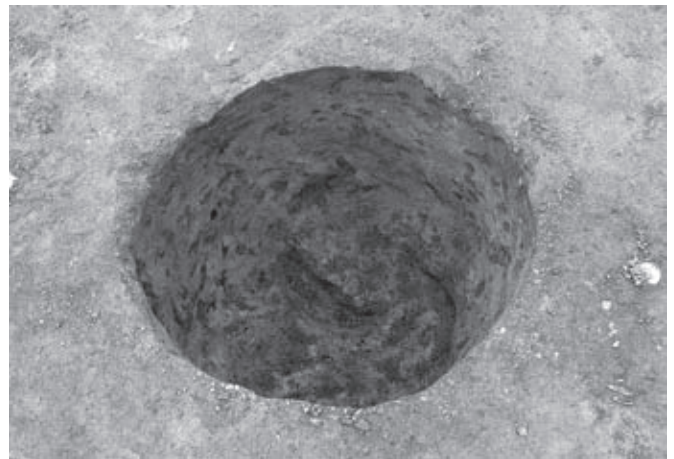
3. 1区4号ピット全景(南から)



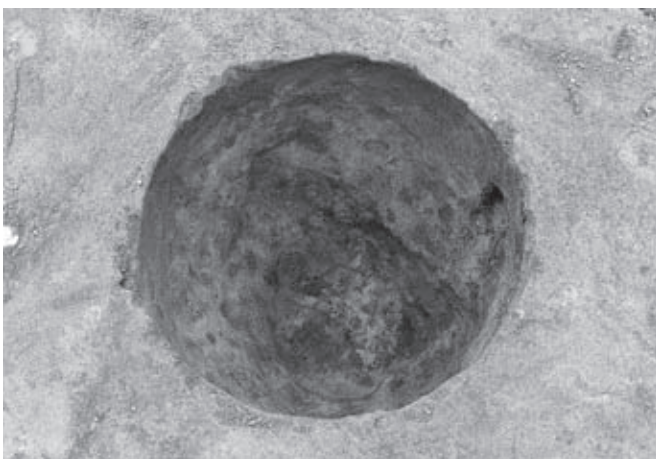
4. 1区5号ピット全景(南から)



5. 1区6号ピット全景(南から)



6. 1区7号ピット全景(南から)



7. 1区8号ピット全景(南から)



8. 1区旧石器時代調査坑1土層断面(北から)

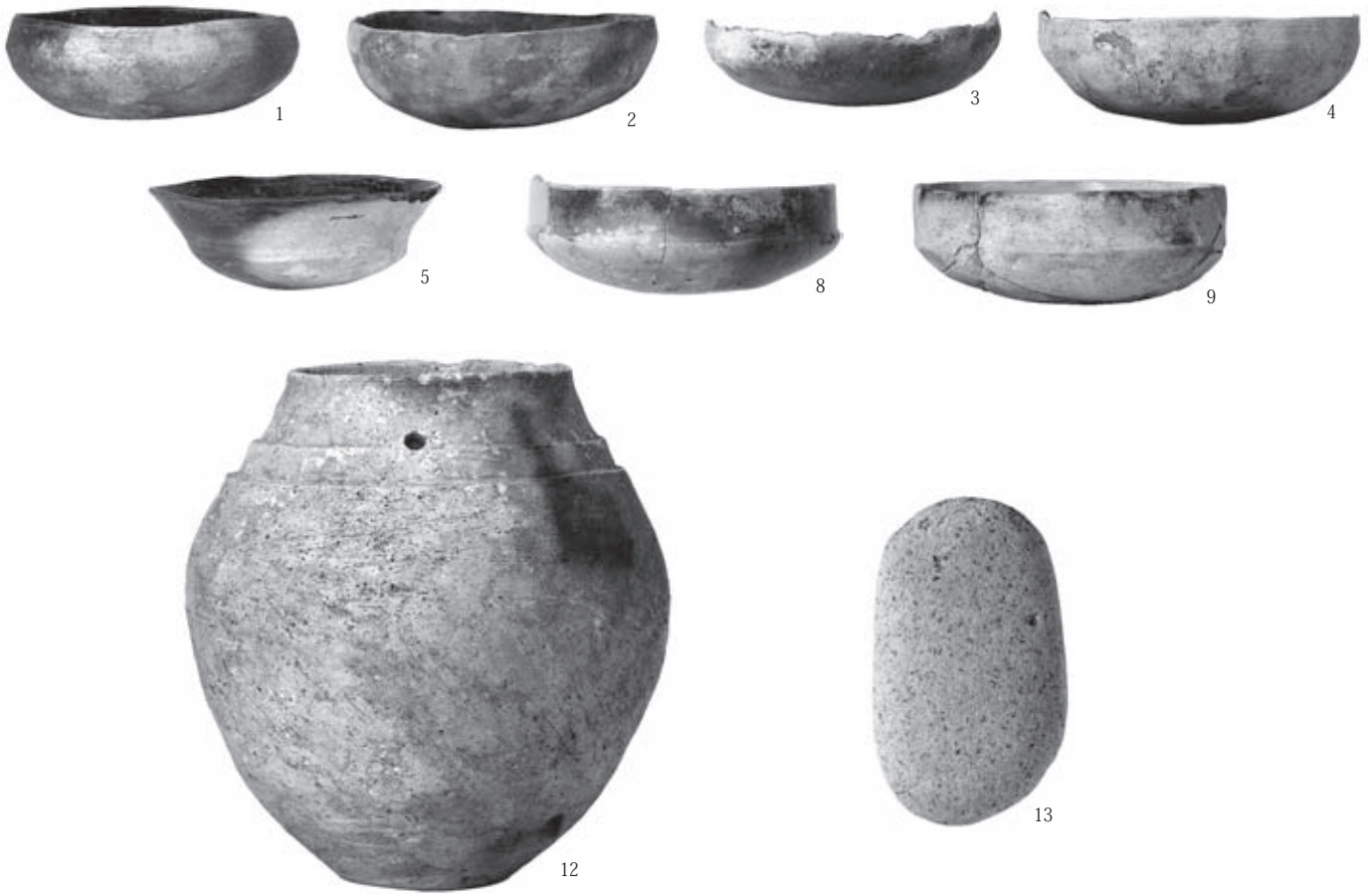


間之原遺跡

1区4号竪穴住居出土遺物



1区6号竪穴住居出土遺物



1区12号竪穴住居出土遺物



1区16号竪穴住居出土遺物

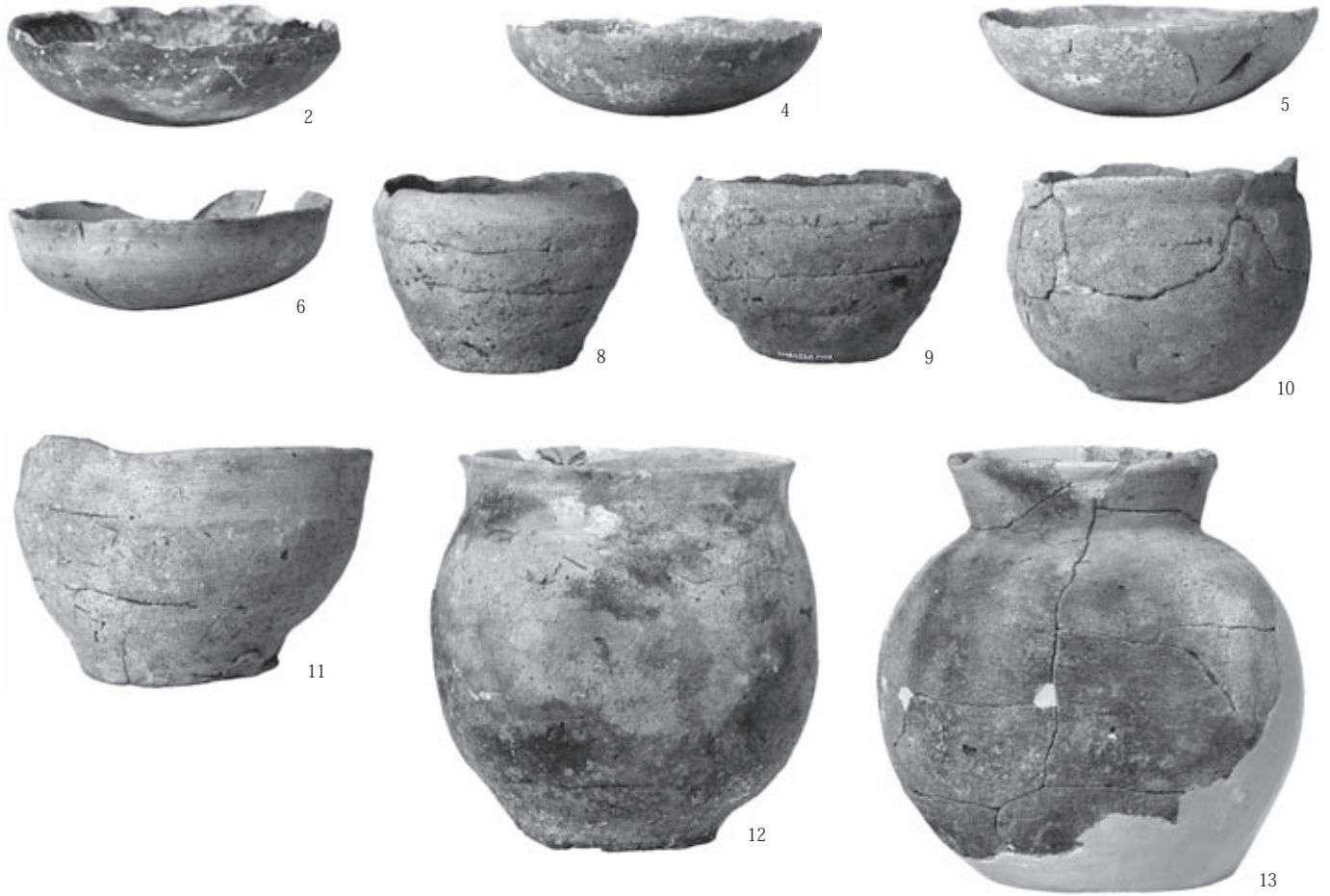


1区20号竪穴住居出土遺物



間之原遺跡

1区25号竪穴住居出土遺物



1区22号竪穴住居出土遺物





1区22号竪穴住居出土遺物



間之原遺跡

1区27号竪穴住居出土遺物



1区35号竪穴住居出土遺物



1区38号竪穴住居出土遺物





1区39号竪穴住居出土遺物



5(1/2)

1区40号竪穴住居出土遺物



3(1/2)

1区41号竪穴住居出土遺物

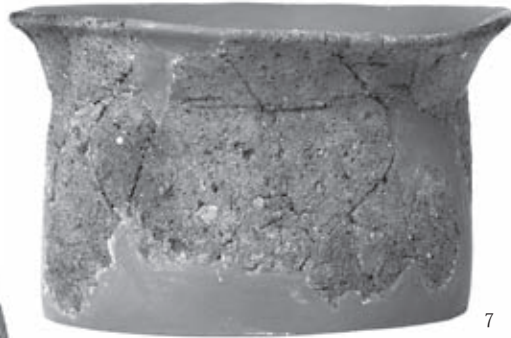


7(1/2)

1区43号竪穴住居出土遺物



1



7



8



9



10(1/1)

1区49号竪穴住居出土遺物



1



2



6



8



7



10



12



間之原遺跡

1区49号竪穴住居出土遺物



13



15



18(1/1)

1区56号竪穴住居出土遺物



2



8



9



10



12



13



16



17



18

1区56号竪穴住居出土遺物



19



20



21



22



23



24



25



29



間之原遺跡

1区58号竪穴住居出土遺物



1区67号竪穴住居出土遺物



1区70号竪穴住居出土遺物





3区72号竪穴住居出土遺物



間之原遺跡

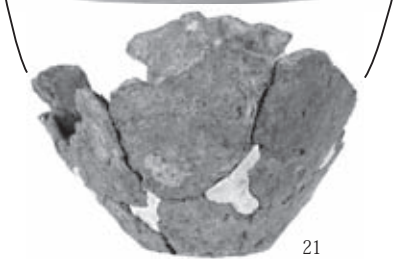
3区72号竪穴住居出土遺物



17



20



21



22



24





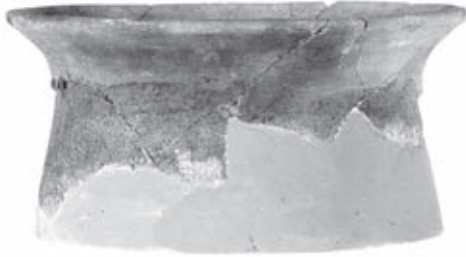


間之原遺跡

3区73号竪穴住居出土遺物



1



2



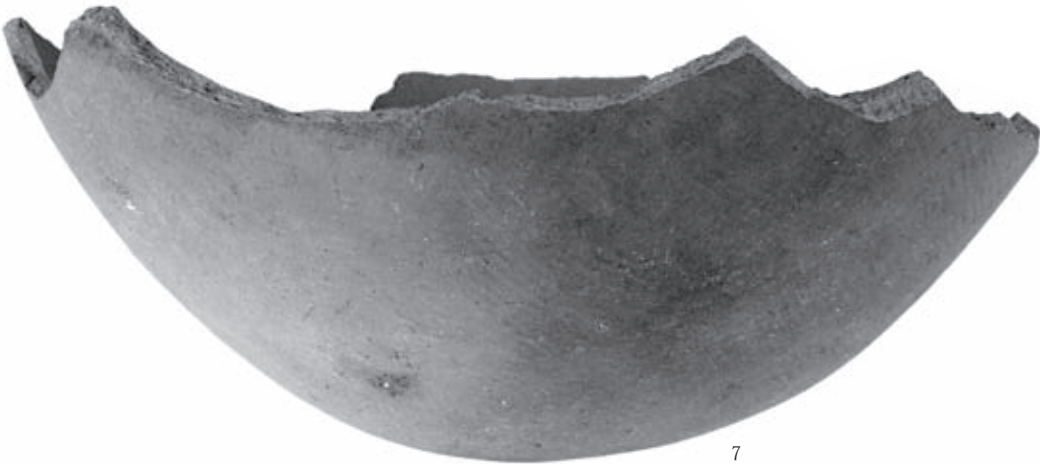
3



5



6



7

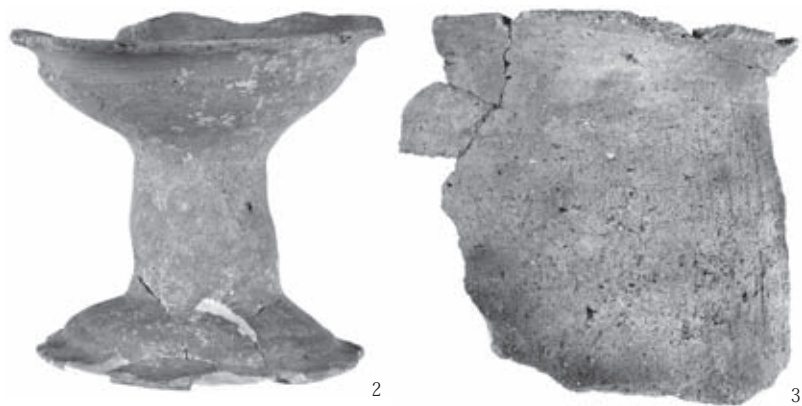


8

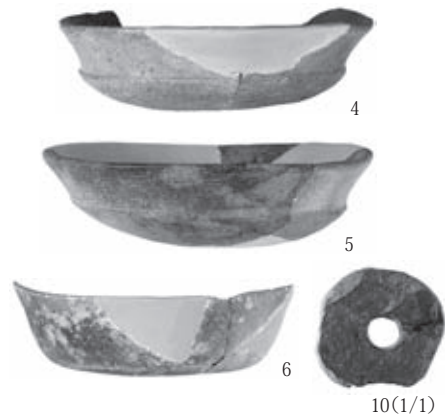
# PL.90

間之原遺跡

3区74号竪穴住居出土遺物



3区76号竪穴住居出土遺物



3区77号竪穴住居出土遺物



3区80号竪穴住居出土遺物



3区81号竪穴住居出土遺物





間之原遺跡

3区83号竪穴住居出土遺物



3



5



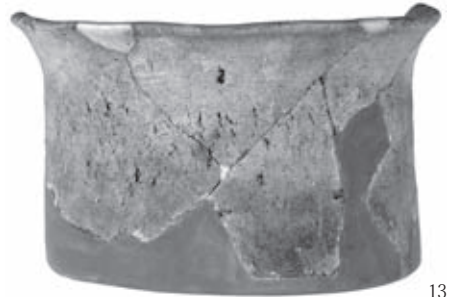
6



8



12



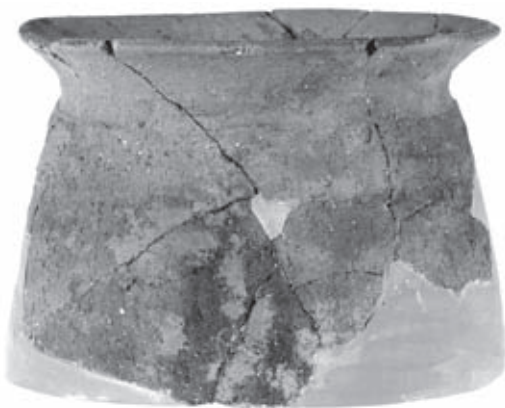
13



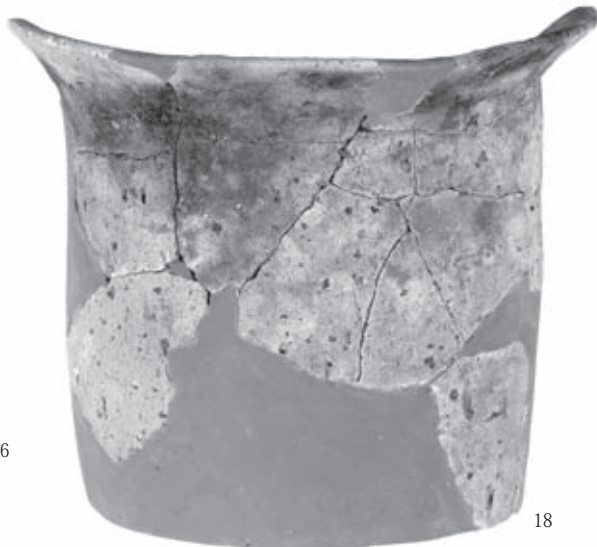
14



15



16



18



19



20

3区84号竪穴住居出土遺物



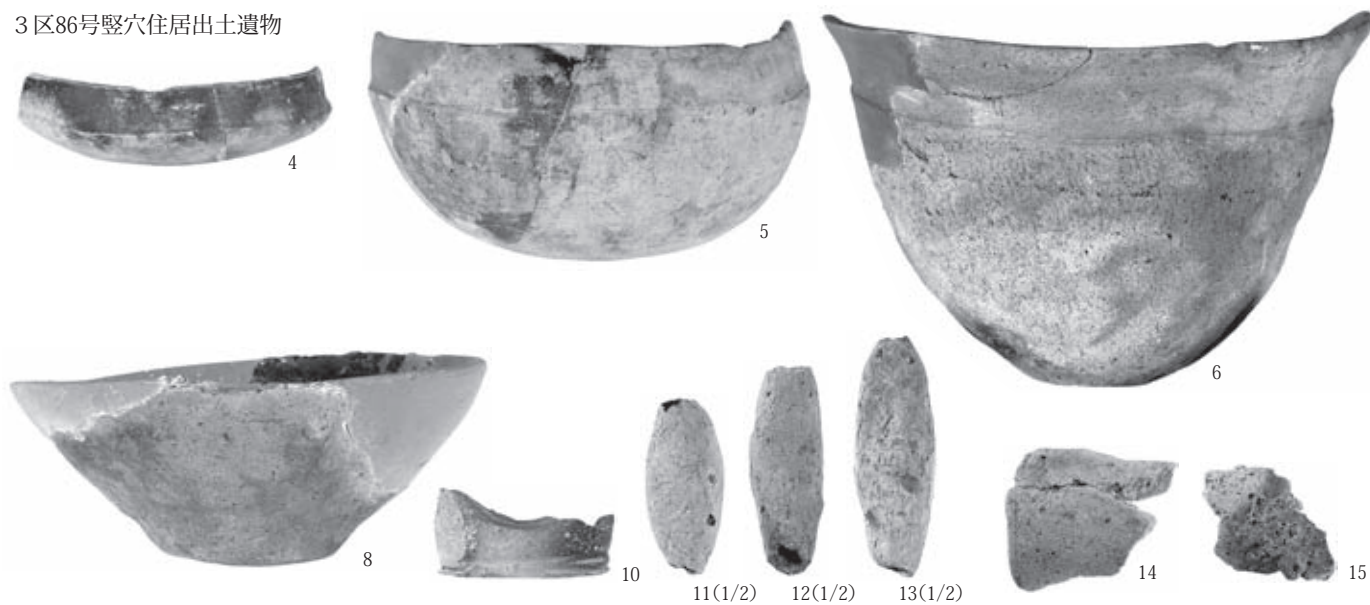
2



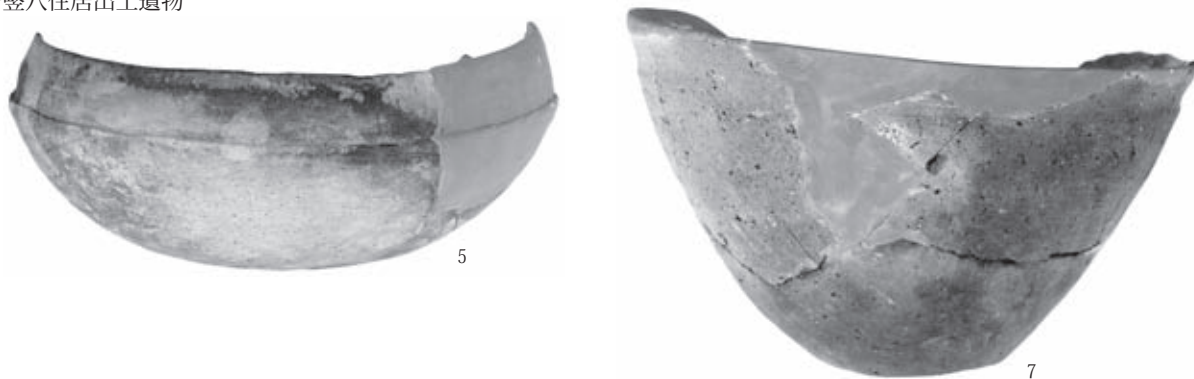
3区85号竪穴住居出土遺物



3区86号竪穴住居出土遺物



3区87号竪穴住居出土遺物



3区2号竪穴状遺構出土遺物



3区5号竪穴状遺構出土遺物



間之原遺跡

1区29号土坑出土遺物



1

3区624号ピット出土遺物



1



2

1区436号ピット出土遺物



1

3区625号ピット出土遺物



2

3区634号ピット出土遺物



1

3区632号ピット出土遺物



1

1区11号竪穴住居出土遺物



24(5/1)

3区639号ピット出土遺物



1

1区29号竪穴住居出土遺物



17

1区30号竪穴住居出土遺物



1



4



6



15



16



17



19



20(1/2)



21(1/2)

1区31号竪穴住居出土遺物



1



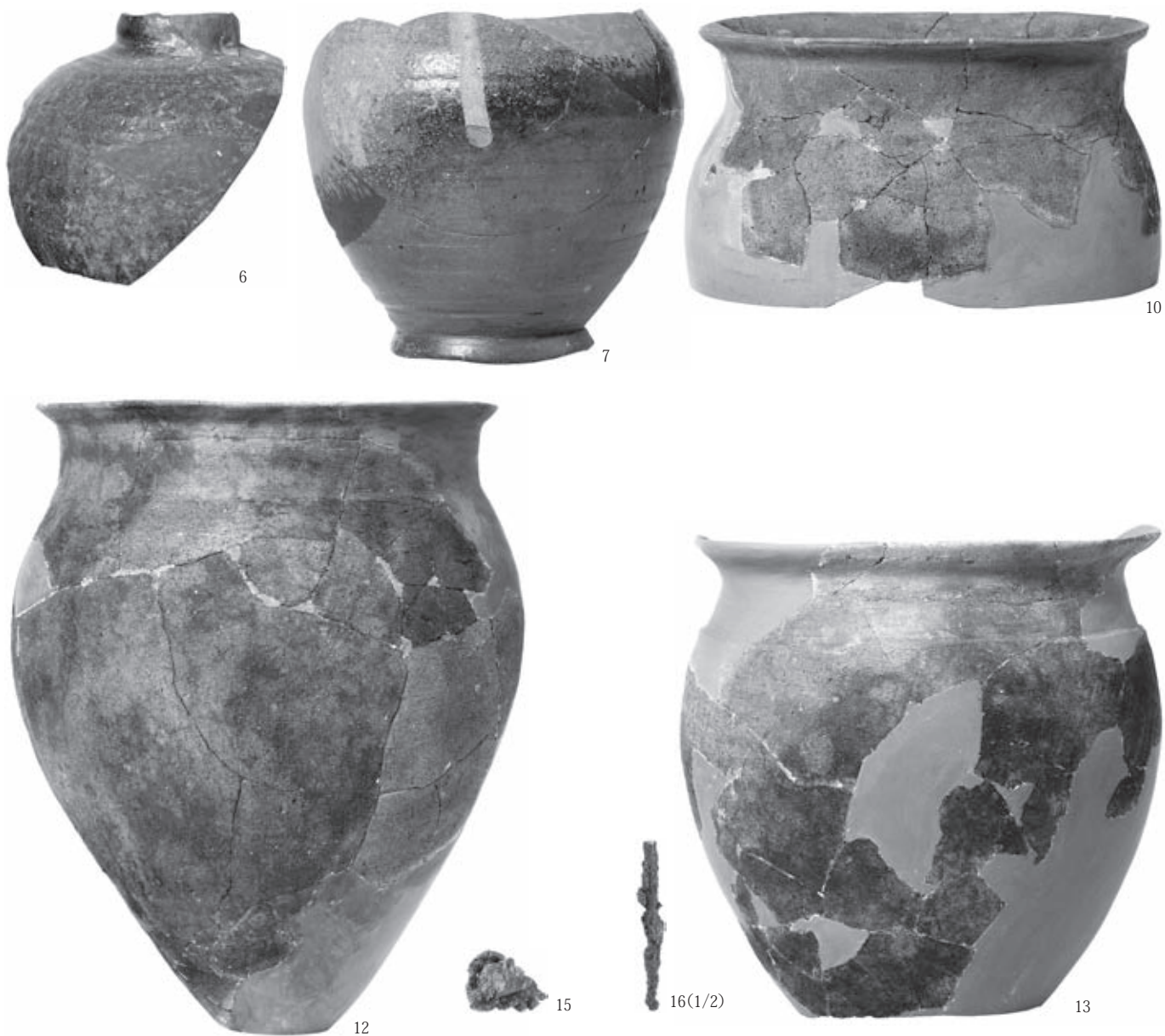
7(5/1)



8(1/2)



1区33号竪穴住居出土遺物



1区37号竪穴住居出土遺物



1区48号竪穴住居出土遺物



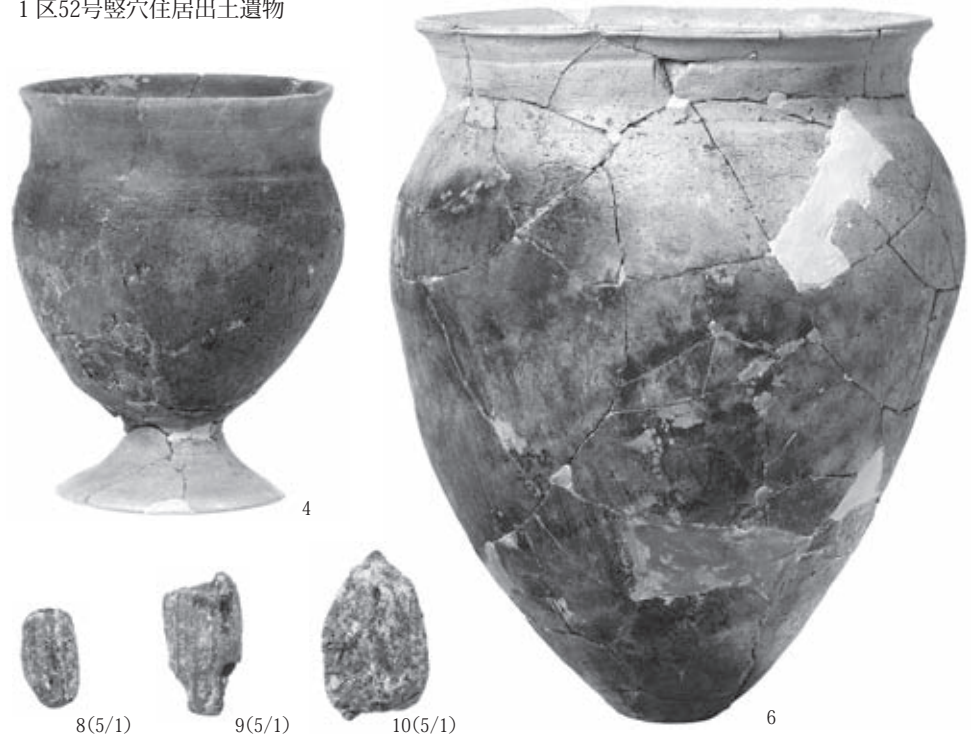


間之原遺跡

1区50号竪穴住居出土遺物



1区52号竪穴住居出土遺物



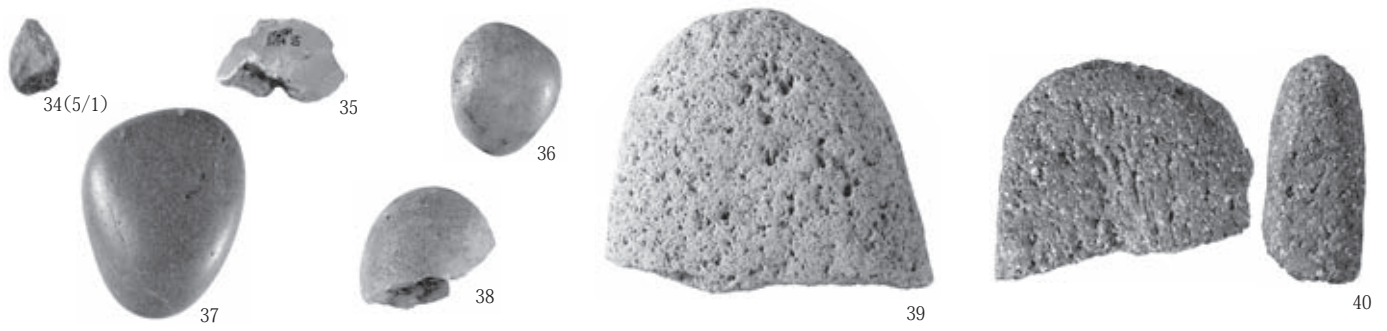
1区53号竪穴住居出土遺物



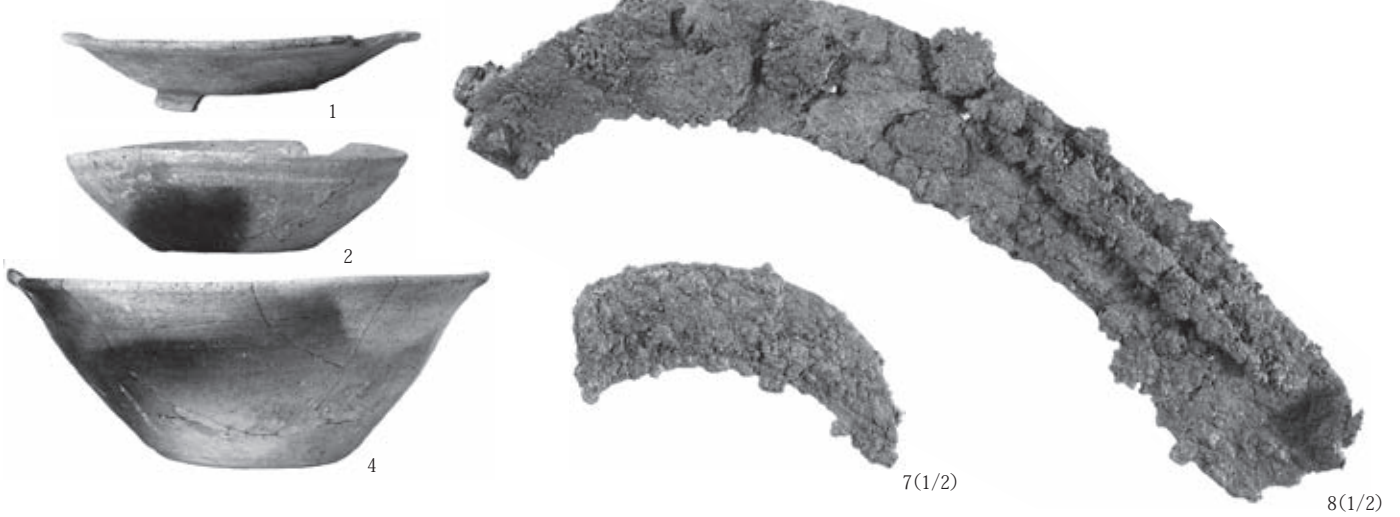
1区54号竪穴住居出土遺物



1区54号竪穴住居出土遺物



1区55号竪穴住居出土遺物



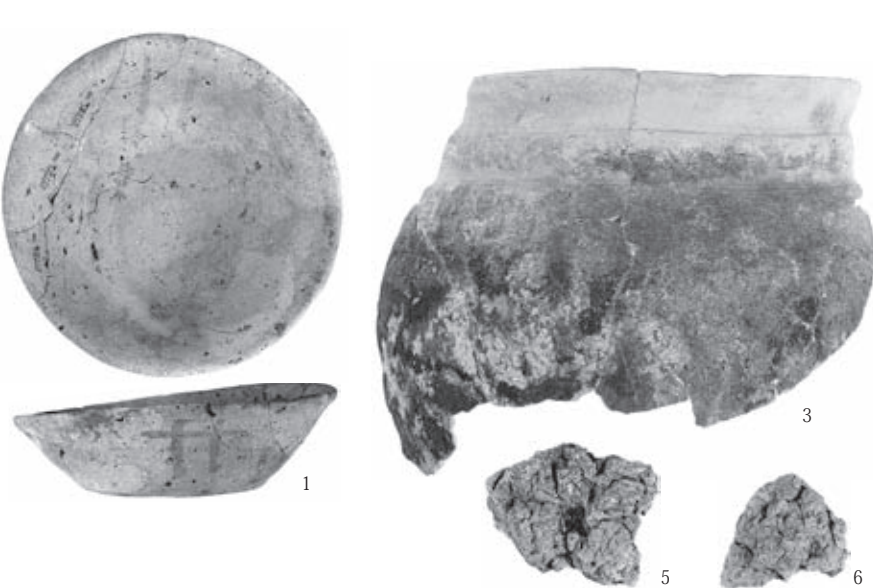
1区60号竪穴住居出土遺物



1区63号竪穴住居出土遺物



3区71号竪穴住居出土遺物



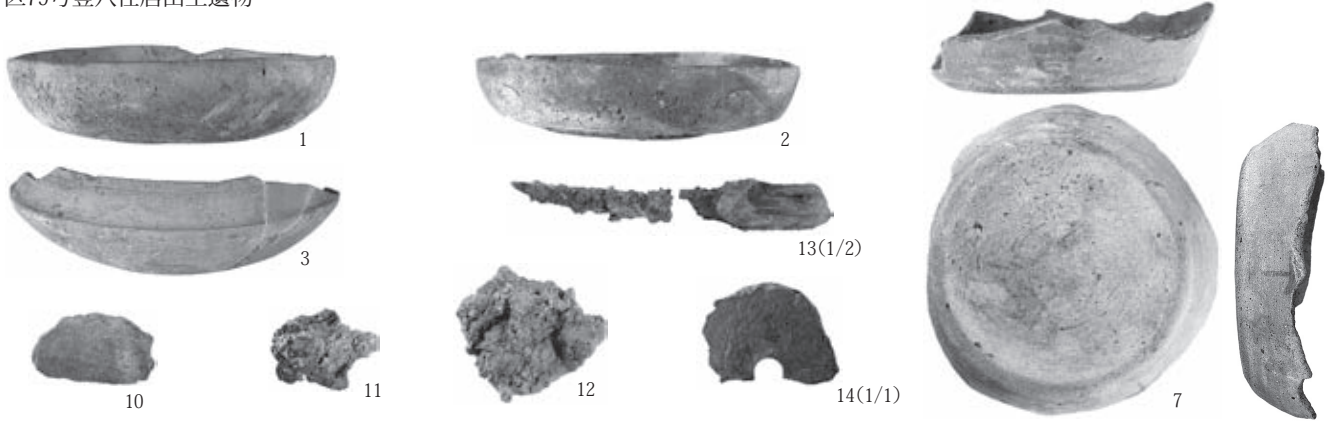
3区78号竪穴住居出土遺物



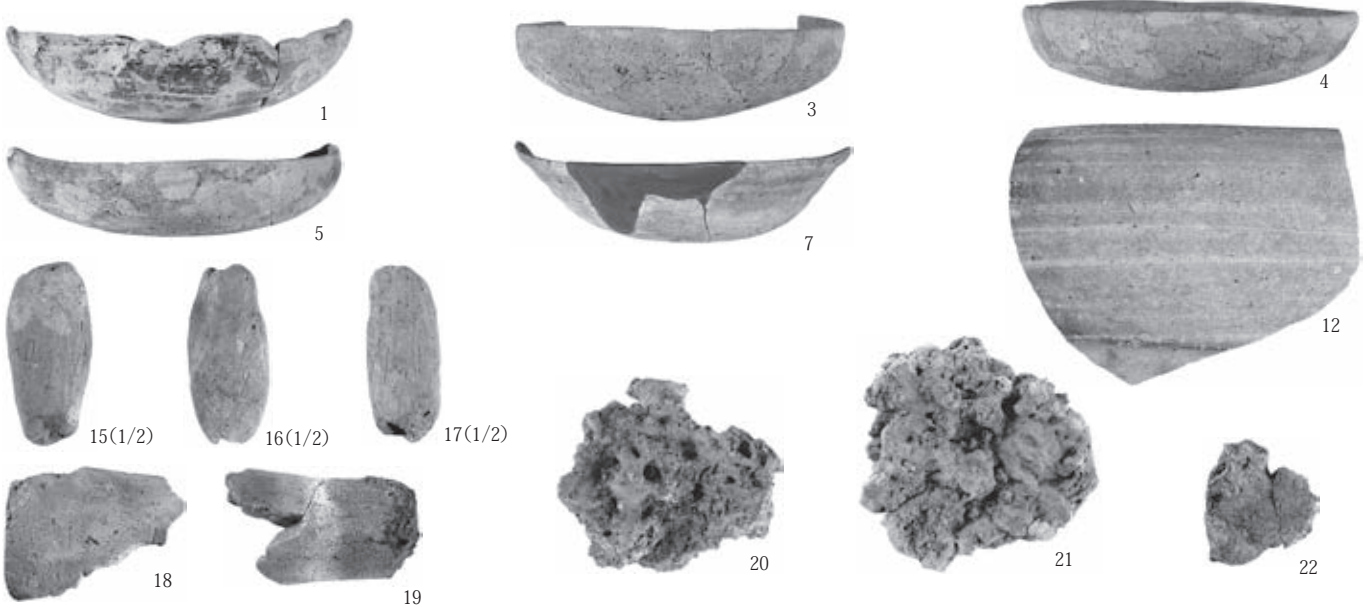


間之原遺跡

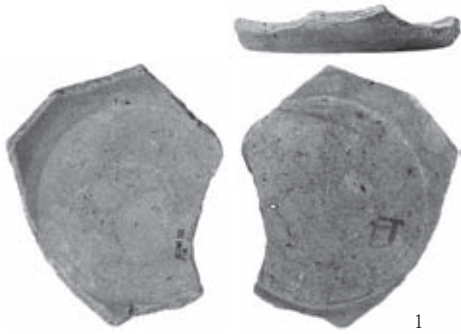
3区79号竪穴住居出土遺物



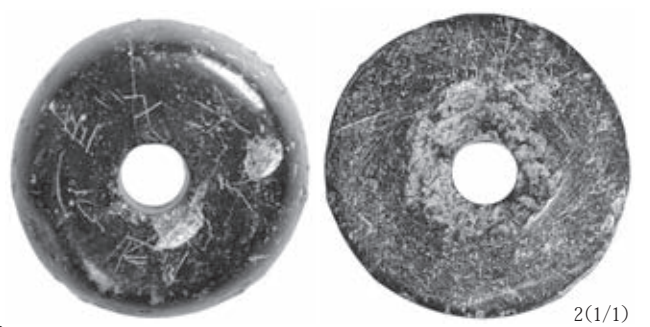
3区82号竪穴住居出土遺物



1区1号竪穴状遺構出土遺物



1区16号掘立柱建物出土遺物



1区2号ピット出土遺物



1区41号土坑出土遺物

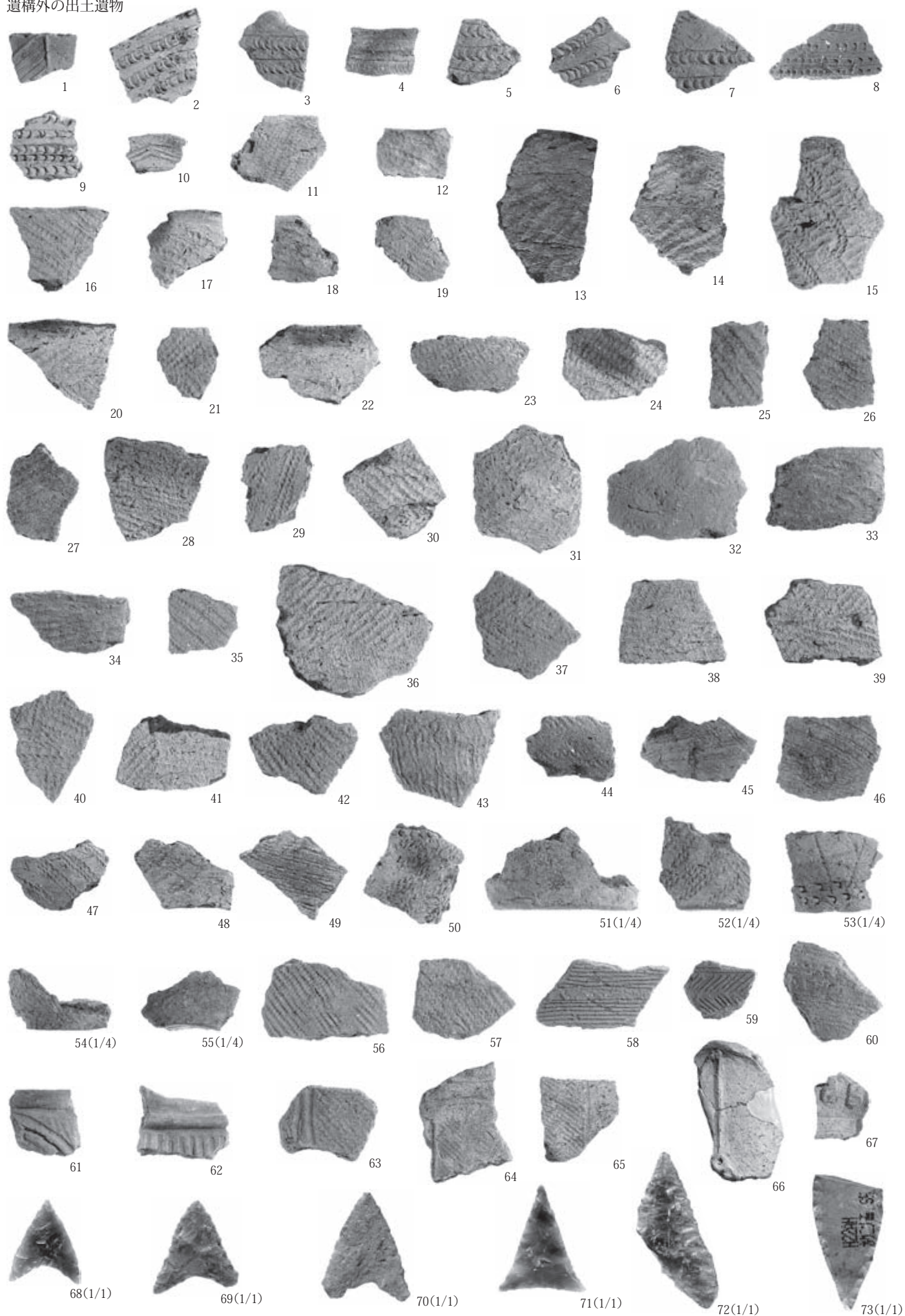


1区575号ピット出土遺物





遺構外の出土遺物





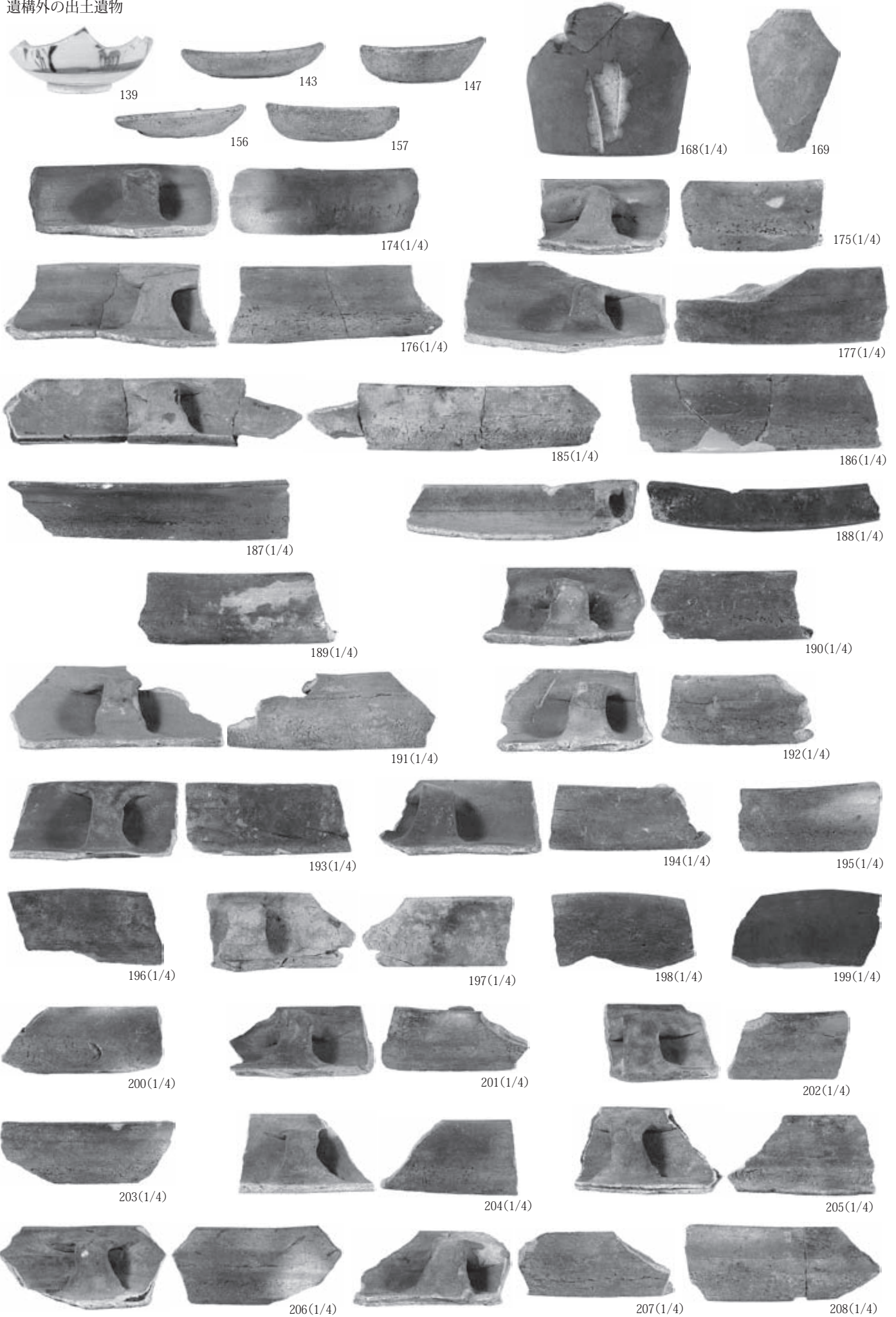
間之原遺跡

遺構外の出土遺物





遺構外の出土遺物



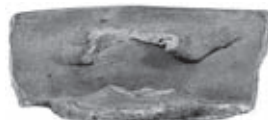


間之原遺跡

遺構外の出土遺物



209(1/4)



210(1/4)



211(1/4)



212(1/4)



219(1/4)



221(1/4)



225



228



236



237



238



239



240

241

242



243



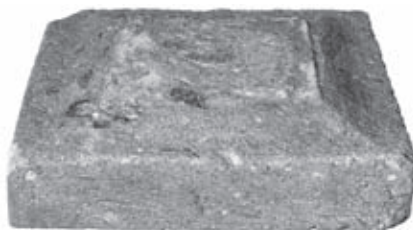
244



252



255

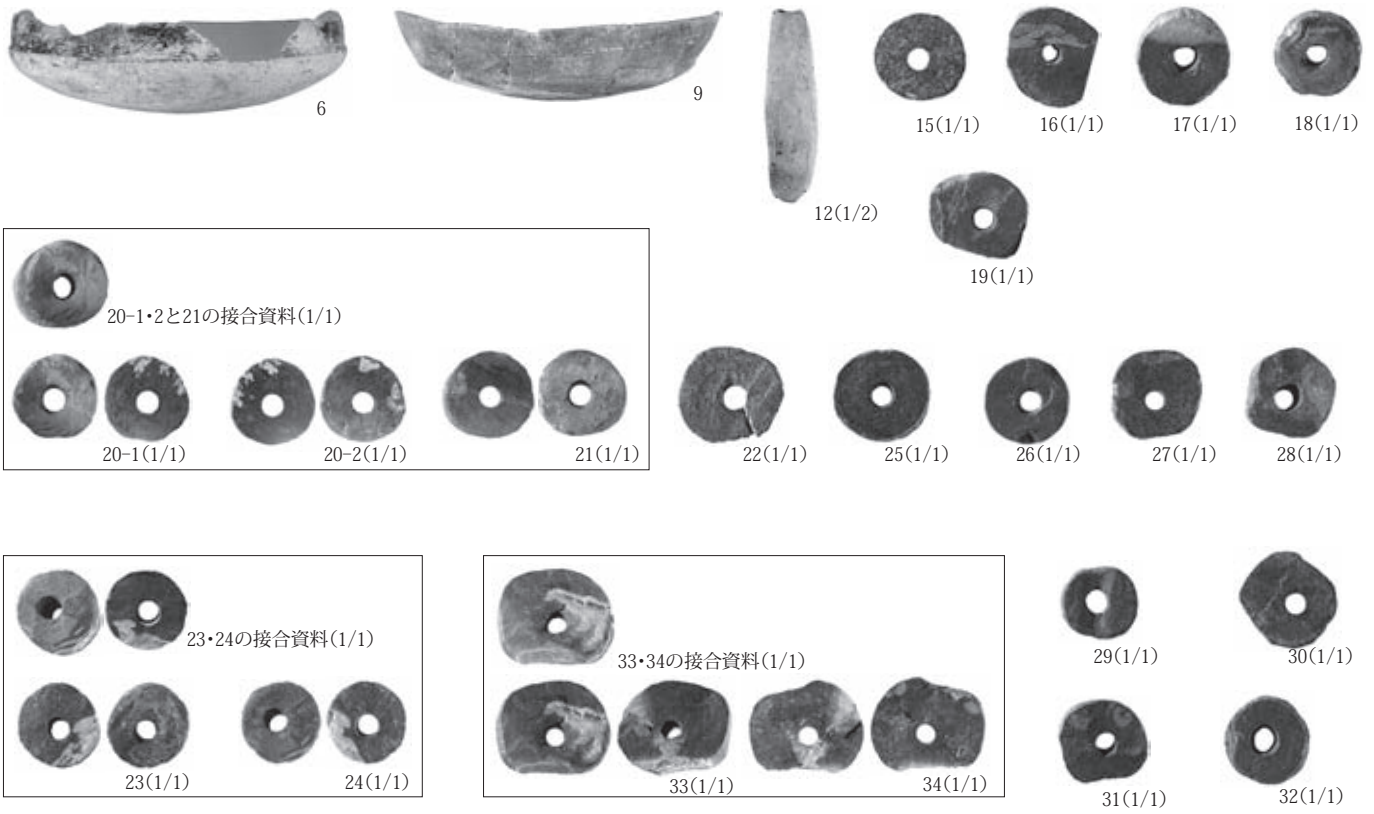


256(1/6)



257(1/6)

1区1号竪穴住居出土遺物



遺構外の出土遺物



## 報告書抄録

書名ふりがな	あいのはらいせき・あいのはらひがしいせき
書名	間之原遺跡・間之原東遺跡
副書名	国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備交付金(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	600
編著者名	宮下 寛
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20150313
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地-2

遺跡名ふりがな	あいのはらいせき
遺跡名	間之原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしりゅうまいちょう
遺跡所在地	群馬県太田市龍舞町
市町村コード	10205
遺跡番号	T0083
北緯(世界測地系)	361615
東経(世界測地系)	1392511
調査期間	20100401-20100930/20120401-20120630
調査面積	8419
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/奈良・平安/中近世
遺跡概要	縄文-土器+石器/古墳-竪穴住居44+竪穴状遺構5+土坑2+ピット33+井戸2+溝1+畠1+道1-土器+石器+金属類+鉄製品+炭化種実/奈良・平安-竪穴住居30+竪穴状遺構1+掘立柱建物17+柵8+土坑53+ピット470+溝1-土器+金属類+鉄製品+炭化種実+石器+石製品/中近世-土器+陶磁器+瓦+石造物
特記事項	古墳時代から平安時代の竪穴住居の調査。1区16号掘立柱建物の柱穴から県内初となる天長七年(830年)の紀年銘が刻書された石製の紡輪が出土した。
要約	古墳時代の竪穴住居44軒、奈良・平安時代の竪穴住居30軒、掘立柱建物17棟などを調査した。竪穴住居の周辺に土坑やピットが広範囲に分布し、古墳時代に比定される深さ2.0m以上のピットが16基確認された。

遺跡名ふりがな	あいのはらひがしいせき
遺跡名	間之原東遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおうらぐんおおいずみまちきたこいずみ
遺跡所在地	群馬県邑楽郡大泉町北小泉
市町村コード	10524
遺跡番号	0102
北緯(世界測地系)	361614
東経(世界測地系)	1392504
調査期間	20120401-20120630
調査面積	166
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	縄文/古墳/中近世
遺跡概要	縄文-土器+石器/古墳-竪穴住居1/不明-ピット8-土器+陶磁器+瓦+石器
特記事項	古墳時代後期の竪穴住居などの調査。
要約	古墳時代後期の大型の竪穴住居1軒を調査した。間之原遺跡で確認された住居群の一部になると考えられる。



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第600集

## 間之原遺跡・間之原東遺跡

国道354号大泉邑楽バイパス社会資本総合整備交付金

(活力創出基盤整備事業)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

平成27(2015)年3月6日 印刷

平成27(2015)年3月13日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／杉浦印刷株式会社

---

# 間之原遺跡 間之原東遺跡

## 付 図

1. 間之原遺跡・間之原東遺跡 全体図(1/200)



付図1 間之原遺跡・間之原東遺跡 全体図(1/200)

